市原市海保地区遺跡群Ⅰ

（第1分冊）

海保西竹谷遺跡
海保小谷作遺跡
海保大塚遺跡

2014

大成建設株式会社
国際文化財株式会社

千葉県

市原市海保地区遺跡群Ⅰ（第1分冊）

2014

大成建設株式会社
国際文化財株式会社

市原市海保地区遺跡群Ⅰ

（第1分冊）

海保西竹谷遺跡（かいほにしたけやつ）
海保小谷作遺跡（かいほこやつさく）
海保大塚遺跡（かいほおおつか）

２０１４

大成建設株式会社
国際文化財株式会社



海保西竹谷遺跡　北側遺構検出状況　南から



海保小谷作遺跡全景　南東から

巻頭図版 2



海保小谷作遺跡SM005　北側周溝内出土遺物



海保小谷作遺跡SM005　北西側周溝内出土遺物

例　言

1．本書は、宅地造成事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。

2．本書に所収したのは以下の遺跡である。

（1）海保西竹谷遺跡　市原市海保1547-4-14他
（市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号354　調査コードP001）

（2）海保小谷作遺跡　市原市海保1547-1-18他
（市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号1087　調査コードP003）

（3）海保大塚遺跡　市原市海保字天神房1722-1他
（市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号1083　調査コードP004）

3．発掘調査は、大成建設株式会社の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、国際文化財株式会社が主体となって行った。調査期間および面積、担当者は以下のとおりである。

（1）海保西竹谷遺跡　平成21年12月5日～平成22年4月28日、平成22年6月1日～平成22年12月1日　9,039㎡
担　当　伊藤敬太郎　森田信博
調査員　大山祐喜　関美男　中村祐一
測量員　西岡賢人

（2）海保小谷作遺跡　平成24年3月1日～平成25年4月22日　20,623㎡
担　当　大山祐喜　山﨑良二　脇本博康
調査員　江藤敦　鳥越道臣　安村建
測量員　西岡賢人

（3）海保大塚遺跡　平成24年10月9日～平成25年1月31日　3,094㎡
担　当　大山祐喜
調査員　江藤敦　鵜久森彬
測量員　西岡賢人

4．整理作業は平成25年6月5日～平成26年12月まで、国際文化財株式会社で実施した。担当は大山祐喜である。

5．本書の執筆分担は以下のとおりである。

第1章　第1節　市原市教育委員会ふるさと文化課
第2節　伊藤
第3・4節　大山

第2章　第1節　1・2．関　3．中村
第2節　1．大山（SM004のみ伊藤）　2．中村　3．大山
4．中村　5．関　6．中村
第3節　1．大山　2・3．関　4．中村

第４節　１．森田　２・３．関
第５節　大山
第３章　第１節　１・２．中村　３．鵜久森
第２節　１．鳥越　２～４．関
第３節　１．SM001～SM008　大山　SM009～SM013　森田
２．鳥越　３～６．関
第４節　１・２．中村　３．大山
第５節　１．大山　２・３．中村
第６節　大山
第４章　第１節　１．鵜久森　２．大山　３．中村　４．鵜久森
第２節　１．鵜久森　２・３．中村　４・５．森田
第３節　１．大山　２～４．中村
第４節　１・２．中村
第５節　１．大山
第５章　伊藤・大山

６．本書の編集は大山が担当し、島崎直行が行った。
７．ガラス小玉等の軽量な重量測定には、研精工業株式会社製電子天秤ＦＸ－3000を使用した。
８．遺構番号は本報告に際し、新規に振りなおした。旧番号との対照は一覧表に示している。
９．本書に収録した調査記録や出土遺物等は、市原市埋蔵文化財調査センター（市原市能満1489）で収蔵・保管している。
10．各遺跡の調査および整理作業に際し、次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝したい。
（五十音順、敬称略）
植野浩三、小谷　寛、酒井清治、鈴木敏則、高橋直樹、谷川章雄、寺前直人、時枝　務、
畑　大介、広瀬和雄、福田健司、森村健一、森村紀代

凡　例

1．本書で示す北は座標北である。また、水準は海抜からの高さを示す。

2．本書で使用した地図は、国土地理院発行の数値地図50,000（地図画像）姉崎（2008年９月１日発行）、同 千葉（2000年９月１日発行）および1：2,500 市原市基本図　Ｆ－３、Ｇ－３（平成16年度測量）である。

3．本書掲載の遺構縮尺は、古墳・塚１：150、竪穴建物・溝等１：80、土坑・炉穴等１：60を原則とした。ただし遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、適時縮尺を変え掲載した。遺物は、土器・支脚１：４、土器断面図・拓影図、ミニチュア土器１：３、土製品２：３、石器・石製品は１：３を原則とした。金属製品は原則２：３としたが、直刀は１：４、遺存状態の良好な鉄鏃は１：２とした。

4．遺構挿図中の「K」は攪乱を表している。

5．土層断面図および土器器面の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖　2007年度版』日本色研事業株式会社発行による。

6．土層注記にある「固結火山灰土塊」は　関東第四紀研究会　2011『関東の四紀』31を参考とした。

7．遺物の赤彩や黒色処理、遺構の炉や焼土などは下記の表示によるか、または図中に示した。

遺物　赤彩　黒色処理　木片等　磨痕跡

遺構　硬化範囲　炉　焼土　粘土

8．弥生時代後期から終末期の時期区分は、大村直　2004『市原市山田橋大山台遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第88集、2009『市原市南中台・荒久遺跡Ａ地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集により行った。対応する型式名は以下のとおりである。

弥生時代後期　中葉：山田橋１式　後葉：山田橋２式

弥生時代終末期　前半：中台１式　後半：中台２式

9．古墳時代中期および終末期の時期区分は以下の文献を参考とし、遺構出土の一括遺物や遺構の新旧関係を基に、古墳時代中期０～４段階、古墳時代終末期１～４段階とした（詳細は第５章参照）。

田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店

木對和紀　1992『市原市椎津茶ノ木遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第49集

鈴木敏則　2004『有玉古窯』浜松市教育委員会

小沢洋　2008『房総古墳文化の研究』六一書房

木對和紀　2008『市原市御林跡遺跡Ⅱ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第５集

各段階の年代観は以下のとおりである。

古墳時代中期０段階（４世紀代）
古墳時代中期１段階（５世紀初頭）
古墳時代中期２段階（５世紀前葉）
古墳時代中期３段階（５世紀中葉）
古墳時代中期４段階（５世紀後葉）

古墳時代終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）
古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）
古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）
古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）

目　次

巻頭図版
例　言
凡　例

第１章　序　説 ……1
第１節　調査に至る経緯 ……1
第２節　遺跡の立地と歴史的環境 ……1
第３節　調査の方法 ……13
第４節　基本層序 ……14

第２章　海保西竹谷遺跡 ……15
第１節　縄文時代 ……18
１．陥し穴 ……18
２．土　坑 ……23
３．遺構外出土遺物 ……27
第２節　古墳時代 ……28
１．古　墳 ……28
２．竪穴建物 ……52
３．掘立柱建物 ……101
４．柱穴列 ……104
５．土　坑 ……105
６．遺構外出土遺物 ……107
第３節　奈良・平安時代 ……109
１．方形区画墓 ……109
２．溝 ……113
３．土　坑 ……126
４．遺構外出土遺物 ……137
第４節　中・近世 ……138
１．塚 ……138
２．溝・道路状遺構 ……163
３．土　坑 ……169
第５節　時期不明の遺構 ……174

第３章　海保小谷作遺跡 ……175
第１節　縄文時代 ……181
１．陥し穴 ……181
２．土　坑 ……183
３．遺構外出土遺物 ……185
第２節　弥生時代 ……186
１．竪穴建物 ……186
２．溝 ……283
３．ピット出土遺物 ……283
４．遺構外出土遺物 ……284
第３節　古墳時代 ……285
１．古　墳 ……285
２．竪穴建物 ……337
３．溝 ……443
４．土　坑 ……446
５．ピット出土遺物 ……474
６．遺構外出土遺物 ……475
第４節　奈良・平安時代 ……476
１．溝 ……476
２．土　坑 ……491
３．遺構外出土遺物 ……498
第５節　中・近世 ……499
１．塚 ……499
２．溝・道路状遺構 ……501
３．土　坑 ……503
第６節　時期不明の遺構 ……522

挿図目次

序　説
第１図　遺跡の位置と周辺の主要遺跡分布図 ……3
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 ……4
第３図　海保地区遺跡群　調査位置図 ……11
第４図　グリッド設定図 ……14

海保西竹谷遺跡
第５図　グリッド配置図及び遺構配置図範囲 ……15
第６図　海保西竹谷遺跡遺構配置図（１）……16
第７図　海保西竹谷遺跡遺構配置図（２）……17
第８図　SK001 ……18
第９図　SK001出土遺物 ……18
第10図　SK002・SK003 ……19
第11図　SK004・SK005 ……20
第12図　SK006 ～ SK008 ……21
第13図　SK009・SK010 ……22
第14図　SK011 ～ SK013 ……23
第15図　SK014 ～ SK016 ……24
第16図　SK017 ～ SK019 ……25
第17図　SK017出土遺物 ……26
第18図　縄文時代遺構外出土遺物 ……27
第19図　SM001（１）……28
第20図　SM001（２）……30
第21図　SM001SK1 ～ SK4 ……31
第22図　SM001出土遺物 ……32
第23図　SM002 ……34
第24図　SM002出土遺物 ……34
第25図　SM003（１）……36
第26図　SM003（２）……37
第27図　SM003（３）……38

第28図　SM003（4）……39
第29図　SM003SK1・SK2……42
第30図　SM003出土遺物（1）……42
第31図　SM003出土遺物（2）……43
第32図　SM004（1）……46
第33図　SM004（2）……47
第34図　SM004SK3……49
第35図　SM004出土遺物（1）……50
第36図　SM004出土遺物（2）……51
第37図　SI001……52
第38図　SI001カマド……53
第39図　SI001出土遺物……54
第40図　SI002……55
第41図　SI002カマド……56
第42図　SI002P3・P4……56
第43図　SI002出土遺物……56
第44図　SI003……57
第45図　SI003カマド……58
第46図　SI003P1～P5……59
第47図　SI003出土遺物（1）……59
第48図　SI003出土遺物（2）……60
第49図　SI004……62
第50図　SI005……63
第51図　SI005カマド……63
第52図　SI005出土遺物……64
第53図　SI006……65
第54図　SI006カマド……66
第55図　SI006出土遺物……66
第56図　SI007……67
第57図　SI007カマド……68
第58図　SI007P1～P3……68
第59図　SI007出土遺物……69
第60図　SI008……71
第61図　SI008カマド……71
第62図　SI008P1……71
第63図　SI009……72
第64図　SI009カマド……73
第65図　SI009P5……73
第66図　SI009出土遺物……74
第67図　SI010……75
第68図　SI010カマド……76
第69図　SI010出土遺物……77
第70図　SI011……79
第71図　SI011カマド……80
第72図　SI011出土遺物……80
第73図　SI012……81
第74図　SI012カマド……81
第75図　SI012出土遺物……82
第76図　SI013……83
第77図　SI013P1～P4・P6……84
第78図　SI013出土遺物……85
第79図　SI014……86
第80図　SI014カマド……87
第81図　SI014P1……87
第82図　SI014出土遺物（1）……88
第83図　SI014出土遺物（2）……89
第84図　SI015……92
第85図　SI015カマド……93
第86図　SI015出土遺物……94
第87図　SI016……95
第88図　SI017……96
第89図　SI017カマド……97
第90図　SI017出土遺物（1）……97
第91図　SI017出土遺物（2）……98
第92図　SI018……99
第93図　SI018カマド……100
第94図　SI018出土遺物……101
第95図　SB001（1）・SA001……102
第96図　SB001（2）……103
第97図　SA001出土遺物……104
第98図　SK020～SK025……106
第99図　古墳時代遺構外出土遺物……107
第100図　SM005……109
第101図　SM005SK1……110
第102図　SM006……111
第103図　SM006SK1……112
第104図　SM006出土遺物……112
第105図　SD001出土遺物……113
第106図　SD001……114
第107図　SD002……115
第108図　SD003……117
第109図　SD004……118
第110図　SD004出土遺物……119
第111図　SD005出土遺物……119
第112図　SD005……120
第113図　SD006……121
第114図　SD007・SD008……122
第115図　SD009……124
第116図　SD009出土遺物……125
第117図　SD010……125
第118図　SK026……126
第119図　SK026出土遺物……126
第120図　SK026～SK029……127
第121図　SK030～SK034……129
第122図　SK035～SK040……131
第123図　SK041～SK046……133
第124図　SK047～SK052……135
第125図　SK053・SK054……136
第126図　SK055・SK056……137
第127図　奈良・平安時代遺構外出土遺物……137
第128図　SM007（1）……139
第129図　SM007（2）……140
第130図　SM007SK1……140
第131図　SM007SK2周辺遺物出土状況……142
第132図　SM007SK2遺物出土状況……142
第133図　SM007出土遺物（1）……142
第134図　SM007出土遺物（2）……143
第135図　SM007出土遺物（3）……144
第136図　SM007出土遺物（4）……145
第137図　SM007出土遺物（5）……146
第138図　SM007出土遺物（6）……147
第139図　SM007出土遺物（7）……148
第140図　SM007出土遺物（8）……149
第141図　SM007出土遺物（9）……150
第142図　SM007出土遺物（10）……151
第143図　SD011・SD012……163
第144図　SD013・SD014……164
第145図　SD015……165
第146図　SD016……166
第147図　SD017……167
第148図　SD018……168
第149図　SK057～SK059……169
第150図　SK060～SK064……171
第151図　SK065～SK070……173

海保小谷作遺跡

第152図　グリッド配置図及び遺構配置図範囲……175
第153図　海保小谷作遺跡遺構配置図（1）……176
第154図　海保小谷作遺跡遺構配置図（2）……177
第155図　海保小谷作遺跡遺構配置図（3）……178
第156図　海保小谷作遺跡遺構配置図（4）……179
第157図　海保小谷作遺跡遺構配置図（5）……180
第158図　SK001・SK002……181
第159図　SK003・SK004……182
第160図　SK005～SK010……184
第161図　縄文時代遺構外出土遺物……185
第162図　SI001……186
第163図　SI002……186
第164図　SI003……187
第165図　SI003炉……187
第166図　SI003出土遺物……188
第167図　SI004……189

第168図　SI004炉……189
第169図　SI004出土遺物……189
第170図　SI005……190
第171図　SI005炉……190
第172図　SI005出土遺物……190
第173図　SI006……191
第174図　SI006炉……191
第175図　SI006出土遺物……192
第176図　SI007……193
第177図　SI007炉……193
第178図　SI008……194
第179図　SI008炉……194
第180図　SI008出土遺物……194
第181図　SI009……195
第182図　SI009炉……195
第183図　SI010……196
第184図　SI010炉……196
第185図　SI010出土遺物……196
第186図　SI011……197
第187図　SI011炉……197
第188図　SI011出土遺物……197
第189図　SI012……198
第190図　SI012炉……198
第191図　SI012出土遺物……199
第192図　SI013……199
第193図　SI013炉……200
第194図　SI013出土遺物……200
第195図　SI014……201
第196図　SI014炉……202
第197図　SI014出土遺物……202
第198図　SI015……203
第199図　SI015出土遺物……203
第200図　SI016……204
第201図　SI016炉……204
第202図　SI016出土遺物……205
第203図　SI017……206
第204図　SI018……206
第205図　SI019……207
第206図　SI019炉……207
第207図　SI020……208
第208図　SI020炉……208
第209図　SI020出土遺物……209
第210図　SI021……209
第211図　SI021炉……210
第212図　SI022a・b……210
第213図　SI022a・b炉……211
第214図　SI022aSK1……211
第215図　SI023……212
第216図　SI023炉……212
第217図　SI023出土遺物……212
第218図　SI024……213
第219図　SI024炉……213
第220図　SI024出土遺物……213
第221図　SI025……214
第222図　SI025炉……214
第223図　SI025出土遺物……215
第224図　SI026……215
第225図　SI027……216
第226図　SI027出土遺物……216
第227図　SI028……217
第228図　SI029……218
第229図　SI029炉……218
第230図　SI029出土遺物……218
第231図　SI030……219
第232図　SI031……220
第233図　SI031炉……220
第234図　SI031SK1……220
第235図　SI031出土遺物……220
第236図　SI032……221
第237図　SI032炉……221
第238図　SI032出土遺物……221
第239図　SI033……222
第240図　SI033炉……222
第241図　SI034……223
第242図　SI034出土遺物……223
第243図　SI035……224
第244図　SI035炉……224
第245図　SI036……225
第246図　SI036炉……225
第247図　SI037……226
第248図　SI037炉……226
第249図　SI038……227
第250図　SI038炉……227
第251図　SI038出土遺物……227
第252図　SI039……228
第253図　SI040……228
第254図　SI040出土遺物……229
第255図　SI041……229
第256図　SI041炉……230
第257図　SI041遺物出土状況……230
第258図　SI041出土遺物（1）……230
第259図　SI041出土遺物（2）……231
第260図　SI042……232
第261図　SI042SK1・SK2……232
第262図　SI043……233
第263図　SI043出土遺物……233
第264図　SI044……234
第265図　SI044炉……234
第266図　SI044出土遺物……235
第267図　SI045……237
第268図　SI045炉……237
第269図　SI045出土遺物……238
第270図　SI046……239
第271図　SI046炉……239
第272図　SI046出土遺物……240
第273図　SI047……240
第274図　SI047炉……241
第275図　SI048……241
第276図　SI048炉……242
第277図　SI048出土遺物……242
第278図　SI049……243
第279図　SI050……243
第280図　SI050炉……244
第281図　SI050P1……244
第282図　SI050出土遺物……244
第283図　SI051……245
第284図　SI051炉……245
第285図　SI051出土遺物……246
第286図　SI052……247
第287図　SI052炉……247
第288図　SI052出土遺物（1）……247
第289図　SI052出土遺物（2）……248
第290図　SI053……249
第291図　SI053炉……250
第292図　SI054……250
第293図　SI055……251
第294図　SI055炉……251
第295図　SI055出土遺物……251
第296図　SI056……252
第297図　SI056炉……252
第298図　SI056出土遺物……252
第299図　SI057……253
第300図　SI057炉……253
第301図　SI058……254
第302図　SI058炉……254
第303図　SI058出土遺物……254
第304図　SI059……255
第305図　SI059炉……255
第306図　SI060……256
第307図　SI060炉……256
第308図　SI060P5……257
第309図　SI060P6遺物出土状況……257

第310図　SI060出土遺物（1）……257
第311図　SI060出土遺物（2）……258
第312図　SI061……259
第313図　SI061SK1……259
第314図　SI061出土遺物……259
第315図　SI062……260
第316図　SI063……261
第317図　SI063炉……261
第318図　SI063出土遺物……261
第319図　SI064……262
第320図　SI065……263
第321図　SI065炉……263
第322図　SI065出土遺物……263
第323図　SI066……264
第324図　SI066炉……264
第325図　SI066出土遺物……264
第326図　SI067……265
第327図　SI067炉……266
第328図　SI067出土遺物……266
第329図　SI068……267
第330図　SI068炉……267
第331図　SI068P1 ～ P7……268
第332図　SI068出土遺物……269
第333図　SI069……270
第334図　SI069炉……270
第335図　SI069出土遺物……270
第336図　SI070……271
第337図　SI070炉……271
第338図　SI070P1……271
第339図　SI070出土遺物……272
第340図　SI071……272
第341図　SI071炉……273
第342図　SI071出土遺物……273
第343図　SI072……274
第344図　SI072出土遺物……274
第345図　SI073……275
第346図　SI073炉……275
第347図　SI073SK1遺物出土状況……275
第348図　SI073出土遺物……276
第349図　SI074……277
第350図　SI074炉……277
第351図　SI075……278
第352図　SI075炉……278
第353図　SI076……279
第354図　SI076炉……279
第355図　SI076出土遺物……279
第356図　SI077……280
第357図　SI077炉……280
第358図　SI078……281
第359図　SI078炉……282
第360図　SI078遺物出土状況……282
第361図　SI078出土遺物……282
第362図　SD001……283
第363図　SH219出土遺物……283
第364図　弥生時代遺構外出土遺物……284
第365図　SM001……285
第366図　SM002……286
第367図　SM002墳丘出土遺物……287
第368図　SM003……288
第369図　SM003遺物出土状況……289
第370図　SM003出土遺物……289
第371図　SM004……290
第372図　SM005（1）……291
第373図　SM005（2）……292
第374図　SM005（3）……293
第375図　SM005SK1（1）……295
第376図　SM005SK1（2）……296
第377図　SM005SK2・SK3……297
第378図　SM005遺物出土状況……298
第379図　SM005SK1出土遺物（1）……300
第380図　SM005SK1出土遺物（2）……301
第381図　SM005SK1出土遺物（3）……302
第382図　SM005SK1出土遺物（4）……303
第383図　SM005SK3出土遺物……304
第384図　SM005北側周溝内出土遺物……305
第385図　SM005北西側周溝内出土遺物（1）……305
第386図　SM005北西側周溝内出土遺物（2）……306
第387図　SM006（1）……312
第388図　SM006（2）……313
第389図　SM006（3）……315
第390図　SM006SK1……316
第391図　SM006出土遺物……317
第392図　SM007（1）……318
第393図　SM007（2）……319
第394図　SM007（3）……321
第395図　SM0007SK1……322
第396図　SM007出土遺物……323
第397図　SM008……324
第398図　SM008出土遺物……325
第399図　SM009……326
第400図　SM009出土遺物……326
第401図　SM010……327
第402図　SM010出土遺物……328
第403図　SM011（1）……329
第404図　SM011（2）……330
第405図　SM011出土遺物（1）……330
第406図　SM011出土遺物（2）……331
第407図　SM012……332
第408図　SM012出土遺物（1）……333
第409図　SM012出土遺物（2）……334
第410図　SM013……335
第411図　SM013SK1……336
第412図　SI079……337
第413図　SI080……338
第414図　SI080カマド……339
第415図　SI080出土遺物……339
第416図　SI081……340
第417図　SI081出土遺物……341
第418図　SI082……342
第419図　SI082カマド……342
第420図　SI083……343
第421図　SI083出土遺物……343
第422図　SI084……344
第423図　SI084炉……345
第424図　SI084出土遺物……345
第425図　SI085……346
第426図　SI085炉……346
第427図　SI085出土遺物……347
第428図　SI086……348
第429図　SI086炉……349
第430図　SI086SK1……349
第431図　SI086出土遺物……349
第432図　SI087……350
第433図　SI088……351
第434図　SI088出土遺物……351
第435図　SI089……352
第436図　SI090……353
第437図　SI090出土遺物……353
第438図　SI091……354
第439図　SI091焼土・炭化物検出状況……355
第440図　SI091炉1・炉2……355
第441図　SI091P7遺物出土状況……355
第442図　SI091出土遺物（1）……356
第443図　SI091出土遺物（2）……357
第444図　SI092・SI093……358
第445図　SI093炉……358
第446図　SI092出土遺物……358
第447図　SI094……359
第448図　SI094炉……359
第449図　SI094出土遺物……359
第450図　SI095……360
第451図　SI095炉……360

第452図　SI095出土遺物……361
第453図　SI096……362
第454図　SI096出土遺物……362
第455図　SI097……363
第456図　SI097炉……363
第457図　SI097出土遺物……364
第458図　SI098……365
第459図　SI098カマド……366
第460図　SI098出土遺物……366
第461図　SI099……367
第462図　SI099出土遺物……368
第463図　SI100……369
第464図　SI100カマド……370
第465図　SI100出土遺物……370
第466図　SI101……371
第467図　SI101出土遺物……371
第468図　SI102・SI103……372
第469図　SI102出土遺物……373
第470図　SI103出土遺物……374
第471図　SI104……375
第472図　SI104炉……375
第473図　SI104出土遺物……375
第474図　SI105……376
第475図　SI105カマド……376
第476図　SI105SK1……376
第477図　SI105出土遺物……377
第478図　SI106……378
第479図　SI106炉……378
第480図　SI106出土遺物……379
第481図　SI107……379
第482図　SI107炉……380
第483図　SI107出土遺物（1）……380
第484図　SI107出土遺物（2）……381
第485図　SI108……383
第486図　SI108SK1……383
第487図　SI108出土遺物……384
第488図　SI109……386
第489図　SI109炉……387
第490図　SI109出土遺物……387
第491図　SI110……388
第492図　SI110カマド……388
第493図　SI110出土遺物……389
第494図　SI111……390
第495図　SI111出土遺物……391
第496図　SI112……392
第497図　SI112出土遺物……392
第498図　SI113……393
第499図　SI113出土遺物……393
第500図　SI114……394
第501図　SI114出土遺物（1）……394
第502図　SI114出土遺物（2）……395
第503図　SI115……396
第504図　SI115カマド……397
第505図　SI115P2・P3・P5……398
第506図　SI115出土遺物……398
第507図　SI116……399
第508図　SI116カマド……400
第509図　SI116出土遺物……401
第510図　SI117……402
第511図　SI117出土遺物……402
第512図　SI118……404
第513図　SI118カマド……404
第514図　SI118出土遺物……405
第515図　SI119……406
第516図　SI119出土遺物（1）……406
第517図　SI119出土遺物（2）……407
第518図　SI120……408
第519図　SI120炉……408
第520図　SI120SK1……408
第521図　SI120出土遺物……409
第522図　SI121……410
第523図　SI121炉……411
第524図　SI121P3遺物出土状況……411
第525図　SI121出土遺物（1）……411
第526図　SI121出土遺物（2）……412
第527図　SI122……413
第528図　SI122遺物出土状況……414
第529図　SI122出土遺物（1）……414
第530図　SI122出土遺物（2）……415
第531図　SI123……417
第532図　SI123遺物出土状況……418
第533図　SI123出土遺物……418
第534図　SI124……419
第535図　SI124カマド……420
第536図　SI124SK2……420
第537図　SI125……421
第538図　SI125出土遺物……421
第539図　SI126……422
第540図　SI126炉……423
第541図　SI126遺物出土状況……423
第542図　SI126P1 ～ P7……423
第543図　SI126出土遺物……424
第544図　SI127……425
第545図　SI127焼土・炭化物検出状況……426
第546図　SI127カマド……426
第547図　SI127P1 ～ P4……427
第548図　SI127出土遺物（1）……427
第549図　SI127出土遺物（2）……428
第550図　SI128……429
第551図　SI128P1・P2……429
第552図　SI128出土遺物……430
第553図　SI129……431
第554図　SI129カマド……432
第555図　SI129SK1……432
第556図　SI129出土遺物……433
第557図　SI130……434
第558図　SI131……435
第559図　SI131出土遺物……435
第560図　SI132……436
第561図　SI132出土遺物……437
第562図　SI133……438
第563図　SI133焼土・炭化物検出状況……439
第564図　SI133遺物出土状況……439
第565図　SI133カマド……440
第566図　SI133P3……440
第567図　SI133出土遺物……441
第568図　SI134……442
第569図　SI134炉……442
第570図　SI134出土遺物……442
第571図　SD002……443
第572図　SD003……443
第573図　SD004……444
第574図　SD005……445
第575図　SD006……446
第576図　SK011 ～ SK014……447
第577図　SK015 ～ SK020……449
第578図　SK021・SK022……450
第579図　SK021出土遺物……451
第580図　SK022出土遺物……451
第581図　SK023……451
第582図　SK023出土遺物……452
第583図　SK024……453
第584図　SK025・SK026……454
第585図　SK027・SK028……455
第586図　SK029・SK030……456
第587図　SK029出土遺物……456
第588図　SK031 ～ SK033……457
第589図　SK034・SK035……458
第590図　SK036・SK037……459
第591図　SK038 ～ SK040……460
第592図　SK041 ～ SK043……461
第593図　SK044・SK045……462

第594図　SK045出土遺物……462
第595図　SK046～SK048……463
第596図　SK049～SK053……465
第597図　SK054・SK055……466
第598図　SK056・SK057……467
第599図　SK057出土遺物……467
第600図　SK058～SK062……469
第601図　SK063～SK066……471
第602図　SK067……472
第603図　SK068～SK070……473
第604図　SK071・SK072……474
第605図　SH108出土遺物……474
第606図　古墳時代遺構外出土遺物……475
第607図　SD007（1）……476
第608図　SD007（2）……477
第609図　SD007（3）……478
第610図　SD007（4）……479
第611図　SD007（5）……480
第612図　SD007（6）……481
第613図　SD007（7）……482
第614図　SD008……483
第615図　SD009……484
第616図　SD010……484
第617図　SD011……485
第618図　SD012・SD013……486
第619図　SD014……487
第620図　SD015……488
第621図　SD016……488
第622図　SD017……489
第623図　SD018……490
第624図　SK073～SK078……492
第625図　SK079・SK080……493
第626図　SK081～SK085……495
第627図　SK086～SK089……497
第628図　SK090・SK091……498
第629図　奈良・平安時代遺構外出土遺物……498
第630図　SM014……499
第631図　SM014出土遺物……500
第632図　SD019……501
第633図　SD020……502
第634図　SD021……502
第635図　SK092～SK094……503
第636図　SK095・SK097……504
第637図　SK096……505
第638図　SK098～SK103……507
第639図　SK104～SK109……509
第640図　SK110～SK115……511
第641図　SK116～SK121……513
第642図　SK122～SK127……515
第643図　SK128～SK133……517
第644図　SK134～SK139……519
第645図　SK140～SK144……521
第646図　SK144出土遺物……521

挿表目次

序　説
第1表　周辺の遺跡一覧表……5

海保西竹谷遺跡
第2表　SK001出土土器観察表……18
第3表　SK017出土土器観察表……26
第4表　縄文時代遺構外出土土器観察表……27
第5表　縄文時代遺構外出土石器観察表……27
第6表　SM001出土土器観察表……33
第7表　SM001出土石器・石製品観察表……33
第8表　SM002出土土器観察表……34
第9表　SM003出土土器観察表……44
第10表　SM003出土土製品観察表……45
第11表　SM003出土石器・石製品観察表……45
第12表　SM003出土玉類観察表……45
第13表　SM003出土金属製品観察表……45
第14表　SM004出土土器観察表……51
第15表　SM004出土石製品観察表……51
第16表　SI001出土土器観察表……54
第17表　SI001出土土製品観察表……54
第18表　SI002出土土器観察表……56
第19表　SI003出土土器観察表……61
第20表　SI003出土土製品観察表……61
第21表　SI003出土鉄鏃観察表……61
第22表　SI005出土土器観察表……64
第23表　SI006出土土器観察表……67
第24表　SI007出土土器観察表……70
第25表　SI007出土土製品観察表……70
第26表　SI007出土鉄鏃観察表……70
第27表　SI009出土土器観察表……74
第28表　SI009出土土製品観察表……74
第29表　SI010出土土器観察表……78
第30表　SI010出土石製品観察表……78
第31表　SI010出土金属製品観察表……78
第32表　SI011出土土器観察表……80
第33表　SI011出土土製品観察表……80
第34表　SI012出土土器観察表……82
第35表　SI013出土土器観察表……85
第36表　SI013出土土製品観察表……85
第37表　SI013出土石製品観察表……85
第38表　SI014出土土器観察表……90
第39表　SI014出土土製品観察表……91
第40表　SI014出土石製品観察表……91
第41表　SI015出土土器観察表……94
第42表　SI017出土土器観察表……98
第43表　SI018出土土器観察表……101
第44表　SI018出土石製品観察表……101
第45表　SA001出土土器観察表……104
第46表　古墳時代遺構外出土土器観察表……108
第47表　古墳時代遺構外出土土製品観察表……108
第48表　古墳時代遺構外出土石製品観察表……108
第49表　SM006出土土器観察表……112
第50表　SD001出土土器観察表……113
第51表　SD004出土土器観察表……119
第52表　SD005出土土器観察表……119
第53表　SD009出土土製品観察表……125
第54表　SK026出土土器観察表……126
第55表　奈良・平安時代遺構外出土土器観察表……137
第56表　SM007出土土器観察表……152
第57表　SM007出土数珠観察表……152
第58表　SM007出土銭貨観察表……154
第59表　ピット計測表……174

海保小谷作遺跡
第60表　縄文時代遺構外出土土器観察表……185
第61表　縄文時代遺構外出土石器観察表……185
第62表　SI003出土土器観察表……188
第63表　SI004出土土器観察表……189
第64表　SI005出土土器観察表……190
第65表　SI006出土土器観察表……192
第66表　SI008出土土器観察表……194
第67表　SI010出土土器観察表……196
第68表　SI011出土土器観察表……198
第69表　SI012出土土器観察表……199
第70表　SI013出土土器観察表……201
第71表　SI014出土土器観察表……202

第72表　SI015出土土器観察表……203
第73表　SI016出土土器観察表……205
第74表　SI020出土土器観察表……209
第75表　SI023出土土器観察表……212
第76表　SI024出土土器観察表……213
第77表　SI025出土土器観察表……215
第78表　SI027出土土器観察表……216
第79表　SI029出土土器観察表……218
第80表　SI031出土土器観察表……220
第81表　SI032出土土器観察表……221
第82表　SI034出土土器観察表……223
第83表　SI038出土土器観察表……227
第84表　SI040出土土器観察表……229
第85表　SI041出土土器観察表……231
第86表　SI043出土土製品観察表……233
第87表　SI044出土土器観察表……236
第88表　SI045出土土器観察表……238
第89表　SI045出土玉類観察表……238
第90表　SI046出土土器観察表……240
第91表　SI048出土土器観察表……242
第92表　SI050出土土器観察表……244
第93表　SI051出土土器観察表……246
第94表　SI052出土土器観察表……248
第95表　SI052出土石製品観察表……248
第96表　SI055出土土器観察表……251
第97表　SI056出土土器観察表……252
第98表　SI058出土土器観察表……255
第99表　SI060出土土器観察表……258
第100表　SI061出土土器観察表……259
第101表　SI063出土土器観察表……262
第102表　SI065出土土器観察表……263
第103表　SI066出土土器観察表……265
第104表　SI067出土土器観察表……266
第105表　SI068出土土器観察表……269
第106表　SI069出土土器観察表……270
第107表　SI070出土土器観察表……272
第108表　SI071出土土器観察表……273
第109表　SI072出土土器観察表……274
第110表　SI073出土土器観察表……276
第111表　SI073出土石器観察表……276
第112表　SI076出土土器観察表……279
第113表　SI078出土土器観察表……282
第114表　SH219出土土器観察表……283
第115表　弥生時代遺構外出土土器観察表……284
第116表　SM002出土土器観察表……287
第117表　SM002出土土製品観察表……287
第118表　SM003出土土器観察表……289
第119表　SM005SK1出土土器観察表……307
第120表　SM005SK1出土玉類観察表……307
第121表　SM005出土鉄刀観察表……309
第122表　SM005出土鉄鏃観察表……309
第123表　SM005出土土器観察表……310
第124表　SM006出土土器観察表……317
第125表　SM006出土金属製品観察表……317
第126表　SM007出土土器観察表……323
第127表　SM007出土鉄刀観察表……323
第128表　SM008出土土器観察表……325
第129表　SM009出土土器観察表……327
第130表　SM010出土土器観察表……328
第131表　SM011出土土器観察表……331
第132表　SM011出土鉄鏃観察表……332
第133表　SM012出土土器観察表……334
第134表　SM012出土鉄鏃観察表……334
第135表　SI080出土土器観察表……340
第136表　SI081出土石製品観察表……341
第137表　SI083出土土器観察表……344
第138表　SI084出土土器観察表……345
第139表　SI085出土土器観察表……347
第140表　SI085出土土製品観察表……347
第141表　SI085出土石器・石製品観察表……347
第142表　SI086出土土器観察表……349
第143表　SI088出土土器観察表……351
第144表　SI090出土土器観察表……353
第145表　SI091出土土器観察表……356
第146表　SI091出土土製品観察表……357
第147表　SI092出土土器観察表……358
第148表　SI094出土土器観察表……360
第149表　SI095出土土器観察表……361
第150表　SI096出土土器観察表……362
第151表　SI097出土土器観察表……364
第152表　SI097出土土製品観察表……364
第153表　SI098出土土器観察表……367
第154表　SI099出土土器観察表……368
第155表　SI099出土玉類観察表……368
第156表　SI100出土土器観察表……370
第157表　SI100出土土製品観察表……370
第158表　SI101出土土器観察表……371
第159表　SI102出土土器観察表……373
第160表　SI103出土土器観察表……374
第161表　SI103出土石器観察表……374
第162表　SI104出土土器観察表……375
第163表　SI105出土土器観察表……377
第164表　SI106出土土器観察表……379
第165表　SI107出土土器観察表……381
第166表　SI108出土土器観察表……385
第167表　SI109出土土器観察表……387
第168表　SI110出土土器観察表……389
第169表　SI110出土土製品観察表……389
第170表　SI111出土土器観察表……391
第171表　SI112出土土器観察表……392
第172表　SI113出土土器観察表……393
第173表　SI114出土土器観察表……395
第174表　SI115出土土器観察表……398
第175表　SI115出土土製品観察表……398
第176表　SI115出土石製品観察表……398
第177表　SI116出土土器観察表……401
第178表　SI117出土土器観察表……403
第179表　SI118出土土器観察表……405
第180表　SI119出土土器観察表……407
第181表　SI120出土土器観察表……409
第182表　SI121出土土器観察表……412
第183表　SI122出土土器観察表……415
第184表　SI123出土土器観察表……418
第185表　SI125出土土器観察表……421
第186表　SI126出土土器観察表……424
第187表　SI127出土土器観察表……428
第188表　SI127出土土製品観察表……428
第189表　SI128出土土器観察表……430
第190表　SI129出土土器観察表……433
第191表　SI129出土土製品観察表……433
第192表　SI131出土土器観察表……436
第193表　SI132出土土器観察表……437
第194表　SI132出土土製品観察表……437
第195表　SI133出土土器観察表……441
第196表　SI133出土土製品観察表……441
第197表　SI134出土土器観察表……442
第198表　SK021出土土器観察表……451
第199表　SK022出土土器観察表……451
第200表　SK023出土土器観察表……453
第201表　SK029出土土器観察表……456
第202表　SK045出土土器観察表……463
第203表　SK057出土土器観察表……467
第204表　SH108出土土器観察表……474
第205表　古墳時代遺構外出土土器観察表……475
第206表　古墳時代遺構外出土土製品観察表……475
第207表　古墳時代遺構外出土石製品観察表……475
第208表　奈良・平安時代遺構外出土土器観察表……498
第209表　SM014出土土器観察表……500
第210表　SM014出土石製品観察表……500
第211表　SK144出土銭貨観察表……521
第212表　ピット計測表……522

第１章　序　説

第１節　調査に至る経緯

大成建設株式会社は、市原市海保字小谷作1545-1他で宅地造成を計画した。計画の策定にあたり、平成９年３月10日付けで、千葉県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出した。照会を受け、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課は、現地踏査、試掘を行い、その結果に基づき、千葉県教育委員会教育長は、平成９年11月28日付けで、照会地内に「縄文時代等遺物包蔵地７箇所、古墳時代等遺物包蔵地１箇所、古墳群８箇所、近世塚群１箇所」が所在する旨を回答した。

平成18年度になって、大成建設株式会社による事業計画が本格化する中で、事業範囲の見直しがあり、平成19年３月に、市原市教育委員会は再度現地踏査を行った。その結果、古墳群、塚を含む遺物包蔵地範囲として、海保広作遺跡、海保西竹谷遺跡、海保大塚遺跡、海保小谷作遺跡の４箇所が協議対象となった。これを受け、大成建設株式会社は、平成19年３月30日付けで文化財保護法第93条の規定による「埋蔵文化財発掘の届出」を届け出た。届出に基づく、大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課の三者による協議の結果、事業計画地内の遺跡は現状保存が困難であることから、確認調査を行い、その結果に基づいて記録保存の措置を講ずることとなった。

確認調査は、平成19年度から平成23年度までの間に、市原市教育委員会が行った。本調査は、当初実施した海保広作遺跡について市原市教育委員会が、海保西竹谷遺跡、海保大塚遺跡、海保小谷作遺跡については、大成建設株式会社の申し出に基づく大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会の三者による協議の結果、国際文化財株式会社が実施することとなり、整理・報告書刊行も、それぞれの調査担当機関が行った。

第２節　遺跡の立地と歴史的環境

海保西竹谷遺跡（１）、海保小谷作遺跡（２）、海保大塚遺跡（３）は、いずれも千葉県市原市海保に所在する。「海保」とは古代の上総国海上郡が中世に海北郡、佐是郡に分割された海北郡の遺称地名とも言われている。古代の海上郡は房総半島南部の清澄山系を源流として、市原市域から東京湾に流れる養老川の左岸に位置する。養老川流域は、『先代旧事本紀』に記された上海上国造の領域と言われており、複数の大型前方後円墳を有する姉崎古墳群や式内社「姉埼神社」が所在する。対岸は市原郡で上総国府、僧寺・尼寺があり古代上総国の中心地域であった。

３つの遺跡は、養老川と同じ清澄山系を源流として木更津市域から東京湾へ流れる小櫃川に挟まれた袖ヶ浦台地の北端に位置する。周辺の台地は、養老川左岸の平野から侵刻された支谷や、南は椎津川の支流である片又木川により東西方向に開析された支谷が樹枝状に入り込む。海保西竹谷遺跡は、畑木地区の支谷と海保地区の最も西側の支谷に挟まれており、海保広作遺跡（４）から北に伸びる標高46 ～ 49ｍ程の尾根上で、その先には、畑木小谷遺跡が位置している。

海保小谷作遺跡と海保大塚遺跡は、海保西竹谷遺跡の東側にある標高38 ～ 46ｍ程の尾根上で、特に南側は標高が高く頂部は幅10ｍほどの痩せ尾根状である。両遺跡は南北に連なり、海保大塚遺跡は北面する沖積平野との比高差は約30ｍである。

今回の調査では、海保西竹谷遺跡では、古墳時代終末期の竪穴建物、方墳、前方後方墳、奈良・平安時代の長大な溝など、海保小谷作遺跡では、古墳時代中期・終末期の竪穴建物や古墳、奈良・平安時代の長大な溝など、海保大塚遺跡では、弥生時代後期～終末期の竪穴建物や、古墳時代中期・終末期の古墳などが確認された。

以下では、本報告の中心となる弥生時代から古墳時代における周辺地域の歴史的環境を概観したい。

姉崎古墳群は養老川左岸下流域から海岸平野にかけて、100ｍを超える大型前方後円墳が複数存在し、時期も、断続的ではあるが前期から終末期に及ぶ。分布は、海岸平野の古墳群から４～５km奥まった場所に位置する今富塚山古墳までを範囲とする。

主要古墳の変遷は、未調査古墳を含み流動的な面もあるが「上総主要古墳編年表」（小沢洋2008・2013年）によれば、今富塚山古墳（４世紀初頭～前葉）→姉崎天神山（４世紀中葉）→釈迦山（４世紀後葉～末葉）→姉崎二子塚（５世紀中葉前半）→山王山（６世紀初頭～前葉）→原１号（６世紀中葉～後葉）→鶴窪（６世紀中葉～後葉）→堰頭（６世紀末葉）→六孫王原（７世紀初頭～中葉）である（括弧内の年代も編年表による）。

前期

今富塚山古墳（５、墳長110ｍ）は、最初の定型的な大型前方後円墳として平野部に近い低丘陵上に築造された。詳細は不明だが後円部の埋葬施設に木炭（木炭床あるいは木炭槨）が使用されており、前方部前面の周溝からは底部穿孔土器が出土している。

その後、下流の姉崎地区に姉崎天神山古墳（６、130ｍ）、釈迦山古墳（７、93ｍ）が築造される。姉崎天神山古墳は養老川を望む台地縁辺に位置しており、墳丘の特徴や立地から前期古墳に比定されている。隣接する姉崎東原遺跡Ｂ地点（29）では、前方後方墳（29号墳、33m）が確認されている。釈迦山古墳は、姉埼神社背後の痩せ尾根上に位置しており、埋葬施設は後円部で粘土槨が想定されている。

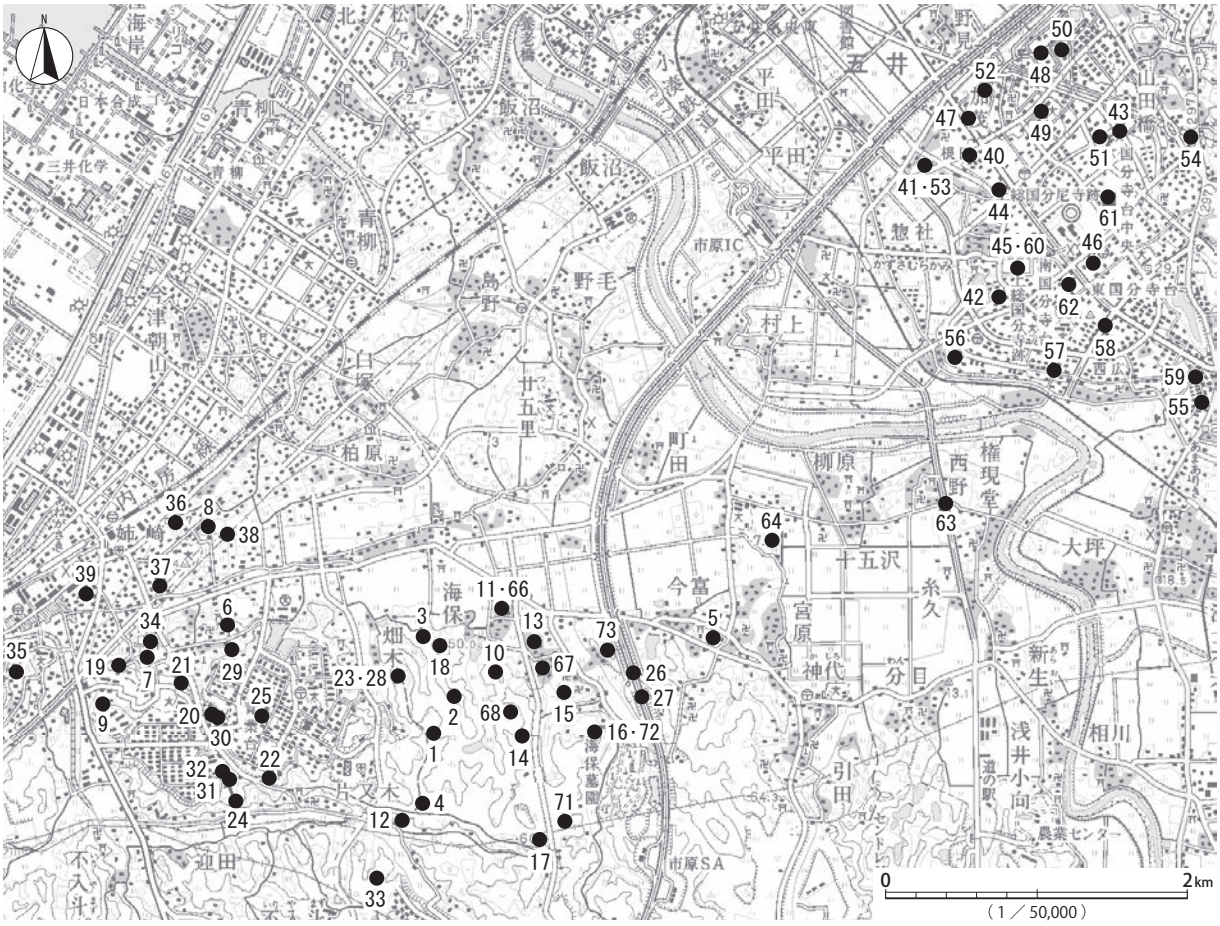
中期

姉崎二子塚古墳（８、103ｍ）は、海岸平野の砂堆上に位置する。盾形周溝を持つ前方後円墳である。墳丘では円筒埴輪列が確認されている。

詳細は不明だが前方部と後円部の墳頂部それぞれに木棺直葬と推定される埋葬施設が存在したと考えられている。副葬品は、虺龍文鏡、銀製長型耳飾、金銅装衝角付冑、鉄鏃、直弧文の彫刻がある石枕、滑石製立花など豊富である。

二子塚周辺の海岸平野では、近年の調査で墳丘径が10 ～ 20ｍ程の円墳を主体とする古墳群が確認されており、東へ200ｍの山新遺跡（38）では、二子塚古墳と前後する時期と考えられる円墳11基、西へ100ｍの姉崎上野合遺跡（36）では２基の円墳、西へ900ｍの姉崎妙経寺遺跡（39）では、古墳時代中期～終末期の古墳約20基が確認されている。中期の円墳が主体で、５号墳（26ｍ）は、前方部の小さい帆立貝形の前方後円墳である。



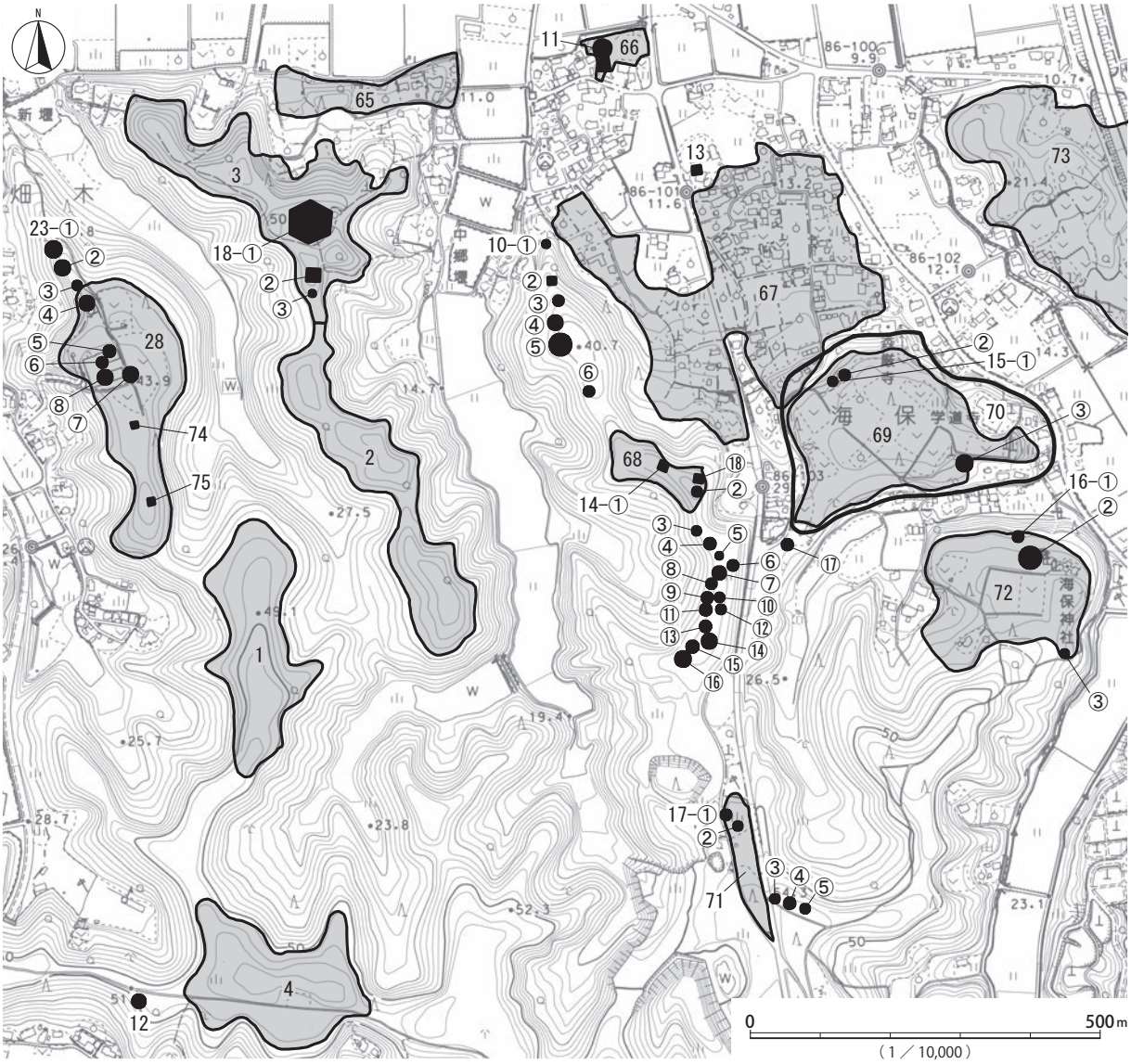


第１図　遺跡の位置と周辺の主要遺跡分布図

中期後半では後続する前方後円墳は確認されていない。円墳であるが富士見塚古墳（9、25ｍ）は椎津川に面した台地の突端に位置する。木棺直葬の埋葬施設から大刀、方格規矩八鳳鏡、鉄鏃20本を納めた胡籙などが出土している。

海保地区では、小谷作遺跡東側の尾根上に位置する海保吉谷前古墳群（10）で、３基の古墳が調査されている。そのうち海保３号墳（29ｍ）は、周溝を持つ古墳群中最大の円墳である。木棺直葬で、副葬品には鉄剣３点、勾玉２点、管玉14点、ガラス小玉32点などが出土した。また、尾根の先端、平野部に接する低丘陵上に海保地区唯一の前方後円墳である内出古墳（11、44ｍ）が位置する。未調査だが中期古墳と考えられている。

その他、詳細な時期が明らかにできないが、円墳を主体とした少なくとも30 数基の古墳が分布している（12 ～ 17）。なお、海保大塚遺跡の一角に位置する海保大塚（18、60ｍ）は、規模の大きな近世の塚であるが、古墳を改築した可能性が指摘されている。



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

第１表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代（時期）等	備　考
1	海保西竹谷遺跡	包蔵地・古墳	縄文・古墳～平安、近世	本報告
2	海保小谷作遺跡	包蔵地・古墳	弥生～平安、近世	本報告
3	海保大塚遺跡	包蔵地・古墳	弥生・古墳	本報告
4	海保広作遺跡	包蔵地・古墳	包蔵地・集落跡・塚	
10-①	海保吉谷前古墳群	古墳	古墳	円墳、径9m、高1m
10-②	海保吉谷前古墳群	塚	近世（古墳？）	塚（古墳？）、一辺8m、高1.5m
10-③	海保吉谷前古墳群（海保１号墳）	古墳	古墳	円墳、径12m、高1m
10-④	海保吉谷前古墳群（海保２号墳）	古墳	古墳	円墳、径18m、高1.5m
10-⑤	海保吉谷前古墳群（海保３号墳）	古墳	古墳	円墳、径29m、高3.8m
10-⑥	海保吉谷前古墳群（海保４号墳）	古墳	古墳	円墳、径11m、高1.5m
11	内出古墳	古墳	古墳	前方後円墳、全長44m、後方部高3m、前方部高1.2m
12	海保広作古墳	古墳	古墳	円墳、径7m、高1.9m
13	小路前遺跡	古墳	古墳	方墳、一辺12ｍ、高2ｍ
14-①	海保山王古墳群	塚	近世（古墳？）	三山塚（古墳？）、一辺12m、高3ｍ
14-②	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径10.9m、高1.5m
14-③	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径11m、高1m
14-④	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径14m、高1m
14-⑤	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径10m、高0.5m
14-⑥	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径13m、高1m
14-⑦	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径16m、高1.5m
14-⑧	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径12m、高0.5m
14-⑨	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径13m、高0.5m
14-⑩	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径10m、高0.5m
14-⑪	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径15m、高1m
14-⑫	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径13m、高0.5m
14-⑬	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径14m、高1m
14-⑭	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径20m、高2m
14-⑮	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径14m、高1m
14-⑯	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径20m、高2m
14-⑰	海保山王古墳群	古墳	古墳	円墳、径14m、高2m
14-⑱	海保山王古墳群	古墳	古墳	方墳、一辺10m、高1.5m
15-①	公家台遺跡群	古墳	古墳	円墳、径11m、高2m
15-②	公家台遺跡群	古墳	古墳	円墳、径13m、高2m
15-③	公家台遺跡群	古墳	古墳	円墳、径18m、高1.2m
16-①	海保八幡台古墳群	古墳	古墳	円墳、径11m、1m
16-②	海保八幡台古墳群（海保神社古墳）	古墳	古墳	円墳、径31m、3m
16-③	海保八幡台古墳群	古墳	古墳	円墳、径9m、1.5m
17-①	祢宜台古墳群	古墳	古墳	円墳、径13m、高1m
17-②	祢宜台古墳群	古墳	古墳	円墳、径11m、高1.5m
17-③	祢宜台古墳群	古墳	古墳	円墳、径11m、高1m
17-④	祢宜台古墳群	古墳	古墳	円墳、径12m、高1m
17-⑤	祢宜台古墳群	古墳	古墳	円墳、径10m、高1m
18-①	海保供養塚群（海保大塚）	塚	近世	供養塚、径60m、高10m
18-②	海保供養塚群	塚	近世	三山塚、一辺17m、高3ｍ
18-③	海保供養塚群	塚	近世	塚、径7m、高1.5m
23-①	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径22ｍ、高３ｍ
23-②	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径19ｍ、高２ｍ
23-③	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径10ｍ、高1.5ｍ
23-④	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径17ｍ、高1.5ｍ
23-⑤	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径15ｍ
23-⑥	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径13ｍ
23-⑦	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径20ｍ
23-⑧	畑木向古墳群	古墳	古墳	円墳、径19ｍ
28	畑木小谷遺跡	包蔵地	縄文・古墳	
65	船子遺跡	包蔵地	古墳～平安	
66	北古谷遺跡	包蔵地	古墳～平安	
67	辺田小路遺跡	包蔵地	縄文・古墳	
68	海保山王下遺跡	包蔵地	縄文・古墳	
69	公家台遺跡	包蔵地	縄文～平安	
70	海保城跡	城跡	中世	
71	祢宜台遺跡	貝塚、包蔵地	縄文～古墳	
72	海保八幡台遺跡	包蔵地	縄文・古墳	
73	今富遺跡群	包蔵地	弥生・古墳	
74	小明供養塚	塚	近世	塚（方形）、一辺６ｍ、高２ｍ
75	畑木三山塚	塚	近代	三山塚、一辺７ｍ、高２ｍ

後期

姉崎山王山古墳（19、69ｍ）は、釈迦山古墳の西側で台地の突端に位置する前方後円墳である。墳丘からは円筒・朝顔形・形象埴輪が出土している。埋葬施設は後円部で粘土槨が検出されており、副葬品として金銅製冠、単龍環頭大刀、四獣形鏡、鉄鏃を納めた胡籙などが出土している。

原１号墳（20、70ｍ）は、台地の中央部に位置する盾形周溝を持つ前方後円墳である。墳丘からは円筒・形象埴輪が出土している。木棺直葬と推測される埋葬施設から大刀、刀子、鉄鏃が出土している。

鶴窪古墳（21、60ｍ）は、原１号墳の北側に隣接する前方後円墳である。墳丘上では、埴輪列が確認されている。二段築成であるが下段は盾形、上段は前方後円形という特異な形を示す。

堰頭古墳（22、45ｍ）は、片又木川に面した台地縁辺に位置する。前方後円墳であるが、未調査のため詳細は不明である。

その他に、今富新山１号墳（26ｍ）は、今富新山遺跡（27）の一角に位置し今富塚山古墳から南西650ｍの台地上にあたる。木棺直葬の円墳で副葬品の内容が豊富である。金銀装大刀１点、鹿角装小刀１点、鹿角装剣１点、鹿角装刀子１点、鉄鏃６点が出土した。畑木地区では、畑木小谷遺跡（28）の一角を占める畑木向古墳群（23）で５基の円墳が調査されている。墳丘が削平されたものが多いが、径20ｍ前後である。15号遺構の周溝内土坑から馬骨が出土しており、殉葬が想定されている。また、木棺直葬と考えられる土坑墓（16号遺構）から銅釧２点、金銅製耳環５点、琥珀製棗玉７点、石製小玉１点、滑石製臼玉14点、ガラス小玉210点が出土している。

終末期

六孫王原古墳（24、45ｍ）は、堰頭古墳から南西250ｍに位置する前方後方墳である。台地上の大型古墳では、もっとも奥まった場所に位置する前方後方墳である。長方形の周溝が巡り、後方部裾には横穴式石室が設けられている。軟質砂岩により構築された石室は破壊が激しく詳細は不明だが、掘り方は上端で長さ7.4ｍ以上、石室の長さは4.2ｍ前後と推定されている。埋葬施設から金銅製馬具３点、直刀片、刀子片、鉄鏃６点が出土した。

徳部台古墳（25）は、六孫王原古墳から北600ｍの台地上に位置する。横穴式石室を持つ方墳である。昭和44年に調査が行われているが未報告のため詳細は不明である。

長老塚古墳（36ｍ）は、養老川に面した台地縁辺で今富遺跡（26）の一角に位置し今富塚山古墳から西600ｍにあたる。墳丘は改変が激しいが周溝を持つ方墳で１辺は約36ｍ。埋葬施設は、半地下式の横穴式石室が想定されるが、軟質砂岩の石材はすべて抜き取られている。掘り方は、長さ約９ｍ、幅5.0 ～ 5.8ｍ、石材の抜き取り痕跡から想定される玄室の長さ５ｍ、奥壁側の幅1.77ｍ、玄門付近の幅１ｍである。出土遺物には、須恵器、土師器、鉄鏃がある。時期は７世紀末頃である。

周辺の集落遺跡は、台地上では、今富遺跡、今富新山遺跡、畑木小谷遺跡、姉崎東原遺跡、原遺跡、毛尻遺跡、六孫王原遺跡、片又木遺跡、姉崎宮山遺跡、椎津茶ノ木遺跡、海岸平野では、姉崎上野合遺跡、山新遺跡、姉崎妙経寺遺跡などがある。

東側から順にみていくこととする。

今富遺跡（26）と今富新山遺跡（27）は、台地の縁辺とその奥という位置関係だが、主体としている時期が異なる。

今富新山遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期を中心とする竪穴建物81棟がある。

時期が判明したものでは、弥生時代後期21棟、古墳時代前期17棟、中期４棟、奈良・平安時代４棟である。調査地の一角に今富新山１号墳が所在する。

今富遺跡は、古墳時代～奈良時代の竪穴建物34棟、掘立柱建物17棟などがある。時期が判明したものでは、７世紀前半６棟、７世紀後半１棟、８世紀５棟、９世紀前半１棟である。７世紀前半の３棟は、長老塚古墳の墳丘下に位置する。なお、今富遺跡の北東２kmには上海上郡衙推定地である西野遺跡（63）や1.3kmには郡衙周辺寺院である今富廃寺（64）が所在する。

畑木小谷遺跡（28）は、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の竪穴建物17棟、古墳時代前期５棟、中期５棟などが確認されている。後期には畑木向古墳群の墓域となる。

姉崎東原遺跡（29）は、弥生時代中期の宮ノ台式以降から遺物がまとまってみられるようになり、この時期から集落の形成が始まったと考えられる。B地点では、弥生時代中期～後期にかけての竪穴建物24棟、古墳時代前期初頭１棟、後期２棟が確認されている。前期初頭以後は、姉崎天神山古墳などの墓域になり、後期に再び竪穴建物がみられるが散発的である。

原遺跡（30）は、弥生時代後期の竪穴建物22棟、古墳時代中期～後期初頭７棟、時期不明１棟が確認されており、原１号墳の墳丘下で古墳時代後期初頭の竪穴建物が確認されている。

六孫王原遺跡（31）は、北西端に毛尻遺跡（32）、南西端に六孫王原古墳が隣接し、南は片又木川に面する。毛尻遺跡と合わせて弥生時代中期末～古墳時代前期を中心とする竪穴建物120棟が確認されている。集落は、古墳時代中期になると４棟ほどに減少する。なお、弥生時代の墓域は、集落域の南側に広がり20基の方形周溝墓が確認されている。

片又木遺跡（33）は、片又木川左岸に位置する。竪穴建物は、弥生時代後期～終末期17棟、古墳時代前期23棟である。古墳時代中期～後期になると２棟と減少するが、奈良・平安時代においても、竪穴建物、掘立柱建物、方形区画墓、小鍛冶遺構が認められる。

姉崎宮山遺跡(34)は、姉埼神社本殿下で調査が行われている。竪穴建物13棟（建替えを含む）、掘立柱建物３棟以上などがある。時期が判明したものは、弥生時代後期２棟、古墳時代後期～終末期８棟、時期不明３棟で、うち１棟は古墳時代前期の可能性がある。奈良時代以降の遺構・遺物は希薄である。

椎津茶ノ木遺跡（35）は椎津川の左岸で、西に東京湾を望む台地上に位置する。１次調査では、縄文時代から平安時代に至る竪穴建物193棟（建替えを含む）が確認された。古墳時代中期～平安時代については出土土器群をもとに15期（小期を含めて23期）に区分された編年案が提示されている（木對1992）。時期が明らかにされた竪穴建物の大別の動向は、縄文時代４棟、弥生時代中期６棟、後期10棟、古墳時代前期９棟、中期11棟、後期28棟、終末期20棟、奈良時代６棟、平安時代５棟と、ピークは古墳時代中期～終末期であり、終末期でも後半（茶ノ木編年Ⅶ－11・12、７世紀後葉～末葉）には棟数が３棟と激減する。２次調査では、古墳時代前期～中期中葉１棟、中期後葉～後期８棟、奈良時代２棟、古墳時代後期以降１棟と同様の傾向であった。遺物としては、土玉、管状土錘などが大量に出土しており、古墳時代における漁労関係を中心とする拠点的集落として捉えられている。

海岸平野では、姉崎上野合遺跡（36）で古墳時代中期の竪穴建物４棟、棗塚遺跡（37）は、中世の

土葬墓を主体とする遺跡であるが、５次調査では古墳時代後期（５世紀末～６世紀初頭）の竪穴建物３棟が確認されている。その他、山新遺跡（38）や姉崎妙経寺遺跡（39）においても古墳時代の竪穴建物が複数確認されている。

以上のように集落の存続期間や盛衰は一様ではなく、墓域へ土地利用が変化する場合もある。要因としては、大型前方後円墳の動向や平野部への開発など様々な理由が考えられる。

最後に、養老川対岸の状況を簡単にみておきたい。

国分寺台遺跡群は、380ヘクタールにおよぶ土地区画整理事業に伴い、昭和47年～昭和63年に縄文時代から古代・中世までの43遺跡、537,270㎡の発掘調査が行われた。著名な遺跡としては出現期の古墳である神門古墳群、「王賜」銘鉄剣の稲荷台１号墳、上総国分僧寺跡、尼寺跡などがある。

弥生時代では、中期後半（宮ノ台式期）に台遺跡（40）、根田代遺跡（41）など東京湾岸平野部に面する台地縁辺では環濠集落が成立する。これらの集落の環濠は、短期間で維持されなくなるが、居住域としての継続は認められる。後期、特に後半以降は遺跡数も増加し、加茂遺跡(42)、坊作遺跡(43)、長平台遺跡(44)などに集落が展開する。終末期には、中台遺跡（45）、南中台遺跡（46）、長平台遺跡などで、外来系土器の集中が見られ、遠距離交流の拠点地域となっている。特に中台遺跡では、弥生時代後期中葉～古墳時代前期の竪穴建物350棟が確認されており、中核集落として神門古墳群の成立基盤となる。その後、前期後半には規模が縮小する。

古墳時代前期以降、継続する集落には御林跡遺跡（47）があり、中期には、向原台遺跡（48）、加茂遺跡、台遺跡が盛行する。

御林跡遺跡は、弥生時代中期末葉～古墳時代中期後半まで継続するが、後期は空白期間となり、終末期に再び集落が営まれるが、奈良時代へは続かない。向原台遺跡は、古墳時代後期の集落。加茂遺跡は、古墳時代中期後半～終末期を最盛期とする集落である。奈良時代まで継続するが８世紀前葉には一時衰退し、中葉には再び盛行するが、９世紀代には終焉する。台遺跡は、古墳時代中期後半～奈良時代前半の集落であるが、御林跡遺跡と同じく後期は空白期間となる。

主要古墳群では、神門古墳群（49）、向原台古墳群（50）、南向原台古墳群（51）、西谷古墳群（52）、根田古墳群（53）、稲荷台古墳群(54)、山倉古墳群（55）、諏訪台古墳群（56）、東間部多古墳群(57)、持塚古墳群(58)、東古墳群(59)がある。以下に特徴的な古墳・古墳群を述べる。

出現期では、神門古墳群で、３基の纒向型前方後円墳が確認されている。

前期の前方後円墳としては諏訪台33号墳（18ｍ）、東間部多２号墳（36ｍ）がある。

中期の円墳では、稲荷山１号墳（28ｍ）からは「王賜」銘鉄剣、金銅製蝶番付横矧板鋲留短甲、鉄鏃など、東間部多１号墳（28ｍ）から横矧板鋲留短甲、持塚１号墳（40ｍ）から一神五獣鏡が出土している。

後期では、人物埴輪・形象埴輪を配列した前方後円墳である山倉１号墳（46ｍ）がある。

終末期では、複数の前方後方墳があり、東間部多11号墳（25ｍ）や諏訪台古墳群でも認められる。

諏訪台古墳群は、古墳時代前期・後期～終末期の群集墳、奈良・平安時代の方形区画墓が台地上全面に面々と築造されている。前期は前方後円墳５基、円墳２基、方墳約31基、後期は円墳25基、前方後円墳７基（うち４基は円墳に前方部を付け加え改変）、終末期は前方後方墳６基（うち３基は方墳に前方部を付け加え改変）、方墳94基、奈良・平安時代では方形区画墓50基以上である。

奈良・平安時代では、上総国分僧寺跡（60）、上総国分尼寺跡(61)、国分寺と関係する荒久遺跡（62）、坊作遺跡（43）などがある。さらに周辺には上総国府や市原郡衙の推定地があるが、未だ確定はみていない。

第１図　遺跡名称

１.海保西竹谷遺跡　２.海保小谷作遺跡　３.海保大塚遺跡　４.海保広作遺跡　５.今富塚山古墳　６.姉崎天神山古墳
７.釈迦山古墳　８.姉崎二子塚古墳　９.富士見塚古墳　10.海保吉谷前古墳群　11.内出古墳　12.海保広作古墳
13.小路前遺跡　14.海保山王古墳群　15.公家台古墳群　16.海保八幡台古墳群　17.祢宜台古墳群　18.海保供養塚群（海保大塚）
19.姉崎山王山古墳　20.原１号墳　21.鶴窪古墳　22.堰頭古墳　23.畑木向古墳群　24.六孫王原古墳　25.徳部台古墳
26.今富遺跡　27.今富新山遺跡　28.畑木小谷遺跡　29.姉崎東原遺跡　30.原遺跡　31.六孫王原遺跡　32.毛尻遺跡
33.片又木遺跡　34.姉崎宮山遺跡　35.椎津茶ノ木遺跡　36.姉崎上野合遺跡　37.塚遺跡　38.山新遺跡　39.姉崎妙経寺遺跡
40.台遺跡　41.根田代遺跡　42.加茂遺跡　43.坊作遺跡　44.長平台遺跡　45.中台遺跡　46.南中台遺跡　47.御林跡遺跡
48.向原台遺跡　49.神門古墳群　50.向原台古墳群　51.南向原台古墳群　52.西谷古墳群　53.根田古墳群　54.稲荷台古墳群
55.山倉古墳群　56.諏訪台古墳群　57.東間部多古墳群　58.持塚古墳群　59.東古墳群　60.上総国分僧寺跡　61.上総国分尼寺跡
62.荒久遺跡　63.西野遺跡　64.今富廃寺　65.船子遺跡　66.北古谷遺跡　67.辺田小路遺跡　68.海保山王下遺跡
69.公家台遺跡　70.海保城跡　71.祢宜台遺跡　72.海保八幡台遺跡　73.今富遺跡群　74.小明供養塚　75.畑木三山塚

参考文献

全般
吉田東伍　1980『大日本地名辞書　坂東』第６巻　増補版　冨山房
市原市教育委員会　1988『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図　北部編』
千葉県教育委員会　1994「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会
近藤義郎編　1994『前方後円墳集成　東北・関東編』山川出版社
(財)千葉県史料研究財団編　1998『千葉県の歴史　資料編　考古３（奈良・平安時代）』
(財)千葉県文化財センター　2000「房総地方における前期古墳の展開－重要遺跡確認調査の成果と課題４－」『研究紀要』21
(財)千葉県史料研究財団編　2003『千葉県の歴史　資料編　考古２（弥生・古墳時代）』
(財)千葉県史料研究財団編　2004『千葉県の歴史　資料編　考古４（遺跡・遺構・遺物）』
小沢洋　2008『房総古墳文化の研究』六一書房
(財)千葉県教育振興財団　2012「古墳時代中期の房総－中期的要素の波及とその評価－」『研究紀要』27
小沢洋　2013『内裏塚古墳群総括報告書』富津市教育委員会

遺跡各説　遺跡番号順
永沼律朗　1992『市原市今富塚山古墳確認調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第221集
小久貫隆史　1996『市原市釈迦山古墳発掘調査報告書』千葉県教育委員会
大場磐雄ほか　1951「上総国姉崎二子塚発掘調査概報」『考古学雑誌』37-3 日本考古学会
忍澤成視　2006「姉崎二子塚古墳」『平成17年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
忍澤成視　2006「姉崎二子塚古墳」『市原市文化財センター年報　平成17年度』(財)市原市文化財センター
木對和紀　2007「姉崎二子塚古墳」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第４集
中村恵次　1968「市原市富士見塚古墳」『日本考古学年報』16
中村恵次ほか　1968「海保古墳群」『南大広遺跡　海保古墳群』市原市埋蔵文化財調査報告４
杉山晋作ほか　1990「海保大塚の測量調査」『関東地方における終末期古墳の研究』平成元年度科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書　国立歴史民俗博物館
上総山王山古墳発掘調査団　1980『上総山王山古墳発掘調査報告書』市原市教育委員会
越川敏夫ほか　1984『原遺跡』原遺跡調査会
姉崎鶴窪古墳調査団　2002『鶴窪古墳』市原市教育委員会
中村恵次ほか　1975『古墳時代の研究Ⅱ－市原市六孫王原古墳の調査－』古墳時代研究会
丸子亘　1970『姉ヶ崎台遺跡』千葉県埋蔵文化財調査報告第４集
森本和男　1998『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書２－市原市今富遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第336集
石黒亮治ほか　1999『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書４－市原市今富新山遺跡・古市場（２）遺跡、千葉市古市場（１）遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第356集
北見一弘　1999「畑木小谷遺跡」『平成10年度市原市内発掘調査報告』市原市教育委員会

小出紳夫　2000「畑木小谷遺跡」『市原市文化財センター年報　平成８年度』(財) 市原市文化財センター
北見一弘　2000「畑木小谷遺跡」『市原市畑木小谷遺跡・椎津茶ノ木遺跡（第２次)』(財) 市原市文化財センター調査報告書第73集
北見一弘　2002『市原市畑木小谷遺跡Ⅱ』(財) 市原市文化財センター調査報告書第81集
高橋康男　1989「姉崎東原遺跡」『市原市文化財センター年報　昭和62年度』(財) 市原市文化財センター
高橋康男　1990『市原市姉崎東原遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第37集
忍澤成視　1991「姉崎東原遺跡Ｂ地点」『平成２年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
浅利幸一　1993「姉崎東原遺跡Ｄ地点」『平成４年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
高橋康男　1993『市原市姉崎東原遺跡Ｂ地点』(財) 市原市文化財センター調査報告書第51集
櫻井敦史　1994『市原市姉崎東原遺跡Ｃ地点』(財) 市原市文化財センター調査報告書第54集
櫻井敦史　1996「姉崎東原遺跡Ｂ地点」『市原市文化財センター年報　平成４年度』(財) 市原市文化財センター
米田耕之介　1996「姉崎東原遺跡Ｄ地点」『市原市文化財センター年報　平成４年度』(財) 市原市文化財センター
高橋康男　2000『市原市姉崎東原遺跡Ｃ地点（２)』(財) 市原市文化財センター調査報告書第72集
近藤敏　2012「姉崎東原遺跡Ｅ地点」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第22集
田中清美　1989「原遺跡」『市原市棒ヶ谷遺跡・永田遺跡・海士有木遺跡・北旭台遺跡・姉崎山谷遺跡・喜多高沢遺跡・辰巳ヶ原遺跡・原遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第32集
高橋康男　1992「六孫王原遺跡Ｅ地区」『平成３年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
田所真　1995「六孫王原遺跡Ｆ地区」『平成６年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
半田堅三　1997『市原市姉崎六孫王原遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第58集
毛尻遺跡調査会　1983『千葉県市原市毛尻遺跡発掘調査報告書』毛尻遺跡調査会
寺島博　1984『片又木遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第３集
小橋健司　2000『市原市片又木遺跡Ⅱ』(財) 市原市文化財センター調査報告書第70集
櫻井敦史　2004『市原市片又木遺跡Ⅲ』(財) 市原市文化財センター調査報告書第87集
大村直　1991『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第40集
木對和紀　1992『市原市椎津茶ノ木遺跡』(財) 市原市文化財センター調査報告書第49集
鶴岡英一　2000「椎津茶ノ木遺跡」『市原市畑木小谷遺跡・椎津茶ノ木遺跡（第２次)』(財) 市原市文化財センター調査報告書第73集
木對和紀　1990「姉崎上野合遺跡」『平成元年度市原市内遺跡群発掘調査報告』市原市教育委員会
木對和紀　1994「姉崎上野合遺跡」『市原市文化財センター年報　平成元年度』(財) 市原市文化財センター
西野雅人　2006「稲塚遺跡」『平成17年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
高橋康男　2007「稲塚遺跡」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
鶴岡英一　2012「稲塚遺跡第５次」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第22集
小橋健司　2001「姉崎山新遺跡（第１地点)」『市原市文化財センター年報　平成10年度』(財) 市原市文化財センター
小橋健司　2002「姉崎山新遺跡（第２地点)」『市原市文化財センター年報　平成11年度』(財) 市原市文化財センター
近藤敏　2004「姉崎山新遺跡（第３地点)」『市原市文化財センター年報　平成13・14年度』(財) 市原市文化財センター
木對和紀　2004「姉崎山新遺跡」『平成15年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
近藤敏　2005「姉崎山新遺跡（第３地点)」『市原市文化財センター年報　平成15・16年度』(財) 市原市文化財センター
大村直　2005「姉崎山新遺跡」『平成16年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
牧野光隆　2009「山新遺跡（第５地点)」『平成20年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集
牧野光隆　2011「山新遺跡第６地点・第７地点」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集
小出紳夫　1998「姉崎妙経寺遺跡」『市原市文化財センター年報　平成７年度』(財) 市原市文化財センター
小出紳夫　2000「姉崎妙経寺遺跡第２次調査」『市原市文化財センター年報　平成８年度』(財) 市原市文化財センター
小出紳夫　2000「姉崎妙経寺遺跡第３次調査」『市原市文化財センター年報　平成９年度』(財) 市原市文化財センター
小出紳夫　2001「姉崎妙経寺遺跡（４次調査)」『市原市文化財センター年報　平成10年度』(財) 市原市文化財センター
小橋健司　2002「姉崎妙経寺遺跡（第５次)」『市原市文化財センター年報　平成11年度』(財) 市原市文化財センター
櫻井敦史　2003「姉崎妙経寺遺跡」『市原市文化財センター年報　平成12年度』(財) 市原市文化財センター
小橋健司　2004「姉崎妙経寺遺跡（第７次)」『市原市文化財センター年報　平成13・14年度』(財) 市原市文化財センター
※紙幅の都合上、国分寺台遺跡群の報告書は割愛するが、市原市教育委員会、(財) 市原市文化財センター刊行の報告書を参考とした。



第３図　海保地区遺跡群　調査位置図

第３節　調査の方法

発掘調査は『千葉県埋蔵文化財発掘調査基準－１－発掘調査標準』に基づき行った。また、市原市教育委員会ふるさと文化課により、遺構検出時および完掘時に検査を受け、調査の過程においても適宜指導、助言を受けた。具体的な調査手順は以下のとおりである。

表土除去は各遺跡における確認調査の結果に基づき、古墳や塚の盛土上は人力により、その他は重機により行った。遺構の確認作業は全て人力で行い、遺構番号は各遺跡で古墳や竪穴建物などの遺構種別毎に001からの通し番号とし、調査にとりかかった段階で随時付していった。

グリッドは海保広作遺跡の調査で設定したものを踏襲し、日本測地系「平面直角座標系第Ⅸ系」に基づき、500mメッシュの大グリッド（X=-58,000、Y=21,000を北西隅とする一角をA区とし、東へB区、C区…）、20mメッシュの中グリッド（大グリッド北西隅を１Aとし、X軸は北から南にA～Y、Y軸は西から東に１～25）、２mメッシュの小グリッド（中グリッド北西隅を原点00とし東へ01、02、03…）とした（第４図）。本文および挿図中のグリッド表記は「H区９P-42」等である。なお、遺構配置図の括弧内の数値は、世界測地系の座標値を示す。

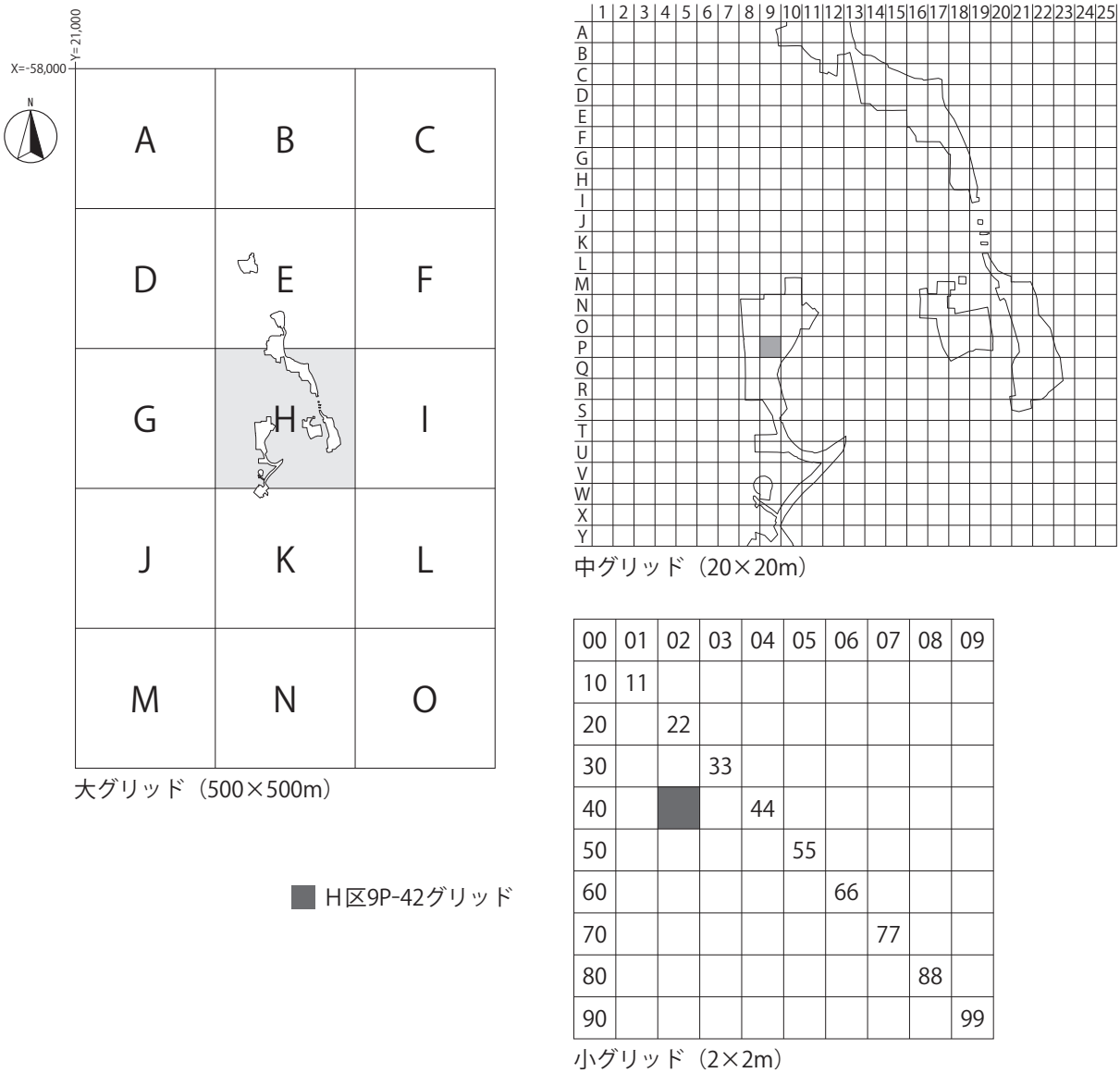
海保西竹谷遺跡の調査において、中グリッドの設定を誤り、H区NラインのY軸方向を１列欠落してしまった結果、M、N、O…となるところをM、O、P…としてH区とK区の境界を20m北上させて設定してしまった。そのため本来のグリッドはH区10O→H区10N、H区10P→H区10O、K区10A→H区10Y、K区10B→K区10A等に訂正となる。本報告書ではこれを訂正した正しいグリッドで表記しているが、遺物の注記や図面などは旧グリッド番号のままである。なお、海保小谷作遺跡、海保大塚遺跡はグリッドの欠落なく調査を行っている。

遺構の調査は、基本的に各遺構とも平面プランの確認後、土層や重複の確認のため十文字、一文字のベルト、もしくは半裁により土層観察を行い、写真撮影、断面図作成後に取り除いた。

古墳の調査は、表土層からの記録を行うため表土掘削に先立ってベルトを設定した。円・方墳は十文字に、前方後方墳は主軸およびこれに直行する方向で前方部、後方部にそれぞれ設定し、「キ」字状とした。表土掘削の後、検出状況を撮影し、周溝の掘削を行った。その後、遺構平面図およびコンター図作成の測量を行い、空中写真撮影後に埋葬施設等の存在に留意しつつ墳丘を掘削した。埋葬施設の調査後、墳丘盛土を掘削し、土層観察により盛土構築の手順を確認した。最後に、古墳の立地が痩せ尾根や平坦面から斜面への変換線上に位置するものが多いことから、旧地表面のコンター図作成を行い調査終了とした。

遺構平面図はトータルステーションを使用して計測し、遺物出土状況図や断面図は手実測による図化を行った。なお、海保西竹谷遺跡、海保小谷作遺跡の遺構挿図は、対象とする遺構および、切る遺構を図示している。一方、海保大塚遺跡は弥生時代の竪穴建物の重複が著しく、完掘後の床面や周溝の範囲から遺構プランを決定しているものもあることから、対象の遺構と切り合う新旧の遺構全てを図示した完掘状況図とした。

記録写真はデジタルカメラ１台、モノクロ・リバーサル用として中型カメラ２台を用いて撮影した（海保西竹谷遺跡のみ、モノクロ・リバーサル用として35mmカメラ２台も併用）。なお、本報告に際し整理作業時に遺構番号の付け替えを行っている。遺物の注記や図面の遺構名などは旧番号のままであり、その対照表を第２分冊の本文末尾に示しておく。



第4図　グリッド設定図

第4節　基本層序

表土層上面からⅢ層（遺構確認面、黄褐色ソフトローム層）上面までの深度は地点によって異なり、約0.1mから0.8mである。

Ⅰ層（灰褐色土層）は現表土、耕作土および森林土壌である。本文および挿図では「表土」と表記している。Ⅱ層は縄文時代以降の堆積層と考えられ、混入物の差異からⅡａ～Ⅱｇ層に大別される。このうちⅡｆ層（黒褐色土層）は上面に古墳の盛土が積み上げられていることから古墳時代の旧地表面と考えられる。その下位のⅡｇ層（暗褐色土）はローム漸移層である。Ⅲ層は黄褐色ソフトローム層、Ⅳ層は赤褐色ハードローム層となり、以下、武蔵野台地の標準土層と同様である。

今回の調査における遺構確認面はⅢ層としたが、斜面などソフトローム層の流失している箇所ではⅣ層での遺構確認となった。

第２章　海保西竹谷遺跡

本遺跡では、旧石器時代の遺物、縄文時代～近世にかけての遺構・遺物が、南北方向に伸びる痩せ尾根上の台地の平坦面から斜面で検出されている。

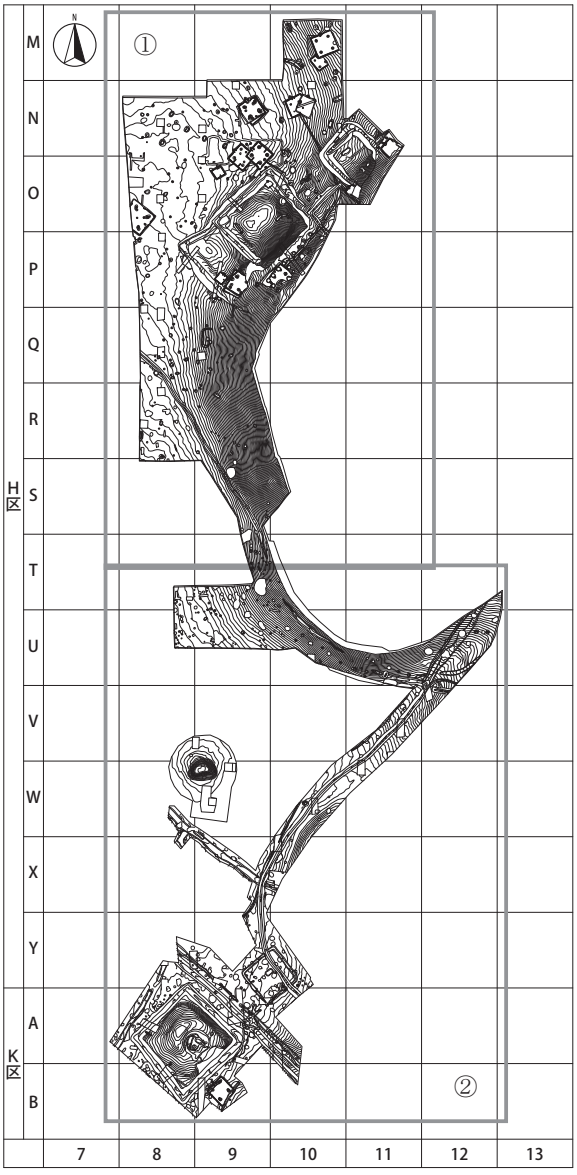
縄文時代の遺構は陥し穴10基、土坑９基が検出された。陥し穴はその多くが調査区北側、台地の平坦面から斜面への変換線付近に設けられている。

古墳時代の遺構は終末期の古墳４基、竪穴建物18棟、掘立柱建物１棟、柱穴列１条、土坑６基を検出している。古墳はいずれも台地の東縁に位置し、前方後方墳１基（SM003）、方墳３基（SM001・SM002・SM004）である。SM003は方墳に前方部を付け足して前方後方墳としている。SM004の埋葬施設は横穴式石室と推測される。竪穴建物は古墳の周辺に散在しており、SI014・SI015は、SM003の前方部付け足し前に埋め戻されている。その他の竪穴建物も古墳の築造とあまり時期差はみられない。

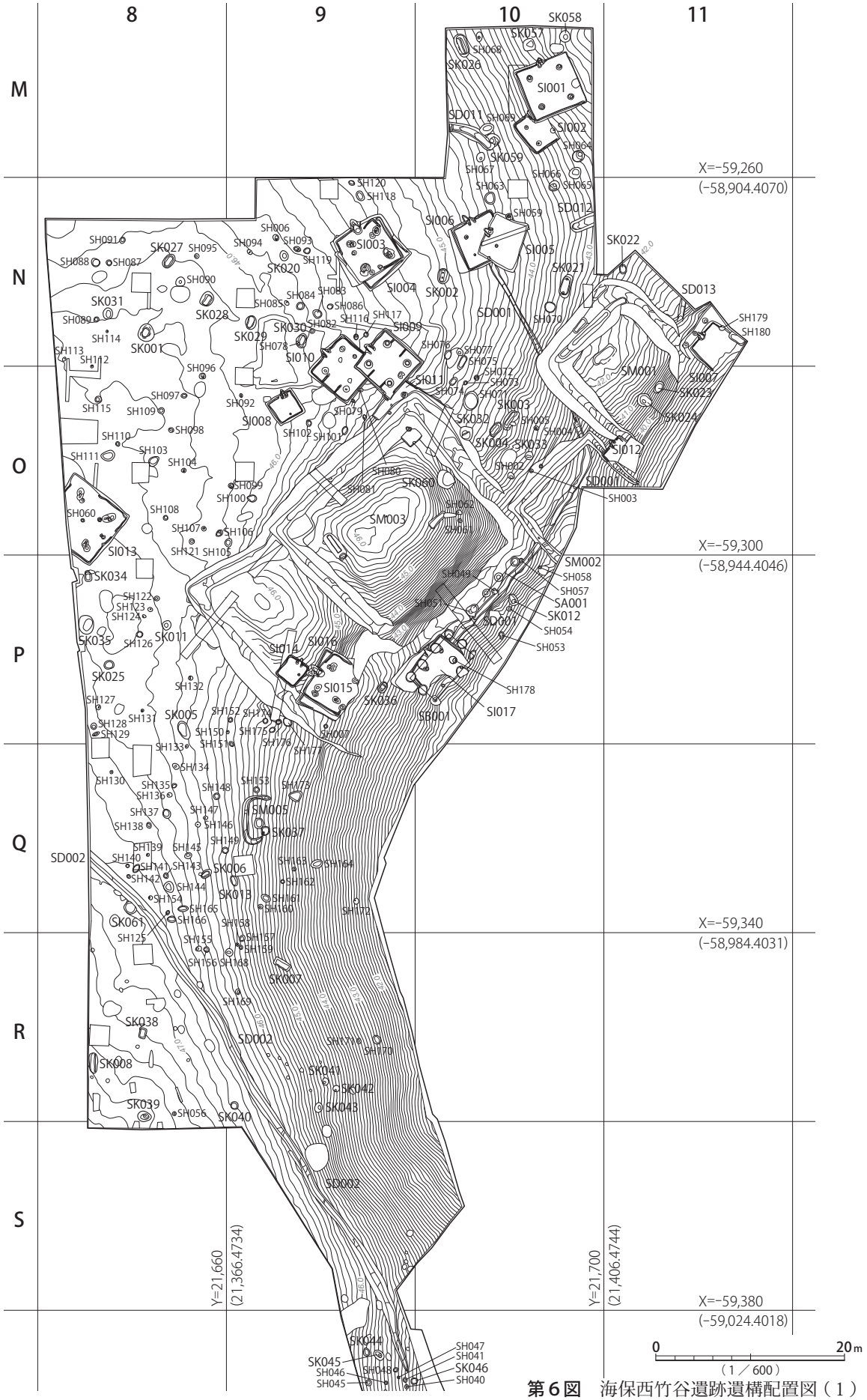
奈良・平安時代の遺構は方形区画墓２基、溝10条、土坑31基が検出された。方形区画墓SM005は火葬骨を埋納している。溝は台地の縁辺を縦走もしくは平坦面を横断し、広大な範囲を区画している。

中世もしくは近世の遺構は塚１基、溝８条、土坑14基が検出された。塚には古寛永を中心とした多量の銭貨、数珠、毛髪が曲物に納められていた。

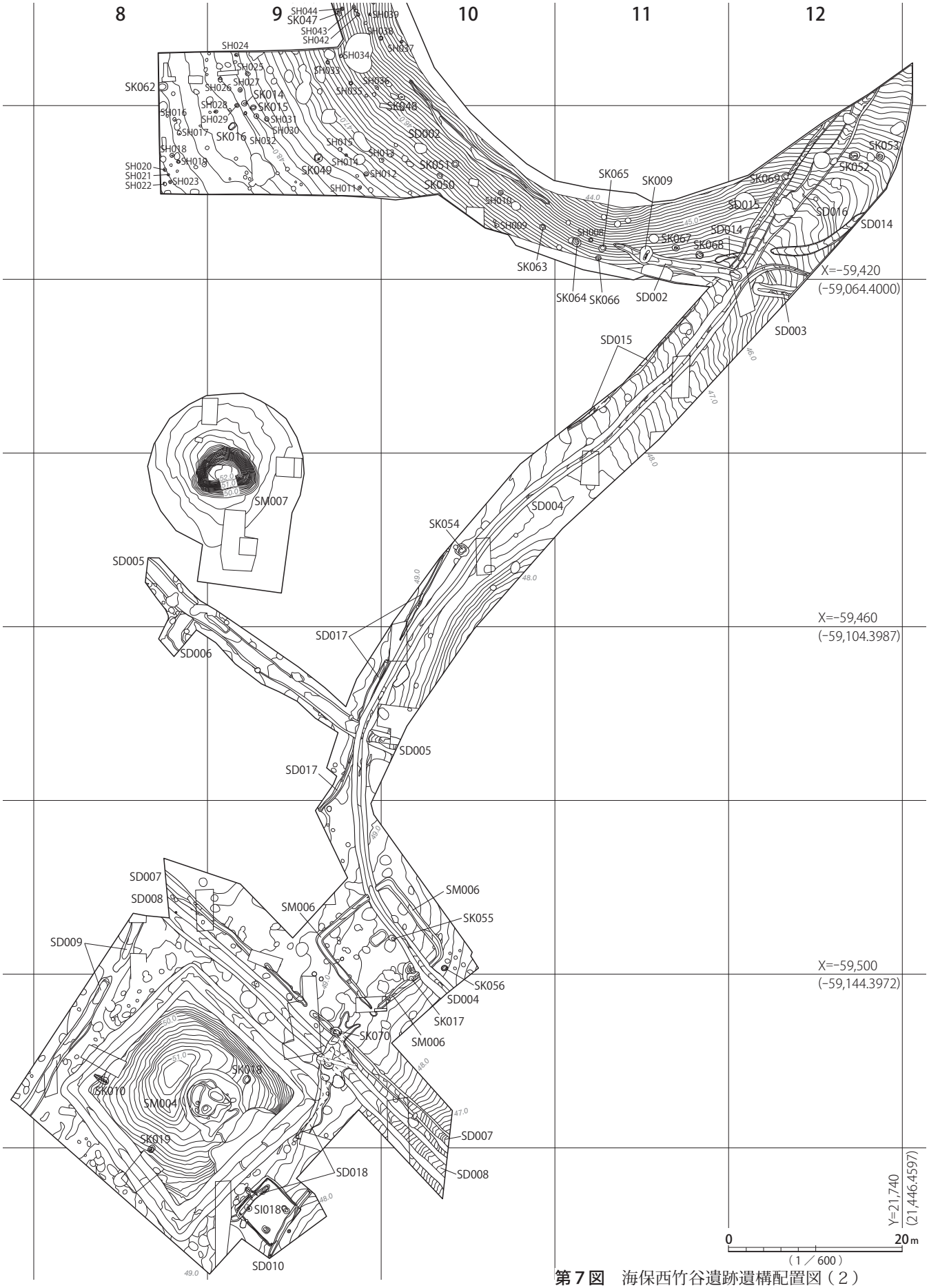
上記の遺構のほか、175基のピットが検出された。計測値をまとめた第59表をもって報告に代える。



第５図　グリッド配置図及び遺構配置図範囲



第６図　海保西竹谷遺跡遺構配置図（１）



第７図　海保西竹谷遺跡遺構配置図（２）

第１節　縄文時代

１．陥し穴

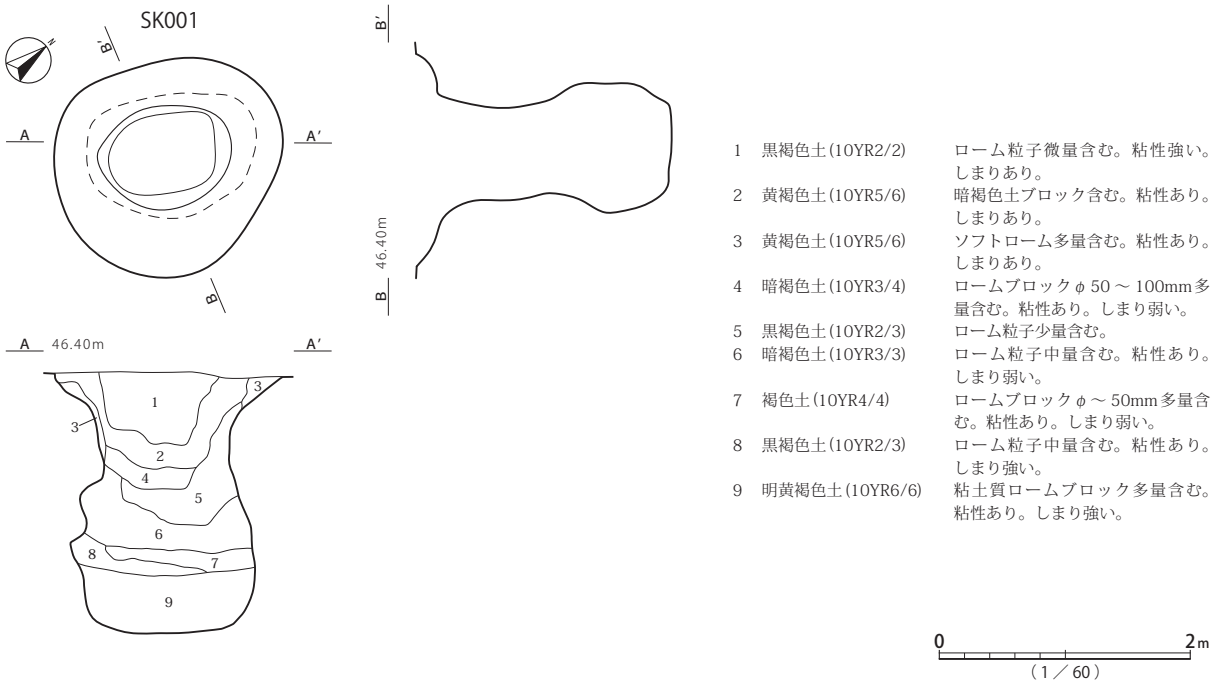
SK001（第８・９図、第２表、図版１・18）

位置：Ｈ区８Ｎ-85グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.86ｍ、短軸1.71ｍ、確認面からの深度2.06ｍ。**長軸方位：**Ｎ-85°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は徳利状で下位はオーバーハングする。　**時期：**出土遺物から縄文時代早期後半と考えられる。

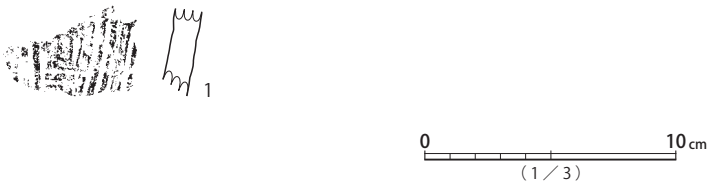
所見：台地の平坦面に位置する。底面からピットは検出されなかった。

遺物：縄文土器45.7gのほかに土師器4.0gが混入している。

１は深鉢の胴部で、貝殻条痕が施される。



第８図　SK001



第９図　SK001出土遺物

第２表　SK001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.6] 最大径：　－	外面：貝殻条痕文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部の破片	早期後半、条痕文系

SK002（第10図、図版１）

位置：H区10N-51グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.61ｍ、短軸1.20ｍ、確認面からの深度1.03ｍ。**長軸方位：**N-83°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦で、北側と南側の２箇所にピットがあり、深度は0.25～0.27ｍと深く、逆茂木痕と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の東向き緩斜面に位置する。

遺物：出土していない。

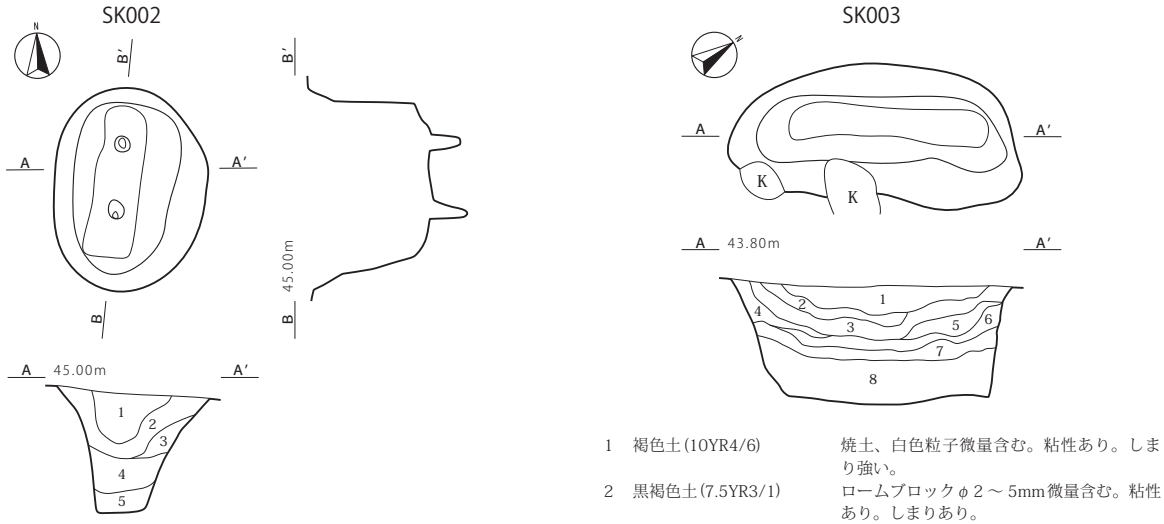
SK003（第10図、図版１）

位置：H区10O-25グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側と南側の一部は撹乱される。**規模：**長軸2.30ｍ、短軸1.10ｍ、確認面からの深度1.12ｍ。**長軸方位：**N-56°-E。**形態：**長楕円形、底面は溝状、平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の南東向き緩斜面に位置する。完掘後に底面の断ち割りを行ったが、ピットは検出されなかった。南西側に陥し穴（SK004）が近接する。

遺物：土師器84.0gが出土したが、混入と考えられる。



1	黒褐色土(10YR3/2)	褐色土ブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
4	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子中量含む。粘性強い。しまり弱い。
5	黄褐色土(10YR5/6)	ローム粒子、ロームブロックφ100mm中量含む。粘性あり。しまり非常に強い。

1	褐色土(10YR4/6)	焼土、白色粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
2	黒褐色土(7.5YR3/1)	ロームブロックφ２～5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(10YR3/3)	10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト少量、ロームブロックφ２～5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黄褐色土(10YR5/6)	炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト少量、ロームブロックφ２～3mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
6	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	10YR5/6(黄褐色)シルト少量、ロームブロックφ２～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	10YR4/4(褐色)シルト少量、ロームブロックφ２～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	ロームブロックφ10～15mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（１／60）

第10図　SK002・SK003

SK004（第11図、図版１）

位置：H区10O-34グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.70ｍ、短軸0.94ｍ、確認面からの深度0.89ｍ。**長軸方位：**N-54°-E。**形態：**長楕円形、底面は溝状、平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の南東向き緩斜面に位置する。完掘後に底面の断ち割りをおこなったが、ピットは検出されなかった。

遺物：出土していない。

SK005（第11図、図版１）

位置：H区８P-97グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.04ｍ、短軸1.09ｍ、確認面からの深度0.78ｍ。**長軸方位：**N-65°-W。**形態：**長楕円形、底面は平坦で、壁面は南側が緩やかに、北側はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

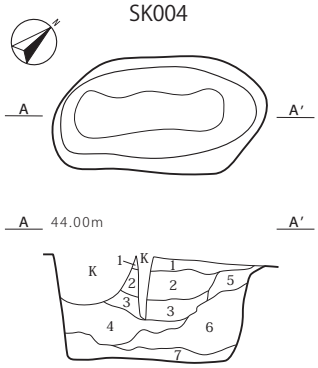
所見：台地の平坦面に位置する。完掘後に底面の断ち割りをおこなったが、ピットは検出されなかった。

遺物：焼成粘土塊7.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

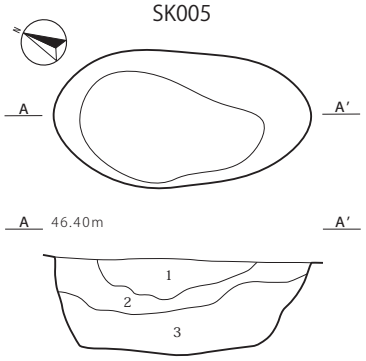
SK006（第12図、図版１）

位置：H区８Q-68グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側の一部は撹乱される。**規模：**長軸1.25ｍ、短軸0.77ｍ、確認面からの深度1.19ｍ。**長軸方位：**N-37°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は北東側の検出面近くで緩やかに開き、南西側は垂直に立ち上がる。

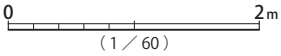
時期：覆土から縄文時代と考えられる。



1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ３～5mm微量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　10YR2/2(黒褐色)シルト粒土少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト粒土中量、ロームブロックφ２～5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　黄褐色土(2.5Y5/4)　ロームブロックφ２～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土ブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ20～50mm多量、黒褐色土粒子中量含む。粘性あり。しまり非常に強い。



第11図　SK004・SK005

所見：台地の平坦面に位置する。完掘後に底面の断ち割りをおこなったが、ピットは検出されなかった。

遺物：出土していない。

SK007（第12図、図版１）

位置：Ｈ区９Ｒ−12グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.88ｍ、短軸0.84ｍ、確認面からの深度1.10ｍ。**長軸方位：**Ｎ−30°−Ｗ。**形態：**長方形、底面は平坦で、壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の東向き緩斜面に位置する。完掘後に底面の断ち割りをおこなったが、ピットは検出されなかった。

遺物：出土していない。

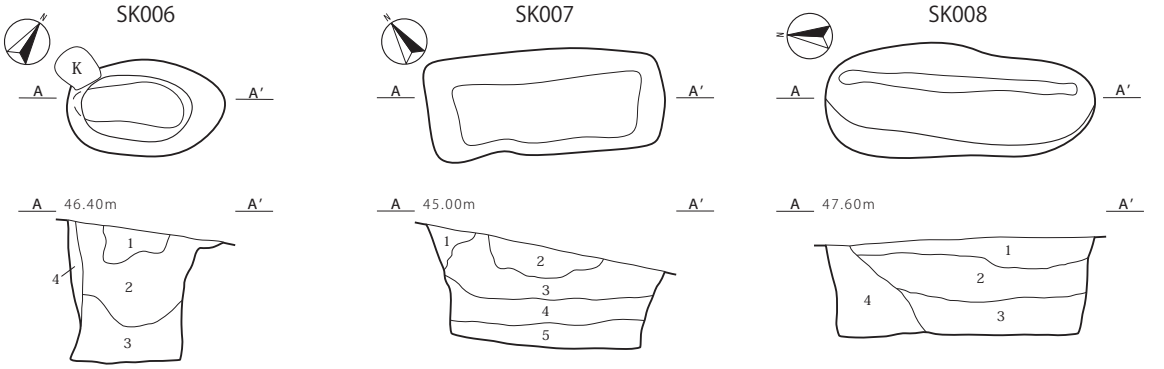
SK008（第12図、図版１）

位置：Ｈ区８Ｒ−62グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.13ｍ、短軸0.91ｍ、確認面からの深度0.87ｍ。**長軸方位：**Ｎ−89°−Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は溝状、平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の平坦面に位置する。完掘後に底面の断ち割りをおこなったが、ピットは検出されなかった。

遺物：出土していない。



1	褐色土(10YR4/4)	黒褐色土ブロックφ10～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR2/2)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり非常に強い。
3	暗褐色土(10YR3/3)	黒褐色土中量、ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり強い。
4	明黄褐色土(10YR6/8)	粘性弱い。しまり強い。

1	褐色土(10YR4/6)	粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/3)	褐色土ブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
3	黒褐色土(10YR3/2)	褐色土ブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
4	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
5	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性強い。しまり強い。

1	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ1～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	粘性あり。しまりあり。
3	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	ロームブロックφ1～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	粘性ややあり。しまりややあり。

0　2m
（1／60）

第12図　SK006～SK008

SK009（第13図、図版２）

位置：Ｈ区11Ｕ-85グリッドに位置する。**重複：**SD002に切られる。**規模：**長軸2.01ｍ、短軸1.45ｍ、確認面からの深度0.99ｍ。**長軸方位：**Ｎ-65°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は溝状、平坦である。２箇所にピットがあり、深度は0.10～0.12ｍと浅い。壁面は南側で緩やかに立ち上がり、北側はきつく立ち上がるが、上位で緩やかになる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の北東向き緩斜面に位置する。

遺物：出土していない。

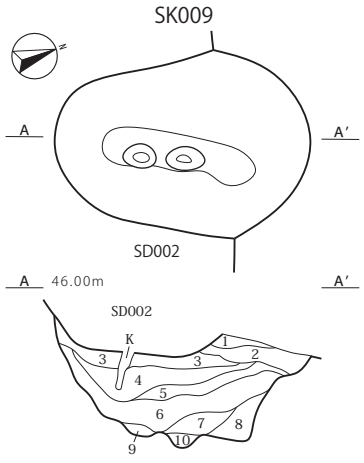
SK010（第13図、図版２）

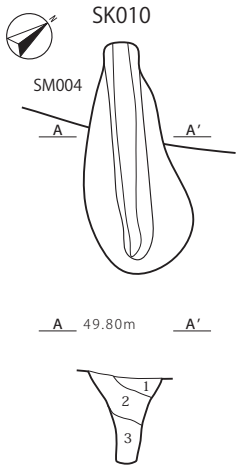
位置：Ｋ区８Ａ-63グリッドを中心に位置する。**重複：**SM004に切られる。**規模：**長軸(1.84)ｍ、短軸0.82ｍ、確認面からの深度0.77ｍ。**長軸方位：**Ｎ-32°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は溝状、平坦である。壁面は漏斗状で、中位からやや緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の平坦面に位置する。完掘後に底面の断ち割りをおこなったが、ピットは検出されなかった。

遺物：出土していない。





1　黒褐色土(10YR2/2)　粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色砂(10YR2/3)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
3　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性ややあり。しまりややあり。
4　黒褐色土(2.5Y3/2)　粘性ややあり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　粘性ややあり。しまりあり。
6　褐色土(10YR4/4)　粘性ややあり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまりあり。
8　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
9　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性ややあり。しまり強い。
10　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性ややあり。しまり強い。

1　黒褐色土(2.5Y3/2)　黒褐色粘土ブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　粘性あり。しまりあり。
3　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　ロームブロックφ１～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第13図　SK009・SK010

２．土　坑

SK011（第14図）

位置：Ｈ区８Ｐ-36グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.04ｍ、短軸0.92ｍ、確認面からの深度0.35ｍ。**長軸方位：**Ｎ-72°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK012（第14図）

位置：Ｈ区10Ｐ-25グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.27ｍ、短軸0.91ｍ、確認面からの深度0.74ｍ。**長軸方位：**Ｎ-65°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は南東側でピット状に窪む。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK013（第14図）

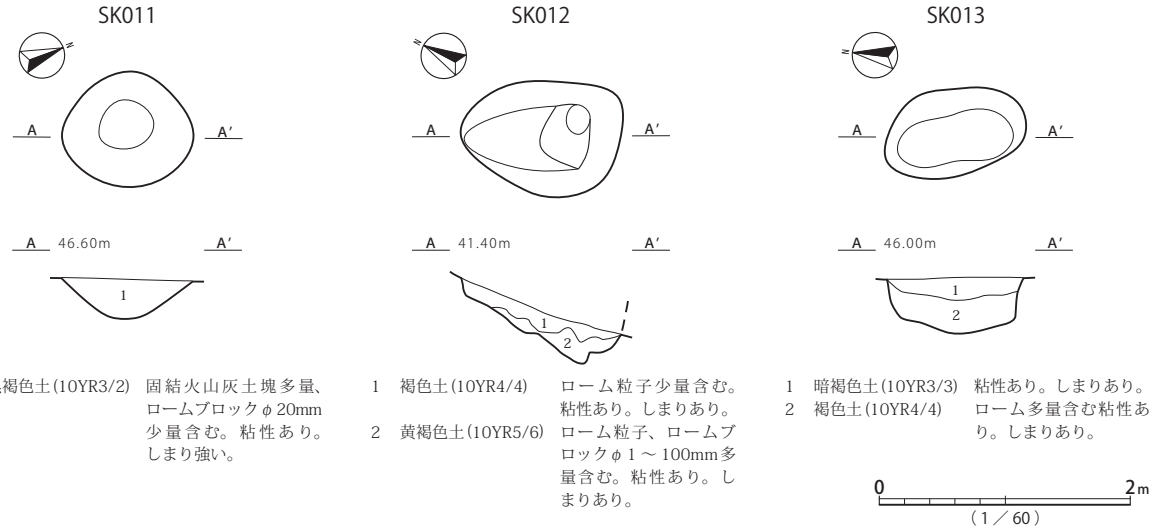
位置：Ｈ区９Ｑ-70グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.16ｍ、短軸0.70ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**長軸方位：**Ｎ-66°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK014（第15図）

位置：Ｈ区９Ｔ-92グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.66ｍ、短軸0.63ｍ、確認面からの深度0.20ｍ。**長軸方位：**Ｎ-４°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面は平坦で、壁面



1　黒褐色土(10YR3/2)　固結火山灰土塊多量、ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。

1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子、ロームブロックφ１～100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム多量含む粘性あり。しまりあり。

第14図　SK011 ～ SK013

は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK015（第15図）

位置：Ｈ区９Ｕ-02グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.69ｍ、短軸0.57ｍ、確認面からの深度0.19ｍ。**長軸方位：**Ｎ-14°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面は逆台形状にややきつく立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK016（第15図）

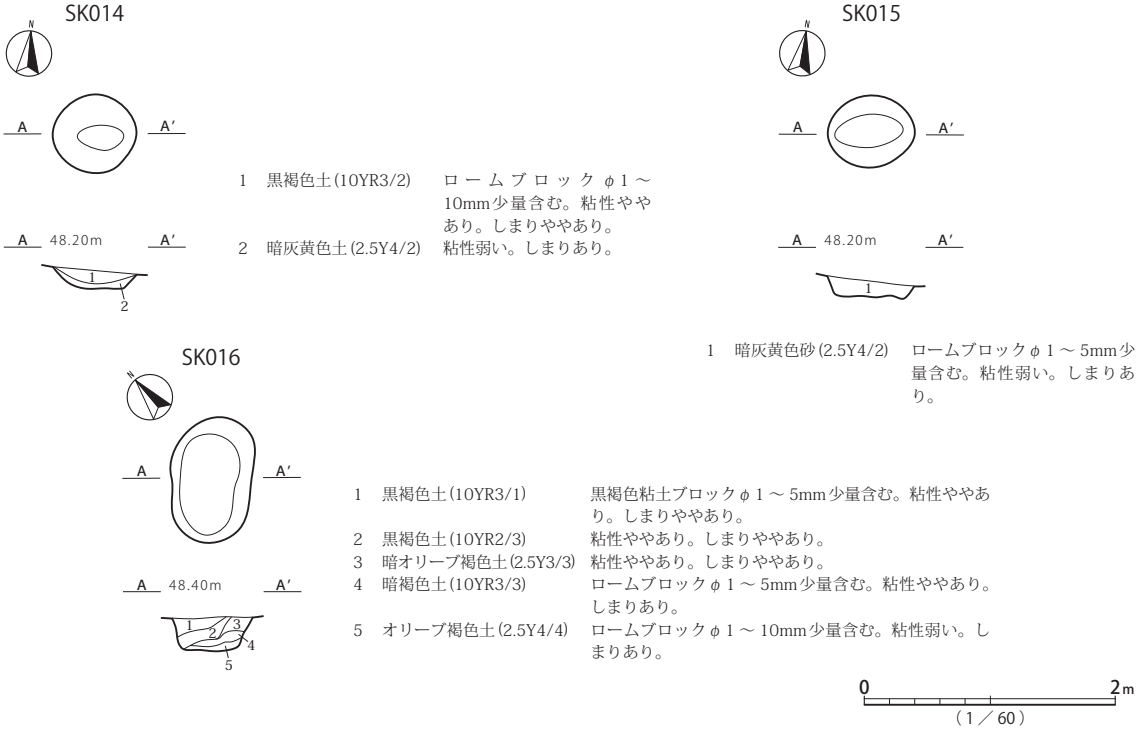
位置：Ｈ区９Ｕ-11グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.00ｍ、短軸0.65ｍ、確認面からの深度0.29ｍ。**長軸方位：**Ｎ-44°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にきつく立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK017（第16・17図、第３表、図版２・18）

位置：Ｋ区10Ｙ-91グリッドを中心に位置する。**重複：**SM006、SD004に切られる。西側は撹乱される。**規模：**長軸（2.24）ｍ、短軸（1.94）ｍ、確認面からの深度0.55ｍ。**長軸方位：**Ｎ-80°-Ｗ。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性弱い。しまりあり。

1　暗灰黄色砂(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

1　黒褐色土(10YR3/1)　黒褐色粘土ブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　粘性ややあり。しまりややあり。
3　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　粘性ややあり。しまりややあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
5　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　2m
（１／60）

第15図　SK014～SK016

形態：不明、底面は湾曲する。壁面は起伏があり、緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から縄文時代後期中葉と考えられる。

遺物：縄文土器538.2gが出土した。１～６は同一個体の深鉢と考えられる。口唇部には棒状工具による刺突が施され、口縁部から胴上部には磨消縄文ののち竹管による横、斜位の沈線文が施文されている。

SK018（第16図）

位置：Ｋ区９Ａ-63グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.02ｍ、短軸0.82ｍ、確認面からの深度0.24ｍ。**長軸方位：**Ｎ-66°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にややきつく立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

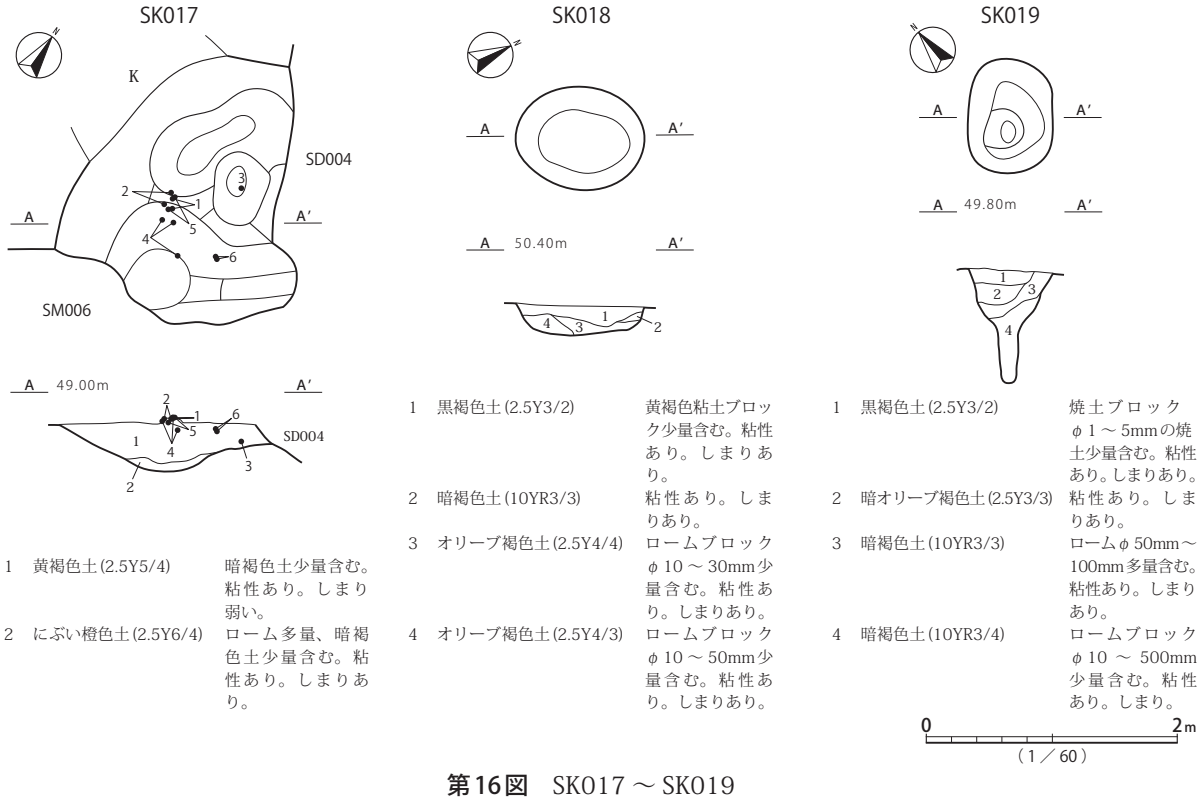
SK019（第16図）

位置：Ｋ区８Ｂ-06グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.91ｍ、短軸0.68ｍ、確認面からの深度0.85ｍ。**長軸方位：**Ｎ-50°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はピット状、壁面は漏斗状で、中位からやや緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：形状や覆土から柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：出土していない。

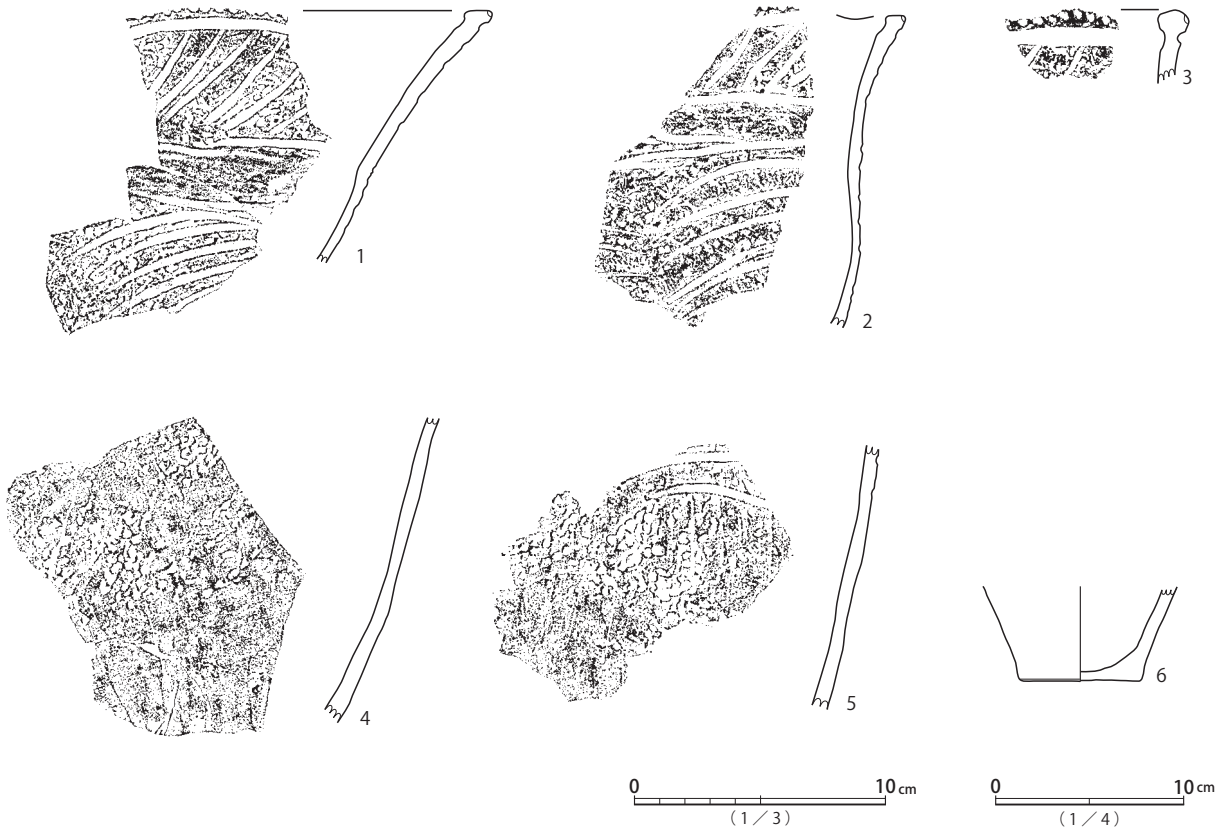


1	黄褐色土(2.5Y5/4)	暗褐色土少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	にぶい橙色土(2.5Y6/4)	ローム多量、暗褐色土少量含む。粘性あり。しまりあり。

1	黒褐色土(2.5Y3/2)	黄褐色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
3	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

1	黒褐色土(2.5Y3/2)	焼土ブロックφ1～5mmの焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(10YR3/3)	ロームφ50mm～100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ10～500mm少量含む。粘性あり。しまり。

第16図　SK017～SK019



第17図　SK017出土遺物

第３表　SK017出土土器観察表

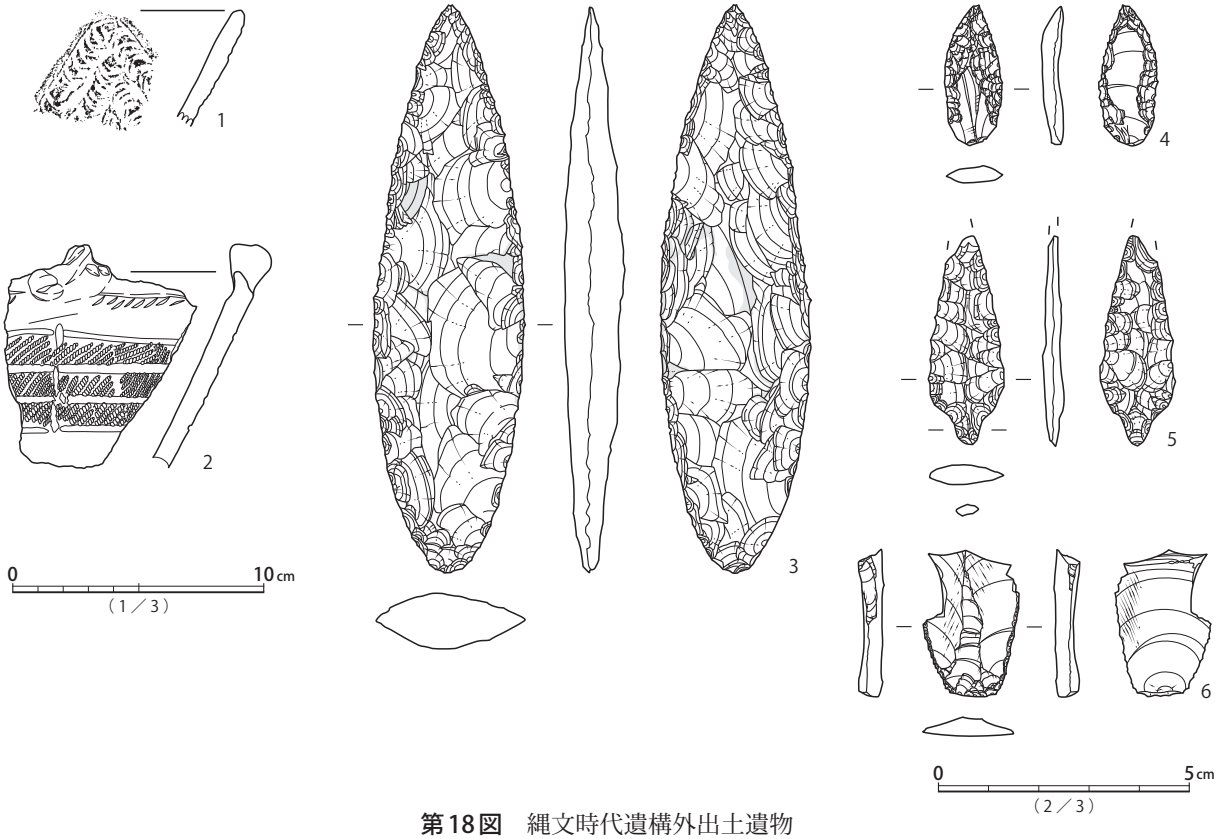
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	－	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[10.0] 最大径：　－	外面：口唇部刺突文、口縁部～胴部擦消縄文(LR)後沈線文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部～胴部の破片	後期中葉、加曽利B式
2	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[12.4] 最大径：　－	外面：口唇部刺突文、口縁部～胴部擦消縄文(LR)後沈線文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部～胴部の破片	後期中葉、加曽利B式
3	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.2] 最大径：　－	外面：口唇部刺突文、口縁部沈線文斜位	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部の破片	後期中葉、加曽利B式
4	縄文土器 深鉢	－	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[12.1] 最大径：　－	外面：擦消縄文(LR)	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部の破片	後期中葉、加曽利B式
5	縄文土器 深鉢	－	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[10.6] 最大径：　－	外面：擦消縄文(LR)後沈線文横位	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部の破片	後期中葉、加曽利B式
6	縄文土器 深鉢	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　(6.2) 器　高：　[5.0] 最大径：　－		胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：底部の1/2	後期中葉、加曽利B式

３．遺構外出土遺物（第18図、第４・５表、図版18）

遺構外および、他時代の遺構から出土した遺物のうち、縄文時代の遺物についてここで報告する。

１・２は深鉢である。１は単沈線、変形爪形文の施文される口縁部の破片である。２は口唇部に突起を付し、口縁部に連続爪形浮線文、胴上部に竹管による４条の平行沈線ののち単節縄文LRが施文される。また突起直下には爪形文による縦位の区画が見られる。３は安山岩製、柳葉形の尖頭器である。表裏両面の中間部の稜上が磨滅している。４は黒曜石製、木葉形の尖頭器である。素材の打面側を基部とし、先端部から周縁に調整剥離を施している。５は凸基有茎の石鏃である。石材はホルンフェルスで、器体は風化が著しい。６は黒曜石製の彫器である。基部と側縁に調整剥離を施している。



第18図　縄文時代遺構外出土遺物

第４表　縄文時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	SM004 周溝上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.6] 最大径：　－	特徴：波状口縁 外面：単沈線、変形爪形文	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄褐 残存度：口縁部の破片	前期後半、浮島式
2	縄文土器 深鉢	SM007 墳丘	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[9.6] 最大径：　－	外面：口唇部突起、口縁部連続爪形浮線文、胴部平行沈線４条後単節縄文(LR)、爪形文	胎　土：白色粒・長石・黒雲母 焼　成：良好 色　調：黒 残存度：口縁部の破片	後期中葉、加曽利B式

第５表　縄文時代遺構外出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
3	尖頭器	安山岩	SI001覆土	11.30	2.98	1.28	35.88	柳葉形
4	尖頭器	黒曜石	表土	2.75	1.15	0.45	1.21	木葉形
5	石鏃	ホルンフェルス	SM004周溝上層	[4.16]	1.50	0.40	2.29	凸基有茎
6	彫器	黒曜石	SM003表土	2.95	1.90	0.50	2.64	和田峠産

第２節　古墳時代

１．古　墳

SM001（第19 ～ 22図、第６・７表、図版２・３・19・27）

方墳と推測される。墳丘に１基、周溝内に３基の埋葬施設を確認している。**位置：**Ｈ区11Ｎグリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。南西側にSM002が近接し、また南西側約10mにSM003がある。**現況：**調査前は高まりがあまり認められず、墳丘の存在は明確でなかった。**重**



第19図　SM001（１）

複：SI012、SK023・SK024を切り、SD001に切られる。**規模：**南西辺（10.41）m、北東辺（9.44）m。北東－南西軸8.12m。周溝を含めた総長は、南西辺（13.83）m、北東辺（13.35）m、北東－南西軸14.48m。斜面地のため南東側では墳丘、周溝ともに土砂の流失により消滅している。そのため、南西・北東辺の数値は実際の墳丘幅を示していない。旧地表面からの高さ約0.60m。**主軸方位：**Ｎ－45°－Ｅ。

墳丘：北西から南東方向に傾斜する旧地表面上に構築されている。盛土は２層のみで、墳頂部から南東辺裾部にかけて大きく流出している。盛土は、まず、褐色土（８層）で斜面の低位側を0.30mほどかさ上げし、さらに、斜面の高位にかけて褐色土（７層）を広範囲に積み上げている。

周溝：斜面低位である南東側では検出されず、「コ」の字状に巡る。規模は残存状況の良好な北西周溝では、幅3.25 ～ 3.40m、確認面からの深度1.09 ～ 1.59m。断面形態は北西周溝が逆台形状、北東・南西周溝は底面に起伏を持つ皿状である。覆土は下層から中層にかけて褐色・暗褐色土が厚く堆積し、上層には黒褐色土がレンズ状に堆積している。

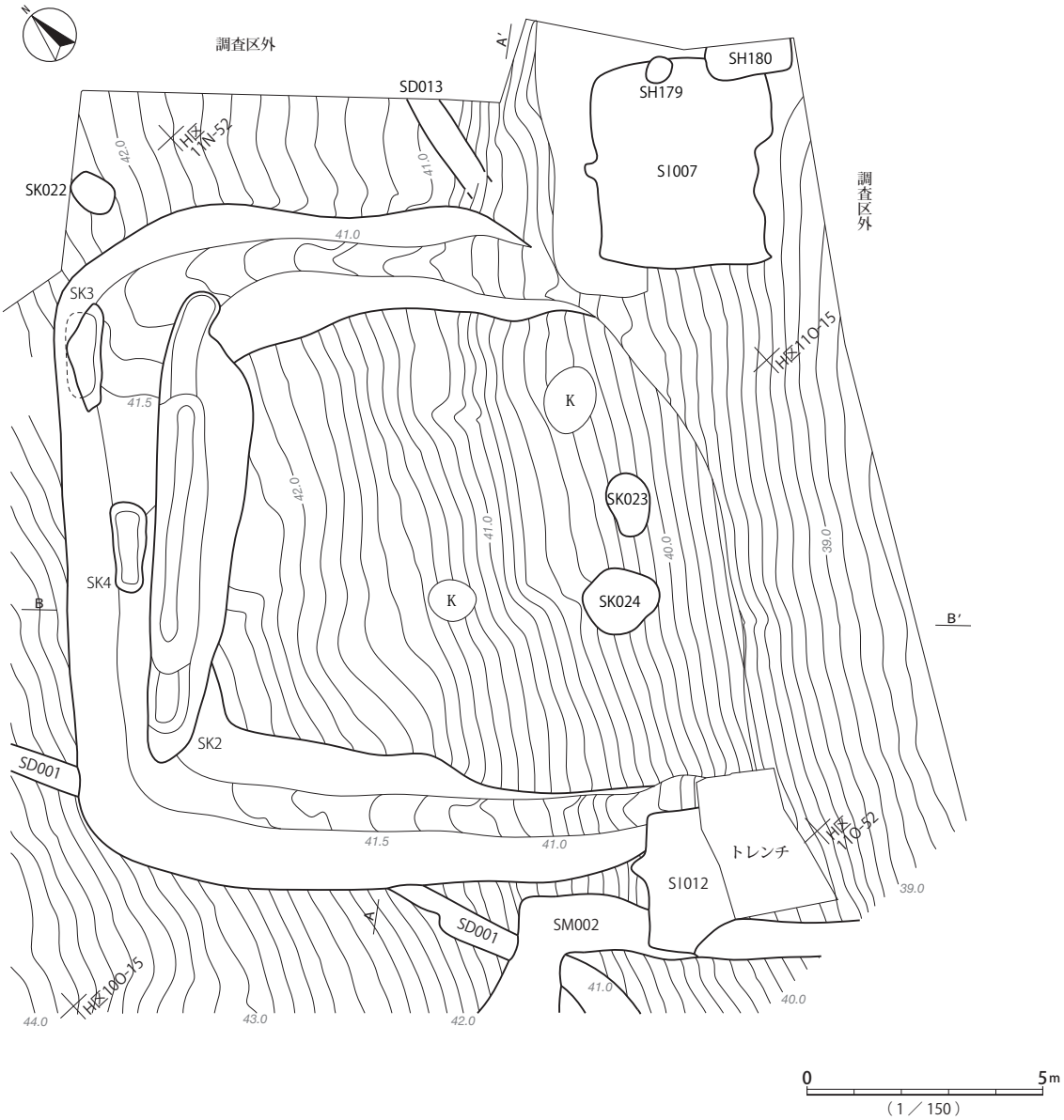
埋葬施設：墳丘北西側で１基（SK1）、北西周溝で３基（SK2 ～ SK4）の土坑を検出した。SK2 ～ SK4は周溝の検出面では確認されず、覆土掘削後に検出されたことからSM001に伴う周溝内土坑と判断した。

SK1は、墳丘北西側で検出された。墳丘内の検出であることや、平面形態から埋葬施設と判断した。旧地表面を掘り込み構築されたのちに、墳丘盛土が積み上げられている。なお、墳丘盛土の掘削時に旧地表面の下位まで掘り下げた際に検出されたため、セクションベルト以外は遺構上端を破壊してしまった。規模は、長軸2.80m、短軸1.40m、深度0.57m。主軸方位は、Ｎ-41°－Ｅ。形態は、不整楕円形、底面は平坦で壁面はゆるやかに立ち上がり西壁は段差を持つ。覆土は２層に分層され、棺部と掘り方の区分はできなかった。遺物は出土していない。

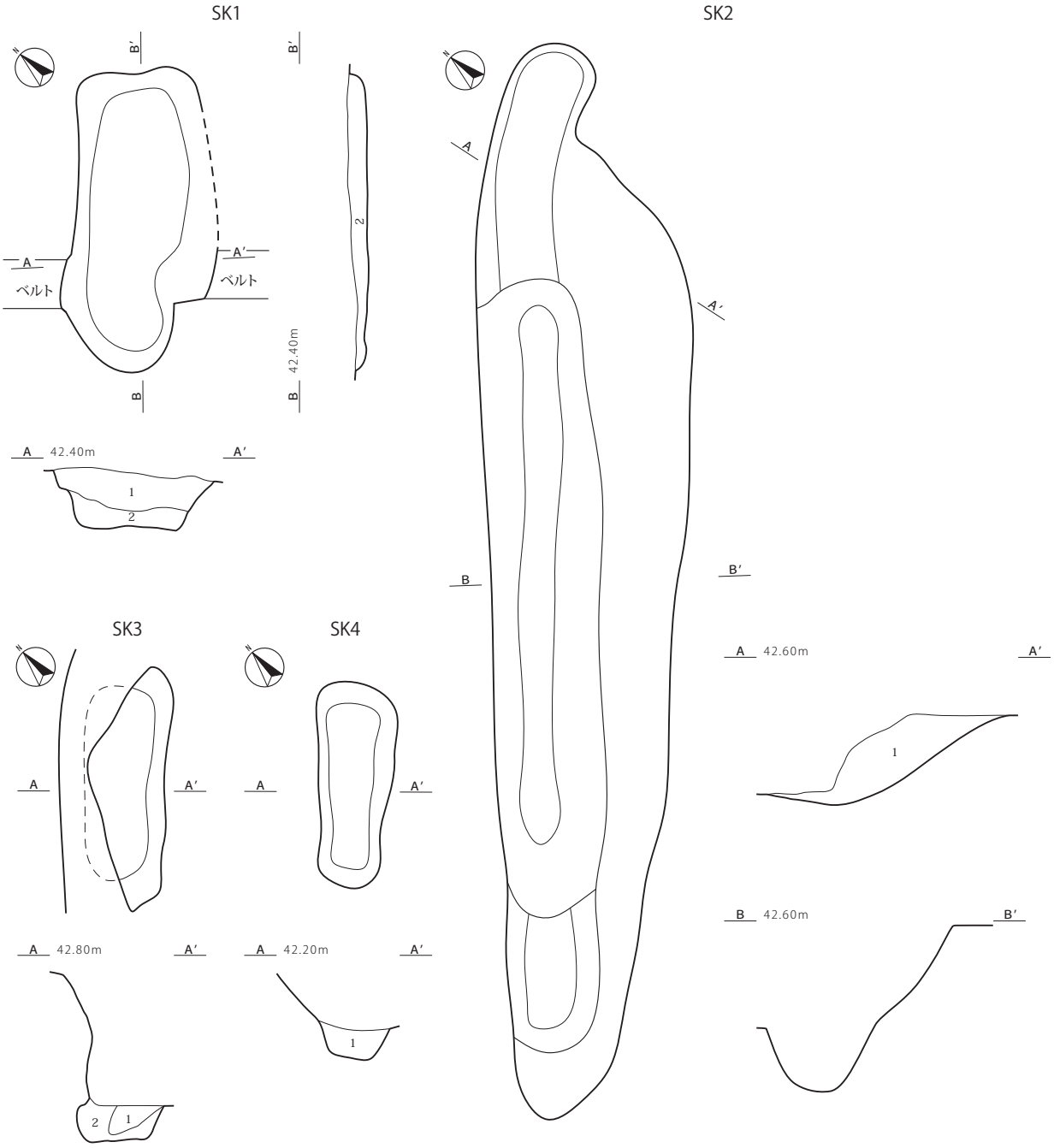
1	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い。しまりあり。表土。
2	褐色砂(10YR4/4)	ローム粒子多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	黒褐色土(10YR3/1)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
4	褐色砂(10YR4/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色砂(10YR3/3)	固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	褐色土(10YR4/4)	10YR3/4暗褐色土含む。粘性あり。しまりあり。墳丘盛土の崩落土か。
7	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子多量、ロームブロックφ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。墳丘盛土。
8	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子１～ 3mm多量、ロームブロックφ 20 ～ 50mm中量、ロームブロックφ 100mm少量含む。粘性あり。しまり強い。墳丘盛土。
9	褐色土(10YR4/6)	赤色スコリア、褐色スコリア少量含む。粘性あり。しまり強い。斜面部の自然堆積層。
10	黒褐色土(10YR2/3)	固結火山灰土塊多量、赤色スコリアφ１～ 2mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。
11	黒褐色土(10YR2/2)	暗褐色土中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。
12	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子２～ 3mm中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
13	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
14	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子多量、ロームブロックφ 50 ～ 100mm少量含む。粘性弱い。しまり強い。周溝。
15	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子多量含む。粘性弱い。しまり強い。周溝。
16	黄褐色土(10YR5/8)	ローム粒子、ロームブロックφ 50 ～ 100mm多量含む。粘性弱い。しまり強い。周溝。
17	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子多量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
18	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり強い。周溝。
19	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。周溝。
20	暗褐色土(10YR3/3)	固結火山灰土塊、ローム粒子２～ 3mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。周溝。
21	暗褐色土(10YR3/3)	黒褐色土粒中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。
22	黒褐色土(10YR2/2)	暗褐色土ブロックφ 20 ～ 30mm、固結火山灰土塊中量含む。粘性弱い。しまり強い。周溝。
23	褐色土(10YR4/4)	褐色土粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
24	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまりあり。周溝。
25	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり強い。周溝。
26	黒褐色土(10YR2/2)	暗褐色土ブロックφ 20 ～ 40mm、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまり強い。周溝。
27	暗褐色土(10YR3/3)	固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまり強い。周溝。
28	褐色土(10YR4/4)	粘性あり。しまりあり。周溝。
29	暗褐色土(10YR3/4)	暗褐色土粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
30	褐色土(10YR4/4)	褐色土粒子多量、褐色土ブロックφ～ 50mm少量含む。粘性あり。しまり非常に強い。周溝。
31	褐色土(10YR4/4)	褐色土粒子多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。周溝。

SK2は、 北西周溝の底面から墳丘北西辺裾部で検出された。規模は、長軸9.93ｍ、短軸2.00ｍ、深度1.31ｍ。長軸方位は、Ｎ－42°－Ｅ。形態は長楕円形、底面は北東・南西の両端が一段高くなっている。壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土はロームブロックを含む均一な層であり、人為的な埋め戻しを推測させる。遺物は土師器の破片がわずかに出土するのみである。

SK3は、北西周溝の底面から壁面で検出された。規模は、長軸2.26ｍ、短軸0.71ｍ、深度0.92ｍ。長軸方位は、Ｎ－44°－Ｅ。形態は隅丸長方形、底面は平坦で、壁面は北西側でオーバーハングし、南東側ではきつく立ち上がる。壁面がオーバーハングすることから、有天井土坑と考えられる。覆土は２層にロームブロックを含み人為的な埋め戻しが推測され、１層は巨大なロームブロックを含み、天井部が崩落したと考えられる。遺物は混入と思われる縄文土器片がわずかに出土するのみである。



第20図　SM001（２）



SK1
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黄褐色ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黄褐色ローム粒子多量、ロームブロックφ10～40mm中量含む。粘性あり。しまり強い。

SK2
1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK3
1　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロックφ400mm。粘性あり。しまり非常に強い。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。しまり弱い。

SK4
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子、ロームブロックφ10～40mm多量、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまり強い。

0　2m
（1／60）

第21図　SM001SK1 ～ SK4

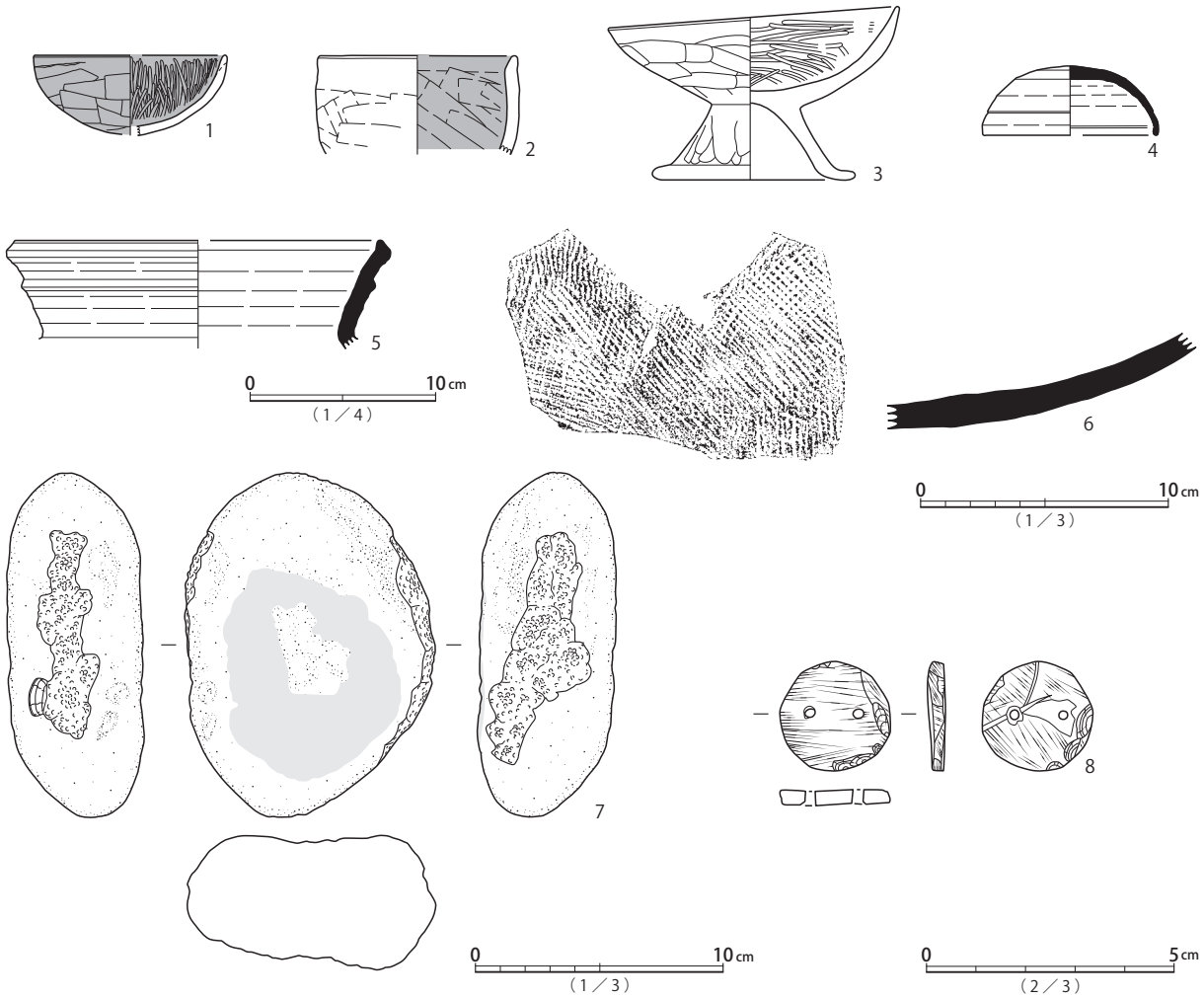
SK4は、周溝北西溝の中央底面で検出された。規模は、長軸1.91ｍ、短軸0.75ｍ、深度0.37ｍ。長軸方位は、Ｎ－52°－Ｅ。形態は、隅丸長方形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にややきつく立ち上がる。覆土はロームブロックを多量に含む均一な層であり、人為的な埋め戻しが推測される。土師器の小破片がわずかに出土するのみである。

時期：出土遺物から古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：一重周溝の方墳と推測される。斜面地のため残存状況は悪く、墳丘盛土の多くは地滑り等により流失している。周溝は斜面の低位側では確認されなかったが、これは築造当初は全周していたものが消失したのか、あるいは周溝を持たない地山削り出しのテラス構造等であった可能性が考えられる。

遺物：土師器12,734.4g、須恵器2,518.2g、土製品375.0g、石器・石製品856.79g、金属製品2.00gが出土した。

１～３は土師器で、１は坏、２は鉢、３は高坏。４～６は須恵器で、４は坏蓋、５・６は甕である。７は磨＋敲石である。両側縁に強い敲打痕、表面に磨痕がみられる。８は有孔円盤である。石材は軟質の滑石で、全面がよく研磨されている。１・２・７・８は墳丘から、３～６は周溝からの出土である。



第22図　SM001出土遺物

第６表　SM001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	墳丘	口　径：(10.2) 底　径：　－ 器　高：　[4.3] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、黒色処理 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の1/3	
2	土師器 鉢	墳丘	口　径：(10.4) 底　径：　－ 器　高：　[5.3] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ斜位 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ斜位、黒色処理	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の破片	
3	土師器 高坏	周溝覆土	口　径：15.4 脚　径：　－ 器　高：　9.3 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：ほぼ完存	
4	須恵器 坏蓋	周溝覆土	口　径：　(9.2) 底　径：　－ 器　高：　3.7 最大径：　－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：長石 焼　成：良好 色　調：黄灰 残存度：天井部～天井端部の1/2	湖西産
5	須恵器 甕	周溝覆土	口　径：(19.8) 底　径：　－ 器　高：　[5.8] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：黄灰 残存度：口縁部～頸部の1/3	
6	須恵器 甕	周溝覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.8] 最大径：　－	外面：胴部平行叩き目 内面：胴部ナデによる擦り消し	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：胴部の破片	

第７表　SM001出土石器・石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
7	磨＋敲石	輝石安山岩	墳丘	13.85	10.50	5.40	854.06	磨：表1面、敲：右・左各1箇所
8	有孔円盤	滑石	墳丘	2.20	2.20	0.33	2.73	穿孔２箇所、孔径0.12㎝・0.13㎝

SM002（第23・24図、第８表、図版３・19）

方墳と推測される。南東側半分は調査区外へ伸びる。**位置：**Ｈ区１０Ｏグリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。北東側にSM001が隣接する。**現況：**調査前に古墳の存在を確認できていない。**重複：**SI012を切り、SD001に切られる。南西側のSM003周溝と重複しているが、新旧関係は把握できなかった。**規模：**北西辺9.71m、北東辺(6.73)m、南東辺(6.13)m。周溝を含めた総長は、北西辺11.97m、北東辺(7.76)m、南東辺(7.99)m。**主軸方位：**SM001と同様の北東－南西軸と仮定すれば、Ｎ－45°－Ｅとなる。

墳丘：残存しない。表土掘削時に盛土を誤って削平してしまったおそれもあり、調査区壁面の精査を行ったが、盛土は確認されなかった。

周溝：「コ」の字状に検出された。北東周溝は斜面の下位で消滅し、南西周溝は調査区外へ伸びる。規模は残存状況の良好な北西周溝では、幅1.65 ～ 2.25m、確認面からの深度1.03 ～ 1.40m。覆土は、下層に上端からの崩落土と推測される褐色土が堆積し、上層に暗褐色土が堆積する。

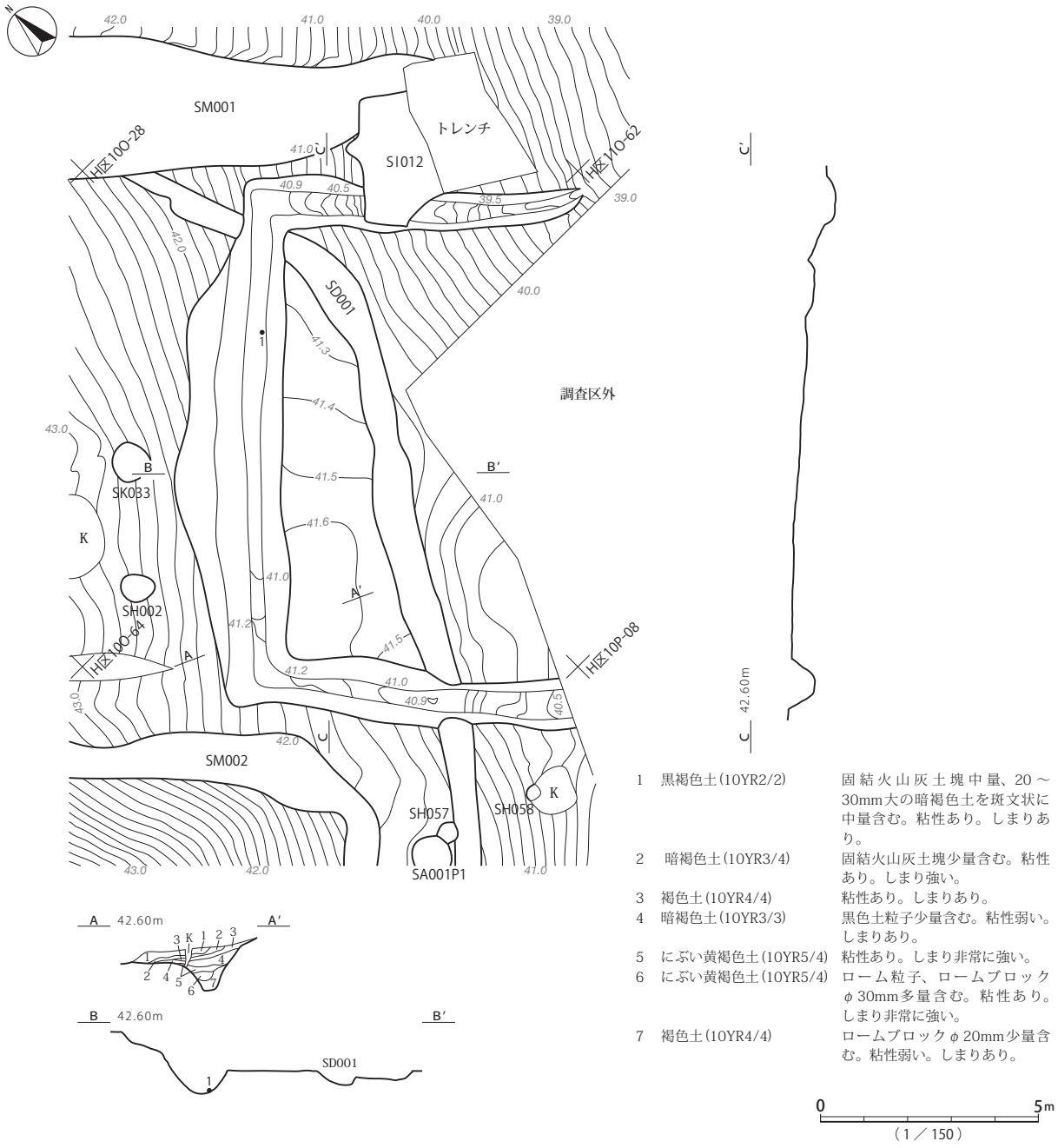
埋葬施設：検出されなかった。

時期：出土遺物から古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：一重周溝の方墳と推測される。斜面地のため残存状況は悪く、墳丘盛土の多くは地滑り等により流失している。埋葬施設は検出されなかった。

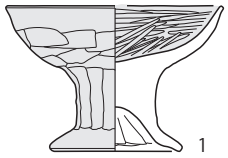
遺物：土師器767.5gが出土した。

１は土師器の高坏で、周溝からの出土である。



1　黒褐色土(10YR2/2)　固結火山灰土塊中量、20～30mm大の暗褐色土を斑文状に中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　黒色土粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性あり。しまり非常に強い。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子、ロームブロックφ30mm多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
7　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

第23図　SM002



第24図　SM002出土遺物

第８表　SM002出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	周溝覆土	口　径：(11.3) 脚　径：　6.8 器　高：　7.7 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～裾部の2/3	

SM003（第25 ～ 31図、第９～ 13表、図版４・５・19・20・27・28）

方墳に前方部を付け足した前方後方墳である。後方部に２基の埋葬施設を持つ。**位置：**Ｈ区９Ｐグリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**現況：**後方部では高さ約0.40mの高まりが遺存しており、確認調査時は、前方後円墳と推測されていた。**重複：**SI011・SI014・SI015を切り、SK032・SK060に切られる。SI014・SI015は前方部の盛土下に位置する。後方部周溝の北東側でSM002、南東側でSI017、SB001、SA001と重複もしくは近接しているが、斜面地のため周溝の残りが悪く新旧関係は把握できなかった。**規模：**全長27.66m。後方部の北西辺16.46m、北東辺16.65m。周溝を含む全長34.87m。旧地表面からの高さは後方部で約1.30m、前方部で約0.50m。墳頂部の標高はともに46.10m前後である。**主軸方位：**Ｎ－48°－Ｅ。

北西から南東方向に下る旧地表面上に、一重周溝の方墳（後方部）として構築され、その後、南西周溝を埋めて前方部を付け足している。

後方部墳丘：規模は、北西辺16.44ｍ、南西辺17.00ｍ、周溝を含む全長は北西辺22.60ｍ、南西辺22.00ｍ。構築方法は、旧地表面上に黄褐色土を0.60mほどの高さで山状に積み上げ（34層）、さらに黒褐色・黄褐色・暗褐色土を順次積み上げている（５・８・27層など）。最後に褐色・黄褐色・暗褐色土で谷側の墳丘面を覆っている（23・28・31層など）。墳丘南西隅が一段低くなっているが、これは前方部を付け足す時にくびれ部を設けるために改変されたと考えられる。

後方部周溝：墳丘の北西側を「コ」の字状に半周し、南東側の斜面で消滅しているが、南東隅に近接するSI017、SB001付近においてわずかな立ち上がりを検出している。地山削り出しのテラス構造ではなく、谷側にも浅い周溝を有していたと推測される。規模は残存状況の良好な北東周溝で、幅2.36 ～ 3.09m、確認面からの深度1.50 ～ 1.60m。断面形態は中位から上端がより広く開く漏斗状である。覆土は下層が褐色土、上層は暗褐色土を主体とし、最上層（44層）では固結火山灰土塊が認められた。

後方部南西周溝（埋没周溝）：上層はロームブロックを含む黄褐色土（42層）により埋め戻され、埋没周溝となっていた。埋め戻し土の下には北西・北東周溝と同質の褐色・灰褐色土が堆積し自然埋没した状況を示す（37 ～ 41層）。方墳の周溝が、ある程度自然埋没した後に、南西周溝のみが埋め戻されたことを示している。

前方部墳丘：ロームブロックを含む褐色土により盛土が積み上げられているが、その範囲は、自然埋没した南西周溝の端部にまで及ぶ。その後、南西周溝を埋め戻し（42層）、その上に暗褐色・灰黄褐色・褐色土が積み上げられる（49・65・66層）。盛土の厚さは0.50mほどと薄いが、これは構築される旧地表面が後方部よりも高い位置にあるためである。

前方部周溝：幅2.06 ～ 2.91m、確認面からの深度0.76 ～ 0.96m。後方部周溝と比較して0.70mほど浅くなっているが、後方部周溝の自然埋没した上面のレベルとほぼ同じである。覆土は下層が褐色土、上層では暗褐色土を主体としている。

埋葬施設：後方部の中央北東寄り（SK1）と南西隅（SK2）で検出された。

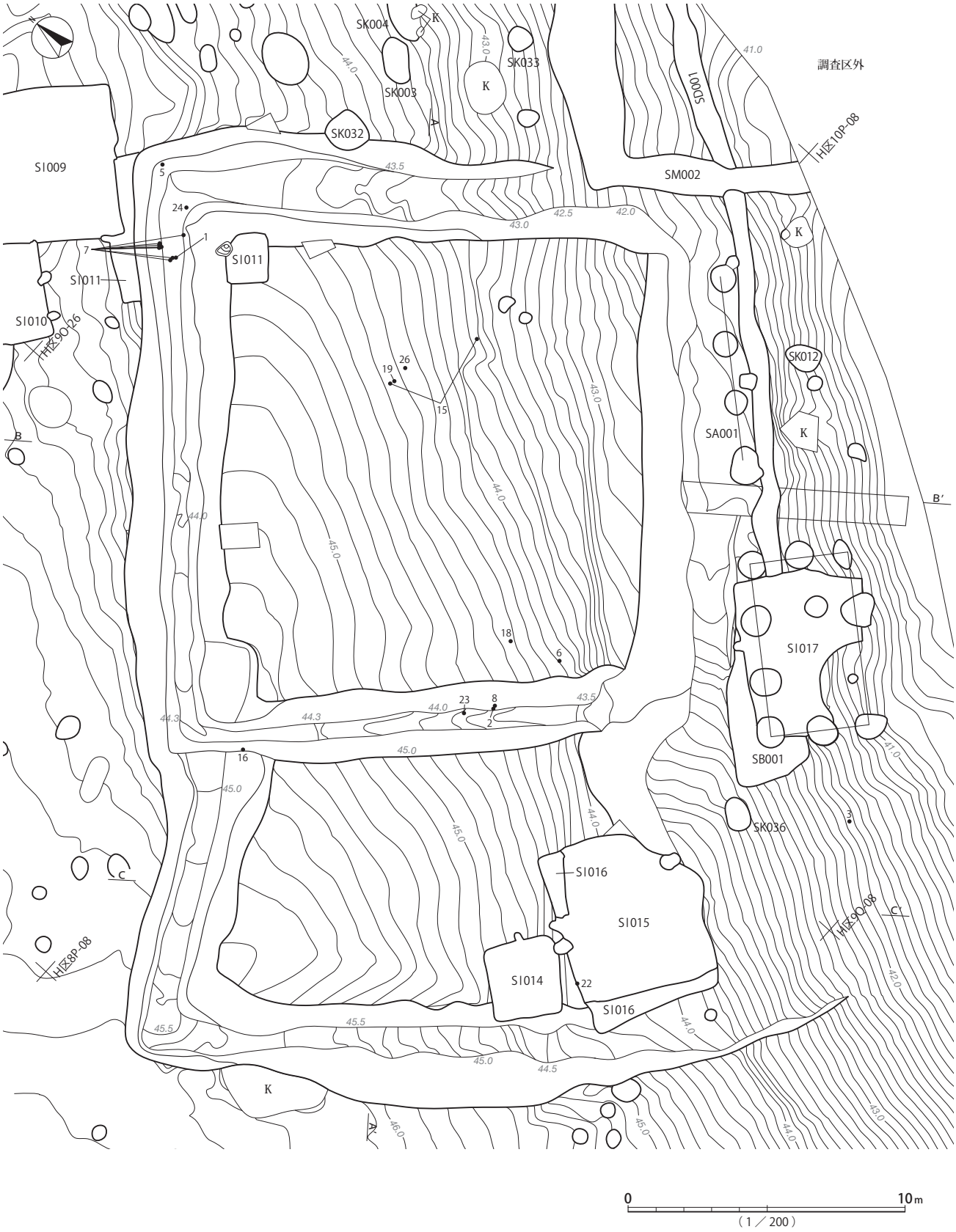
SK1は、規模が長軸2.20m、短軸0.86m。検出面からの深度0.58mである。墳丘掘削途中での検出であったため、施設本来の深度を示していない。また、埋葬施設の掘り込み層位の確認もできなかった。主軸方位はＮ－46°－Ｅ。平面形態は長方形。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆


SK004
K
SK033
SK003
SK032
SD001
調査区外
H区10P-08
SI009
SM002
SI011
SK060
SI010
H区9O-26
SK012
SK1
SA001
B
B′
SI017
SK2
SB001
SK036
C
C′
H区8P-08
H区9O-08
焼土範囲
0
10m
（1／200）

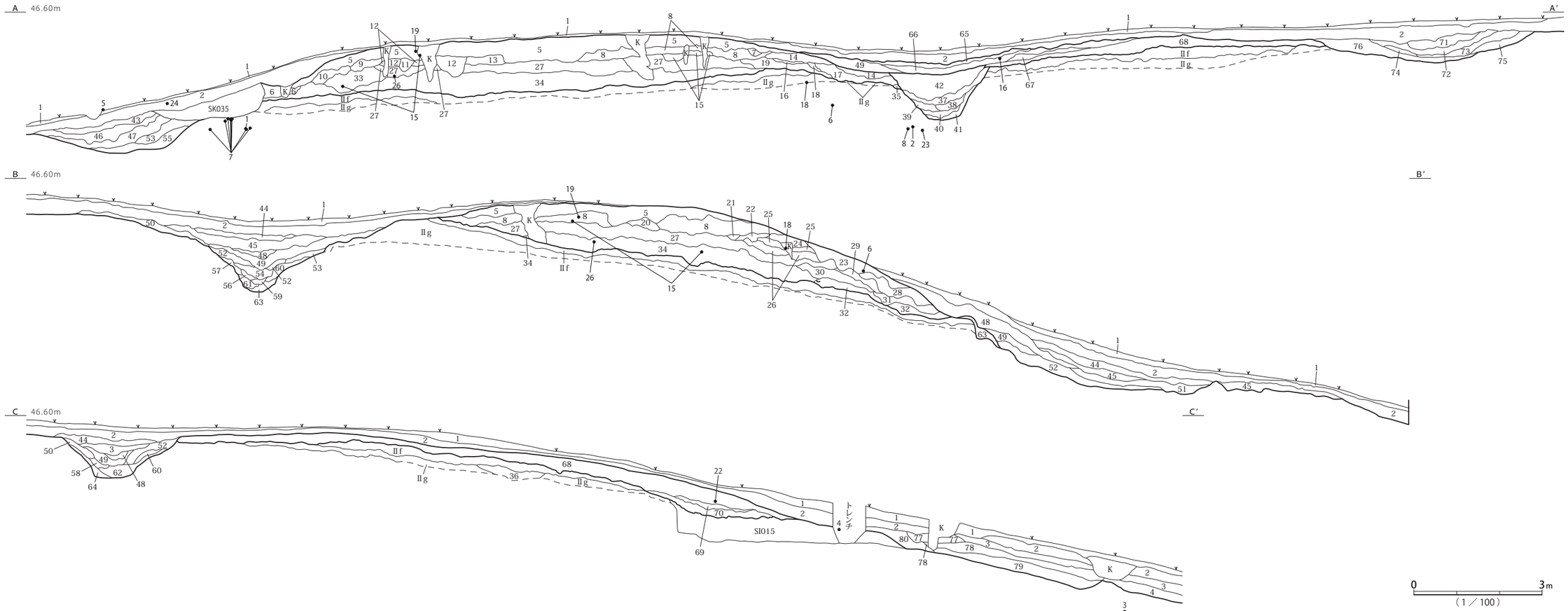
第25図　SM003（１）


SK004
K
SK033
SK003
SK032
SD001
調査区外
41.0
SI009
43.5
SM002
H区10P-08
42.5
42.0
43.0
K
SI011
SI011
SI010
H区9O-26
K
SK012
SK1
SA001
K
B
B′
44.0
43.0
45.0
46.0
SI017
SK2
43.5
44.0
44.3
44.3
45.0
41.0
SB001
45.0
SK036
44.0
SI016
45.0
SI015
C
C′
H区8P-08
H区9O-08
SI014
SI016
45.5
45.5
44.0
45.0
44.5
K
焼土範囲
46.0
45.0
44.0
43.0
0
10m
（1／200）

第26図　SM003（２）


SK004
SK033
SK003
SK032
SD001
調査区外
SI009
SM002
H区10P-08
SI011
SI010
H区9O-26
SK012
SA001
SI017
SB001
SK036
SI016
SI015
SI014
H区9O-08
H区8P-08
0
10m
（1／200）

第27図　SM003（３）



1 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性弱い。しまり弱い。表土。
2 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土少量含む。粘性あり。しまりあり。表土。
3 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土少量含む。粘性あり。しまりあり。斜面部の自然堆積層。
4 黄褐色土(10YR5/6) 暗褐色土中量含む。粘性あり。しまりあり。斜面部の自然堆積層。
5 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ5～100mm中量、ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
6 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
7 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
8 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ロームブロックφ10～40mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
9 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量、ロームブロックφ3～5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
10 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量、ロームブロックφ3～10mm中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子多量、ロームブロックφ5～150mm少量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土　25、26層よりポソポソ。
12 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子微量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
14 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子、ロームブロックφ30～80mm少量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
15 黄褐色土(10YR5/6) ロームブロックφ30～80mm中量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
16 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
17 にぶい黄褐色土（10YR5/3) ローム粒子少量、ロームブロックφ20～40mm微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
18 灰黄褐色土(10YR4/2) ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
19 にぶい黄褐色土（10YR5/3) ローム粒子中量、ロームブロックφ30～100mm少量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
20 にぶい黄褐色土（10YR5/3) ローム粒子少量、ロームブロックφ20～40mm微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
21 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子、ロームブロックφ5～20mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
22 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ3～20mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
23 褐色土(10YR4/6) ローム粒子多量、ロームブロックφ5～70mm中量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
24 褐色土(10YR4/4) ローム粒子少量、ロームブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
25 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ3～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
26 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ3～70mm中量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
27 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
28 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子中量、ロームブロックφ20～70mm少量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
29 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子中量、ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
30 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子、ロームブロックφ3～50mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
31 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ3～10mm中量、ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
32 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ3～30mm中量、ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。後方部墳丘盛土。
33 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
34 にぶい黄褐色土（10YR5/3) ロームブロックφ20～140mm中量含む粘性あり。しまり強い。後方部墳丘盛土。
35 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量、ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。後方部墳丘盛土。
36 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
37 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ5～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。埋没周溝覆土。
38 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子多量、ロームブロックφ10～40mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。埋没周溝覆土。
39 灰黄褐色土(10YR4/2) ロームブロックφ10～20mm中量、ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。埋没周溝覆土　47層に似るが、主体土はややポソポソ。
40 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子少量、ロームブロックφ3～5mm、焼土ブロックφ5～6mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。埋没周溝覆土　50層に似るが、やや黒み強い。
41 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量、ロームブロックφ3～50mm中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。埋没周溝覆土。
42 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子多量、ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまり強い。埋没周溝埋め戻し土。
43 黒褐色土(10YR3/1) 固結火山灰土塊φ5～10mm多量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土　多孔質でポソポソ。
44 黒褐色土(10YR2/2) 10YR4/4褐色土中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。後方部周溝覆土。
45 黒褐色土(10YR2/2) 10YR4/4褐色土中量、ロームブロックφ5mm、焼土微量含む。粘性強い。しまりあり。後方部周溝覆土。
46 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土ブロック中量、固結火山灰土塊φ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。後方部周溝覆土。
47 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量、焼土少量含む。粘性あり。しまり強い。後方部周溝覆土。
48 黒褐色土(10YR2/2) 10YR4/4褐色土多量、焼土微量含む。粘性強い。しまりあり。後方部周溝覆土。
49 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土少量、ローム粒子、焼土微量含む。粘性弱い。しまりあり。後方部周溝覆土。
50 褐色土(10YR4/4) ローム粒子少量、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性弱い。しまりあり。後方部周溝覆土。
51 黒褐色土(10YR3/2) 10YR4/3にぶい黄褐色土中量、焼土微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。後方部周溝覆土。
52 褐色土(10YR4/4) 10YR3/1黒褐色土少量、ローム粒子、焼土微量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
53 褐色土(10YR4/4) Ⅱ層(ローム漸移層)起源の土少量、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。後方部周溝覆土。
54 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部周溝覆土。
55 明褐色土(7.5YR5/6) ローム粒子～3mm多量含む。粘性弱い。しまり非常に強い。後方部周溝覆土。
56 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) ロームブロックφ5～20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
57 褐色土(10YR4/4) ローム粒子少量、ロームブロックφ3～5mm微量含む。粘性あり。しまり強い。後方部周溝覆土。
58 褐色土(10YR4/6) ローム粒子多量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
59 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ3～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
60 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ3～10mm少量、ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
61 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ20～40mm少量、炭化物を微量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
62 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ロームブロックφ3～10mm多量含む。粘性あり。しまり強い。後方部周溝覆土。
63 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) ロームブロックφ5～10mm少量、焼土微量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
64 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒子、ロームブロックφ～30mm多量含む。粘性弱い。しまり強い。後方部周溝覆土。
65 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子多量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。くびれ部覆土。
66 褐色土(10YR4/4) ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。くびれ部覆土。
67 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。前方部墳丘盛土。
68 褐色土(10YR4/4) ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。前方部墳丘盛土。50層よりやや黒みのある主体土。
69 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ5～30mm多量、ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。前方部墳丘盛土。
70 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ロームブロックφ5～30mm多量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。前方部墳丘盛土古墳を築く際に竪穴建物を埋め戻した土か。
71 黒褐色土(10YR3/2) 固結火山灰土塊φ5～10mm多量、暗褐色土細粒中量、焼土φ～2mm少量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。
72 黒褐色土(10YR2/3) 暗褐色土多量、固結火山灰土塊φ5～10mm、明褐色土粒子φ～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。
73 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。前方部周溝。
74 褐色土(10YR4/4) ローム粒子少量、ロームブロックφ3～5mm微量含む。粘性あり。しまりやや強い。前方部周溝。
75 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子、ロームブロックφ～50mm多量含む。粘性あり。しまり強い。前方部周溝。
76 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。
77 褐色土(10YR4/6) ローム粒子、ロームブロックφ～30mm多量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。
78 黒褐色土(10YR2/3) 暗褐色土ブロックφ～50mm多量、赤色スコリアφ～2mm少量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。
79 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土ブロックφ～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。
80 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、ロームブロックφ20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。前方部周溝。

第28図　SM003（4）

土は４層に分層されるが、棺部と掘り方の区分はできなかった。出土遺物は土師器の小破片がわずかに出土するのみである。

SK2は、墳丘掘削時のトレンチによって、南東端の壁面を破壊してしまった。盛土の積み上げが複雑な地点であったため、掘り込み層位を確認することはできなかった。規模は、長軸（3.22）m、短軸1.32m。検出面からの深度0.76m。主軸方位は、N－38°－W。平面形態は隅丸長方形。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は上層（１～３層）がロームブロックを含む埋め戻し土で、その下に木棺の痕跡と考えられる４層があり、周囲には木棺を固定するためなのか厚さ約0.19mの灰白色粘土層（６層）が充填される。南側には木棺と同様に灰白色粘土で固定された楕円形のプランが確認された（５層）。遺物は土師器の小破片がわずかに出土するのみである。

時期：方墳段階は周溝下層の出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）。前方後方墳段階は、前方部の築造前に埋め戻した竪穴建物の時期から古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：調査開始時から、前方部と後方部の周溝の深度に違いがあり違和感を持っていたが、埋没周溝を検出したことから、前方後方墳へと造り替えられたことが確認された。深度の違いは前方部の周溝がある程度自然埋没した時点で、後方部が付け足されたからであり、方墳として築造・完成後に一定の期間をおいて造り替えが行われている。

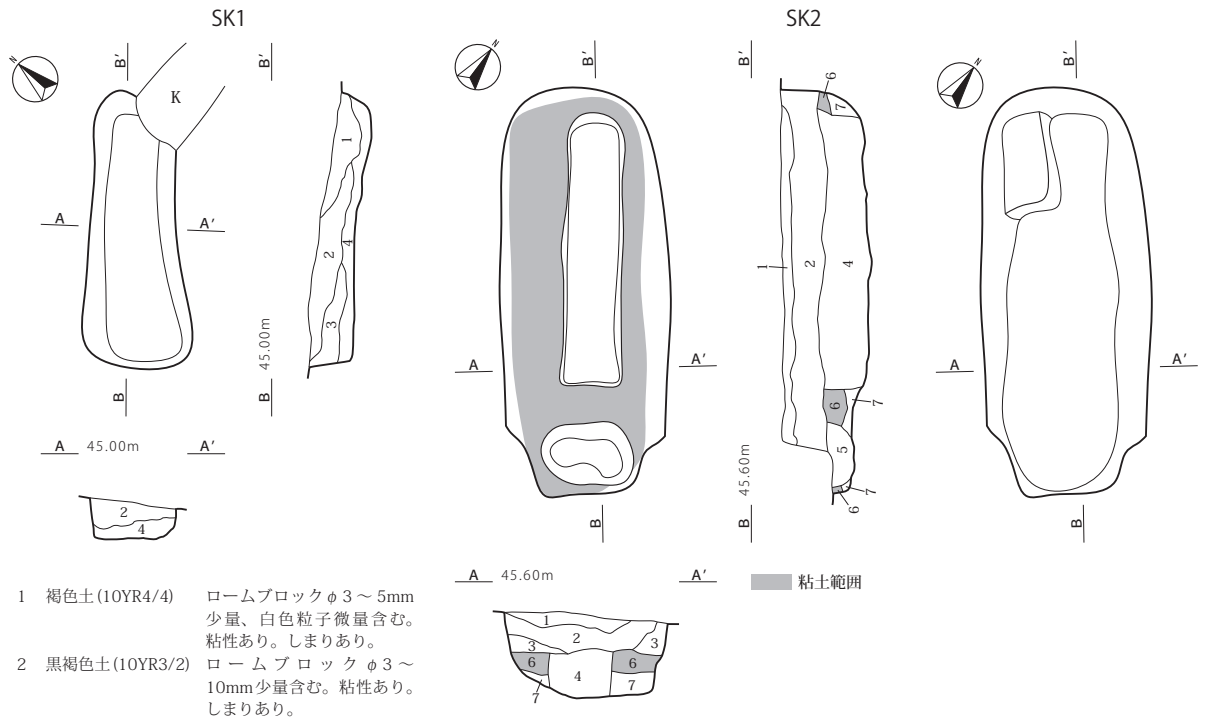
後方部に位置する２基の埋葬施設の設置時期は、掘り込み層位が不明で、遺物も少ないことから明らかにできていない。特にSK2はくびれ部付近という位置関係から、前方部付け足し時期の可能性もあるが、SK2周辺まで広がっていた前方部付け足し時の盛土と掘り込み層位の関係を把握することができなかった。

遺物：土師器49,371.7g、須恵器3,140.6g、土製品196.5g、石器・石製品856.79g、玉類2.26g、金属製品2.80g、鉄滓62.00gが出土した。

１～８は土師器で、１～３は坏、４～６は高坏、７・８は甕。９～16は須恵器で、９～11は坏身、12は坏蓋、13・14は瓶、15・16は甕である。１は内外面全面に黒色処理が施される。18は土製の支脚である。

19～21は砥石である。石材は３点とも流紋岩である。19は表面上部と上面、左側面に整形時の平鑿痕がみられる。20の砥面は４面で、表面は両端が研ぎ減りしている。21は両側面と下面に整形時の平鑿痕が明瞭に残存している。22は敲石である。下面と下部側面に敲打痕がみられる。23は蛇紋岩製の臼玉である。表面はよく研磨され、光沢をもつ。

24・25は耳環である。24は両端が垂直に切断された断面楕円形の素材が用いられ、これを丸く折り曲げて成形されている。25は内側に鍍金が残存している。両端は丸みを帯びる、断面カマボコ形の素材を丸く折り曲げて成形される。鉄滓は５点出土し、うち２点を図示した。26・27は碗形鍛冶滓である。26は磁着がある。全体に細かい気泡がみられる。27は磁着がなく、気泡は少ない。１～３、５、７・８、16、23・24は周溝から、６、10～13、15、17～19、22、26、27は墳丘から、４、９、14、20・21は墳丘上の表土層から、25は谷側斜面の墳丘崩落土からの出土である。

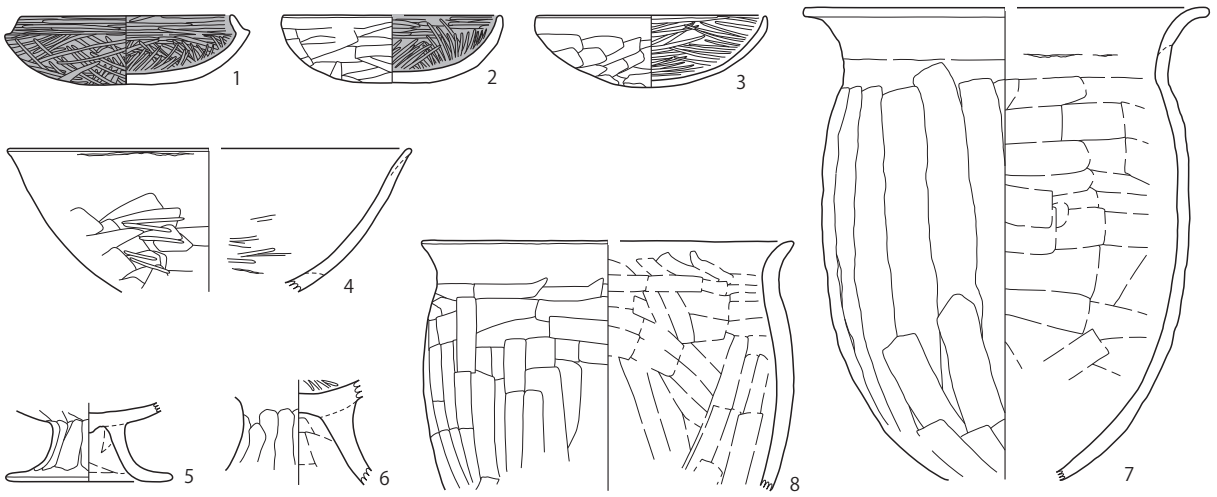


1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ３～5mm少量、白色粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ３～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまり弱い。３層よりやや明るい。

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ３～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～15mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　同色のφ５～30mmブロック中量、ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまり弱い。木棺部か。
5　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ５～40mm少量、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　灰白色土(7.5Y8/2)　オリーブ黄色粘土多量、焼土ブロックφ２～10mm微量含む。粘性強い。しまり強い。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～70mm多量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

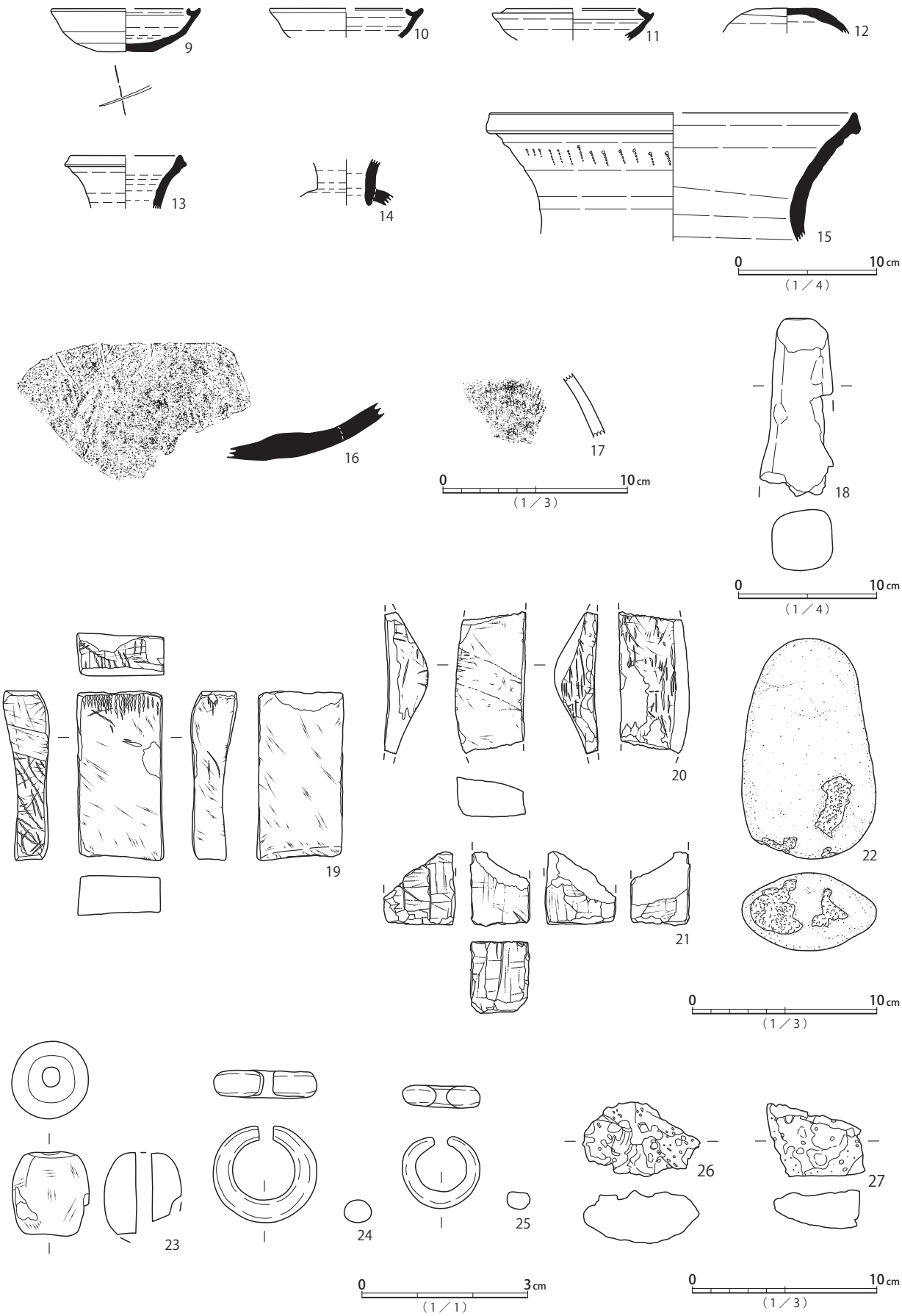
0　2m
（1／60）

第29図　SM003SK1・SK2



0　10cm
（1／4）

第30図　SM003出土遺物（１）



第31図　SM003出土遺物（２）

第９表　SM003出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	周溝覆土	口　径：11.1 底　径：－ 器　高：3.7 最大径：13.0	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理 内面：口縁部ヨコナデ後、ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
2	土師器 坏	周溝覆土	口　径：(11.4) 底　径：－ 器　高：3.6 最大径：(11.7)	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒・石英・長石 焼　成：普通 色　調：灰黄褐 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 坏	周溝覆土	口　径：12.0 底　径：－ 器　高：3.8 最大径：12.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 高坏	墳丘表土	口　径：(21.2) 脚　径：－ 器　高：[7.6] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラケズリ後、ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ後、ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部の破片	
5	土師器 高坏	周溝覆土	口　径：－ 脚　径：7.8 器　高：[4.3] 最大径：－	外面：接合部～脚部ヘラケズリ縦位、裾部ヨコナデ 内面：接合部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：坏～脚部のみ完存	
6	土師器 高坏	墳丘	口　径：－ 脚　径：－ 器　高：[5.6] 最大径：－	外面：接合部ナデ、脚部ヘラケズリ縦位 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：坏部～脚部の1/3	
7	土師器 甕	周溝覆土	口　径：(21.0) 底　径：－ 器　高：[25.0] 最大径：(18.8)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ横位	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙～黒褐 残存度：口縁部～胴部の破片	
8	土師器 甕	周溝覆土	口　径：(19.5) 底　径：－ 器　高：[13.2] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：白色粒・金雲母 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の1/2	
9	須恵器 坏身	墳丘表土	口　径：(9.0) 底　径：4.0 器　高：3.1 最大径：(10.8)	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り・ヘラ記号「×」有り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰黄 残存度：口縁部～底部の2/3	
10	須恵器 坏身	墳丘	口　径：(8.8) 底　径：－ 器　高：[2.1] 最大径：(11.0)	外面：口縁部～体部ロクロ調整 内面：口縁部～体部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰 残存度：口縁部～体部の破片	
11	須恵器 坏身	墳丘	口　径：(9.6) 底　径：－ 器　高：[2.3] 最大径：(11.6)	外面：口縁部～体部ロクロ調整 内面：口縁部～体部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰白 残存度：口縁部～体部の破片	
12	須恵器 坏蓋	墳丘	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[1.8] 最大径：－	外面：天井部回転ヘラ切り、天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：不良 色　調：黄灰～灰 残存度：天井部～天井端部の2/3	
13	須恵器 瓶	墳丘	口　径：(8.0) 底　径：－ 器　高：[3.8] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：－ 焼　成：普通 色　調：灰白 残存度：口縁部～頸部の破片	口縁部～頸部内外面に自然釉付着
14	須恵器 瓶	墳丘表土	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[3.3] 最大径：－	外面：頸部～肩部ロクロ調整 内面：頸部～肩部ロクロ調整	胎　土：－ 焼　成：良好 色　調：暗灰 残存度：頸部～肩部の破片	
15	須恵器 甕	墳丘	口　径：(26.4) 底　径：－ 器　高：[9.2] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整後頸部にハケ状工具による刺突 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～頸部の破片	
16	須恵器 甕	周溝覆土	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[3.1] 最大径：－	外面：胴部平行叩き目後ロクロ調整による擦り消し 内面：胴部ナデによる擦り消し	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰黄 残存度：胴部の破片	
17	土師器 壺	墳丘	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[3.5] 最大径：－	外面：胴部単節縄文RL・ヘラミガキ 内面：胴部ナデ	胎　土：石英・角閃石・砂粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：胴部の破片	

第10表　SM003出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
18	支脚	墳丘	長さ：[12.8]　幅：[5.4]　厚さ：4.4	196.5	四角柱

第11表　SM003出土石器・石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
19	砥石	流紋岩	墳丘	9.20	4.70	2.50	153.03	砥面：全面
20	砥石	流紋岩	墳丘表土	[7.70]	3.80	2.39	74.65	砥面：表・裏・右・左各1面
21	砥石	流紋岩	墳丘表土	[4.50]	[3.22]	[3.85]	52.22	砥面：表・裏・右・左・下各1面
22	敲石	礫状の砂岩	墳丘	11.90	7.20	4.20	539.18	敲：表1、下2箇所

第12表　SM003出土玉類観察表

単位：mm

番号	種別	石材	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
23	臼玉	蛇紋岩	周溝覆土	[15.0]	－	14.0	13.8	3.0	－	2.26	黒・暗緑・緑灰	表面は平滑に研磨

第13表　SM003出土金属製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
24	耳環	周溝覆土	17.0	18.0	5.0	4.80	
25	耳環	谷側崩落土	13.0	14.0	4.2	1.90	金環
26	碗形鍛冶滓	墳丘	63.0	40.0	28.0	86.50	磁着あり
27	碗形鍛冶滓	墳丘	[53.0]	[39.0]	20.5	62.80	磁着なし

SM004（第32 ～ 36図、第14・15表、図版６・７・20・27）

平面形態が台形状の方墳である。埋葬施設は南東辺に開口部を持つ横穴式石室と想定されるが、盗掘が激しく掘り方しか確認できていない。**位置：**Ｋ区８Ｂグリッドを中心とする台地の平坦面から南東向き緩斜面に位置する。南東側にSI018、北東側にSD008、北西側にSD009が隣接し、北側約210ｍにSM003がある。**現況：**高さ約1.10ｍの方形の高まりが遺存しており、中央に盗掘坑と推測される浅い窪みが認められた。**重複：**SK010を切る。**規模：**南東辺20.30ｍ、北西辺17.66ｍ、北西－南東軸18.82ｍ、周溝を含めた総長は南東辺25.58ｍ、北西辺21.22ｍ、北西－南東軸22.58ｍ、旧地表面からの高さ約1.20ｍ。**主軸方位：**Ｎ-45°-Ｗ。

墳丘：北西から南東方向に緩やかに下る旧地表面上に構築されている。構築方法は、墳丘の裾部で旧地表面を0.30ｍほど掘り窪めており、まず周溝の範囲を浅く掘り窪めている可能性がある（52・73層など）。その後、墳丘全体を厚さ0.10 ～ 0.20mの黄褐色土や黄灰色土で水平に0.50ｍほど積み上げており（48 ～ 51層など）、その上面から横穴式石室の掘り方を掘削している。さらに掘り方を覆うように厚さ0.30 ～ 0.40mの黄褐色・暗灰黄色砂を0.50ｍほど積んでおり（47・69層など）、最後に黄褐色砂や黒褐色土（46・86層など）で墳丘斜面を覆っている。

周溝：全周する。南東・南西・北東周溝は幅2.80 ～ 3.00ｍ、確認面からの深度1.20 ～ 1.46ｍ。古墳の正面にあたる南東周溝中央では、底面がさらに一段下がる（深度約0.10ｍ）。背面の北西周溝は規模が小さく幅2.40ｍ、確認面からの深度1.20ｍ。断面形態はいずれも逆台形状である。覆土は、下層に明黄褐色砂、上層に黄灰色・暗黄灰色砂がレンズ状に堆積し、最上層では部分的に固結火山灰土塊（62層）が認められた。

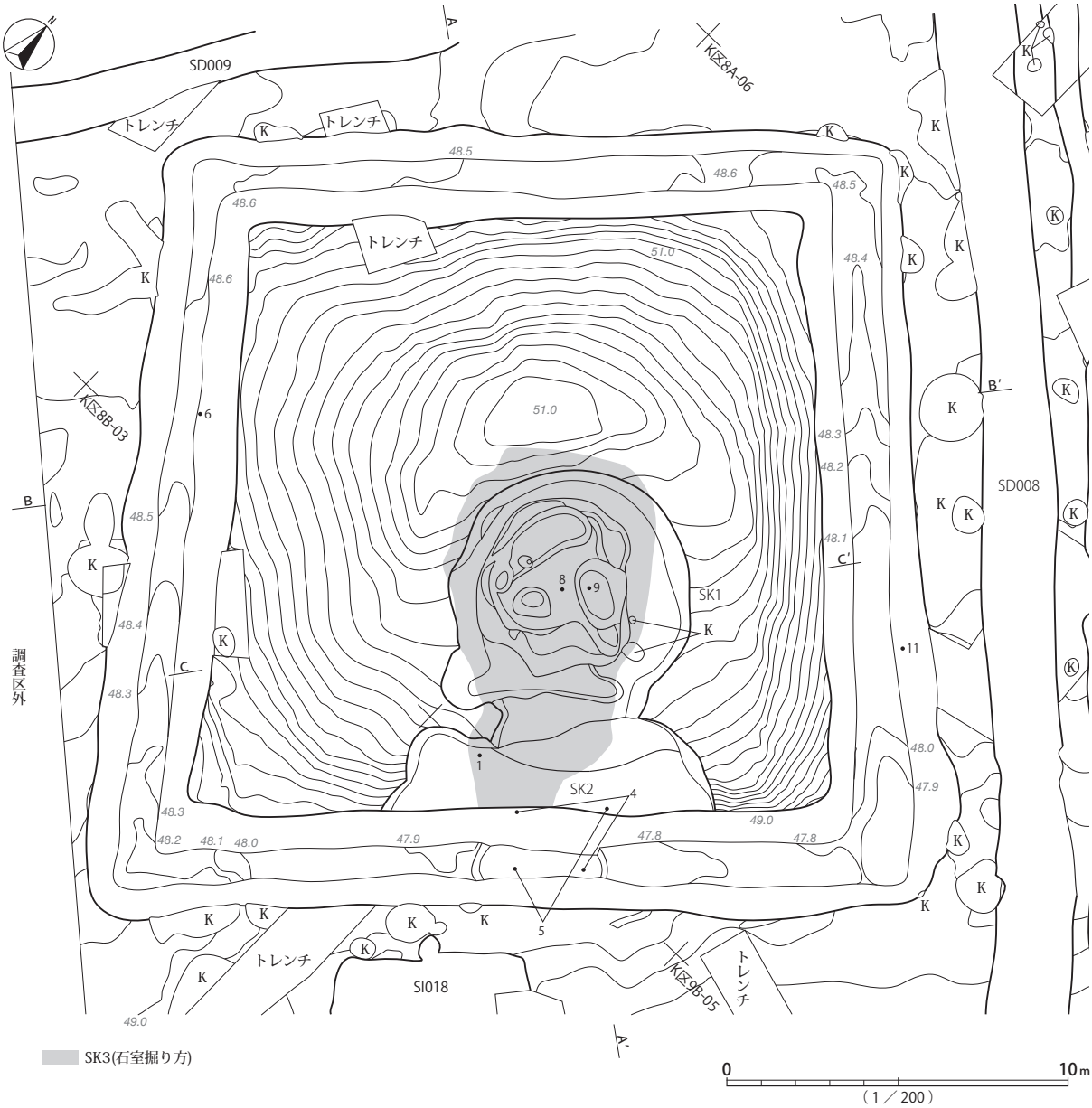
埋葬施設：盗掘坑（SK1・2）により大きく破壊されている。部分的に横穴式石室の掘り方（SK3）を確認したが石材の据付や抜取痕跡を確認できなかった。

SK1は、石室中心部を狙った巨大な穴で、長軸7.60ｍ、短軸7.10ｍ、深度2.20ｍであり、最深部はハードローム層まで掘り抜かれている。

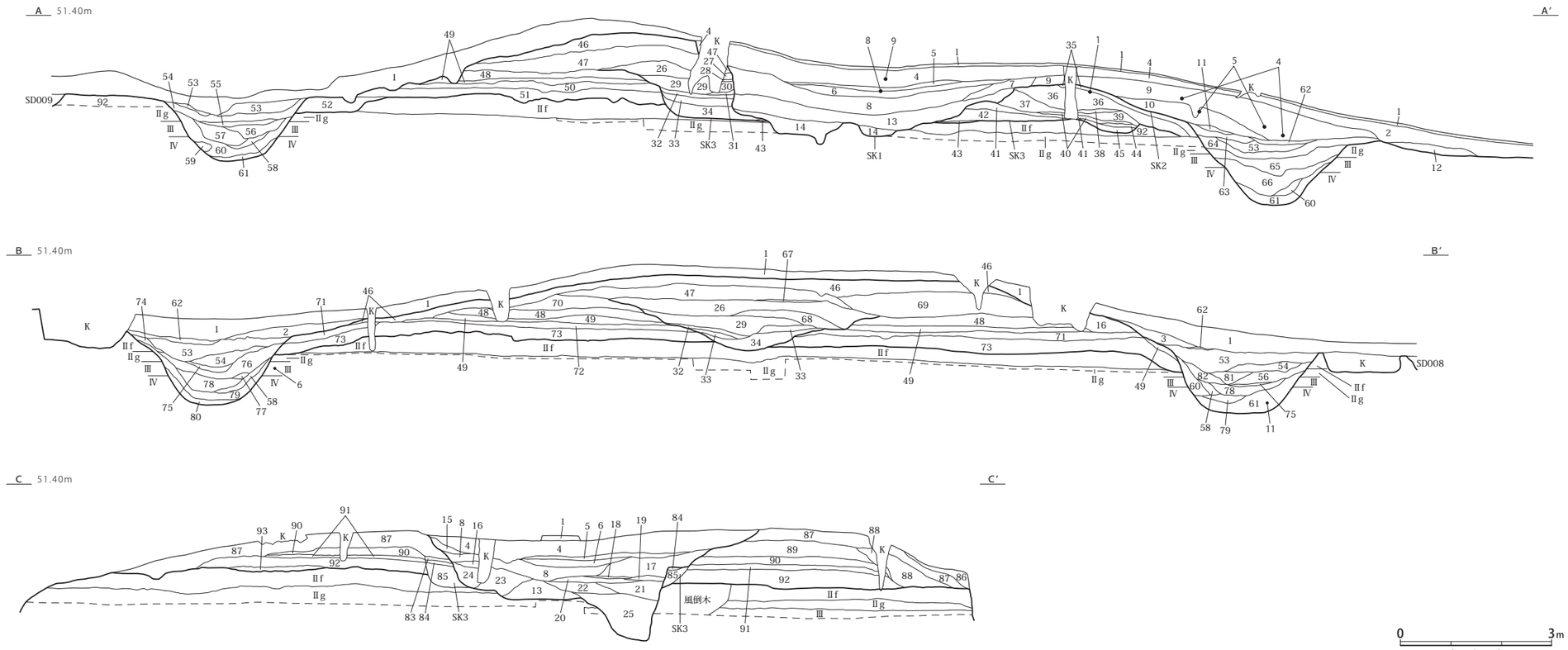
SK2は、盗掘時の土を掻き出した広がりで、軟質砂岩片を多量に含む土が南東側斜面と周溝の最上部を覆う形で広がっている。軟質砂岩は直方体の切石で、もっとも残りが良いもので大きさ16×19以上×33cm以上である。

掘り方（SK3）は、長軸10.55ｍ、短軸6.00ｍ、羨道部付近の短軸4.00ｍの長楕円形。深度は0.90ｍで、旧地表面を0.20ｍほど掘り込んでいる。掘り方底面からの高さ0.30～0.40ｍ付近にロームブロックを大量に含むしまりの良い土層（32・39・41・84層）がある。周溝の上端とほぼ同じレベルにあたるため、この付近が石室底面と想定され、それより上位の29層などは土層の位置関係から石室裏込土の可能性がある。また、南東周溝側では、ロームブロックを含む土層（39層）の下で、多量の灰白色土を充填した楕円形の窪みが認められた（45層）。位置関係から、開口部もしくは前庭部の地業の可能性がある。

時期：出土遺物から７世紀末葉～８世紀初頭が下限と考えられる。

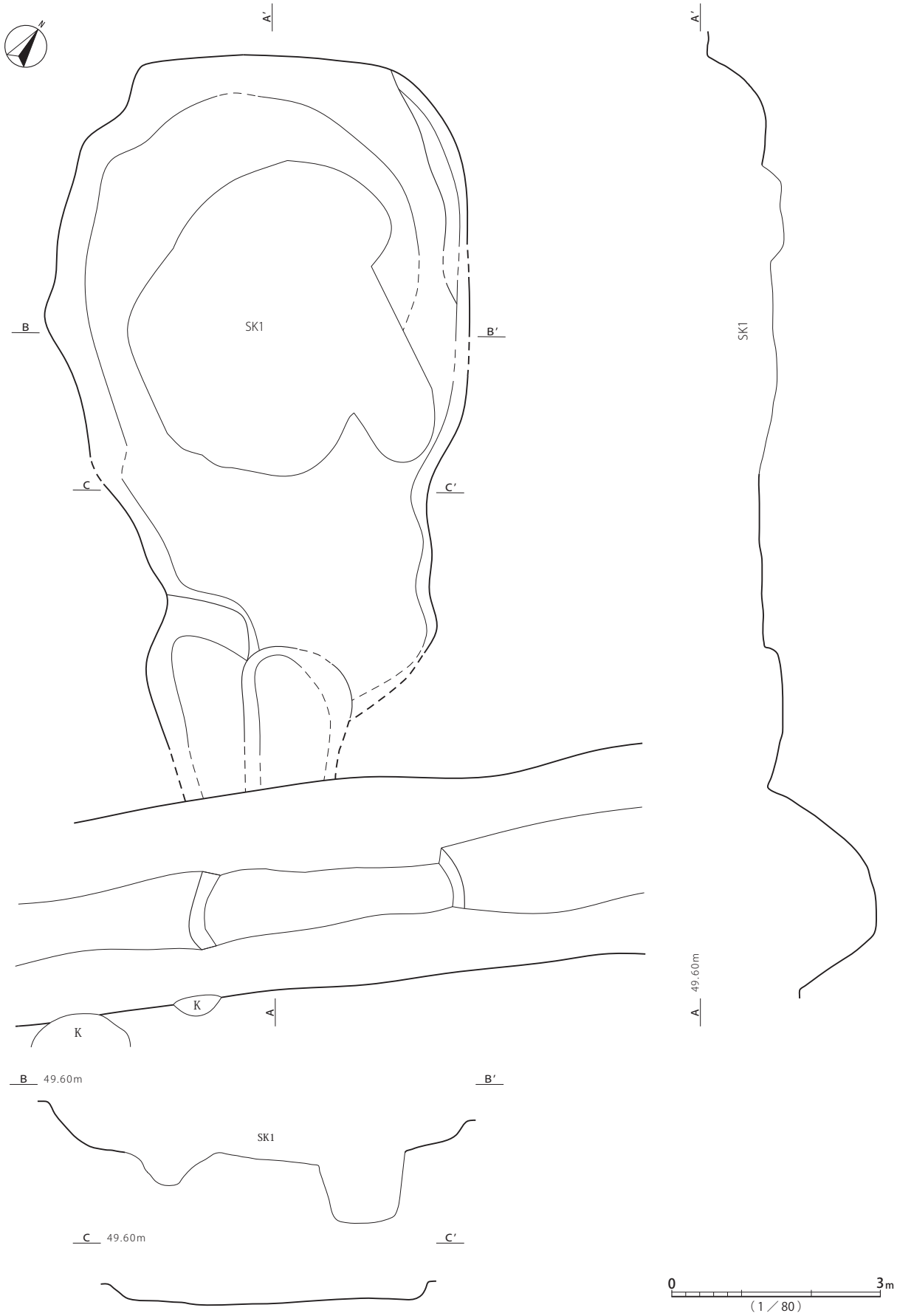


第32図　SM004（１）



1	暗褐色砂(10YR3/3)	腐植土粘性弱い。しまり弱い。表土。
2	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	粘性なし。しまりなし。表土。
3	黄褐色砂(2.5Y5/3)	粘性弱い。しまり弱い。表土。
4	灰黄褐色砂(10YR5/2)	粘性弱い。しまり弱い。SK1。
5	灰黄褐色砂(10YR4/2)	粘性弱い。しまり弱い。SK1。
6	明黄褐色砂(10YR6/6)	ロームブロックφ5mm含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
7	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	粒状化した軟質砂岩多量に含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
8	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粒状化した軟質砂岩、ロームブロックφ10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
9	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)	軟質砂岩片φ1～5cm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。SK2。
10	黄褐色砂(10YR5/6)	軟質砂岩片φ10～50mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。SK2。
11	暗灰黄色(2.5Y4/2)	軟質砂岩片、ロームブロックφ20mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。SK2。
12	褐灰色砂(10YR4/1)	粘性弱い。しまり弱い。SK2。
13	黒褐色土(2.5Y3/1)	粒状化した軟質砂岩、ロームφ10mm含む。粘性あり。しまりあり。SK1。
14	黄色土(2.5Y7/8)	粒状化した軟質砂岩含む。粘性あり。しまりあり。SK1。
15	灰黄褐色砂(10YR4/2)	粒状化した軟質砂岩含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
16	暗褐色砂(10YR3/3)	炭化物含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
17	褐灰色砂(10YR4/1)	ロームブロックφ5～10mm含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
18	褐灰色砂(10YR6/1)	粘性弱い。しまり弱い。SK1。
19	黄灰色砂(2.5Y4/1)	ロームブロックφ5mm含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
20	黄灰色砂(2.5Y4/1)	粒状化した軟質砂岩、ロームブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
21	黒褐色土(2.5Y3/2)	粒状化した軟質砂岩、ロームφ20～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。SK1。
22	黒褐色土(2.5Y3/1)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。SK1。
23	黒褐色砂(2.5Y3/2)	粒状化した軟質砂岩が互層状に堆積する粘性弱い。しまり弱い。SK1。
24	黒褐色砂(2.5Y3/2)	ローム粒子、灰白色土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。SK1。
25	黒褐色土(2.5Y3/1)	ロームブロックφ5～10mm含む。粘性あり。しまりあり。SK1。
26	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
27	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
28	灰白色土(2.5Y8/1)	粘性あり。しまりあり。SK3。
29	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
30	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
31	灰白色土(2.5Y8/1)	粘性あり。しまりあり。SK3。
32	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ローム粒子多量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
33	黄灰色砂(2.5Y4/1)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
34	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	ロームブロックφ10mm含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
35	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
36	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ロームブロックφ10mm含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
37	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	ロームブロックφ10～20mm少量 含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
38	黄灰色土（2.5Y4/1）	粘性あり。しまりあり。SK3。
39	明黄褐色土(2.5Y6/8)	ロームブロックφ20～30mm多量含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
40	黄灰色土(2.5Y5/1)	灰白色土、ロームブロックφ10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
41	明黄褐色土(2.5Y6/8)	ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
42	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。SK3。
43	灰白色土(2.5Y8/1)	粘性あり。しまりあり。SK3。
44	黄灰色土(2.5Y4/1)	ローム粒子含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
45	灰白色土(2.5Y8/1)	粘性あり。しまりあり。SK3。
46	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
47	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
48	黄灰色砂(2.5Y4/1)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
49	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
50	黄灰色土(2.5Y5/1)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
51	明黄褐色砂(2.5Y6/6)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
52	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。填丘盛土。
53	黄灰色砂(2.5Y4/1)	粘性弱い。しまり弱い。周溝。
54	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	粘性弱い。しまり弱い。周溝。
55	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	粘性あり。しまりあり。周溝。
56	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。
57	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性なし。しまりなし。周溝。
58	黄褐色砂(2.5Y5/6)	ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
59	明黄褐色土(2.5Y6/6)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。
60	明黄褐色土(2.5Y6/6)	ローム粒子含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。
61	明黄褐色砂(2.5Y6/6)	ロームブロックφ5～10mm含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
62	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	固結火山灰土塊多量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
63	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまり弱い。周溝。
64	黄灰色土(2.5Y4/1)	粘性弱い。しまりあり。周溝。
65	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	粘性弱い。しまりあり。周溝。
66	黄褐色砂(2.5Y5/6)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
67	黄灰色土(2.5Y4/1)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
68	黄灰色砂(2.5Y4/1)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
69	暗灰黄色砂(2.5Y5/2)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
70	明黄褐色砂(2.5Y6/6)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
71	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
72	黄灰色土(2.5Y5/1)	粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
73	明黄褐色砂(2.5Y6/6)	ロームブロックφ19～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
74	黄灰色砂(2.5Y5/1)	粘性弱い。しまり弱い。周溝。
75	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
76	暗灰黄色砂(2.5Y5/2)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
77	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	粘性弱い。しまりあり。周溝。
78	黄褐色砂(2.5Y5/3)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
79	明黄褐色砂(2.5Y6/6)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
80	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性弱い。しまりあり。周溝。
81	暗灰黄色砂(2.5Y5/2)	粘性弱い。しまり弱い。周溝。
82	黄褐色砂(2.5Y5/3)	粘性弱い。しまり弱い。周溝。
83	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
84	明黄褐色土(2.5Y6/8)	ロームブロックφ20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。SK3。
85	オリーブ褐色砂(2.5Y4/6)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。SK3。
86	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
87	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
88	黄褐色砂(2.5Y5/3)	ロームブロックφ10～5mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
89	黄灰色砂(2.5Y4/1)	ローム粒子少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
90	黄褐色砂(2.5Y5/4)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
91	黄灰色土(2.5Y5/1)	粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
92	明黄褐色砂(2.5Y6/6)	粘性なし。しまりなし。填丘盛土。
93	にぶ黄色砂(2.5Y6/4)	黄灰色土多量含む。粘性なし。しまりなし。填丘盛土。

第33図　SM004（2）

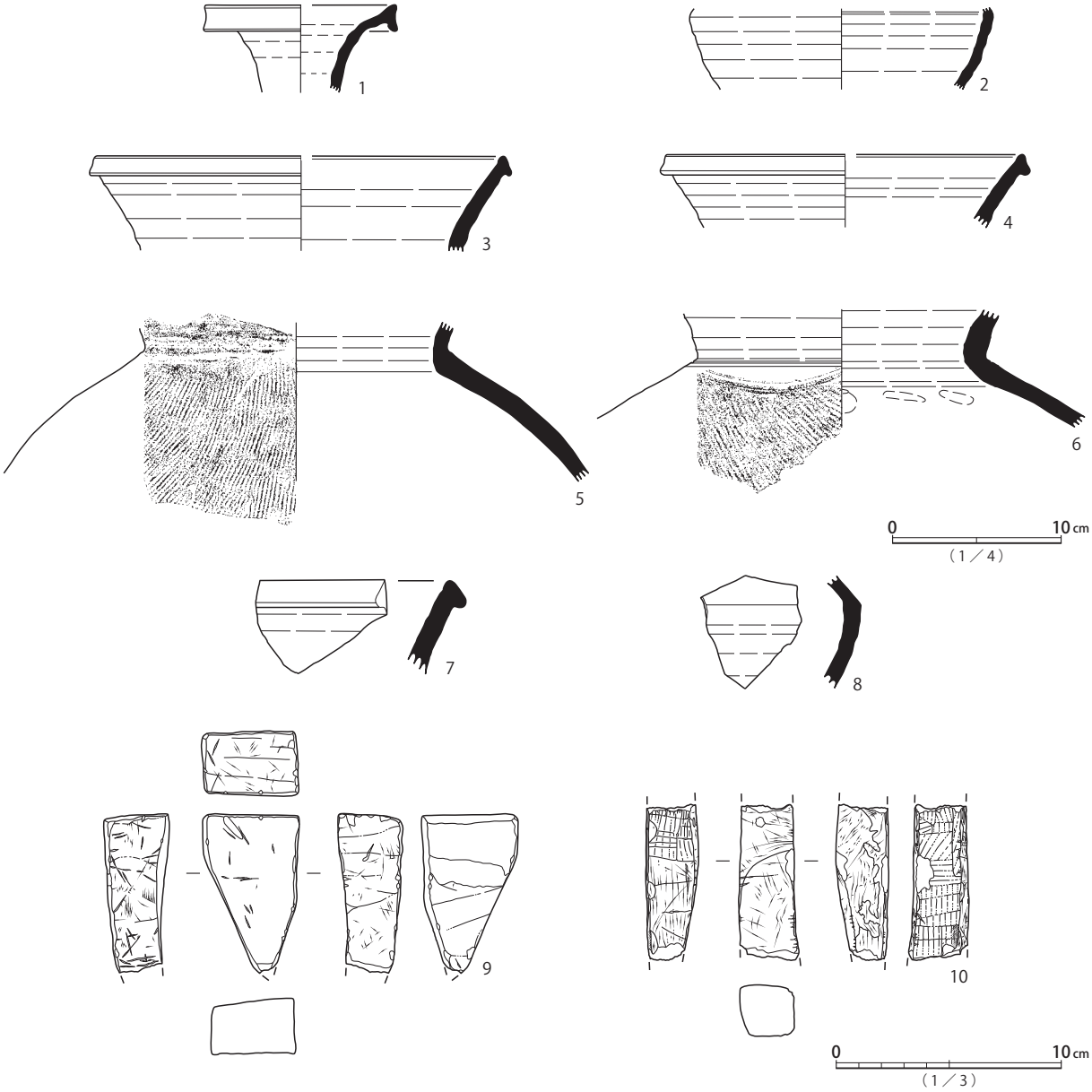


第34図　SM004SK3

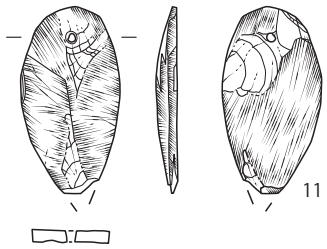
所見：平面形態が台形で一重周溝の方墳である。内部施設は、横穴式石室と推定されるが盗掘により規模等は不明。掘り方を確認したのみであるが、形状と覆土から石室は南東辺に開口し、底面のレベルは、周溝上端とほぼ同じと考えられる。墳丘は、台地の南東側斜面に沿って構築されており、石室が開口する南東辺が長辺となることから谷もしくは対岸の尾根上からの景観を重視している。

遺物：土師器2,665.0g、須恵器3,677.7g、縄文土器24.9g、土製品277.0g、石器・石製品170.63g、石室石材20,593.0gが出土した。

１～８は須恵器で、１・２・８は長頸壺、３～７は甕である。９・10は砥石である。９の上面には平鑿による整形時の痕跡がみられる。10は裏面と左側面に整形時の櫛歯状工具痕がみられる。11は滑石製の剣形模造品である。表裏の大部分はよく研磨されているが、部分的に製作過程の剥離面が残存している。孔は表面から穿孔されている。１～５はSK2から、６・11は周溝から、７～10はSK1からの出土である。



第35図　SM004出土遺物（１）



第36図　SM004出土遺物（２）

第14表　SM004出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 長頸壺	SK2覆土	口　径：(11.2) 底　径：　－ 器　高：　[5.2] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰黄 残存度：口縁部～頸部の1/4	口縁部～頸部内外面に自然釉付着
2	須恵器 長頸壺	SK2覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：(17.8)	外面：肩部～胴部ロクロ調整 内面：肩部～胴部ロクロ調整	胎　土：－ 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：肩部～胴部の破片	肩部外面に自然釉付着
3	須恵器 甕	SK2覆土	口　径：(24.0) 底　径：　－ 器　高：　[5.6] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～頸部の破片	
4	須恵器 甕	SK2覆土	口　径：(21.0) 底　径：　－ 器　高：　[4.3] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰黄～灰 残存度：口縁部～頸部の1/5	
5	須恵器 甕	SK2覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[9.4] 最大径：　－	外面：頸部ロクロ調整、肩部平行叩き目 内面：頸部ロクロ調整、肩部同心円当具痕後ナデによる擦り消し	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰 残存度：頸部～肩部の破片	
6	須恵器 甕	周溝覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[7.0] 最大径：　－	外面：頸部ロクロ調整、肩部平行叩き目 内面：頸部ロクロ調整、肩部ナデによる擦り消し、頸部と肩部接合時の押圧	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰黄 残存度：頸部～肩部の破片	
7	須恵器 甕	SK1覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.2] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～頸部の破片	
8	須恵器 長頸壺	SK1覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[5.0] 最大径：　－	外面：肩部～胴部ロクロ調整 内面：肩部～胴部ロクロ調整	胎　土：－ 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：肩部～胴部の破片	肩部～胴部外面に自然釉付着

第15表　SM004出土石製品観察表

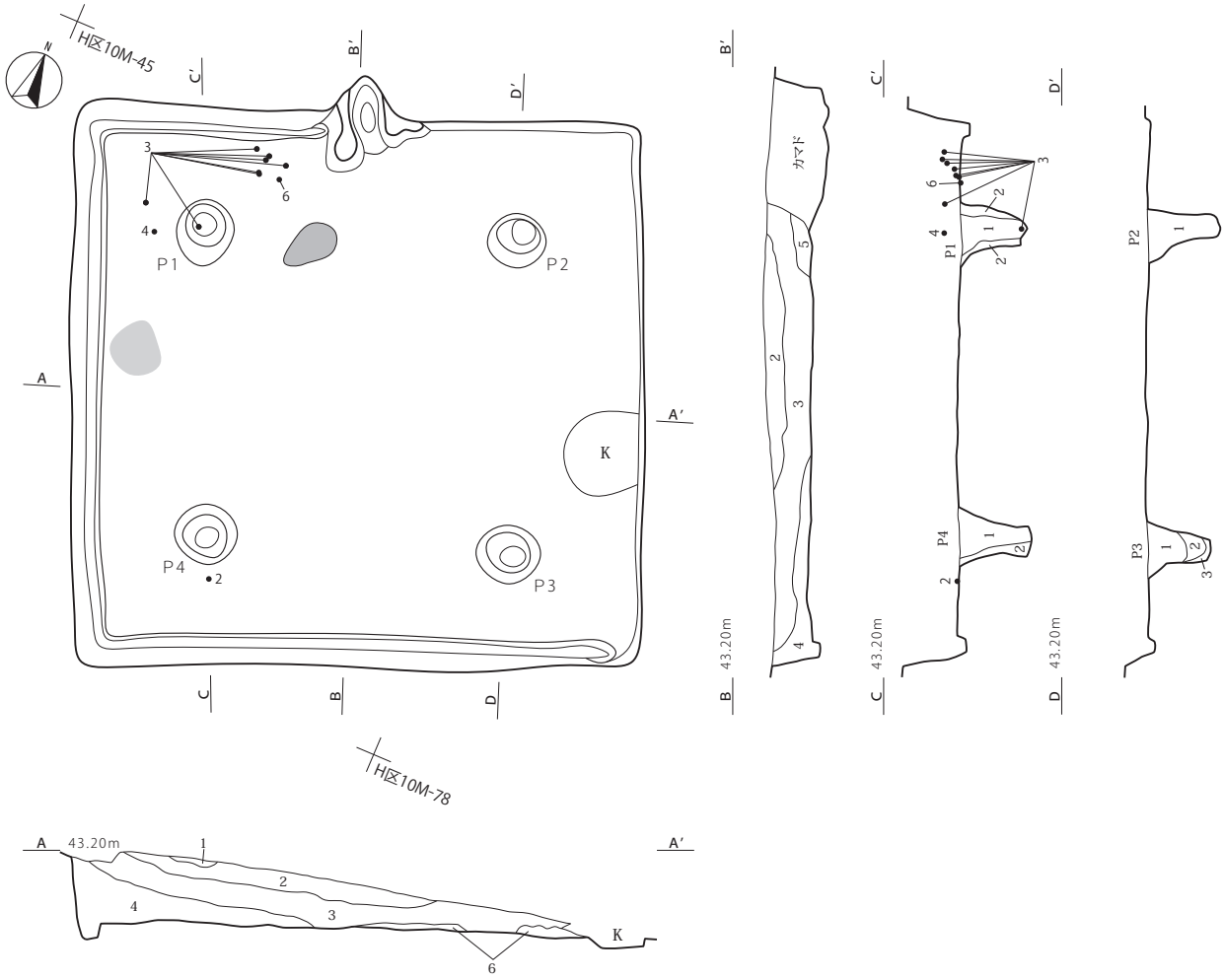
単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
9	砥石	流紋岩	SK1覆土	[7.04]	4.29	2.90	103.02	砥面：全面
10	砥石	流紋岩ないしデイサイト	SK1覆土	[6.90]	[2.66]	[2.30]	61.83	砥面：表・裏・右・左各1面、被熱
11	剣形模造品	滑石	周溝覆土	[3.70]	1.95	0.40	3.49	孔径2.0㎜、剥離痕顕著

２．竪穴建物

SI001（第37 ～ 39図、第16・17表、図版８・20・27）

位置：H区10M-47グリッドを中心とする尾根先端部の東向き斜面に位置する。**重複：**SI002を切る。東側の一部は撹乱される。**規模：**主軸6.40ｍ、副軸6.16ｍ、確認面からの深度1.09ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-23°-Ｗ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から急角度で立ち上がり、壁面から約0.48m突出



1　暗褐色土(10YR3/3)　固結火山灰土塊中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロック中量、焼土ブロックφ１～３mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～30mm、焼土ブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　山砂中量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

P1
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

P2
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ30～50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

P3
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、焼土粒子φ１～５mmの焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子、ロームブロックφ10～100mm多量含む。

P4
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第37図　SI001

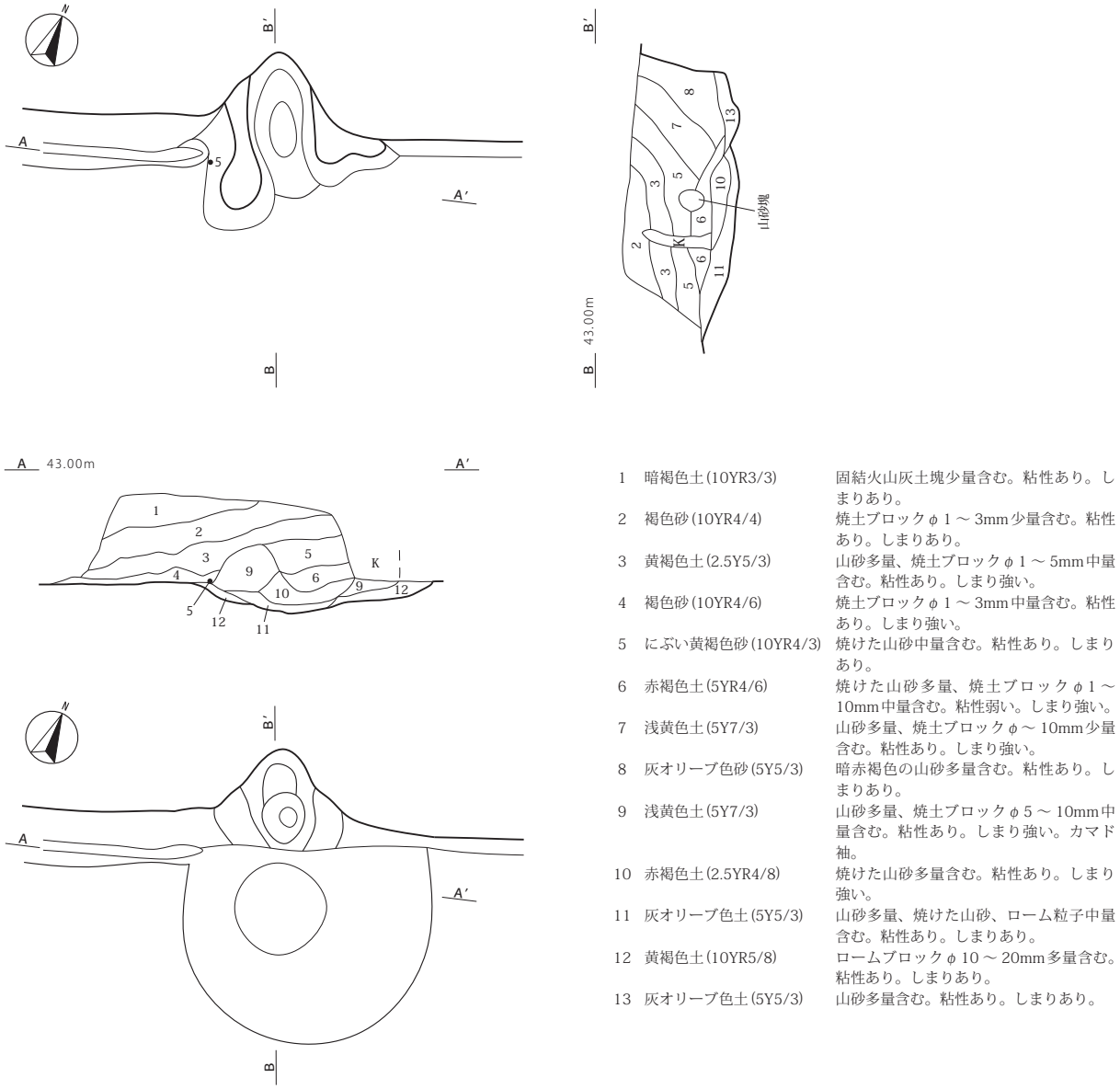
する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸・副軸方向ともに3.40ｍ。周溝はカマドの西側から南壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、Ｐ１周辺で粘土・焼土の塊が散在していた。

時期：出土遺物から古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から自然埋没した状況で、最上層は固結火山灰土塊を含んでいる。

遺物：土師器5,945.3g、土製品1,234.0g、石器・石製品71.73gが出土した。

１～４は土師器で、１は坏、２は高坏、３・４は甕である。５・６は土製支脚である。接合しないが、同一個体と思われる。表面はヘラナデ調整される。３は覆土下層とＰ１の遺物が接合している。５はカマド左袖脇からの出土である。

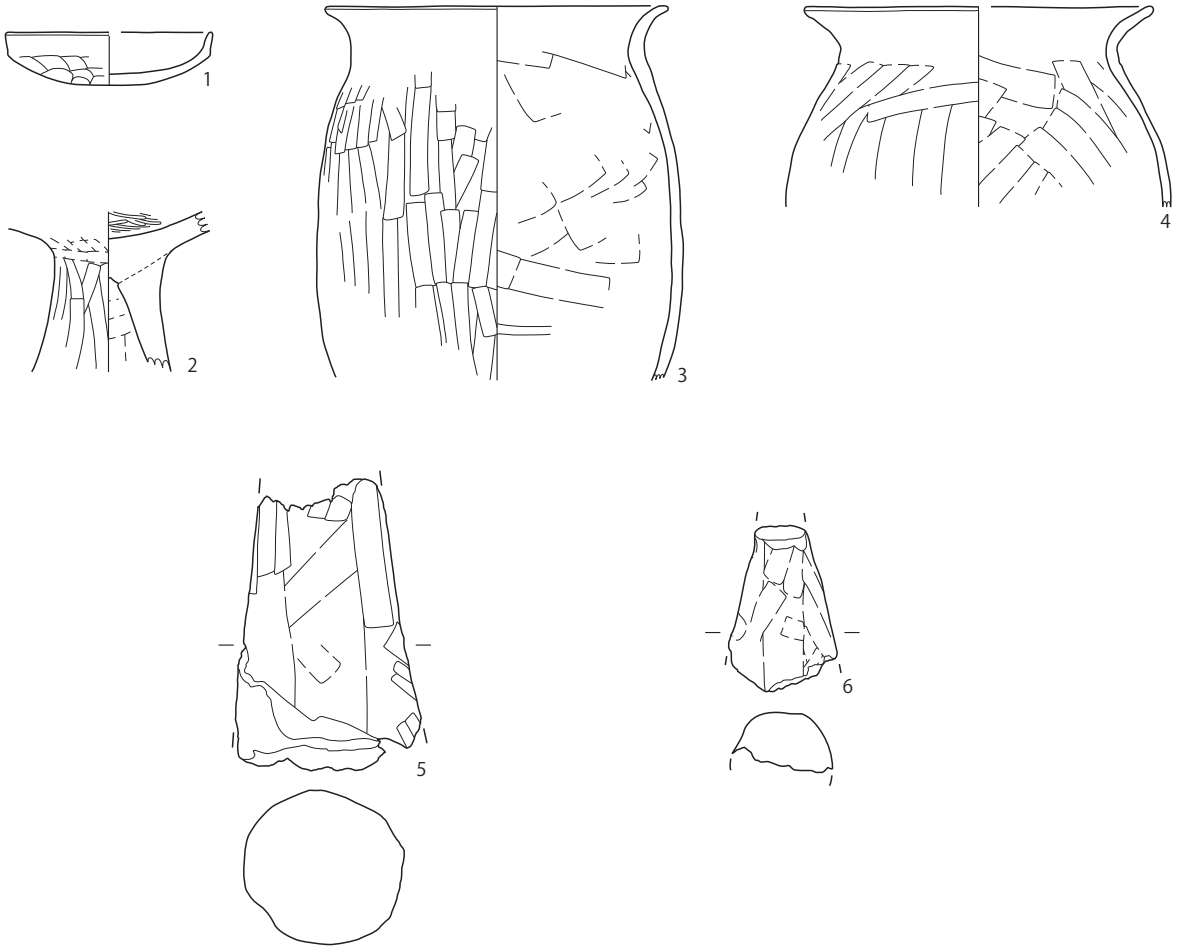


掘り方

1	暗褐色土(10YR3/3)	固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	褐色砂(10YR4/4)	焼土ブロックφ１～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黄褐色土(2.5Y5/3)	山砂多量、焼土ブロックφ１～5mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
4	褐色砂(10YR4/6)	焼土ブロックφ１～3mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
5	にぶい黄褐色砂(10YR4/3)	焼けた山砂中量含む。粘性あり。しまりあり。
6	赤褐色土(5YR4/6)	焼けた山砂多量、焼土ブロックφ１～10mm中量含む。粘性弱い。しまり強い。
7	浅黄色土(5Y7/3)	山砂多量、焼土ブロックφ～10mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
8	灰オリーブ色砂(5Y5/3)	暗赤褐色の山砂多量含む。粘性あり。しまりあり。
9	浅黄色土(5Y7/3)	山砂多量、焼土ブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまり強い。カマド袖。
10	赤褐色土(2.5YR4/8)	焼けた山砂多量含む。粘性あり。しまり強い。
11	灰オリーブ色土(5Y5/3)	山砂多量、焼けた山砂、ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
12	黄褐色土(10YR5/8)	ロームブロックφ10～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
13	灰オリーブ色土(5Y5/3)	山砂多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第38図　SI001カマド



第39図　SI001出土遺物

第16表　SI001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土中層	口　径：(10.8) 底　径：　－ 器　高：　2.8 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/4	
2	土師器 高坏	一括	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：　[8.5] 最大径：　－	外面：接合部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：接合部～脚部の2/3	
3	土師器 甕	覆土下層・ Ｐ１	口　径：18.0 底　径：　－ 器　高：[19.8] 最大径：19.5	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ斜位	胎　土：石英・金雲母・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～胴部の1/3	
4	土師器 甕	一括	口　径：(18.2) 底　径：　－ 器　高：[10.6] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～胴部の破片	

第17表　SI001出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
5	支脚	覆土下層	長さ：[15.5]　幅：[9.8]　厚さ：8.1	1016.7	円錐形
6	支脚	覆土下層	長さ：[8.9]　幅：[5.8]　厚さ：[3.2]	114.0	円錐形

SI002（第40～43図、第18表、図版８・21）

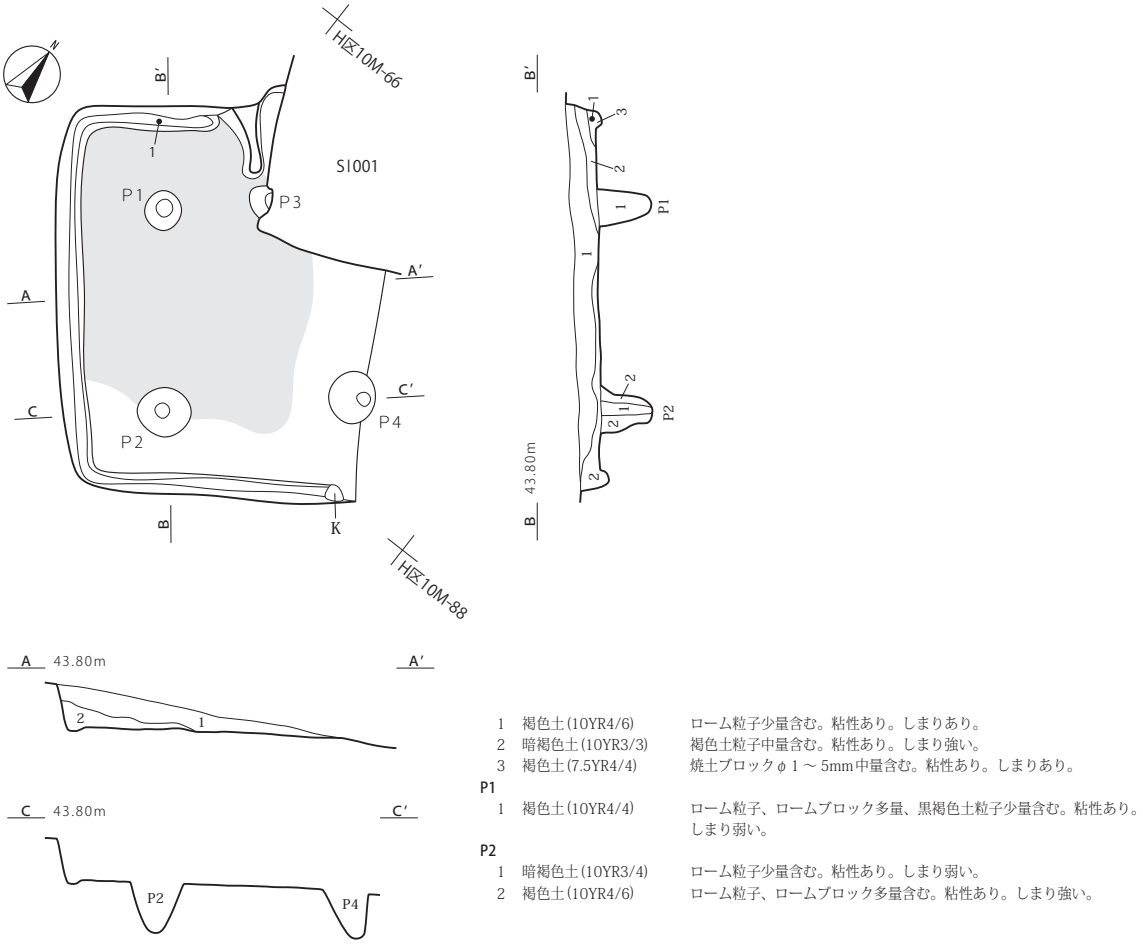
位置：H区10M-76グリッドを中心とする尾根先端部の東向き斜面に位置する。**重複：**SI001に切られる。斜面地に位置しているため検出段階で東側床面の一部が露出していた。**規模：**主軸4.44ｍ、副軸（3.52）ｍ、確認面からの深度0.67ｍ。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-38°-Ｗ。**カマド：**北西壁中央に位置する。煙道と左袖のみが残存する。煙道は壁面から約0.23m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ４で、柱間は主軸方向2.08ｍ、副軸方向2.20ｍ。周溝は削平された東側を除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央からカマド周辺、西壁にかけて硬化している。

時期：重複および出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

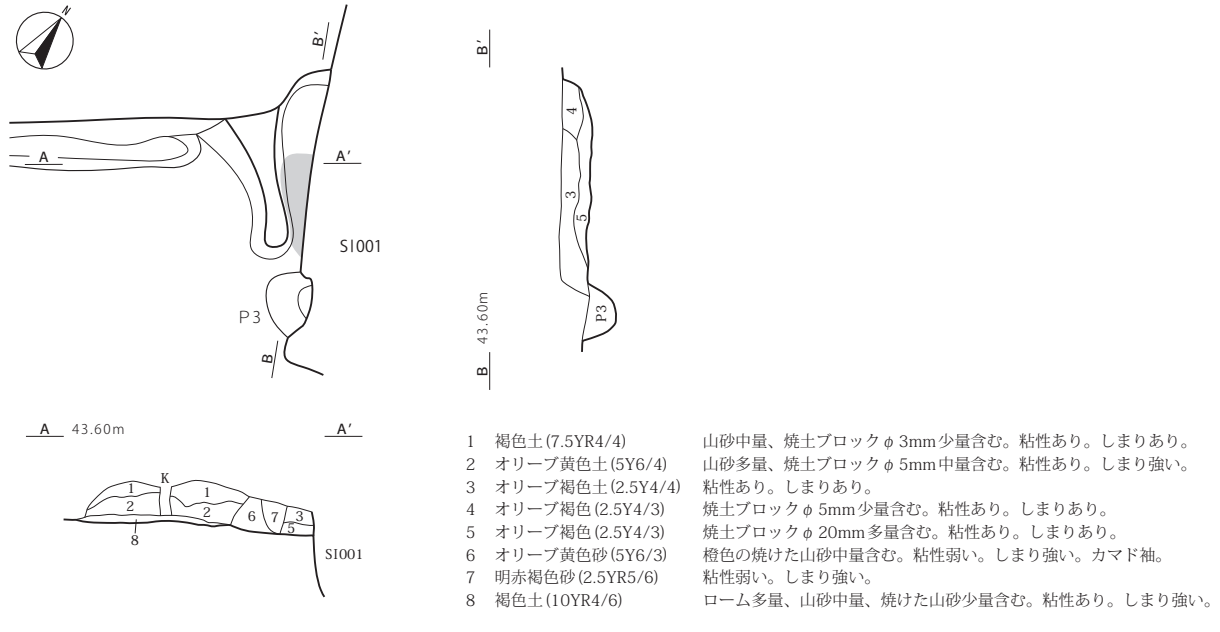
所見：カマド、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。カマドの前面でＰ３が検出されたが、位置からみて本遺構に伴わない可能性がある。

遺物：土師器638.8gが出土した。

１は土師器の坏で、ほぼ全面にヘラミガキが施される。



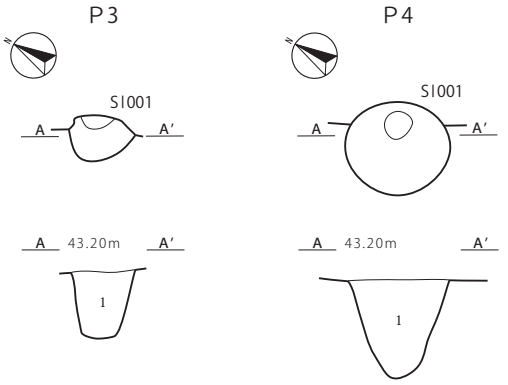
第40図　SI002



1　褐色土(7.5YR4/4)　山砂中量、焼土ブロックφ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　オリーブ黄色土(5Y6/4)　山砂多量、焼土ブロックφ5mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
3　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　粘性あり。しまりあり。
4　オリーブ褐色(2.5Y4/3)　焼土ブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　オリーブ褐色(2.5Y4/3)　焼土ブロックφ20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
6　オリーブ黄色砂(5Y6/3)　橙色の焼けた山砂中量含む。粘性弱い。しまり強い。カマド袖。
7　明赤褐色砂(2.5YR5/6)　粘性弱い。しまり強い。
8　褐色土(10YR4/6)　ローム多量、山砂中量、焼けた山砂少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

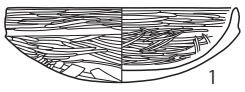
第41図　SI002カマド



P3
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
P4
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第42図　SI002P3・P4



0　10cm
（1／4）

第43図　SI002出土遺物

第18表　SI002出土土器観察表

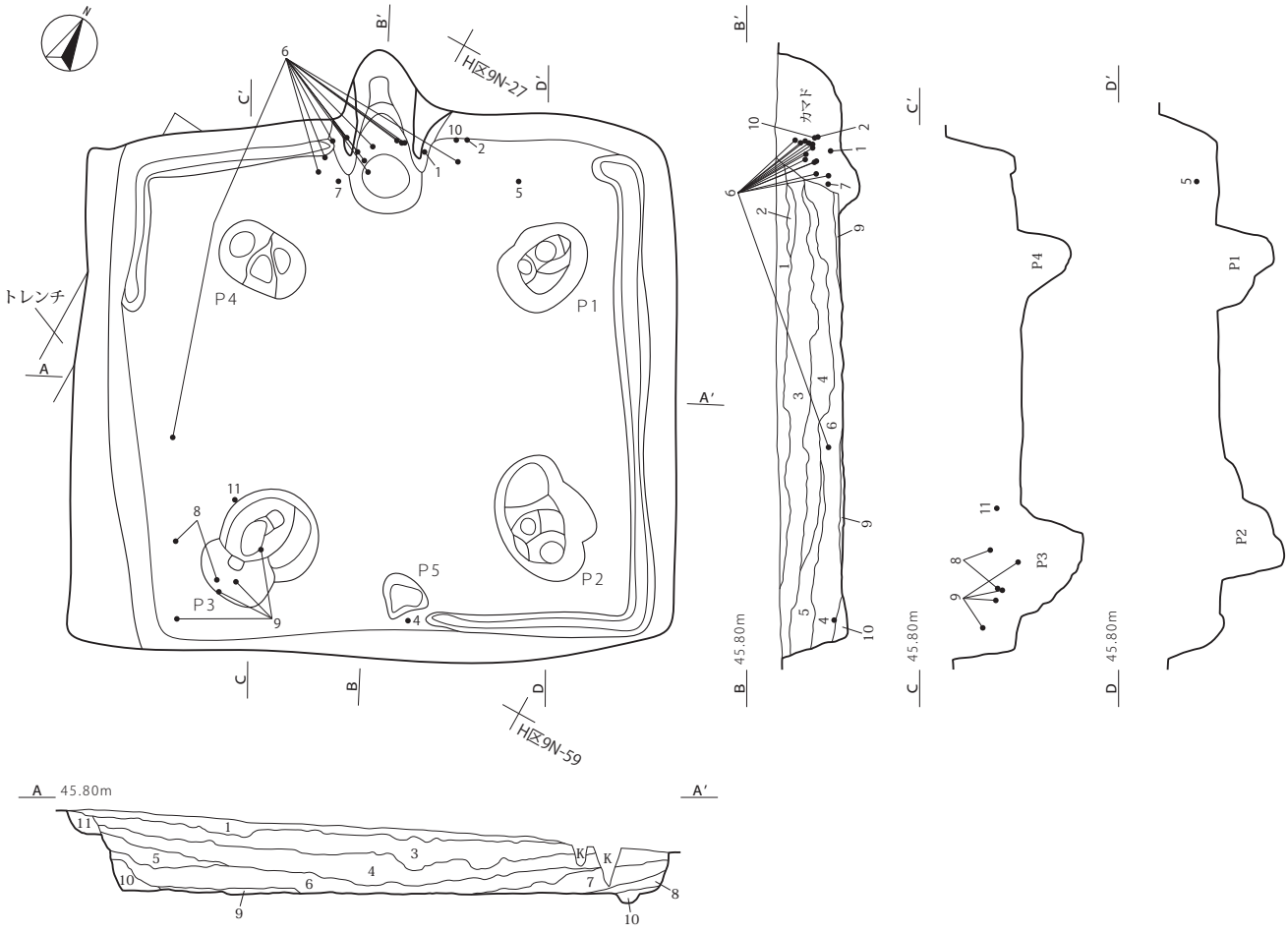
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	周溝覆土	口　径：12.0 底　径：－ 器　高：3.9 最大径：12.4	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の1/2	

SI003（第44～48図、第19～21表、図版８・21・27・28）

位置：H区９N-37グリッドを中心とする台地の北向き緩斜面に位置する。**重複：**SI004を切る。**規模：**主軸6.60ｍ、副軸6.12ｍ、確認面からの深度0.95ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N-29°-W。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、壁面から約0.68m突出する。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で柱間は主軸方向2.88m、副軸方向３.00m。Ｐ５は主軸線上、カマドの対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は比較的幅が広く、北側と北東壁から南東壁の一部にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。



1	黒褐色砂(10YR2/2)	固結火山灰土塊中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/1)	粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(2.5Y3/1)	焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
9	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ１～10mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
10	にぶい黄褐色砂(10YR4/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
11	明黄褐色(10YR6/6)	ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。壁面崩落土。

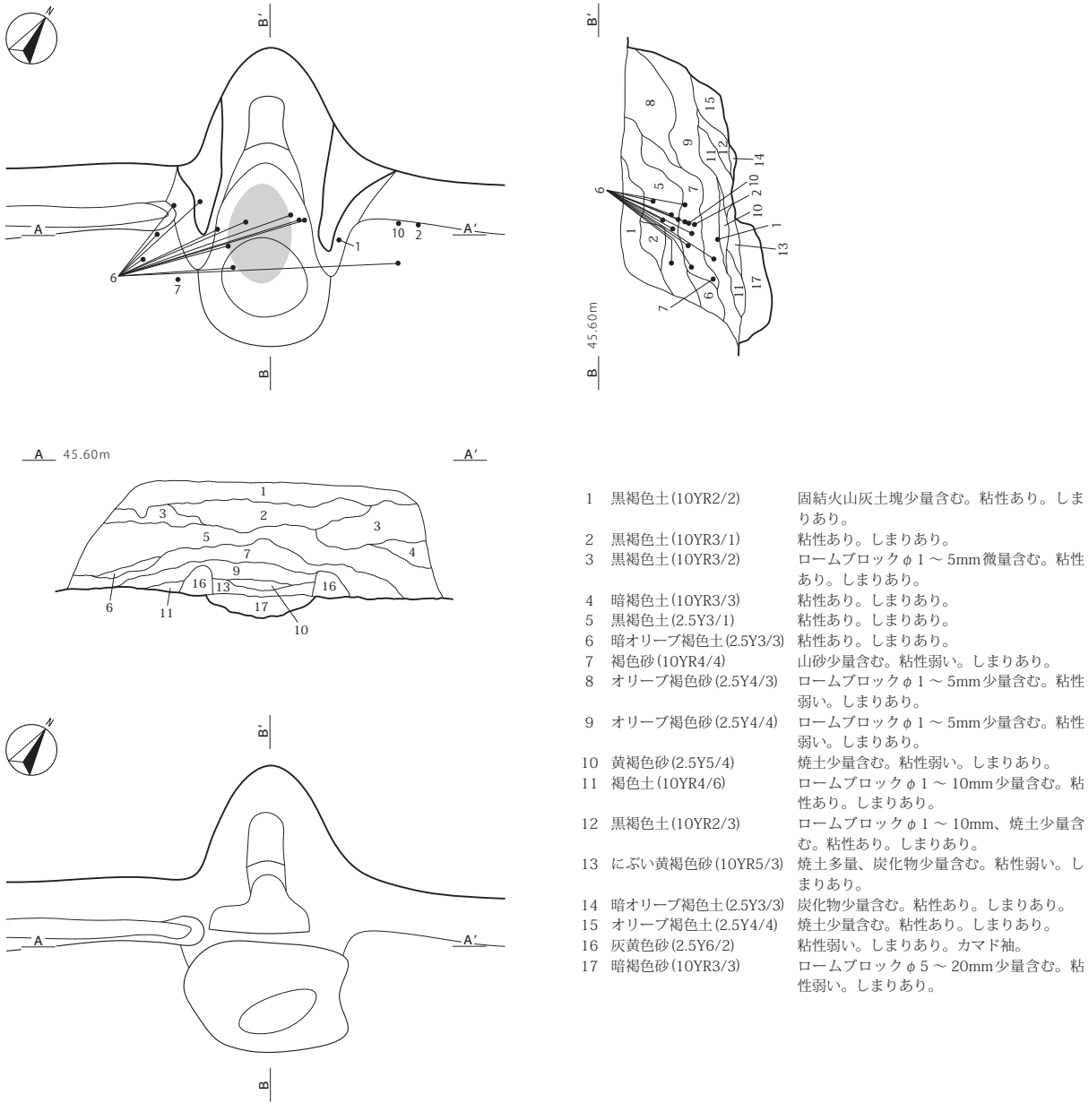
0　3m
（1／80）

第44図　SI003

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド周辺から坏（１・２）、甕（６・７）、土製支脚（10）が出土している。覆土は、尾根方向から斜堆積し、西壁上部は徐々に崩落していったと考えられる。最上層は、実際の平面プランより外側まで堆積しており、固結火山灰土塊を多量に含んでいる。

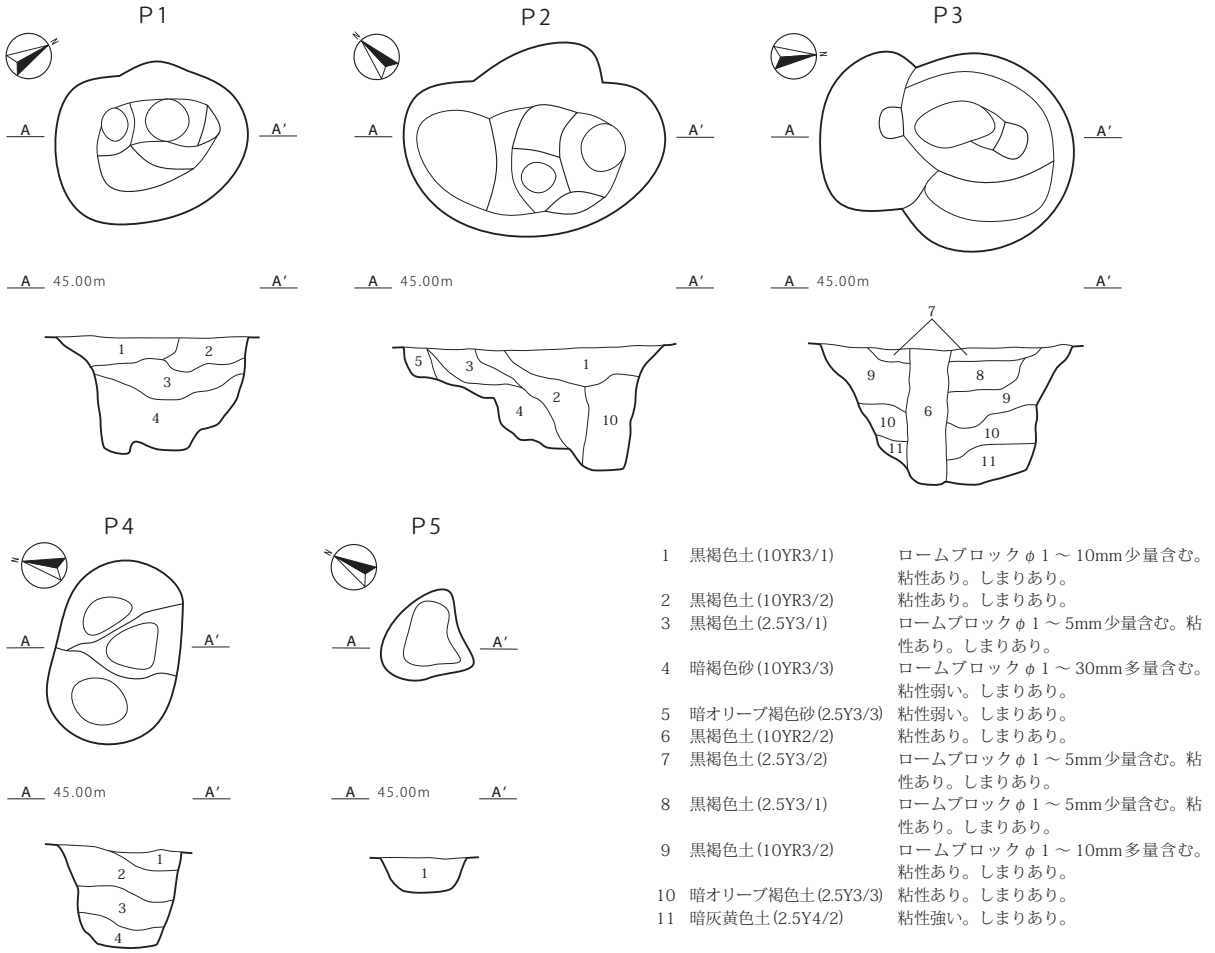
遺物：土師器12,711.5g、須恵器358.4g、土製品743.1g、金属製品6.90gが出土した。

１～３は須恵器で、１・２は坏身、３は坏蓋である。４～９は土師器で、４・５は高坏、６～９は甕である。６は底部が接合してないが、同一個体として図示している。胴部のやや上方に最大径をもつ甕である。10は土製支脚である。指による調整痕がみられる。11は断面長方形の棒状鉄製品である。長頸鏃の頸部と考えられる。



1	黒褐色土(10YR2/2)	固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/1)	粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ１～5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
5	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。
6	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	粘性あり。しまりあり。
7	褐色砂(10YR4/4)	山砂少量含む。粘性弱い。しまりあり。
8	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
9	オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
10	黄褐色砂(2.5Y5/4)	焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
11	褐色土(10YR4/6)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
12	黒褐色土(10YR2/3)	ロームブロックφ１～10mm、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
13	にぶい黄褐色砂(10YR5/3)	焼土多量、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。
14	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
15	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
16	灰黄色砂(2.5Y6/2)	粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
17	暗褐色砂(10YR3/3)	ロームブロックφ５～20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

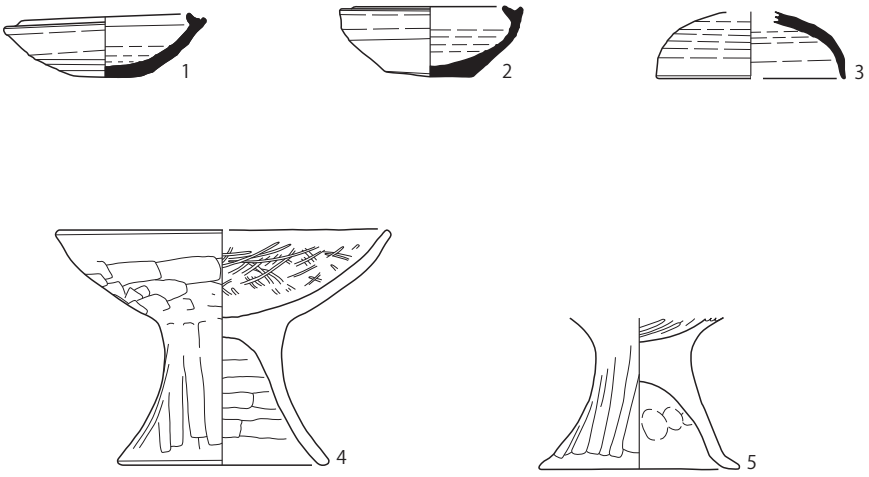
第45図　SI003カマド



1	黒褐色土(10YR3/1)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(2.5Y3/1)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色砂(10YR3/3)	ロームブロックφ１～30mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)	粘性弱い。しまりあり。
6	黒褐色土(10YR2/2)	粘性あり。しまりあり。
7	黒褐色土(2.5Y3/2)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	黒褐色土(2.5Y3/1)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
9	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
10	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	粘性あり。しまりあり。
11	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	粘性強い。しまりあり。

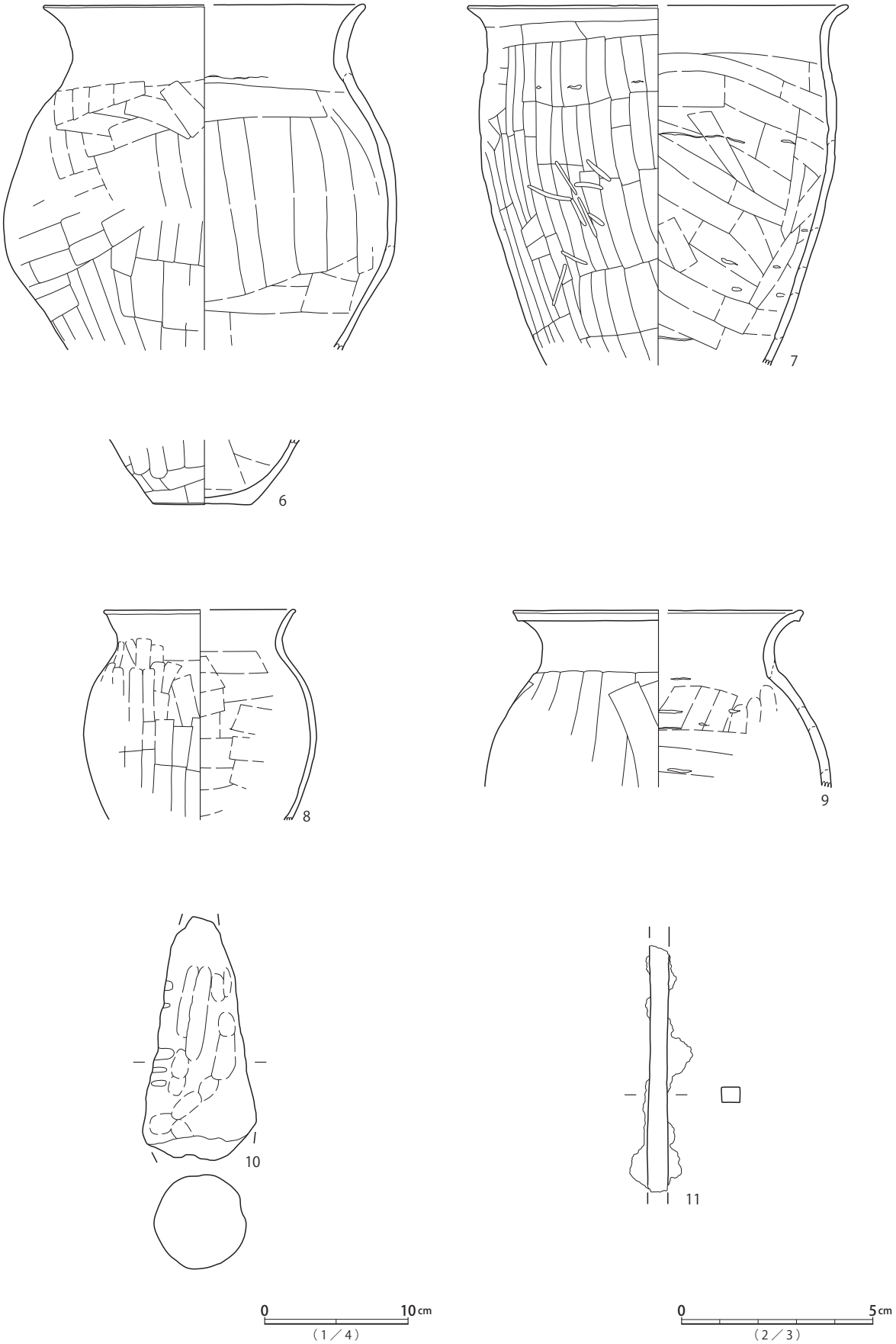
0　1m
（1／40）

第46図　SI003P1 ～ P5



0　10cm
（1／4）

第47図　SI003出土遺物（１）



第48図　SI003出土遺物（２）

第19表　SI003出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 坏身	覆土下層	口　径：　8.8 底　径：　3.5 器　高：　3.3 最大径：　10.7	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ・ヘラ記号「｜」有り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：完存	
2	須恵器 坏身	覆土中層	口　径：　8.0 底　径：　4.7 器　高：　3.7 最大径：　9.7	外面：口縁部ロクロ調整、体部～底部ロクロ調整後体部2/3～底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～底部の2/3	
3	須恵器 坏蓋	確認調査	口　径：（9.8） 底　径：　－ 器　高：［3.5］ 最大径：　－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：天井部～天井端部の1/2	
4	土師器 高坏	覆土下層	口　径：（17.4） 脚　径：　10.6 器　高：　12.5 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～裾部の3/4	
5	土師器 高坏	覆土中層	口　径：　－ 脚　径：　10.0 器　高：［8.0］ 最大径：　－	外面：接合部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ナデ・指頭圧痕、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：接合部～裾部のみほぼ完存	
6	土師器 甕	覆土中層 ・カマド	口　径：（22.2） 底　径：　6.8 器　高：［28.5］ 最大径：　27.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2、未接合の底部	
7	土師器 甕	覆土下層	口　径：（26.0） 底　径：　－ 器　高：［25.0］ 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
8	土師器 甕	覆土中層	口　径：（13.0） 底　径：　－ 器　高：［14.6］ 最大径：（16.2）	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：口縁部～胴部の破片	
9	土師器 甕	覆土中層	口　径：（19.6） 底　径：　－ 器　高：［12.3］ 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部指頭圧痕・ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

第20表　SI003出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
10	支脚	覆土中層	長さ：［16.9］　幅：7.9　厚さ：6.5	692.1	円錐形

第21表　SI003出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片 腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
11	長頸鏃	一括	［64.0］	－	－	－	－	－	［64.0］	4.8	4.0	－	－	－	－	4.70	

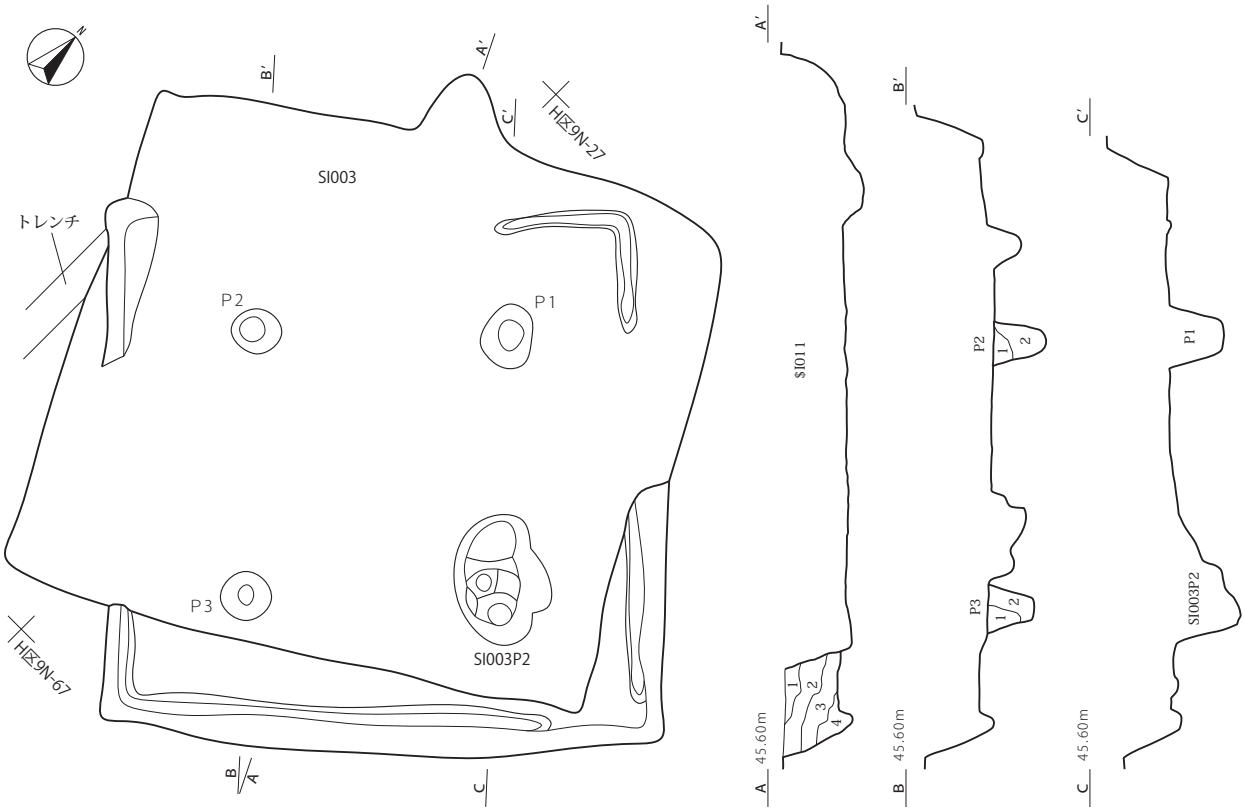
SI004（第49図、図版８）

位置：H区９N-47グリッドを中心とする台地の北向き緩斜面に位置する。**重複：**SI003に切られる。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（5.88）m、副軸6.04ｍ、確認面からの深度0.98ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N-45°-W。**カマド：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸・副軸方向ともに2.80m。周溝は削平された部分と西隅・東隅を除いて全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物の出土が少なく断定はできないが、重複から７世紀中葉以前と考えられる。

所見：主柱穴、周溝が検出されたが、カマドは検出されなかった。SI003に大部分を削平されているが、周溝は本来ほぼ全周し、カマドは北西壁に設置されていたと推測される。

遺物：土師器165.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黒色粘土ブロック少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

P2
1　黒褐色土(2.5Y3/1)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　ロームブロックφ１～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

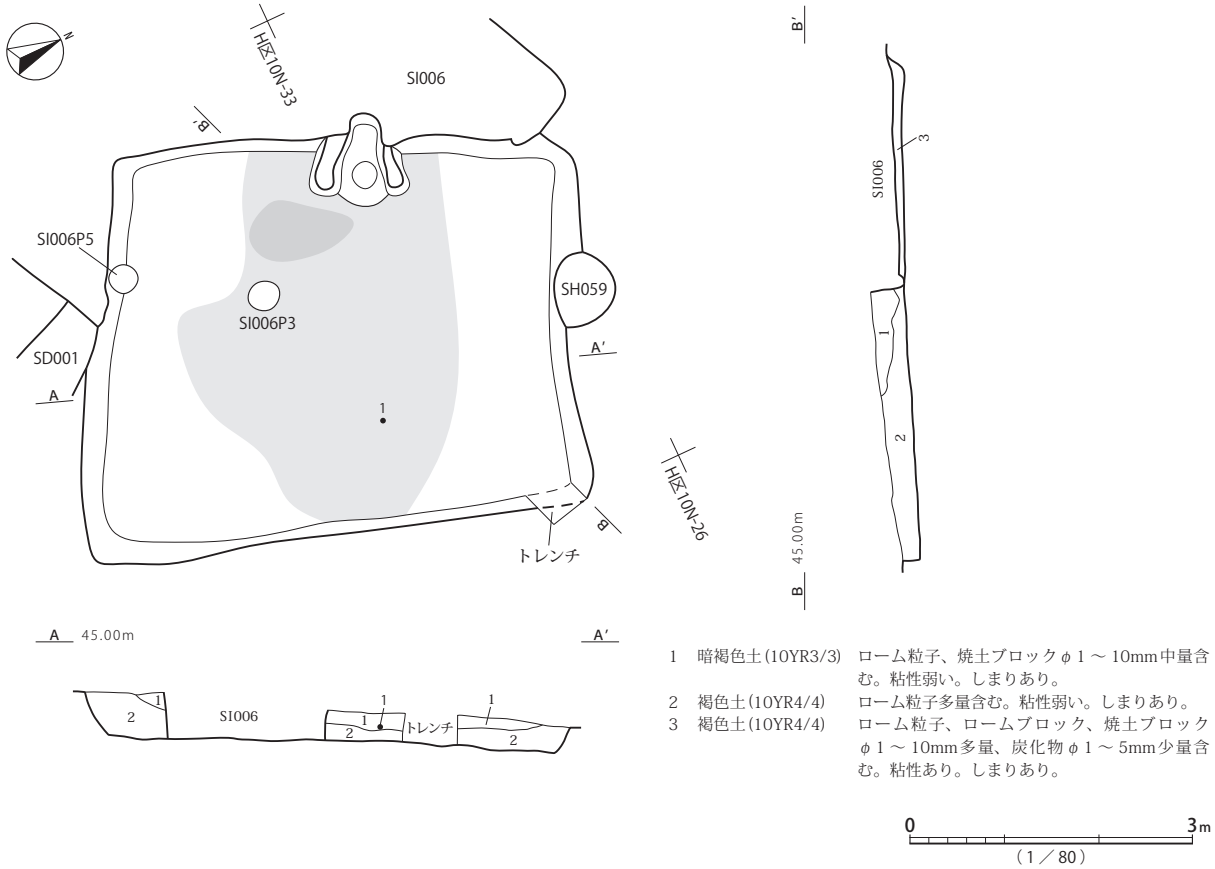
P3
1　黒褐色土(2.5Y3/1)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　ロームブロックφ１～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

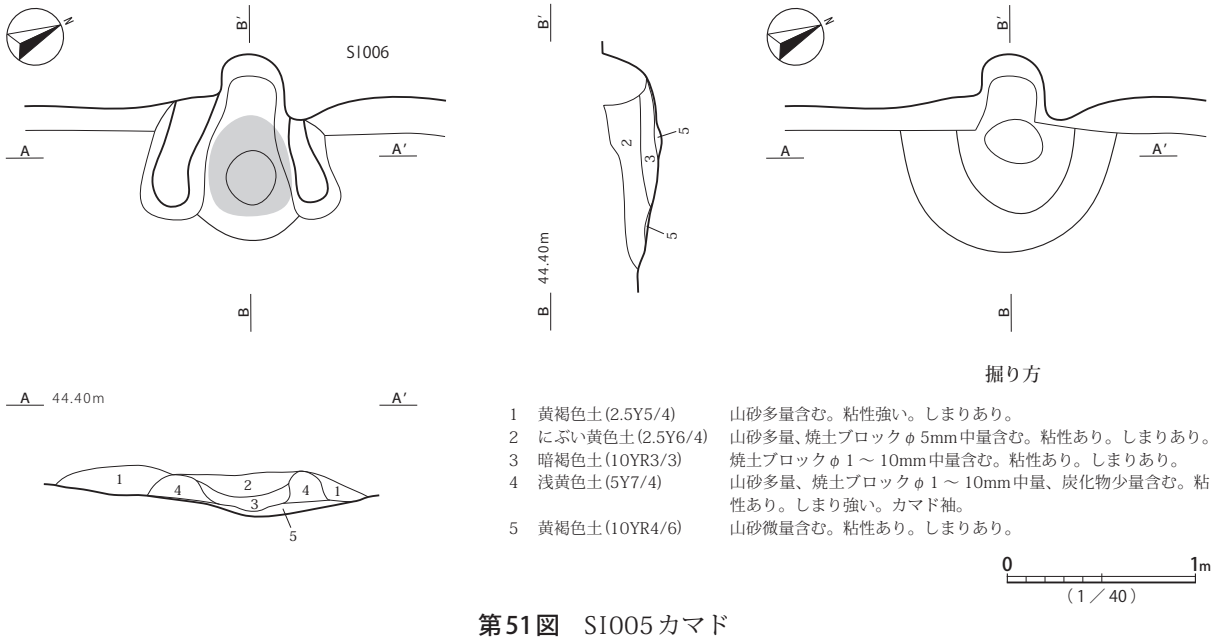
第49図　SI004

SI005（第50～52図、第22表、図版８・９・21）

位置：Ｈ区10Ｎ-34グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI006、SD001に切られる。**規模：**主軸4.76ｍ、副軸5.44ｍ、確認面からの深度0.71ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-70°-Ｗ。**カマド：**西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖



第50図　SI005



第51図　SI005カマド

部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.34m突出する。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央から東西方向にかけて硬化している。硬化面の一部では炭化物の広がりがみられた。

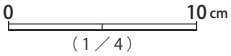
時期：重複および出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマドが検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積した状況を示す。

遺物：土師器116.0 ｇが出土した。

１は土師器の坏、東北系のいわゆる有稜坏である。内外面に緻密なヘラミガキが施される。





第52図　SI005出土遺物

第22表　SI005出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土中層	口　径：(13.0) 底　径：　－ 器　高：　3.1 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の1/3	

SI006（第53～55図、第23表、図版９・21）

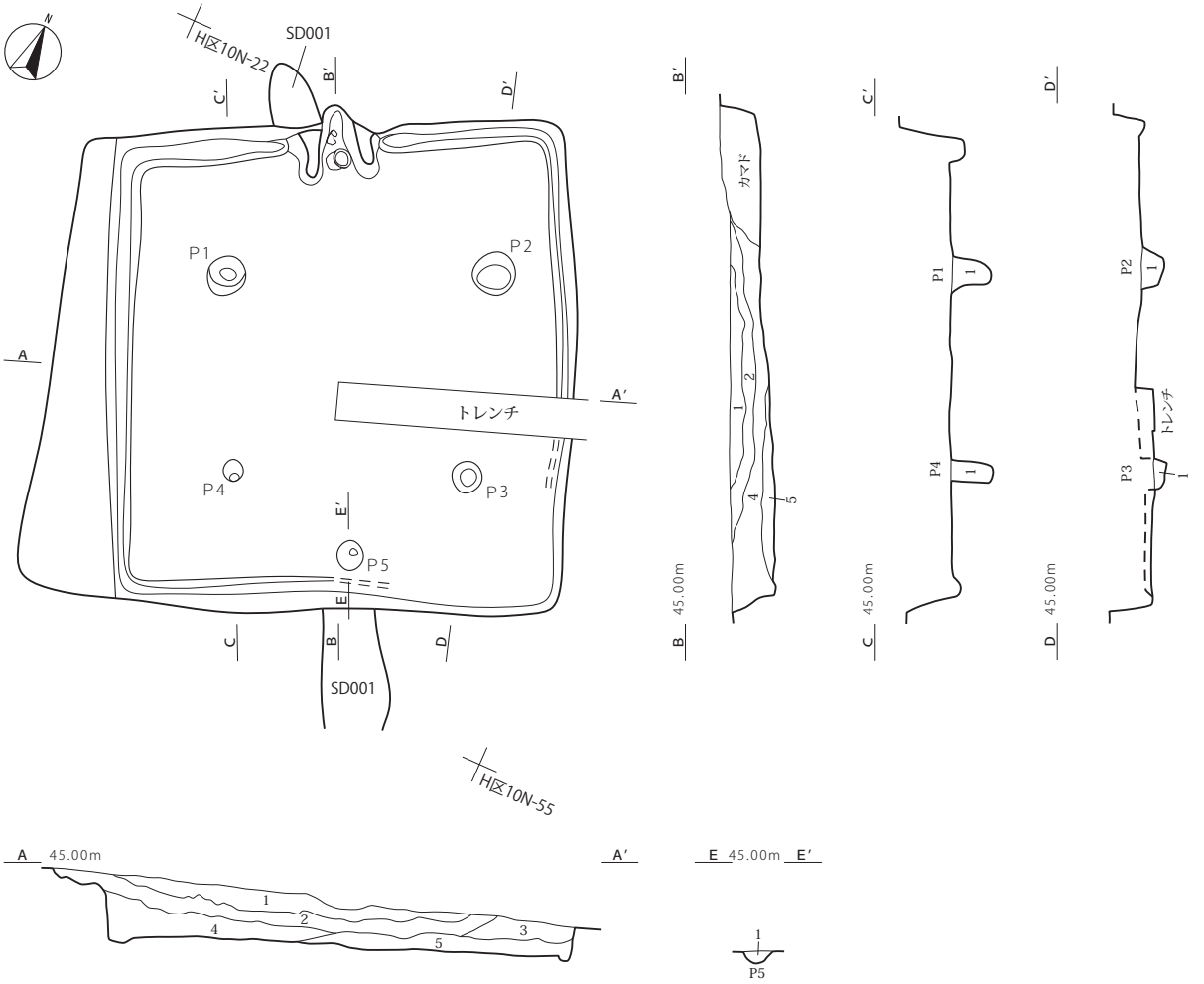
位置：H区10Ｎ-33グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI005を切り、SD001に切られる。**規模：**主軸5.48ｍ、副軸5.04ｍ、確認面からの深度0.75ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-24°-Ｗ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から急角度で立ち上がり、壁面から約0.19m突出する。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で柱間は主軸方向2.20ｍ、副軸方向2.64ｍ。Ｐ５は主軸線上、カマドの対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は南東隅の掘りすぎた部分を除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：掘削時に、SI005と重複する南東隅の床面を掘りすぎてしまっているが、床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド内から坏（２）、甕（３・４）が出土し、このうち（３）は燃焼部上から正位での出土である。竪穴建物の西壁上端は埋没過程で崩落し、外側に広がっている。斜面地のため覆土最上層は、実際の平面プランより外側まで広がっており、固結火山灰土塊を含む黒色土が比較的厚く堆積している。

遺物：土師器3,855.0g、須恵器9.0g、石器・石製品4.00gが出土した。

１～４は土師器で、１・２は坏、３・４は甕である。１は内面に黒色処理が施される。



1　黒褐色土(10YR2/2)　固結火山灰土塊中量、褐色土ブロックφ10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、黒褐色土粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
5　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性弱い。しまり強い。

P1
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、黒褐色土粒子を少量含む。粘性あり。しまり弱い。

P2
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロック中量含む。粘性あり。しまり弱い。

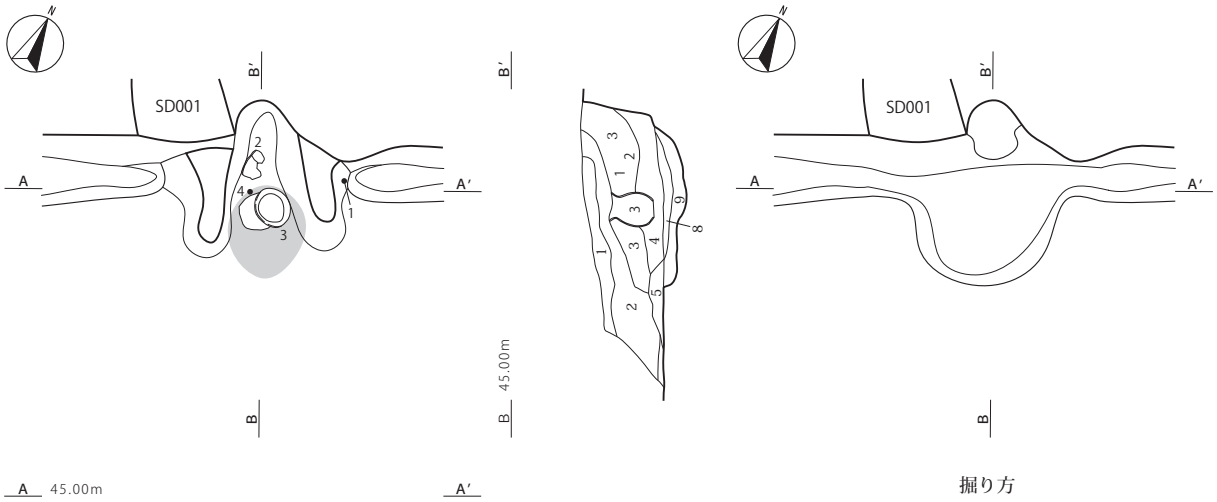
P3
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、ロームブロック多量、焼土ブロックφ1～3mm、炭化物中量含む。粘性あり。しまりあり。

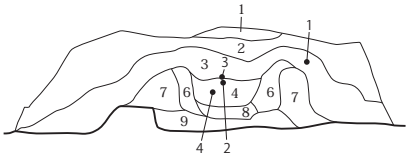
P4
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、ロームブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。

P5
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第53図　SI006

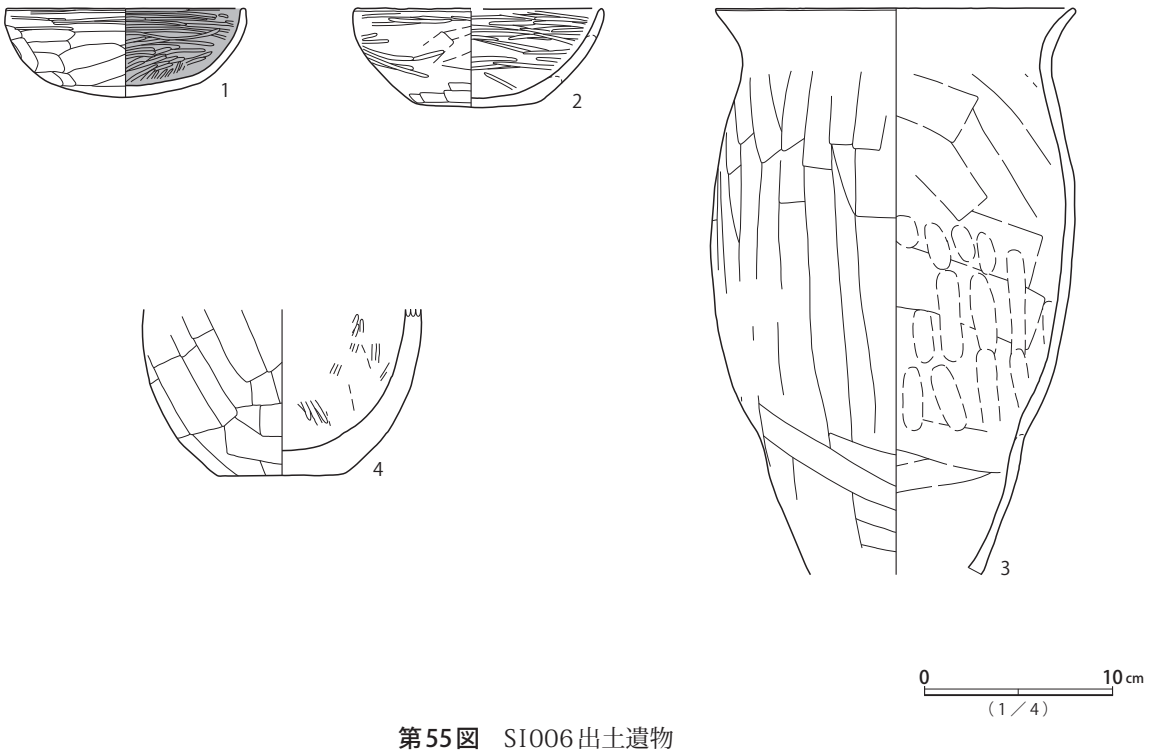




1	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子、山砂少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	山砂中量、焼土ブロックφ１～３mm、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黄褐色土(2.5Y5/4)	山砂多量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	明赤褐色砂(2.5YR5/6)	焼土ブロックφ１～３mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。
5	黒褐色土(10YR3/2)	焼土ブロックφ１～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	山砂多量、焼土ブロックφ～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。カマド袖。
7	オリーブ色土(5Y5/4)	山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子、焼土ブロックφ１～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
9	黄褐色土(10YR5/6)	ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第54図　SI006カマド



0　10cm
（1／4）

第55図　SI006出土遺物

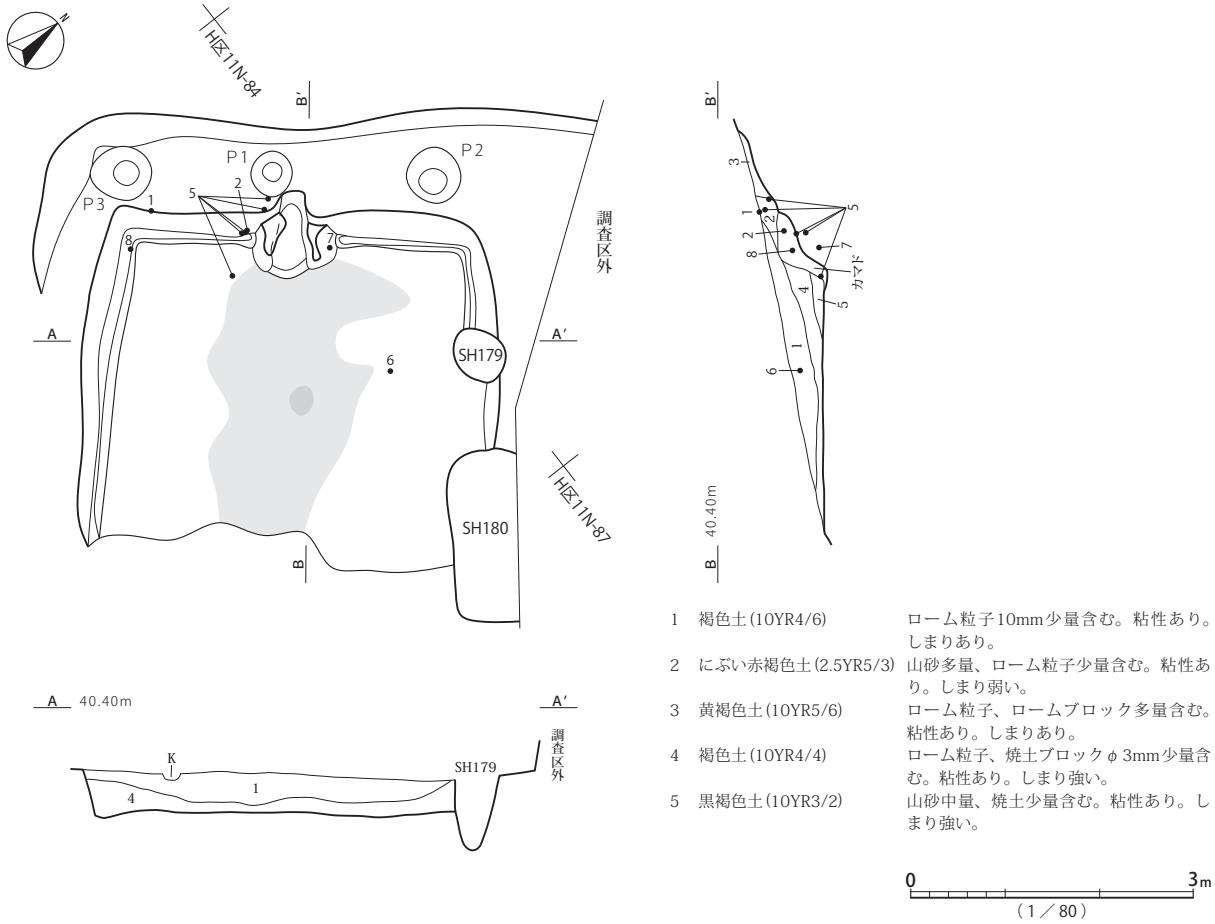
第23表　SI006出土土器観察表

単位：cm

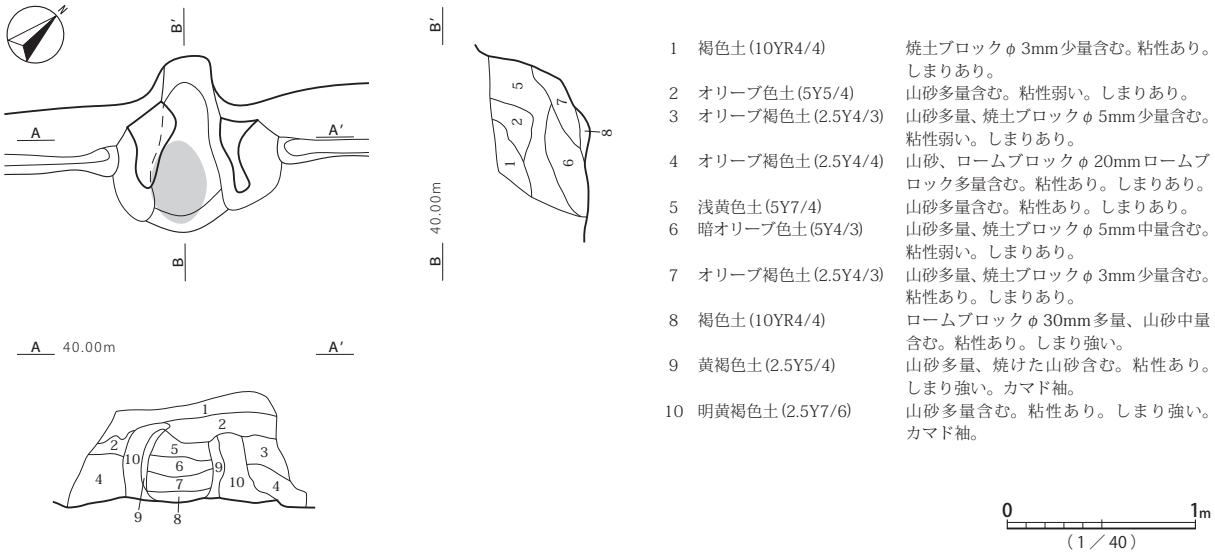
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土中層	口　径：12.6 底　径：7.5 器　高：4.7 最大径：12.8	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の1/2	
2	土師器 坏	カマド	口　径：13.0 底　径：6.8 器　高：5.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
3	土師器 甕	カマド	口　径：19.0 底　径：－ 器　高：[30.0] 最大径：19.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ・指頭圧痕	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の2/3	
4	土師器 甕	カマド	口　径：－ 底　径：6.4 器　高：[8.8] 最大径：－	外面：胴部～底部ヘラケズリ 内面：胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/3	

SI007（第56～59図、第24～26表、図版９・21・22・27・28）

位置：H区11N-85グリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側は流失している。**規模：**主軸（4.04）m、副軸4.44m、確認面からの深度0.85m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-52°-W。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.22m突出



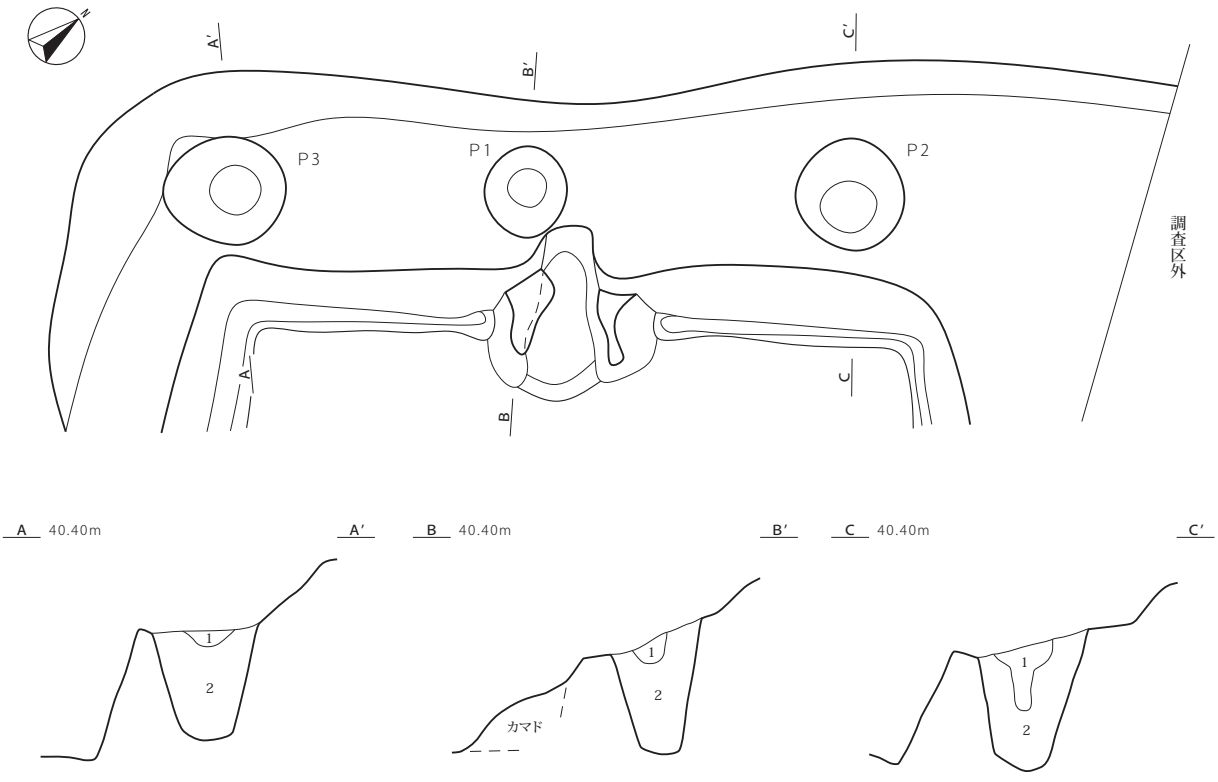
第56図　SI007



1	褐色土(10YR4/4)	焼土ブロックφ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	オリーブ色土(5Y5/4)	山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	山砂多量、焼土ブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
4	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	山砂、ロームブロックφ20mmロームブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。
5	浅黄色土(5Y7/4)	山砂多量含む。粘性あり。しまりあり。
6	暗オリーブ色土(5Y4/3)	山砂多量、焼土ブロックφ5mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
7	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	山砂多量、焼土ブロックφ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ30mm多量、山砂中量含む。粘性あり。しまり強い。
9	黄褐色土(2.5Y5/4)	山砂多量、焼けた山砂含む。粘性あり。しまり強い。カマド袖。
10	明黄褐色土(2.5Y7/6)	山砂多量含む。粘性あり。しまり強い。カマド袖。

0　1m
（1／40）

第57図　SI007カマド



P1
1　褐色土(10YR4/4)　焼土細粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。しまり強い。

P2
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。2層よりもやや明るい。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。

P3
1　褐色土(10YR4/4)　炭化物粒子中量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子、ロームブロックφ30～100mm多量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第58図　SI007P1～P3

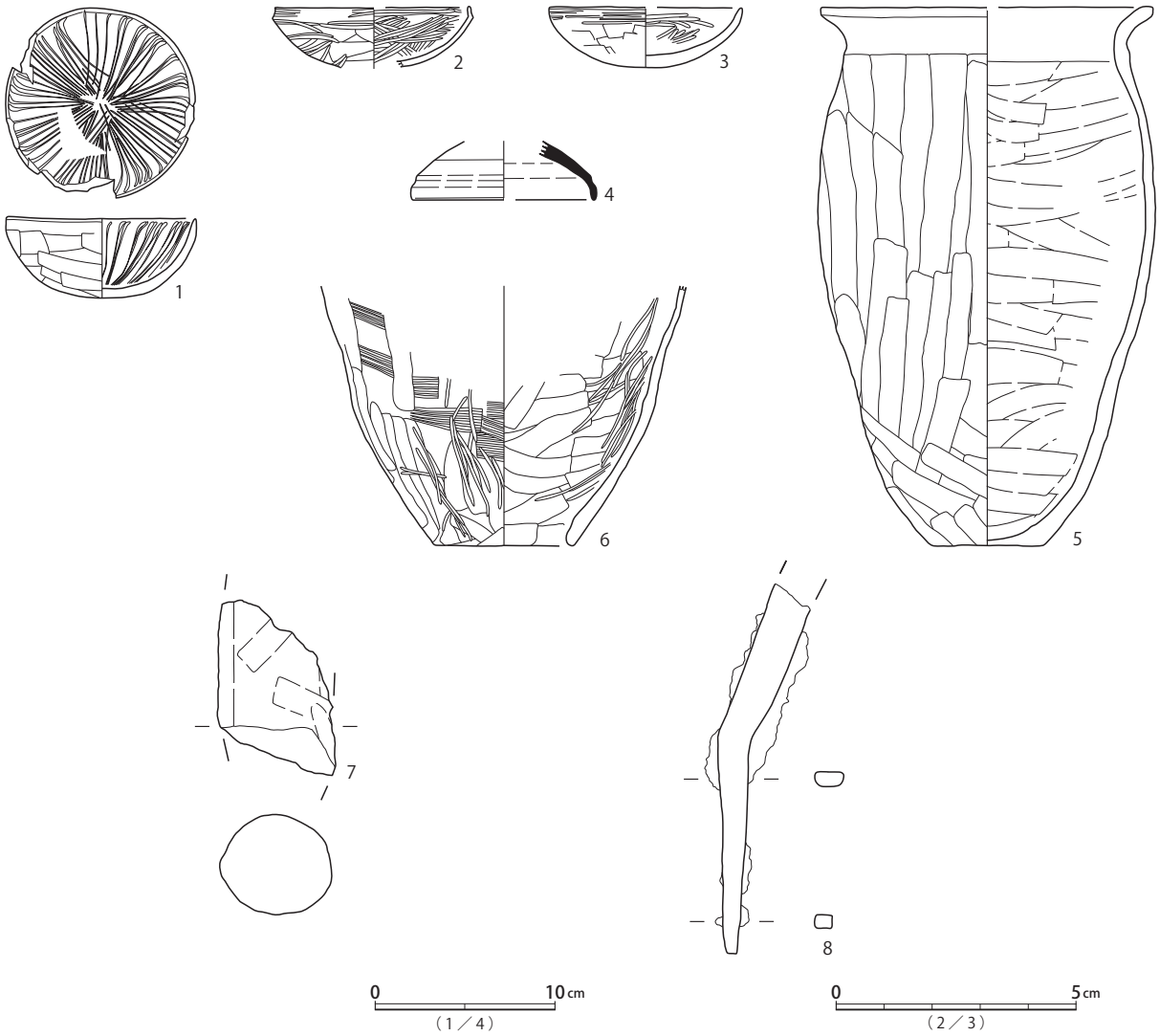
する。**施設：**ピットが３基検出された。竪穴建物の西側で、ふた回りほど大きな掘り込みと、壁面に並行したＰ１～Ｐ３が検出されている。屋根を受ける掘り込みと、屋根を支える竪穴外柱穴と推測される。竪穴外も含めた規模は、主軸方向（4.96）m、副軸方向（5.92）m、確認面からの深度1.18mである。周溝は南壁と東壁の一部を除いて全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央から東西方向にかけて硬化している。

時期：重複および出土遺物から古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：尾根側の屋根を受ける掘り込みと竪穴外柱穴を持つ建物である。カマド、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。カマド周辺から坏（２）、甕（５）、土製支脚（７）が出土している。覆土は、尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土師器5,685.6g、須恵器17.9g、土製品253.3g、金属製品5.50gが出土した。

１～３・５・６は土師器で、１～３は坏、５は甕、６は甑である。１は内面に細い放射状暗文が施される。４は須恵器の坏蓋で、Ｐ３からの出土である。７は土製支脚である。８は先端部を欠損しているが、柳葉形無頸鏃と考えられる。



第59図　SI007出土遺物

第24表　SI007出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土上層	口　径：10.5 底　径：－ 器　高：4.4 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 坏	覆土中層	口　径：(11.0) 底　径：－ 器　高：[3.5] 最大径：(11.6)	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～体部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄褐 残存度：口縁部～体部の1/3	
3	土師器 坏	覆土中層	口　径：(10.6) 底　径：－ 器　高：3.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	
4	須恵器 坏蓋	Ｐ３覆土 中層	口　径：(10.0) 底　径：－ 器　高：[3.2] 最大径：－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰 残存度：天井部～天井端部の1/3	
5	土師器 甕	覆土上～ 下層	口　径：(17.9) 底　径：6.0 器　高：[29.9] 最大径：(18.6)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	
6	土師器 甑	覆土中層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[14.3] 最大径：－	外面：胴部～底部ハケメ後ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ	胎　土：石英・白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：胴部～底部の破片	

第25表　SI007出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
7	支脚	覆土下層	長さ：[9.7]　幅：[6.6]　厚さ：5.6	102.2	円筒形

第26表　SI007出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片 腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
8	柳葉形無頸鏃	覆土下層	[76.0]	[33.0]	－	9.0	3.0	－	－	－	－	－	45.0	7.0	3.0	5.50	

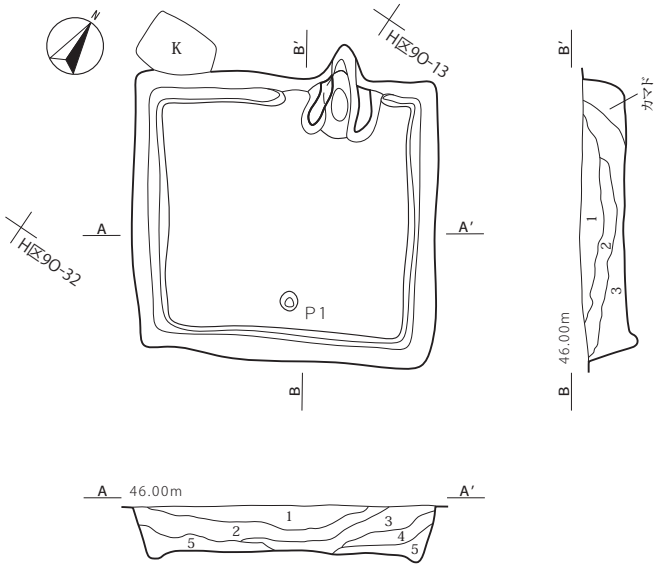
SI008（第60～62図、図版９）

位置：Ｈ区９Ｏ-23グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北西側の一部は撹乱される。**規模：**主軸3.44ｍ、副軸3.24ｍ、確認面からの深度0.66ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-34°-Ｗ。**カマド：**北西壁北隅側に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.33m突出する。**施設：**ピットが１基検出された。Ｐ１は主軸線上、カマドの対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物の出土が少なく断定はできないが、周囲の竪穴建物と同様の７世紀代と考えられる。

所見：１辺３ｍ程度の小型の竪穴建物。床面は完存する。カマド、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は、ロームブロックが多量に混入する層や、炭化物が混入する層が互層をなしていることから、人為堆積の可能性がある。

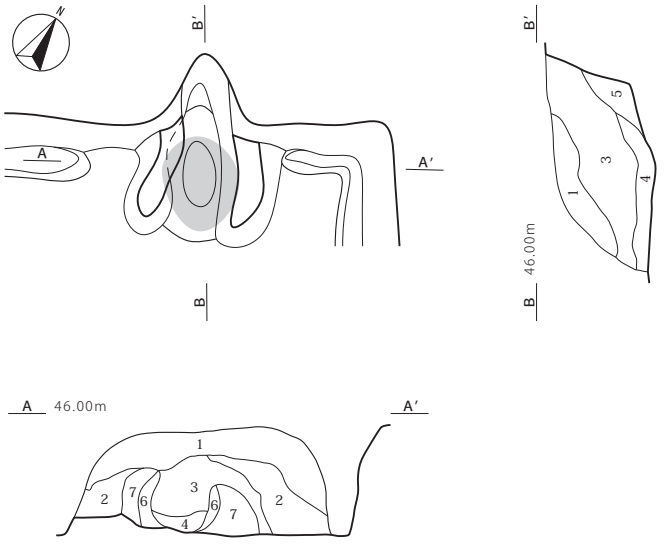
遺物：土師器253.0g、縄文土器25.0g、土製品82.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロックφ10～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロックφ20～30mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、ロームブロックφ20～30mm多量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

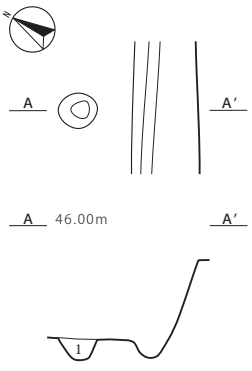
第60図　SI008



1　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　山砂中量、ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄色土(2.5Y6/4)　山砂多量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　山砂多量、焼けた山砂ブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
5　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　山砂、ローム粒子2～3mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
6　赤褐色土(2.5YR4/6)　焼けた山砂多量含む。粘性弱い。しまり強い。カマド袖。
7　にぶい黄色土(2.5Y6/3)　山砂多量含む。粘性あり。しまりあり。カマド袖。

0　1m
（1／40）

第61図　SI008カマド



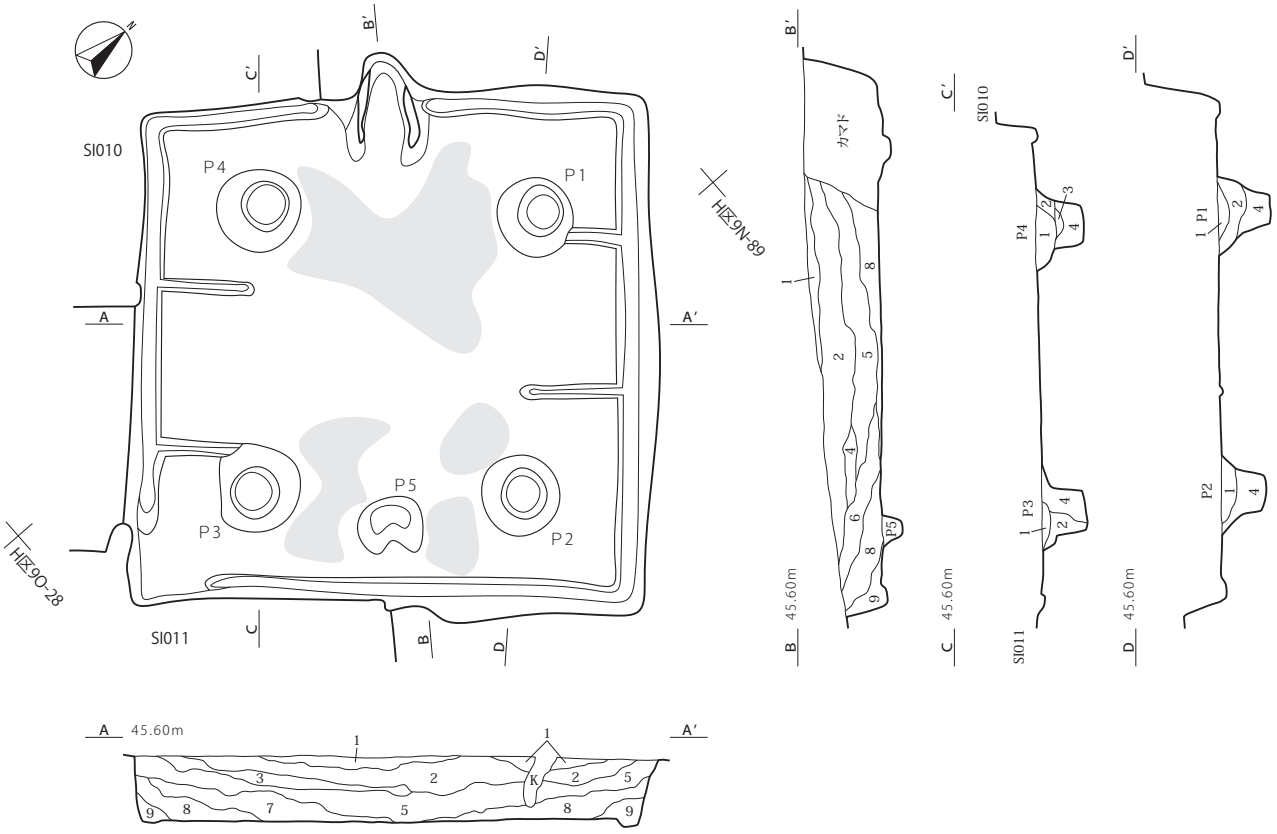
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第62図　SI008P1

SI009（第63～66図、第27・28表、図版９・10・22・27）

位置：Ｈ区９Ｎ-98グリッドを中心とする台地の南東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI010・SI011に切られる。**規模：**主軸6.04ｍ、副軸5.68ｍ、確認面からの深度0.89ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-49°-Ｗ。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.44m突出する。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向3.20m、副軸方向3.00ｍ。Ｐ５は主軸線上、カマドの対面に位置し、壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。間仕切り溝が南西壁と北東壁から各２条検出された。対面の位置ではなく、やや軸をずらしており副軸方向に長さ約1.00mで各１条が主柱穴Ｐ１・Ｐ３に接している。周溝はカマドと南側の一部を除いて、全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、カマドとＰ５の周辺が硬化している。



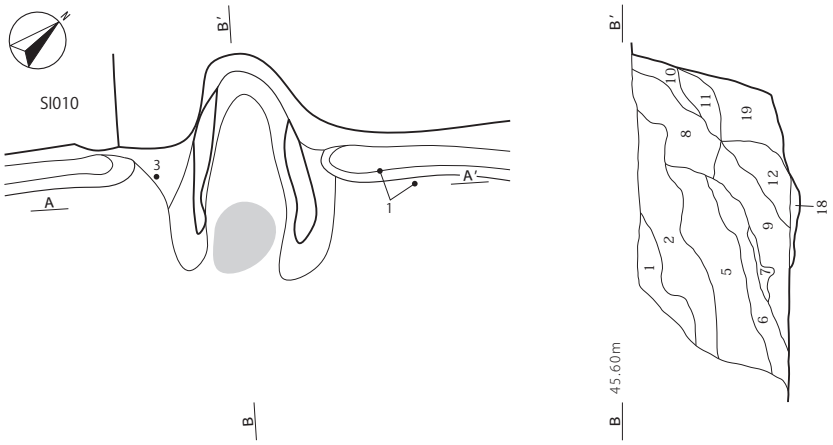
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒色砂(10YR2/1)　焼土、炭化物多量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ１～５mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～５mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)　ロームブロックφ１～30mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
9　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

P1～P4

1　黒褐色土(2.5Y3/2)　ロームブロック１～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄色砂(2.5Y6/2)　山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第63図　SI009

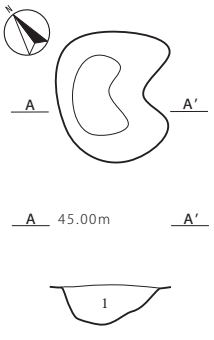


掘り方

1	黒褐色土(10YR3/2)	黒色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。
3	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	山砂少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	褐色土(10YR4/4)	粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/3)	山砂、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	黄褐色砂(10YR5/6)	山砂、焼土多量含む。粘性弱い。しまりあり。
7	灰黄褐色砂(10YR4/2)	山砂、焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	山砂、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
9	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	焼土多量含む。粘性あり。しまりあり。崩落天井。
10	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
11	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。崩落天井。
12	灰黄色土(2.5Y6/2)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
13	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
14	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂多量含む。粘性あり。しまりあり。
15	暗褐色砂(10YR3/3)	山砂、焼土多量含む。粘性弱い。しまり強い。
16	褐色砂(10YR4/4)	山砂多量、焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
17	灰黄色砂(2.5Y6/2)	山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
18	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ロームブロックφ５～20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
19	灰黄色土(2.5Y6/2)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第64図　SI009カマド



1　黒褐色土(2.5Y3/2)　ロームブロックφ１～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

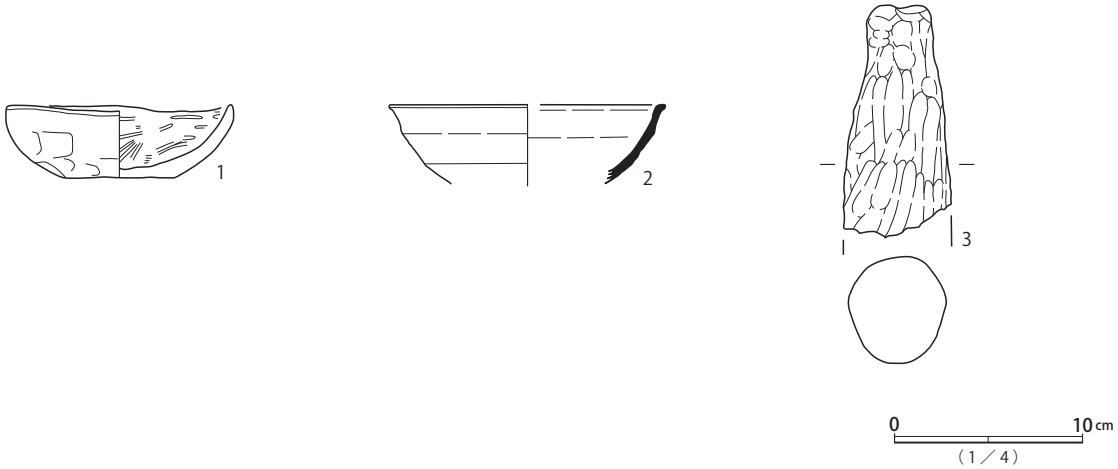
第65図　SI009P5

時期：重複および出土遺物から古墳時代終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、間仕切り溝、周溝が検出された。カマド脇から坏（１）、土製支脚（３）が出土している。覆土は、ロームブロックが多量に混入する層や、炭化物が混入する層が互層をなしていることから、人為堆積の可能性がある。

遺物：土師器2,623.2g、須恵器31.5g、土製品252.5gが出土した。

１は土師器の坏で内外面とも磨耗が著しい。２は須恵器の高坏である。３は土製支脚である。表面は細かくヘラ調整される。



第66図　SI009出土遺物

第27表　SI009出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：11.8 底　径：5.9 器　高：3.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
2	須恵器 高坏	覆土中層	口　径：(14.0) 脚　径：－ 器　高：[4.2] 最大径：－	外面：坏部ロクロ調整、接合部回転ヘラケズリ 内面：坏部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：坏部～接合部の破片	

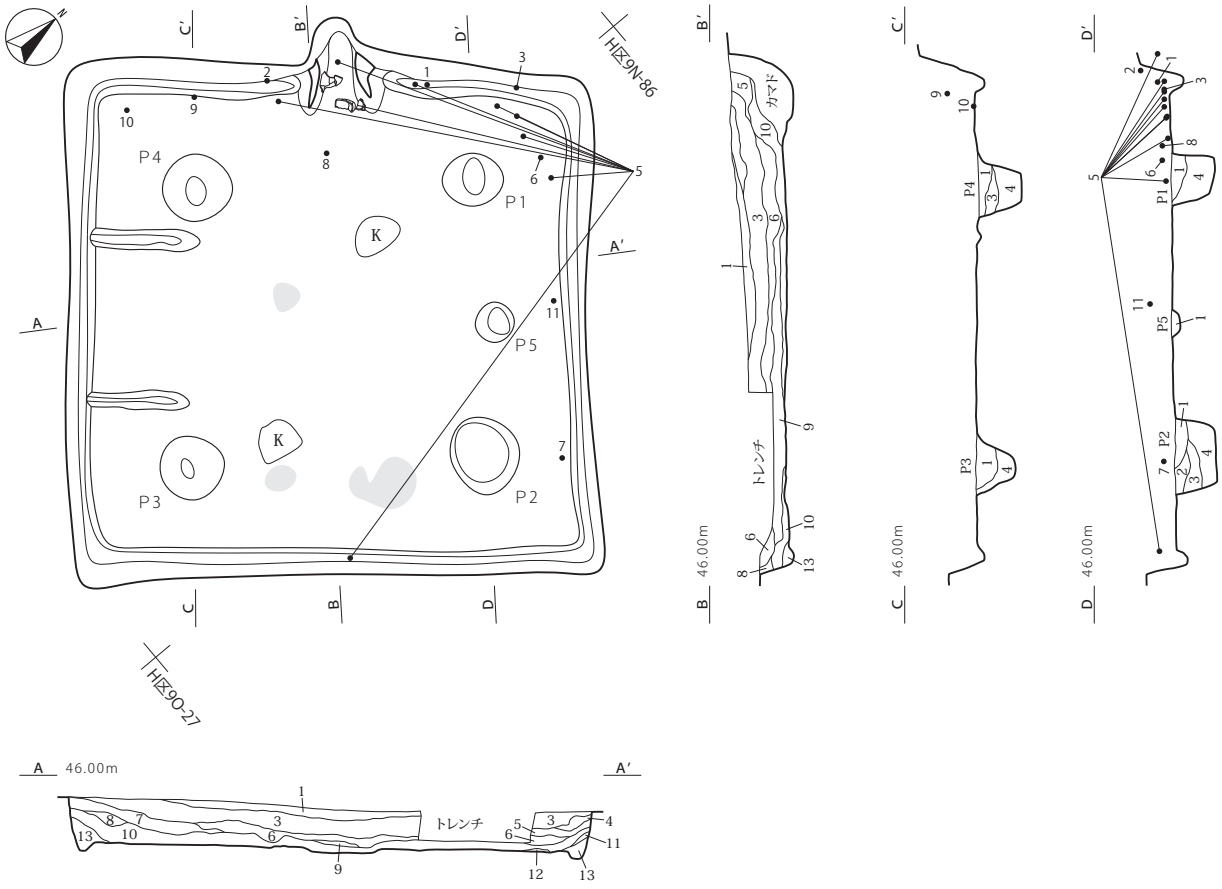
第28表　SI009出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
3	支脚	覆土下層	長さ：[12.3]　幅：[5.7]　厚さ：5.7	252.5	円筒形

SI010（第67～69図、第29～31表、図版10・22・27・28）

位置：H区９O-06グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。南東側にSM003が隣接する。**重複：**SI009を切る。**規模：**主軸6.04ｍ、副軸5.76ｍ、確認面からの深度0.84ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N-50°-W。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、壁面から約0.48m突出する。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸・副軸方向ともに3.00ｍ。Ｐ５は検出位置から、出入り口施設に伴う可能性があるが、カマドを構築する壁面の対面にない点は、他の竪穴建物と異なる。南西壁で２条の間仕切り溝が検出された。副軸方向に長さ約1.10ｍでＰ３・Ｐ４の間に位置する。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。



1	黒色砂(10YR2/1)	固結火山灰土塊多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	黒褐色土(10YR2/2)	固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3	黒褐色土(10YR3/1)	黄褐色粘土ブロックφ１～５mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。
5	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
6	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	黒色土(2.5Y2/2)	粘性あり。しまり弱い。
9	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
10	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
11	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
12	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
13	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	粘性あり。しまり弱い。

P1～P5

1	黒褐色土(10YR3/1)	黒色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
3	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	ロームブロックφ１～20mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

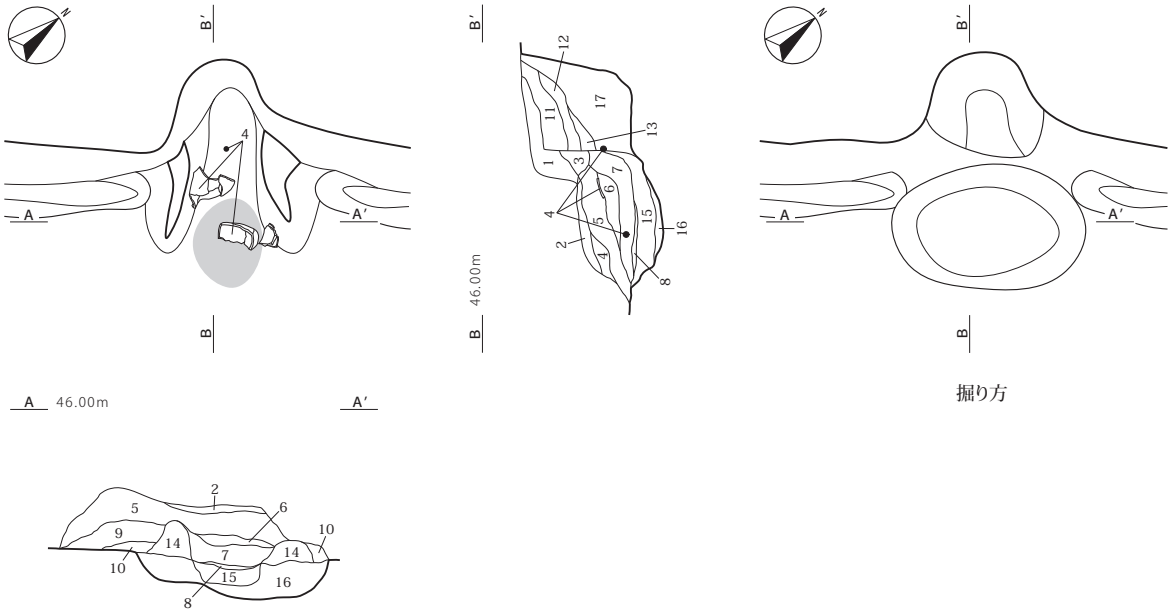
第67図　SI010

時期：出土遺物から古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、間仕切り溝、周溝が検出された。カマド内から甕（４）が出土している。覆土はレンズ状に堆積し自然埋没した状況で、最上層は固結火山灰土塊を多量に含んでいる。遺物は北西部からの出土が顕著であった。

遺物：土師器9,246.7g、須恵器340.7g、石製品2.56g、金属製品152.80g、鉄滓37.00gが出土した。

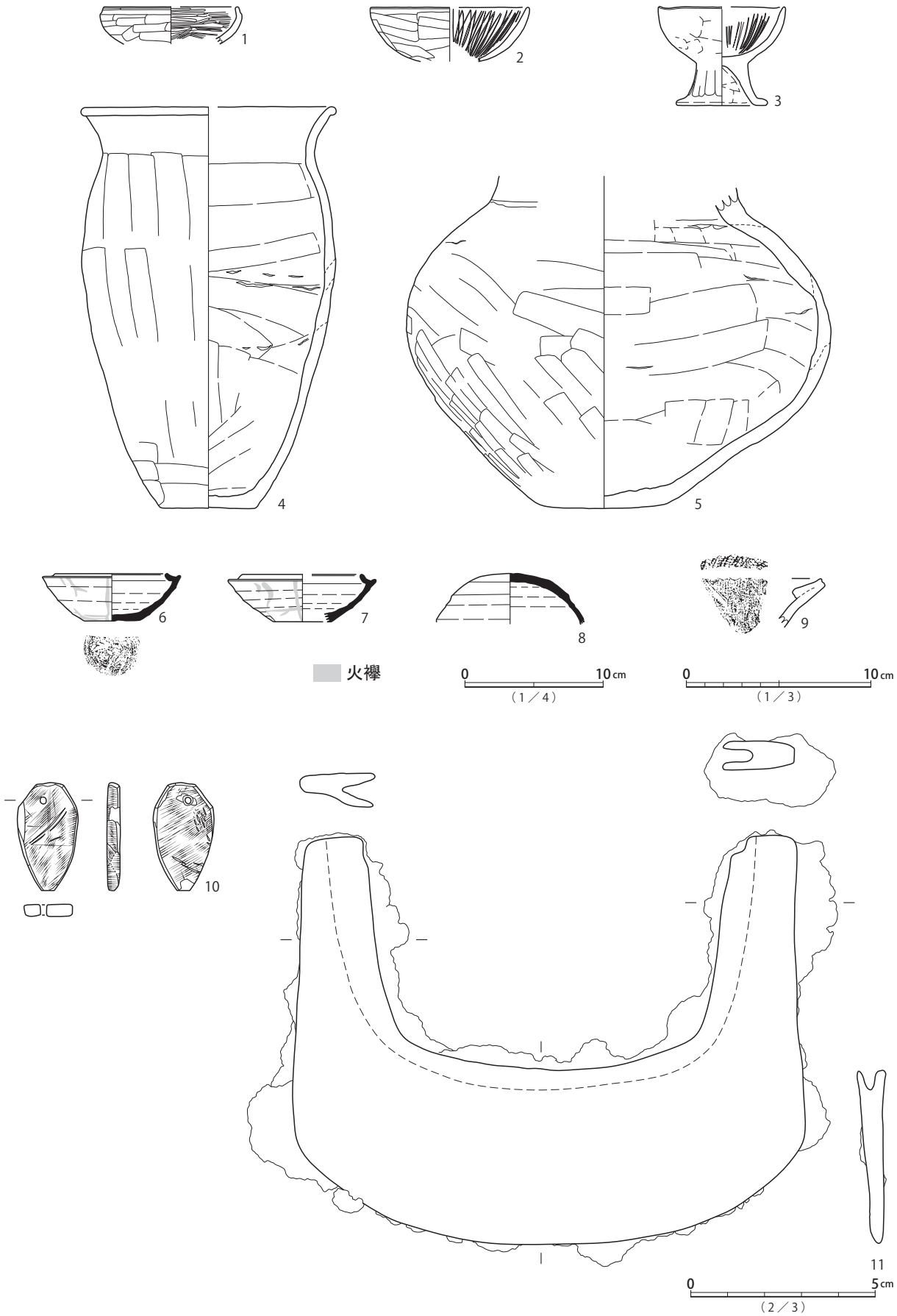
１～５は土師器で、１・２は坏、３は高坏、４・５は甕である。２・３は内面に放射状暗文が施される。５は胴部が大きく張る器形である。６～８は須恵器で、６・７は坏身、８は坏蓋である。６・７は外面に火襷がみられる。７は床面からの出土である。９は混入と考えられる弥生時代終末～古墳時代初頭の壺の口縁部である。10は蛇紋岩製の剣形模造品で、床面からの出土である。11は鉄製の鋤先である。正面は浅いＵ字状で、幅は13.5cmである。断面はＹ字状で、刃部をもつ素材の上部に鉄板を貼り付け、取り付け部の溝を作り出している。



1	黒褐色土(10YR3/1)	粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR2/2)	暗褐色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	黒褐色土(2.5Y3/1)	粘性あり。しまりあり。
5	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	焼土少量含む。粘性あり。しまり弱い。
7	暗褐色土(10YR3/3)	焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	褐色土(10YR4/4)	焼土多量含む。粘性弱い。しまり強い。
9	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
10	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
11	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまりあり。
12	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまり弱い。
13	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
14	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
15	黒褐色土(10YR2/3)	ロームブロックφ１～10mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
16	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ１～10mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
17	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ１～10mm、焼土、炭化物多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第68図　SI010カマド



第69図　SI010出土遺物

第29表　SI010出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：(9.6) 底　径：－ 器　高：[2.7] 最大径：(10.2)	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の破片	
2	土師器 坏	覆土上層	口　径：(11.2) 脚　径：－ 器　高：[3.9] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ後放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部の破片	坏部内面放射状暗文
3	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(9.0) 脚　径：6.4 器　高：7.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ後放射状暗文、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の1/4	坏部内面放射状暗文
4	土師器 甕	カマド	口　径：(17.8) 底　径：6.8 器　高：28.9 最大径：18.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
5	土師器 甕	カマド・ 床面	口　径：－ 底　径：8.6 器　高：[24.0] 最大径：30.7	外面：頸部ヨコナデ、肩部～底部ヘラケズリ斜位 内面：肩部～底部ヘラナデ横位	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部の4/5	
6	須恵器 坏身	覆土下層	口　径：8.0 底　径：3.8 器　高：3.4 最大径：10.0	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部1/3回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：黄灰 残存度：口縁部～底部の1/2	体部外面火だすき
7	須恵器 坏身	床面	口　径：(8.6) 底　径：(4.2) 器　高：3.4 最大径：(10.7)	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部1/3～底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：黄灰 残存度：口縁部～底部の1/2	体部外面火だすき
8	須恵器 坏蓋	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[3.7] 最大径：－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部2/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：長石 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：天井部～天井端部の2/3	
9	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[2.6] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部布目キザミ、折り返し部ハケ縦位 内面：口縁部ナデ	胎　土：石英・角閃石 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部の破片	

第30表　SI010出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
10	剣形模造品	蛇紋岩	床面	[2.29]	1.63	0.36	2.56	上部に穿孔、孔径0.25㎝

第31表　SI010出土金属製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
11	鋤先	覆土中層	11.0	13.8	0.8	152.80	溝の深さ0.9cm

SI011（第70～72図、第32・33表、図版10・22・23・27）

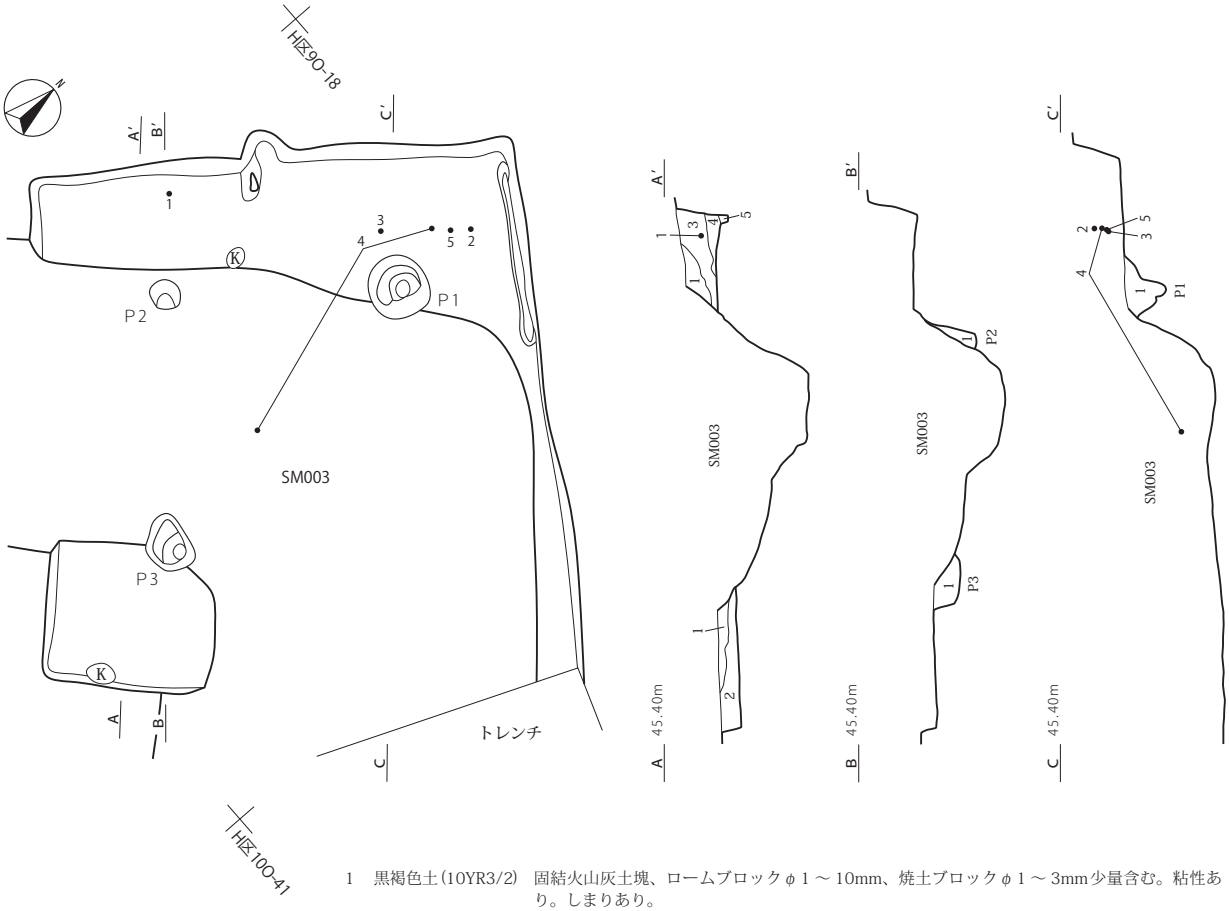
位置：H区９O-29グリッドを中心とする台地の南東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI009を切り、SM003に切られる。南側の一部は撹乱される。**規模：**主軸5.96ｍ、副軸5.92ｍ、確認面からの深度0.84ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-49°-Ｗ。**カマド：**北西壁中央に位置する。煙道部と左袖のみが残存し、燃焼部は焼土が明瞭でなかった。煙道は壁面から約0.27m突出する。**施設：**ピットが３基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸方向2.80ｍ、副軸方向2.52ｍ。周溝は東壁の一部のみで検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：カマド、主柱穴、周溝が検出された。主柱穴の残り１基はSM003周溝で削平されたと考えられる。覆土はレンズ状に堆積し自然埋没した状況を示す。

遺物：土師器2,163.5g、土製品673.5gが出土した。

１～４は土師器で、１・２は東北系のいわゆる有稜坏である。４は甕である。５は土製支脚である。

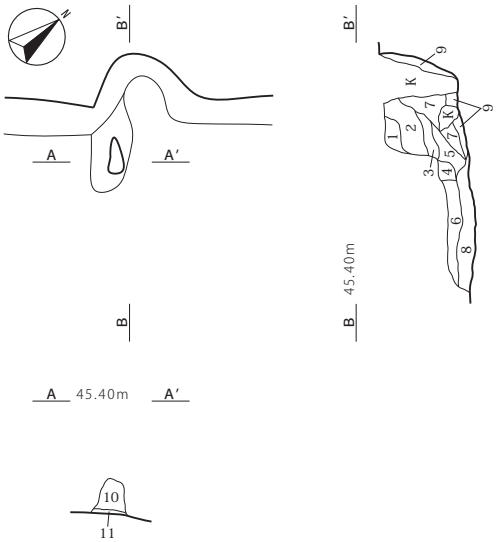


1　黒褐色土(10YR3/2)　固結火山灰土塊、ロームブロックφ１～10mm、焼土ブロックφ１～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロック中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロック、焼土ブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　山砂、ローム粒子、焼土ブロックφ１～3mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり弱い。

P1～P3
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

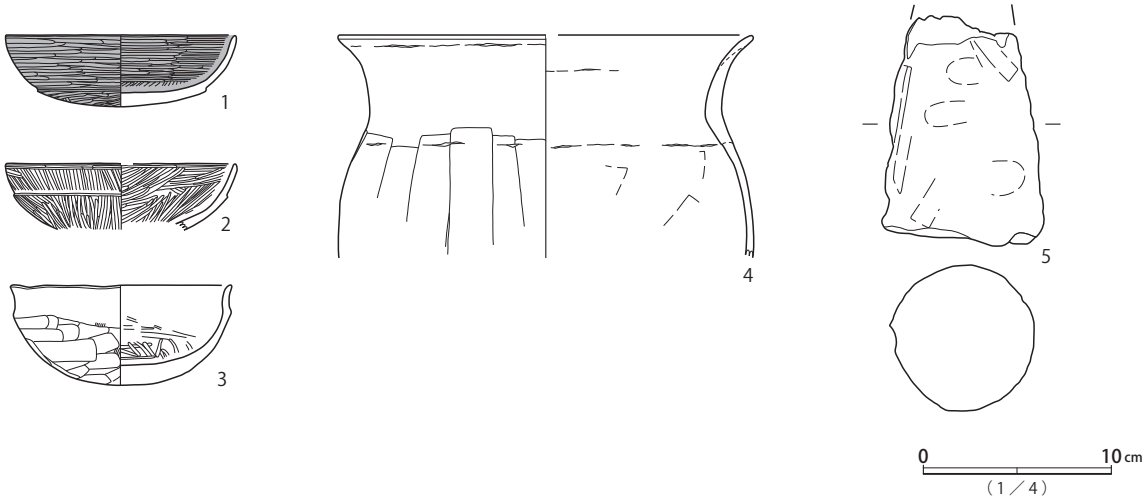
第70図　SI011



1　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　褐色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　山砂、褐色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黄褐色砂(2.5Y5/3)　粘性弱い。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色砂(10YR4/3)　粘性弱い。しまり弱い。
5　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
6　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　山砂、焼土を少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　褐色粘土ブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。
8　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
9　暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)　ロームブロックφ１～20mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
10　オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)　山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
11　暗灰黄色砂(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～20mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。

0　1m
（1／40）

第71図　SI011カマド



（1／4）

第72図　SI011出土遺物

第32表　SI011出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土中層	口　径：(12.0) 底　径：　－ 器　高：　3.8 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラミガキ、黒色処理 内面：口縁部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部～体部の2/3	
2	土師器 坏	覆土中層	口　径：(12.0) 底　径：　－ 器　高：　[3.5] 最大径：　－	外面：口縁部～体部ヘラミガキ 内面：口縁部～体部ヘラミガキ	胎　土：金雲母 焼　成：良好 色　調：褐 残存度：口縁部～体部の1/3	
3	土師器 坏	覆土下層	口　径：　11.5 底　径：　－ 器　高：　5.3 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：完存	
4	土師器 甕	覆土下層	口　径：(21.6) 底　径：　－ 器　高：[11.8] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

第33表　SI011出土土製品観察表

単位：cm

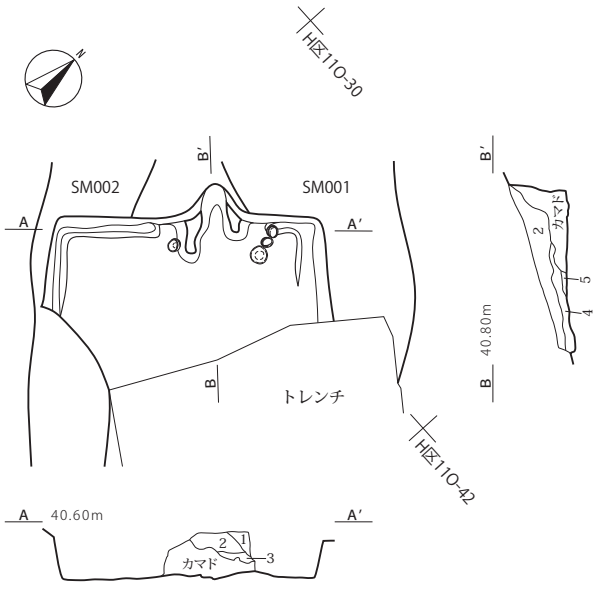
番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
5	支脚	覆土中層	長さ：[12.2]　幅：8.6　厚さ：7.7	673.5	円筒形

SI012（第73～75図、第34表、図版10・11・23）

位置：H区11O-40グリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**重複：**SM001・SM002に切られる。**規模：**主軸（2.20）m、副軸3.08m、確認面からの深度0.73m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-48°-W。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から直線的に立ち上がり、壁面から約0.30m突出する。**施設：**周溝は残存部分ではカマドを除いて全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

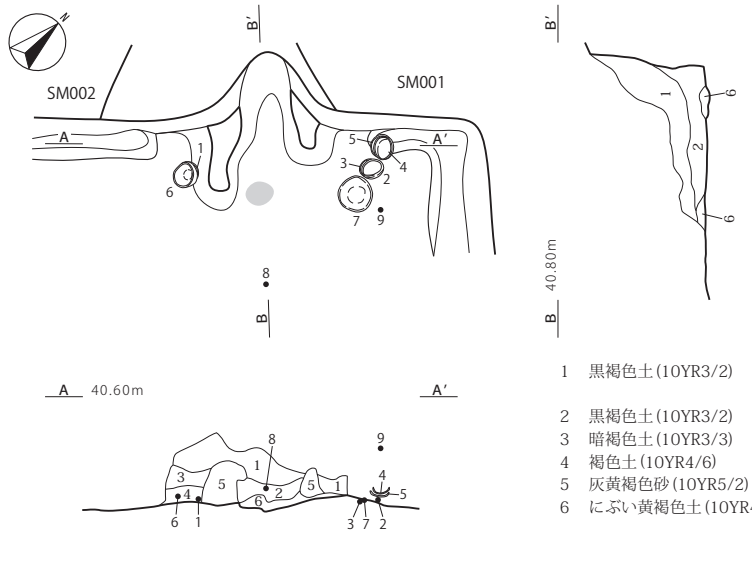
所見：カマド、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。カマド右袖の外側からは坏（２～５）、高坏（７）が、左袖の脇からは坏（１）、鉢（６）が出土している。坏と鉢はいずれも２個体が重なっ



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘土ブロックφ10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/6)　粗粒砂微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第73図　SI012



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまりあり。
5　灰黄褐色砂(10YR5/2)　炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。カマド袖。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

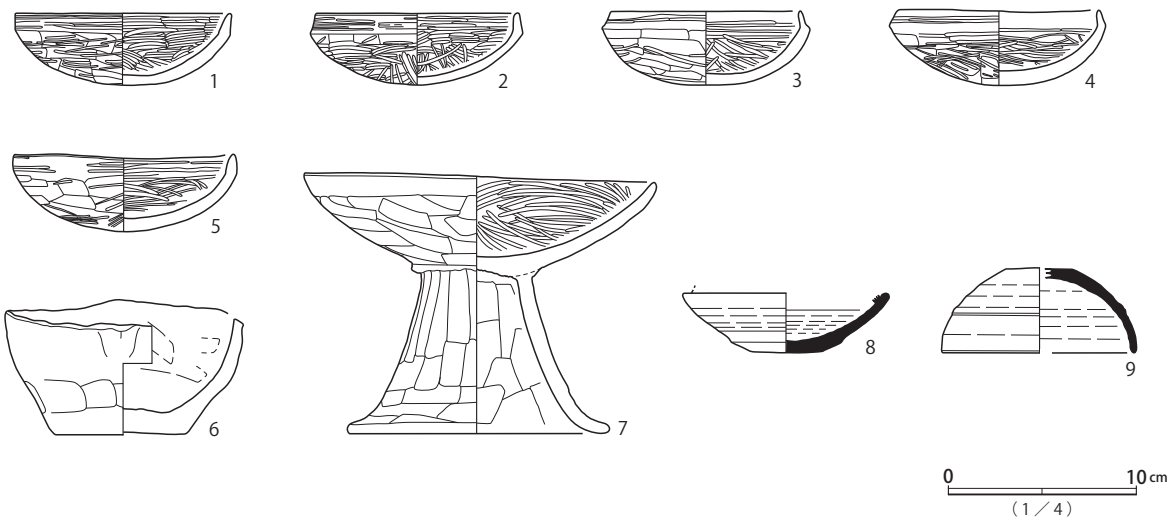
0　1m
（1／40）

第74図　SI012カマド

た状態で出土している。覆土は斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土師器2.035.5g、須恵器101.1gが出土した。

１～７は土師器で、１～５は坏、６は鉢、７は高坏である。坏は全て内外面にヘラミガキが施されている。６は口縁部が片口の注ぎ口状になっている。８は須恵器の坏身、９は須恵器の坏蓋である。



第75図　SI012出土遺物

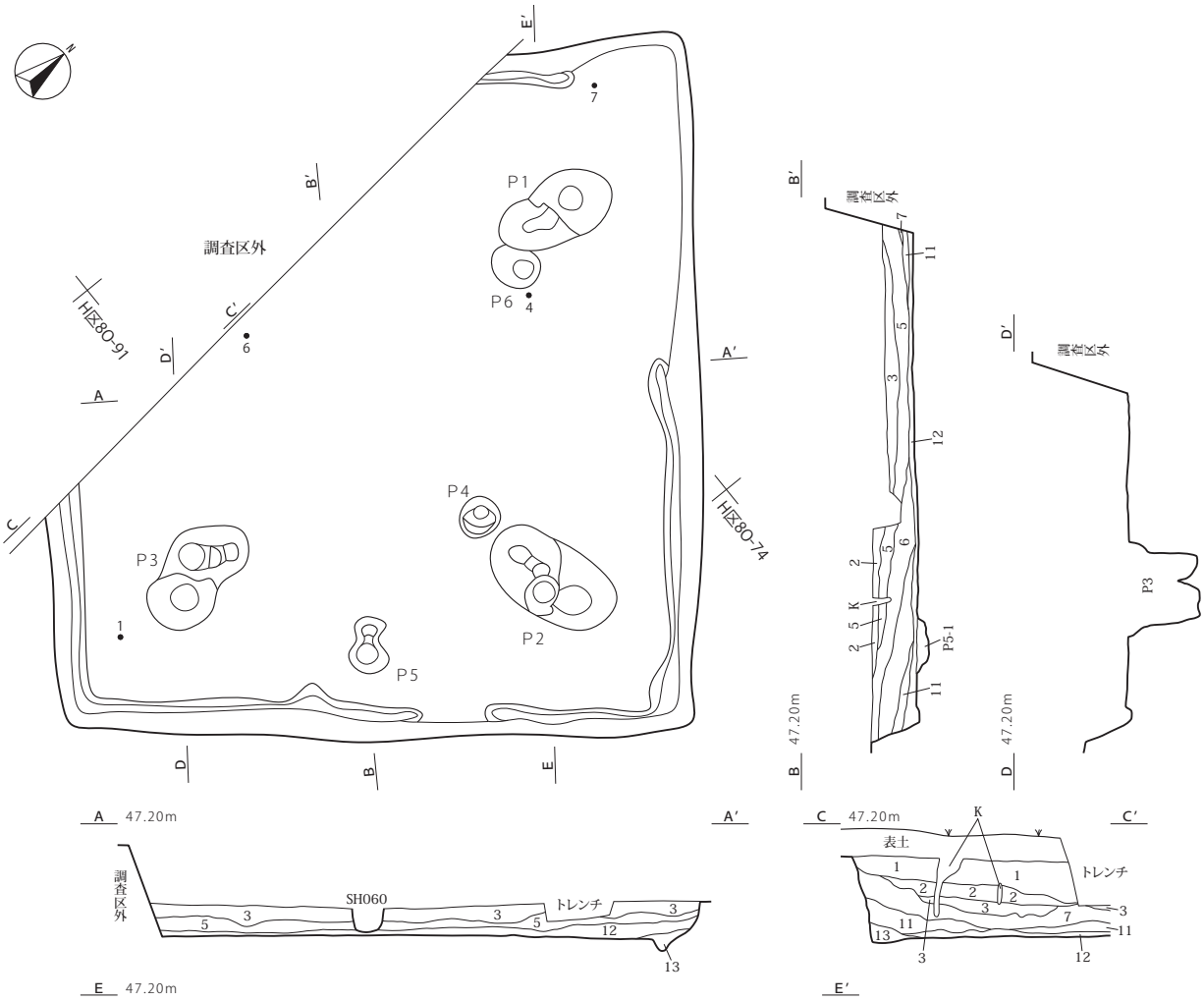
第34表　SI012出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	床面	口　径：11.3 底　径：－ 器　高：3.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
2	土師器 坏	床面	口　径：10.7 底　径：－ 器　高：3.8 最大径：11.3	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：完存	
3	土師器 坏	床面	口　径：10.0 底　径：－ 器　高：3.9 最大径：11.0	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：完存	
4	土師器 坏	床面	口　径：10.5 底　径：－ 器　高：4.0 最大径：11.4	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：完存	
5	土師器 坏	床面	口　径：11.6 底　径：－ 器　高：4.1 最大径：11.9	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
6	土師器 鉢	床面	口　径：12.0 底　径：6.9 器　高：7.1 最大径：－	特徴：片口 外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：完存	
7	土師器 高坏	床面	口　径：18.4 脚　径：－ 器　高：13.8 最大径：18.6	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
8	須恵器 坏身	覆土中層	口　径：－ 底　径：3.7 器　高：[3.2] 最大径：(11.0)	外面：体部～底部ロクロ調整後体部1/3～底部回転ヘラケズリ 内面：体部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：体部～底部の1/2	
9	須恵器 坏蓋	覆土中層	口　径：(10.0) 底　径：－ 器　高：4.5 最大径：－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰 残存度：天井部～天井端部の1/3	

SI013（第76 ～ 78図、第35 ～ 37表、図版11・23・27）

位置：H区８Ｏ-82グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は調査区外へ伸びる。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（7.64）m、副軸7.08ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-51°-Ｗ。**カマド：**検出されなかった。**施設：**ピットが



1	黒色土(10YR2/1)	固結火山灰土塊多量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	黒褐色土(10YR2/2)	黒色粘土ブロック少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(10YR3/1)	ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	黒褐色土(2.5Y3/2)	粘性あり。しまりあり。
6	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	黒褐色土(10YR3/1)	ロームブロックφ１～５mm、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)	ロームブロックφ１～５mm、焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。
9	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
10	褐色砂(10YR4/4)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
11	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～５mm、焼土、炭化物多量含む。粘性あり。しまりあり。
12	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
13	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～５mm、炭化物多量含む。粘性弱い。しまりあり。

P5

1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。

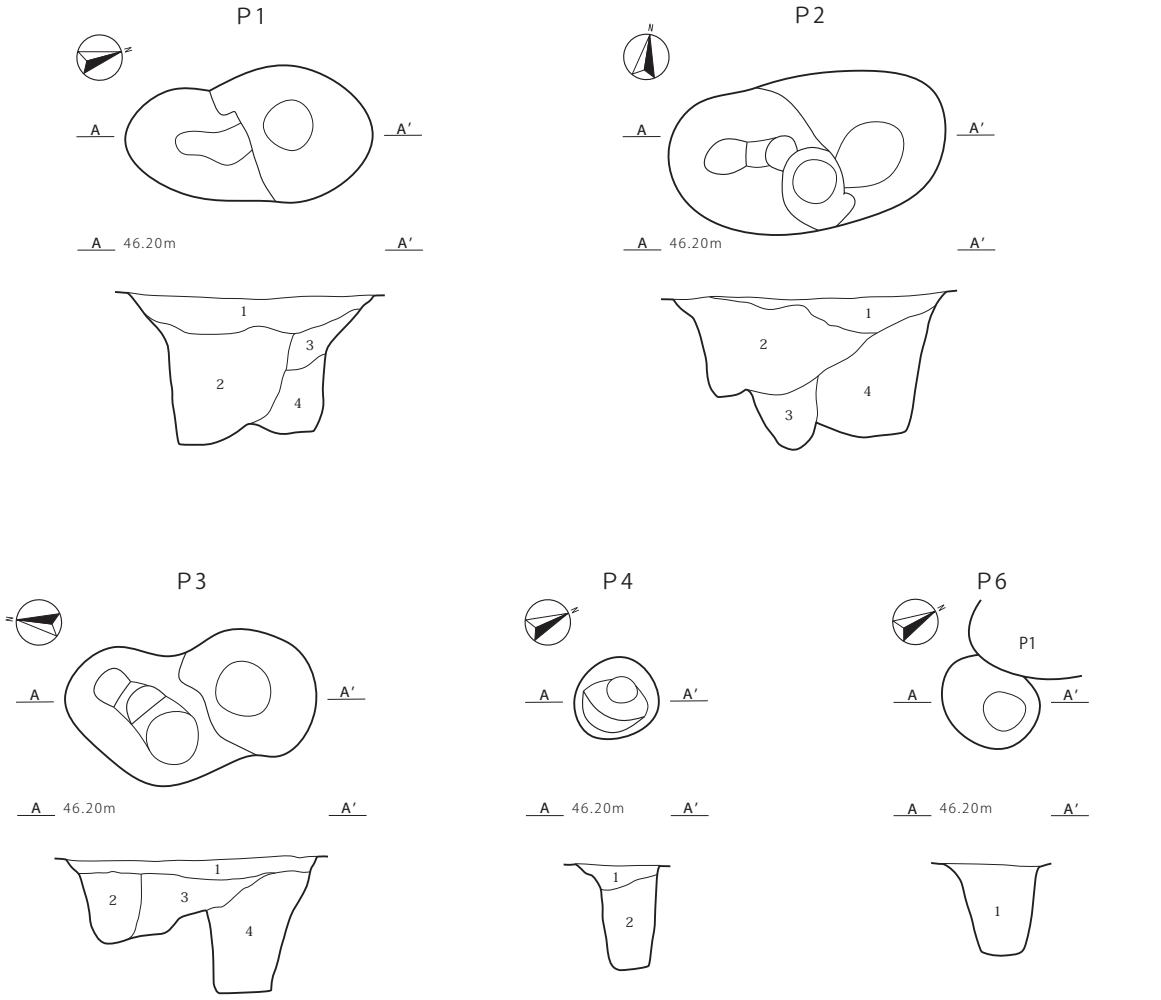
0　3m
（１／80）

第76図　SI013

６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸・副軸方向ともに4.24ｍ。周溝は北側と東壁の一部を除き、全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：１辺が７ｍを超える比較的規模の大きい竪穴建物で、主柱穴、周溝が検出された。カマドは検出されていないが、調査区外へ伸びる北西壁に存在すると推測される。覆土はレンズ状に堆積し自然埋没した状況で最上層は固結火山灰土塊を含んでいる。



P1～P3

1	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ１～5mm、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

P4

1	黒褐色土(10YR3/1)	炭化物少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。

P6

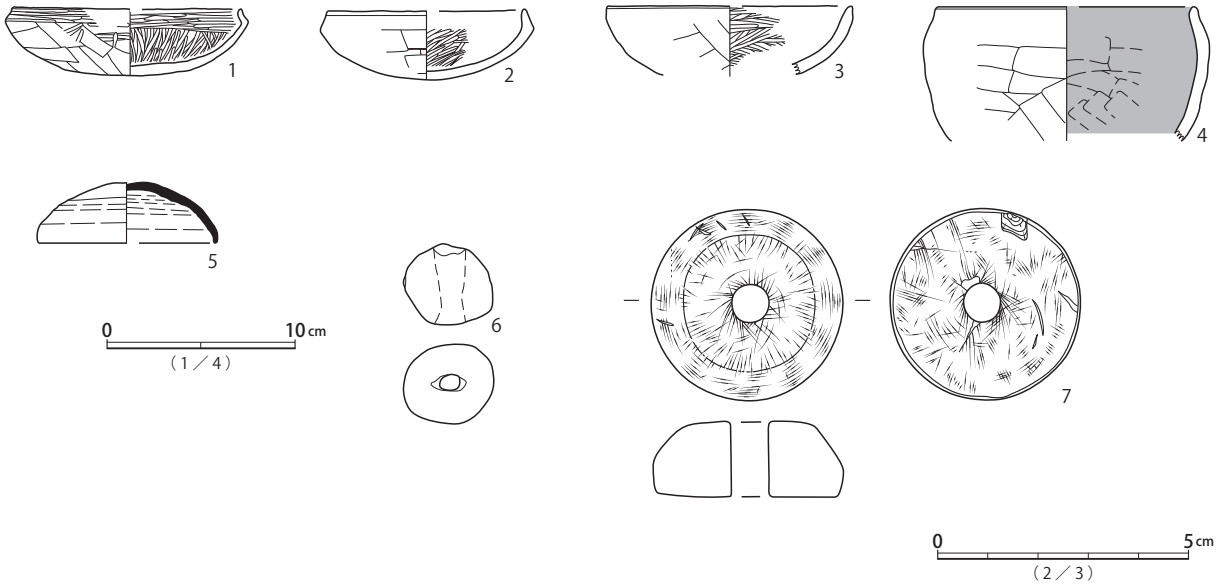
1	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第77図　SI013P1～P4・P6

遺物：土師器2,072.1g、須恵器122.0g、土製品3.9g、石製品35.85gが出土した。

１～４は土師器で、１～３は坏、４は鉢である。４は内面に黒色処理が施される。５は須恵器の坏蓋である。６は土製丸玉である。７は滑石製の紡錘車である。全面がよく研磨されており、線状痕がみられる。穿孔部の周囲には放射状に広がる線状痕が確認された。



第78図　SI013出土遺物

第35表　SI013出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：(11.9) 底　径：　－ 器　高：　3.6 最大径：(12.9)	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～体部の1/2	
2	土師器 坏	覆土中層	口　径：(10.4) 底　径：　－ 器　高：　3.7 最大径：(11.3)	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～体部の破片	
3	土師器 坏	覆土中層・ 下層	口　径：(12.8) 底　径：　－ 器　高：[3.7] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の破片	
4	土師器 鉢	覆土下層	口　径：(13.6) 底　径：　－ 器　高：[7.1] 最大径：(15.1)	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、黒色処理	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の破片	
5	須恵器 坏蓋	確認調査	口　径：　9.3 底　径：　－ 器　高：[3.2] 最大径：　－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：天井部～天井端部の2/3	

第36表　SI013出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
6	丸玉	覆土下層	直径：1.8　厚さ：1.6　孔径：0.4	3.9	

第37表　SI013出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
7	紡錘車	滑石	覆土下層	3.82	3.80	1.58	35.85	多数の線状痕、孔径0.75㎝

SI014（第79 ～ 83図、第38 ～ 40表、図版11・23 ～ 25・27）

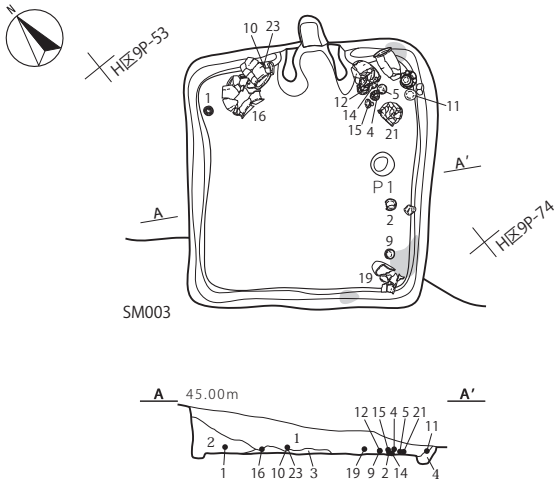
位置：H区９Ｐ-63グリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**重複：**SI016を切り、SM003に切られる。SM003前方部の墳丘直下で検出された。**規模：**主軸3.12ｍ、副軸2.68ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-39°-Ｅ。**カマド：**北東壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、壁面から約0.28m突出する。**施設：**ピットが１基検出された。Ｐ１は検出位置から、出入り口施設に伴う可能性があるが、カマドを構築する壁面の対面にない点は、他の竪穴建物と異なる。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：１辺３ｍ前後の小型の竪穴建物。床面は完存する。カマド、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は、最上層が多量のロームブロックを含み、硬く締まっている。SM003前方部築造時に埋められ整地されたと考えられる。カマド周辺の床面直上において、多数の完形品を含めた土器が出土した。特に東隅では、高坏（13）の坏部上に４点の坏（３・６～８）が重ねられていた。これらは埋め戻し直前の状況を示していると考えられる。

遺物：土師器13,408.4g、土製品615.0g、石製品159.63gが出土した。

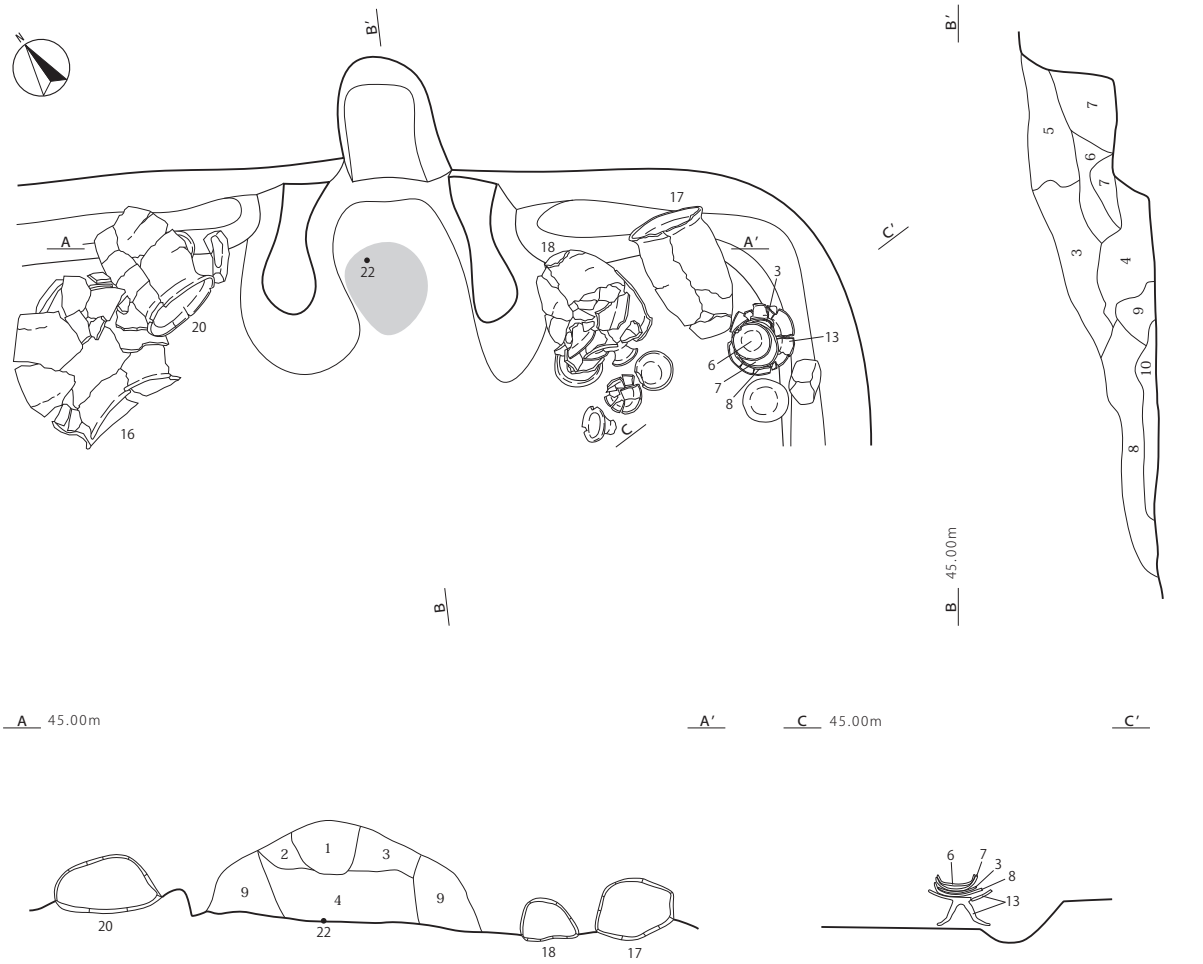
１～21は土師器で、１～11は坏としたが、このうち９～11は椀形化している。12は鉢、13～15は高坏、16～21は甕である。１は内面に放射状暗文が施される。２・６・10～13は内面に黒色処理が施される。17～19は長胴甕である。22・23は土製支脚の上端部である。２点ともに表面はヘラ調整される。24は流紋岩製の砥石である。完形で、丸みを帯びた裏面も使用されている。これらの遺物は一括性の高い遺物で、覆土下層または床面から出土している。



1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、ロームブロックφ５～60mm中量、山砂、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ5mm微量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

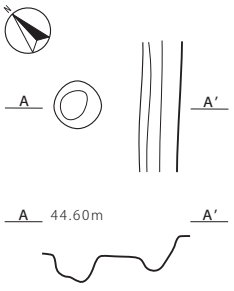
第79図　SI014



1	にぶい黄色砂(2.5Y6/4)	焼土、炭化物を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	2.5Y6/4(にぶい黄色)細粒砂少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	ロームブロックφ20mm少量、2.5Y6/4(にぶい黄色)細粒砂、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
4	黒褐色土(2.5Y3/2)	ローム粒子、ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。
5	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	2.5Y6/4(にぶい黄色)細粒砂少量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	2.5Y6/4(にぶい黄色)細粒砂を少量、焼土、炭化物を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
7	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	2.5Y6/4(にぶい黄色)細粒砂を少量、焼土を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
8	にぶい黄色砂(2.5Y6/4)	2.5Y4/3(オリーブ褐色)砂質シルトを中量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
9	にぶい黄色砂(2.5Y6/4)	2.5Y4/2(暗灰黄色)砂質シルト多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
10	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	2.5Y6/4(オリーブ褐色)細粒砂少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

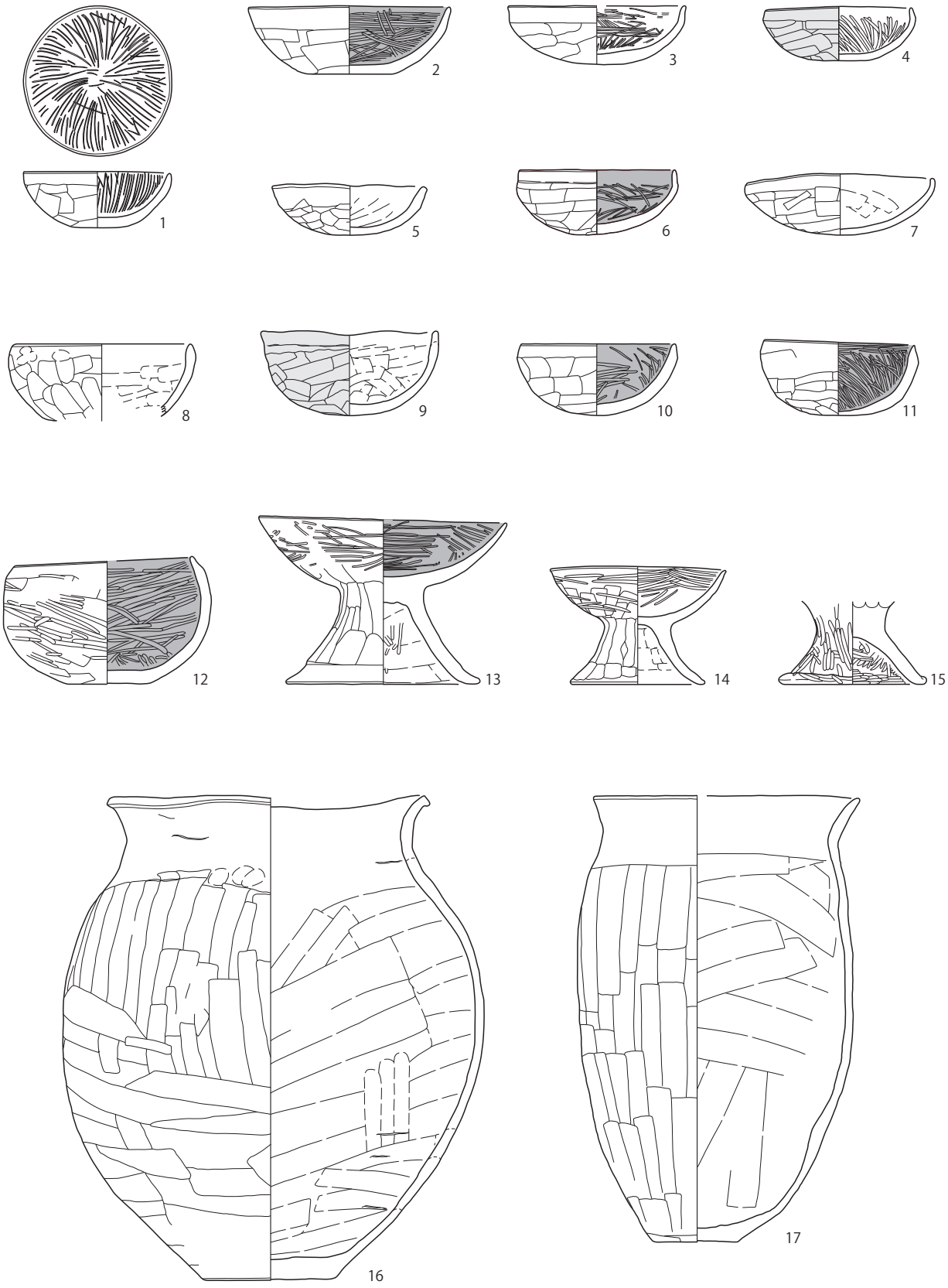
0　50cm
（1／20）

第80図　SI014カマド

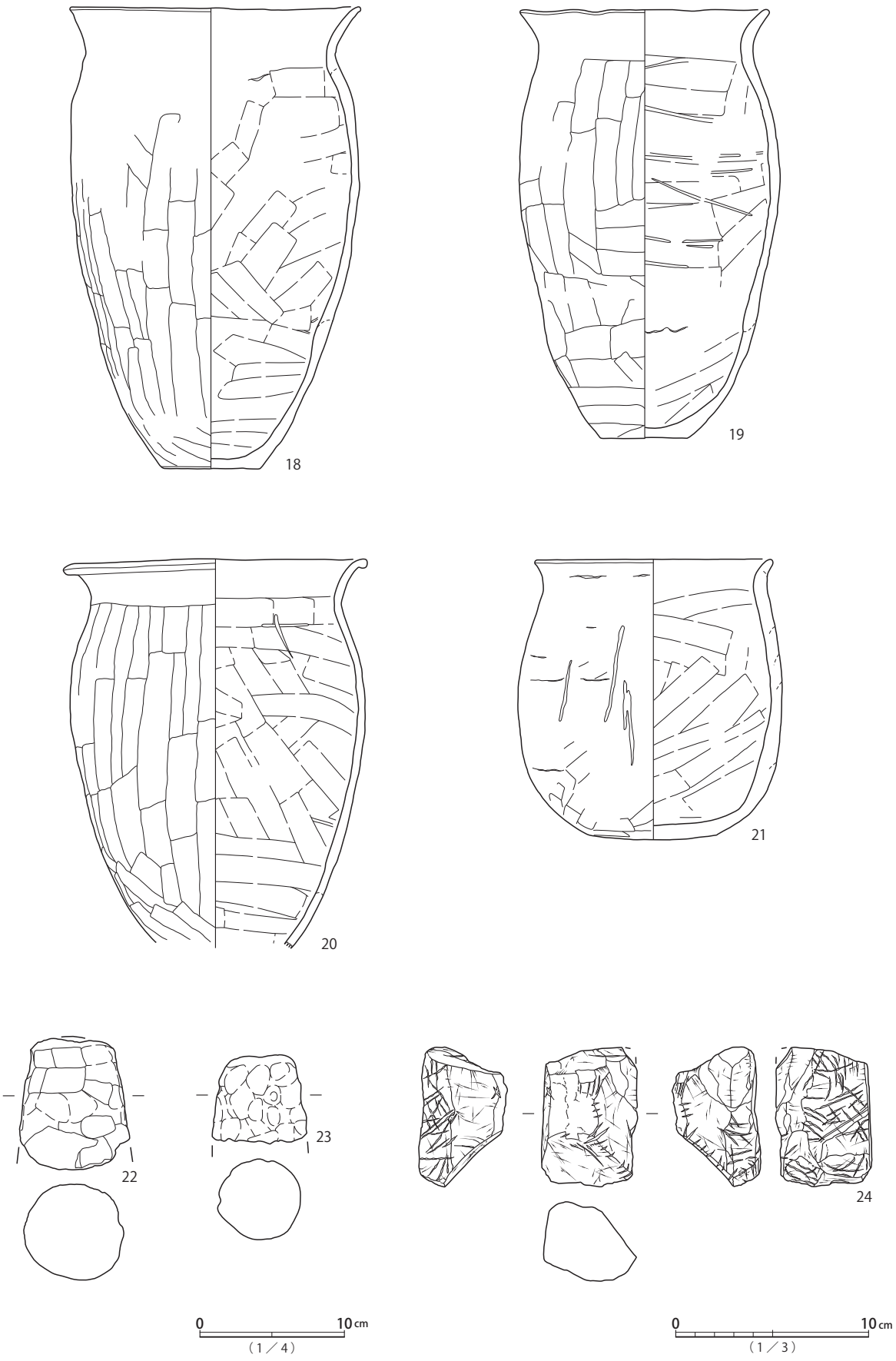


0　1m
（1／40）

第81図　SI014P1



第82図　SI014出土遺物（1）



第83図　SI014出土遺物（２）

第38表　SI014出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：10.0 底　径：－ 器　高：3.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、放射状暗文	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
2	土師器 坏	床面	口　径：13.7 底　径：6.0 器　高：4.7 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
3	土師器 坏	高坏（13）の上	口　径：(12.0) 底　径：－ 器　高：4.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の1/2	
4	土師器 坏	床面	口　径：10.0 底　径：－ 器　高：3.7 最大径：10.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
5	土師器 坏	床面	口　径：10.2 底　径：－ 器　高：3.5 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：良好 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
6	土師器 坏	高坏（13）の上	口　径：10.6 底　径：－ 器　高：4.4 最大径：11.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
7	土師器 坏	高坏（13）の上	口　径：12.7 底　径：－ 器　高：4.2 最大径：13.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
8	土師器 坏	高坏（13）の上	口　径：12.0 底　径：－ 器　高：[5.3] 最大径：(12.8)	外面：口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の1/3	
9	土師器 坏	床面	口　径：12.0 底　径：－ 器　高：5.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、体部～底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
10	土師器 坏	覆土下層	口　径：10.6 底　径：－ 器　高：4.9 最大径：11.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
11	土師器 坏	覆土下層	口　径：10.2 底　径：－ 器　高：5.2 最大径：10.8	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
12	土師器 鉢	床面	口　径：(12.1) 底　径：5.7 器　高：8.7 最大径：14.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒・長石・赤色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
13	土師器 高坏	床面	口　径：(16.8) 脚　径：13.0 器　高：11.5 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の3/4	
14	土師器 高坏	床面	口　径：11.9 脚　径：9.0 器　高：8.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部～脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ナデ後ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・赤色粒・白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
15	土師器 高坏	床面	口　径：－ 脚　径：9.6 器　高：[5.7] 最大径：－	外面：脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部～裾部ヘラミガキ	胎　土：長石・赤色粒・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	
16	土師器 甕	床面	口　径：21.6 底　径：9.0 器　高：33.1 最大径：28.8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ・指頭圧痕 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ斜位・指頭圧痕	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
17	土師器 甕	床面	口　径：18.0 底　径：5.7 器　高：30.6 最大径：18.8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
18	土師器 甕	床面	口　径：19.9 底　径：6.7 器　高：31.8 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
19	土師器 甕	床面	口　径：17.1 底　径：6.0 器　高：29.5 最大径：18.0	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ・ヘラによる調整時のキズ多数あり	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
20	土師器 甕	床面	口　径：20.0 底　径：－ 器　高：[26.8] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
21	土師器 甕	床面	口　径：16.1 底　径：8.9 器　高：19.3 最大径：18.2	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の4/5	

第39表　SI014出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
22	支脚	カマド	長さ：[9.0]　幅：[7.6]　厚さ：6.6	377.7	円筒形
23	支脚	覆土下層	長さ：[6.2]　幅：[6.5]　厚さ：5.6	176.3	円筒形

第40表　SI014出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
24	砥石	流紋岩	覆土下層	7.25	4.95	4.60	159.63	砥面：全面

SI015（第84～86図、第41表、図版11・25）

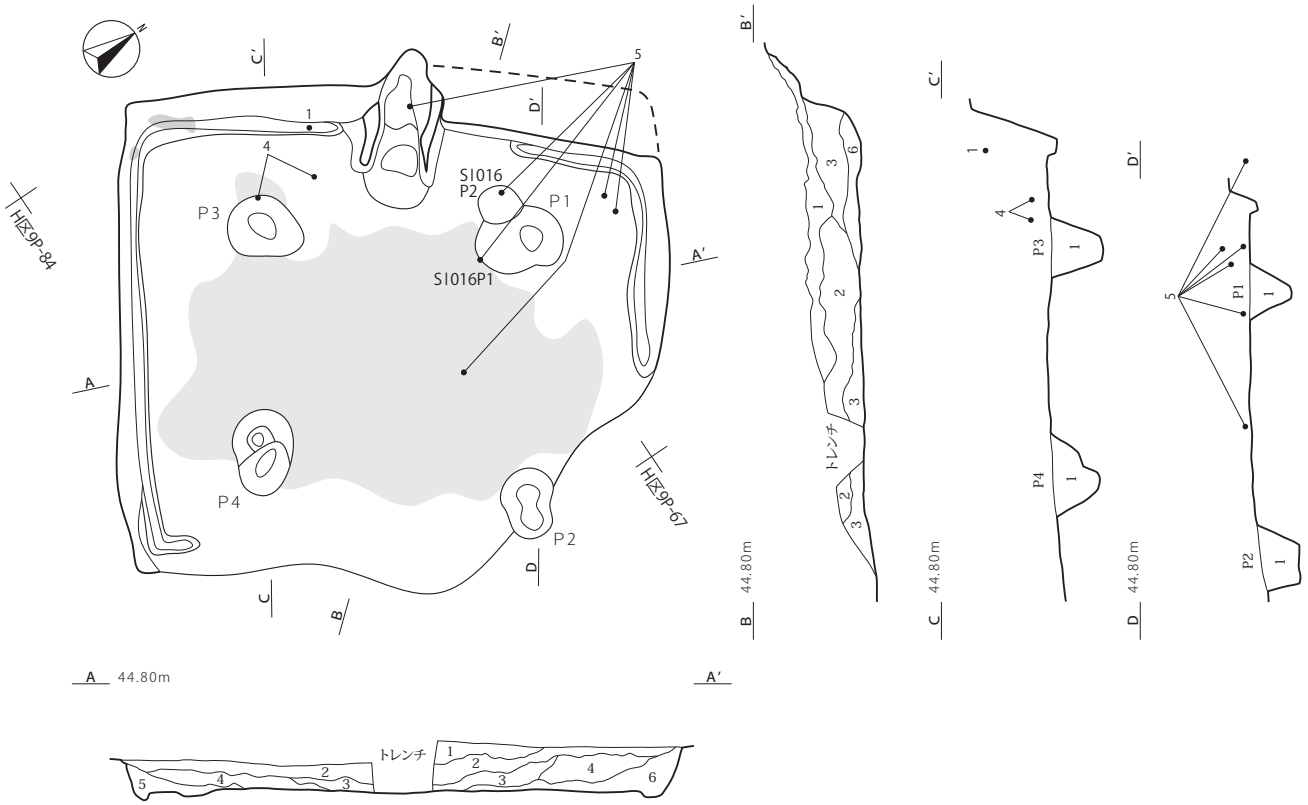
位置：H区９Ｐ-65グリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**重複：**SI016を切り、SM003に切られる。SM003前方部の墳丘直下で検出された。**規模：**主軸（5.76）m、副軸5.84m、確認面からの深度1.17m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-56°-Ｗ。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.64m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.28～2.80m、副軸方向3.08m。主柱穴は台形状に配置されている。周溝は一部を除いて全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており中央が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：SI016と位置・主軸がほぼ同じで、東側が大きく削平されていた。そのため、新旧関係の把握が困難で一部を同時に掘り下げてしまっているが、カマド、主柱穴、周溝が検出された。覆土は、最上層がロームブロックを含み、非常に硬く締まっている。SM003前方部築造時に埋められ整地されたと考えられる。

遺物：土師器7,855.2g、須恵器5.0g、土製品69.0gが出土した。

１～５は土師器で、１は坏、２は鉢、３は甕、４・５は甑である。３は床面からの出土。５はカマドと床面の遺物が接合している。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子多量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ30～50mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ5～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

P1
1　褐灰色土(10YR4/1)　ロームブロックφ5～70mm多量、ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。

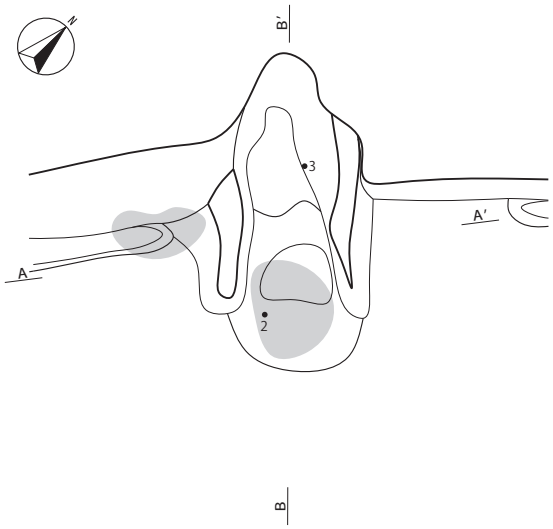
P2
1　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ3～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

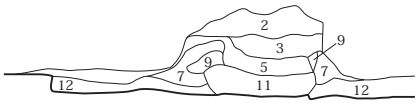
P3
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ5～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

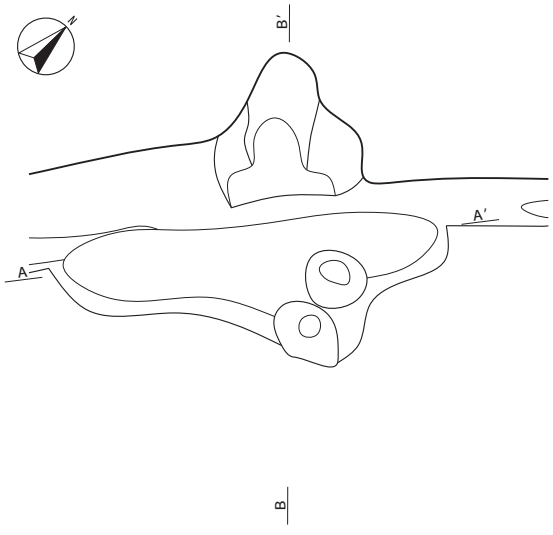
P4
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子多量、ロームブロックφ3～60mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第84図　SI015





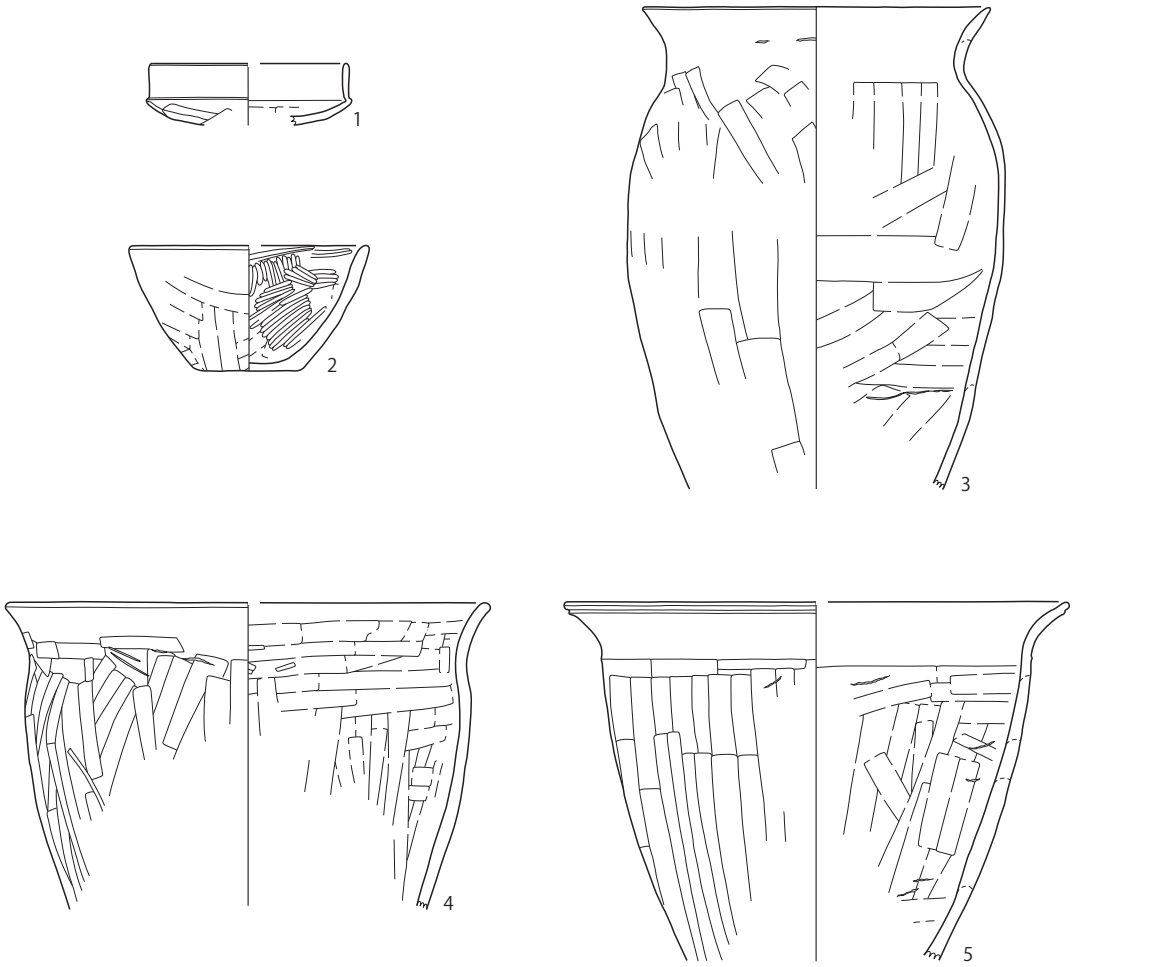


掘り方

1	オリーブ黄色砂(5Y6/3)	黄褐色砂質シルト少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2	褐色土(7.5YR4/3)	ローム粒子多量、焼土、炭化物少量、ロームブロックφ20～40mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量、焼土、炭化物を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	オリーブ黄色砂(5Y6/4)	オリーブ褐色シルト質砂を多量、焼土、炭化物を微量含む。粘性弱い。しまり強い。
5	オリーブ黄色砂(5Y6/3)	黄褐色砂質シルト中量、炭化物少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
6	灰黄褐色砂(10YR4/2)	焼土、炭化物微量。粘性あり。しまり弱い。
7	浅黄色砂(5Y7/4)	焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり強い。カマド袖。
8	極暗褐色土(7.5YR2/3)	焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
9	赤褐色砂(2.5YR4/6)	炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。カマド袖。
10	褐色土(10YR4/6)	焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
11	灰黄褐色土(10YR4/2)	炭化物多量、焼土中量含む。粘性あり。しまりあり。
12	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第85図　SI015カマド



第86図　SI015出土遺物

第41表　SI015出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土上層	口　径：(10.4) 底　径：　－ 器　高：[3.3] 最大径：(10.8)	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：浅黄橙 残存度：口縁部～体部の破片	
2	土師器 鉢	覆土下層	口　径：(12.4) 底　径：(5.2) 器　高：6.6 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	
3	土師器 甕	床面	口　径：18.2 底　径：　－ 器　高：[25.5] 最大径：20.0	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の2/3	
4	土師器 甑	覆土下層	口　径：(25.2) 底　径：　－ 器　高：[16.3] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～胴部の破片	
5	土師器 甑	カマド・ 床面	口　径：(26.5) 底　径：　－ 器　高：[19.0] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～胴部の破片	

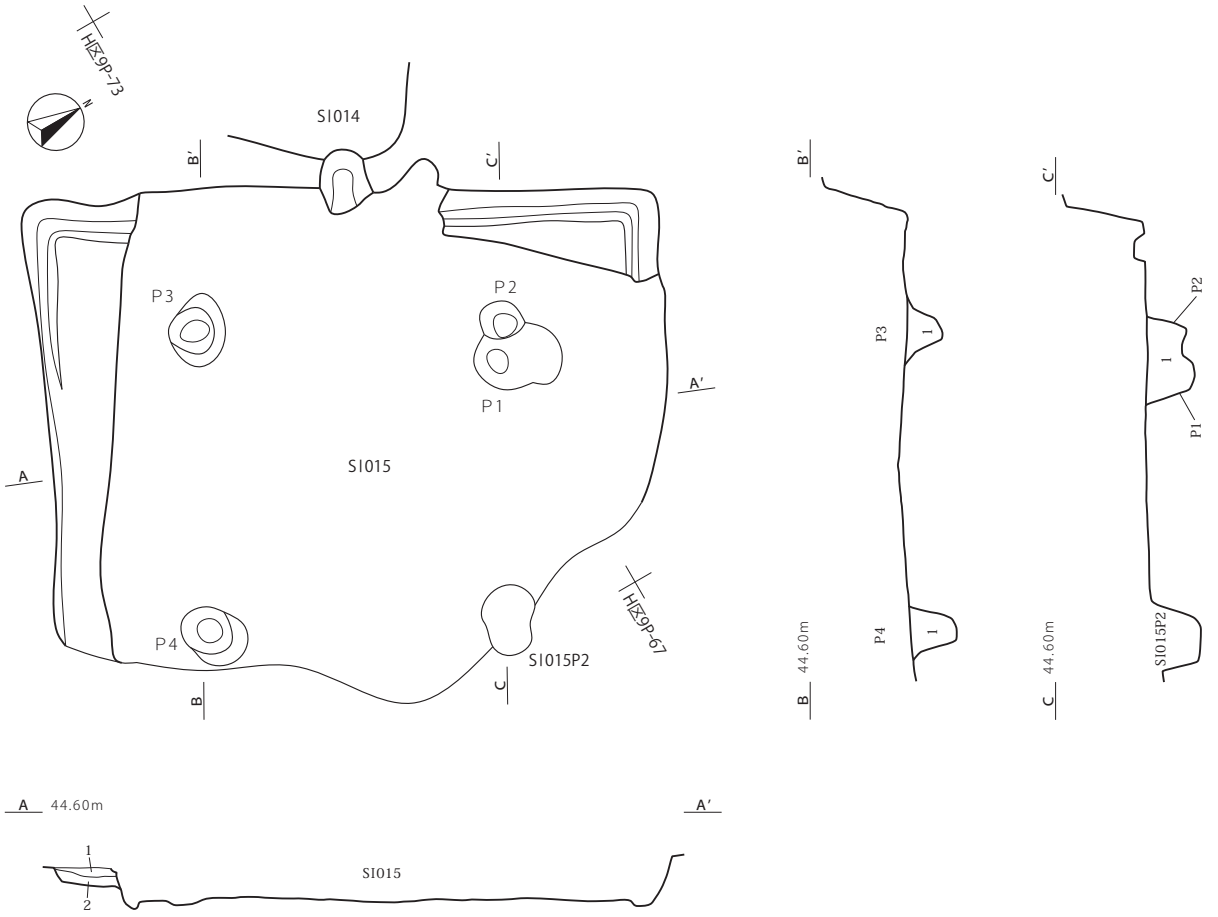
SI016（第87図、図版11）

位置：Ｈ区９Ｐ-65グリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**重複：**SM003、SI014・SI015に切られる。SM003前方部の墳丘直下で検出された。**規模：**主軸（5.88）m、副軸6.76m、確認面からの深度0.99m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-64°-Ｗ。**カマド：**西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部の先端のみ残存する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ３・Ｐ４で、柱間は主軸・副軸方向ともに3.20m。周溝は東壁と北壁・南壁の一部で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：重複から７世紀中葉以前と考えられる。

所見：カマド、主柱穴、周溝が検出された。

遺物：土師器130.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまり強い。

P1・P2
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ５～40mm多量、ローム粒少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

P3
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ５～60mm多量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

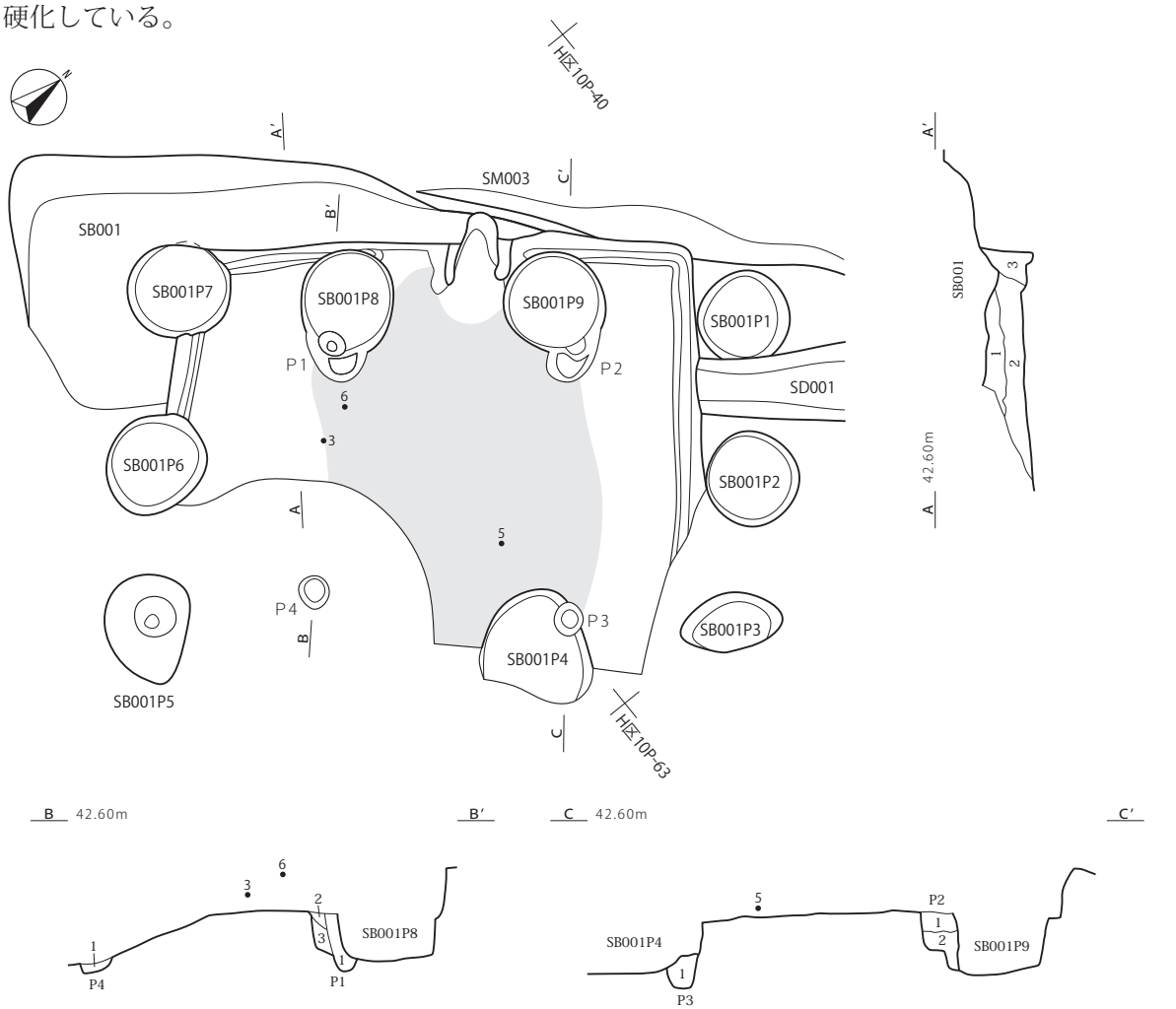
P4
1　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子多量、炭化物、ロームブロックφ１～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第87図　SI016

SI017（第88～91図、第42表、図版11・12・25・26）

位置：Ｈ区10Ｐ-51グリッドを中心とする台地の南東向き斜面に位置する。**重複：**SB001、SD001に切られる。北西側にSM003が隣接するが新旧関係は不明である。**規模：**主軸（5.04）m、副軸5.78ｍ、確認面からの深度0.69ｍ。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**Ｎ-51°-Ｗ。**カマド：**北西壁やや北寄りに位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.34m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.80ｍ、副軸方向2.60ｍ。周溝は削平部分を除き、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央から南北方向にかけて硬化している。



1　にぶい黄褐色砂(10YR4/3)　黒褐色土粒子、山砂中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色砂(10YR4/4)　ロームブロックφ５～10mm、山砂少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰白色砂(10YR)　焼土ブロックφ２～3mm、ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

P1
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロック中量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり強い。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ10～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

P2
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～30mm中量、焼土ブロックφ3mmを少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。

P4
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、暗褐色土粒子中量、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

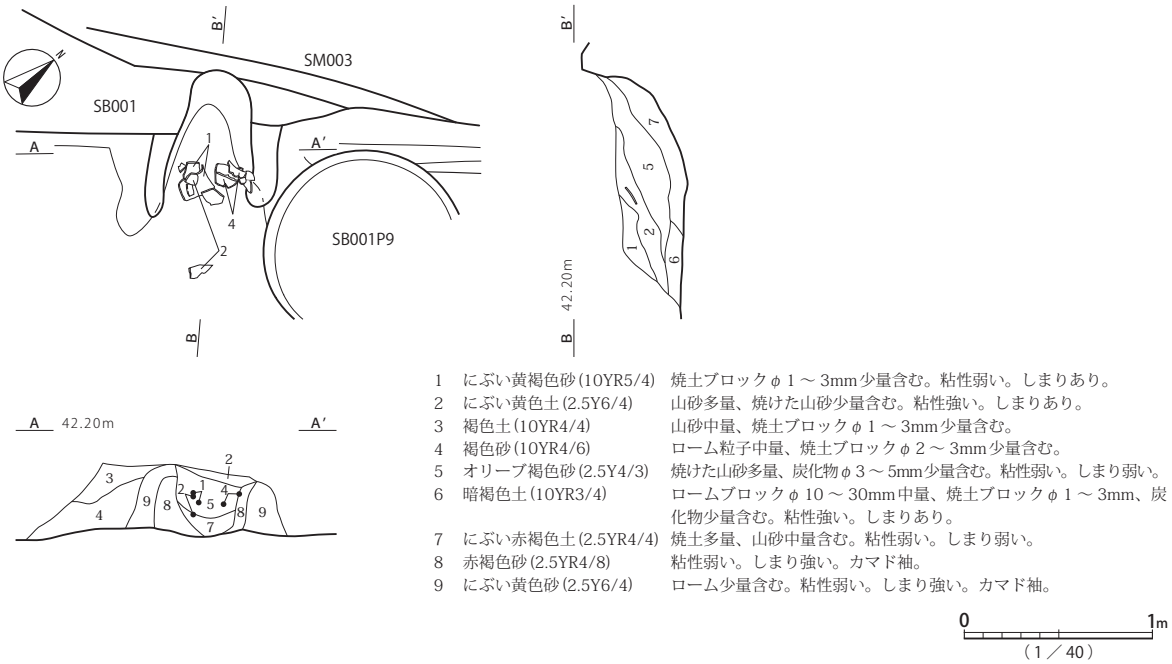
第88図　SI017

時期：出土遺物が限られ断定はできないが、古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：SI017の覆土とSB001に伴うテラス部の覆土を合わせて一棟の竪穴建物と誤認し、SI017の床面まで掘削している。また、表土掘削時に谷の埋没土と誤認して本遺構の一部を破壊してしまった。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド内からは甕（１・２・４）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

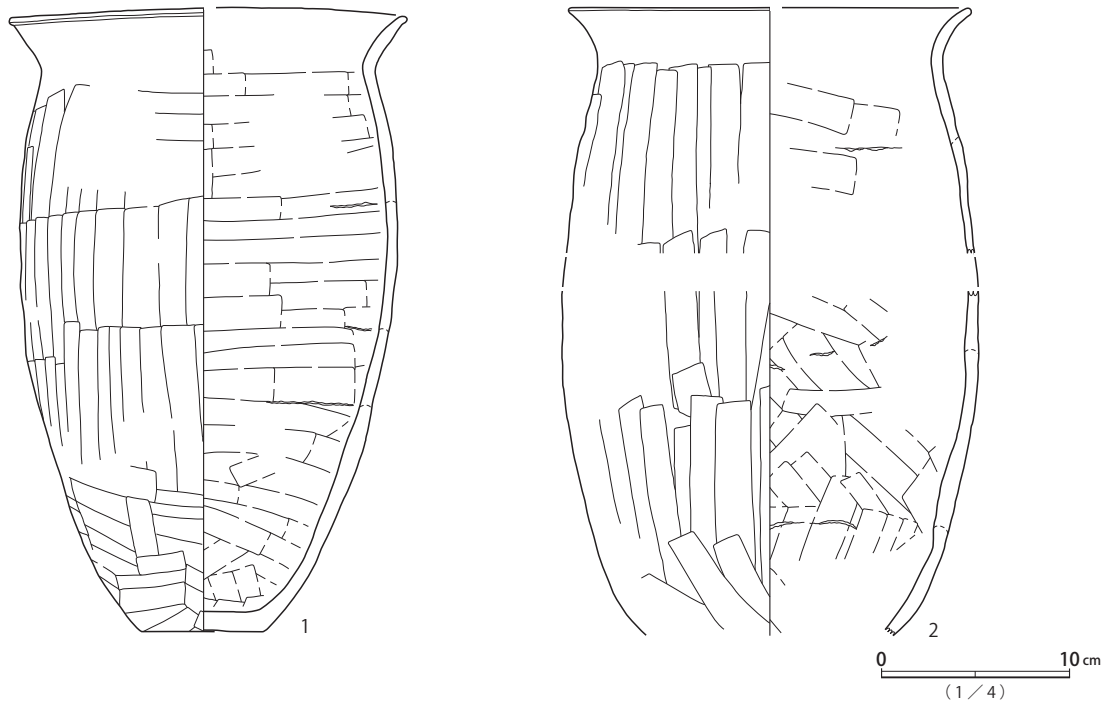
遺物：土師器9,002.0gが出土した。

１～６は土師器の甕で、１・２は長胴甕である。

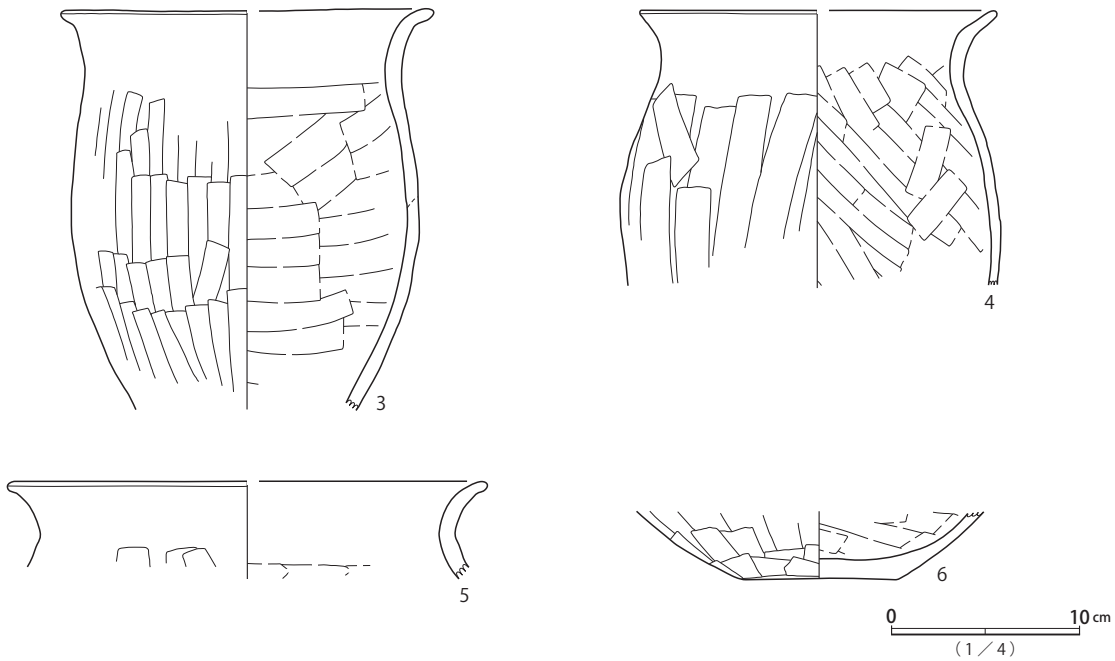


1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)	焼土ブロックφ１～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	にぶい黄色土(2.5Y6/4)	山砂多量、焼けた山砂少量含む。粘性強い。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/4)	山砂中量、焼土ブロックφ１～3mm少量含む。
4	褐色砂(10YR4/6)	ローム粒子中量、焼土ブロックφ２～3mm少量含む。
5	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	焼けた山砂多量、炭化物φ３～5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ10～30mm中量、焼土ブロックφ１～3mm、炭化物少量含む。粘性強い。しまりあり。
7	にぶい赤褐色土(2.5YR4/4)	焼土多量、山砂中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	赤褐色砂(2.5YR4/8)	粘性弱い。しまり強い。カマド袖。
9	にぶい黄色砂(2.5Y6/4)	ローム少量含む。粘性弱い。しまり強い。カマド袖。

第89図　SI017カマド



第90図　SI017出土遺物（１）



第91図　SI017出土遺物（２）

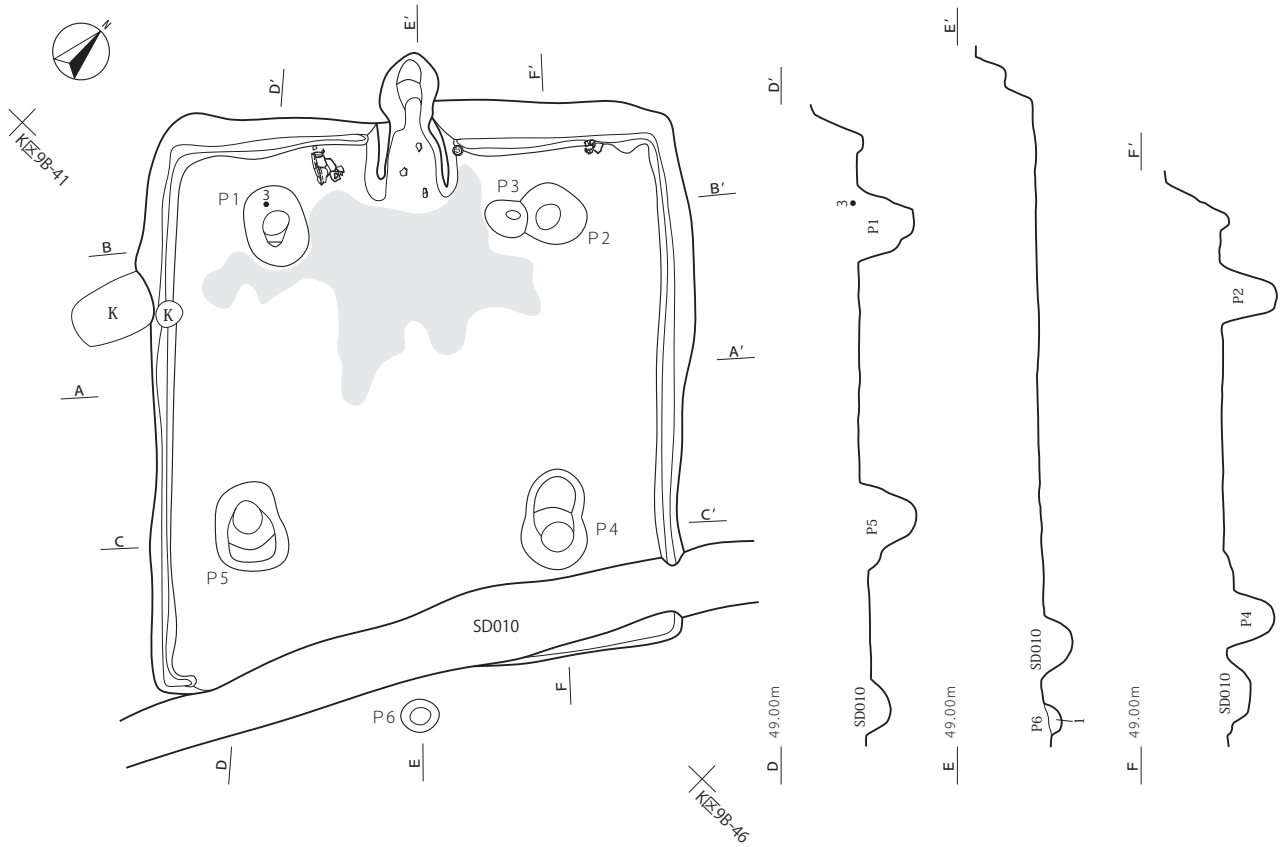
第42表　SI017出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	カマド	口　径：(20.8) 底　径：　6.5 器　高：33.0 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ	胎　土：石英・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	土師器 甕	カマド	口　径：(21.0) 底　径：　－ 器　高：[31.3] 最大径：(22.0)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部と胴部下半の破片	
3	土師器 甕	覆土中層	口　径：(19.4) 底　径：　－ 器　高：[21.2] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ横位	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	
4	土師器 甕	カマド	口　径：(18.6) 底　径：　－ 器　高：[14.6] 最大径：(20.2)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ縦位 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ斜位	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	
5	土師器 甕	覆土下層	口　径：(25.0) 底　径：　－ 器　高：[5.2] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
6	土師器 甕	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　8.2 器　高：[3.6] 最大径：　－	外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：胴部～底部の破片	

SI018（第92～94図、第43・44表、図版12・26・27）

位置：K区９Ｂ-33グリッドを中心とする台地の南東向き緩斜面に位置する。北西側にSM004が隣接する。**重複：**SD010に切られ、東側の一部は撹乱される。**規模：**主軸6.80ｍ、副軸5.92ｍ、確認面からの深度0.76ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-44°-Ｗ。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存し、崩落した天井部と考えられる粘土が



1	黒褐色土(2.5Y3/2)	黄褐色砂ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	褐色砂(10YR4/4)	粘性弱い。しまりあり。
3	暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)	粘性弱い。しまりあり。
4	黒褐色土(10YR3/1)	黄褐色砂ブロックφ1～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	粘性あり。しまりあり。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。
7	暗褐色砂(10YR3/3)	ロームブロックφ1～5mm少量含む。

P1

1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。
2	黒褐色砂(2.5Y3/2)	粘性弱い。しまりあり。

P2

1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。
2	黒褐色砂(2.5Y3/2)	粘性弱い。しまりあり。
3	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	粘性弱い。しまり弱い。
4	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	ロームブロックφ50mm～100mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。

P3

1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。

P4

1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。
2	黒褐色砂(2.5Y3/2)	粘性弱い。しまりあり。
3	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	粘性弱い。しまり弱い。

P5

1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりややあり。
2	黒褐色土（2.5Y3/2）	細粒砂中量含む。粘性弱い。しまりややあり。

P6

1	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第92図　SI018

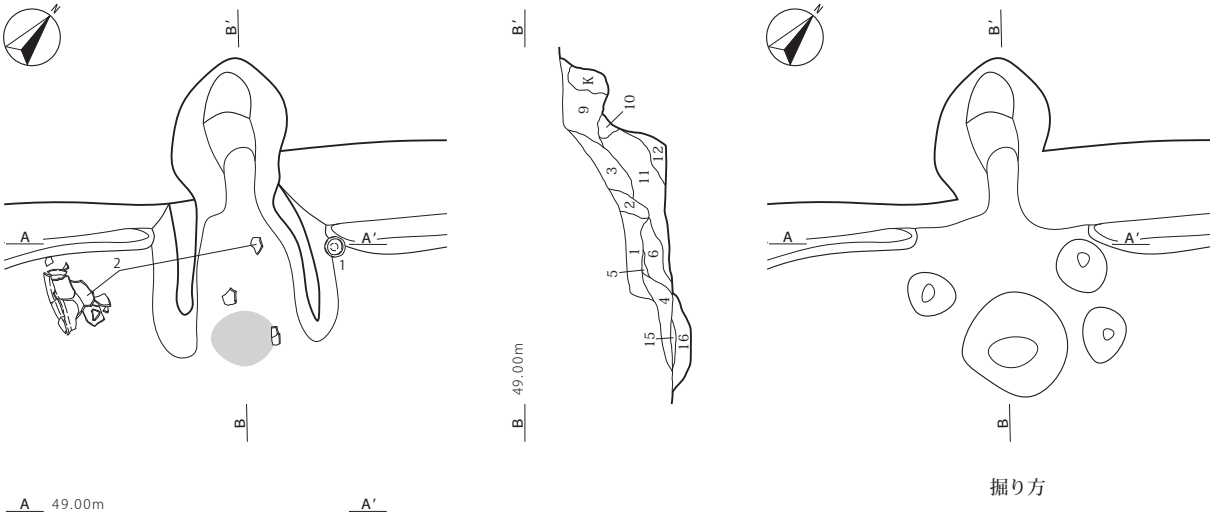
カマド全体を覆う。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、壁面から約0.72m突出する。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５で、柱間は主軸方向3.40ｍ、副軸方向3.00ｍ。Ｐ６は建物の外側に位置するが主軸線上、カマドの対面であることから、出入り口施設に関係する可能性がある。周溝はカマドと南東隅を除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、カマド周辺を中心にやや西側が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド左袖の外側からは甑（２）が潰れた状態で出土し、右袖の外側からは坏（１）が出土している。覆土は、黒色土と褐色土の互層でレンズ状に堆積し自然埋没した状況を示す。

遺物：土師器2,484.2g、須恵器125.5g、石製品57.85gが出土した。

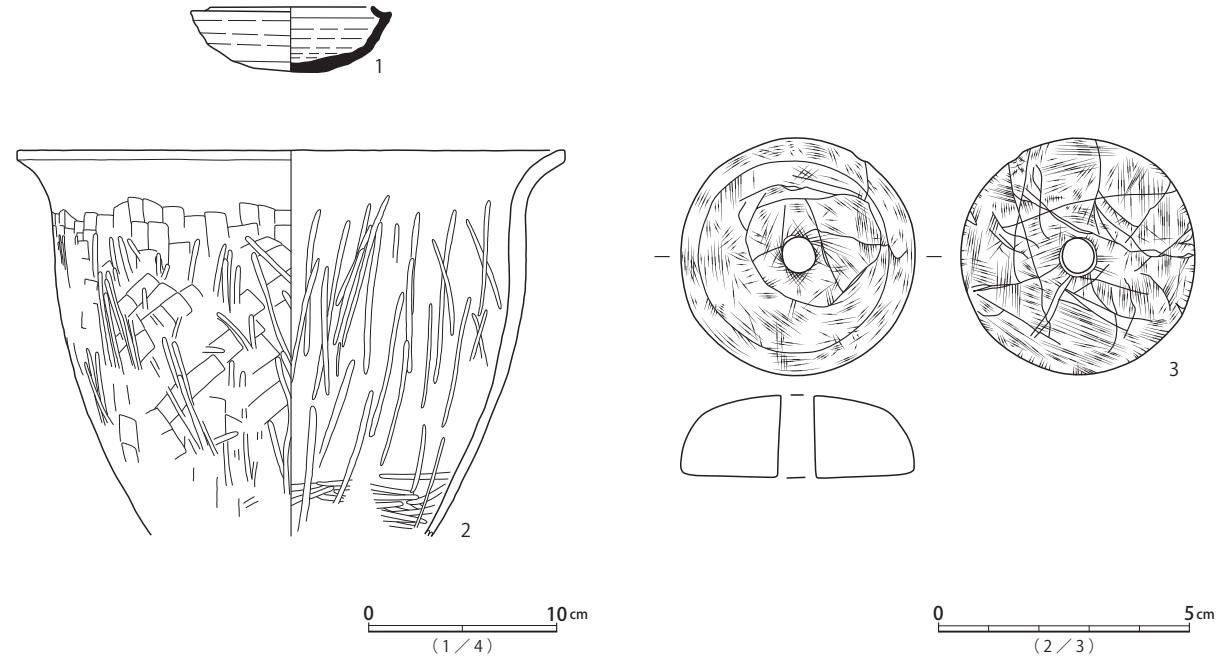
１は須恵器の坏身、２は土師器の甑で、内外面にヘラミガキが施される。３は滑石製の紡錘車で、よく研磨されており、全面に線状痕がみられる。穿孔部の周囲には放射状に広がる線状痕が確認された。



1	オリーブ褐色砂(2.5Y4/6)	粘性弱い。しまりあり。
2	オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)	焼土ブロックφ１～３ｍｍ少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	炭化ブロックφ１～５ｍｍ少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	焼土ブロックφ１～５ｍｍ少量含むしまりあり。
5	黒褐色砂(2.5Y3/2)	粘性弱い。しまりあり。
6	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。
7	褐色土（10YR4/4)	粘性あり。しまりあり。
8	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	粘性弱い。しまりあり。
9	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	焼土ブロックφ１～3mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
10	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	粘性あり。しまりあり。
11	黒褐色土(2.5Y3/2)	粘性あり。しまり弱い。
12	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	焼土、炭化物φ１～5mm多量に含む。粘性あり。しまりあり。
13	黄褐色砂(2.5Y5/6)	粘性弱い。しまりあり。
14	オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)	焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
15	灰白色砂(10YR)	焼土、炭化物多量含む。粘性弱い。しまりあり。
16	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第93図　SI018カマド



第94図　SI018出土遺物

第43表　SI018出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 坏身	覆土下層	口　径：　8.5 底　径：　－ 器　高：　3.4 最大径：　10.6	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：長石 焼　成：良好 色　調：にぶい黄～褐灰 残存度：完存	
2	土師器 甑	覆土下層	口　径：　28.6 底　径：　－ 器　高：[20.4] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ縦位 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	

第44表　SI018出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
3	紡錘車	滑石	Ｐ１上層	4.72	4.63	1.61	57.85	多数の線状痕、孔径0.75cm

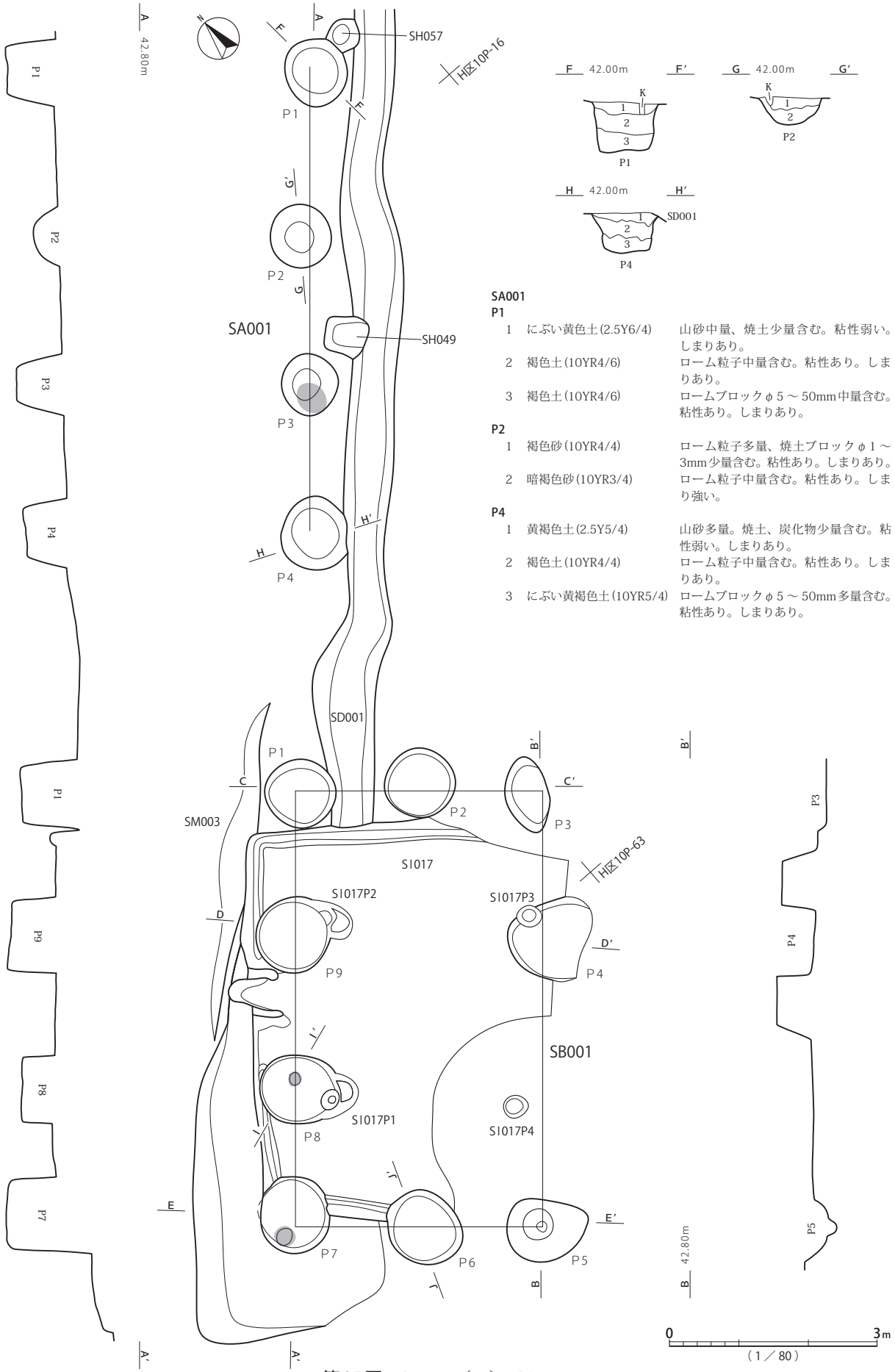
３．掘立柱建物

SB001（第95・96図、図版12）

梁行２間×桁行３間の掘立柱建物である。**位置：**Ｈ区10Ｐグリッドで台地の南東向き斜面を削り出した平坦面に位置する。北東側にSA001が隣接する。**重複：**SI017を切り、SD001に切られる。西側にSM003が近接するが新旧関係は不明。**規模：**テラス部は、北西辺（6.32）m、南西辺（2.75）m。確認面からの深度0.65m。建物は桁行6.30m、梁行3.50m。柱間は梁行2.10ｍ、桁行1.75ｍの等間である。柱穴は、平面形態が楕円形もしくは隅丸方形で、長軸0.99 ～ 1.55ｍ、短軸0.89 ～ 1.05ｍ、確認面からの深度0.43 ～ 1.22ｍ。**主軸方位：**Ｎ－41°－Ｅ。

時期：遺物の出土がないため断定はできないが、後述するSA001と同様、７世紀代と考えられる。

所見：人工的に削り出したテラス状の平坦面で検出された側柱建物である。削り出したテラス壁面の方向と建物の主軸方向が平行するため一組の遺構と判断した。斜面に建物を構築するにあたって、平坦面を削り出したのであろう。



SA001

P1

1	にぶい黄色土(2.5Y6/4)	山砂中量、焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/6)	ロームブロックφ５～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

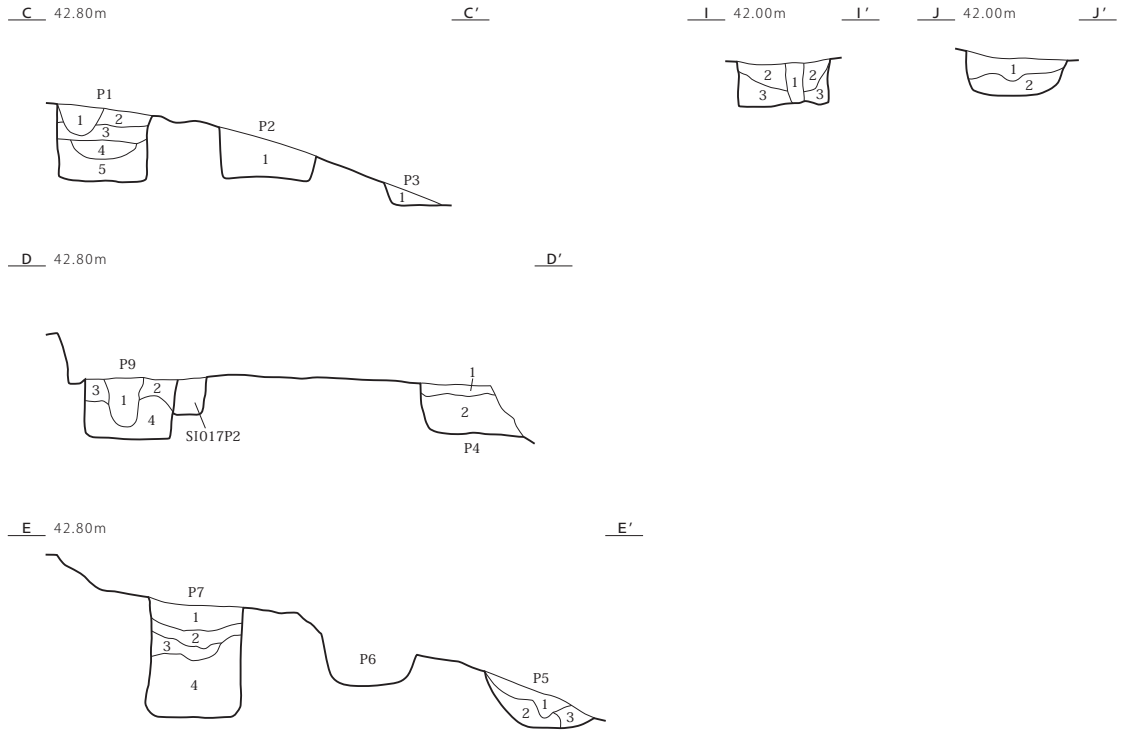
P2

1	褐色砂(10YR4/4)	ローム粒子多量、焼土ブロックφ１～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色砂(10YR3/4)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり強い。

P4

1	黄褐色土(2.5Y5/4)	山砂多量。焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ロームブロックφ５～50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

第95図　SB001（１）・SA001



SB001

P1

1	オリーブ褐色土(2.5Y4/6)	山砂中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	褐色土(10YR4/6)	ロームブロックφ10～30mm多量含む。粘性あり。しまり強い。
3	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
4	黄褐色土(10YR5/6)	ローム粒子、ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまり強い。
5	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまり強い。

P2

1	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ20～50mm多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。

P3

1	褐色土(10YR4/4)	明褐色土ブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

P4

1	褐色土(10YR4/6)	ロームブロックφ30mm多量含む。粘性あり。しまり強い。
2	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ30mm中量含む。粘性弱い。しまり強い。

P5

1	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR2/3)	ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	黄褐色土(10YR5/6)	ロームブロックφ100mm多量大含む。粘性あり。しまり弱い。

P6

1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子多量、ロームブロックφ20～40mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
2	褐色土(10YR4/6)	褐色ローム粒子、ロームブロックφ50～100mm多量含む。粘性あり。しまり強い。

P7

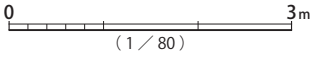
1	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性強い。しまり強い。
2	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子多量、ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性強い。しまり強い。
3	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子多量、ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性強い。しまり強い。
4	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子、ロームブロックφ30～100mm多量含む。粘性強い。しまり強い。

P8

1	暗褐色土(10YR3/4)	山砂中量、ロームブロックφ30～40mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子多量、ロームブロックφ20～40mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	2層より暗いローム粒子多量、ロームブロックφ20～40mm中量含む。粘性あり。しまり強い。

P9

1	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ30mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ10mm多量含む。粘性あり。しまり強い。
3	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。



第96図　SB001（２）

調査当初、テラス部の覆土とSI017の覆土を合わせて一棟の竪穴建物と誤認し、SI017の床面まで掘削を進めてしまった。このため、テラス部の範囲を正確に把握することができなかった。また、表土掘削時に、谷の埋没土と誤認して本遺構の一部を破壊してしまった。特にＰ４－Ｐ５間を著しく破壊してしまい、中間の柱穴を確認できていない。

Ｐ７・Ｐ８の底面には柱当たりによる硬化範囲が検出された。また硬化はしていないが、Ｐ５底面の窪みも柱当たりと考えられる。北西辺の柱通りがSA001と一致しており、一連の建造物となる可能性がある。また、主軸方位がSM003に近似しており、関連する可能性が推測される。

遺物：土師器110.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

４．柱穴列

SA001（第95・97図、第45表、図版26）

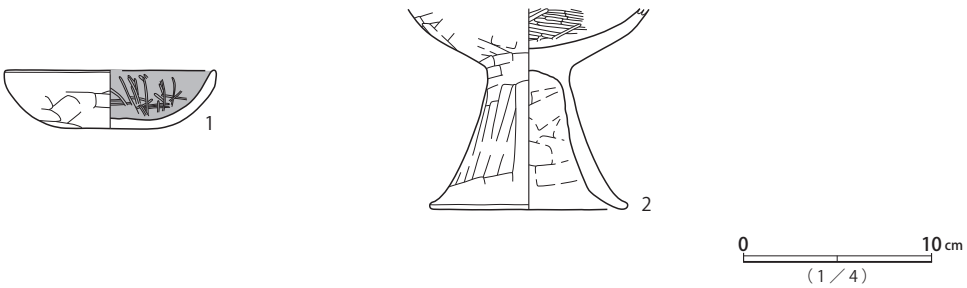
４基の柱穴が一列に並ぶ。**位置：**Ｈ区10Ｐグリッドで台地の南東向き斜面に位置する。南西側にSB001が隣接する。**重複：**SD001に切られる。西側にSM003が近接するが新旧関係は不明。**規模：**柱間は、Ｐ１－Ｐ２が2.40m、Ｐ２－Ｐ３・Ｐ３－Ｐ４が2.16mで総長6.72ｍ。柱穴は、平面形態が円形もしくは楕円形で、長軸0.83 ～ 1.19ｍ、短軸0.75 ～ 0.91ｍ、確認面からの深度0.40 ～ 0.76ｍ。**主軸方位：**Ｎ-41°-Ｅ。

時期：出土遺物が限られ断定はできないが、７世紀代と考えられる。

所見：Ｐ３の底面には柱当たりによる硬化範囲が検出された。柱通りがSB001の北西辺ラインと一致することからSB001と一連の建造物、あるいはSB001と同じ桁行３間の掘立柱建物で、梁行方向が失われている可能性もある。主軸方位がSM003に近似し、出土遺物も同時期のものであることから、SM003に関連する可能性が推測される。

遺物：土師器698.2gが出土した。

２点ともに土師器である。１は坏で、内面に黒色処理が施される。２は高坏である。坏部内面にはヘラミガキが密に施される。



第97図　SA001出土遺物

第45表　SA001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土	口　径：(11.0) 底　径：　－ 器　高：　3.1 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の1/2	
2	土師器 高坏	覆土	口　径：　－ 脚　径：(10.2) 器　高：[10.7] 最大径：　－	外面：坏部ヘラナデ、接合部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：坏部～裾部の1/3	

５．土　坑

SK020（第98図）

位置：Ｈ区９Ｎ−43グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.09ｍ、短軸0.86ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ−77°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK021（第98図、図版12）

位置：Ｈ区10Ｎ−58グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.53ｍ、短軸1.11ｍ、確認面からの深度0.72ｍ。**長軸方位：**Ｎ−75°−Ｅ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で、北端と南端にピットがある。壁面は中位に段を有し、緩やかに立ち上がる。

時期：覆土および出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：ソフトローム層の上面で検出された。東向きの緩斜面に位置する。底面の南北両端でピットが２基検出された。底面の平面形は隅丸方形を呈する。ピットの深さは北側で0.12ｍ、南側で0.08ｍと浅い。覆土の堆積状況から、自然に埋没したと推測される。覆土には固結火山灰土塊が含まれる。

遺物：土器77.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK022（第98図）

位置：Ｈ区11Ｎ−41グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.98ｍ、短軸0.74ｍ、確認面からの深度0.63ｍ。**長軸方位：**Ｎ−88°−Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK023（第98図）

位置：Ｈ区11Ｏ−12グリッドを中心に位置する。**重複：**SM001に切られる。**規模：**長軸1.34ｍ、短軸0.91ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**長軸方位：**Ｎ−57°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土師器5.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

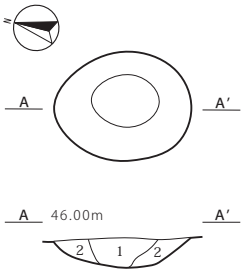
SK024（第98図）

位置：Ｈ区11Ｏ−12グリッドを中心に位置する。**重複：**SM001に切られる。**規模：**長軸1.82ｍ、短軸1.39ｍ、確認面からの深度1.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ−40°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり、壁面は北側で中位に段を有してほぼ垂直に、南側は検出面近くに段があり緩やかに立ち上がる。

時期：重複および出土遺物から古墳時代と考えられる。

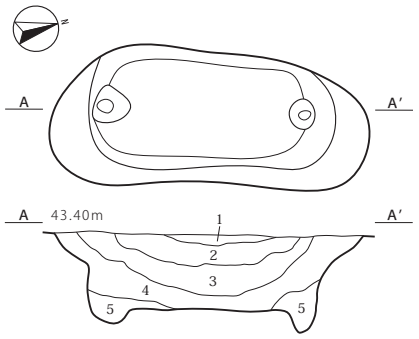
遺物：土師器8.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK020



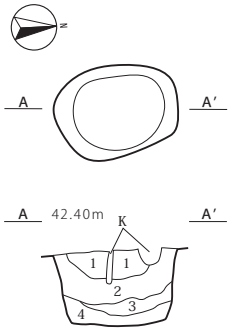
1　褐色土(10YR4/4)　炭化粒微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまり強い。

SK021



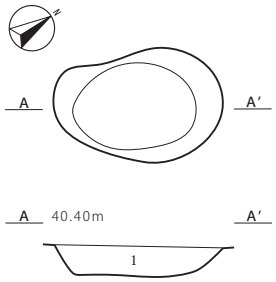
1　暗褐色土(10YR3/4)　固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまり強い。
2　黒褐色土(10YR2/3)　固結火山灰土塊多量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR2/3)　固結火山灰土塊、暗褐色土中量、ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、ロームブロック中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。

SK022



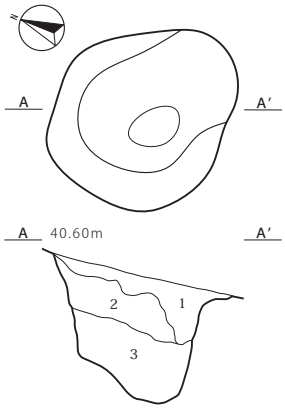
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土細粒子中量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロック多量含む。粘性強い。しまり強い。

SK023



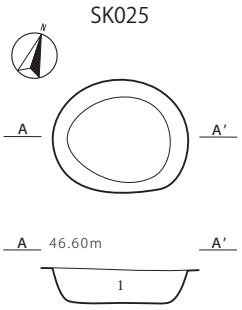
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK024

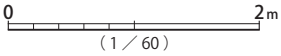


1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ5～200mm中量微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性あり。しまり弱い。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、φロームブロックφ10～200mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

SK025



1　黒褐色土(10YR3/2)　固結火山灰土塊多量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。



第98図　SK020～SK025

SK025（第98図）

位置：Ｈ区８Ｐ-53グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.08ｍ、短軸0.90ｍ、確認面からの深度0.28ｍ。**長軸方位：**Ｎ-16°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にややきつく立ち上がる。

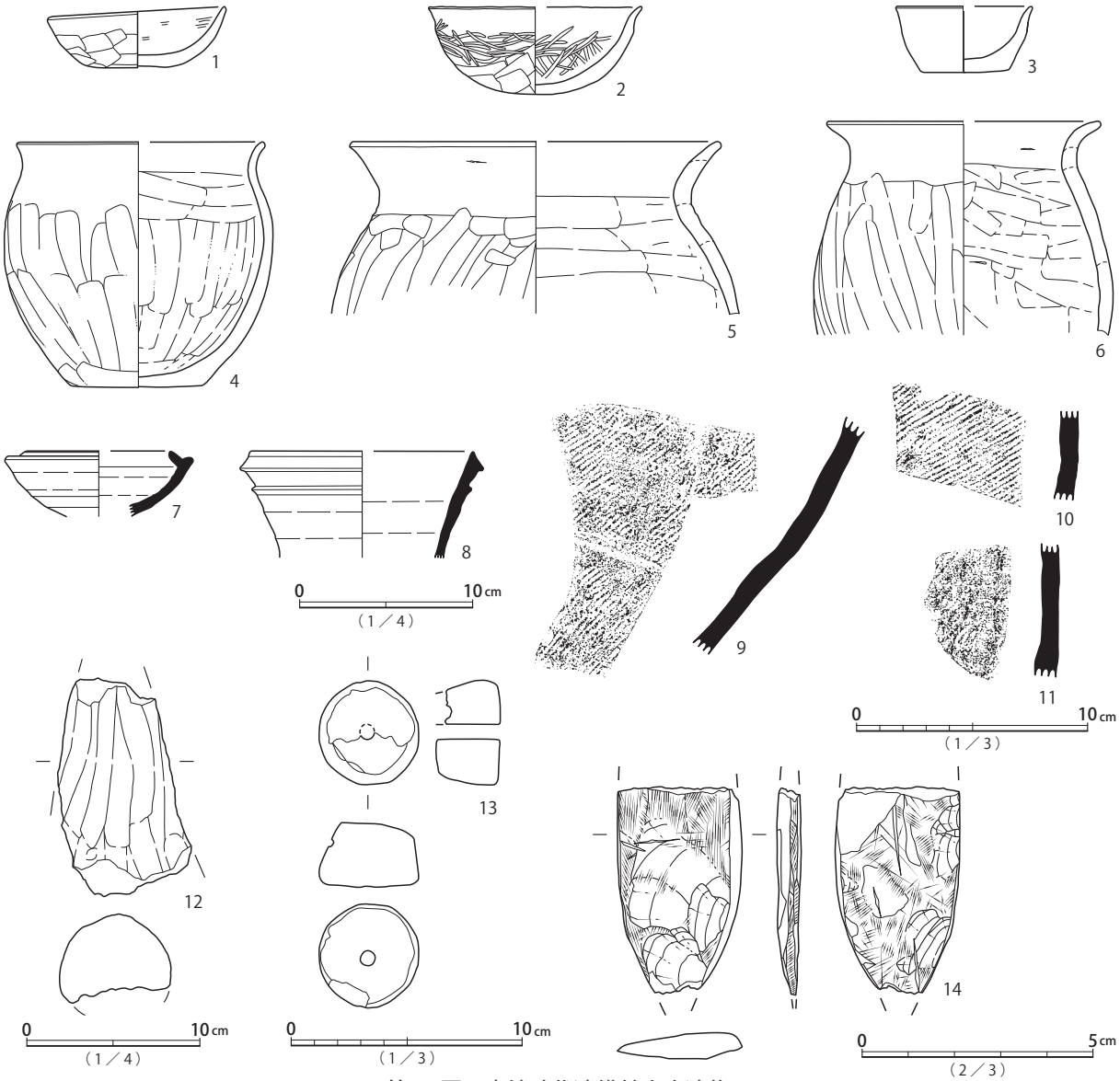
時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

６．遺構外出土遺物（第99図、第46～48表、図版26・27）

遺構外および、他時代の遺構から出土した遺物のうち、古墳時代の遺物についてここで報告する。

１～６は土師器で、１・２は坏、３は鉢、４～６は甕である。４～６は確認調査時の出土である。７～11は須恵器で、７は坏身、８は瓶、９～11は甕である。12は土製支脚である。13は土製紡錘車である。14は滑石製の剣形模造品である。全面を研磨されるが、製作過程の深い剥離痕が残存している。



第99図　古墳時代遺構外出土遺物

第46表　古墳時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	H区 10Q-62 Ⅱe層	口　径：10.0 底　径：3.9 器　高：[3.5] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	土師器 坏	H区 10Q-70 Ⅱe層	口　径：(12.0) 底　径：－ 器　高：5.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の1/2	
3	土師器 鉢	H区 10Q-70 Ⅱe層	口　径：(7.8) 底　径：4.8 器　高：3.6 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
4	土師器 甕	確認調査	口　径：(14.0) 底　径：(7.6) 器　高：14.1 最大径：(15.3)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：黒色粒・白色粒・角閃石・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
5	土師器 甕	確認調査	口　径：(21.0) 底　径：－ 器　高：[9.8] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
6	土師器 甕	確認調査	口　径：(15.6) 底　径：－ 器　高：[12.3] 最大径：(17.2)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
7	須恵器 坏身	H区 10P-60 Ⅱf層	口　径：(8.2) 底　径：－ 器　高：[3.8] 最大径：(10.8)	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～体部の1/2	
8	須恵器 瓶	H区 10Q-06 Ⅱe層	口　径：(12.8) 底　径：－ 器　高：[6.1] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰白 残存度：口縁部～頸部の破片	口縁部～頸部内外面に自然釉付着
9	須恵器 甕	SM007 墳丘	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[10.3] 最大径：－	外面：胴部平行叩き目 内面：胴部指頭圧痕後ナデ	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：灰白 残存度：胴部の破片	胴部内外面に自然釉付着
10	須恵器 甕	SM007 墳丘	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[3.9] 最大径：－	外面：胴部平行叩き目 内面：胴部指頭圧痕後ナデ	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：灰 残存度：胴部の破片	胴部外面に自然釉付着
11	須恵器 甕	SM007 墳丘	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[5.7] 最大径：－	外面：胴部平行叩き目 内面：胴部ナデ	胎　土：長石 焼　成：普通 色　調：暗灰黄 残存度：胴部の破片	胴部外面に自然釉付着

第47表　古墳時代遺構外出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
12	支脚	H区10Q-62Ⅱe層	長さ：[12.6]　幅：[7.7]　厚さ：[5.2]	309.9	円筒形
13	紡錘車	H区10P-61Ⅱe層	直径：4.5　厚さ：2.8　孔径：0.7	53.7	

第48表　古墳時代遺構外出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
14	剣形模造品	滑石	H区10O-86表土	[4.49]	2.70	0.55	9.58	

第３節　奈良・平安時代

１．方形区画墓

SM005（第100・101図、図版12）

方形の溝が周囲を巡る墳墓である。埋葬施設は、火葬骨を納めた土坑１基を確認している。**位置：**Ｈ区９Ｑ-40グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。南側約170mにSM006がある。**重複：**遺構の重複はない。墳丘は削平されており、斜面地のため東側の周溝は流失により消滅している。**規模：**方台部西辺3.15m、南辺（1.16）m、北辺（1.76）m。周溝を含めた総長は、西辺3.86m、南辺（1.58）m、北辺（2.32）m。**主軸方位：**Ｎ－２°－Ｅ。

墳丘：残存しない。

周溝：斜面の低位である東側では検出されず、「コ」の字状に巡る。規模は残存状況の良好な西周溝では、幅0.40 ～ 0.52m、確認面からの深度0.22m。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

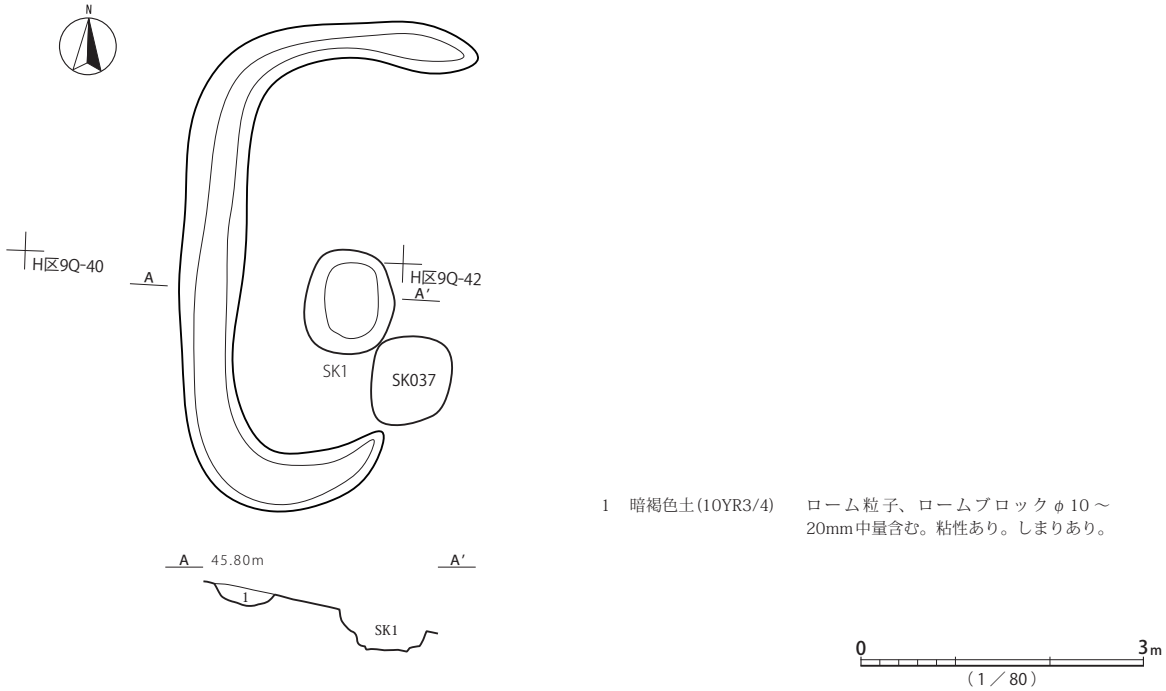
埋葬施設：方台部の西側で土坑（SK1）が検出された。火葬骨と思われる骨片がある。

SK1の規模は、長軸1.10m、短軸0.94m、検出面からの深度0.46m。長軸方位は、Ｎ－２°－Ｅ。覆土は４層に分層され、２層から骨片が検出された。３層は掘り込み内に納められた容器の痕跡と推測されることから、SK1は木製の骨蔵器を納めた土坑と考えられる。

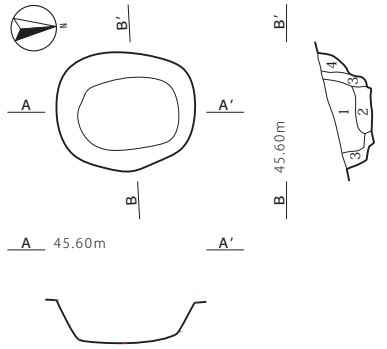
時期：遺構の構造から奈良・平安時代と考えられる。

所見：「コ」の字状に巡る周溝は、本来は方形に巡っていたと推測される。方台部内には火葬骨を木製の骨蔵器に納め埋納した土坑（SK1）がある。SK1の南東にはSK037が隣接している。単独の土坑として報告しているが、覆土中に焼土ブロックを含んでおり、本遺構と関連する可能性もある。

遺物：土器8.0g、骨片4.78gが出土したが、小破片のため図示していない。



第100図　SM005



1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土粒中量、ローム粒子3mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　骨片、骨粉中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子3mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子～ 5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第101図　SM005SK1

SM006（第102 ～ 104図、第49表、図版12・13・28）

方形の溝が周囲を巡る墳墓である。埋葬施設は土坑１基を確認している。**位置：**Ｈ区９Ｙグリッドを中心とする台地の平坦面から南東に下る緩斜面に位置する。南西側約10mにSM004が隣接しており、北側約170mにはSM005がある。**重複：**SK017を切り、SD004に切られる。**規模：**方台部北東辺10.10m、南西辺9.78m、北東－南西軸10.00m。周溝を含めた総長は北東辺11.30m、南西辺9.80m、北東－南西軸11.80m。**主軸方位：**Ｎ－49°－Ｅ。

墳丘：確認されなかった。

周溝：全周する。南西隅で途切れているが、確認調査時の掘削により消滅したためである。幅0.66m ～ 0.97m、確認面からの深度0.13 ～ 0.92m。南東周溝の中央南寄りと、南西周溝の中央から南隅にかけて一段下がっている。北東周溝の覆土中から長頸壺（１）が出土している。

埋葬施設：方台部のほぼ中央で土坑（SK1）が検出された。

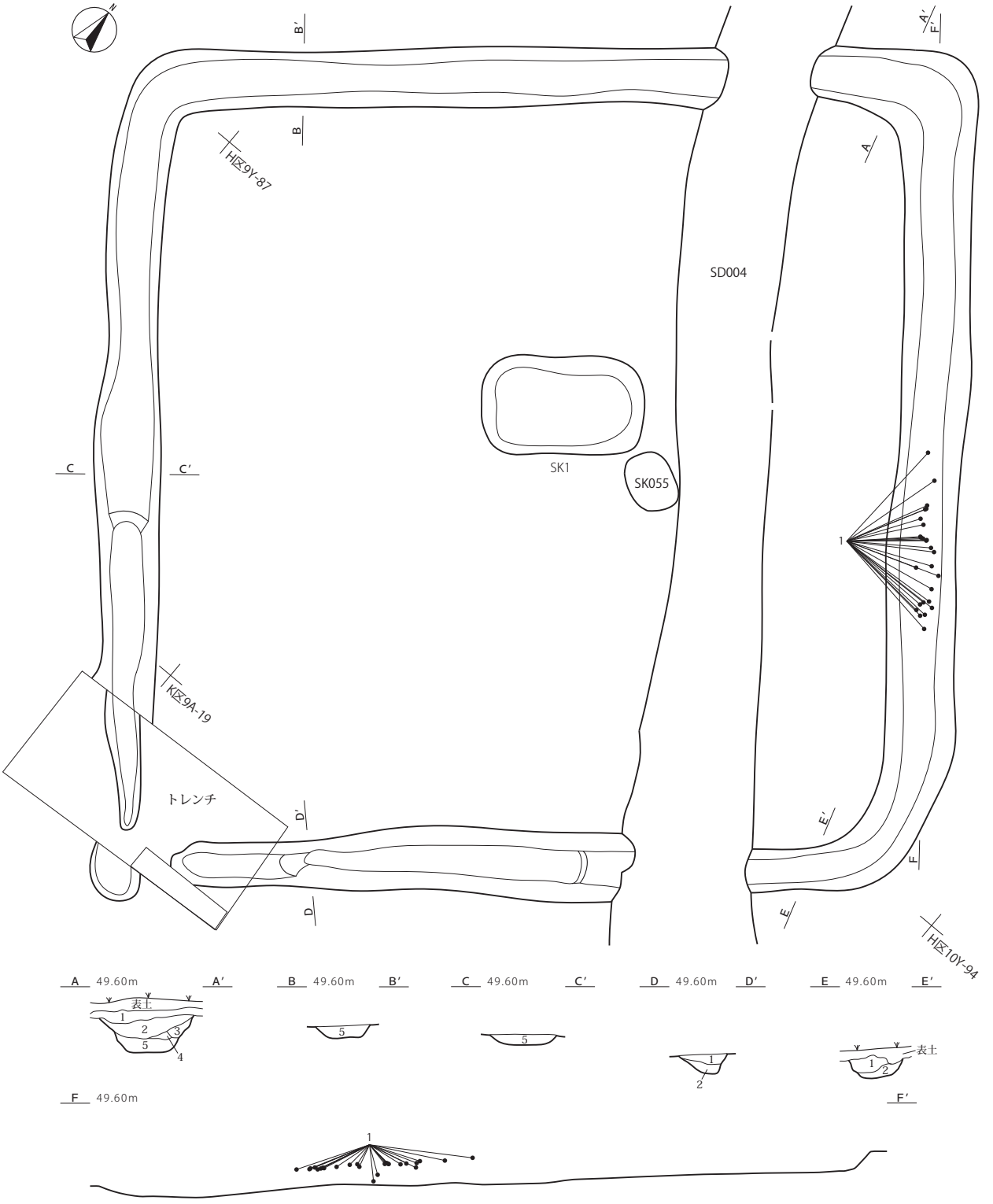
SK1の規模は、長軸2.01m、短軸1.34m、検出面からの深度0.19m。長軸方位は、Ｎ－38°－Ｅ。長軸方位が方台部の主軸方位と同一であることや、方台部のほぼ中央という検出位置から埋葬施設と判断した。覆土は２層に分層されるが、残りが悪く深度0.19mと浅いこともあり木棺等の痕跡は確認されなかった。

時期：出土遺物から８世紀第１四半期と考えられる。

所見：隣接するSM004と主軸方位がほぼ同一である。遺構の時期に隔たりはあるが、SM004を意識した占地、設計のもとに築造された墳墓と考えられる。北東周溝から出土した長頸壺は破片接合の結果、口縁部を欠くものの頸部から底部までが残存する個体となった。破片の出土がまとまった範囲であることから、墳墓内での祭祀行為が推測される。

遺物：須恵器820.6gが出土した。

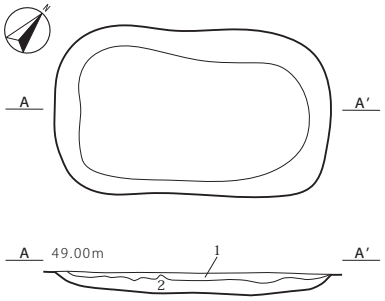
１は須恵器の長頸壺である。胴部下半には回転ヘラケズリが施されている。



1　黒褐色土(2.5Y3/2)　暗褐色土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)　黒褐色土中量、ロームブロックφ５～10㎜少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
3　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　明黄褐色土多量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　暗灰黄色砂(2.5Y4/2)　明黄褐色土少量、橙色スコリア微量含む。粘性弱い。しまりややあり。
5　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ローム粒子多量、暗褐色土中量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

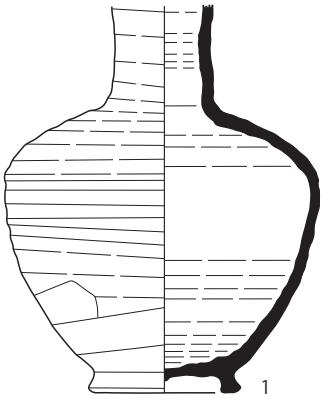
第102図　SM006



1　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　暗褐色土多量、ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　暗褐色土粒子、ローム粒子、焼土粒子微量含む。粘性弱い。しまりややあり。

0　2m
（1／60）

第103図　SM006SK1



0　10cm
（1／4）

第104図　SM006出土遺物

第49表　SM006出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 長頸壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　(7.4) 器　高：[20.5] 最大径：　16.7	外面：頸部～胴部上半ロクロ調整、胴部下半～底部回転ヘラケズリ 内面：頸部～底部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：頸部～底部の2/3	頸部～肩部外面に自然釉付着

２．溝

SD001（第105・106図、第50表、図版13・28）

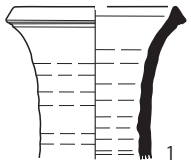
位置：H区10Ｎグリッド～H区10Ｐグリッドで台地の南東向き緩斜面から急斜面に位置する。**重複：**SI005・SI006・SI015・SI017を切る。南端は削平のため､本来の長さは不明である。**規模：**全長（57.40）m、幅0.44 ～ 1.02ｍ、確認面からの深度0.12 ～ 0.33ｍ。**形態：**中央で大きく「く」の字状に折れ、北半部は北西方向、南半部は南西方向に伸びる。底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

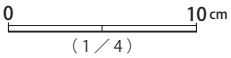
時期：重複および出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の東縁に沿っているが、北西側は緩斜面を斜行し、南西側は急斜面に平行して伸びる長大な溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土師器1,162.0g、須恵器25.6gが出土した。

1は須恵器の長頸壺である。





第105図　SD001出土遺物

第50表　SD001出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 長頸壺	覆土上層	口　径：（8.4） 底　径：　－ 器　高：［8.1］ 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ロクロ調整 内面：口縁部～頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰黄 残存度：口縁部～頸部の1/3	口縁部～頸部内外面に自然釉付着

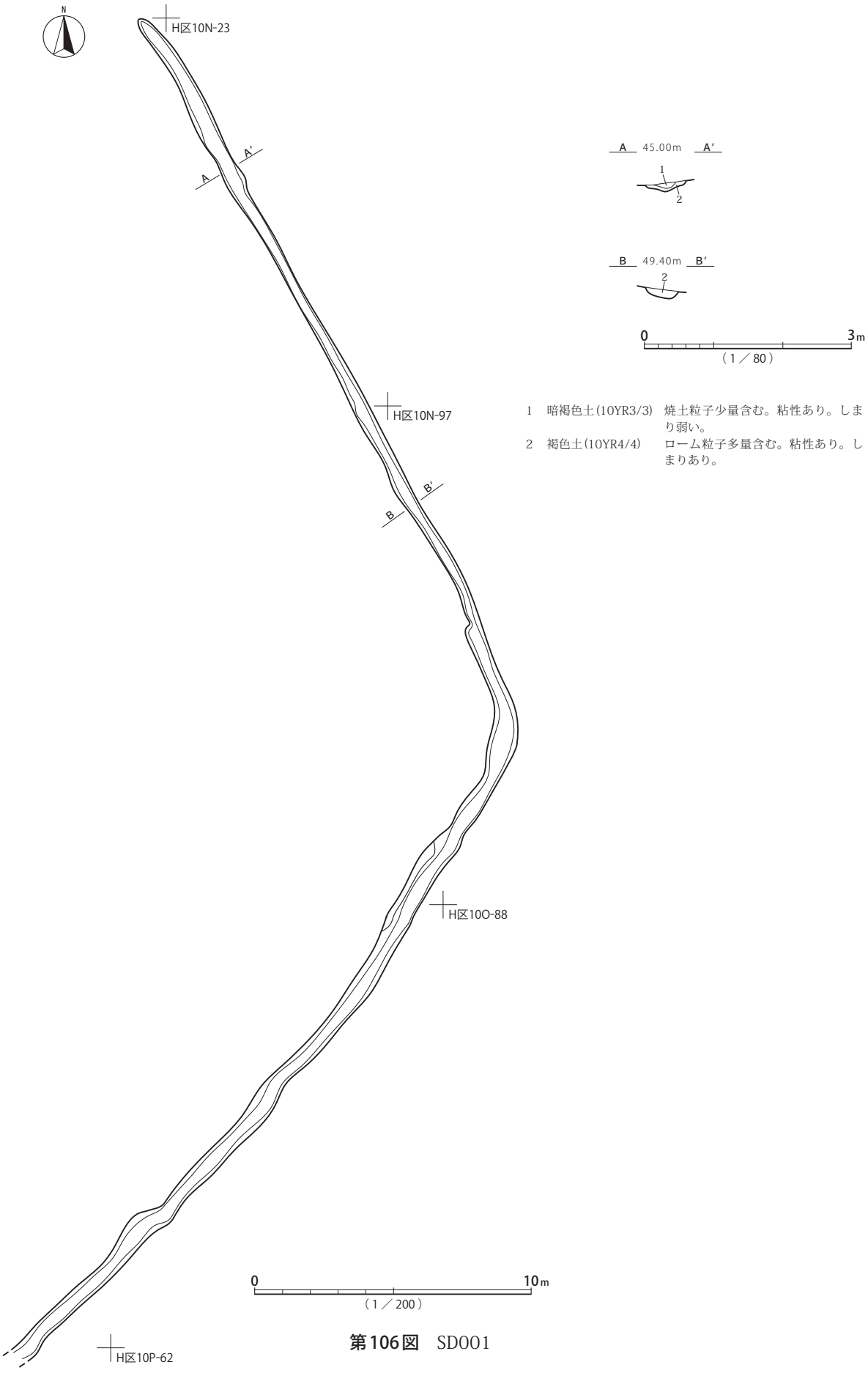
SD002（第107図、図版13）

位置：H区８Ｑグリッド～H区12Ｖグリッドで台地の平坦面から北東向き斜面、さらには舌状に張り出した尾根の東向き緩斜面に位置する。**重複：**北西側はSK061に、南東側はSD015に切られ、SK009を切る。北西端は調査区外へ伸び、南東端は確認調査時のトレンチで不明な点もあるが、SD004とは重複せずに立ち上がる。**規模：**全長（121.90）m、幅0.35 ～ 1.73ｍ、確認面からの深度0.10 ～ 0.84ｍ。**形態：**北西－南東方向に伸び、中央から南東にかけて緩やかに湾曲する。底面は両端から中央やや南東に向かって傾斜し、壁面は逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

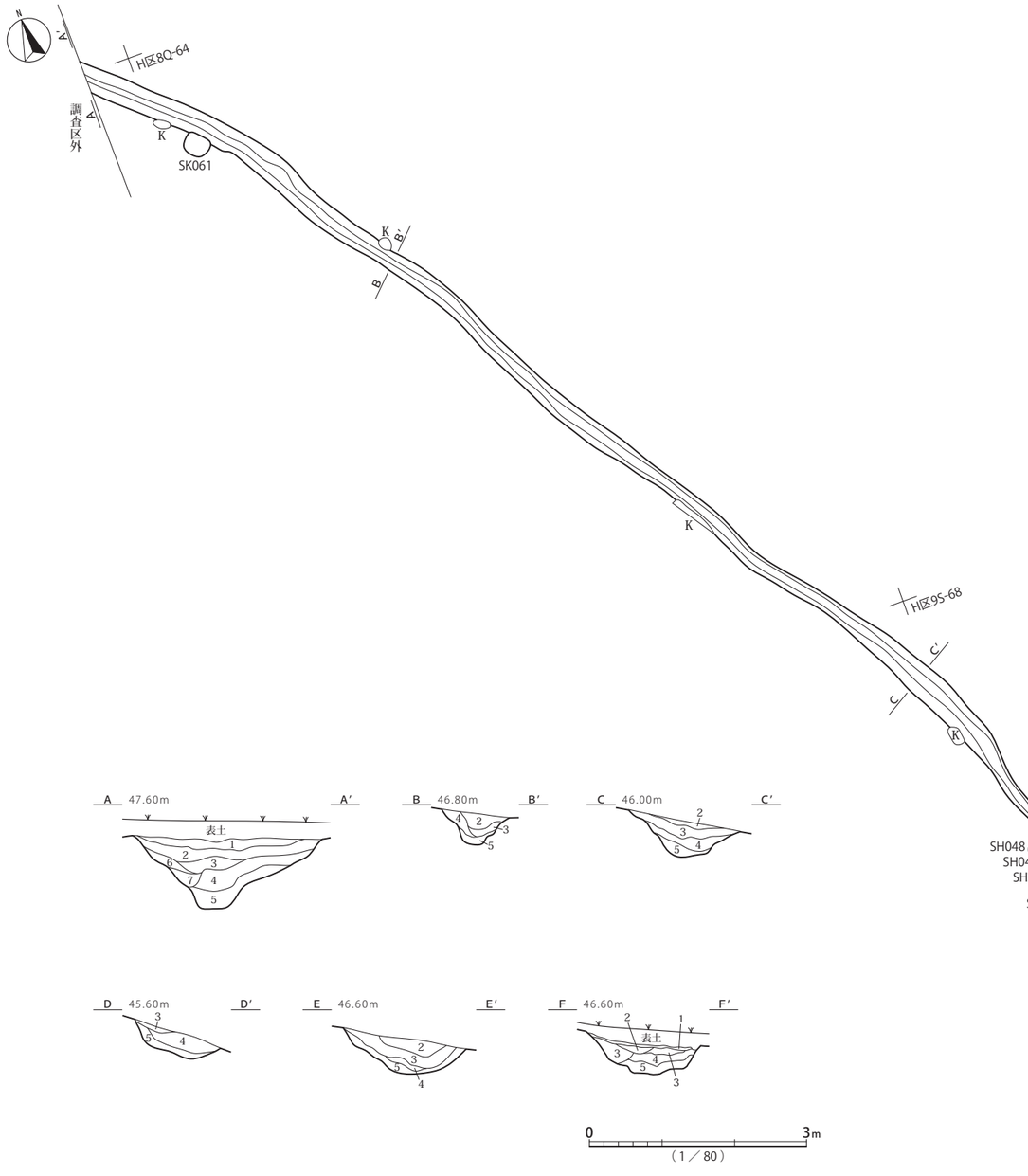
所見：台地の平坦面から北東向き斜面、東向き緩斜面に伸びる長大な溝である。中央では検出面を下げすぎたことから溝が途切れているが、本来は連続していたと考えられる。水生堆積は認められない。

遺物：出土していない。

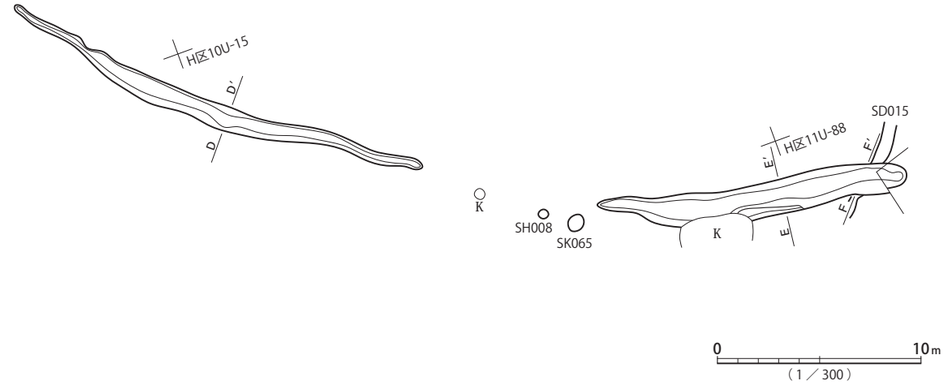


1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。

第106図　SD001



1　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性ややあり。しまり強い。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ5～20mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
3　黄褐色土(2.5Y5/4)　明黄褐色土、暗褐色土、ロームブロックφ5～10mm多量含む。粘性ややあり。しまりあり。
4　暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
5　黄褐色土(2.5Y5/3)　明黄褐色土、暗褐色土、ロームブロックφ10～30mm多量含む粘性ややあり。しまりややあり。
6　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ1～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　粘性ややあり。しまりあり。



第107図　SD002

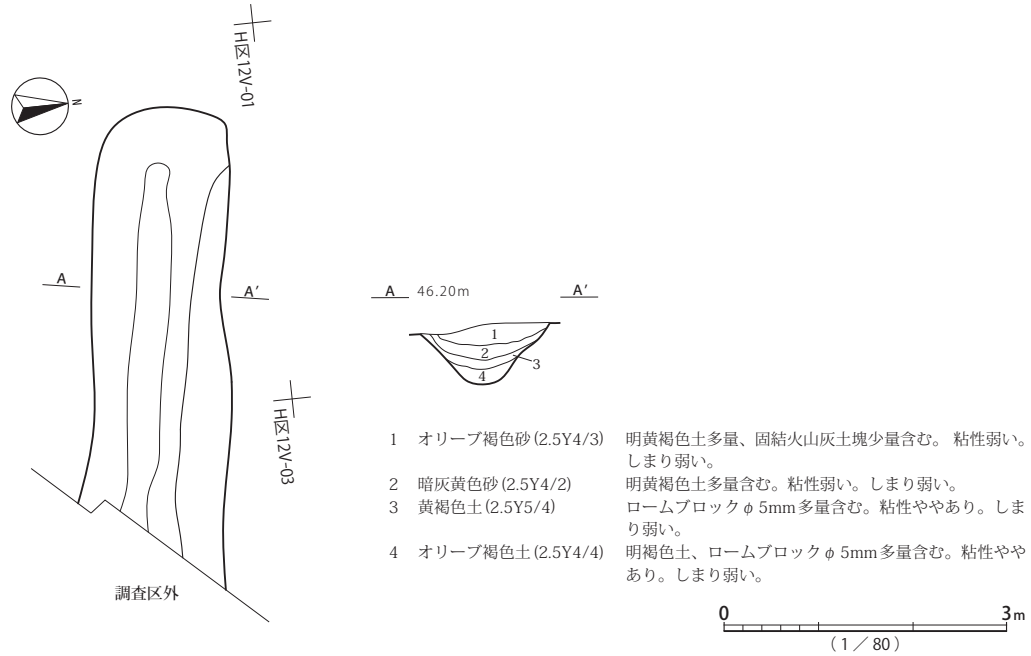
SD003（第108図、図版13）

位置：H区12Ｖ-02グリッドを中心とする舌状に張り出した尾根の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東端は調査区外へ伸びるが、西端はSD004の手前で立ち上がる。**規模：**全長（5.32）m、幅1.36 ～ 1.54 m、確認面からの深度0.53 ～ 0.78 m。**形態：**東西方向に直線的に伸びる。底面は東に傾斜する。壁面は北側に段を有し、逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：舌状に張り出した尾根の東向き緩斜面を下る溝である。覆土の堆積状況がSD004に類似することから同時期の溝と判断した。

遺物：出土していない。



第108図　SD003

SD004（第109・110図、第51表、図版13・28）

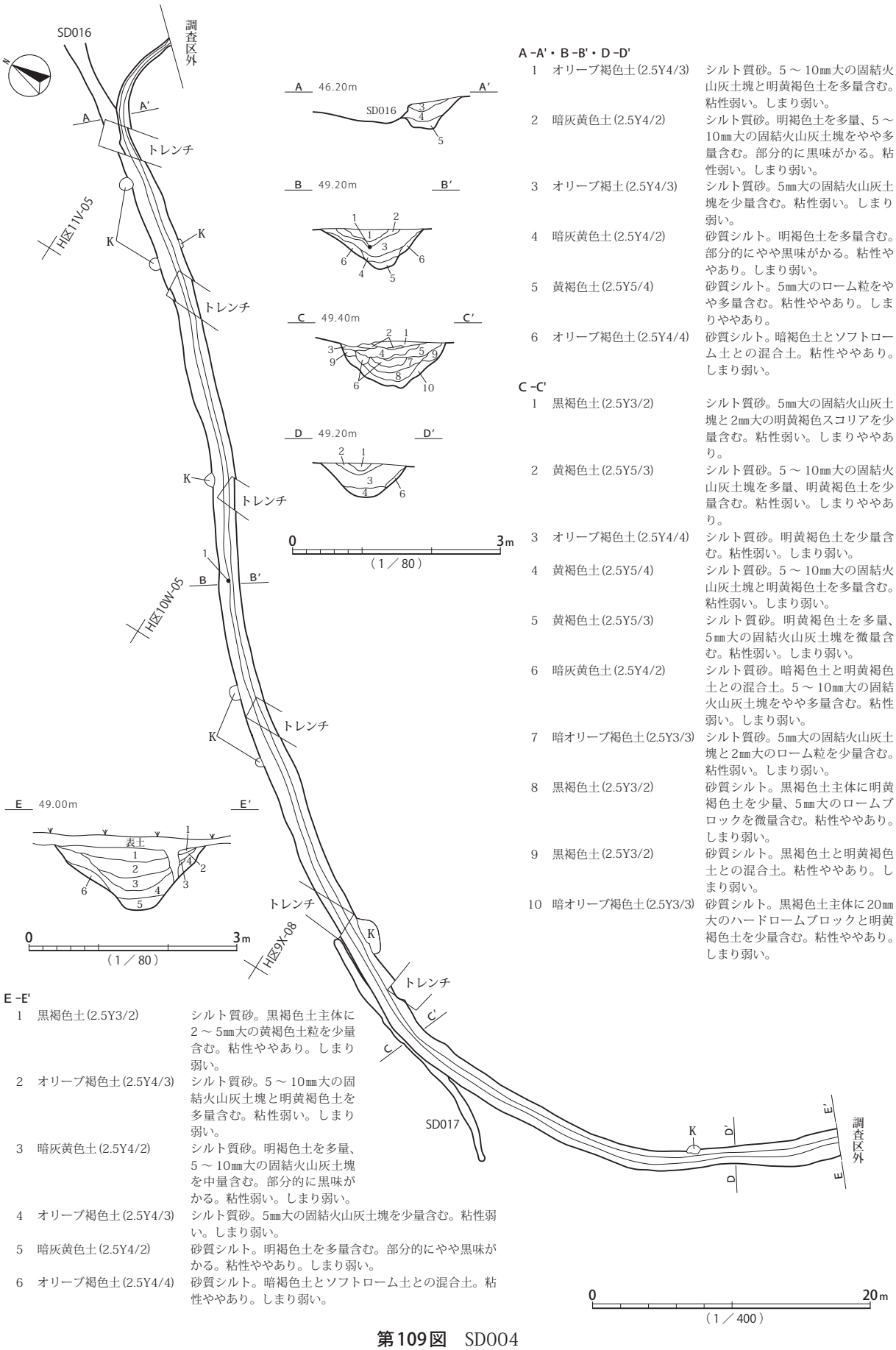
位置：H区12Ｕグリッド～Ｋ区10Ａグリッドで台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**中央でSD005、SK054、南東側でSM006、SK017を切り、北側でSD016、中央でSD017に切られる。両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（109.60）m、幅0.40 ～ 2.06 m、確認面からの深度0.11 ～ 0.72 m。**形態：**北－南東方向に伸びる。北端は東から南方向へ屈曲し、中央はほぼ直線的で南側は緩やかに南東方向に湾曲する。底面は北へ緩やかに傾斜するが、北端では東に、南東端では南東へ傾斜が強くなる。壁面は逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の東縁に沿っているが、北端は舌状に張り出した尾根の東向き緩斜面を、南東端は南東向き緩斜面を下る長大な溝である。覆土の上層～中層では固結火山灰土塊が認められる。水性堆積は認められない。

遺物：須恵器263.9gが出土した。

１は須恵器の長頸壺、２は須恵器の甕である。



A－A′・B－B′・D－D′

1	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	シルト質砂。5～10㎜大の固結火山灰土塊と明黄褐色土を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	シルト質砂。明褐色土を多量、5～10㎜大の固結火山灰土塊をやや多量含む。部分的に黒味がかる。粘性弱い。しまり弱い。
3	オリーブ褐土(2.5Y4/3)	シルト質砂。5㎜大の固結火山灰土塊を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	砂質シルト。明褐色土を多量含む。部分的にやや黒味がかる。粘性ややあり。しまり弱い。
5	黄褐色土(2.5Y5/4)	砂質シルト。5㎜大のローム粒をやや多量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	砂質シルト。暗褐色土とソフトローム土との混合土。粘性ややあり。しまり弱い。

C－C'

1	黒褐色土(2.5Y3/2)	シルト質砂。5㎜大の固結火山灰土塊と2㎜大の明黄褐色スコリアを少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
2	黄褐色土(2.5Y5/3)	シルト質砂。5～10㎜大の固結火山灰土塊を多量、明黄褐色土を少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
3	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	シルト質砂。明黄褐色土を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	黄褐色土(2.5Y5/4)	シルト質砂。5～10㎜大の固結火山灰土塊と明黄褐色土を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	黄褐色土(2.5Y5/3)	シルト質砂。明黄褐色土を多量、5㎜大の固結火山灰土塊を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	シルト質砂。暗褐色土と明黄褐色土との混合土。5～10㎜大の固結火山灰土塊をやや多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	シルト質砂。5㎜大の固結火山灰土塊と2㎜大のローム粒を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	黒褐色土(2.5Y3/2)	砂質シルト。黒褐色土主体に明黄褐色土を少量、5㎜大のロームブロックを微量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
9	黒褐色土(2.5Y3/2)	砂質シルト。黒褐色土と明黄褐色土との混合土。粘性ややあり。しまり弱い。
10	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	砂質シルト。黒褐色土主体に20㎜大のハードロームブロックと明黄褐色土を少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

E－E'

1	黒褐色土(2.5Y3/2)	シルト質砂。黒褐色土主体に2～5㎜大の黄褐色土粒を少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
2	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	シルト質砂。5～10㎜大の固結火山灰土塊と明黄褐色土を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	シルト質砂。明褐色土を多量、5～10㎜大の固結火山灰土塊を中量含む。部分的に黒味がかる。粘性弱い。しまり弱い。
4	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	シルト質砂。5㎜大の固結火山灰土塊を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	砂質シルト。明褐色土を多量含む。部分的にやや黒味がかる。粘性ややあり。しまり弱い。
6	オリーブ褐色土(2.5Y4/4)	砂質シルト。暗褐色土とソフトローム土との混合土。粘性ややあり。しまり弱い。

第109図　SD004



第110図　SD004出土遺物

第51表　SD004出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 長頸壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[9.2] 最大径：　－	外面：頸部ロクロ調整 内面：頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：灰黄 残存度：頸部の2/3	
2	須恵器 甕	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[9.5] 最大径：　－	外面：肩部平行叩き目後ロクロ調整 内面：肩部横位ヘラナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄褐 残存度：肩部の破片	肩部内外面に自然釉付着

SD005（第111・112図、第52表、図版14・28）

位置：H区８Wグリッド～H区10Xグリッドで台地の平坦面から東向き緩斜面に位置する。**重複：**南東側はSD004・SD017に切られ、北西側でSD006を切る。両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（36.40）m、幅1.45～2.04m、確認面からの深度0.05～0.46m。**形態：**北西－南東方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦であるが、南東側に土坑状の浅い落ち込みがあり傾斜が強くなる。壁面は皿状だが、南東端は逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から９世紀前半と考えられる。

所見：台地の平坦面から東向き緩斜面を下る溝である。調査区西壁で検出面より上位の覆土を観察したところ、上層に固結火山灰土塊が含まれることが確認された。水性堆積は認められない。

遺物：土師器66.1gが出土した。

１は須恵系土師質土器の坏である。

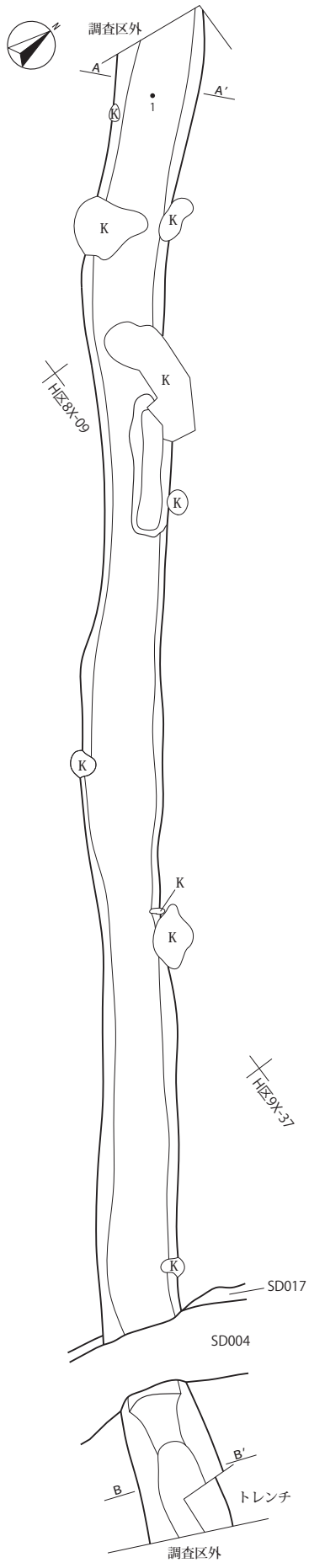


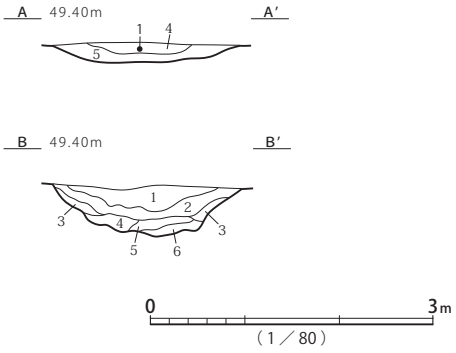
第111図　SD005出土遺物

第52表　SD005出土土器観察表

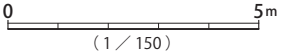
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵系 土師質 土器 坏	覆土中層	口　径：(12.2) 底　径：　(5.2) 器　高：　4.4 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/4に手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：口縁部～底部の1/2	





1	黒色土(2.5Y2/1)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	明黄褐色土中量、ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	明黄褐色土、暗褐色土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	明黄褐色土中量、ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
5	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	ロームブロックφ5mm多量、焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。
6	黄褐色砂(2.5Y5/3)	オリーブ褐色土多量、ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。



第112図　SD005

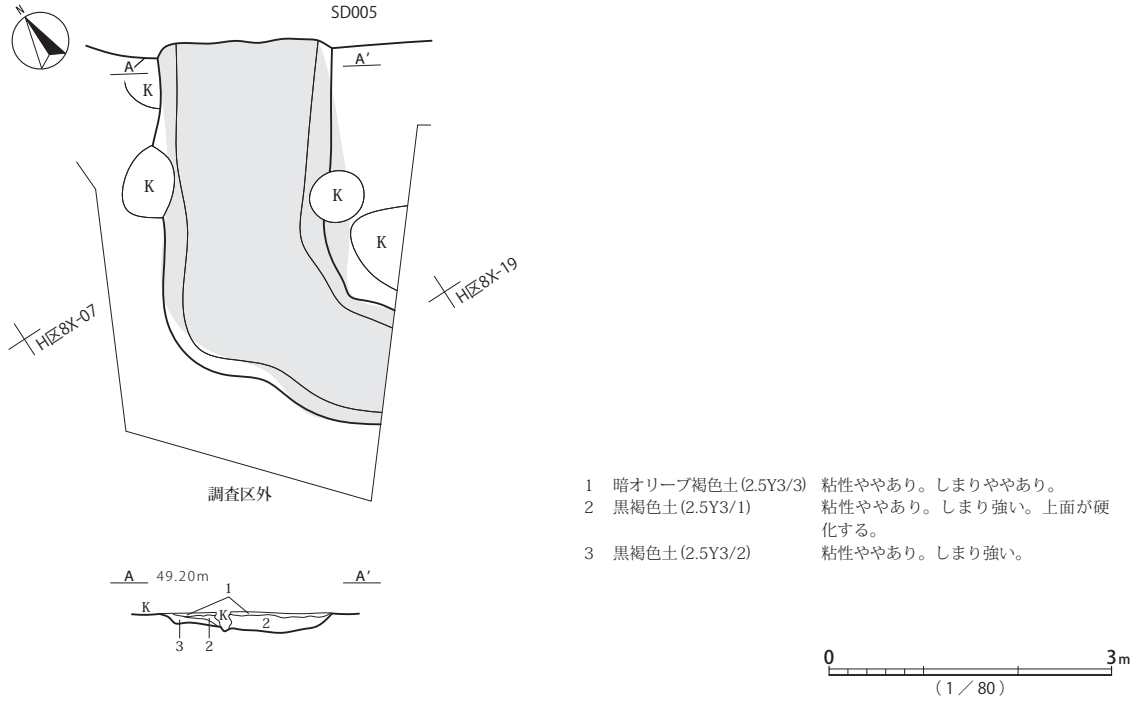
SD006（第113図、図版14）

位置：Ｈ区８Ｘ-08グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**北東側はSD005に切られ、その先へは続かない。南東端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（4.46）m、幅1.29 ～ 1.85 m、確認面からの深度0.07 ～ 0.18 m。**形態：**北東－南東方向でＬ字状に屈曲する硬化面を有する溝である。硬化面と底面はほぼ平坦で、壁面は皿状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：詳細は不明だが硬化面を有する溝と判断した。

遺物：出土していない。



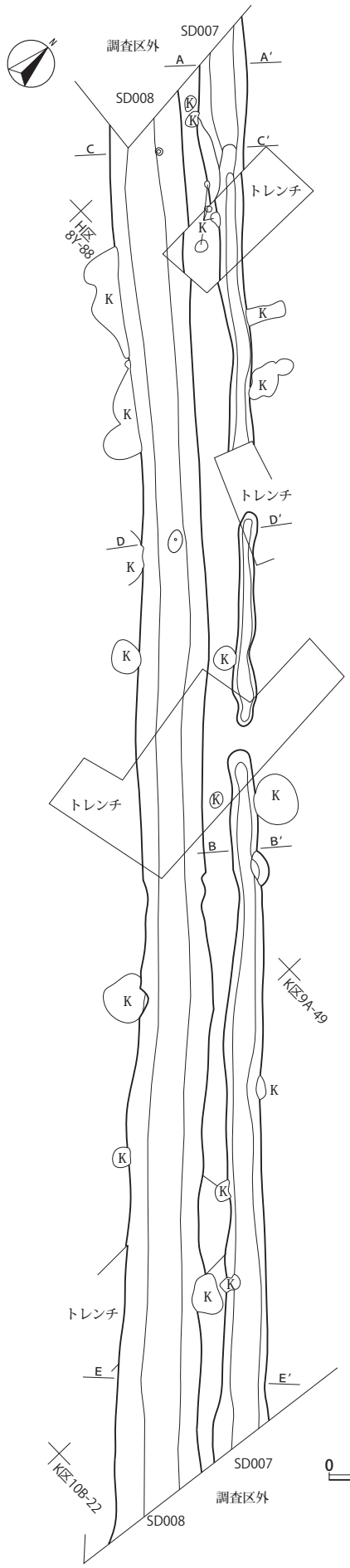
第113図　SD006

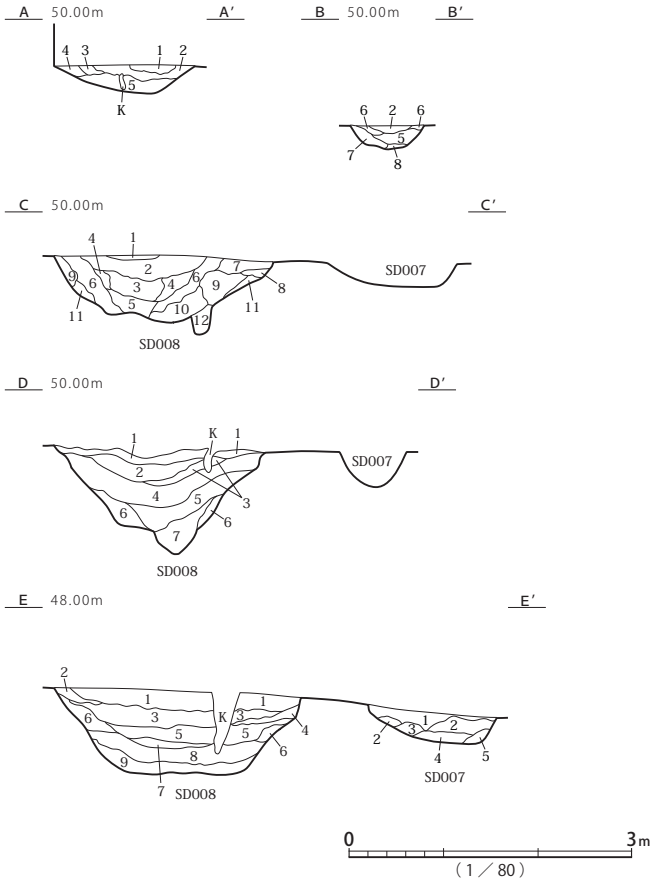
SD007（第114図、図版14）

位置：Ｈ区８Ｙグリッド～Ｋ区10Ｂグリッドで台地の平坦面から南東向きの緩斜面～急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（46.50）m、幅0.45 ～ 1.74 m、確認面からの深度0.15 ～ 0.46 m。**形態：**北西－南東方向に直線的に伸びる。底面は南東に緩やかに傾斜し、南東端できつく傾斜する。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土と他の溝との関係から奈良・平安時代と考えられる。

所見：平坦面から南東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。南西側に隣接してSD008とSM004北東周溝が平行する。併存関係は、遺物が少ないので覆土から検討してみると、SD007・SD008はローム漸移層の上面で遺構が検出された。覆土はともに自然堆積の状況を示しており、上層で固結火山灰土塊が観察される。SM004はベルトを設定しており表土以下の観察が可能であった。SD007・SD008と同じ自然堆積の状況を示すが、固結火山灰土塊は、周溝が最終的に埋





SD007

1	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
2	黄褐色土(2.5Y5/3)	焼土ブロックφ5mm微量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
3	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ロームブロックφ２～10mm中量含む。粘性弱い。しまりややあり。
4	黄褐色土(2.5Y5/3)	固結火山灰土塊少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
5	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	明黄褐色土多量含む。粘性弱い。しまりあり。
6	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7	にぶい黄色土(2.5Y6/4)	暗褐色土少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
8	にぶい黄色土(2.5Y6/3)	暗褐色土多量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

SD008

1	黒色砂 (2.5Y2/1)	固結火山灰土塊少量、橙色スコリア微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	明黄褐色土多量、固結火山灰土塊、橙色スコリアを少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
3	黒褐色砂(2.5Y3/1)	明黄褐色土中量、橙色スコリア少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	暗灰黄色土(2.5Y4/2)	暗褐色土多量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
5	オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)	明黄褐色土、暗褐色土多量、橙色スコリア少量含む。粘性弱い。しまりあり。
6	黄褐色土(2.5Y5/3)	明黄褐色土、暗褐色土多量、橙色スコリア少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
7	オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)	明黄褐色土、暗褐色土中量、橙色スコリア微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	明黄褐色土、橙色スコリア中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
9	黒褐色砂(2.5Y3/1)	橙色スコリア中量、明黄褐色土少量含む。粘性弱い。しまり強い。
10	黄褐色砂(2.5Y5/4)	明黄褐色土、暗褐色土中量、焼土ブロックφ５～20㎜少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
11	にぶい黄色土(2.5Y6/4)	ローム粒子多量、暗褐色土少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
12	にぶい黄色土(2.5Y6/3)	ロームブロックφ10～20㎜多量、焼土粒子微量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

0　10m
（1／200）

第114図　SD007・SD008

没したその上で認められた。固結火山灰土塊の堆積が同じ時期であるとするのなら、SM004の方が埋没の時期が早い、つまり開削の時期が早かった可能性がある。固結火山灰土塊の堆積状況だけでは断定できないが、SD007は、SD004などと同様に台地を囲う溝のひとつで、SM004を避けるように開削されたと考えておきたい。

遺物：土師器24.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SD008（第114図、図版14）

位置：H区８Ｙグリッド～K区10Ｂグリッドで台地の平坦面から南東向きの緩斜面～急斜面に位置する。**重複：**両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（46.40）m、幅1.82 ～ 3.18m、確認面からの深度0.58 ～ 1.16m。**形態：**北西－南東方向に直線的に伸びる。底面は南東に緩やかに傾斜し、南東端できつく傾斜する。壁面は逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の平坦面から南東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。SD007と同様にSM004を避けるように開削されたと推測される。

遺物：出土していない。

SD009（第115・116図、第53表、図版14・29）

位置：H区８Ｙグリッド～K区７Ａグリッドで台地の平坦面に位置する。**重複：**両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（25.85）m、幅1.12 ～ 1.65m、確認面からの深度0.13 ～ 0.30m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦で、壁面は逆台形状に緩やかに立ち上がるが、中央東側には平坦な段を有する。

時期：覆土と出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

所見：SM004北西周溝に近接することから、SD007と同様にSM004を避けるように開削された溝と推測される。水性堆積は認められない。

遺物：土師器95.0g、土製品1,419.7gが出土した。

１は鞴の羽口である。側面に指頭による調整痕がみられる。先端部は溶解している。

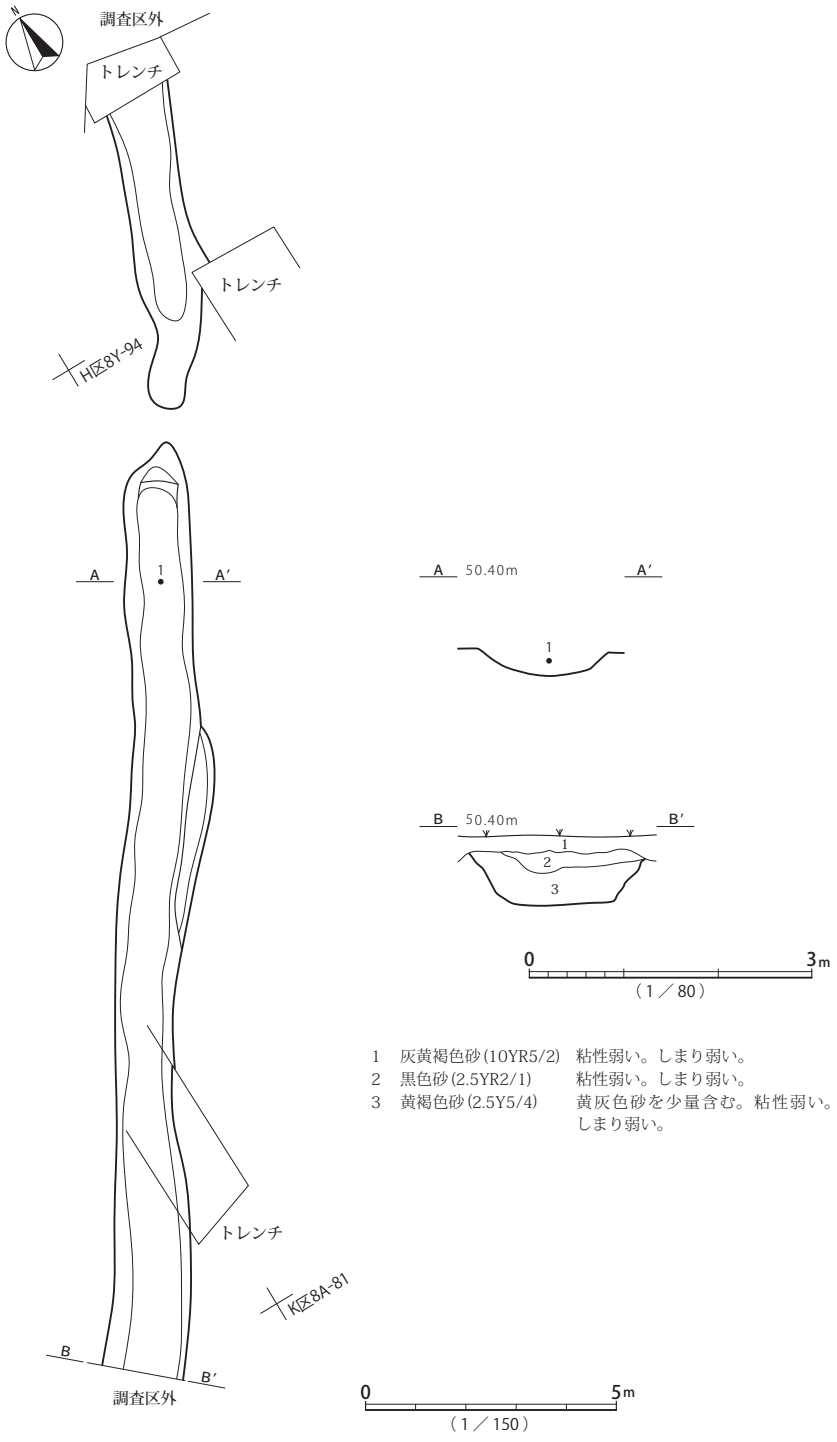
SD010（第117図、図版14）

位置：Ｅ区９Ｂ-44グリッドを中心とする台地の南東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI018を切る。両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（9.20）m、幅0.35 ～ 0.80m、確認面からの深度0.19 ～ 0.31m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は平坦で、壁面は逆台形状に緩やかに立ち上がる。

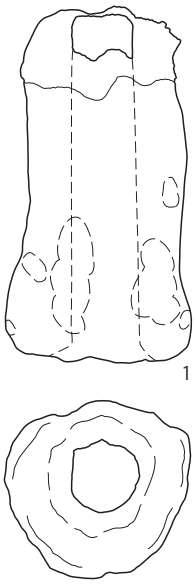
時期：重複から奈良・平安時代と考えられる。

所見：大半が調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、水性堆積が認められない溝である。

遺物：出土していない。


N
調査区外
トレンチ
トレンチ
H区8Y-94
A
1
A′
トレンチ
K区8A-81
B
B′
調査区外
A 50.40m A′
1
B 50.40m B′
1
2
3
0 3m
（1／80）
1 灰黄褐色砂(10YR5/2) 粘性弱い。しまり弱い。
2 黒色砂(2.5YR2/1) 粘性弱い。しまり弱い。
3 黄褐色砂(2.5Y5/4) 黄灰色砂を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
0 5m
（1／150）

第115図　SD009



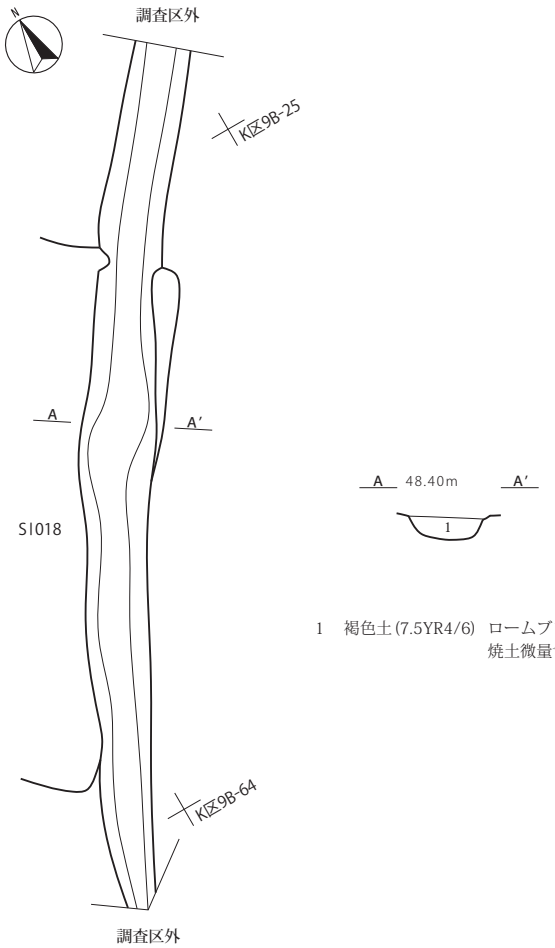
0　10cm
（1／4）

第116図　SD009出土遺物

第53表　SD009出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
1	羽口	覆土中層	長さ：18.8　幅：9.9　厚さ：9.4	1419.7	先端は溶解



1　褐色土（7.5YR4/6）ロームブロックφ５～10mm、固結火山灰土塊少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第117図　SD010

３．土　坑

SK026（第118・119図、第54表、図版14・28）

位置：H区10M−32グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.51ｍ、短軸1.32ｍ、確認面からの深度0.71ｍ。**長軸方位：**N−69°−W。**形態：**長楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面は中位に段がある。南壁はオーバーハングする。

時期：出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

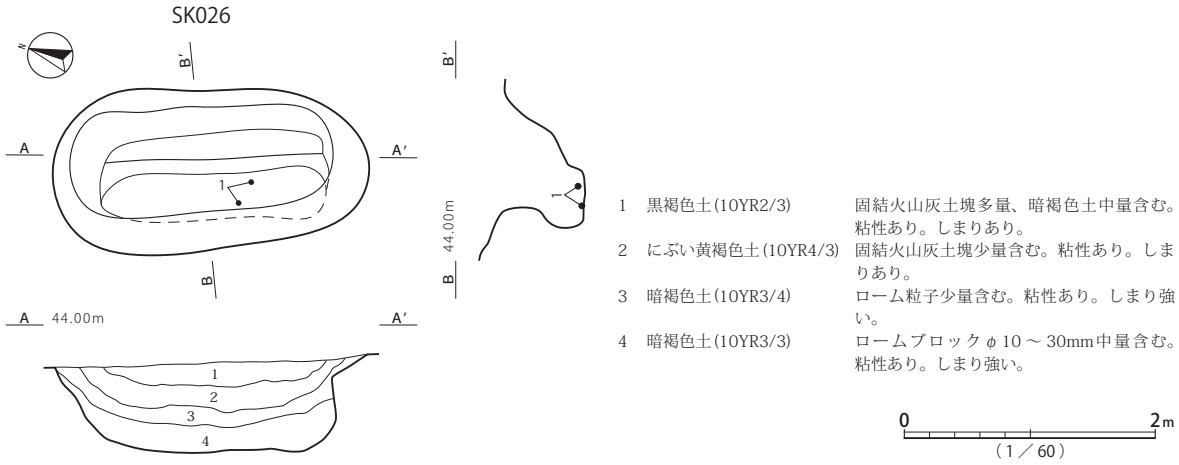
所見：台地の東向き緩斜面に位置し、形状から有天井土坑と考えられる。覆土には固結火山灰土塊が含まれる。

遺物：土師器460.2gが出土した。

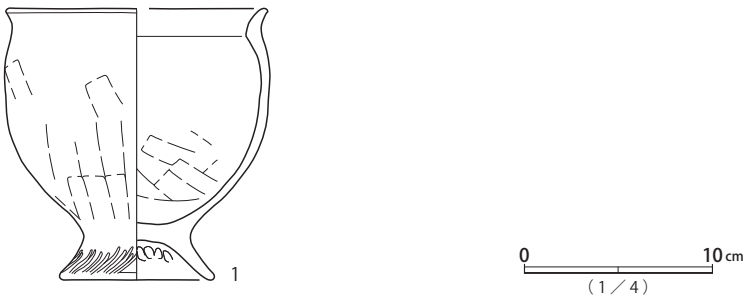
１は土師器の台付甕で、覆土下層からの出土である。

SK027（第120図、図版14）

位置：H区８N−46グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.62ｍ、短軸1.06ｍ、確認面からの深度0.63ｍ。**長軸方位：**N−54°−E。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にややきつく立ち上がる。



第118図　SK026



第119図　SK026出土遺物

第54表　SK026出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 台付甕	覆土下層	口　径：(13.6) 脚　径：　(8.0) 器　高：[14.3] 最大径：　−	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、脚台部ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、脚台部指頭圧痕・ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒・石英・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～脚台部の1/2	

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地のほぼ平坦面に位置する。覆土の堆積状況から、人為的に埋め戻されたと推測される。SK027 ～ SK030は、等間隔（5.5 ～ 6.0ｍ）で並んでおり、形状や覆土が類似する。

遺物：出土していない。

SK028（第120図、図版15）

位置：Ｈ区８Ｎ-68グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.58ｍ、短軸1.16ｍ、確認面からの深度0.83ｍ。**長軸方位：**Ｎ-58°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面は湾曲して立ち上がり、上位で外側に開く。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

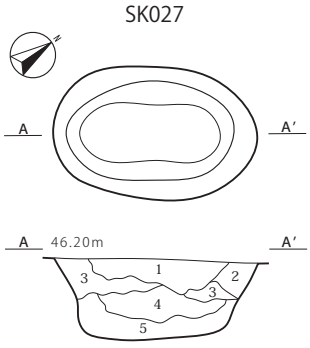
遺物：出土していない。

SK029（第120図、図版15）

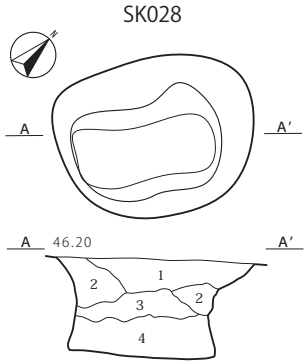
位置：Ｈ区９Ｎ-71グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.46ｍ、短軸1.14ｍ、確認面からの深度0.86ｍ。**長軸方位：**Ｎ-75°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。上位に段を有し、北側、南側ともにオーバーハングする。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

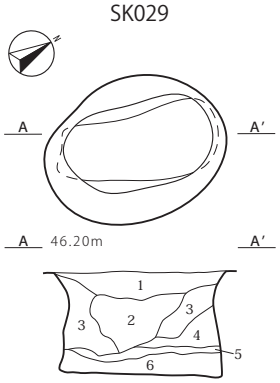
遺物：土師器37.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、ロームブロック中量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10 ～ 30mm少量含む。炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子中量、焼土微量。粘性あり。しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子、ロームブロックφ5 ～ 40mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり弱い。
5　黒色土(10YR1.7/1)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10 ～ 30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第120図　SK026 ～ SK029

SK030（第121図、図版15）

位置：Ｈ区９Ｎ-83グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.56ｍ、短軸1.08ｍ、確認面からの深度0.60ｍ。**長軸方位：**Ｎ-78°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面は逆台形状にややきつく立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK031（第121図）

位置：Ｈ区８Ｎ-73グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.19ｍ、短軸1.00ｍ、確認面からの深度0.41ｍ。**長軸方位：**Ｎ-88°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、北側に傾斜する。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK032（第121図）

位置：Ｈ区10Ｏ-32グリッドに位置する。**重複：**SM003を切る。**規模：**長軸1.53ｍ、短軸1.46ｍ、確認面からの深度0.51ｍ。**長軸方位：**Ｎ-86°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面はほぼ平坦で、南側に平坦な段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：土師器41.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK033（第121図）

位置：Ｈ区10Ｏ-46グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.87ｍ、短軸0.84ｍ、確認面からの深度0.56ｍ。**長軸方位：**Ｎ-74°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面はやや起伏があり、壁面は逆台形状にきつく立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

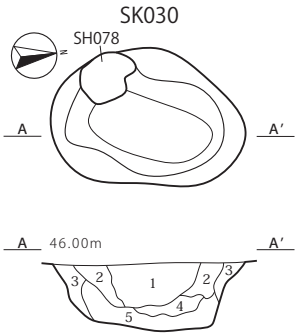
遺物：土師器17.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK034（第121図）

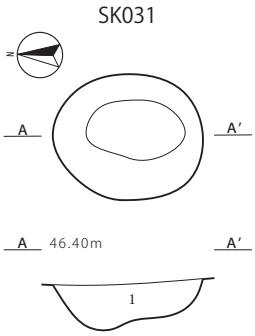
位置：Ｈ区８Ｐ-12グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北東側の一部は撹乱される。**規模：**長軸1.16ｍ、短軸0.76ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**Ｎ-87°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、北側に段がある。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

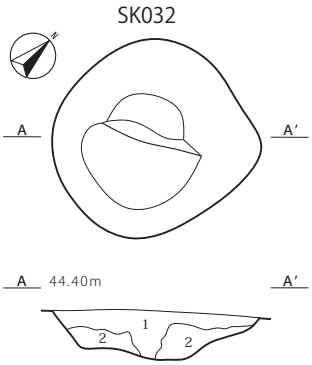
遺物：出土していない。



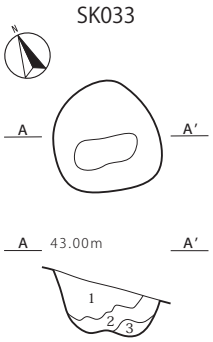
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性強い。しまりあり。



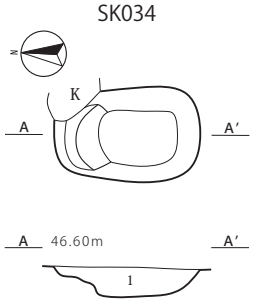
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10～50mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。



1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子小量含む。粘性あり。しまり弱い。



1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ1～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。

0　2m
（1／60）

第121図　SK030～SK034

SK035（第122図）

位置：Ｈ区８Ｐ-32グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.00ｍ、短軸1.56ｍ、確認面からの深度0.74ｍ。**長軸方位：**Ｎ-82°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、北東側に傾斜する。壁面は北側がややきつく、南側は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK036（第122図、図版15）

位置：Ｈ区９Ｐ-78グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.22ｍ、短軸0.86ｍ、確認面からの深度0.55ｍ。**長軸方位：**Ｎ-57°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は北東側と南西側に段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：土師器76.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK037（第122図、図版15）

位置：Ｈ区９Ｑ-42グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.93ｍ、短軸0.83ｍ、確認面からの深度0.64ｍ。**長軸方位：**Ｎ-Ｓ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK038（第122図、図版15）

位置：Ｈ区８Ｒ-55グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.10ｍ、短軸0.74ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**長軸方位：**Ｎ-77°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK039（第122図）

位置：Ｈ区８Ｒ-95グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.44ｍ、短軸1.11ｍ、確認面からの深度0.64ｍ。**長軸方位：**Ｎ-７°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、北側にピット状の窪みがある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK040（第122図）

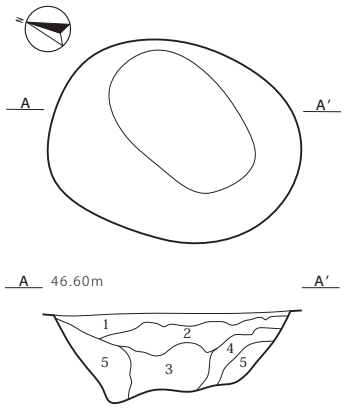
位置：Ｈ区９Ｒ-90グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.86ｍ、短軸

0.80ｍ、確認面からの深度0.57ｍ。**長軸方位：**Ｎ－51°－Ｗ。**形態：**不整円形、底面はほぼ平坦で、北側に傾斜する。壁面は逆台形状にきつく立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

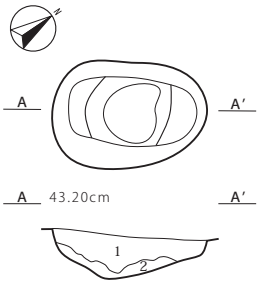
遺物：出土していない。

SK035



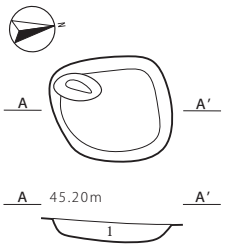
1　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性ややあり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR2/2)　黒褐色土ブロックφ１～10mm多量含む。粘性ややあり。しまり強い。
4　暗褐色砂(10YR3/3)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
5　褐色砂(10YR4/4)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

SK036



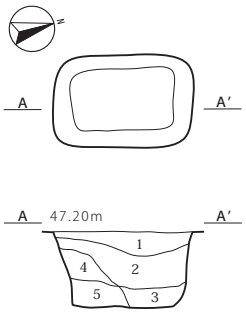
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロックφ10～30mm斑紋状に中量、赤色スコリアφ１～2mm少量含む。粘性強い。しまり強い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒、ロームブロックφ５～20mm少量含む。粘性強い。しまり強い。

SK037



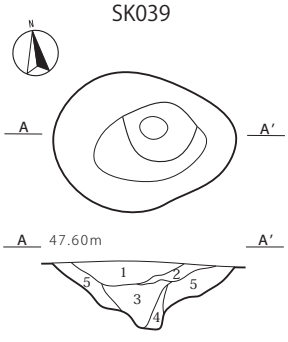
1　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロックφ50mm多量、焼土中量含む。粘性あり。しまり強い。

SK038



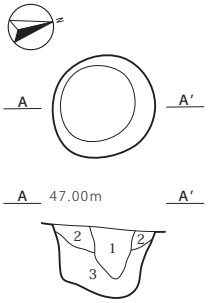
1　黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(2.5Y3/2)　粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(2.5Y3/1)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK039

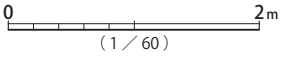


1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　粘性ややあり。しまりややあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性ややあり。しまりややあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色砂(10YR5/3)　粘性弱い。しまりあり。

SK040



1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
3　にぶい黄褐色砂(10YR5/3)　ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。



第122図　SK035～SK040

SK041（第123図）

位置：Ｈ区９Ｒ-75グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.78ｍ、短軸0.63ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**長軸方位：**Ｎ-89°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がるが、北側の上位は外側に開く。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK042（第123図）

位置：Ｈ区９Ｒ-85グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.69ｍ、短軸0.67ｍ、確認面からの深度0.90ｍ。**長軸方位：**Ｎ-20°-Ｗ。**形態：**不整円形、底面は平坦で、壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK043（第123図）

位置：Ｈ区９Ｒ-94グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.07ｍ、短軸0.81ｍ、確認面からの深度0.37ｍ。**長軸方位：**Ｎ-82°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK044（第123図）

位置：Ｈ区９Ｔ-27グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.89ｍ、短軸0.67ｍ、確認面からの深度0.24ｍ。**長軸方位：**Ｎ-71°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は北側で緩やかに、南側できつく立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK045（第123図）

位置：Ｈ区９Ｔ-28グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.22ｍ、短軸0.87ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**長軸方位：**Ｎ-44°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、北西側に段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK046（第123図）

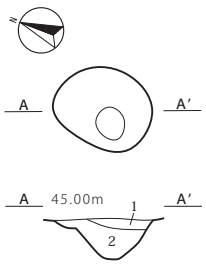
位置：Ｈ区９Ｔ-39グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.72ｍ、

短軸0.68ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ－２°－Ｅ。**形態：**不整円形、底面は平坦で、壁面は皿状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

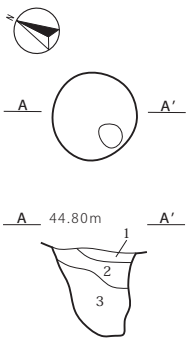
遺物：出土していない。

SK041



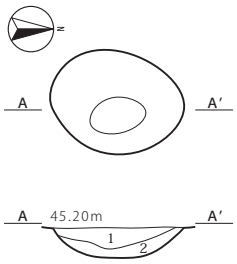
1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。

SK042



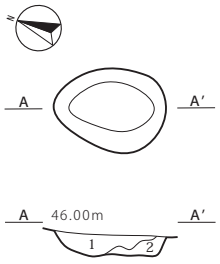
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～11mm少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

SK043



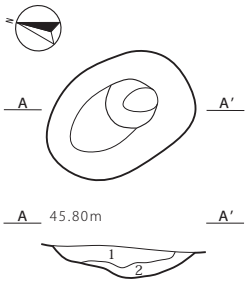
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。

SK044



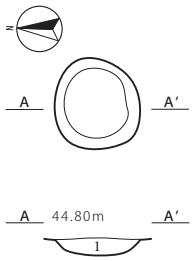
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK045

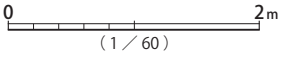


1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。

SK046



1　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。



第123図　SK041 ～ SK046

SK047（第124図）

位置：Ｈ区９Ｔ-47グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.81ｍ、短軸0.55ｍ、確認面からの深度0.29ｍ。**長軸方位：**Ｎ-60°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は湾曲し、南側に浅い窪みがある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK048（第124図）

位置：Ｈ区10Ｔ-91グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.78ｍ、短軸0.60ｍ、確認面からの深度0.40ｍ。**長軸方位：**Ｎ-37°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK049（第124図）

位置：Ｈ区９Ｕ-26グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.98ｍ、短軸0.92ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ-81°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面はほぼ平坦で、南側に浅い窪みがある。壁面は皿状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK050（第124図）

位置：Ｈ区10Ｕ-43グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.66ｍ、短軸0.65ｍ、確認面からの深度0.28ｍ。**長軸方位：**Ｎ-30°-Ｗ。**形態：**不整円形、底面は平坦で、壁面は浅い逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK051（第124図）

位置：Ｈ区10Ｕ-34グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.81ｍ、短軸0.77ｍ、確認面からの深度0.31ｍ。**長軸方位：**Ｎ-42°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK052（第124図）

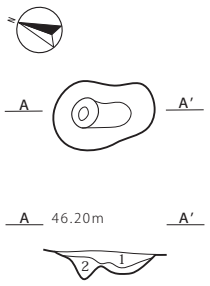
位置：Ｈ区12Ｕ-27グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.27ｍ、

短軸1.00ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**長軸方位：**Ｎ－24°－Ｅ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、南側に平坦な段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

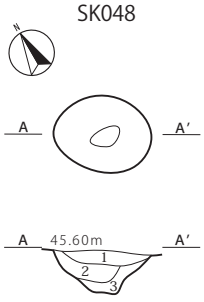
遺物：出土していない。

SK047



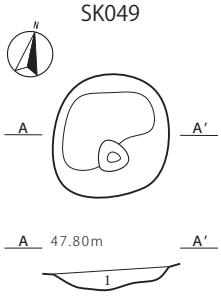
1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性ややあり。しまりあり。
2　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK048



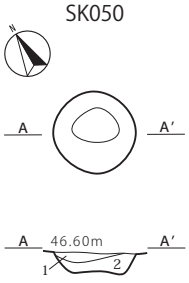
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
3　オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)　ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。

SK049



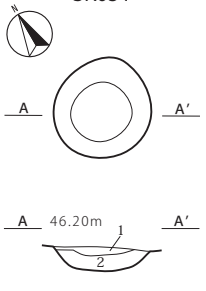
1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性弱い。しまりややあり。

SK050



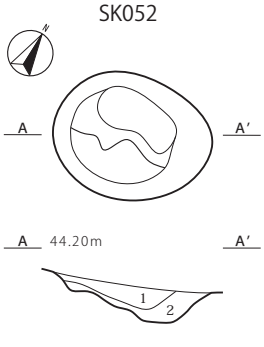
1　暗褐色砂(10YR3/3)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性ややあり。しまりあり。

SK051

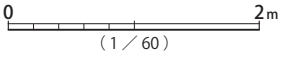


1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
2　黄褐色土(2.5Y5/3)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。

SK052



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
2　暗灰黄色砂(2.5Y4/2)　明黄褐色土多量含む。粘性弱い。しまり弱い。



第124図　SK047 ～ SK052

SK053（第125図）

位置：H区12Ｕ-28グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.04ｍ、短軸0.95ｍ、確認面からの深度0.37ｍ。**長軸方位：**Ｎ-89°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面はほぼ平坦で北側に傾斜し、南側に平坦な段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK054（第125図、図版15）

位置：H区10Ｗ-54グリッドに位置する。**重複：**SD004に切られる。西側の一部は撹乱される。**規模：**長軸（1.51）ｍ、短軸1.34ｍ、確認面からの深度0.52ｍ。**長軸方位：**Ｎ-36°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面は中位に段があり、上位が外側に開く。

時期：重複から奈良・平安時代と考えられる。

所見：形状や覆土から柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

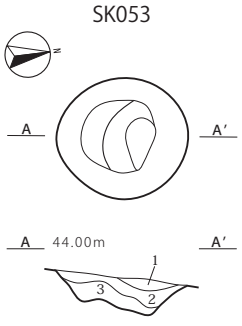
遺物：出土していない。

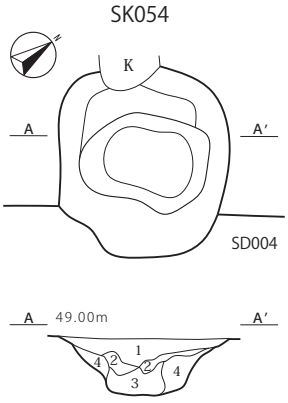
SK055（第126図）

位置：Ｋ区10Ｙ-70グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側は撹乱される。**規模：**長軸0.81ｍ、短軸（0.62）ｍ、確認面からの深度0.18ｍ。**長軸方位：**Ｎ-26°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面はほぼ平坦で、壁面はやや緩やかに立ち上がる。

時期：重複から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。





1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5mm微量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ１～5mm多量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

1　黒褐色土(2.5Y3/2)　ロームブロックφ5mm、黒褐色粘土ブロックφ５～6mm少量含む。粘性ややあり。しまりあり。
2　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　灰色土ブロック多量含む。粘性弱い。しまりややあり。
3　浅黄色土(2.5Y7/4)　粘性弱い。しまり弱い。
4　黄褐色土(2.5Y5/6)　ハードロームブロックφ１～50mm多量に含む。粘性ややあり。しまりややあり。

0　2m
（１／60）

第125図　SK053・SK054

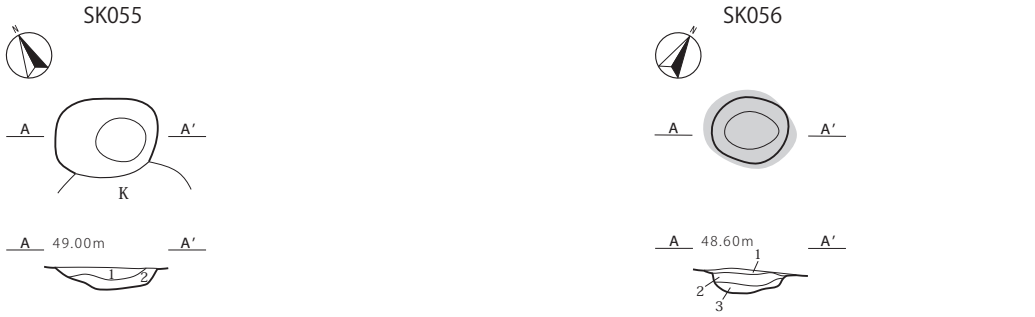
SK056（第126図、図版15）

位置：Ｋ区10Ｙ-93グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.75ｍ、短軸0.60ｍ、確認面からの深度0.21ｍ。**長軸方位：**Ｎ-22°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で南西側に傾斜する。壁面はややきつく立ち上がる。

時期：出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

所見：覆土に焼土が含まれるが、底面や壁面に被熱の痕跡は認められない。

遺物：土師器22.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　暗褐色土、明黄褐色土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　暗褐色土少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

1　褐色砂(7.5YR4/3)　粘性弱い。しまり弱い。
2　明赤褐色砂(5YR5/6)　にぶい黄褐色シルト質砂、炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色砂(10YR4/3)　暗褐色土多量、焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

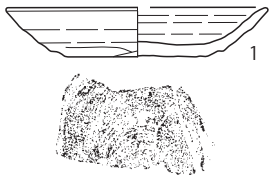
0　2m
（1／60）

第126図　SK055・SK056

４．遺構外出土遺物（第127図、第55表、図版28）

遺構外から出土した奈良・平安時代の遺物についてここで報告する。

１は須恵系土師質土器の坏である。底部には回転糸切り痕、外周手持ちヘラケズリがみられる。



0　10cm
（1／4）

第127図　奈良・平安時代遺構外出土遺物

第55表　奈良・平安時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵系土師質土器 坏	K区 8B-53 Ⅰ層	口　径：(13.6) 底　径：　(7.4) 器　高：　2.6 最大径：　-	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/4に手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/3	

第４節　中・近世

１．塚

SM007（第128 ～ 142図、第56 ～ 58表、図版16・17・29・30）

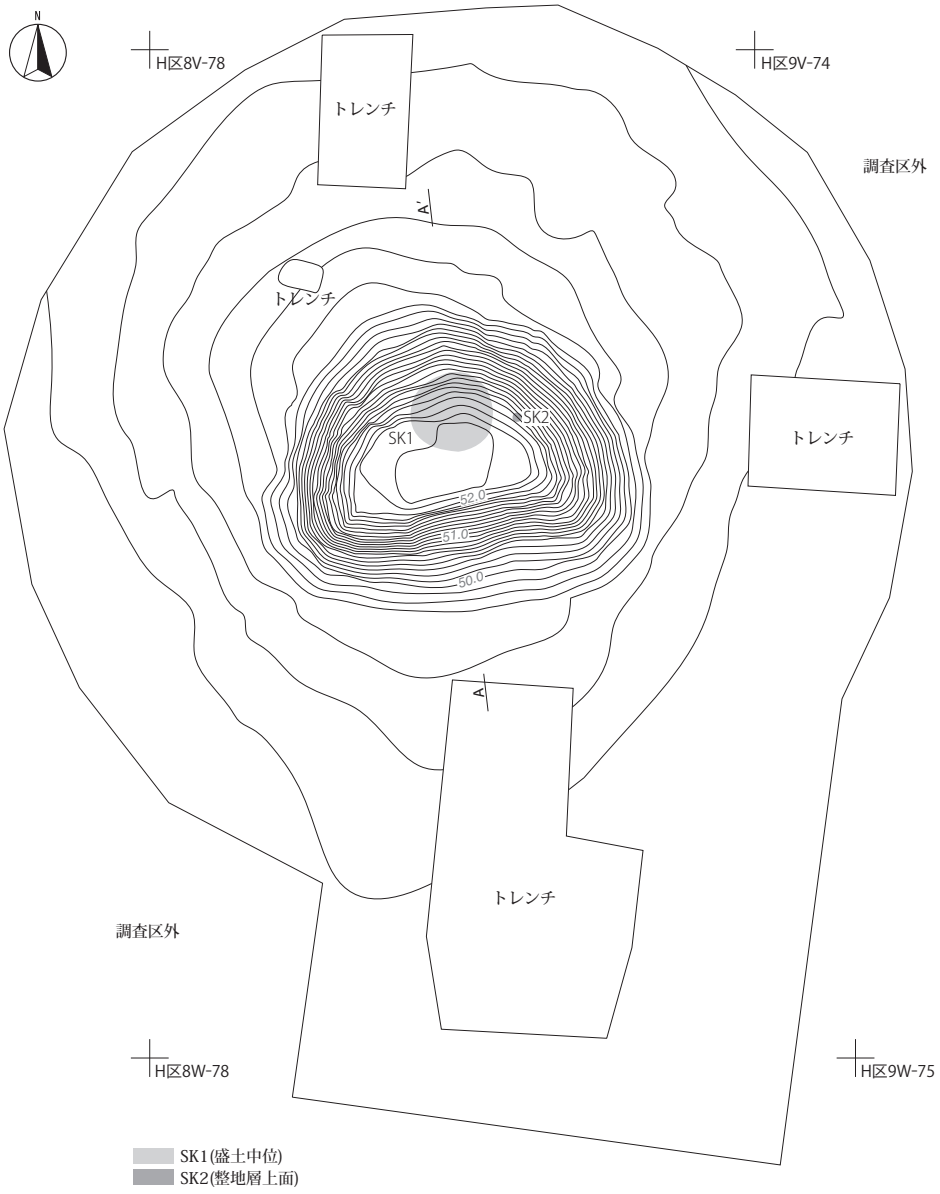
円錐台の塚である。**位置：**Ｈ区９Ｗグリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**現況：**高さ2.76mの円錐台状の高まりが遺存していた。周囲や頂部に石碑などは確認されなかった。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸7.55m、短軸6.09m、旧地表面からの高さ2.55m。

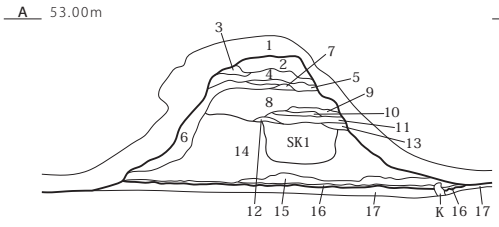
盛土：構築方法は、旧地表面（17層）上に褐色砂（16層）、黒色土（15層）を薄く積み、整地した後、黒褐色土を1.20mほど積み上げている（14層）。この段階でSK1が掘り込まれており、その上を覆うように黒褐色土などを積み上げている（９～ 13層）。その後、塚全体をかさ上げするように黒褐色土を0.70mほど積み上げている（８層）。さらに西側へ黒褐色土を積んでいる（２～７層）。塚の東側では盛土の間（８層～ 14層と２～７層）に段差が見られることから、８層上面を頂部としていた時期と、２～７層の積み増しが行われた時期があると推測される。

関連施設：盛土中から土坑１基（SK1）、整地層上面で埋納施設１基（SK2）を検出した。

SK1の規模は長軸1.58m、短軸(1.34)m、確認面からの深度0.56m。長軸方位Ｎ－６°－Ｅ。形態は不整円形、底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。盛土の掘削中に確認されたため、東半分を破壊してしまったが、土層の観察により14層から掘り込まれていることを確認している。遺物の出土は無い。

SK2は、曲物および５点のかわらけ（１～５）と六枚一組の銭貨（838 ～ 843）が整地層上面に置かれ、その上に塚が築造されている。かわらけは曲物の四方を囲むように十文字状に配置され、曲物の北側に置かれた一組は上下合わせ口となっている（１・２）。また、六枚一組の銭貨はかわらけ１と４の間に位置し、６枚とも寛永通寶（古寛永、初鋳1636年）である。曲物内には、底面に六枚一組の銭貨３組（807 ～ 812・813 ～ 818・819 ～ 824）、いずれも古寛永であり、１組（813 ～ 818）は髪紐でまとめられていた。数珠３連（６～ 269）があり、その上を毛髪が覆い、さらに紙紐あるいは藁紐の銭差に通された多量の銭貨（270 ～ 806・825 ～ 837）が納められていた。銭差は、幾分ばらけており何組納められていたか復元できなかった。総数547枚で、内訳は、古寛永526枚、至道元宝（初鋳995年）19点、紹聖元宝（初鋳1094年）１点、元符通宝（初鋳1098年）１点を数える。これらは表裏を揃えて束ねられていたようであり、束の先端、表面の見える側を先頭とし、順に番号を付して図示している。270 ～ 275は６枚とも表面が曲げ物の底に向く、裏返しの状態であった。276 ～ 278の３枚は表面が上向きであった。279 ～ 305の27枚は表面が西向きで、至道元寶４枚を含む。306 ～ 368の63枚は表面が西向きの束で、元符通寶１枚を含む。369 ～ 394の26枚は表面が北向きの束で、至道元寶７枚を含む。395 ～ 464の70枚も表面が北向きの束で、至道元寶６枚を含む。465 ～ 549の85枚は表面が西向きで、曲物の内面に沿って連なる束である。紹聖元寶１枚を含む。550 ～ 567の18枚も表面が西向きである。568 ～ 624の57枚は表面が西側を向く束で、至道元寶２枚を含む。625 ～ 660の36枚は表面西向きの束である。661 ～ 666の６枚は表面西向き。667 ～ 678の12枚は表面上向きで出土している。679 ～ 806の128枚は表面北向きで、曲物の内面に沿って連なる束である。825 ～ 837は曲物内で散在した状態で出土した。

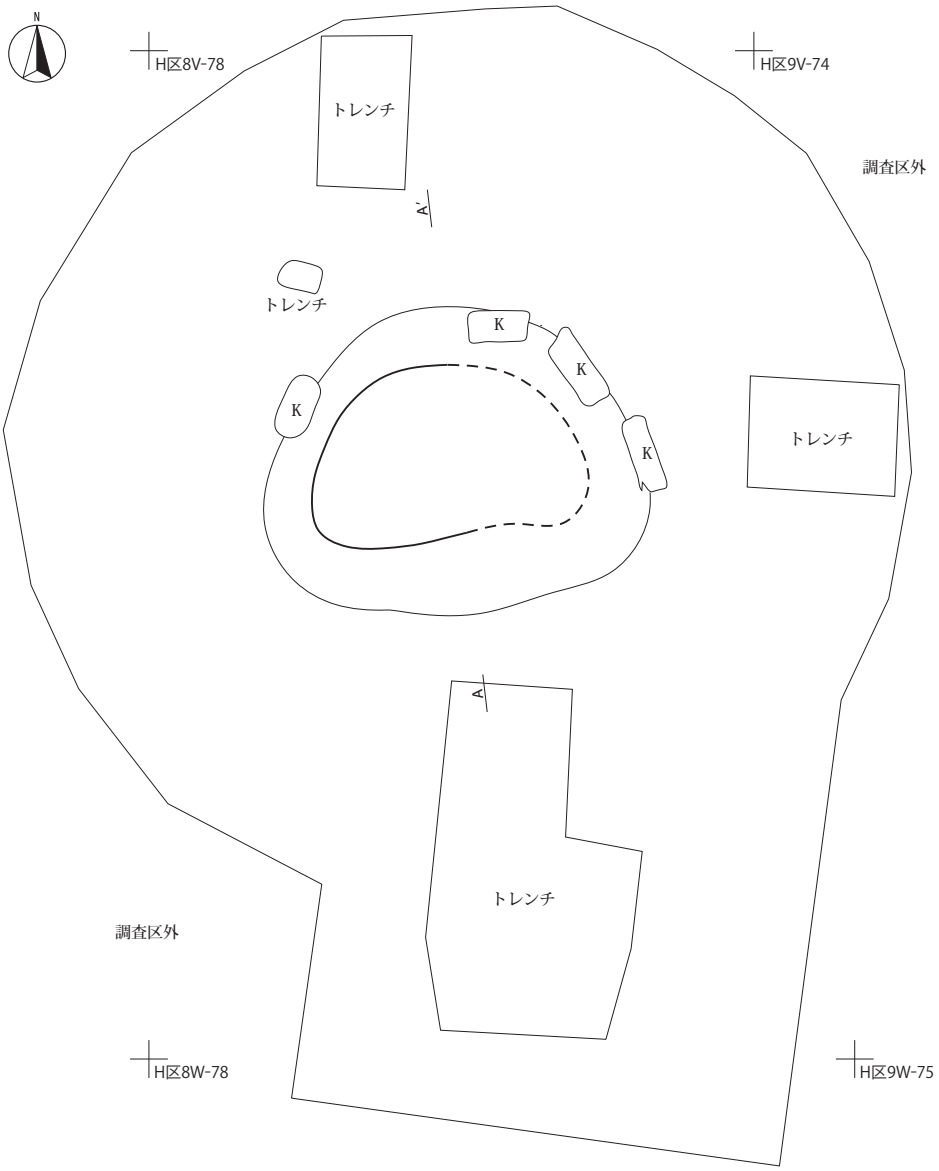




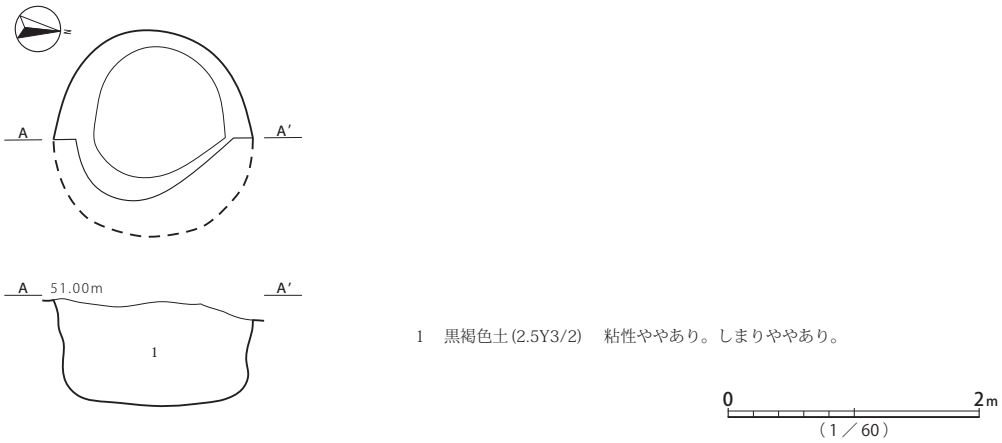
1	暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)	粘性弱い。しまり弱い。表土。
2	黒褐色砂(2.5Y3/1)	固結火山灰土塊微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	黒褐色砂(2.5Y3/2)	粘性弱い。しまり弱い。
4	黒褐色砂(10YR2/2)	固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	黒褐色砂(10YR3/1)	粘性弱い。しまりややあり。
6	黒褐色砂(10YR3/3)	固結火山灰土塊多量含む。粘性弱い。しまりややあり。
7	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	黄褐色土粒子微量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
8	黒褐色砂(10YR2/3)	固結火山灰土塊多量、黄褐色土ブロックφ10～20mm微量含む。粘性弱い。しまりややあり。
9	黒褐色土(10YR3/1)	粘性ややあり。しまりややあり。
10	黒褐色土(10YR3/2)	粘性ややあり。しまりややあり。
11	黒褐色土(10YR2/2)	固結火山灰土塊多量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
12	黒色土(2.5Y2/1)	固結火山灰土塊多量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
13	オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)	固結火山灰土塊微量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
14	黒褐色砂(2.5Y3/1)	固結火山灰土塊多量、黄褐色ブロックφ10～20mm微量含む。粘性弱い。しまりややあり。
15	黒色土(2.5Y2/1)	暗オリーブ褐色土との互層。粘性ややあり。しまりややあり。
16	褐色砂(10YR4/4)	粘性弱い。しまりややあり。
17	暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)	固結火山灰土塊多量含む。粘性弱い。しまりあり。旧表土層。

0　5m
（1／150）

第128図　SM007（１）



第129図　SM007（２）



第130図　SM007SK1

時期：盛土最下層から出土した銭貨に新寛永を含まず、古寛永のみであり、旧地表面以下に富士宝永火山灰を含まないことから、17世紀中葉の築造と考えられる。

所見：塚の東側に見られる段差から２～７層の積み増しが推測される。円錐台という形状や、勾配がきついため登拝できる塚ではないようである。盛土最下層で検出したSK2の状況から祈願、あるいは供養のために築造された塚と考えたい。

遺物：かわらけ小皿404.7g、陶器129.0g、瓦57.0g、数珠玉63.31g、銭貨2,116.6g、須恵器232.1g、縄文土器74.4gが出土した。かわらけ小皿５点、数珠玉264点、銭貨574枚を図示している。

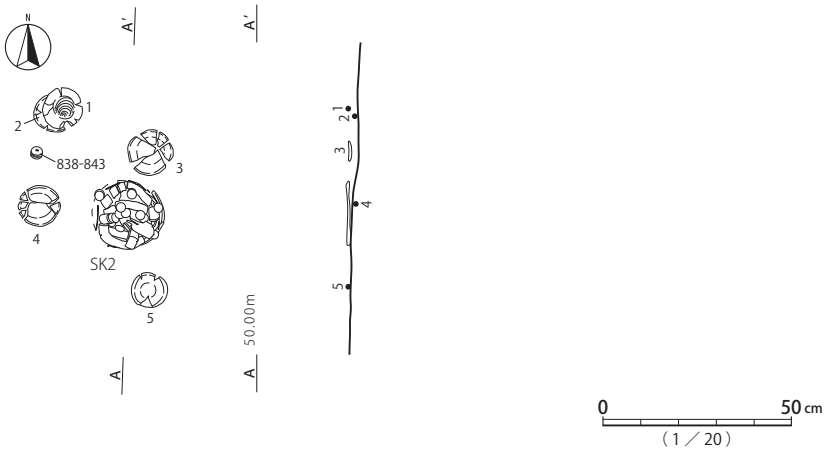
１～５はかわらけ小皿である。１～４はほぼ同一規格、５はやや小型である。５点とも色調は明黄褐色で、胎土に金雲母を含む。見込がやや盛り上がり、口縁部・体部とも厚手である。底部には回転糸切り痕がみられる。

数珠玉は図示したほかに木製数珠玉の微細破片が約10点分出土している。出土状況や材質の差異から３連の数珠と考えられ、その内訳は、数珠１が６～96でガラス製。数珠２が97～180で木製。数珠３が181～259でガラス製である。260～269はやや離れた位置からの出土であった。このうち260～268はガラス製で、数珠１、３のいずれかに、また269は木製であり、数珠２に属すると考えられる。

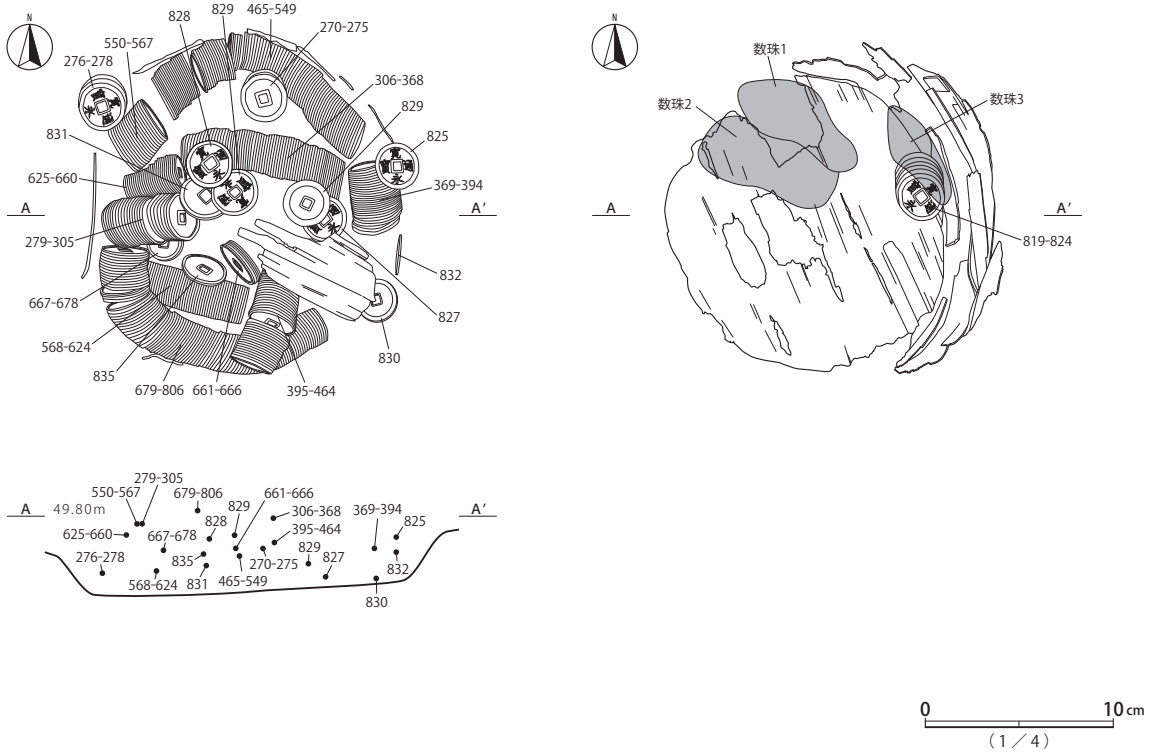
ガラス製の数珠玉は径が高さよりやや大きく上下に平坦面のある楕円形である。高さ７㎜、径７㎜を最大とし、平均は高さ５㎜、径6.4㎜である。透明なものもあるが、多くは白濁している。ガラスそのものは本来透明であるが、細かい気泡を多数含むものと、ヒビが入ったものが白濁してみえる。木製の数珠玉の樹種は不明であるが、木目がみられ、木材から削り出している。全体的にガラス製よりやや大きく、平均は高さ5.6mm、径7.0mmである。

銭貨は古寛永553枚、至道元寶19枚、紹聖元寶１枚、元符通寶１枚、総数574枚である。全て図示し、写真は代表的なものを掲載した。

古寛永に特徴的なものとして、鋳バリが円形に残存する（432など）、「永」の左払いが跳ねる（561など）、「永」の点が欠ける(590)、「永」「寶」が二重になる（677）、「永」の跳ねがない（731）、背に平行線が見られる（792）などがある。



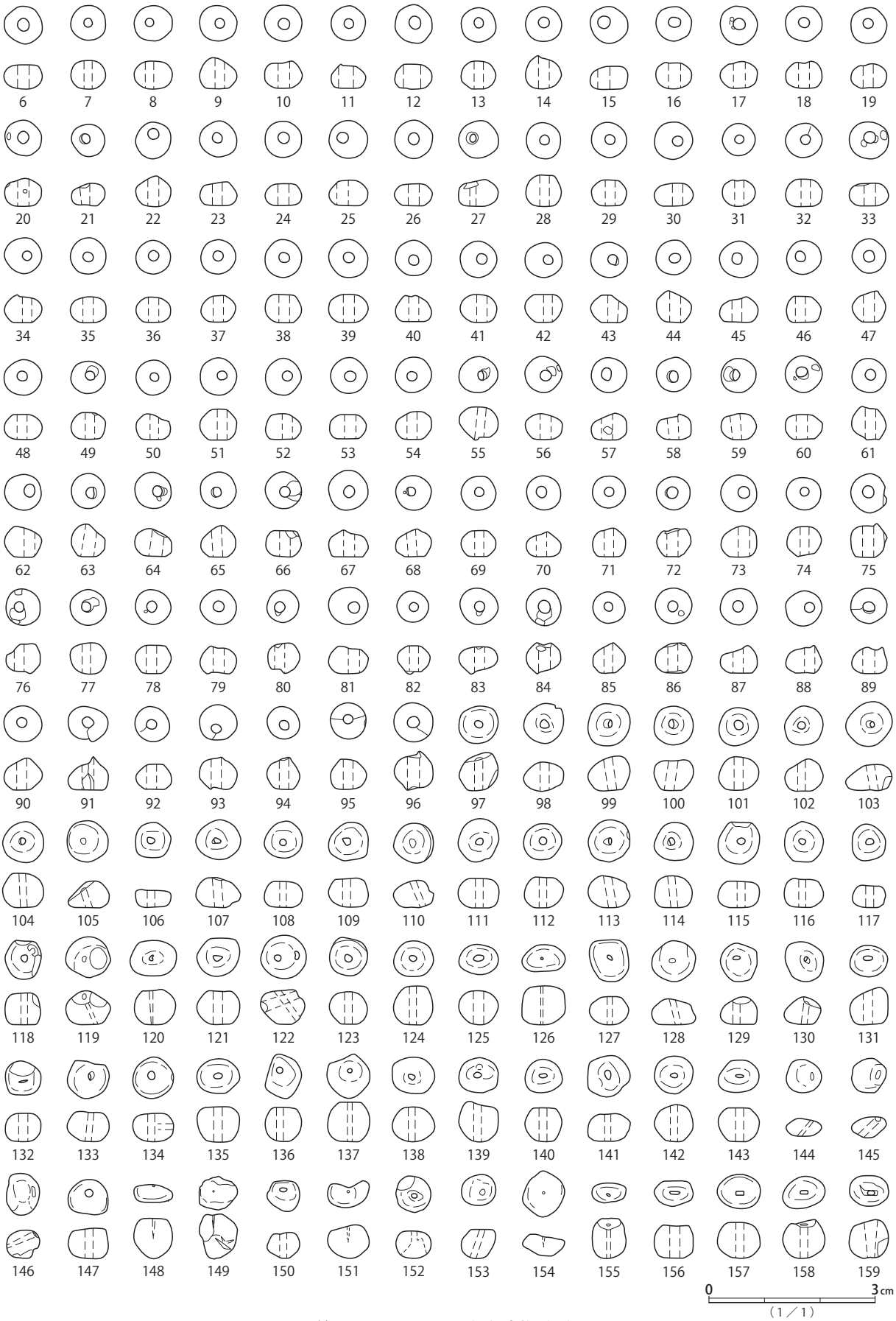
第131図　SM007SK2周辺遺物出土状況



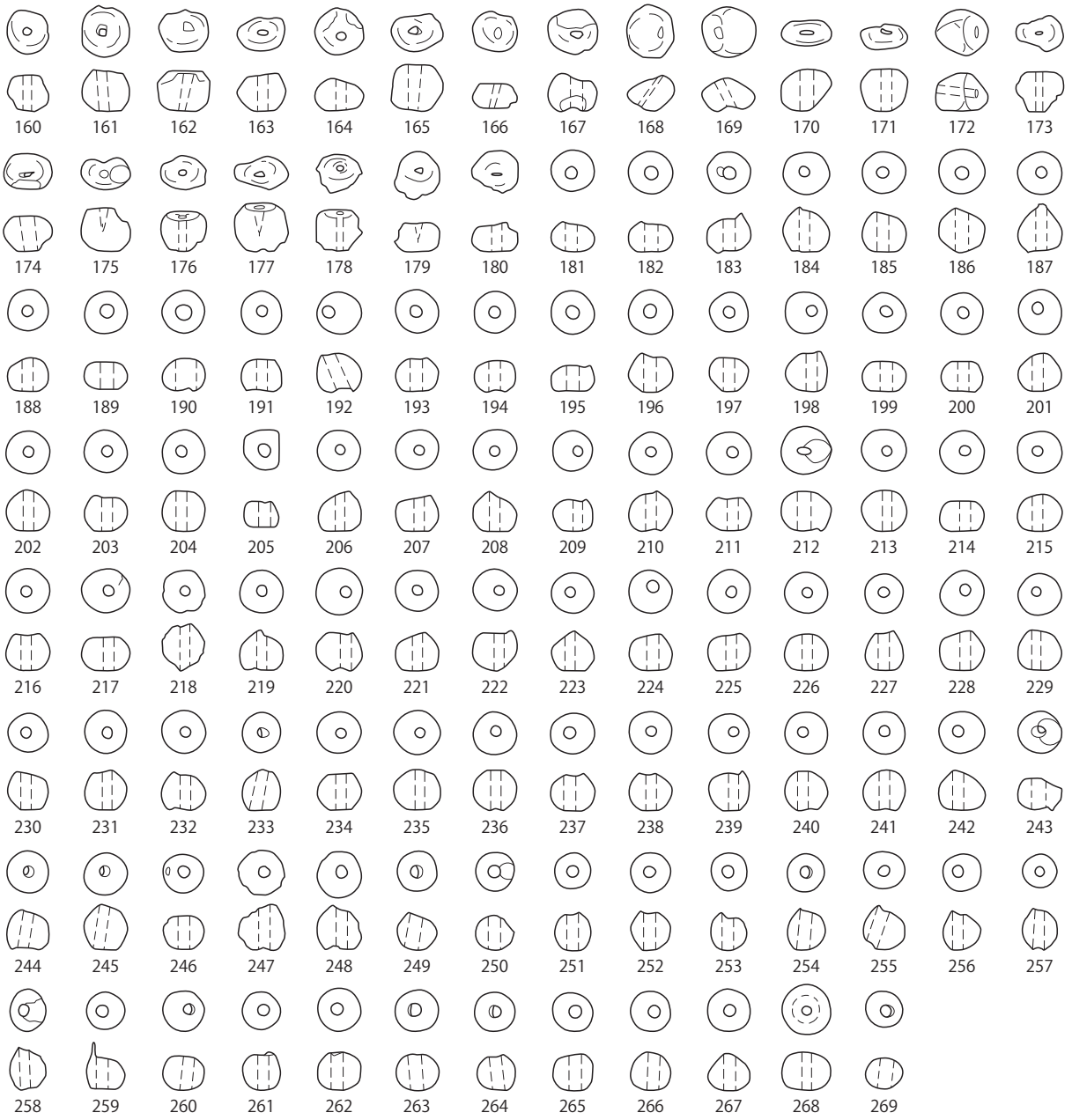
第132図　SM007SK2遺物出土状況

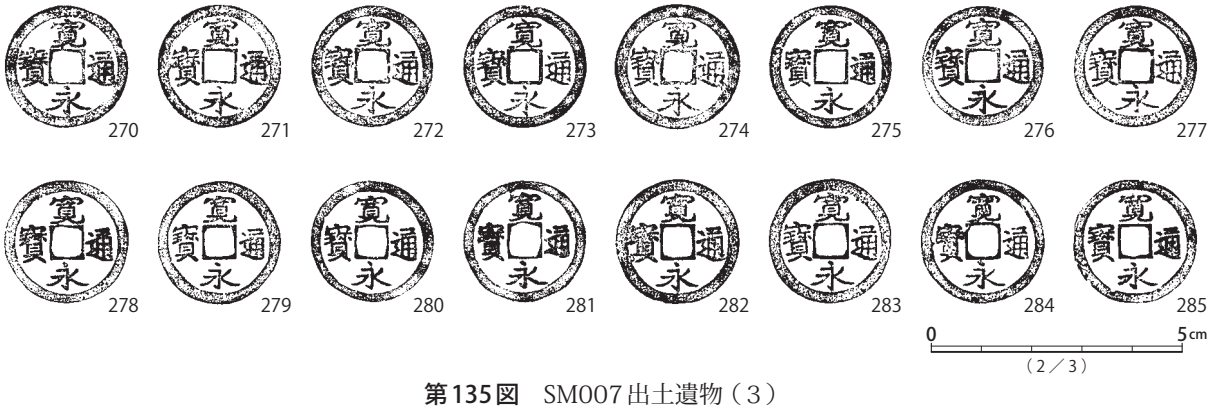


第133図　SM007出土遺物（１）

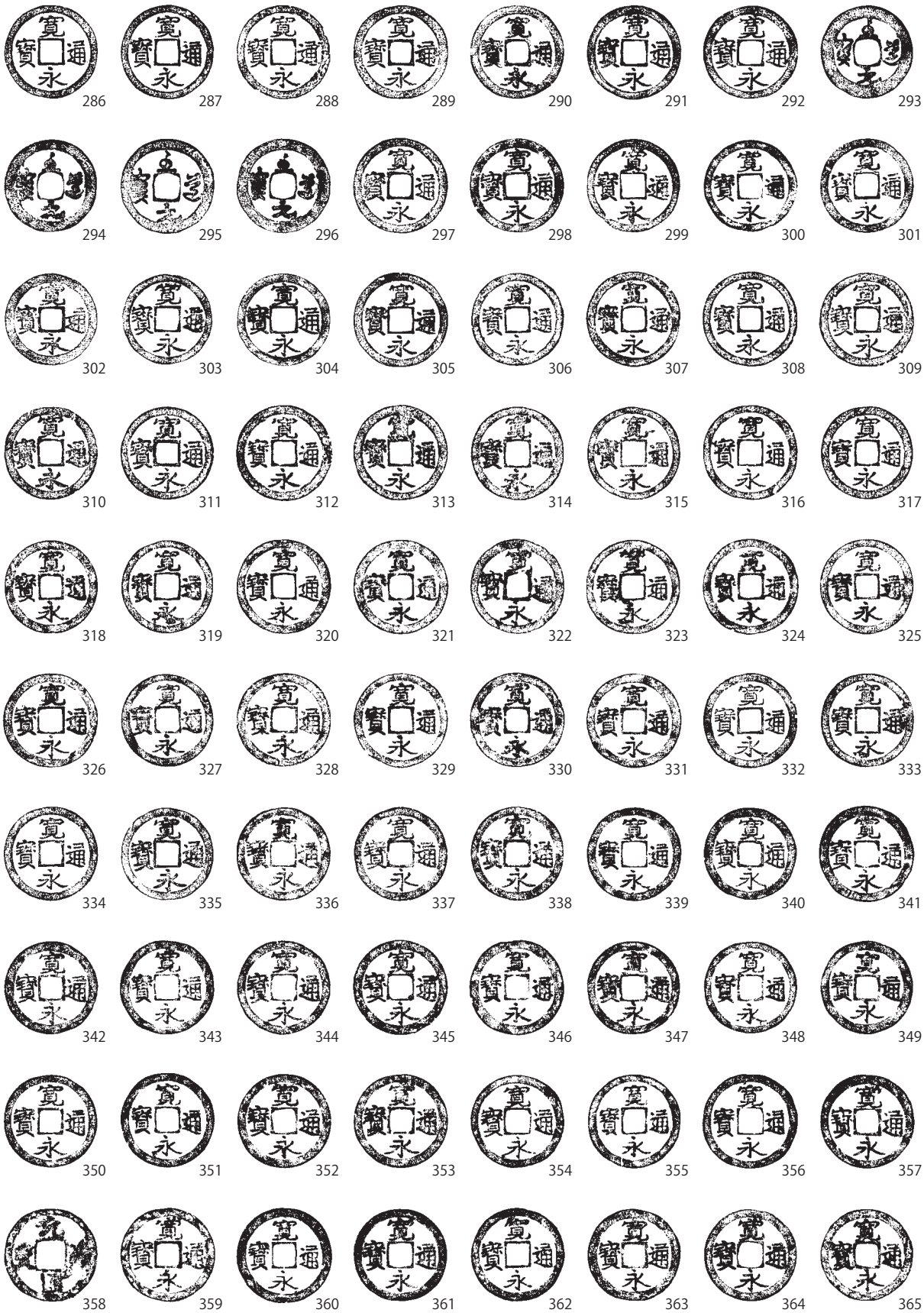


第134図　SM007出土遺物（２）

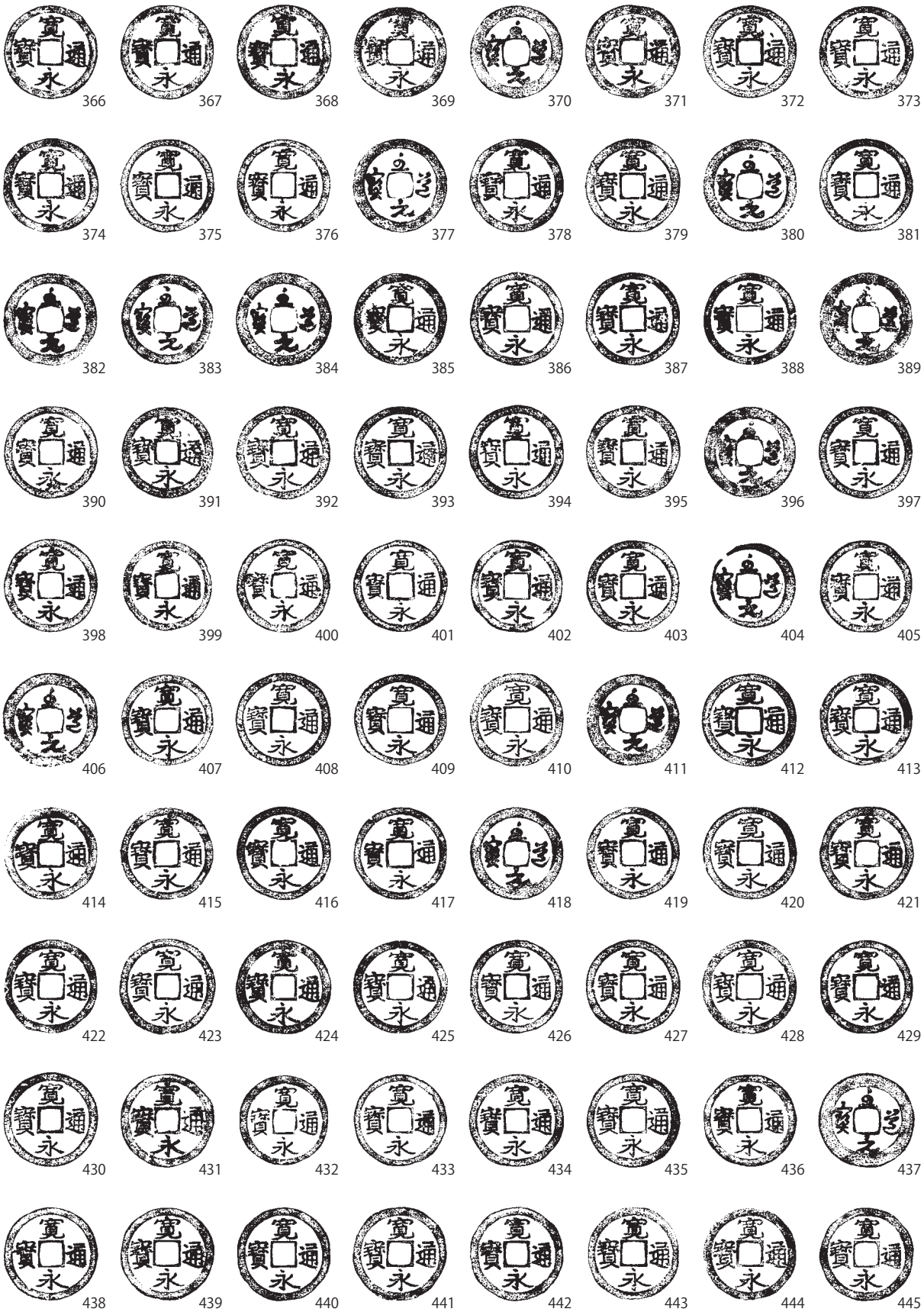




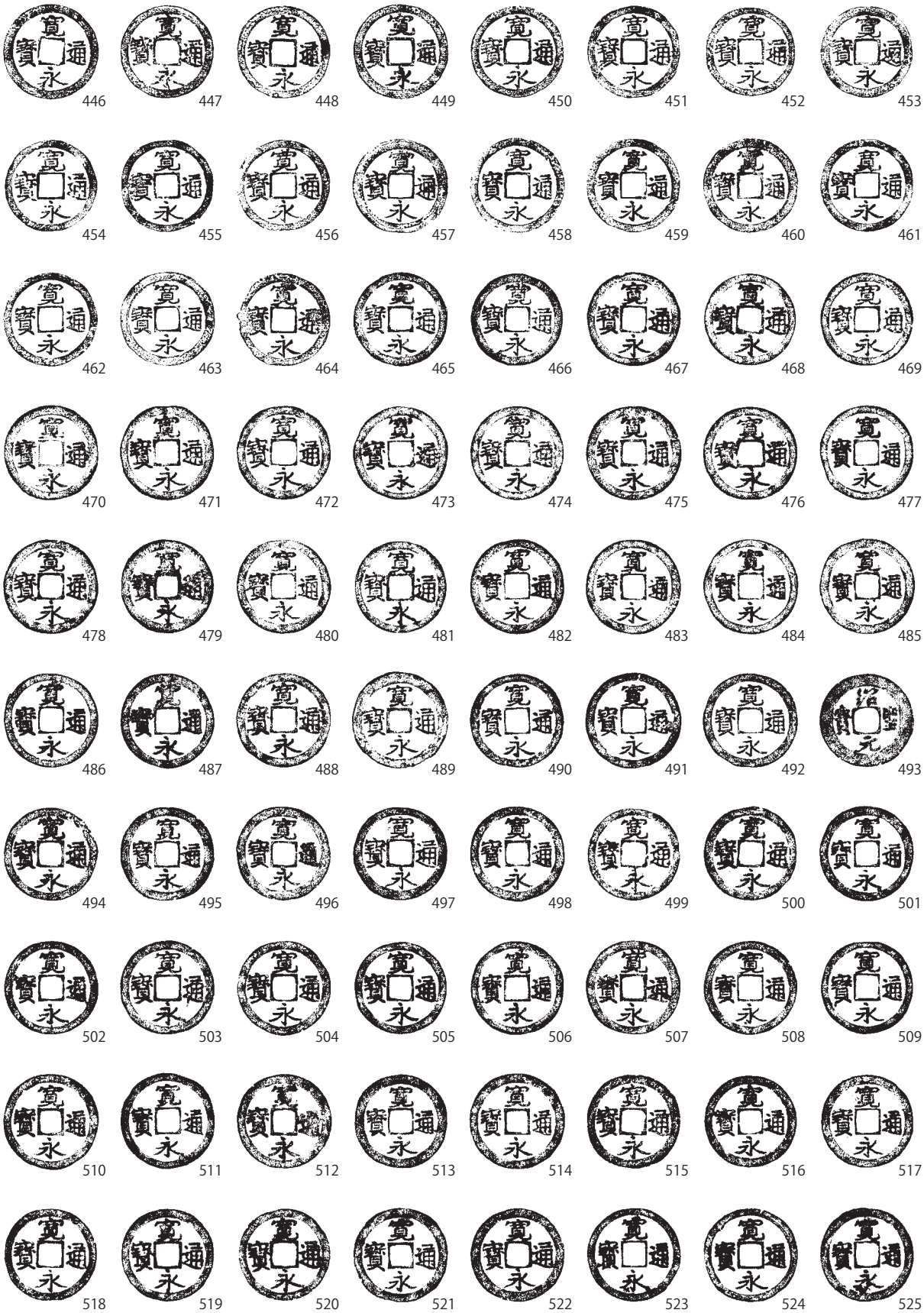
第135図　SM007出土遺物（３）



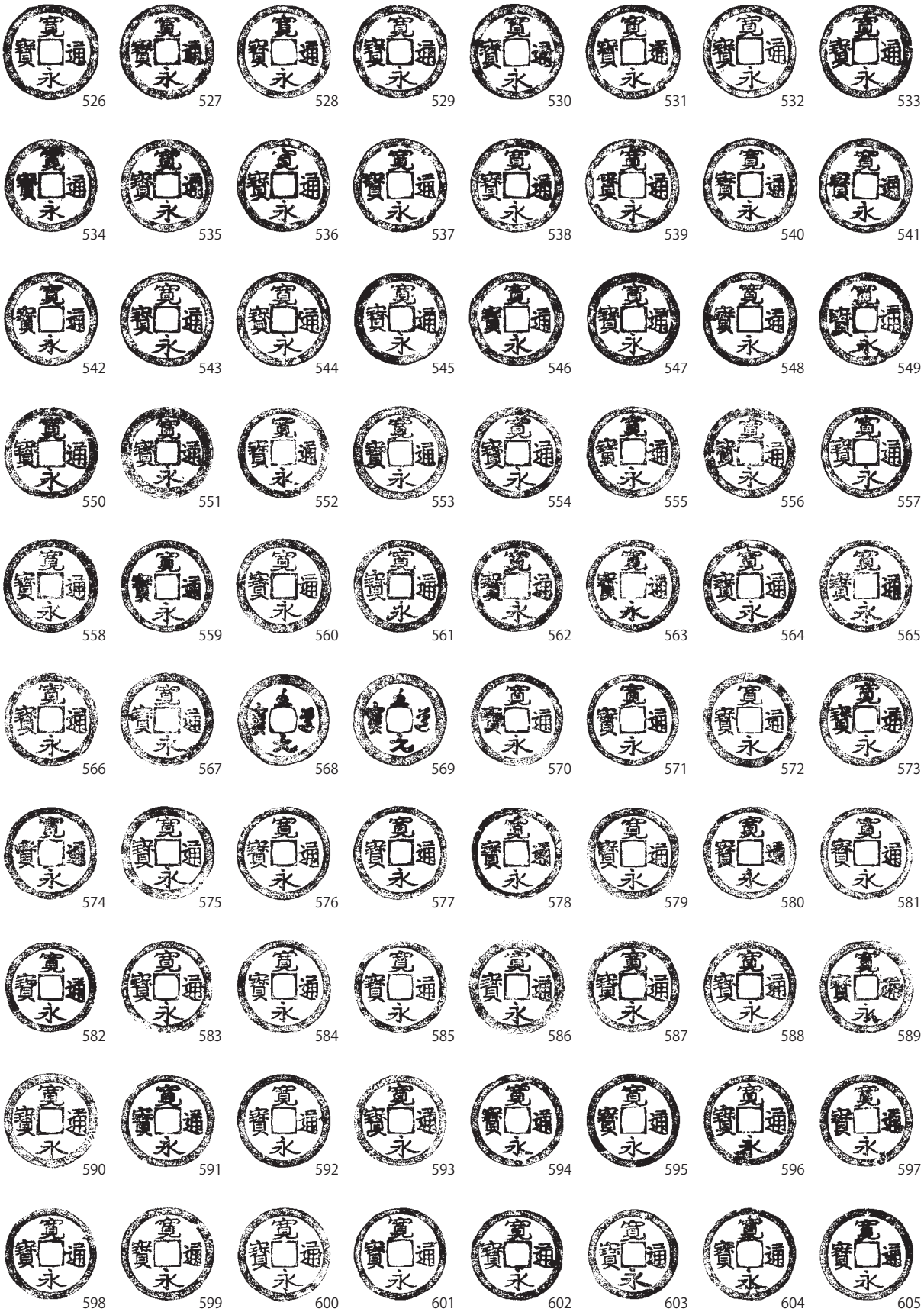
第136図　SM007出土遺物（４）



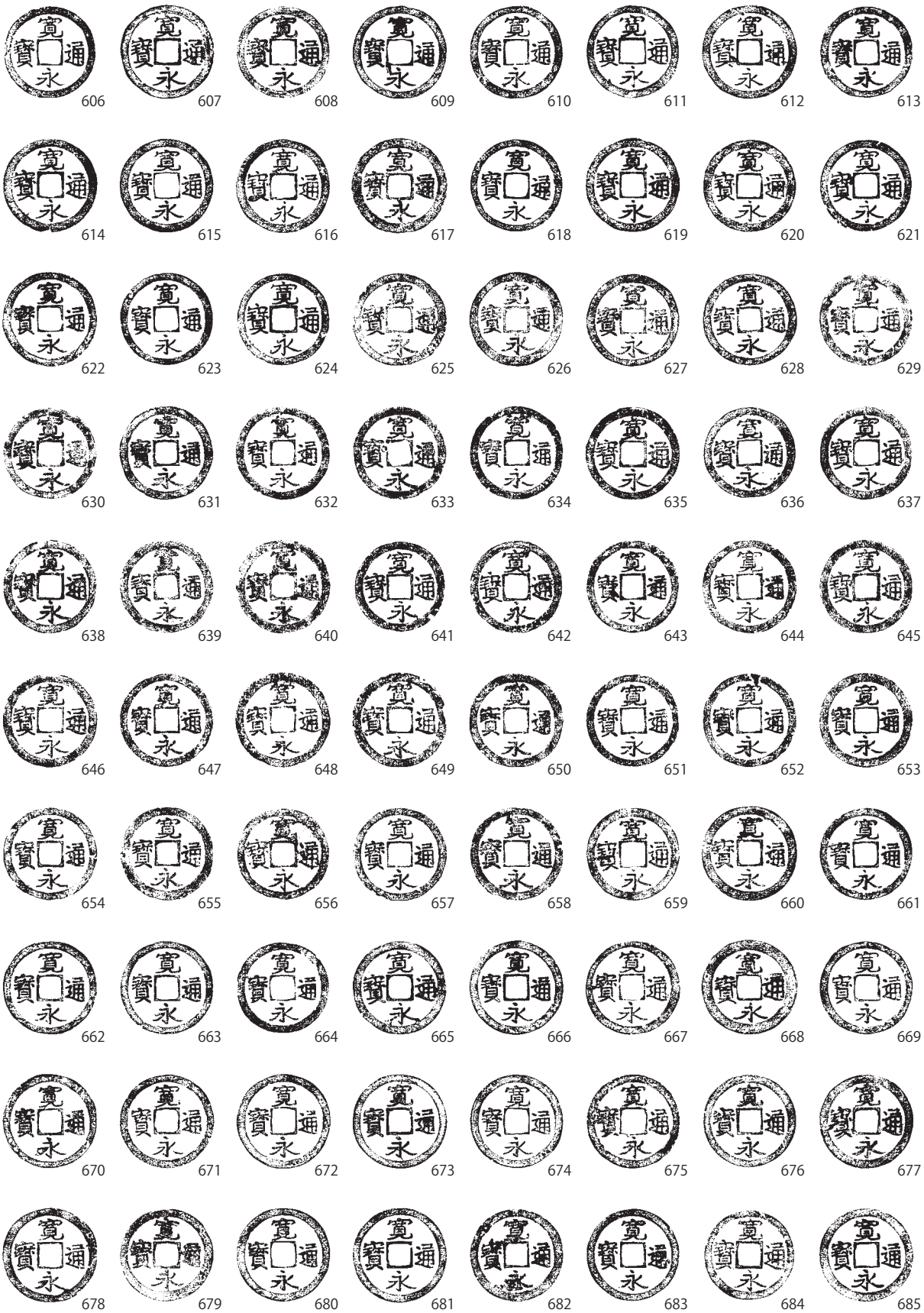
第137図　SM007出土遺物（５）



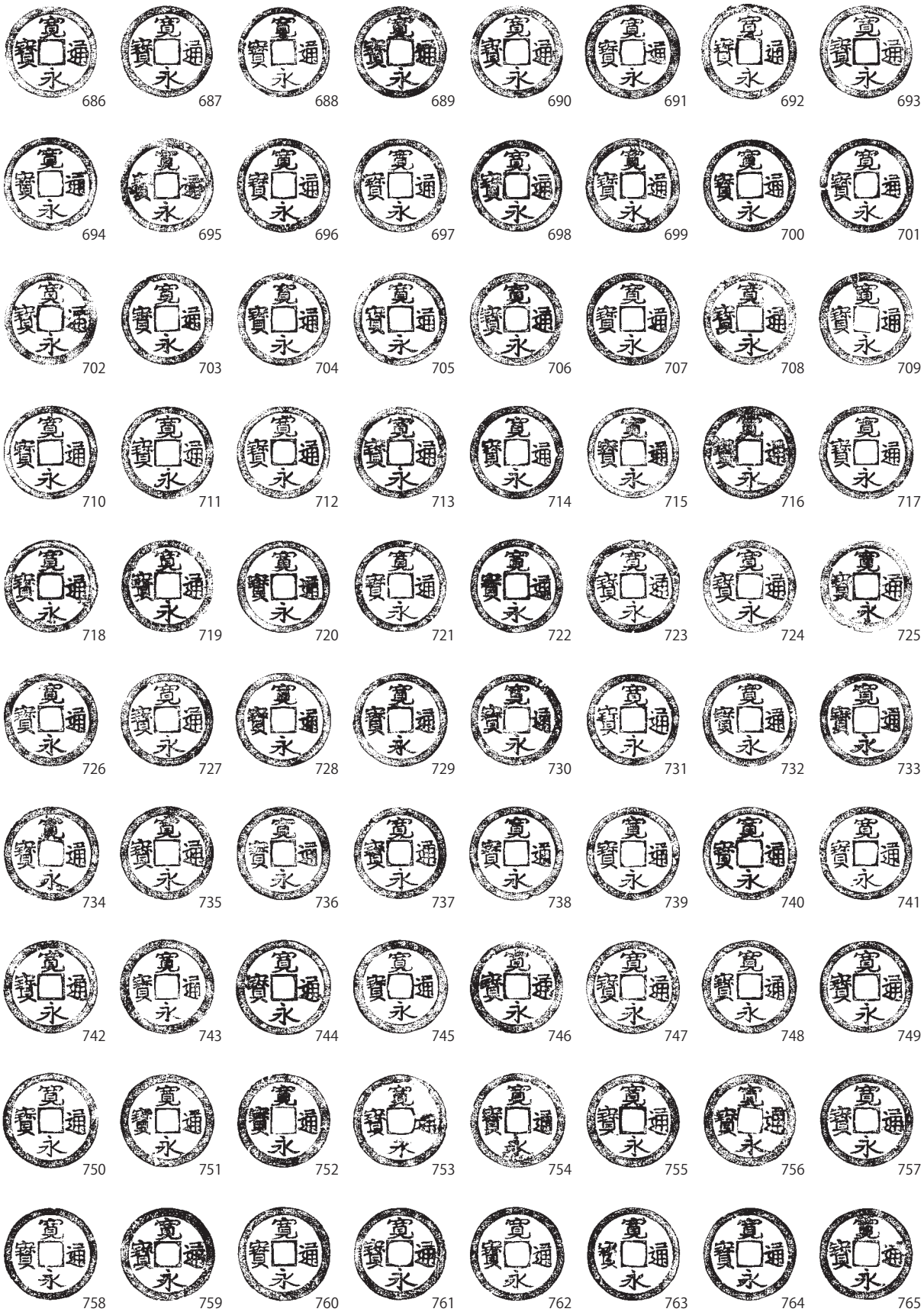
第138図　SM007出土遺物（６）



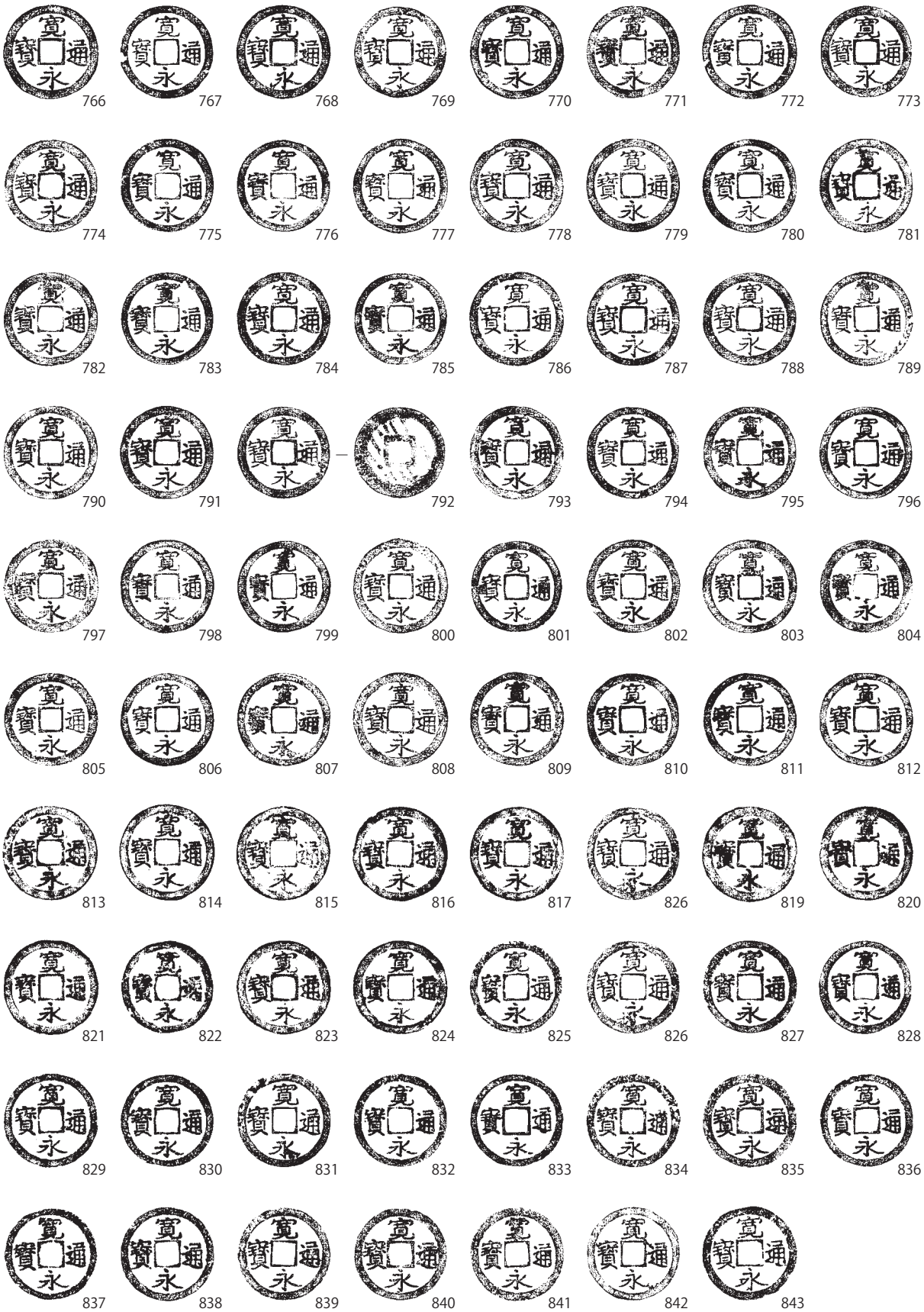
第139図　SM007出土遺物（７）



第140図　SM007出土遺物（８）



第141図　SM007出土遺物（９）



第142図　SM007出土遺物（10）

第56表　SM007出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	かわらけ 皿	整地層 上面	口　径：　8.8 底　径：　5.7 器　高：　2.6 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ロクロ調整、底部ナデ	胎　土：金雲母・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
2	かわらけ 皿	整地層 上面	口　径：　8.6 底　径：　5.5 器　高：　2.6 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ロクロ調整	胎　土：金雲母・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
3	かわらけ 皿	整地層 上面	口　径：　8.9 底　径：　6.7 器　高：　2.3 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ロクロ調整、底部ナデ	胎　土：金雲母・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
4	かわらけ 皿	整地層 上面	口　径：　9.0 底　径：　5.5 器　高：　2.7 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ロクロ調整	胎　土：金雲母・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：完存	
5	かわらけ 皿	整地層 上面	口　径：　7.3 底　径：　5.0 器　高：　2.0 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転糸切り 内面：口縁部～体部ロクロ調整、底部ナデ	胎　土：金雲母・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	

第57表　SM007出土数珠観察表

単位：mm

番号	材質	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
6	ガラス	数珠１	4.5	7×7	2.0	0.40	
7	ガラス	数珠１	5.0	6.5×6.5	1.2	0.40	
8	ガラス	数珠１	5.0	6×7	1.5	0.40	
9	ガラス	数珠１	5.5	6.5×7	2.0	0.30	
10	ガラス	数珠１	5.0	6.5×7	2.0	0.40	
11	ガラス	数珠１	4.5	6.5×6	2.0	0.30	
12	ガラス	数珠１	4.5	7×6.5	2.0	0.30	
13	ガラス	数珠１	5.0	6×6	1.6	0.40	
14	ガラス	数珠１	6.0	6.5×6.5	2.0	0.40	
15	ガラス	数珠１	4.0	6.5×7	2.0	0.30	
16	ガラス	数珠１	5.0	6.5×6.5	2.0	0.30	
17	ガラス	数珠１	5.0	7×7	2.0	0.40	気泡
18	ガラス	数珠１	5.0	6.5×6.5	2.0	0.40	
19	ガラス	数珠１	4.5	6.5×6.5	2.0	0.30	
20	ガラス	数珠１	5.0	6.5×6.5	2.0	0.30	気泡
21	ガラス	数珠１	4.0	6×6	1.6	0.20	
22	ガラス	数珠１	5.5	6.5×6.5	2.0	0.40	
23	ガラス	数珠１	4.5	6.5×6.5	2.0	0.30	
24	ガラス	数珠１	4.0	6.5×6.5	2.0	0.30	
25	ガラス	数珠１	4.5	7×7	2.0	0.40	
26	ガラス	数珠１	4.0	7×7	2.0	0.40	
27	ガラス	数珠１	5.0	7×7.5	2.0	0.40	
28	ガラス	数珠１	5.5	6.5×6.5	1.6	0.40	
29	ガラス	数珠１	4.5	6×6.5	2.0	0.30	
30	ガラス	数珠１	4.0	6.8×6.9	2.4	0.30	
31	ガラス	数珠１	4.5	5.8×5.8	1.8	0.30	
32	ガラス	数珠１	5.0	6.2×6.5	1.7	0.40	ヒビ
33	ガラス	数珠１	4.0	6.7×7	1.9	0.30	気泡
34	ガラス	数珠１	5.0	6.4×6.8	1.7	0.30	
35	ガラス	数珠１	4.5	6.5×6.5	1.9	0.30	
36	ガラス	数珠１	4.5	6×6.3	1.8	0.30	
37	ガラス	数珠１	4.5	6.2×6.3	2.0	0.30	
38	ガラス	数珠１	5.0	6.7×7.5	1.8	0.40	
39	ガラス	数珠１	5.0	6.8×7	1.8	0.40	
40	ガラス	数珠１	4.5	6.3×6.4	1.7	0.30	
41	ガラス	数珠１	5.0	6.3×6.7	1.8	0.40	
42	ガラス	数珠１	5.0	6.2×6.6	1.8	0.40	
43	ガラス	数珠１	4.5	6.3×6.5	1.5	0.30	
44	ガラス	数珠１	5.5	6.1×6.4	2.1	0.30	
45	ガラス	数珠１	4.5	6.5×7	1.7	0.30	
46	ガラス	数珠１	4.5	6.0×6.1	1.6	0.30	
47	ガラス	数珠１	5.5	6.5×6	1.9	0.30	
48	ガラス	数珠１	4.5	6.4×6.6	1.9	0.30	
49	ガラス	数珠１	4.5	5.8×6.3	1.7	0.30	気泡

番号	材質	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
50	ガラス	数珠１	4.5	6.3×6.2	1.5	0.30	
51	ガラス	数珠１	5.5	6.6×6.5	1.8	0.40	
52	ガラス	数珠１	4.5	6.6×6.4	1.8	0.30	
53	ガラス	数珠１	4.5	6.5×6.5	1.7	0.30	
54	ガラス	数珠１	5.0	6.3×6.3	1.7	0.30	
55	ガラス	数珠１	5.0	6.4×6.9	1.5	0.40	気泡
56	ガラス	数珠１	4.5	6.4×6.6	2.0	0.30	気泡
57	ガラス	数珠１	4.5	6.2×6.4	1.8	0.30	気泡
58	ガラス	数珠１	4.5	6.2×6.2	2.0	0.30	
59	ガラス	数珠１	4.5	6.1×6.3	1.8	0.30	気泡
60	ガラス	数珠１	4.5	6.5×6.5	2.2	0.30	気泡
61	ガラス	数珠１	6.0	6.3×6.3	1.8	0.30	
62	ガラス	数珠１	5.5	6.3×6.7	1.8	0.40	
63	ガラス	数珠１	5.8	6.3×6.2	1.9	0.30	
64	ガラス	数珠１	6.0	6.3×6.5	2.0	0.30	気泡
65	ガラス	数珠１	5.0	6.5×6.4	1.8	0.30	
66	ガラス	数珠１	4.7	6.3×6.6	1.8	0.30	気泡
67	ガラス	数珠１	5.0	7.2×7	2.0	0.40	
68	ガラス	数珠１	5.0	6.2×6.3	1.8	0.30	気泡
69	ガラス	数珠１	4.5	6.1×6.3	1.7	0.30	
70	ガラス	数珠１	4.4	6×6.2	1.9	0.20	
71	ガラス	数珠１	5.0	6.8×6.1	1.6	0.30	
72	ガラス	数珠１	5.0	6×6.2	2.0	0.30	
73	ガラス	数珠１	5.0	6.6×6.2	2.0	0.30	
74	ガラス	数珠１	5.4	6.9×6.1	1.5	0.30	
75	ガラス	数珠１	6.0	7×6.3	2.0	0.40	欠損
76	ガラス	数珠１	5.4	6.7×6.2	1.7	0.30	気泡
77	ガラス	数珠１	5.5	6.3×6.5	1.8	0.40	気泡
78	ガラス	数珠１	5.0	6.1×6.4	1.8	0.30	気泡
79	ガラス	数珠１	5.0	6.3×6.5	1.8	0.30	
80	ガラス	数珠１	5.3	5.8×5.8	1.8	0.30	気泡
81	ガラス	数珠１	5.0	6.5×7.0	1.8	0.30	
82	ガラス	数珠１	4.9	5.4×5.7	1.7	0.20	
83	ガラス	数珠１	4.8	6.5×6.8	1.8	0.30	気泡
84	ガラス	数珠１	5.3	6.7×6.3	2.2	0.30	気泡
85	ガラス	数珠１	5.2	5.5×5.9	1.5	0.20	
86	ガラス	数珠１	5.2	6.5×6.5	1.7	0.30	気泡
87	ガラス	数珠１	5.0	6.5×6.8	2.0	0.30	
88	ガラス	数珠１	4.8	5.3×5.6	1.8	0.30	
89	ガラス	数珠１	4.5	6.3×6.5	2.3	0.30	ヒビ
90	ガラス	数珠１	5.6	6.5×6.9	1.7	0.30	
91	ガラス	数珠１	6.0	6.4×7.3	2.1	0.40	欠損、ヒビ
92	ガラス	数珠１	4.5	6.2×6.2	1.8	0.30	ヒビ
93	ガラス	数珠１	6.0	6.2×6.5	1.8	0.30	ヒビ

単位：mm

番号	材質	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
94	ガラス	数珠１	5.7	5.7×5.7	1.7	0.20	
95	ガラス	数珠１	5.4	6.5×6.4	1.8	0.30	ヒビ、気泡
96	ガラス	数珠１	7.0	7×7	2.2	0.40	ヒビ
97	木質	数珠２	6.4	7.2×6.4	1.8	0.04	
98	木質	数珠２	5.1	7.1×6.9	1.8	0.04	
99	木質	数珠２	6.0	7.3×7.1	1.4	0.05	
100	木質	数珠２	5.1	7.1×7	1.8	0.04	
101	木質	数珠２	6.0	7×6.9	1.8	0.04	
102	木質	数珠２	5.2	7.8×7.3	1.2	0.04	
103	木質	数珠２	4.7	8.1×7.7	1.0	0.03	
104	木質	数珠２	6.0	7.2×7.1	1.0	0.04	
105	木質	数珠２	4.5	7.2×7.1	0.9	0.04	
106	木質	数珠２	2.8	6.1×5.9	1.2	0.03	
107	木質	数珠２	5.2	8×7.2	1.2	0.05	
108	木質	数珠２	4.8	6.9×6.4	1.0	0.04	
109	木質	数珠２	5.1	7.1×7	1.2	0.03	
110	木質	数珠２	4.5	7×6.5	1.5	0.03	
111	木質	数珠２	5.2	7.6×7.1	1.0	0.04	
112	木質	数珠２	5.3	7×6.2	1.0	0.04	
113	木質	数珠２	5.9	7.6×7.2	1.8	0.04	
114	木質	数珠２	5.6	7.3×6.8	1.8	0.04	
115	木質	数珠２	4.8	7.3×7.1	1.8	0.03	
116	木質	数珠２	5.1	7.1×6.6	1.1	0.03	
117	木質	数珠２	4.0	6.2×6	1.5	0.02	
118	木質	数珠２	5.8	7.2×6.9	1.0	0.05	
119	木質	数珠２	6.0	8.1×7.4	0.8	0.05	
120	木質	数珠２	6.3	8.1×6.4	1.0	0.04	
121	木質	数珠２	6.0	7.3×7	1.1	0.03	
122	木質	数珠２	6.0	8.1×7.9	1.8・0.9	0.04	孔２箇所
123	木質	数珠２	6.0	6.8×6.3	1.2	0.04	
124	木質	数珠２	7.0	7.3×6.1	1.0	0.03	
125	木質	数珠２	7.0	7×5.7	1.2	0.04	
126	木質	数珠２	7.0	8×4.7	0.2	0.04	
127	木質	数珠２	5.0	7.2×7	1.0	0.03	
128	木質	数珠２	4.9	8×8	1.0	0.04	
129	木質	数珠２	5.0	7×6.9	1.0	0.03	
130	木質	数珠２	5.0	7×7	1.0	0.02	
131	木質	数珠２	6.3	7×6	1.5	0.04	
132	木質	数珠２	5.0	6.8×6	1.1	0.04	
133	木質	数珠２	5.1	7.3×6.6	1.0	0.05	欠損
134	木質	数珠２	5.0	7.5×7.3	1.0	0.06	途中までの孔あり
135	木質	数珠２	6.1	7.5×6.1	1.1	0.04	
136	木質	数珠２	6.1	8×6	1.1	0.05	欠損
137	木質	数珠２	7.0	8×8	1.0	0.06	欠損
138	木質	数珠２	6.0	7.5×6.1	1.0	0.06	
139	木質	数珠２	7.1	7×6.2	1.1	0.04	欠損
140	木質	数珠２	6.0	6.6×6	1.0	0.04	
141	木質	数珠２	5.0	7.6×7.4	1.0	0.04	
142	木質	数珠２	6.6	7×7	1.1	0.06	欠損
143	木質	数珠２	6.0	8.5×6.8	1.1	0.03	欠損
144	木質	数珠２	3.2	6.2×6	0.9	0.02	欠損
145	木質	数珠２	3.8	6.1×6.1	1.1	0.02	変形
146	木質	数珠２	5.0	7.2×6.1	1.2	0.02	変形
147	木質	数珠２	5.4	7×6.1	1.2	0.02	欠損
148	木質	数珠２	7.1	7×3.1	0.3	0.05	変形、孔潰れ
149	木質	数珠２	8.0	7×6	0.1	0.06	変形、孔潰れ
150	木質	数珠２	4.8	6×5.5	1.0	0.03	変形
151	木質	数珠２	6.0	7.1×4.5	0.3	0.04	変形、孔潰れ
152	木質	数珠２	5.0	6.3×6.2	1.0	0.02	変形、欠損
153	木質	数珠２	5.0	6.1×5.2	1.0	0.03	変形
154	木質	数珠２	4.0	8×7	なし	0.06	変形、孔潰れ
155	木質	数珠２	7.2	6×3.5	0.9	0.03	変形
156	木質	数珠２	6.0	7.1×4.8	1.7	0.04	変形
157	木質	数珠２	6.5	7.9×6.1	1.4	0.05	
158	木質	数珠２	7.0	7.9×5.9	1.3	0.04	
159	木質	数珠２	7.0	7.1×5.6	1.1	0.04	
160	木質	数珠２	5.5	6.8×6	1.2	0.03	
161	木質	数珠２	6.1	8×7.1	1.4	0.03	
162	木質	数珠２	6.1	7.2×6.1	1.4	0.04	
163	木質	数珠２	5.9	7×5.1	1.8	0.05	
164	木質	数珠２	5.0	7.2×7	1.4	0.03	
165	木質	数珠２	7.0	8×6.9	2.0	0.03	
166	木質	数珠２	3.9	7×6	1.7	0.02	変形
167	木質	数珠２	5.9	7.7×7	1.6	0.02	変形、欠損
168	木質	数珠２	6.0	8.1×7	2.0	0.05	変形
169	木質	数珠２	5.7	8.0×7.9	1.9	0.04	変形、欠損
170	木質	数珠２	6.1	7.2×4	2.1	0.02	変形
171	木質	数珠２	6.4	7×3.5	1.3	0.02	変形
172	木質	数珠２	7.7	8×6.1	1.9	0.04	変形、欠損
173	木質	数珠２	6.0	7×5.2	1.1	0.04	変形
174	木質	数珠２	5.4	7.2×5.4	1.7	0.03	変形、欠損
175	木質	数珠２	6.9	7.3×5.0	1.2	0.06	変形、孔潰れ
176	木質	数珠２	6.1	7×5.2	1.0	0.02	変形
177	木質	数珠２	7.2	8×5.1	1.7	0.05	変形、孔潰れ
178	木質	数珠２	6.2	6.5×5.8	1.1	0.03	変形、欠損
179	木質	数珠２	4.3	7×7	1.2	0.04	変形、孔潰れ
180	木質	数珠２	4.5	7×6.2	1.3	0.04	変形、欠損
181	ガラス	数珠３	4.5	6.2×6.7	1.8	0.30	
182	ガラス	数珠３	4.5	6.5×6.6	2.0	0.30	
183	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.5	1.9	0.30	気泡
184	ガラス	数珠３	5.9	6.4×7	1.5	0.40	
185	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.7	1.7	0.30	
186	ガラス	数珠３	6.8	6.5×7.2	2.0	0.40	
187	ガラス	数珠３	7.4	6.3×6.7	1.6	0.40	
188	ガラス	数珠３	5.0	6×6	1.7	0.30	
189	ガラス	数珠３	4.0	6.5×6.5	2.1	0.30	
190	ガラス	数珠３	4.8	6.3×6.3	2.4	0.30	
191	ガラス	数珠３	5.0	6.4×6.0	1.5	0.30	
192	ガラス	数珠３	5.8	6.3×6.8	1.8	0.40	
193	ガラス	数珠３	5.1	6.3×6.3	1.8	0.30	
194	ガラス	数珠３	4.8	6.2×6.3	1.8	0.30	
195	ガラス	数珠３	3.8	6.6×6.5	2.0	0.30	
196	ガラス	数珠３	5.7	6.7×6.7	1.8	0.40	
197	ガラス	数珠３	5.0	6×5.8	1.8	0.30	
198	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.3	1.6	0.40	
199	ガラス	数珠３	4.2	6×6.5	1.8	0.30	
200	ガラス	数珠３	4.6	6×6.3	1.7	0.30	
201	ガラス	数珠３	5.7	6.6×6.4	1.6	0.40	
202	ガラス	数珠３	6.0	6.2×6.5	1.4	0.40	
203	ガラス	数珠３	5.4	6.4×6.4	1.7	0.40	
204	ガラス	数珠３	6.0	6.5×6.4	1.7	0.40	
205	ガラス	数珠３	4.0	6×5.3	1.8	0.20	欠損
206	ガラス	数珠３	6.0	6×6.5	1.4	0.30	
207	ガラス	数珠３	5.3	6×6.3	1.5	0.30	
208	ガラス	数珠３	5.8	6×6.5	1.5	0.40	
209	ガラス	数珠３	4.7	6×6	1.4	0.30	
210	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.4	1.5	0.40	
211	ガラス	数珠３	4.9	6.3×6.7	1.5	0.30	
212	ガラス	数珠３	6.0	7.3×7.5	2.0	0.50	欠損
213	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.7	1.4	0.40	
214	ガラス	数珠３	4.4	6.6×6.7	1.7	0.30	
215	ガラス	数珠３	5.5	6.3×6.6	1.5	0.40	
216	ガラス	数珠３	5.6	6.5×6.5	1.5	0.40	
217	ガラス	数珠３	5.0	6.5×7.3	1.5	0.40	
218	ガラス	数珠３	7.0	6.5×6.2	1.5	0.40	欠損
219	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.5	1.5	0.30	
220	ガラス	数珠３	5.7	7×7	1.6	0.40	
221	ガラス	数珠３	5.8	6×6.3	1.5	0.40	
222	ガラス	数珠３	6.2	6.3×6.7	1.5	0.40	
223	ガラス	数珠３	6.0	6×6.5	1.6	0.30	
224	ガラス	数珠３	5.4	6.5×6.4	1.8	0.30	
225	ガラス	数珠３	5.6	6.3×6.3	1.5	0.40	

単位：㎜

番号	材質	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
226	ガラス	数珠３	5.4	6.2×6.4	1.6	0.30	
227	ガラス	数珠３	6.0	6×5.8	1.4	0.30	
228	ガラス	数珠３	6.0	6.7×6.8	1.5	0.40	
229	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.5	1.4	0.40	
230	ガラス	数珠３	5.7	5.9×6	1.5	0.30	
231	ガラス	数珠３	6.0	6.5×6.4	1.5	0.40	
232	ガラス	数珠３	5.5	6.4×6.6	1.5	0.40	
233	ガラス	数珠３	6.0	6×5.8	1.7	0.40	
234	ガラス	数珠３	5.5	6.2×6.7	1.5	0.30	
235	ガラス	数珠３	6.0	6.5×7	1.5	0.40	
236	ガラス	数珠３	6.0	6.5×6.5	1.5	0.40	
237	ガラス	数珠３	5.5	6×6.5	1.8	0.30	
238	ガラス	数珠３	5.5	6.4×6.4	1.5	0.30	
239	ガラス	数珠３	5.5	6×6.2	1.6	0.30	
240	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.4	1.5	0.40	
241	ガラス	数珠３	6.0	6.3×6.3	1.5	0.30	
242	ガラス	数珠３	6.0	6.2×6.8	1.7	0.40	
243	ガラス	数珠３	4.7	6.3×6.8	2.0	0.30	欠損
244	ガラス	数珠３	6.0	6.2×5.2	1.6	0.30	
245	ガラス	数珠３	6.6	6.3×6.5	1.7	0.40	
246	ガラス	数珠３	5.0	5.8×6.1	1.5	0.30	気泡
247	ガラス	数珠３	7.0	6.7×7	1.8	0.40	
248	ガラス	数珠３	6.5	7×6.5	1.5	0.40	
249	ガラス	数珠３	5.8	6.3×5.9	1.8	0.40	
250	ガラス	数珠３	5.2	5.9×5.8	2.0	0.30	欠損
251	ガラス	数珠３	6.0	5.5×5.4	1.8	0.30	
252	ガラス	数珠３	5.9	6×6.1	1.8	0.40	
253	ガラス	数珠３	5.7	5.7×5.4	2.0	0.30	
254	ガラス	数珠３	5.4	5.8×5.6	2.0	0.30	
255	ガラス	数珠３	6.8	5.4×6.1	1.8	0.40	
256	ガラス	数珠３	6.0	5.8×5.7	1.8	0.40	
257	ガラス	数珠３	6.3	5.1×5.1	1.6	0.30	
258	ガラス	数珠３	6.4	6.3×5.6	1.7	0.30	欠損
259	ガラス	数珠３	7.0	5.4×5.8	2.0	0.30	突起あり
260	ガラス	一括	5.1	6.2×6	1.7	0.40	
261	ガラス	一括	5.5	5.8×5.8	1.8	0.30	
262	ガラス	一括	5.5	6.8×6.3	2.0	0.40	
263	ガラス	一括	5.5	6.6×6.1	2.1	0.40	
264	ガラス	一括	5.3	6×5.9	1.7	0.40	
265	ガラス	一括	5.2	6.1×5.8	1.8	0.30	
266	ガラス	一括	5.9	6.2×5.8	1.8	0.40	
267	ガラス	一括	5.5	6.2×6.2	2.0	0.40	
268	ガラス	一括	4.5	5.8×5.3	2.0	0.20	
269	木質	一括	5.6	7.3×7.4	1.7	0.04	

第58表　SM007出土銭貨観察表

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量(g)	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
270	寛永通寶	中層	24.5	24.6	19.3	19.8	7.0	7.2	5.8	5.6	1.1	0.6	3.3	
271	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.4	19.8	7.0	7.1	5.4	5.5	1.2	0.5	3.8	
272	寛永通寶	中層	24.2	24.2	19.3	19.4	7.1	7.2	5.7	5.8	1.1	0.6	3.4	
273	寛永通寶	中層	24.2	24.3	19.2	19.5	7.2	7.3	5.5	5.5	1.3	0.6	3.7	
274	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.5	19.5	7.3	7.3	5.4	5.5	1.2	0.8	4.0	
275	寛永通寶	中層	24.5	24.3	19.8	19.6	7.1	7.0	5.9	5.7	1.2	0.6	3.6	
276	寛永通寶	下層	24.3	24.3	19.5	19.6	6.8	7.0	5.3	5.3	1.4	0.7	4.1	
277	寛永通寶	下層	24.3	24.2	19.6	19.6	6.9	6.9	5.5	5.5	1.3	0.7	3.7	
278	寛永通寶	下層	24.8	24.8	20.1	19.9	6.9	6.7	5.1	5.2	1.3	0.8	4.2	
279	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.5	19.5	6.9	6.9	5.4	5.4	1.2	0.5	3.2	
280	寛永通寶	上層	24.5	24.6	20.1	20.0	7.0	7.0	5.5	5.8	1.3	0.7	3.7	
281	寛永通寶	上層	24.5	24.5	20.0	19.8	7.0	7.0	5.7	5.5	1.3	0.7	3.9	
282	寛永通寶	上層	24.8	24.7	19.9	19.5	7.0	6.8	5.6	5.4	1.1	0.7	3.5	
283	寛永通寶	上層	24.6	24.7	20.1	19.9	6.9	7.0	5.5	5.5	1.2	0.7	3.7	
284	寛永通寶	上層	25.0	24.7	20.2	20.2	6.9	6.9	5.6	5.5	1.4	1.0	4.5	
285	寛永通寶	上層	24.6	24.7	20.2	19.8	6.7	6.6	5.3	5.1	1.4	0.7	3.8	
286	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.0	19.8	6.9	6.7	5.5	5.5	1.2	0.7	3.2	
287	寛永通寶	上層	24.4	24.3	20.1	20.3	6.9	6.8	5.6	5.5	1.5	0.7	3.9	
288	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.8	19.8	6.7	6.7	5.5	5.5	1.2	0.6	3.2	
289	寛永通寶	上層	24.9	24.9	19.7	19.5	6.8	6.6	4.9	4.8	1.5	0.8	4.5	
290	寛永通寶	上層	24.6	24.7	19.7	19.8	6.8	6.8	5.0	5.1	1.5	1.0	5.0	
291	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.8	19.8	6.7	6.8	5.4	5.5	1.3	0.7	3.6	
292	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.7	19.7	6.9	6.9	5.4	5.4	1.4	0.7	4.0	
293	至道元寶	上層	24.2	24.1	17.0	17.3	7.6	7.7	6.3	6.3	1.0	0.6	3.0	
294	至道元寶	上層	24.3	24.3	18.5	18.0	7.5	7.5	6.3	6.4	1.1	0.7	3.2	
295	至道元寶	上層	24.6	24.5	18.4	18.7	7.5	7.5	6.2	6.2	1.2	0.7	3.4	
296	至道元寶	上層	24.7	24.5	18.4	18.4	7.3	7.3	6.3	6.3	1.1	0.7	3.4	
297	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.0	20.0	7.0	6.9	5.2	5.1	1.4	0.7	4.3	
298	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.6	19.6	7.1	7.2	5.3	5.4	1.2	0.8	3.7	
299	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.0	19.9	6.8	6.7	5.6	5.6	1.5	0.9	4.4	
300	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.5	19.5	7.0	6.8	5.7	5.2	1.4	0.7	3.5	
301	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.3	19.3	6.8	6.8	5.3	5.3	1.2	0.6	3.3	
302	寛永通寶	上層	24.1	24.1	18.9	18.9	6.8	6.8	5.3	5.3	1.1	0.6	3.3	
303	寛永通寶	上層	24.0	24.1	19.3	19.3	6.7	6.8	5.4	5.4	1.5	0.9	4.5	
304	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.4	19.5	7.1	7.1	5.8	5.8	1.2	0.8	3.8	
305	寛永通寶	上層	24.7	24.7	20.0	20.0	6.9	6.9	5.6	5.6	1.4	0.8	4.1	
306	寛永通寶	上層	24.2	24.1	19.7	19.8	7.0	6.9	5.2	5.3	1.4	0.8	3.6	
307	寛永通寶	上層	24.7	24.5	19.7	19.3	7.1	6.9	5.5	5.3	1.2	0.5	3.3	
308	寛永通寶	上層	24.7	24.8	20.2	20.0	6.9	6.7	5.4	5.3	1.4	0.7	4.0	
309	寛永通寶	上層	24.2	24.5	19.6	19.4	6.8	7.1	5.3	5.4	1.4	0.6	3.9	

単位：mm

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量 (g)	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
310	寛永通寶	上層	24.4	24.6	19.5	19.4	7.1	6.7	5.6	5.6	1.4	0.7	4.1	
311	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.5	19.8	6.9	7.2	5.0	5.0	1.4	0.7	4.0	
312	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.6	19.6	6.8	6.9	5.1	5.1	1.5	0.7	4.2	
313	寛永通寶	上層	24.9	24.8	19.3	19.3	6.7	6.7	5.5	5.5	1.6	0.6	3.9	
314	寛永通寶	上層	24.4	24.3	19.5	19.7	7.3	7.0	6.1	5.9	1.2	0.7	3.4	
315	寛永通寶	上層	24.2	24.2	20.1	19.9	7.3	6.8	5.7	5.4	1.5	1.1	4.0	
316	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.1	20.0	6.8	6.9	5.6	5.5	1.3	0.5	3.5	
317	寛永通寶	上層	24.2	24.1	19.2	19.3	6.7	6.7	5.5	5.4	1.4	0.7	3.9	
318	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.3	19.5	6.5	6.6	5.3	5.2	1.2	0.6	3.3	
319	寛永通寶	上層	24.1	24.0	19.7	19.8	7.0	6.9	5.9	5.8	1.3	0.7	3.5	
320	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.6	19.6	6.8	6.7	5.3	5.1	1.3	0.6	3.6	
321	寛永通寶	上層	24.6	24.7	19.4	19.1	6.9	6.9	5.5	5.6	1.2	0.5	3.6	
322	寛永通寶	上層	24.6	24.3	19.6	19.8	7.3	6.9	5.9	5.2	1.3	0.7	3.7	
323	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.4	19.9	6.9	7.0	5.3	5.3	1.3	0.7	3.9	
324	寛永通寶	上層	25.1	24.7	20.0	20.0	6.6	6.6	5.4	5.3	1.4	0.7	4.0	
325	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.8	19.9	6.4	6.6	5.0	5.2	1.3	0.7	4.0	
326	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.8	6.7	6.8	5.4	5.6	1.4	0.8	4.1	
327	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.9	19.6	7.0	6.9	5.4	5.5	1.3	0.8	3.9	
328	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.5	19.7	6.7	7.0	5.4	5.7	1.3	0.8	4.0	
329	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.1	19.8	7.0	6.9	5.6	5.3	1.1	0.5	2.9	
330	寛永通寶	上層	24.7	24.8	19.8	19.8	6.8	6.9	5.5	5.5	1.4	0.9	4.4	
331	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.7	19.7	6.8	6.8	5.2	5.3	1.2	0.6	3.6	
332	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.1	20.1	6.9	6.9	5.3	5.2	1.4	0.8	4.0	
333	寛永通寶	上層	24.6	24.5	20.1	19.7	6.8	6.7	5.3	5.3	1.3	0.6	3.7	
334	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.8	6.7	6.6	5.4	5.2	1.3	0.5	3.3	
335	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.4	19.7	6.9	7.1	5.6	5.4	1.3	0.8	4.0	
336	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.4	19.5	6.4	6.6	5.6	5.6	1.4	0.7	4.2	
337	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.4	19.8	7.0	7.0	5.6	5.5	1.2	0.5	3.2	
338	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.6	20.0	6.9	7.0	5.4	5.3	1.2	0.6	3.6	
339	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.7	19.7	6.9	6.9	5.6	5.6	1.3	0.7	4.1	
340	寛永通寶	上層	24.2	24.2	18.8	18.9	6.7	6.9	5.1	5.0	1.2	0.6	3.4	
341	寛永通寶	上層	25.0	24.9	19.9	19.2	7.0	6.8	5.6	5.6	1.2	0.6	3.7	
342	寛永通寶	上層	24.1	24.2	18.9	19.1	6.8	7.0	5.6	5.6	0.9	0.3	1.9	
343	寛永通寶	上層	24.6	24.7	19.9	19.9	6.9	6.9	5.3	5.5	1.7	1.2	4.6	
344	寛永通寶	上層	24.3	24.5	19.6	19.7	6.8	6.9	5.7	5.5	1.3	0.8	3.9	
345	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.8	19.7	6.7	6.9	5.6	5.8	1.2	0.7	3.3	
346	寛永通寶	上層	24.9	24.9	19.6	19.7	6.8	6.8	5.1	5.1	1.3	0.6	3.9	
347	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.5	19.7	7.0	7.1	5.7	5.5	1.3	0.7	3.8	
348	寛永通寶	上層	23.9	23.9	20.2	20.1	6.8	6.8	5.4	5.3	1.4	0.7	3.6	
349	寛永通寶	上層	24.2	24.3	18.9	19.1	6.7	6.9	5.5	5.4	1.4	0.8	3.9	
350	寛永通寶	上層	24.3	24.2	19.8	19.8	6.8	6.7	5.4	5.1	1.2	0.5	3.3	
351	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.8	19.7	6.7	6.7	5.5	5.3	1.3	0.7	3.8	
352	寛永通寶	上層	24.5	24.7	19.7	19.7	6.9	6.9	5.3	5.3	1.4	0.7	4.2	
353	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.5	19.6	6.8	7.0	5.6	5.6	1.1	0.5	2.9	
354	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.9	19.7	6.9	7.1	5.2	5.8	1.6	0.7	4.4	
355	寛永通寶	上層	24.6	24.5	20.2	19.6	6.8	6.6	5.4	5.2	1.5	0.8	4.1	
356	寛永通寶	上層	24.7	24.8	20.2	19.9	7.0	7.0	6.0	5.9	1.3	0.5	3.4	
357	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.4	19.6	7.1	7.2	5.5	5.4	1.4	0.9	4.3	
358	元符通寶？	上層	24.3	24.4	20.4	19.6	8.9	8.9	6.9	6.7	1.3	1.0	3.9	
359	寛永通寶	上層	24.6	24.7	20.2	19.7	6.9	7.1	5.2	5.3	1.2	0.6	3.5	
360	寛永通寶	上層	24.7	24.8	19.6	19.7	7.0	6.5	5.3	5.2	1.3	0.5	3.5	
361	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.5	19.8	6.8	7.1	5.3	5.3	1.4	0.7	4.0	
362	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.5	19.7	6.7	6.8	5.5	5.4	1.3	0.7	3.6	
363	寛永通寶	上層	24.0	24.1	19.1	19.3	6.8	7.0	5.4	5.3	1.0	0.5	2.9	
364	寛永通寶	上層	24.1	24.1	19.3	19.3	6.9	7.0	5.8	5.8	1.4	0.7	3.8	
365	寛永通寶	上層	24.0	24.0	19.0	19.5	7.0	7.1	5.5	5.5	1.2	0.6	3.4	
366	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.9	20.0	6.8	6.8	5.3	5.4	1.2	0.5	3.0	
367	寛永通寶	上層	24.8	24.7	19.9	20.1	6.7	7.0	5.2	5.3	1.2	0.6	3.6	
368	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.9	19.7	7.4	7.3	6.0	5.8	1.1	0.6	3.2	
369	寛永通寶	中層	24.2	24.3	19.3	19.7	7.0	7.3	5.2	5.7	1.3	0.9	4.7	
370	至道元寶	中層	24.3	24.2	17.8	17.5	7.8	7.4	6.4	6.4	1.0	0.5	3.5	
371	寛永通寶	中層	24.8	24.9	19.2	19.2	7.3	7.1	5.3	5.5	1.4	0.8	4.0	
372	寛永通寶	中層	24.4	24.5	19.1	19.0	7.1	7.1	5.4	5.4	1.2	0.6	3.8	
373	寛永通寶	中層	24.6	24.7	19.7	19.6	6.8	6.8	5.4	5.2	1.3	0.5	3.7	
374	寛永通寶	中層	24.9	25.0	20.0	19.8	6.9	6.7	5.6	5.6	1.3	0.5	3.8	
375	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.0	20.0	6.9	6.8	5.5	5.3	1.3	0.7	4.1	
376	寛永通寶	中層	24.4	24.4	20.1	19.8	7.0	6.8	5.7	5.4	1.1	0.5	3.6	

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量（g）	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
377	至道元寶	中層	24.5	24.5	18.3	18.2	6.7	6.8	6.2	6.2	1.1	0.5	3.6	
378	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.7	19.6	6.9	7.0	5.7	5.6	1.3	0.6	4.1	
379	寛永通寶	中層	24.7	24.8	19.4	19.4	7.0	6.9	5.4	5.5	1.3	0.6	4.1	
380	至道元寶	中層	24.4	24.5	18.4	18.3	7.0	7.1	6.3	6.4	0.9	0.5	3.1	
381	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.0	19.7	6.9	6.8	5.3	5.2	1.2	0.5	3.9	
382	至道元寶	中層	24.3	24.4	18.4	18.0	7.5	7.3	6.4	6.4	1.0	0.5	3.2	
383	至道元寶	中層	24.0	24.1	18.3	18.7	7.5	7.5	6.2	6.3	1.0	0.6	3.4	
384	至道元寶	中層	24.7	24.7	18.2	18.5	7.0	7.1	6.1	6.3	1.1	0.7	3.8	
385	寛永通寶	中層	24.2	24.1	19.2	19.5	6.7	7.3	5.7	5.7	1.2	0.7	3.6	
386	寛永通寶	中層	24.6	24.5	19.9	19.6	7.3	7.3	6.0	5.8	1.2	0.6	3.9	
387	寛永通寶	中層	24.4	24.4	20.1	20.1	7.1	7.2	5.4	5.2	1.1	0.6	3.5	
388	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.9	19.6	7.1	7.0	6.0	6.0	1.1	0.7	3.5	
389	至道元寶	中層	24.3	24.3	18.1	18.2	7.6	7.3	6.4	6.4	1.0	0.7	3.0	
390	寛永通寶	中層	24.1	24.2	19.8	19.6	7.0	6.7	5.6	5.3	1.3	0.7	3.7	
391	寛永通寶	中層	24.0	24.0	18.5	18.8	7.0	7.1	5.1	5.1	1.1	0.7	3.4	
392	寛永通寶	中層	24.4	24.5	19.4	19.5	7.0	7.1	5.3	5.4	1.4	0.7	4.2	
393	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.4	19.4	6.9	6.8	5.2	5.1	1.2	0.6	3.7	
394	寛永通寶	中層	24.7	24.8	19.7	19.6	7.0	7.0	5.6	5.6	1.3	0.5	4.3	
395	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.7	6.9	6.8	5.4	5.2	1.2	0.6	3.3	
396	至道元寶	上層	24.0	24.0	17.3	17.3	7.6	7.6	6.3	6.2	1.1	0.6	2.9	
397	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.0	20.0	6.8	6.7	5.2	5.2	1.4	0.6	4.0	
398	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.9	19.9	7.2	7.1	5.8	5.7	1.3	0.7	3.5	
399	寛永通寶	上層	23.7	23.6	19.1	19.1	6.6	6.5	5.2	5.1	1.3	0.7	3.7	
400	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.1	20.0	6.8	6.7	5.6	5.5	1.5	0.8	3.9	
401	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.6	19.6	7.6	7.5	5.7	5.8	1.3	0.8	4.0	
402	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.3	19.3	6.9	6.9	5.7	5.8	1.1	0.6	3.3	
403	寛永通寶	上層	24.6	24.4	19.5	19.4	6.9	6.8	5.6	5.4	1.2	0.7	3.7	
404	至道元寶	上層	22.5	22.2	18.4	18.4	7.2	7.2	5.9	5.9	1.3	0.8	3.0	
405	寛永通寶	上層	24.3	24.3	20.0	19.9	7.1	7.0	5.6	5.7	1.3	0.6	3.0	
406	至道元寶	上層	24.5	24.7	18.4	18.4	7.1	7.1	6.0	6.0	1.0	0.6	2.8	
407	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.4	19.4	7.1	7.1	5.3	5.5	1.2	0.6	3.5	
408	寛永通寶	上層	24.8	24.8	19.9	19.9	6.8	6.7	5.5	5.2	1.3	0.7	3.6	
409	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.3	19.5	7.2	7.1	5.8	5.7	1.2	0.6	3.5	
410	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.7	19.7	7.0	7.0	5.5	5.5	1.4	0.8	4.1	
411	至道元寶	上層	24.2	24.4	18.0	18.0	7.5	7.5	6.3	6.4	1.3	0.7	3.0	
412	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.8	19.8	7.2	7.2	5.8	5.8	1.1	0.5	3.3	
413	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.4	19.4	6.8	6.9	5.5	5.6	1.3	0.7	4.0	
414	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.2	19.2	7.0	7.0	5.7	5.7	1.2	0.7	3.4	
415	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.7	19.7	7.1	7.0	5.4	5.3	1.2	0.5	3.5	
416	寛永通寶	上層	24.5	24.5	20.0	19.9	6.9	6.8	5.8	5.8	1.3	0.7	3.7	
417	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.0	20.0	7.1	7.1	5.7	5.6	1.2	0.8	3.3	
418	至道元寶	上層	24.3	24.4	18.9	18.6	6.8	6.8	6.1	6.1	1.0	0.6	3.3	
419	寛永通寶	上層	24.4	24.3	20.0	19.9	6.9	6.8	5.6	5.4	1.2	0.7	3.6	
420	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.1	20.0	6.7	6.7	5.4	5.3	1.3	0.7	3.8	
421	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.6	7.0	6.9	5.7	5.7	1.2	0.6	3.7	
422	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.6	19.6	6.9	7.0	5.3	5.5	1.3	0.6	3.8	
423	寛永通寶	上層	25.1	25.1	20.1	20.1	7.0	6.9	5.4	5.3	1.3	0.6	3.9	
424	寛永通寶	上層	24.8	24.8	19.8	19.7	6.9	6.9	5.5	5.4	1.3	0.8	4.0	
425	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.8	19.7	6.8	6.9	5.6	5.6	1.3	0.7	3.9	
426	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.0	19.9	6.7	6.7	5.3	5.2	1.3	0.8	4.0	
427	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.0	20.1	6.8	6.7	5.5	5.4	1.4	0.7	4.1	
428	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.8	7.0	7.0	5.6	5.6	1.4	0.8	4.3	
429	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.0	19.7	6.9	6.8	5.3	5.2	1.3	0.8	4.0	
430	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.8	19.8	7.0	6.9	5.3	5.2	1.1	0.5	3.4	
431	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.8	19.6	6.8	6.6	5.1	5.1	1.1	0.5	3.2	
432	寛永通寶	上層	23.6	23.6	19.4	19.2	6.6	6.4	4.8	4.6	1.3	0.6	3.7	鋳バリが円形に残存
433	寛永通寶	上層	24.1	24.2	20.1	20.0	6.8	6.7	5.4	5.4	1.3	0.8	3.9	
434	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.5	19.6	6.8	6.8	5.1	5.1	1.1	0.6	3.3	
435	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.7	19.7	7.0	7.1	5.8	5.9	1.2	0.7	3.5	
436	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.6	19.7	6.8	6.7	5.4	5.4	1.3	0.7	3.7	
437	至道元寶	上層	24.8	24.8	17.2	17.5	7.1	7.1	5.9	5.9	1.4	1.0	4.9	
438	寛永通寶	上層	24.4	24.3	20.0	19.9	7.0	6.9	5.6	5.5	1.3	0.6	3.7	
439	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.8	19.8	6.9	7.0	5.6	5.5	1.3	0.8	4.0	
440	寛永通寶	上層	24.8	24.7	20.0	19.8	6.7	6.7	5.4	5.4	1.3	0.7	3.9	
441	寛永通寶	上層	24.3	24.5	19.8	19.9	6.8	6.8	5.2	5.2	1.3	0.7	3.9	
442	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.9	19.6	6.8	6.8	5.3	5.1	1.3	0.8	3.8	
443	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.6	19.7	6.9	6.9	5.5	5.5	1.2	0.7	3.7	

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量 (g)	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
444	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.5	19.5	6.9	6.9	5.6	5.5	1.1	0.6	3.2	
445	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.8	6.7	6.7	5.4	5.4	1.2	0.6	3.5	
446	寛永通寶	上層	24.8	24.8	19.9	19.8	6.9	6.9	5.9	5.8	0.9	0.4	2.6	
447	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.6	19.7	7.1	7.2	5.8	5.8	1.2	0.7	3.6	
448	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.6	19.7	7.2	7.2	5.7	5.8	1.2	0.7	3.6	
449	寛永通寶	上層	24.9	24.8	19.9	19.8	7.4	7.3	5.9	5.7	1.2	0.6	3.6	
450	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.7	19.7	6.9	7.0	5.5	5.6	1.3	0.8	4.0	
451	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.7	19.7	6.8	6.8	5.3	5.3	1.3	0.7	3.8	
452	寛永通寶	上層	23.4	23.5	19.3	19.3	6.8	6.9	5.2	5.3	1.3	0.7	3.4	
453	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.1	19.1	6.8	6.9	5.2	5.3	1.3	0.8	4.0	
454	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.8	7.0	7.2	5.5	5.6	1.5	1.0	4.5	
455	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.1	20.0	6.9	6.8	5.3	5.1	1.3	0.7	3.7	
456	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.6	19.6	6.9	6.9	5.6	5.6	1.3	0.7	3.7	
457	寛永通寶	上層	25.2	25.2	19.3	19.3	6.7	6.7	5.7	5.7	1.2	0.8	3.8	
458	寛永通寶	上層	25.0	25.0	20.2	20.2	6.9	6.8	5.4	5.3	1.3	0.7	3.8	
459	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.9	19.8	6.8	6.9	5.8	5.9	1.3	0.6	3.6	
460	寛永通寶	上層	24.9	24.8	19.6	19.5	7.0	6.9	5.2	5.1	1.3	0.7	3.9	
461	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.7	19.7	6.8	6.7	5.6	5.6	1.2	0.6	3.5	
462	寛永通寶	上層	24.8	24.7	20.0	19.9	6.9	6.8	5.5	5.4	1.4	0.8	4.2	
463	寛永通寶	上層	24.9	24.9	19.6	19.6	6.8	6.7	5.4	5.3	1.3	0.7	3.8	
464	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.6	19.6	6.9	6.9	5.4	5.4	1.0	0.4	2.8	
465	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.9	19.9	6.8	6.8	5.1	5.1	1.4	0.7	3.7	
466	寛永通寶	上層	24.0	24.0	19.0	19.0	6.6	7.0	5.3	5.3	1.4	0.7	3.8	
467	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.5	19.8	6.7	7.0	5.5	5.6	1.3	0.6	3.5	
468	寛永通寶	上層	23.8	23.8	19.1	19.1	7.0	7.0	5.4	5.3	1.3	0.8	3.8	
469	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.2	19.4	6.7	7.0	5.4	5.4	1.5	0.9	4.3	
470	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.6	19.6	6.7	6.7	5.6	5.5	1.2	0.5	3.3	
471	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.6	19.6	6.8	7.0	5.4	5.3	1.3	0.7	4.1	
472	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.5	19.3	6.8	7.2	5.5	5.7	1.2	0.7	3.5	
473	寛永通寶	上層	24.3	24.5	19.6	19.6	6.9	6.8	5.3	5.5	1.3	0.6	3.4	
474	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.8	19.4	6.7	7.1	5.1	5.0	1.4	0.8	4.1	
475	寛永通寶	上層	24.6	24.7	19.8	19.4	7.1	7.1	5.5	5.5	1.3	0.5	3.5	
476	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.4	19.7	7.3	7.4	5.4	5.7	1.4	0.8	3.9	
477	寛永通寶	上層	24.3	24.2	19.4	19.7	6.8	6.7	5.3	5.5	1.3	0.5	3.4	
478	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.1	19.6	6.8	6.7	5.4	5.4	1.4	0.8	4.3	
479	寛永通寶	上層	24.2	24.2	18.6	19.0	7.0	7.0	5.1	5.2	1.4	0.9	3.9	
480	寛永通寶	上層	24.3	24.2	19.3	19.4	6.6	6.6	5.3	5.4	1.2	0.5	3.1	
481	寛永通寶	上層	23.8	23.8	19.3	19.6	6.9	7.3	5.7	5.6	1.0	0.6	2.7	
482	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.6	6.8	6.8	5.6	5.7	1.4	0.8	4.3	
483	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.6	19.7	6.7	6.8	5.6	5.4	1.3	0.7	3.6	
484	寛永通寶	上層	24.6	24.4	20.0	19.8	6.7	6.8	5.7	5.5	1.5	0.8	4.3	
485	寛永通寶	上層	24.8	24.9	19.5	19.5	6.8	7.0	5.5	5.6	1.4	0.8	4.2	
486	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.9	19.9	6.8	6.7	5.7	5.7	1.2	0.5	3.2	
487	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.1	20.1	6.9	6.9	5.7	5.7	1.3	0.7	3.7	
488	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.4	19.6	6.8	7.0	5.4	5.5	1.4	0.7	3.9	
489	寛永通寶	上層	25.0	25.2	19.2	19.3	6.5	6.7	4.8	4.9	1.1	0.5	3.2	
490	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.8	19.5	6.7	6.8	5.6	5.6	1.3	0.6	3.6	
491	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.6	7.0	6.8	5.8	5.7	1.4	0.8	4.0	
492	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.5	6.7	6.8	5.6	5.5	1.3	0.7	3.9	
493	紹聖元寶	上層	24.3	24.5	17.2	17.2	7.2	7.6	6.0	6.1	1.2	0.9	3.8	
494	寛永通寶	上層	24.3	24.2	19.5	19.5	6.9	7.0	5.4	5.4	1.3	0.7	3.4	
495	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.6	19.4	6.8	6.9	5.6	5.6	1.3	0.7	4.1	
496	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.0	19.2	6.8	7.0	5.5	5.5	1.3	0.7	4.0	
497	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.4	19.5	7.4	7.2	5.4	5.4	1.2	0.6	3.3	
498	寛永通寶	上層	24.8	24.7	19.7	19.7	6.8	6.7	5.3	5.5	1.0	0.5	3.2	
499	寛永通寶	上層	24.0	24.1	19.6	19.6	7.2	7.4	5.6	5.7	1.1	0.5	3.3	
500	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.4	19.4	7.0	7.2	5.6	5.5	1.4	0.8	4.4	
501	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.7	6.8	6.8	5.3	5.1	1.4	0.5	4.0	
502	寛永通寶	上層	24.5	24.5	20.0	19.8	7.0	7.0	5.4	5.2	1.2	0.6	3.7	
503	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.8	19.8	7.0	7.0	5.4	5.5	1.3	0.8	4.1	
504	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.2	19.6	6.9	7.2	5.7	5.6	1.2	0.8	3.6	
505	寛永通寶	上層	24.0	23.9	19.5	19.5	6.6	7.0	5.3	5.4	1.1	0.5	2.9	
506	寛永通寶	上層	24.3	24.2	20.0	20.0	6.8	6.8	5.4	5.5	1.1	0.5	3.2	
507	寛永通寶	上層	24.6	24.7	19.7	19.7	7.1	7.1	5.3	5.2	1.2	0.6	3.4	
508	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.7	19.4	6.9	6.8	5.6	5.6	1.1	0.6	3.3	
509	寛永通寶	上層	24.2	24.0	20.1	19.7	7.0	6.9	5.5	5.3	1.2	0.6	3.4	
510	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.7	19.9	6.9	6.9	5.3	5.0	1.2	0.6	3.5	

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量（g）	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
511	寛永通寶	上層	24.4	24.3	20.1	19.8	7.1	6.8	5.4	5.3	1.4	0.8	3.8	
512	寛永通寶	上層	24.6	24.8	19.5	19.8	7.1	7.0	5.6	5.4	1.2	0.5	3.5	
513	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.1	18.6	6.7	6.7	5.6	5.6	1.3	0.7	3.4	
514	寛永通寶	上層	24.7	24.8	19.6	19.7	6.8	6.8	5.1	4.9	1.2	0.6	3.5	
515	寛永通寶	上層	24.1	24.2	19.1	19.6	6.9	6.9	5.5	5.7	1.3	0.8	4.0	
516	寛永通寶	上層	24.0	24.0	19.0	19.0	6.6	6.5	5.5	5.5	1.1	0.5	2.8	
517	寛永通寶	上層	24.2	24.1	19.4	19.4	6.5	6.7	5.6	5.4	1.0	0.4	2.8	
518	寛永通寶	上層	24.3	24.1	19.7	19.7	6.7	7.1	5.5	5.4	1.2	0.6	3.3	
519	寛永通寶	上層	24.1	24.2	19.1	19.6	7.0	7.2	5.6	5.7	1.3	0.8	3.8	
520	寛永通寶	上層	24.0	24.0	19.6	19.6	7.8	7.4	5.8	6.0	1.0	0.8	2.9	
521	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.6	6.8	6.8	4.9	5.2	1.2	0.5	3.4	
522	寛永通寶	上層	24.4	24.3	19.2	19.3	7.0	7.1	5.6	5.6	1.0	0.4	2.7	
523	寛永通寶	上層	24.3	24.3	20.1	19.8	6.8	6.8	5.5	5.2	1.3	0.5	3.3	
524	寛永通寶	上層	24.5	24.5	20.1	19.9	6.8	6.9	5.5	5.4	1.3	0.6	3.6	
525	寛永通寶	上層	24.4	24.3	19.6	19.3	6.8	7.0	5.7	5.5	1.2	0.6	3.4	
526	寛永通寶	上層	24.9	24.8	20.1	19.8	6.8	6.8	5.5	5.6	1.3	0.6	3.5	
527	寛永通寶	上層	24.9	24.8	19.6	19.6	7.0	7.0	5.4	5.5	1.0	0.5	3.3	
528	寛永通寶	上層	24.6	24.5	20.1	19.6	7.1	6.9	5.5	5.4	1.5	0.9	4.8	
529	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.3	19.6	6.9	7.1	5.5	5.5	1.3	0.8	4.2	
530	寛永通寶	上層	24.9	24.7	19.5	19.5	7.2	7.1	5.9	5.8	1.3	0.7	3.7	
531	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.9	19.9	6.9	6.9	5.4	5.5	1.3	0.7	3.7	
532	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.7	19.7	7.1	7.3	5.9	5.8	1.1	0.5	3.1	
533	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.9	19.6	6.7	7.1	5.3	5.3	1.3	0.7	3.9	
534	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.4	19.4	6.7	6.8	5.2	5.1	1.3	0.8	3.8	
535	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.8	19.6	7.0	7.2	5.3	5.5	1.2	0.8	3.7	
536	寛永通寶	上層	24.6	24.5	19.3	19.3	6.8	7.1	5.0	5.1	1.3	0.7	3.9	
537	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.9	19.4	7.1	7.0	6.1	5.9	1.1	0.6	3.3	
538	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.7	19.4	6.9	7.0	5.5	5.4	1.3	0.6	3.7	
539	寛永通寶	上層	24.3	24.4	18.9	19.6	6.9	7.1	5.6	5.7	1.1	0.8	3.4	
540	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.8	19.5	6.8	6.8	5.3	5.2	1.2	0.6	3.6	
541	寛永通寶	上層	24.5	24.5	20.0	19.8	7.1	6.7	5.8	5.7	1.3	0.8	3.9	
542	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.4	19.3	6.7	6.7	5.5	5.4	1.3	0.6	3.7	
543	寛永通寶	上層	24.4	24.6	19.3	19.6	6.7	7.2	5.7	5.6	1.2	0.6	3.5	
544	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.5	19.5	7.1	7.1	5.5	5.5	1.3	0.8	4.1	
545	寛永通寶	上層	24.3	24.0	18.9	19.1	6.9	7.2	5.4	5.3	1.0	0.5	2.9	
546	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.3	19.3	6.8	6.7	5.4	5.3	1.2	0.5	3.4	
547	寛永通寶	上層	24.3	24.3	18.9	19.1	6.8	7.1	5.1	5.1	1.1	0.6	3.9	
548	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.8	6.9	7.0	5.6	5.4	1.2	0.6	3.8	
549	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.3	19.6	7.1	6.8	5.3	5.2	1.1	0.5	3.1	
550	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.5	19.7	7.4	7.5	5.8	5.7	1.1	0.6	3.3	
551	寛永通寶	上層	24.3	24.2	18.0	18.0	6.8	6.9	5.1	4.8	1.2	0.8	4.1	
552	寛永通寶	上層	23.8	23.8	19.6	19.3	6.8	6.6	5.4	5.4	1.3	0.5	3.4	
553	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.3	6.7	6.7	5.4	5.7	1.2	0.5	3.3	
554	寛永通寶	上層	24.2	24.1	19.4	19.5	7.1	7.2	5.3	5.4	1.0	0.5	3.2	
555	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.6	19.4	6.9	6.9	5.4	5.5	1.2	0.6	3.7	
556	寛永通寶	上層	24.0	24.0	18.6	19.0	7.1	7.1	5.0	5.1	1.2	0.8	4.2	
557	寛永通寶	上層	23.9	24.0	19.2	19.3	6.8	6.9	5.5	5.4	1.3	0.7	3.6	
558	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.4	19.7	6.9	6.9	5.2	5.1	1.4	0.8	4.6	
559	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.8	19.7	6.8	6.8	5.2	5.2	1.3	0.7	4.3	
560	寛永通寶	上層	25.0	25.0	19.1	19.5	7.0	6.9	5.3	5.4	1.4	0.8	4.7	
561	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.5	19.5	7.1	7.2	5.4	5.4	1.1	0.6	3.6	「永」左払い跳ね
562	寛永通寶	上層	24.1	24.2	19.5	19.6	7.2	7.2	5.5	5.7	1.0	0.4	3.2	
563	寛永通寶	上層	24.3	24.4	20.0	19.9	7.1	7.1	6.2	6.2	1.2	0.7	3.8	
564	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.3	19.6	6.9	7.2	5.7	5.8	1.2	0.7	3.7	
565	寛永通寶	上層	24.2	24.3	20.0	20.1	7.1	6.9	5.7	5.6	1.2	0.6	3.6	
566	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.8	7.0	7.2	5.6	5.5	1.2	0.5	3.9	
567	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.7	7.1	7.2	5.6	5.8	1.0	0.5	3.2	
568	至道元寶	上層	24.1	24.0	18.4	18.4	7.1	7.1	6.2	6.3	1.1	0.7	3.2	
569	至道元寶	上層	24.4	24.5	18.5	18.4	7.1	7.0	6.4	6.4	1.0	0.7	3.2	
570	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.7	19.7	6.8	6.7	5.6	5.6	1.1	0.4	3.1	
571	寛永通寶	上層	24.1	24.1	19.8	19.9	6.8	6.8	5.9	5.9	1.3	0.7	3.4	鋳バリが円形に残存
572	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.5	19.4	6.8	6.8	5.9	5.9	1.4	0.6	3.5	
573	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.7	19.6	7.1	7.0	5.4	5.4	1.1	0.6	3.8	
574	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.0	19.8	7.1	7.0	6.2	5.9	1.0	0.5	2.9	
575	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.0	19.0	7.0	6.9	5.5	5.4	1.2	0.6	3.5	
576	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.9	19.9	6.8	6.7	5.5	5.5	1.3	0.7	3.9	
577	寛永通寶	上層	24.7	24.5	20.3	20.1	6.9	6.9	5.5	5.3	1.2	0.6	3.3	

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量（g）	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
578	寛永通寶	上層	24.5	24.3	20.2	19.9	7.0	7.0	5.8	5.5	1.2	0.6	3.2	
579	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.4	19.4	7.0	6.9	5.8	5.7	1.3	0.6	3.7	
580	寛永通寶	上層	24.4	24.3	20.3	20.1	6.8	6.8	5.6	5.7	1.3	0.7	3.3	
581	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.2	20.1	6.9	6.9	5.4	5.5	1.4	0.6	3.6	
582	寛永通寶	上層	24.1	24.0	19.6	19.6	6.8	6.7	5.3	5.1	1.2	0.7	3.5	
583	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.6	19.4	6.9	6.9	5.2	5.2	1.4	0.9	3.8	
584	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.7	19.7	6.9	6.8	5.2	5.1	1.3	0.9	3.9	
585	寛永通寶	上層	24.6	24.4	20.1	19.9	6.7	6.7	5.7	5.5	1.3	0.6	3.3	
586	寛永通寶	上層	25.2	25.1	19.7	19.6	6.9	6.8	5.4	5.3	1.1	0.6	3.3	
587	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.7	19.7	7.0	7.2	5.6	5.9	1.3	0.8	3.6	
588	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.5	19.5	7.0	7.0	5.5	5.5	1.3	0.8	3.6	
589	寛永通寶	上層	24.8	24.8	19.7	19.7	6.7	6.7	5.1	5.2	1.4	0.8	4.4	
590	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.5	19.5	7.0	7.0	5.5	5.4	1.1	0.7	3.4	「永」点が欠ける
591	寛永通寶	上層	24.6	24.5	20.1	19.9	7.0	6.9	5.7	5.6	1.3	0.8	3.9	
592	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.0	20.0	6.8	6.6	5.8	5.7	1.3	0.6	3.3	
593	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.6	19.7	7.0	7.0	5.7	5.8	1.2	0.6	3.1	
594	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.0	19.9	7.0	7.0	5.8	5.7	1.4	0.7	3.9	
595	寛永通寶	上層	24.5	24.5	20.0	19.9	6.9	6.8	5.7	5.6	1.5	0.9	4.6	
596	寛永通寶	上層	24.1	24.2	19.5	19.6	6.8	6.9	5.5	5.6	1.2	0.7	3.5	
597	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.7	19.6	6.7	6.7	5.7	5.6	1.3	0.7	3.5	
598	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.7	19.7	6.9	6.9	5.8	5.7	1.1	0.5	3.0	
599	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.7	19.7	7.0	6.9	5.2	5.2	1.5	0.9	4.4	
600	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.8	19.8	6.9	6.9	5.4	5.4	1.2	0.7	3.6	
601	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.1	20.0	6.9	6.8	5.7	5.6	1.4	0.7	3.8	
602	寛永通寶	上層	23.9	24.1	19.5	19.6	7.1	7.1	5.6	5.4	1.2	0.6	3.2	
603	寛永通寶	上層	23.8	23.8	19.3	19.1	6.5	6.5	5.5	5.3	1.5	0.7	3.7	
604	寛永通寶	上層	24.5	24.6	20.1	20.2	7.0	6.9	5.7	5.7	1.5	1.0	4.4	
605	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.7	6.6	6.5	5.5	5.4	1.4	0.7	4.1	
606	寛永通寶	上層	24.3	24.1	19.6	19.5	6.7	6.6	5.4	5.1	1.3	0.7	3.8	
607	寛永通寶	上層	24.5	24.6	19.6	19.7	6.9	7.0	5.3	5.3	1.5	0.9	4.7	
608	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.7	19.7	6.9	6.9	5.4	5.7	1.3	0.8	4.0	
609	寛永通寶	上層	24.6	24.5	20.1	20.1	6.7	6.8	5.5	5.6	1.3	0.6	3.5	
610	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.8	19.7	6.6	6.7	5.3	5.4	1.2	0.7	3.4	
611	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.8	19.8	6.9	7.0	5.5	5.6	1.3	0.8	3.7	
612	寛永通寶	上層	24.7	24.7	20.0	20.0	6.8	6.8	5.4	5.4	1.3	0.7	3.7	
613	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.7	19.6	6.6	6.6	5.3	5.3	1.2	0.6	3.3	
614	寛永通寶	上層	24.4	24.4	19.7	19.7	6.9	7.0	5.4	5.5	1.2	0.6	3.1	
615	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.8	7.0	7.0	5.6	5.7	1.3	0.7	3.8	
616	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.6	19.5	6.8	6.9	5.4	5.5	1.4	0.8	4.1	「永」左払い跳ね
617	寛永通寶	上層	25.0	25.0	19.5	19.5	7.0	7.2	5.3	5.2	1.3	0.7	4.1	
618	寛永通寶	上層	24.1	24.2	20.0	19.8	6.8	6.8	5.3	5.3	1.3	0.6	3.3	
619	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.8	6.7	6.8	5.4	5.5	1.3	0.7	3.6	
620	寛永通寶	上層	24.1	24.2	19.4	19.3	6.8	7.0	5.2	5.3	1.3	0.7	3.9	
621	寛永通寶	上層	24.1	24.3	19.6	19.7	6.8	7.0	5.4	5.6	1.3	0.7	3.7	
622	寛永通寶	上層	24.7	24.7	20.2	20.0	6.8	6.7	5.3	5.2	1.2	0.6	3.2	
623	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.9	19.9	6.7	6.7	5.3	5.3	1.5	0.9	3.9	
624	寛永通寶	上層	24.2	24.2	19.7	19.7	7.1	7.1	5.5	5.5	1.4	0.9	3.8	「永」左払い跳ね
625	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.4	19.6	7.1	7.0	5.3	5.6	1.5	0.6	4.0	
626	寛永通寶	上層	24.5	24.6	19.1	19.4	7.0	7.2	5.4	5.6	1.3	0.8	3.8	
627	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.7	19.4	7.0	6.9	5.2	5.3	1.2	0.7	4.2	
628	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.5	19.4	7.0	7.0	5.4	5.4	1.3	0.6	4.2	
629	寛永通寶	上層	24.4	24.5	19.7	19.7	7.1	6.9	5.3	5.4	1.3	0.9	4.5	
630	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.4	19.7	7.2	7.1	5.3	5.3	1.3	0.8	4.2	
631	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.0	19.7	6.9	7.0	5.5	5.5	1.2	0.6	3.7	
632	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.7	19.8	6.8	6.9	5.5	5.3	1.3	0.5	4.0	
633	寛永通寶	上層	24.4	24.3	19.6	19.5	7.1	7.1	5.4	5.4	1.4	0.7	4.4	
634	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.8	19.8	6.9	6.9	5.4	5.3	1.3	0.6	4.0	
635	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.6	19.6	7.1	7.2	5.2	5.3	1.1	0.6	3.5	
636	寛永通寶	上層	23.9	23.8	19.3	19.0	6.8	6.8	5.9	5.6	1.0	0.5	3.1	
637	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.6	19.8	7.0	7.2	5.7	5.7	1.2	0.8	4.1	
638	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.3	19.7	6.9	6.9	5.5	5.6	1.1	0.7	3.7	
639	寛永通寶	上層	24.5	24.6	19.3	19.5	7.2	6.9	5.2	5.1	1.2	0.6	3.8	
640	寛永通寶	上層	24.6	24.7	19.1	19.4	7.3	7.3	5.5	5.3	1.3	0.6	4.2	
641	寛永通寶	上層	23.6	23.6	18.9	18.9	6.7	6.9	5.4	5.3	1.1	0.5	3.2	
642	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.5	19.5	7.2	7.3	5.7	5.7	1.1	0.7	3.8	「永」左払い跳ね
643	寛永通寶	上層	24.2	24.1	19.8	19.7	7.0	6.9	5.2	5.1	1.1	0.6	3.6	
644	寛永通寶	上層	24.6	24.8	20.1	19.9	7.0	6.8	5.3	5.3	1.1	0.6	3.8	

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量（g）	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
645	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.6	19.5	7.2	7.3	5.4	5.4	1.0	0.6	3.5	「永」左払い跳ね
646	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.4	19.8	7.0	7.1	5.6	5.4	1.1	0.5	3.6	
647	寛永通寶	上層	24.5	24.6	20.1	19.8	7.0	6.8	5.4	5.3	1.2	0.5	3.7	
648	寛永通寶	上層	24.8	24.8	19.9	19.9	6.9	6.8	5.5	5.6	1.2	0.7	3.8	
649	寛永通寶	上層	24.8	25.2	19.6	19.6	7.0	6.9	5.6	5.6	0.9	0.4	2.8	
650	寛永通寶	上層	24.8	24.9	19.8	19.8	7.0	6.9	5.6	5.6	1.2	0.5	3.8	
651	寛永通寶	上層	24.2	24.1	20.0	20.0	7.0	6.9	5.4	5.2	1.1	0.5	3.3	
652	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.9	7.0	6.9	5.3	5.3	1.2	0.6	3.5	
653	寛永通寶	上層	24.7	24.7	19.5	19.1	6.9	6.8	5.5	5.5	1.3	0.7	4.2	
654	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.9	19.7	6.9	6.9	5.2	5.2	1.3	0.6	3.8	
655	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.3	19.6	6.8	6.9	5.1	5.3	1.2	0.6	3.7	
656	寛永通寶	上層	24.5	24.4	19.6	19.6	6.8	6.8	5.3	5.3	1.4	1.0	4.9	
657	寛永通寶	上層	24.5	24.6	19.8	19.8	6.9	6.8	5.6	5.6	1.3	0.5	3.6	
658	寛永通寶	上層	24.6	24.6	19.6	19.6	7.2	7.2	5.6	5.7	1.2	0.6	3.8	
659	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.3	19.4	7.0	7.4	5.8	5.7	1.5	1.0	4.7	
660	寛永通寶	上層	24.9	24.8	19.6	19.6	6.9	6.9	5.5	5.3	1.2	0.6	4.0	
661	寛永通寶	上層	24.2	24.3	19.9	19.9	6.8	6.8	5.4	5.4	1.2	0.6	3.1	
662	寛永通寶	上層	24.6	24.5	20.3	20.2	6.9	6.7	5.2	5.1	1.4	0.8	4.0	
663	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.0	19.9	6.7	6.7	5.3	5.3	1.3	0.7	3.7	
664	寛永通寶	上層	24.3	24.3	19.5	19.5	6.6	6.6	5.7	5.7	1.3	0.7	3.6	
665	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.7	19.7	6.9	6.9	5.5	5.5	1.3	0.8	3.9	
666	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.0	19.9	6.9	6.8	5.3	5.3	1.2	0.6	3.3	
667	寛永通寶	上層	24.4	24.6	20.2	20.1	6.9	6.7	6.0	5.6	1.2	0.5	2.7	
668	寛永通寶	上層	24.9	24.9	19.0	19.0	6.7	6.5	5.4	5.4	1.2	0.7	4.0	
669	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.0	20.0	6.7	6.7	5.4	5.4	1.3	0.8	3.7	
670	寛永通寶	上層	24.7	24.6	20.3	20.2	6.8	6.8	5.4	5.4	1.0	0.4	3.0	
671	寛永通寶	上層	24.6	24.6	20.0	19.9	6.8	6.8	5.3	5.0	1.4	0.9	4.4	
672	寛永通寶	上層	24.7	24.6	19.9	19.8	6.9	6.8	5.7	5.7	1.3	0.6	3.6	
673	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.1	20.0	6.8	6.8	5.3	5.4	1.2	0.6	3.2	
674	寛永通寶	上層	24.4	24.3	19.8	19.5	6.8	6.5	5.5	5.2	1.4	0.8	3.6	
675	寛永通寶	上層	24.4	24.3	20.0	19.9	7.0	7.0	5.6	5.6	1.3	0.8	4.0	
676	寛永通寶	上層	24.2	24.1	19.7	19.7	6.8	6.7	5.2	5.1	1.3	0.7	3.9	
677	寛永通寶	上層	24.5	24.5	19.8	19.8	7.0	7.1	5.3	5.4	1.2	0.6	3.7	「永」「寶」二重
678	寛永通寶	上層	24.7	24.7	20.0	19.9	6.8	6.6	5.6	5.4	1.3	0.7	3.6	
679	寛永通寶	中層	24.3	24.2	19.1	19.4	7.1	7.1	5.8	5.8	1.1	0.6	3.3	
680	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.1	20.0	6.9	6.7	5.9	5.7	1.2	0.7	3.6	
681	寛永通寶	中層	24.8	24.8	20.4	20.4	6.8	6.7	5.3	5.2	1.3	0.7	3.9	
682	寛永通寶	中層	24.4	24.5	19.4	19.4	6.5	6.5	5.1	5.1	1.4	0.7	4.0	
683	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.9	19.7	6.7	6.6	5.2	5.2	1.4	0.8	4.3	
684	寛永通寶	中層	23.8	23.8	19.3	19.3	7.1	7.1	5.4	5.4	1.2	0.7	3.0	
685	寛永通寶	中層	24.8	24.6	19.5	19.4	6.7	6.6	5.1	4.9	1.4	0.7	4.0	
686	寛永通寶	中層	24.2	24.2	19.7	19.7	6.9	7.0	5.5	5.6	1.3	0.8	3.8	
687	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.6	19.6	6.8	6.9	5.6	5.7	1.2	0.7	3.6	
688	寛永通寶	中層	24.0	24.0	19.7	19.7	6.9	6.9	5.3	5.3	1.4	0.9	4.1	
689	寛永通寶	中層	24.3	24.2	19.6	19.6	7.2	7.2	5.7	5.7	1.2	0.7	3.7	
690	寛永通寶	中層	24.5	24.4	19.5	19.5	7.1	7.0	5.7	5.6	1.3	0.9	4.2	
691	寛永通寶	中層	24.7	24.7	19.3	19.2	7.1	7.1	5.7	5.6	1.3	0.5	3.6	
692	寛永通寶	中層	24.9	24.8	20.2	20.1	6.8	6.7	5.5	5.4	1.4	0.8	4.0	
693	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.9	19.8	7.0	7.0	5.6	5.4	1.2	0.7	3.7	
694	寛永通寶	中層	24.6	24.5	19.9	19.8	6.8	6.7	5.5	5.4	1.5	0.9	4.6	
695	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.9	19.9	6.9	6.8	5.4	5.4	1.4	0.7	3.9	
696	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.9	19.8	6.8	6.6	5.7	5.5	1.3	0.6	3.6	
697	寛永通寶	中層	24.6	24.5	20.2	20.1	6.8	6.7	5.6	5.5	1.3	0.6	3.6	
698	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.8	19.8	7.0	7.0	5.2	5.2	1.3	0.7	4.1	
699	寛永通寶	中層	24.8	24.8	20.0	19.9	6.9	6.8	5.3	5.3	1.2	0.6	3.5	
700	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.0	19.9	6.8	6.9	5.5	5.7	1.3	0.7	3.7	
701	寛永通寶	中層	24.8	24.8	20.2	20.1	6.9	6.8	5.4	5.3	1.4	0.8	4.0	
702	寛永通寶	中層	24.5	24.4	19.5	19.7	7.2	7.1	5.6	5.5	1.3	0.8	3.8	
703	寛永通寶	中層	24.2	24.1	19.6	19.5	6.9	6.8	5.5	5.4	1.2	0.6	3.1	
704	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.2	19.9	6.9	6.8	5.6	5.5	1.3	0.7	3.7	
705	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.7	19.7	6.9	6.9	5.3	5.2	1.1	0.7	3.4	
706	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.6	19.7	6.9	7.0	5.4	5.5	1.3	0.7	3.8	
707	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.8	19.8	6.7	6.8	5.4	5.4	1.2	0.6	3.6	
708	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.6	19.7	7.1	7.2	5.5	5.7	1.4	0.8	4.1	
709	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.5	19.5	6.9	6.7	5.9	5.7	1.2	0.6	3.6	
710	寛永通寶	中層	24.7	24.7	20.3	20.1	6.6	6.7	5.5	5.6	1.2	0.6	3.7	
711	寛永通寶	中層	24.7	24.7	19.8	19.6	7.2	7.2	5.3	5.3	1.5	1.1	4.8	「永」左払い跳ね

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量（g）	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
712	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.0	20.0	6.9	6.9	5.2	5.2	1.4	0.7	3.8	
713	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.9	20.0	6.9	7.1	5.3	5.5	1.4	0.8	4.1	
714	寛永通寶	中層	24.6	24.7	19.9	20.0	6.9	6.7	5.7	5.5	1.2	0.5	3.3	
715	寛永通寶	中層	24.2	24.2	20.0	19.7	5.9	5.9	5.7	5.6	1.2	0.7	3.4	
716	寛永通寶	中層	24.3	24.2	19.7	19.7	6.9	6.9	5.5	5.5	1.2	0.7	3.7	
717	寛永通寶	中層	24.7	24.7	20.0	20.0	6.6	6.6	5.3	5.3	1.2	0.6	3.5	
718	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.0	19.9	7.1	7.1	5.5	5.4	1.2	0.6	3.5	
719	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.7	19.7	7.0	7.0	5.6	5.6	1.4	1.0	4.1	
720	寛永通寶	中層	24.3	24.3	20.0	19.8	6.9	6.8	5.5	5.3	1.2	0.7	3.7	
721	寛永通寶	中層	24.1	24.1	19.8	19.7	6.8	6.8	5.1	5.1	1.2	0.7	3.3	
722	寛永通寶	中層	24.5	24.4	20.1	20.0	6.9	6.7	5.6	5.4	1.1	0.6	3.0	
723	寛永通寶	中層	24.7	24.8	19.6	19.7	7.0	7.0	5.6	5.6	1.2	0.7	3.3	
724	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.7	19.7	7.0	7.1	5.7	5.8	1.0	0.5	2.9	
725	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.2	19.3	7.2	7.2	5.5	5.5	1.2	1.0	4.1	鋳バリが円形に残存
726	寛永通寶	中層	24.5	24.6	19.8	19.8	6.8	6.8	5.3	5.3	1.2	0.7	3.8	
727	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.6	19.7	6.9	7.0	5.5	5.6	1.4	0.8	4.2	
728	寛永通寶	中層	24.8	24.8	20.0	20.0	6.9	6.9	5.6	5.6	1.4	0.8	4.1	
729	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.0	19.8	6.7	6.7	5.2	5.2	1.2	0.6	3.6	
730	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.3	19.6	7.0	7.1	5.5	5.6	1.2	0.6	3.4	
731	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.7	19.7	6.9	7.1	5.6	5.7	1.1	0.6	3.2	「永」跳ねなし
732	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.0	20.0	7.1	7.0	5.6	5.5	1.2	0.7	3.4	
733	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.8	19.8	7.1	7.1	6.0	6.0	1.2	0.6	3.2	
734	寛永通寶	中層	24.8	24.8	20.2	20.2	6.9	6.8	5.6	5.5	1.2	0.5	3.4	
735	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.6	19.6	7.0	7.1	5.5	5.6	1.2	0.6	3.6	
736	寛永通寶	中層	24.7	24.6	19.8	19.6	6.9	6.9	5.7	5.6	1.2	0.7	3.7	
737	寛永通寶	中層	24.4	24.3	19.6	19.7	6.8	6.8	5.5	5.4	1.3	0.8	3.9	
738	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.9	19.9	6.8	6.8	5.5	5.5	1.2	0.5	3.3	
739	寛永通寶	中層	24.6	24.5	20.0	19.9	6.8	6.6	5.7	5.5	1.5	0.8	4.2	
740	寛永通寶	中層	24.5	24.6	20.0	19.9	7.1	7.0	5.6	5.5	1.3	0.6	3.6	
741	寛永通寶	中層	24.7	24.6	20.2	20.1	6.6	6.6	5.5	5.5	1.4	0.7	3.8	
742	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.7	19.7	7.0	7.2	5.1	5.3	1.3	0.7	3.8	
743	寛永通寶	中層	24.9	24.8	19.6	19.5	6.7	6.7	5.6	5.5	1.3	0.7	3.8	
744	寛永通寶	中層	24.8	24.9	20.3	20.3	6.9	6.8	5.4	5.3	1.1	0.5	3.0	
745	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.4	19.2	6.8	6.8	5.7	5.7	1.2	0.5	3.5	
746	寛永通寶	中層	24.5	24.6	19.8	19.8	7.0	7.2	5.2	5.4	1.4	0.7	4.0	
747	寛永通寶	中層	24.4	24.5	19.8	19.9	7.0	7.0	5.5	5.5	1.4	0.8	4.1	
748	寛永通寶	中層	24.8	24.9	20.0	20.1	6.9	6.8	5.4	5.3	1.5	0.8	4.5	
749	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.8	19.8	7.2	7.2	5.7	5.7	1.0	0.5	3.1	
750	寛永通寶	中層	24.8	24.8	20.2	20.2	6.7	6.6	5.4	5.4	1.2	0.7	3.6	
751	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.7	19.7	6.7	6.7	5.2	5.2	1.2	0.6	3.5	
752	寛永通寶	中層	24.6	24.5	19.5	19.4	6.9	6.7	5.6	5.3	1.3	0.8	4.0	
753	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.0	20.0	6.9	7.4	5.5	6.0	1.2	0.6	3.6	
754	寛永通寶	中層	24.9	24.8	20.2	20.1	6.9	6.7	5.5	5.3	1.3	0.8	4.0	
755	寛永通寶	中層	24.4	24.3	19.4	19.4	7.3	7.3	5.3	5.3	1.2	0.7	3.6	
756	寛永通寶	中層	24.2	24.1	19.1	19.1	6.9	6.8	5.7	5.6	1.3	0.7	3.8	
757	寛永通寶	中層	24.2	24.2	19.7	19.7	6.9	7.0	5.3	5.5	1.3	0.6	3.6	
758	寛永通寶	中層	24.2	24.2	20.0	20.0	6.9	6.8	5.7	5.6	1.4	0.7	3.7	
759	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.7	19.7	6.8	6.9	5.3	5.4	1.3	0.7	3.9	
760	寛永通寶	中層	24.5	24.4	19.7	19.6	6.7	6.6	5.2	5.2	1.2	0.6	3.2	
761	寛永通寶	中層	24.4	24.2	19.9	19.7	6.9	7.0	5.8	5.5	1.3	0.8	4.1	
762	寛永通寶	中層	24.7	24.7	20.0	19.9	7.1	7.0	5.4	5.4	1.4	0.8	4.1	
763	寛永通寶	中層	24.6	24.5	20.2	20.1	7.0	6.9	5.6	5.5	1.3	0.8	3.7	
764	寛永通寶	中層	24.5	24.4	19.9	19.8	6.9	6.9	5.6	5.6	1.2	0.7	3.6	
765	寛永通寶	中層	24.3	24.5	19.7	19.8	7.0	7.3	5.2	5.8	1.3	0.7	3.7	
766	寛永通寶	中層	24.8	24.9	19.9	19.9	7.0	7.1	5.3	5.4	1.4	0.8	4.4	
767	寛永通寶	中層	24.7	24.6	20.0	19.9	6.8	6.7	5.5	5.4	1.3	0.7	3.7	
768	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.8	19.6	7.2	7.3	5.3	5.2	1.1	0.8	3.6	
769	寛永通寶	中層	23.9	24.2	19.1	19.4	6.8	7.0	5.1	5.3	1.3	0.7	3.6	
770	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.0	20.0	6.8	6.7	5.6	5.5	1.3	0.7	4.0	
771	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.8	19.8	6.9	7.1	5.6	5.5	1.2	0.8	3.9	
772	寛永通寶	中層	24.9	24.8	20.0	20.0	6.7	6.7	5.2	5.2	1.4	0.8	4.3	
773	寛永通寶	中層	24.1	24.1	19.1	19.1	6.7	6.9	5.2	5.3	1.0	0.5	2.9	
774	寛永通寶	中層	24.2	24.2	19.7	19.7	6.9	7.1	5.7	5.9	1.2	0.7	3.4	
775	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.9	19.8	6.9	6.8	5.7	5.7	1.3	0.8	3.9	
776	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.0	19.9	6.8	6.8	5.6	5.7	1.3	0.6	3.7	
777	寛永通寶	中層	24.7	24.8	21.0	20.0	6.8	6.9	5.7	5.8	1.4	0.8	4.2	
778	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.7	19.7	6.8	7.0	5.4	5.6	1.3	0.7	3.6	

単位：㎜

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量（g）	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
779	寛永通寶	中層	24.7	24.5	19.6	19.4	6.7	6.5	5.3	5.2	1.4	0.8	4.2	
780	寛永通寶	中層	24.7	24.7	20.1	20.1	6.9	6.9	5.4	5.4	1.2	0.6	3.2	
781	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.7	19.7	7.4	7.3	5.4	5.3	1.3	0.7	3.7	
782	寛永通寶	中層	24.7	24.6	19.8	19.7	6.7	6.9	5.5	5.7	1.2	0.6	3.2	
783	寛永通寶	中層	24.4	24.3	20.1	20.1	6.8	6.8	5.6	5.3	1.3	0.7	3.8	
784	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.6	19.6	6.8	7.0	5.4	5.4	1.4	0.8	4.0	
785	寛永通寶	中層	24.2	24.3	20.0	20.0	6.9	7.1	5.6	5.8	1.2	0.7	3.5	
786	寛永通寶	中層	24.8	24.7	20.1	20.0	6.8	6.7	5.4	5.3	1.3	0.7	3.6	
787	寛永通寶	中層	24.5	24.5	19.9	19.9	7.1	7.3	5.3	5.5	1.2	0.6	3.5	
788	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.3	19.3	7.0	7.0	5.4	5.4	1.1	0.6	3.3	
789	寛永通寶	中層	24.3	24.3	20.0	20.0	6.8	6.7	5.4	5.3	1.1	0.5	3.1	
790	寛永通寶	中層	24.7	24.7	19.9	19.8	6.8	6.8	5.4	5.4	1.2	0.6	3.5	
791	寛永通寶	中層	24.6	24.6	19.9	19.9	6.9	7.1	5.4	5.6	1.3	0.7	4.0	
792	寛永通寶	中層	24.0	24.1	19.1	19.2	6.9	7.1	5.4	5.4	1.0	0.3	2.5	裏面に間隔の不揃いな平行線
793	寛永通寶	中層	24.7	24.7	20.0	19.9	6.9	6.8	5.4	5.3	1.0	0.6	3.3	
794	寛永通寶	中層	24.3	24.4	19.9	19.9	6.7	6.7	5.4	5.2	1.3	0.7	3.8	
795	寛永通寶	中層	24.3	24.3	19.8	19.7	7.1	7.1	6.0	6.0	1.2	0.7	3.4	
796	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.8	19.8	6.7	6.6	5.4	5.3	1.3	0.7	3.5	
797	寛永通寶	中層	24.7	24.8	19.6	19.7	7.0	7.0	5.5	5.6	1.3	0.6	3.6	
798	寛永通寶	中層	24.6	24.6	20.0	19.9	5.9	5.8	5.4	5.3	1.2	0.8	3.7	
799	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.5	19.4	6.6	6.6	5.5	5.5	1.4	0.7	3.9	
800	寛永通寶	中層	24.7	24.6	19.9	19.8	6.6	6.6	5.3	5.3	1.2	0.6	3.6	
801	寛永通寶	中層	24.2	24.2	19.6	19.6	6.7	6.6	5.3	5.2	1.3	0.7	3.3	
802	寛永通寶	中層	24.6	24.5	19.9	19.9	6.9	6.8	5.5	5.5	1.2	0.6	3.5	
803	寛永通寶	中層	24.6	24.8	19.8	19.8	6.7	6.7	5.1	5.1	1.4	0.8	4.2	
804	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.2	19.1	5.5	5.6	5.7	5.8	1.3	0.7	4.1	
805	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.4	19.4	6.6	6.6	5.0	4.9	1.4	0.7	3.9	
806	寛永通寶	中層	24.5	24.6	20.0	20.0	6.8	6.7	5.5	5.4	1.1	0.6	3.2	
807	寛永通寶	底面	24.6	24.5	20.3	20.2	6.8	6.7	5.5	5.2	1.6	1.0	4.8	
808	寛永通寶	底面	24.7	24.8	19.4	19.5	7.0	7.1	5.4	5.6	1.2	0.7	3.5	
809	寛永通寶	底面	24.8	24.9	20.1	19.9	6.8	6.7	5.5	5.3	1.2	0.7	3.4	
810	寛永通寶	底面	24.4	24.2	19.9	19.8	7.2	7.0	5.5	5.3	1.3	0.8	3.8	
811	寛永通寶	底面	24.4	24.4	20.0	19.9	7.0	6.9	5.8	5.7	1.3	0.7	3.5	
812	寛永通寶	底面	24.7	24.7	20.6	20.6	6.9	6.8	5.4	5.4	1.3	0.7	3.7	
813	寛永通寶	底面	24.5	24.6	19.1	19.5	7.1	7.1	5.6	5.7	1.3	0.8	4.1	縁に毛髪
814	寛永通寶	底面	24.7	24.7	20.0	20.0	7.0	7.0	6.1	5.7	1.1	0.3	2.8	縁に毛髪
815	寛永通寶	底面	24.3	24.4	19.2	19.3	7.1	7.1	5.8	6.2	1.1	0.6	3.3	縁に毛髪
816	寛永通寶	底面	24.4	24.3	19.5	19.5	6.9	7.3	5.6	5.5	1.3	0.6	3.6	縁に毛髪
817	寛永通寶	底面	24.4	24.6	19.9	19.8	6.7	7.0	5.3	5.3	1.1	0.5	3.4	縁に毛髪
818	寛永通寶	底面	24.5	24.5	19.6	19.4	7.4	7.4	5.5	5.7	1.1	0.6	2.9	縁に毛髪
819	寛永通寶	底面	24.7	24.7	19.5	19.3	6.9	6.7	5.3	5.2	1.2	0.6	3.5	
820	寛永通寶	底面	24.4	24.5	19.6	19.5	6.8	6.6	5.8	5.7	1.7	1.0	5.2	
821	寛永通寶	底面	24.6	24.5	19.8	19.7	6.8	6.9	5.4	5.2	1.5	0.8	4.4	
822	寛永通寶	底面	24.2	24.1	19.6	19.6	6.8	7.0	5.6	5.8	1.2	0.6	3.5	
823	寛永通寶	底面	24.4	24.5	19.4	19.4	6.9	7.2	5.1	5.3	1.5	1.0	4.6	
824	寛永通寶	底面	24.3	24.3	19.7	19.5	7.0	7.0	5.6	5.6	1.3	0.6	3.4	
825	寛永通寶	上層	24.3	24.4	19.9	19.9	7.0	6.9	5.7	5.5	1.2	0.6	3.1	
826	寛永通寶	中層	24.5	24.5	20.0	20.0	6.9	6.9	5.2	5.2	1.6	0.9	5.1	
827	寛永通寶	下層	24.5	24.4	20.1	20.0	6.9	6.7	5.7	5.5	1.1	0.6	2.9	
828	寛永通寶	上層	24.4	24.4	20.0	19.7	6.9	6.9	5.1	5.3	1.3	0.7	3.7	
829	寛永通寶	上層	24.7	24.7	20.4	20.3	6.9	6.8	5.0	4.9	1.7	1.2	5.7	
830	寛永通寶	上層	24.5	24.4	20.0	19.9	7.0	6.9	5.5	5.4	1.3	0.7	3.6	
831	寛永通寶	中層	24.8	24.7	20.1	20.0	6.8	6.7	5.6	5.3	1.5	0.8	4.0	
832	寛永通寶	中層	24.5	24.4	19.8	19.7	6.9	6.9	5.8	5.7	1.0	0.5	3.1	
833	寛永通寶	中層	24.4	24.3	20.1	19.9	7.5	7.4	5.5	5.5	1.3	0.8	4.0	
834	寛永通寶	中層	24.7	24.7	19.8	19.6	7.0	7.0	5.2	5.2	1.2	0.7	3.8	
835	寛永通寶	中層	24.4	24.4	19.5	19.7	7.1	7.1	5.5	5.5	1.1	0.6	3.3	
836	寛永通寶	中層	24.3	24.3	20.0	19.8	7.0	7.0	5.7	5.7	1.2	0.6	3.4	
837	寛永通寶	中層	24.3	24.4	19.8	19.7	7.0	7.2	5.6	5.6	1.1	0.4	2.8	
838	寛永通寶	整地層上	24.5	24.5	20.2	19.9	7.0	6.9	6.0	5.7	1.1	0.3	2.4	
839	寛永通寶	整地層上	24.4	24.4	19.6	19.6	7.0	7.1	5.5	5.5	1.2	0.7	4.0	
840	寛永通寶	整地層上	24.3	24.3	19.4	19.6	7.3	7.3	5.4	5.3	1.2	0.6	3.7	
841	寛永通寶	整地層上	24.6	24.6	19.5	19.8	6.9	6.8	5.5	5.5	1.3	0.7	4.2	
842	寛永通寶	整地層上	24.4	24.5	20.1	20.1	6.9	6.9	5.4	5.5	1.2	0.4	3.5	
843	寛永通寶	整地層上	24.4	24.7	19.8	19.7	7.2	7.2	5.7	5.7	1.1	0.6	3.4	

２．溝・道路状遺構

SD011（第143図）

位置：H区10M−72グリッドを中心とする台地の平坦面から東向きの緩斜面に位置する。**重複：**南東側でSK059を切る。西端は調査区外へ伸び、南東端は立ち上がる。**規模：**全長（5.25）m、幅0.95 ～ 1.38 m、確認面からの深度0.20 ～ 0.57 m。**形態：**南東－西方向に伸び、緩やかに湾曲する。底面は平坦で壁面は確認面付近で大きく外側に広がる。

時期：重複から中・近世と考えられる。

所見：西端が調査区外へ伸びているため詳細は不明である。水性堆積は認められない。

遺物：土師器517.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

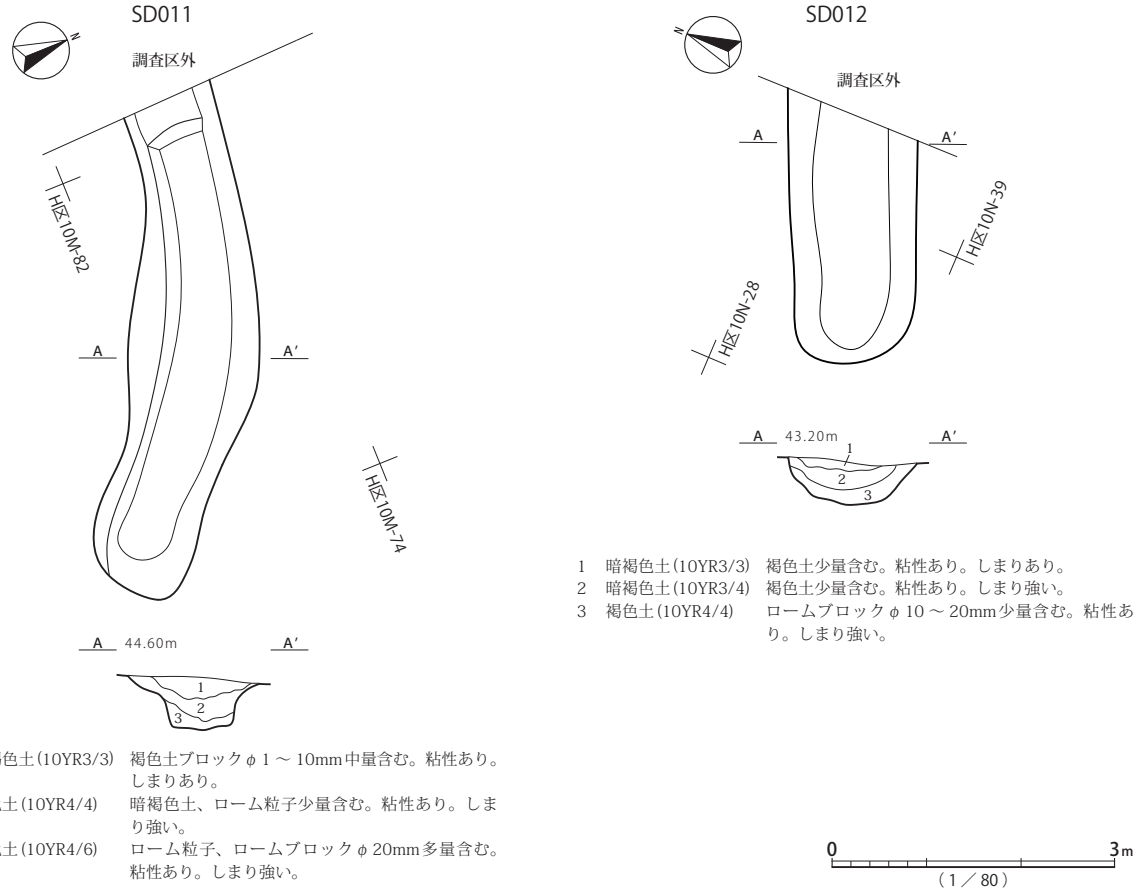
SD012（第143図、図版17）

位置：H区10O−28グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東端は調査区外へ伸び、南西端は立ち上がる。**規模：**全長（2.65）m、幅1.25 ～ 1.35 m、確認面からの深度0.40 ～ 0.48 m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は平坦で壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：大半が調査区外に伸びているため詳細は不明である。水性堆積は認められない。

遺物：土師器49.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土ブロックφ１～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　暗褐色土、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子、ロームブロックφ20mm多量含む。粘性あり。しまり強い。

1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土少量含む。粘性あり。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10 ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。

第143図　SD011・SD012

SD013（第144図、図版17）

位置：H区11Ｎ−73グリッドを中心とする台地の南東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北端は調査区外へ伸び、南端は削平のため本来の長さは不明である。**規模：**全長（2.08）m、幅0.60 ～ 0.64 m、確認面からの深度0.02 ～ 0.37 m。**形態：**南北方向に直線的に伸びる。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。

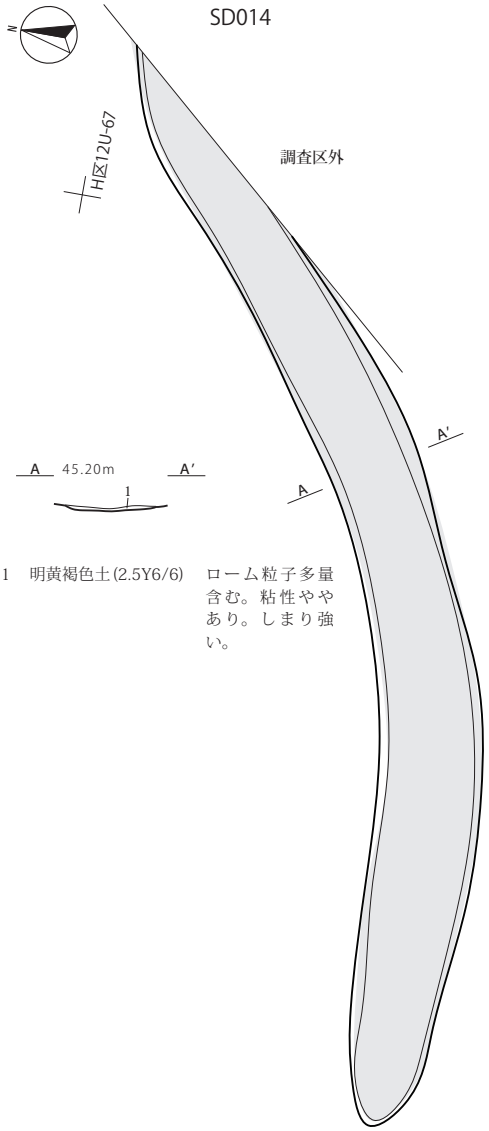
SD014（第144図、図版17）

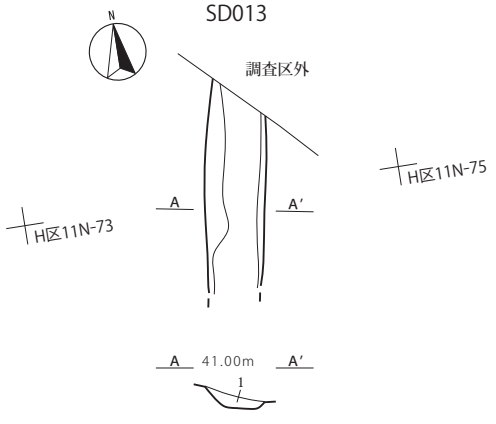
位置：H区12Ｖ−83グリッドを中心とする舌状に張り出した尾根の東向き緩斜面に位置する。**重複：**西側をSD015に切られ、東端は調査区外へ伸びる。連続しておらず中央はSD016と重複せずに立ち上がる。**規模：**全長（17.30）m、幅0.45 ～ 1.13 m。**形態：**東西方向に伸びる硬化面で、東側に緩やかに傾斜する。

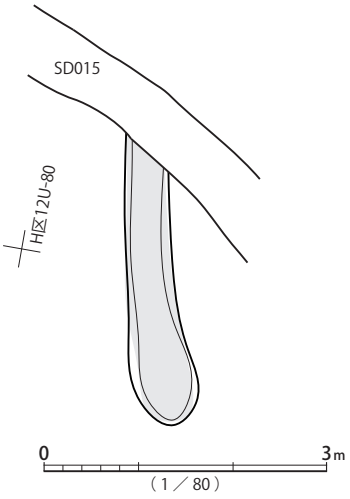
時期：重複から中・近世と考えられる。

所見：硬化面を持つ道路状遺構である。

遺物：出土していない。







第144図　SD013・SD014

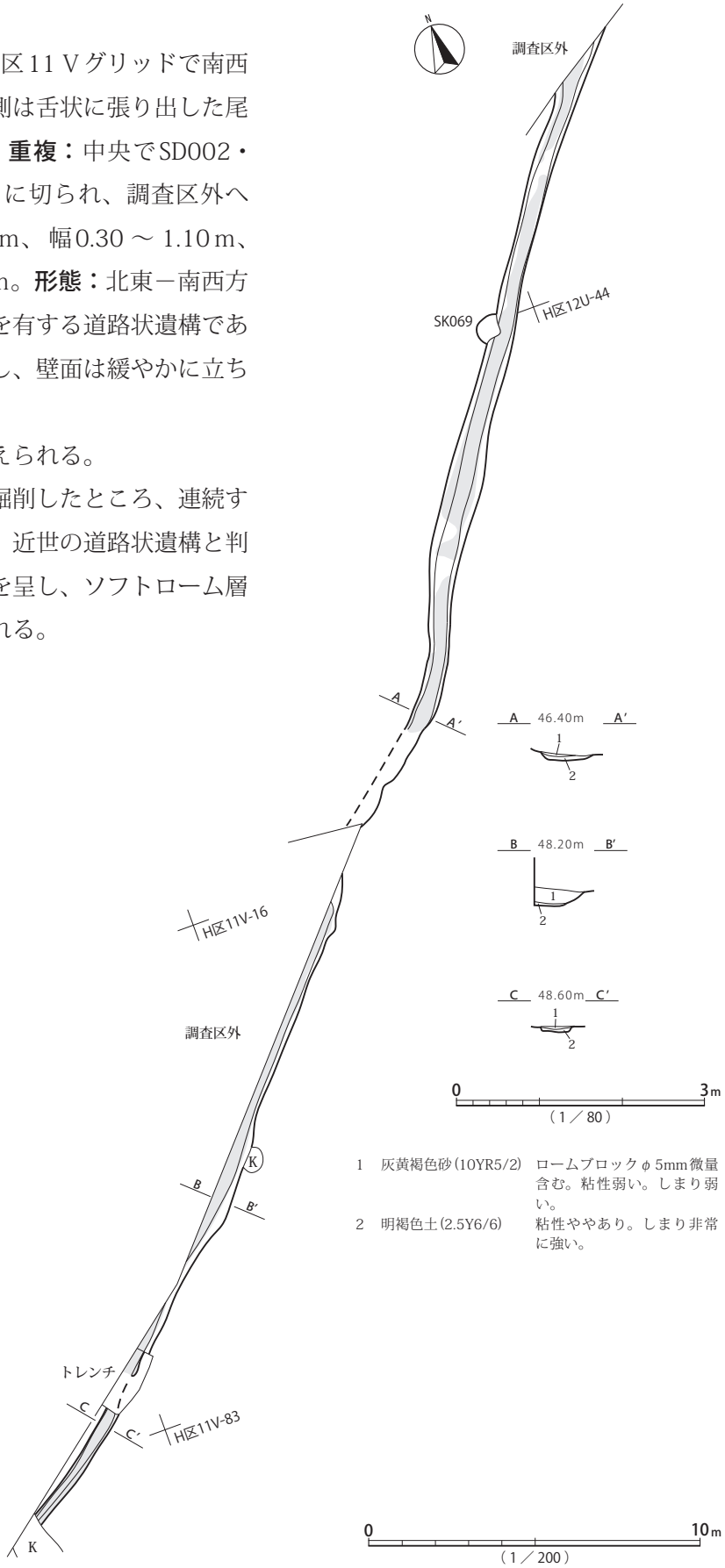
SD015（第145図、図版17）

位置：H区12Ｕグリッド～H区11Ｖグリッドで南西側は台地の東向き緩斜面、北東側は舌状に張り出した尾根の北向き急斜面に位置する。**重複：**中央でSD002・SD014を切る。北東側はSK069に切られ、調査区外へ伸びる。**規模：**全長（48.30）m、幅0.30 ～ 1.10m、確認面からの深度0.08 ～ 0.23m。**形態：**北東－南西方向にほぼ直線的に伸びる硬化面を有する道路状遺構である。硬化面と底面は北東に傾斜し、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：Ⅰ層に類似する覆土を掘削したところ、連続する硬化面が検出されたことから、近世の道路状遺構と判断した。硬化した層は明黄褐色を呈し、ソフトローム層が踏み固められたものと考えられる。

遺物：出土していない。



第145図　SD015

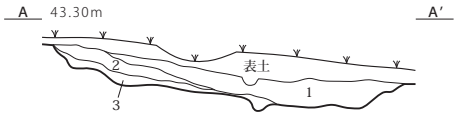
SD016（第146図、図版13）

位置：H区12Ｔグリッド～H区12Ｕグリッドで舌状に張り出した尾根の北向き急斜面に位置する。**重複：**南西側でSD004を切る。北東端は調査区外へ伸び、南西端は調査区内で立ち上がると思われるが、確認調査時のトレンチによって詳細は不明である。**規模：**全長（26.50）m、幅0.90～2.90m、確認面からの深度0.07～0.27m。**形態：**北東－南西方向にほぼ直線的に伸びる。底面は北東に傾斜し、壁面は緩やかに立ち上がる。

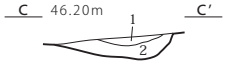
時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

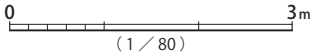
所見：台地の北向き急斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器161.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

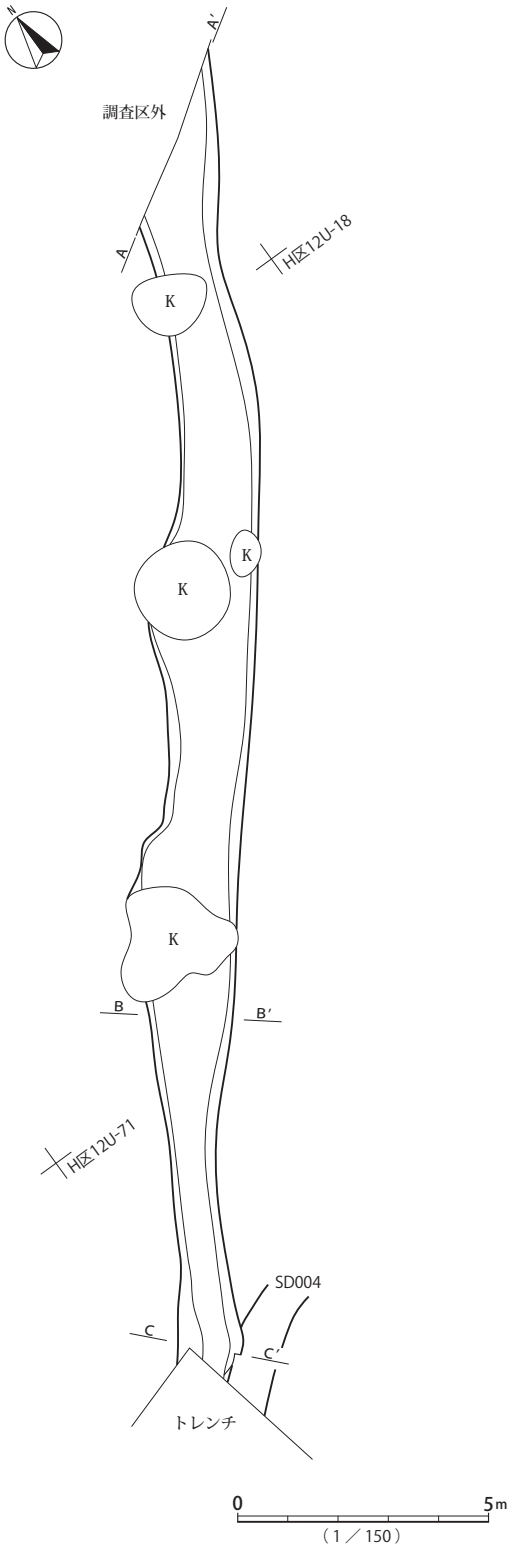








1	暗灰黄色砂(2.5Y4/2)	ロームブロックφ10mm、固結火山灰土塊微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
3	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。



第146図　SD016

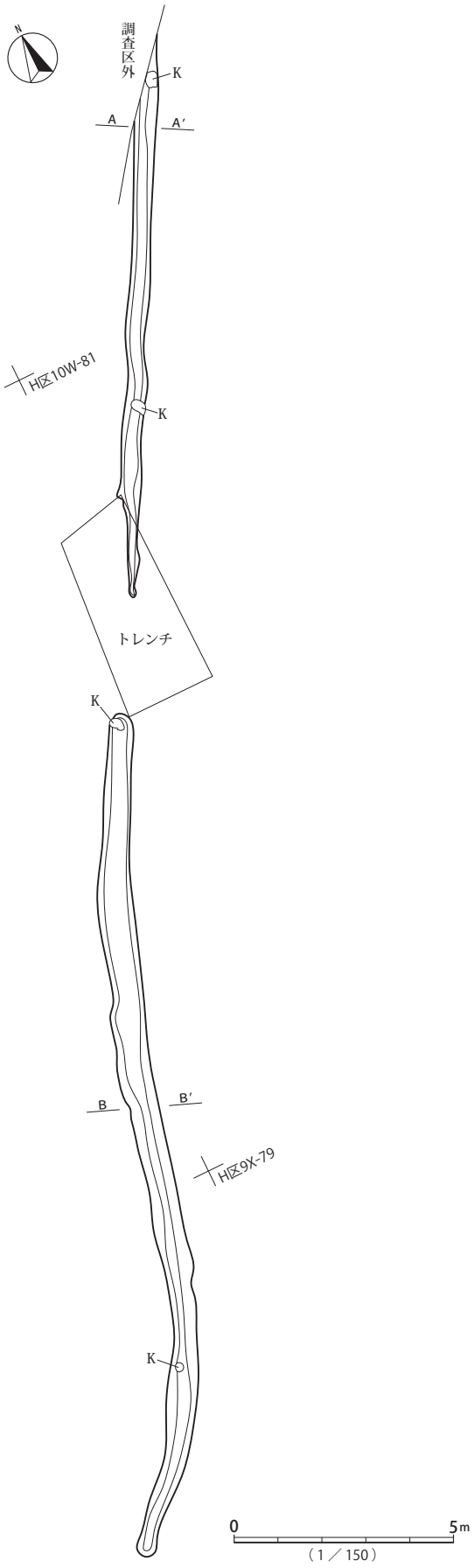
SD017（第147図）

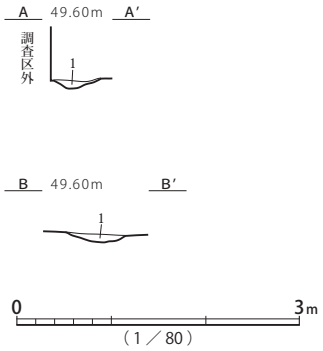
位置：H区10Wグリッド～H区９Yグリッドで台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**中央やや南寄りでSD004・SD005を切る。北東端は調査区外へ伸びるが、南西端は調査区内で緩やかに立ち上がる。**規模：**全長（34.70）m、幅0.35～0.82m、確認面からの深度0.02～0.12m。**形態：**北東－南西方向にほぼ直線的に伸びる。底面は南西に傾斜し、壁面は皿状で緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：台地の東向き緩斜面を南西方向に下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。





1　灰黄褐色土(10YR5/2)　橙色スコリア微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

第147図　SD017

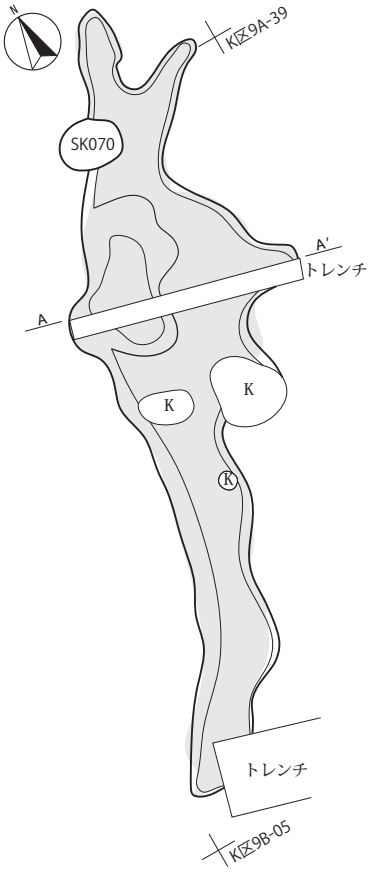
SD018（第148図）

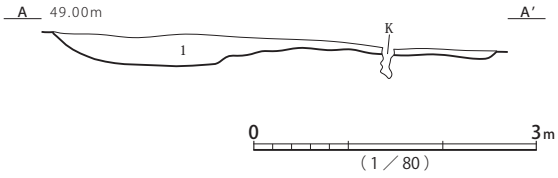
位置：Ｋ区９Ａグリッド・Ｋ区９Ｂグリッドで台地の南東向き緩斜面に位置する。**重複：**北側でSK070に切られる。**規模：**全長（27.75）m、幅0.50 ～ 4.70 m。**形態：**北－南西方向に伸びる硬化面で北に緩やかに傾斜する。

時期：遺物が少なく断定できないが、重複および覆土から中・近世と考えられる。

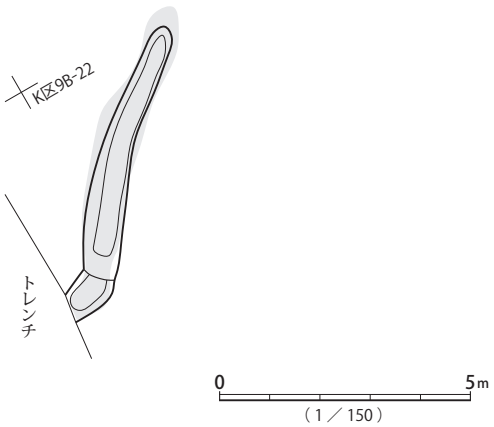
所見：硬化面を持つ道路状遺構である。

遺物：土器10.0gが出土したが、小破片のため図示していない。





1　暗灰黄色砂(2.5Y4/2)　炭化物少量、橙色スコリア微量含む。粘性弱い。しまり強い。



第148図　SD018

３．土　坑

SK057（第149図）

位置：H区10M-26グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.26ｍ、短軸1.25ｍ、確認面からの深度0.61ｍ。**長軸方位：**N-70°-W。**形態：**隅丸方形、底面はほぼ平坦で、西側に傾斜する。壁面はやや緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器75.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK058（第149図）

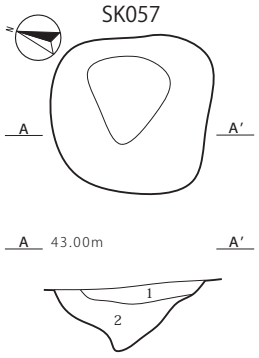
位置：H区10M-27グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.24ｍ、短軸1.13ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**長軸方位：**N-86°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦で、北側に傾斜する。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から中・近世と考えられる。

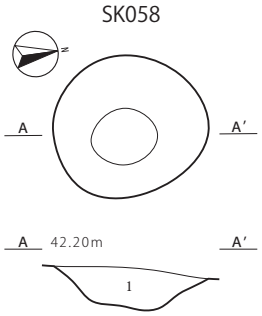
遺物：土器214.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK059（第149図）

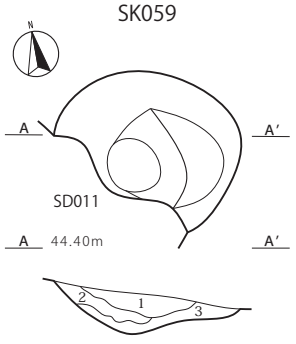
位置：H区10M-74グリッドを中心に位置する。**重複：**SD011に切られる。**規模：**長軸1.49ｍ、短軸1.13ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**長軸方位：**N-15°-W。**形態：**楕円形、底面は湾曲し、東側に平坦な段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。



1　暗褐色土(10YR3/3)　固結火山灰土塊、ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10mm中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性ややあり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　固結火山灰土塊中量、ローム粒少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子多量、黒褐色土粒子を少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第149図　SK057～SK059

時期：覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

SK060（第150図）
位置：Ｈ区１０-61グリッドを中心に位置する。**重複：**SM003を切る。**規模：**長軸2.12ｍ、短軸1.76ｍ、確認面からの深度0.82ｍ。**長軸方位：**Ｎ-65°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。
時期：覆土から中・近世と考えられる。
所見：SM003墳丘の上面で検出された。盗掘坑と考えられる。
遺物：土師器20.0gが出土したが、混入と思われる。

SK061（第150図）
位置：Ｈ区８Ｑ-84グリッドを中心に位置する。**重複：**SD002を切る。**規模：**長軸1.39ｍ、短軸1.33ｍ、確認面からの深度0.36ｍ。**長軸方位：**Ｎ-45°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にきつく立ち上がる。
時期：覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

SK062（第150図）
位置：Ｈ区８Ｔ-87グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸（1.00）ｍ、短軸1.00ｍ、確認面からの深度0.31ｍ。**長軸方位：**Ｎ-６°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、東側に傾斜する。壁面はややきつく立ち上がる。
時期：覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

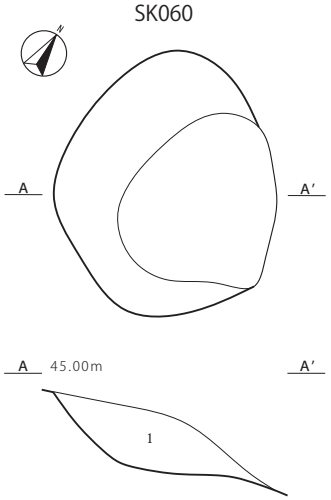
SK063（第150図）
位置：Ｈ区10Ｕ-69グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.70ｍ、短軸0.65ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ-31°-Ｗ。**形態：**隅丸方形、底面は平坦で、壁面は皿状に緩やかに立ち上がる。
時期：覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

SK064（第150図、図版17）
位置：Ｈ区11Ｕ-71グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は撹乱される。**規模：**長軸1.09ｍ、短軸0.94ｍ、確認面からの深度1.21ｍ。**長軸方位：**Ｎ-47°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はピット状に窪み、壁面はＶ字状にきつく立ち上がる。
時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：形状や覆土から柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

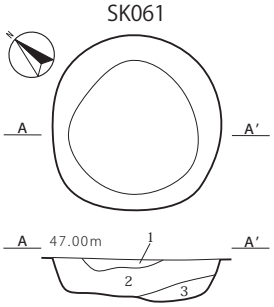
遺物：出土していない。

SK060



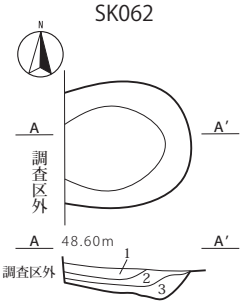
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK061



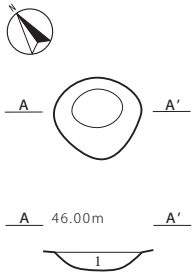
1　黒褐色土(10YR3/1)　固結火山灰土塊少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ１～10mm多量含む。粘性ややあり。しまりあり。

SK062



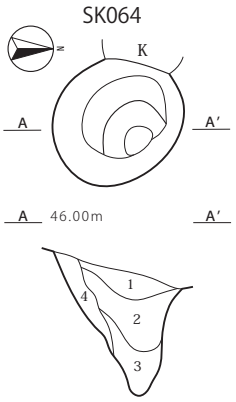
1　暗赤灰色土(10R3/1)　粘性ややあり。しまりよわい。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりややあり。
3　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性ややあり。しまりあり。

SK063



1　黒褐色土(10YR3/1)　固結火山灰土塊微量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

SK064



1　黒褐色土(10YR3/1)　固結火山灰土塊微量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性ややあり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
4　黄褐色土(2.5Y5/3)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第150図　SK060～SK064

SK065（第151図）

位置：H区11U-82グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.89m、短軸0.74m、確認面からの深度0.38m。**長軸方位：**N-40°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は浅い逆台形状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK066（第151図）

位置：H区11U-82グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.64m、短軸0.54m、確認面からの深度0.32m。**長軸方位：**N-12°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状にきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK067（第151図）

位置：H区11U-86グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.81m、短軸0.69m、確認面からの深度0.44m。**長軸方位：**N-17°-W。**形態：**楕円形、底面は北側がピット状に窪む。南側に段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK068（第151図）

位置：H区11U-88グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.88m、短軸0.85m、確認面からの深度0.46m。**長軸方位：**N-62°-W。**形態：**不整円形、底面はほぼ平坦で、壁面は南側に段があり、きつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：形状や覆土から柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：出土していない。

SK069（第151図）

位置：H区12U-43グリッドを中心に位置する。**重複：**SD015を切る。**規模：**長軸0.95m、短軸0.86m、確認面からの深度0.33m。**長軸方位：**N-42°-E。**形態：**不整円形、底面はほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる。

時期：重複から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

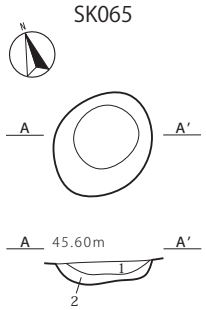
SK070（第151図）

位置：Ｋ区９Ａ−37グリッドに位置する。**重複：**SD007・SD018を切る。**規模：**長軸1.32ｍ、短軸1.00ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ−22°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で、壁面は逆台形状で緩やかに立ち上がる。

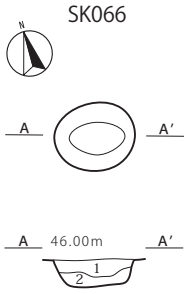
時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

所見：SD018硬化面の検出時に確認された。

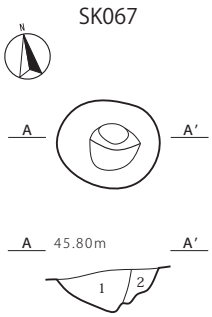
遺物：出土していない。



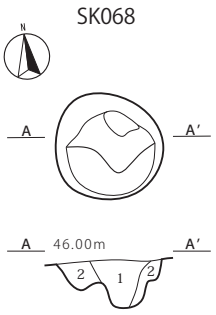
1　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。



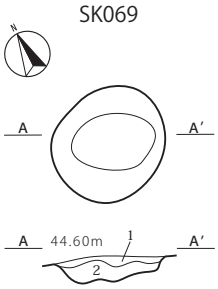
1　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　ロームブロックφ１～５mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。



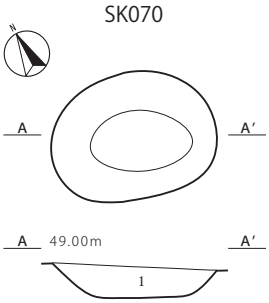
1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ10～20mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。



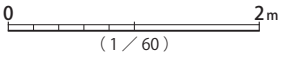
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ５～30mm少量含む。粘性弱い。しまりややあり。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ10～30mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5mm微量含む。粘性ややあり。しまり弱い。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ロームブロックφ１～10mm少量含む。粘性ややあり。しまりややあり。



1　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。



第151図　SK065 ～ SK070

第５節　時期不明の遺構

本調査区からは175基のピットが検出されている。そのほとんどにおいて時期の特定ができず、掘立柱建物や柱穴列などの復元が不可能であったため、第59表に計測値をまとめて報告する。

第59表　ピット計測表

遺構番号	長軸	短軸	深さ
SH001	欠番	－	－
SH002	0.78	0.62	0.44
SH003	0.42	0.40	0.28
SH004	0.41	0.37	0.23
SH005	0.52	0.44	0.52
SH006	0.69	0.59	0.34
SH007	0.42	0.42	0.18
SH008	0.46	0.46	0.26
SH009	0.49	0.47	0.35
SH010	0.56	0.52	0.35
SH011	0.45	0.36	0.57
SH012	0.49	0.49	0.33
SH013	0.53	0.49	0.40
SH014	0.31	0.30	0.16
SH015	0.45	0.44	0.24
SH016	0.42	0.38	0.19
SH017	0.52	0.48	0.28
SH018	0.46	0.45	0.20
SH019	0.40	0.39	0.13
SH020	0.40	0.37	0.14
SH021	0.28	0.26	0.14
SH022	0.44	0.38	0.53
SH023	0.38	0.37	0.20
SH024	0.43	0.36	0.17
SH025	0.55	0.46	0.19
SH026	0.59	0.47	0.09
SH027	0.50	0.48	0.23
SH028	0.48	0.35	0.14
SH029	0.50	0.45	0.13
SH030	0.54	0.53	0.22
SH031	0.53	0.49	0.16
SH032	0.40	0.32	0.04
SH033	0.43	0.40	0.11
SH034	0.40	0.33	0.49
SH035	0.44	0.44	0.20
SH036	0.49	0.36	0.39
SH037	0.35	0.32	0.19
SH038	0.48	0.47	0.20
SH039	0.32	0.23	0.31
SH040	0.47	0.41	0.19
SH041	0.52	0.45	0.21
SH042	0.45	0.39	0.18
SH043	0.49	0.38	0.18
SH044	0.40	0.39	0.26
SH045	0.64	0.63	0.25
SH046	0.37	0.36	0.16
SH047	0.31	0.26	0.33
SH048	0.49	0.48	0.21
SH049	(0.63)	0.61	0.21
SH050	欠番	－	－
SH051	(1.19)	(0.75)	0.61
SH052	欠番	－	－
SH053	0.80	0.58	0.24
SH054	0.57	0.51	0.24
SH055	欠番	－	－
SH056	0.42	0.40	0.16
SH057	(0.50)	(0.46)	0.21
SH058	(0.39)	(0.32)	0.44
SH059	(0.78)	(0.63)	0.64
SH060	0.37	0.36	0.24
SH061	0.44	0.41	0.26
SH062	0.62	0.53	0.19
SH063	1.27	1.14	0.35
SH064	1.32	1.19	0.60
SH065	1.33	1.16	0.61
SH066	1.19	1.04	0.58
SH067	1.06	0.86	0.41
SH068	1.38	0.64	0.28
SH069	(1.53)	1.11	0.47
SH070	1.14	1.10	0.36
SH071	2.04	1.57	0.48
SH072	0.55	0.53	0.64
SH073	0.42	0.41	0.18
SH074	0.97	0.57	0.25
SH075	1.58	0.63	0.20
SH076	1.03	(0.68)	0.20
SH077	(0.73)	(0.64)	0.30
SH078	0.45	0.38	0.51
SH079	(0.46)	0.32	0.42
SH080	(0.55)	0.40	0.46
SH081	0.54	0.38	0.20
SH082	0.53	0.50	0.63
SH083	0.99	0.85	0.21
SH084	0.83	0.79	0.37
SH085	0.57	0.40	0.55
SH086	0.64	0.55	0.33
SH087	0.62	0.58	0.14
SH088	0.96	0.84	0.22
SH089	0.56	0.53	0.33
SH090	0.98	0.97	0.40
SH091	0.64	0.59	0.29
SH092	0.42	0.32	0.20
SH093	0.78	0.53	0.30
SH094	0.60	0.43	1.04
SH095	0.50	0.49	0.42
SH096	0.67	0.62	0.59
SH097	0.64	0.51	0.33
SH098	0.53	0.52	0.30
SH099	0.59	0.55	0.43
SH100	0.96	0.76	0.29
SH101	0.91	0.60	0.33
SH102	0.65	0.55	0.24
SH103	1.24	0.90	0.24
SH104	0.49	0.45	0.38
SH105	0.89	0.76	0.32
SH106	0.83	0.60	0.30
SH107	0.49	0.47	0.41
SH108	0.51	0.49	0.16
SH109	0.68	0.67	0.21
SH110	0.47	0.45	0.23
SH111	1.43	1.07	0.29
SH112	0.31	0.31	0.16
SH113	0.46	0.33	0.81
SH114	0.29	0.23	0.23
SH115	0.67	0.62	0.29
SH116	0.63	0.50	0.37
SH117	0.53	0.50	0.30
SH118	1.08	0.76	0.33
SH119	0.69	0.65	0.27
SH120	0.66	0.50	0.40
SH121	0.56	0.56	0.30
SH122	0.57	0.50	0.23
SH123	0.53	0.44	0.42
SH124	0.41	0.32	0.59
SH125	0.50	0.36	0.15
SH126	0.67	0.66	0.36
SH127	0.51	0.50	0.31
SH128	0.70	0.63	0.24
SH129	0.80	0.36	0.24
SH130	0.35	0.32	0.42
SH131	0.31	0.29	0.27
SH132	0.47	0.44	0.57
SH133	0.40	0.32	0.40
SH134	0.77	0.57	0.22
SH135	0.57	0.46	0.18
SH136	0.54	0.47	0.55
SH137	1.00	0.83	0.21
SH138	0.63	0.51	0.27
SH139	0.32	0.31	0.42
SH140	0.37	0.37	0.33
SH141	1.00	0.63	0.32
SH142	0.44	0.38	0.35
SH143	0.60	0.53	0.29
SH144	1.18	1.04	0.48
SH145	0.78	0.64	0.29
SH146	0.55	0.54	0.35
SH147	0.46	0.40	0.35
SH148	0.68	0.68	0.18
SH149	0.69	0.66	0.31
SH150	0.34	0.32	0.39
SH151	0.61	0.45	0.22
SH152	0.50	0.48	0.21
SH153	0.64	0.62	0.39
SH154	0.43	0.41	0.73
SH155	0.63	0.53	0.39
SH156	0.59	0.56	0.29
SH157	0.71	0.59	0.32
SH158	0.36	0.31	0.27
SH159	0.45	0.40	0.33
SH160	0.49	0.48	0.36
SH161	1.06	0.74	0.4
SH162	0.42	0.40	0.23
SH163	0.42	0.41	0.25
SH164	1.30	0.89	0.49
SH165	1.11	0.63	0.38
SH166	0.92	0.68	0.43
SH167	欠番	－	－
SH168	0.80	0.76	0.42
SH169	0.61	0.48	0.19
SH170	0.99	0.82	0.42
SH171	0.59	0.46	0.23
SH172	0.53	0.65	0.47
SH173	1.34	1.22	0.50
SH174	0.56	0.55	0.23
SH175	0.68	0.52	0.24
SH176	0.53	0.53	0.26
SH177	1.05	(0.83)	0.29
SH178	0.83	0.77	0.25
SH179	0.58	0.51	0.89
SH180	1.84	0.75	0.78

第３章　海保小谷作遺跡

本調査区は、縄文時代～近世にかけての遺構・遺物が南北方向に伸びる痩せ尾根の平坦面から斜面で検出されている。遺構の立地によっては、斜面側が土砂の流出により消失しているものがみうけられる。

縄文時代の遺構は陥し穴４基、土坑６基が検出されている。遺構の分布はまばらで、この時期の積極的な土地利用は認められない。

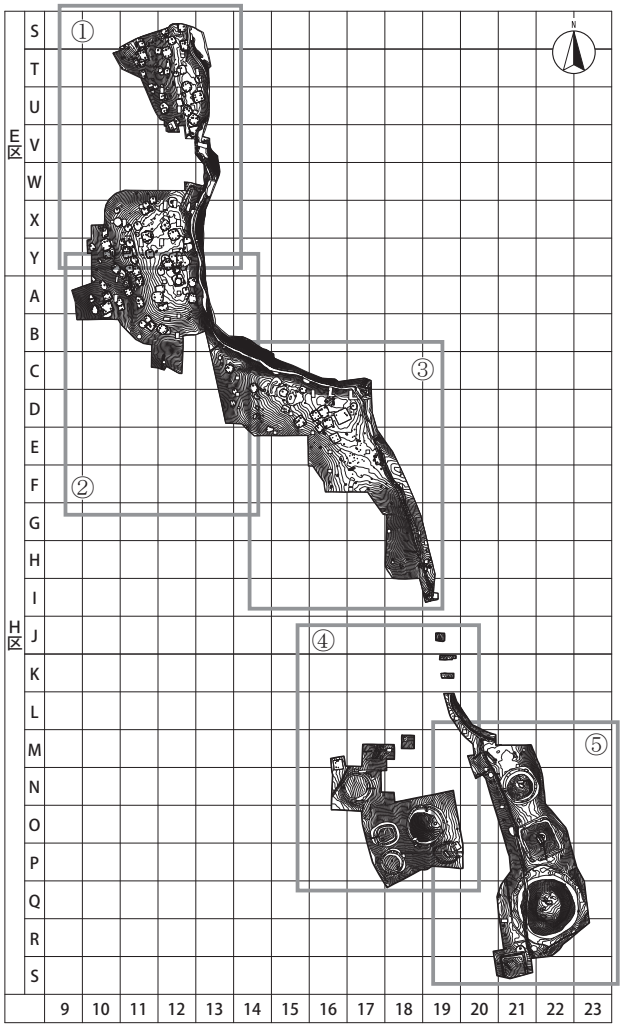
弥生時代の遺構は後期～終末期の竪穴建物78棟、溝１条が検出されている。竪穴建物は調査区北側から中央の平坦面と斜面を中心に分布し、特に平坦面には密集して構築されている。南側はほとんど利用されず、１棟のみである。

古墳時代の遺構は、前期・中期の古墳９基、終末期の古墳４基、中期の竪穴建物42棟、終末期の竪穴建物14棟、溝５条、土坑62基が検出されている。古墳は南側の痩せ尾根上から西向き斜面に前期・中期の円墳６基（SM005・SM007・SM009～SM012）、方墳３基（SM004・SM006・SM013）、終末期の方墳１基（SM008）が集中し、北側で終末期の方墳３基（SM001～SM003）が散在する。SM005の墳頂部からは２基の埋葬施設が検出され、２振の直刀、多数のガラス小玉が副葬品として出土している。また周溝内からは土師器・須恵器が祭祀行為を推測させる状況で出土している。竪穴建物は弥生時代と同様の分布で古墳の集中する南側ではほとんど設けられていない。

奈良・平安時代の遺構は溝12条、土坑19基が検出されている。長大な溝SD007は尾根の縁辺に沿うように南北に縦走しており、海保西竹谷遺跡の溝と立地が類似している。

中世もしくは近世の遺構は塚１基、溝３条、土坑53基が検出されている。塚には盛土は残存していなかったが、伴う溝から宝篋印塔の相輪が出土している。

上記の遺構のほか、208基のピットが検出された。計測値をまとめた第212表をもって報告に代える。



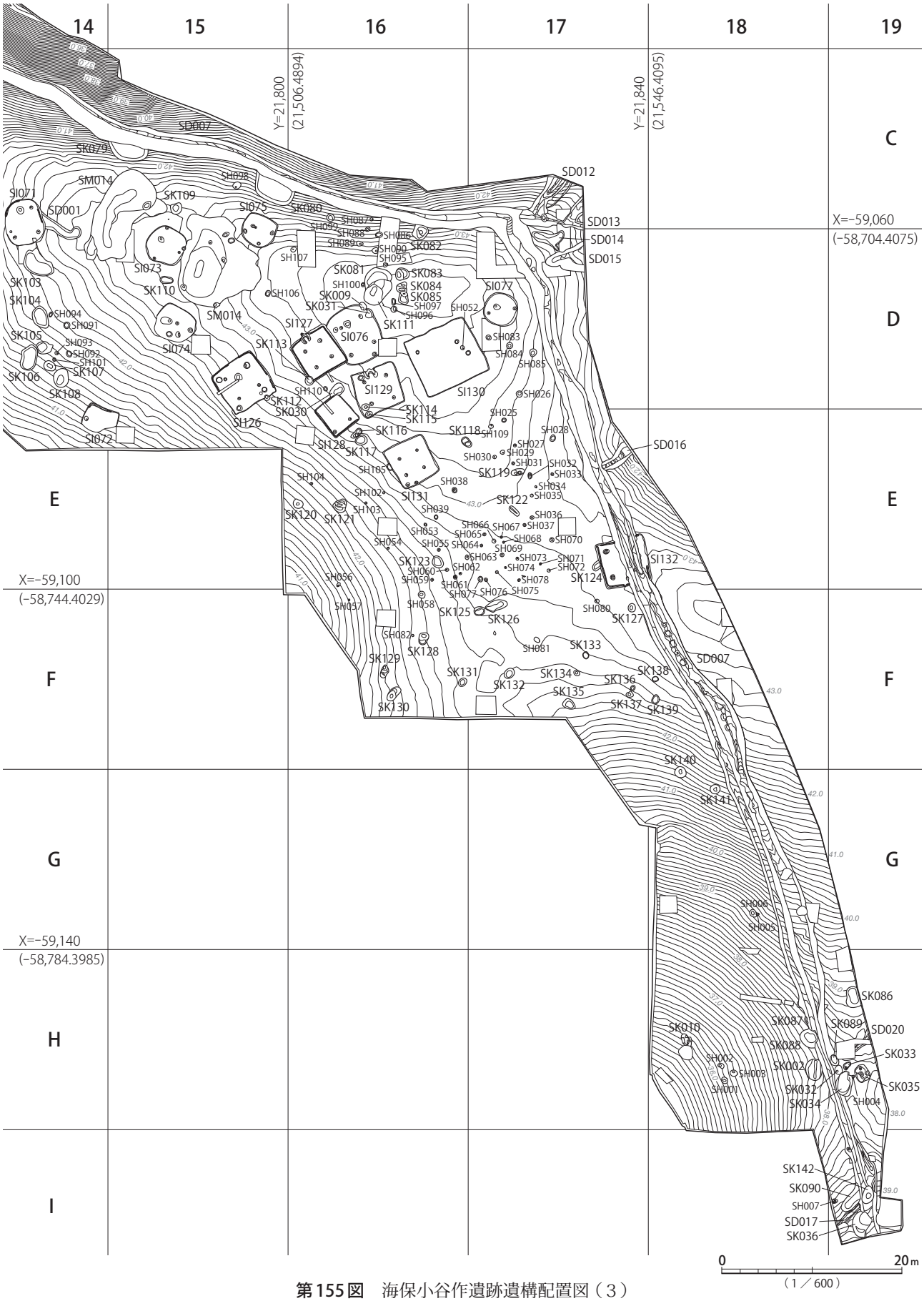
第152図　グリッド配置図及び遺構配置図範囲



第153図　海保小谷作遺跡遺構配置図（１）



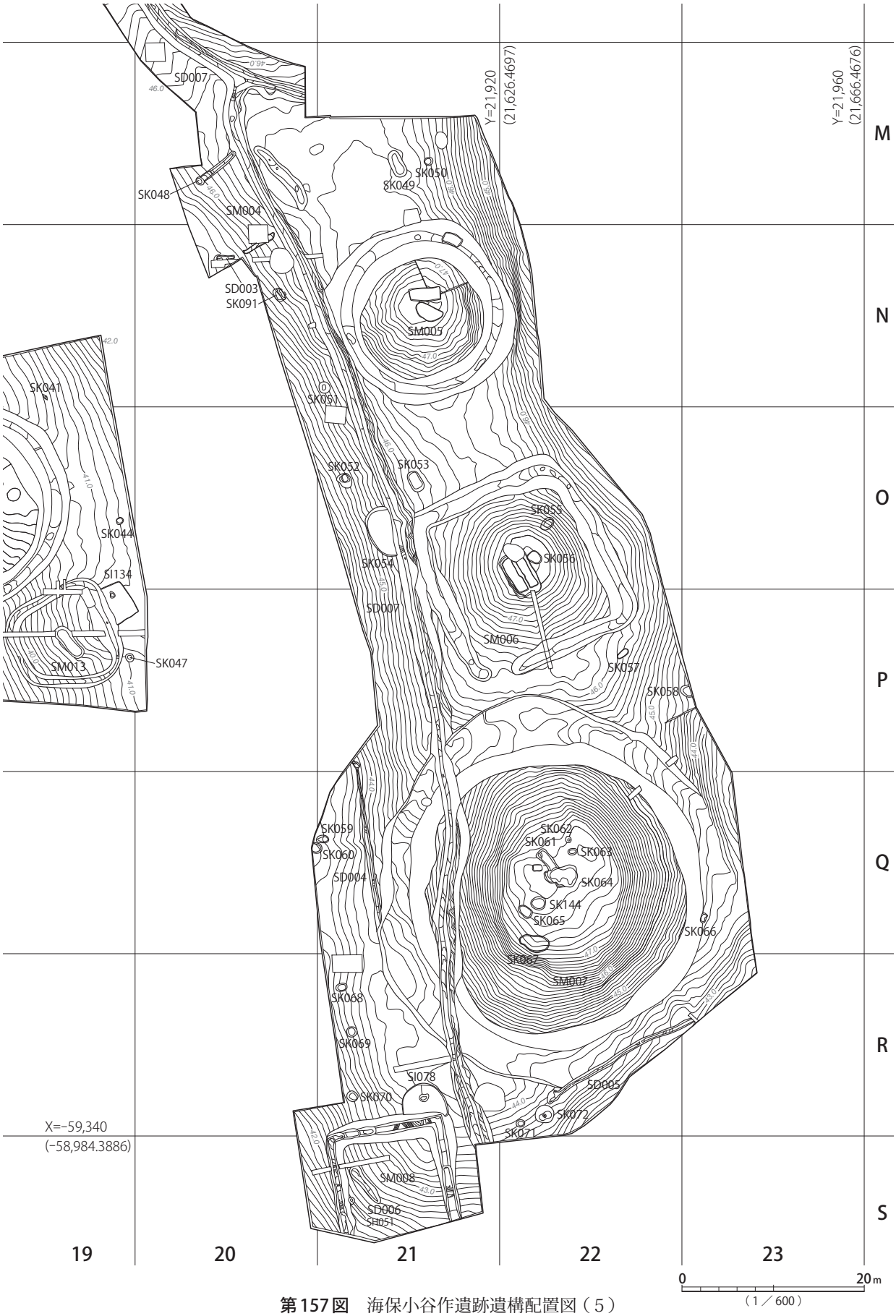
第154図　海保小谷作遺跡遺構配置図（２）



第155図　海保小谷作遺跡遺構配置図（３）



第156図　海保小谷作遺跡遺構配置図（４）



第157図　海保小谷作遺跡遺構配置図（５）

第１節　縄文時代

１．陥し穴

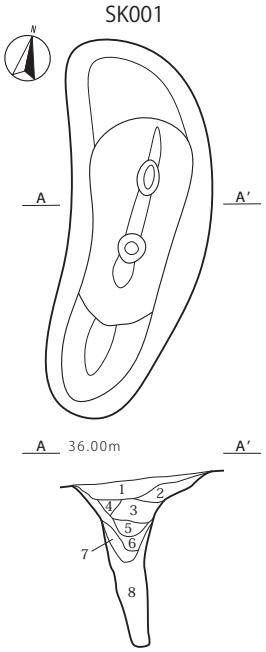
SK001（第158図、図版32）

位置：Ｅ区11Ｓ-84グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.91ｍ、短軸1.13ｍ、確認面からの深度1.45ｍ。**長軸方位：**Ｎ－Ｓ。**形態：**長楕円形、底面は溝状、平坦で、２基のピットが検出された。壁面は漏斗状である。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

所見：台地の西向き斜面に位置する。

遺物：土器109.0gが出土した。



1	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
5	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
8	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。

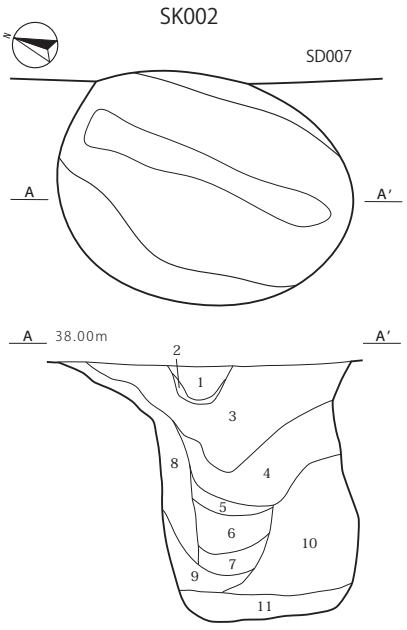
SK002（第158図、図版32）

位置：Ｈ区18Ｈ-69グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸2.35ｍ、短軸1.82ｍ、確認面からの深度2.20ｍ。**長軸方位：**Ｎ－２°－Ｅ。**形態：**楕円形、底面は溝状、平坦で、壁面は漏斗状である。

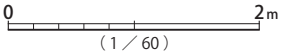
時期：覆土および形態から縄文時代と考えられる。

所見：痩せ尾根の西向き斜面に位置する。

遺物：出土していない。



1	暗褐色土(10YR3/3)	炭化物φ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黄褐色土(10YR5/6)	ロームブロックφ30mm多量含む。粘性強い。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/4)	炭化物φ10mm少量、ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
5	褐灰色土(10YR4/1)	ロームブロックφ20mm中量含む。粘性強い。しまりあり。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ100mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性あり。しまりあり。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性強い。しまり強い。
9	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
10	褐灰色土(10YR4/1)	ロームブロックφ20mm中量含む。粘性強い。しまりあり。
11	灰黄褐色土(10YR5/2)	粘性強い。しまり強い。



第158図　SK001・SK002

SK003（第159図、図版32）

位置：H区17M-79グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.31ｍ、短軸1.38ｍ、確認面からの深度1.24ｍ。**長軸方位：**N-15°-E。**形態：**長楕円形、底面は中心付近でピット状に深く落ち込み、壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土および形態から縄文時代と考えられる。

所見：台地の西向き斜面に位置する。

遺物：縄文土器14.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

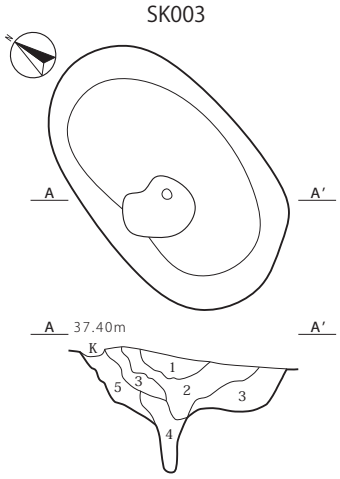
SK004（第159図、図版32）

位置：H区19O-00グリッドを中心に位置する。**重複：**SM011に切られる。**規模：**長軸2.80ｍ、短軸1.44ｍ、確認面からの深度1.87ｍ。**長軸方位：**N-14°-W。**形態：**楕円形、底面は溝状、平坦で壁面は漏斗状である。

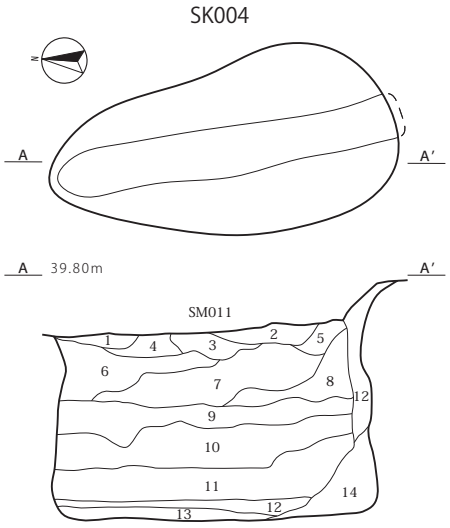
時期：覆土および形態から縄文時代と考えられる。

所見：痩せ尾根の西向き斜面に位置する。

遺物：土器1,347.0gが出土した。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土ブロックφ10～20mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土ブロックφ10～50mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム粒子、焼土少量。炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ50mm含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/1)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ20～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
9　黒褐色土(7.5YR2/2)　ロームブロックφ50～80mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
10　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
11　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ100～150mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
12　黒褐色土(7.5YR2/2)　ロームブロックφ50～100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
13　褐色土(7.5YR4/4)　ロームブロックφ10～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
14　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第159図　SK003・SK004

２．土　坑

SK005（第160図、図版33）

位置：Ｈ区11Ｔ-20グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.50ｍ、短軸0.89ｍ、確認面からの深度0.56ｍ。**長軸方位：**Ｎ-19°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は北側が一段落ち込み壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK006（第160図、図版33）

位置：Ｈ区11Ｔ-21グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.18ｍ、短軸0.94ｍ、確認面からの深度0.77ｍ。**長軸方位：**Ｎ-39°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦面が少なく壁面はＶ字状に立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK007（第160図、図版33）

位置：Ｈ区11Ｓ-92グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.60ｍ、短軸1.14ｍ、確認面からの深度0.78ｍ。**長軸方位：**Ｎ-31°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK008（第160図、図版33）

位置：Ｅ区11Ｓ-87グリッド。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.23ｍ、短軸1.48ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**長軸方位：**Ｎ-６°-Ｅ。**形態：**不整形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から縄文時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK009（第160図、図版33）

位置：Ｈ区16Ｄ-44グリッドを中心に位置する。**重複：**SI076に切られる。**規模：**長軸（0.73）ｍ、短軸（0.89）ｍ、確認面からの深度0.36ｍ。**長軸方位：**Ｎ-30°-Ｅ。**形態：**楕円形と考えられる。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から縄文時代と考えられる。

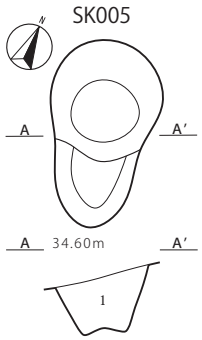
遺物：石器・石製品10.00gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK010（第160図、図版33）

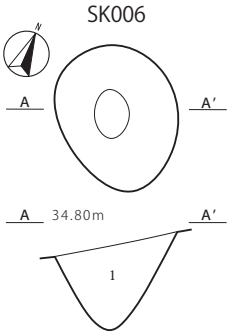
位置：H区18H-52グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸(1.42)m、短軸0.84m、確認面からの深度1.12m。**長軸方位：**N-24°-W。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土および形態から縄文時代と考えられる。

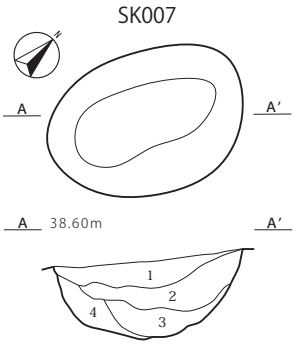
遺物：出土していない。



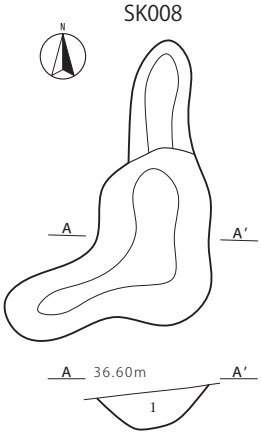
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。



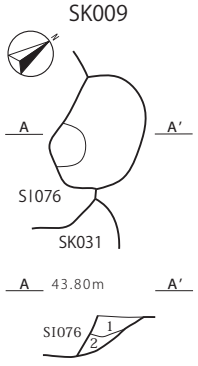
1　褐灰色(10YR4/1)　ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



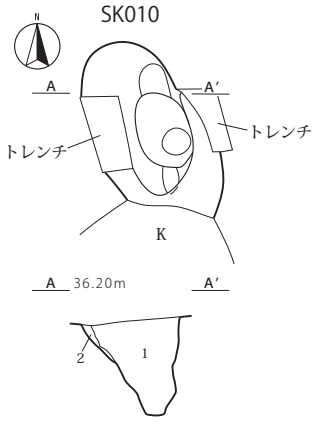
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、黄橙色粘土ブロックφ100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまり強い。
4　明黄褐色土(10YR6/6)　炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。



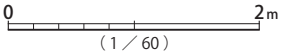
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。しまり強い。

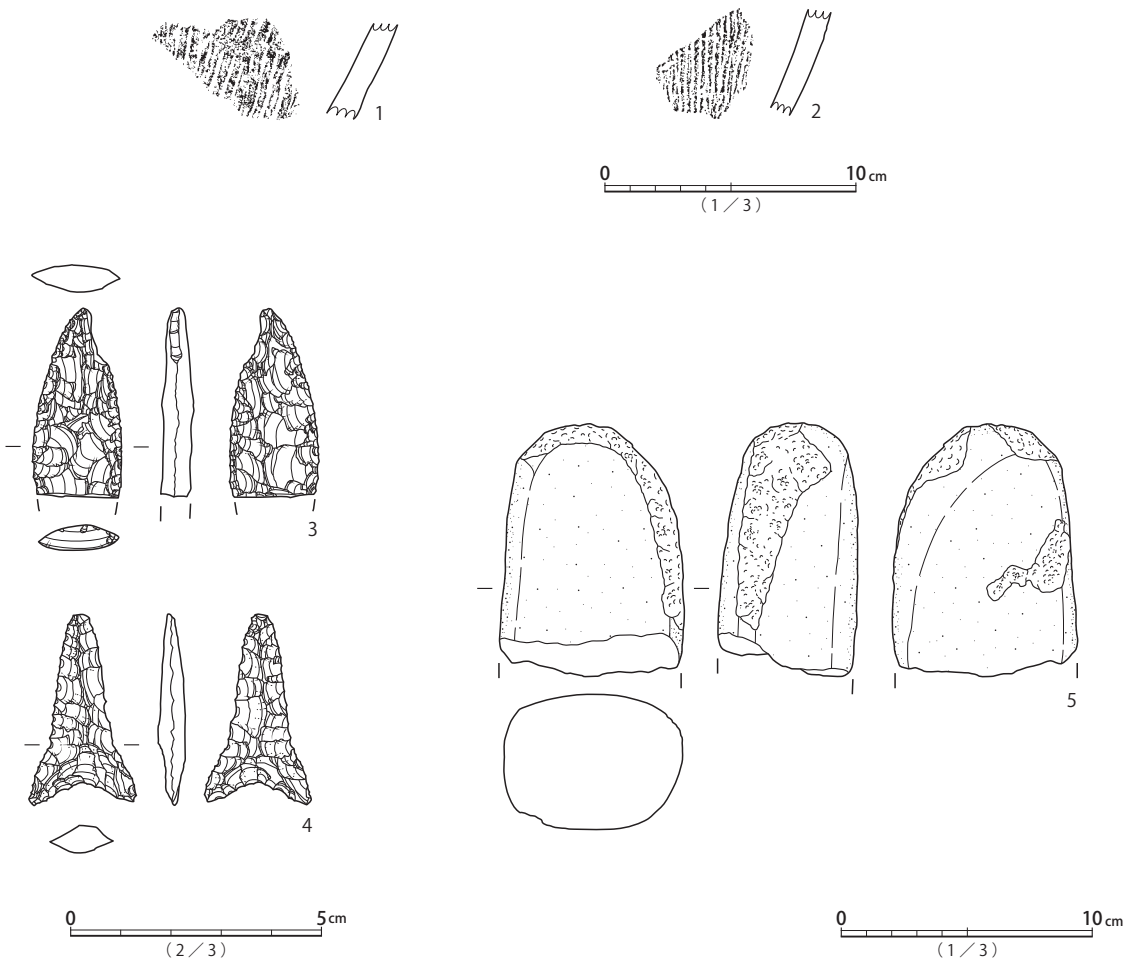


第160図　SK005～SK010

３．遺構外出土遺物（第161図、第60・61表、図版88）

他時代の遺構から出土した混入遺物のうち、縄文時代の遺物についてここで報告する。

１・２はともに撚糸文Rの施文される胴部片である。３は柳葉形の尖頭器、石材は黒曜石である。先端部および裏面下端に衝撃剥離がみられることから、使用により欠損したと考えられる。４は凹基無茎の石鏃、石材は珪質頁岩である。５は敲石である。上端と右側面を主な敲打面としている。



第161図　縄文時代遺構外出土遺物

第60表　縄文時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	SK117 覆土	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.8] 最大径：　－	外面：撚糸文(R)	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：胴部の破片	早期前半、撚糸文系
2	縄文土器 深鉢	SK126 覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.2] 最大径：　－	外面：撚糸文(R)	胎　土：白色粒・石英・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部の破片	早期前半、撚糸文系

第61表　縄文時代遺構外出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
3	尖頭器	黒曜石 (斜長石斑晶含む)	SI050覆土上層	[3.75]	1.75	0.65	3.98	柳葉形、先端部衝撃剥離
4	石鏃	珪質頁岩	SM009周溝下層	3.80	2.15	0.55	2.06	凹基無茎
5	敲石	斑レイ岩	Ⅱ層	[10.00]	[7.40]	[5.60]	644.60	敲：裏・上～右各１箇所

第２節　弥生時代

１．竪穴建物

SI001（第162図、図版33）

位置：Ｅ区11Ｓ-90グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北側は調査区外へ伸びる。**規模：**南北方向を主軸と推定し（2.16）m、副軸（2.84）m、確認面からの深度0.60ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

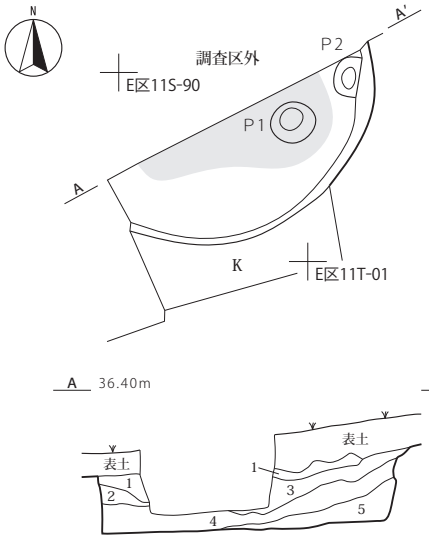
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。大部分が調査区外にあたるため全容は明らかでないが、壁面が垂直に立ち上がり底面は平坦で硬化範囲もみられることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器170.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SI002（第163図、図版33）

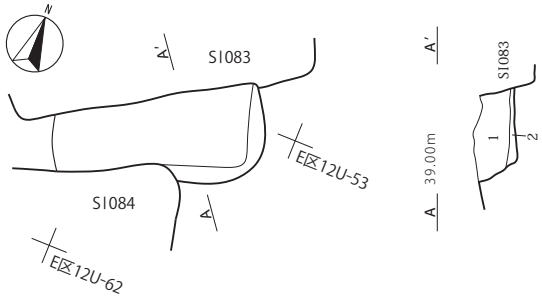
位置：Ｅ区12Ｓ-62グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI083・SI084に切られる。**規模：**主軸（1.08）m、副軸（2.28）m、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸**



1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20～30mm中量、炭化物少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第162図　SI001



1　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ10～50mm多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。

0　3m
（1／80）

第163図　SI002

方位：Ｎ－22°－Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

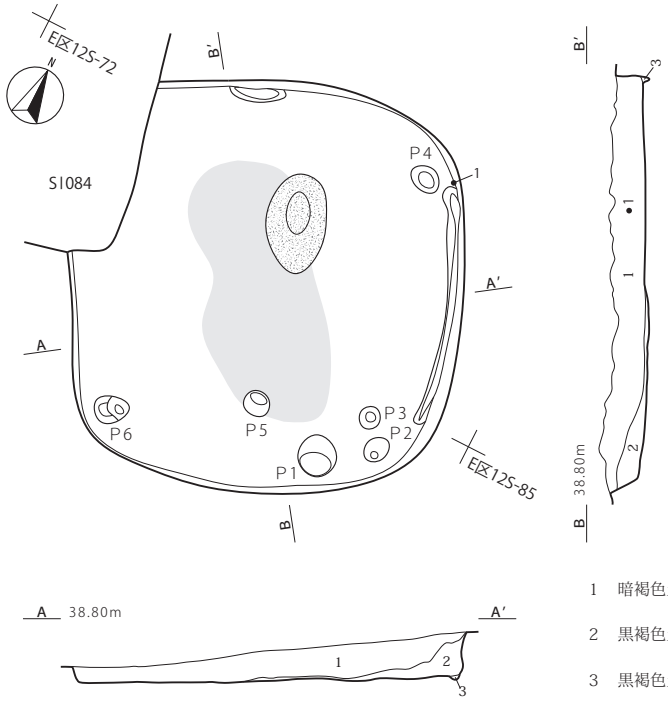
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。大部分が他の竪穴建物によって削平されているため全容は不明であるが、南東隅の壁面が直線的に立ち上がり床面は水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器302.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SI003（第164 ～ 166図、第62表、図版34・88）

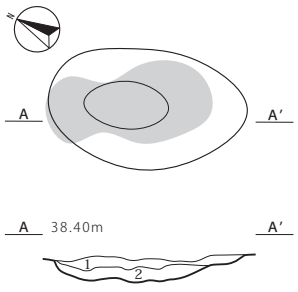
位置：Ｅ区12 Ｓ－73グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI084に切られる。**規模：**主軸4.36ｍ、副軸（4.20）ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－27°－Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.04ｍ、短軸0.40ｍで浅く



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ50mm中量、炭化物φ3mm少量含む。粘性強い。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ50mm、炭化物φ3mm微量含む。粘性強い。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物φ3mm微量含む。粘性強い。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

第164図　SI003



1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックφ20mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　焼土中量含む。粘性非常に弱い。しまり非常に強い。

0　1m
（1／40）

第165図　SI003炉

窪む。**施設：**ピットが６基検出された。Ｐ１・Ｐ５は主軸線上、炉の対面に位置した壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は北西壁と北東壁で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東方向にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器741.4gが出土した。

１は鉢、２は壺である。２は単節縄文が結節により区画される。



第166図　SI003出土遺物

第62表　SI003出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土中層	口　径：(10.6) 底　径：　5.2 器　高：　4.3 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.2] 最大径：　－	外面：肩部単節縄文（RL）・結節文（Z3段）・ヘラミガキ横位 内面：肩部ナデ	胎　土：砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：肩部の破片	

SI004（第167～169図、第63表、図版34・88）

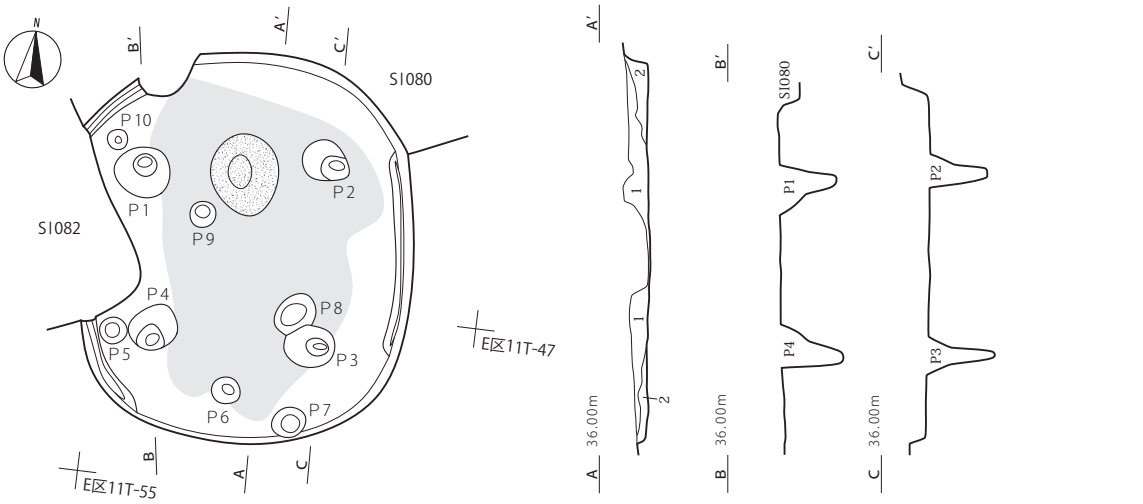
位置：Ｅ区11Ｔ-35グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI080・SI082に切られる。**規模：**主軸4.16ｍ、副軸（3.52）ｍ、確認面からの深度0.59ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ－７°－Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが10基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、主軸方向1.92～1.96ｍ、副軸方向1.76～1.96ｍ。主柱穴はやや台形状に配置されている。Ｐ６・Ｐ７は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は東壁と西壁で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期後葉と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。

遺物：土器1,469.2gが出土した。

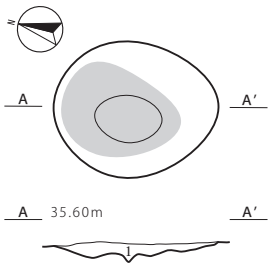
１は甕、２は鉢である。２は口縁部の単節羽状縄文が結節により区画される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

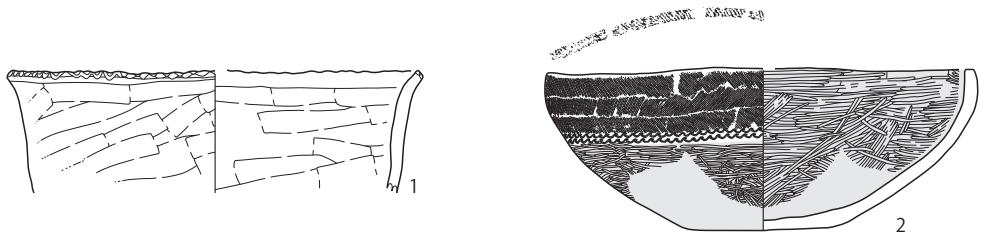
第167図　SI004



1　黒色土(10YR2/1)　焼土ブロックφ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第168図　SI004炉



0　10cm
（1／4）

第169図　SI004出土遺物

第63表　SI004出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：(21.4) 底　径：　－ 器　高：　[6.5] 最大径：　－	外面：口唇部上と外から交互押圧、頸部ヘラナデ横位 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の1/4	
2	弥生土器 鉢	覆土上層	口　径：(22.5) 底　径：　7.5 器　高：　8.5 最大径：　－	外面：口唇部単節縄文(RL)、口縁部単節羽状縄文(RL・LR・RL)・結節文(S2段)、体部ヘラミガキ横位、赤彩、底部ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

SI005（第170 ～ 172図、第64表、図版34・88）

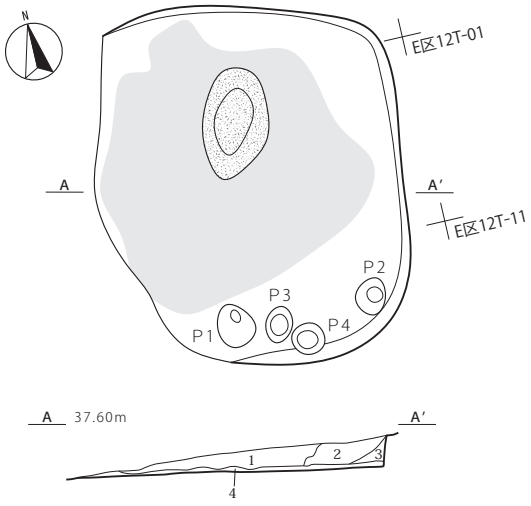
位置： E区12 T -00グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.80）m、副軸（3.36）m、確認面からの深度0.56 m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -13˚- E。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.16 m、短軸0.68 mで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,122.1gが出土した。

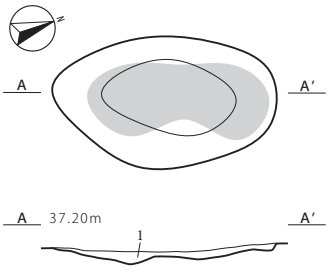
１は頸部に輪積み痕を一段残す。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、炭化物粒微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強い。しまりあり。

0　3m
（1／80）

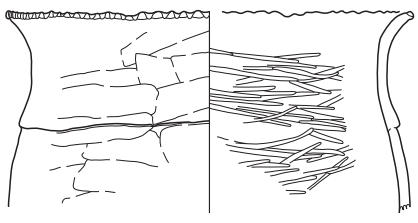
第170図　SI005



1　黒色土(10YR2/1)　焼土中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第171図　SI005炉



0　10cm
（1／4）

第172図　SI005出土遺物

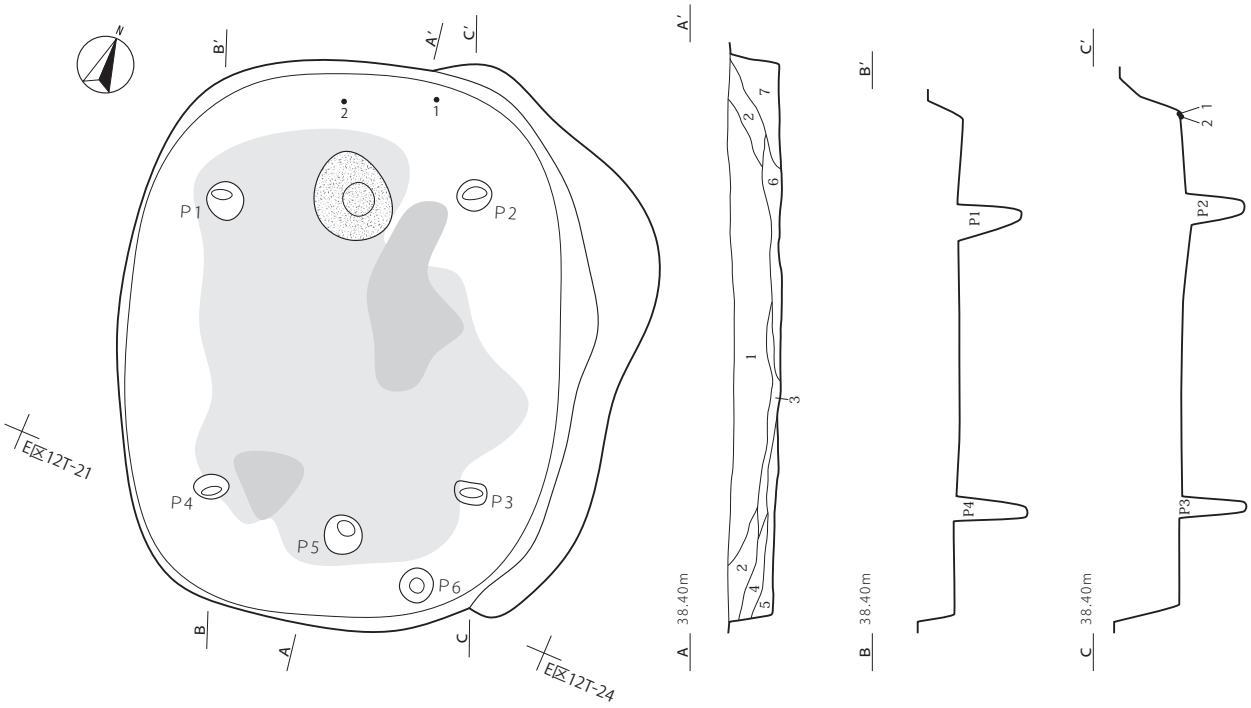
第64表　SI005出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(21.4) 底　径：　- 器　高：[10.7] 最大径：　-	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口唇部上から押圧、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/4	

SI006（第173 ～ 175図、第65表、図版34・88）

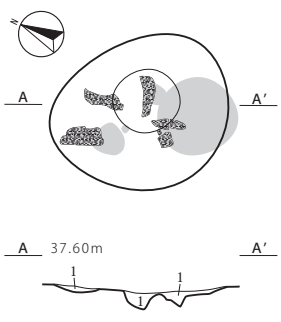
位置：Ｅ区12Ｔ-02グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸6.08ｍ、副軸5.12ｍ、確認面からの深度0.78ｍ。**形態：**小判形。尾根側の壁面は、崩落により変形する。**主軸方位：**Ｎ-23°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.96ｍ、短軸0.80ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向3.16ｍ、副軸方向2.80ｍ。Ｐ５・Ｐ６は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土ブロックφ１～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　焼土ブロックφ１～5mm、炭化物φ３～5mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第173図　SI006



1　極暗褐色土(7.5YR2/3)　焼土ブロックφ１～3mm少量含む。
粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

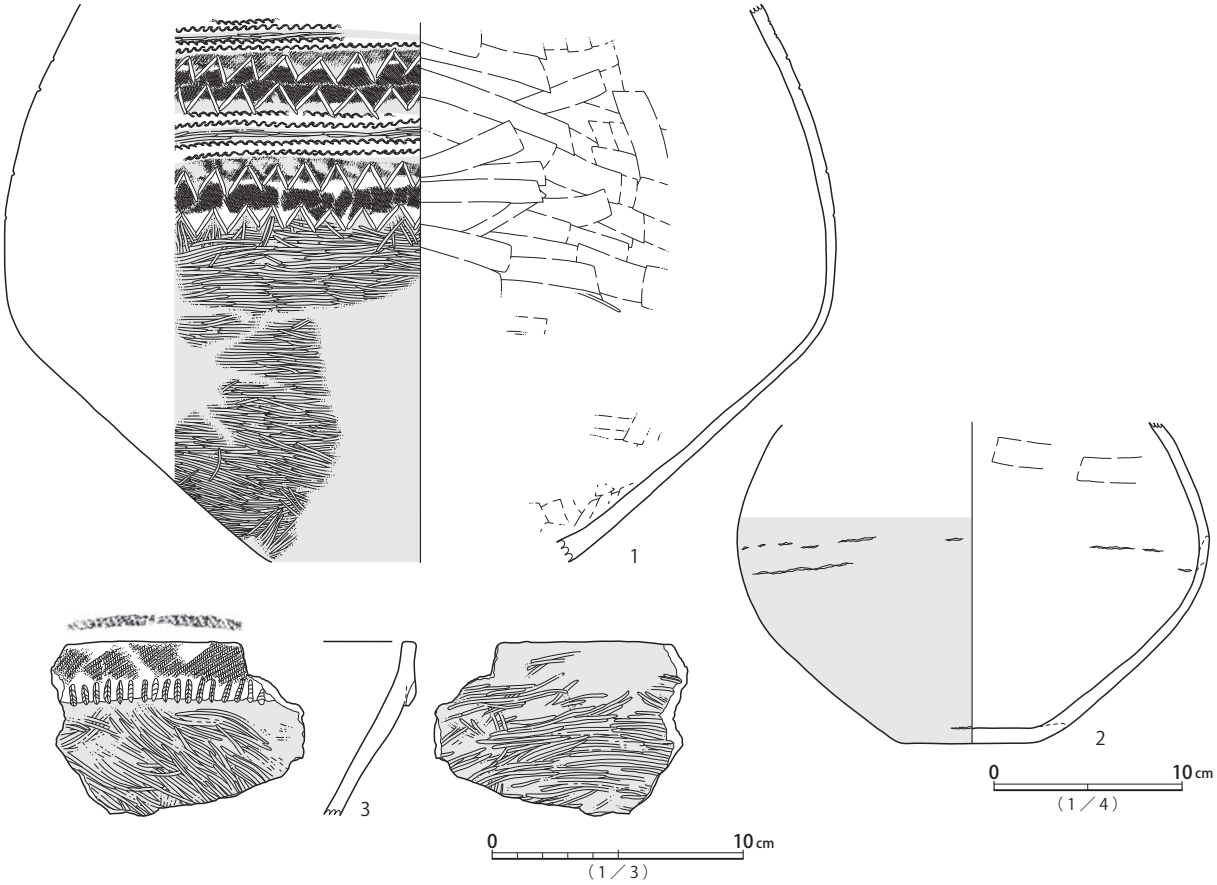
第174図　SI006炉

時期：出土遺物から弥生時代後期後葉と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土の下層から床面にかけて、多量の炭化物と焼土が検出された。床面から壺（１・２）が出土している。また、床面は、強い被熱によって赤化・硬化していることから、焼却・焼失した建物と考えられる。

遺物：土器5,748.2g、石器・石製品26.00gが出土した。

１・２は壺、３は鉢である。１は結節区画内に単節羽状縄文を充填し、のち沈線により山形帯を区画し枠外を磨り消している。３は口縁部がハケキザミにより区画されている。



第175図　SI006出土遺物

第65表　SI006出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[29.5] 最大径：(43.8)	**特徴：**胴部下位に最大径 **外面：**肩部結節文（S2段）・ヘラミガキ・結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL）を施文後、沈線2段で山形帯を区画、区画の上下単節縄文を磨り消し・結節文（S2段）・ヘラミガキ横位・結節文（S2段）、胴部単節羽状縄文（LR・RL）施文後、沈線2段で山形帯を区画、区画の上下単節縄文を磨り消し・ヘラミガキ横位、ヘラミガキ部及び磨り消し部赤彩 **内面：**肩部～胴部ヘラナデ	**胎　土：**砂粒・褐色粒 **焼　成：**普通 **色　調：**にぶい橙 **残存度：**肩部～胴部の1/4	内面煤付着
2	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　6.8 器　高：[17.0] 最大径：(24.8)	**外面：**胴部摩耗顕著、中位以下に赤彩の痕跡 **内面：**器面剥落顕著、ヘラナデ横位	**胎　土：**砂粒・石英 **焼　成：**良好 **色　調：**橙 **残存度：**頸部～底部の2/3	
3	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[6.9] 最大径：　－	**外面：**口唇部単節縄文（LR）、口縁部単節縄文（LR）・端部ハケキザミ・ヘラミガキ、赤彩 **内面：**口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	**胎　土：**砂粒・海綿骨針 **焼　成：**良好 **色　調：**橙 **残存度：**口縁部の破片	

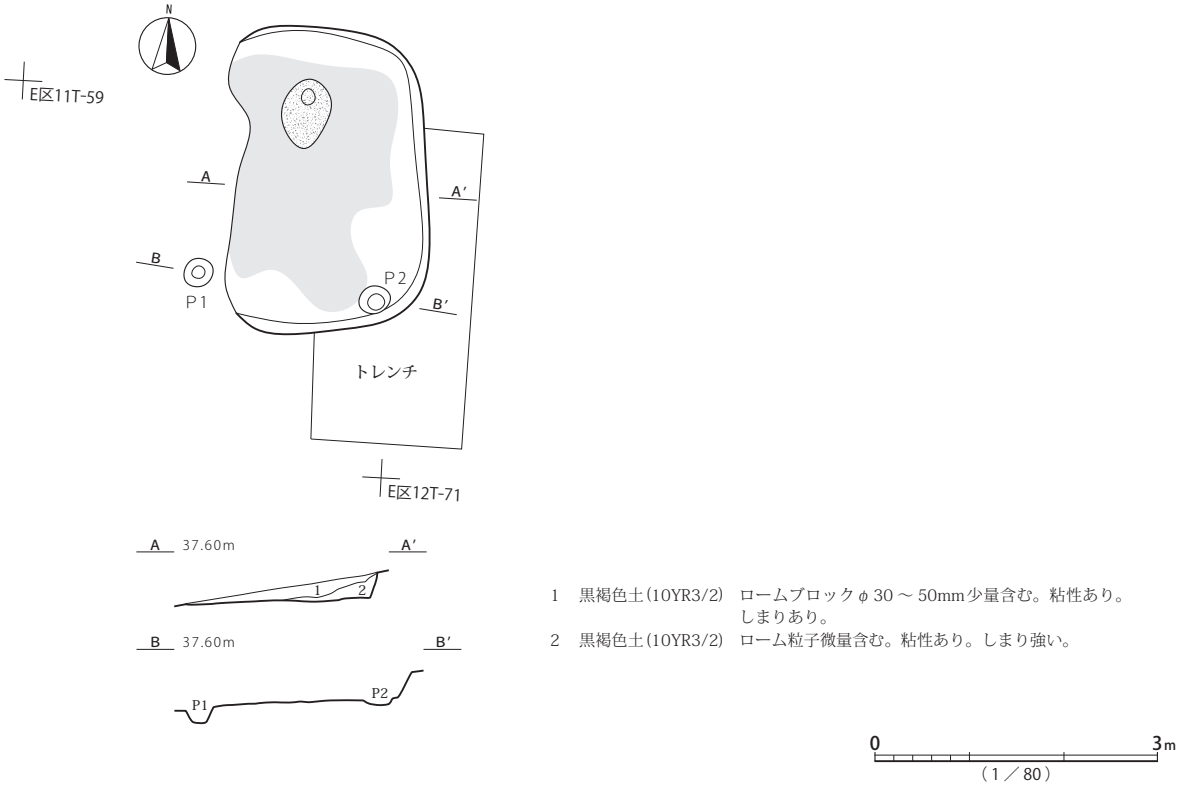
SI007（第176・177図、図版34）

位置：Ｅ区12Ｔ-50グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.28ｍ、副軸（2.60）ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－３°－Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.72ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

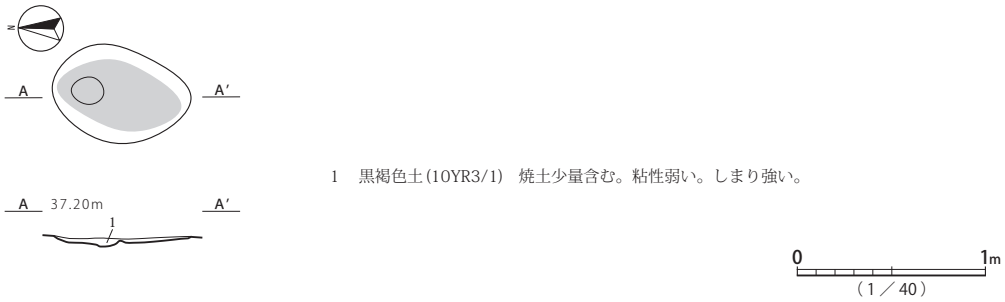
時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。Ｐ１は床面の残存範囲外だが、配置から主柱穴と考えた。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器488.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第176図　SI007



第177図　SI007炉

SI008（第178 ～ 180図、第66表、図版34・88）

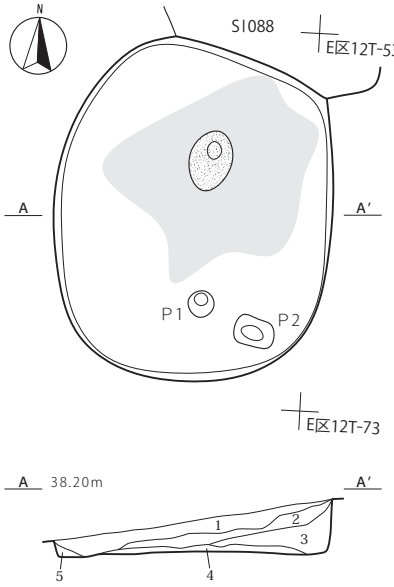
位置：Ｅ区12Ｔ-52グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI088に切られる。**規模：**主軸（3.64）m、副軸2.96ｍ、確認面からの深度0.66ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－３°－Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.64ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。炉の周辺が硬化しているが、あまり強く踏み固まっていない。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器427.1gが出土した。

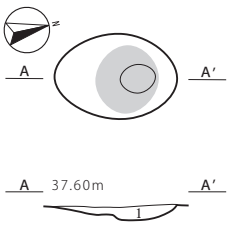
１は折り返し部に単節縄文、キザミが施される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20 ～ 30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第178図　SI008



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第179図　SI008炉



0　10cm
（1／3）

第180図　SI008出土遺物

第66表　SI008出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［3.8］ 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部単節縄文(LR)、端部布目キザミ、口縁部ナデ 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

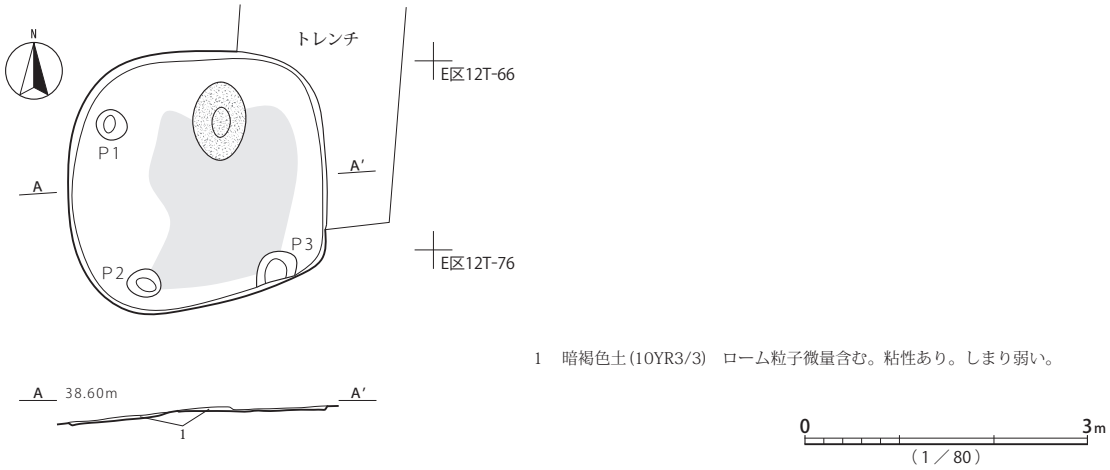
SI009（第181・182図、図版34）

位置：Ｅ区12Ｔ-64グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸2.80ｍ、副軸2.76ｍ、確認面からの深度0.30ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

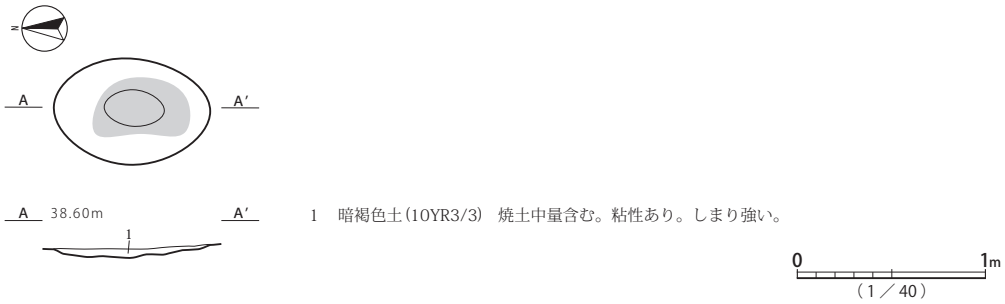
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：比較的規模の小さな竪穴建物で、床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴の配置に似るが、掘り込みは浅く柱穴とは考えられない。

遺物：土器170.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第181図　SI009



第182図　SI009炉

SI010（第183～185図、第67表、図版35・88）

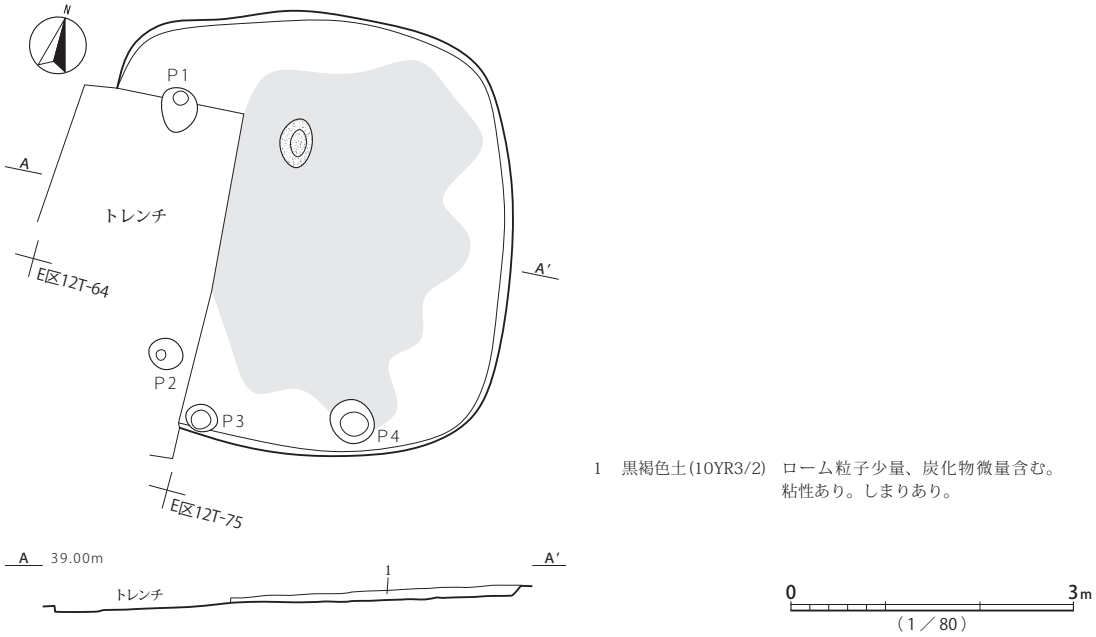
位置：Ｅ区12Ｔ-56グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南西側は削平される。**規模：**主軸4.72ｍ、副軸（4.20）ｍ、確認面からの深度0.26ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-15°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.32ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。Ｐ３・Ｐ４は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴う可能性がある。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

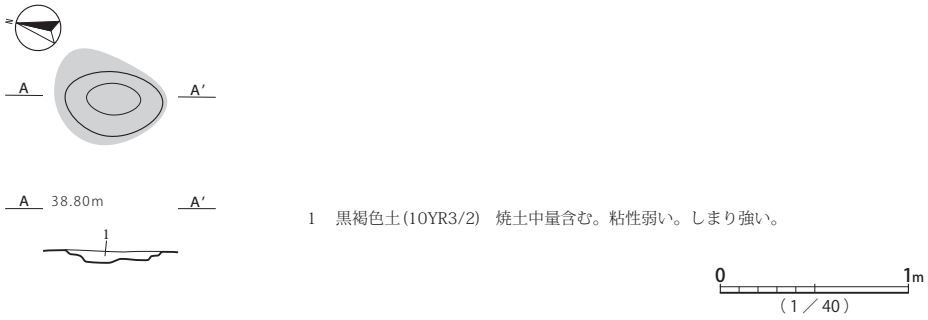
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性があるが、対になる柱穴は検出されなかった。

遺物：土器526.5gが出土した。

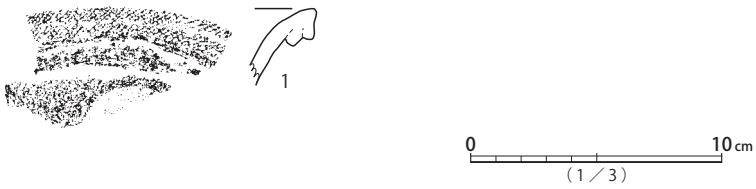
１は口縁部の下端が粘土紐貼り合せにより多段になっている。



第183図　SI010



第184図　SI010炉



第185図　SI010出土遺物

第67表　SI010出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.0] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節縄文（LR）、口縁部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒・石英・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

SI011（第186 ～ 188図、第68表、図版35・88）

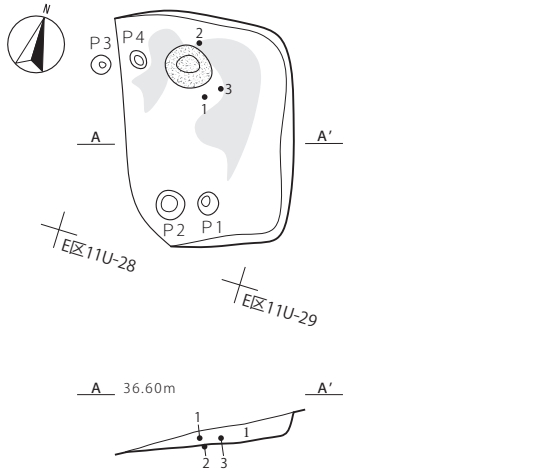
位置：Ｅ区11Ｕ-18グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（2.52）m、副軸（1.92）m、確認面からの深度0.46ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：比較的規模の小さな竪穴建物である。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から鉢（２）が出土している。

遺物：土器2,886.8gが出土した。

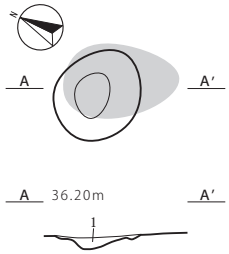
１は甕、２・３は鉢である。２は内外面ともにヘラミガキ、赤彩が施される。３は折り返し部に単節縄文が施文される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

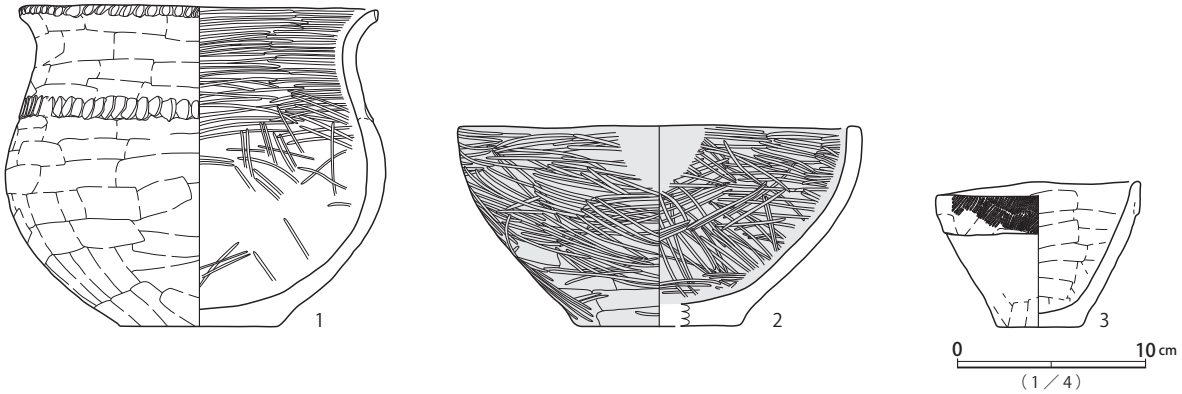
第186図　SI011



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第187図　SI011炉



第188図　SI011出土遺物

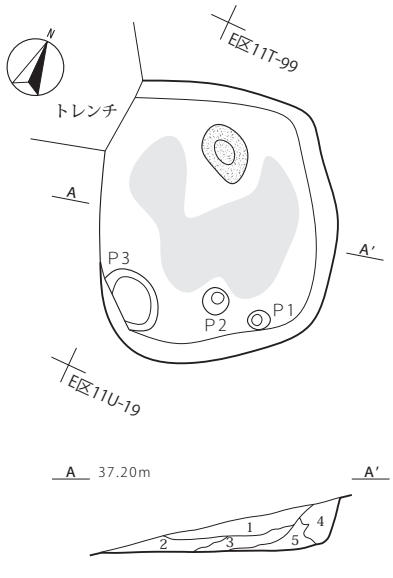
第68表　SI011出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：18.6 底　径：8.4 器　高：16.9 最大径：20.1	外面：口唇部外から指による押圧、口縁部ヘラナデ、頸部指による押圧、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～胴部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：暗褐 残存度：口縁部～底部の4/5	外面煤付着
2	弥生土器 鉢	床面	口　径：20.5 底　径：8.5 器　高：10.6 最大径：－	外面：口縁部～体部上半ヘラミガキ横位、体部下半～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部～底部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
3	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：10.5 底　径：4.4 器　高：7.7 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節縄文（LR）、体部ナデ、底部ヘラナデ縦位 内面：口縁部～底部ヘラナデ横位	胎　土：黒色粒・石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	

SI012（第189～191図、第69表、図版35・89）

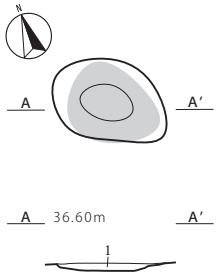
位置：E区11T-99グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.00）m、副軸（2.56）m、確認面からの深度0.67m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-28°-W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.64m、短軸0.44mで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第189図　SI012



1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

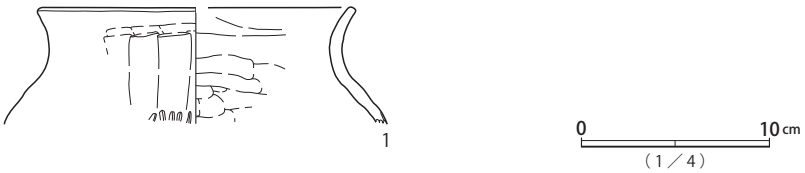
第190図　SI012炉

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器419.7gが出土した。

１は頸部下位にヘラキザミが施される。



第191図　SI012出土遺物

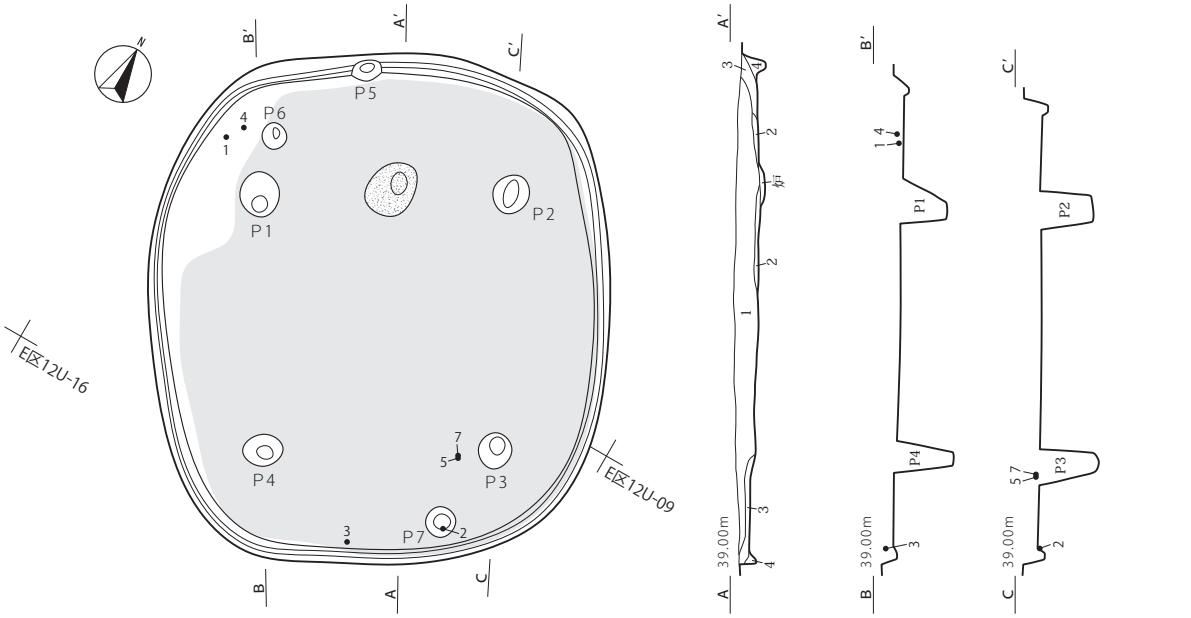
第69表　SI012出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：(16.4) 底　径：　－ 器　高：　[6.2] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ縦位、ヘラキザミ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ	胎　土：赤色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～頸部の破片	

SI013（第192 ～ 194図、第70表、図版35・89）

位置：Ｅ区12Ｔ-97グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸5.40ｍ、副軸4.92ｍ、確認面からの深度0.28ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-30°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.64ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪み、燃焼面からは被熱した土器片が出土している。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ10 ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物φ１～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　　粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

第192図　SI013

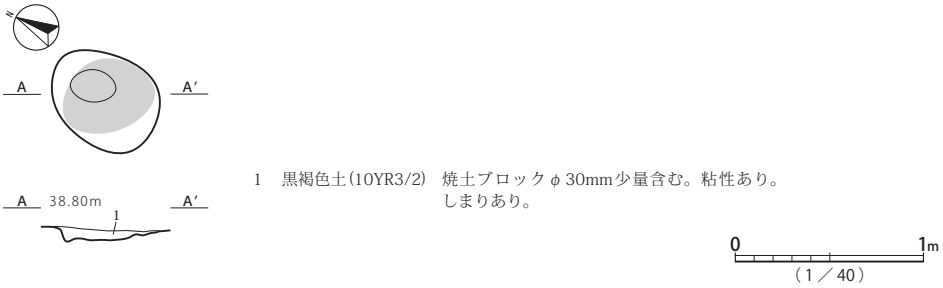
2.68ｍ、副軸方向2.40 ～ 2.64ｍ。Ｐ７は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉以降と考えられる。

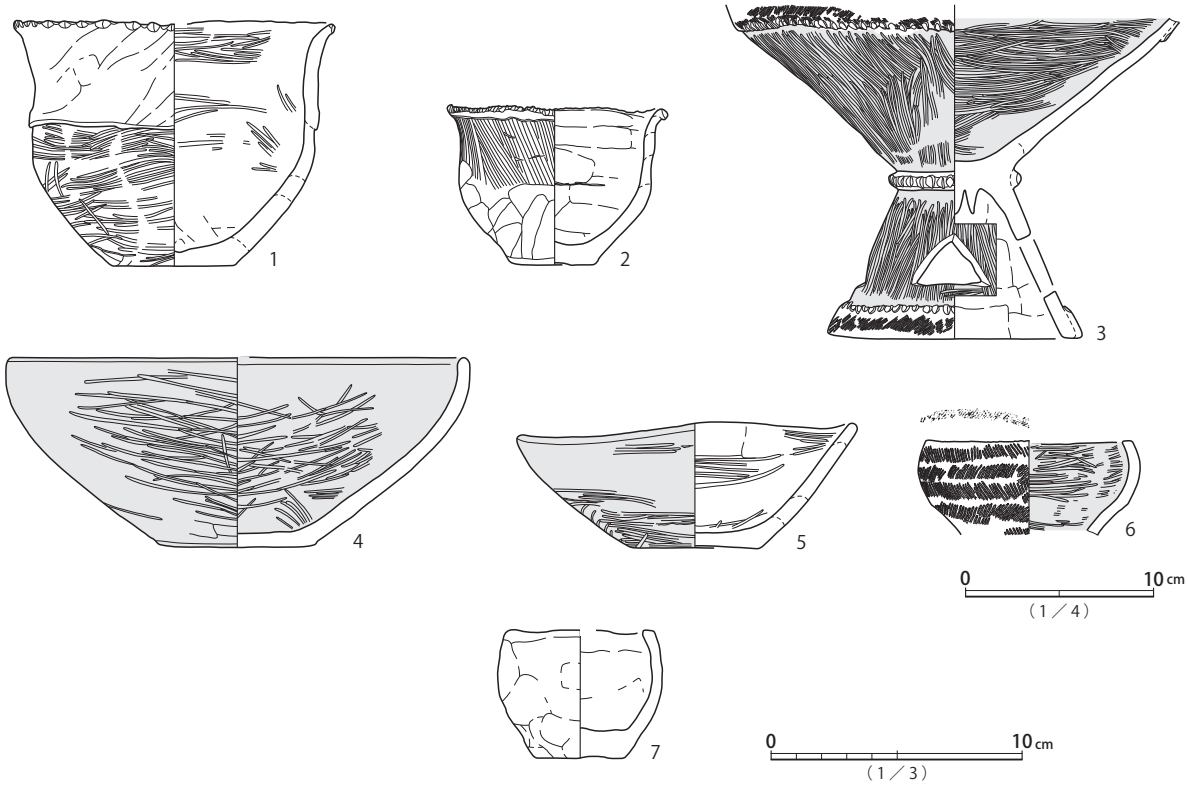
所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。床面から甕（１）、鉢（５）、ミニチュア鉢（７）が、Ｐ７から甕（２）が出土している。覆土は緩やかなレンズ状の堆積で自然埋没した状況を示す。

遺物：土器2,288.1gが出土した。

１・２は甕、３は高坏、４～６は鉢、７はミニチュア鉢である。１は口唇部に交互押圧が施され、頸部には輪積み痕を一段残す。３は口縁部の段が押圧により区画される。また接合部にはキザミを施した突帯が貼り付けられる。脚部の三角形透かしは４箇所である。４は内外面ともに赤彩される。５は外面のみの赤彩である。６は体部外面の全面に単節羽状縄文が施される。



第193図　SI013炉



第194図　SI013出土遺物

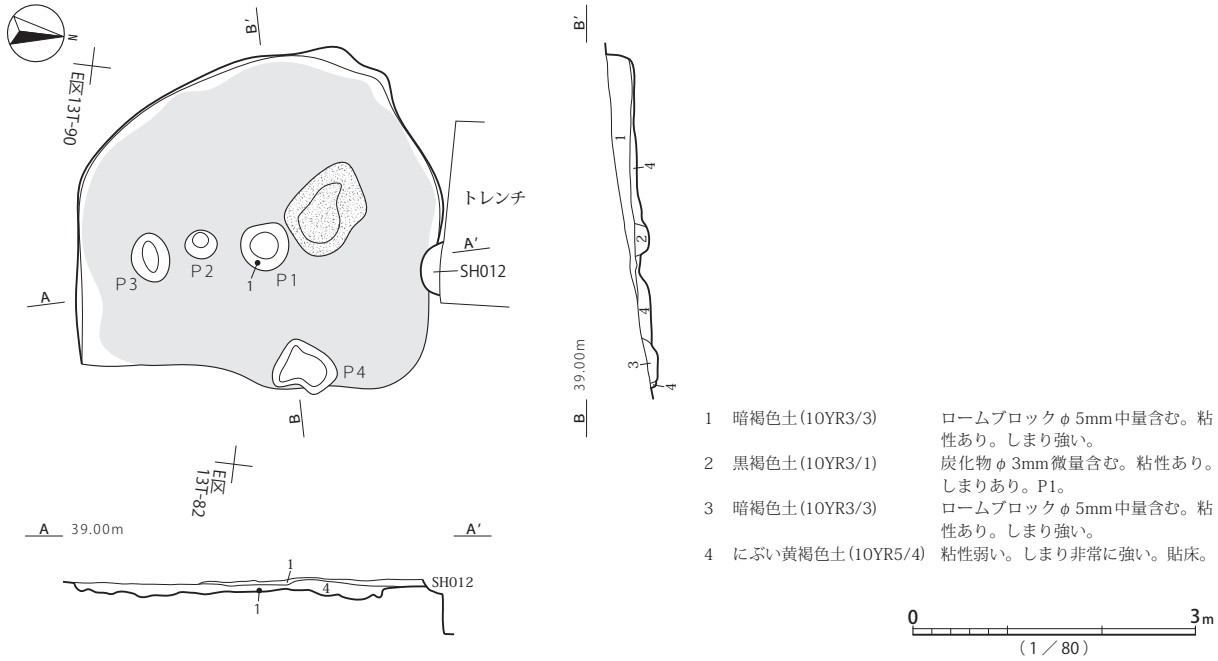
第70表　SI013出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：(16.8) 底　径：　6.5 器　高：13.0 最大径：　－	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口唇部指による上と外からの交互押圧、口縁部～頸部ヘラナデ斜位、胴部ヘラミガキ横位、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～胴部ヘラミガキ横位、底部ヘラナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	弥生土器 甕	P7覆土	口　径：11.2 底　径：　4.5 器　高：　8.5 最大径：　－	外面：口唇部ヘラキザミ、口縁部ハケメ縦位、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
3	弥生土器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：13.4 器　高：[17.1] 最大径：　－	特徴：脚部に三角形の透かし４箇所、坏部に突起を設け、脚部の孔に差込み成形 外面：折り返し部単節羽状縄文（LR・RL）・端部原体キザミ、坏部ヘラミガキ縦位、赤彩、接合部突帯貼付・原体キザミ、脚部ヘラミガキ縦位、裾折り返し部、原体キザミ・単節縄文(LR) 内面：坏部ヘラミガキ横位、赤彩、脚部～裾部ヘラナデ	胎　土：赤色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：坏部～脚部の3/4	
4	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(24.0) 底　径：　8.4 器　高：10.0 最大径：　－	外面：口縁部ヘラミガキ横位、底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部～底部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：褐灰 残存度：口縁部～底部の3/5	
5	弥生土器 鉢	床面	口　径：17.6 底　径：　6.8 器　高：　6.7 最大径：　－	特徴：歪み顕著 外面：口縁部～底部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヘラナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：ほぼ完存	
6	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(10.6) 底　径：　－ 器　高：　[5.0] 最大径：　－	外面：口唇部単節縄文（LR）、口縁部単節羽状縄文（RL・LR・RL・LR・RL） 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
7	弥生土器 ミニチュア 鉢	床面	口　径：　(5.2) 底　径：　3.5 器　高：　5.1 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～底部ヘラナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

SI014（第195 ～ 197図、第71表、図版35・35・89）

位置：Ｅ区12Ｔ-70グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.68）m、副軸3.88ｍ、確認面からの深度0.53ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方**



第195図　SI014

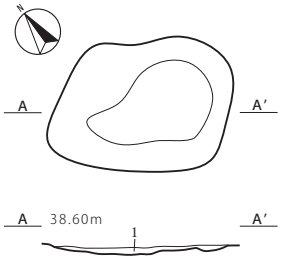
位：Ｎ-83°- Ｅ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.00ｍ、短軸0.64ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層とわずかに残るソフトローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。Ｐ１からミニチュア壺（１）が出土している。

遺物：土器1,712.3gが出土した。

１はミニチュア壺、２は連続山形文を前後に重ねて配置する装飾壺である。



1　暗赤褐色土(2.5YR3/2)　焼土ブロックφ5mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第196図　SI014炉



0　10cm
（1／3）

第197図　SI014出土遺物

第71表　SI014出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 ミニチュア 壺	P1覆土	口　径：　6.9 底　径：　4.6 器　高：　8.1 最大径：　7.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.6] 最大径：　－	外面：肩部結節文(S3段)・単節縄文後上下を沈線の連続山形文で区画・連続結節文・施文部以外ヘラミガキ、赤彩 内面：肩部ナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：肩部の破片	

SI015（第198・199図、第72表、図版58・89）

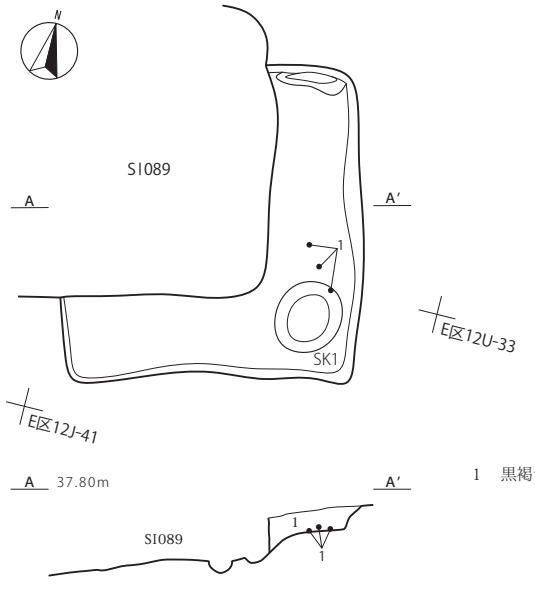
位置：Ｅ区12Ｕ-22グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI089に切られる。**規模：**主軸（3.40）m、副軸（3.24）m、確認面からの深度0.61 m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-14°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑が１基検出された。深度は浅い。周溝は北東隅でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

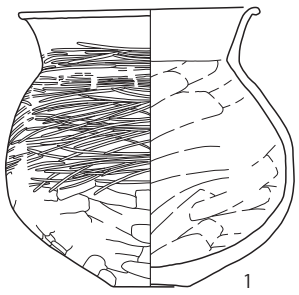
所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。床面から広口壺（１）が出土している。

遺物：土器666.4gが出土した。

１の口縁部は玉縁状であり、頸部から胴上部にはヘラミガキが施される。



第198図　SI015



第199図　SI015出土遺物

第72表　SI015出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	床面	口　径：12.4 底　径：4.0 器　高：14.8 最大径：15.2	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ヘラミガキ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	

SI016（第200 ～ 202図、第73表、図版36・89）

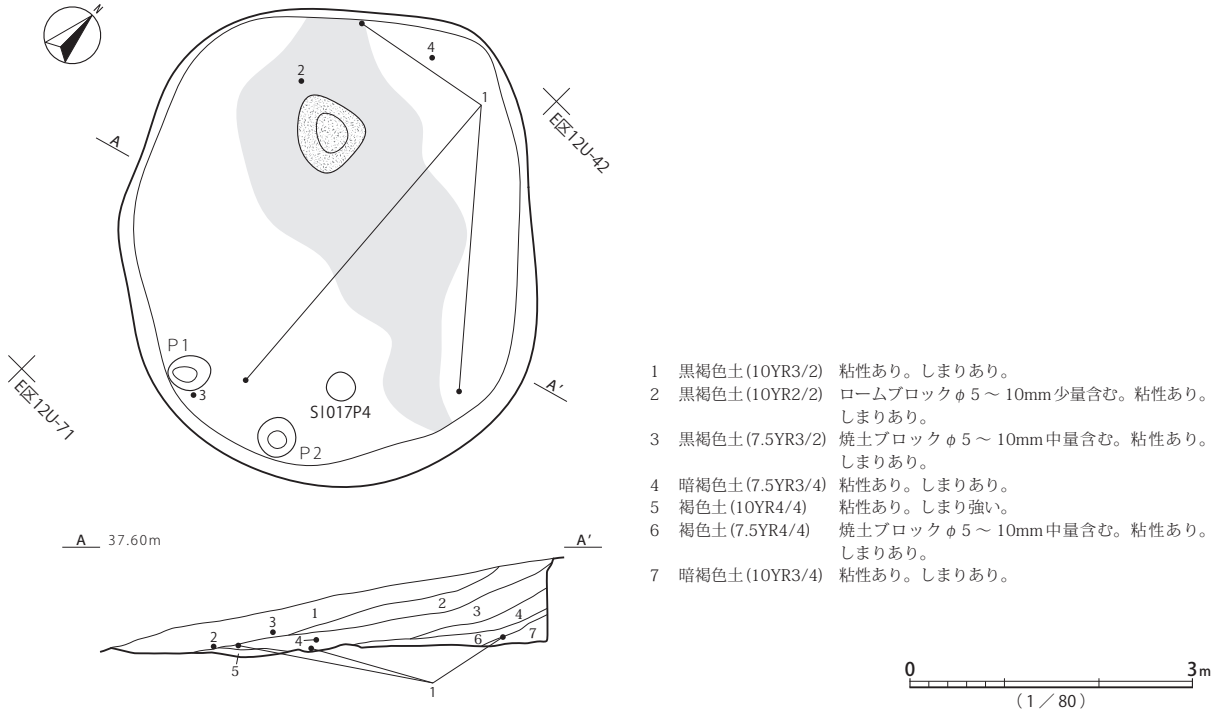
位置： E区12U-51グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI017・SI018を切る。**規模：**主軸5.04ｍ、副軸4.44ｍ、確認面からの深度1.14ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-45°-W。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東壁にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：床面は完存し、広口壺（１）、壺（２）が出土している。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器7,574.6gが出土した。

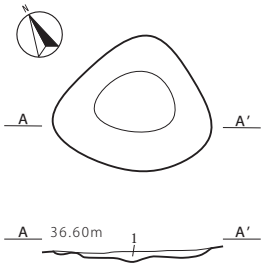
１は広口壺、２・３は壺、４は鉢である。１は折り返し部および頸部にキザミが施される。２は頸部上位に焼成後の穿孔がなされている。



1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土ブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまり強い。
6　褐色土(7.5YR4/4)　焼土ブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

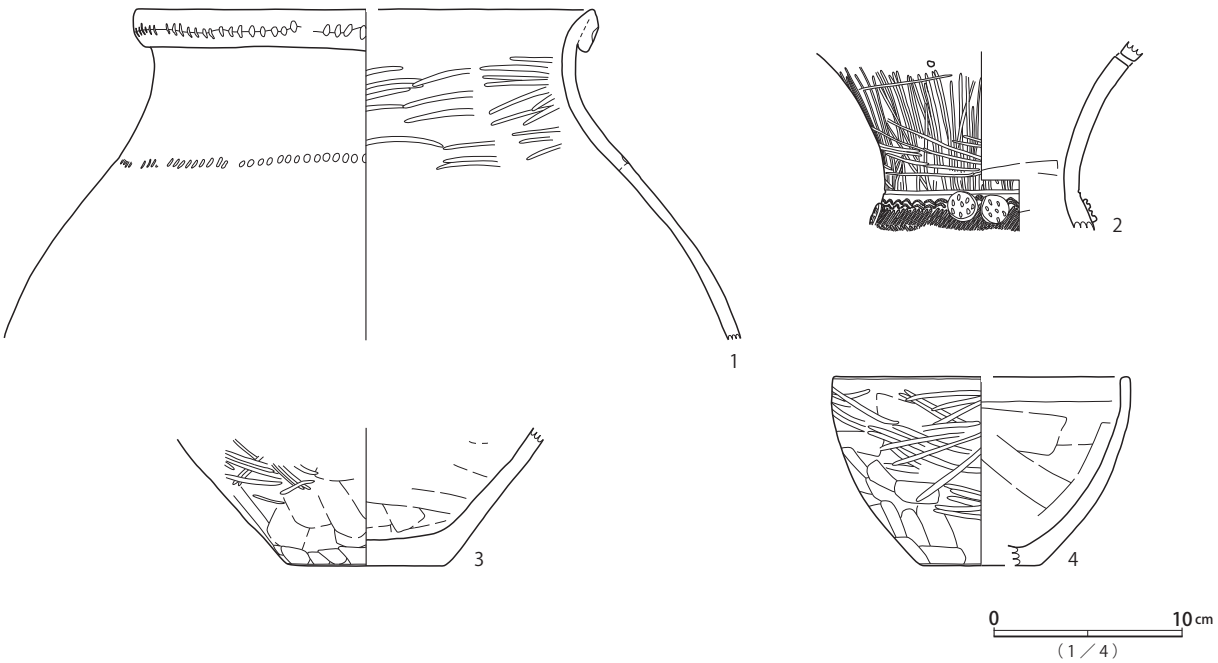
第200図　SI016



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土ブロックφ１～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第201図　SI016炉



第202図　SI016出土遺物

第73表　SI016出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	床面・ 覆土下層	口　径：(24.0) 底　径：　－ 器　高：[17.5] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：2次被熱により器面劣化、調整不明、折り返し部ヘラキザミ、頸部ヘラキザミ 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部上半の2/3	2次被熱により一部灰白色
2	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[10.0] 最大径：　－	外面：頸部ヘラミガキ縦位、赤彩、焼成後穿孔（φ4㎜）・沈線横位・結節文（S2段）・単節縄文（LR）・刺突のある円形貼付文（2個一組4箇所） 内面：頸部剥落顕著、ヘラナデ、赤彩	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：頸部の破片	
3	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　8.2 器　高：　[7.3] 最大径：　－	外面：胴部下半ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ	胎　土：砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部下半～底部の2/3	
4	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(15.5) 底　径：　(6.0) 器　高：　10.0 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラナデ後ヘラミガキ・体部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英顕著・砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	

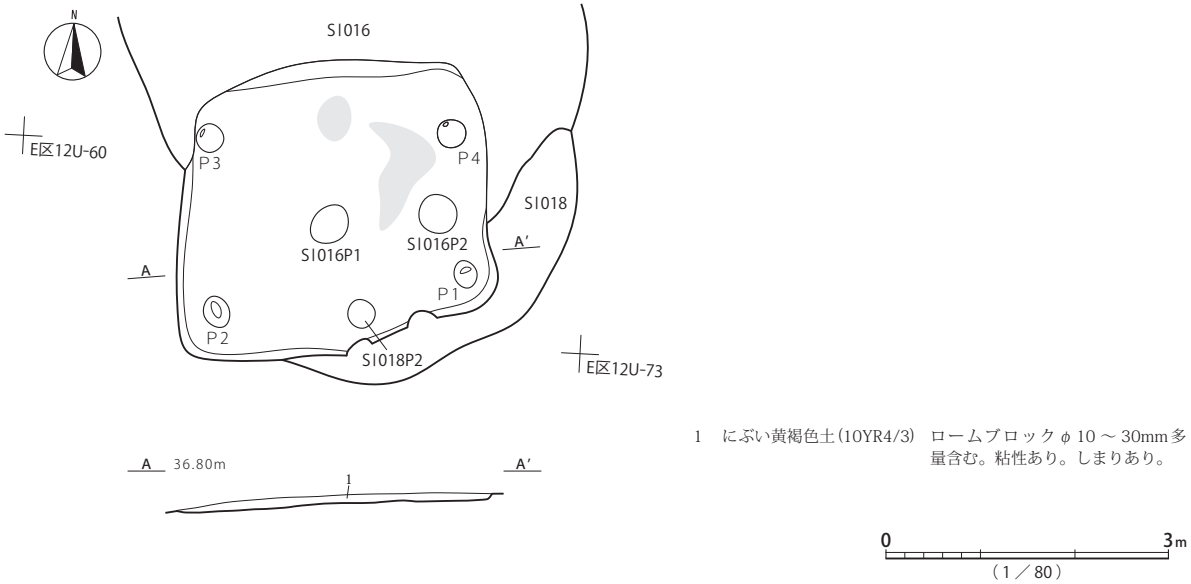
SI017（第203図、図版36）

位置：Ｅ区12Ｕ-61グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI016・SI018に切られる。**規模：**主軸（3.16）m、副軸（3.40）m、確認面からの深度0.32m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ－3°－Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが4基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の北東側が部分的に硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：出土していない。



第203図　SI017

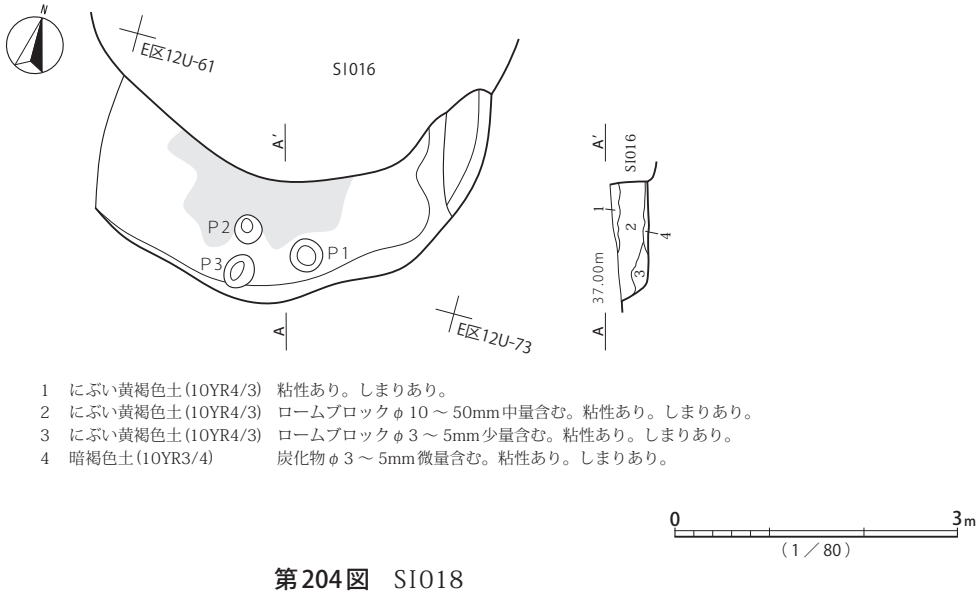
SI018（第204図、図版36）

位置：Ｅ区12Ｕ-61グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI017を切り、SI016に切られる。**規模：**主軸（2.40）m、副軸（4.20）m、確認面からの深度0.88ｍ。**形態：**小判形。東壁は崩落により変形している。**主軸方位：**Ｎ-15°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器299.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第204図　SI018

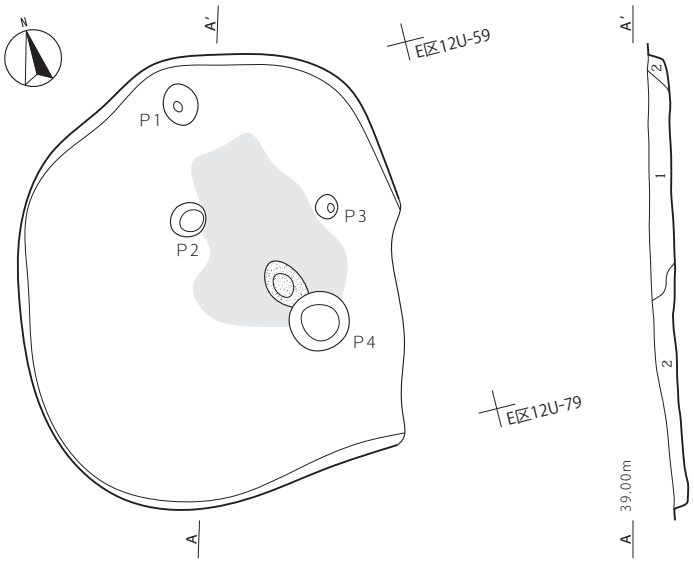
SI019（第205・206図、図版36）

位置：Ｅ区12Ｕ-57グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI020を切る。**規模：**主軸4.82ｍ、副軸（4.11）ｍ、確認面からの深度0.49ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-14°-Ｅ。**炉：**竪穴中央やや南東寄りに位置する。長軸0.48ｍ、短軸0.36ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層と重複するSI020覆土を直接使用しており、炉の周辺が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

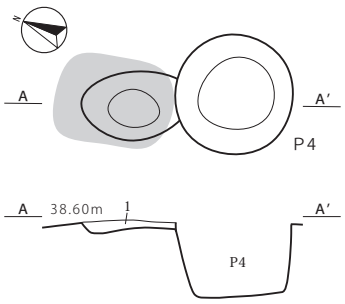
遺物：土器1,938.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　　粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第205図　SI019



1　褐色土(7.5YR4/4)　焼土ブロックφ1～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第206図　SI019炉

SI020（第207 ～ 209図、第74表、図版36・89）

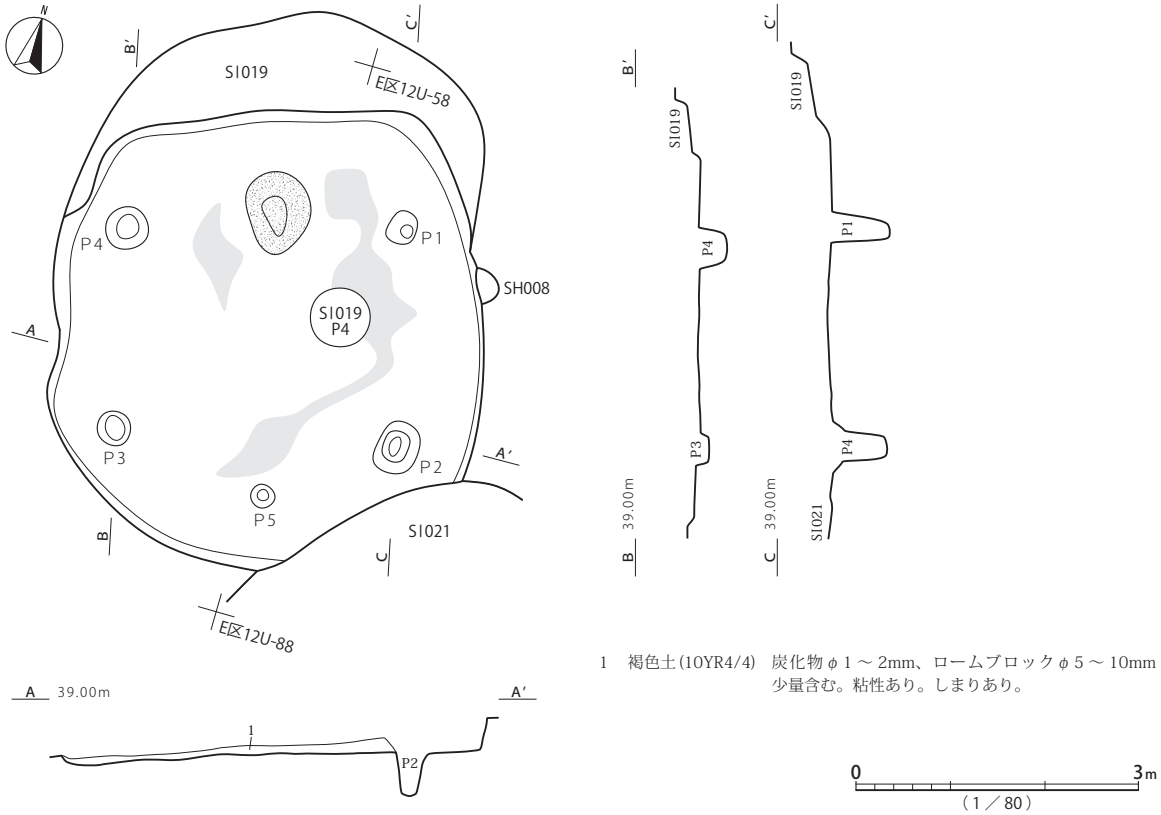
位置：Ｅ区12Ｕ-67グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI019・SI021に切られる。**規模：**主軸（4.88）m、副軸（4.60）m、確認面からの深度0.52ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-16°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.28ｍ、副軸方向3.00ｍ。Ｐ５は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南壁にかけて硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。

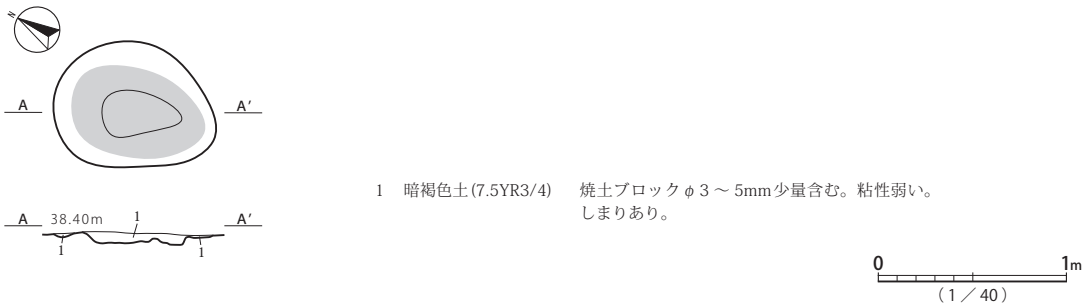
遺物：土器247.6gが出土した。

１は結節による区画、単節羽状縄文が施される。



1　褐色土(10YR4/4)　炭化物φ１～２mm、ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

第207図　SI020



1　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土ブロックφ３～５mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

第208図　SI020炉



第209図　SI020出土遺物

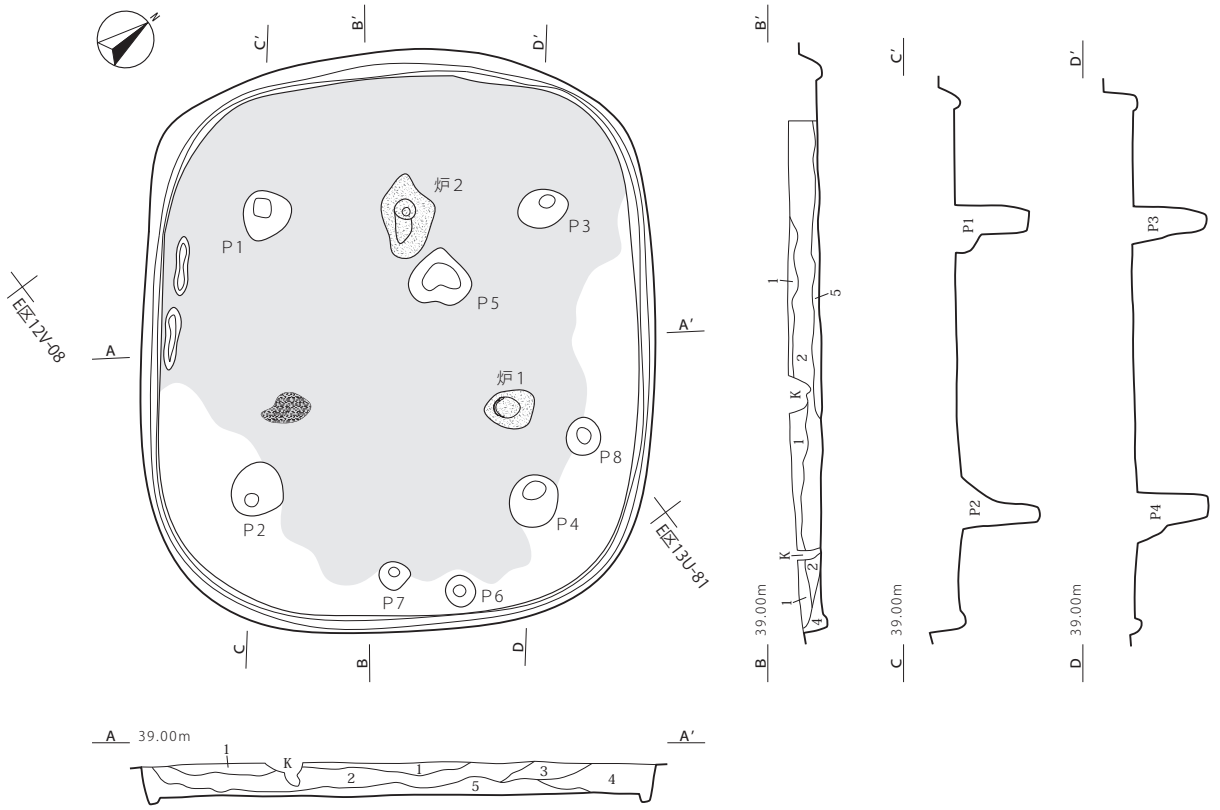
第74表　SI020出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.8] 最大径：　－	外面：胴部結節文（S）・単節羽状縄文（RL・LR） 内面：胴部ナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：灰褐 残存度：胴部の破片	

SI021（第210・211図、図版36・37）

位置：Ｅ区12Ｕ-89グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI020を切る。**規模：**主軸6.16ｍ、副軸5.44ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-53°-Ｗ。**炉：**２基あり竪穴中央やや北東寄りと北西寄りに位置する。炉１は長軸0.52ｍ、短軸0.40ｍで、燃焼面からは、土器片が直立して出土しており、土器囲いに使用されたと考えられる。炉２は長軸



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～60mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～40mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

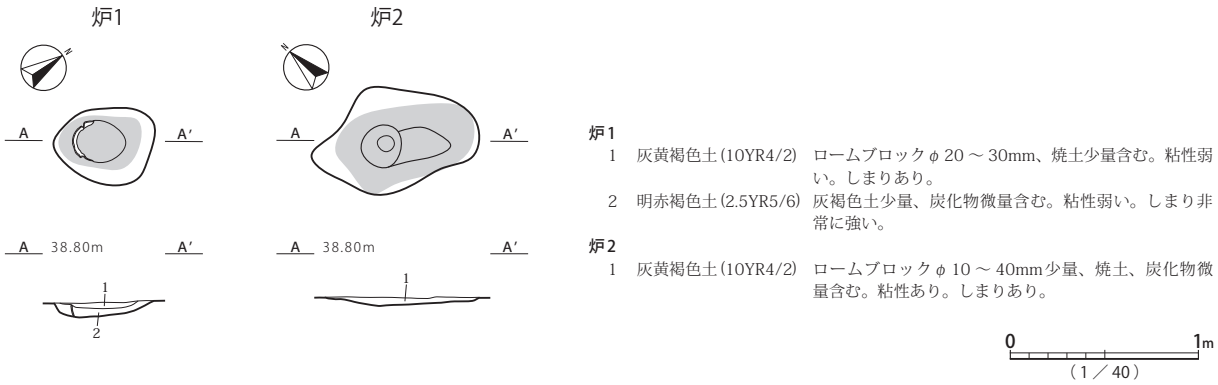
第210図　SI021

0.88ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが８基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸3.12ｍ、副軸2.92ｍ。Ｐ６・Ｐ７は主軸線上、炉の対面に位置し、壁付近で検出さていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は全周し南西側の一部で二重になる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：床面は完存する。２基の炉・主柱穴・周溝が検出された。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器2,685.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



炉1
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ20～30mm、焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　明赤褐色土(2.5YR5/6)　灰褐色土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり非常に強い。

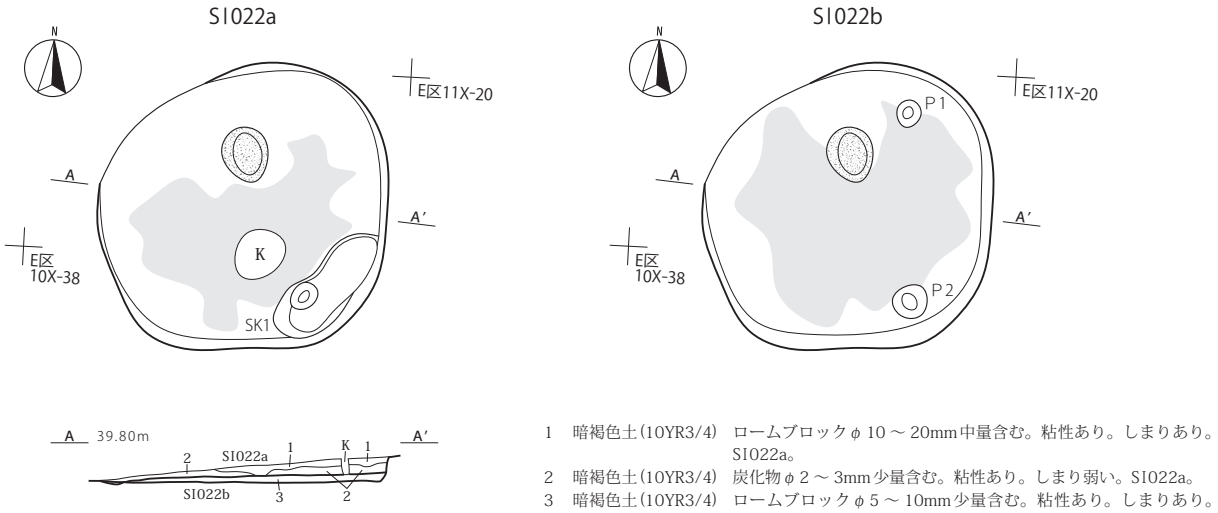
炉2
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～40mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第211図　SI021炉

SI022a・b（第212～214図、図版37）

位置：Ｅ区10Ｘ-29グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.06ｍ、副軸（3.10）ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－３°－Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.60ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用した段階（SI022b）と、ロームブロックの混じ



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。SI022a。
2　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ2～3mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。SI022a。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。SI022b。

0　3m
（1／80）

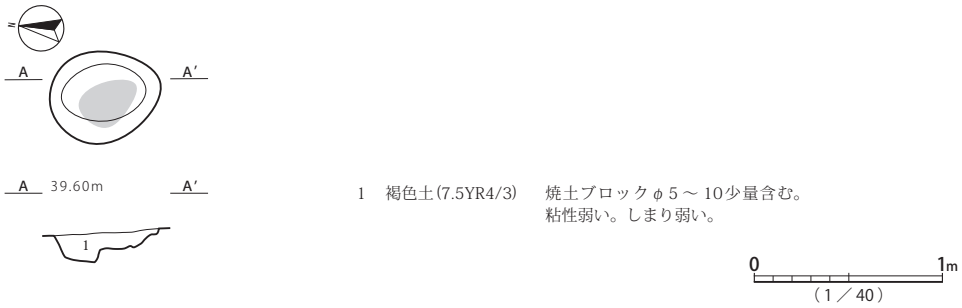
第212図　SI022a・b

る暗褐色土を敷き詰め、その上面を床としていた段階（SI022a）があり、ともに中央の広い範囲が硬化している。上面で土坑１基、下面でピット２基が検出された。

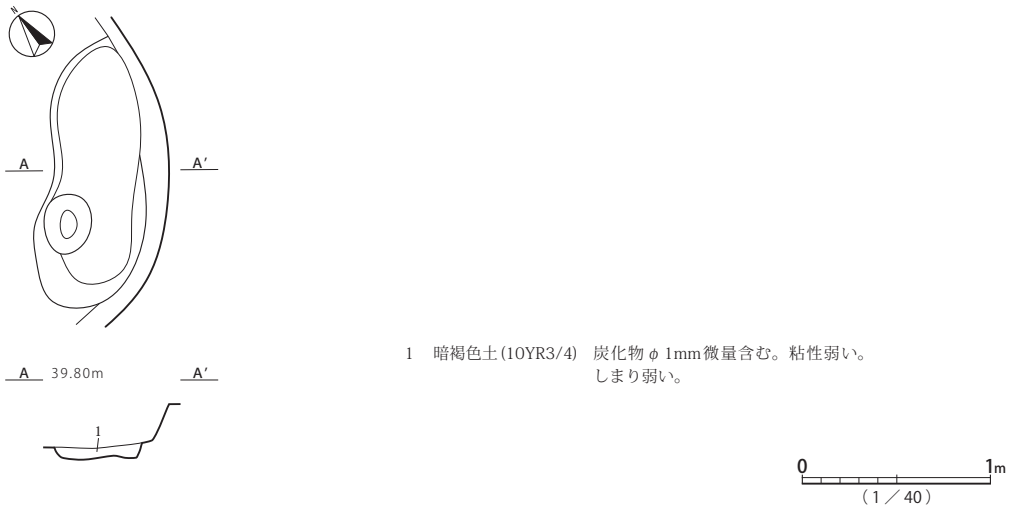
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。新旧２つの床面が検出されたが、炉は周辺がハードローム層まで削平されており、どちらの床面に伴うか明らかでない。

遺物：土器622.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第213図　SI022a・b炉



第214図　SI022aSK1

SI023（第215～217図、第75表、図版37・89）

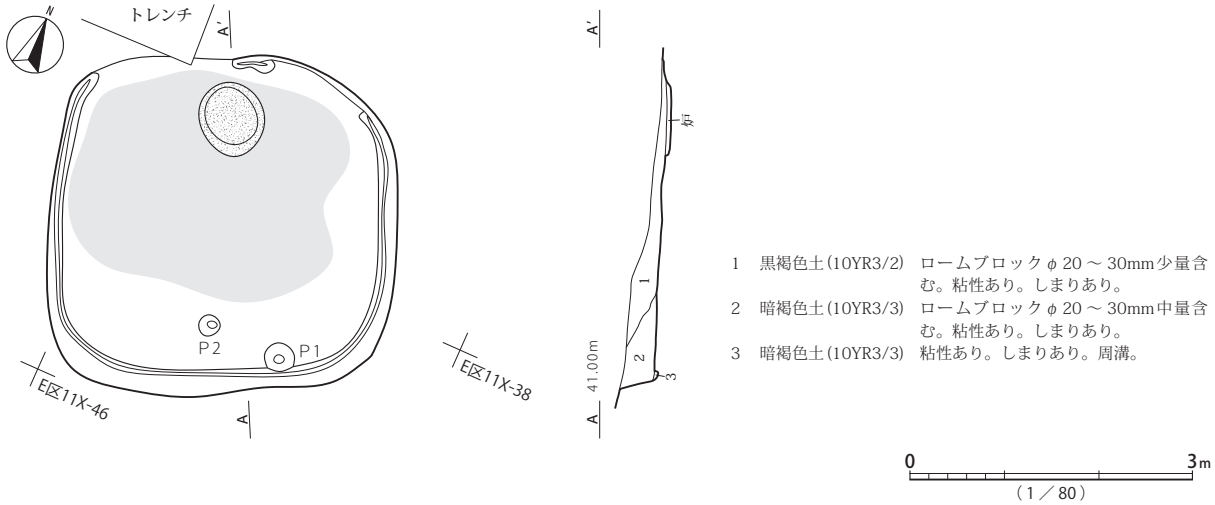
位置：Ｅ区11Ｘ-26グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI024を切る。**規模：**主軸（3.62）m、副軸3.70m、確認面からの深度0.54m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-24°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.76m、短軸0.52mで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北西側のやや広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

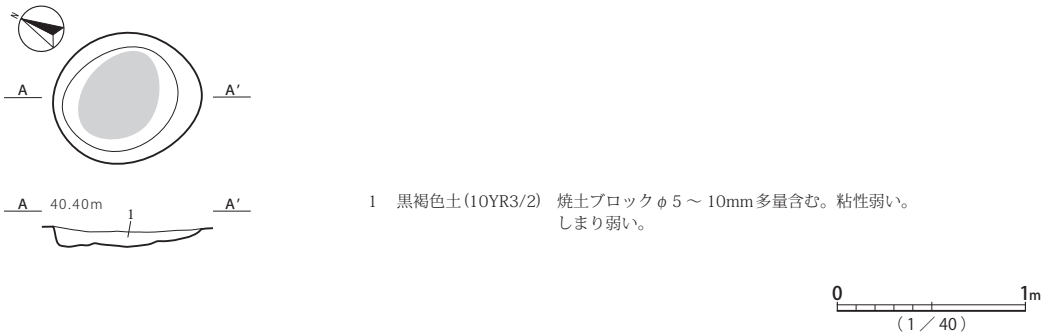
所見：床面は完存する。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。近接するSI024・SI025と形態が類似する。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,666.1g、石器・石製品8.50gが出土した。

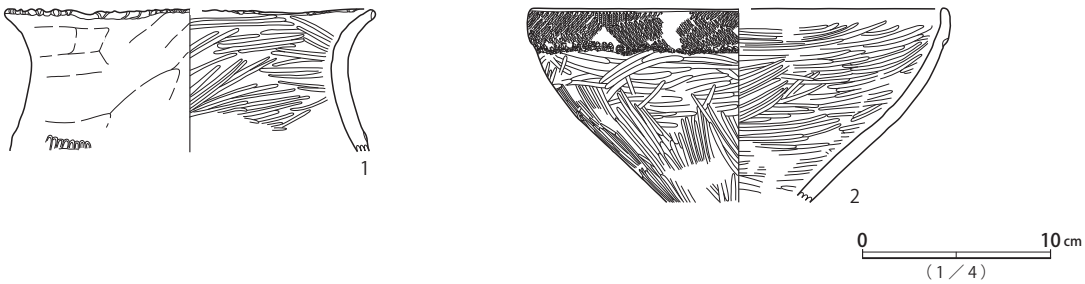
１は甕である。２は鉢としたが、体部下位が狭くなっており、高坏の坏部とも考えられる。



第215図　SI023



第216図　SI023炉



第217図　SI023出土遺物

第75表　SI023出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(19.2) 底　径：　－ 器　高：　[7.5] 最大径：　－	外面：口唇部押圧、口縁部～頸部ヘラナデ、下端押圧 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒顕著・石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の1/4	
2	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(21.7) 底　径：　－ 器　高：[10.3] 最大径：　－	外面：口縁部単節羽状縄文（LR・RL）・縄文原体キザミ、体部ヘラミガキ横位・縦位 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/2	

SI024（第218 ～ 220図、第76表、図版37・90）

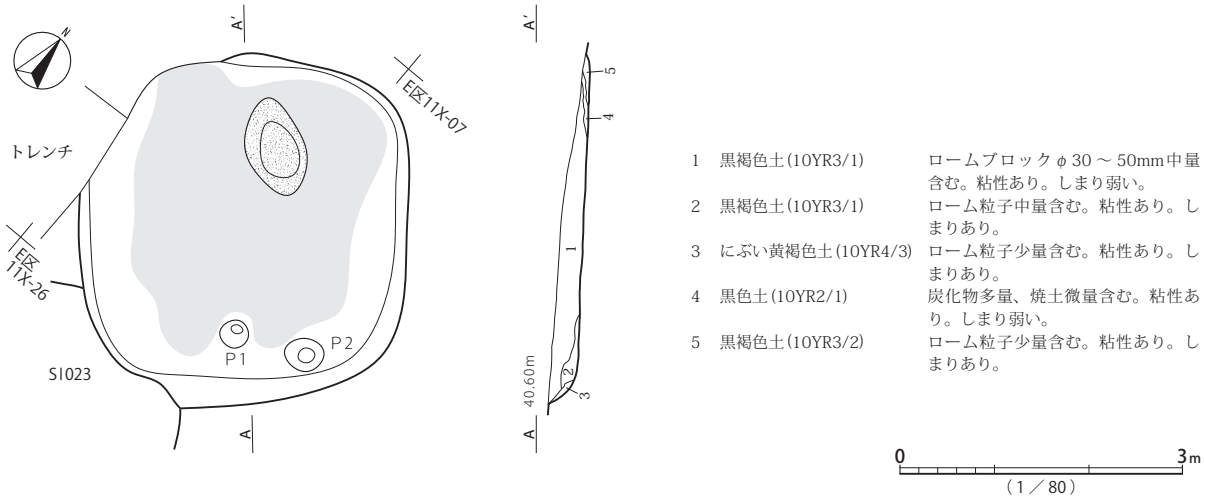
位置：Ｅ区11Ｘ-16グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**SI023に切られる。**規模：**主軸3.76ｍ、副軸3.48ｍ、確認面からの深度0.47ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-40°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.04ｍ、短軸0.64ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずソフトローム層と一部露出したハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

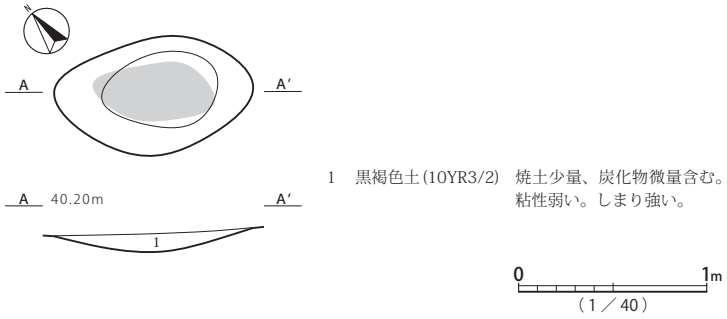
所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器736.7g、縄文土器61.0gが出土した。

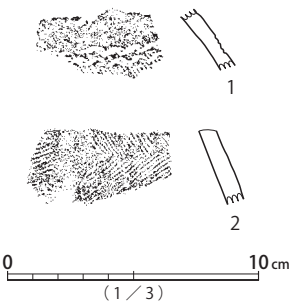
１・２は壺である。１は結節区画および単節縄文が、２は単節羽状縄文が施される。



第218図　SI024



第219図　SI024炉



第220図　SI024出土遺物

第76表　SI024出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[2.4] 最大径：　－	外面：胴部ヘラミガキ横位・結節文（S2段）・単節縄文（RL） 内面：胴部ナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部の破片	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.0] 最大径：　－	外面：胴部単節羽状縄文（RL・LR） 内面：胴部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：胴部の破片	

SI025（第221 ～ 223図、第77表、図版37・90）

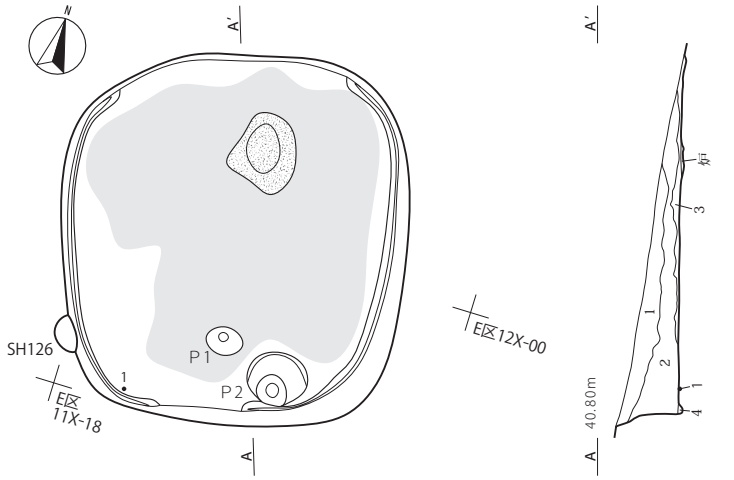
位置：Ｅ区11Ｗ-98グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.96ｍ、副軸3.68ｍ、確認面からの深度0.74ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。周溝は東壁と西壁で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：床面は完存し、壺（１）が出土している。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は尾根方向から緩やかに斜堆積し、自然埋没した状況を示す。下層は、炭化物を多量に含み、建材とみられる炭化木材も検出されたが、焼却・焼失した状況ではない。

遺物：土器2,326.7g、縄文土器23.0gが出土した。

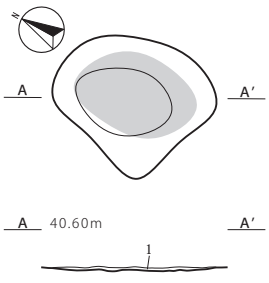
１は壺である。２は甕で、頸部に輪積み痕を一段残し、段部には押圧が施される。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ30 ～ 50mm中量、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒色土(10YR2/1)　焼土、炭化物多量、ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

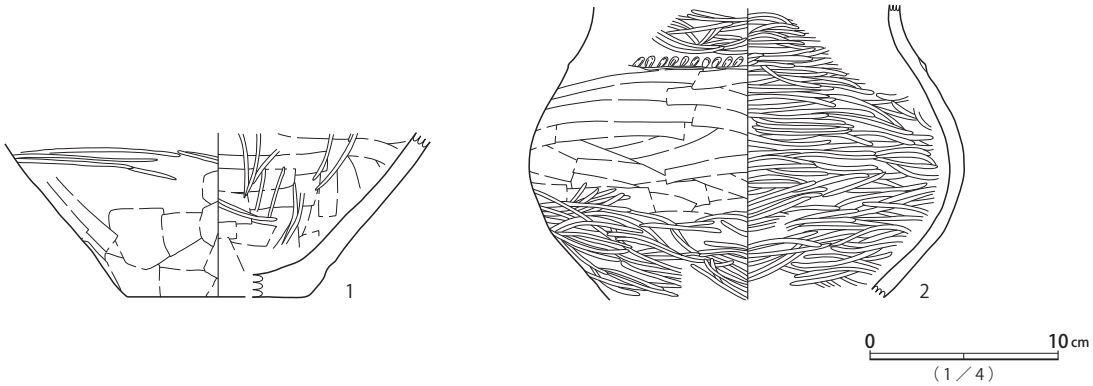
第221図　SI025



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第222図　SI025炉



第223図　SI025出土遺物

第77表　SI025出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　(9.4) 器　高：　[8.7] 最大径：　－	外面：胴部下半ヘラミガキ横位、底部ヘラナデ縦位 内面：胴部下半～底部ヘラナデ横位後ヘラミガキ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部下半～底部の1/3	
2	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[15.5] 最大径：(23.1)	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：肩部ヘラミガキ横位、輪積み部押圧、胴部ヘラナデ・ヘラミガキ横位 内面：肩部～胴部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：肩部～胴部の1/3	

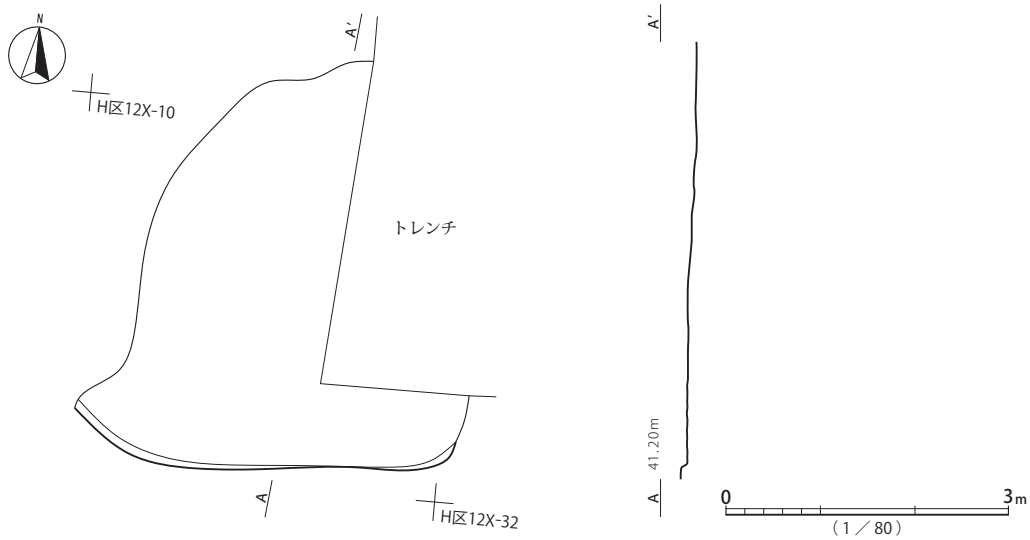
SI026（第224図、図版37）

位置：Ｅ区12Ｘ-11グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**南北方向を主軸と推定し(4.31)ｍ、副軸(4.18)ｍ、確認面からの深度0.23ｍ。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ－５°－Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器208.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第224図　SI026

SI027（第225・226図、第78表、図版37・90）

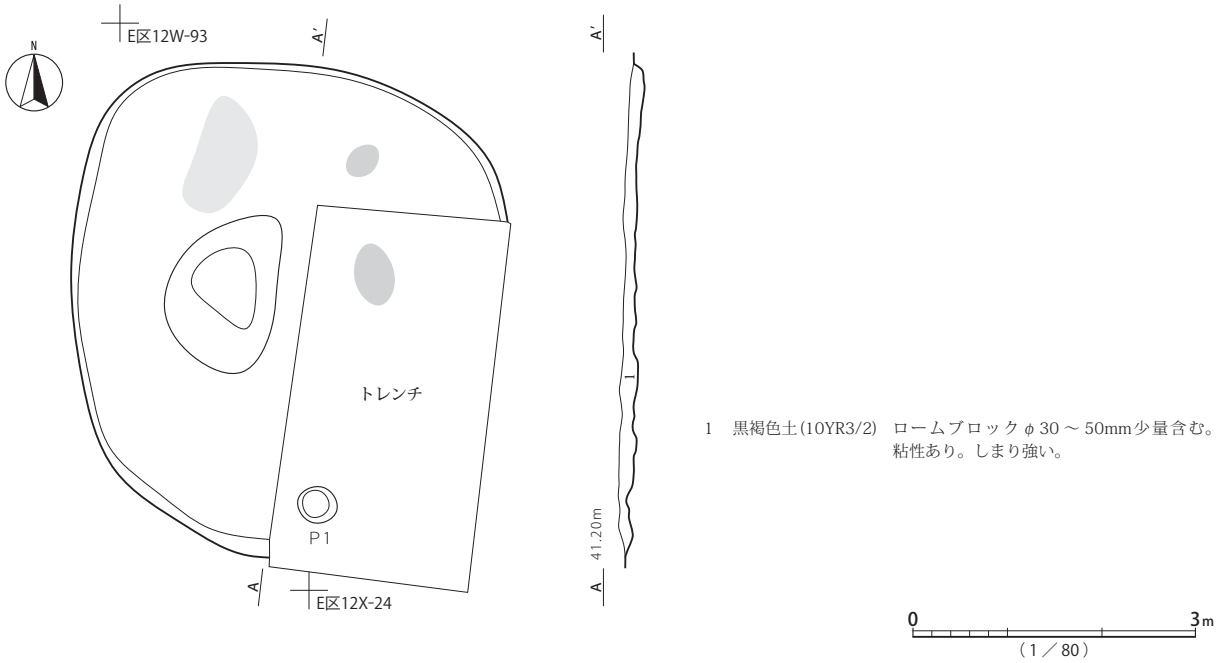
位置：Ｅ区12Ｘ-03グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南東側は削平される。**規模：**主軸（5.24）m、副軸（4.60）m、確認面からの深度0.20ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北西付近がわずかに硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

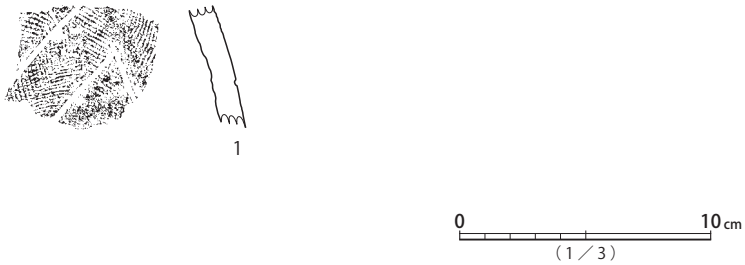
所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が２箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：土器685.2gが出土した。

１は単節羽状縄文の施文ののち、沈線により山形帯を区画している。



第225図　SI027



第226図　SI027出土遺物

第78表　SI027出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［4.9］ 最大径：　－	外面：胴部単節羽状縄文施文後沈線で山形帯を区画、区画外ヘラミガキ、赤彩 内面：胴部ナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部の破片	

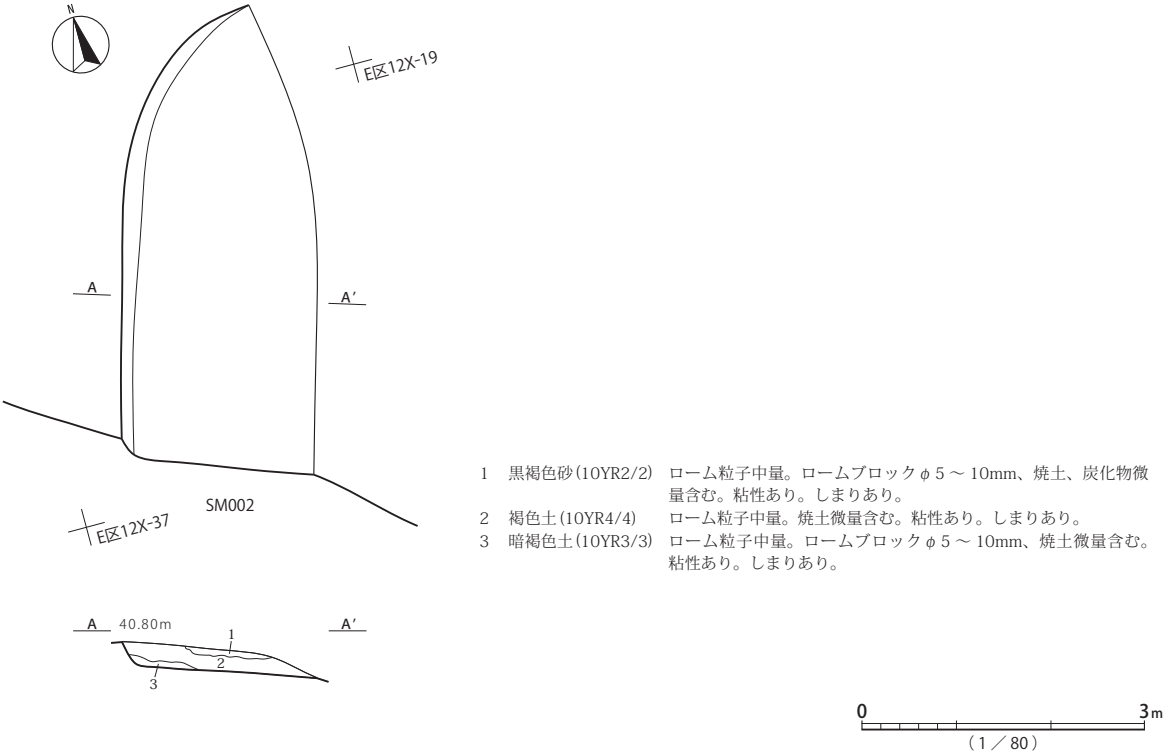
SI028（第227図）

位置：Ｅ区12Ｘ-18グリッドを中心とする台地の東向き急斜面に位置する。**重複：**SM002に切られ、東側は流失している。**規模：**北東－南西方向を主軸と推定し(4.94) m、副軸(2.22)m、確認面からの深度0.44ｍ。**形態：**不明。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。大半が流失しているが壁面が直線的に立ち上がり、底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器205.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第227図　SI028

SI029（第228～230図、第79表、図版38・90）

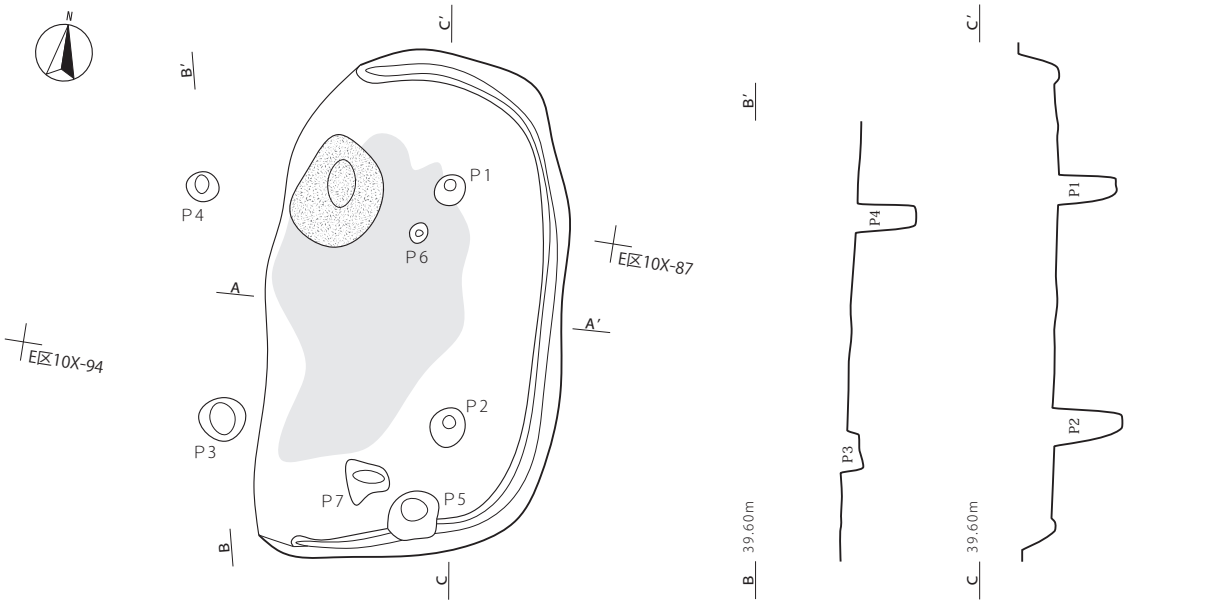
位置：Ｅ区10Ｘ-85グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（5.40）m、副軸（4.08）m、確認面からの深度0.66ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-９°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.20ｍ、短軸0.96ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.44ｍ、副軸方向2.44～2.60ｍ。主柱穴はやや台形状に配置される。周溝は残存部分では全周する。Ｐ５・Ｐ７は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

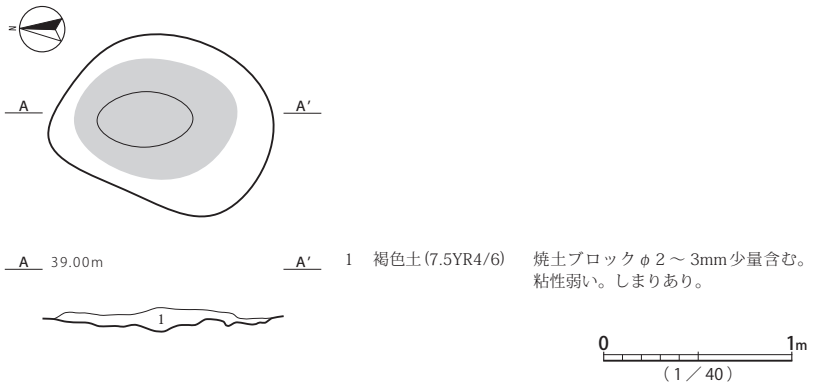
所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。Ｐ３・Ｐ４は床面の残存範囲外だが、配置から主柱穴と考えた。

遺物：土器1,180.9gが出土した。

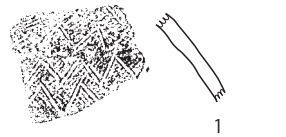
１は単節羽状縄文の充填後、沈線区画の枠外を擦り消す連続山形文が施される。



第228図　SI029



第229図　SI029炉



第230図　SI029出土遺物

第79表　SI029出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.6] 最大径：　－	外面：胴部地文に単節羽状縄文（LR・RL）、後上下沈線区画の連続山形文２段、山形外縄文を粗く磨り消し赤彩 内面：胴部ナデ	胎　土：黒色粒・石英・橙色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい黄橙 残存度：胴部の破片	

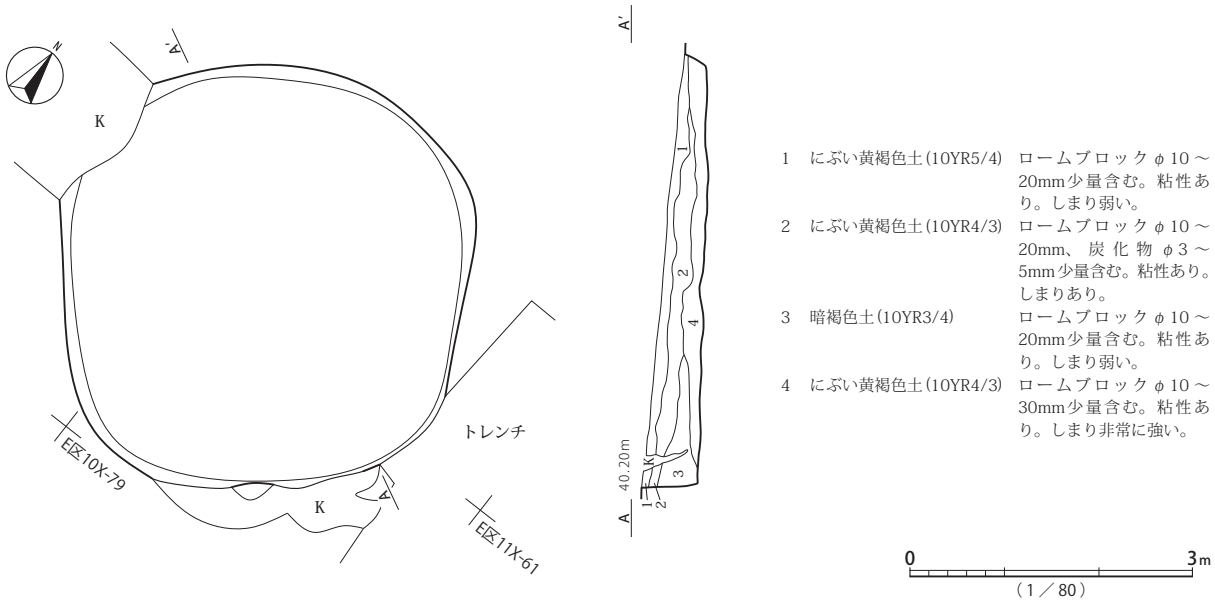
SI030（第231図、図版38）

位置：Ｅ区10Ｘ-59グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側と南西側は撹乱される。**規模：**主軸（4.48）m、副軸4.40ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-38°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：床面はほぼ完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかったが、壁面はほぼ垂直で立ち上がり、底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器430.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第231図　SI030

SI031（第232～235図、第80表、図版38・90）

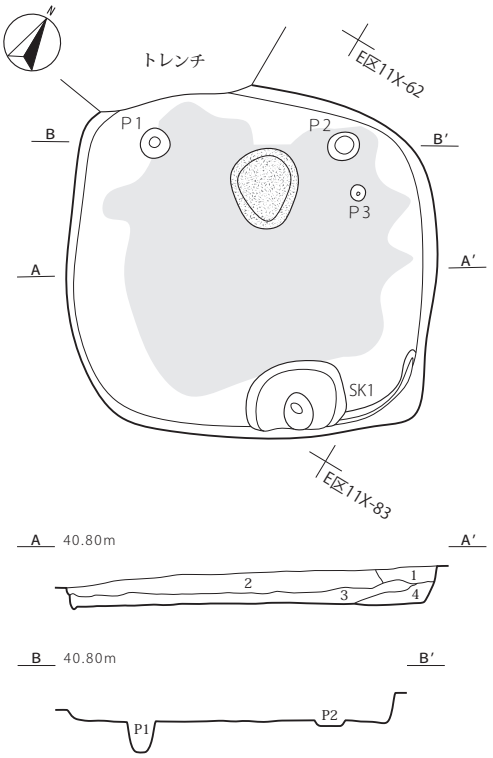
位置：Ｅ区11Ｘ-72グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.72）m、副軸3.92ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-31°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピット３基、土坑１基が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴の可能性があるが、Ｐ２の深度が極めて浅い。SK1は貯蔵穴である。平面形態は長方形で長軸1.08ｍ、短軸0.72ｍ、底面中央に小ピットをもつ。位置からみて出入り口施設下に設置された収納施設と考えられる。周溝は東隅でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器233.5g、縄文土器96.0gが出土した。

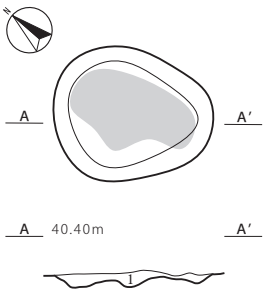
１・２は壺である。１は複合口縁の下部に穿孔が巡る。２は胴部破片で沈線区画による幾何学文が施される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、焼土、炭化物中量含む。粘性あり。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ３～5mm、炭化物中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

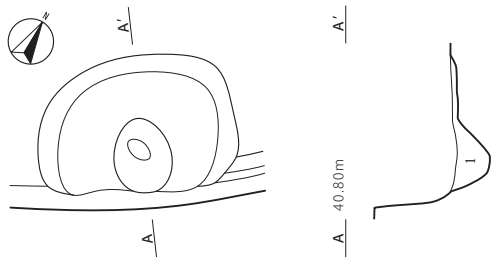
第232図　SI031



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第233図　SI031炉



1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土ブロックφ１～2mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第234図　SI031SK1



0　10cm
（1／3）

第235図　SI031出土遺物

第80表　SI031出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[2.7] 最大径：　－	外面：複合部単節羽状縄文（LR・RL・LR）・下部円形の穿孔 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・角閃石・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
2	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.3] 最大径：　－	外面：胴部沈線で幾何学文・区画内交互に単節縄文とヘラミガキ、赤彩 内面：胴部ナデ	胎　土：砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部の破片	

SI032（第236 ～ 238図、第81表、図版38・90）

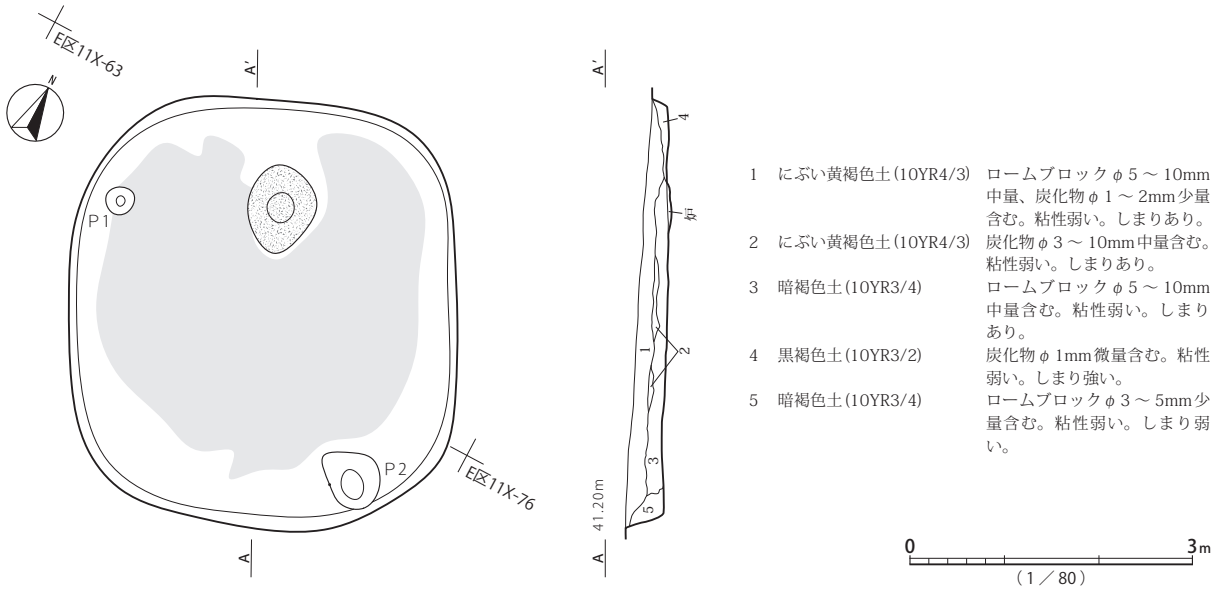
位置：Ｅ区11Ｘ-64グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.62ｍ、副軸4.12ｍ、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-28°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.92ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

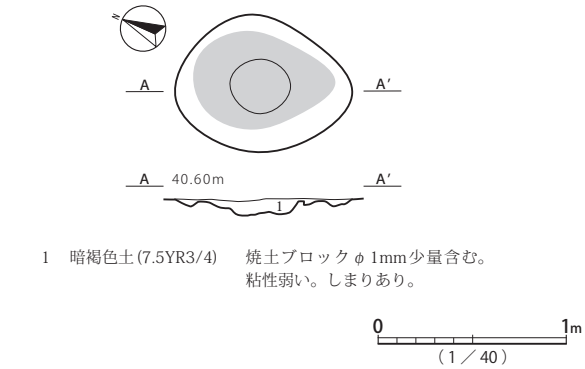
所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器699.2g、軽石17.00g、縄文土器117.0gが出土した。

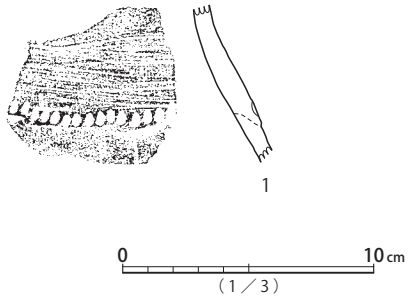
１は輪積み痕を一段残し、段部にキザミを施す。



第236図　SI032



第237図　SI032炉



第238図　SI032出土遺物

第81表　SI032出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[6.3] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：肩部粗いヘラナデ・輪積み部布目キザミ 内面：肩部ナデ後粗いヘラミガキ横位	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：肩部の破片	

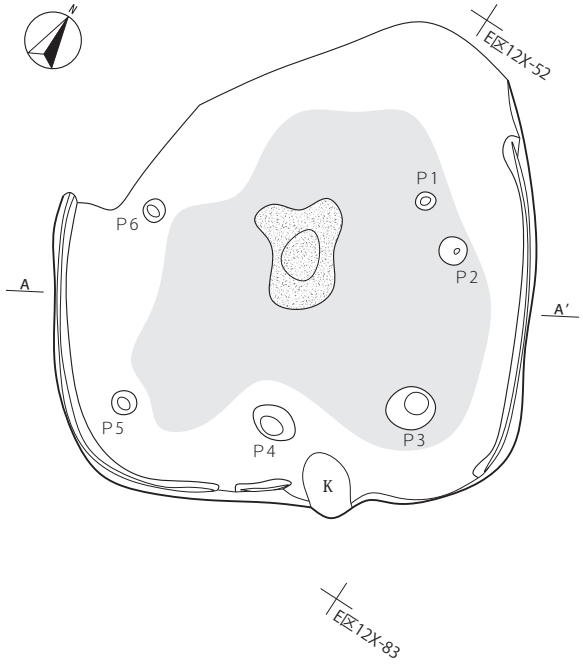
SI033（第239・240図、図版38）

位置：Ｅ区12Ｘ-61グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI034を切る。**規模：**主軸（5.14）m、副軸5.10ｍ、確認面からの深度0.20ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-33°-Ｗ。**炉：**竪穴のほぼ中央に位置する。規模は比較的大きく長軸1.24ｍ、短軸1.12ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。周溝は一部で途切れるが、残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲の広い範囲が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。

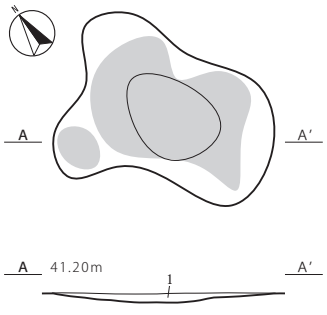
遺物：土器149.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～20mm中量、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第239図　SI033



1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第240図　SI033炉

SI034（第241・242図、第82表、図版38・90）

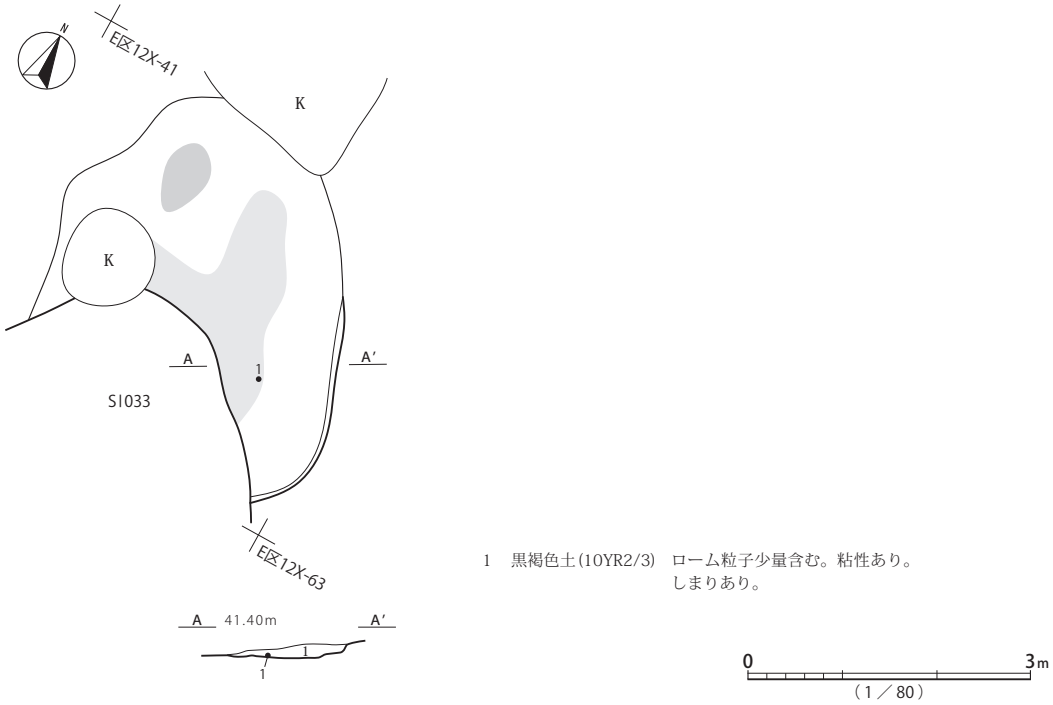
位置：Ｅ区12Ｘ-41グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI033に切られる。**規模：**主軸（4.28）m、副軸（3.32）m、確認面からの深度0.22ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-29°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東壁にかけて硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。床面から鉢（１）が出土している。

遺物：土器577.1gが出土した。

１は内外面が赤彩され、外面にはミガキが密に施される。



第241図　SI034



第242図　SI034出土遺物

第82表　SI034出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	床面	口　径：10.0 底　径：5.0 器　高：9.7 最大径：11.7	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ、赤彩、体部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	

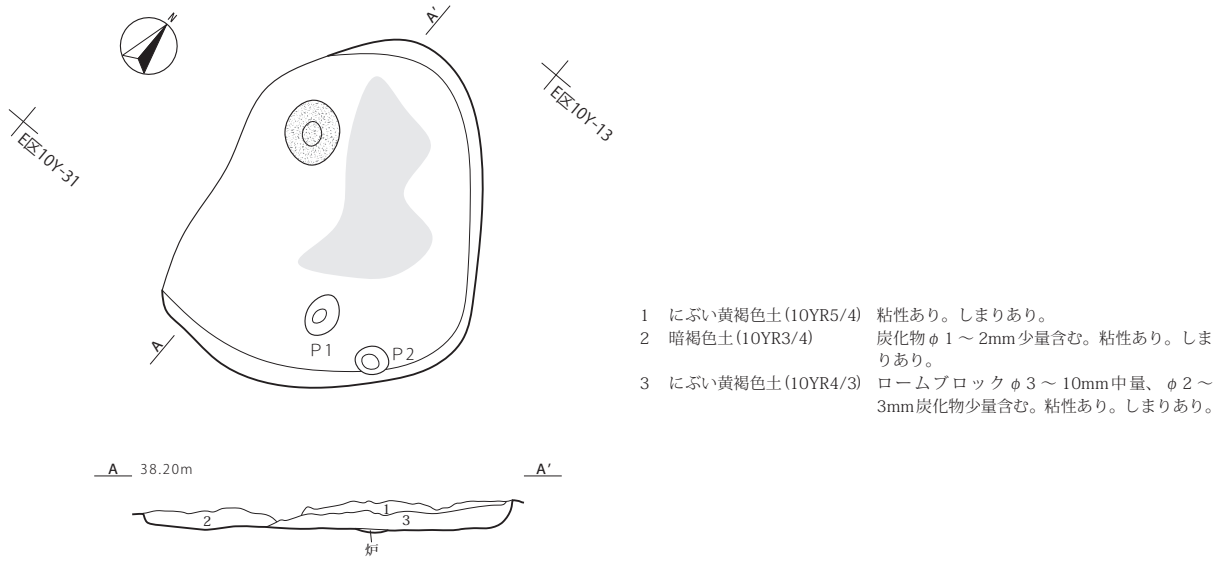
SI035（第243・244図、図版38）

位置：Ｅ区10Ｙ-22グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.72）m、副軸（3.44）m、確認面からの深度0.56ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-40°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の西側付近が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

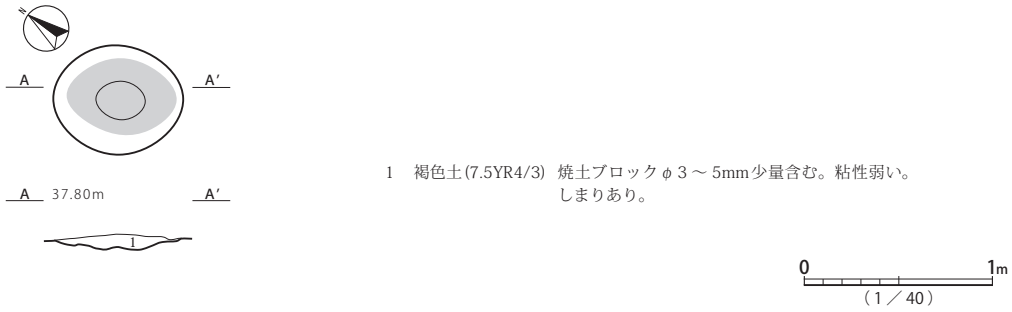
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器299.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ１～２mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ３～10mm中量、φ２～3mm炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。

第243図　SI035



1　褐色土(7.5YR4/3)　焼土ブロックφ３～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

第244図　SI035炉

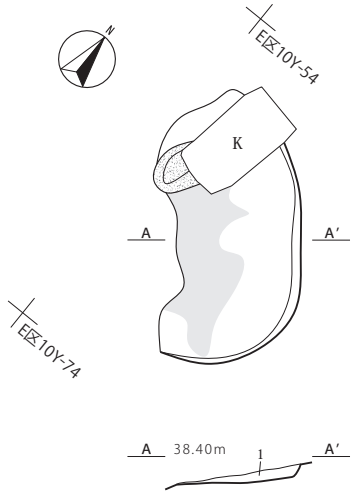
SI036（第245・246図、図版38）

位置：Ｅ区10Ｙ-54グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北側の一部は撹乱される。**規模：**主軸（2.90）m、副軸（1.58）m、確認面からの深度0.30ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-39°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸（0.36）m、短軸0.40ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

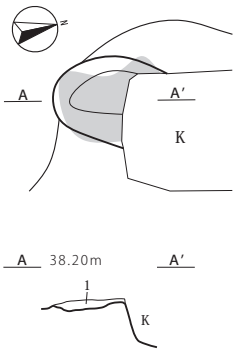
遺物：土器359.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第245図　SI036



1　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土ブロックφ２～3mm微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第246図　SI036炉

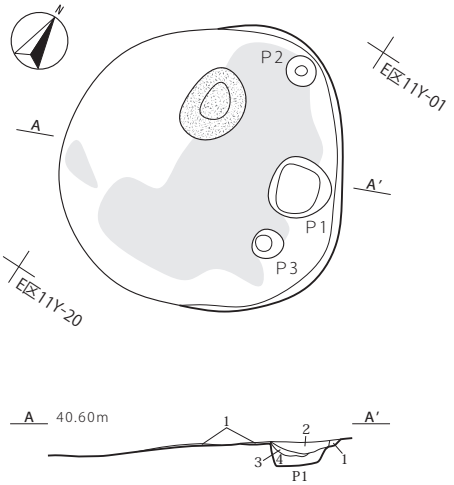
SI037（第247・248図、図版39）

位置：Ｅ区11Ｙ-00グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.06）m、副軸（3.02）m、確認面からの深度0.23ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-33°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東壁にかけて硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

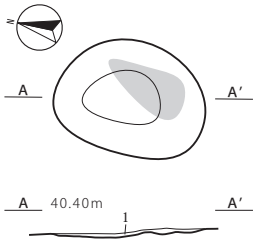
遺物：土器82.0g、縄文土器16.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ２～３mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。P1。
3　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまり弱い。P1。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。P1。

0　3m
（1／80）

第247図　SI037



1　赤褐色土(5YR4/6)　焼土ブロックφ１～３mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第248図　SI037炉

SI038（第249～251図、第83表、図版39・90）

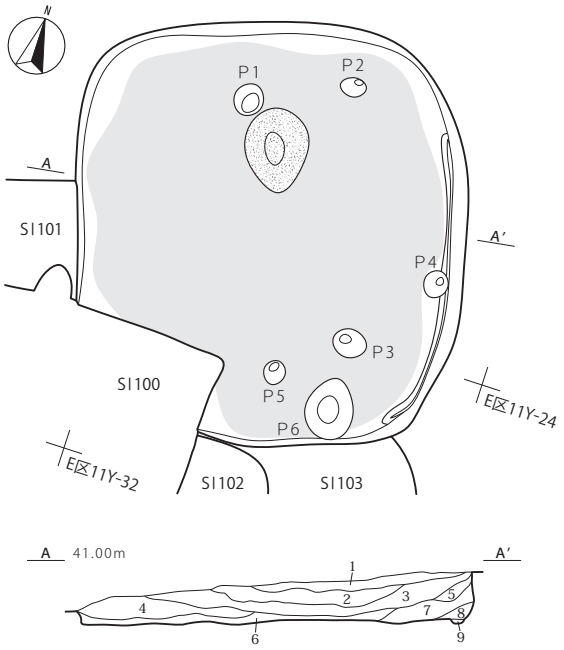
位置：E区11Y-12グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI100～SI103に切られる。**規模：**主軸（4.52）m、副軸4.16m、確認面からの深度0.61m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-18°-W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.88m、短軸0.68mで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。周溝は東壁のみで検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は斜堆積からレンズ状堆積に変化しており、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,715.4g、軽石18.00gが出土した。

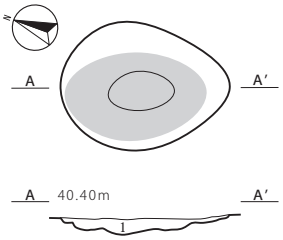
１は炉器台と考えられる。２は甕である。１の受け部はソケット形になっている。２は輪積み痕の段部に円形の刺突が施文される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30～50mm多量、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　褐灰色土(10YR4/1)　ロームブロックφ20～30mm微量含む。粘性強い。しまりあり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ30～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
8　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
9　褐灰色土(10YR4/1)　粘性あり。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

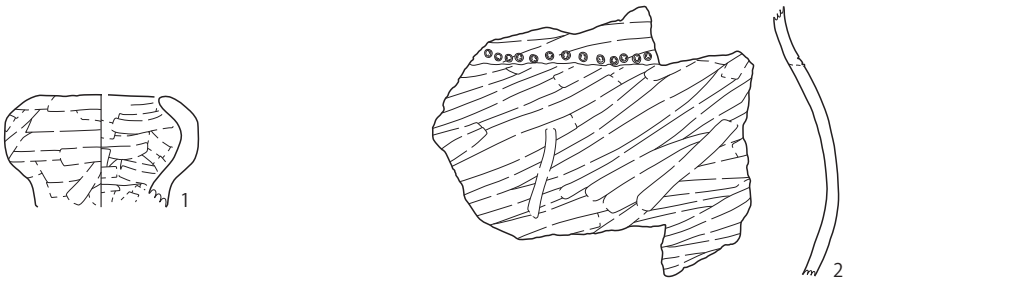
第249図　SI038



1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第250図　SI038炉



0　10cm
（1／4）

0　10cm
（1／3）

第251図　SI038出土遺物

第83表　SI038出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 炉器台	覆土上層	口　径：(6.6) 脚　径：－ 器　高：[6.0] 最大径：－	特徴：ソケット形 外面：口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ヘラナデ	胎　土：砂粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部の1/2	
2	弥生土器 甕	覆土	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[10.7] 最大径：－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：頸部～胴部ヘラナデ・細い筒状工具（イネ科の茎など）による刺突 内面：頸部～胴部ナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：頸部～胴部の1/4	

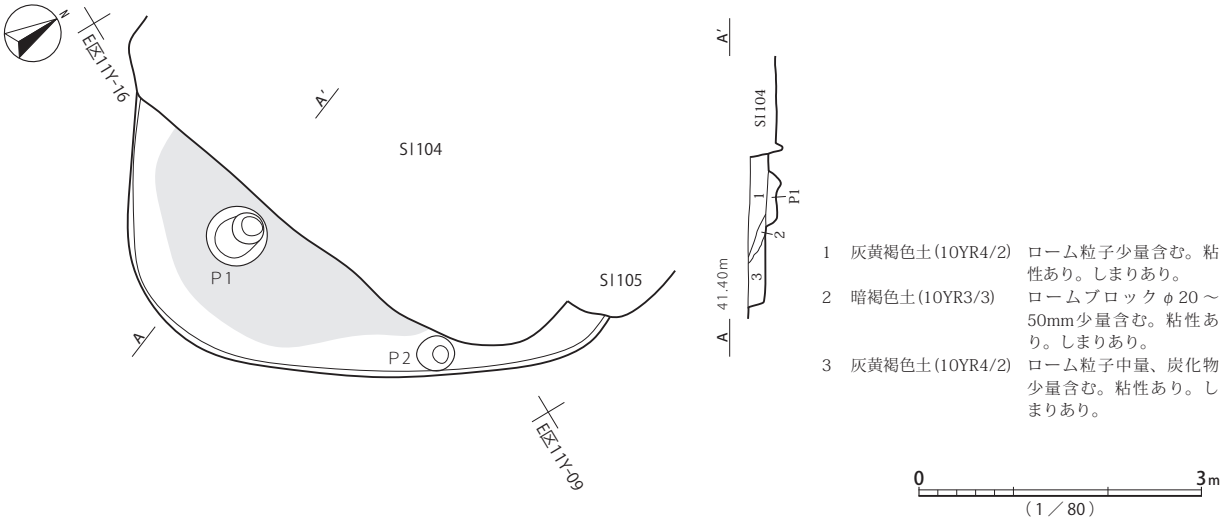
SI039（第252図、図版39）

位置：Ｅ区11Ｙ-07グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI104・SI105に切られる。**規模：**主軸（5.12）m、副軸（2.92）m、確認面からの深度0.28ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-33°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存する南隅付近が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。大部分が削平されているため、全容は不明である。

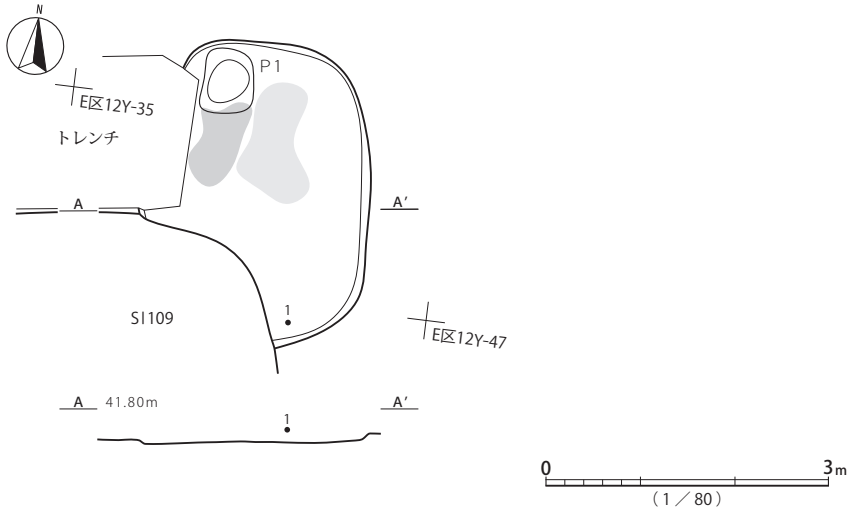
遺物：土器156.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第252図　SI039

SI040（第253・254図、第84表、図版39・90）

位置：Ｅ区12Ｙ-36グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI109に切られる。**規模：**主軸(3.24)ｍ、副軸(2.46)ｍ、確認面からの深度0.15ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-7°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。



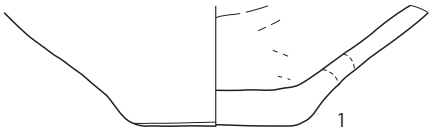
第253図　SI040

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：土器781.4gが出土した。

１の内面は剥落が著しいが、ヘラナデがわずかに確認できる。



0　10cm
（1／4）

第254図　SI040出土遺物

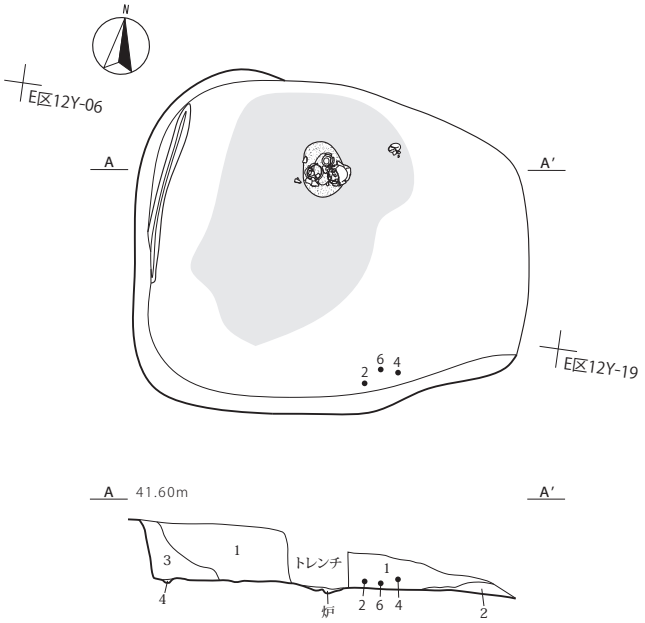
第84表　SI040出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　8.0 器　高：　[6.4] 最大径：　－	外面：胴部下半～底部ナデ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ、器面剥落	胎　土：淡橙色粒顕著・砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部下半～底部の2/3	

SI041（第255～259図、第85表、図版39・90・91）

位置：Ｅ区12Ｙ-07グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI042を切る。**規模：**主軸（3.64）m、副軸（4.20）m、確認面からの深度0.84ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-８°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.60ｍ、短軸0.40ｍで浅く窪む。**施設：**周溝は西壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。



1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

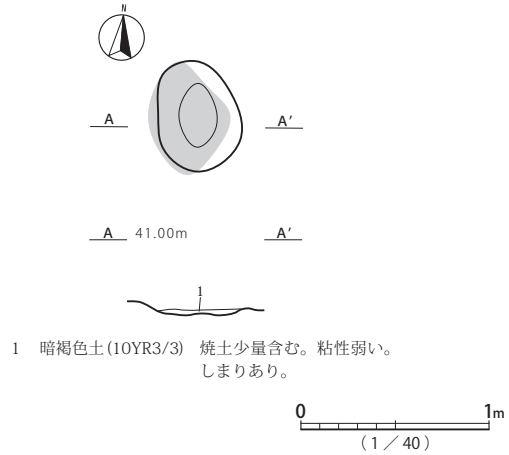
第255図　SI041

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

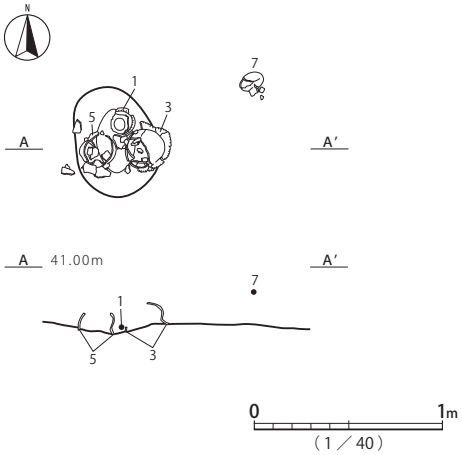
所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。炉内から壺（１）、甕（３・５）が出土している。残存部分からみて副軸幅の広い竪穴建物である。

遺物：土器7,482.9gが出土した。

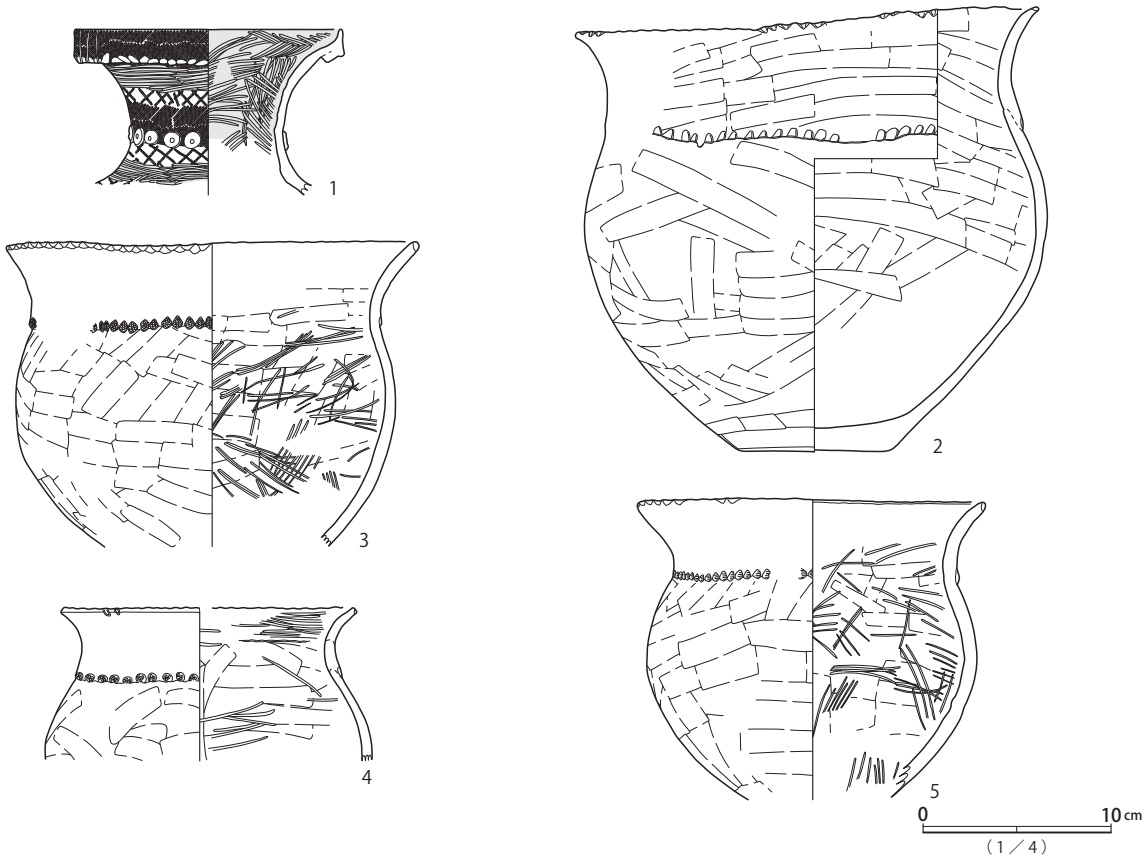
１・８は壺、２～５は甕、６は鉢、７は炉器台である。１は頸部に単節縄文、網目状撚糸文が施文され、刺突のある円形貼付文が添付される。甕は４点とも頸部に輪積み痕を一段残し、段部にはキザミが巡る。７は器受部が丸く膨らみ、裾部が広がるソケット形である。内面は焼成前穿孔が施される。



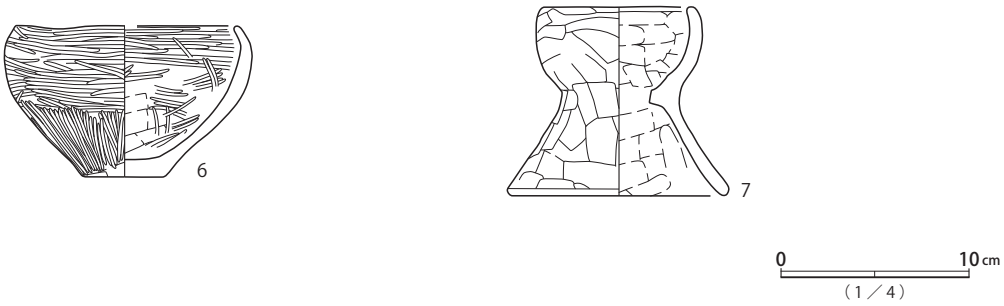
第256図　SI041炉

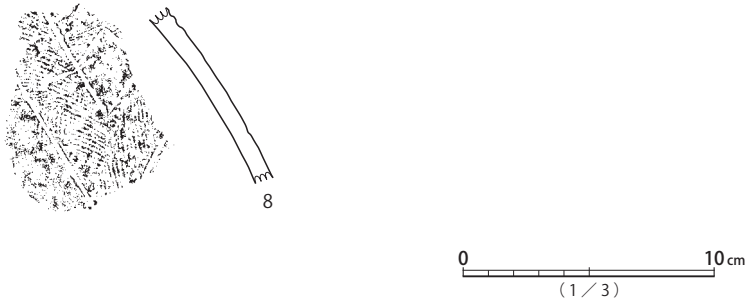


第257図　SI041遺物出土状況



第258図　SI041出土遺物（１）





第259図　SI041出土遺物（２）

第85表　SI041出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	炉	口　径：14.2 底　径：－ 器　高：[8.8] 最大径：－	特徴：複合口縁 外面：複合部単節羽状縄文（LR・RL）・棒状貼付文３本一組４箇所の接合痕・端部筒状工具による刺突、口縁部～頸部ヘラミガキ横位・赤彩・網目状撚糸文・単節羽状縄文（LR・RL）・細い筒状工具による刺突のある円形貼付文・網目状撚糸文・ヘラミガキ横位・赤彩・網目状撚糸文 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部のみほぼ完存	
2	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：24.4 底　径：7.6 器　高：23.5 最大径：24.6	特徴：輪積み痕を１段残す、歪み顕著 外面：口唇部押圧、口縁部ヘラナデ、輪積み部ヘラキザミ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙～褐 残存度：口縁部～底部ほぼ完存	
3	弥生土器 甕	炉	口　径：21.5 脚　径：－ 器　高：[16.2] 最大径：－	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口唇部上から浅い押圧、口縁部ヨコナデ、頸部縄文原体によるキザミ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：暗赤褐 残存度：口縁部～胴部のみほぼ完存	外面煤付着
4	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(15.3) 底　径：－ 器　高：[8.1] 最大径：－	外面：口唇部ヘラキザミ、口縁部ヨコナデ、頸部縄文原体の先端による円形のキザミ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～胴部ヘラナデ横位後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～胴部の1/4	
5	弥生土器 台付甕	炉	口　径：18.2 脚　径：－ 器　高：[15.8] 最大径：－	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口唇部外から浅い押圧、口縁部ヨコナデ、頸部ハケキザミ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部のみほぼ完存	
6	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(11.6) 底　径：4.2 器　高：8.0 最大径：13.1	外面：口縁部～体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ・ヘラナデ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：暗オリーブ褐 残存度：ほぼ完存	
7	弥生土器 炉器台	覆土下層	口　径：8.0 脚　径：11.4 器　高：10.0 最大径：－	特徴：ソケット形 外面：口縁部～裾部ヘラケズリ 内面：口縁部～裾部ヘラナデ横位	胎　土：白色粒・石英・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部～裾部の4/5	孔径2.5cm
8	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[7.8] 最大径：－	外面：胴部沈線で区画、区画内付加条縄文（LR+R）・単節縄文（LR）を方向を変えて施文・無文部ヘラミガキ、赤彩 内面：胴部ナデ	胎　土：石英・橙色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：胴部の破片	

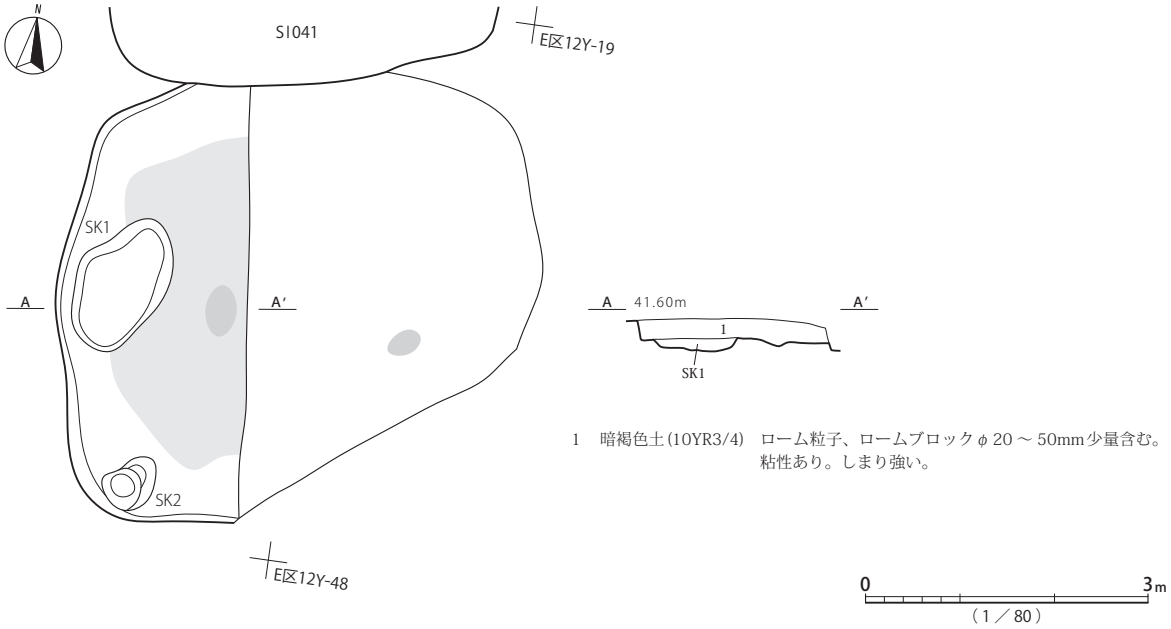
SI042（第260・261図、図版39）

位置：Ｅ区12Ｙ-27グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI041に切られる。**規模：**主軸（4.80）m、副軸（5.12）m、確認面からの深度0.91ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ－８°－Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑が２基検出された。SK1は硬化面を壊して掘り込まれており、本遺構に付属する施設ではない可能性がある。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

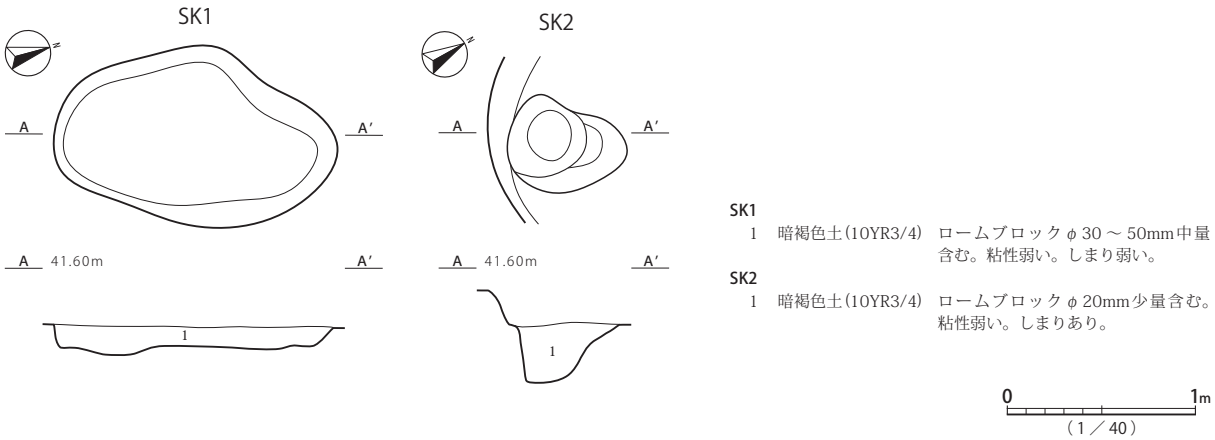
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：仮説道路設置のため先行調査を行うこととなり、西側ほぼ半分の表土掘削を行わない状態での調査着手となった。この際に本遺構の存在を把握することができなかったために東側は遺構範囲の記録に留めてしまい、いびつな平面図となってしまった。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が２箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：土器298.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第260図　SI042



第261図　SI042SK1・SK2

SI043（第262・263図、第86表、図版39・94）

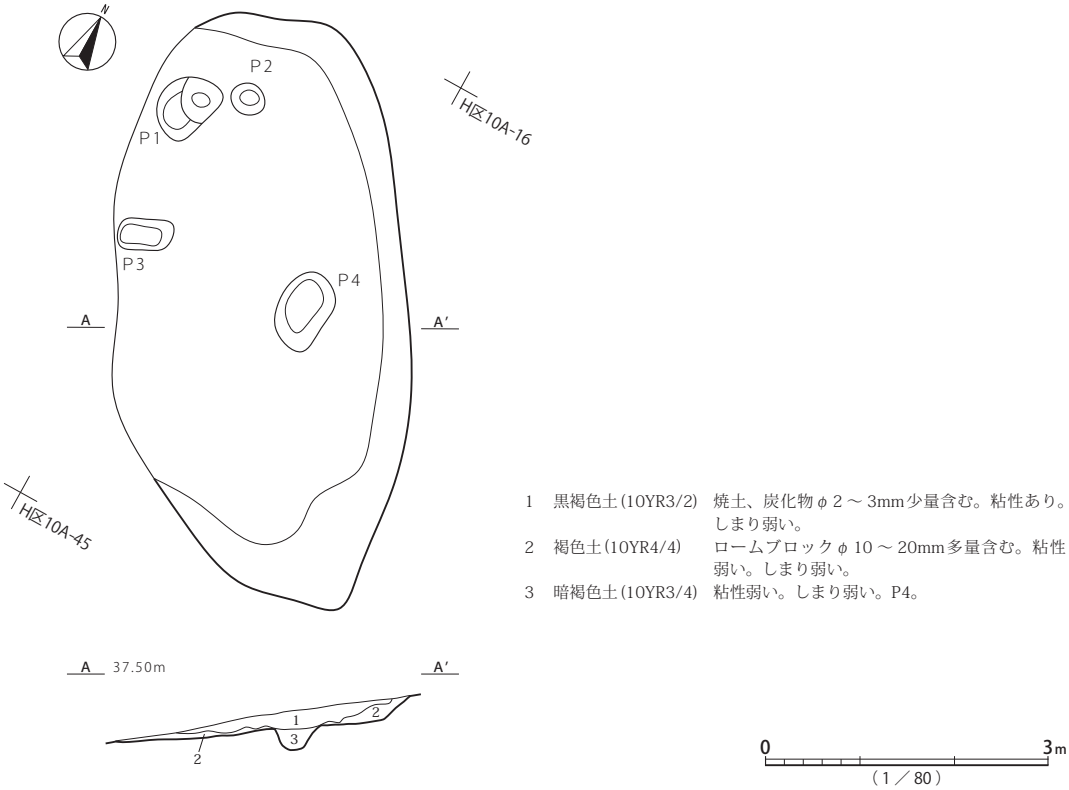
位置：H区10Ａ-25グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**南北方向を主軸と推定し(6.42)ｍ、副軸(3.34)ｍ、確認面からの深度0.53ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-38°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが４基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

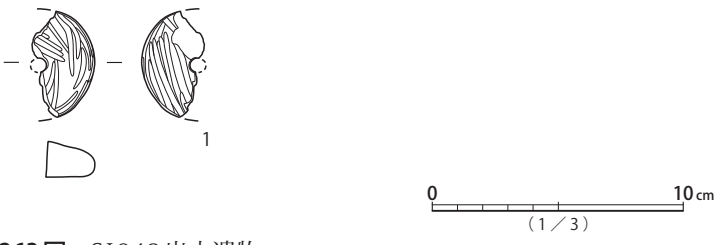
所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。半分が流失しているが壁面は直線的に立ち上がり、底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

遺物：土器3,093.0g、土製品12.29gが出土した。

１は土製紡錘車である。表面にはヘラミガキが施されている。



第262図　SI043



第263図　SI043出土遺物

第86表　SI043出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
1	紡錘車	覆土上層	直径：[4.2]　厚さ：[1.4]　孔径：-	12.3	

SI044（第264 ～ 266図、第87表、図版40・91）

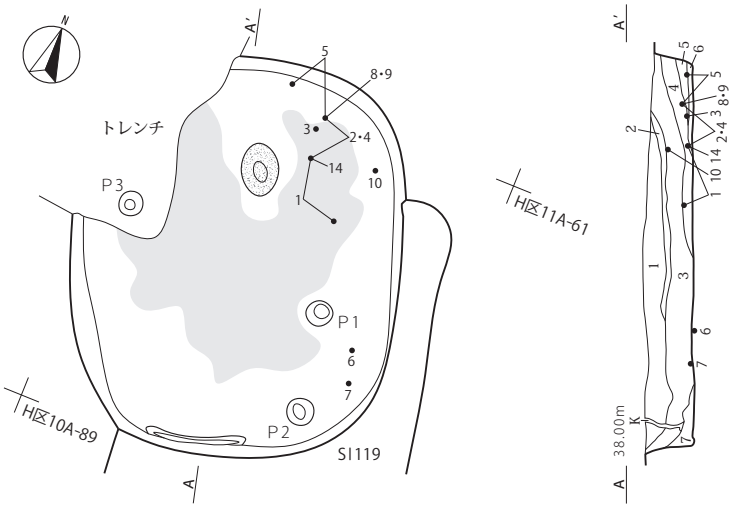
位置：H区10 A -69グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI119に切られる。**規模：**主軸（4.26）m、副軸（3.56）m、確認面からの深度0.78 m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -22°- W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.56 m、短軸0.40 mで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。周溝は南壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代終末期と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。床面から甕（６・７）が出土している。覆土は尾根側からではなく、北東方向から広がるように順次堆積しており、人為的な埋め戻しが推定できる。

遺物：土器13,903.4g、貝68.00gが出土した。

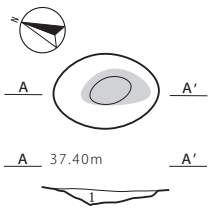
１は広口壺、２・３・11は壺、４～７・12は甕、８・13・14は鉢である。９・10は受け部を欠損するが炉器台とした。５は頸部が指頭により押圧され、輪積み痕が断続的にナデ消されている。６は輪積み痕をナデ消さずに五段残している。８はSI058から出土した破片と接合している。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ１～3mm微量含む。粘性なし。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ２～5mm、焼土中量含む。粘性なし。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ１～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ１～3mm中量含む。粘性なし。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
7　褐色土(10YR4/4)　炭化物φ１～3mm微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　3m
（１／80）

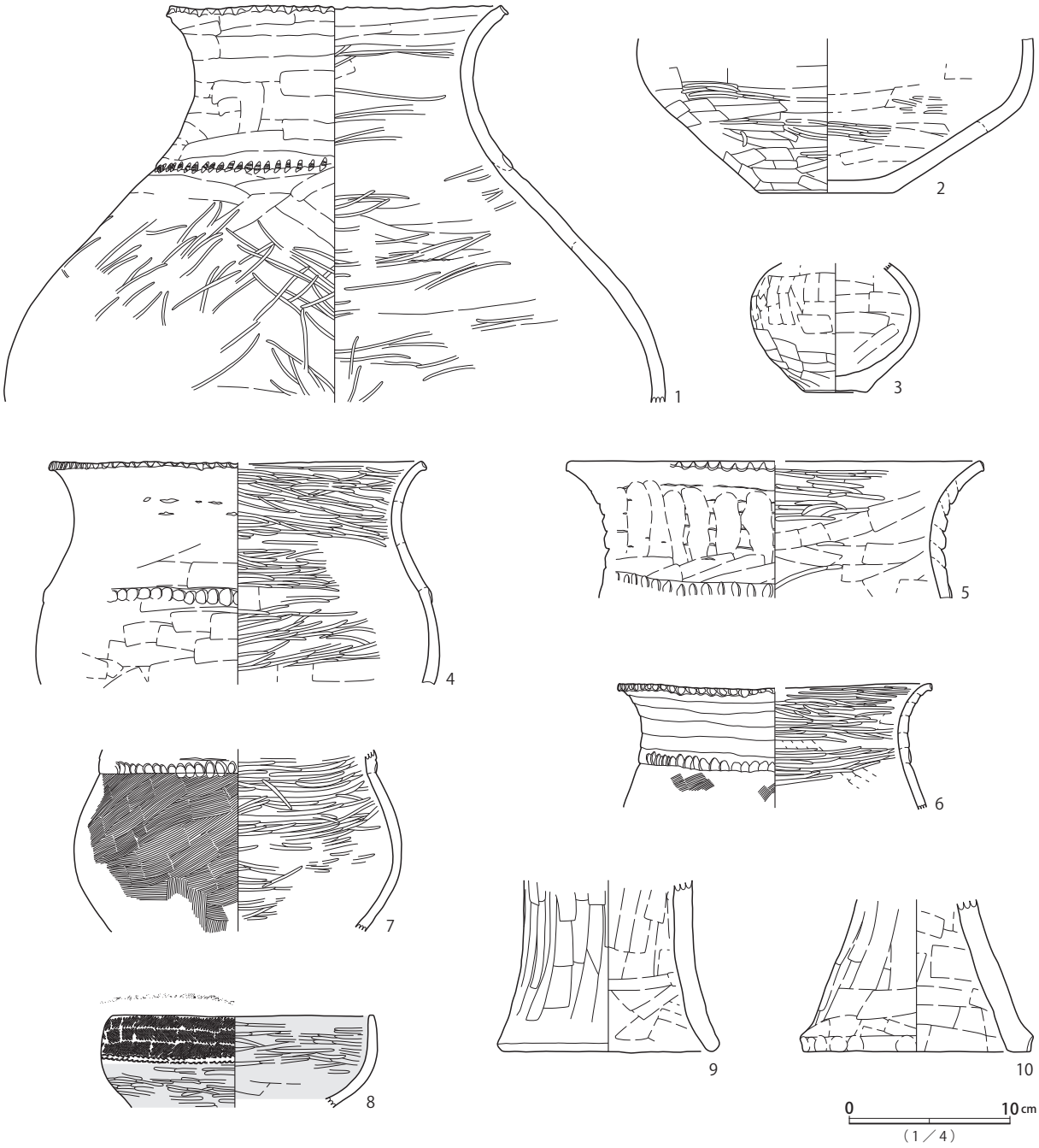
第264図　SI044



1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ２～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第265図　SI044炉



第266図　SI044出土遺物

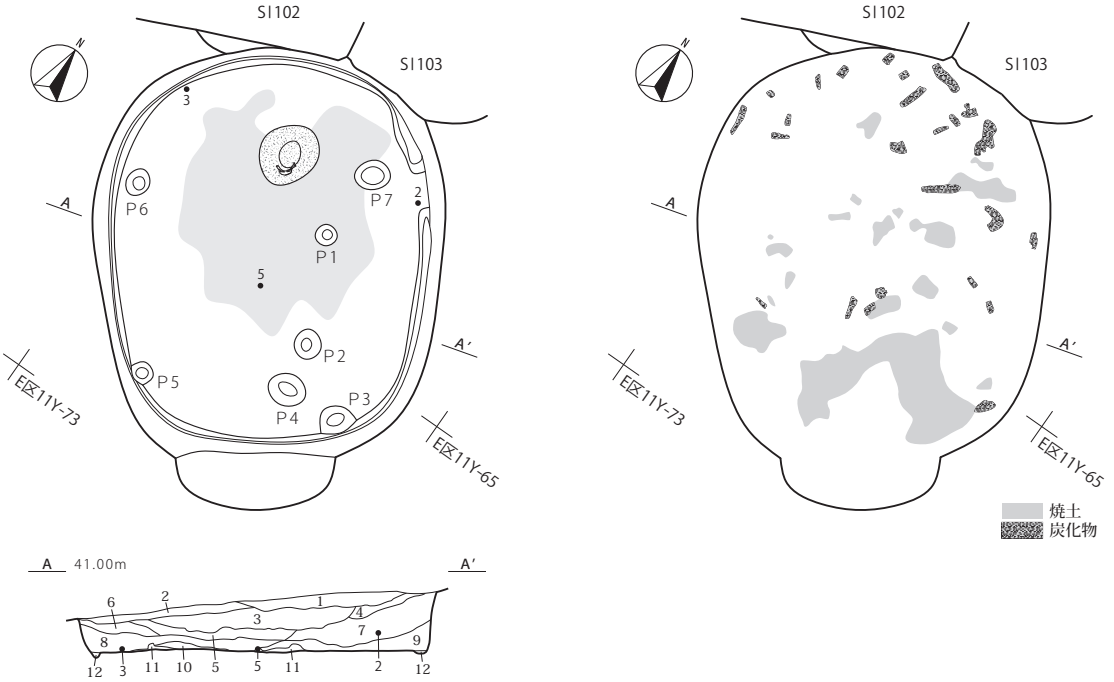
第87表　SI044出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	覆土下層	口　径：20.5 底　径：－ 器　高：[24.6] 最大径：(41.0)	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口唇部押圧、口縁部ヘラナデ横位、輪積み部布目キザミ、胴部ヘラナデ後粗いヘラミガキ斜位 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後粗いヘラミガキ	胎　土：黒色粒顕著・石英・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の2/3	大型壺
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：8.2 器　高：[9.6] 最大径：－	外面：胴部下半～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ後粗いヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部下半～底部の2/3	外面煤付着
3	弥生土器 小型壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：4.0 器　高：[8.0] 最大径：10.4	外面：胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ横位、底部ナデ 内面：胴部～底部ヘラナデ横位	胎　土：石英・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部～底部のみほぼ完存	
4	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(23.0) 底　径：－ 器　高：[13.8] 最大径：(25.2)	外面：口唇部押圧、口縁部ナデ、頸部～胴部ヘラナデ・輪積み部押圧 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	
5	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(25.4) 底　径：－ 器　高：[8.5] 最大径：－	特徴：輪積み痕を６段残す 外面：口唇部押圧、輪積み部間隔を空けたナデ縦位・ヘラナデ、頸部指による押圧 内面：口縁部～頸部ヘラナデ横位後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の1/2	
6	弥生土器 甕	床面	口　径：19.4 底　径：－ 器　高：[7.8] 最大径：－	特徴：輪積み痕を５段残す 外面：口唇部押圧、輪積み部５段目押圧、胴部ハケメ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の3/4	内外面煤付着
7	弥生土器 甕	床面	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[11.3] 最大径：(20.2)	特徴：輪積み痕を２段残す 外面：輪積み部押圧、胴部ハケメ斜位 内面：頸部～胴部ヘラミガキ横位	胎　土：白色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：にぶい赤褐 残存度：頸部～胴部の1/4	胴部外面煤付着
8	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：16.2 底　径：－ 器　高：[5.7] 最大径：17.1	外面：口唇部単節縄文（LR・RL）交互施文、口縁部単節羽状縄文（LR・RL・LR）・結節文（S2段）・体部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、体部ヘラナデ、赤彩	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の2/3	SI058出土破片と接合
9	弥生土器 炉器台	覆土下層	口　径：－ 脚　径：(13.0) 器　高：[10.6] 最大径：－	外面：脚部ヘラケズリ縦位 内面：脚部ヘラナデ縦位・横位	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：脚部の1/3	
10	弥生土器 炉器台	覆土中層	口　径：－ 脚　径：(14.0) 器　高：[9.4] 最大径：－	外面：脚部ヘラナデ縦位・横位、裾部指頭圧痕 内面：脚部ヘラナデ横位	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：脚部の1/4	
11	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[2.7] 最大径：－	特徴：複合口縁 外面：複合部単節羽状縄文（LR・RL）・下からのヘラキザミ・棒状貼付文３本一組、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
12	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[6.1] 最大径：－	外面：頸部ヨコナデ、筒状工具による刺突文 内面：頸部ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒顕著・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：頸部の破片	
13	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[4.0] 最大径：－	外面：口縁部単節羽状縄文（LR・RL）・結節文（S2段）、体部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ縦位、赤彩	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
14	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[9.6] 最大径：－	外面：口縁部単節羽状縄文（LR・RL・LR）・結節文（Ｓ２段）・ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～体部ヘラナデ後粗いヘラミガキ横位	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の破片	

SI045（第267 ～ 269図、第88・89表、図版40・91・92・94）

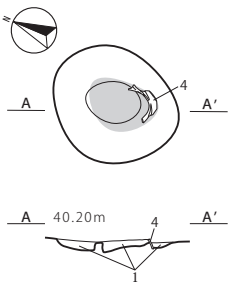
位置：Ｅ区11Ｙ-53グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI102・SI103に切られる。**規模：**主軸4.32ｍ、副軸3.76ｍ、確認面からの深度0.71ｍ。**形態：**小判形。南東壁は崩落により変形している。**主軸方位：**Ｎ-35°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪み、燃焼面からは甕（４）が直立して出土しており、土器囲いに使用されたと考えられる。**施設：**ピットが７基検出された。周溝はほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10 ～ 20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ50mm少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ50mm、焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
8　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10 ～ 50mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
9　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、焼土、炭化物φ10 ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10 ～ 50mm、炭化物少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
11　赤色土(10R4/6)　ローム粒子中量、炭化物少量、焼土含む。粘性弱い。しまり弱い。
12　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

第267図　SI045



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土ブロックφ２～ 3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

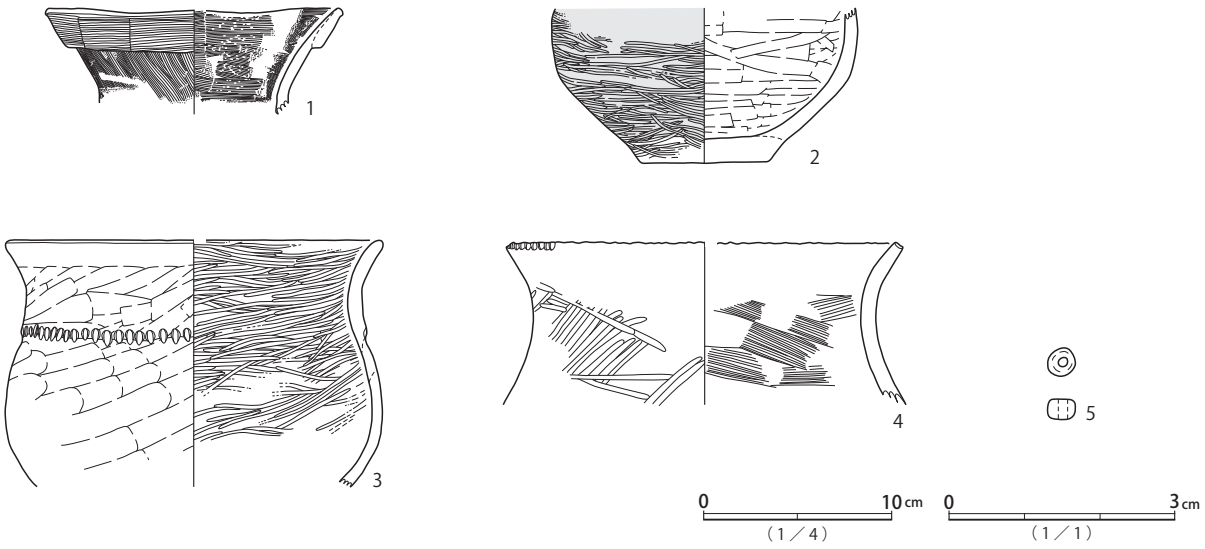
第268図　SI045炉

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：床面は完存すし、甕（３）、ガラス小玉（５）が出土している。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土の下層から床面にかけて、多量の炭化物や焼土、上屋の建材とみられる炭化木材が検出された。床面は、強い被熱によって赤化・硬化していることから、焼却・焼失した建物と考えられる。また、炭化木材の集中範囲から、上屋が北側に倒壊した可能性がある。

遺物：土器3,218.1g、土製品130.0g、玉類0.04gが出土した。

１・２は壺、３・４は甕である。１は口縁の折り返し部に横位、頸部には縦位のハケメ調整が施される。３は４と異なり、口唇部にキザミはみられない。５はガラス小玉で、色調は薄い青緑色である。



第269図　SI045出土遺物

第88表　SI045出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：(15.3) 底　径：　－ 器　高：　[5.6] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ハケメ横位、頸部ハケメ縦位 内面：口縁部ハケメ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：浅黄橙 残存度：口縁部の1/2	
2	弥生土器 壺	覆土中層	口　径：　－ 底　径：　6.8 器　高：　[8.2] 最大径：(16.0)	外面：胴部～底部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：胴部～底部ヘラナデ横位	胎　土：砂粒・石英・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/2	内外面煤付着
3	弥生土器 甕	床面	口　径：(19.5) 底　径：　－ 器　高：[13.1] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ横位、輪積み部ヘラキザミ、胴部ヘラナデ斜位 内面：口縁部～胴部ヘラミガキ横位	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙～黒褐 残存度：口縁部～胴部の1/3	内外面煤付着
4	弥生土器 甕	炉	口　径：(21.0) 底　径：　－ 器　高：　[8.0] 最大径：　－	外面：口唇部ヘラミキザミ、口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ横位 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒・石英・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部～頸部の1/3	

第89表　SI045出土玉類観察表

単位：mm

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
5	小玉	ガラス	床面	2.7	2.7	3.9	3.7	1.9	1.2	0.04	薄青緑	

SI046（第270 ～ 272図、第90表、図版40・92）

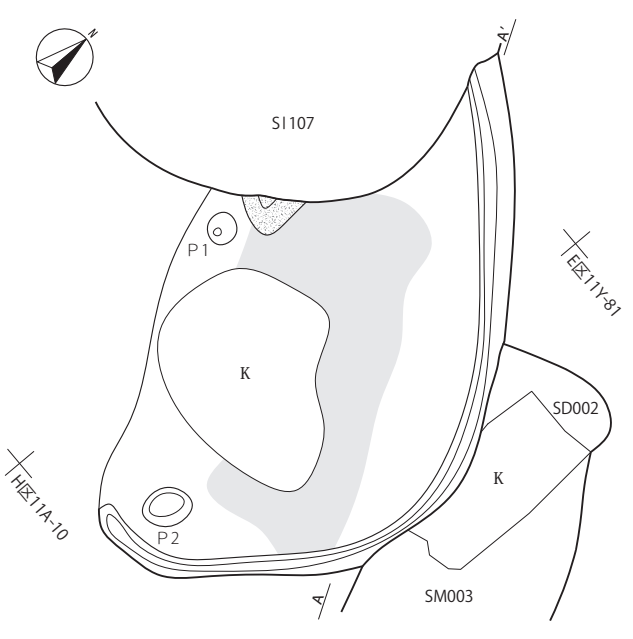
位置： E区11Y-90グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SM003、SI107、SD002に切られる。**規模：**主軸（5.60）m、副軸（4.42）m、確認面からの深度0.63m。**形態：**小判形。**主軸方位：**N-50°-W。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸（0.40）m、短軸0.64mで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東壁にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土の上層は、自然堆積とみられるが、北側の下層には、大きなロームブロックを含む褐色系の土がある程度の単位に分かれる。一定方向に堆積していることから、一部において人為的な埋め戻しがあったとみられる。

遺物：土器446.8g、須恵器1.0gが出土した。

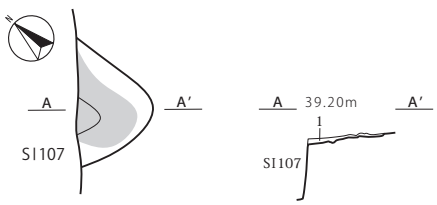
１は折り返し部をもち、内外面は赤彩される。



1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10 ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまりなし。
2　褐色土(7.5YR4/4)　ロームブロックφ10 ～ 30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ20 ～ 50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
5　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
6　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

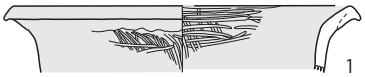
第270図　SI046



1　褐色土(7.5YR4/6)　焼土ブロックφ１～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第271図　SI046炉



第272図　SI046出土遺物

第90表　SI046出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	覆土	口　径：(17.8) 底　径：　– 器　高：　[3.5] 最大径：　–	**特徴**：折り返し口縁 **外面**：折り返し部ヘラミガキ横位・ヘラミガキ縦位、赤彩 **内面**：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	**胎　土**：石英・黒色粒・砂粒・海綿骨針 **焼　成**：普通 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部の破片	

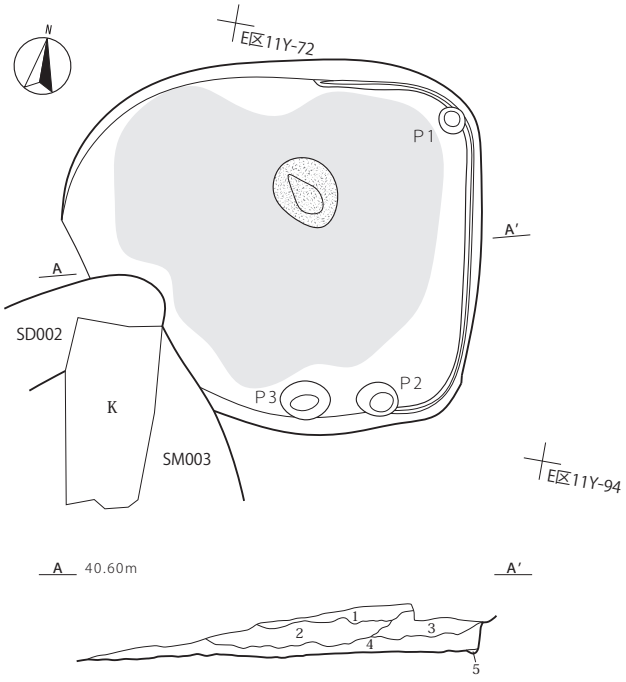
SI047（第273・274図、図版47）

位置：Ｅ区11Ｙ-82グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI048を切り、SM003、SD002に切られる。**規模：**主軸4.00ｍ、副軸（4.44）ｍ、確認面からの深度0.67ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-10°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.64ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ２・Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は北壁から南東隅にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

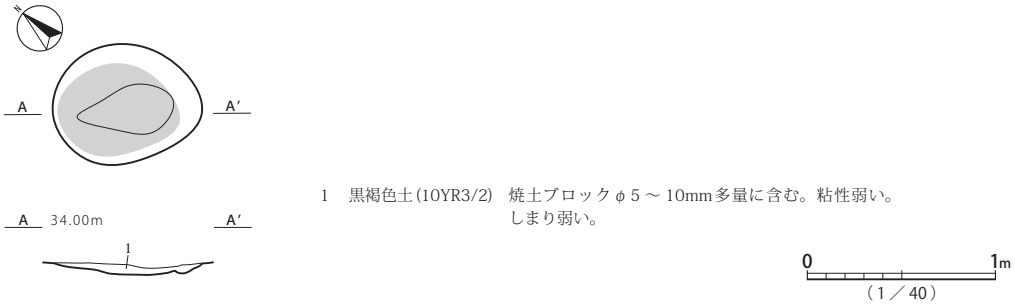
遺物：土器612.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10～30mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱い。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

第273図　SI047



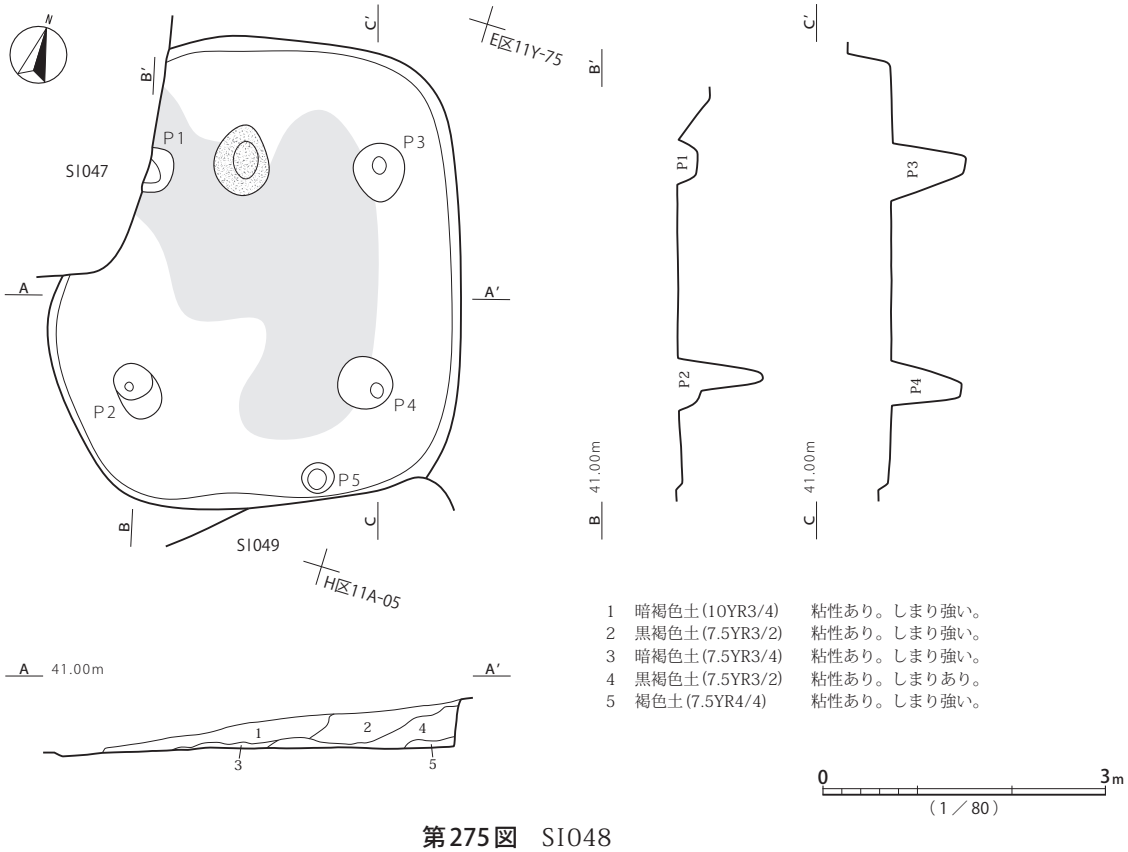
第274図　SI047炉

SI048（第275～277図、第91表、図版41・92）

位置：Ｅ区11Ｙ-84グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI047・SI049に切られる。**規模：**主軸5.02ｍ、副軸4.40ｍ、確認面からの深度0.61ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.72ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.28～2.40ｍ、副軸方向2.44～2.76ｍ。主柱穴はやや台形状に配置されている。Ｐ５は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

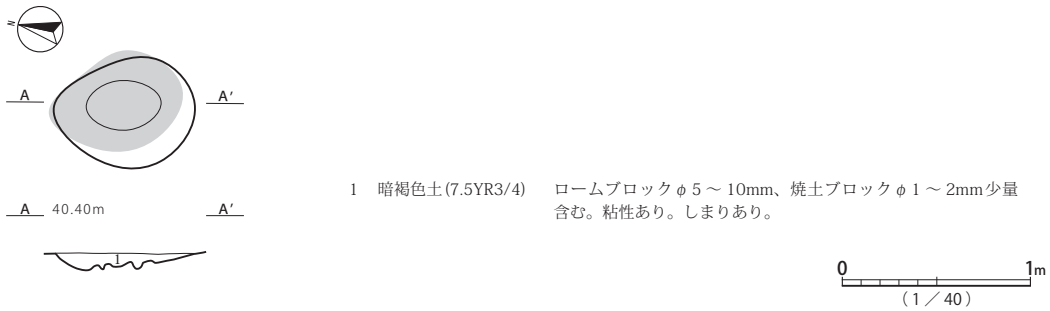
所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。



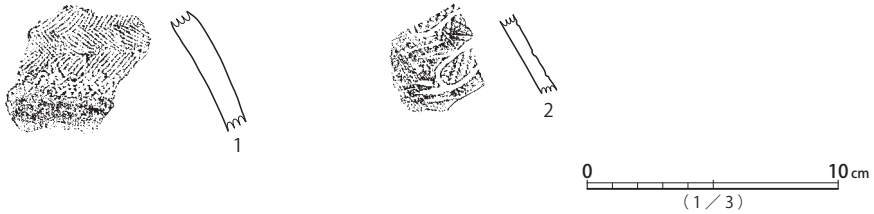
第275図　SI048

遺物：土器1,419.2g、土製品211.7gが出土した。

１・２は壺である。１は単節羽状縄文および結節区画が施される。２は結紐文が施される。弥生時代中期の土器片であり、混入と考えられる。



第276図　SI048炉



第277図　SI048出土遺物

第91表　SI048出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	外面：肩部単節羽状縄文（LR・RL・LR）・結節文（S2段）、胴部ヘラミガキ、赤彩 内面：肩部～胴部ナデ	胎　土：砂粒・石英・海綿骨針・金雲母 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部～胴部の破片	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.1] 最大径：　－	外面：肩部結紐文、沈線区画内単節縄文（RL） 内面：肩部ナデ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐灰 残存度：肩部の破片	

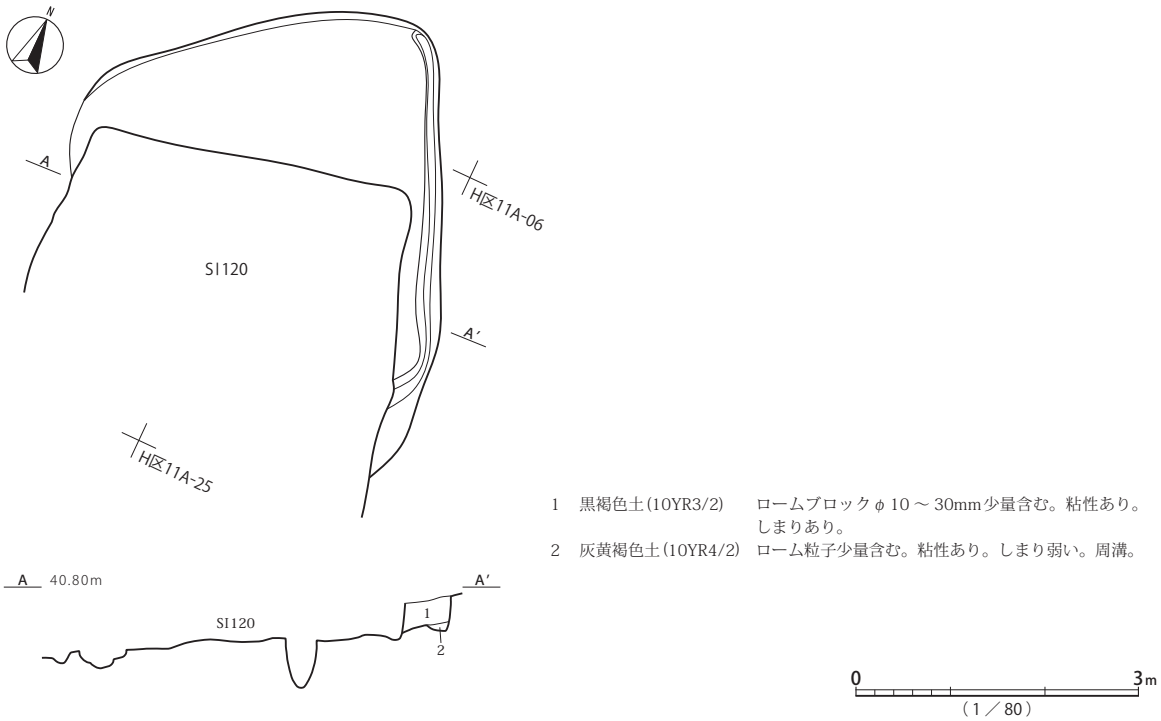
SI049（第278図、図版64）

位置：H区11 A -05グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI048を切り、SI120に切られる。**規模：**主軸（4.92）m、副軸（3.96）m、確認面からの深度0.62m。**形態：**方形。**主軸方位：**N -25°- W。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は北東壁で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。重複するSI120によって大部分が削平されている。

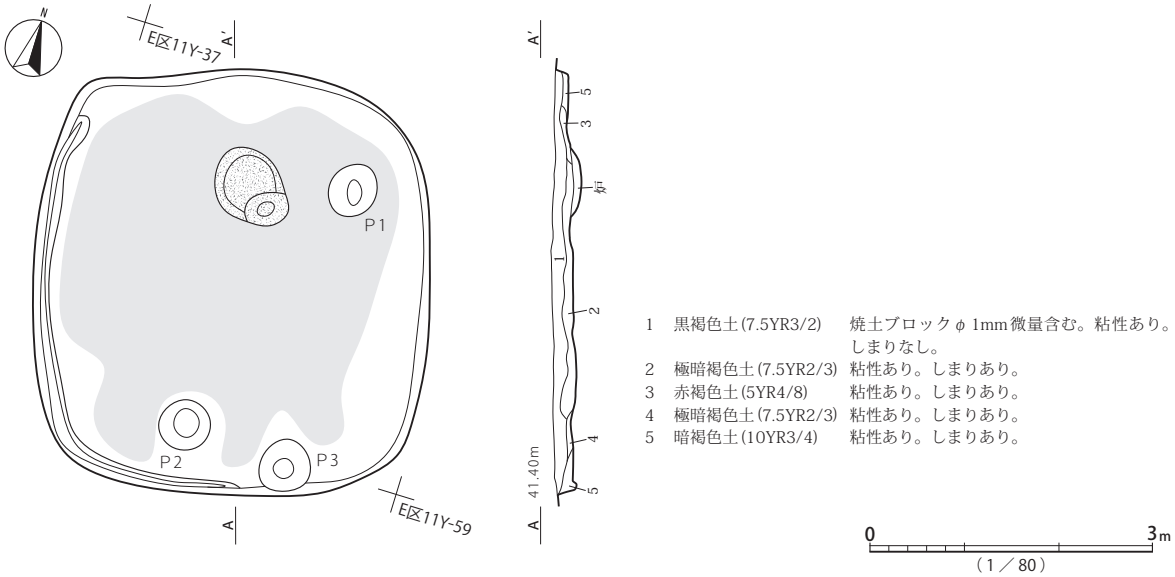
遺物：土器60.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第278図　SI049

SI050（第279～282図、第92表、図版41・92）

位置：Ｅ区11Ｙ-47グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.54ｍ、副軸4.20ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.72ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ２・Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は南壁から西壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。



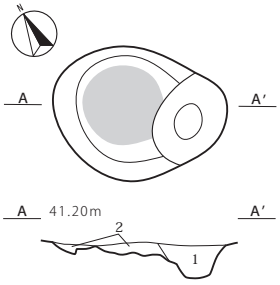
第279図　SI050

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

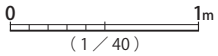
所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。Ｐ２からは、甕（１・２）が出土した。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器3,645.7g、石器・石製品3.98gが出土した。

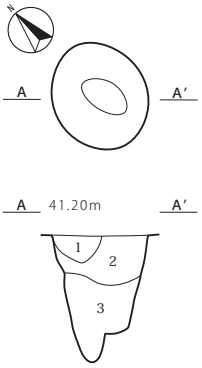
１・２は甕である。２点とも頸部に輪積み痕を一段残し、口唇部と段部に押圧を施す。



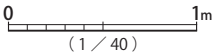
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。



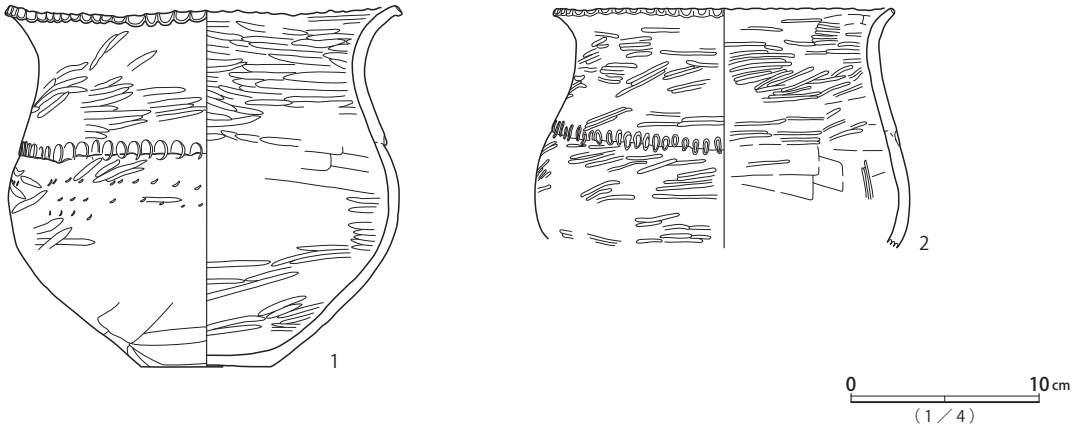
第280図　SI050炉



1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(7.5YR4/6)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。



第281図　SI050P1



第282図　SI050出土遺物

第92表　SI050出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	P2覆土	口　径：20.5 底　径：6.9 器　高：19.1 最大径：20.7	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部指による押圧、頸部粗いヘラミガキ横位、輪積み部指による押圧、胴部爪痕・粗いヘラミガキ横位、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、胴部ヘラケズリ・ヘラミガキ、底部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：暗赤褐 残存度：口縁部～底部の4/5	内面底部に黒色物付着
2	弥生土器 甕	P2覆土	口　径：17.8 底　径：－ 器　高：[12.7] 最大径：19.9	特徴：輪積み痕を1段残す 外面：口唇部ヘラによる押圧、頸部ナデ後粗いヘラミガキ、輪積み部ヘラキザミ、胴部ナデ後粗いヘラミガキ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英顕著・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	

SI051（第283 ～ 285図、第93表、図版41・92）

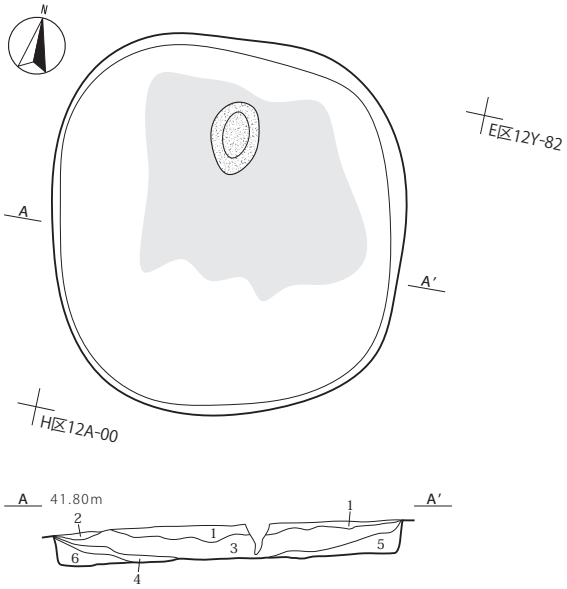
位置：Ｅ区12Ｙ-80グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.06ｍ、副軸3.76ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-12°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.76ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期後葉と考えられる。

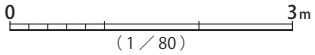
所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,938.8g、縄文土器95.0gが出土した。

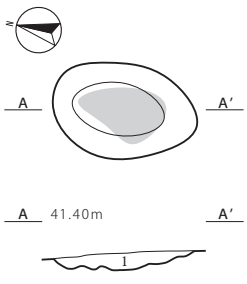
１～３は壺である。３点とも結節区画内に単節羽状縄文を充填する。２は頸部下位にキザミがわずかに見られる。



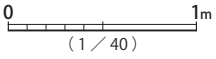
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土少量、ロームブロックφ10 ～ 50mm微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10 ～ 50mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、炭化物φ10 ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ30 ～ 40mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。



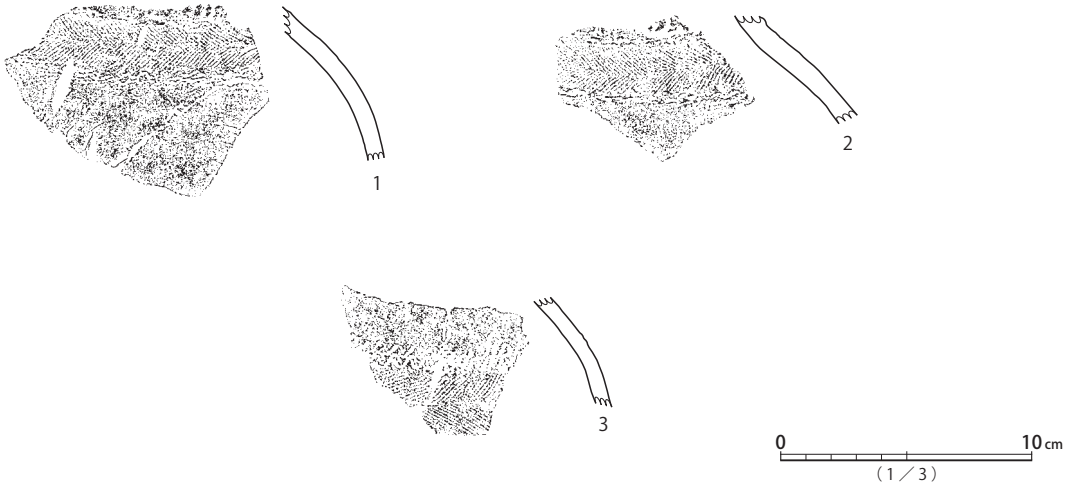
第283図　SI051



1　黒褐色土(10YR2/3)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。
　　しまりあり。



第284図　SI051炉



第285図　SI051出土遺物

第93表　SI051出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[6.1] 最大径：　－	外面：肩部結節文（S2段）・単節羽状縄文（RL・LR）、結節文（S2段）、ヘラミガキ横位、赤彩 内面：肩部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部の破片	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.4] 最大径：　－	外面：頸部下端ヘラキザミ、肩部結節文（S2段）・単節羽状縄文（RL・LR）・結節文（S2段）・ヘラミガキ横位、赤彩 内面：肩部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部の破片	
3	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.4] 最大径：　－	外面：肩部ヘラミガキ横位・結節文（S2段）・単節羽状縄文（LR・RL） 内面：肩部ヘラミガキ横位	胎　土：黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部の破片	

SI052（第286～289図、第94・95表、図版41・92・94）

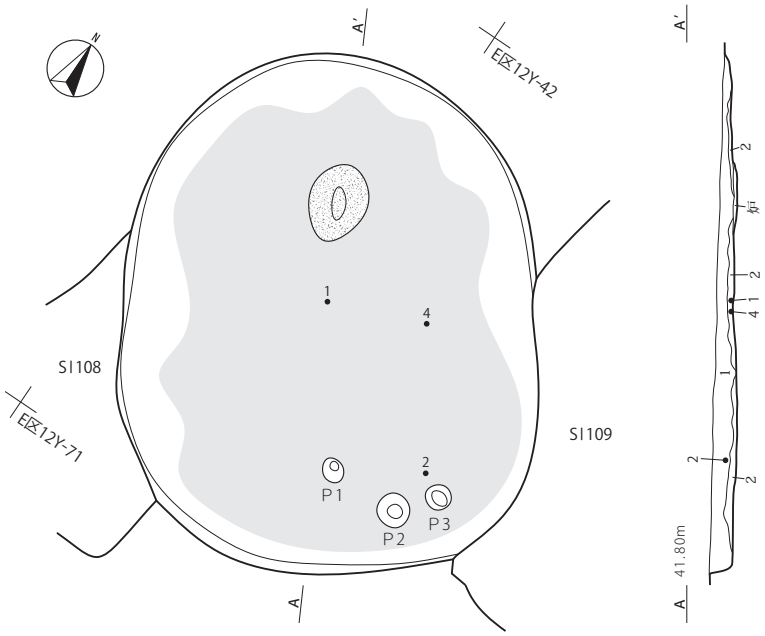
位置：Ｅ区12Ｙ-51グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI053を切り、SI108・SI109・SI111に切られる。**規模：**主軸5.52ｍ、副軸（4.44）ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-34°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.84ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ１～Ｐ３は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

所見：床面は完存し、壺（１）、軽石（４）が出土している。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器2,041.7g、石製品80.00gが出土した。

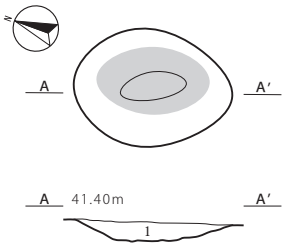
１・３は壺、２の甕は輪積み痕をヘラ状工具によりナデ消し、最下段に押圧を施す。４は軽石で櫛歯状工具痕がみられる。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ30～50mm中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～20mm多量、焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまり強い。

0　3m
（1／80）

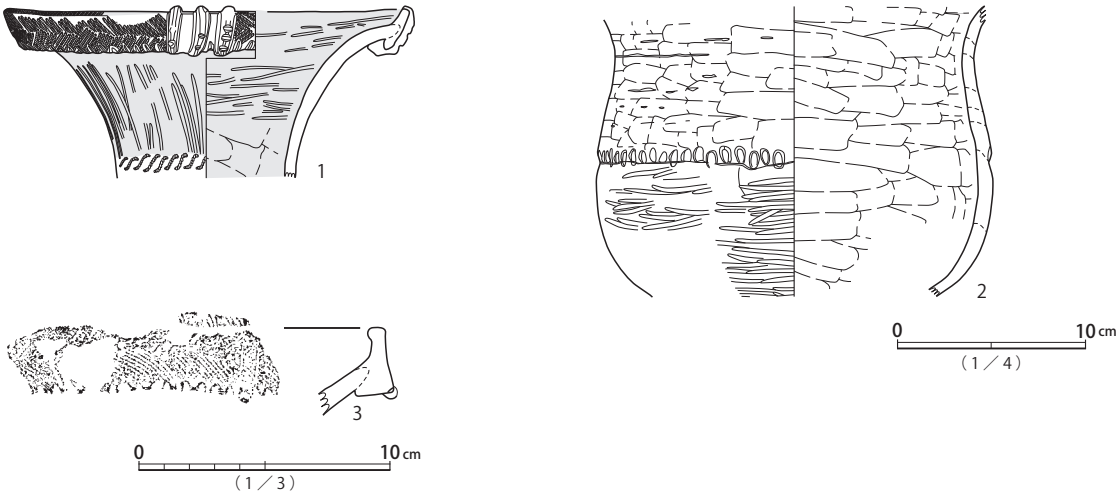
第286図　SI052



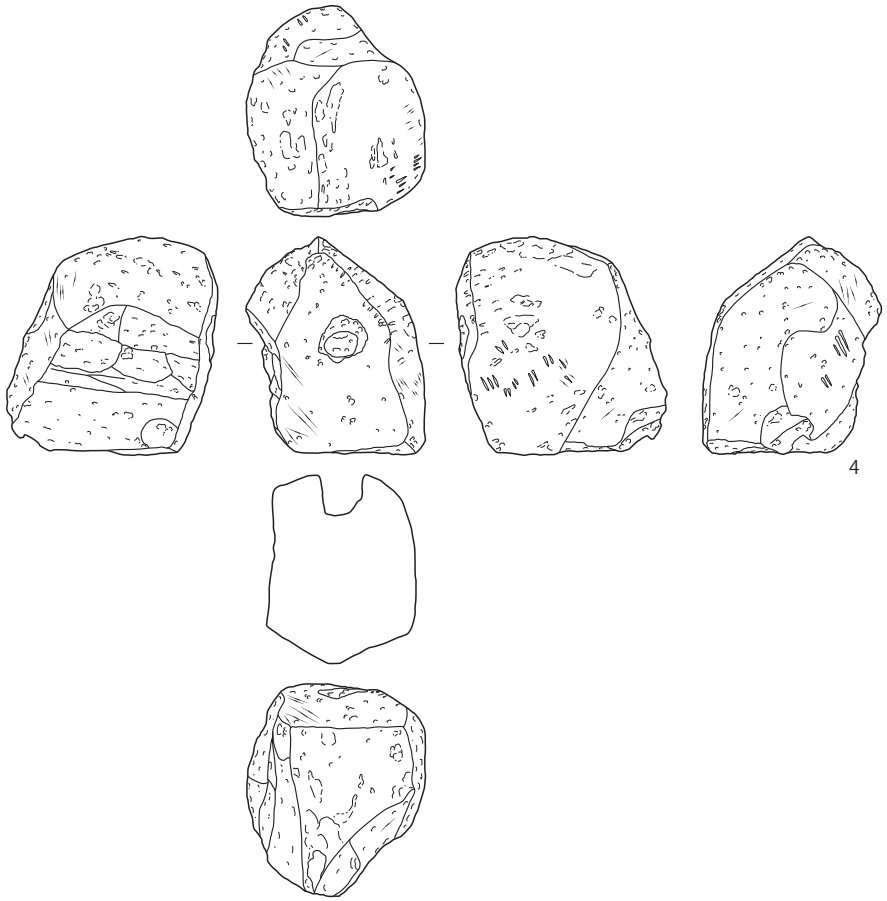
1　黒褐色土(10YR2/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第287図　SI052炉



第288図　SI052出土遺物（1）



第289図　SI052出土遺物（２）

第94表　SI052出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：(21.0) 底　径：　－ 器　高：　[9.1] 最大径：　－	**特徴**：複合口縁 **外面**：口唇部単節縄文(LR)、複合部単節羽状縄文（RL・LR）・端部ヘラキザミ・キザミのある棒状貼付文３本一組４箇所、頸部ヘラミガキ縦位、赤彩、結節文（S2段） **内面**：口縁部ヘラミガキ横位、頸部ヘラナデ、赤彩	**胎　土**：砂粒・赤色粒・石英 **焼　成**：良好 **色　調**：褐 **残存度**：口縁部～頸部の破片	
2	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[15.4] 最大径：(20.8)	**特徴**：輪積み痕を６段残す **外面**：頸部ヘラナデ、輪積み部押圧、胴部ヘラミガキ横位 **内面**：頸部～胴部ヘラナデ横位	**胎　土**：砂粒・黒色粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：頸部～胴部の1/3	
3	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[2.9] 最大径：　－	**特徴**：複合口縁 **外面**：口唇部単節縄文(RL)、複合部結節文（S）・単節縄文（RL）・棒状貼付文の痕跡・端部ハケキザミ、口縁部ヨコナデ、赤彩、 **内面**：剥落顕著、口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	**胎　土**：石英・砂粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部の破片	

第95表　SI052出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
4	不明石製品	軽石	床面	8.65	7.10	8.40	80.00	櫛歯状の工具痕

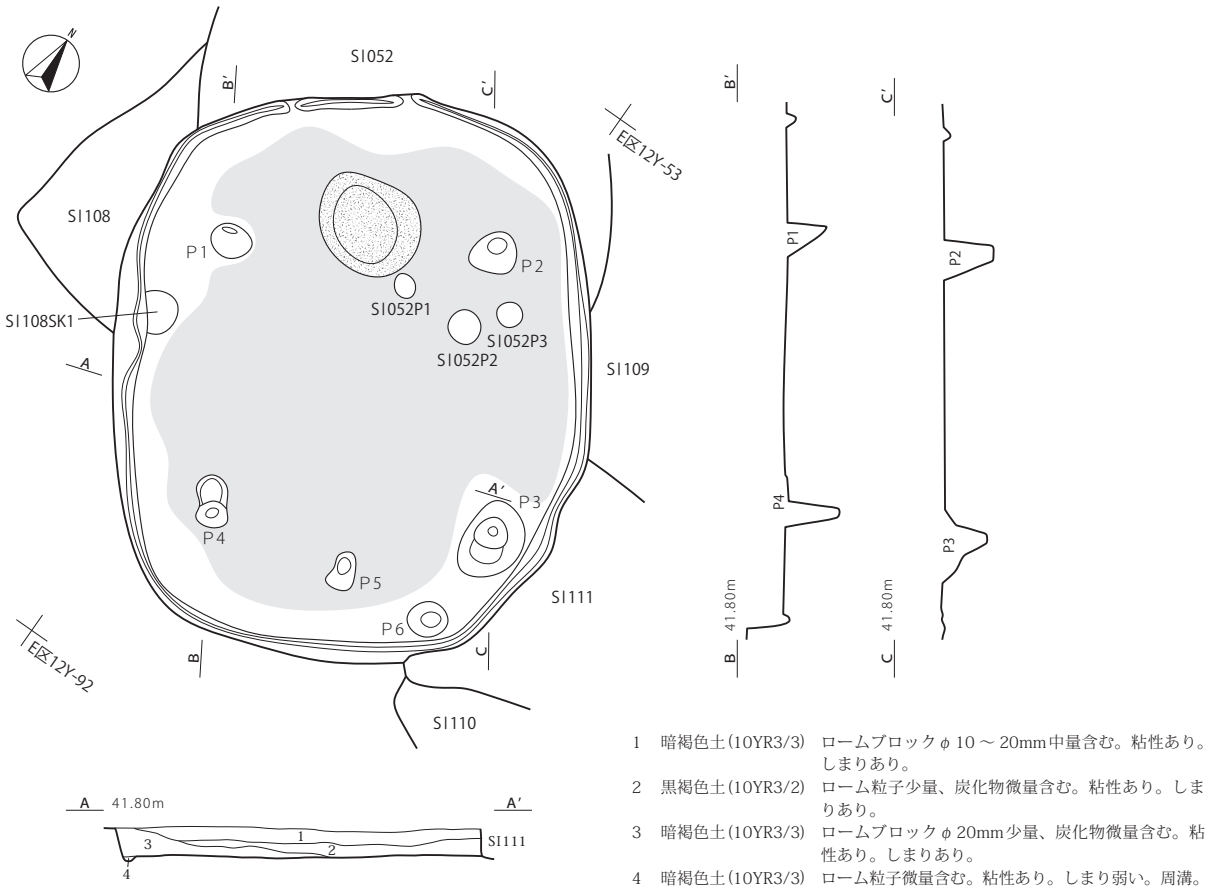
SI053（第290・291図、図版41）

位置：Ｅ区12Ｙ-62グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI054を切り、SI052・SI108・SI109・SI111に切られる。**規模：**主軸6.04ｍ、副軸5.08ｍ、確認面からの深度0.45ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-35°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.20ｍ、短軸1.04ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向3.04ｍ、副軸方向2.92ｍ。Ｐ５・Ｐ６は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝はほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ほぼ全面が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。主柱穴や周溝は比較的深く掘り込まれている。

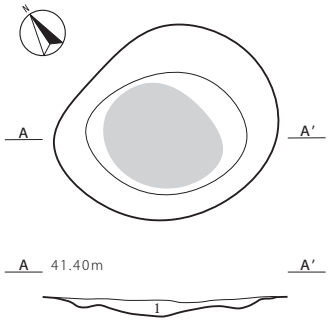
遺物：土器376.0g、軽石11.0gが出土した。いずれも小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ20mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

第290図　SI053



1　黒褐色土(10YR2/3)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第291図　SI053炉

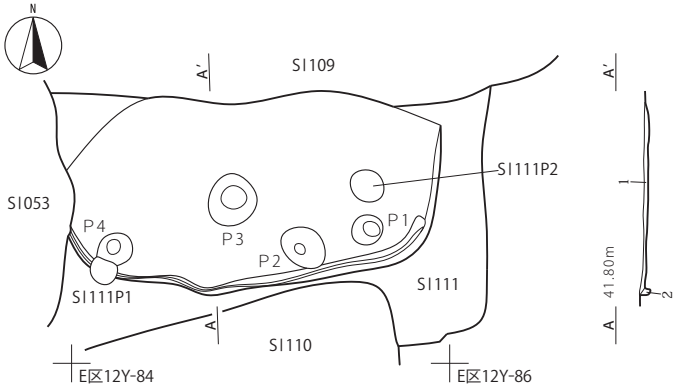
SI054（第292図、図版41）

位置： E区12Y-74グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI053・SI109・SI111に切られる。**規模：**主軸（2.16）m、副軸（3.96）m、確認面からの深度0.15m。**形態：**小判形。**主軸方位：**N－S。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが4基検出された。周溝は残存する南壁のみで検出された。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器30.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

第292図　SI054

SI055（第293～295図、第96表、図版41・92）

位置： E区12Y-67グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI056を切り、SI057・SI109・SI111に切られる。**規模：**主軸（6.04）m、副軸（5.40）m、確認面からの深度0.42m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-30°-W。**炉：**竪穴中央やや南東寄りに位置する。長軸0.52m、短軸0.40mで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の北側の広い範囲が硬化している。

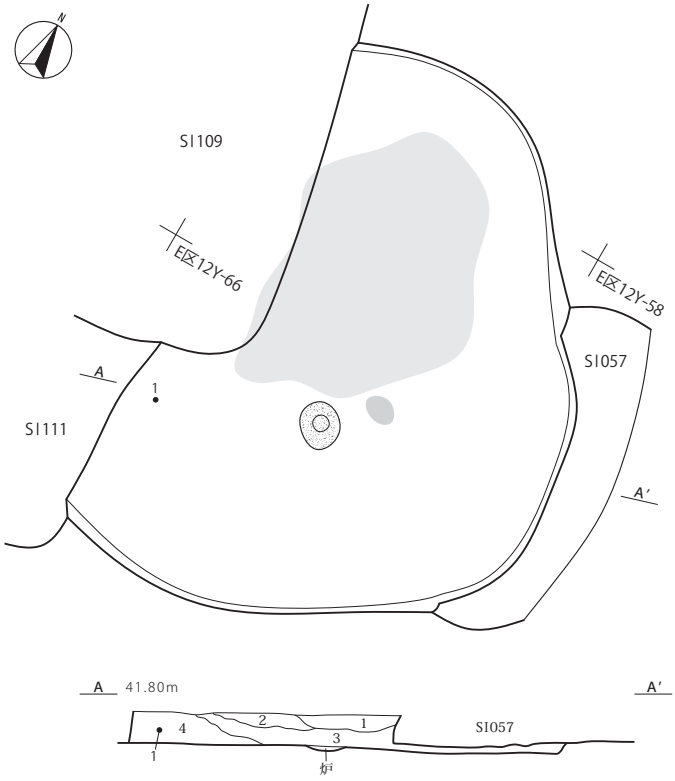
時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はロームブロックを含む土が、

いくつかの単位で堆積しており人為的な埋め戻しが行われた可能性がある。柱穴が無く炉も南東寄りであり、他の竪穴建物とは様相が異なる。

遺物：土器1,271.4g、縄文土器53.0gが出土した。

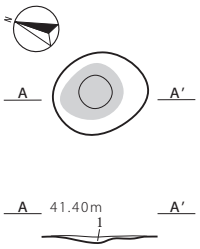
1は頸部から胴部に沈線による区画を施し、単節縄文と網目状撚糸文が充填される。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ20～50mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ5～40mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

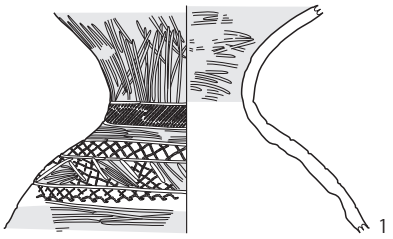
第293図　SI055



1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第294図　SI055炉



0　10cm
（1／4）

第295図　SI055出土遺物

第96表　SI055出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[12.8] 最大径：　－	**外面**：頸部ヘラミガキ、沈線6段で5区画、区画内上から単節縄文(LR)、ヘラミガキ、網目状撚糸文、斜位の沈線区画して交互にヘラミガキと網目状撚糸文、網目状撚糸文・結節文(S)、肩部ヘラミガキ横位、ヘラミガキ部赤彩 **内面**：頸部ヘラミガキ横位、赤彩、肩部剥落顕著	**胎　土**：砂粒 **焼　成**：良好 **色　調**：赤褐 **残存度**：頸部～肩部の3/4	

SI056（第296 ～ 298図、第97表、図版41・92）

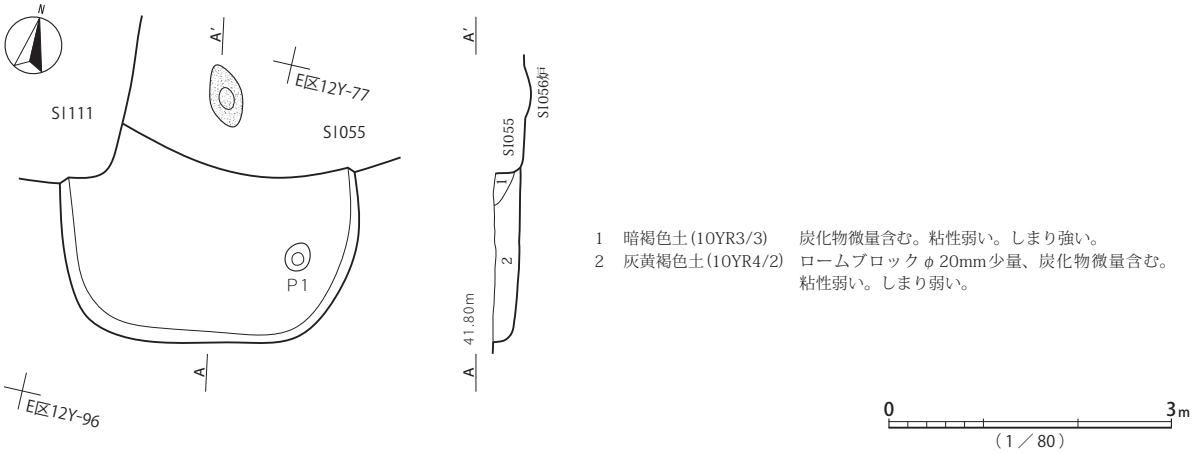
位置：Ｅ区12Ｙ-76グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI055・SI111に切られる。**規模：**主軸（2.96）m、副軸（3.16）m、確認面からの深度0.37ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-13°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.36ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

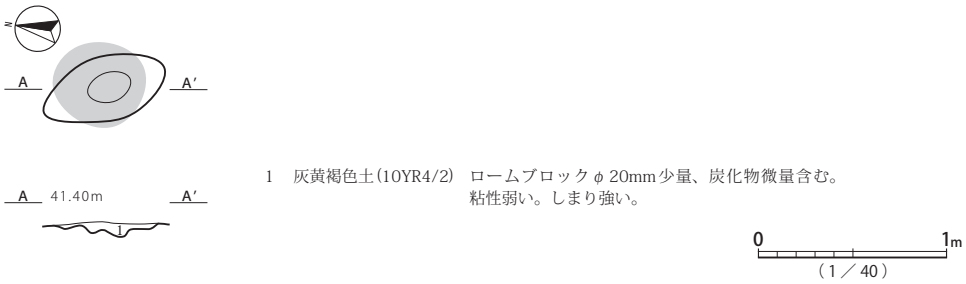
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。やや規模が小さく、壁面も緩やかに立ち上がるが、SI055下の炉が本遺構に伴うものと考え、竪穴建物と判断した。

遺物：土器390.3gが出土した。

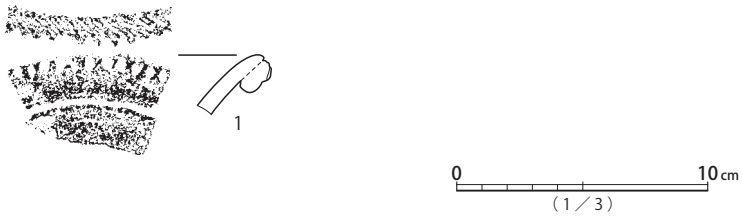
１は口唇部に単節縄文、折り返し部にはキザミが施される。



第296図　SI056



第297図　SI056炉



第298図　SI056出土遺物

第97表　SI056出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［2.4］ 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：口唇部単節縄文（RL）、折り返し部原体キザミ、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

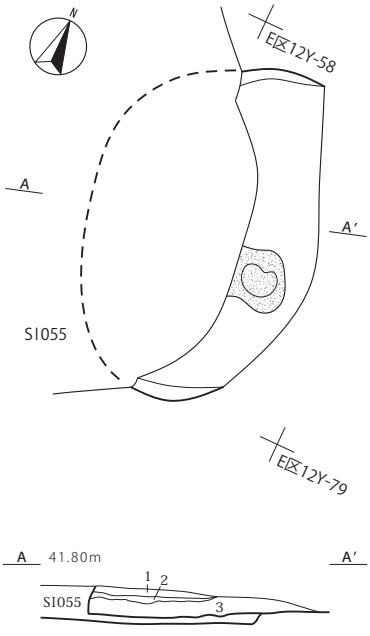
SI057（第299・300図、図版42）

位置：Ｅ区12Ｙ-68グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**SI055を切る。**規模：**主軸3.52ｍ、副軸（2.02）ｍ、確認面からの深度0.28ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-25°-Ｗ。**炉：**竪穴中央に位置する。長軸（0.48）ｍ、短軸0.36ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。新旧関係を誤認し、SI055を先に掘削してしまった。

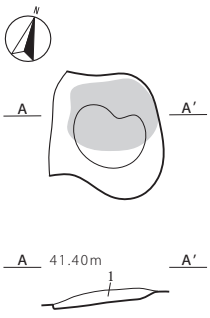
遺物：土器787.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第299図　SI057



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第300図　SI057炉

SI058（第301 ～ 303図、第98表、図版42・92）

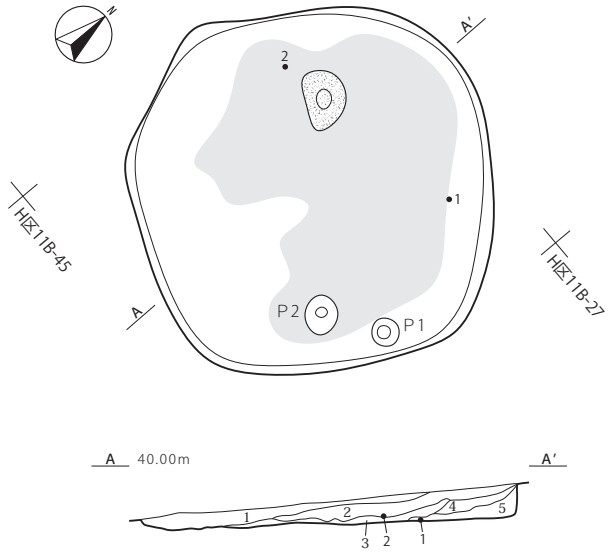
位置：H区11 B -25グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.92ｍ、副軸3.92ｍ、確認面からの深度0.66ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -50°- W。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.64ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代終末期と考えられる。

所見：床面は完存し、甕（１）が出土している。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器786.4g、石器・石製品12.00gが出土した。

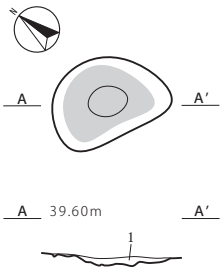
１は甕、２は鉢である。１は口唇部が押圧される。頸部に輪積み痕を残し、ヘラ状工具により一部がナデ消されるが、最下段は残されている。



1　暗褐色土(10YR3/3)　炭化物φ10mm中量、焼土粒微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ10mm、焼土ブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　焼土微量含む。粘性強い。しまりあり。
4　灰白色土(10YR8/2)　焼土中量含む。粘性あり。しまりあり。
5　灰白色土(10YR8/1)　黒褐色土含む。粘性強い。しまりあり。カマド袖。

0　3m
（1／80）

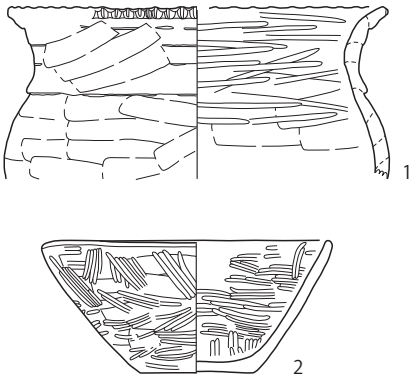
第301図　SI058



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第302図　SI058炉



0　10cm
（1／4）

第303図　SI058出土遺物

第98表　SI058出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：(19.8) 底　径：　－ 器　高：　[9.1] 最大径：(20.4)	特徴：輪積み痕を４段残す 外面：口唇部指による押圧、口縁部～胴部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/4	
2	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：15.0 底　径：6.0 器　高：7.0 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

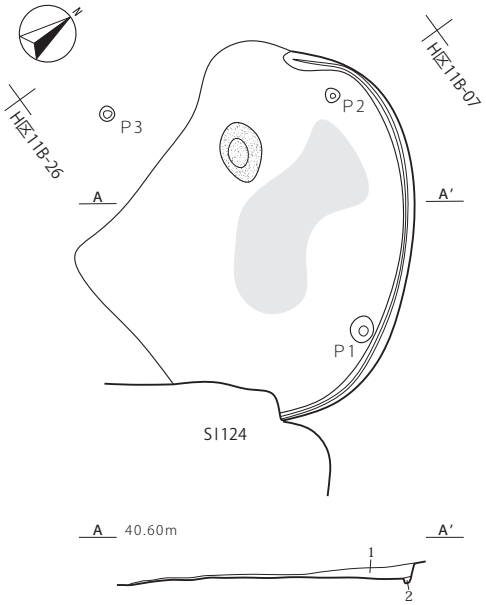
SI059（第304・305図、図版42）

位置：H区11Ｂ-17グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI124に切られる。**規模：**主軸（4.04）m、副軸（3.60）m、確認面からの深度0.43m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-54°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.64m、短軸0.44mで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸方向2.60m、副軸方向2.40m。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。Ｐ３は床面の残存範囲外だが、覆土から本遺構に伴うと考えた。

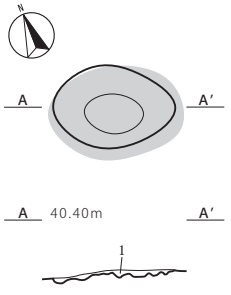
遺物：土器27.0g、縄文土器18.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱い。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

第304図　SI059



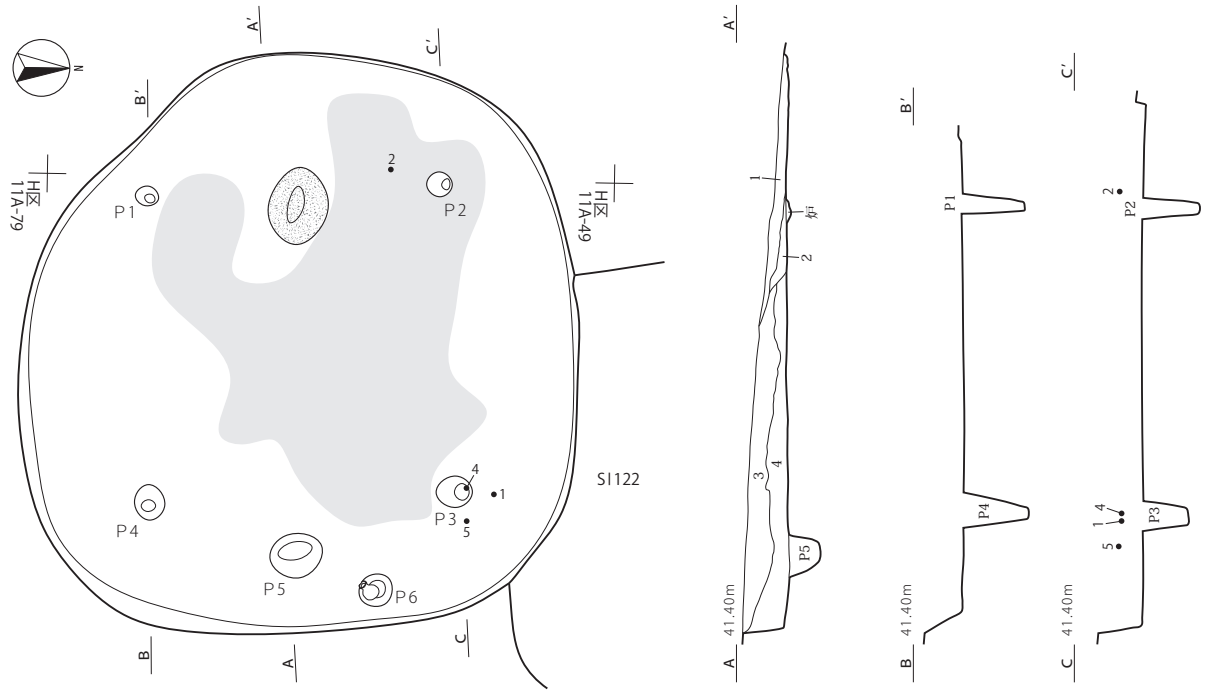
1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第305図　SI059炉

SI060（第315～311図、第99表、図版42・92・93）

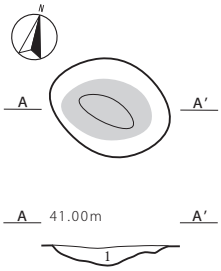
位置：H区11 A -59グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI122に切られる。**規模：**主軸6.12ｍ、副軸（5.94）ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N－89°－W。**炉：**竪穴中央西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向3.16ｍ、副軸方向3.28ｍ。Ｐ５・Ｐ６は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ30mm少量と炭化物粒微量、焼土粒微量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第306図　SI060



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

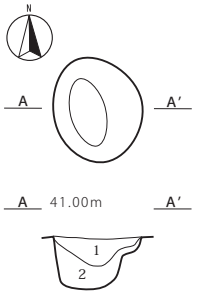
第307図　SI060炉

時期：出土遺物から、弥生時代後期中葉と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。Ｐ６からは、壺（３）が出土した。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器6,512.1g、縄文土器14.0gが出土した。

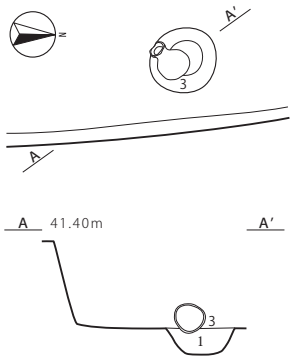
１は広口壺、２～４は壺、５は甕、６は鉢である。１・３・６は結節区画内に単節羽状縄文が充填される。４は肩部に輪積み痕を一段残し、キザミが施される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

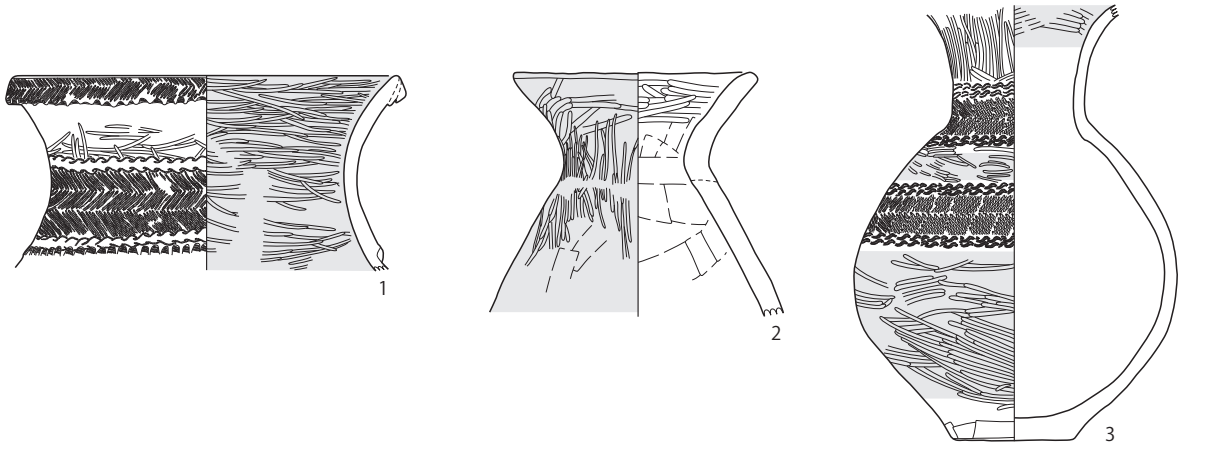
第308図　SI060P5



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

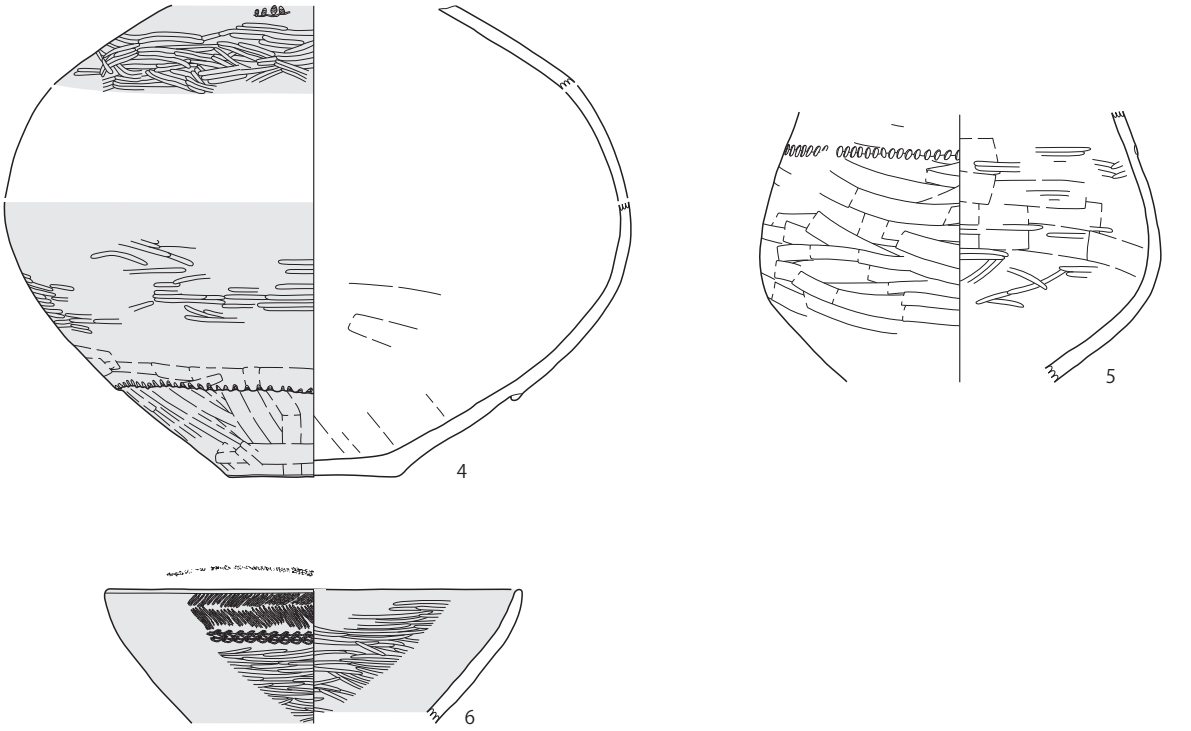
0　1m
（1／40）

第309図　SI060P6遺物出土状況



0　10cm
（1／4）

第310図　SI060出土遺物（１）



第311図　SI060出土遺物（２）

第99表　SI060出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	覆土下層	口　径：20.4 底　径：－ 器　高：[10.3] 最大径：－	特徴：折り返し口縁、頸部に段 外面：口唇部単節羽状縄文（RL・LR）・端部布目キザミ、頸部ヨコナデ後一部ヘラミガキ横位・結節文（S・Z段）・単節羽状縄文（RL・LR・RL）・結節文（S・Z段）・布目キザミ 内面：口縁部ヘラミガキ横位、頸部中位まで赤彩	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：黄橙 残存度：口縁部～頸部のみほぼ完存	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：12.6 底　径：－ 器　高：[12.9] 最大径：－	特徴：器壁厚手 外面：口縁部～頸部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の2/3	
3	弥生土器 壺	P6覆土	口　径：－ 底　径：6.0 器　高：[23.0] 最大径：17.1	外面：頸部ヘラミガキ縦位・結節文(S4段)・単節羽状縄文（RL・LR）・結節文（S4段）・ヘラミガキ横位・結節文（S4段）、単節羽状縄文（RL・RL）・結節文（S4段）・胴部ヘラミガキ横位、ヘラミガキ部赤彩 内面：頸部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・黒色粒・赤色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：頸部～底部のみほぼ完存	
4	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：9.0 器　高：[25.0] 最大径：(32.4)	特徴：胴下部に段 外面：肩部ハケキザミ・ヘラミガキ横位、胴部ヘラミガキ・ヘラナデ横位・ハケキザミ、底部ヘラナデ 内面：肩部ナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・黒色粒・砂粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部と胴部～底部の2/3	
5	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[14.3] 最大径：(21.2)	外面：肩部ナデ・ヘラキザミ、胴部ヘラナデ 内面：肩部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部～胴部の2/3	外面煤付着
6	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(21,6) 底　径：－ 器　高：[7.1] 最大径：－	外面：口唇部単節縄文（RL）、口縁部単節羽状縄文（LR・RL）・結節文（S4段）、体部ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～体部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/4	

SI061（第312 ～ 314図、第100表、図版42・93）

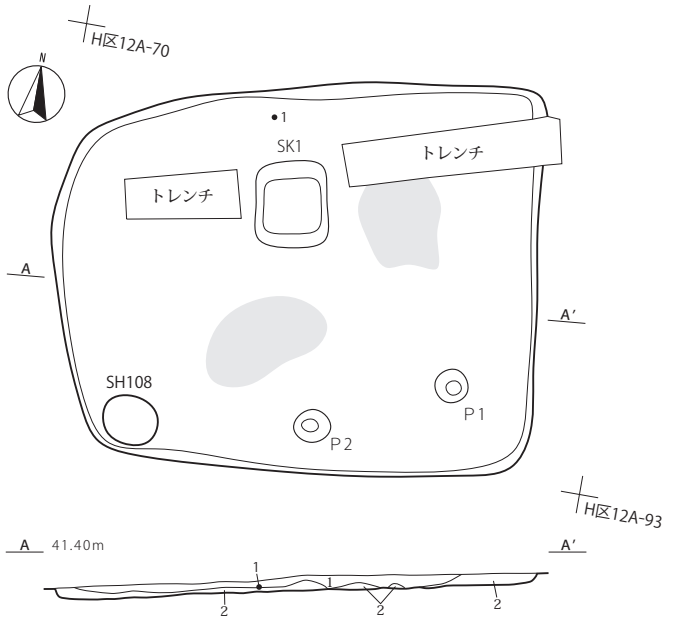
位置：H区12 A -81グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.20ｍ、副軸5.20ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N -10°- W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット２基、土坑１基が検出された。SK1は長軸0.92ｍ、短軸0.76ｍの貯蔵穴である。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央付近がところどころ硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかったが、貯蔵穴が検出された。横軸方向に幅の広い竪穴建物である。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器881.0gが出土した。

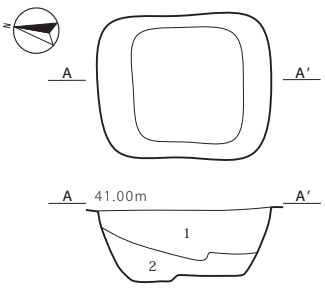
１は坏部内面にヘラミガキが施される。脚部に透かしは見られない。



1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子、炭化物φ５～ 10mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

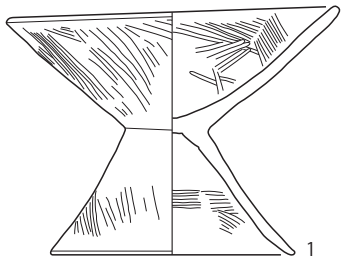
第312図　SI061



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第313図　SI061SK1



0　10cm
（1／4）

第314図　SI061出土遺物

第100表　SI061出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 高坏	覆土下層	口　径：17.2 脚　径：12.6 器　高：13.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ハケメ後ナデ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ハケメ後ヘラミガキ、脚部ハケメ後ナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	

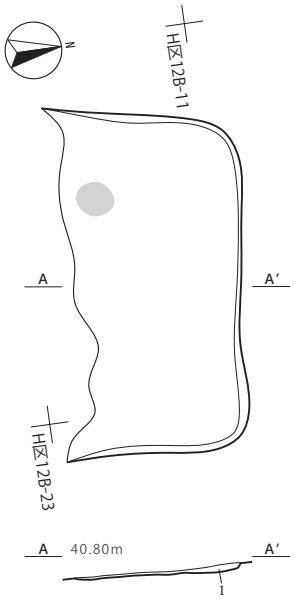
SI062（第315図、図版42）

位置：H区12Ｂ-12グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.76）m、副軸（2.40）m、確認面からの深度0.33m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-82°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

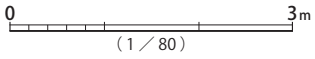
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：出土していない。



1　暗褐色土(10YR3/4)　　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。



第315図　SI062

SI063（第316～318図、第101表、図版42・93）

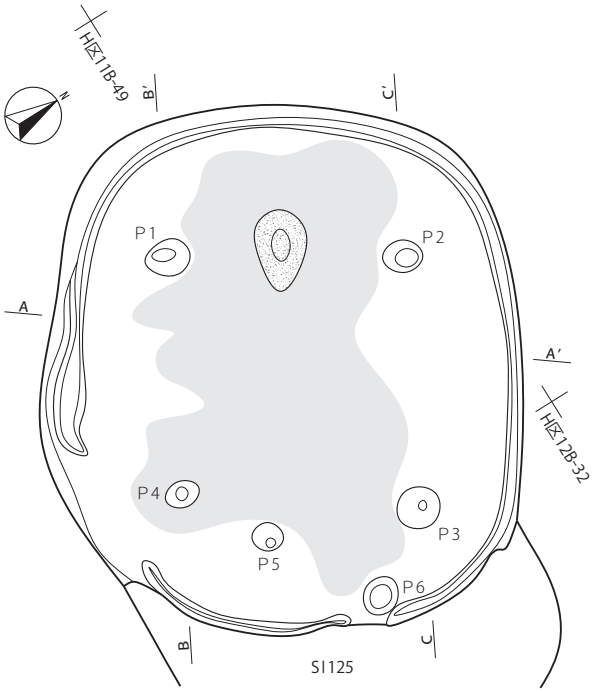
位置：H区12Ｂ-41グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI125に切られる。**規模：**主軸（5.64）m、副軸5.12m、確認面からの深度0.81m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-58°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.84m、短軸0.56mで浅く窪む。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.52～2.68m、副軸方向2.60m。主柱穴はやや台形状に配置されている。Ｐ５・Ｐ６は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は一部で途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東壁にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器476.5gが出土した。

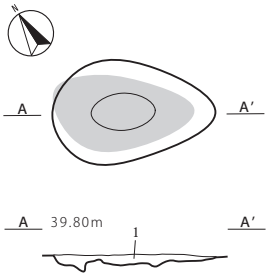
１は鉢、２は壺である。２は沈線区画内に網目状撚糸文が施文される。



1	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子微量含む。粘性非常に弱い。しまり非常に弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ20mm～50mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	暗褐色土(10YR3/4)	炭化物φ20mm少量、ロームブロックφ20mm～50mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

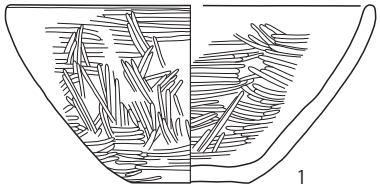
第316図　SI063



1	黒褐色土(10YR2/2)	焼土、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第317図　SI063炉





0　10cm
（1／4）

0　10cm
（1／3）

第318図　SI063出土遺物

第101表　SI063出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土上層	口　径：(19.0) 底　径：　(6.4) 器　高：　9.4 最大径：　–	外面：口縁部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/5	
2	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：　– 底　径：　– 器　高：　[4.6] 最大径：　–	外面：胴部ヘラミガキ横位、沈線区画内網目状撚糸文・ヘラミガキ・沈線で山形を区画、区画内単節縄文（LR）、ヘラミガキ部赤彩 内面：胴部ナデ、剥落顕著	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：普通 色　調：浅黄 残存度：胴部の破片	

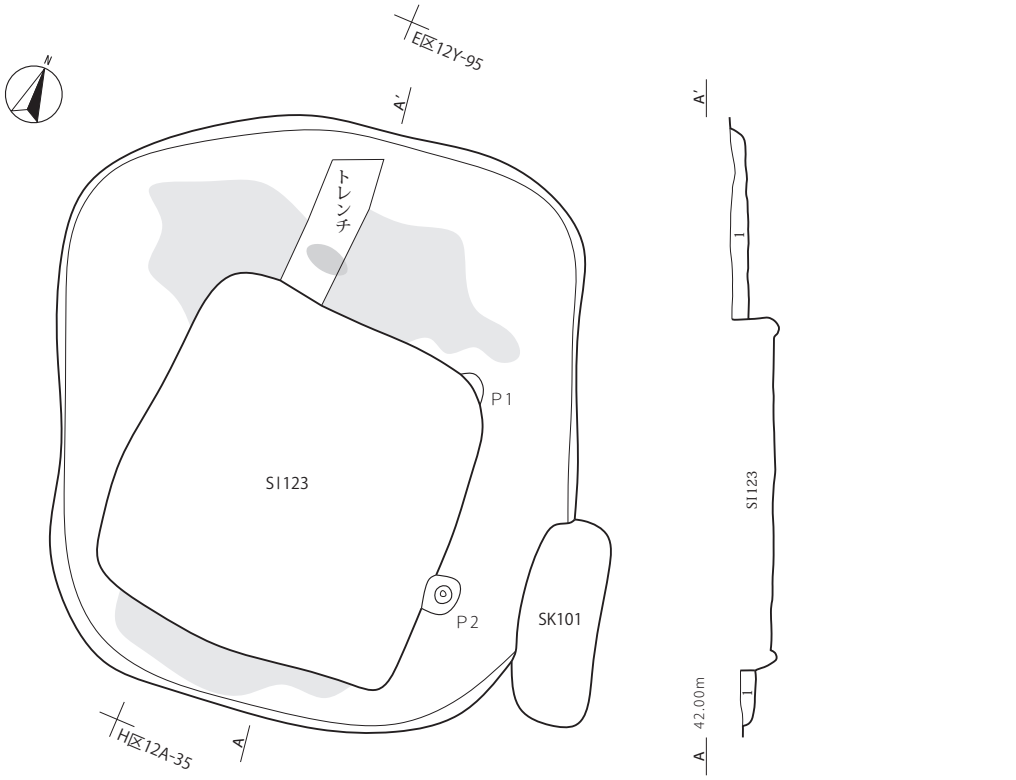
SI064（第319図、図版43）

位置：H区12Ａ-05グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI123、SK101に切られる。**規模：**主軸6.54ｍ、副軸5.64ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-23°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層と一部ではハードローム層を直接使用しており、炉の周辺と南壁付近が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。入れ子状に重複するSI123によって、中央が大きく削平されている。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：土器324.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ30～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第319図　SI064

SI065（第320 ～ 322図、第102表、図版43・93）

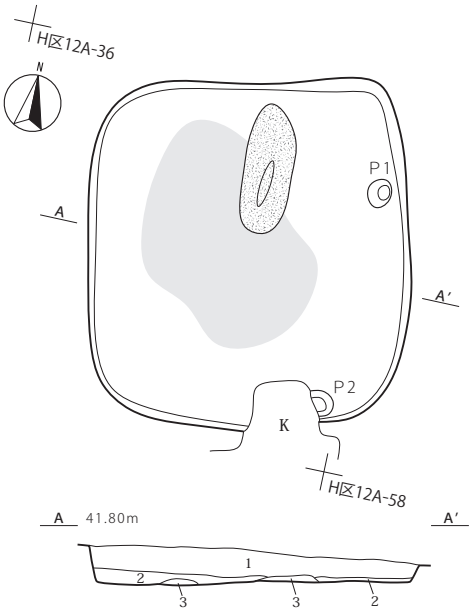
位置：H区12 A -37グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側の一部は撹乱される。**規模：**主軸3.76ｍ、副軸3.40ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -12°- W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.36ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器751.8g、縄文土器35.0gが出土した。

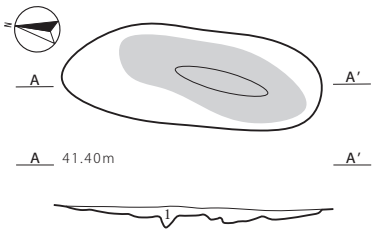
１は単節縄文が施文され、キザミのある棒状貼付文が添付される。



1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒色土(7.5YR2/1)　焼土ブロックφ１～３mm、炭化物φ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

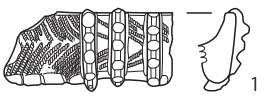
第320図　SI065



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土ブロックφ１～３mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第321図　SI065炉



0　10cm
（１／３）

第322図　SI065出土遺物

第102表　SI065出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.2] 最大径：　－	特徴：複合口縁 外面：口唇部単節縄文（LR）、複合部単節羽状縄文（RL・LR）・ヘラキザミ、キザミのある棒状貼付文３本 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・赤色粒・砂粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部の破片	

SI066（第323 ～ 325図、第103表、図版43・93）

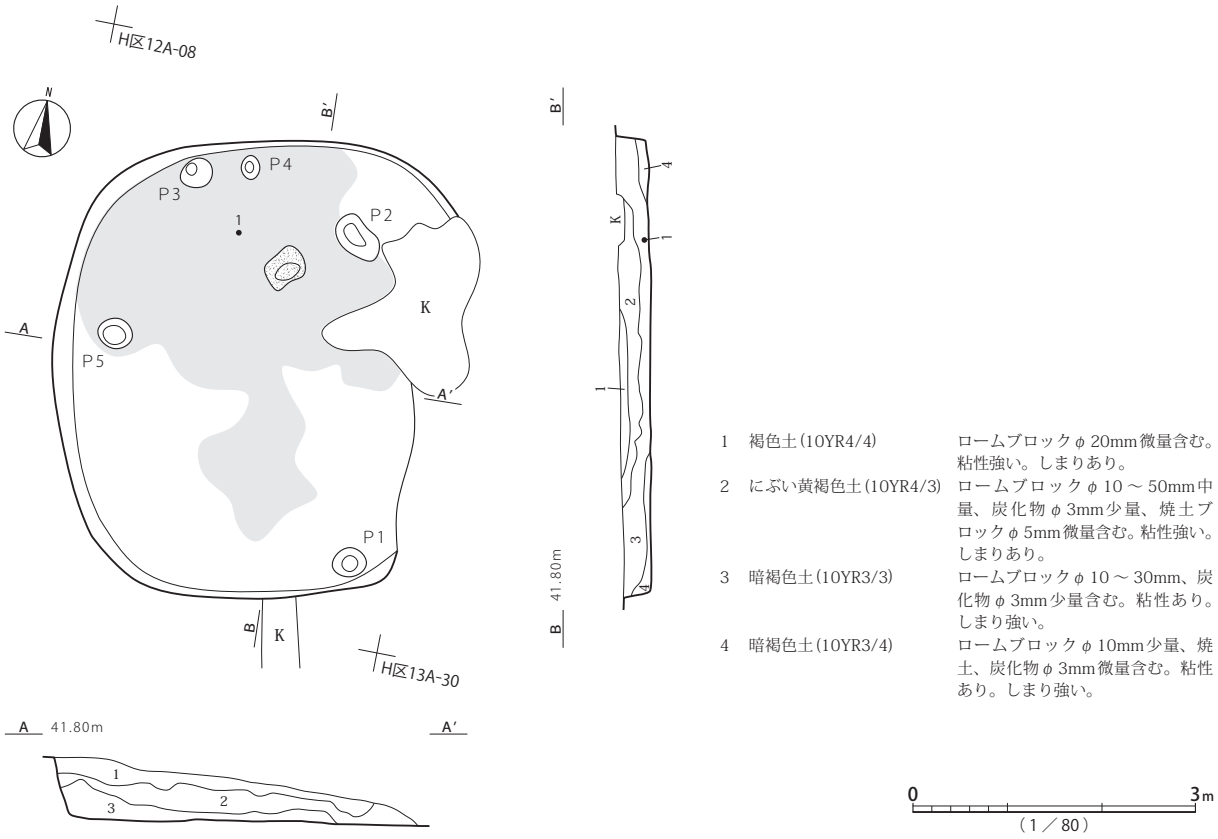
位置：H区12 A -19グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.84 m、副軸（4.28）m、確認面からの深度0.79 m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -11°- W。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.52 m、短軸0.40 mで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北壁から南壁にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

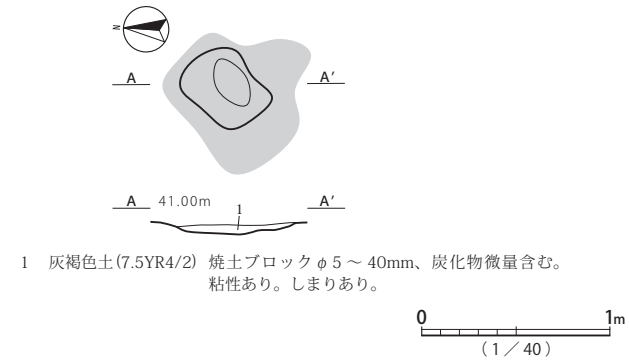
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から鉢（１）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,164.2gが出土した。

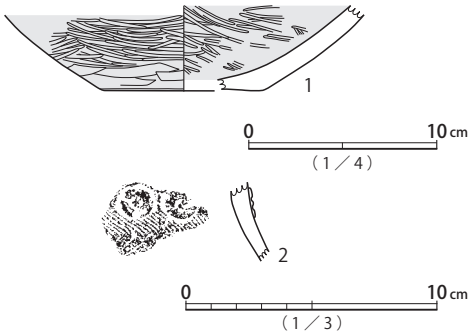
１は鉢、２は壺である。２は単節羽状縄文の下部に網目状撚糸文が施される。



第323図　SI066



第324図　SI066炉



第325図　SI066出土遺物

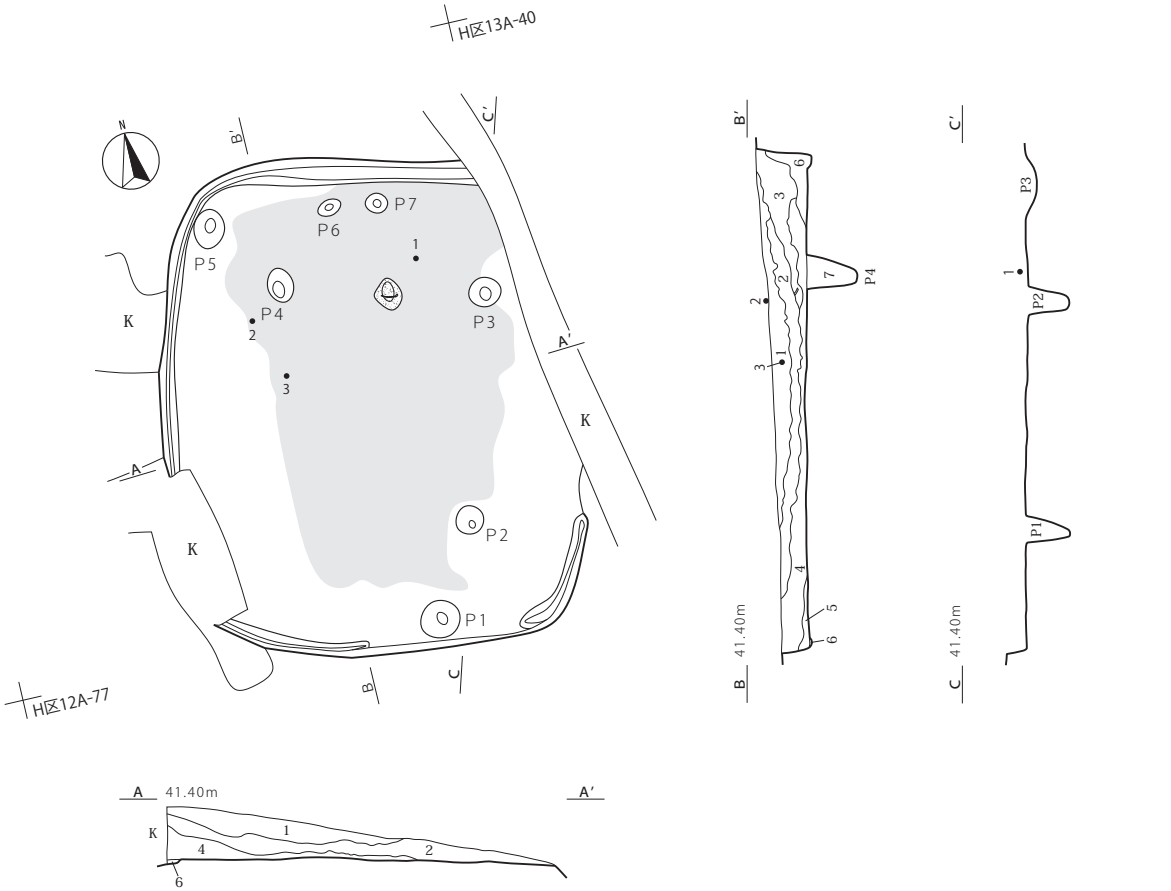
第103表　SI066出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	床面	口　径：　－ 底　径：　(8.4) 器　高：　[4.5] 最大径：　－	外面：体部下半ヘラミガキ横位、底部ヘラケズリ、赤彩 内面：体部下半～底部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：体部下半～底部の1/3	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.2] 最大径：　－	外面：肩部単節羽状縄文（LR・RL）・網目状撚糸文・筒状工具による刺突のある円形貼付文２個 内面：肩部ヘラミガキ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：不良 色　調：橙 残存度：肩部の破片	

SI067（第326～328図、第104表、図版43・93）

位置：H区12A-59グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側の一部は撹乱される。**規模：**主軸5.28m、副軸（4.52）m、確認面からの深度0.68m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-13°-E。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.32m、短軸0.28mで浅く窪む。燃焼面からは、土器片が直立して出土しており、土器囲いに使用されたと考えられる。**施設：**ピットが７基検出された。Ｐ１は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることか



1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～20mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～40mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～60mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ20～40mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。P4。

0　3m
（1／80）

第326図　SI067

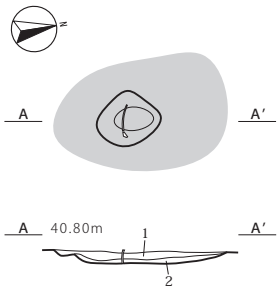
ら、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は南壁で一部途切れるが、残存部分でほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。床面から壺（１）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器4,354.5gが出土した。

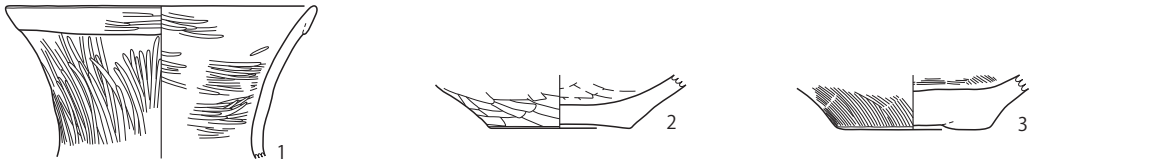
１・２は壺、３は甕である。１は折り返し口縁をもち、内外面はヘラミガキが施される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　赤褐色土(2.5YR4/6)　にぶい黄褐色土少量含む。粘性弱い。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第327図　SI067炉



0　10cm
（1／4）

第328図　SI067出土遺物

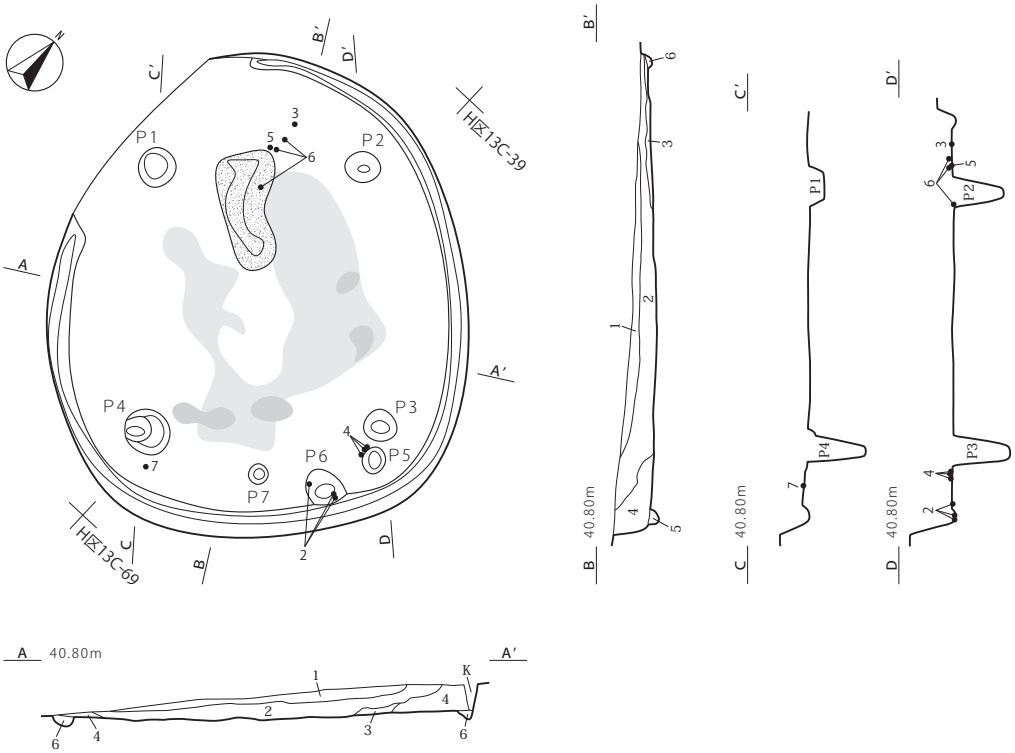
第104表　SI067出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	床面	口　径：16.4 底　径：－ 器　高：[8.0] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ後ヘラミガキ横位、頸部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・橙色粒・黒色粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：にぶい赤褐 残存度：口縁部～頸部のみほぼ完存	
2	弥生土器 壺	覆土上層	口　径：－ 底　径：7.5 器　高：[2.8] 最大径：－	外面：底部ヘラケズリ 内面：底部ヘラナデ	胎　土：石英・角閃石 焼　成：普通 色　調：暗赤褐 残存度：底部のみ完存	
3	弥生土器 甕	覆土中層	口　径：－ 底　径：7.6 器　高：[2.9] 最大径：－	外面：底部ハケメ 内面：底部ハケメ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：底部のみ完存	

SI068（第329 ～ 332図、第105表、図版43・93・94）

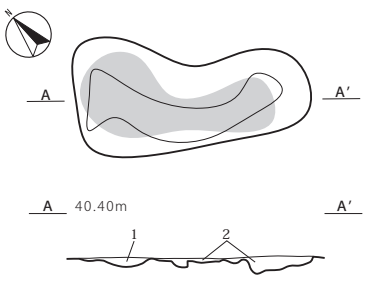
位置：H区13Ｃ-48グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸5.16ｍ、副軸4.48ｍ、確認面からの深度0.55ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-43°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.24ｍ、短軸0.64ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.80ｍ、副軸方向2.28 ～ 2.60ｍ。主柱穴は台形状に配置されている。Ｐ５～Ｐ７は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央が非常に強く踏み固まり硬化している。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、炭化物φ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土ブロックφ３～５mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土ブロックφ２～５mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
6　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

第329図　SI068



1　にぶい赤褐色土(5YR4/4)　焼土ブロックφ１～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。底面は赤化。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

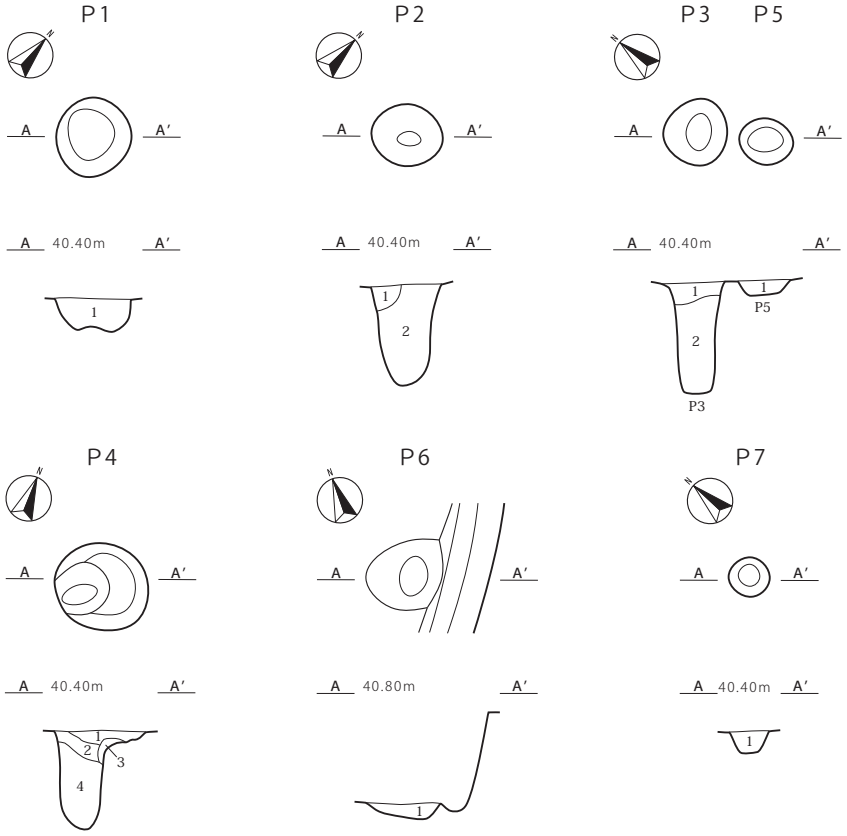
第330図　SI068炉

時期：出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。床面から鉢（３・４）、炉器台（５・６）、ミニチュア壺（７）、Ｐ６から台付甕（２）が出土している。特に炉器台は炉や周辺の床面から出土しており、その用途を示すようである。覆土は炭化物や焼土を含み、建材とみられる厚さ約５mmの板状の炭化木材も出土した。床面も被熱し、部分的に赤化・硬化していることから、焼却・焼失した建物とみられる。

遺物：土器3,075.1gが出土した。

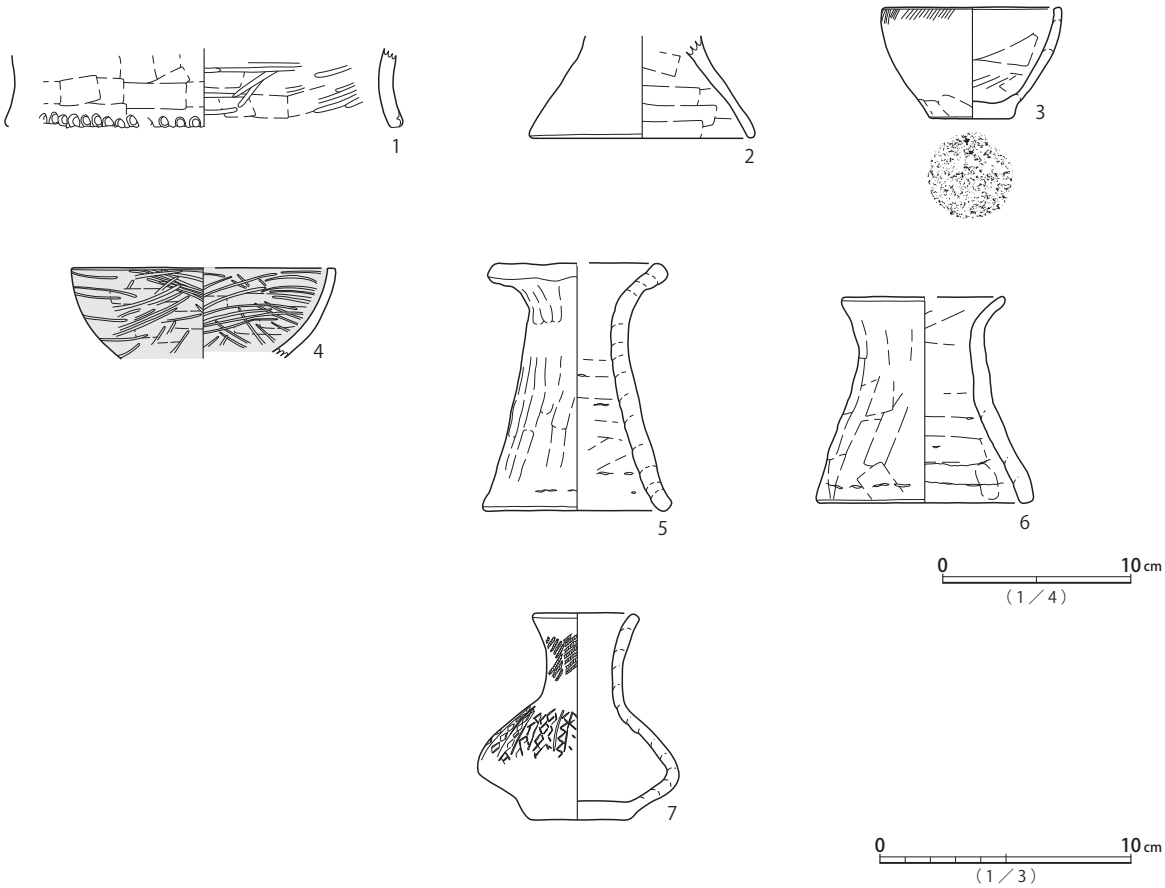
１は甕、２は台付甕の脚台部、３・４は鉢、５・６は炉器台、７はミニチュア壺である。５・６は筒状で、口縁部は強く広がり、脚部は「ハ」の字形である。７は頸部に単節縄文、肩部に細い沈線で縦位に菱形を描いている。



P1
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P2
1　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P3
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P4
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱い。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまり弱い。
3　黄褐色土(10YR5/6)　粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ２～5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P5
1　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまり弱い。
P6
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　焼土ブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P7
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第331図　SI068P1～P7



第332図　SI068出土遺物

第105表　SI068出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[4.2] 最大径：　－	外面：胴部筒状工具（竹管など）による刺突・ヘラナデ 内面：胴部ヘラナデ横位後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：胴部の破片	
2	弥生土器 台付甕	P6覆土	口　径：　－ 脚　径：　11.5 器　高：　[5.5] 最大径：　－	外面：脚台部ヨコナデ 内面：脚台部ヘラナデ横位	胎　土：白色粒・砂粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：にぶい赤褐 残存度：脚台部のみ完存	
3	弥生土器 鉢	床面	口　径：　9.1 底　径：　4.2 器　高：　5.9 最大径：　－	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラナデ、底面籾痕４箇所 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
4	弥生土器 鉢	床面	口　径：(13.8) 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	外面：口縁部～体部ヘラナデ後ヘラミガキ横位、赤彩 内面：口縁部～体部ヘラナデ後ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・砂粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～体部の1/2	
5	弥生土器 炉器台	床面	口　径：　(8.8) 脚　径：　9.5 器　高：　13.1 最大径：　－	特徴：器壁厚い 外面：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ・ヘラナデ縦位 内面：口縁部～脚部ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～脚部の4/5	
6	弥生土器 炉器台	炉・床面	口　径：　(8.4) 脚　径：　10.7 器　高：　10.9 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～脚部ヘラナデ縦位 内面：口縁部ヨコナデ、体部～脚部ヘラナデ横位・指頭圧痕	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～脚部の2/3	
7	弥生土器 ミニチュア 壺	床面	口　径：　3.9 底　径：　3.8 器　高：　8.2 最大径：　8.0	外面：口縁部～頸部単節縄文（LR）、胴部細い沈線で縦位に区画・区画内沈線で連続菱形文、底部ナデ 内面：口縁部～底部ナデ	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の4/5	

SI069（第333 ～ 335図、第106表、図版43・94）

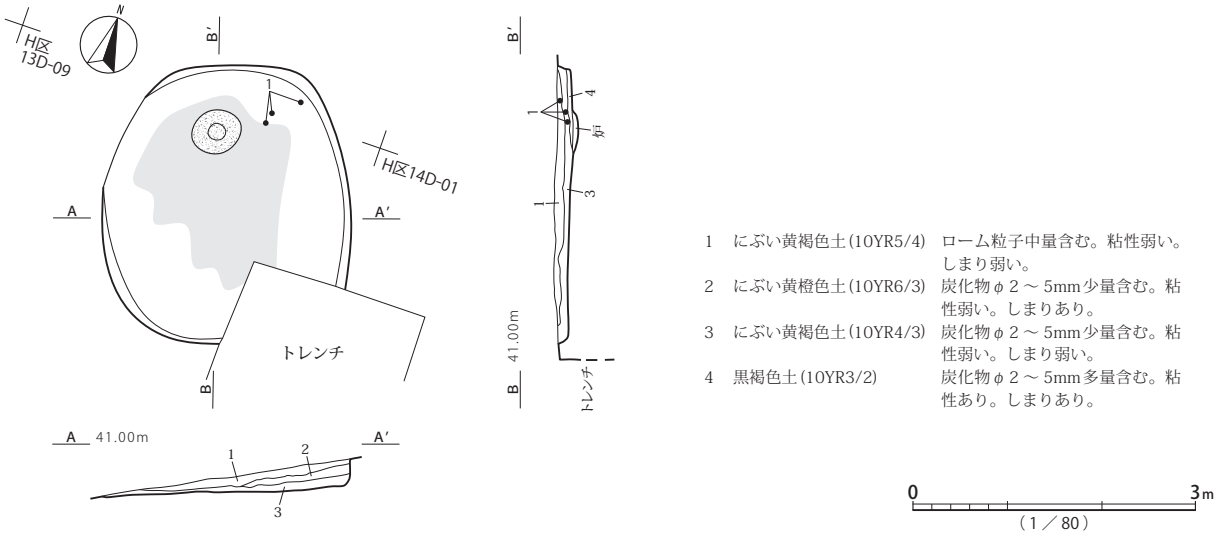
位置：H区14 D -00グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南東側の一部は削平される。**規模：**主軸2.96ｍ、副軸2.64ｍ、確認面からの深度0.44ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -19°- W。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.52ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

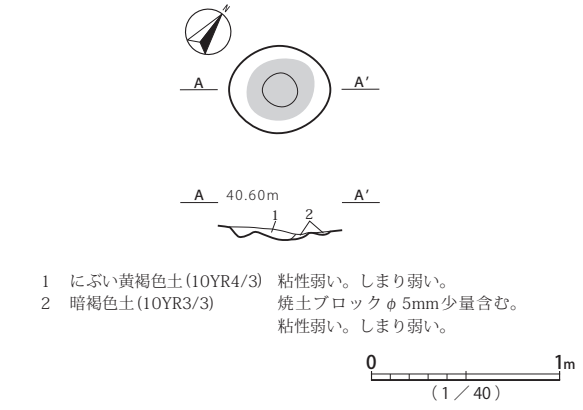
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器811.5gが出土した。

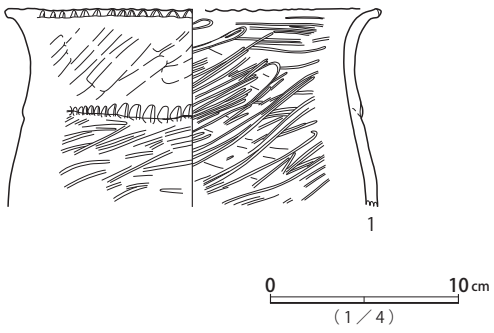
１は頸部に輪積み痕を一段残し、口唇部と段部に押圧を施す。



第333図　SI069



第334図　SI069炉



第335図　SI069出土遺物

第106表　SI069出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(19.6) 底　径：　－ 器　高：[10.5] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を１段残す 外面：口唇部押圧、口縁部ヨコナデ・粗いヘラナデ斜位、輪積み部押圧、胴部ヘラケズリ後粗いヘラミガキ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ斜位	胎　土：石英・角閃石・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～胴部の1/4	

SI070（第336 ～ 339図、第107表、図版44・94）

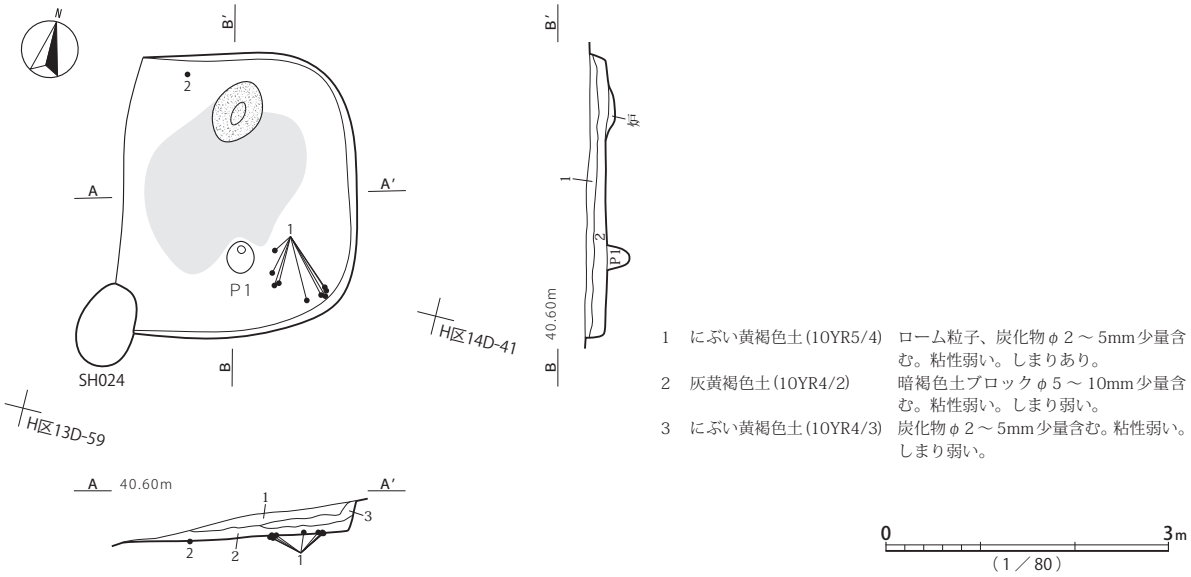
位置：H区13Ｄ-39グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.04ｍ、副軸（2.56）ｍ、確認面からの深度0.49ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-14°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.68ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが１基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期前葉と考えられる。

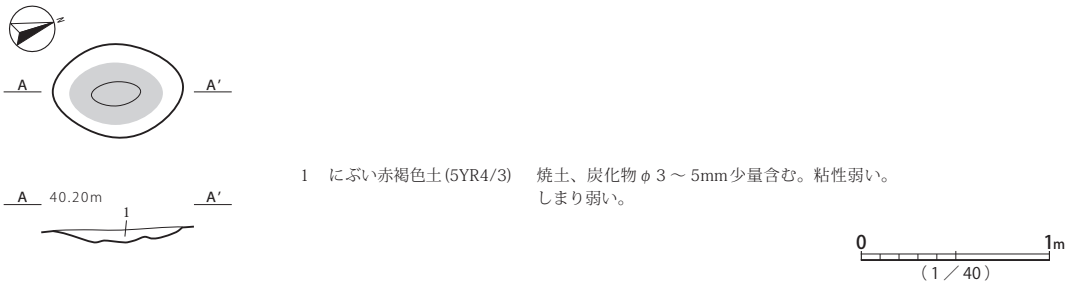
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から甕（１）、炉器台（２）が出土している。覆土は尾根方向からわずかに斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,022.3gが出土した。

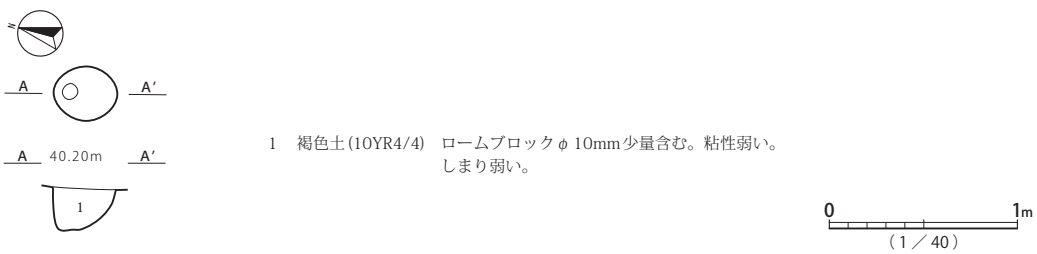
１は甕、２は円筒状の土器で、炉器台の脚部と考えられる。



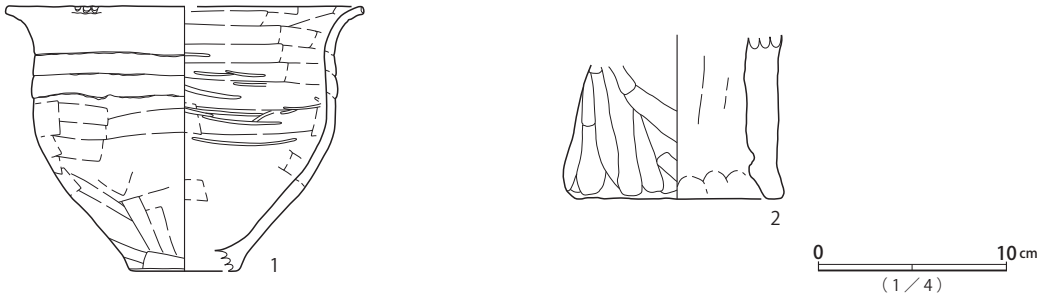
第336図　SI070



第337図　SI070炉



第338図　SI070P1



第339図　SI070出土遺物

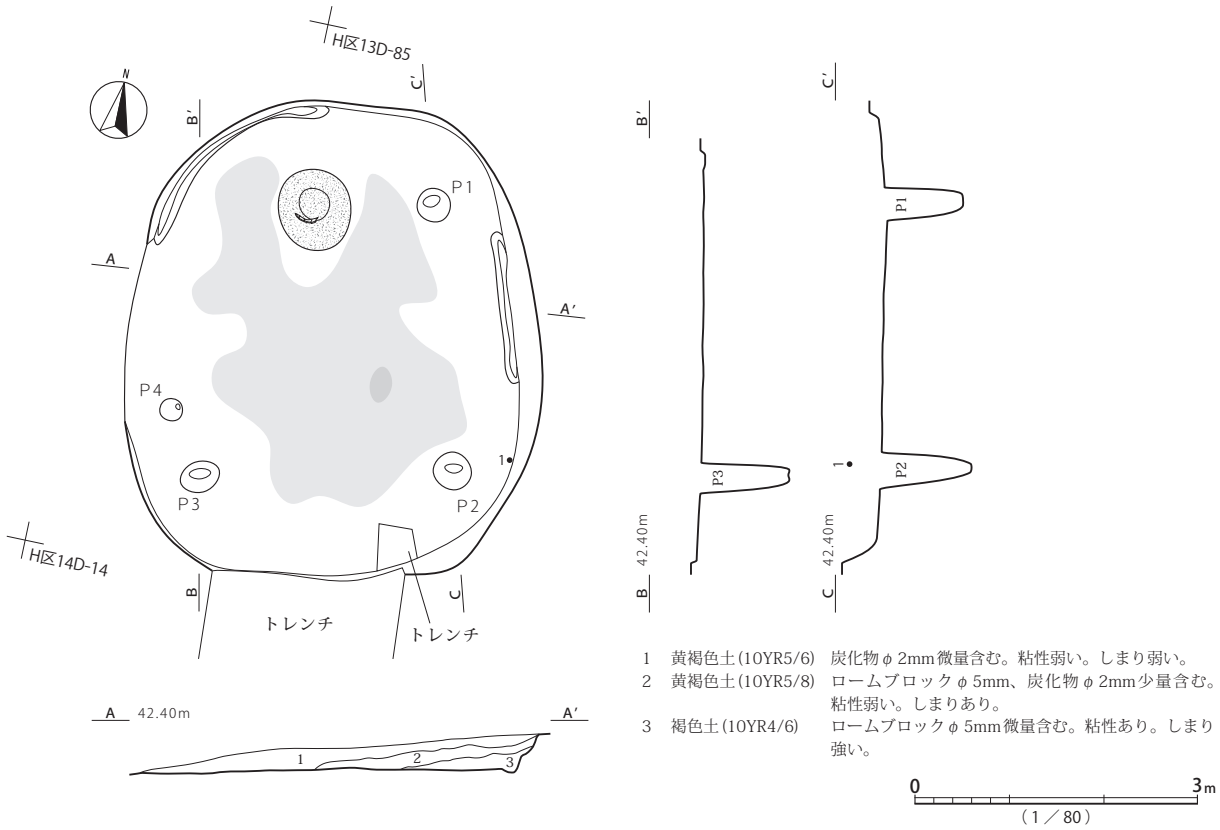
第107表　SI070出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口　径：(18.6) 底　径：　(5.6) 器　高：[14.0] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を3段残す 外面：口唇部押圧、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ・木葉痕 内面：口縁部～胴部ヘラナデ横位、粗いヘラミガキ横位、底部ナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/3	
2	弥生土器 炉器台	床面	口　径：　－ 脚　径：　10.8 器　高：　[8.7] 最大径：　－	外面：脚部ヘラケズリ縦位 内面：脚部ヘラナデ、指頭圧痕	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部の1/2	

SI071（第340～342図、第108表、図版44・94）

位置：H区14C-95グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SD001を切る。**規模：**主軸（5.08）m、副軸（4.40）m、確認面からの深度0.51m。**形態：**小判形。**主軸方位：**N-12°-W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.84m、短軸0.76mで浅く窪む。燃焼面からは土器



1　黄褐色土(10YR5/6)　炭化物φ2mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロックφ5mm、炭化物φ2mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまり強い。

第340図　SI071

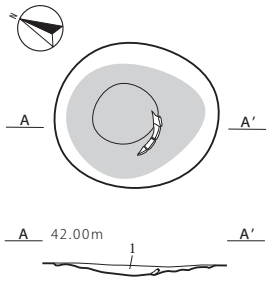
片が直立して出土しており、土器囲いに使用されたと考えられる。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸方向2.76ｍ、副軸方向2.64ｍ。もう１基の主柱穴は確認できなかった。周溝は北西隅と東壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器975.6gが出土した。

１は内外面が赤彩される。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土ブロックφ2mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。



（1／40）

第341図　SI071炉





（1／4）

第342図　SI071出土遺物

第108表　SI071出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器鉢	覆土中層	口　径：(7.4) 底　径：2.8 器　高：4.6 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ横位、底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	

SI072（第343・344図、第109表、図版44・94）

位置：H区14Ｅ-09グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.16）m、副軸（3.80）m、確認面からの深度0.50ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-26°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが１基検出された。周溝は北壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北西側付近が硬化している。

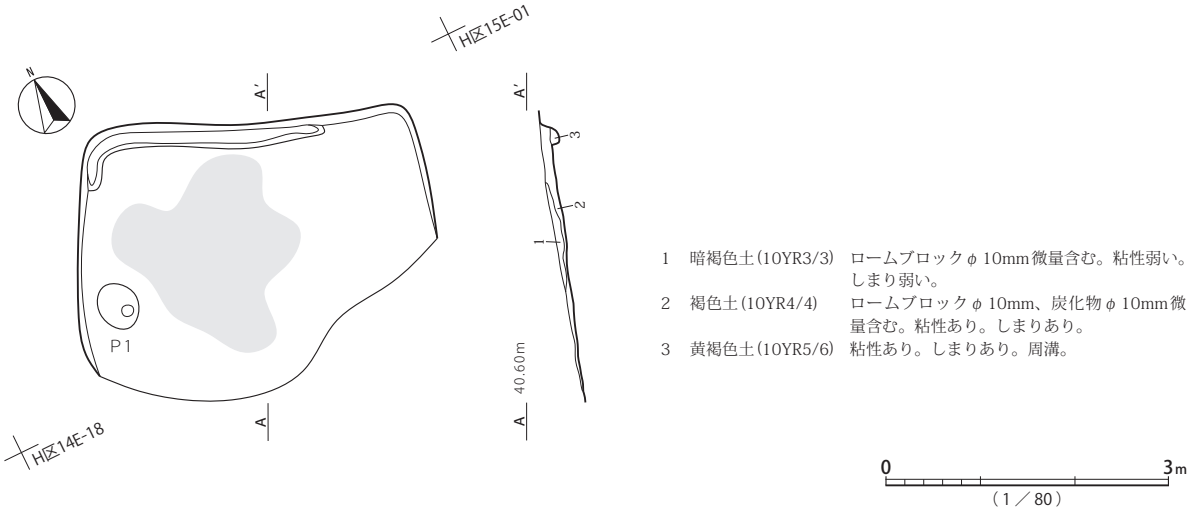
時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。周溝の一部と硬化範囲を検出したた

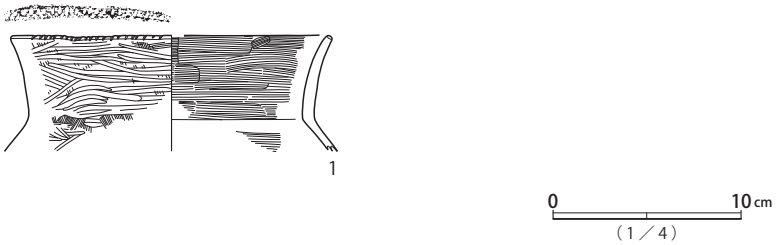
め、竪穴建物として調査を行った。床面が水平でなく、台地の斜面と同方向に傾斜しており疑問が残る。

遺物：土器721.1gが出土した。

１の頸部は「く」の字形に屈曲する。



第343図　SI072



第344図　SI072出土遺物

第109表　SI072出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口　径：(16.6) 底　径：　－ 器　高：　[6.1] 最大径：　－	**外面**：口唇部上からハケキザミ、口縁部～頸部ハケメ縦位後ヘラミガキ横位 **内面**：口縁部～頸部ハケメ横位	**胎　土**：石英・海綿骨針・黒色粒 **焼　成**：良好 **色　調**：橙 **残存度**：口縁部～頸部の破片	外面煤付着

SI073（第345～348図、第110・111表、図版44・94）

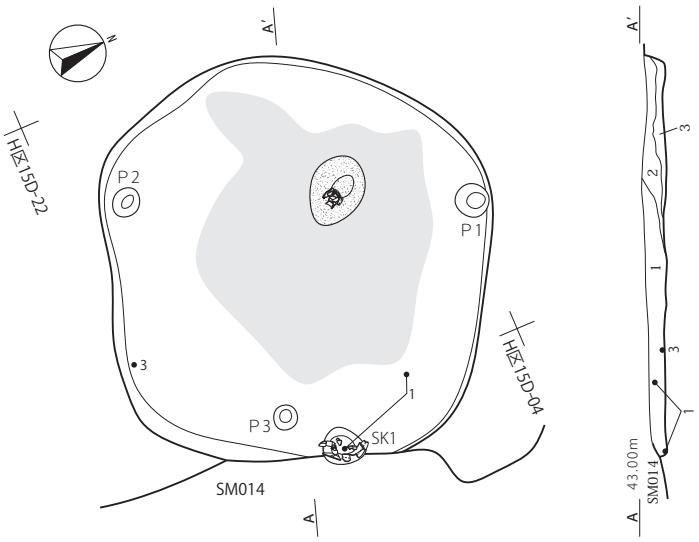
位置：H区15D-03グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SM014に切られる。**規模：**主軸（4.32）m、副軸（4.20）m、確認面からの深度0.25m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N－67°－W。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.80m、短軸0.56mで浅く窪む。**施設：**ピット３基、土坑１基が検出された。Ｐ１・Ｐ２は、対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は3.72m。Ｐ３は、主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。SK1は長軸0.44m、短軸0.36mの貯蔵穴である。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から弥生時代後期中葉以降と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。炉、主柱穴、貯蔵穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。炉から甕（２）、SK1からは甕（１）と甕内に充填されていたとみられる直径約20cmの粘土塊が出土した。

遺物：土器2,683.6g、石器・石製品362.93gが出土した。

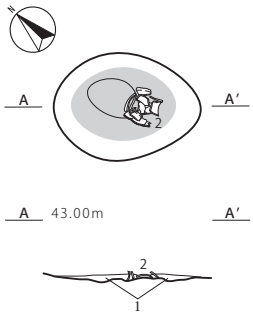
１・２は甕である。１は口縁部と頸部輪積み上にキザミが施される。３は蛤刃石斧を転用した敲石である。



1　黄褐色土(10YR5/6)　炭化物φ2mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　黄褐色土(10YR5/6)　粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

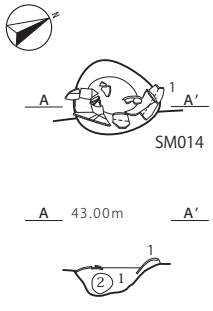
第345図　SI073



1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ2mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

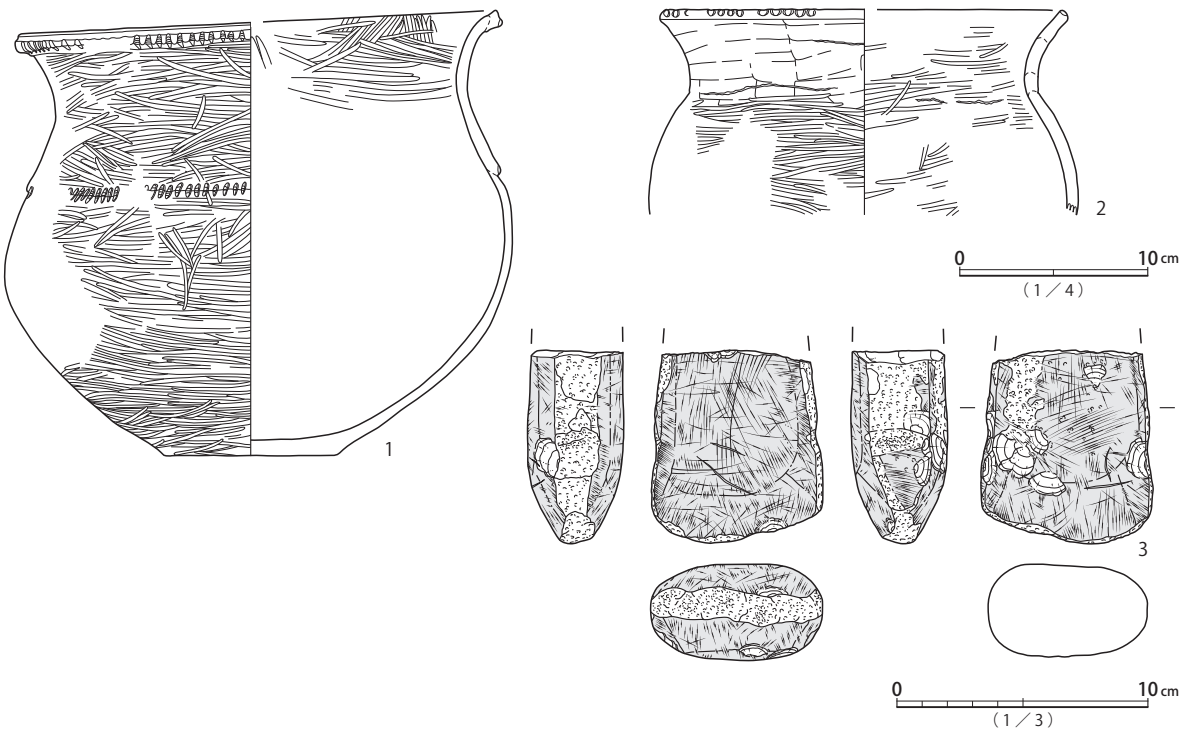
第346図　SI073炉



1　黄褐色土(10YR5/6)　粘性弱い。しまり弱い。
2　灰白色土(10YR8/2)　粘性非常に強い。しまり非常に強い。甕に充填されていた粘土か。

0　1m
（1／40）

第347図　SI073SK1遺物出土状況



第348図　SI073出土遺物

第110表　SI073出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	SK1覆土	口　径：(25.3) 底　径：　9.0 器　高：23.5 最大径：(26.9)	特徴：折り返し口縁、輪積み痕を1段残す 外面：口唇部ハケキザミ、頸部ヘラミガキ横位・輪積み部ハケキザミ、胴部～底部ヘラミガキ横位 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、胴部以下磨耗のため判別不能	胎　土：石英・白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	外面煤付着
2	弥生土器 甕	炉	口　径：(21.0) 底　径：　－ 器　高：[10.9] 最大径：　－	外面：口唇部上から押圧、口縁部～頸部ヘラナデ、胴部ヘラミガキ横位 内面：口縁部～胴部ナデ後ヘラミガキ横位	胎　土：石英・砂粒・橙色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	

第111表　SI073出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
3	敲石	ドレライト	床面	[7.70]	6.80	3.70	362.93	蛤刃石斧を転用、磨：表・裏・右・左各1面、敲：裏・右・左・下各1箇所

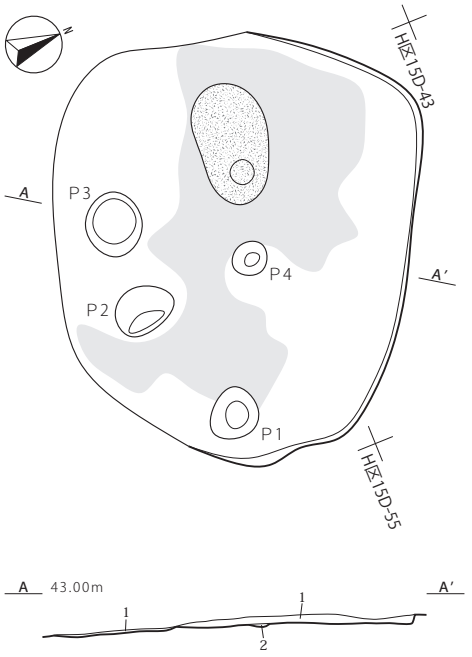
SI074（第349・350図、図版45）

位置：H区15Ｄ-53グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（4.60）m、副軸（3.92）m、確認面からの深度0.29m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-68°-Ｗ。**炉：**竪穴中央西寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.28m、短軸0.80mで浅く窪む。**施設：**ピットが4基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺から南壁にかけてやや不定形に硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。上部のほとんどが削平されているため、ピットには本遺構に伴わないものが含まれている可能性がある。

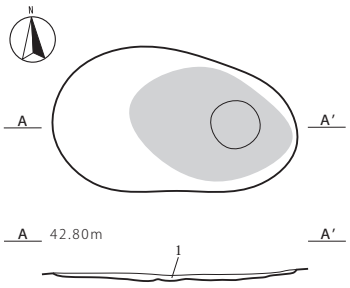
遺物：土器1,001.0g、縄文土器21.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　褐色土(10YR4/4)　炭化物φ10mm少量、焼土ブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱い。しまりあり。P4。

0　3m
（1／80）

第349図　SI074



1　明赤褐色土(2.5YR5/8)　焼土ブロックφ2mm多量含む。粘性非常に弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第350図　SI074炉

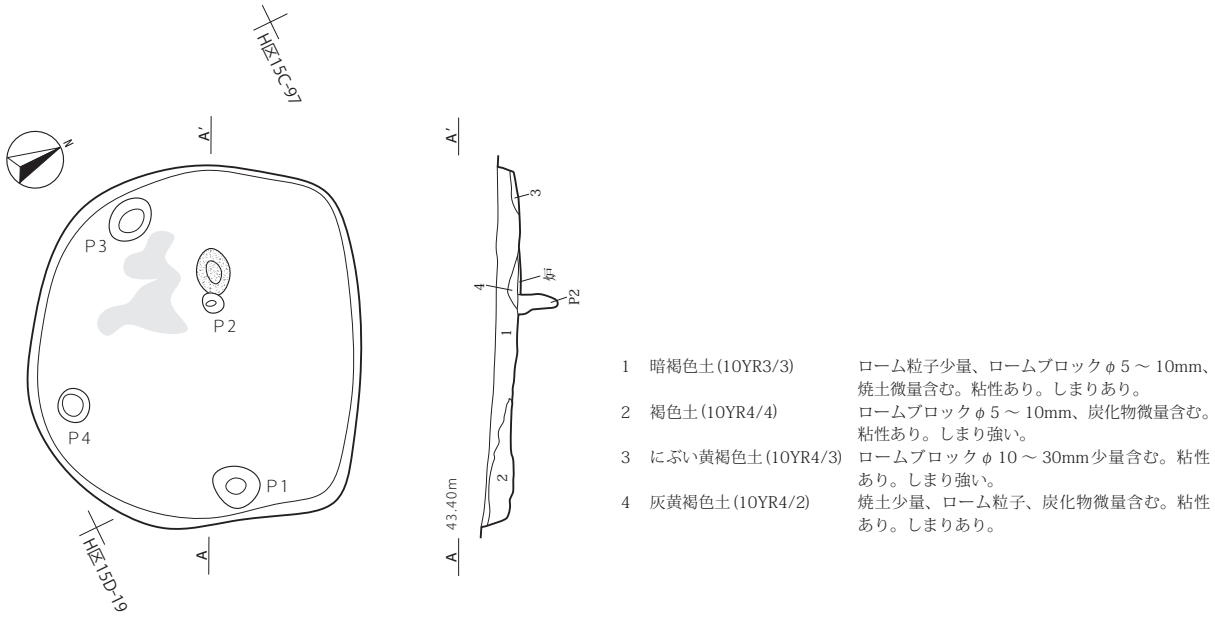
SI075（第351・352図、図版45）

位置：H区15C-98グリッドを中心とする台地の北東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.84m、副軸3.52m、確認面からの深度0.51m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-64°-W。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸（0.48）m、短軸0.36mで浅く窪む。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺がわずかに硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。炉と重複するＰ２は樹木痕の可能性がある。

遺物：土器718.0g、縄文土器20.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第351図　SI075



第352図　SI075炉

SI076（第353～355図、第112表、図版45・94）

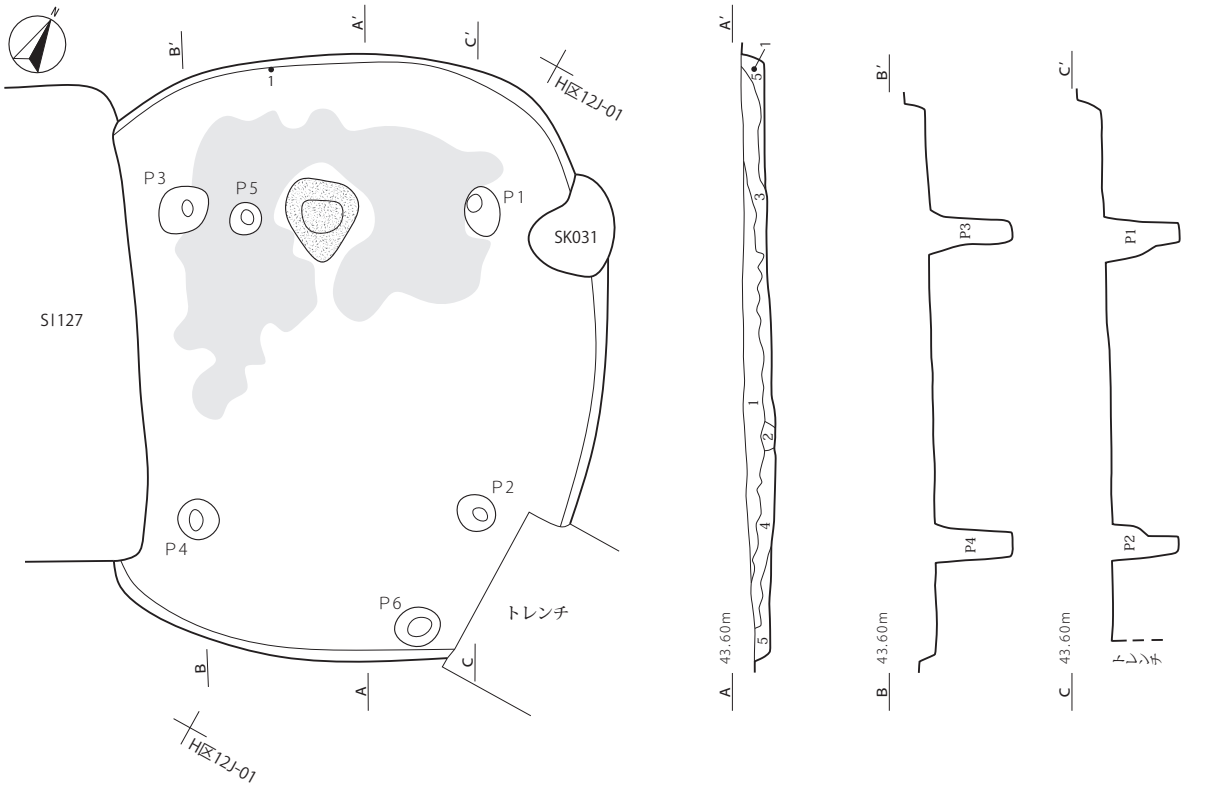
位置：Ｈ区16Ｄ-53グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SK009を切り、SI127、SK031に切られる。**規模：**主軸6.44ｍ、副軸（5.24）ｍ、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-29°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.88ｍ、短軸0.76ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向3.36ｍ、副軸方向3.04ｍ。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

所見：炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。覆土は緩やかなレンズ状の堆積で自然埋没した状況を示す。

遺物：土器810.8g、縄文土器20.0gが出土した。

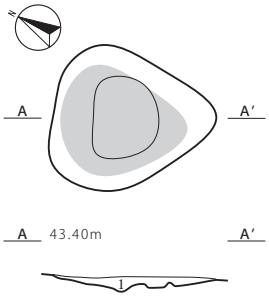
１は折り返し部に布目キザミが施される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　　ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第353図　SI076



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　　焼土少量、ロームブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第354図　SI076炉



0　10cm
（1／3）

第355図　SI076出土遺物

第112表　SI076出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［1.7］ 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節縄文（RL）、端部布目キザミ、口縁部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・橙色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

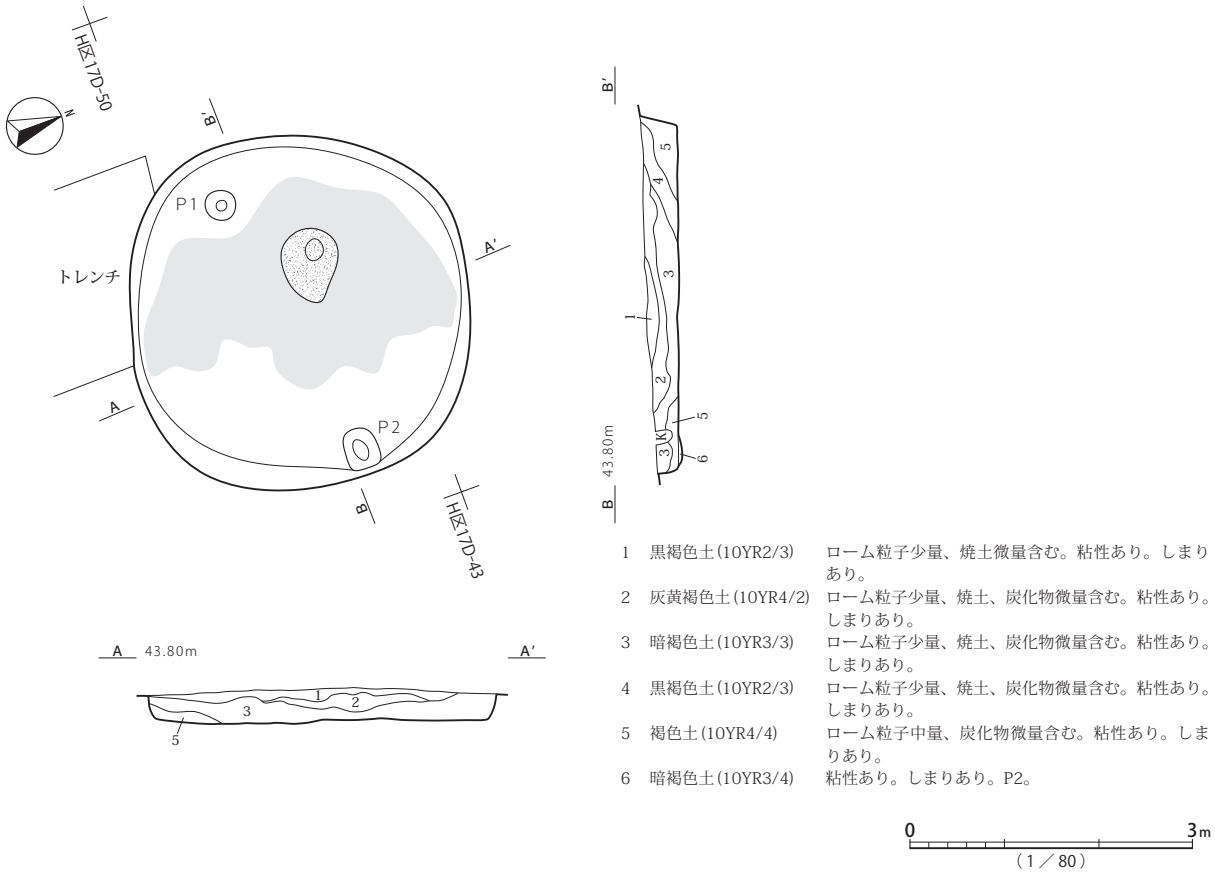
SI077（第356・357図、図版45）

位置：H区17 D -41 グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸3.76ｍ、副軸3.60ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -70°- W。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と推測される。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

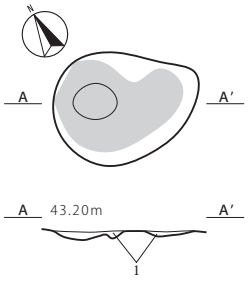
遺物：土器653.0g、縄文土器30.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。P2。

0　3m
（1／80）

第356図　SI077



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第357図　SI077炉

SI078（第358 ～ 361図、第113表、図版45・94）

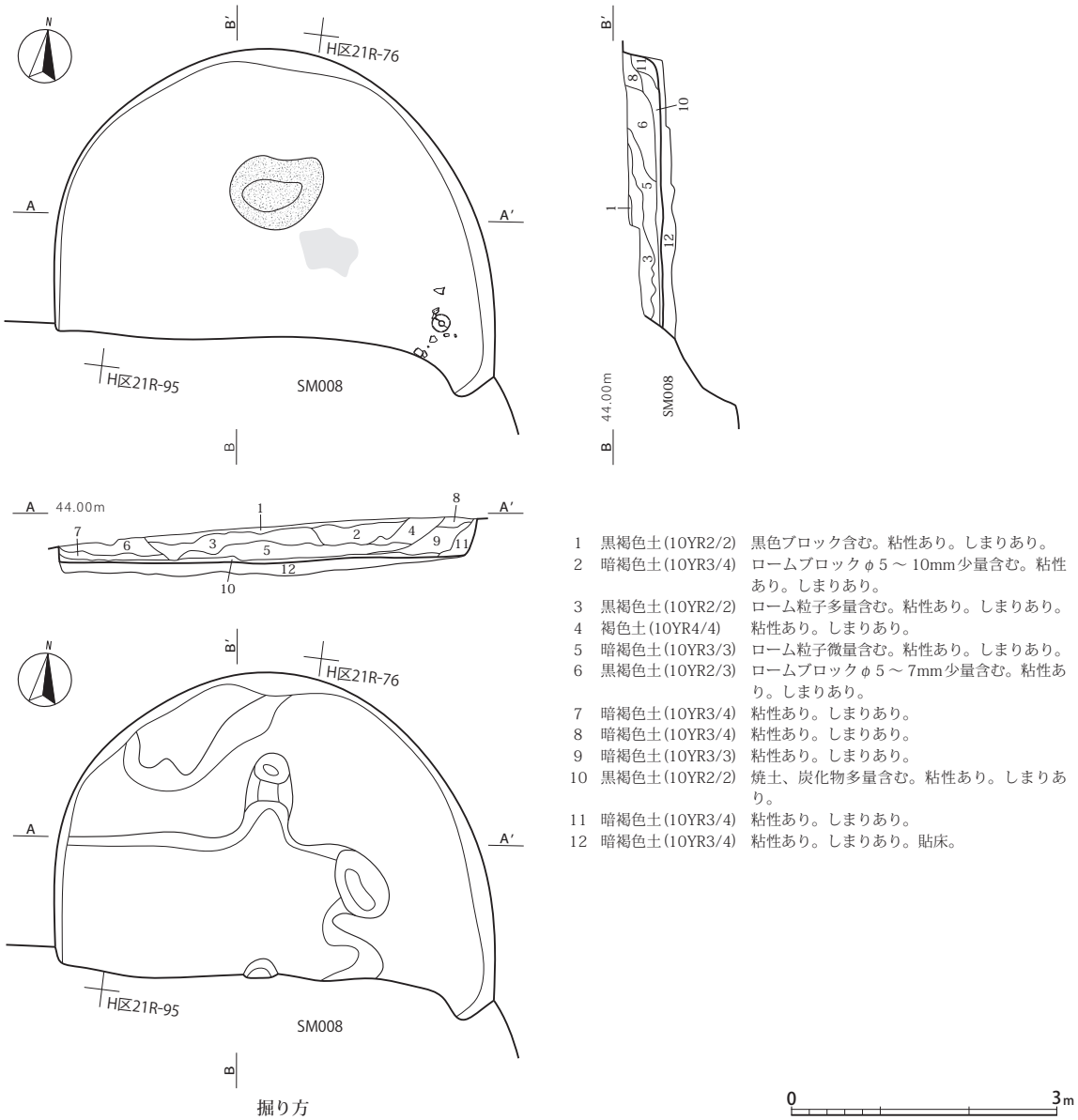
位置：H区21 R -75グリッドを中心とする尾根先端の南向き緩斜面に位置する。**重複：**SM008に切られる。**規模：**主軸（3.92）m、副軸4.96ｍ、確認面からの深度0.55ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**N－7°－W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.12ｍ、短軸0.84ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方に暗褐色系の土を敷き詰め、その上面を床としており、炉の周辺がわずかに硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の平面形態から弥生時代終末期と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から高坏（２）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

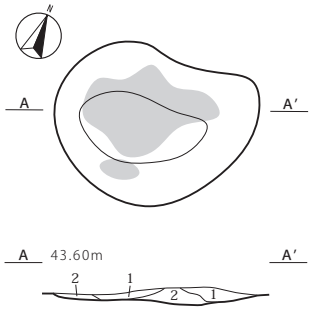
遺物：土器2,387.5gが出土した。

１は鉢、２は高坏である。１は大型で、底部も厚みをもつ。２は坏部のみ残存し、脚台部を欠損する。



1　黒褐色土(10YR2/2)　黒色ブロック含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ５～7mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
8　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
9　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
10　黒褐色土(10YR2/2)　焼土、炭化物多量含む。粘性あり。しまりあり。
11　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
12　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。貼床。

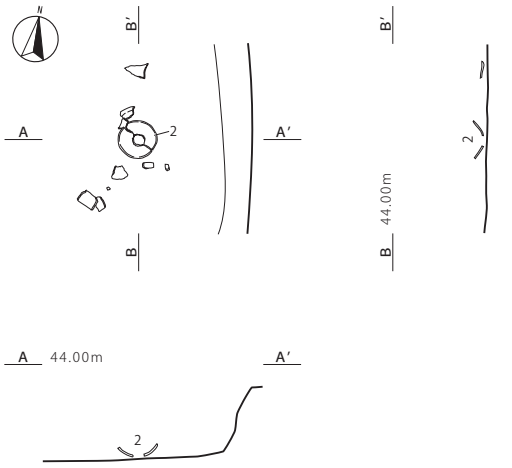
第358図　SI078



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(7.5YR4/3)　焼土少量、ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第359図　SI078炉



0　1m
（1／40）

第360図　SI078遺物出土状況



0　10cm
（1／4）

第361図　SI078出土遺物

第113表　SI078出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	確認調査	口　径：21.0 底　径：8.0 器　高：6.7 最大径：－	外面：口縁部～体部ヘラミガキ、底部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	壺底部の転用品と考えられる。
2	弥生土器 高坏	床面	口　径：18.6 脚　径：－ 器　高：[6.5] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、接合部ヘラナデ 内面：坏部ヘラミガキ	胎　土：石英・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	

２．溝

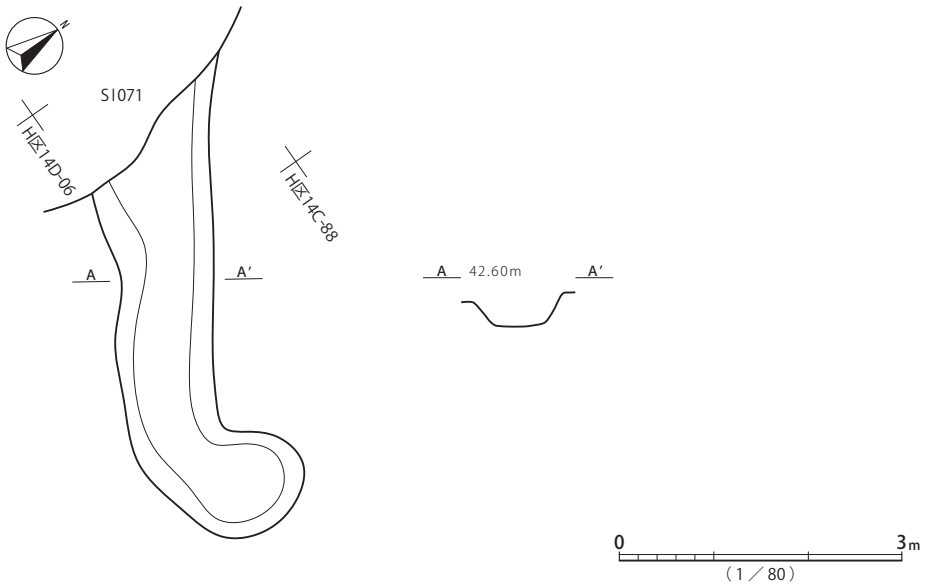
SD001（第362図、図版45）

位置：H区14Ｃ-96グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**西側はSI071に切られる。**規模：**全長（4.74）m、幅0.95 ～ 1.26 m、確認面からの深度0.26 ～ 0.34 m。**形態：**北西－南東方向に伸び、南東端で屈曲する。底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：重複および覆土から弥生時代と考えられる。

所見：台地の西向き緩斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

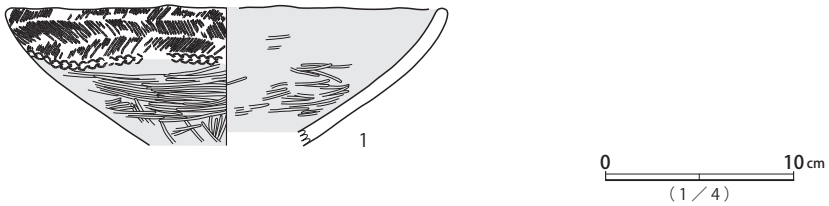
遺物：土器41.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第362図　SD001

３．ピット出土遺物（第363図、第114表、図版45・94）

本調査区では時期不明のピットが多数検出されたため、第212表にて報告している。このうちSH219からは鉢（１）が出土している。覆土下層からの出土であり、混入と断定はできないため本項で報告する。



第363図　SH219出土遺物

第114表　SH219出土土器観察表

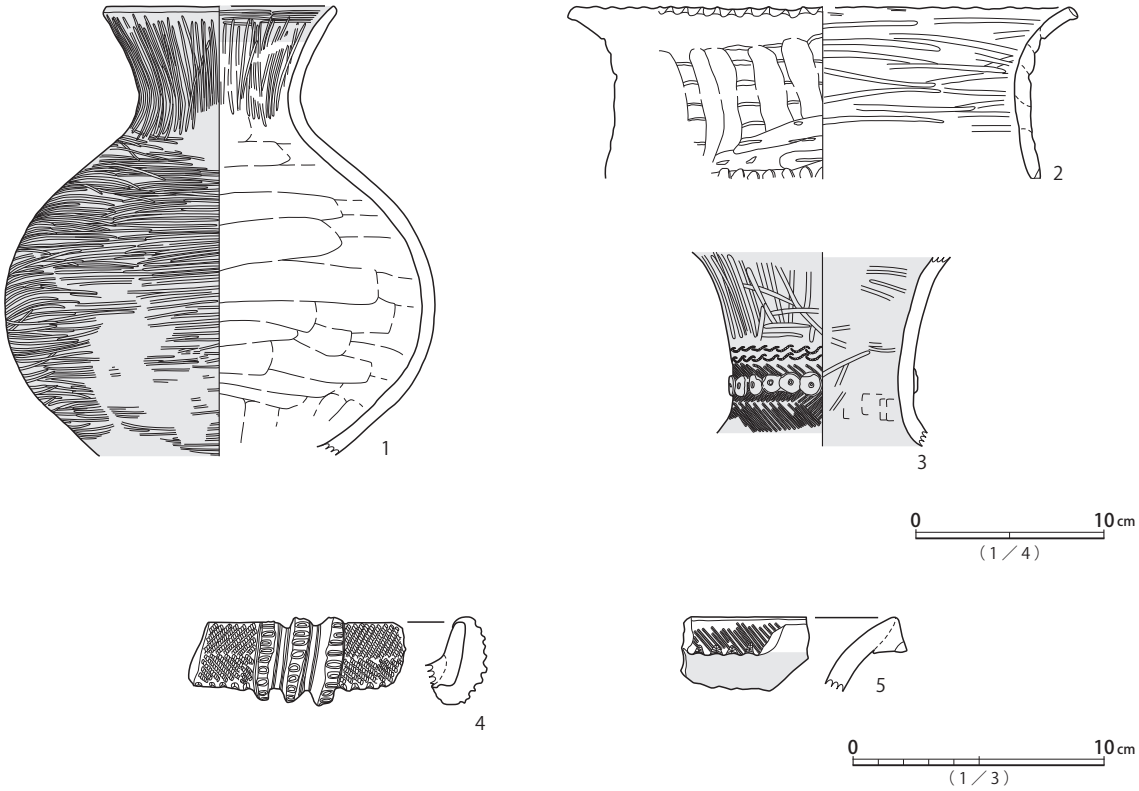
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：(22.8) 底　径：　－ 器　高：　[7.3] 最大径：　－	外面：口縁部単節羽状縄文（LR・RL・LR）・結節文（Z・S）、体部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部～体部ヘラミガキ横位、上部は磨耗、赤彩	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/2	

４．遺構外出土遺物（第364図、第115表、図版94）

他時代の遺構から出土した混入遺物のうち、弥生時代の遺物についてここで報告する。

１は外面が赤彩される壺である。頸部外面は縦位、胴部には横位のミガキが密に施される。２は頸部が指頭により押圧され、輪積み痕が断続的に消されている。また段部の下端には押圧が施される。３の外面は貼付文や縄文帯も赤彩されている。４は内面が、５は内外面が赤彩される。



第364図　弥生時代遺構外出土遺物

第115表　弥生時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	SM010 墳丘	口　径：(12.0) 底　径：　－ 器　高：[23.8] 最大径：(22.8)	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～胴部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、赤彩、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～胴部の1/2	
2	弥生土器 甕	確認調査	口　径：(26.0) 底　径：　－ 器　高：[9.1] 最大径：　－	特徴：輪積み痕を７段残す 外面：口唇部上からの押圧、口縁部ヨコナデ、輪積み部間隔の空いたナデ縦位、頸部押圧 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位	胎　土：石英・角閃石・海綿骨針、白色粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～頸部の1/3	
3	弥生土器 壺	SI097 周溝	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[10.0] 最大径：　－	外面：頸部ヘラミガキ縦位主体、赤彩・結節文（S2段）・単節羽状縄文（RL・LR・RL）・刺突のある円形貼付文 内面：器面磨耗、ヘラナデ後ヘラミガキ横位、上部赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：頸部の3/4	
4	弥生土器 壺	SI121 覆土上層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[3.5] 最大径：　－	特徴：複合口縁 外面：複合部単節羽状縄文（LR・RL）・端部下からヘラキザミ・ヘラキザミのある棒状貼付文３本一組 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：石英・褐色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	
5	弥生土器 壺	SI084 覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[2.9] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部単節縄文(RL)・端部ハケキザミ、口縁部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：砂粒 焼　成：良好 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部の破片	

第３節　古墳時代

１．古　墳

SM001（第365図、図版47）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区11Ｔグリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。南東側約73mにSM002がある。**重複：**SI079 ～ SI081に切られる。**規模：**東辺（0.84）m、北辺（2.74）m。周溝を含めた総長は東辺（1.57）m、北辺（3.48）m。

墳丘：残存しない。

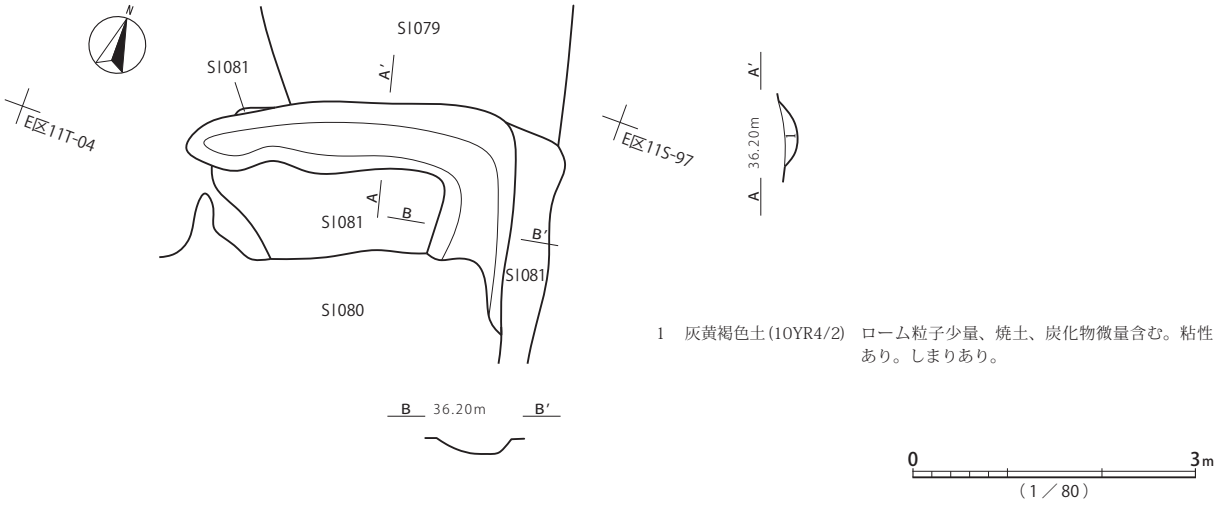
周溝：遺構の重複や削平等により、わずかにＬ字状の検出に留まる。規模は残存状況の良好な北東隅周辺において幅0.74m、確認面からの深度0.21m。断面形態は浅い皿状となっている。覆土は灰黄褐色土の単層を確認したのみである（１層）。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：遺物の出土がなく、断定はできないがSM003同様、７世紀代と推測される。

所見：多数の遺構と重複しているがSM003と類似する平面形態であることから、周溝と判断した。

遺物：出土していない。



第365図　SM001

SM002（第366・367図、第116・117表、図版47・95・112）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｅ区12Ｗグリッドを中心とする台地の東向き斜面に位置する。南西側約44mにSM003がある。**重複：**SI028を切る。**規模：**北西辺11.20m、南西辺（5.67）m。周溝を含めた総長は、北西辺14.96m、南西辺（7.55）m。**主軸方位：**北東－南西方向を主軸と仮定し、Ｎ－26°－Ｅ。

墳丘：残存しない。

周溝：南東側を消失し、「コ」の字状に巡る。規模は残存状況の良好な北西周溝では、幅1.52 ～ 2.07m。確認面からの深度0.41 ～ 0.65m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は下層がにぶい黄褐色土や褐色土を主体とし（６～９層）、上層は黒褐色土や暗褐色土を主体と

する（１～５層）。

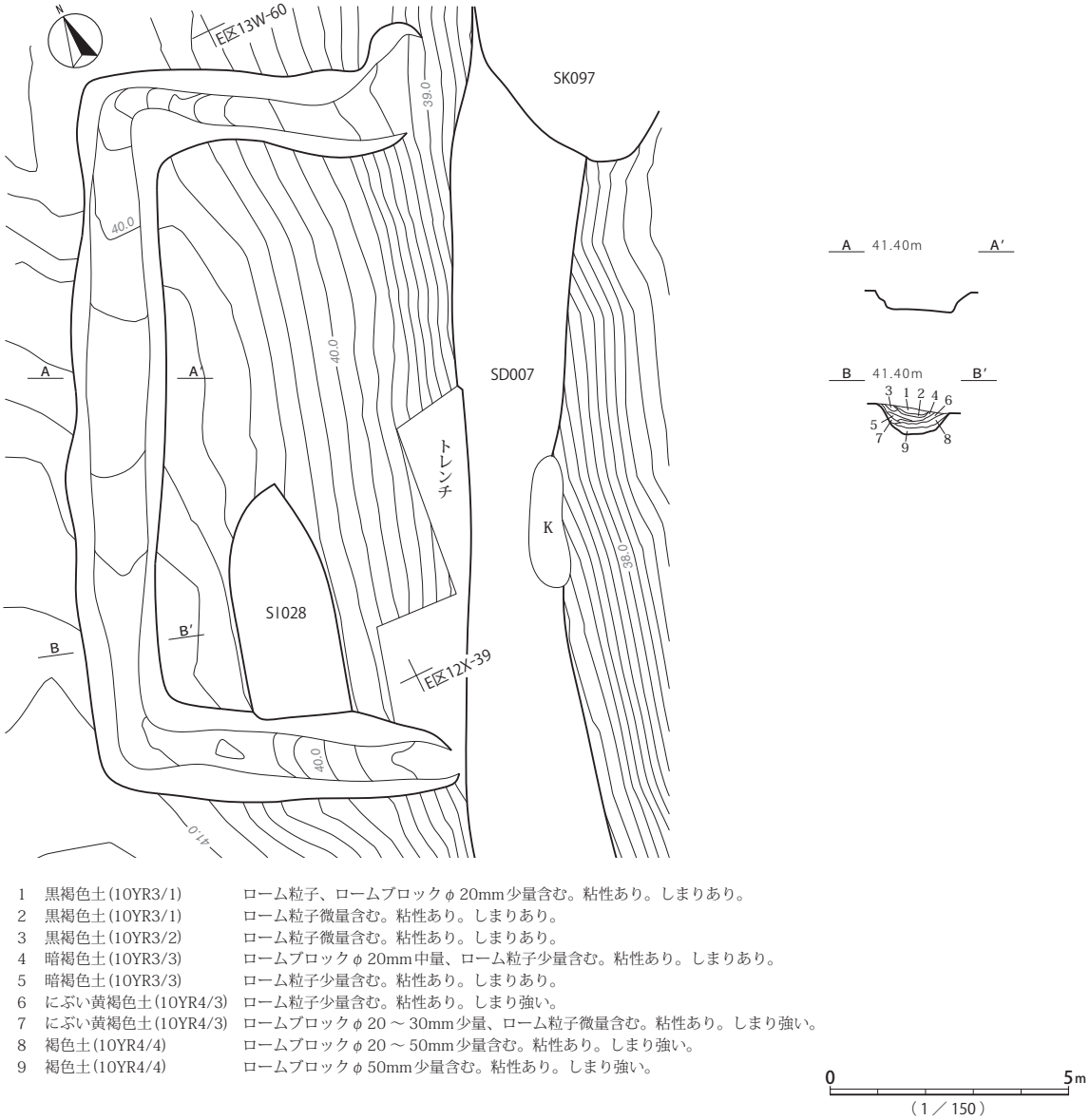
埋葬施設：検出されなかった。

時期：遺物の出土が少なく断定はできないが、近接するSM003同様、古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と推測される。

所見：周溝のみが検出された方墳である。東側は地滑り等により消失しているが、11m四方の墳丘を有する方墳であったと考えられる。この規模から推測すると、SD007に切られることとなり、あるいはSD007の構築時に破壊されていたとも考えられる。覆土のしまりが強い箇所があるが、この部分は調査前まで上面が生活道路として利用されていたためである。墳丘にあたる箇所から土師器甕（１）、須恵器坏（２）が出土しているが、本遺構に伴うとは断定出来ない。

遺物：土器4,267.5g、須恵器59.6g、土製品22.7gが出土した。

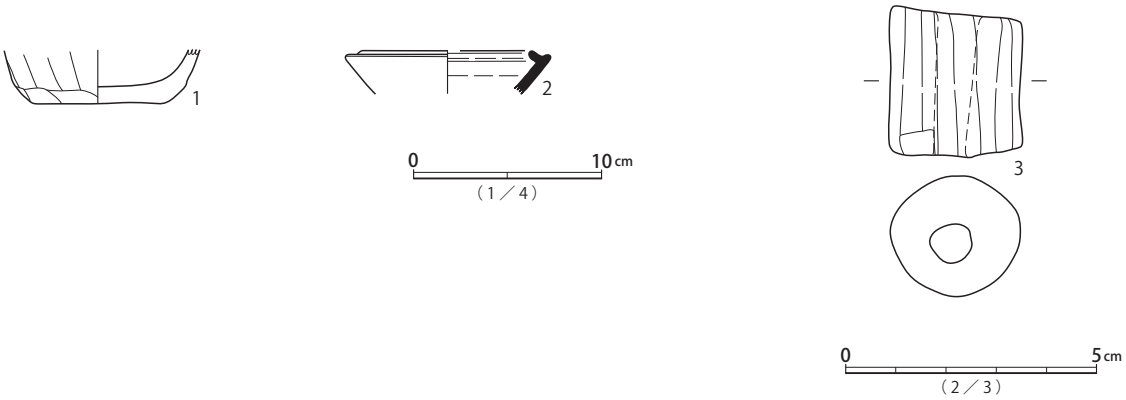
１は土師器の甕、２は須恵器の坏である。３は管状の土錘である。直径2.6cmと大きめで、角の立った筒型である。



1	黒褐色土(10YR3/1)	ローム粒子、ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/1)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ20mm中量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ20～30mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
8	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ20～50mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
9	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　5m
（1／150）

第366図　SM002



第367図　SM002墳丘出土遺物

第116表　SM002出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	方台部	口　径：　－ 底　径：　6.8 器　高：　[2.8] 最大径：　－	外面：胴下部ヘラケズリ、底部ナデ 内面：磨耗のため判別不能	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：底部の破片	
2	須恵器 坏身	方台部	口　径：　(8.9) 底　径：　－ 器　高：　[2.3] 最大径：(10.8)	外面：口縁部～体部ロクロ調整 内面：口縁部～体部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～体部の破片	

第117表　SM002出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
3	管状の土錘	方台部	直径：2.6　長さ：3.0　孔径：0.8	22.7	

SM003（第368～370図、第118表、図版47・95）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**H区11Aグリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI047・SI046・SI118、SD002、SK027を切る。**規模：**東辺（7.75）m、南辺（1.93）m。周溝を含めた総長は、東辺（9.19）m、南辺（3.79）m。**主軸方位：**南北方向を主軸と仮定し、N－20°－W。

墳丘：残存しない。

周溝：北西から南西側を消失し、L字状に巡る。規模は残存状況の良好な北西周溝では、幅1.47～2.03m。確認面からの深度0.65～0.88m。断面形態は平坦な底面から壁面は階段状に立ち上がる。覆土は下層にロームブロックを含む暗褐色土や黒褐色土が堆積している（4・5層）。

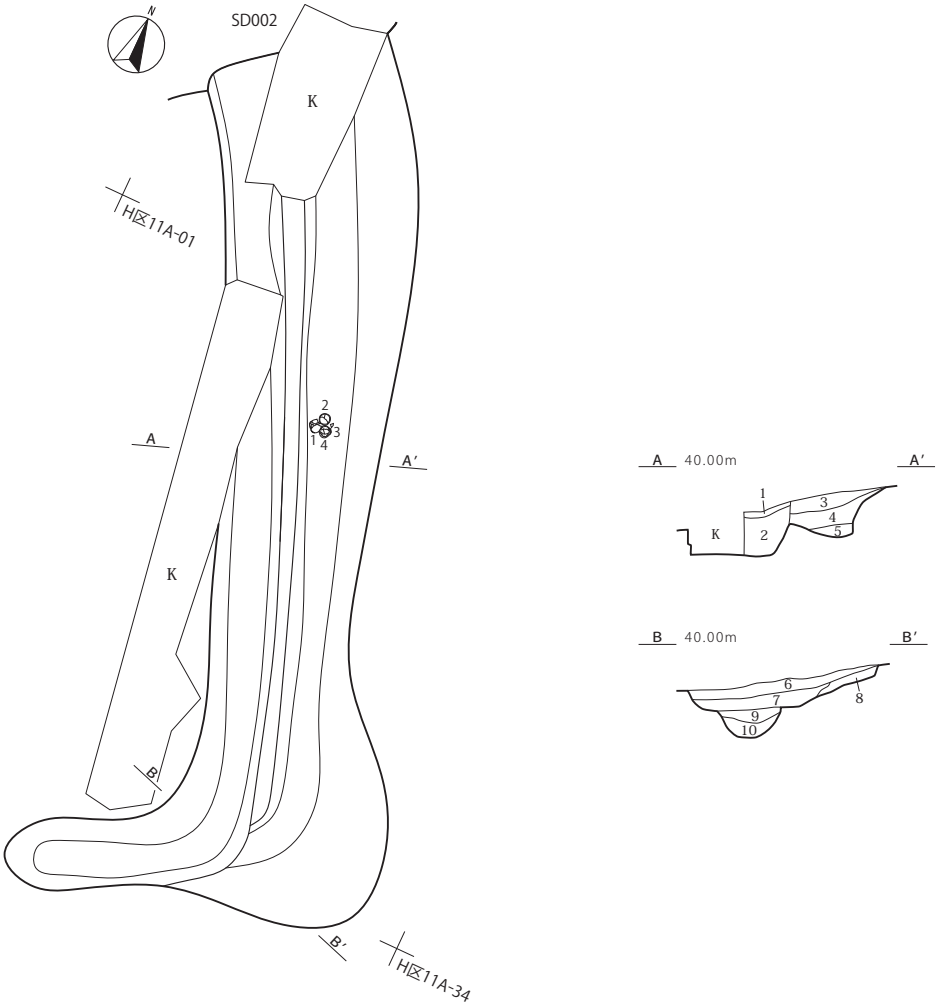
埋葬施設：検出されなかった。

時期：出土遺物から古墳時代終末期4段階（7世紀後葉）と考えられる。

所見：周溝のみが検出された方墳である。地滑りや耕作等により、北側から西側の周溝が消失している。東周溝の上段底面で土師器坏が5点まとまって出土している（第369図、1～5）。いずれも正位で出土し、2点ずつが重ねられた状態であった。墳丘や周溝外からの転落とは考えにくく、周溝内祭祀が想起される。周溝壁面が階段状であり、覆土の観察から、掘り返した痕跡がみられることから、別遺構の周溝が重複していた可能性がある。

遺物：土器1,187.2g、縄文土器9.0gが出土した。

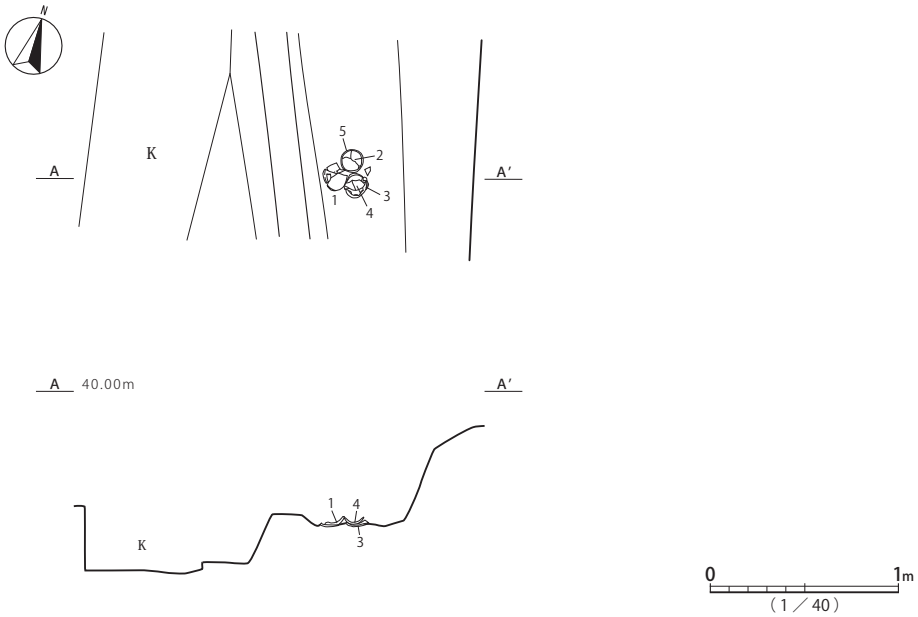
１～５は土師器の坏である。いずれも半球状の椀型であり、口縁は内湾しない。内面には放射状暗文が施される。



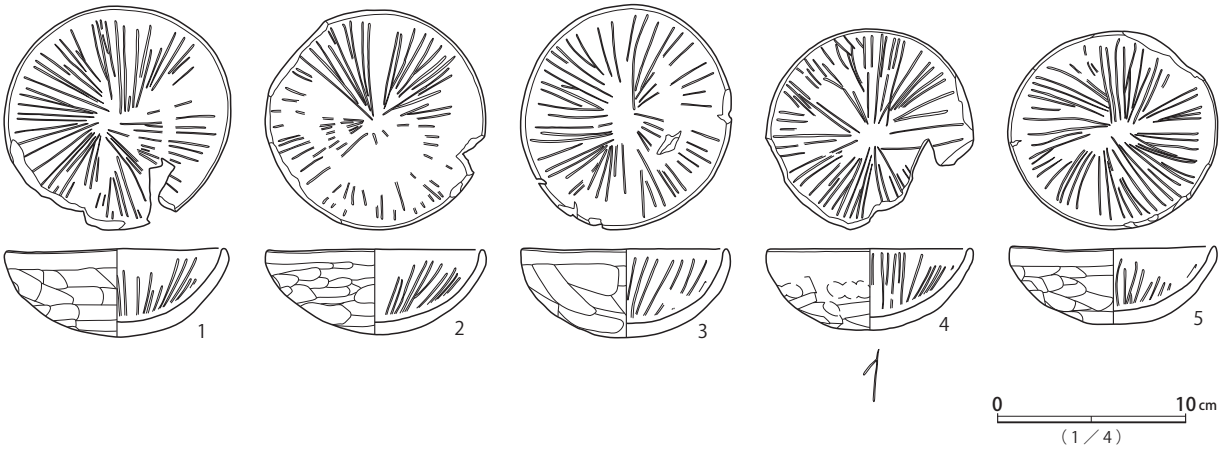
1　暗褐色土(7.5YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性あり。しまり非常に強い。
4　黒褐色土(7.5YR2/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。
5　暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム粒子、焼土ブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性あり。しまり非常に強い。
7　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまり非常に強い。
8　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまり非常に強い。
9　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
10　暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム粒子、焼土ブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第368図　SM003



第369図　SM003遺物出土状況



第370図　SM003出土遺物

第118表　SM003出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	周溝底面	口　径：11.6 底　径：－ 器　高：4.7 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明赤褐 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 坏	周溝底面	口　径：11.4 底　径：－ 器　高：4.5 最大径：11.7	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明赤褐 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 坏	周溝底面	口　径：10.8 底　径：－ 器　高：4.7 最大径：11.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、放射状暗文	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：明赤褐 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 坏	周溝底面	口　径：10.8 底　径：－ 器　高：4.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部指頭圧痕・ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～体部の3/4	
5	土師器 坏	周溝底面	口　径：10.8 底　径：－ 器　高：4.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：良好 色　調：明赤褐 残存度：ほぼ完存	

SM004（第371図、図版47）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｈ区20Ｍグリッドを中心とする痩せ尾根の北端に位置する。南東側約７ｍにSM005が隣接する。**重複：**SD007、SK048に切られる。**規模：**北東辺8.96m、南東辺（7.59）m。周溝を含めた総長は北東辺10.37m、南東辺（9.72）m。**主軸方位：**北西－南東方向を主軸と仮定し、Ｎ-33°-Ｗ。

墳丘：残存しない。

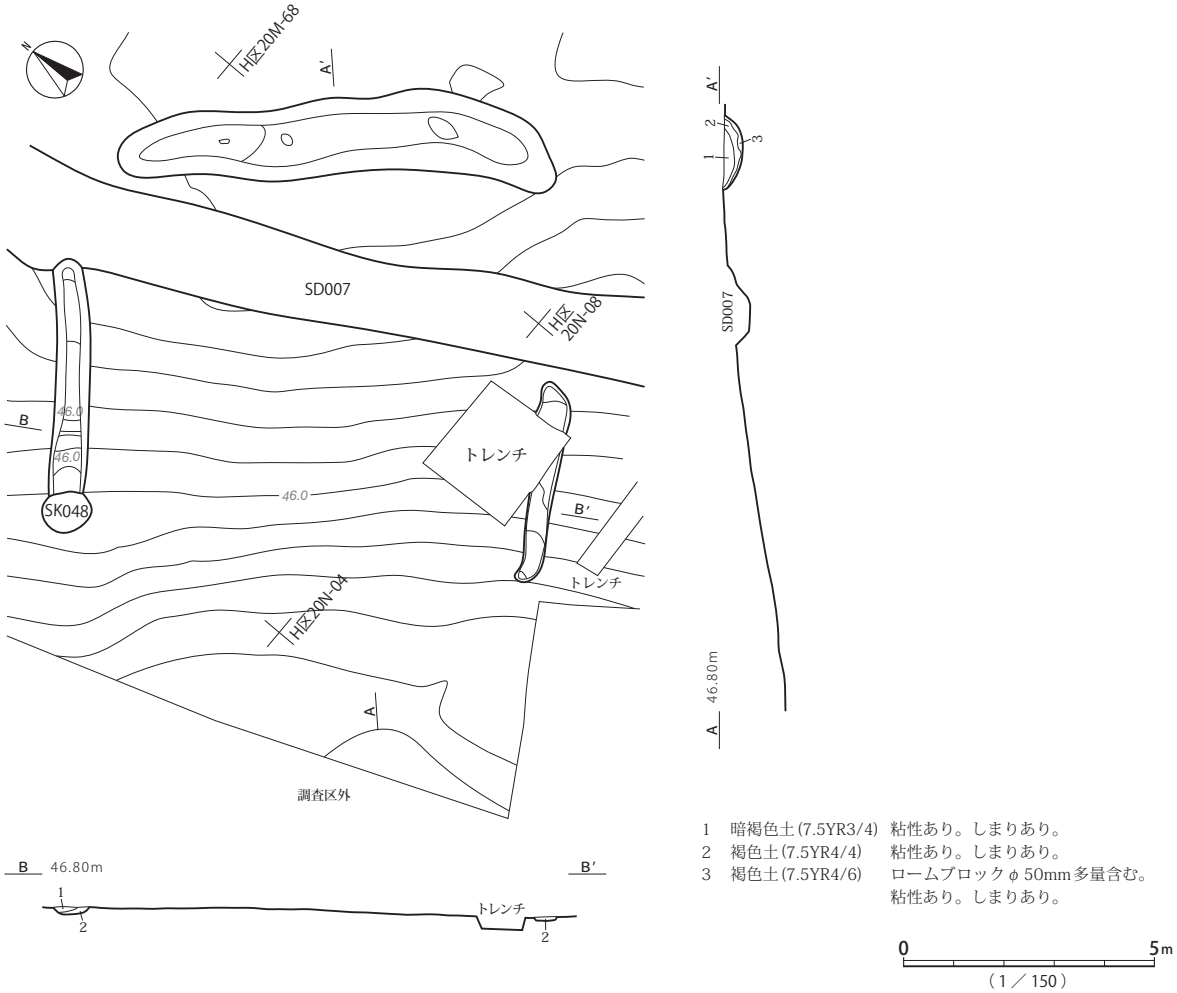
周溝：南西側を消失し、「コ」の字状に巡るが、北および東隅で途切れている。幅0.96 ～ 1.76m。確認面からの深度0.06 ～ 0.39m。断面形態は平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は褐色土や暗褐色土を主体とし、北東周溝の最下層ではロームブロックを多量に含んでいる（３層）。

埋葬施設：検出されなかった。

時期：遺物が少なく断定はできないが、隣接するSM005同様、５世紀代と推測される。

所見：周溝のみが検出された方墳である。北および東隅で周溝が途切れているが、地滑りや削平等により墳丘や埋葬施設が消失していることから考えると、陸橋とは断定できない。南東周溝の延長上にSD003が隣接するが、深度が異なるため一連の遺構とは考えられない。

遺物：土器30.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第371図　SM004

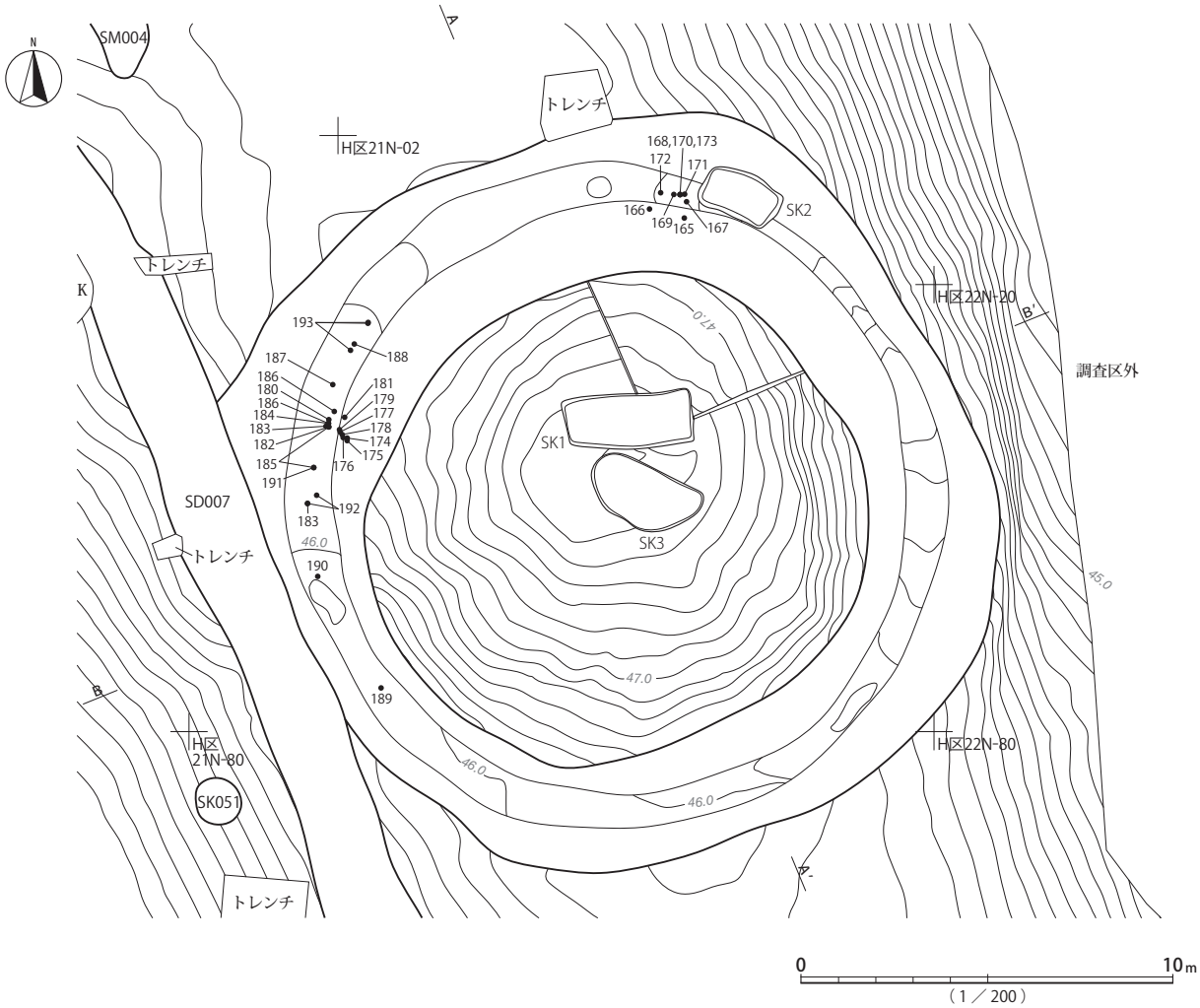
SM005（第372 ～ 386図、第119 ～ 123表、図版48 ～ 50・95・96・113 ～ 115）

墳頂部に２基、周溝内に１基の埋葬施設を持つ円墳である。表土掘削時に墳丘北東側を誤って掘りすぎてしまっている。**位置：**H区21Ｎグリッドを中心とする南北方向に伸びる痩せ尾根上に位置する。南側約10ｍにSM006、その隣にSM007がある。**現況：**高さ約1.40mの高まりが遺存し、調査開始時は方墳と推測していた。**重複：**SD007に切られる。**規模：**墳丘径、長軸13.52m、短軸12.32m。周溝を含めた外径、長軸20.82m、短軸19.22m。旧地表面からの高さ約0.93m。

墳丘：痩せ尾根上の旧地表面に構築されている。構築方法は、墳丘全体の旧地表面上に黒褐色土（５層）を0.27mほど薄く積み上げ、さらに褐色土や暗褐色土を土饅頭状に順次積み上げている（３・４層）。埋葬施設（SK3・SK4）は３層の上面から掘り込まれており、最後に褐灰色土（２層）で３・４層を覆っている。

周溝：全周する。幅2.30 ～ 4.44m。確認面からの深度0.30 ～ 1.09m。断面形態はカマボコ状である。覆土は極暗褐色土や黒色土がレンズ状に堆積し、西側周溝の最上層では墳丘盛土が崩落し堆積している（５層）。

埋葬施設：墳頂部で２基（SK1・SK3）、周溝内で１基（SK2）が検出された。SK2は周溝の検出時に確認されず、覆土の掘削後に検出されたことからSM005に伴う周溝内土坑と判断した。

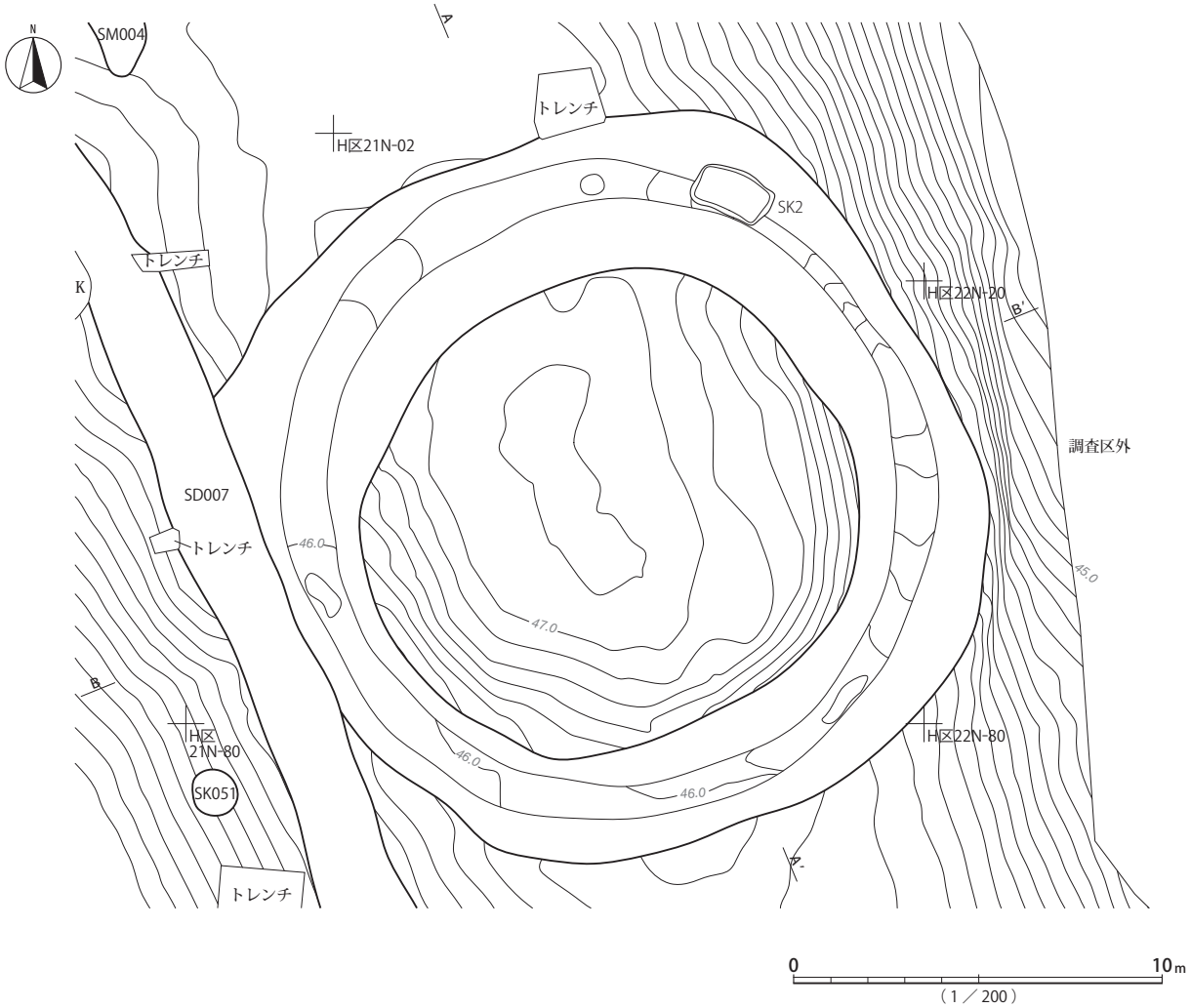


第372図　SM005（１）

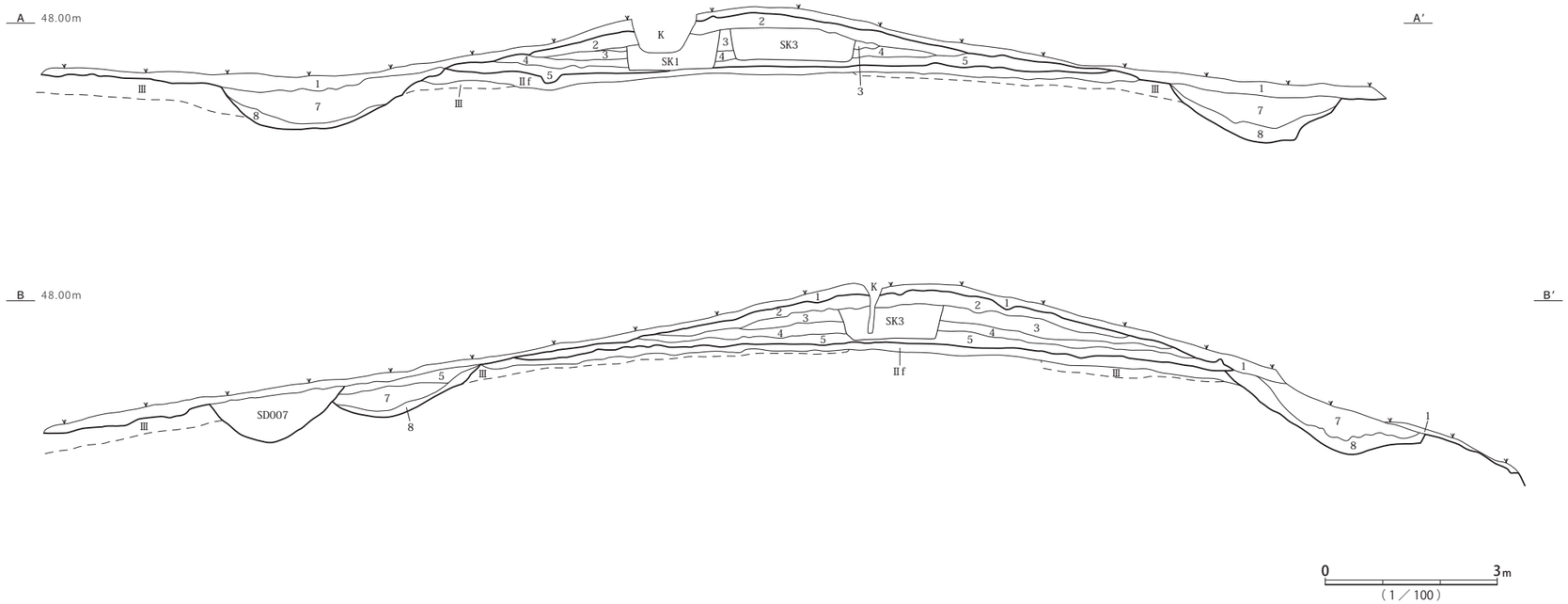
SK1は墳頂部のほぼ中央、SK3の北側で検出された。上位が撹乱を受けている。白色粘土の散在する範囲をもとに埋葬施設の形状を把握した。木棺の痕跡は平面的に捉えることができず、土層断面のみで確認した。掘り方の規模は長軸3.42m、短軸1.49m、検出面からの深度0.55m。主軸方位はＮ-85°-Ｅ。平面形態は長方形で底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１層が埋め戻し土で、２～４層が木棺の痕跡と考えられる。両小口に位置する５～７層、両側面の８～11層はロームブロックを含んでおり、木棺を固定するために充填されたと考えられる。掘り方は墳丘盛土の３層から掘り込まれ、旧地表面まで達している。

遺物は木棺痕跡内（３層）から、ガラス小玉140点（２～133。８点は砕片のため図示せず）、直刀１点（134）、鉄鏃25点の一束（135～154。５点は図示していない）が出土している。直刀は切先を西に、刃を北に向けている。鉄鏃は刃部を東に向けている。また、ガラス玉は直刀、鉄鏃の東側に偏って出土している。これらの出土位置から被葬者の頭位は東にあったと考えられる。上部の撹乱から須恵器の甕（１）が出土している。撹乱の位置からSK1に伴う遺物と考えられるが、原位置を留めておらず断定はできない。

SK2は北側周溝の底面で検出された。規模は長軸2.14m、短軸1.26m。周溝底面からの深度0.48m。主軸方位Ｎ-64°-Ｗ。平面形態は長方形であり、底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土



第373図　SM005（２）

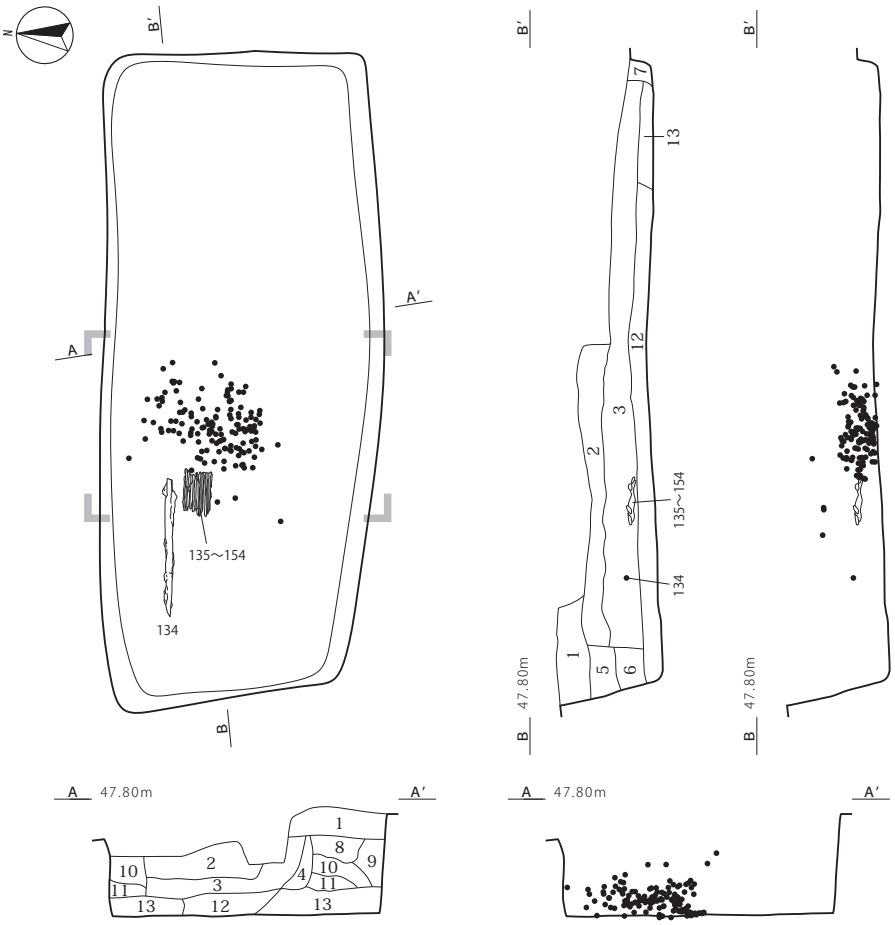


1　褐灰色土(10YR4/1)　腐植土粘性弱い。しまり弱い。表土。
2　褐灰色土(7.5YR5/1)　粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ２～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
4　褐色土(7.5YR4/4)　ロームブロックφ２～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
5　褐色土(7.5YR4/4)　ロームブロックφ２～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
6　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ２～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
7　黒色土(7.5YR2/1)　粘性あり。しまりあり。周溝。
8　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ２～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

第374図　SM005（３）

はロームブロックを多量に含む埋め戻し土で、木棺等の痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。

SK3は墳頂部のほぼ中央で検出された。墳丘盛土を掘削しつつ、墳頂部周辺の精査を行ったところ、鉄鏃が検出された。その後、埋葬施設の調査を慎重に進めたが、墳丘上には篠竹が繁茂し、その根の影響等によりプランの検出、把握は困難であった。このような状況から、第377図はあくまで調査時点のものであり、SK3本来の形状は示していない。破線は覆土観察の結果から埋葬施設の範囲を推定して示したものである。調査時の規模は長軸2.98m、短軸1.63m、検出面からの深度0.34m。底面は平坦で壁面は垂直に立ち上がる。覆土は１～３層が木棺の痕跡、４層は木棺を固定するため



1	暗褐色土(7.5YR3/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	褐色土(7.5YR4/4)	灰白色粘土ブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(7.5YR3/4)	灰白色粘土粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	褐色土(7.5YR4/6)	ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	暗褐色土(7.5YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	褐色土(7.5YR4/6)	粘性あり。しまりあり。
8	暗褐色土(7.5YR3/4)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
9	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
10	褐色土(7.5YR4/6)	ロームブロックφ50mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
11	暗褐色土(7.5YR3/4)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
12	黒褐色土(7.5YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
13	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第375図　SM005SK1（１）

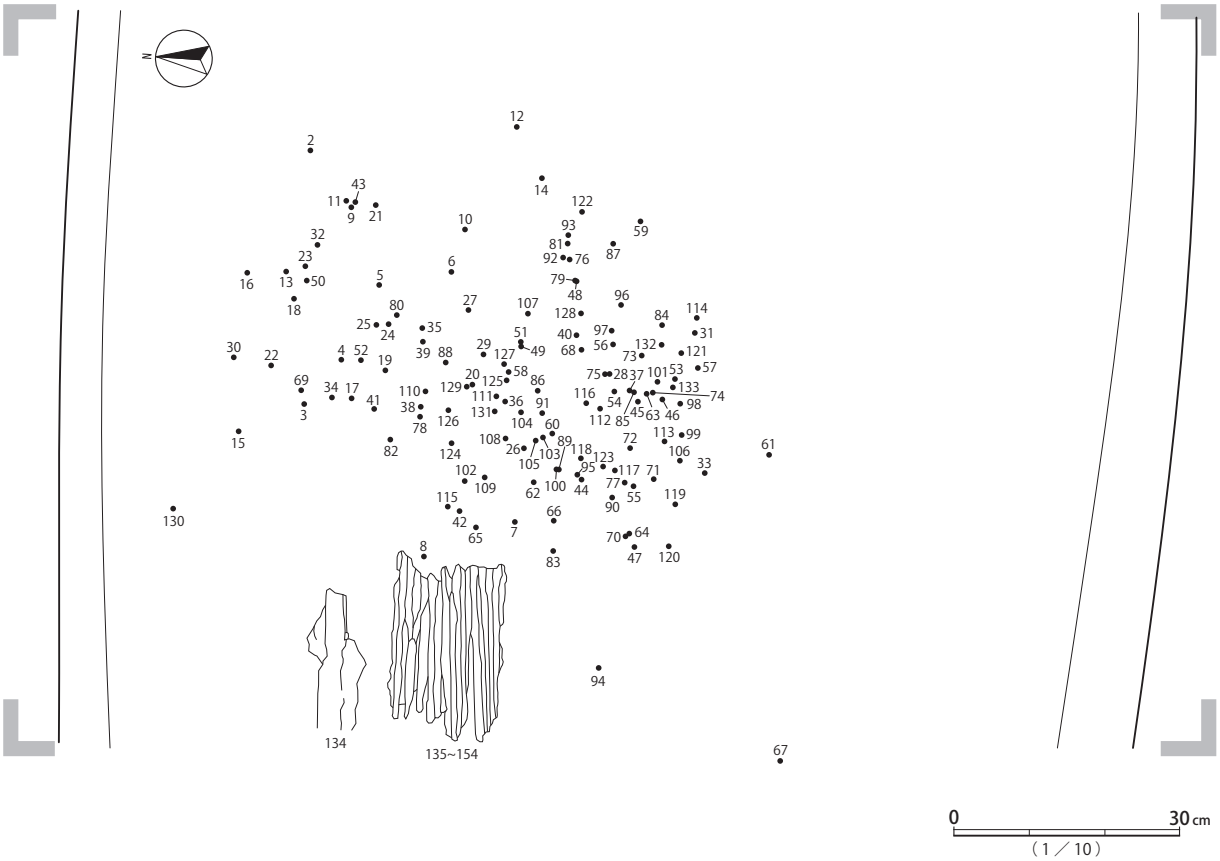
に充填された粘土ブロックと考えられる。掘り方は墳丘盛土の３層から掘り込まれ、盛土５層にまで達している。

遺物は木棺痕跡内（１層）から、直刀１点（155）、鉄鏃25点（156 ～ 164。16点は図示していない）の一束が出土している。直刀は切先を西に、刃を南に向けている。鉄鏃は束となった全てが刃部を東に向けている。これらの出土位置から被葬者の頭位は東にあったと考えられる。

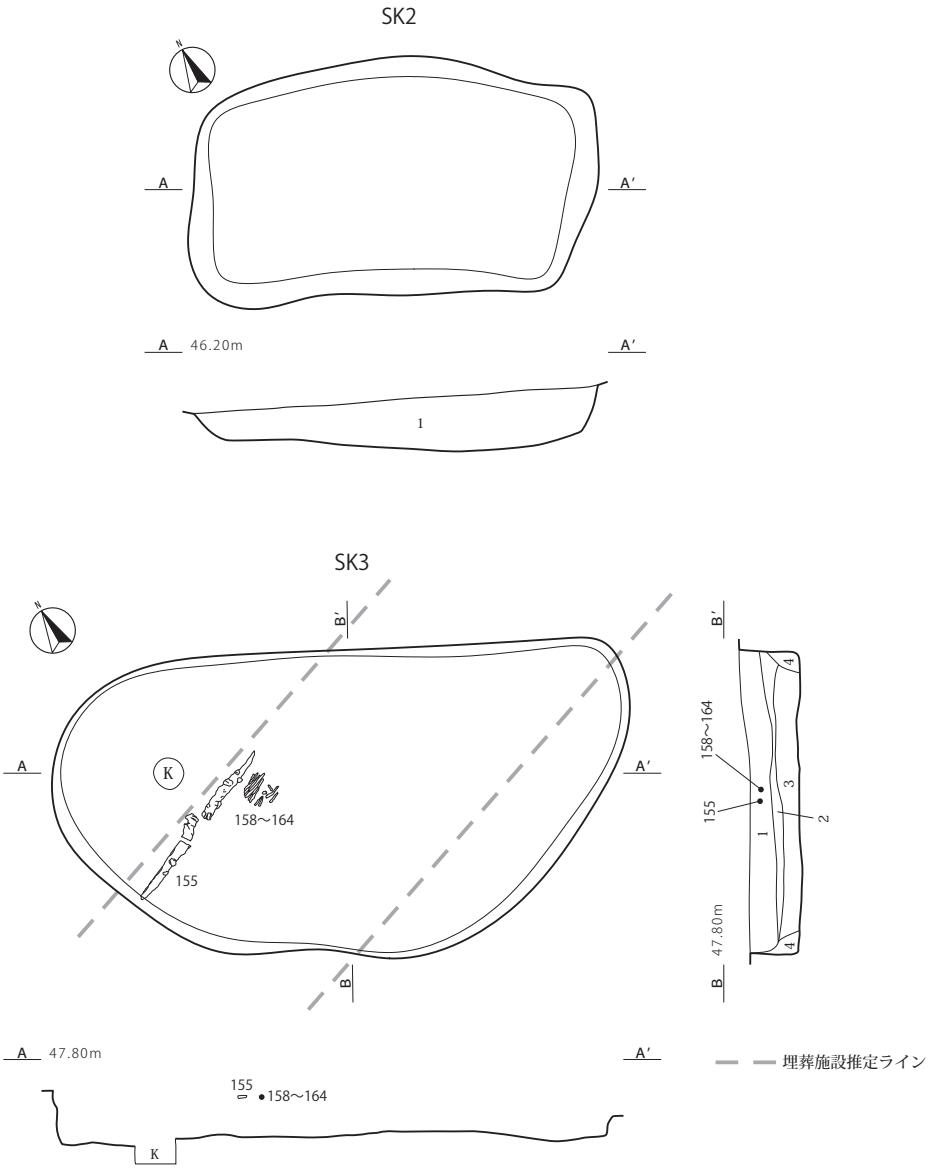
時期：出土遺物から古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：痩せ尾根の頂部に盛土し構築された円墳である。墳頂部の埋葬施設はSK3の平面形態が不明であるものの、直刀の方向から考えると２基の埋葬施設が平行して設置されたと考えられる。また、それぞれの埋葬施設から出土した直刀は切先を西に向けるが、刃はSK3が南、SK4は北と向きが異なる。２基の埋葬施設は墳丘盛土内の同一面から掘り込まれており、どちらかを追葬と考えるよりも、古墳の築造時に同時に埋葬され、それぞれの被葬者に刃を向けないように直刀が置かれた可能性を指摘しておきたい。

北側周溝の下層から須恵器坏身や蓋、高坏など９点（165 ～ 173）、北西側の周溝から墳丘裾部では土師器坏13点（174 ～ 186）や鉢（189）、高坏（190）などがまとまって出土している（第378図）。須恵器集中部の東側にはSK2が位置しており、SK2に伴う遺物とも考えられる。土師器坏13点は墳丘裾部から周溝底面にかけて出土している。すべて正位であることから、墳丘からの転落ではなく周溝内祭祀が推測される。また、須恵器と土師器が異なる位置からまとまって出土していることは、土器を使い分けた祭祀行為が想起される。



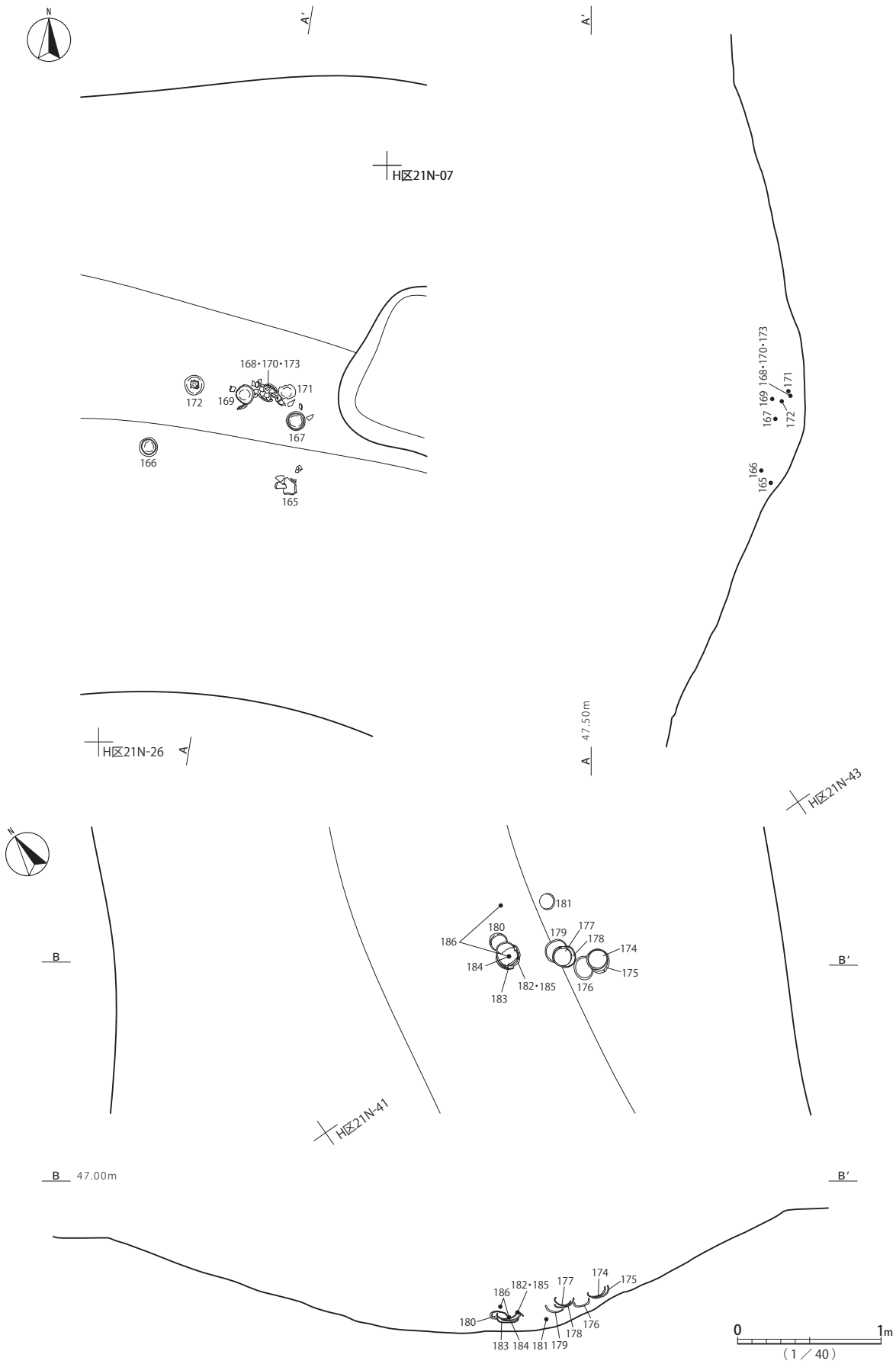
第376図　SM005SK1（２）



SK2
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
SK3
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/3)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/4)　粘土ブロックφ1～2mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第377図　SM005SK2・SK3



第378図　SM005遺物出土状況

遺物：SK1からは金属製品455.60g、縄文土器1.0gが出土した。前述のとおり、上位の撹乱から須恵器7,650.0gが出土している。

１の須恵器甕は口縁端部の角がはっきりせず、頸部の突帯も不明瞭である。胴部下位はあたかも底部となるような平坦面が確認できる。

ガラス小玉は砕片を除く132点を図示した。色調は紺色・青色・水色の青を基調としたものと、青緑色・薄青緑色、青紫色・紫色・灰紫色の８色が見られた。青色が103点で約８割を占め、以下は水色９点、紺色・灰紫色各５点、紫色４点、青緑色・薄青緑色各２点であった。大きさは径11.0㎜を最大、3.3㎜を最小とする。側面の形状は、上下の角に丸みがある丸形かあるいは楕円形のもの、角が鋭角な筒形のもの、角がやや丸い筒型のものに分けられる。径が大きいものは丸型、楕円形のものが比較的多く、径が小さいものは筒状のものが多い。形状の差異は製作技法によるものと考えられ、筒型のものはおそらく引き伸ばした後切断する、引き伸ばし法により製作されたものであろう。108は伸びた気泡が肉眼でも確認できる。

134は直刀である。茎部を欠損している。上身部は平造りで、切先はふくらがある。背関はなく、刃関は斜めに茎部に収束する。木質等の残存はみられない。

鉄鏃は遺存状態の良好な20点を図示した。135 ～ 154はすべて有頸・有茎の長頸鏃である。136 ～ 154は規格が近似し、鏃身部から頸部の長さは約16cmに揃い、鏃身長もおおむね2.8 ～ 3.0cmに収まる。鏃身部は柳葉形で、断面は片面が平坦、反対側が膨らむ片丸造りである。鏃身関は端部に角をもたずに、緩やかに収束するナデ関である。頸部は、鏃身部の直下に別造り片腸抉をもつ。片腸抉の断面は、外側が鋭利な三角形である。頸部の断面は長方形、頸部関は茎部寄りが緩やかに広がる台形関である。茎部の頸部寄りの断面は長方形であるが、先端は方形である。茎部に矢柄が残存するものが多くみられる。矢柄の外面は樹皮の口巻が巻かれている。135は鏃身部の形状が異なる。鏃身部は柳葉形で、断面は片面が平坦、反対側が膨らむ片丸造りである。鏃身関は端部が鋭角に突き出した後に収束するナデ関である。鏃身長は4.2㎝で、束のなかでもっとも大きい。頸部は断面長方形で、茎部寄りが緩やかに広がる台形関である。茎部は矢柄が残存しており、表面に樹皮口巻もみられる。矢柄の中央部は茎部が銹膨れしている。

SK3からは金属製品1,204.20gが出土した。

155は直刀である。上身部は平造りで、切先はふくらがある。背関はなく、刃関は直角に切られる。茎部には目釘孔が２箇所あり、茎尻部は背側が突出する。柄の木質が部分的に残存する。

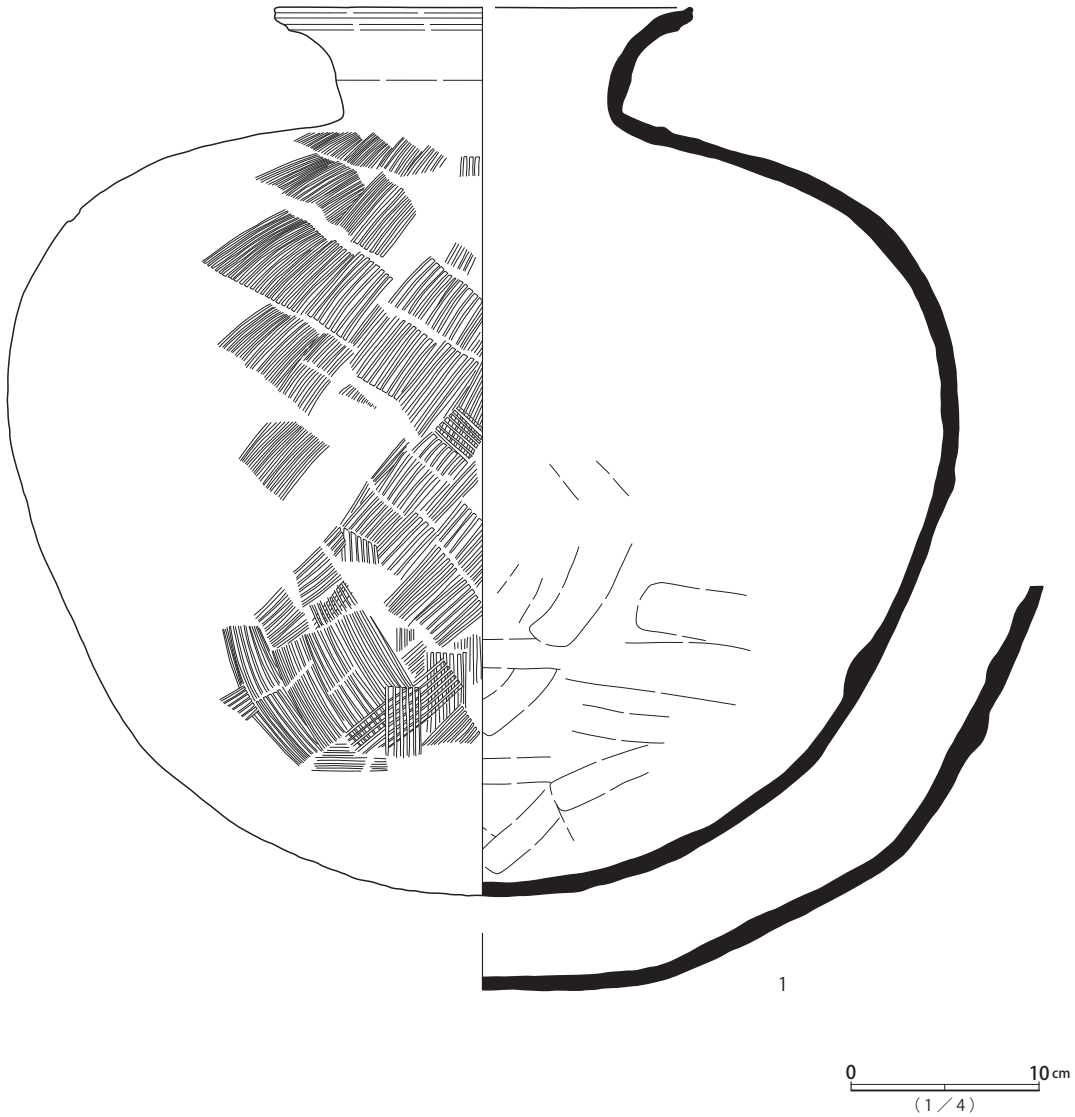
鉄鏃は束となっていた25点のうち遺存状態の良好な９点を図示した。鏃身部は片刃形で断面も片刃造りである。鏃身長は3.0 ～ 3.6cmである。背関、刃関が残存しているものは少ないが、159・160・162 ～ 164の刃関は直角に切られている。背側は159にわずかに関と思われる段差が認められるが、156・157に関はみられない。156・157は茎部に矢柄が残存し、157は矢柄の外側に樹皮口巻がみられる。

墳丘および周溝から土器10,388.8g、須恵器2,733.8g、石器・石製品80.00g、縄文土器432.0gが出土した。

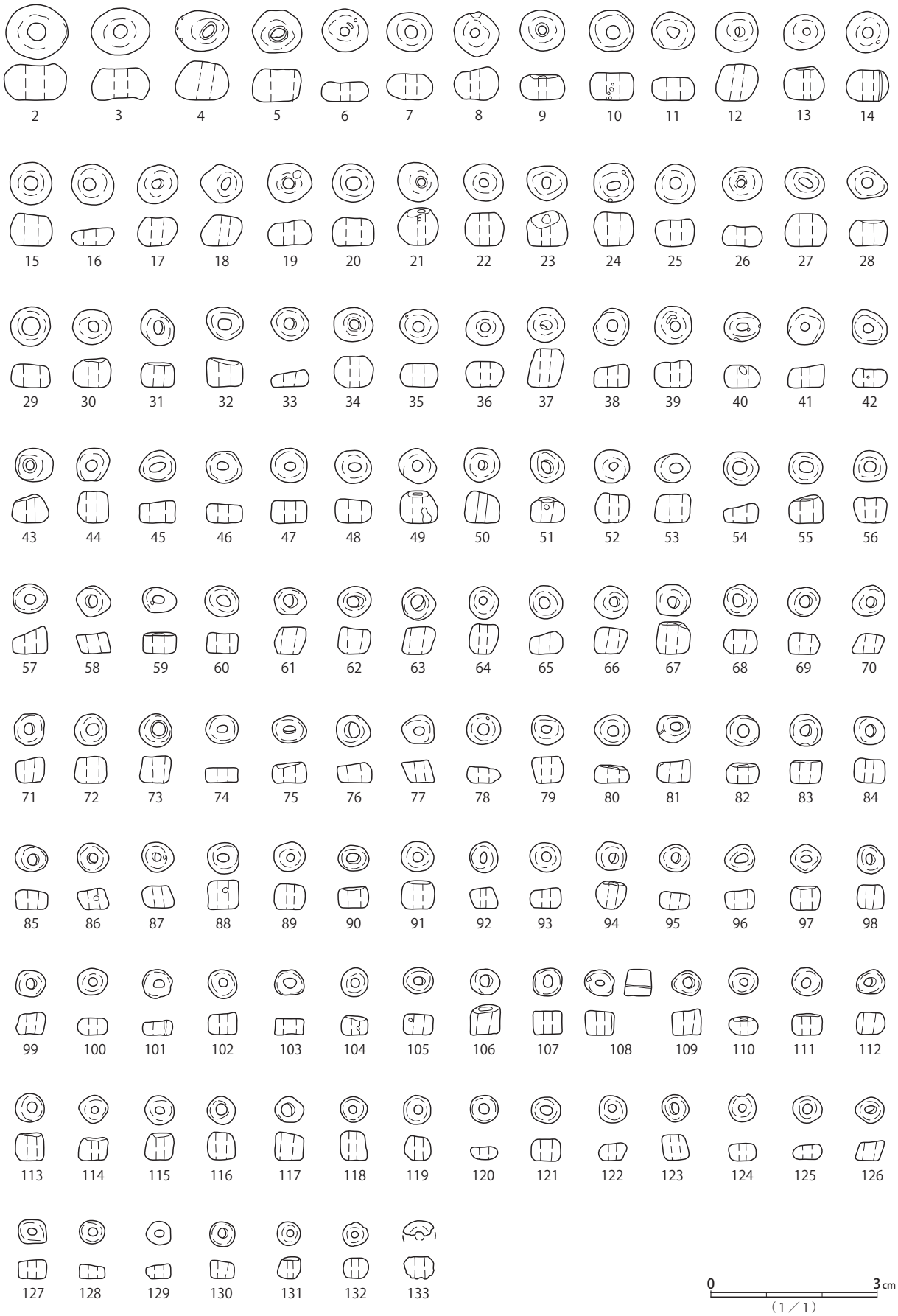
北側周溝出土遺物のうち、165は土師器坏、166 ～ 173は須恵器で、166 ～ 168は坏、169 ～ 171は蓋、172は高坏、173は鼈である。

166 ～ 168は非常にシャープな口唇部を持ち、受け部の下位、体部回転ヘラケズリの及ばない部位に窪みが巡る。また底部にヘラによる窯印が施されるという共通の特徴を持つ。まとまった出土位置と合わせて「揃い」と言えようか。169 ～ 171も同一地点から出土した蓋であり、共通の特徴を持つものの、171のみ器壁が薄く、ややシャープさに欠ける。これらの身、蓋はともに体部から底部（天井部）にかけて、鉄分の黒斑がヘラケズリにより引き出されている。172は坏部内面に突帯が巡り、脚部の円形透かし孔は非常に丁寧にあけられている。173は口縁端部が水平であり、口縁部下位の段は明瞭である。体部の櫛描波状文は区画されていない。

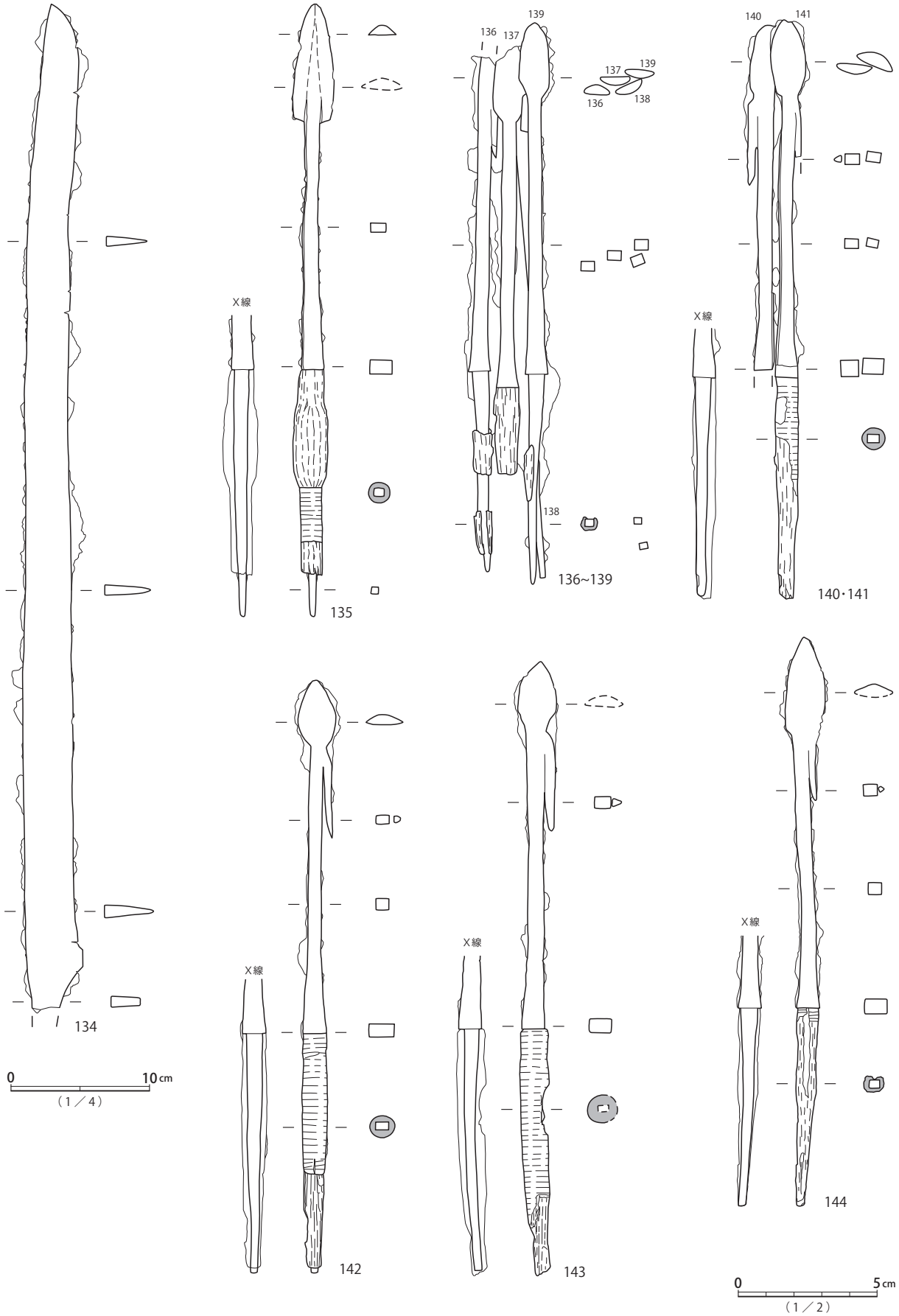
北西側周溝から墳丘裾部の出土遺物は、すべて土師器である。174 ～ 188は坏、189は鉢、190は高坏、191 ～ 192が壺、193は広口壺である。174 ～ 186は口縁部が内湾し、内外面が赤彩される。北側周溝出土の須恵器同様、「揃い」で用いられたことが推測される。



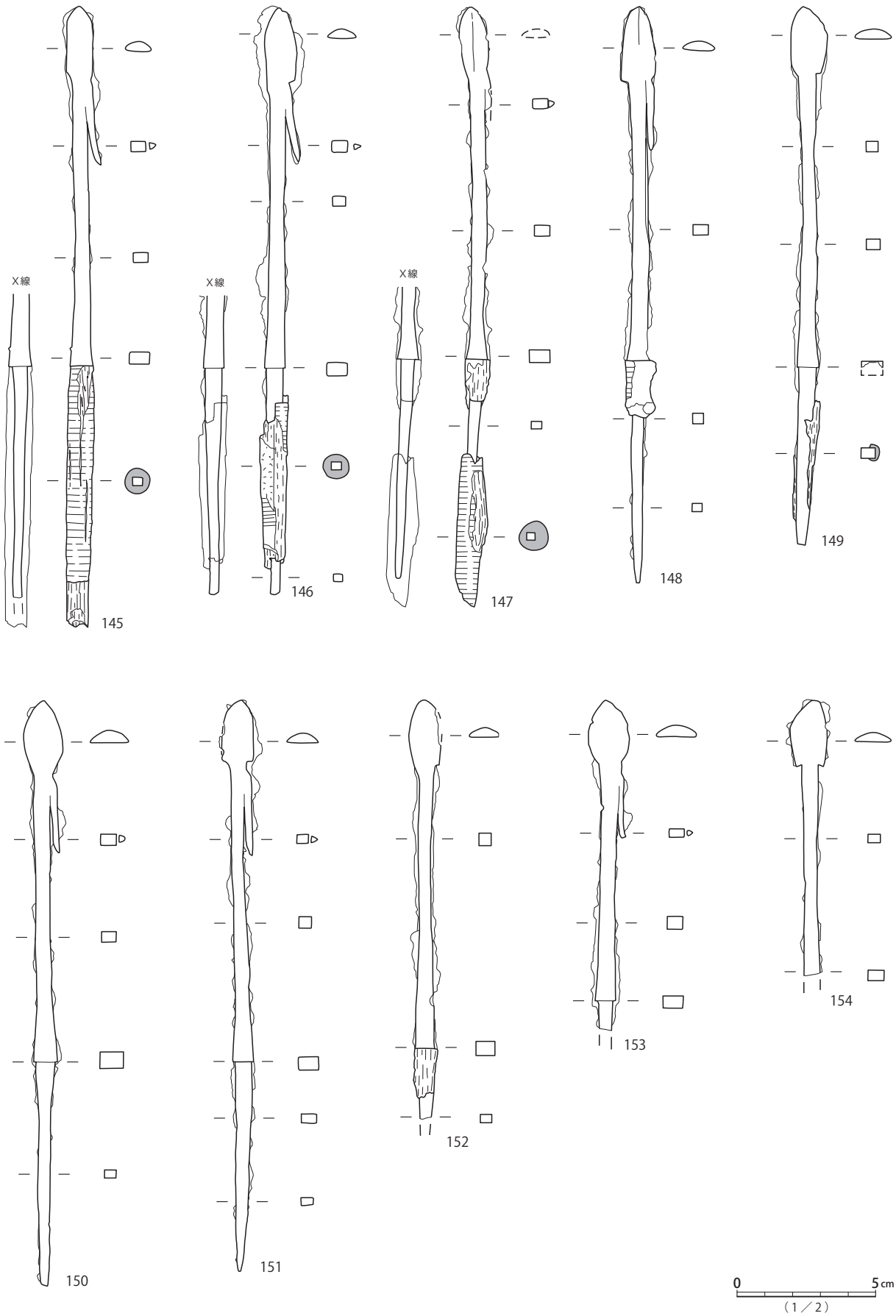
第379図　SM005SK1出土遺物（１）



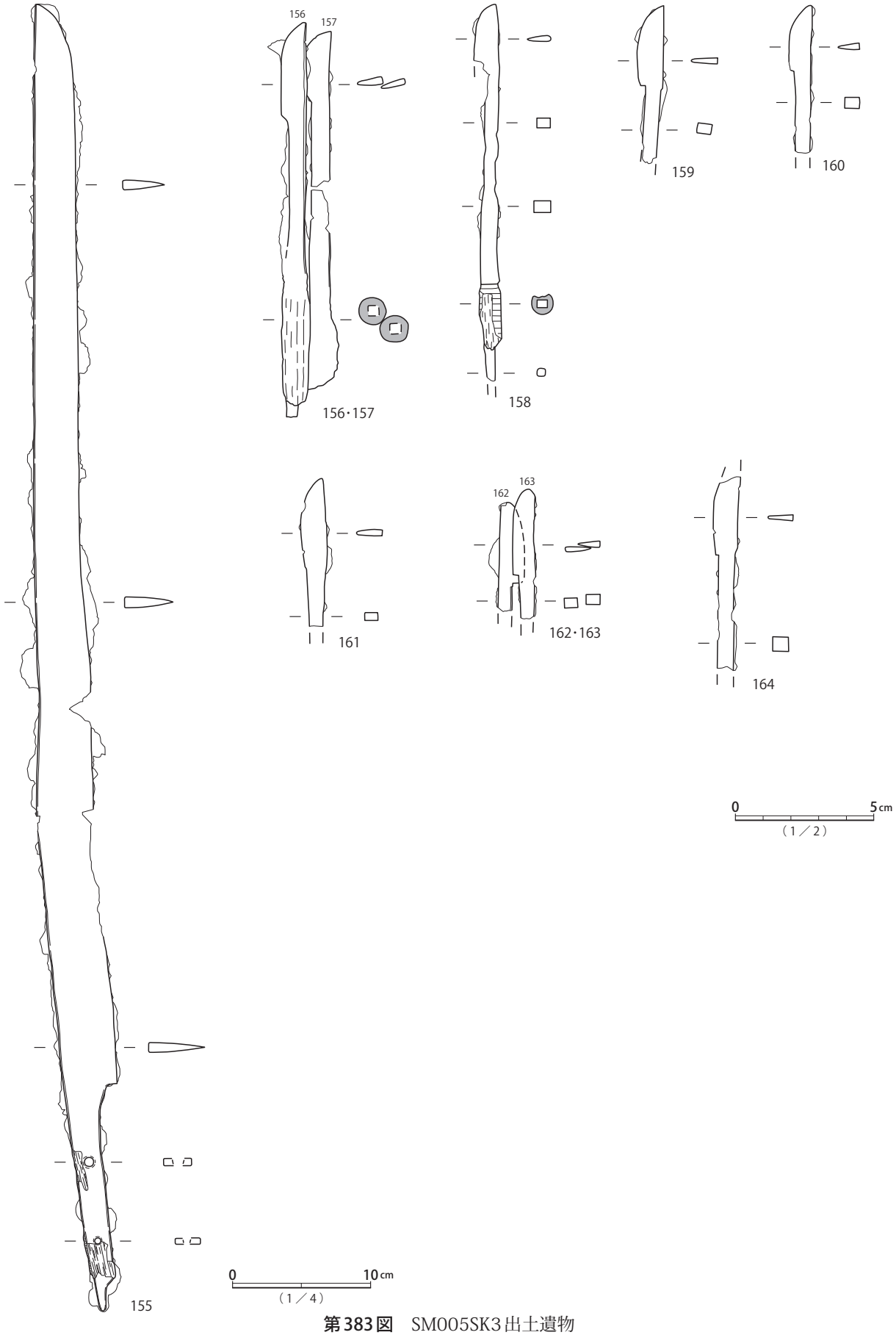
第380図　SM005SK1出土遺物（２）



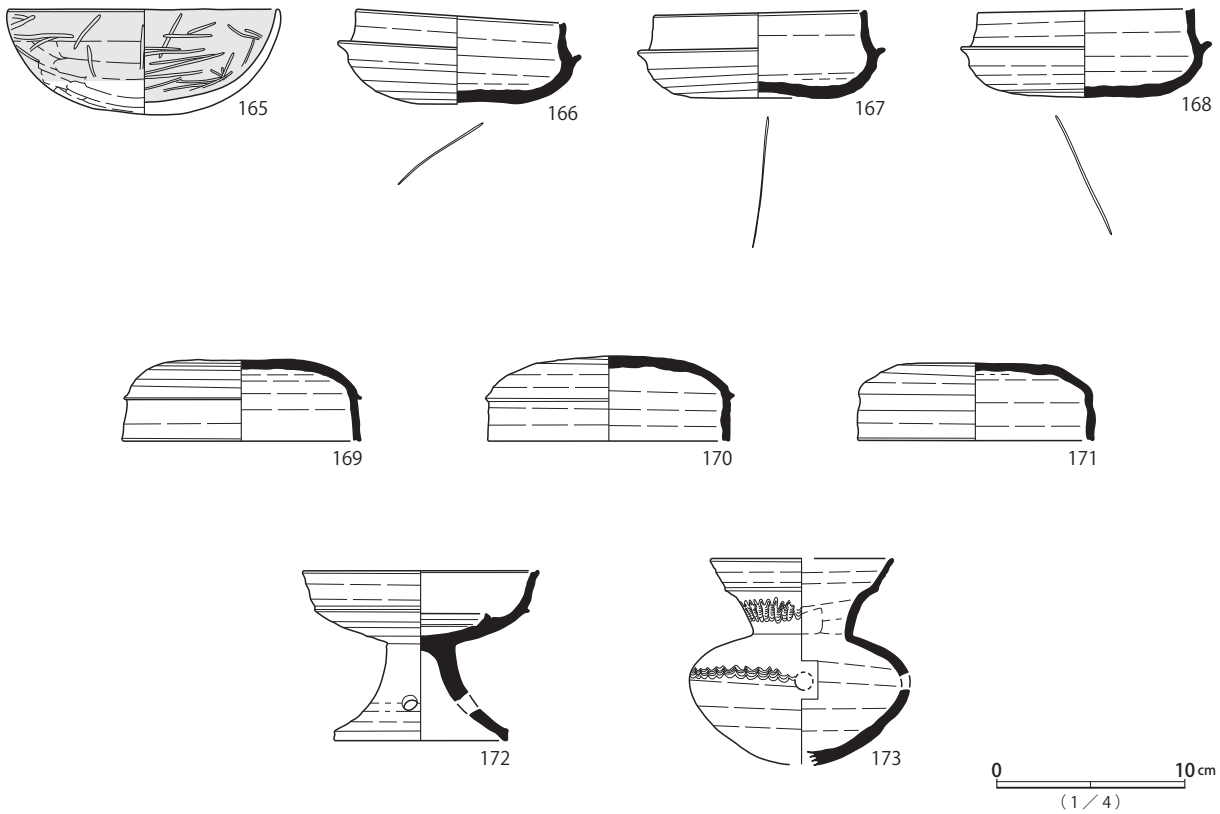
第381図　SM005SK1出土遺物（３）



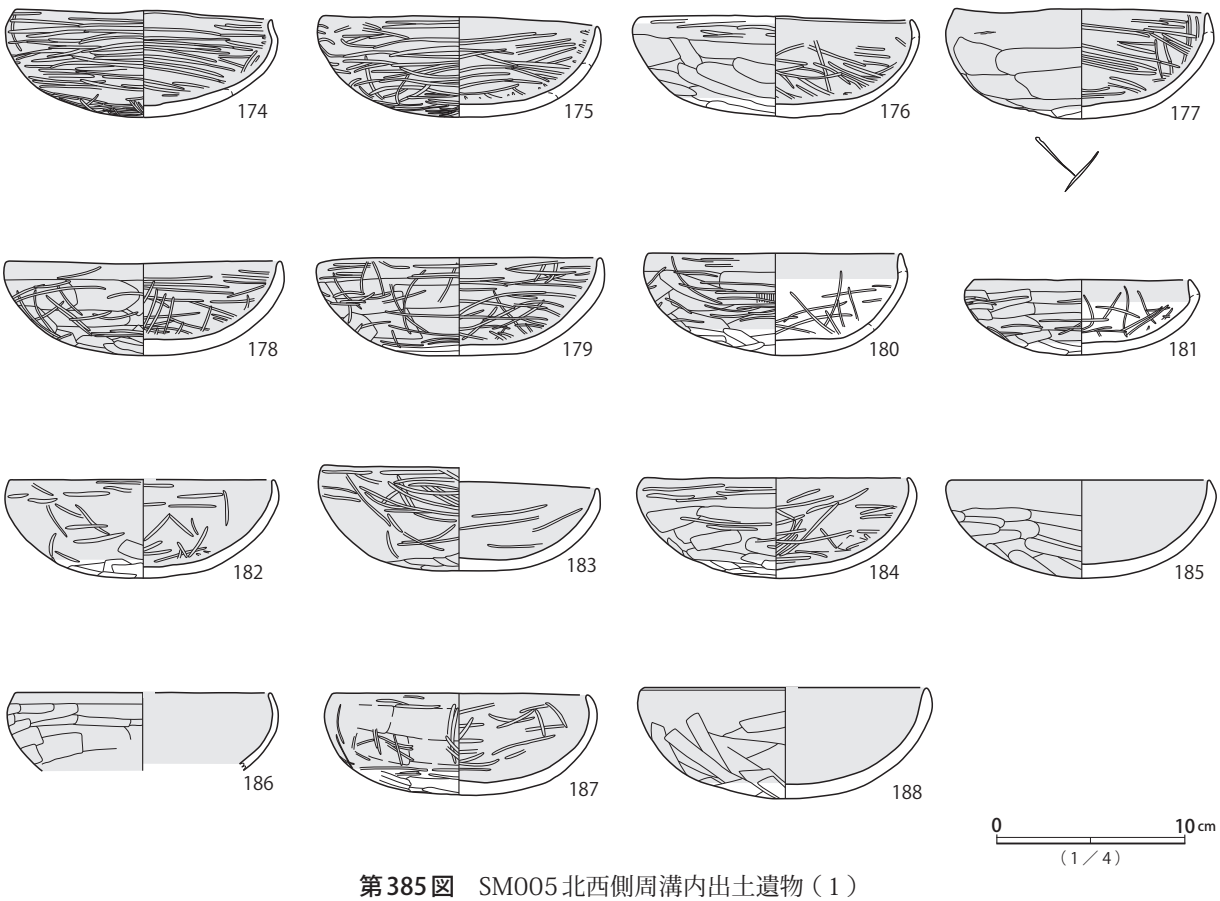
第382図　SM005SK1出土遺物（４）



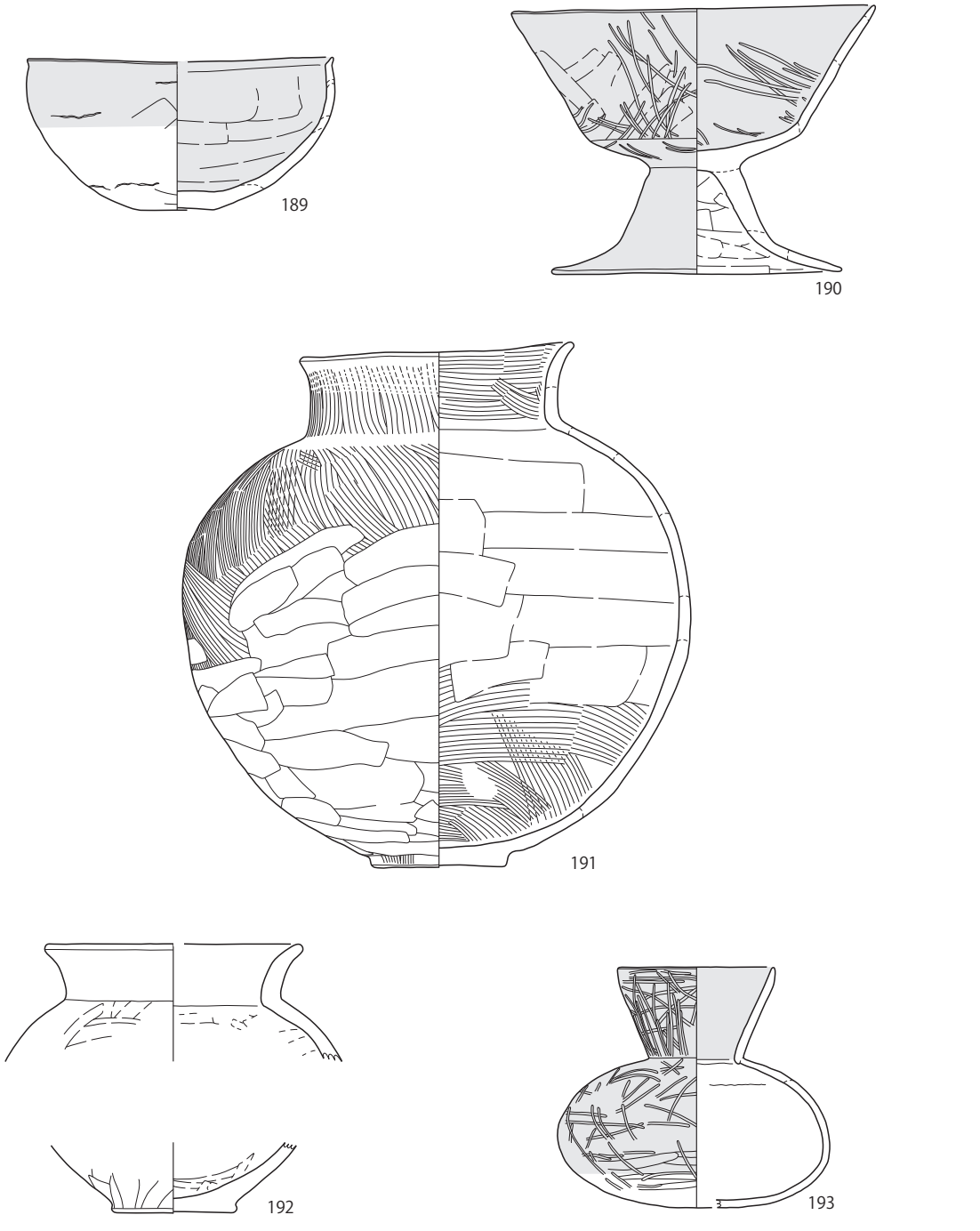
第383図　SM005SK3出土遺物



第384図　SM005北側周溝内出土遺物



第385図　SM005北西側周溝内出土遺物（１）



第386図　SM005北西側周溝内出土遺物（２）

第119表　SM005SK1出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 大甕	SK1覆土 上層・下 層	口　径：(22.1) 底　径：　－ 器　高：　46.9 最大径：　50.1	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部平行タタキ目 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐灰 残存度：口縁部～底部の2/3	

第120表　SM005SK1出土玉類観察表

単位：mm

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
2	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.6	6.2	10.8	9.5	3.2	3.0	0.90	青	
3	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.0	6.0	10.6	8.5	2.2	2.2	0.83	青	
4	小玉	ガラス	SK1覆土下層	7.1	6.4	9.5	7.2	2.8	1.6	0.80	青	
5	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.0	5.6	8.7	7.3	3.0	2.1	0.61	灰紫	
6	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.9	3.7	8.6	7.9	1.4	1.4	0.46	青	
7	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.8	4.8	8.1	7.0	2.3	2.3	0.32	青	
8	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.8	5.0	8.0	7.5	1.5	1.5	0.70	青	
9	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	4.2	8.0	7.1	1.3	1.3	0.53	青	
10	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.9	8.0	7.5	2.4	2.1	0.52	青	気泡多
11	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.1	4.0	7.9	6.6	2.3	1.9	0.39	青	
12	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.4	6.4	7.9	7.1	1.7	1.7	0.50	青	
13	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.6	5.0	7.8	6.4	1.5	1.5	0.40	青	
14	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.3	5.3	7.7	7.7	2.0	2.0	0.53	青	
15	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.0	5.2	7.5	7.2	2.0	2.0	0.42	青	ヒビ
16	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.2	2.8	7.5	7.1	2.0	2.0	0.22	青	
17	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.4	5.4	7.5	6.6	2.3	1.7	0.32	青	
18	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.8	4.8	7.5	6.9	3.0	1.4	0.41	青	欠損
19	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.2	4.0	7.4	7.4	2.0	2.0	0.30	青	気泡
20	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.1	5.0	7.4	7.0	2.6	2.2	0.44	青	
21	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.8	5.0	7.2	7.0	1.5	1.5	0.62	青	
22	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.0	6.0	7.2	6.9	1.5	1.2	0.52	青	
23	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.5	3.3	7.1	6.7	2.0	1.5	0.42	青	
24	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.0	5.8	7.1	7.1	2.8	1.6	0.53	青	
25	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.6	4.7	7.0	7.0	2.1	1.9	0.42	青	
26	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.5	3.5	7.0	6.1	1.3	1.3	0.30	青	
27	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.8	5.8	7.1	5.9	2.7	1.4	0.40	紺	
28	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.8	4.0	7.2	6.0	2.0	1.0	0.30	青	
29	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	3.9	7.0	7.0	3.1	3.1	0.30	水	気泡多
30	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.1	4.3	7.0	6.2	1.9	1.6	0.41	青	
31	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.2	3.7	7.0	5.2	2.2	2.0	0.31	紺	
32	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.3	3.5	7.0	5.7	2.2	1.9	0.32	青	
33	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.0	2.3	7.0	6.0	2.4	2.0	0.22	青	
34	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.3	5.3	7.0	6.0	2.0	1.7	0.42	青	
35	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	4.1	7.0	6.2	2.1	1.8	0.30	紺	
36	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.7	7.0	6.4	1.6	1.6	0.37	青	
37	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.8	6.8	6.9	6.1	2.2	2.0	0.42	青	
38	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.6	6.9	6.2	2.1	1.9	0.20	青	欠損
39	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.4	6.9	6.2	1.9	1.7	0.42	青	
40	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	4.0	6.9	5.1	2.0	1.4	0.20	青	気泡多
41	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.6	6.8	6.2	1.6	1.6	0.26	青	
42	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.7	4.2	6.8	6.0	1.8	1.8	0.22	青	
43	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.1	4.2	6.8	6.1	2.4	1.7	0.30	青	
44	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.7	5.7	6.7	5.2	2.0	2.0	0.34	水	
45	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.1	3.5	6.5	5.5	3.0	1.7	0.20	水	
46	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.3	3.0	6.5	6.0	2.0	1.6	0.20	青	
47	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	4.0	6.5	6.1	1.9	1.5	0.22	青	
48	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.5	4.1	6.5	6.1	2.4	1.9	0.34	水	
49	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.7	5.2	6.5	5.7	2.1	1.9	0.34	青	
50	小玉	ガラス	SK1覆土下層	6.0	5.5	6.4	6.0	1.8	1.6	0.40	青	
51	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	3.4	6.3	5.5	2.1	1.8	0.16	青	
52	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.4	4.6	6.2	6.2	1.6	1.2	0.30	青	
53	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	5.0	6.2	5.0	2.3	1.7	0.32	青紫	
54	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.6	2.5	6.2	6.0	2.9	2.2	0.20	青	
55	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.2	4.5	6.1	5.9	2.4	2.1	0.21	紫	
56	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	4.1	6.1	5.8	2.0	1.8	0.33	青	
57	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	3.2	6.1	5.5	2.0	1.7	0.21	青	
58	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.6	3.2	6.1	5.5	2.2	2.1	0.22	青	
59	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.2	6.1	4.8	2.0	1.3	0.20	紫	

単位：㎜

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
60	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.9	3.6	6.1	5.4	2.5	1.8	0.22	青	
61	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.8	4.8	6.0	5.0	2.5	2.5	0.21	紺	
62	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.1	4.2	6.0	5.7	3.1	2.3	0.26	青緑	
63	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	5.0	6.0	5.9	2.6	2.5	0.25	青	
64	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.5	5.5	6.0	5.1	1.6	1.6	0.32	青緑	
65	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.1	3.1	6.0	6.0	1.9	1.9	0.25	青	
66	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.5	6.0	5.7	2.0	1.9	0.23	青	
67	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.8	5.1	6.0	5.4	2.4	2.1	0.31	青	
68	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	4.3	6.0	5.8	2.4	2.2	0.20	青	
69	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.9	3.3	6.0	5.0	2.1	2.0	0.25	青	
70	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.6	3.3	6.0	5.4	2.0	1.9	0.22	青	
71	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.5	4.0	6.0	5.2	2.3	2.1	0.34	青	
72	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.7	6.0	5.9	2.5	2.0	0.22	青	
73	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	4.3	6.0	6.0	3.0	2.0	0.20	青	
74	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.7	6.0	5.0	1.9	1.2	0.21	青	
75	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.7	2.8	6.0	5.0	2.1	1.6	0.18	青	
76	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.7	3.0	6.0	5.8	3.2	3.0	0.22	青	
77	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.8	6.0	5.2	2.0	1.7	0.25	青	
78	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.9	2.2	6.0	5.6	2.2	2.1	0.13	青	
79	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.8	6.0	5.2	2.0	1.7	0.20	紫	
80	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.5	2.7	6.0	5.4	2.0	2.0	0.18	灰紫	気泡多
81	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.2	3.9	6.0	5.0	2.2	1.4	0.26	青	
82	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.7	3.0	5.9	5.7	2.1	2.1	0.14	青	
83	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.4	3.6	5.9	5.9	2.2	2.0	0.25	青	
84	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.5	4.2	5.9	5.2	2.3	2.0	0.63	青	
85	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.0	3.0	5.9	4.9	2.0	1.8	0.15	紫	
86	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.5	5.9	5.1	2.0	1.9	0.26	青	
87	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.9	5.9	5.5	1.8	1.4	0.22	薄青緑	
88	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	5.0	5.9	5.4	2.1	1.6	0.24	青	
89	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.1	5.8	5.2	1.4	1.1	0.33	青	
90	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.5	3.1	5.8	4.7	2.4	2.0	0.11	青	
91	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	4.5	5.8	5.2	1.8	1.8	0.22	紺	
92	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.8	3.5	5.7	5.0	2.0	1.3	0.20	青	
93	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.5	3.1	5.7	5.1	1.8	1.8	0.21	青	
94	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	4.4	5.6	5.2	1.8	1.5	0.22	青	
95	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.3	2.7	5.6	5.0	1.7	1.6	0.20	青	
96	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.7	3.4	5.6	5.0	2.0	1.0	0.10	青	
97	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.4	3.8	5.6	5.1	2.0	1.5	0.20	青	
98	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	4.3	5.4	5.0	1.9	1.6	0.22	青	
99	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.4	5.4	4.7	2.0	1.9	0.22	青	
100	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.0	3.0	5.4	4.8	1.5	1.5	0.12	灰紫	
101	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.2	5.3	4.8	1.8	1.8	0.10	青	気泡多
102	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.5	5.3	5.0	1.8	1.8	0.18	青	
103	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.3	2.3	5.3	4.4	2.1	1.8	0.16	水	
104	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.7	2.9	5.3	4.9	1.4	1.4	0.18	青	
105	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.4	3.2	5.3	4.9	2.0	1.6	0.16	青	
106	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.6	4.3	5.2	4.8	2.2	2.1	0.20	青	
107	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.2	4.2	5.2	5.0	2.0	1.4	0.20	青	
108	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.5	4.0	5.2	5.0	1.5	1.2	0.20	青	伸びた気泡
109	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.5	4.0	5.2	4.7	2.0	2.0	0.18	青	
110	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.2	2.6	5.2	4.7	1.2	1.2	0.11	薄青緑	
111	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.9	3.3	5.1	5.0	2.0	1.5	0.23	青	
112	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	4.0	5.1	4.4	2.1	1.7	0.20	青	
113	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.0	4.1	5.1	5.0	1.5	1.5	0.20	青	
114	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.2	5.1	4.7	1.0	1.0	0.20	青	
115	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.1	5.1	5.1	1.5	1.2	0.20	青	
116	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.9	4.8	5.0	5.0	1.8	1.8	0.22	青紫	
117	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.2	3.4	5.0	4.8	2.2	2.2	0.30	青	
118	小玉	ガラス	SK1覆土下層	5.3	5.3	5.0	4.4	1.2	1.2	0.34	青	
119	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.3	3.8	5.0	4.9	1.6	1.6	0.10	水	
120	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.1	2.1	5.0	5.0	2.0	2.0	0.10	灰紫	
121	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	4.0	5.0	4.5	2.0	1.7	0.21	青	
122	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.8	5.0	4.8	1.4	1.4	0.15	青	
123	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.8	4.5	5.0	4.4	2.1	1.8	0.20	青	
124	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.1	3.1	5.0	5.0	1.5	1.5	0.12	水	欠損
125	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.7	2.2	5.0	4.8	1.7	1.7	0.13	灰紫	
126	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.8	3.2	5.0	4.8	2.2	1.8	0.11	青	
127	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.5	3.1	5.0	4.2	1.8	1.5	0.22	青	

単位：㎜

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
128	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.8	2.2	4.7	4.3	1.4	1.4	0.10	青	
129	小玉	ガラス	SK1覆土下層	2.4	2.2	4.7	4.2	1.7	1.1	0.15	青	欠損
130	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.4	2.9	4.4	4.4	1.7	1.7	0.18	青	
131	小玉	ガラス	SK1覆土下層	4.0	3.4	4.1	3.9	1.5	1.3	0.15	青	
132	小玉	ガラス	SK1覆土下層	3.5	3.5	4.0	4.0	1.1	1.1	0.10	水	ヒビ・気泡多
133	小玉	ガラス	SK1覆土下層	[4.0]	－	－	－	－	－	0.10	水	欠損

第121表　SM005出土鉄刀観察表

単位：㎝

番号	種別	出土位置	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	鍔	重量（g）	備考
134	直刀	SK1覆土	[72.0]	69.0	3.3	0.8	[3.0]	2.0	0.8	－	541.3	茎部欠損
155	直刀	SK3上～中層	[93.9]	[77.6]	3.5	0.8	16.3	1.9	0.5	－	1028.0	切先欠損、平造り、目釘孔0.6・0.4

第122表　SM005出土鉄鏃観察表

単位：㎜

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
135	柳葉形長頸鏃	SK1底面	219.0	43.0	－	14.5	－	－	88.0	5.5	3.6	7.6	88.0	3.8	2.8	22.30	樹皮口巻のある矢柄残存
136	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[185.0]	－	－	－	3.8	[18.0]	98.5	4.5	3.8	7.8	71.8	5.8	4.2	85.80	矢柄残存 137・138・139と癒着
137	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[153.0]	[26.0]	－	10.8	3.0	－	95.0	5.2	3.2	7.8	[31.0]	－	－	－	矢柄残存 136・138・139と癒着
138	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[172.0]	－	－	10.0	3.2	－	－	4.5	3.5	－	－	3.0	2.0	－	136・137・139と癒着
139	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	201.4	27.0	－	10.2	3.2	[13.0]	98.0	4.8	3.8	8.0	76.4	5.0	4.0	－	矢柄残存 136・137・138と癒着
140	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	207.0	28.0	－	14.0	4.5	[20.0]	100.0	5.0	3.6	6.7	78.0	4.0	3.0	31.90	141と癒着
141	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[123.0]	27.0	－	12.5	3.5	30.0	96.0	5.0	4.0	6.5	－	－	－	－	140と癒着 樹皮口巻のある矢柄残存
142	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	212.0	24.0	－	13.5	4.0	30.0	102.0	5.4	4.0	8.2	86.0	4.8	3.0	21.50	樹皮口巻のある矢柄残存
143	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	220.0	25.0	－	13.5	－	35.0	105.0	6.0	4.2	8.0	86.0	4.0	2.5	25.80	樹皮口巻のある矢柄残存
144	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	203.0	35.0	－	14.0	4.0	23.0	97.0	5.2	4.0	8.2	71.0	3.8	2.6	19.20	矢柄残存
145	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	223.0	27.0	－	10.0	4.5	29.0	101.0	5.5	3.6	7.8	82.5	3.5	3.0	21.30	樹皮口巻のある矢柄残存
146	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	210.2	32.0	－	11.0	3.5	25.0	97.0	5.8	4.2	7.0	81.2	4.2	3.2	22.30	樹皮口巻のある矢柄残存
147	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	215.0	26.0	－	10.0	－	[15.0]	100.0	5.5	3.8	8.0	79.0	3.5	2.5	18.60	樹皮口巻のある矢柄残存
148	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	207.0	28.0	－	11.5	4.0	25.0	99.0	5.0	3.8	－	80.0	4.5	4.0	18.10	矢柄残存
149	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	193.0	25.0	－	13.0	3.8	－	104.0	5.0	3.8	7.2	64.0	5.0	3.8	14.70	矢柄残存
150	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	210.0	28.0	－	13.6	5.2	－	102.0	5.0	4.0	8.5	80.0	4.2	3.1	15.80	
151	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	205.0	25.0	－	11.5	4.5	30.0	104.5	4.6	4.0	7.5	75.5	5.5	3.2	14.00	
152	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[150.0]	28.0	－	12.0	3.5	－	96.0	5.8	4.5	7.8	[26.0]	4.0	3.0	13.30	
153	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[119.5]	23.0	－	15.0	4.2	23.0	84.5	5.8	4.5	－	[12.0]	－	－	11.40	
154	柳葉形別造り片腸抉長頸鏃	SK1底面	[99.0]	24.0	－	13.0	3.5	－	74.0	5.5	3.8	－	－	－	－	7.70	
156	片刃形長頸鏃	SK3底面	[137.0]	36.0	－	8.0	2.8	－	－	5.0	4.0	－	－	－	－	25.40	矢柄残存
157	片刃形長頸鏃	SK3底面	[128.0]	25.0	－	9.0	2.2	－	－	5.0	4.0	－	－	－	－	－	
158	片刃形長頸鏃	SK3底面	[135.0]	－	－	8.8	2.0	－	－	5.2	4.0	6.5	[34.0]	3.0	3.0	10.00	矢柄残存

単位：mm

159	片刃形長頸鏃	SK3底面	[57.0]	30.0	－	9.5	2.0	－	[27.0]	5.5	4.0	－	－	－	－	3.20	
160	片刃形長頸鏃	SK3底面	[53.0]	23.5	－	8.0	2.2	－	－	5.0	4.0	－	－	－	－	3.00	
161	片刃形長頸鏃	SK3底面	[53.0]	33.0	－	9.0	2.2	－	－	4.8	3.0	－	－	－	－	7.50	
162	片刃形長頸鏃	SK3底面	[39.0]	[29.0]	－	9.0	1.8	－	－	4.0	3.2	－	－	－	－	16.30	
163	片刃形長頸鏃	SK3底面	[47.0]	30.5	－	8.0	2.0	－	－	4.8	3.4	－	－	－	－	－	
164	片刃形長頸鏃	SK3底面	[70.0]	[28.0]	－	9.0	2.0	－	－	5.8	5.0	－	－	－	－	5.00	

第123表　SM005出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
165	土師器 坏	周溝下層	口　径：14.3 底　径：－ 器　高：5.6 最大径：14.5	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
166	須恵器 坏身	周溝下層	口　径：11.0 底　径：5.6 器　高：5.0 最大径：13.0	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ・ヘラ記号「｜」有り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：長石・マンガン・赤色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：完存	171とセット？
167	須恵器 坏身	周溝下層	口　径：11.2 底　径：7.2 器　高：4.6 最大径：13.1	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部2/3に回転ヘラケズリ・ヘラ記号「｜」有り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：長石・マンガン・赤色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：完存	169とセット？
168	須恵器 坏身	周溝下層	口　径：11.5 底　径：－ 器　高：4.7 最大径：13.3	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ・ヘラ記号「｜」有り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：ほぼ完存	
169	須恵器 坏蓋	周溝下層	口　径：12.5 底　径：－ 器　高：4.3 最大径：－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：白色粒・マンガン 焼　成：良好 色　調：黄灰 残存度：ほぼ完存	167とセット？
170	須恵器 坏蓋	周溝下層	口　径：12.8 底　径：－ 器　高：4.5 最大径：13.2	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：ほぼ完存	
171	須恵器 坏蓋	周溝下層	口　径：12.4 底　径：－ 器　高：4.1 最大径：－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：白色粒・マンガン 焼　成：良好 色　調：灰 残存度：ほぼ完存	166とセット？
172	須恵器 高坏	周溝下層	口　径：12.4 脚　径：9.0 器　高：9.0 最大径：－	特徴：脚部に円形の透かし3箇所あり 外面：坏部ロクロ調整、接合部回転ヘラケズリ、脚部～裾部ロクロ調整 内面：口縁部～裾部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：ほぼ完存	
173	須恵器 甕	周溝下層	口　径：(9.6) 底　径：－ 器　高：[11.9] 最大径：11.6	外面：口縁部ロクロ調整、頸部ロクロ調整後櫛描波状文8条一単位、胴部上半ロクロ調整後櫛描波状文5条一単位、胴部下半～底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部ロクロ調整、口縁部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～底部の2/3	外面、内面に自然釉付着
174	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.6 底　径：－ 器　高：5.7 最大径：14.5	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：完存	
175	土師器 坏	周溝下層	口　径：14.5 底　径：－ 器　高：5.4 最大径：15.1	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・海綿骨針・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
176	土師器 坏	周溝下層	口　径：14.3 底　径：－ 器　高：5.4 最大径：15.2	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・海綿骨針・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
177	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.4 底　径：－ 器　高：5.8 最大径：14.2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、赤彩、底部ヘラケズリ・ヘラ記号有り 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
178	土師器 坏	周溝下層	口　径：14.5 底　径：－ 器　高：5.0 最大径：14.9	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：完存	

単位：cm

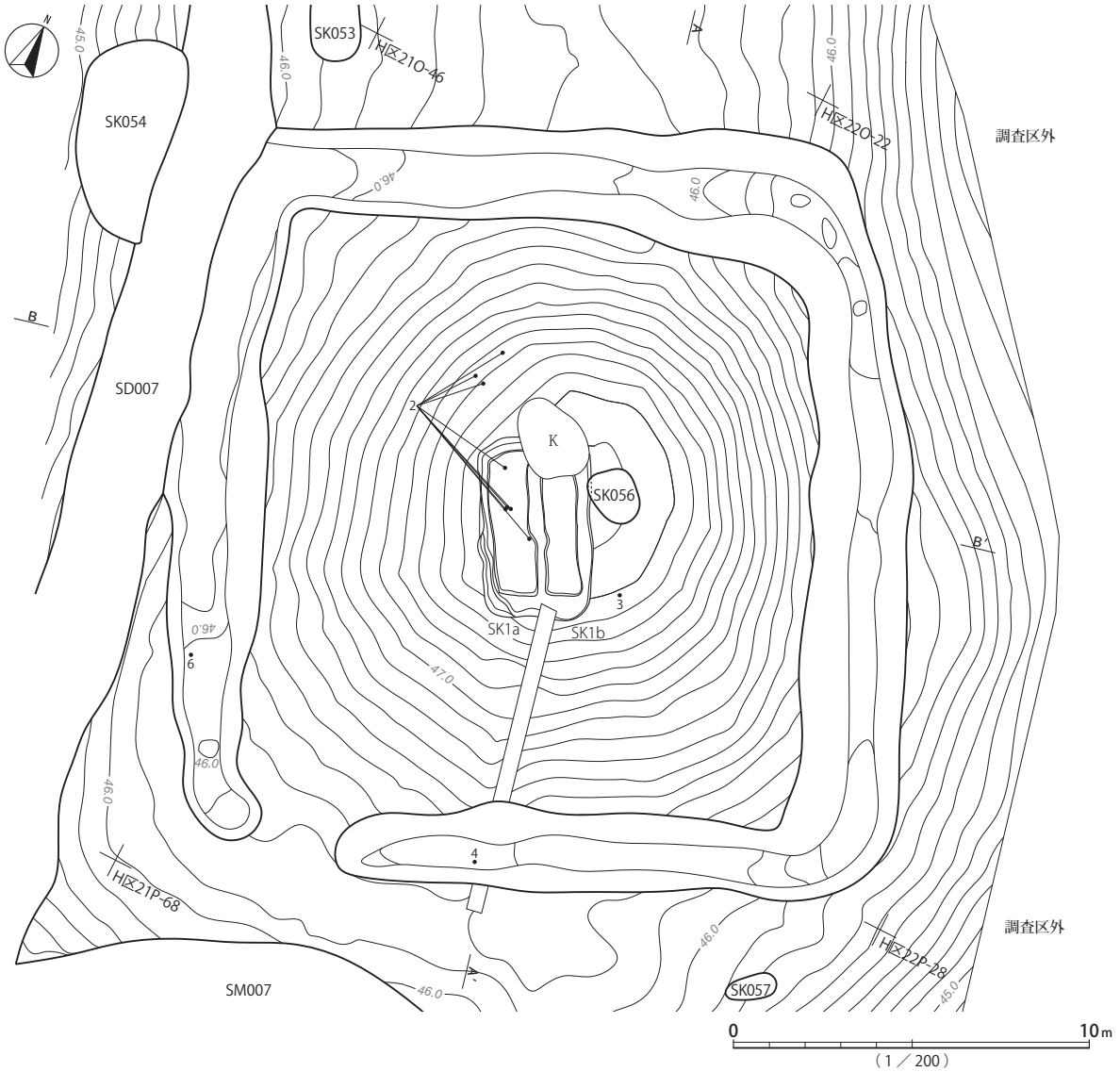
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
179	土師器 坏	周溝下層	口　径：14.8 底　径：－ 器　高：5.2 最大径：15.3	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
180	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.4 底　径：－ 器　高：5.4 最大径：14.0	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ハケメ後ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、赤彩、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
181	土師器 坏	周溝下層	口　径：11.4 底　径：－ 器　高：4.0 最大径：12.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、赤彩、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
182	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.9 底　径：－ 器　高：5.2 最大径：14.5	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
183	土師器 坏	周溝下層	口　径：14.5 底　径：－ 器　高：5.6 最大径：15.0	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
184	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.9 底　径：－ 器　高：5.3 最大径：14.8	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：石英・長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
185	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.7 底　径：－ 器　高：5.2 最大径：14.3	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、赤彩	胎　土：長石・海綿骨針・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
186	土師器 坏	周溝下層	口　径：(13.4) 底　径：－ 器　高：[4.2] 最大径：14.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～体部の破片	
187	土師器 坏	周溝下層	口　径：13.4 底　径：－ 器　高：5.4 最大径：14.5	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	
188	土師器 坏	周溝下層	口　径：(15.0) 底　径：－ 器　高：5.9 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、赤彩、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後、体部～底部ナデ、赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
189	土師器 鉢	周溝下層	口　径：(18.1) 底　径：4.6 器　高：9.1 最大径：18.4	外面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラケズリ、赤彩、体部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ、赤彩	胎　土：石英・長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
190	土師器 高坏	周溝下層	口　径：21.5 脚　径：17.2 器　高：16.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部ヘラナデ後ヘラミガキ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラケズリ、裾部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・角閃石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～裾部の4/5	
191	土師器 壺	周溝下層	口　径：16.0 底　径：7.8 器　高：31.2 最大径：30.2	特徴：球胴形 外面：口縁部ハケメ縦位、頸部～胴部中位ハケメ斜位、胴部下半ヘラケズリ、底部ハケメ後ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ハケメ横位、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ハケメ	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	外面煤付着
192	土師器 壺	周溝下層	口　径：(15.0) 底　径：7.0 器　高：[7.0] [4.2] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部と、底部の破片	
193	土師器 広口壺	周溝下層	口　径：9.2 底　径：－ 器　高：[14.3] 最大径：17.3	外面：口縁部～胴部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、赤彩、胴部～底部ナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の4/5	

SM006（第387 ～ 391図、第124・125表、図版48・50・51・96・97・113）

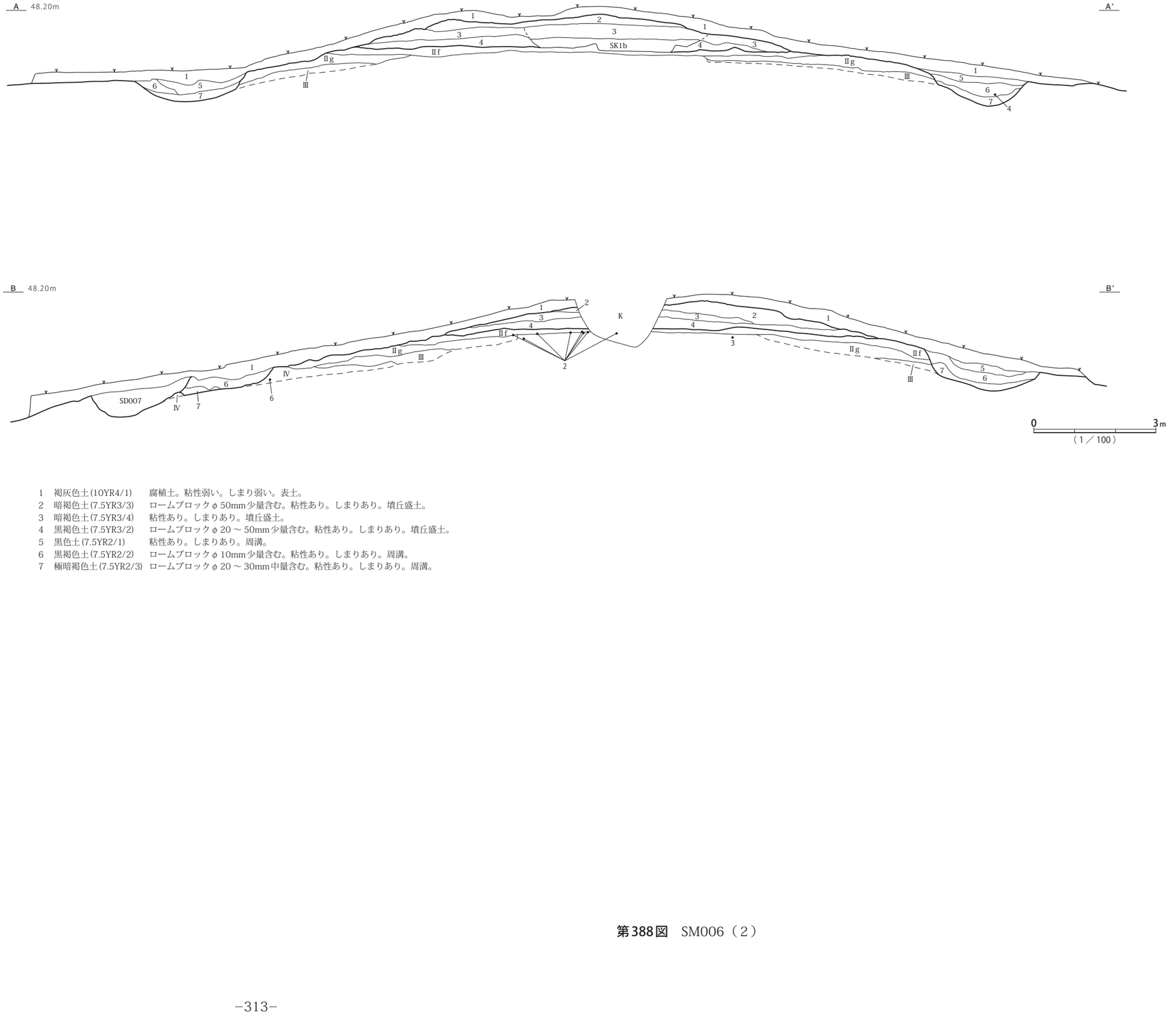
墳頂部に２基の埋葬施設を持つ方墳である。盛土と地山成形により構築されている。**位置：**H区22Oグリッドを中心とする南北方向に伸びる痩せ尾根上に位置する。北側約10mにはSM005、南側約３mにはSM007が隣接する。**現況：**高さ約1.60mの高まりが遺存していた。墳頂部には窪みが認められ、撹乱を受けていた。**重複：**SD007、SK055に切られる。**規模：**南辺15.30m、北辺14.70m、東辺15.60m、西辺16.70m。周溝を含めた総長は、南辺20.00m、北辺（16.50）m、東辺21.50m、西辺（20.00）m。旧地表面からの高さ約0.70m、北周溝内側の上端からの高さ約1.45m。**主軸方位：**南北方向と仮定すればN－23°－W。

墳丘：痩せ尾根上の頂部が墳丘のほぼ中央に位置する。構築方法は旧地表面上に黒褐色土（４層）を0.30mほど、その上に暗褐色土を積み上げている（２・３層）。２層は墳頂部をずらすように、東側が厚く積み上げられている。裾部は地山成形で盛土は確認されなかった。

周溝：南西隅を除き全周する。幅1.48 ～ 2.94m。確認面からの深度0.17 ～ 1.01m。断面形態は、東周溝は平坦な底面から緩やかに立ち上がり、その他の周溝はカマボコ状である。覆土は極暗褐色土



第387図　SM006（１）



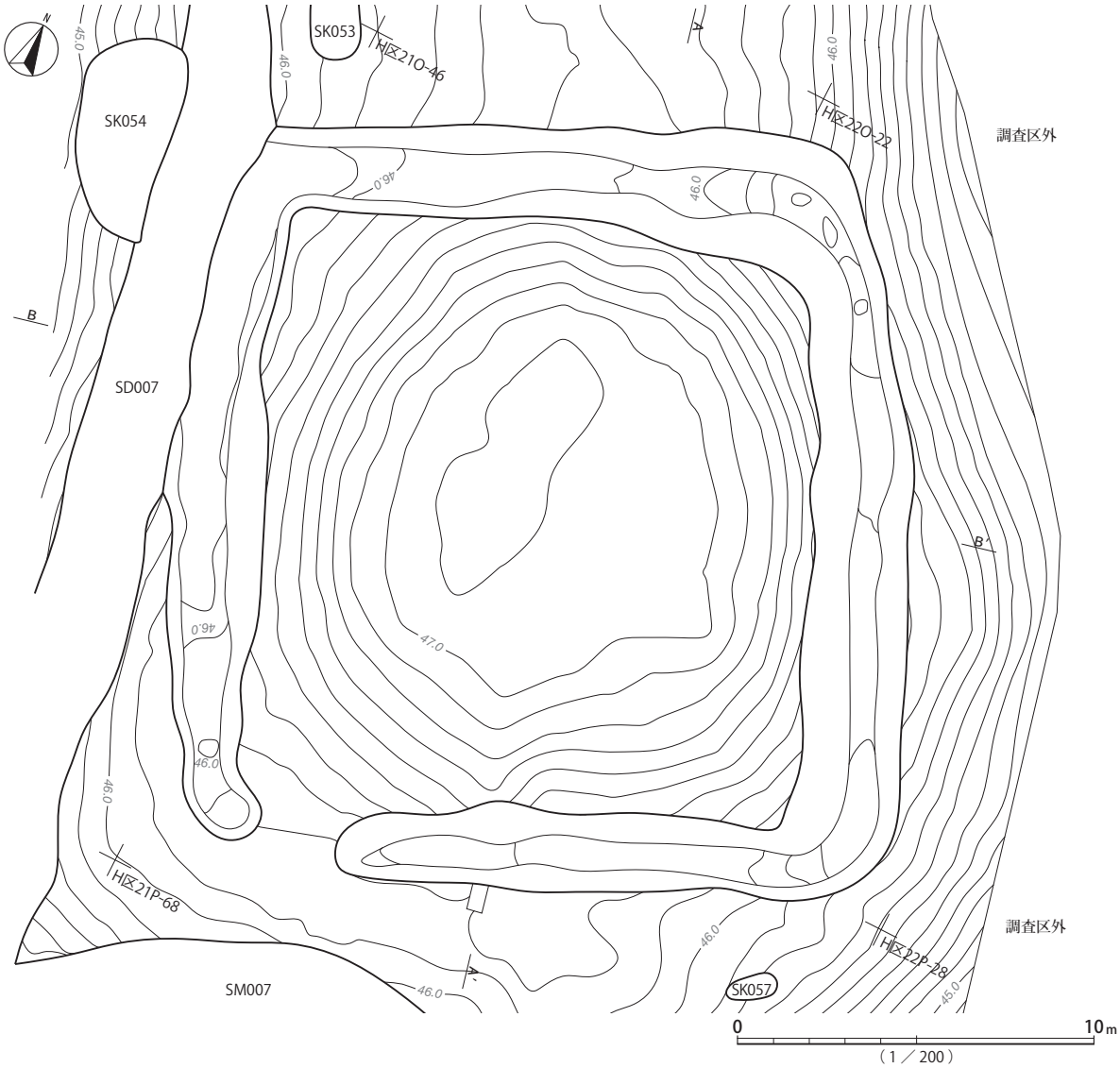
1　褐灰色土(10YR4/1)　腐植土。粘性弱い。しまり弱い。表土。
2　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
4　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ20～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。墳丘盛土。
5　黒色土(7.5YR2/1)　粘性あり。しまりあり。周溝。
6　黒褐色土(7.5YR2/2)　ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
7　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

第388図　SM006（2）

や黒色土がレンズ状に堆積している。周溝の途切れる南西隅は陸橋とも考えられるが、削平による消失の可能性もあり断定はできない。覆土は黒褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積している。

埋葬施設：墳丘中央で検出された（SK1a・b）。SK1は同一の掘り方内に２基の木棺痕跡が確認されたためSK1a・bと枝番号を付す。撹乱により北側が破壊され、また東側には盗掘坑と思われる性格不明の土坑（SK056）があり、わずかに破壊されている。掘り方は長軸5.02m、短軸3.24m、検出面からの深度0.14m。底面は平坦で側面はほぼ垂直に、小口は緩やかに立ち上がる。南側の木棺痕跡（SK1a）は長軸4.08m、短軸1.22m、検出面からの深度0.24m。主軸方位はＮ-30°-Ｗ。北側の木棺痕跡（SK1b）は長軸（3.42）m、短軸1.04m、検出面からの深度0.26m。主軸方位はＮ-29°-Ｗ。覆土はそれぞれの木棺部（１・２層、３～５層）を固定するように、白色粘土を含む灰黄褐色土が充填されている（６・７層）。

掘り方は盛土４層の上面で白色粘土の分布する範囲が検出されたが、木棺の高さを考えるとこの面から掘り込まれ設置されたとは考えにくい。３層以上の層位から掘り込まれたと考えられるが土層断面から確認はできていない。遺物は土師器の小破片がわずかに出土した。



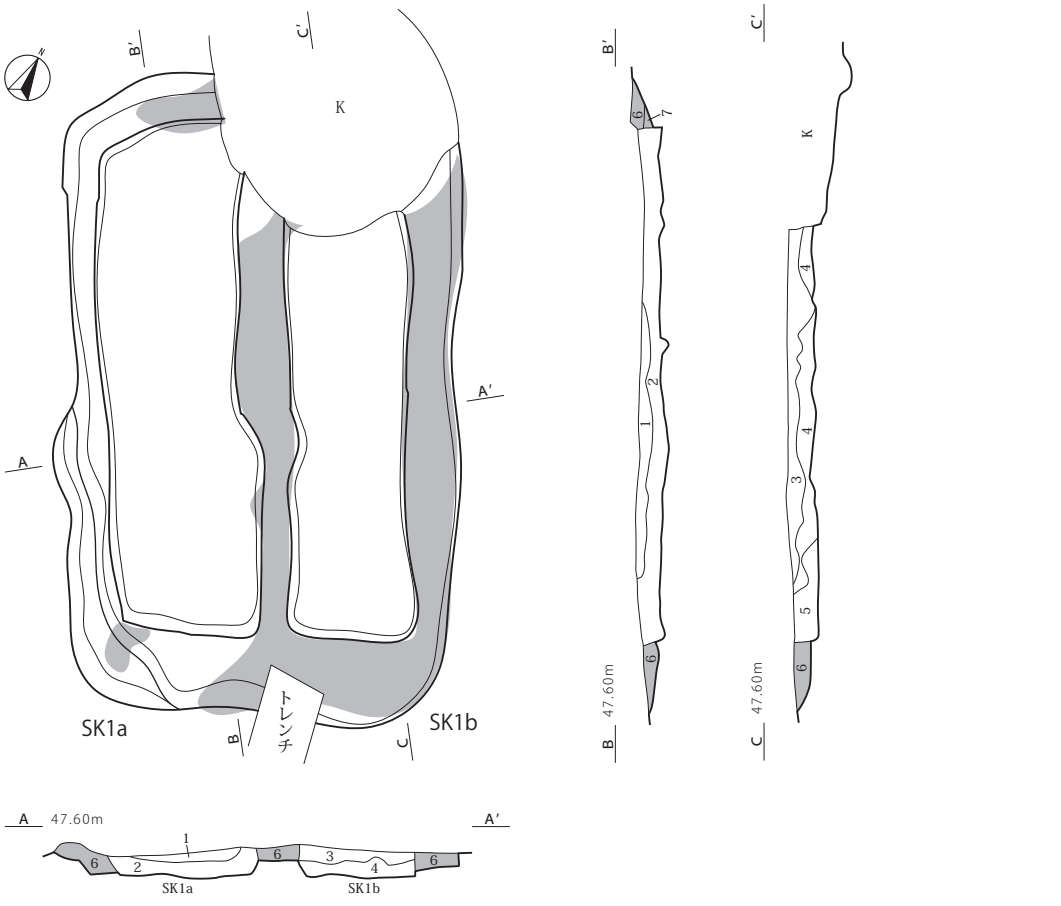
第389図　SM006（３）

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と推測される。

所見：尾根の頂部を利用して築造されており、裾部は地山削り出しにより成形されている。２基の木棺痕跡は、長軸方位がほぼ一致することや、掘り方内で切り合いが認められないことから、同時に設置、埋葬されたと考えられる。墳丘盛土内から高坏（１）、壺（２～４）、ミニチュア壺（５）、周溝から鉄製品（６）が出土している。

遺物：土器8,198.0g、須恵器8.0g、石器・石製品1.00g、金属製品7.40gが出土した。

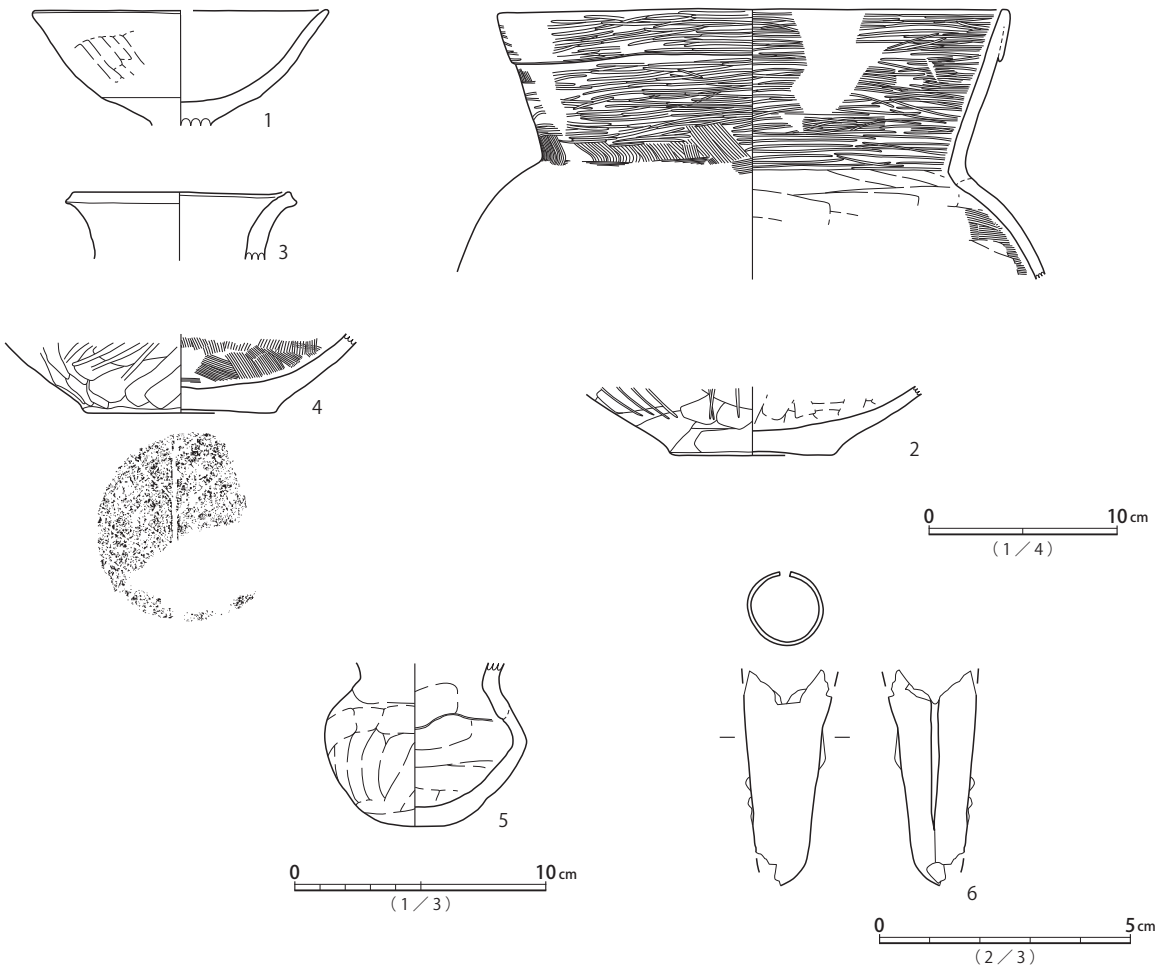
１～５は土師器で、１は高坏、２～４は壺、５はミニチュア壺、６は鉄製品である。５は折り返し口縁をもつ壺である。同一個体と考えられる底部とともに図示している。口頸部は内外面ともにヘラミガキが施される。６は用途不明の鉄製品であるが、槍もしくは鉾の石突部とも考えられるが不明である。



1	褐色土(10YR4/6)	ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm少量、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子、ロームブロックφ５～10mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子少量、ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子、ロームブロックφ５～50mm、白色粘土粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
6	灰黄褐色土(10YR4/2)	灰白色粘土多量、ロームブロックφ５～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ10～50mm少量、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（１／60）

第390図　SM006SK1



第391図　SM006出土遺物

第124表　SM006出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	墳丘下層	口　径：(15.6) 脚　径：　－ 器　高：　[6.1] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ	胎　土：石英・長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部の2/3	
2	土師器 壺	墳丘上層	口　径：　27.1 底　径：　8.2 器　高：[14.2] 　　[3.6] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ハケメ後ヘラミガキ、胴部上半ナデ、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ヘラミガキ、胴部ハケメ後ヘラナデ、底部ヘラナデ	胎　土：長石・海綿骨針・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部と、底部の破片	
3	土師器 壺	墳丘上層	口　径：　11.3 底　径：　－ 器　高：　[3.6] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	胎　土：長石・石英・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部のみ完存	
4	土師器 壺	墳丘上層	口　径：　－ 底　径：　9.8 器　高：　[4.2] 最大径：　－	外面：底部ヘラケズリ後粗いヘラミガキ・木葉痕 内面：底部ハケメ	胎　土：砂粒・黒色粒・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：底部の破片	
5	土師器 ミニチュア壺	墳丘下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[6.5] 最大径：　8.1	外面：頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ 内面：頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：黒色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部のみ完存	

第125表　SM006出土金属製品観察表

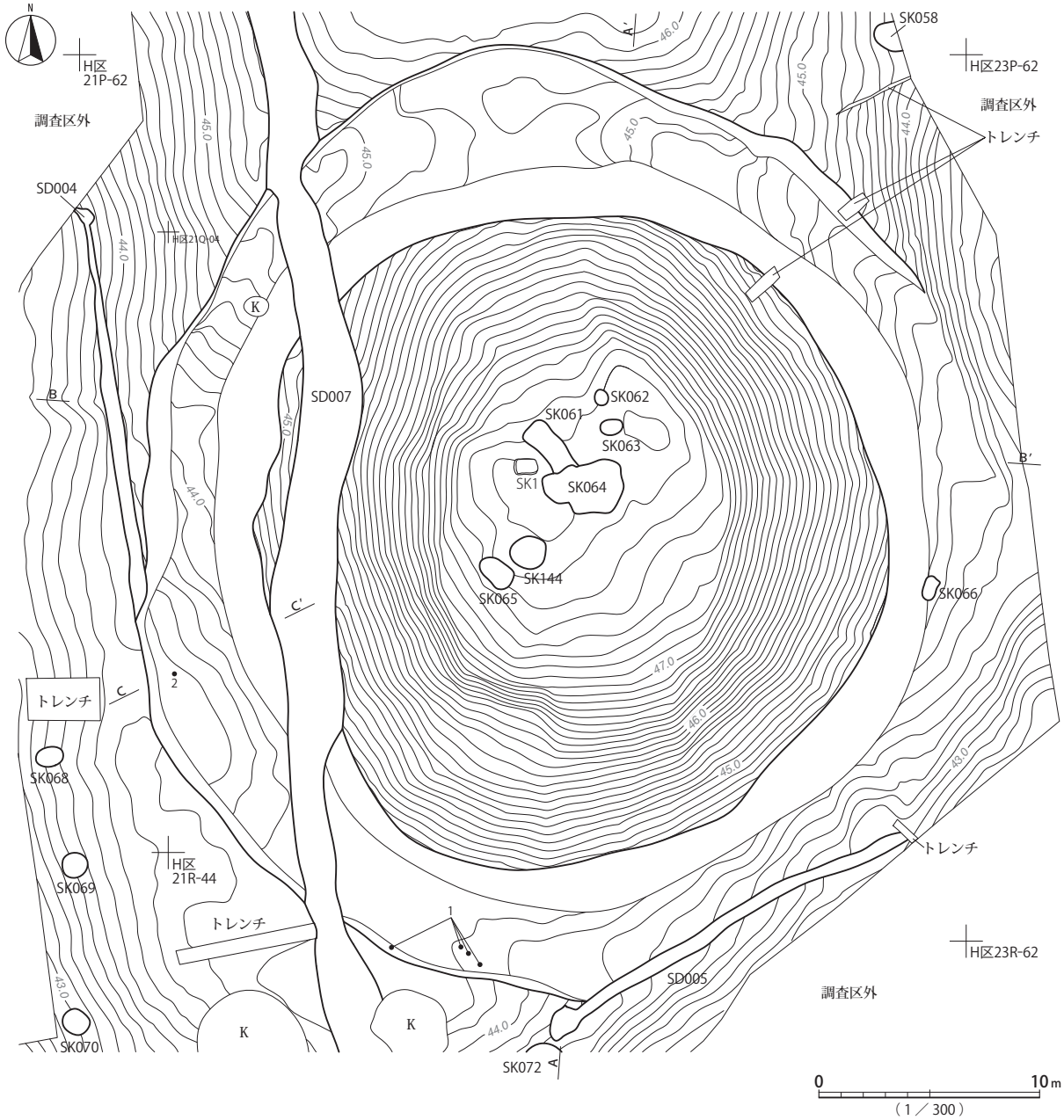
単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
6	不明鉄製品	周溝覆土下層	44.0	17.0	0.8	7.40	

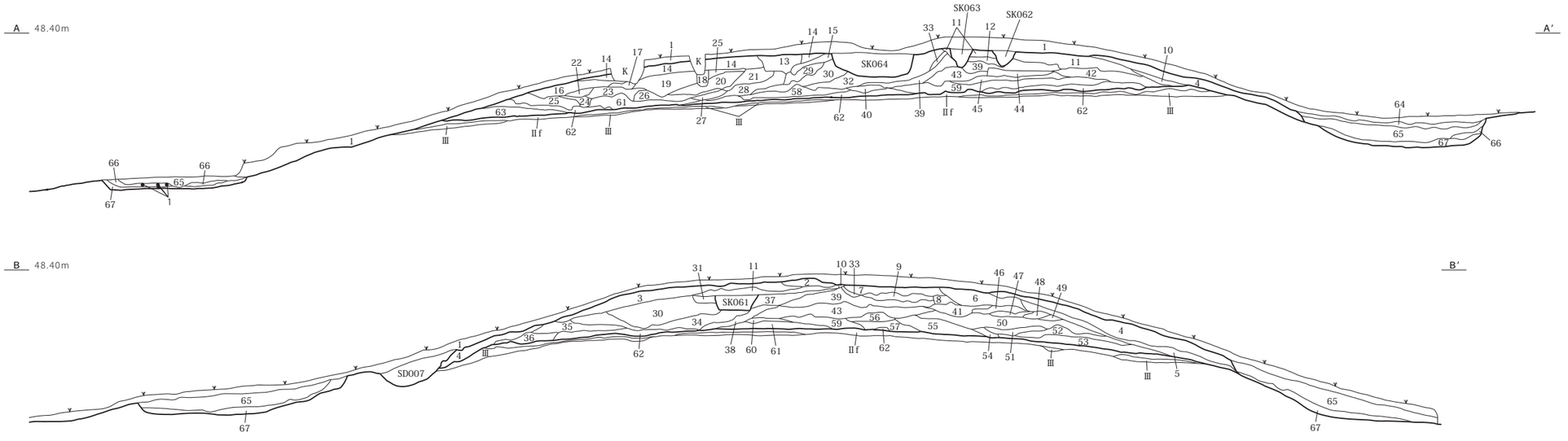
SM007（第392 ～ 396図、第126・127表、図版47・51 ～ 53・97・113）

墳頂部に１基の埋葬施設を持つ円墳である。盛土と地山成形により構築されている。**位置：**Ｈ区22Ｑグリッドを中心とする南北方向に伸びる痩せ尾根上の南端に位置する。北側約３ｍにはSM006が隣接する。**現況：**高さ約2.20mの高まりが遺存していた。墳頂部には窪みが認められ、撹乱を受けていた。**重複：**SD004・SD005を切り、SD007 に切られる。**規模：**墳丘径、長軸29.94m、短軸28.68m。周溝を含めた外径、長軸（43.30）m、短軸（40.16）m、旧地表面からの高さ約1.00m、北側墳丘裾からの高さ約1.40ｍ。

墳丘：痩せ尾根上の旧地表面に構築されている。構築方法は、墳丘の南側に暗褐色土（63層）を0.30mほど積み上げ、その上から墳丘中央にかけて焼土や炭化物を含む黒褐色土（62層など）を積み上げている。次ぎに、墳丘の北東側に盛土が積



第392図　SM007（１）



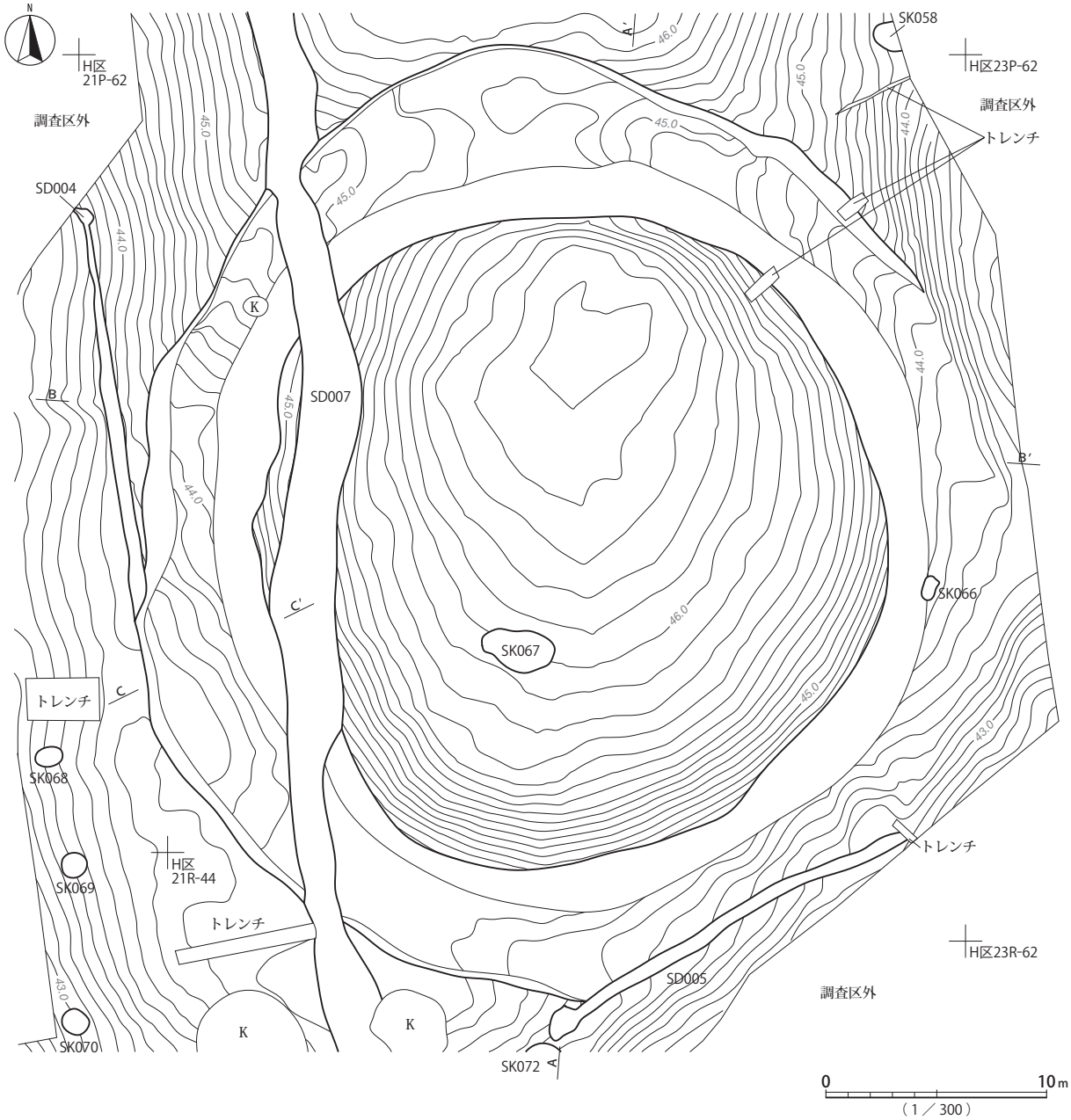
1 暗褐色土(10YR3/4) 腐植土粘性あり。しまりあり。表土。
2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子中量、炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。填丘盛土。
3 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量、ロームブロックφ5～60mm少量含む。粘性あり。しまり強い。填丘盛土。
4 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
5 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土多量、ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
6 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ50～100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
7 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
8 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
9 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
10 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒子多量、暗褐色土粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
11 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
12 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量、ロームブロックφ5～10mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。填丘盛土。
13 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ5mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
14 褐色土(10YR4/4) 黒色土ブロックφ10～200mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
15 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ10～100mm多量含む。粘性あり。しまり強い。填丘盛土。
16 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
17 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
18 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
19 褐色土(10YR4/4) 黒色土ブロックφ10～200mm中量含む。粘性あり。しまり強い。填丘盛土。
20 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
21 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ100～200mm多量含む。粘性あり。しまり強い。填丘盛土。
22 褐色土(7.5YR4/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
23 褐色土(7.5YR4/4) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
24 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
25 褐色土(7.5YR4/4) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
26 暗褐色土(7.5YR3/4) 黒褐色土ブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
27 黒褐色土(7.5YR3/2) 黒褐色ブロック極小少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
28 暗褐色土(7.5YR3/3) 黒褐色ブロック極小多量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
29 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
30 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ50～60mm多量含む。粘性あり。しまり強い。填丘盛土。
31 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
32 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ロームブロックφ50～60mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
33 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。填丘盛土。
34 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
35 褐色土(7.5YR4/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
36 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
37 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ10～100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
38 暗褐色土(7.5YR3/3) ロームブロックφ100mm含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
39 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ10mm中量、黒褐色土ブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
40 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
41 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
42 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
43 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
44 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
45 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
46 極暗褐色土(7.5YR2/3) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
47 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
48 暗褐色土(7.5YR3/3) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
49 褐色土(7.5YR4/4) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
50 褐色土(7.5YR4/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
51 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
52 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
53 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
54 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
55 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ50～100mm少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
56 暗褐色土(7.5YR3/3) ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
57 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
58 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
59 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
60 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒子含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
61 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ50～100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
62 黒褐色土(7.5YR3/1) 焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
63 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ50～100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。填丘盛土。
64 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
65 黒褐色土(10YR2/2) 粘性あり。しまりあり。周溝。
66 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
67 黄橙色土(10YR9/4) 粘性あり。しまりあり。周溝。

第393図　SM007（2）

み足されている（２層～ 36層）。最後は褐色、黒褐色土を積み上げ、裾部を成形している（４・５層）。

周溝：東側を除き、Ｃ字状に巡っている。幅4.87 ～ 7.94m、確認面からの深度0.09 ～ 0.89m。断面形態は、北～北西部は平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がり、その他は平坦な底面から緩やかに立ち上がる。覆土は墳丘の崩落土を推測させる黄橙色土（67層）が最下層に堆積し、下層から上層にかけて黒褐色土などがレンズ状に堆積している（64 ～ 66層）。尾根の東向き斜面で周溝は途切れており、地滑り等により消失したか、あるいは周溝は当初から構築されず、地山削り出しによるテラス構造であった可能性がある。

埋葬施設：墳頂部で１基の土坑が検出された。墳丘上ではこのほかに６基の土坑が検出されたが、いずれも埋葬施設あるいは本墳に伴う遺構とは考えられないため、土坑の項で報告している



第394図　SM007（３）

（SK061 ～ SK065・SK144）。SK1は墳頂部のほぼ中央で検出された。白色粘土の散在する範囲が検出されたが調査員の確認が遅れ、東側の盛土掘削を進めてしまい一部を破壊してしまった。作業に問題があったと猛省せざるを得ない。

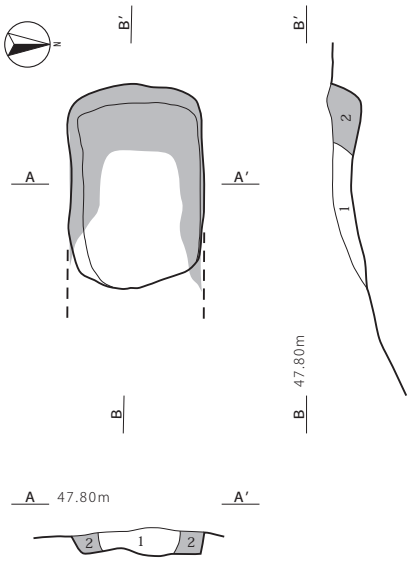
残存部の規模は長軸（1.10）m、短軸（0.72）m。検出面からの深度0.19m。長軸方位はＥ－Ｗ。平面形態は小口がわずかに丸みを帯びる長方形であったと考えられる。底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は１層が木棺痕跡と考えられ、これを固定するように、粘土を含む明黄褐色土が充填されている（２層）。検出面の標高から考えると、墳頂部まで盛土が積み上げられた後に設置された埋葬施設であろう。遺物は出土していない。

時期：遺物が少なく断定はできないが、近接するSM005・SM006同様、４～５世紀代と推測される。

所見：SM005 ～ SM007のうち、もっとも標高の高い位置にある。尾根の頂部を利用して築造されており、裾部は地山削り出しにより成形された円墳である。埋葬施設の大半が盗掘等により削平されているためか、遺物は墳丘の規模に比較して少ない。周溝は東側で途切れており流失したか、あるいは、テラス構造とした可能性もある。周溝内から甕（１）、小刀（２）が出土している。

遺物：墳丘および周溝から、土器1036.1g、石器・石製品14.00g、金属製品85.10g、縄文土器265.0gが出土した。

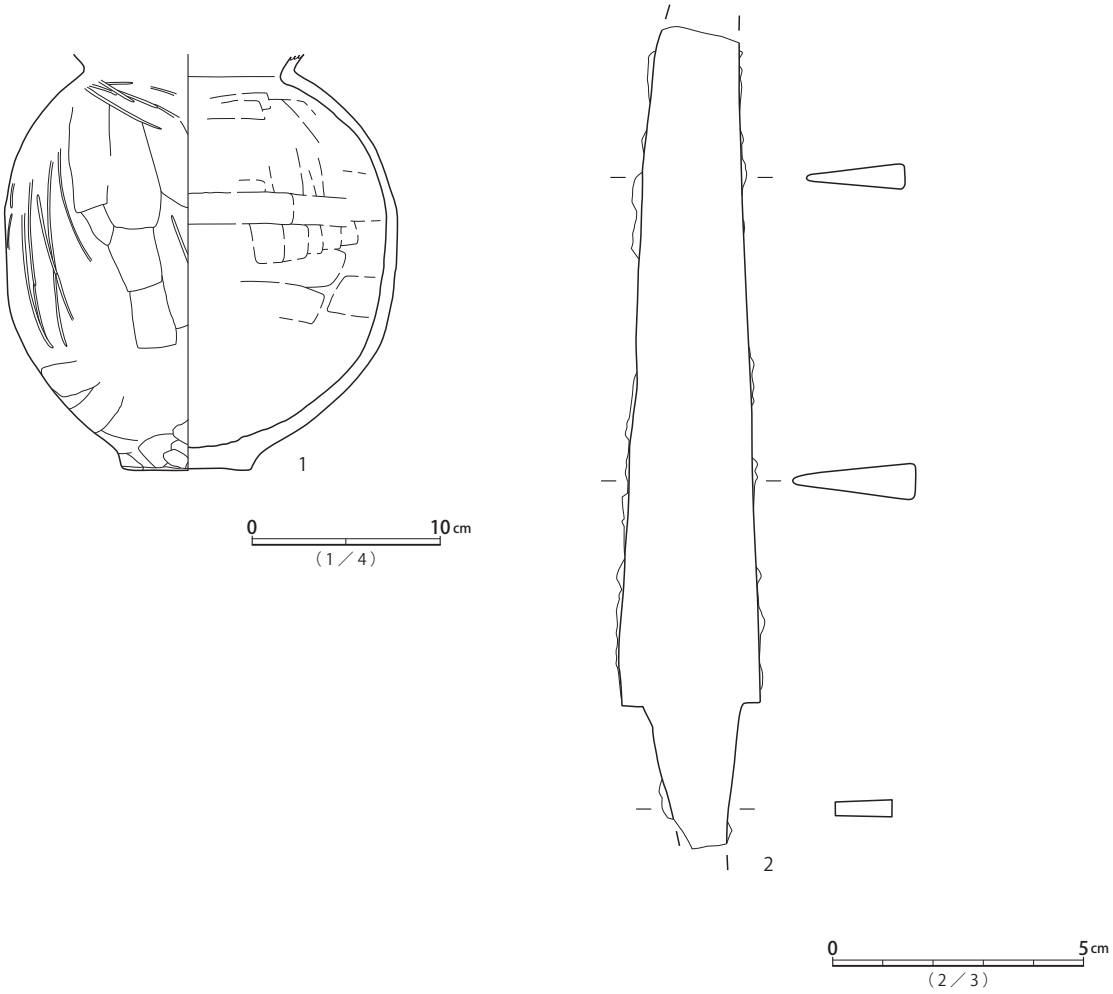
１は土師器の甕である。胴部はやや球形になっている。２は小刀である。切先と茎尻を欠損する。上身部は平造りで、反りはなく峰は直線的である。背関、刃関とも直角に切られる。木質等の残存はみられない。



1　褐色土(7.5YR4/6)　　粘性あり。しまりあり。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　粘性あり。しまりあり。主体部構築粘土。

0　1m
（1／40）

第395図　SM0007SK1



第396図　SM007出土遺物

第126表　SM007出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	周溝下層	口　径：　－ 底　径：　6.7 器　高：[22.0] 最大径：(20.8)	外面：頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：頸部～底部の2/3	外面煤付着

第127表　SM007出土鉄刀観察表

単位：cm

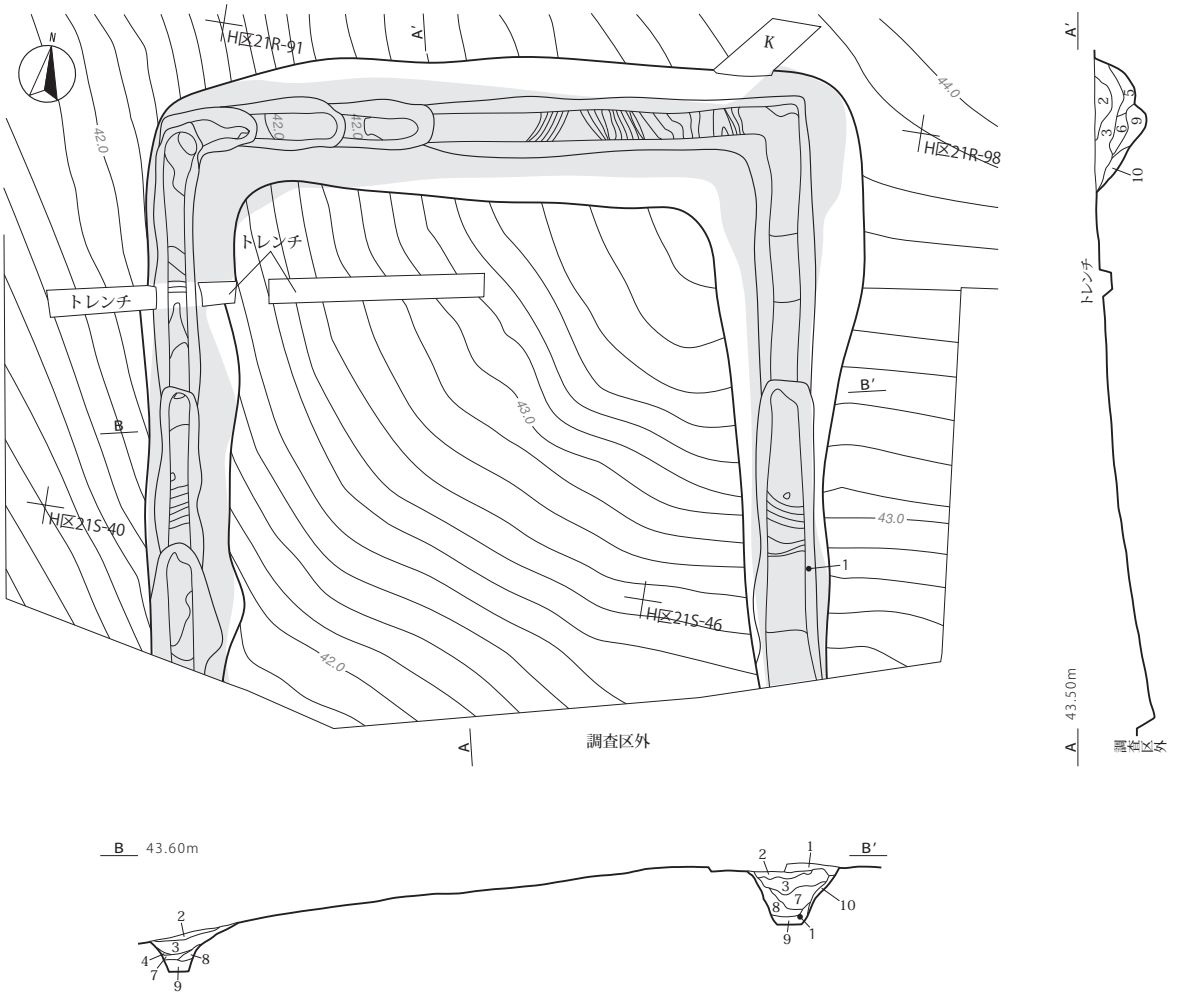
番号	種別	出土位置	全長	刀身長	刀身幅	刀身厚	茎長	茎幅	茎厚	鍔	重量（g）	備考
2	小刀	周溝上層	[16.3]	[13.4]	2.4	0.7	[2.9]	1.1	0.4	－	80.5	切先、茎尻欠損

SM008（第397・398図、第128表、図版53・54・97）

方墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**H区21 S グリッドを中心とする痩せ尾根の南端に位置する。北側約６ｍにSM007が隣接する。**重複：**SI078を切る。方台部内でSD006と重複するが新旧関係は不明である。**規模：**北辺9.23m、東辺（9.66）m、西辺（9.72）m。周溝を含めた総長は、北辺14.20m、東辺（12.80）m、西辺（11.40）m。**主軸方位：**南北方向を主軸と仮定し、N－10°－W。

墳丘：残存しない。

周溝：調査区内で「コ」の字状に検出され、南側は調査区外へ伸びる。幅1.36 ～ 2.99m。確認面からの深度0.72 ～ 1.26m。断面形態は平坦な底面から壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は褐色土



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　硬化ブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　硬化ブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(7.5YR2/2)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ３～ 5mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
8　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
9　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
10　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ10 ～ 50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　5m
（1／150）

第397図　SM008

や暗褐色土を主体とし、中層（３・６～８層）や最上層（１層）はしまりが非常に強い。

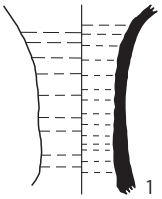
埋葬施設：検出されなかった。

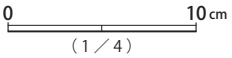
時期：遺物の出土が少なく断定はできないが、周溝の断面形態と合わせて７世紀末葉～８世紀初頭と考えられる。

所見：周溝のみが検出された方墳である。周溝の埋没後に踏み固められたのか、最上層や中層のしまりが非常に強い。地滑りや削平等により、墳丘や埋葬施設は消失している。周溝内から須恵器長頸壺（１）が出土している。

遺物：土器1,595.6g、須恵器158.4gが出土した。

１は須恵器の長頸壺である。内外面に自然釉が付着している。





第398図　SM008出土遺物

第128表　SM008出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 長頸壺	周溝下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：［9.9］ 最大径：　－	外面：頸部ロクロ調整 内面：頸部ロクロ調整	胎　土：黒色粒・長石 焼　成：普通 色　調：褐灰 残存度：頸部の破片	内外面自然釉付着

SM009（第399・400図、第129表、図版54・97）

円墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｈ区17Ｎグリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。南東側約13mにSM010がある。**重複：**SD018に切られる。**規模：**墳丘径、長軸12.51m、短軸12.18m。周溝を含めた外径、長軸16.34m、短軸16.34m

墳丘：残存しない。

周溝：全周する。幅1.25 ～ 3.36m。確認面からの深度0.50 ～ 0.70m。断面形態は平坦な底面は狭く、壁面は皿状に立ち上がる。覆土はロームブロックを含む黒褐色土や暗褐色土を主体としている（２・３層）。

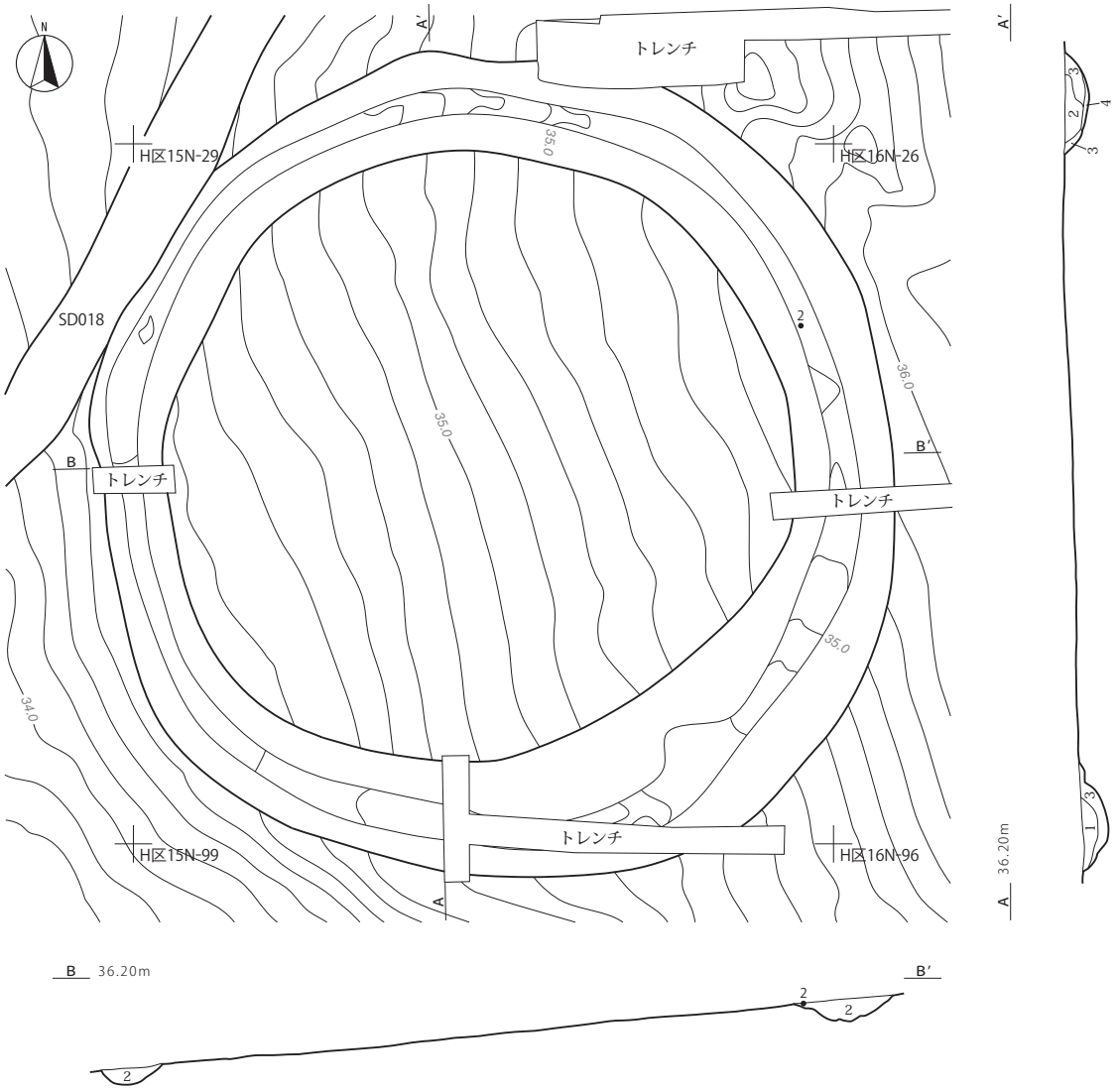
埋葬施設：検出されなかった。

時期：遺物が少なく断定はできないが、近接するSM010・SM011同様、古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。

所見：周溝のみが検出された円墳である。耕作等の削平によるものか、墳丘、埋葬施設は消失している。南東側のみ周溝の幅が広いが、覆土にロームブロックを含むことから壁面の崩落により広がったと考えられる。須恵器蓋（２）は周溝最上層から出土しており、混入と考えられる。

遺物：土器1,526.1g、須恵器31.2g、石器・石製品2.06g、縄文土器1,059.0gが出土した。

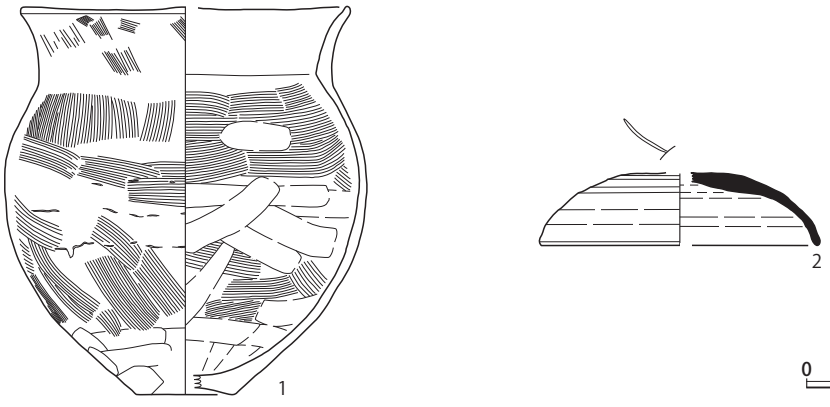
１は土師器の甕、２は須恵器の蓋である。１は内外面にハケメ調整が施される。２は天井部にヘラによる窯印が施される。



1　黒色土(7.5YR1.7/1)　　粘性あり。しまりあり。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ５～10mm含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR2/2)　　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/4)　　粘性あり。しまりあり。

0　5m
（1／150）

第399図　SM009



0　10cm
（1／4）

第400図　SM009出土遺物

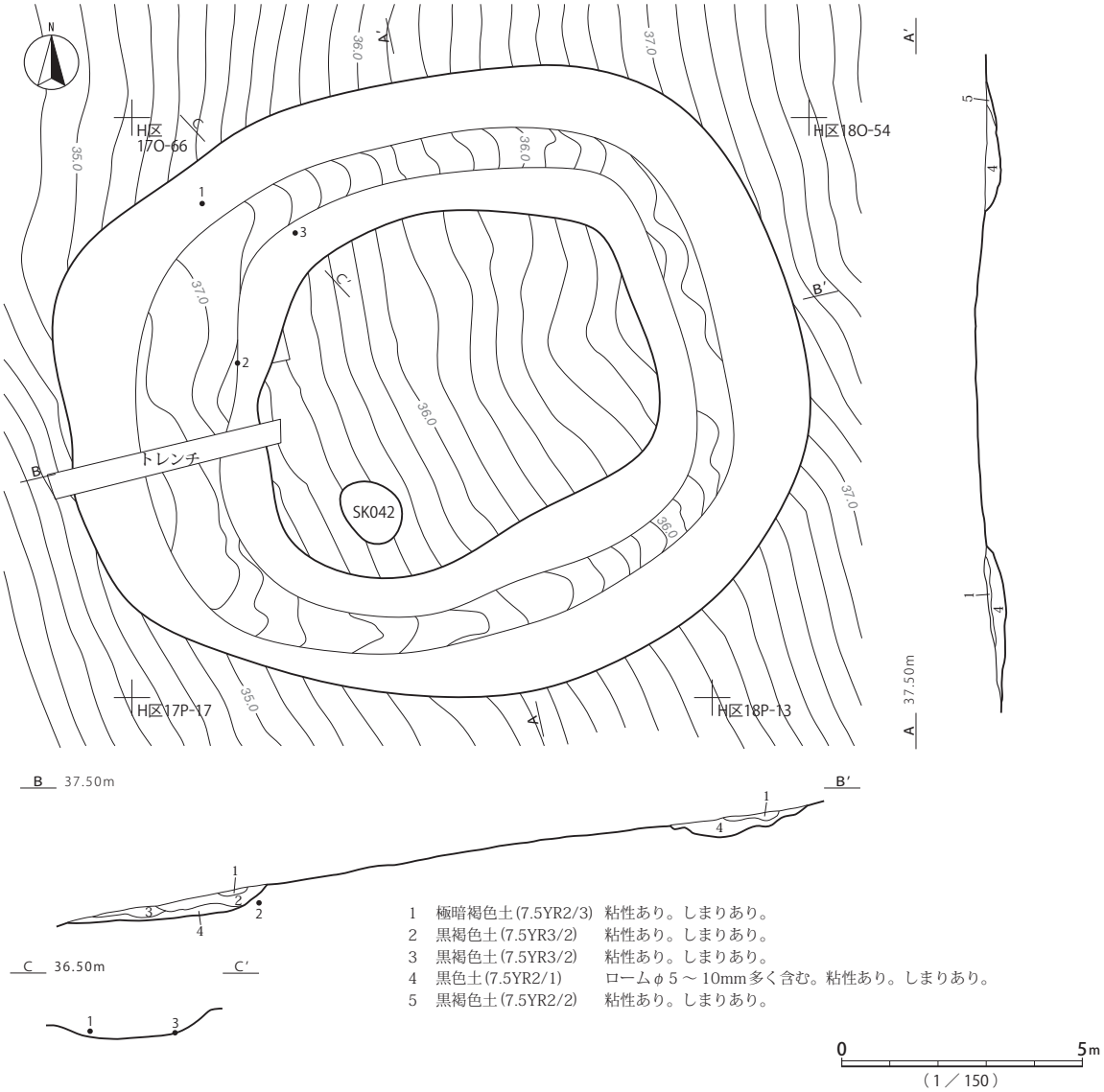
第129表　SM009出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	確認調査	口　径：(17.2) 底　径：　(5.2) 器　高：　20.5 最大径：(19.2)	外面：口縁部～頸部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラナデ、底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・海綿骨針・黒色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	
2	須恵器 坏蓋	周溝上層	口　径：(14.6) 底　径：　－ 器　高：　[3.8] 最大径：　－	外面：天井部～天井端部ロクロ調整後天井部1/3に回転ヘラケズリ・ヘラ記号「｜」有り 内面：天井部～天井端部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：天井部～天井端部の破片	

SM010（第401・402図、第130表、図版55・97）

円墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**H区18Pグリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。南側約１ｍにSM012が、東側約４ｍにはSM011が隣接する。**重複：**SK042と重複するが新旧関係は不明である。**規模：**墳丘径、長軸8.13m、短軸6.72m。周溝を含めた外径、長軸15.33m、短軸13.00m。



第401図　SM010

墳丘：残存しない。

周溝：全周する。幅2.31 ～ 4.69m。確認面からの深度0.33 ～ 0.80m。断面形態は平坦な底面から壁面は浅い皿状に立ち上がる。覆土はロームブロックを多量に含む黒色土（４層）が最下層に堆積している。中層から上層にかけては黒褐色土や極暗褐色土が堆積する（１～３層）。

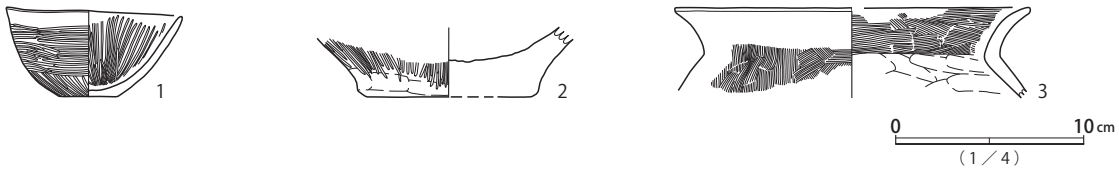
埋葬施設：検出されなかった。

時期：遺物が少なく断定はできないが、隣接するSM011・SM012同様、古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。

所見：周溝のみが検出された円墳である。耕作等の削平によるものか、墳丘、埋葬施設は消失している。墳丘の規模に比較して周溝の幅が広い印象を受けるが、覆土最下層にロームブロックを多量に含むことからSM012同様、壁面や墳丘の崩落により広がったと考えられる。周溝内から鉢（１）、甕（２・３）が出土している。

遺物：土器5,456.2gが出土した。

１～３は土師器である。１は内外面にミガキが施される鉢、２・３はハケメ調整の施される甕である。３は口縁部内面にも横位のハケメ調整が施されている。



第402図　SM010出土遺物

第130表　SM010出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	周溝上層	口　径：　9.3 底　径：　3.0 器　高：　4.7 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	土師器 甕	周溝下層	口　径：　－ 底　径：　8.8 器　高：　[3.7] 最大径：　－	外面：底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：磨耗のため判別不能	胎　土：石英・黒色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：底部のみほぼ完存	
3	土師器 甕	周溝下層	口　径：(18.6) 底　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ 内面：口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ	胎　土：長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	外面煤付着

SM011（第403 ～ 406図、第131・132表、図版55・97・98・115）

円墳である。埋葬施設は検出されなかった。**位置：**Ｈ区19Ｏグリッドを中心とする痩せ尾根の西向き緩斜面に位置する。南側約１ｍにはSM013が、西側約４ｍにはSM010が隣接する。**現況：**高さ約0.70mの高まりが遺存していた。**重複：**周溝内でSK004を切る。**規模：**墳丘径、長軸16.69m、短軸15.10m。周溝を含めた外径、長軸23.04m、短軸22.05m。旧地表面からの高さ約0.26m。

墳丘：西向き緩斜面の旧地表面上に構築される。地滑りや耕作等により削平され、厚さ0.26mほどの暗褐色土がわずかに残存するのみであった（３～５層）。

周溝：全周する。幅1.93 ～ 5.18m。確認面からの深度0.23 ～ 1.09m。断面形態は平坦な底面から傾斜をもって立ち上がる皿状である。覆土は極暗褐色土や暗褐色土がレンズ状に堆積している（６・７層）。

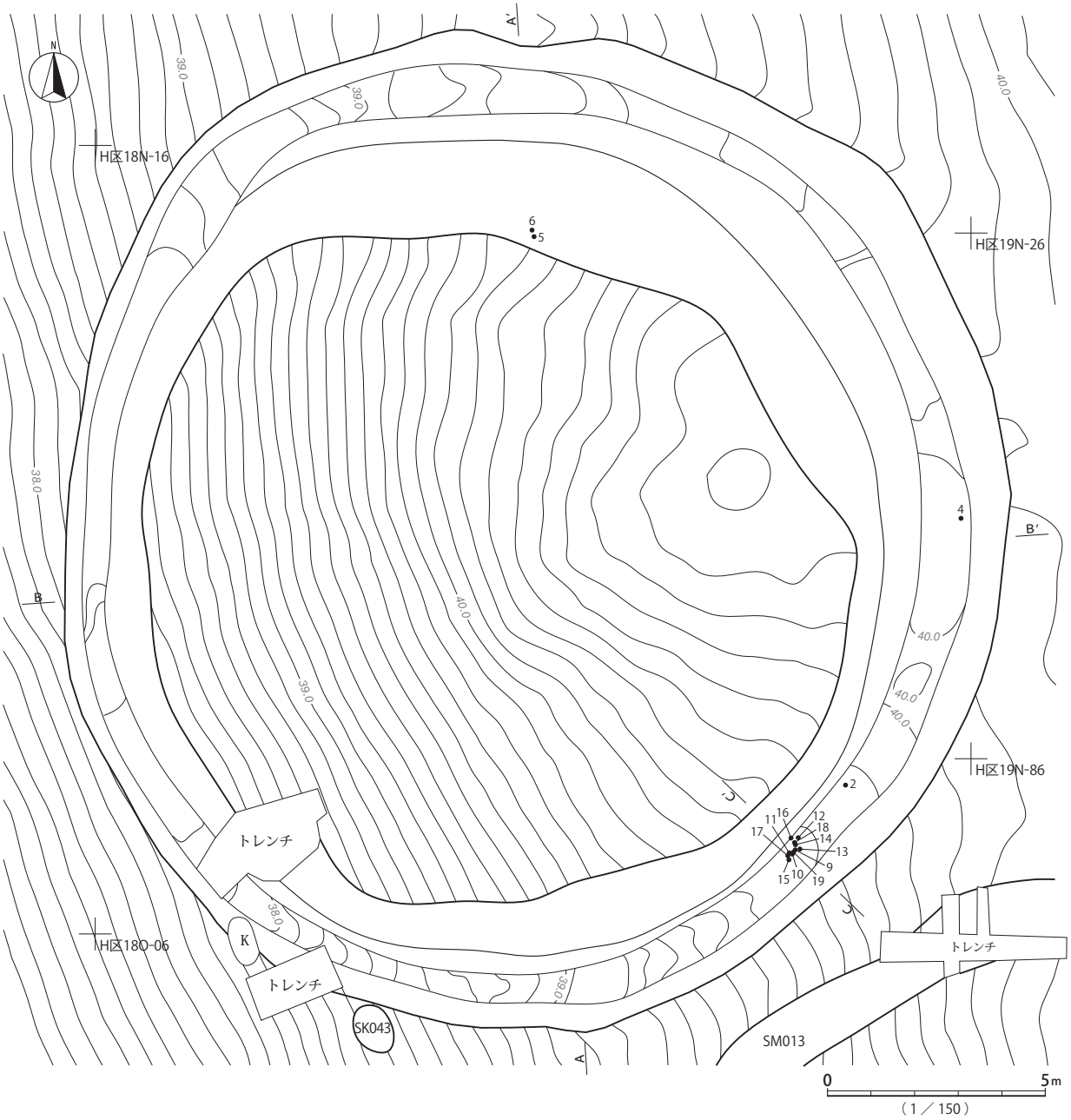
埋葬施設：検出されなかった。

時期：出土遺物から古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。

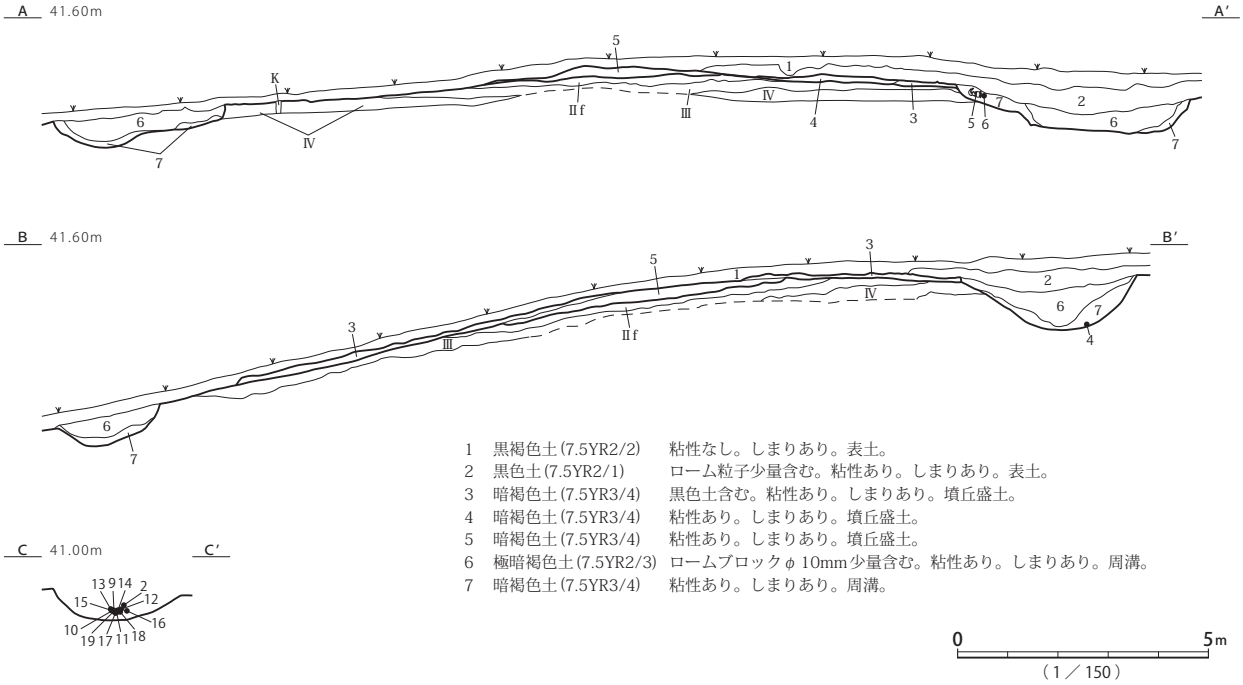
所見：墳丘はわずかに残存するものの、削平等により大部分が消失し、埋葬施設も確認されなかった。周溝南東側から鉄鏃がまとまって出土しているが、束にはなっておらず狭い範囲内で散在し、埋葬行為を推測させる出土状況ではなかった。墳丘盛土から甕（５・６）、周溝内から鉢（２）、甕（４）が出土している。また墳丘上面から須恵器短頸壺（７）、コップ型埦（８）が出土しているが、この２点は表土直下からの出土であり混入と考えられる。

遺物：墳丘、周溝から土器5,051.8g、須恵器110.8g、金属製品121.60g、縄文土器19.0gが出土した。

１～６が土師器で、１は器台、２・３は鉢、４～６は甕である。７・８は須恵器で、７は短頸壺、８はコップ型埦である。９～ 19は鉄鏃である。



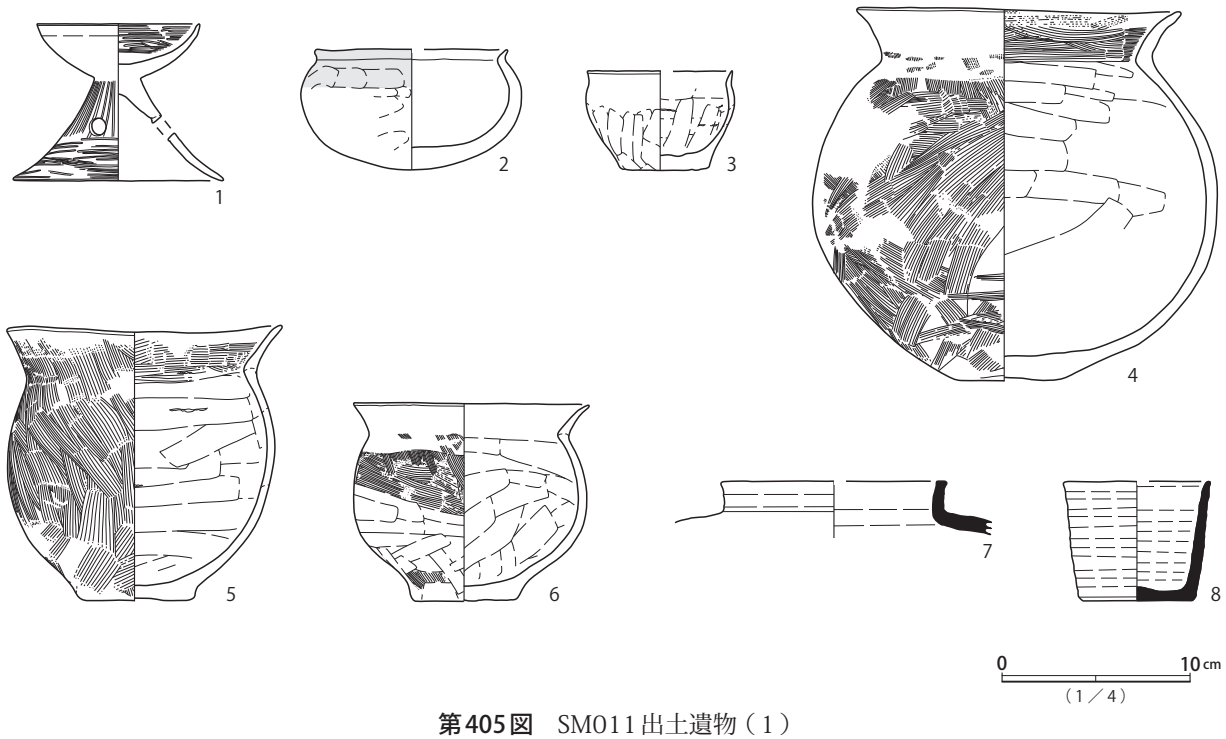
第403図　SM011（１）



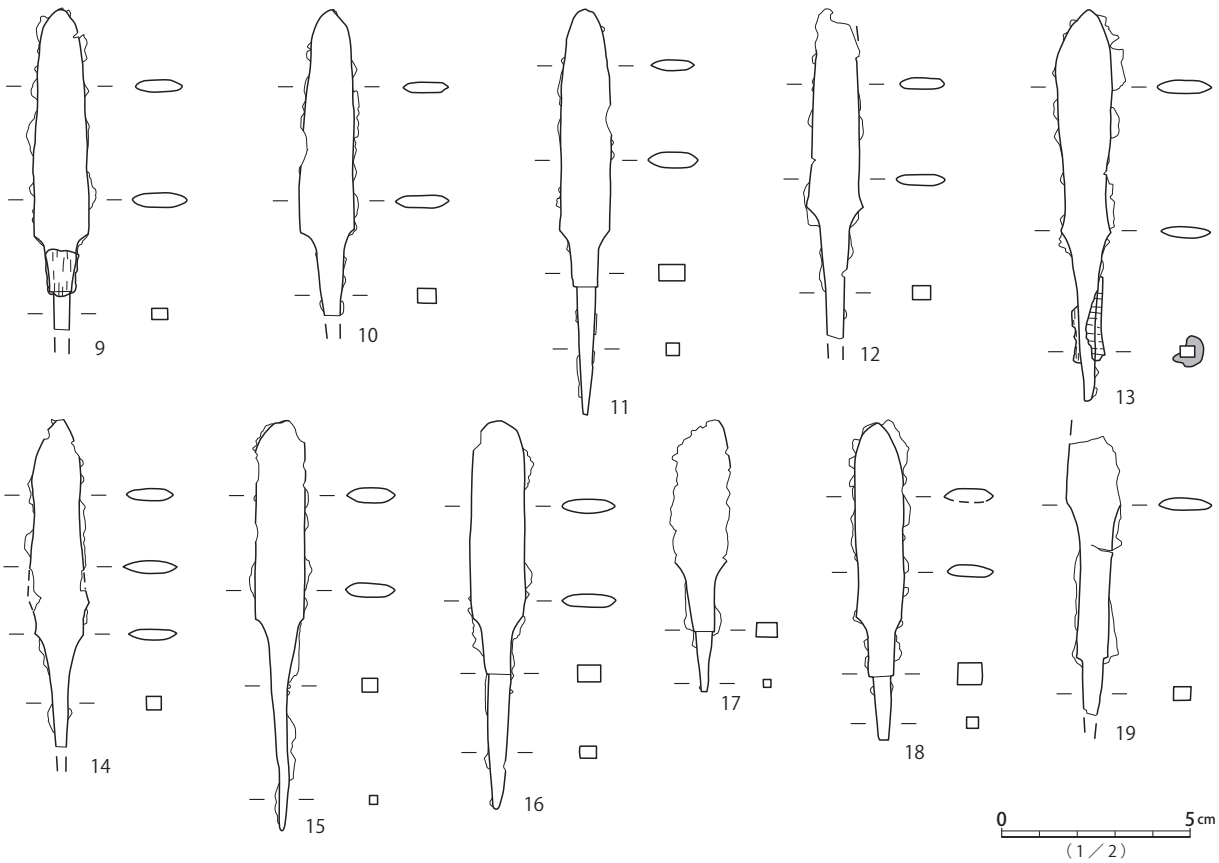
第404図　SM011（２）

４～６は外面にハケメ調整が施される甕である。４・５は口縁部内面にもハケメ調整が見られる。

鉄鏃はいずれも鏃身部と茎部からなる無頸有茎鏃である。鏃身部は柳葉形で、断面は膨らみに乏しい平造りである。鏃身関は９～ 11・15 ～ 19がナデ関、12 ～ 14が山形関である。茎部は断面正方形である。９・13は矢柄の木質が残存している。



第405図　SM011出土遺物（１）



第406図　SM011出土遺物（２）

第131表　SM011出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 器台	確認調査	口　径：　8.6 脚　径：(11.0) 器　高：　8.3 最大径：　－	特徴：脚部に円形の透かし３箇所あり 外面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ、脚部～裾部ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：黒色粒・海綿骨針・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の3/4	
2	土師器 鉢	周溝下層	口　径：(10.2) 底　径：　－ 器　高：　6.4 最大径：11.6	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、赤彩、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
3	土師器 鉢	墳丘上層	口　径：(7.7) 底　径：　4.6 器　高：　5.3 最大径：　7.8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	
4	土師器 甕	周溝下層	口　径：17.1 底　径：　5.3 器　高：19.6 最大径：21.4	外面：口縁部～頸部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ハケメ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	外面煤付着
5	土師器 甕	墳丘下層	口　径：14.4 底　径：　6.0 器　高：14.5 最大径：　－	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部～底部ハケメ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
6	土師器 甕	墳丘下層	口　径：12.5 底　径：　5.6 器　高：10.5 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～肩部ハケメ、胴部～底部ハケメ後ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
7	須恵器 短頸壺	墳丘上層	口　径：(12.0) 底　径：　－ 器　高：[2.8] 最大径：　－	外面：口縁部～肩部ロクロ調整 内面：口縁部～肩部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：黄灰 残存度：口縁部～肩部の破片	
8	須恵器 コップ形埦	墳丘上層	口　径：　(7.8) 底　径：　5.9 器　高：　6.3 最大径：　－	外面：口縁部～体部ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部～底部の1/2	

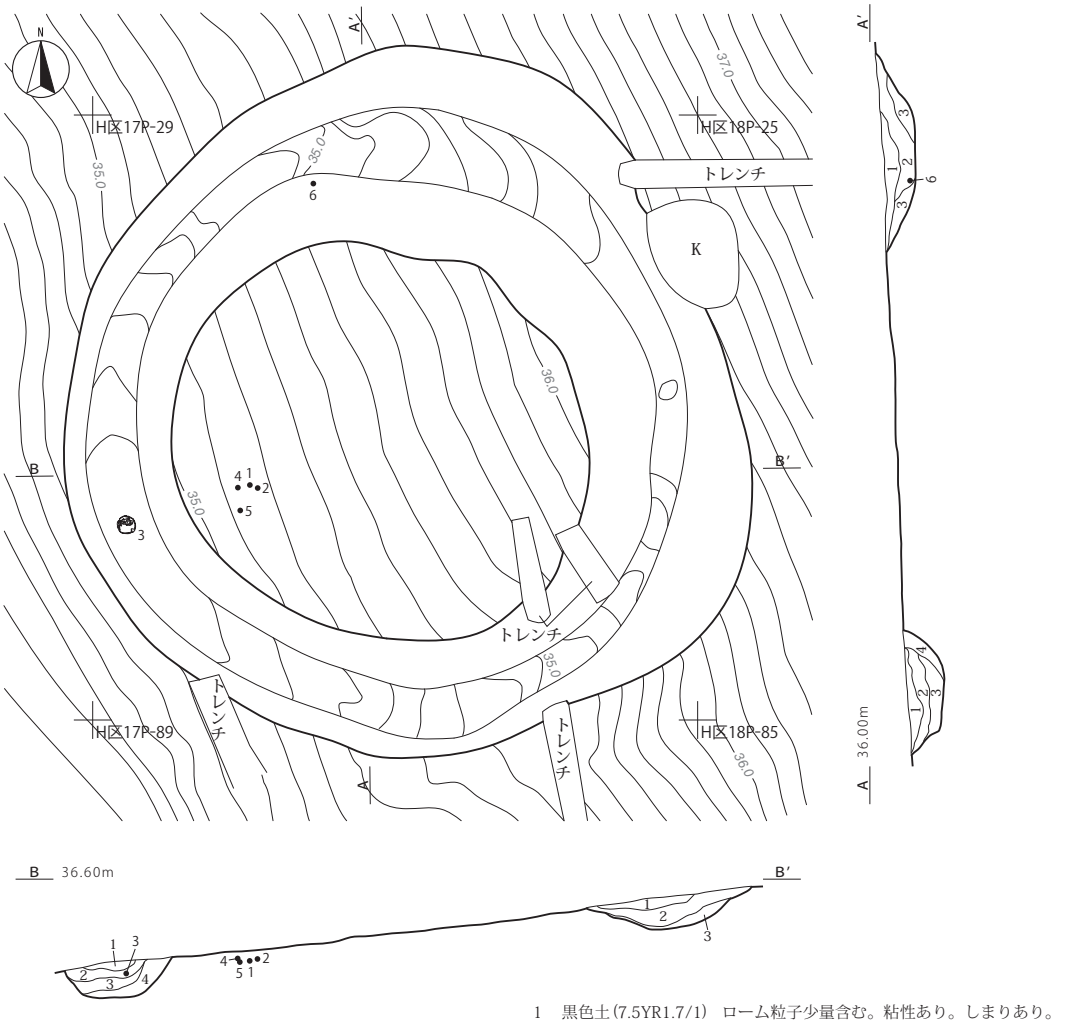
第132表　SM011出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
9	柳葉形無頸鏃	周溝下層	[84.0]	58.0	－	14.5	4.0	－	－	－	－	－	[26.0]	4.4	3.0	11.80	矢柄残存
10	柳葉形無頸鏃	周溝下層	[80.0]	59.0	－	14.0	3.0	－	－	－	－	－	[21.0]	5.0	3.8	9.10	
11	柳葉形無頸鏃	周溝下層	107.5	59.0	－	13.5	4.0	－	－	－	－	－	48.5	3.2	3.0	9.60	
12	柳葉形無頸鏃	周溝下層	[87.0]	[52.0]	－	13.5	3.0	－	－	－	－	－	[35.0]	4.5	4.0	10.30	
13	柳葉形無頸鏃	周溝下層	103.0	58.0	－	14.2	3.5	－	－	－	－	－	45.0	4.0	3.0	12.10	矢柄残存
14	柳葉形無頸鏃	周溝下層	86.0	56.0	－	14.0	3.0	－	－	－	－	－	3.0	3.6	3.6	8.50	
15	柳葉形無頸鏃	周溝下層	108.0	52.0	－	13.0	4.0	－	－	－	－	－	56.0	3.0	3.0	13.20	
16	柳葉形無頸鏃	周溝下層	102.0	51.0	－	14.0	3.5	－	19.0	－	－	－	51.0	4.2	3.0	10.30	
17	柳葉形無頸鏃	周溝下層	72.0	38.0	－	－	－	－	－	－	－	－	34.0	3.0	2.5	8.10	
18	柳葉形無頸鏃	周溝下層	84.0	51.0	－	13.0	3.5	－	－	－	－	－	33.0	3.0	3.0	10.80	
19	柳葉形無頸鏃	周溝下層	[73.0]	[17.0]	－	13.0	3.0	－	－	－	－	－	56.0	4.6	3.5	9.90	

SM012（第407～409図、第133・134表、図版55・56・98・115）

円墳である。盛土が残存せず埋葬施設は検出されなかった。**位置：**H区18Pグリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。北側約１mにSM010が、東側約８mにSM012が隣接する。**重**



1　黒色土(7.5YR1.7/1)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　5m
（1／150）

第407図　SM012

複：重複するSK045との新旧関係は不明である。**規模：**墳丘径、長軸8.39m、短軸7.47m。周溝を含めた外径、長軸13.87m、短軸13.55m。

墳丘：残存しない。

周溝：全周する。幅2.26 ～ 4.21m。確認面からの深度0.82 ～ 0.97m。断面形態は平坦な底面から壁面は皿状に立ち上がる。覆土は最下層の褐色土（４層）が墳丘側から堆積し、墳丘からの崩落土と考えられる。中層から上層にかけては暗褐色土や黒褐色土が堆積する（１～３層）。

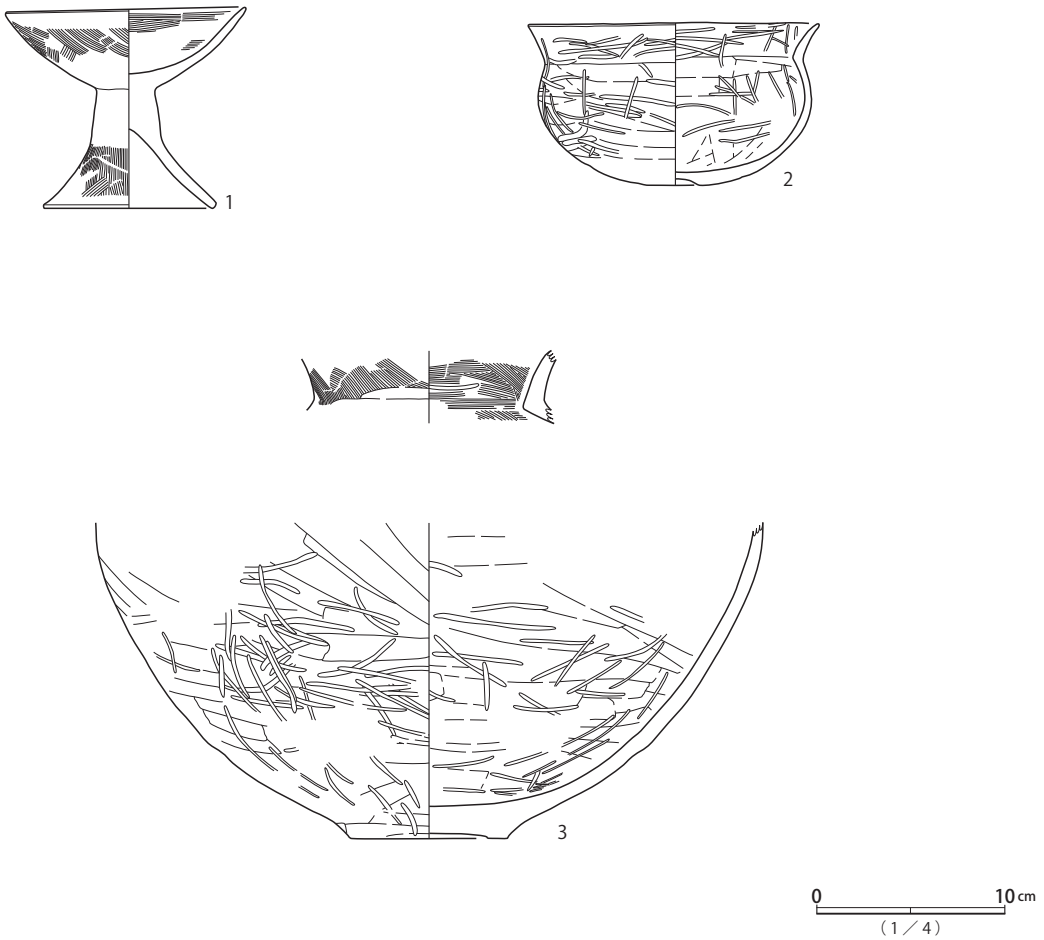
埋葬施設：検出されなかった。

時期：古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。

所見：周溝のみが検出された円墳である。耕作等の削平によるものか、墳丘、埋葬施設は消失している。墳丘の規模と比較して周溝の幅が広い印象を受けるが、SM010同様に築造後、壁面や墳丘の崩落により広がった可能性がある。周溝内から壺（４）、鉄鏃の破片（６）が出土している。

遺物：土器11,152.9g、須恵器40.0g、金属製品3.20gが出土した。

１～５は土師器で、１は高坏、２は鉢、３は壺、４は広口壺、５は甕である。６は鉄鏃の破片と考えられる。１は内外面にハケメ調整が施され、脚部が柱状化している。３は同一個体と考えられる頸部とともに図示している。４は折り返し口縁部を持ち、内外面にハケメ調整が施される。６は柳葉形鏃の鏃身先端部と考えられる。断面形は平造りである。



第408図　SM012出土遺物（１）



第409図　SM012出土遺物（２）

第133表　SM012出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	墳丘	口　径：12.6 脚　径：8.9 器　高：10.6 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ、脚部ハケメ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ハケメ後ナデ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・石英・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 鉢	墳丘	口　径：15.2 底　径：2.6 器　高：8.6 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：長石・黒色粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：にぶい褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
3	土師器 壺	墳丘	口　径：－ 底　径：(8.2) 器　高：[3.9] [16.8] 最大径：－	外面：頸部ハケメ後ヘラナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：頸部ハケメ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：角閃石・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部の破片と胴部～底部の1/4	
4	土師器 広口壺	周溝中層	口　径：32.5 底　径：－ 器　高：[29.7] 最大径：35.3	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、頸部ハケメ後ナデ、胴部上半ヘラナデ後ヘラミガキ、胴部下半ハケメ 内面：口縁部～頸部ハケメ、胴部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：長石・海綿骨針・黒色粒・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の2/3	
5	土師器 甕	墳丘	口　径：12.4 底　径：4.0 器　高：15.7 最大径：14.5	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部～肩部ハケメ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～肩部ハケメ、胴部上半ナデ、胴部下半～底部ハケメ	胎　土：長石・白色粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	

第134表　SM012出土鉄鏃観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	全長	鏃身長	逆棘長	鏃身幅	鏃身厚	別造片 腸抉	頸部長	頸部幅	頸部厚	関部幅	茎部長	茎部幅	茎部厚	重量(g)	備考
6	柳葉形鏃か	周溝下層	[35.0]	－	－	20.0	1.8	－	－	－	－	－	－	－	－	3.20	

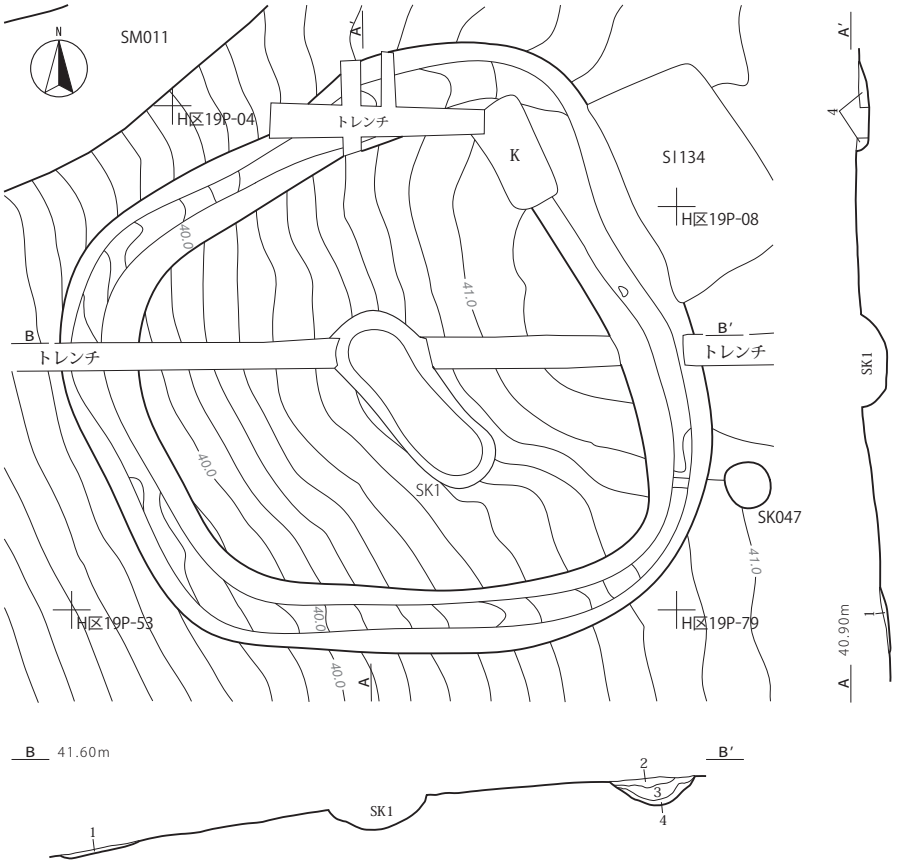
SM013（第410・411図、図版55・56）

平面形態が台形状の方墳である。盛土は残存しないが、方台部で１基の埋葬施設が検出された。**位置：**H区19Ｐグリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。北側約１ｍにSM011が隣接する。**重複：**SI134を切る。**規模：**北東辺（8.93）m、南西辺5.51m、南西－北東軸8.78m。周溝を含めた総長は北東辺11.49m、南西辺8.69m、南西－北東軸11.92m。**主軸方位：**Ｎ-24°-Ｅ。

墳丘：残存しない。

周溝：全周する。幅0.96 ～ 1.76m。確認面からの深度0.04 ～ 0.59m。断面形態はやや起伏のある底面から壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は下層に地山起源と考えられる暗褐色土や褐色土が堆積し（１・４層）、上層は黒褐色土などを主体としている（２・３層）。

埋葬施設：方台部の中央で１基検出された（SK1）。規模は長軸4.12m、短軸1.64m。検出面からの深度0.71m。主軸方位Ｎ-41°-Ｗ。平面形態は隅丸長方形であり、底面はやや起伏があり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は最下層および最上層がロームブロックを含み（１・４層）、中層は



1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

0　5m
（1／150）

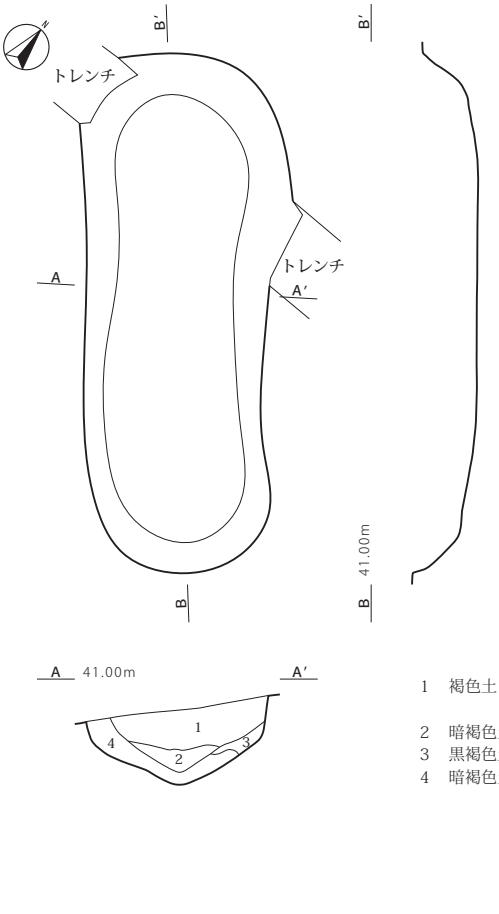
第410図　SM013

黒褐色土や暗褐色土（２・３層）である。掘り方はハードローム層まで到達しており、底面の起伏はその影響を受けたと考えられる。

時期：遺物が少なく断定はできないが、隣接するSM011同様、４世紀代と推測される。

所見：平面形態がやや不整な台形の方墳である。墳丘は残存していないが、検出された埋葬施設の深度から考えると、盛土はそれほど高く積み上げられてはいなかったと考えられる。

遺物：土器89.0g、縄文土器159.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　褐色土(7.5YR4/4)　ロームブロックφ50～100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ30～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第411図　SM013SK1

２．竪穴建物

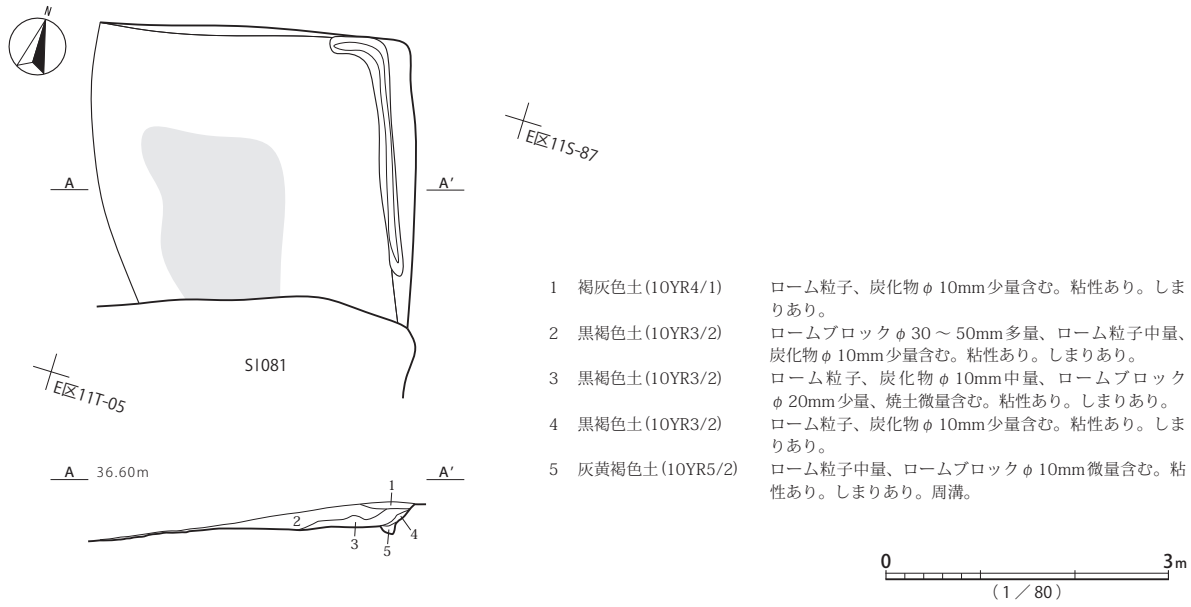
SI079（第412図、図版56）

位置：Ｅ区11Ｓ-85グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SM001を切り、SI081に切られる。**規模：**主軸(3.20)ｍ、副軸(3.42)ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**形態：**方形と考えられる。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、部分的に硬化が認められる。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、５～６世紀代と推測される。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。北東隅の壁と周溝が直角に屈曲しており、本来、方形の竪穴建物であったと推定できる。

遺物：土器816.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第412図　SI079

SI080（第413～415図、第135表、図版56・57・98）

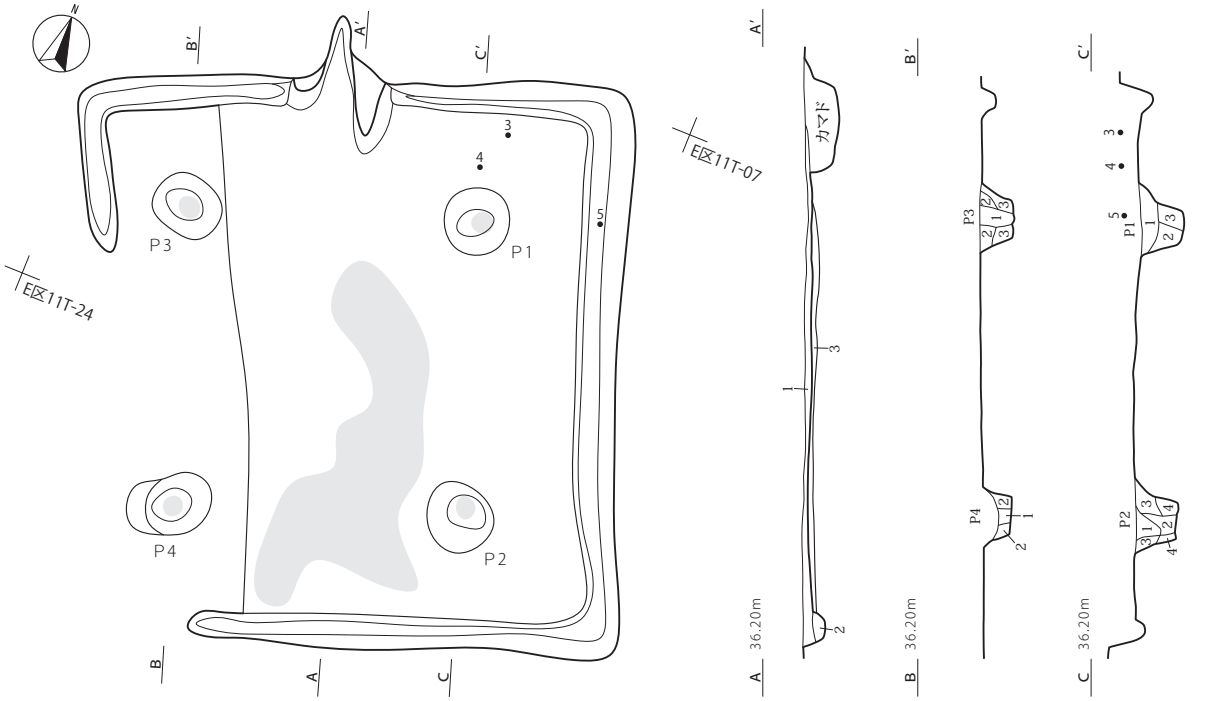
位置：Ｅ区11Ｔ-15グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SM001、SI004・SI081を切る。**規模：**主軸6.80ｍ、副軸5.88ｍ、確認面からの深度0.67ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-22°-Ｗ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から直線的に立ち上がり、壁面から約0.64m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、主軸・副軸方向ともに3.16ｍ。底面では柱あたりが認められた。周溝はカマドと南西壁の削平された部分を除き、全周する。床面は掘り方に褐色土を敷き詰め、その上面を床としており、中央付近から南東壁にかけて硬化している。

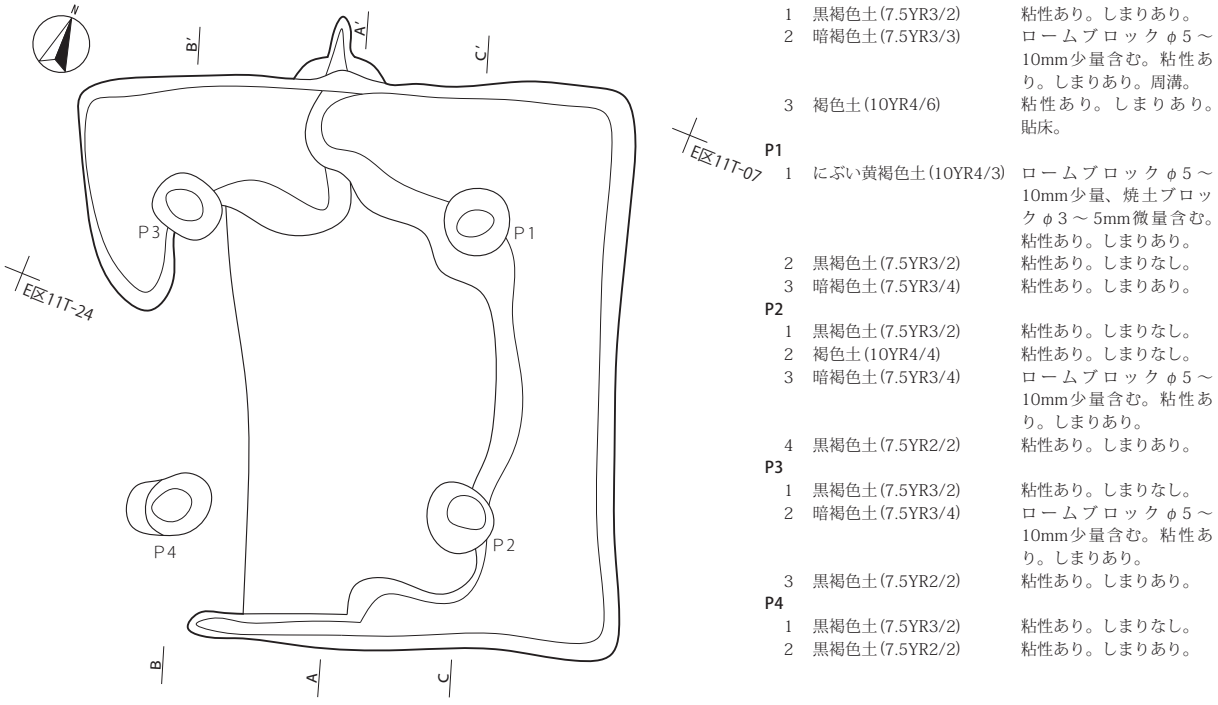
時期：出土遺物から古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：カマド、主柱穴、周溝が検出された。比較的規模の大きな建物で、周溝の幅が広く、四本柱の主柱穴は整然と配置されていた。

遺物：土器3,554.2g、須恵器131.3gが出土した。

１～４は土師器である。１・２は坏、３は高坏、４は甕である。５は須恵器の坏である。１は口縁部外面および内面にヘラミガキが施される。２は内面に放射状暗文が施される。３は脚高が低く、円筒状の脚部をもつ高坏である。





掘り方

1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
3　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまりあり。貼床。

P1
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～10mm少量、焼土ブロックφ3～5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりなし。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

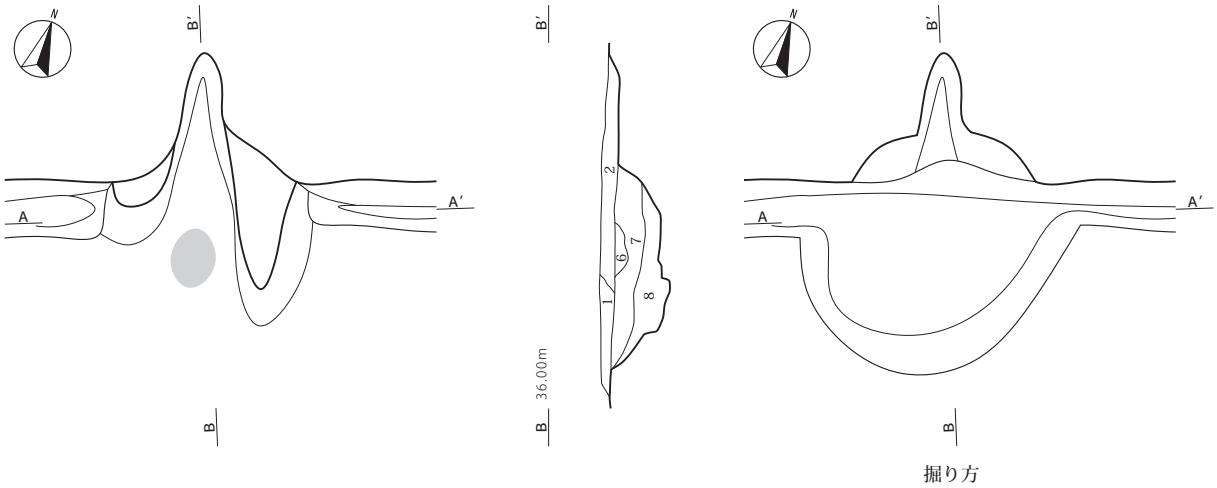
P2
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりなし。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりなし。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。

P3
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりなし。
2　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。

P4
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりなし。
2　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第413図　SI080

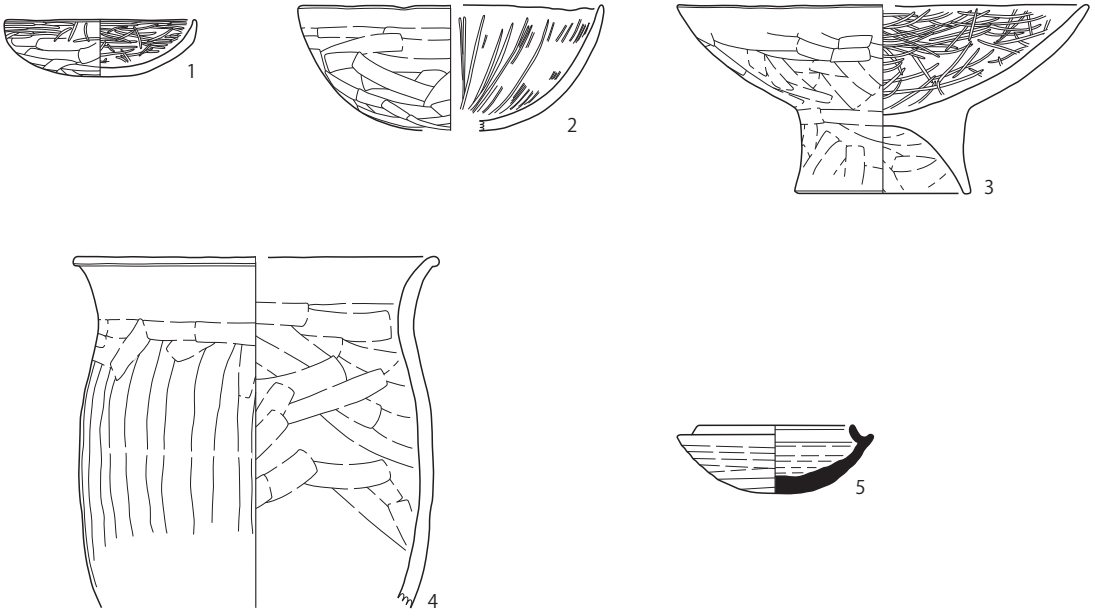


掘り方

1	暗褐色土(7.5YR3/3)	灰白色土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/4)	焼土ブロックφ１～5mm多量、炭化物φ１～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	にぶい褐色土(7.5YR5/4)	焼土微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。カマド袖。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性あり。しまり強い。カマド袖。
5	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまり強い。カマド袖。
6	黄色土(5YR)	粘性あり。しまり非常に強い。
7	黒褐色土(10YR3/2)	焼土ブロックφ１～3mm、炭化物φ１～5mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
8	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ５～20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第414図　SI080カマド



0　10cm
（1／4）

第415図　SI080出土遺物

第135表　SI080出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土上層	口　径：10.0 底　径：－ 器　高：3.0 最大径：11.2	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	内外面黒色処理か
2	土師器 坏	覆土上層	口　径：(16.0) 底　径：－ 器　高：[6.6] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：不良 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～底部の1/3	
3	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(21.4) 脚　径：(8.8) 器　高：10.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 甕	覆土下層	口　径：(19.0) 底　径：－ 器　高：[18.6] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・角閃石・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/4	
5	須恵器 坏身	覆土下層	口　径：8.2 底　径：－ 器　高：3.6 最大径：10.4	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/3～底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：完存	

SI081（第416・417図、第136表、図版57・113）

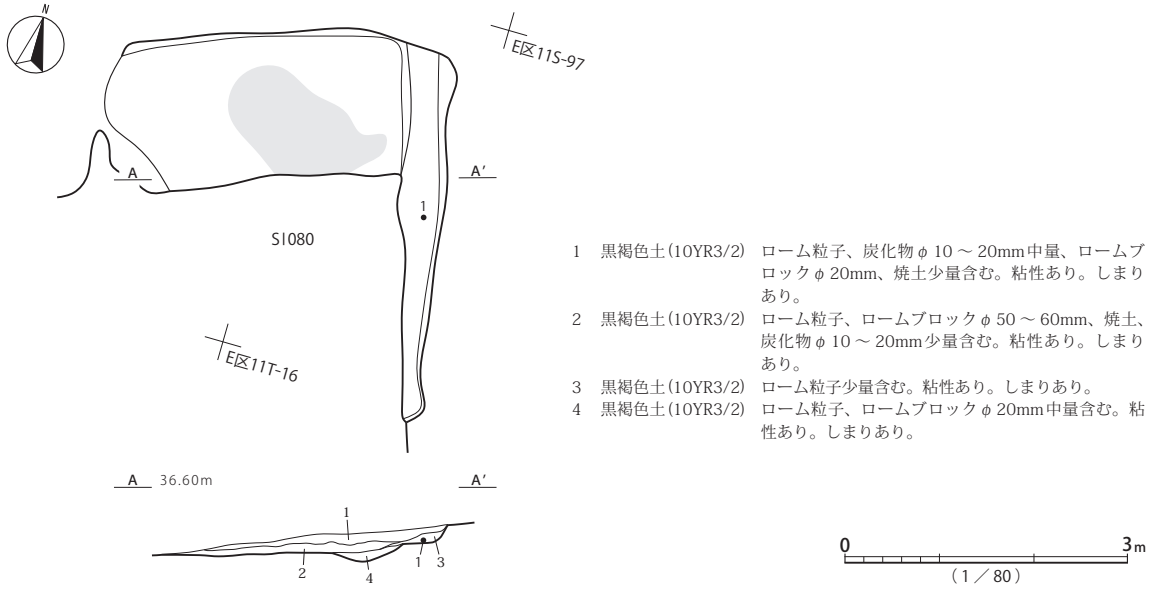
位置：Ｅ区11Ｓ-96グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SM001、SI079を切り、SI080に切られる。**規模：**主軸(4.16)ｍ、副軸(3.74)ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**形態：**方形と考えられる。**主軸方位：**Ｎ-16°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、５～６世紀代と推測される。

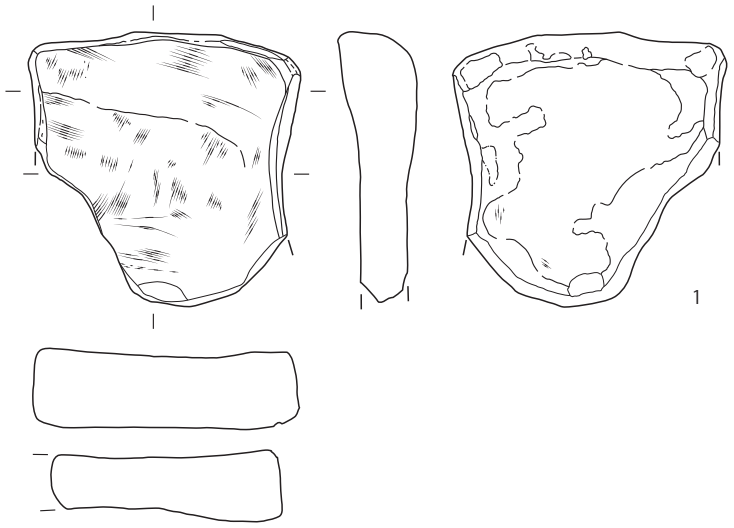
所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。北東隅から東壁沿いの床面が一段高くなっている。床面から砥石（１）が出土している。重複するSI080によって大部分が削平されるため、全容は不明である。

遺物：土器319.0g、石製品401.50gが出土した。

１は砂岩製の砥石で、砥面は５面ある。



第416図　SI081



第417図　SI081出土遺物

第136表　SI081出土石製品観察表

単位：cm

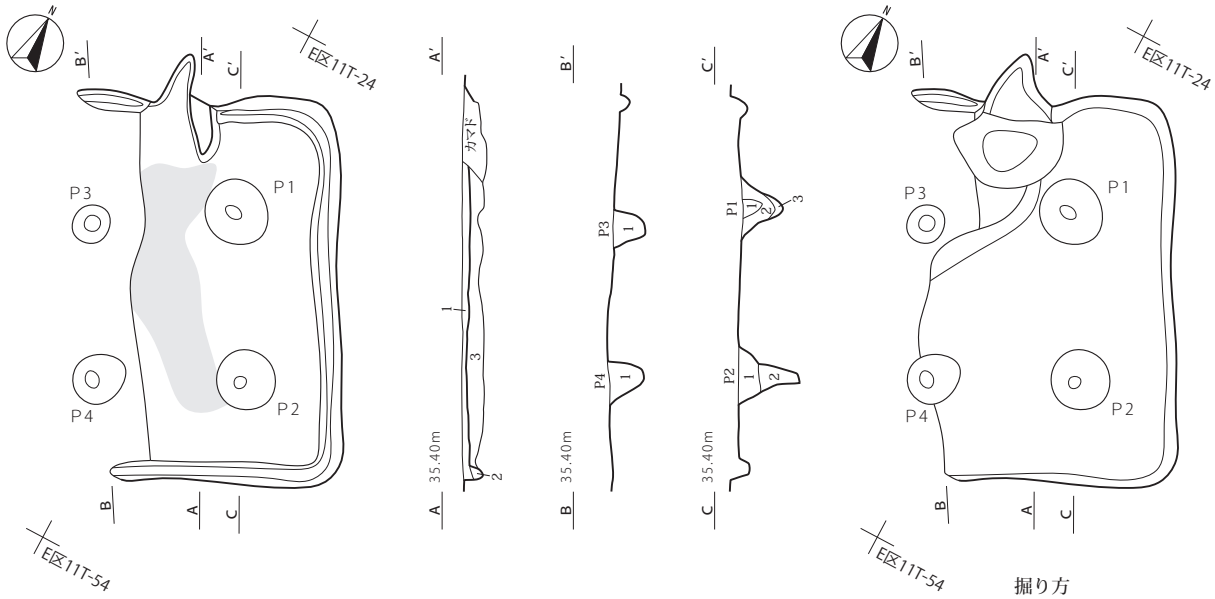
番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
1	砥石	砂岩	床面	[10.90]	[10.80]	[3.10]	401.50	砥面：表・裏・右・左・上各1面

SI082（第418・419図、図版57）

位置：Ｅ区11Ｔ-34グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI004を切る。**規模：**主軸4.60ｍ、副軸（2.86）ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-28°-Ｗ。**カマド：**北西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から直線的に立ち上がり、壁面から約0.44m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向1.76ｍ、副軸方向1.56ｍ。周溝は残存部分ではカマドを除き全周する。床面は掘り方に褐色土を敷き詰め、その上面を床とするが全面ではなく、掘り方掘削時にできた竪穴建物東半部の窪みを埋め均すように敷かれている。カマドの周辺から南東壁にかけて硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、６～７世紀代と推測される。

所見：土器702.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。周溝。
3　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。貼床。

P1
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ１～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりなし。

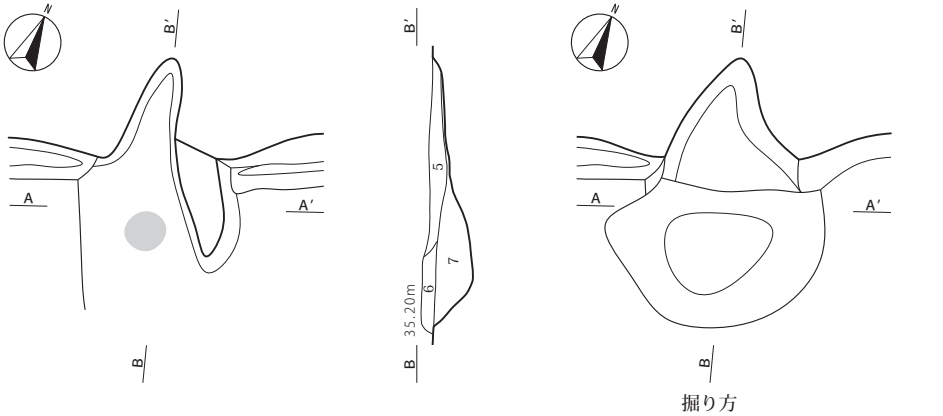
P2
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ３～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりなし。

P3
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ５～10m少量含む。粘性あり。しまりあり。

P4
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ５～10m少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第418図　SI082



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(7.5YR4/6)　粘性あり。しまりあり。
3　にぶい褐色土(7.5YR5/4)　焼土微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。カマド袖。
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(7.5YR4/4)　焼土ブロックφ１～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。カマド袖。
7　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第419図　SI082カマド

SI083（第420・421図、第137表、図版57・98）

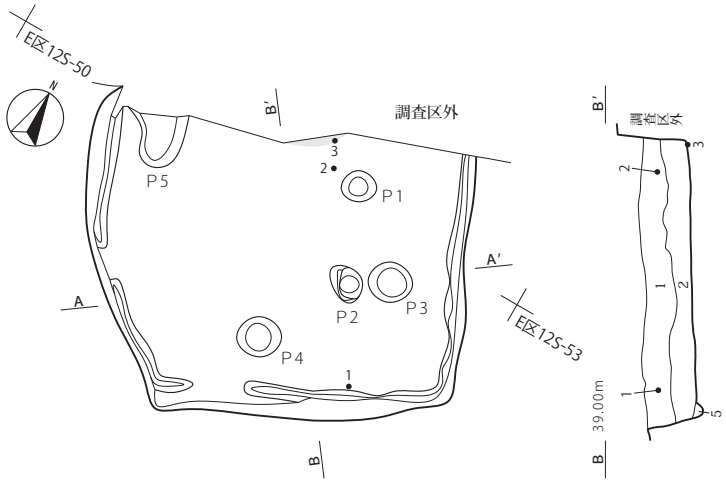
位置：Ｅ区12Ｓ-51グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI002、SK015を切る。北西側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.52）m、副軸（4.12）m、確認面からの深度0.67 m。**形態：**方形。南西壁がやや不定形である。**主軸方位：**Ｎ-30°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが５基検出された。周溝は全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北側がわずかに硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。

所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。床面から甕（３）が出土している。

遺物：土器3,489.7gが出土した。

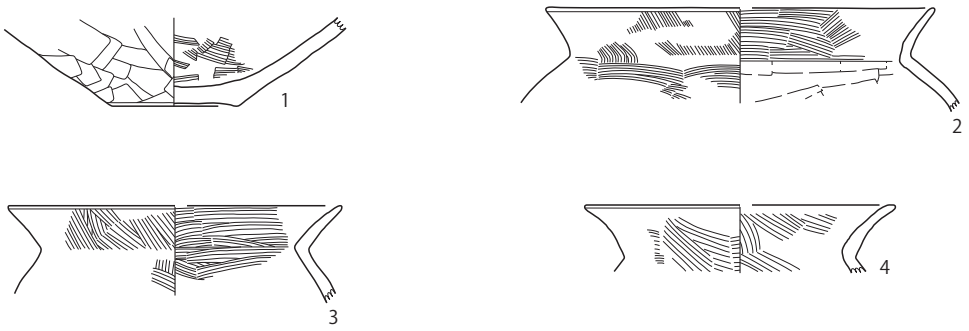
１は壺、２～４は甕である。甕は３点とも頸部が「く」の字形に屈曲している。



1	黒褐色土(10YR2/2)	ロームブロックφ5mm、炭化物φ3mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ30mm中量、焼土ブロックφ3mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
3	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。P2。
4	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。P3。
5	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

第420図　SI083



0　10cm
（1／4）

第421図　SI083出土遺物

第137表　SI083出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 壺	覆土中層	口　径：　－ 底　径：　6.6 器　高：　[4.7] 最大径：　－	外面：底部ヘラケズリ 内面：底部ハケメ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：底部の破片	
2	土師器 甕	覆土中層	口　径：(20.4) 底　径：　－ 器　高：　[5.5] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ハケメ 内面：口縁部ハケメ、頸部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の破片	
3	土師器 甕	床面	口　径：(17.4) 底　径：　－ 器　高：　[5.2] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ハケメ 内面：口縁部～頸部ハケメ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の破片	
4	土師器 甕	覆土下層	口　径：(16.0) 底　径：　－ 器　高：　[3.6] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ハケメ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～頸部の破片	

SI084（第422～424図、第138表、図版57・98）

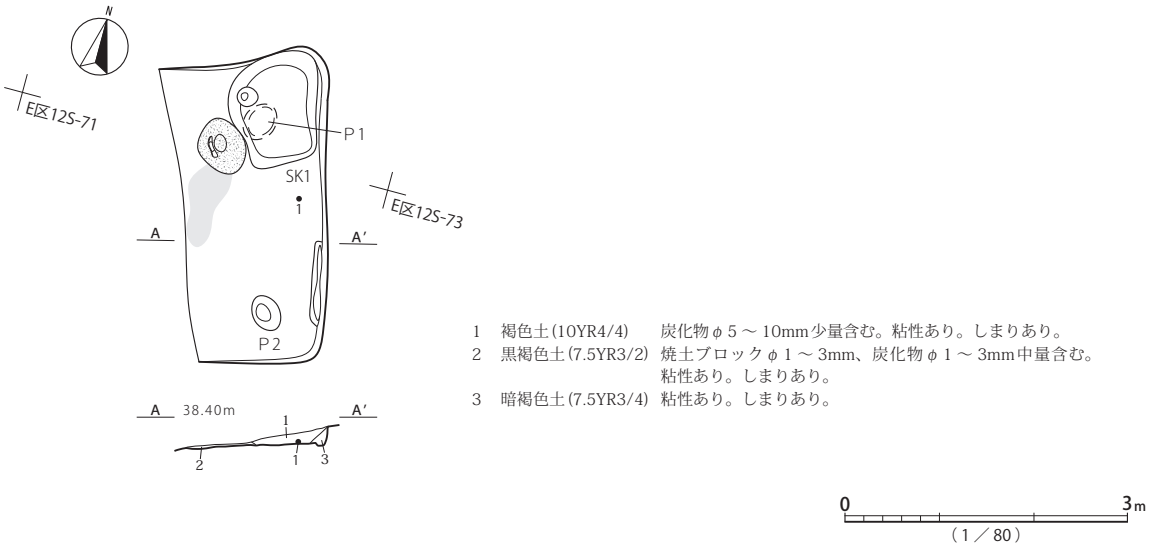
位置：Ｅ区12Ｓ-72グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI002・SI003を切る。**規模：**主軸3.36ｍ、副軸（1.80）ｍ、確認面からの深度0.29ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-15°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.60ｍ、短軸0.44ｍで浅く窪む。燃焼面の直上から、枕石と思われる棒状礫が出土している。**施設：**ピット２基、土坑１基が検出された。周溝は東壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周辺がわずかに硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期０段階（４世紀後葉）と考えられる。

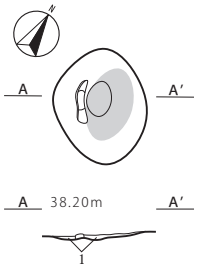
所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から甕（１）が出土している。SK1はＰ１に先行しており、本遺構に伴わない可能性も考えられる。

遺物：土器819.5gが出土した。

１は頸部が「く」の字形に屈曲する。



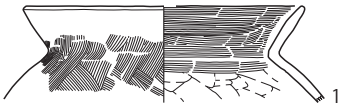
第422図　SI084



1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ１～３mm中量含む。
　　粘性あり。しまりあり。

0　1m
（１／40）

第423図　SI084炉



0　10cm
（１／４）

第424図　SI084出土遺物

第138表　SI084出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	床面	口　径：(14.6) 底　径：　－ 器　高：　[5.1] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ 内面：口縁部～頸部ハケメ、胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の破片	

SI085（第425～427図、第139～141表、図版57・99・112・113）

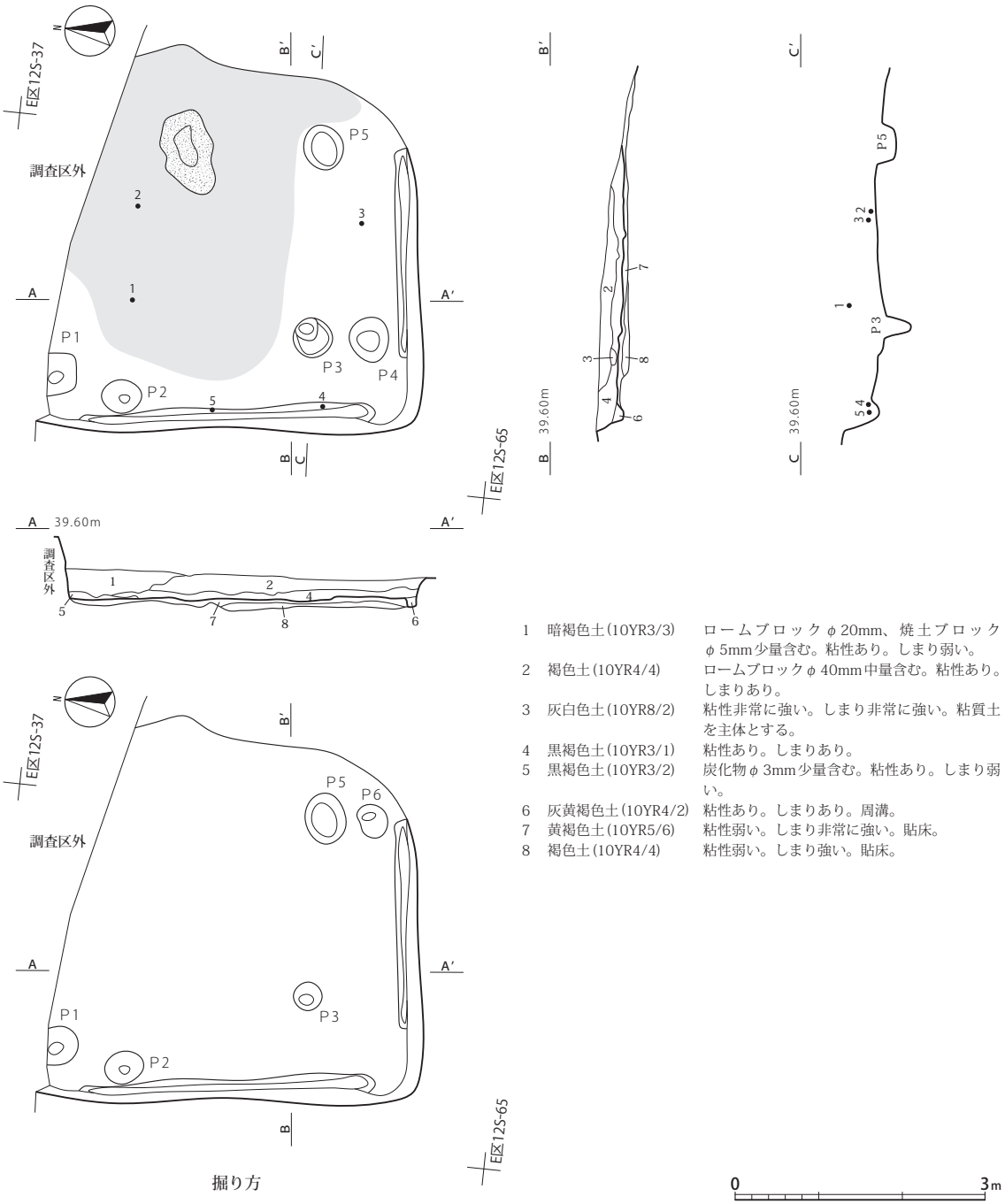
位置：Ｅ区12Ｓ-46グリッドを中心とする台地の東向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（4.66）m、副軸（4.52）m、確認面からの深度0.67m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-84°-Ｅ。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.00m、短軸0.68mで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。Ｐ３・Ｐ５は対称的な位置にあることから主柱穴の一部とみられ、柱間は2.20m。Ｐ１は長軸0.50m、短軸（0.34）mの貯蔵穴である。周溝は南壁と西壁で検出された。床面は掘り方に褐色系の土を敷き詰め、その上面を床としており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、貯蔵穴、周溝が検出された。周溝内から砥石（４）、磨＋敲石（５）が、床面から広口壺（２）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器2,435.3g、土製品81.3g、石器・石製品294.30gが出土した。

１・２はともに土師器の広口壺である。１は内外面にハケメ調整が施され、２はヘラミガキ、赤彩が施される。３は土錘である。球形で、上下は狭い平坦面があり、指頭圧痕がみられる。４は流紋岩製の砥石である。砥面は５面あり、正面中央に刃物痕がみられる。５は砂岩製の磨＋敲石である。表裏は研磨され平滑である。両側縁と上縁はよく敲打されている。

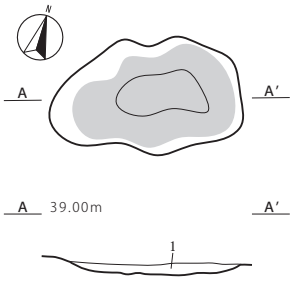


1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ20mm、焼土ブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ40mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰白色土(10YR8/2)　粘性非常に強い。しまり非常に強い。粘質土を主体とする。
4　黒褐色土(10YR3/1)　粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。しまりあり。周溝。
7　黄褐色土(10YR5/6)　粘性弱い。しまり非常に強い。貼床。
8　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまり強い。貼床。

掘り方

0　3m
(1／80)

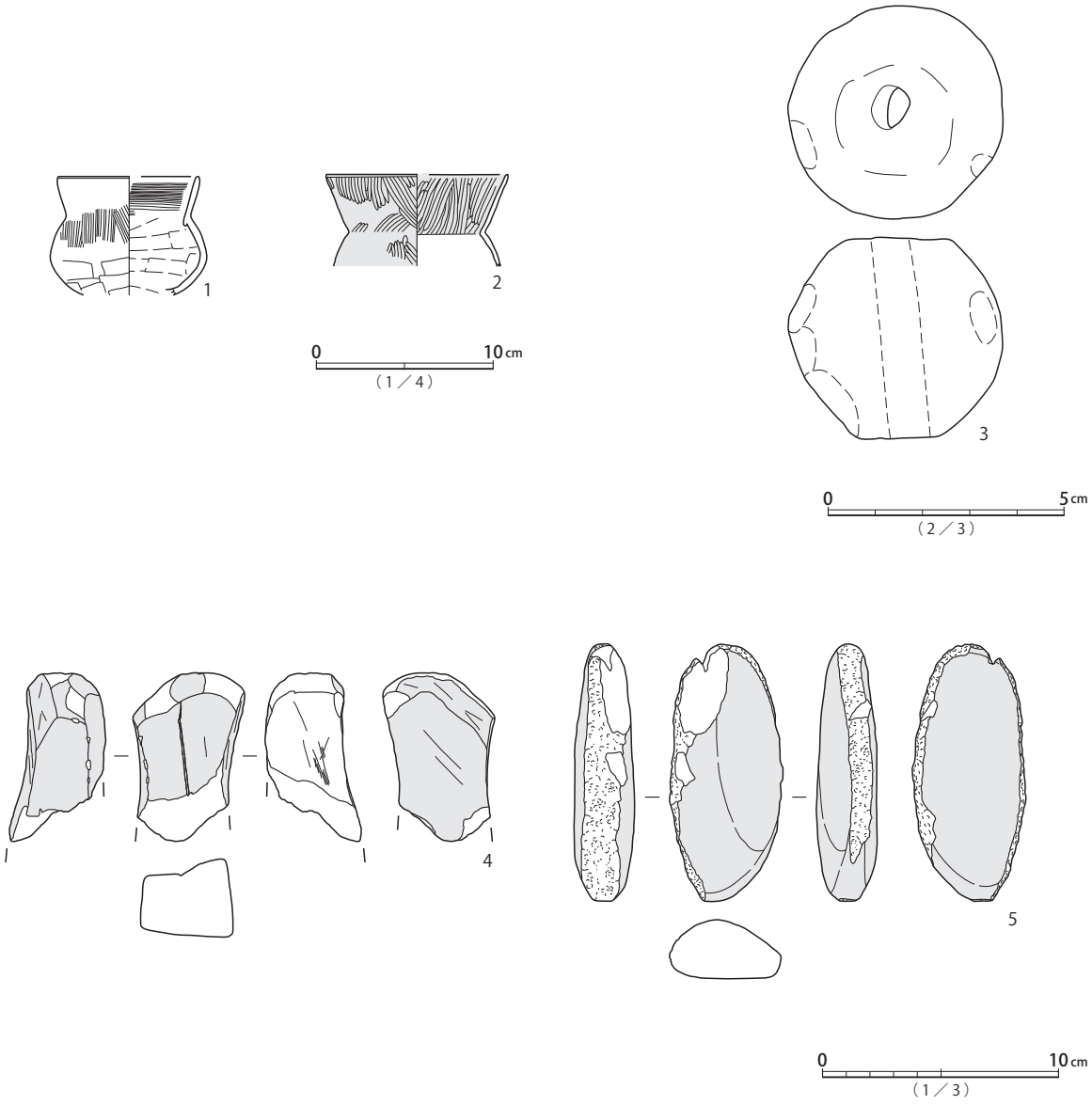
第425図　SI085



1　赤褐色土(2.5YR4/8)　焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
(1／40)

第426図　SI085炉



第427図　SI085出土遺物

第139表　SI085出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 広口壺	覆土上層	口　径：(7.8) 底　径：－ 器　高：[6.7] 最大径：(8.8)	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラケズリ 内面：口縁部ハケメ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/4	
2	土師器 広口壺	床面	口　径：(10.1) 底　径：－ 器　高：[5.2] 最大径：－	外面：口縁部～胴部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ、赤彩、頸部～胴部ナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/4	

第140表　SI085出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
3	土錘	覆土下層	直径：4.6　厚さ：4.5　孔径：1.0	81.3	球形

第141表　SI085出土石器・石製品観察表

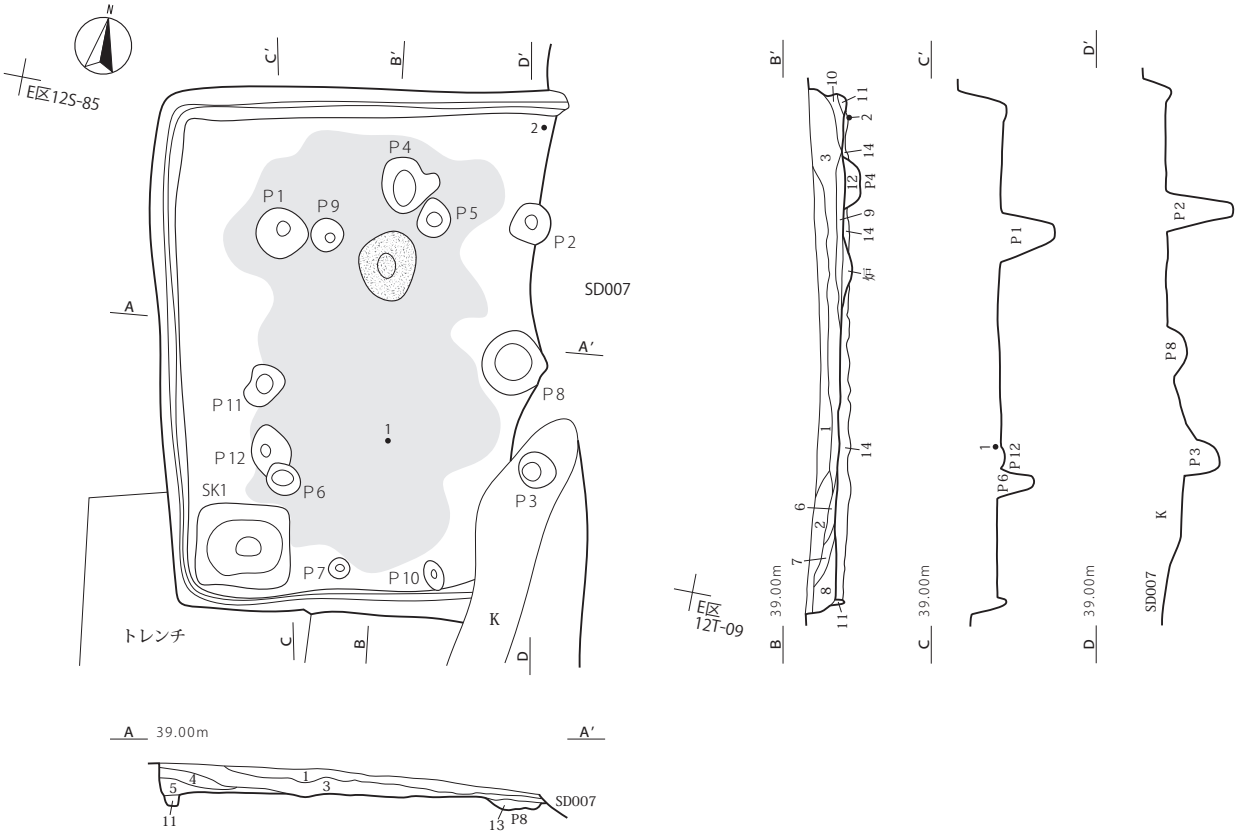
単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
4	砥石	流紋岩	周溝中層	[7.10]	[3.30]	[3.20]	126.60	砥面：表・裏・右・左・上各1面、刃物痕
5	磨+敲石	砂岩	周溝中層	10.80	4.70	2.40	167.70	磨：表・裏各1面、敲：周縁

SI086（第428～430図、第142表、図版58・99）

位置：Ｅ区12Ｓ-87グリッドを中心とする台地の東向き斜面に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**主軸5.68ｍ、副軸（4.44）ｍ、確認面からの深度0.60ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-11°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.72ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピット12基、土坑１基が検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３・Ｐ６で、柱間は主軸方向2.64ｍ、副軸方向2.72ｍ。Ｐ７・Ｐ10は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。SK1は貯蔵穴である。平面形態は長方形で長軸1.01ｍ、短軸0.88ｍ、テラス状に一段下がって、さらに楕円形の掘り込みになる。周溝は残存部分を全周する。床面は掘り方に黄褐色系の土を敷き詰め、その上面を床としており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm、炭化物φ3mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ50mm多量、炭化物φ3mm少量含む。粘性強い。しまりあり。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
6　暗褐色土(10YR3/6)　焼土含む。粘性非常に弱い。しまり強い。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。
8　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱い。しまりあり。
9　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
10　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
11　褐灰色土(10YR4/1)　炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。
12　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性あり。しまり強い。P4。
13　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物φ3mm少量含む。粘性強い。しまり強い。P8。
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまり非常に強い。貼床。

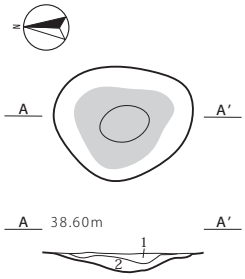
0　3m
（1／80）

第428図　SI086

所見：炉、主柱穴、貯蔵穴、周溝が検出された。床面から器台（１）、炉器台（２）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器3,824.9g、土製品25.0gが出土した。

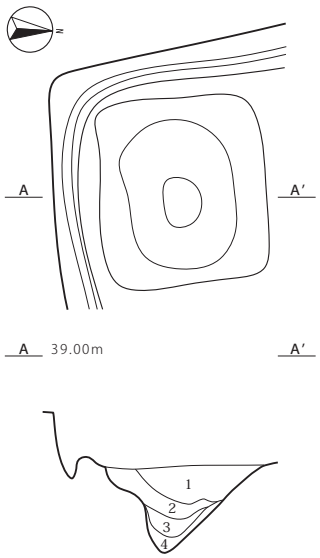
１は器台、２は炉器台である。１の円形透かしは三箇所に施される。



1　極暗赤褐色土(7.5R2/2)　炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　赤褐色土(2.5YR4/8)　焼土含む。粘性弱い。しまり非常に強い。

0　1m
（1／40）

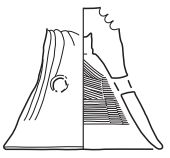
第429図　SI086炉

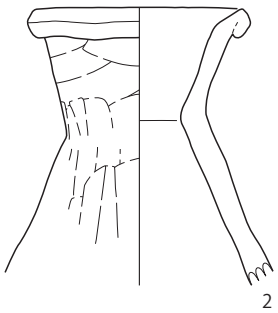


1　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　明黄褐色土(10YR6/6)　粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第430図　SI086SK1





0　10cm
（1／4）

第431図　SI086出土遺物

第142表　SI086出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 器台	床面	口　径：　－ 脚　径：　(8.2) 器　高：　[7.5] 最大径：　－	特徴：脚部に円形の透かし３箇所あり 外面：脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ・ハケメ、裾部ヨコナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部の1/3	
2	土師器 炉器台	床面	口　径：　11.0 脚　径：　－ 器　高：[14.7] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ・ヘラナデ、脚部ヘラナデ縦位 内面：口縁部ヨコナデ、器受部～脚部ナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～脚部の1/3	

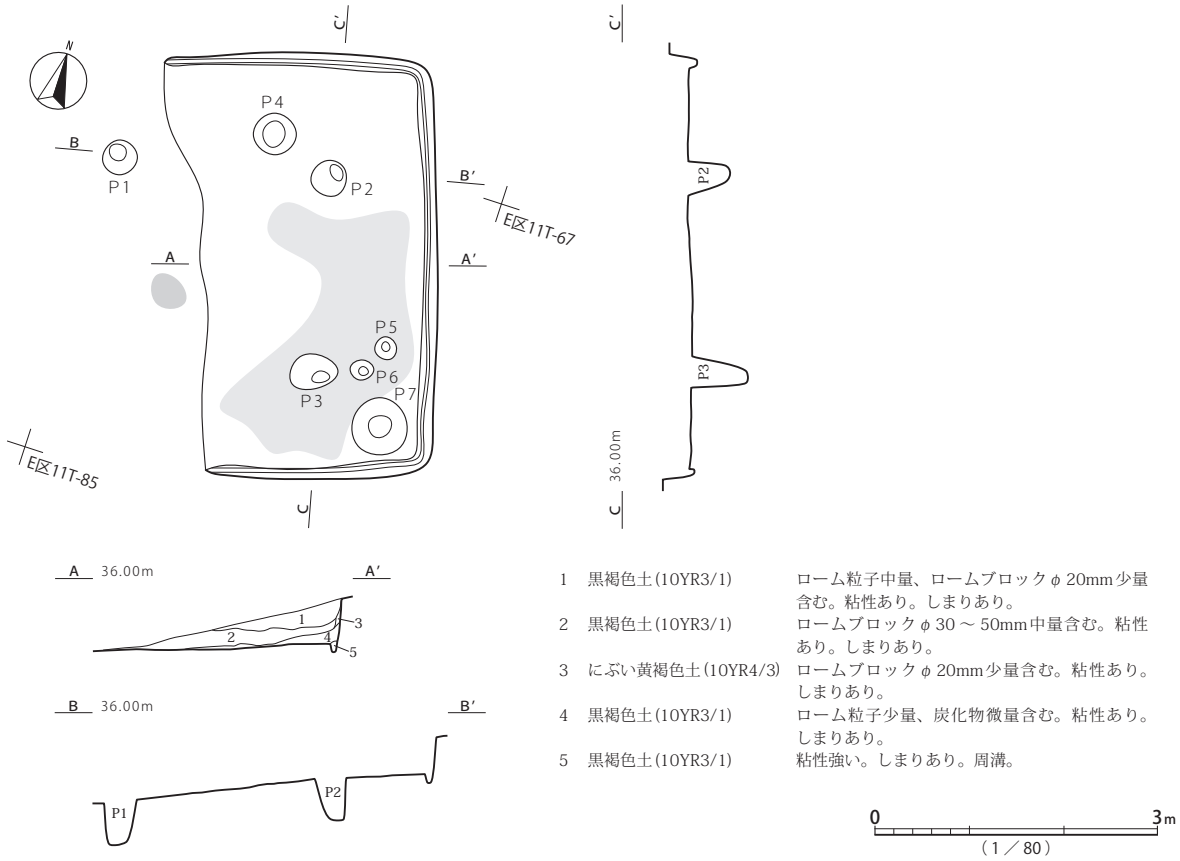
SI087（第432図、図版58）

位置：Ｅ区11Ｔ-65グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.52ｍ、副軸（3.56）ｍ、確認面からの深度0.69ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-18°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸方向2.20ｍ、副軸方向2.32ｍ。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、南東隅が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、５～６世紀代と推測される。

所見：主柱穴、周溝が検出されたが、炉は検出されなかった。Ｐ１は床面の残存範囲外だが、配置から主柱穴と考えた。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。

遺物：土器646.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第432図　SI087

SI088（第433・434図、第143表、図版58・99）

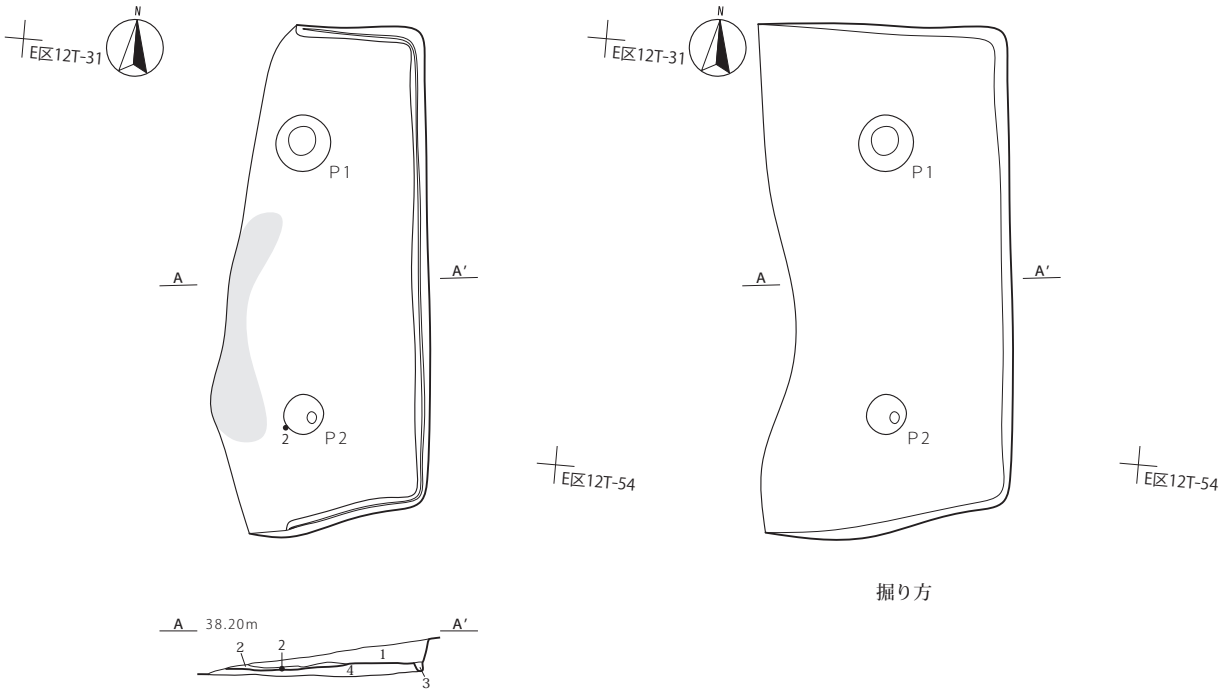
位置：Ｅ区12Ｔ-42グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI008を切る。**規模：**主軸（5.44）ｍ、副軸（2.32）ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-５°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は2.96ｍ。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方にロームブロックを含む褐色の砂質シルトを敷き詰め、その上面を床としている。中央付近がわずかに硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、５世紀代以降と考えられる。

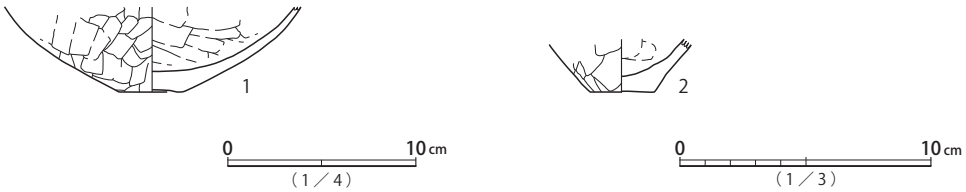
所見：主柱穴、周溝が検出されたが、炉は検出されなかった。

遺物：土器876.9gが出土した。

１は壺、２はミニチュア壺である。



第433図　SI088



第434図　SI088出土遺物

第143表　SI088出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　(3.4) 器　高：　[4.5] 最大径：　－	外面：胴部～底部ヘラケズリ後ヘラナデ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の破片	内外面煤付着
2	土師器 ミニチュア 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　2.6 器　高：　[2.1] 最大径：　－	外面：胴部～底部ヘラケズリ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/2	内外面煤付着

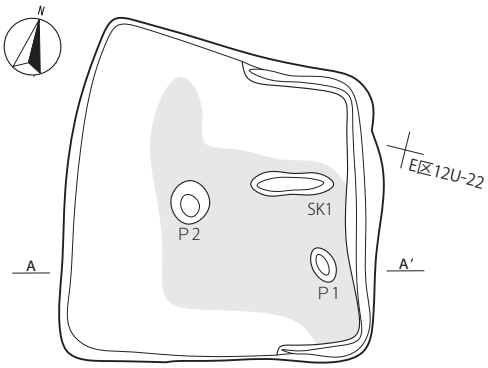
SI089（第435図、図版58）

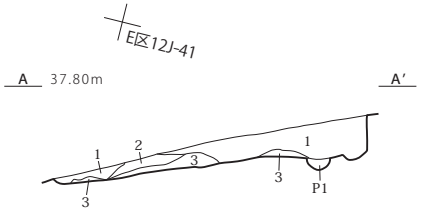
位置：Ｅ区12Ｕ-21グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI015を切る。**規模：**主軸3.64ｍ、副軸3.44ｍ、確認面からの深度0.74ｍ。**形態：**方形。谷方向にややハの字に開く。**主軸方位：**Ｎ-14°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット２基、土坑１基が検出された。周溝は北東隅から南東隅にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、５世紀代と考えられる。

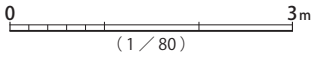
所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器3,320.0gが出土したが、小破片のため図示していない。





1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ５～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ１～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。



第435図　SI089

SI090（第436・437図、第144表、図版58・99）

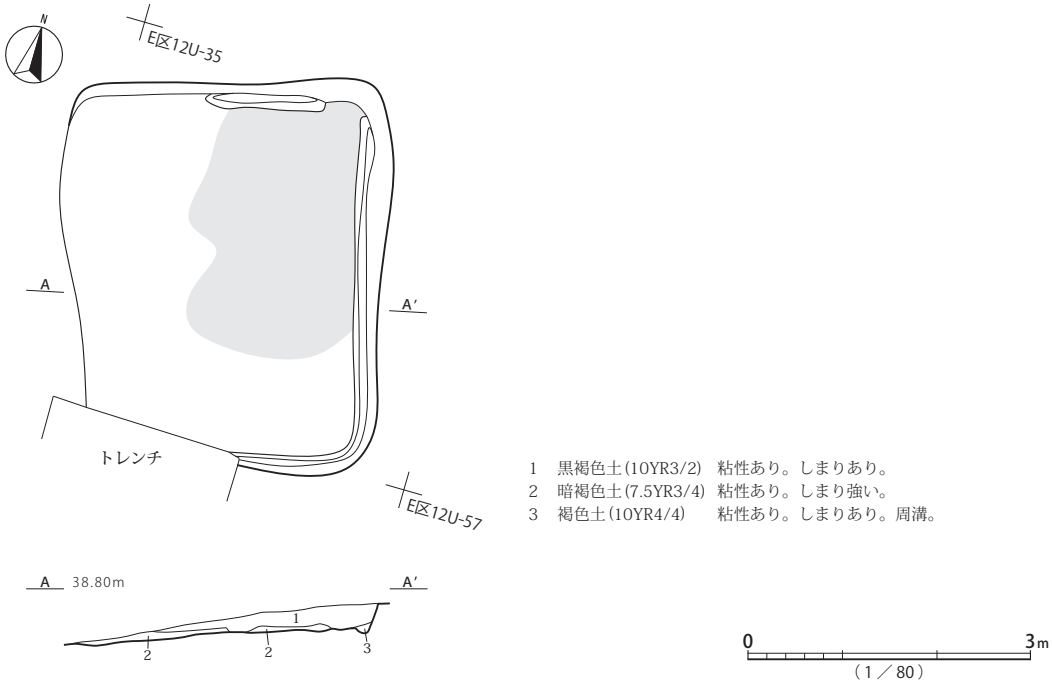
位置：Ｅ区12Ｕ-45グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.20ｍ、副軸（3.52）ｍ、確認面からの深度0.53ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-16°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は北東隅から南東隅にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北東側のやや広い範囲が硬化している。

時期：遺物や竪穴建物の形態から、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

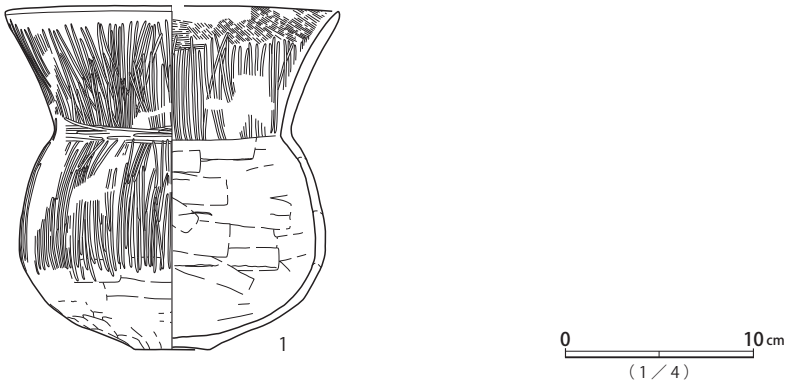
所見：周溝が検出されたが、主柱穴、炉は検出されなかった。

遺物：土器2,851.6g、石器・石製品4.00gが出土した。

１の外面は口縁部から胴上部にかけて、内面は口縁部にヘラミガキが施される。



第436図　SI090



第437図　SI090出土遺物

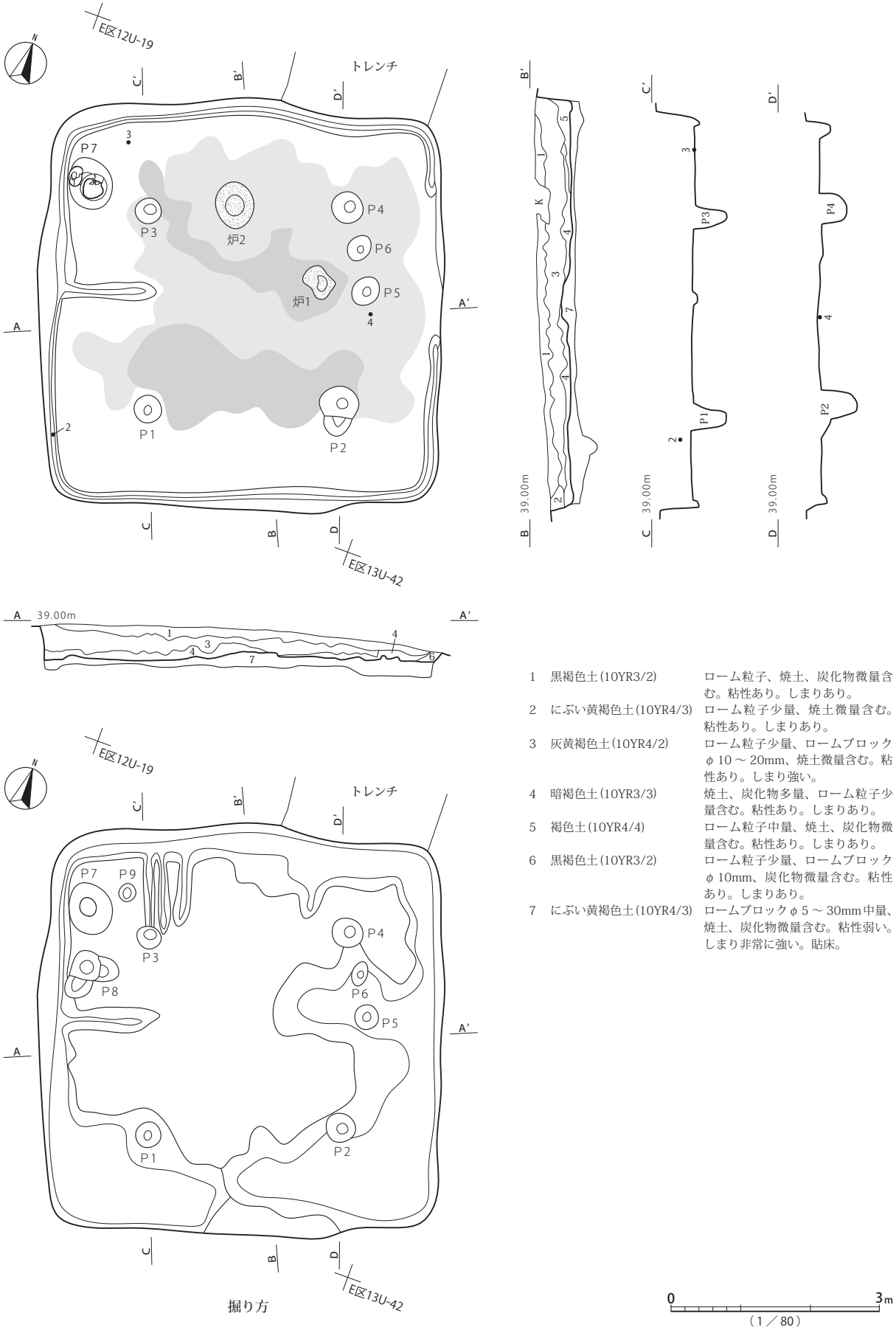
第144表　SI090出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 広口壺	覆土上層	口　径：(17.6) 底　径：　4.0 器　高：18.2 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラミガキ、底部ヘラナデ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	

SI091（第438～443図、第145・146表、図版58・99・112）

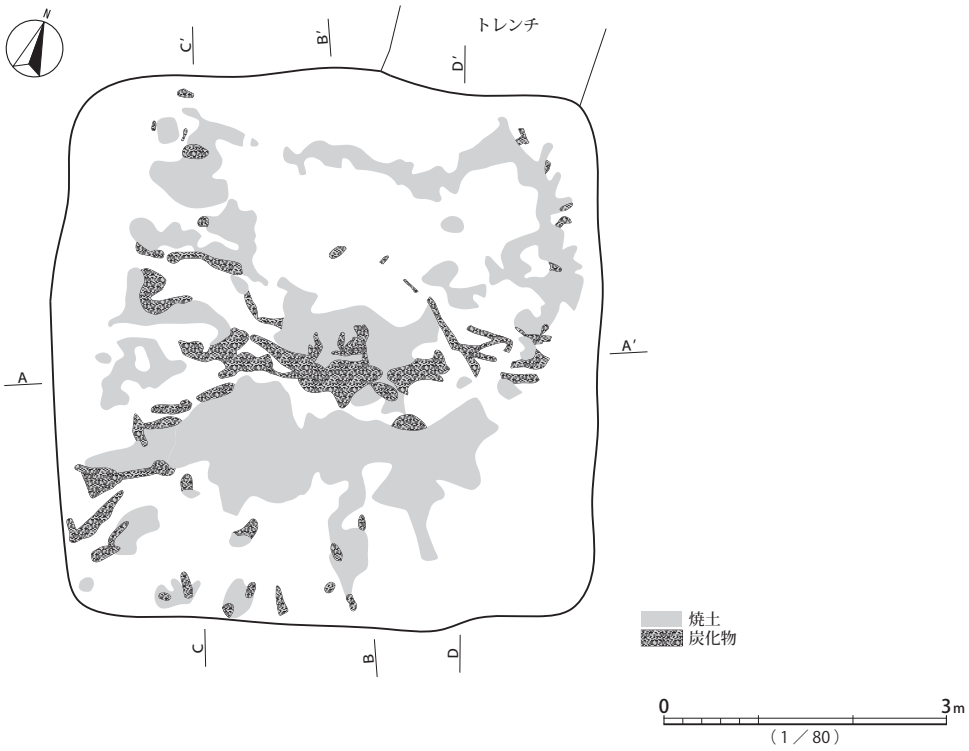
位置：Ｅ区13Ｕ-20グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸5.96ｍ、副軸5.84ｍ、確認面からの深度0.61ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-20°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北東寄りと北西寄りに位置する。炉１は長軸0.52ｍ、短軸0.44ｍ、炉２は長軸0.68ｍ、短軸0.56ｍでともに浅く窪む。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主・副軸方向ともに2.84ｍ。Ｐ７は長軸0.76ｍ、短軸0.64ｍの貯蔵穴である。間仕切り溝が西壁側で検出された。副軸方向に長さ約1.32ｍでＰ１・Ｐ３の間に位置する。周溝はほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



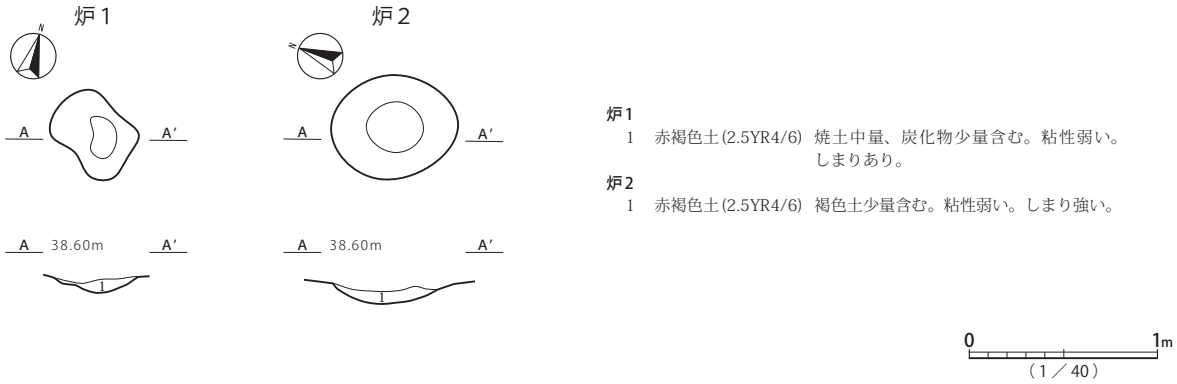
1	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量、ロームブロックφ10～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	焼土、炭化物多量、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子少量、ロームブロックφ10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ5～30mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり非常に強い。貼床。

0　3m
（1／80）

第438図　SI091



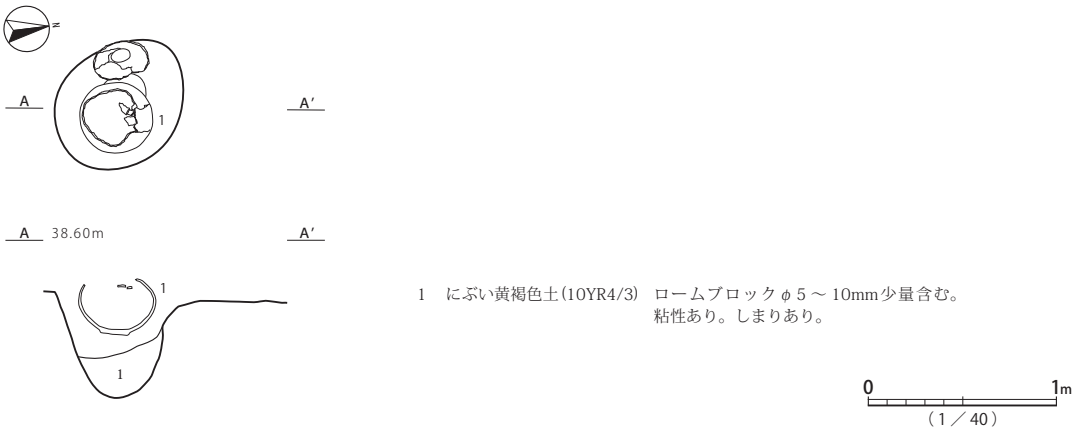
第439図　SI091焼土・炭化物検出状況



炉1
1　赤褐色土(2.5YR4/6)　焼土中量、炭化物少量含む。粘性弱い。しまりあり。

炉2
1　赤褐色土(2.5YR4/6)　褐色土少量含む。粘性弱い。しまり強い。

第440図　SI091炉１・炉２



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

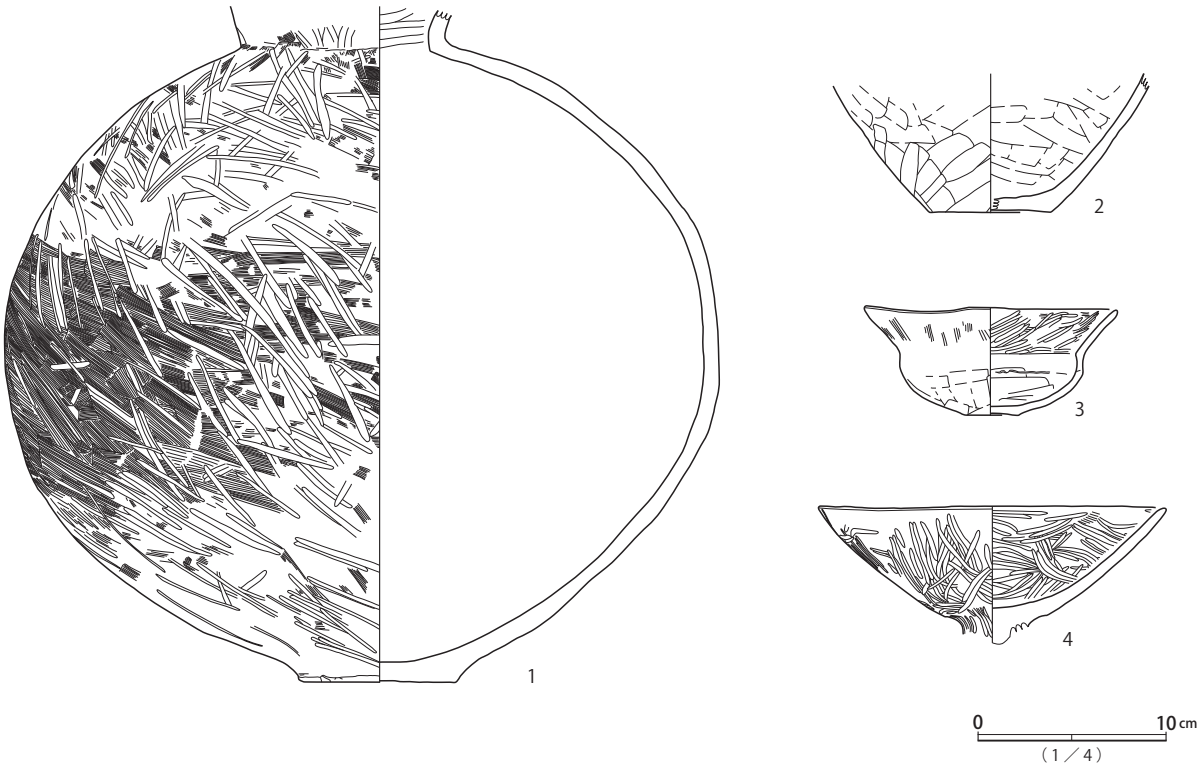
第441図　SI091P7遺物出土状況

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、貯蔵穴、間仕切溝、周溝が検出された。覆土は炭化物や焼土を含み、床面からは建材とみられる炭化木材も検出された。床面も被熱し、ところどころ赤化・硬化していることから、焼却・焼失した建物と考えられる。床面から鉢（３）、高坏（４）、Ｐ１から丸玉（５）、Ｐ７から壺（１）が出土している。

遺物：土器11,172.3g、土製品36.4gが出土した。

１は壺、２は甕、３は鉢、４は高坏である。１は球胴形で、ハケメ調整ののちに粗いヘラミガキが施される。５は土製丸玉である。指頭による調整痕がみられる。

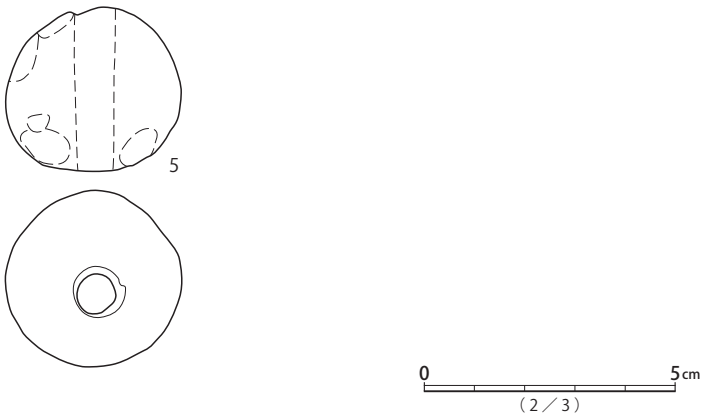


第442図　SI091出土遺物（１）

第145表　SI091出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 壺	P7覆土	口　径：　－ 底　径：　8.2 器　高：[35.5] 最大径：37.9	特徴：球胴形 外面：頸部～底部ハケメ後ナデ・ヘラミガキ 内面：頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：砂粒・黒色粒・石英・海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部欠損、頸部～底部完存	外面胴上部～下部煤付着
2	土師器 甕	覆土下層	口　径：　－ 底　径：(6.4) 器　高：[7.3] 最大径：　－	外面：胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の破片	
3	土師器 鉢	床面	口　径：13.2 底　径：2.9 器　高：5.8 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ後ナデ、体部～底部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ハケメ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
4	土師器 高坏	床面	口　径：18.3 脚　径：　－ 器　高：[7.3] 最大径：　－	外面：口縁部～接合部ヘラミガキ 内面：坏部ハケメ後ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	



第443図　SI091出土遺物（２）

第146表　SI091出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
5	丸玉	P1覆土	直径：3.5　厚さ：3.3　孔径：0.8	36.4	球形

SI092（第444・446図、第147表、図版59・99）

位置：Ｅ区12Ｖ-03グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI093を切る。**規模：**主軸4.80ｍ、副軸4.08ｍ、確認面からの深度0.78ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-23°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、４世紀代と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,237.8gが出土した。

１は甕、２は甑である。１は口縁部にハケメ調整を残し、頸部はくの字に屈曲する。肩部はヘラナデ調整される。

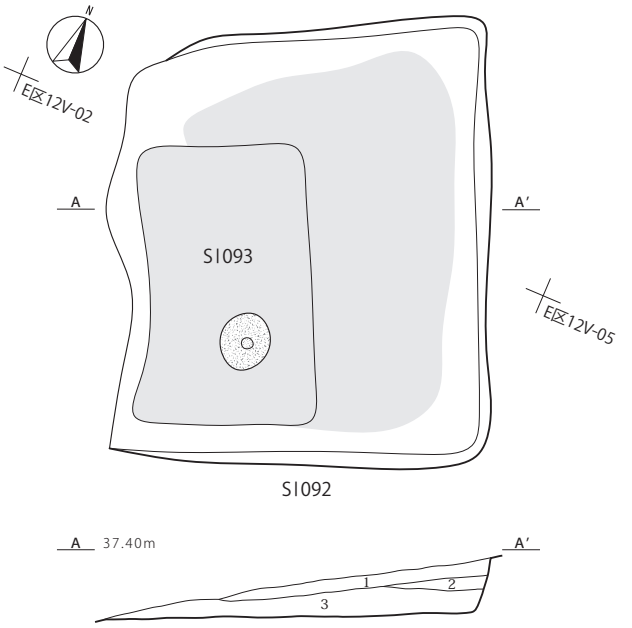
SI093（第444・445図）

位置：Ｅ区12Ｖ-03グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI092に切られる。**規模：**北西－南東方向を主軸と推定し（3.00）ｍ、副軸（1.96）ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-26°-Ｗ。**炉：**竪穴中央南東寄りに位置する。長軸0.60ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、４世紀代と考えられる。

所見：SI092床面上で明らかに別遺構とみられる長方形の硬化範囲を検出したため、重複する別の建物と判断した。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

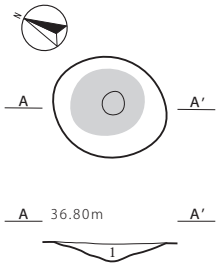
遺物：出土していない。



SI092
1　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第444図　SI092・SI093



1　黒褐色土(10YR3/1)　焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第445図　SI093炉



0　10cm
（1／4）

第446図　SI092出土遺物

第147表　SI092出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	覆土上層	口　径：13.3 底　径：－ 器　高：[5.4] 最大径：－	外面：口縁部ハケメ、頸部～肩部ヘラナデ 内面：口縁部ハケメ、頸部ヘラナデ、肩部ナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～肩部の3/4	外面煤付着
2	土師器 甑	覆土下層	口　径：(18.6) 底　径：－ 器　高：[6.8] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、端部弱い押圧、口縁部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部の1/3	

SI094（第447 ～ 449図、第148表、図版59・99）

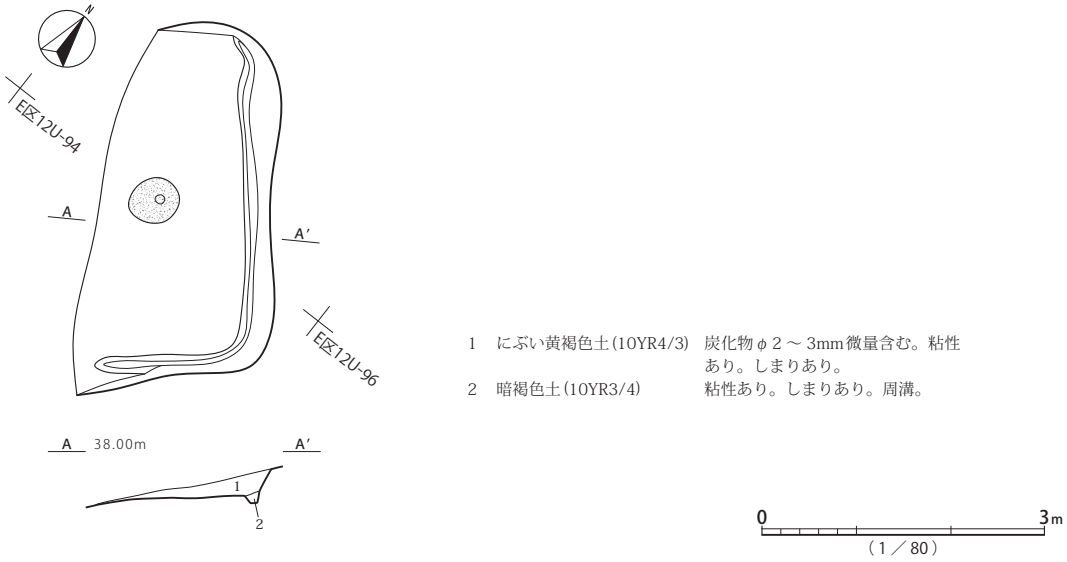
位置：Ｅ区12Ｕ-95グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（3.96）m、副軸（2.20）m、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-38°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.56ｍ、短軸0.48ｍで浅く窪む。**施設：**周溝は残存する東壁と南壁で検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

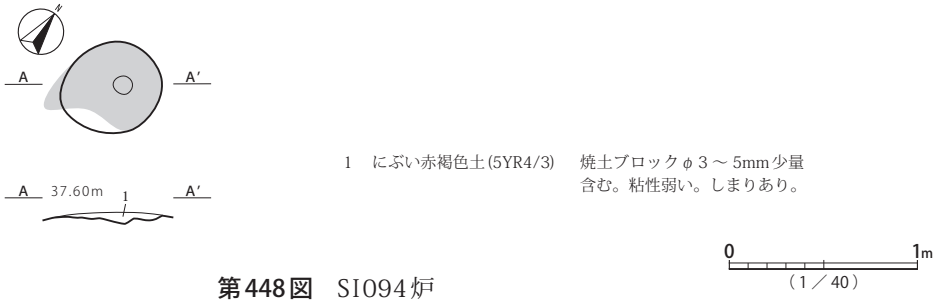
所見：炉、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。

遺物：土器680.7gが出土した。

１は広口壺で、２は甕とした。１は折り返し口縁をもち、内外面にヘラミガキが施される。２は内外面にハケメ調整が施される。



第447図　SI094



第448図　SI094炉



第449図　SI094出土遺物

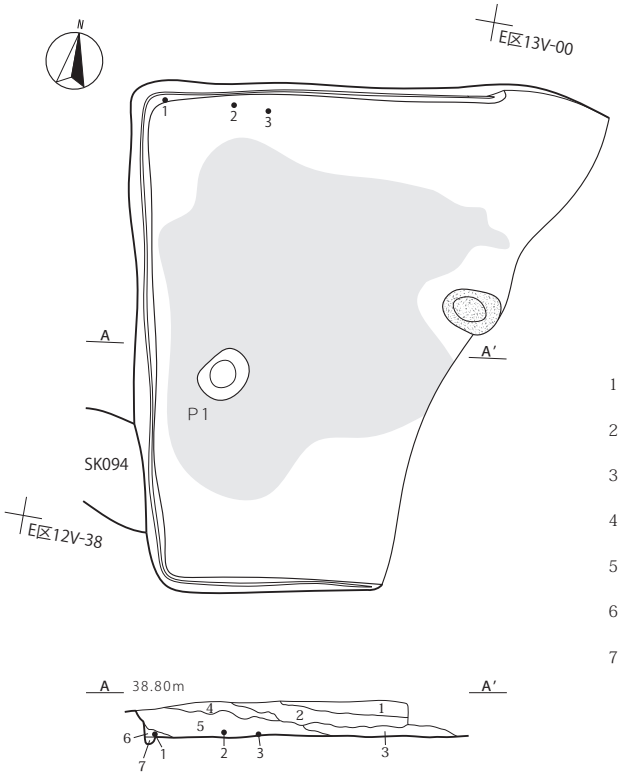
第148表　SI094出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 広口壺	覆土	口　径：(14.9) 底　径：　－ 器　高：　[6.4] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヘラミガキ横位、頸部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、肩部ナデ	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～肩部の1/3	
2	土師器 甕	覆土	口　径：(17.6) 底　径：　－ 器　高：　[3.1] 最大径：　－	外面：口唇部ハケメ、口縁部ヨコナデ・ハケメ 内面：口縁部ハケメ横位	胎　土：砂粒・石英・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：灰褐 残存度：口縁部の破片	

SI095（第450～452図、第149表、図版59・99）

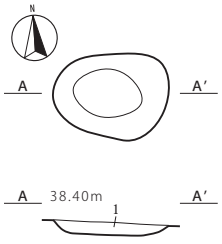
位置：E区12Ⅴ-19グリッドを中心とする台地の東向き斜面に位置する。**重複：**SK094・SK095に切られる。**規模：**主軸5.40m、副軸（5.08）m、確認面からの深度0.46m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-10°-W。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.60m、短軸0.48mで浅く窪む。**施設：**ピットが1基検出された。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性強い。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子多量、ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子多量、ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまり強い。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり弱い。周溝。

0　3m
（1／80）

第450図　SI095



1　灰褐色土(7.5YR4/2)　焼土少量、ロームブロックφ10mm、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

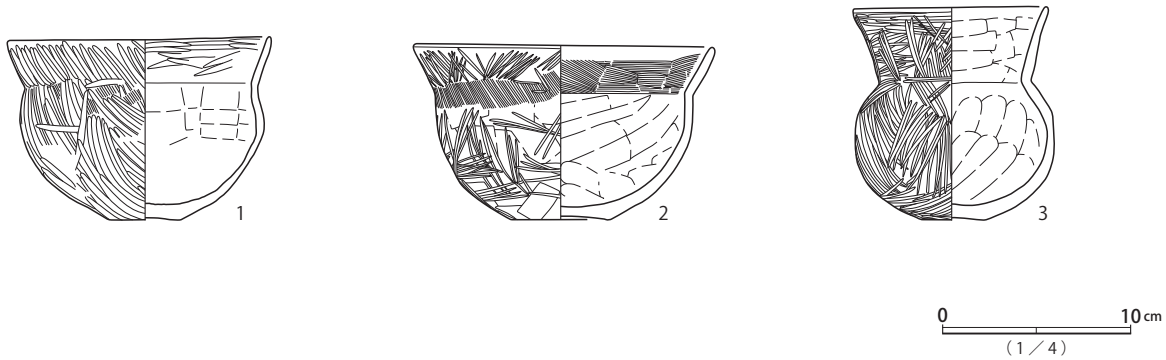
第451図　SI095炉

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：炉、周溝が検出されが、主柱穴は検出されなかった。北壁沿いの床面から鉢（２）、広口壺（３）、周溝から鉢（１）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,318.6g、土製品35.0gが出土した。

１・２は鉢である。３は広口壺とした。１は外面全面にヘラミガキが施され、２は口縁部の内外面にハケメ調整が残る。



第452図　SI095出土遺物

第149表　SI095出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	周溝	口　径：13.8 底　径：3.8 器　高：9.6 最大径：14.0	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
2	土師器 鉢	床面	口　径：15.7 底　径：5.2 器　高：9.2 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ハケメ体部ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明褐 残存度：口縁部～底部	
3	土師器 広口壺	床面	口　径：10.1 底　径：3.3 器　高：11.3 最大径：10.6	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：黄褐 残存度：口縁部～底部	

SI096（第453・454図、第150表、図版59・100）

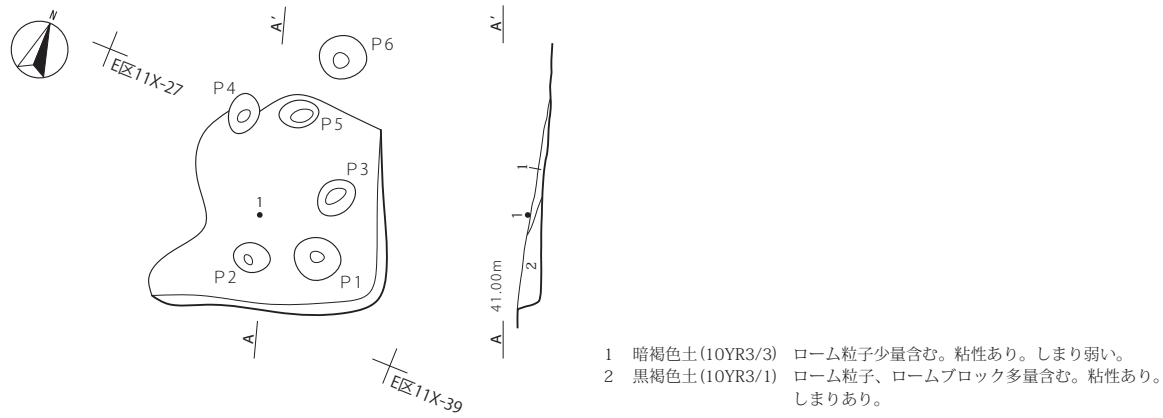
位置：Ｅ区11Ｘ-28グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸（2.98）m、副軸（2.54）m、確認面からの深度0.34ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-22°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが６基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。大半が消滅しているが、壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。周辺で多くのピットが検出されており、重複するピットを含んでいる可能性がある。

遺物：土器1,054.2gが出土した。

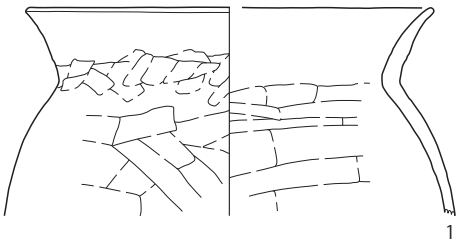
１は胴部にヘラナデ調整が施される。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第453図　SI096



0　10cm
（1／4）

第454図　SI096出土遺物

第150表　SI096出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	覆土下層	口　径：(21.2) 底　径：　－ 器　高：[11.0] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：不良 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

SI097（第455 ～ 457図、第151・152表、図版59・100・112）

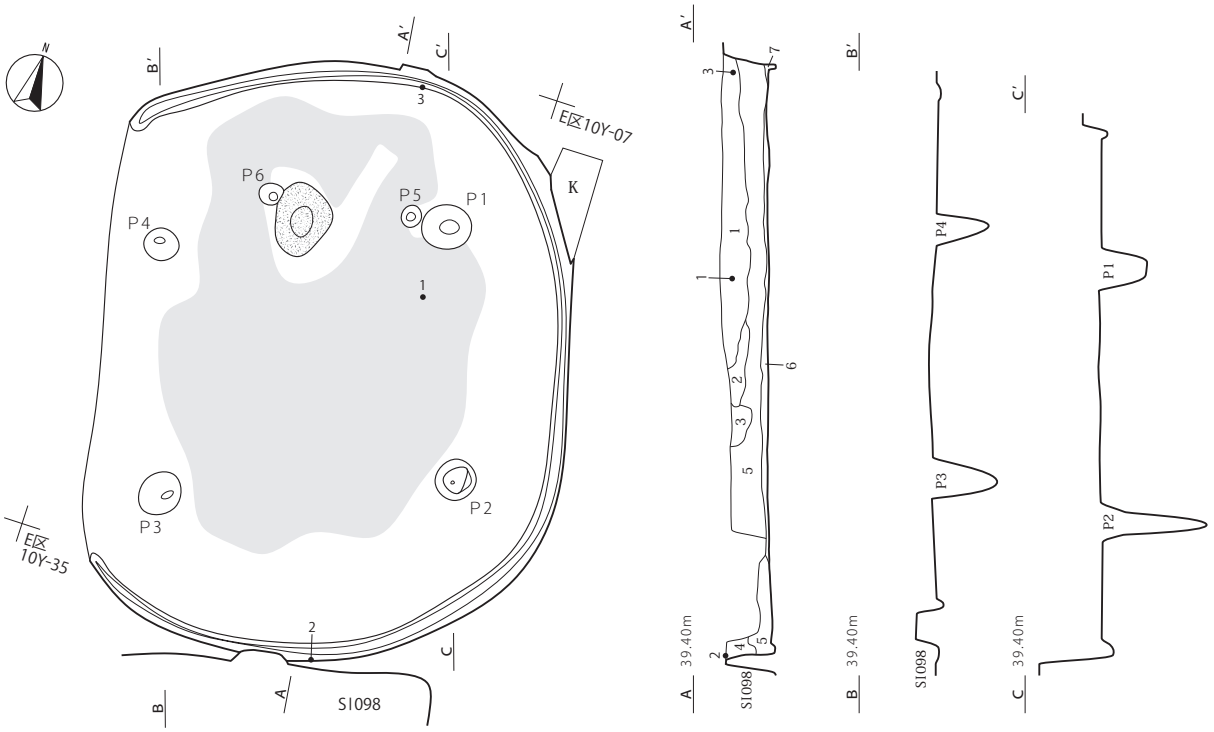
位置：E区10Y－16グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI099を切り、SI098に切られる。**規模：**主軸6.34ｍ、副軸（5.20）ｍ、確認面からの深度0.94ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**N－18°－W。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.60ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.64ｍ、副軸方向3.12ｍ。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から、古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。炉内から土製品（５）が出土している。

遺物：土器5,281.2g、土製品111.7gが出土した。

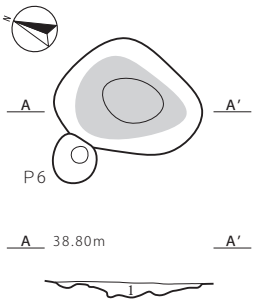
１・２は高坏、３は広口壺、４は土製紡錘車、５は用途不明の土製品である。１は内空、器壁は薄い柱状の脚部である。２は内空、柱状ではあるが器壁は厚手である。４は表裏両面にヘラミガキが施され、光沢がある。５は両端を欠損するが残存部は扁平な四角形である。炉内から出土しており、枕石のように用いられたとも考えられる。



1　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土ブロックφ10～15mm中量、焼土ブロックφ３～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ３～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまり弱い。
4　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱い。しまり弱い。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土ブロックφ３～5mm、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土ブロックφ３～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～15mm少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

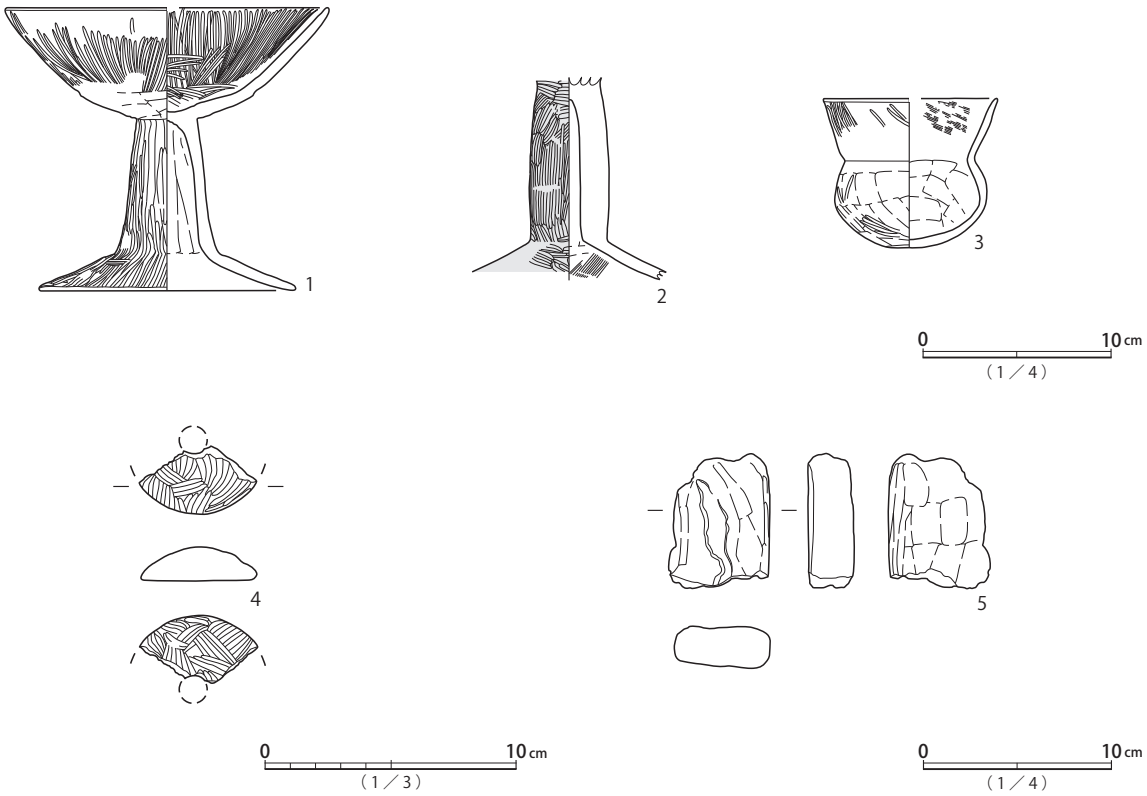
第455図　SI097



1　黒褐色土(10YR3/2)　焼土ブロックφ２～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第456図　SI097炉



第457図　SI097出土遺物

第151表　SI097出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土中層	口　径：(17.2) 脚　径：13.4 器　高：15.0 最大径：－	外面：坏部ヨコナデ後ヘラミガキ、接合部ヘラケズリ、脚部ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の4/5	
2	土師器 高坏	覆土上層	口　径：－ 脚　径：－ 器　高：[10.7] 最大径：－	外面：脚部ヘラミガキ、赤彩 内面：脚部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：脚部の破片	
3	土師器 広口壺	覆土中層	口　径：(9.2) 底　径：－ 器　高：7.9 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

第152表　SI097出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
4	紡錘車	覆土中層	直径：[4.5]　厚さ：[1.4]　孔径：-	11.8	
5	不明	炉	長さ：[7.1]　幅：[5.3]　厚さ：2.4	99.9	

SI098（第458 ～ 460図、第153表、図版59・60・100）

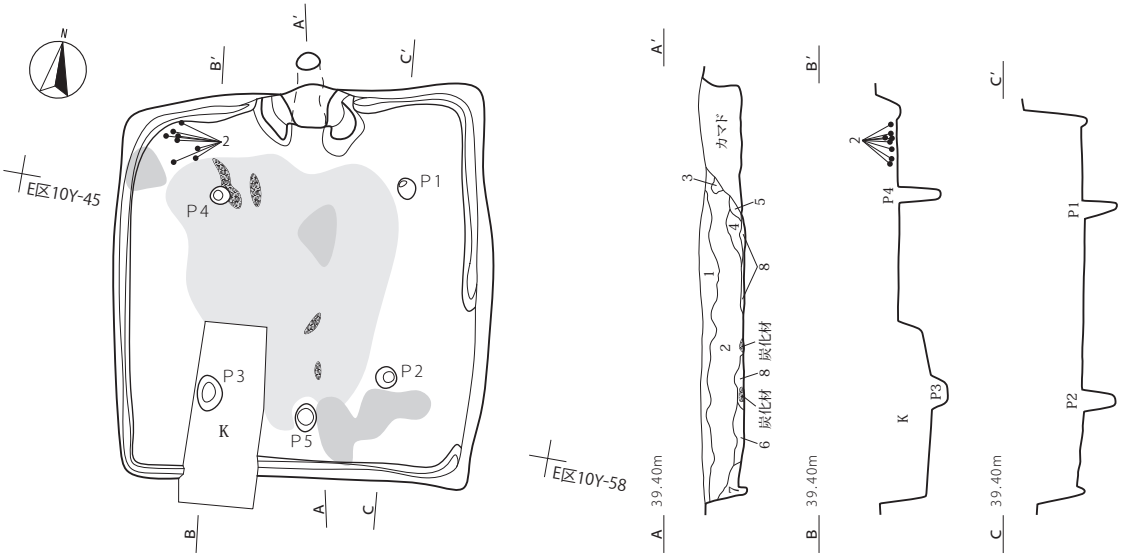
位置：Ｅ区10Ｙ-46グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI097・SI099を切る。南側の一部は撹乱される。**規模：**主軸4.64ｍ、副軸4.02ｍ、確認面からの深度0.79ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-10°-Ｗ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており天井部・煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道はトンネル状に遺存しており燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.44m突出する。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向1.96 ～ 2.12ｍ、副軸方向1.88 ～ 2.00ｍ。主柱穴は台形状に配置される。Ｐ５は主軸線上、カマドの対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝はカマドと東壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。覆土の下層から床面にかけて、多量の炭化物と焼土、上屋の建材とみられる炭化木材を検出したことから、焼却・焼失した建物と考えられる。覆土は多量のロームブロックを含むことから、人為的な埋め戻しが行われたと考えられる。

遺物：土器8,832.2g、須恵器15.0g、金属製品0.60gが出土した。

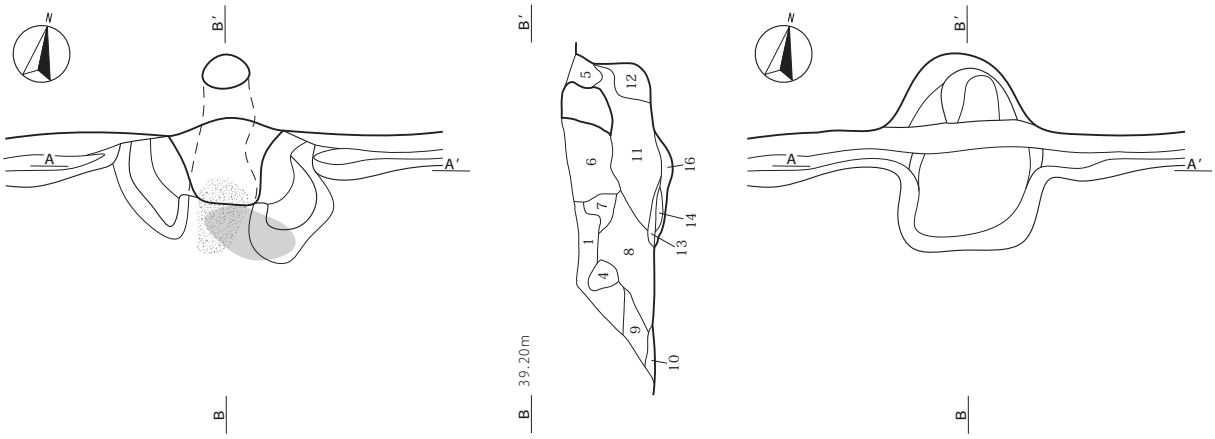
１は甕、２は甑である。２は胴下半が直線的に狭くなっている。

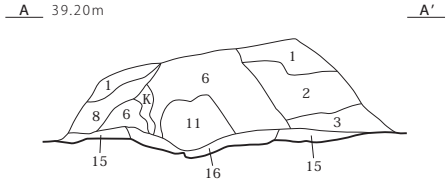


1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10 ～ 70mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5 ～ 80mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　淡黄色砂(2.5Y8/3)　粘性あり。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5 ～ 10mm、炭化物φ5 ～ 10mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　山砂φ3 ～ 5mm、炭化物多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5 ～ 30mm、焼土ブロックφ5 ～ 10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10 ～ 70mm含む。粘性弱い。しまり弱い。
8　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第458図　SI098

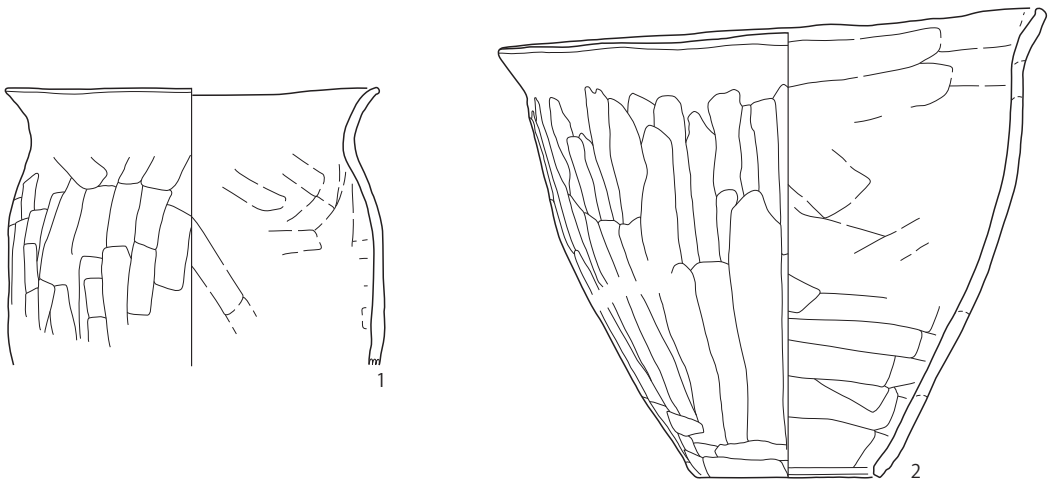




1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ５～80mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ５～10mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	淡黄色砂(2.5Y8/3)	粘性あり。しまり弱い。
5	暗褐色土(10YR3/4)	粘性弱い。しまり弱い。
6	にぶい黄色砂(2.5Y6/4)	粘性あり。しまりあり。カマド構築土。
7	暗褐色土(10YR3/4)	山砂φ１～３mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子中量、焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
9	灰黄褐色土(10YR4/2)	山砂φ３～５mm、炭化物多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
10	黒褐色土(10YR3/2)	炭化物多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
11	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土ブロックφ２～５mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
12	褐色土(10YR4/4)	炭化物φ３～５mm、焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
13	にぶい赤褐色土(5YR4/3)	粘性弱い。しまり弱い。
14	赤褐色土(5YR4/8)	焼土含む。粘性弱い。しまりあり。
15	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
16	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第459図　SI098カマド



0　10cm
（1／4）

第460図　SI098出土遺物

第153表　SI098出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	覆土	口　径：19.7 底　径：－ 器　高：[14.7] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の4/5	
2	土師器 甑	覆土下層	口　径：28.5 底　径：9.6 器　高：24.8 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラケズリ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の4/5	

SI099（第461・462図、第154・155表、図版60・100・113）

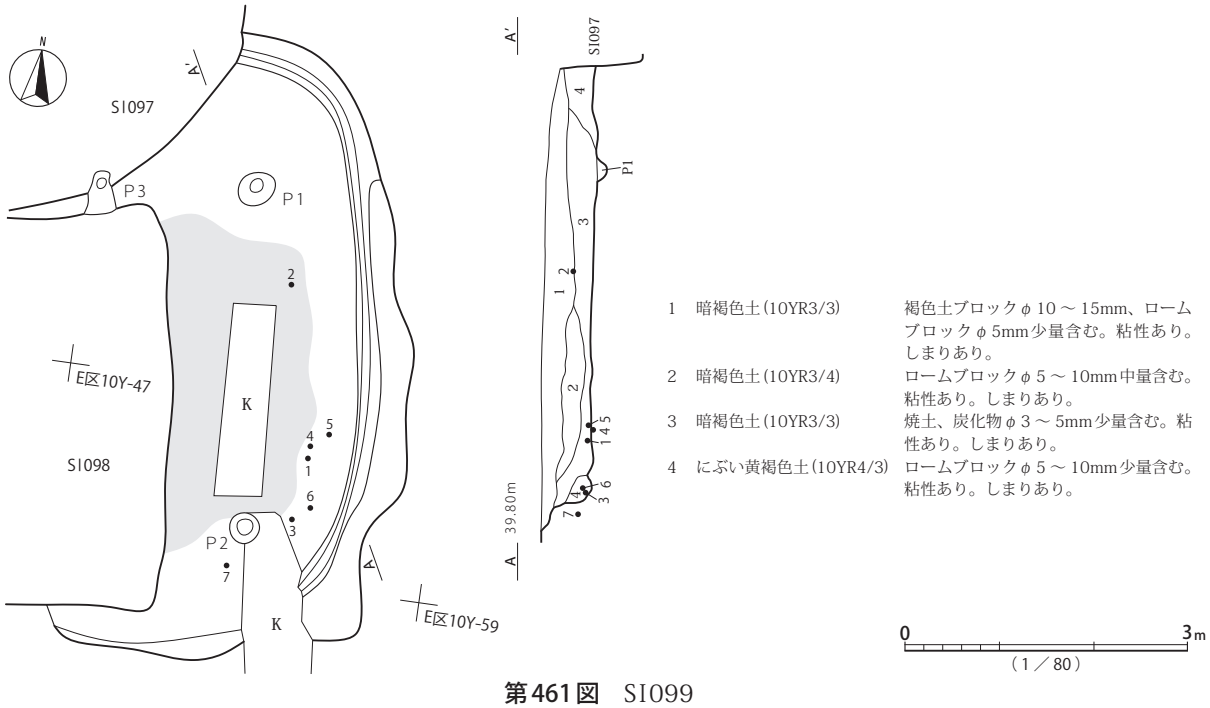
位置：Ｅ区10Ｙ-37グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI097・SI098に切られる。**規模：**主軸（6.64）m、副軸（3.96）m、確認面からの深度0.89ｍ。**形態：**小判形。尾根側の壁面は、崩落により変形する。**主軸方位：**Ｎ－８°－Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ１・Ｐ２は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は3.68ｍ。周溝は残存する東壁のみで検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

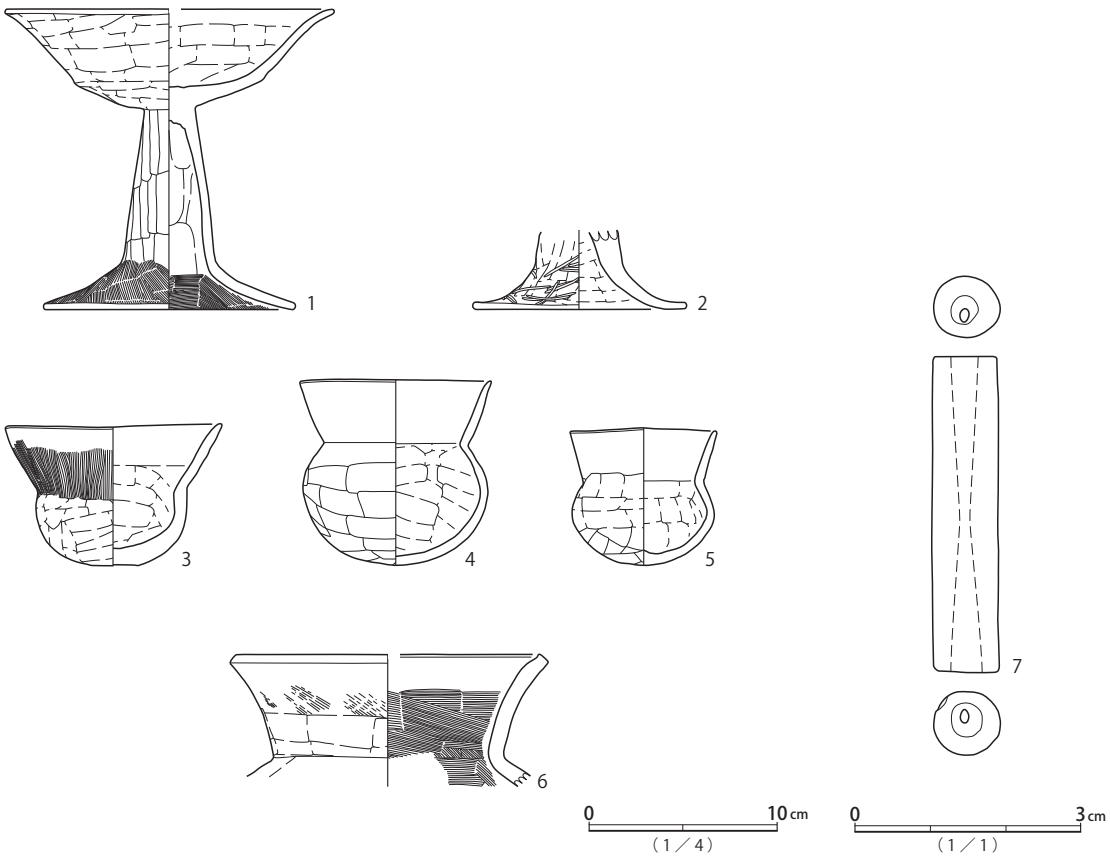
所見：主柱穴、周溝が検出されたが、炉は検出されなかった。床面から高坏（１）、坩（３）、広口壺（４～６）、管玉（７）が出土している。

遺物：土器3,487.8g、軽石18.00g、玉類6.00gが出土した。

１・２は高坏、３は坩、４～６は広口壺である。１は内空、中膨で柱状に近い円錐状の脚部である。４は口頸部にハケメ調整を残す。７は緑色凝灰岩製の管玉である。色調は薄青緑色で、外面は平滑に研磨される。中央部で孔が細くなり、両端から穿孔されたと考えられる。



第461図　SI099



第462図　SI099出土遺物

第154表　SI099出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	床面	口　径：(17.4) 脚　径：(13.2) 器　高：15.9 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ハケメ・ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラナデ、裾部ハケメ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の2/3	
2	土師器 高坏	覆土中層	口　径：－ 脚　径：11.1 器　高：[4.2] 最大径：－	外面：脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の2/3	
3	土師器 坩	床面	口　径：11.2 底　径：2.6 器　高：7.5 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
4	土師器 広口壺	床面	口　径：10.0 底　径：－ 器　高：9.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～肩部ナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
5	土師器 広口壺	床面	口　径：7.6 底　径：－ 器　高：7.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
6	土師器 広口壺	床面	口　径：(16.1) 底　径：－ 器　高：[7.0] 最大径：－	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部～肩部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～肩部ハケメ	胎　土：石英・長石・海綿骨針・白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～肩部の2/3	

第155表　SI099出土玉類観察表

単位：mm

番号	種別	材質	出土位置	高さ（長さ）		径（幅）		孔径		重量（g）	色調	備考
				最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
7	管玉	緑色凝灰岩	床面	41.2	41.0	9.0	8.8	4.6	1.5	6.00	薄青緑	

SI100（第463 ～ 465図、第156・157表、図版60・100・112）

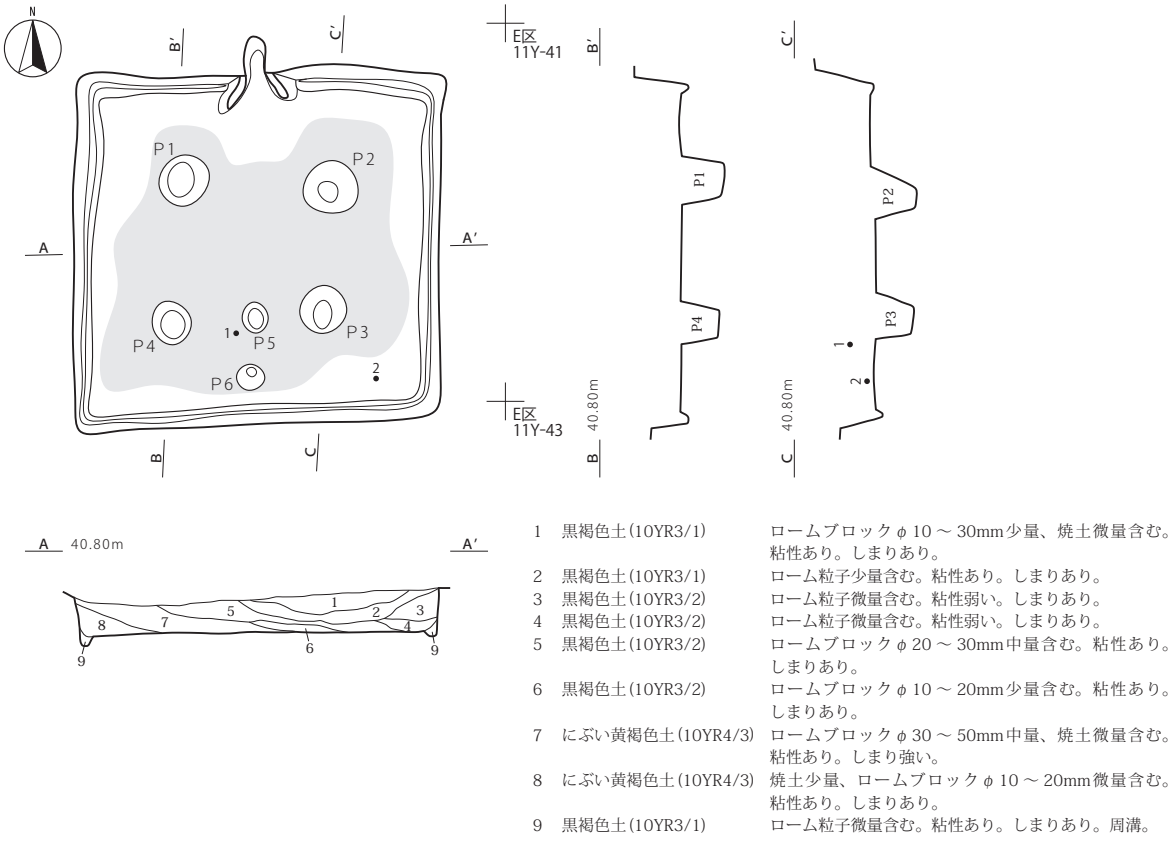
位置：Ｅ区11Ｙ-31グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**SI038・SI101 ～ SI103を切る。**規模：**主軸4.24ｍ、副軸3.96ｍ、確認面からの深度0.75ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.42m突出する。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向1.44ｍ、副軸方向1.64ｍ。Ｐ６は主軸線上、カマドの対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド内から土製支脚（３）が出土している。覆土の中層から下層は、やや大きめのロームブロックを含んだ褐色系の土が谷方向から順次堆積しており、人為的な埋め戻しが行われている。上層は、レンズ状の堆積で自然埋没した状況を示す。

遺物：土器3,865.7g、土製品324.4gが出土した。

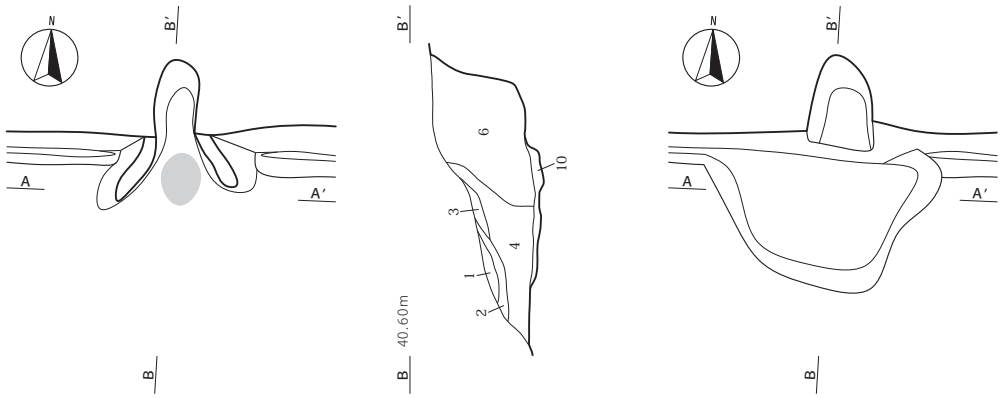
１・２は甕である。１は胴部にハケメ調整を残す。３は支脚である。部分的に稜を持つ円錐形であり、外面がヘラ調整される。

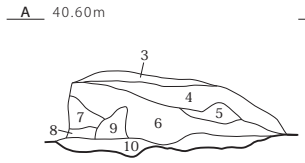


1	黒褐色土(10YR3/1)	ロームブロックφ10 ～ 30mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/1)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまりあり。
4	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ20 ～ 30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
6	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ10 ～ 20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ30 ～ 50mm中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
8	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土少量、ロームブロックφ10 ～ 20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
9	黒褐色土(10YR3/1)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

第463図　SI100

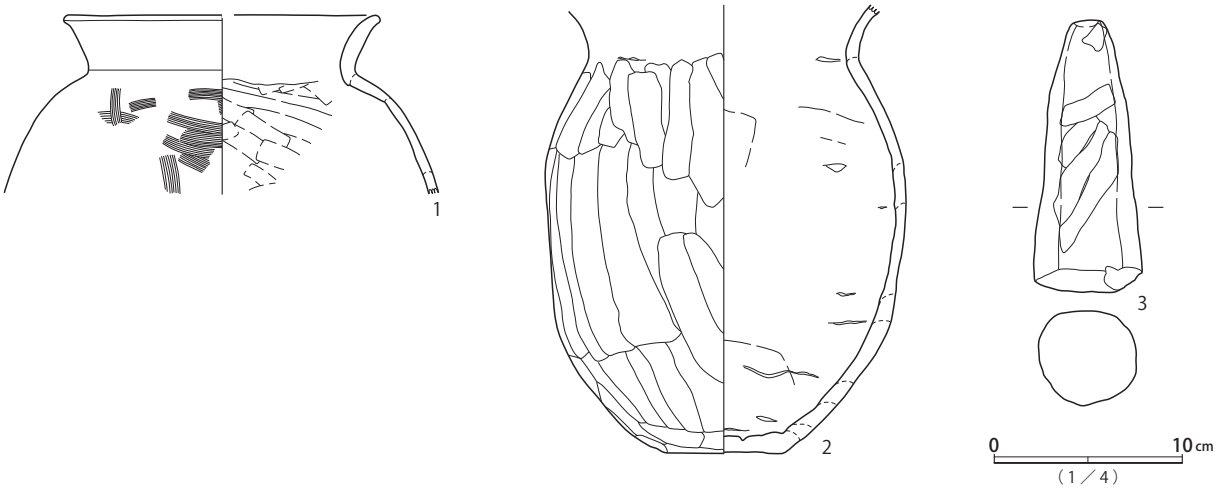




1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐灰色土(10YR5/1)　灰白色土多量、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子多量、焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　灰白色土中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　焼土ブロックφ１～10mm中量、灰白色土少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　灰白色土多量、ローム粒子、焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　灰白色土中量、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、ロームブロックφ20～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
9　灰白色土(10YR8/1)　黒褐色土、ローム粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。カマド袖。
10　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第464図　SI100カマド



第465図　SI100出土遺物

第156表　SI100出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	覆土中層	口　径：(16.4) 底　径：　－ 器　高：　[9.5] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/4	
2	土師器 甕	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　6.2 器　高：[23.7] 最大径：　19.1	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の2/3	

第157表　SI100出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
3	支脚	カマド	長さ：[14.4]　幅：[5.8]　厚さ：5.0	324.4	円錐形

SI101（第466・467図、第158表、図版60・100）

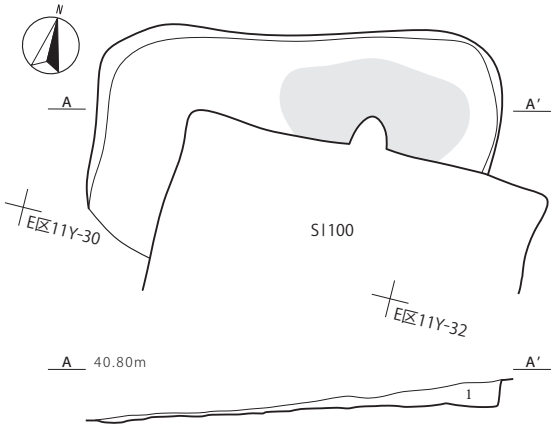
位置：E区11Y-21グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI038を切り、SI100・SI102・SI103に切られる。**規模：**主軸（2.48）m、副軸（4.40）m、確認面からの深度0.41m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-14°-W。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北東側のやや広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。重複する竪穴建物によって大部分が削平されているが、東壁がやや垂直に立ち上がり、床面には踏み固まった硬化範囲がみられることから建物と判断した。

遺物：土器1,134.3gが出土した。

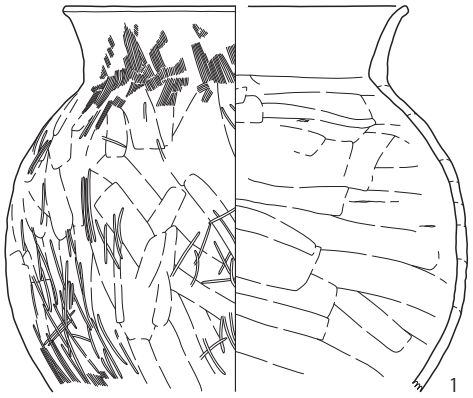
１の口縁部は「く」の字形に屈曲し、頸部にハケメ調整がわずかに残る。胴部はヘラナデののちにヘラミガキが施されている。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ20mm少量、炭化物φ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第466図　SI101



0　10cm
（1／4）

第467図　SI101出土遺物

第158表　SI101出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器甕	確認調査	口　径：(18.0) 底　径：　- 器　高：[20.4] 最大径：(24.5)	外面：口縁部～頸部ハケメ後ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：白色粒・黒色粒・長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	外面煤付着

SI102（第468・469図、第159表、図版60・100・101）

位置：Ｅ区11Ｙ-42グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI038・SI045・SI101・SI103を切り、SI100に切られる。**規模：**主軸（4.64）m、副軸（5.20）m、確認面からの深度0.33ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、それほど強く踏み固まっていないが、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

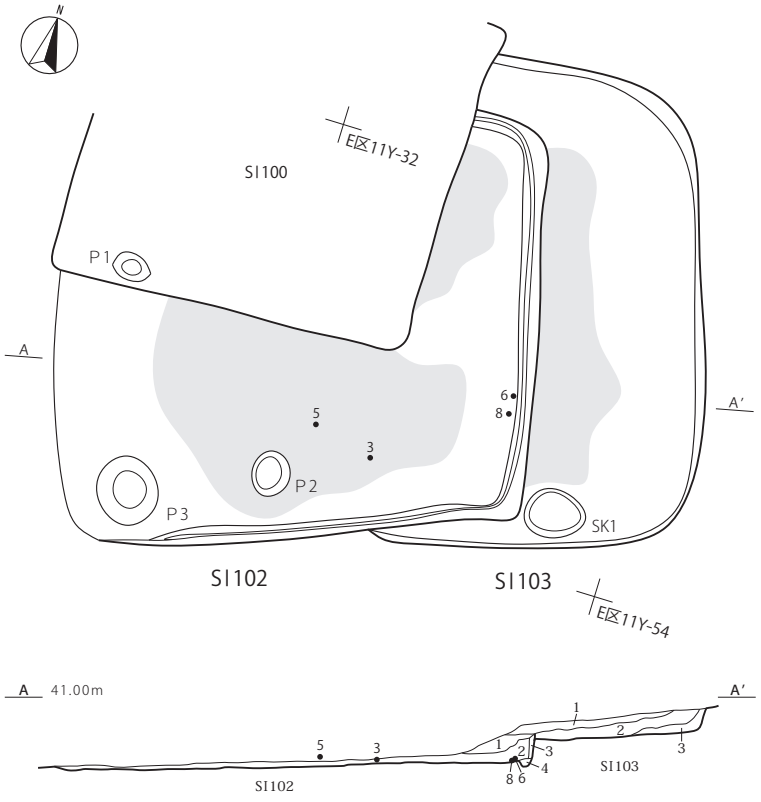
所見：周溝が検出されたが、主柱穴、炉は検出されなかった。床面から高坏（３・６）、広口壺（８）が出土している。

遺物：土器7,502.0gが出土した。

１は鉢、２～７は高坏、８・９は広口壺である。３・４は内空、中膨で柱状に近い円錐状の脚部である。８は胴上部にヘラミガキがわずかに施される。

SI103（第468・470図、第160・161表、図版60・101・113）

位置：Ｅ区11Ｙ-33グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI038・SI045・SI101を切り、SI100・SI102に切られる。**規模：**主軸（5.24）m、副軸（3.56）m、確認面からの深度0.46ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-17°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑が１基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。



SI102

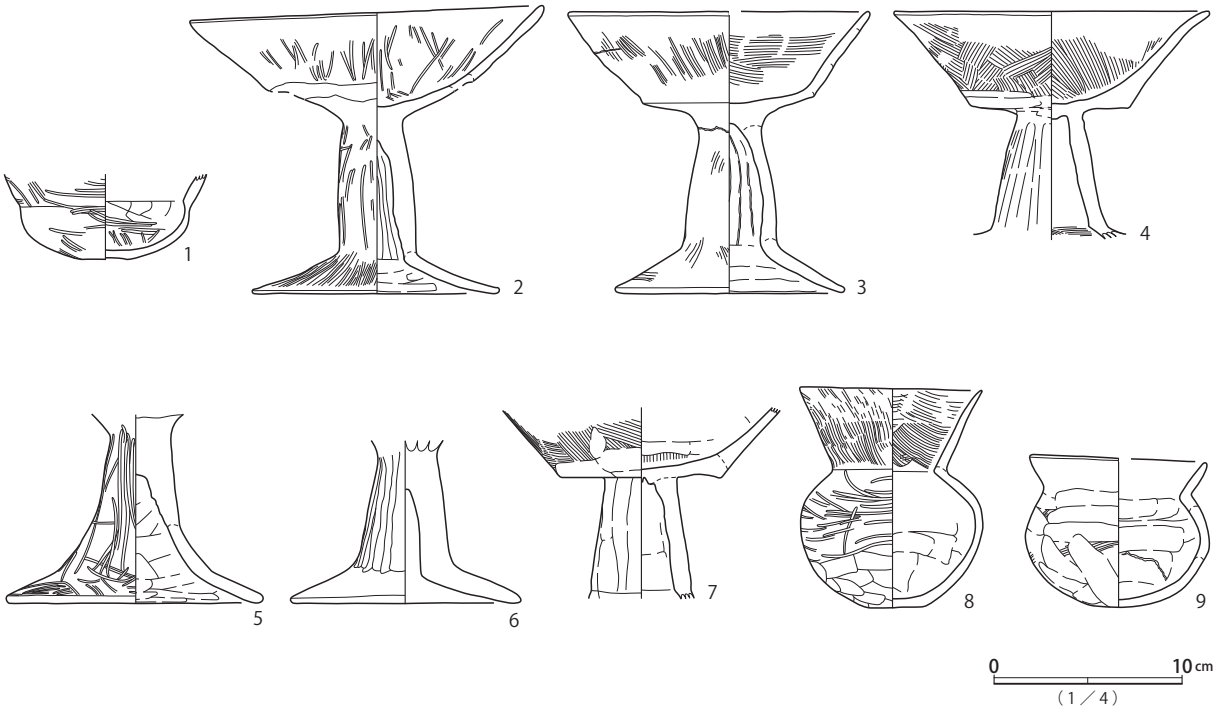
1	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ20～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土少量、ロームブロックφ30～50mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

SI103

1	黒褐色土(10YR3/1)	ローム粒子、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ30～50mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第468図　SI102・SI103



第469図　SI102出土遺物

第159表　SI102出土土器観察表

単位：cm

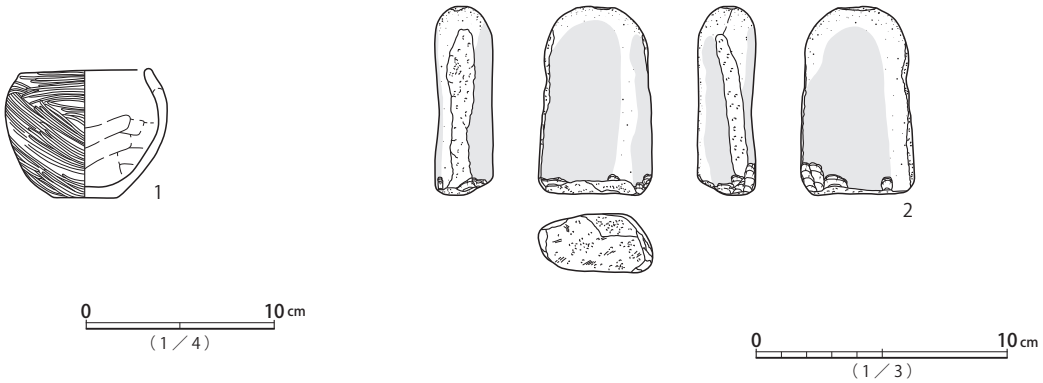
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　2.4 器　高：　[4.5] 最大径：　－	外面：頸部～底部ヘラミガキ 内面：頸部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ	胎　土：長石・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部の2/3	
2	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　18.6 脚　径：　12.8 器　高：　15.3 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラミガキ、裾部ハケメ・ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、脚部シボリ、裾部ヘラナデ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 高坏	床面	口　径：(15.8) 脚　径：　11.7 器　高：　15.0 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、接合部ナデ、脚部ハケメ後ナデ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ハケメ、脚部シボリ、裾部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・角閃石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の3/4	
4	土師器 高坏	確認調査	口　径：　16.6 脚　径：　－ 器　高：[12.1] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ、接合部～脚部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ、脚部ナデ、裾部ハケメ	胎　土：白色粒・石英・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の2/3	
5	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(13.1) 器　高：[10.0] 最大径：　－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部シボリ・ヘラケズリ、裾部ヘラナデ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の1/2	
6	土師器 高坏	床面	口　径：　－ 脚　径：　12.2 器　高：　[8.6] 最大径：　－	外面：脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみ完存	
7	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：[10.1] 最大径：　－	外面：坏部ハケメ後ヘラナデ、脚部ヘラナデ 内面：坏部ハケメ後ヘラナデ、脚部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部～脚部の1/3	
8	土師器 広口壺	床面	口　径：　9.5 底　径：　3.1 器　高：　11.7 最大径：　9.7	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ハケメ、胴部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ハケメ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
9	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：　(9.3) 底　径：　－ 器　高：　[8.1] 最大径：　(9.8)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ハケメ後ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

時期：遺物や竪穴建物の形態から、４世紀代と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。大部分が重複するSI102に削平されるため全容は不明である。

遺物：土器1,472.6g、石器・石製品115.49gが出土した。

１は鉢、２はスタンプ形石器である。１は外面全面にヘラミガキが密に施されている。２は下面を主たる敲打面とし、側面にも敲打面がみられ、表裏には磨面がみられる。



第470図　SI103出土遺物

第160表　SI103出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢	覆土下層	口　径：　6.7 底　径：　3.4 器　高：　6.8 最大径：　9.1	外面：口縁部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

第161表　SI103出土石器観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
2	スタンプ形 石器	砂岩	覆土下層	7.50	4.55	2.30	115.49	磨：表・裏・右・下各1面、敲：右・左・上・下各1箇所

SI104（第471 ～ 473図、第162表、図版60・101）

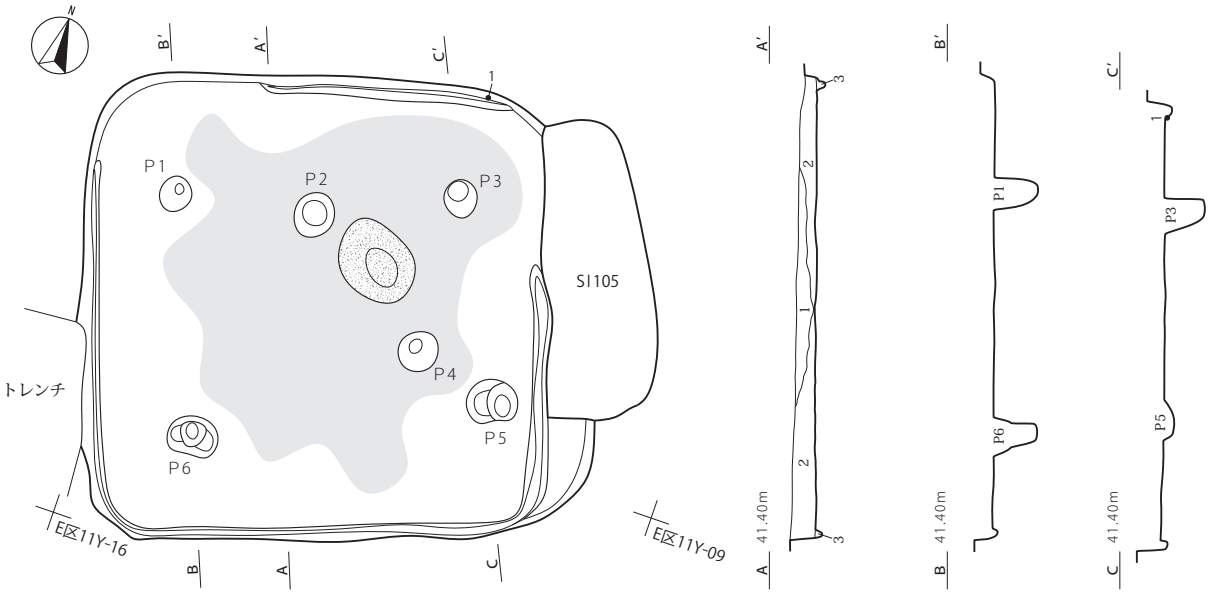
位置：Ｅ区11Ｘ-97グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI039を切り、SI105に切られる。**規模：**主軸（4.96）m、副軸（5.48）m、確認面からの深度0.25ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-19°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.96ｍ、短軸0.76ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６で、柱間は主軸方向2.44ｍ、副軸方向3.00ｍ。周溝は一部で途切れるがほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。周溝内から鉢（１）が出土している。

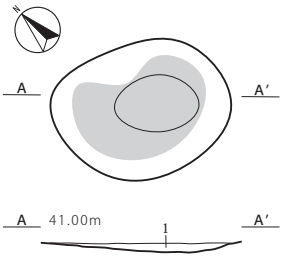
遺物：土器2,097.9g、縄文土器11.0gが出土した。

１は薄手の鉢である。

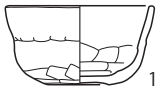


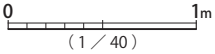
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　　ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。周溝。

第471図　SI104

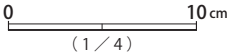


1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。





第472図　SI104炉



第473図　SI104出土遺物

第162表　SI104出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	周溝	口　径：　7.5 底　径：　3.3 器　高：　4.2 最大径：　–	外面：口縁部～体部ヘラケズリ後ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ヘラケズリ後ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ	胎　土：砂粒・石英 焼　成：良好 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の2/3	

SI105（第474 ～ 477図、第163表、図版61・101）

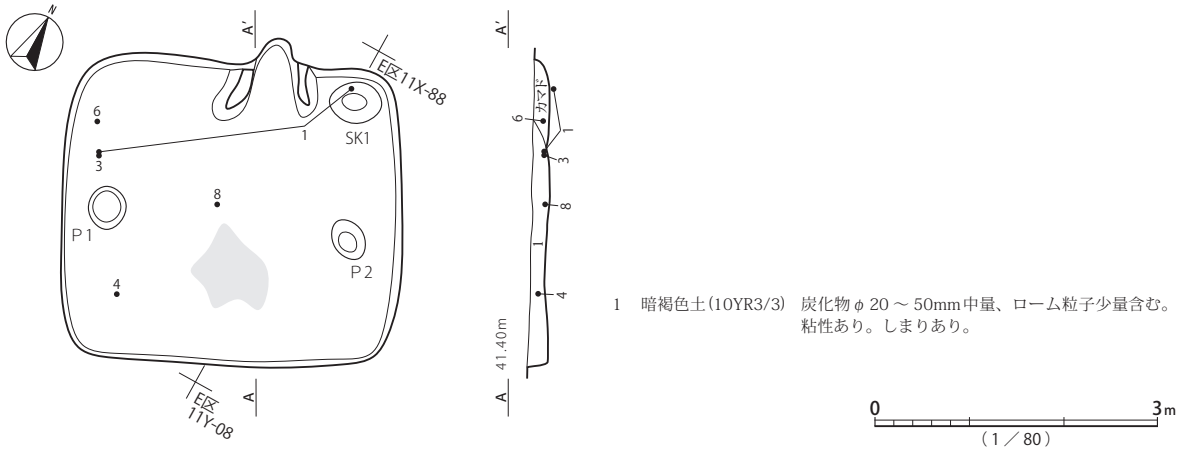
位置：E区11X-97グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI039・SI104を切る。**規模：**主軸3.50m、副軸3.60m、確認面からの深度0.29m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-29°-W。**カマド：**北西壁やや北東寄りに位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.26m突出する。**施設：**ピット２基、土坑１基が検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２の二本柱で構成されていると考えられる。柱間は2.60m。SK1はカマドの脇に位置する貯蔵穴で長軸0.52m、短軸0.40m。床面は掘り方を持たずソフトローム層と重複する建物の覆土を直接使用しており、南壁付近の一部が硬化している。

時期：出土遺物から、古墳時代終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）と考えられる。

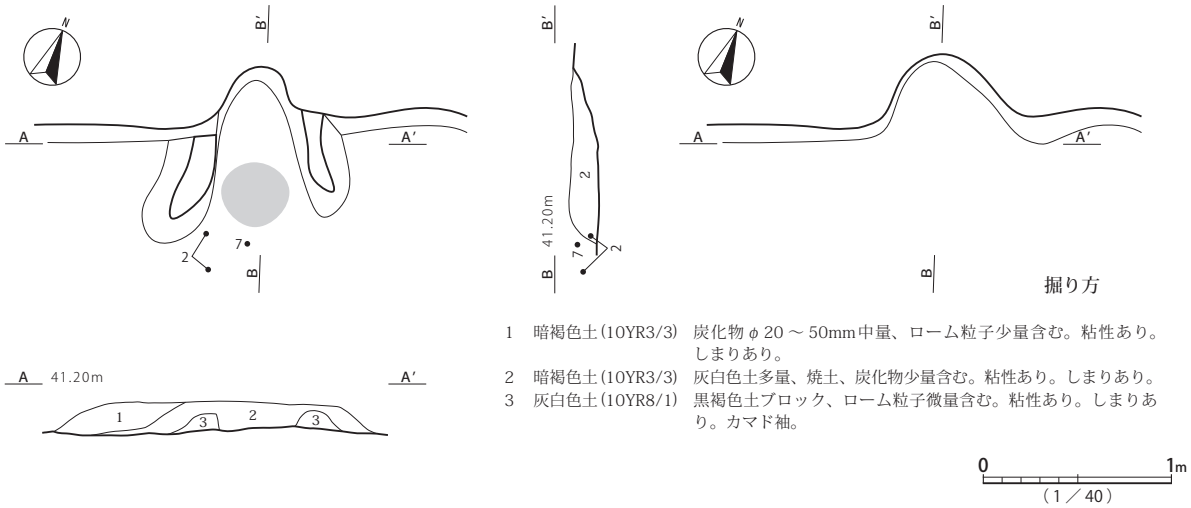
所見：カマド、主柱穴、貯蔵穴が検出されたが周溝は検出されなかった。カマド内から高坏（５）、床面およびSK1から坏（１）、床面からは高坏（３）が出土している。主柱穴は二本柱で構成されており、本調査区では他に類例がない。

遺物：土器6,031.1g、土製品685.0gが出土した。

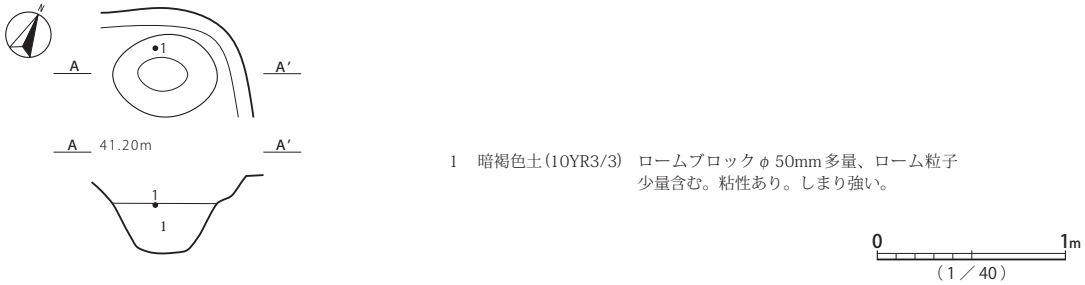
１・２は坏、３～７は高坏、８は甕である。１・２は無彩であり、内面にはヘラミガキが施される。高坏は５のみ赤彩されている。



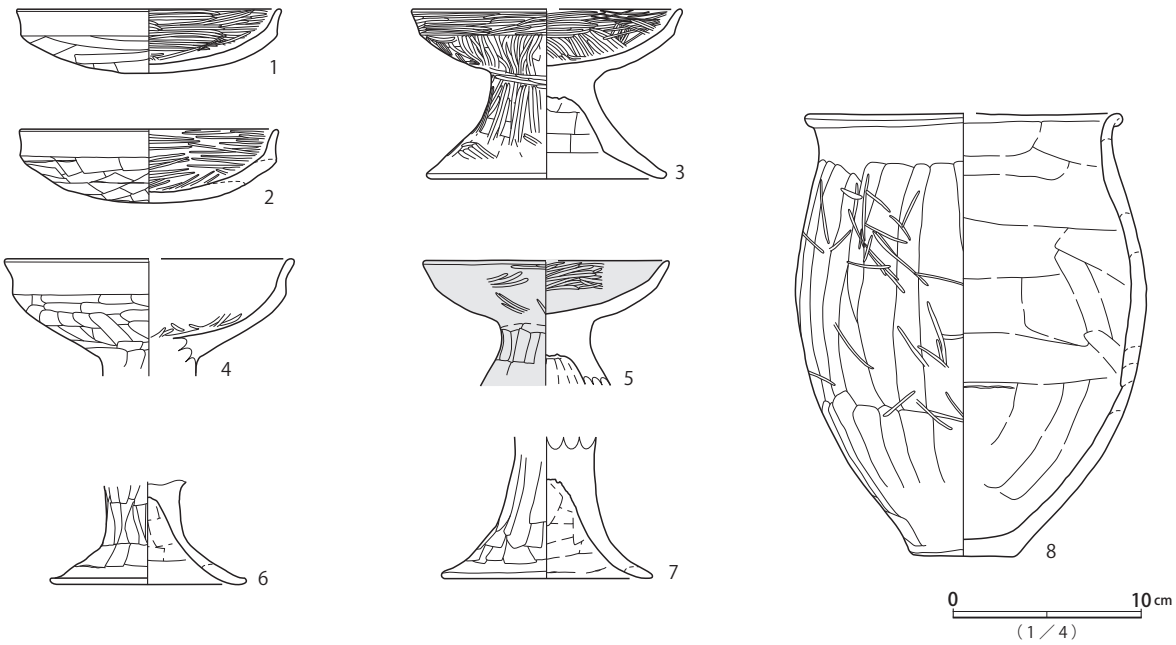
第474図　SI105



第475図　SI105カマド



第476図　SI105SK1



第477図　SI105出土遺物

第163表　SI105出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	床面・ SK1	口　径：14.0 底　径：－ 器　高：3.4 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 坏	覆土下層	口　径：13.6 底　径：－ 器　高：3.9 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 高坏	床面	口　径：(14.2) 脚　径：12.4 器　高：9.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒・金雲母 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の4/5	
4	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(15.0) 脚　径：－ 器　高：[6.2] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部の1/4	
5	土師器 高坏	カマド	口　径：(13.0) 脚　径：－ 器　高：[6.6] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、接合部～脚部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、赤彩、接合部～脚部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～脚部の2/3	
6	土師器 高坏	覆土下層	口　径：－ 脚　径：10.0 器　高：[5.4] 最大径：－	外面：脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	
7	土師器 高坏	覆土下層	口　径：－ 脚　径：11.0 器　高：[7.5] 最大径：－	外面：脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	
8	土師器 甕	覆土下層	口　径：(16.5) 底　径：5.6 器　高：23.4 最大径：18.6	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	

SI106（第478 ～ 480図、第164表、図版61・102）

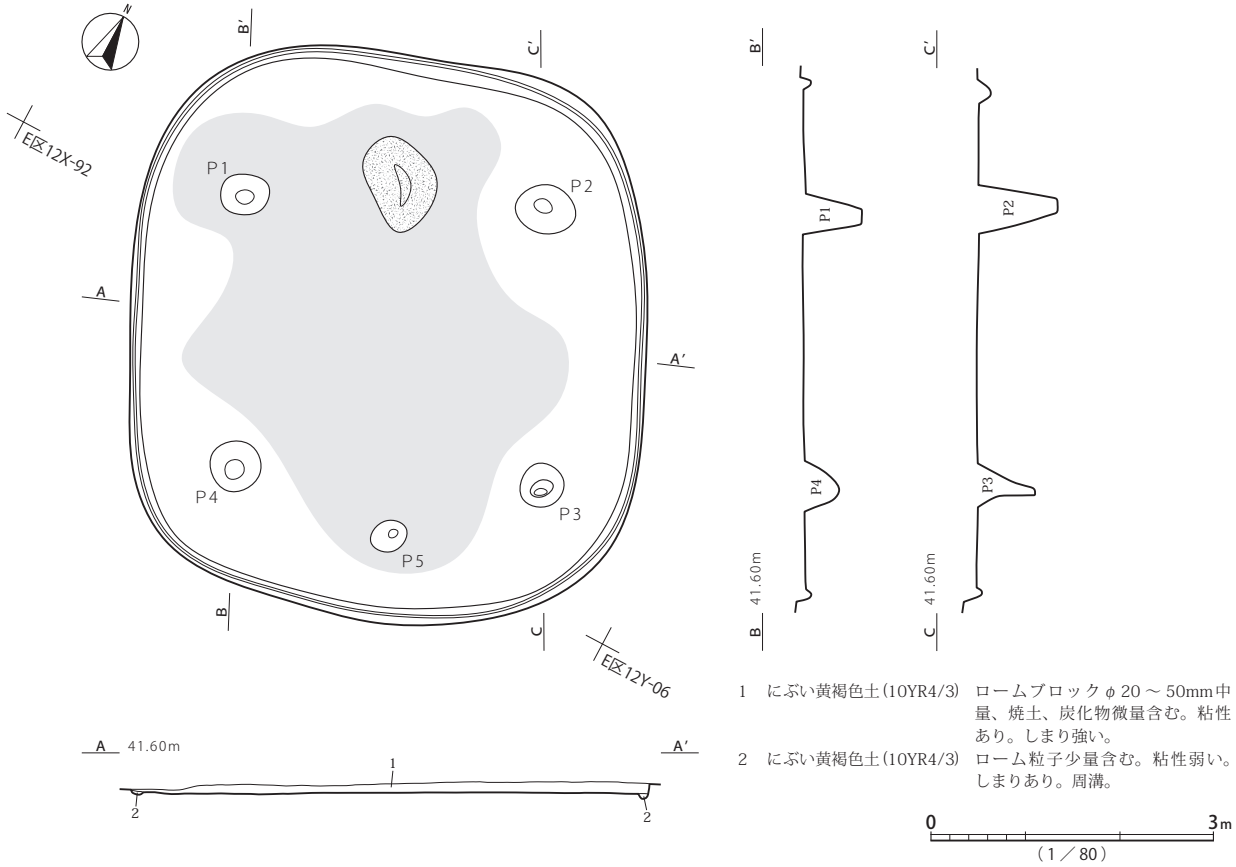
位置：Ｅ区12Ｘ-84グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸6.14ｍ、副軸5.50ｍ、確認面からの深度0.19ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-28°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.00ｍ、短軸0.52ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.88 ～ 3.24ｍ、副軸方向3.24ｍ。主柱穴はやや台形状に配置されている。Ｐ５は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、５世紀代と考えられる。

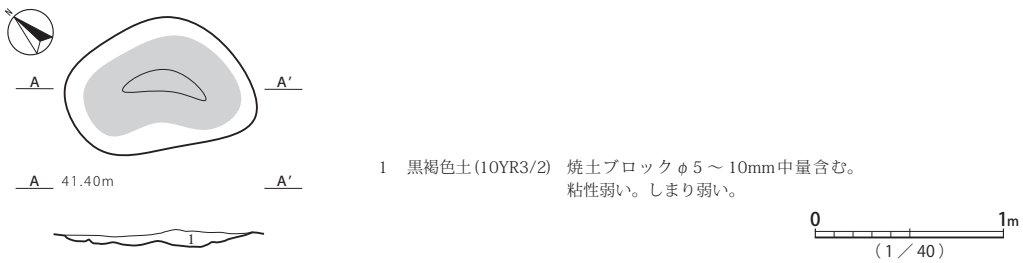
所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝が検出された。

遺物：土器1,638.5g、縄文土器19.0gが出土した。

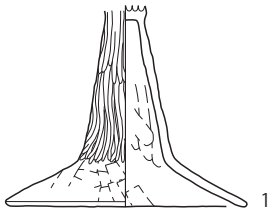
１の脚部は内空、柱状に近い円錐状である。



第478図　SI106



第479図　SI106炉



0　10cm
（１／４）

第480図　SI106出土遺物

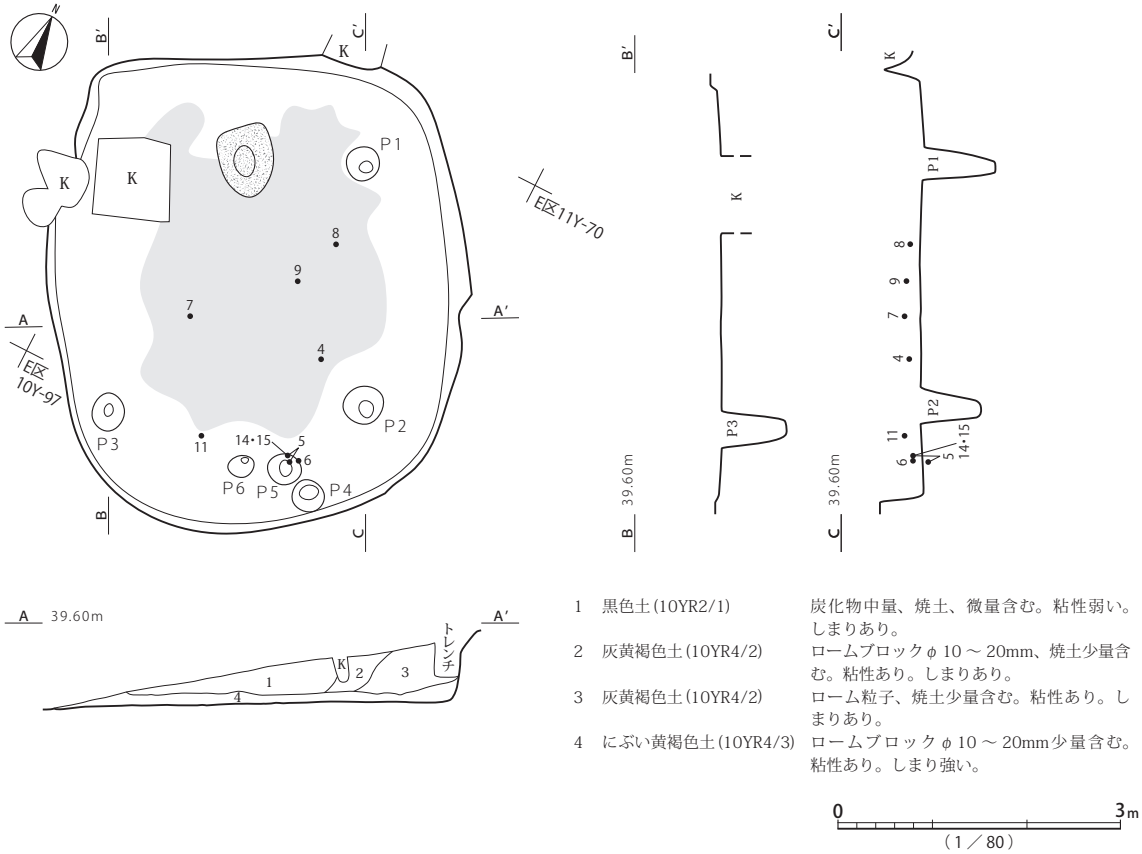
第164表　SI106出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：[10.8] 最大径：　－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヘラナデ 内面：脚部ヘラナデ、裾部ヘラナデ・ヨコナデ	胎　土：白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の2/3	

SI107（第481～484図、第165表、図版61・102・103）

位置：Ｅ区10Ｙ-88グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI046を切る。**規模：**主軸5.08ｍ、副軸4.50ｍ、確認面からの深度0.91ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**Ｎ-27°-Ｗ。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.76ｍ、短軸0.56ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ３で、柱間は主軸方向2.64ｍ、副軸方向2.76ｍ。Ｐ４～Ｐ６は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。



1　黒色土(10YR2/1)　炭化物中量、焼土、微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～20mm、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（１／80）

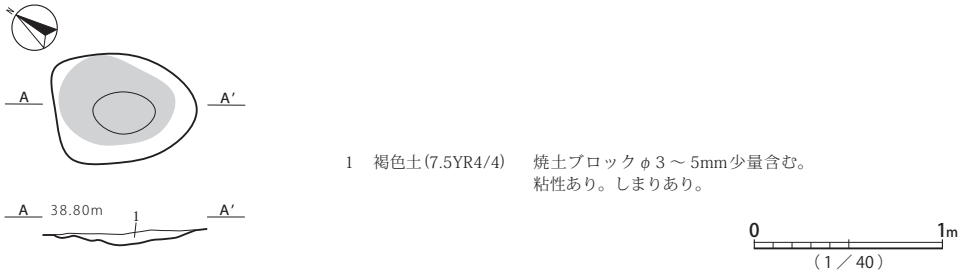
第481図　SI107

時期：出土遺物から、古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

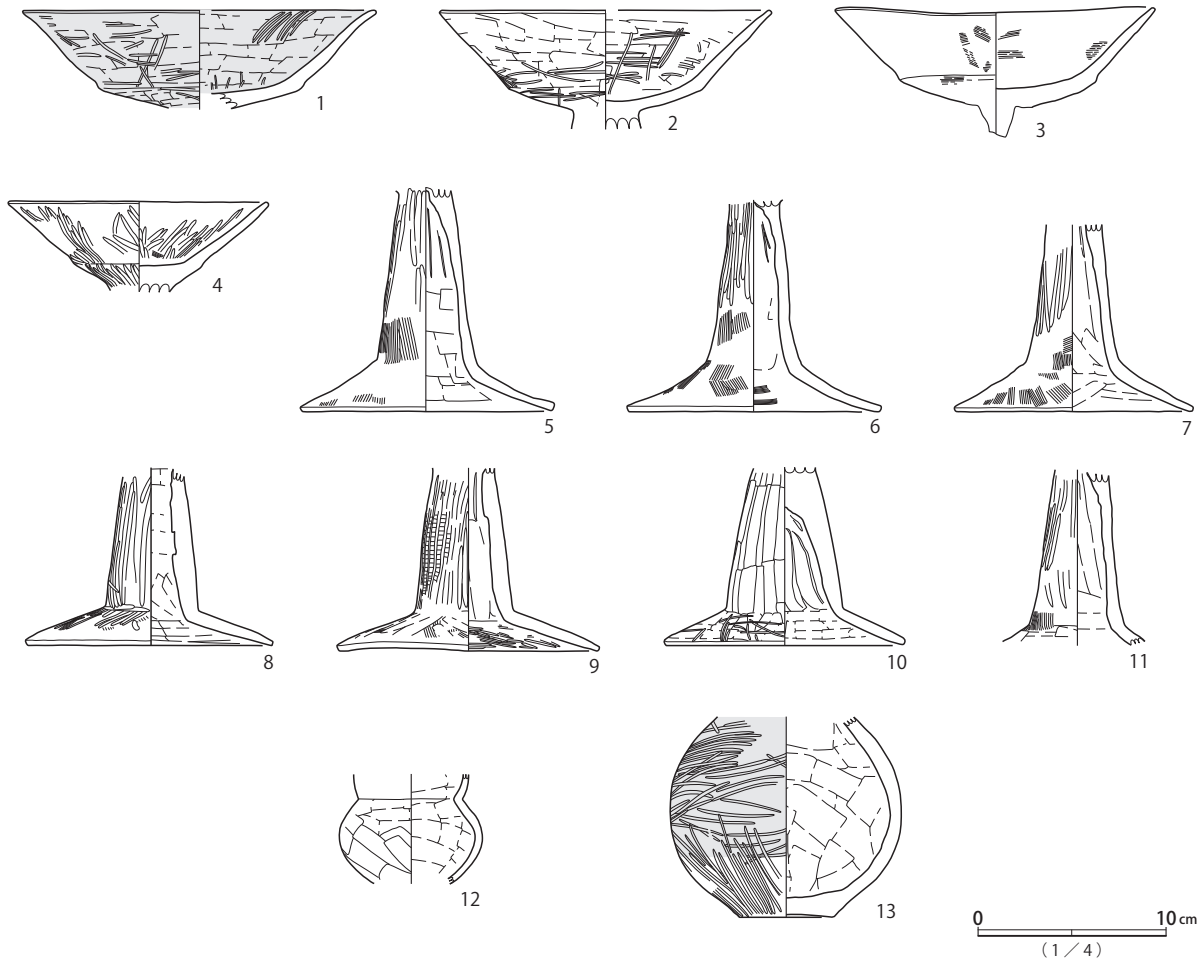
所見：床面はほぼ完存する。炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。覆土は炭化物や焼土、ロームブロックを含み、尾根側から一定方向に順次堆積しており、人為的な埋め戻しの可能性がある。

遺物：土器17,426.9g、縄文土器3.0gが出土した。

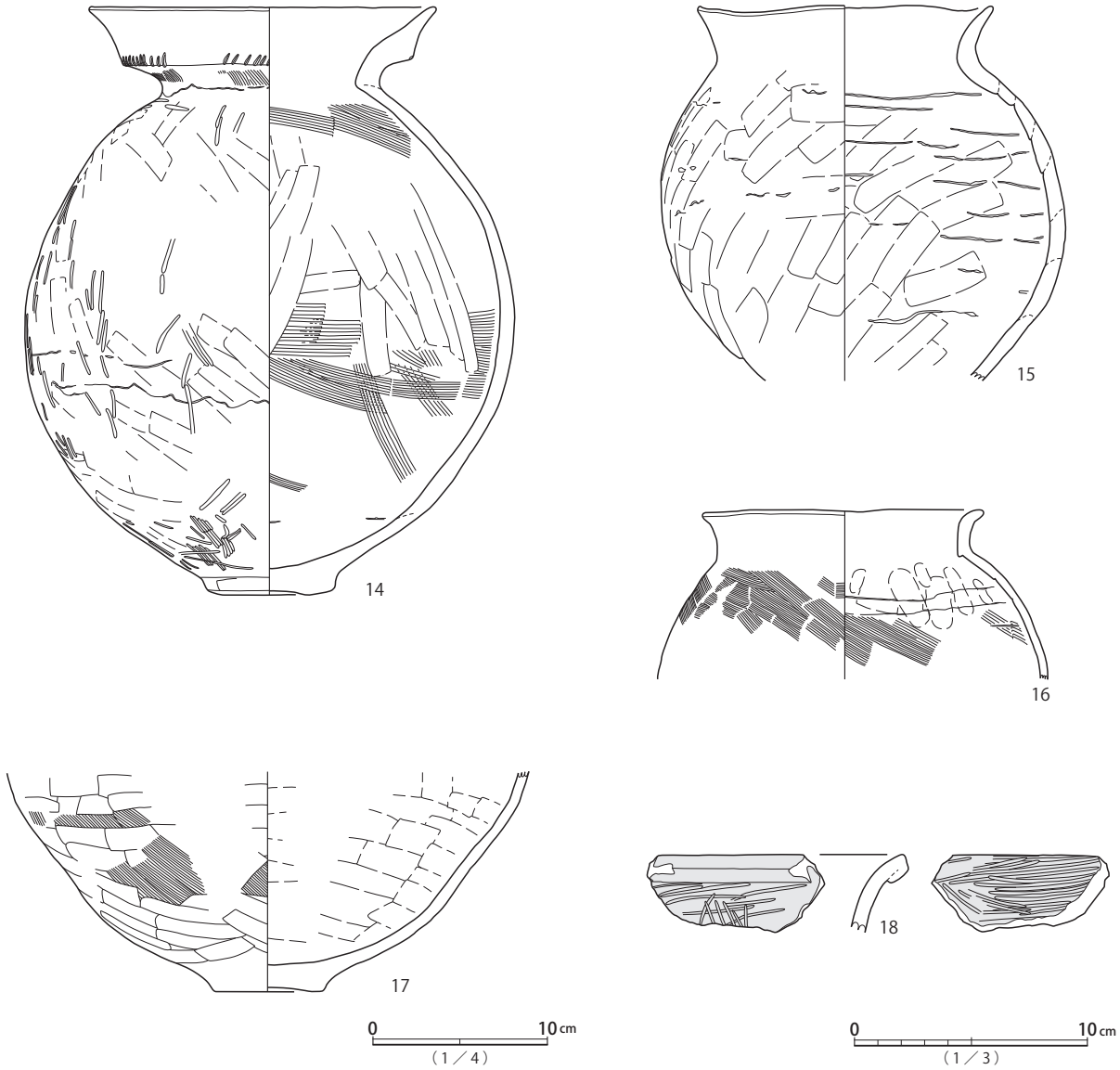
１～11は高坏、12は広口壺、13・14・18は壺、15～17は甕である。１～４はいずれも坏底部に稜をもつ。５～11の脚部は内空、柱状に近い円錐状である。９はヘラミガキの間にハケメ調整が残存する。13は外面が赤彩される小型の壺である。14は二重口縁をもち、その下端にはヘラキザミが施される。17はヘラケズリが施され、間にハケメ調整を残している。18は内外面が赤彩されている。



第482図　SI107炉



第483図　SI107出土遺物（１）



第484図　SI107出土遺物（２）

第165表　SI107出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土上層	口　径：(18.6) 脚　径：　－ 器　高：　[5.2] 最大径：　－	外面：坏部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩 内面：坏部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：坏部の1/3	
2	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(17.4) 脚　径：　－ 器　高：　[6.3] 最大径：　－	外面：坏部ヘラナデ後ヘラミガキ、接合部ナデ 内面：坏部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部の1/3	
3	土師器 高坏	覆土上層	口　径：16.8 脚　径：　－ 器　高：　[6.9] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：坏部の2/3	
4	土師器 高坏	覆土下層	口　径：13.6 脚　径：　－ 器　高：　[4.8] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：暗灰黄 残存度：坏部ほぼ完存	

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
5	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(13.2) 器　高：[11.9] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ後ヘラミガキ、裾部ハケメ・ヨコナデ 内面：接合部シボリ、脚部ヘラナデシボリ目、裾部ヘラナデ・ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみ完存	
6	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(13.2) 器　高：[11.2] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ後ヘラミガキ、裾部ハケメ・ヨコナデ 内面：接合部シボリ、脚部ヘラナデ、裾部ハケメ・ヨコナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の2/3	
7	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(12.4) 器　高：[9.9] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ後ヘラミガキ、裾部ハケメ・ヨコナデ 内面：接合部シボリ、脚部～裾部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の3/4	
8	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：12.9 器　高：[9.4] 最大径：　－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ハケメ後ヘラミガキ・ヨコナデ 内面：脚部～裾部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみ完存	
9	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：13.6 器　高：[9.7] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ後ヘラミガキ、裾部ハケメ後ヘラナデ・裾端部ヨコナデ 内面：接合部シボリ、脚部ヘラナデ、裾部ハケメ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：脚部～裾部の2/3	
10	土師器 高坏	覆土上層・下層	口　径：　－ 脚　径：(12.6) 器　高：[9.4] 最大径：　－	外面：脚部ヘラケズリ、裾部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：接合部～脚部シボリ、裾部ヘラナデ後ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：脚部～裾部の1/2	
11	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：[9.3] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ後ヘラミガキ、裾部ヘラナデ 内面：接合部シボリ、脚部～裾部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の4/5	
12	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[5.8] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	
13	土師器 小型壺	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　5.0 器　高：[10.6] 最大径：(12.2)	外面：胴部～底部ヘラミガキ、赤彩 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：胴部～底部の1/2	
14	土師器 壺	覆土下層	口　径：19.6 底　径：　7.3 器　高：33.5 最大径：28.0	特徴：二重口縁 外面：複合部ヨコナデ・端部ヘラキザミ、頸部ハケメ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：石英・砂粒 焼　成：良好 色　調：灰褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
15	土師器 甕	覆土下層	口　径：16.7 底　径：　－ 器　高：[21.4] 最大径：23.1	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ斜位	胎　土：砂粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：赤褐 残存度：口縁部～胴下部の2/3	内外面煤付着顕著
16	土師器 甕	覆土下層	口　径：15.8 底　径：　－ 器　高：[9.7] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部指頭圧痕後ヘラナデ、胴部ハケメ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	
17	土師器 甕	覆土上層	口　径：　－ 底　径：　6.0 器　高：[12.6] 最大径：　－	外面：胴部～底部ハケメ後ヘラケズリ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/4	
18	土師器 壺	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[3.4] 最大径：　－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

SI108（第485 ～ 487図、第166表、図版61・103）

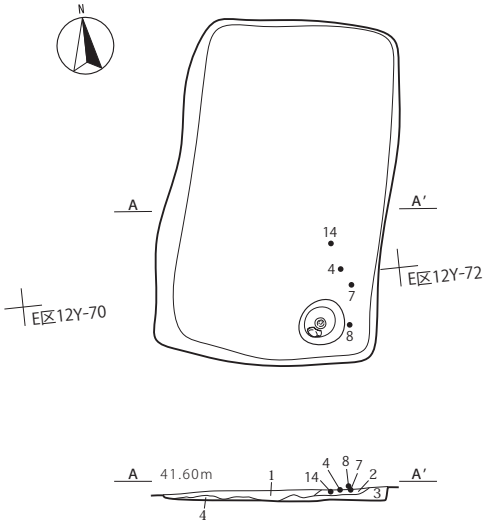
位置：Ｅ区12Ｙ-61グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI052・SI053を切る。**規模：**主軸3.66ｍ、副軸2.60ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**形態：**長方形。**主軸方位：**Ｎ-６°-Ｅ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかったが、規模の小さな竪穴建物としておく。SK1から高坏（２）、壺（11）が出土している。覆土中からの遺物の出土は南東部に偏る。

遺物：土器4,792.8gが出土した。

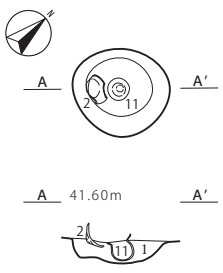
１～４は高坏、５は坩である。６～９は広口壺とした。10・11は壺、12 ～ 14は甕である。１は内空、中膨で円錐状、４は内空、円柱状の脚部である。２は内外面にハケメ調整を残す。７は頸部外面にヘラミガキが施される。９は折り返し口縁をもち、頸部外面にハケメ調整を残す。11は肩部外面および口縁部から胴部内面にハケメ調整を残す。12・13の外面はヘラケズリ調整され、肩部にハケメ調整を残す。



1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子中量、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　焼土多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

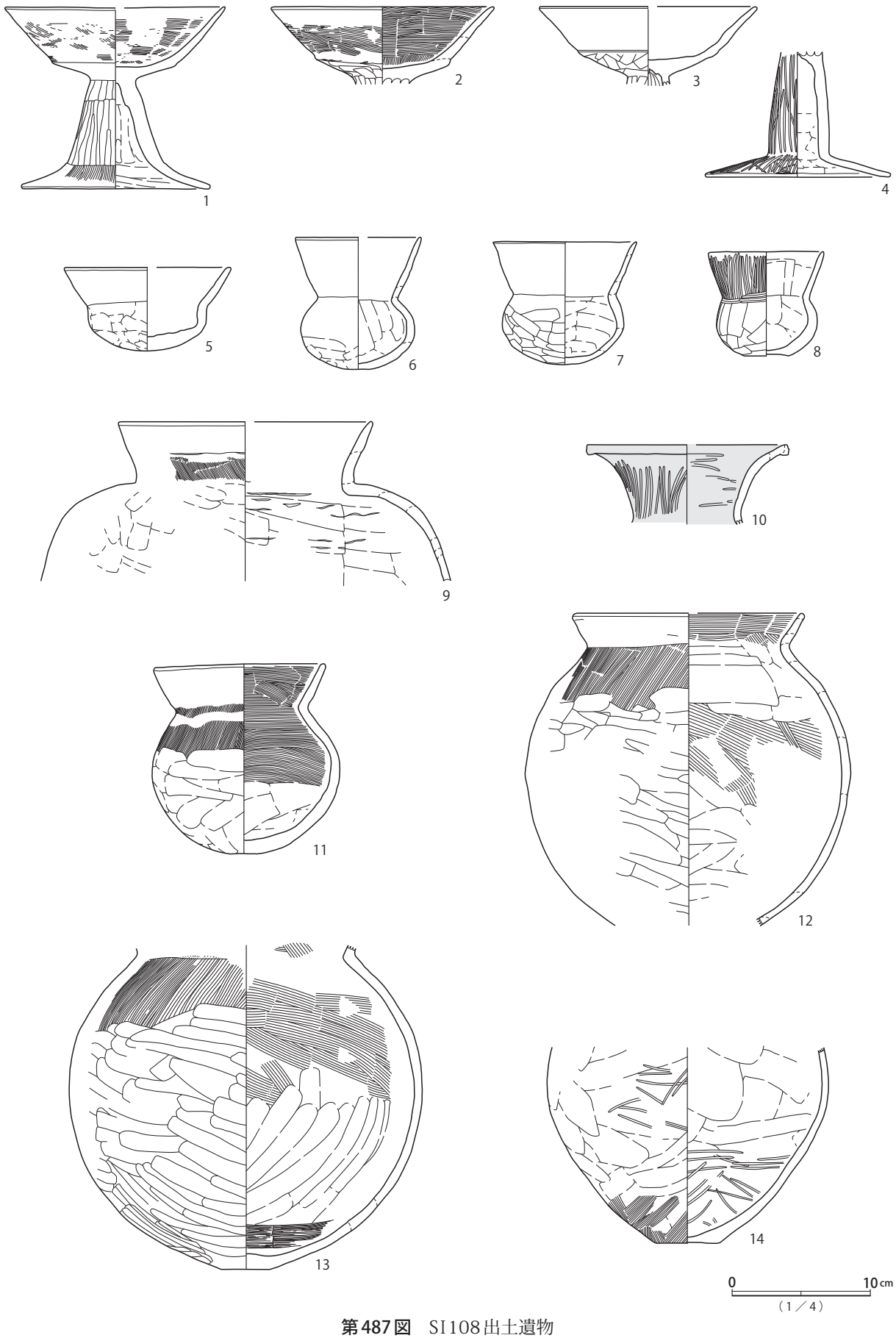
第485図　SI108



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第486図　SI108SK1



第487図　SI108出土遺物

第166表　SI108出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	確認調査	口　径：(15.8) 脚　径：13.4 器　高：13.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ハケメ後ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、脚部～裾部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の2/3	
2	土師器 高坏	SK1覆土	口　径：15.8 脚　径：－ 器　高：[5.5] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、接合部ヘラケズリ 内面：坏部ハケメ	胎　土：長石・海綿骨針・白色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	
3	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(15.3) 脚　径：－ 器　高：[5.7] 最大径：－	外面：坏部ヨコナデ、接合部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ、接合部シボリ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部の1/2	
4	土師器 高坏	覆土下層	口　径：－ 脚　径：13.2 器　高：[9.0] 最大径：－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヘラミガキ・ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・長石・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	
5	土師器 坩	覆土下層	口　径：(11.8) 底　径：－ 器　高：6.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：石英・長石・海綿骨針・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	
6	土師器 広口壺	確認調査	口　径：(9.0) 底　径：1.4 器　高：9.5 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
7	土師器 広口壺	確認調査	口　径：10.4 底　径：－ 器　高：8.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
8	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：8.1 底　径：3.2 器　高：7.5 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ・ヘラミガキ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
9	土師器 広口壺	確認調査	口　径：(18.0) 底　径：－ 器　高：[11.5] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
10	土師器 壺	覆土下層	口　径：(14.4) 底　径：－ 器　高：[5.8] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ縦位、赤彩 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位、赤彩	胎　土：黒色粒・砂粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～頸部の1/2	
11	土師器 壺	SK1覆土	口　径：12.2 底　径：－ 器　高：13.7 最大径：13.5	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、肩部ナデ・ハケメ、胴部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～胴部上半ハケメ、胴部下半～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・角閃石・黒色粒・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：完存	
12	土師器 甕	確認調査	口　径：(16.3) 底　径：－ 器　高：[22.5] 最大径：(23.5)	外面：口縁部ヨコナデ、肩部ハケメ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ハケメ、頸部～肩部ヘラナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の1/2	
13	土師器 甕	確認調査	口　径：－ 底　径：3.5 器　高：[23.3] 最大径：－	外面：頸部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：頸部ハケメ後ヨコナデ、胴部上半ハケメ後ナデ、胴部下半ヘラナデ、底部ハケメ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部の1/2	
14	土師器 甕	覆土下層	口　径：－ 底　径：4.5 器　高：[14.1] 最大径：(20.3)	外面：胴部ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ハケメ 内面：胴部ヘラナデ、底部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：胴部～底部の1/3	

SI109（第488 ～ 490図、第167表、図版62・103・104）

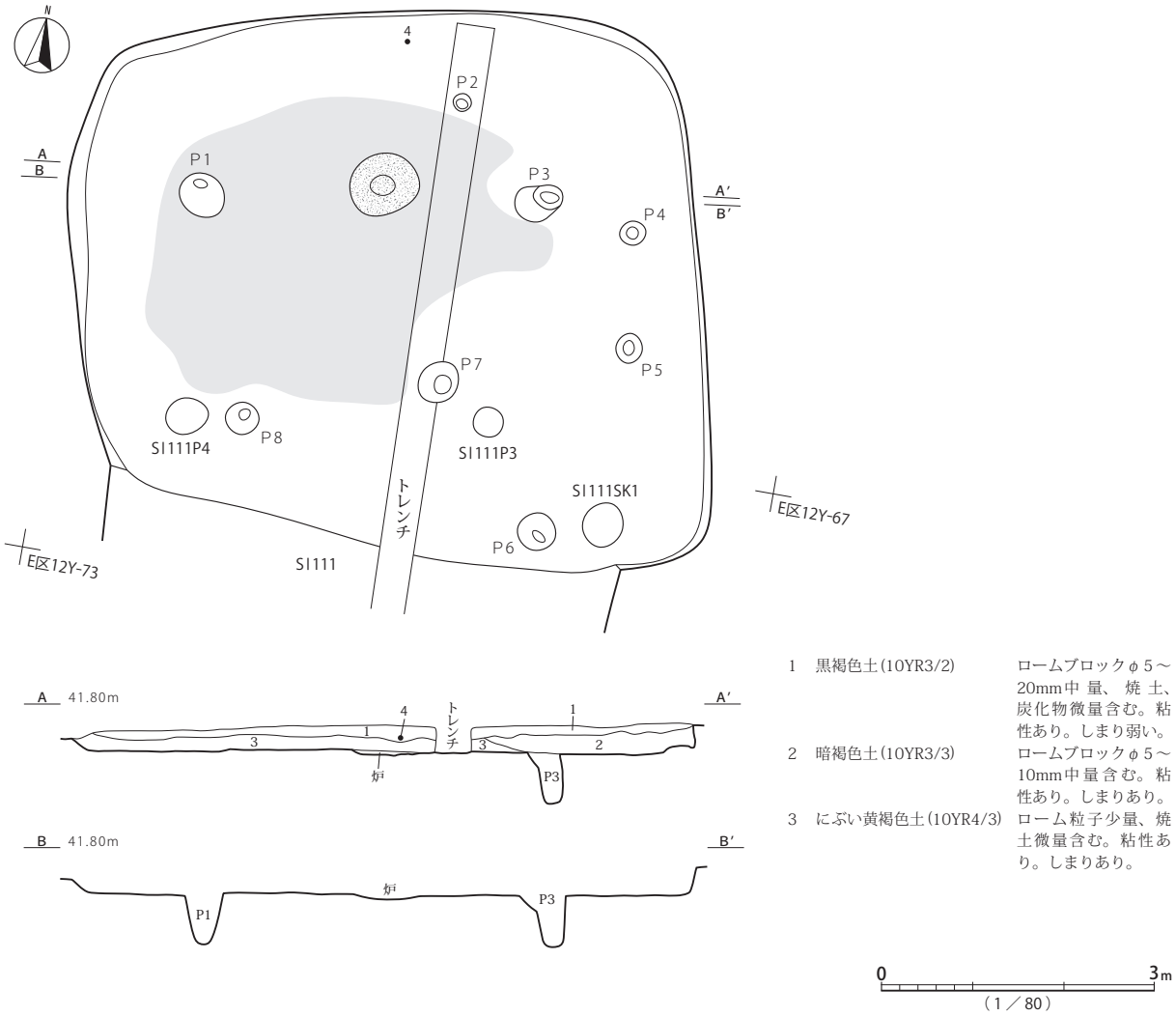
位置： E区12Y-54グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI040・SI052 ～ SI055を切り、SI111に切られる。**規模：**主軸（6.18）m、副軸7.04m、確認面からの深度0.38m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-10°-W。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.76m、短軸0.68mで浅く窪む。**施設：**ピットが８基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

時期：出土遺物から、古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

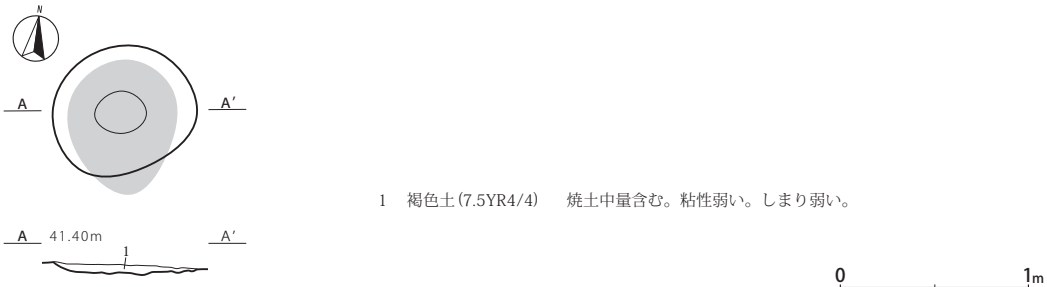
所見：床面は完存する。炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。立地条件が良いためか、複数の竪穴建物が重複しており、他の建物のピットを含んでいる可能性がある。

遺物：土器3,731.2g、軽石6.00gが出土した。

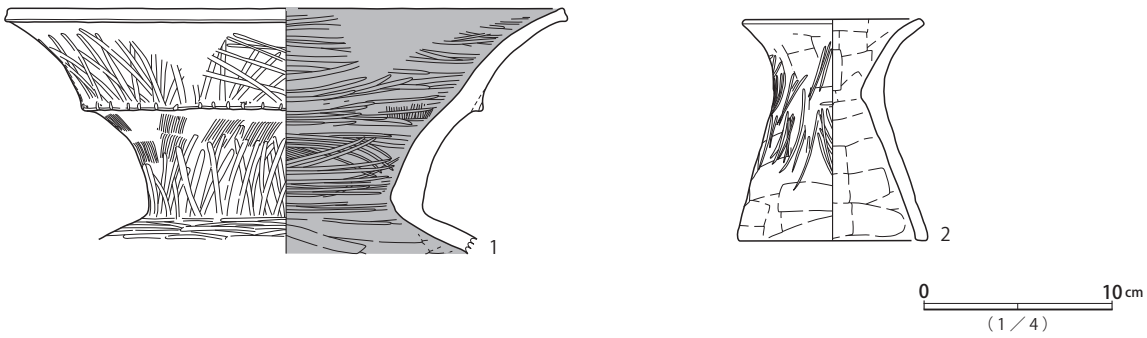
１は壺、２は炉器台とした。１は二重口縁壺である。内面はヘラミガキが施され、黒色処理されたように黒化している。



第488図　SI109



第489図　SI109炉



第490図　SI109出土遺物

第167表　SI109出土土器観察表

単位：cm

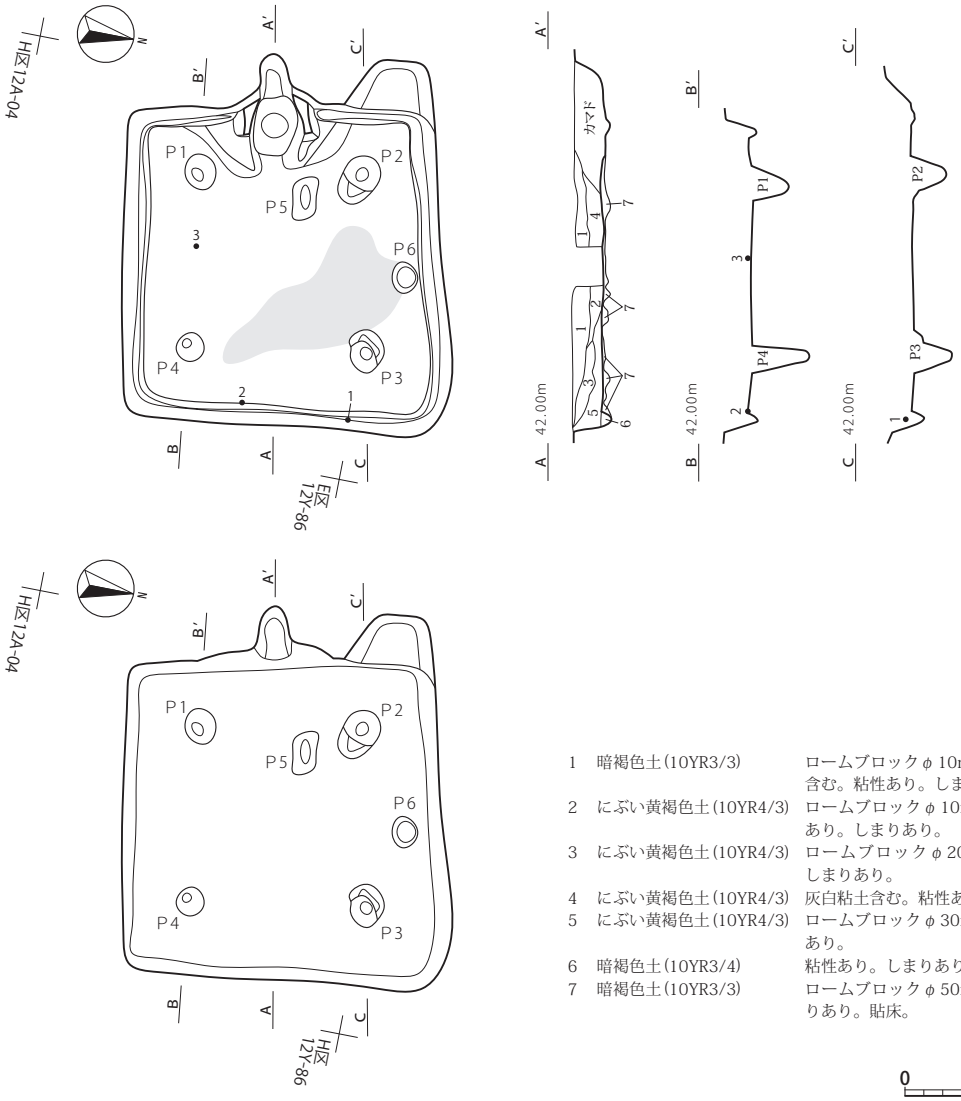
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 壺	確認調査	口　径：(29.2) 底　径：　－ 器　高：[13.0] 最大径：　－	特徴：二重口縁 外面：口唇部ヨコナデ、口縁部ヨコナデ後粗いヘラミガキ縦位、下端ヘラキザミ、頸部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ハケメ後ヘラミガキ横位、頸部ヘラナデ横位	胎　土：石英・黒色粒 焼　成：堅緻 色　調：灰褐 残存度：口縁部～頸部の2/3	内面黒色処理か
2	土師器 炉器台	覆土中層	口　径：　9.2 脚　径：10.0 器　高：11.7 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、器受部～脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヘラナデ 内面：口縁部～裾部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	

SI110（第491 ～ 493図、第168・169表、図版62・104・112）

位置：Ｅ区12Ｙ-84グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI111を切る。**規模：**主軸4.08ｍ、副軸3.52ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-79°-Ｅ。**カマド：**西壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.32m突出する。左袖の外側で、土製の支脚が添えられるように出土した。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸・副軸方向ともに1.84ｍ。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方に暗褐色土とロームブロックの混土を敷き詰め、その上面を床として使用するが非常に軟弱である。中央やや北東寄りの一部が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。床面から須恵器坏（２・３）、周溝内から土師器坏（１）が出土している。北西隅がテラス状に広がるが、重複する別の遺構を誤って掘削した可能性がある。

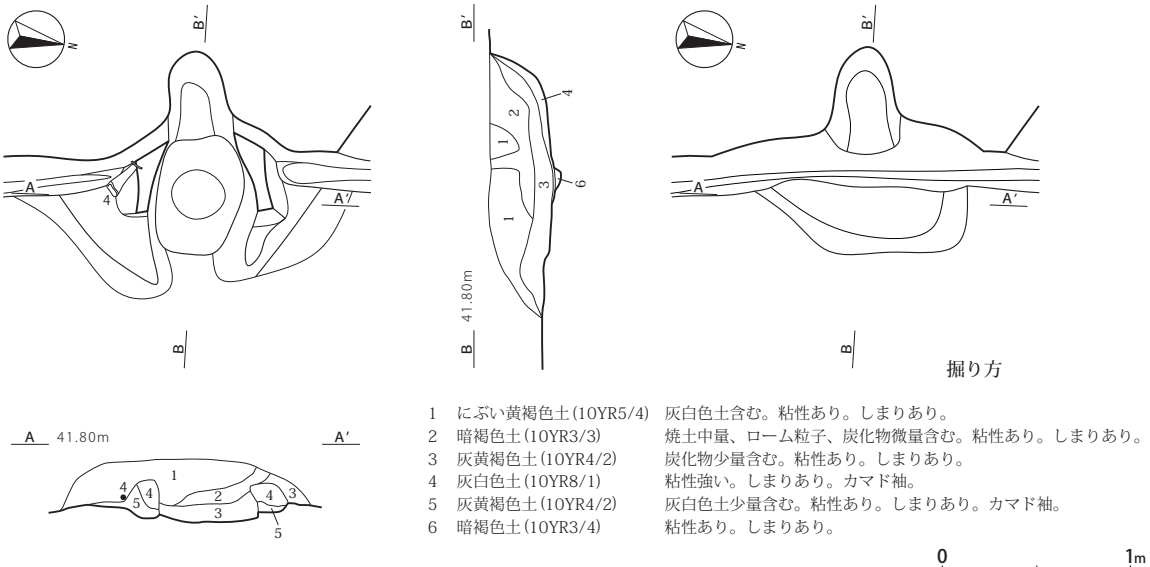


掘り方

1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10mm～20mm少量、炭化物粒微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10mm中量、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　灰白粘土含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。周溝。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ50mm多量に含む。粘性あり。しまりあり。貼床。

0　3m
（1／80）

第491図　SI110



掘り方

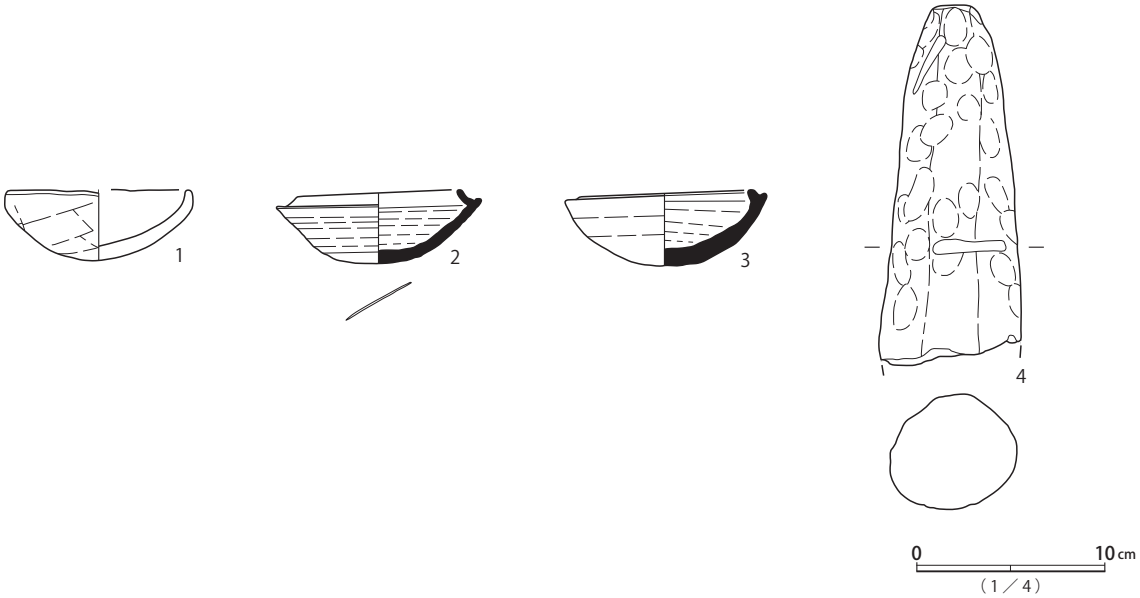
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　灰白色土含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土中量、ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　灰白色土(10YR8/1)　粘性強い。しまりあり。カマド袖。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　灰白色土少量含む。粘性あり。しまりあり。カマド袖。
6　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第492図　SI110カマド

遺物：土器864.5g、須恵器266.4g、土製品792.1gが出土した。

１は土師器坏、２・３は須恵器坏、４は土製支脚である。２は底部にヘラによる窯印が施されている。４は表面に指頭による調整痕がみられる。



第493図　SI110出土遺物

第168表　SI110出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：(9.6) 底　径：－ 器　高：3.7 最大径：10.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：長石・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	須恵器 坏身	床面	口　径：8.7 底　径：－ 器　高：3.9 最大径：10.8	外面：口縁部～底部ロクロ調整後体部1/3に回転ヘラケズリ・ヘラ記号「｜」有り 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：完存	
3	須恵器 坏身	床面	口　径：9.2 底　径：－ 器　高：4.0 最大径：10.8	外面：口縁部～底部ロクロ調整 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：完存	

第169表　SI110出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
4	支脚	カマド	長さ：[19.1]　幅：[7.5]　厚さ：6.1	792.1	円筒形

SI111（第494・495図、第170表、図版62・104）

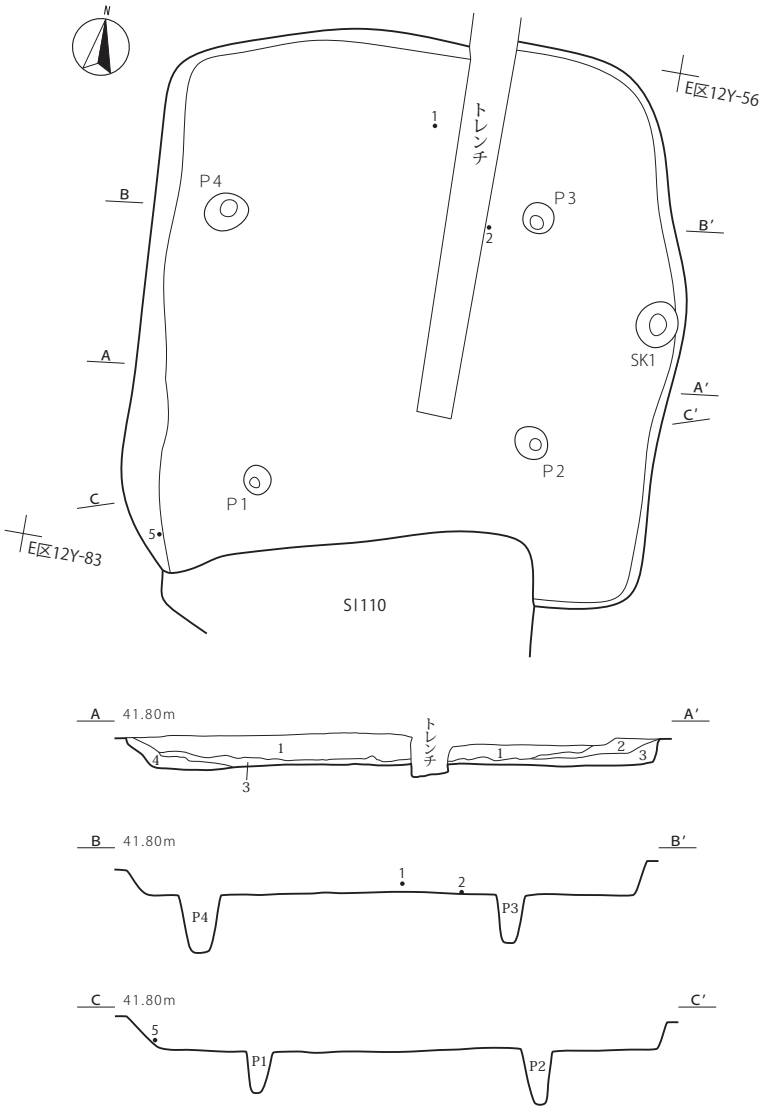
位置：Ｅ区12Ｙ-54グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI052～SI056・SI109を切り、SI110に切られる。**規模：**主軸（6.14）m、副軸6.00m、確認面からの深度0.42m。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-10°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット４基、土坑１基が検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.44～2.92m、副軸方向2.96～3.36m。主柱穴はやや台形状に配置されている。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、部分的に重複する竪穴建物の覆土を使用している。

時期：出土遺物から古墳時代中期４段階（５世紀後葉）と考えられる。

所見：主柱穴が検出されたが、炉、周溝は検出されなかった。床面から鉢（２）が出土している。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器10,193.7g、縄文土器82.0gが出土した。

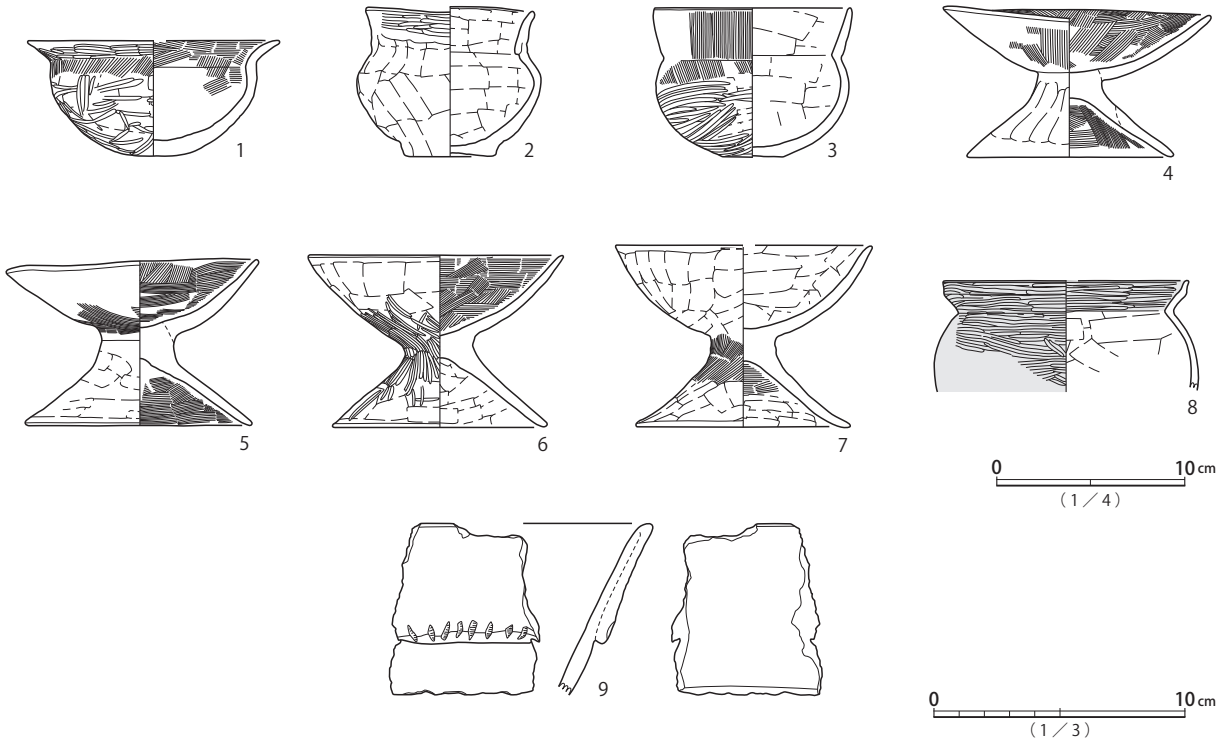
１～３は鉢、４～７は高坏、８は甕、９は壺である。１の外面は頸部にハケメを残し、口縁部および胴部にはヘラミガキが施される。３～６は坏部内外面にハケメ調整を残し、脚部に透かし孔は穿たれていない。８は受け口状の口縁部を持ち、外面全面および口縁部内面にヘラミガキが施され、外面は赤彩される。



1	黒色土(10YR2/1)	ロームブロックφ10mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土少量、ロームブロックφ20～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第494図　SI111



第495図　SI111出土遺物

第170表　SI111出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土下層	口　径：13.3 底　径：－ 器　高：6.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ハケメ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部～体部ハケメ、底部磨耗のため判別不可	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の1/2	
2	土師器 鉢	床面	口　径：8.8 底　径：4.8 器　高：7.9 最大径：9.8	特徴：口縁部粘土帯貼付 外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
3	土師器 鉢	覆土上層	口　径：10.4 底　径：3.2 器　高：7.9 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ハケメ、胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラナデ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
4	土師器 高坏	確認調査	口　径：14.2 脚　径：10.8 器　高：8.0 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ハケメ、脚部ハケメ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～裾部の4/5	
5	土師器 高坏	確認調査	口　径：13.2 脚　径：11.8 器　高：8.9 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ハケメ、脚部～裾部ハケメ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
6	土師器 高坏	覆土下層	口　径：13.4 脚　径：11.2 器　高：9.1 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ハケメ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
7	土師器 高坏	覆土上層	口　径：13.6 脚　径：11.4 器　高：9.6 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、接合部ハケメ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラナデ、脚部～裾部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～裾部の1/2	
8	土師器 甕	覆土下層	口　径：(12.8) 底　径：－ 器　高：[5.9] 最大径：－	外面：口縁部～胴部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、赤彩、胴部ヘラナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
9	土師器 壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[6.8] 最大径：－	特徴：幅広の折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ・ヘラキザミ 内面：口縁部ヨコナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部の破片	

SI112（第496・497図、第171表、図版62・104）

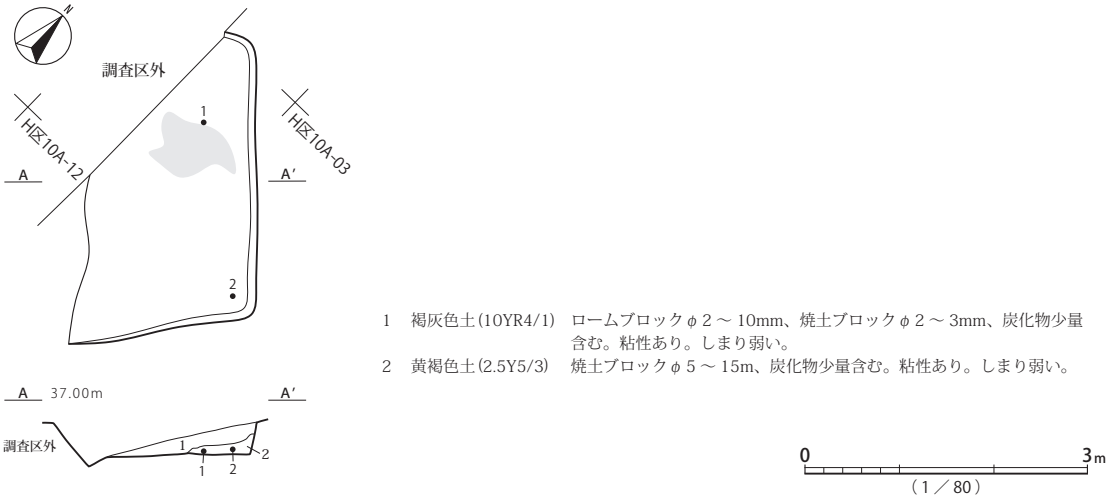
位置：H区10Ａ-02グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南西側は調査区外へ伸びる。**規模：**主軸（3.32）m、副軸（2.00）m、確認面からの深度0.47ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-44°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、北東壁付近がわずかに硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

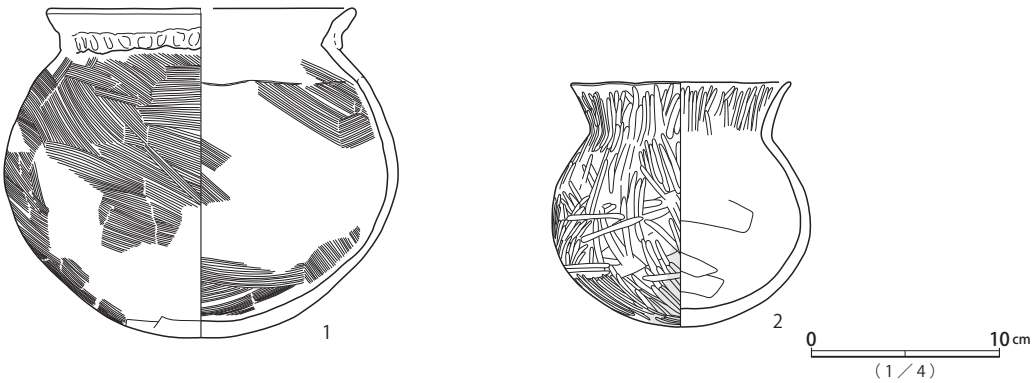
所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から壺（１）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,655.3gが出土した。

１は壺、２は甕とした。１は頸部に指頭圧痕を残す。胴部はハケメ調整され、底部はわずかにヘラケズリが施されている。２は外面全面および口縁部内面にヘラミガキが施される。



第496図　SI112



第497図　SI112出土遺物

第171表　SI112出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 壺	床面	口　径：(16.0) 底　径：　－ 器　高：17.4 最大径：20.8	外面：口縁部ヨコナデ、頸部指頭圧痕、胴部ハケメ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ハケメ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部の1/2	
2	土師器 甕	覆土下層	口　径：11.4 底　径：　－ 器　高：13.0 最大径：13.7	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、肩部～胴部ヘラケズリ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	

SI113（第498・499図、第172表、図版62・104）

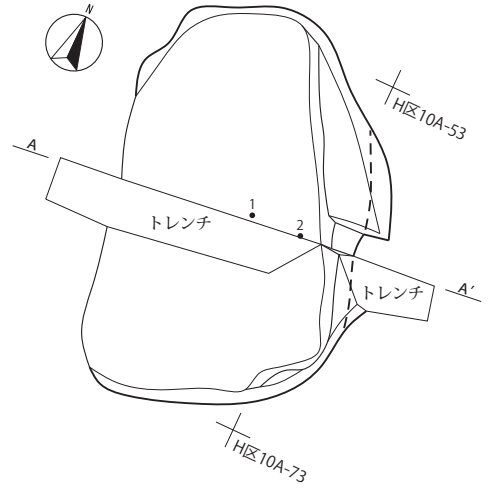
位置：H区10Ａ-62グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.22ｍ、副軸（3.26）ｍ、確認面からの深度0.79ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-25°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかったが、底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。覆土下層で焼土を含む炭化物層を検出したが、床面は被熱しておらず、焼却・焼失した状況ではない。床面から高坏（１・２）が出土している。

遺物：土器1,100.8gが出土した。

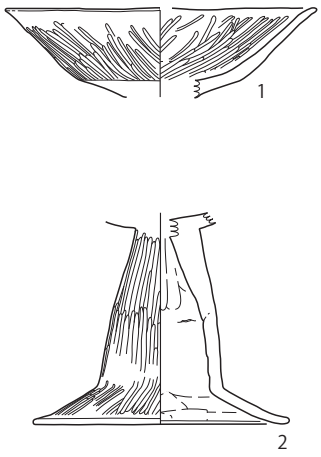
１・２は高坏である。１は内外面にヘラミガキが施される。２の脚部は内空、中膨の円錐状である。



1　褐色土(10YR4/4)　暗褐色土ブロックφ10～15mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　暗褐色土ブロックφ10～15mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ5～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土量、炭化物中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第498図　SI113



0　10cm
（1／4）

第499図　SI113出土遺物

第172表　SI113出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	床面	口　径：(16.4) 脚　径：　－ 器　高：　[4.7] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ	胎　土：長石・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部の1/4	
2	土師器 高坏	床面	口　径：　－ 脚　径：13.1 器　高：[11.2] 最大径：　－	外面：坏部ナデ、脚部ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ナデ、接合部シボリ、脚部ナデ、裾部ヘラナデ・ヨコナデ	胎　土：長石・石英・黒色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部～脚部の1/2	

SI114（第500 ～ 502図、第173表、図版63・104・105）

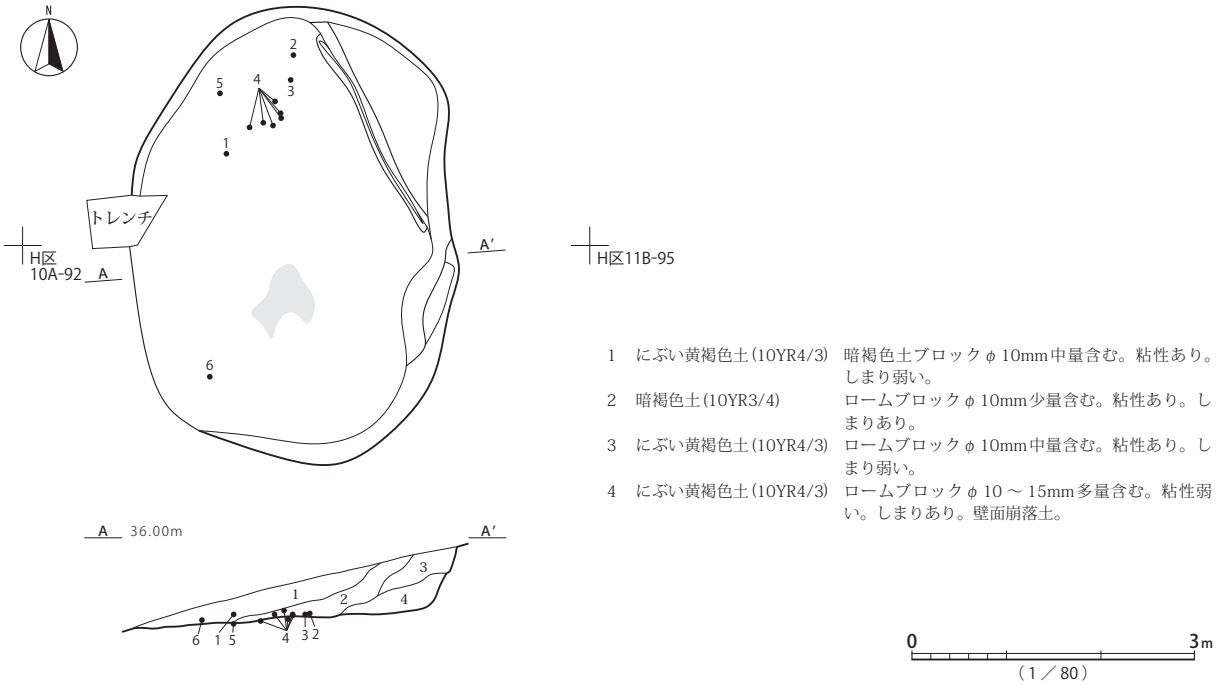
位置：H区10Ａ-83グリッドを中心とする台地の西向き急斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸4.84ｍ、副軸3.48ｍ、確認面からの深度1.05ｍ。**形態：**隅丸方形。尾根側の壁面は、崩落により変形する。**主軸方位：**Ｎ－Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は北東壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、中央付近がわずかに硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

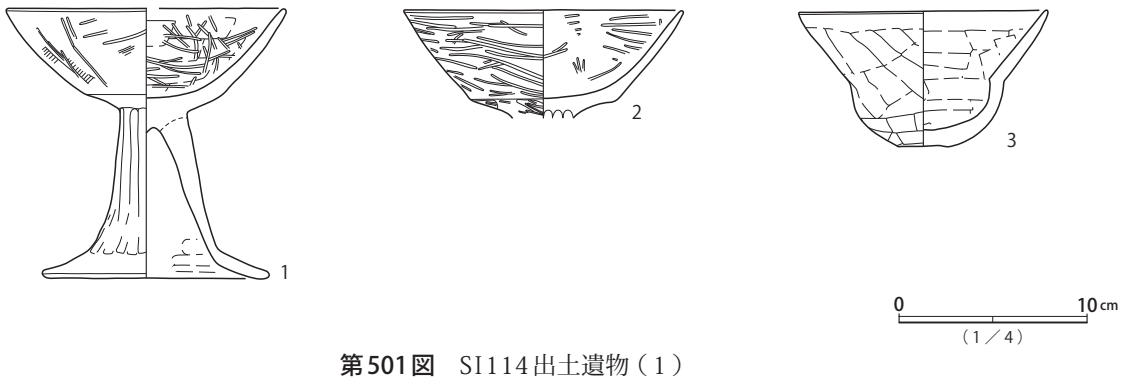
所見：周溝が検出されたが、炉、主柱穴は検出されなかった。床面から高坏（２）、鉢（３）、甕（４・５）が出土している。急斜面地のため覆土も急な角度で斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器4,492.1g、炭化米5.82gが出土した。

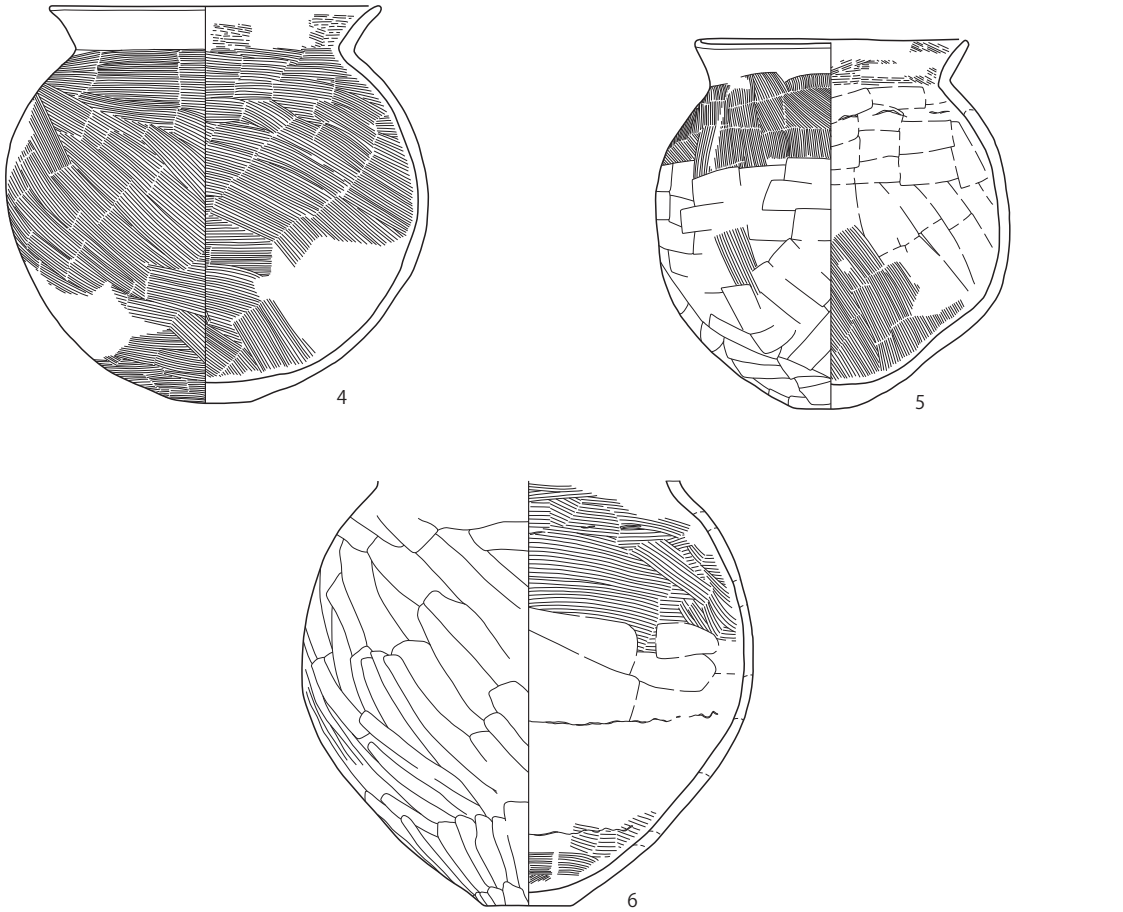
１・２は高坏、３は坩、４～６は甕である。１の脚部は内空、柱状に近い円錐状である。坏部は内外面にヘラミガキが施される。４は内外面がハケメ調整され、５は胴上部にハケメ調整を残す。



第500図　SI114



第501図　SI114出土遺物（１）



第502図　SI114出土遺物（２）

第173表　SI114出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(14.6) 脚　径：(11.4) 器　高：14.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ヘラミガキ、接合部ナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ後ヘラミガキ、脚部ナデ、裾部ヘラナデ・ヨコナデ	胎　土：石英・長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の1/2	
2	土師器 高坏	床面	口　径：14.6 脚　径：－ 器　高：[5.7] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、接合部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部のみほぼ完存	
3	土師器 坩	床面	口　径：13.0 底　径：2.5 器　高：7.2 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 甕	床面	口　径：17.4 底　径：4.1 器　高：21.0 最大径：22.4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハケメ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ハケメ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
5	土師器 甕	床面	口　径：14.4 底　径：－ 器　高：19.6 最大径：18.8	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ハケメ、胴部下半～底部ハケメ後ヘラケズリ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ハケメ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
6	土師器 甕	覆土下層	口　径：－ 底　径：4.6 器　高：22.5 最大径：23.9	外面：頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：頸部～胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラナデ、底部ハケメ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部の2/3	

SI115（第503 ～ 506図、第174 ～ 176表、図版63・105・112・113）

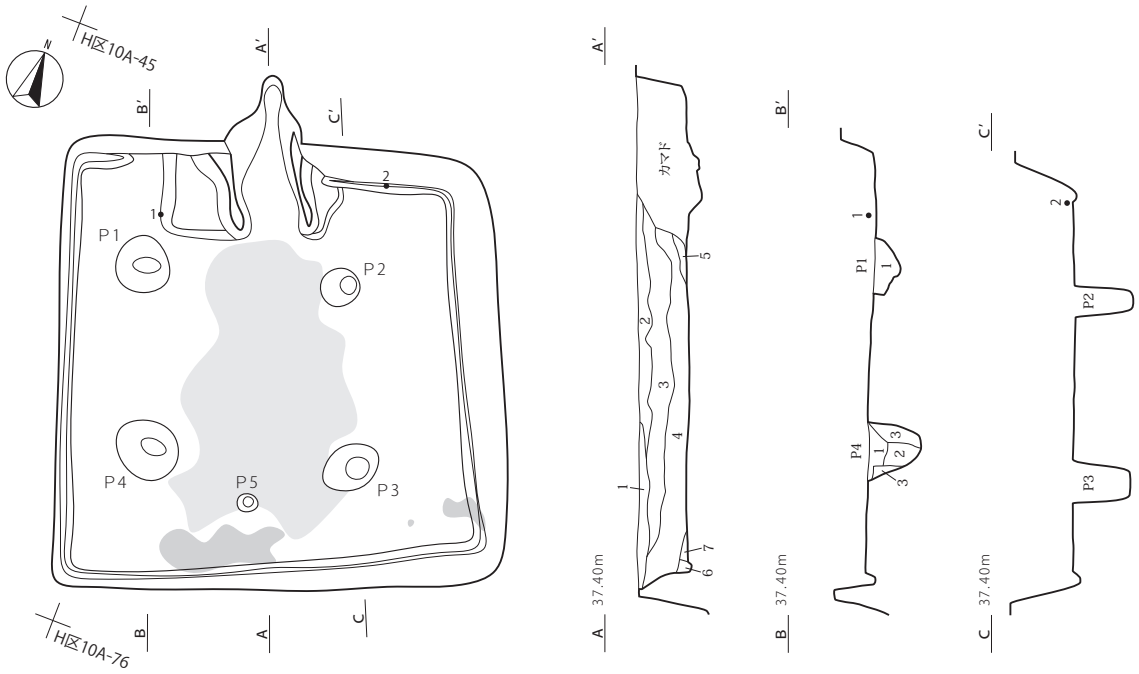
位置：H区10Ａ-56グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸5.48ｍ、副軸4.84ｍ、確認面からの深度0.99ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-21°-Ｗ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面をわずかに掘り込んで構築しており、煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から直線的に立ち上がり、壁面から約0.68m突出する。**施設：**ピットが５基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向1.84 ～ 2.04ｍ、副軸方向2.12 ～ 2.32ｍ。主柱穴はやや台形状に配置されている。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、カマド周辺から南壁にかけて硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド脇の床面から坏（１）が、周溝内から土製支脚（２）が出土している。

遺物：土器5,739.4g、土製品211.72g、石製品8.88gが出土した。

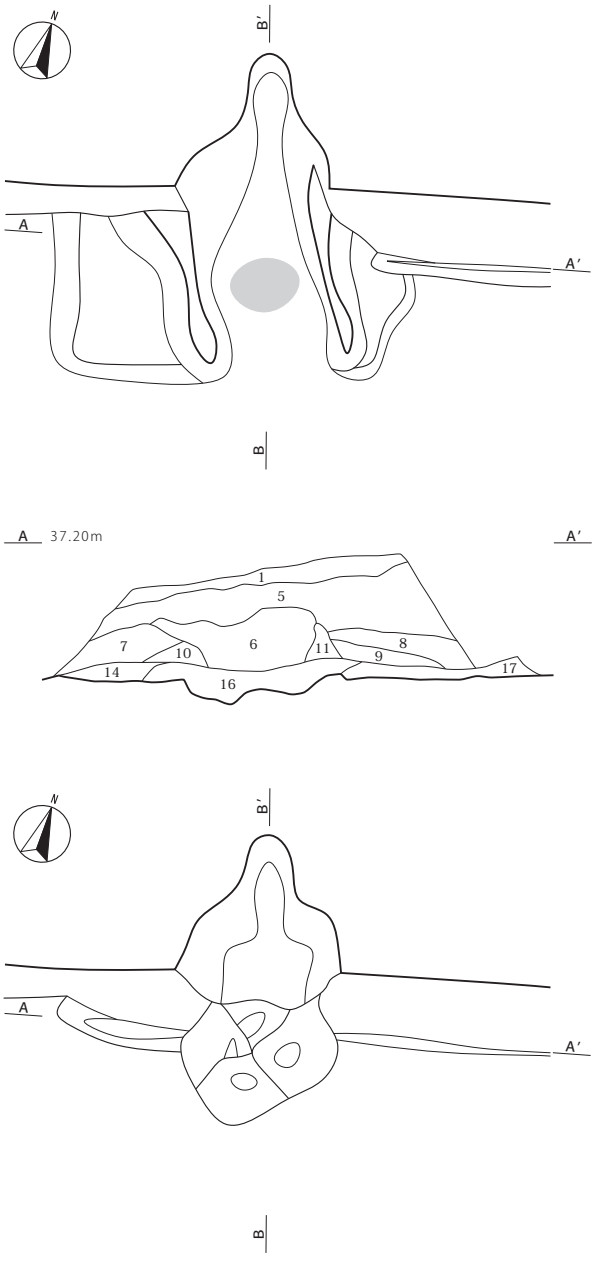
１は坏である。底部外面および内面にヘラミガキが施される。３は用途不明の石製品。表裏を研磨しており、下端は刃部として利用した可能性がある。



1　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土ブロックφ３～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　山砂φ３～５mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　山砂φ10～15mm中量、炭化物φ２～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土ブロックφ３～５mm、山砂、炭化物φ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまり弱い。周溝。
7　黄褐色土(2.5Y5/6)　粘性弱い。しまりあり。焼土層。

0　3m
（１／80）

第503図　SI115

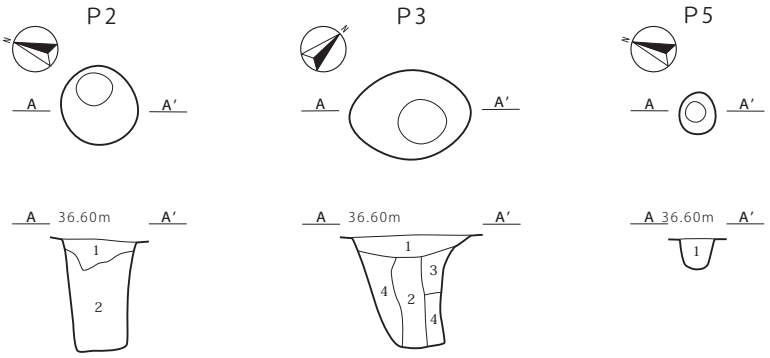


掘り方

1	暗褐色土(10YR3/4)	山砂φ３～５mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/3)	山砂φ10～15mm中量、炭化物φ２～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(10YR3/4)	褐色土ブロックφ３～５mm、山砂、炭化物φ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂φ５～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂φ２～５mm、焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	にぶい黄色土(2.5Y6/3)	山砂多量含む、褐色土ブロックφ10～20mm、焼土、炭化物φ２～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
7	暗褐色土(10YR3/4)	山砂φ1mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
8	暗褐色土(10YR3/4)	山砂φ1mm少量、焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
9	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂φ1mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
10	黄褐色土(2.5Y5/3)	山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
11	にぶい黄色土(2.5Y6/3)	山砂多量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
12	暗褐色土(10YR3/4)	粘性弱い。しまりあり。
13	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
14	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い。しまりあり。
15	明赤褐色土(2.5YR5/8)	粘性弱い。しまり強い。
16	褐色土(10YR4/4)	山砂φ２～3mm、焼土ブロックφ１～2mm、炭化物φ２～3mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
17	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第504図　SI115カマド



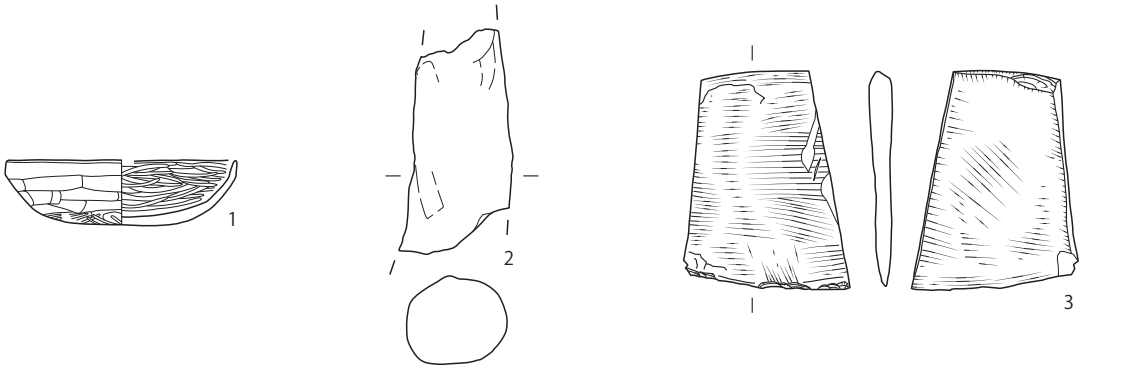
P2
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。

P3
1　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ１～３mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ロームブロックφ10～15mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。

P5
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第505図　SI115P2・P3・P5



第506図　SI115出土遺物

第174表　SI115出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	床面	口　径：(12.0) 底　径：　－ 器　高：　3.5 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の1/2	

第175表　SI115出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
2	支脚	周溝	長さ：[12.0]　幅：[6.1]　厚さ：4.9	211.7	円筒形

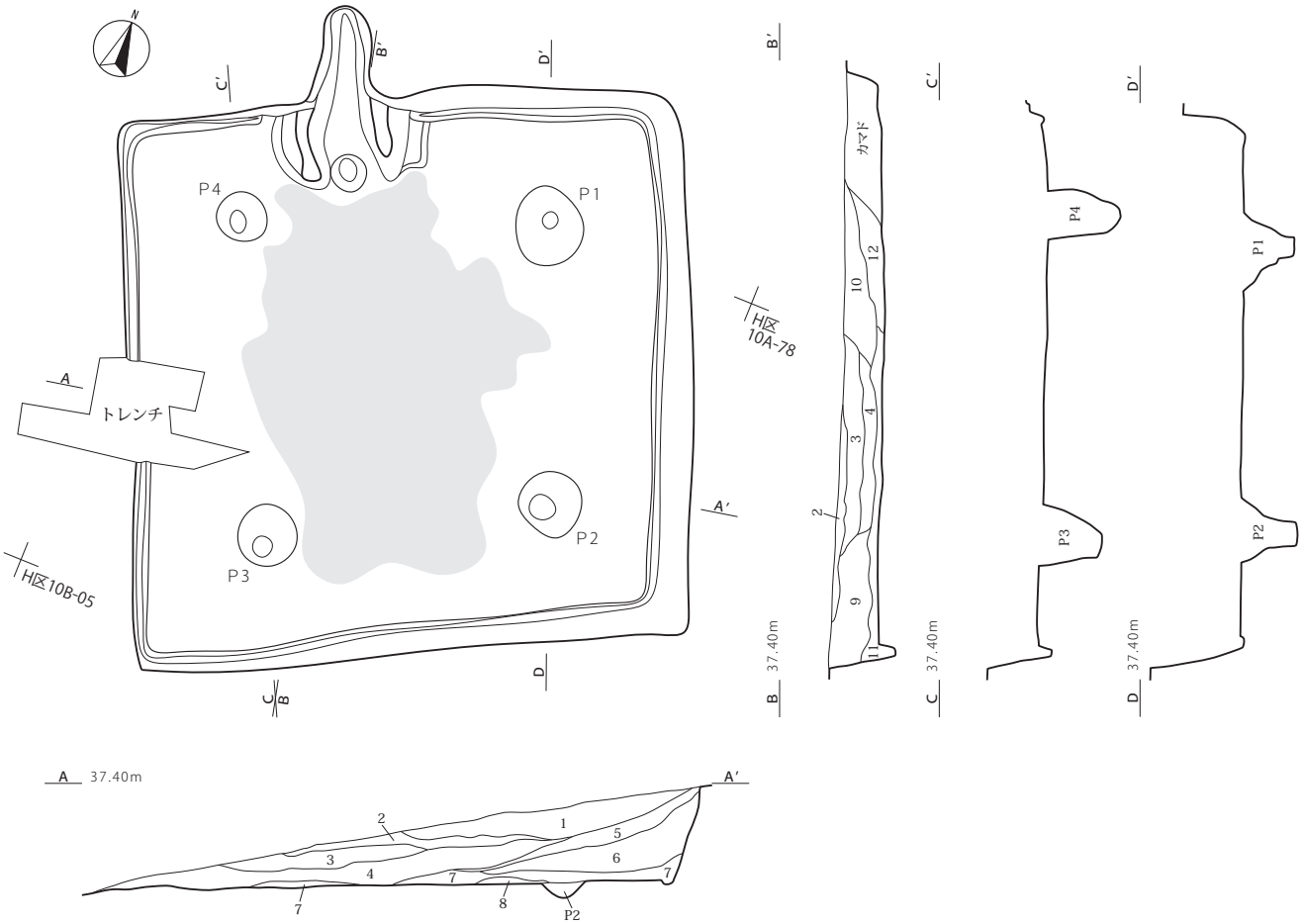
第176表　SI115出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
3	不明石製品	粘板岩	覆土下層	4.35	[3.25]	[0.45]	8.88	

SI116（第507 ～ 509図、第177表、図版63・105）

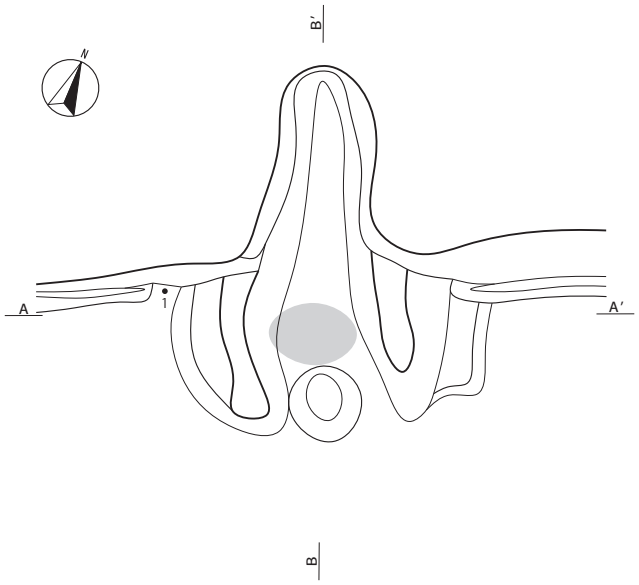
位置：H区10 A -86グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI117を切る。**規模：**主軸7.12 m、副軸6.16 m、確認面からの深度1.26 m。**形態：**方形。**主軸方位：**N -22°- W。**カマド：**北西壁やや南西寄りに位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。燃焼部は、著しく赤化・硬化している。煙道は燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約1.04m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向3.08 ～ 3.52 m、副軸方向3.16 ～ 3.32 m。主柱穴は、やや台形状に配置されている。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たず東側でハードローム層、西側でソフトローム層を直接使用しており、カマドの周辺から南壁にかけて硬化している。

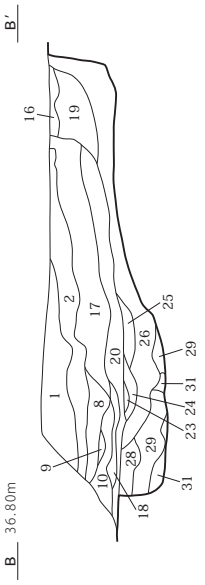


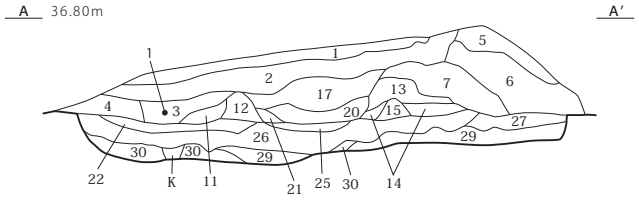
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～ 10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　褐色土ブロックφ５～ 10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ２～ 3mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土ブロックφ10 ～ 15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5　黒褐色土(10YR3/1)　炭化物φ３～ 5m、ロームブロック少量含む。粘性あり。しまり弱い。
6　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土ブロックφ10 ～ 15mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10 ～ 15mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ５～ 15mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
9　暗褐色土(10YR3/4)　褐色土ブロックφ10 ～ 15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
10　褐色土(7.5YR4/3)　褐色土ブロックφ10 ～ 15mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまり弱い。
12　暗褐色土(10YR3/4)　浅黄橙色山砂、焼土、炭化物を含む。粘性弱い。しまりあり。

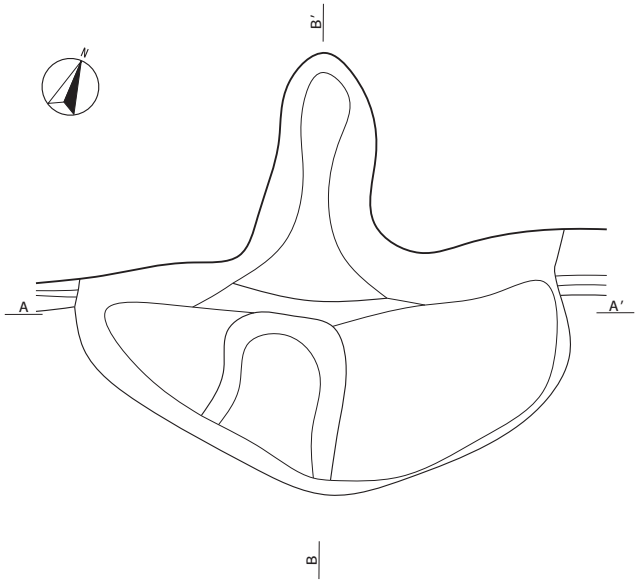
0　3m
（1／80）

第507図　SI116









掘り方

1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂、焼土、炭化物中量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR3/2)	焼土ブロックφ1mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土ブロックφ２～3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	炭化物φ２～3m微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂、焼土ブロックφ２～3m少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂中量、炭化物φ1mm、焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂φ10～20mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
9	明赤褐色土(5YR5/6)	焼土含む。
10	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂φ10～15mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
11	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	山砂少量含む。粘性なし。しまりあり。カマド袖。
12	明黄褐色砂(2.5Y7/6)	粘性なし。しまりあり。カマド袖。
13	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂少量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
14	黄褐色土(2.5Y5/3)	焼土ブロックφ10mm、山砂中量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
15	明黄褐色砂(2.5Y7/6)	粘性なし。しまりあり。カマド袖。
16	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土ブロックφ１～3mm少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
17	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	山砂多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
18	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	粘性なし。しまり弱い。
19	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土ブロックφ３～5mm、炭化物中量含む。粘性弱い。しまりあり。
20	灰黄褐色土(10YR5/2)	山砂多量、焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
21	明赤褐色土(2.5YR5/6)	焼土含む。粘性弱い。しまりあり。
22	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
23	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性なし。しまりなし。灰層。
24	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い。しまりあり。
25	黄褐色土(2.5Y5/8)	焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
26	褐色土(7.5YR4/3)	焼土ブロックφ10mm、山砂中量含む。粘性弱い。しまりあり。
27	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い。しまりあり。
28	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	山砂少量含む。粘性あり。しまりあり。
29	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
30	暗褐色土(7.5YR3/4)	粘性弱い。しまり弱い。
31	褐色土(10YR4/4)	粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

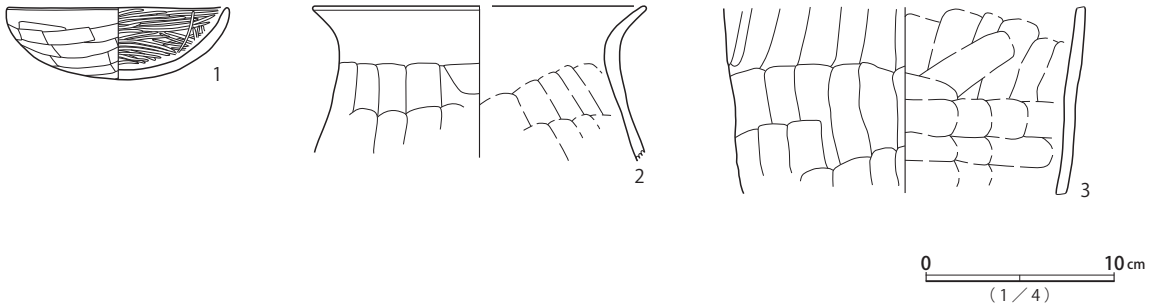
第508図　SI116カマド

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代終末期４段階（７世紀後葉）と考えられる。

所見：他の竪穴建物と比較して、規模が大きく掘り込みも深い。床面は完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。床面から甕（３）が出土している。覆土は尾根方向から漸位的に斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器8,069.4gが出土した。

１は坏、２・３は甕である。１は外面にヘラケズリが、内面はヘラミガキが施される椀形の坏である。



第509図　SI116出土遺物

第177表　SI116出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：11.6 底　径：－ 器　高：3.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラミガキ	胎　土：長石・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
2	土師器 甕	覆土下層	口　径：(17.3) 底　径：－ 器　高：[8.2] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
3	土師器 甕	床面	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[9.9] 最大径：－	外面：胴部ヘラケズリ 内面：胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部の破片	

SI117（第510・511図、第178表、図版63・105）

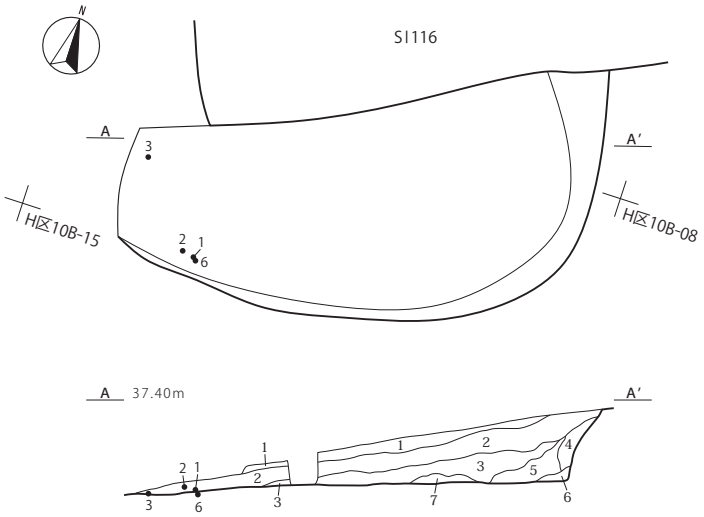
位置：H区10Ｂ-06グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI116に切られる。**規模：**主軸（2.66）m、副軸（5.24）m、確認面からの深度0.94ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-18°-Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。床面から高坏（１～３）、壺（６）が出土している。SI116によって大部分が削平されるが、残存部分からみても規模の大きな竪穴建物である。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器5,370.1g、須恵器7.0gが出土した。

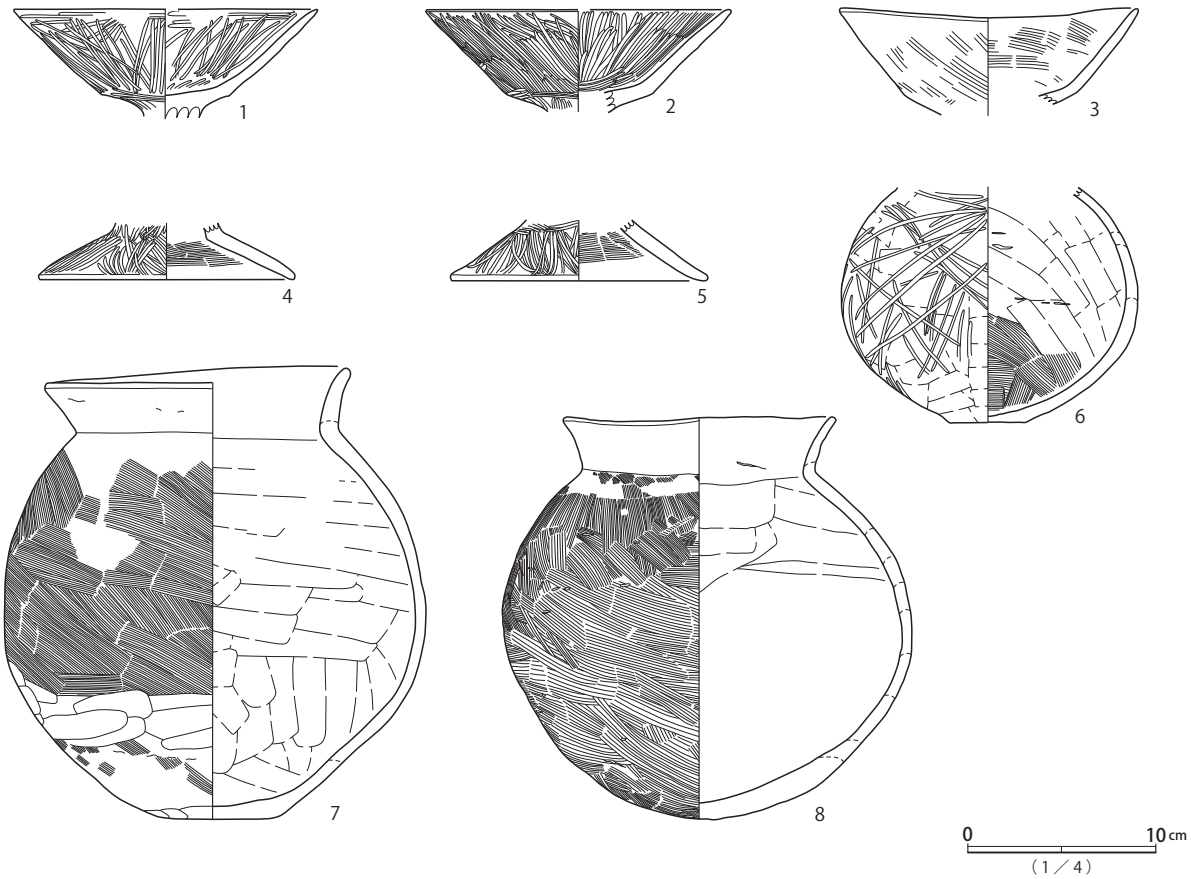
１～５は高坏、６は壺、７・８は甕である。１・２は内外面に縦位のヘラミガキが施される。７は胴部下半および底部にヘラケズリが施される。８の胴部外面は全面にハケメ調整が施される。



1　暗褐色土(10YR3/4)　炭化物φ２～５mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　暗褐色土ブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ２～３mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱い。しまり弱い。壁面崩落土。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黄褐色土ブロックφ５～15mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。
6　暗褐色土(10YR3/3)　炭化物φ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　炭化物φ10～15mm、焼土ブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第510図　SI117



0　10cm
（1／4）

第511図　SI117出土遺物

第178表　SI117出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	床面	口　径：(16.0) 脚　径：　－ 器　高：　[5.8] 最大径：　－	外面：口縁部～接合部ヘラミガキ 内面：口縁部～接合部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部の1/3	
2	土師器 高坏	床面	口　径：(16.0) 脚　径：　－ 器　高：　[5.4] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部～接合部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部～接合部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部～接合部の1/3	
3	土師器 高坏	床面	口　径：15.7 脚　径：　－ 器　高：　[5.7] 最大径：　－	外面：坏部ハケメ 内面：坏部ハケメ	胎　土：石英・長石・赤色粒・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部のみほぼ完存	
4	土師器 高坏	覆土上層	口　径：　－ 脚　径：(13.6) 器　高：　[3.0] 最大径：　－	外面：裾部ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：裾部ハケメ・ヨコナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：裾部の1/4	
5	土師器 高坏	覆土上層	口　径：　－ 脚　径：(13.6) 器　高：　[3.2] 最大径：　－	外面：裾部ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：裾部ハケメ・ヨコナデ	胎　土：白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：裾部の1/2	
6	土師器 壺	床面	口　径：　－ 底　径：　4.0 器　高：12.5 最大径：15.7	外面：胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：胴部ヘラナデ、底部ハケメ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部のみほぼ完存	
7	土師器 甕	確認調査	口　径：15.8 底　径：　4.3 器　高：24.0 最大径：22.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ハケメ後ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	外面・口縁部内面煤付着
8	土師器 甕	確認調査	口　径：14.1 底　径：　－ 器　高：21.3 最大径：21.5	外面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	

SI118（第512～514図、第179表、図版64・106）

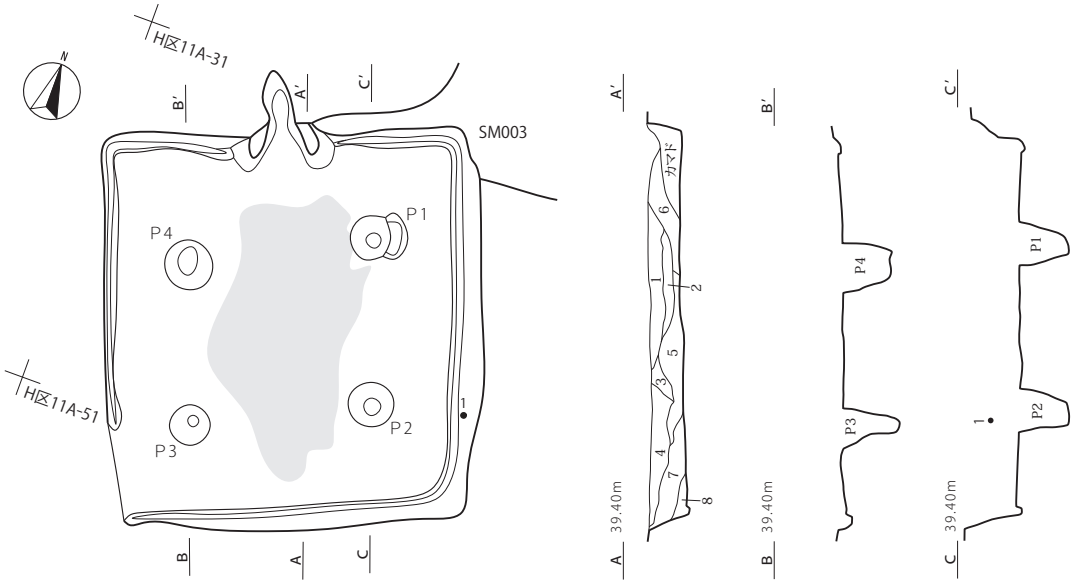
位置：H区11 A -42グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SK027を切り、SM003に切られる。**規模：**主軸4.88ｍ、副軸4.02ｍ、確認面からの深度0.99ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N -20°- W。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、壁面から約0.64m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向1.72ｍ、副軸方向1.96～2.04ｍ。周溝はカマドと南西隅で一部途切れるがほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：遺物が限られ断定はできないが、古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド内から甕（２）、甑（３・４）が出土している。

遺物：土器5,029.4g、須恵器29.8g、縄文土器63.0gが出土した。

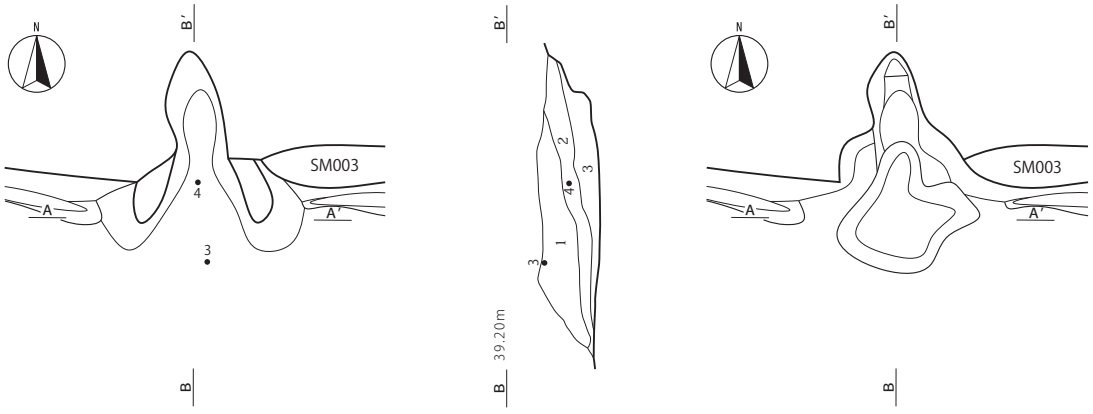
１～４・６は土師器で、１は鉢、２は甕、３・４は甑、６は坏である。５は須恵器の長頸壺である。１は内外面に横位のヘラミガキが施される。６は外面にヘラケズリが、内面には放射状暗文が施される。



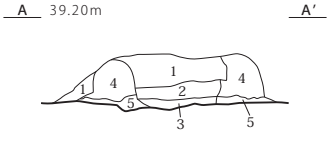
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ100mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　灰白色土含む。粘性あり。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。

0　3m
（1／80）

第512図　SI118



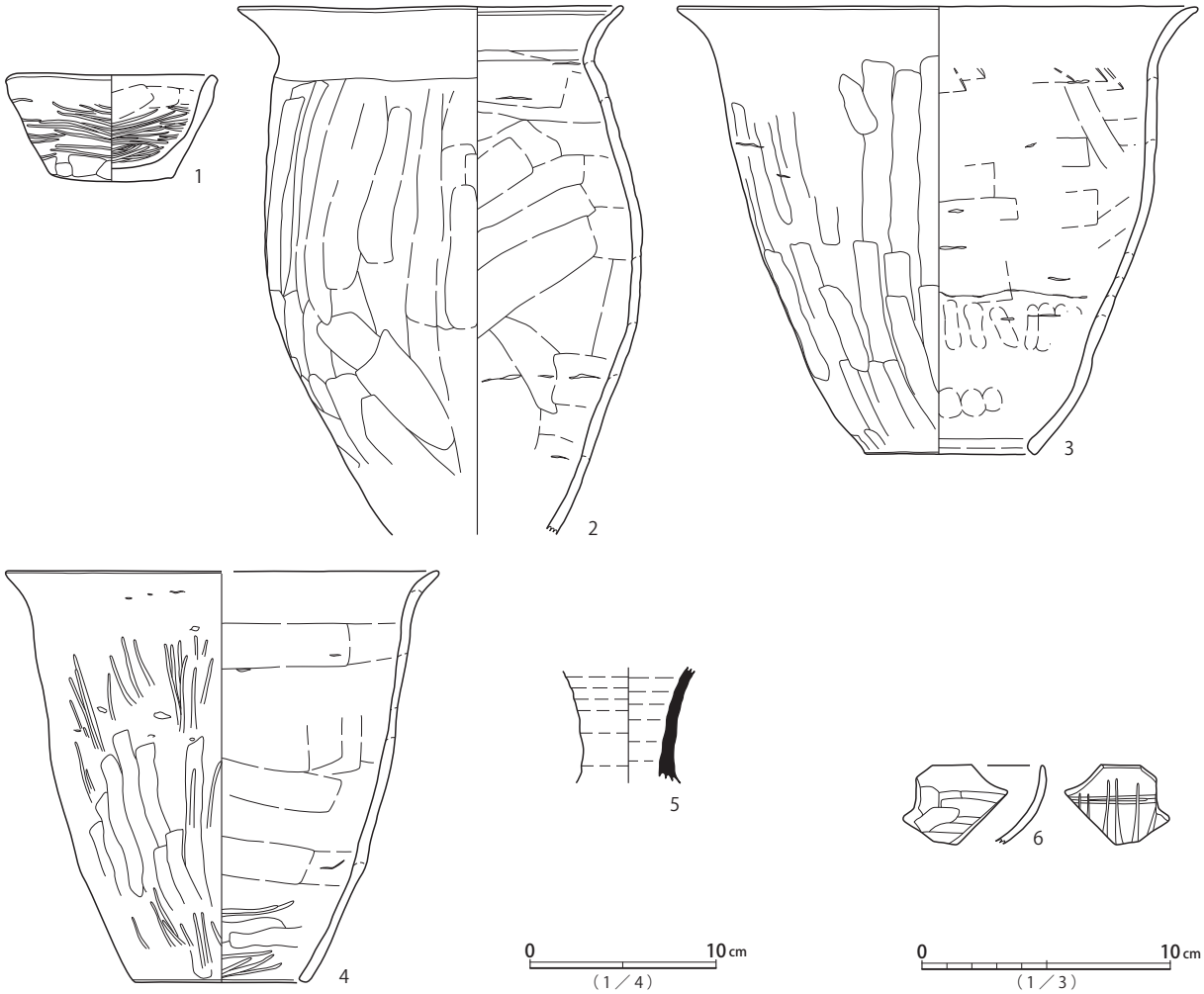
掘り方



1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　焼土ブロックφ1～3mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄橙色砂(10YR7/3)　粘性弱い。しまりあり。山砂層、カマド袖。
5　褐色土(10YR4/4)　焼土ブロックφ1～2mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。カマド袖。

0　1m
（1／40）

第513図　SI118カマド



第514図　SI118出土遺物

第179表　SI118出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土中層	口　径：10.6 底　径：6.4 器　高：5.8 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラナデ、体部下半～底部ヘラミガキ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～底部の4/5	
2	土師器 甕	カマド	口　径：20.4 底　径：－ 器　高：[28.3] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の4/5	
3	土師器 甑	カマド	口　径：27.6 底　径：9.0 器　高：24.0 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ・指頭圧痕	胎　土：長石・石英・白色粒・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 甑	カマド	口　径：(22.8) 底　径：(9.2) 器　高：22.0 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～底部	
5	須恵器 長頸壺	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[6.2] 最大径：－	外面：頸部ロクロ調整 内面：頸部ロクロ調整	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：灰黄 残存度：頸部の1/4	頸部内外面に自然釉付着
6	土師器 坏	覆土下層	口　径：－ 底　径：－ 器　高：[3.2] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ヘラミガキ、放射状暗文	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～体部の破片	

SI119（第515 ～ 517図、第180表、図版64・106）

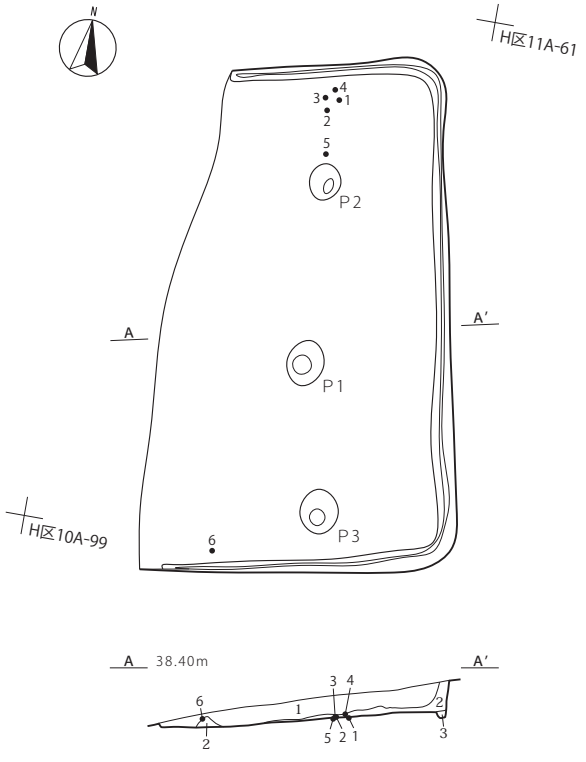
位置：H区11 A -70グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI044を切る。**規模：**主軸5.44ｍ、副軸（3.36）ｍ、確認面からの深度0.53ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N -10°- W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。Ｐ２・Ｐ３は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は3.52ｍ。周溝は残存部分では全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から、古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

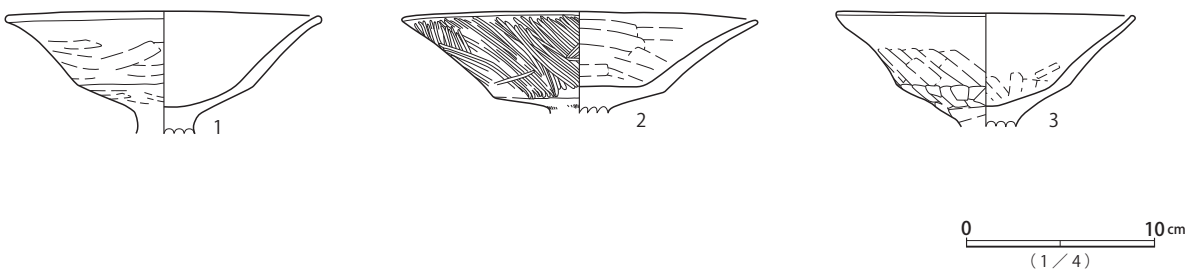
所見：主柱穴、周溝が検出されたが、炉は検出されなかった。床面から高坏（１～４）、甕（５）が出土している。

遺物：土器4,774.8gが出土した。

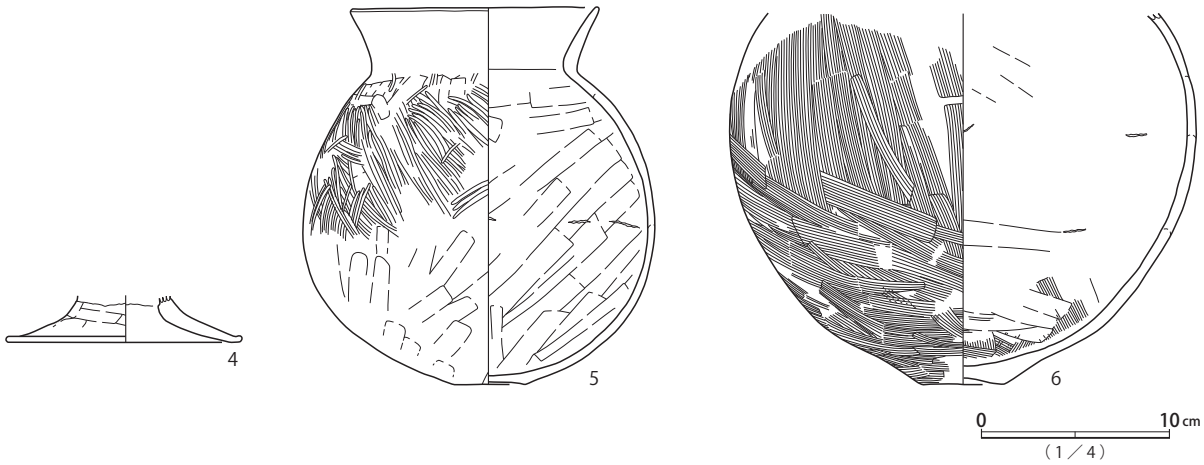
１～４は高坏で、４は脚部とした。５・６は甕である。１・３は外面にヘラナデが、２は外面にヘラミガキが施される。５は胴上部にヘラミガキが施される。６の外面はハケメ調整である。



第515図　SI119



第516図　SI119出土遺物（１）



第517図　SI119出土遺物（２）

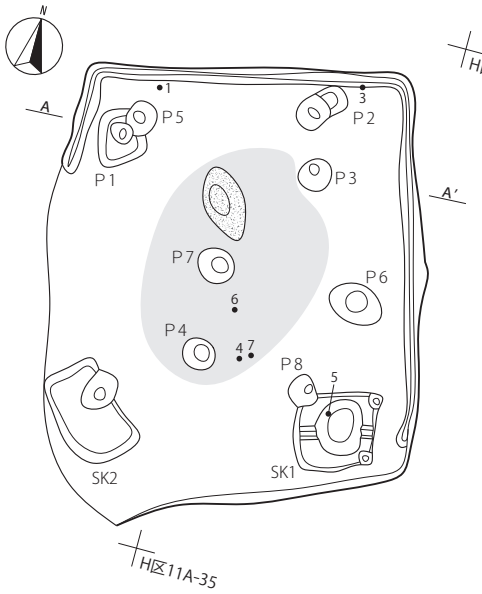
第180表　SI119出土土器観察表

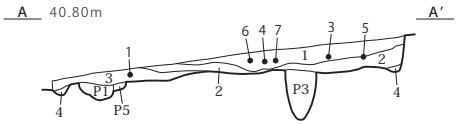
単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	床面	口　径：16.5 脚　径：－ 器　高：[6.5] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	
2	土師器 高坏	床面	口　径：18.6 脚　径：－ 器　高：[5.4] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、接合部ハケメ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	
3	土師器 高坏	床面	口　径：15.6 脚　径：－ 器　高：[6.1] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、接合部ヘラケズリ・ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：坏部の4/5	
4	土師器 高坏	床面	口　径：－ 脚　径：12.2 器　高：[2.5] 最大径：－	外面：裾部ヘラナデ・ヨコナデ 内面：裾部ナデ・ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：裾部の2/3	
5	土師器 甕	床面	口　径：12.9 底　径：3.7 器　高：20.0 最大径：18.6	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ後ヘラミガキ、胴部下半～底部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
6	土師器 甕	覆土下層	口　径：－ 底　径：(4.4) 器　高：[19.7] 最大径：(24.8)	外面：胴部～底部ハケメ 内面：胴部ヘラナデ、底部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/3	

SI120（第518 ～ 521図、第181表、図版64・106・107）

位置：H区11 A -15グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI049を切る。**規模：**主軸（4.92）m、副軸（4.08）m、確認面からの深度0.58 m。**形態：**方形。**主軸方位：**N -15°-W。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.80 m、短軸0.40 mで浅く窪む。**施設：**ピット８基、土坑２基が検出された。Ｐ３・Ｐ８は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は2.32 m。SK1・SK2は貯蔵穴である。ともに平面形態は方形で長軸0.84 ～ 1.08 m、短軸0.68 ～ 0.84 m。SK1は東西方向に浅い溝状の段と、東側の隅に小さなピットがある。周溝は北西隅から東壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央付近が硬化している。

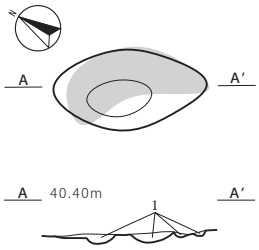




1　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、焼土ブロックφ５～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ10～30mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。周溝。

0　3m
（1／80）

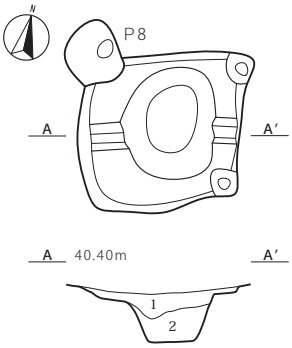
第518図　SI120



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土ブロックφ1mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第519図　SI120炉



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

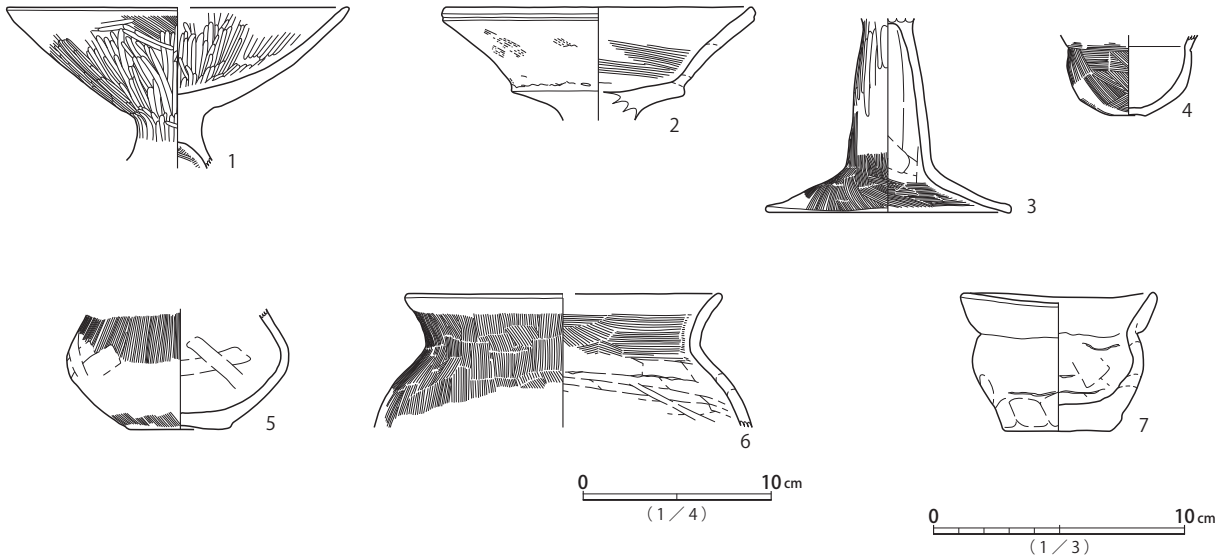
第520図　SI120SK1

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：炉、主柱穴、貯蔵穴、周溝が検出された。覆土は尾根方向から緩く斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器4,737.3g、縄文土器4.0gが出土した。

１～３は高坏、４・５は鉢、６は甕、７はミニチュア壺である。３の脚部は内空、柱状に近い円錐状である。裾部にはハケメ調整を残す。４～６は外面にハケメ調整が施される。



第521図　SI120出土遺物

第181表　SI120出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(18.0) 脚　径：　－ 器　高：　[8.5] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ハケメ後ヘラミガキ、脚部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、脚部ハケメ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～脚部の2/3	
2	土師器 高坏	確認調査	口　径：16.2 脚　径：　－ 器　高：　[6.0] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～接合部の4/5	
3	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(12.8) 器　高：[10.3] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ、裾部ハケメ・ヨコナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の2/3	
4	土師器 鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　1.8 器　高：　[4.3] 最大径：　－	外面：頸部～底部ハケメ 内面：頸部ヨコナデ、胴部～底部ナデ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒・赤色粒・石英 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：頸部～底部の4/5	
5	土師器 鉢	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　5.5 器　高：　[6.4] 最大径：11.8	外面：胴部上半ハケメ後ヘラナデ、胴部下半ナデ、底部ハケメ・ナデ 内面：胴部上半ナデ、胴部下半～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：肩部～底部のみ完存	
6	土師器 甕	覆土下層	口　径：(16.6) 底　径：　－ 器　高：　[7.1] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～胴部の破片	
7	土師器 ミニチュア 壺	覆土下層	口　径：　7.6 底　径：　4.3 器　高：　5.5 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ナデ・指頭圧痕 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	

SI121（第522 ～ 526図、第182表、図版64・65・107）

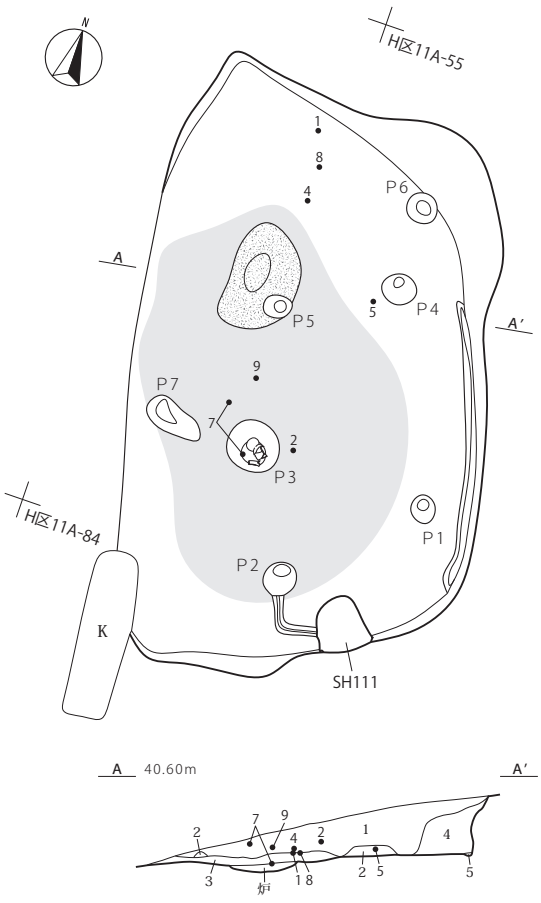
位置：H区11 A -75グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸6.60ｍ、副軸（4.08）ｍ、確認面からの深度0.84ｍ。**形態：**小判形。**主軸方位：**N -19°- W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。規模は比較的大きく長軸1.16ｍ、短軸0.76ｍで浅く窪む。**施設：**ピットが７基検出された。Ｐ１・Ｐ４は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は2.40ｍ。Ｐ２から南壁側にＬ字状の溝が伸びる。周溝は東壁でわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

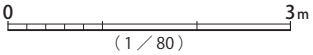
所見：炉、主柱穴、周溝が検出された。Ｐ３から広口壺（６）、壺（７）が出土している。覆土は尾根側に壁面の崩落土と単純な黒褐色土が堆積しており、短期間に埋没した状況を示す。

遺物：土器14,052.3g、縄文土器35.0g、石器31.0gが出土した。

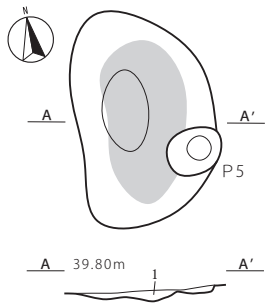
１～３は鉢、４・５は高坏、６は広口壺、７は壺、８・９は甕である。１は内面にわずかにヘラミガキが施される。３は外面および口縁部内面にハケメ調整が施される。５は内空、柱状に近い円錐状の脚部である。７はハケメ調整ののちにヘラナデが施され、８はハケメ調整ののちにヘラケズリが施される。



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗赤褐色土(5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。周溝。



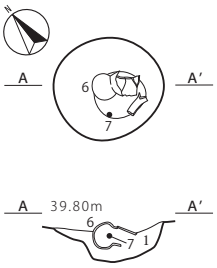
第522図　SI121



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　焼土ブロックφ１～３mm、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（１／40）

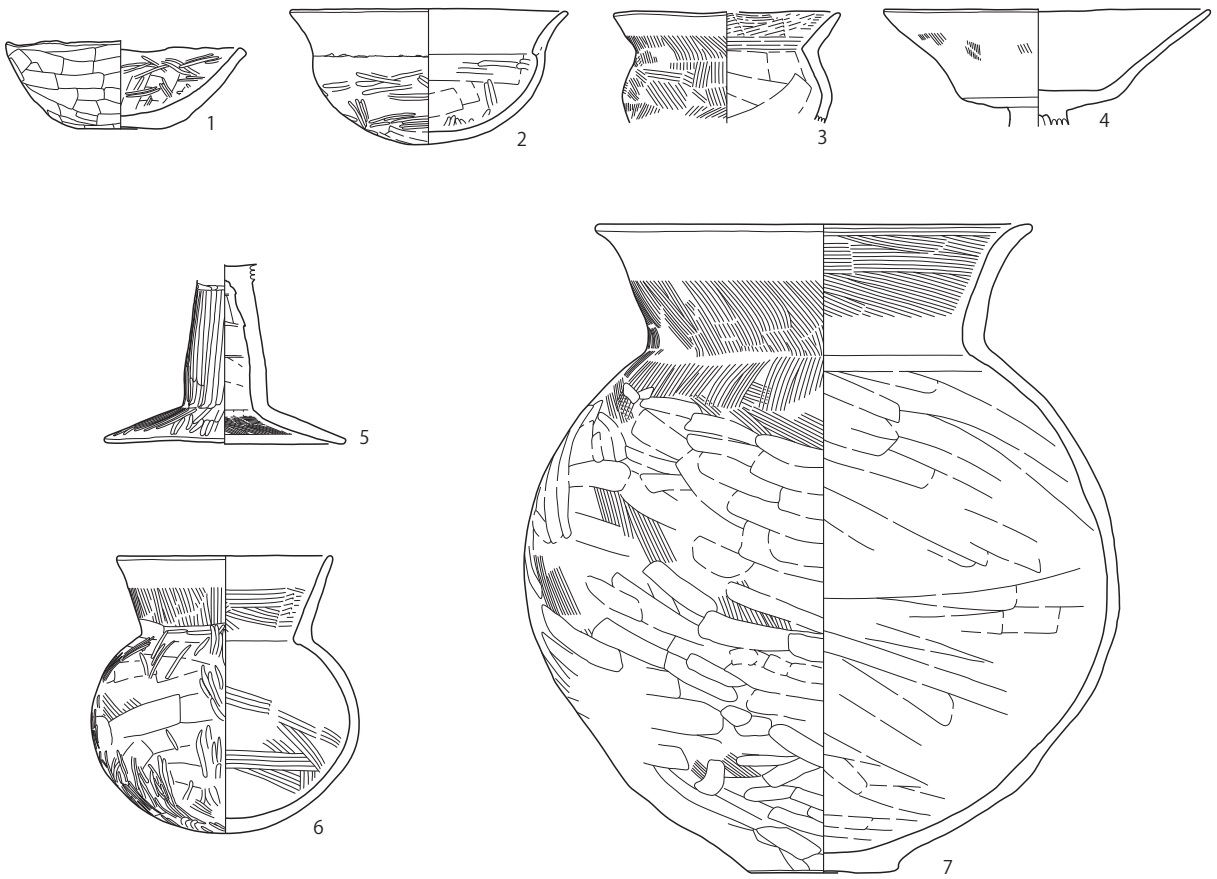
第523図　SI121炉



1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ10～20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

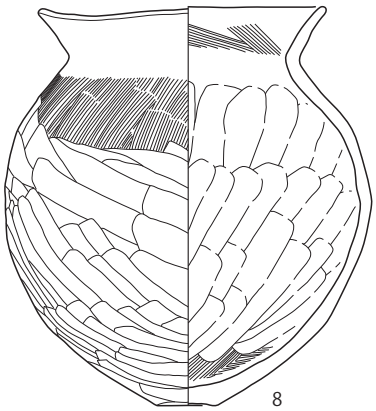
0　1m
（１／40）

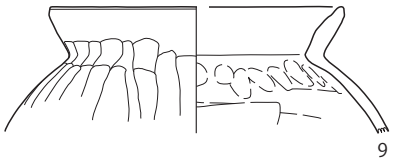
第524図　SI121P3遺物出土状況

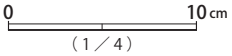


0　10cm
（１／４）

第525図　SI121出土遺物（１）







第526図　SI121出土遺物（２）

第182表　SI121出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土下層	口　径：12.3 底　径：4.5 器　高：4.7 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
2	土師器 鉢	覆土中層	口　径：14.6 底　径：－ 器　高：7.2 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 鉢	覆土上層	口　径：(11.9) 底　径：－ 器　高：[5.9] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～体部ハケメ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の1/2	
4	土師器 高坏	覆土下層	口　径：17.1 脚　径：－ 器　高：[6.2] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ、接合部シボリ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	
5	土師器 高坏	覆土下層	口　径：－ 脚　径：12.6 器　高：[9.5] 最大径：－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラナデ・ハケメ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の1/2	
6	土師器 広口壺	P3覆土	口　径：11.2 底　径：－ 器　高：14.7 最大径：14.2	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部～胴部上半ハケメ後ヘラナデ後ヘラミガキ、胴部下半～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部～底部ハケメ	胎　土：白色粒・長石・石英・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
7	土師器 壺	P3覆土・ 覆土中層	口　径：22.6 底　径：7.8 器　高：34.3 最大径：31.6	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部上半ハケメ後ヘラナデ、胴部下半ハケメ後ヘラケズリ 内面：口縁部ハケメ、頸部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
8	土師器 甕	覆土下層	口　径：14.9 底　径：3.1 器　高：21.1 最大径：19.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ナデ、胴部ヘラナデ、底部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
9	土師器 甕	覆土中層	口　径：(15.4) 底　径：－ 器　高：[6.7] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部指頭圧痕・ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

SI122（第527 ～ 530図、第183表、図版65・107・108）

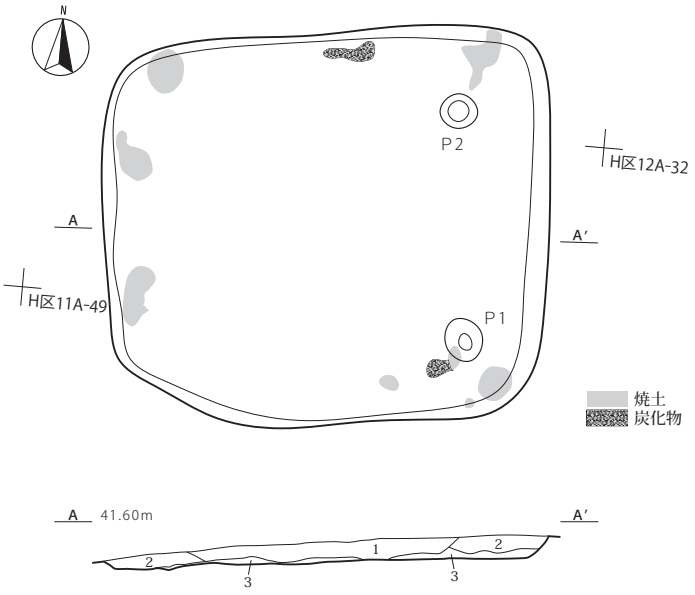
位置：H区12 A -30グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI060を切る。**規模：**主軸4.28ｍ、副軸4.76ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N－5°－W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土は炭化物と焼土を含んだ暗褐色土が浅い摺鉢状に堆積し、その中央の窪みに漸位的な黒褐色土が堆積する。床面の近くから、炭化木材や焼土塊が検出されたが、床面は被熱していない。また、覆土中から高坏（１～９）、広口壺（10 ～ 14）、甕（15 ～ 18）が出土し、２・３・10は北東隅からの出土で、ほぼ完形の状態であった。炉などがなく、硬化面も認められなかった点を含めて、他と性格の異なる竪穴建物の可能性がある。

遺物：土器12,268.3gが出土した。

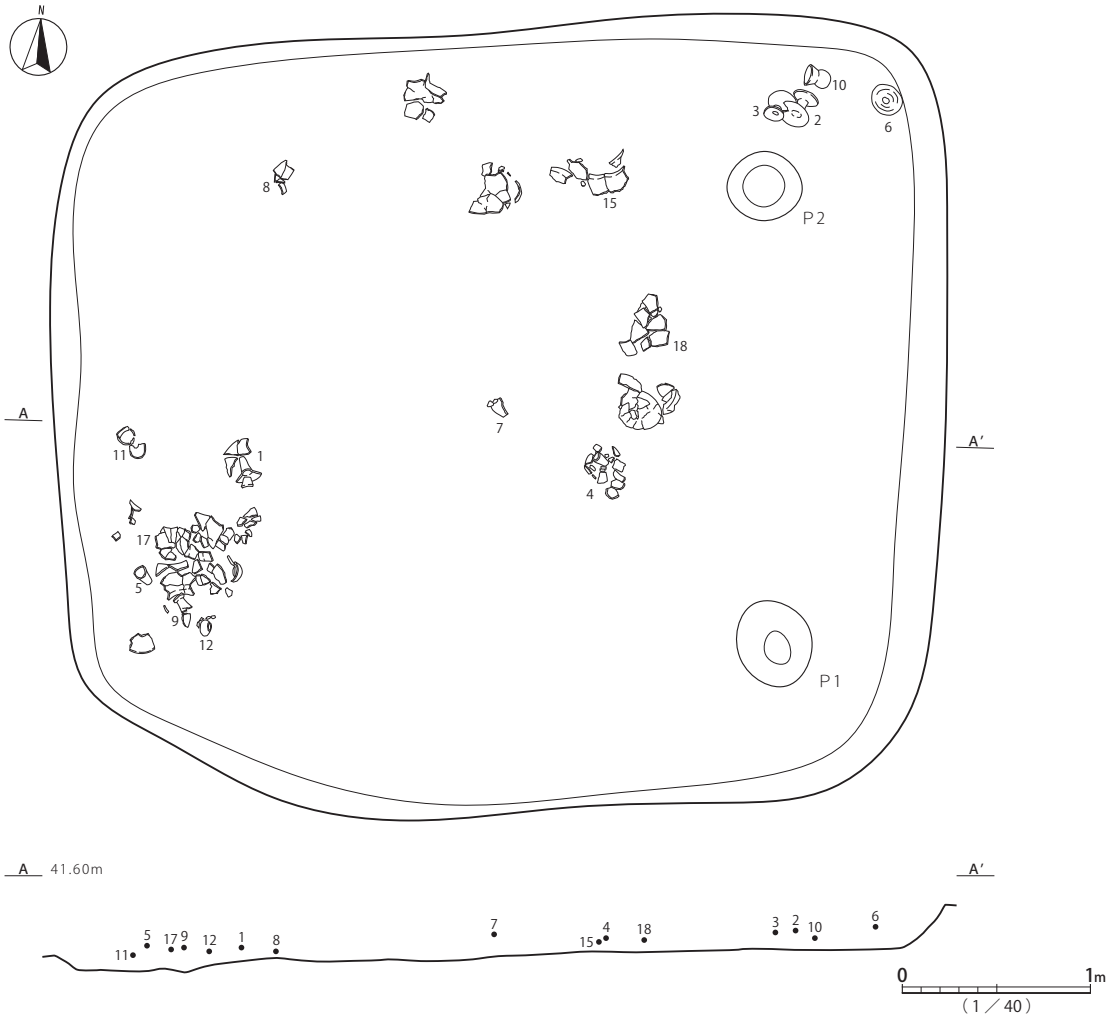
１～９は高坏、10 ～ 14は広口壺、15 ～ 18は甕である。高坏の脚部はいずれも内空ではあるが、柱状に近い円錐状のもの（１・４・８・９）と、中膨状のもの（２・３・５・７）がある。10は口縁部の内外面にハケメ調整がわずかに残存する。甕は15がヘラナデ調整、16 ～ 18はハケメ調整ののちに部分的にヘラミガキが施される。



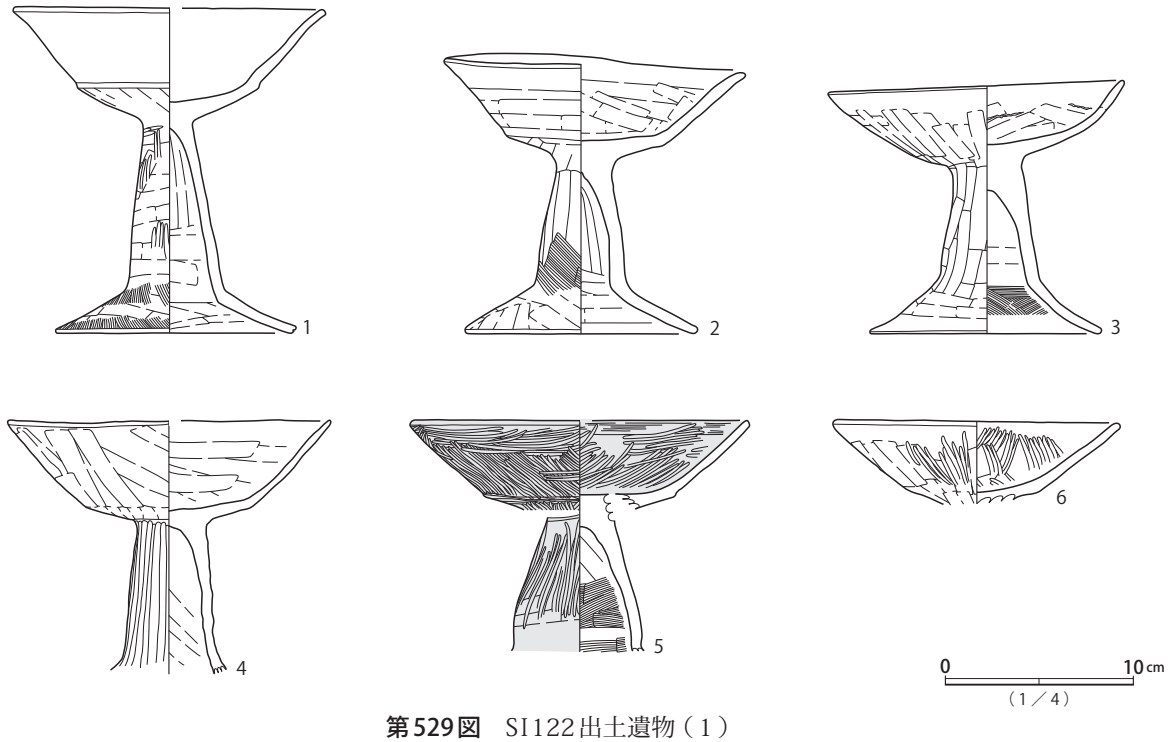
1　黒褐色土(7.5YR2/2)　ローム粒子、焼土ブロックφ1mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ローム粒子、焼土、炭化物φ1mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

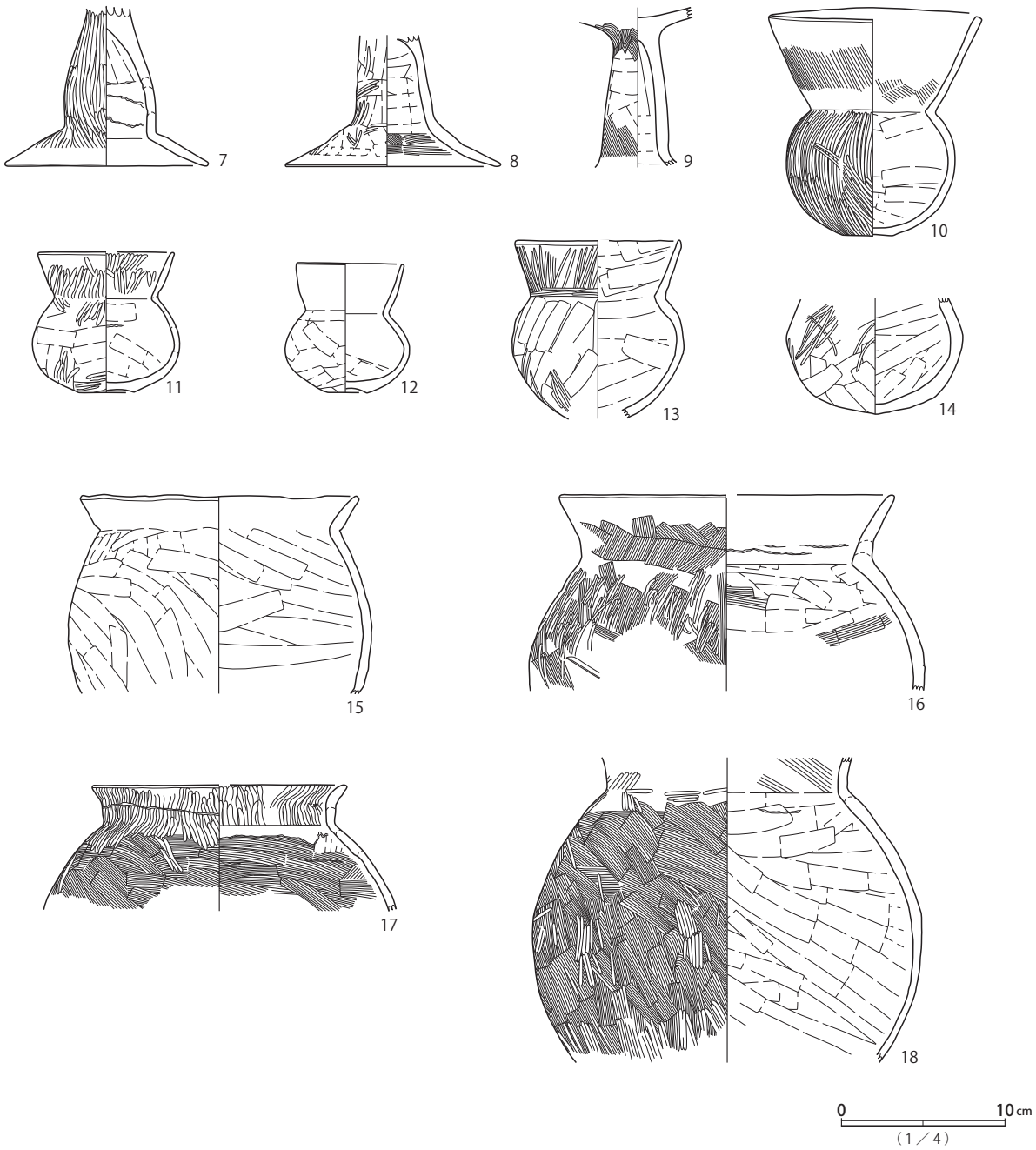
第527図　SI122



第528図　SI122遺物出土状況



第529図　SI122出土遺物（1）



第530図　SI122出土遺物（２）

第183表　SI122出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(16.4) 脚　径：12.4 器　高：17.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ、接合部ヘラナデ、脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヘラナデ後ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ナデ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～裾部の4/5	
2	土師器 高坏	覆土下層	口　径：16.0 脚　径：12.1 器　高：14.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ後ハケメ、裾部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ後ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 高坏	覆土下層	口　径：15.5 脚　径：12.1 器　高：13.4 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ヘラナデ・ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、裾部ハケメ後ヨコナデ	胎　土：石英・長石・赤色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
4	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(17.0) 脚　径：　－ 器　高：[13.4] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部～脚部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～脚部の2/3	
5	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(17.8) 脚　径：　－ 器　高：[12.2] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部ハケメ、坏部ヘラミガキ、赤彩、接合部シボリ、脚部ヘラナデ後ハケメ	胎　土：石英・長石・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～脚部の1/3	
6	土師器 高坏	覆土下層	口　径：14.8 脚　径：　－ 器　高：[4.5] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐～橙 残存度：口縁部～接合部のみ完存	
7	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(12.2) 器　高：[9.6] 最大径：　－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヘラミガキ・ヨコナデ 内面：接合部シボリ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の2/3	
8	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：(12.4) 器　高：[8.0] 最大径：　－	外面：脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ヘラケズリ・ヘラナデ、裾部ハケメ・ヨコナデ	胎　土：長石・赤色粒・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の1/2	
9	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：　－ 器　高：[9.6] 最大径：　－	外面：接合部ハケメ、脚部ヘラナデ後ハケメ 内面：接合部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ後ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：接合部～脚部のみ完存	
10	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：12.6 底　径：3.1 器　高：13.9 最大径：　－	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラミガキ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
11	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：(8.2) 底　径：(3.4) 器　高：8.6 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	
12	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：6.4 底　径：2.4 器　高：7.9 最大径：7.5	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
13	土師器 広口壺	覆土上層	口　径：(10.0) 底　径：　－ 器　高：[10.8] 最大径：(10.4)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	
14	土師器 広口壺	覆土上層・下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[7.0] 最大径：(10.6)	外面：胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：胴部～底部ヘラナデ	胎　土：白色粒・長石・石英 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：胴部～底部の2/3	
15	土師器 甕	覆土下層	口　径：16.6 底　径：　－ 器　高：[12.0] 最大径：18.5	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・赤色粒・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	
16	土師器 甕	覆土下層	口　径：(20.2) 底　径：　－ 器　高：[11.9] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ後ハケメ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の破片	
17	土師器 甕	覆土下層	口　径：(15.4) 底　径：　－ 器　高：[7.7] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部～胴部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：白色粒・石英・長石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の破片	
18	土師器 甕	覆土下層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[18.5] 最大径：23.6	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ後ハケメ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～胴部の1/2	

SI123（第531 ～ 533図、第184表、図版65・108・109）

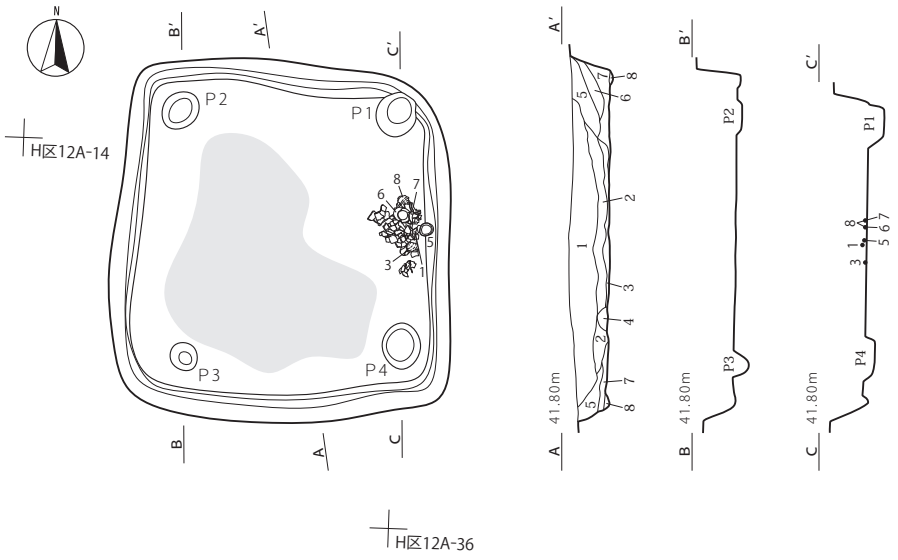
位置：H区12 A -15グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI064を切る。**規模：**主軸3.86ｍ、副軸3.64ｍ、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ－２°－Ｗ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.64ｍ、副軸方向2.32ｍ。周溝は全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、中央の広い範囲が硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代中期４段階（５世紀後葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。主柱穴、周溝が検出されたが、炉は検出されなかった。主柱穴は壁面のコーナー付近に位置しており、このような配置の竪穴建物は本調査区では他にみられない。東壁沿い中央の床面から高坏（１）、鉢（３・５）、甕（６～８）がまとまって出土している（第532図）。覆土は下層が斜堆積するが、上層は炭化物とロームブロックを含む黒色土が堆積しており、自然埋没後の中央にできた窪みを人手によって埋め均したと考えられる。

遺物：土器9,697.4gが出土した。

１は高坏、２～５は鉢、６～９は甕である。４・５は口縁部が外反し、内面にはハケメ調整が施されている。６は胴部外面にヘラナデがわずかに見られ、９は頸部にヘラナデが施される。７・８の胴部外面はハケメ調整のみである。



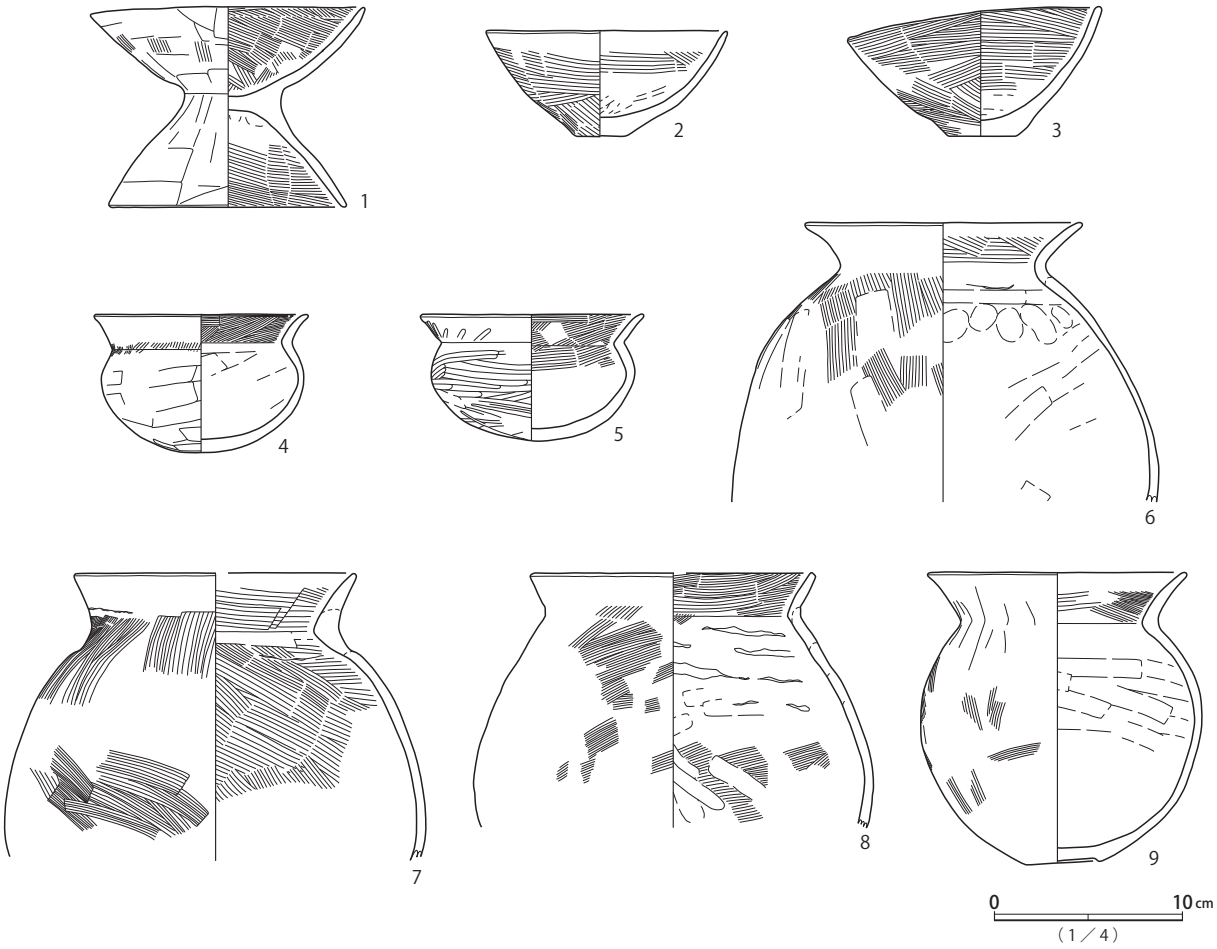
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ10 ～ 20mm中量、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックφ5 ～ 10mm中量、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックφ10 ～ 20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
8　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。周溝。

0　3m
（１／80）

第531図　SI123



第532図　SI123遺物出土状況



第533図　SI123出土遺物

第184表　SI123出土土器観察表

単位：cm

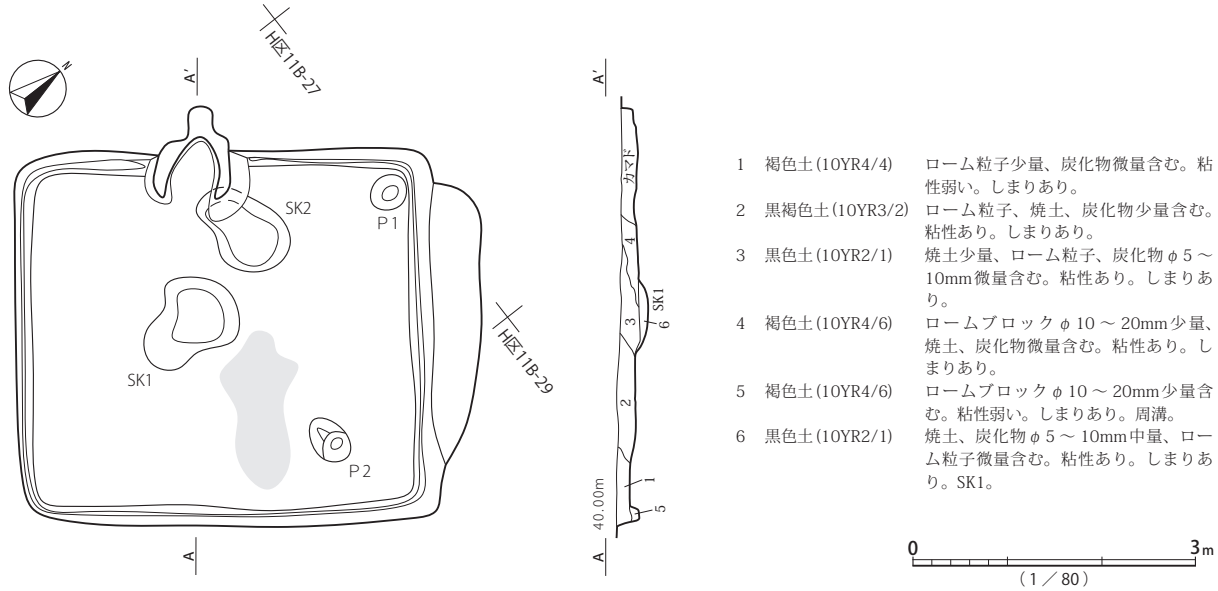
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	床面	口　径：14.4 脚　径：12.4 器　高：10.6 最大径：－	外面：口縁部～接合部ハケメ後ヘラナデ、脚部～裾部ヘラケズリ 内面：坏部ハケメ、接合部指頭圧痕、脚部～裾部ハケメ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 鉢	覆土上層	口　径：12.6 底　径：2.4 器　高：5.6 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、底部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
3	土師器 鉢	床面	口　径：13.4 底　径：3.5 器　高：6.9 最大径：－	外面：口縁部～底部ハケメ 内面：口縁部～体部ハケメ、底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
4	土師器 鉢	覆土上層	口　径：11.2 底　径：－ 器　高：7.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ハケメ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
5	土師器 鉢	床面	口　径：11.6 底　径：－ 器　高：6.7 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～体部ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ハケメ、体部～底部ナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	
6	土師器 甕	床面	口　径：14.4 底　径：－ 器　高：[14.7] 最大径：22.5	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部～胴部ヘラナデ・指頭圧痕	胎　土：白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の1/2	
7	土師器 甕	床面	口　径：(14.8) 底　径：－ 器　高：[15.2] 最大径：(22.2)	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部ヘラナデ、胴部ハケメ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の1/3	
8	土師器 甕	床面	口　径：(14.6) 底　径：－ 器　高：[13.5] 最大径：(21.0)	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハケメ 内面：口縁部～頸部ハケメ、胴部ハケメ後ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～胴部の1/2	
9	土師器 甕	覆土上層・下層	口　径：13.5 底　径：4.0 器　高：15.5 最大径：15.0	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部～底部ハケメ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ・ハケメ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：口縁部～底部の2/3	

SI124（第534 ～ 536図、図版65・66）

位置：H区11 B -38グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI059を切る。**規模：**主軸4.44 m、副軸（4.56）m、確認面からの深度0.57 m。**形態：**方形。尾根側の壁面は、崩落により変形する。**主軸方位：**N -52°-W。**カマド：**北西壁やや南西寄りに位置する。壁面を掘り込んで構築しており煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から直線的に立ち上がり、壁面から約0.44m突出する。**施設：**ピット２基、土坑２基が検出された。Ｐ２が主柱穴の可能性があるが対になる柱穴は検出されていない。SK2はカマド構築以前に掘り込まれているが、その用途は不明である。周溝はカマドを除き全周する。床面は部分的にソフトロームが残るハードローム層を直接使用しており、掘り方を持たない。南東壁側の一部が硬化している。

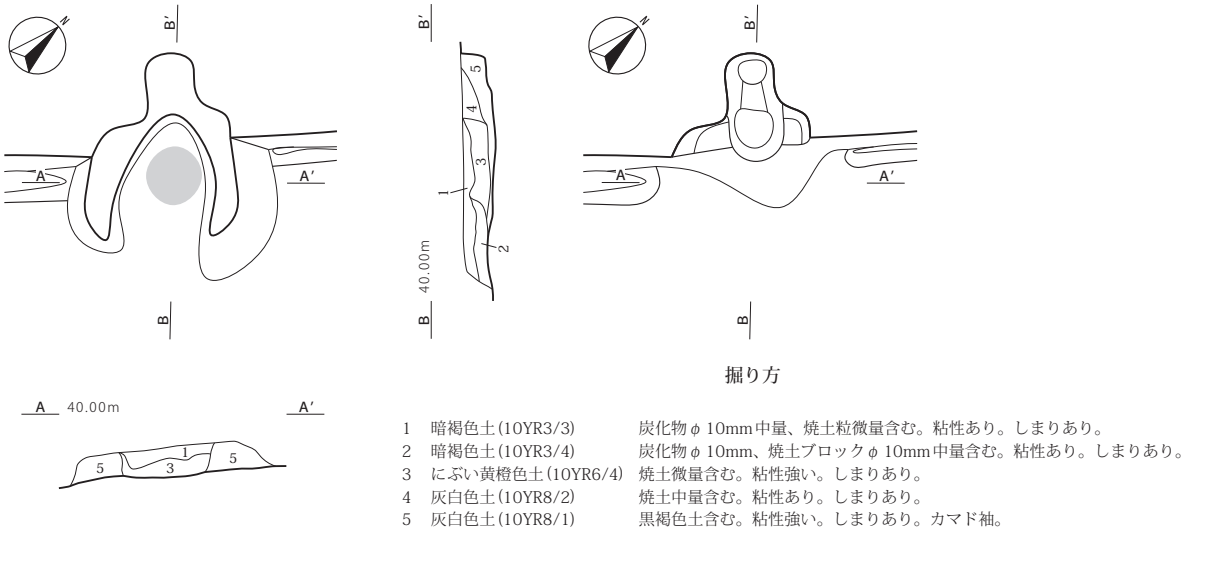


第534図　SI124

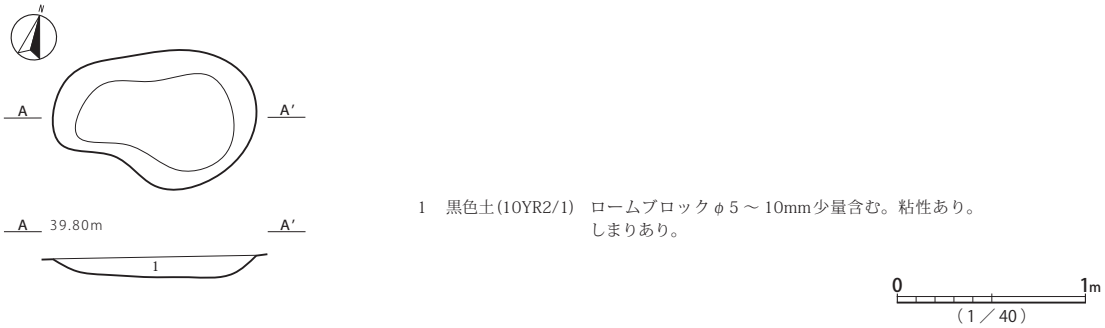
時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、７世紀代と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、周溝が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。覆土は尾根方向からではなく、カマドのある北西方向から焼土、ロームブロックを含んだ土が一定方向に堆積しており、人為的な埋め戻しが行われたと考えられる。

遺物：土器443.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第535図　SI124カマド



第536図　SI124SK2

SI125（第537・538図、第185表、図版66・109）

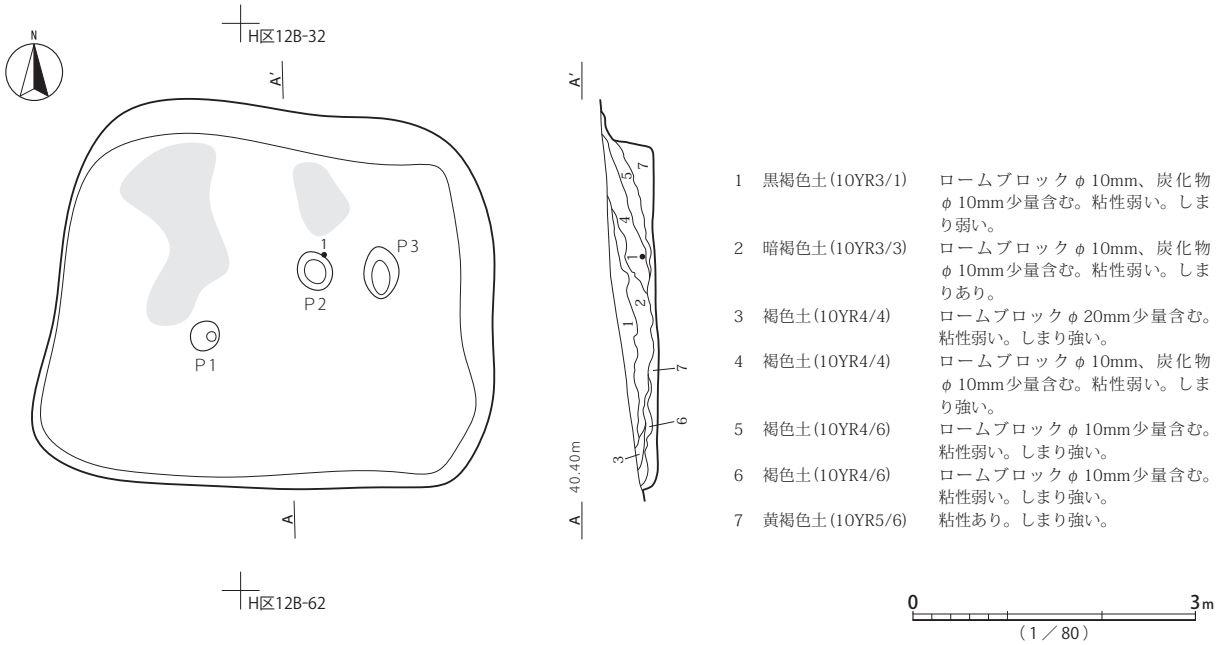
位置：H区12Ｂ-42グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI063を切る。**規模：**主軸4.12ｍ、副軸4.92ｍ、確認面からの深度0.72ｍ。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**Ｎ-Ｓ。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北側で部分的に硬化している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、５世紀前葉と考えられる。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。覆土の下層はロームブロックを含む土が周囲から斜堆積しており、人為的な埋め戻しが行われたと推定される。上層は、中央の窪みに堆積しており自然埋没した状況を示す。

遺物：土器1,104.7gが出土した。

１の脚部は内空で中膨状、外面は赤彩される。



第537図　SI125



第538図　SI125出土遺物

第185表　SI125出土土器観察表

単位：cm

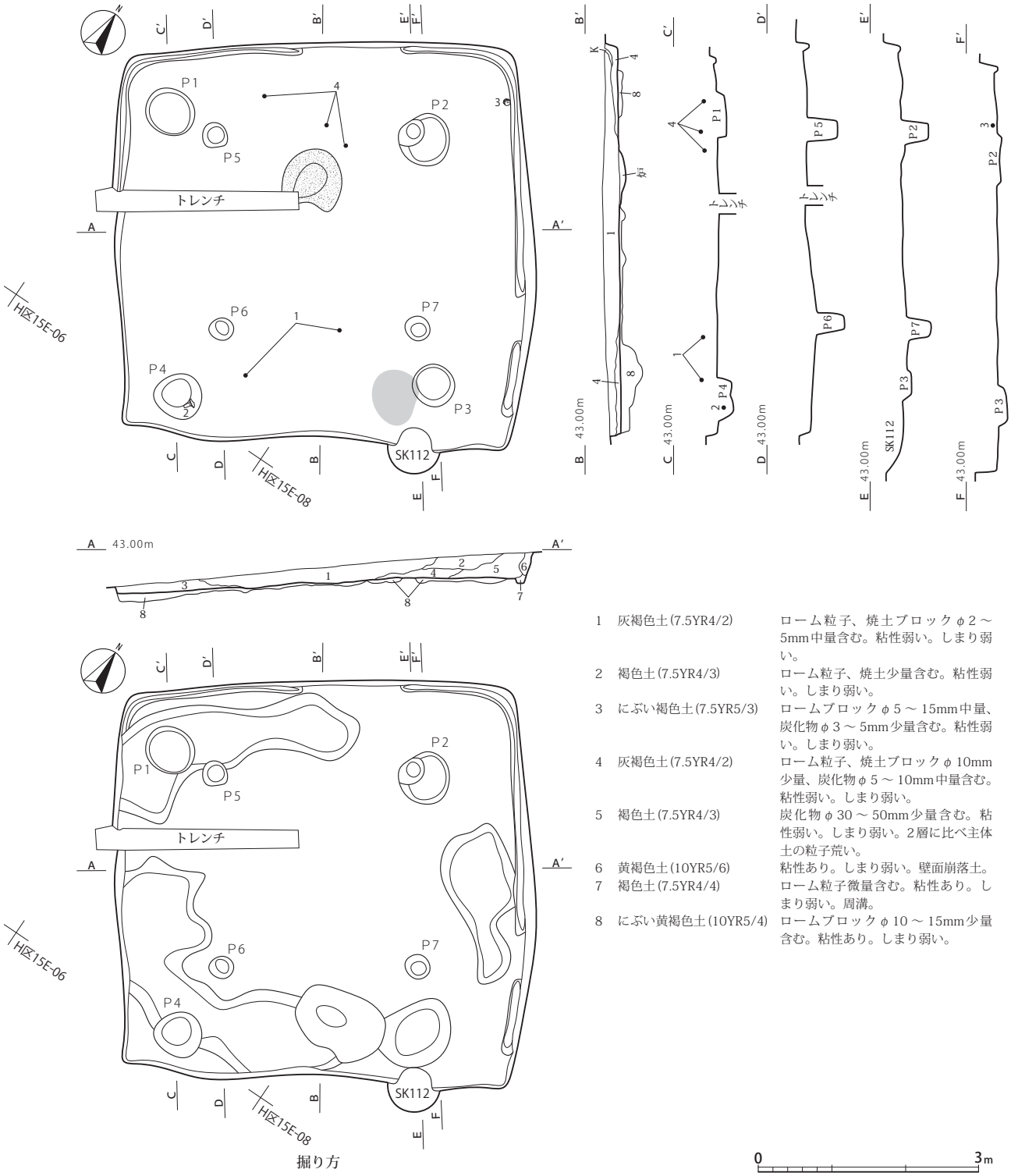
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：　－ 脚　径：12.0 器　高：[8.9] 最大径：　－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヨコナデ、赤彩 内面：接合部シボリ、脚部ヘラケズリ後ヘラナデ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部の1/2	

SI126（第539～543図、第186表、図版66・109）

位置：Ｈ区15Ｄ-87グリッドを中心とする台地の平坦面から南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SK112に切られる。**規模：**主軸5.56ｍ、副軸5.72ｍ、確認面からの深度0.58ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-34°-Ｗ。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.80ｍ、短軸0.76ｍで浅く窪む。覆土には焼土粒を含むものの、燃焼面には被熱による赤化、硬化はみられなかった。**施設：**ピットが７基検出された。主柱穴はＰ２・Ｐ５～Ｐ７で、柱間は主軸・副軸方向ともに2.72ｍ。主柱穴の外側でＰ１・Ｐ３・Ｐ４を確認しており、建て替えの可能性がある。周溝は東隅から西隅にかけて断続的に検出された。床面は掘り方に黄褐色系の土を敷き詰め、その上面を床とするが硬化は認められなかった。

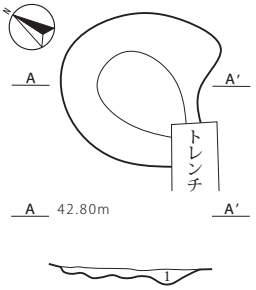
時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。炉・主柱穴・周溝が検出された。Ｐ４から高坏（２）、床面から鉢（３）が出土している。ピットの配置から建て替えの可能性がある一方で、炉の被熱痕が弱いことや硬化面が認められなかったことから建物としての使用期間は短かったと考えられる。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。



1	灰褐色土(7.5YR4/2)	ローム粒子、焼土ブロックφ２～5mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	褐色土(7.5YR4/3)	ローム粒子、焼土少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	にぶい褐色土(7.5YR5/3)	ロームブロックφ５～15mm中量、炭化物φ３～5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	灰褐色土(7.5YR4/2)	ローム粒子、焼土ブロックφ10mm少量、炭化物φ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	褐色土(7.5YR4/3)	炭化物φ30～50mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。２層に比べ主体土の粒子荒い。
6	黄褐色土(10YR5/6)	粘性あり。しまり弱い。壁面崩落土。
7	褐色土(7.5YR4/4)	ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり弱い。周溝。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ロームブロックφ10～15mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。

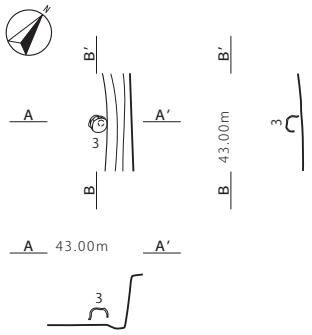
第539図　SI126



1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ５～10mm中量、ロームブロックφ10～20mm、炭化物φ３～５mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。底面はあまり赤化していない。

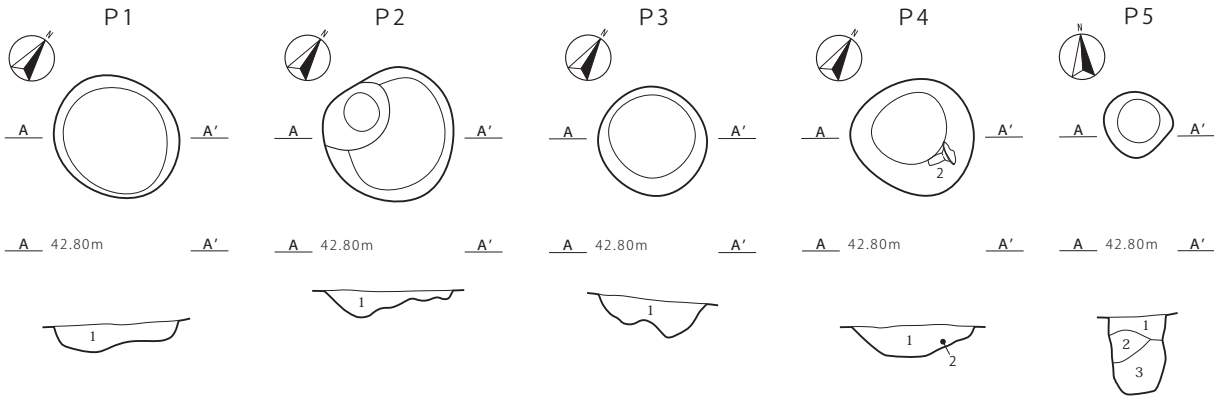
0　1m
（1／40）

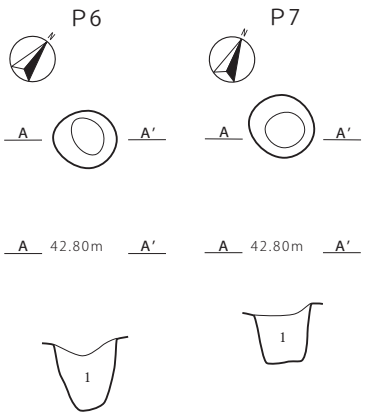
第540図　SI126炉



0　1m
（1／40）

第541図　SI126遺物出土状況





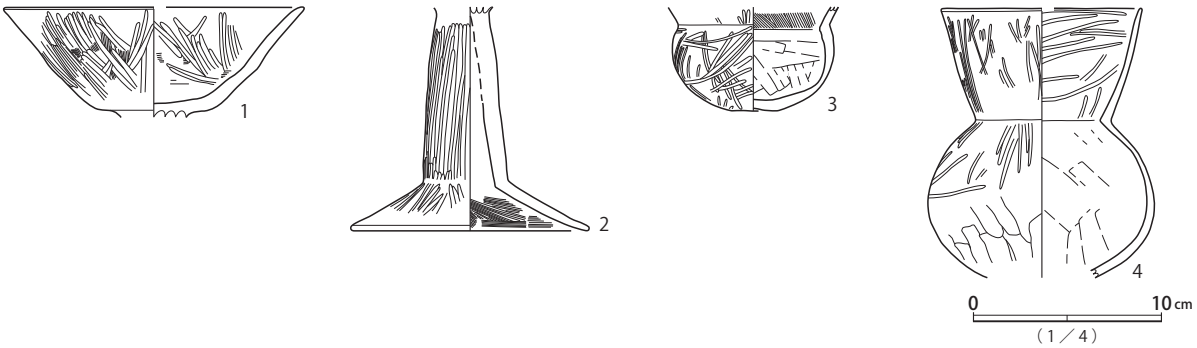
P1
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P2
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
P3
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、炭化物φ２～５mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。
P4
1　暗褐色土(10YR3/3)　焼土ブロックφ３～５mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
P5
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
P6・P7
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第542図　SI126P1～P7

遺物：土器4,355.6g、石器・石製品2.00g、縄文土器133.0gが出土した。

１・２は高坏、３は鉢、４は広口壺である。１は内外面にヘラミガキが施される。３は口縁部内面にハケメ調整が施される。４は口縁部から胴上部、口縁部内面にヘラミガキが施される。



第543図　SI126出土遺物

第186表　SI126出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土中層	口　径：(15.8) 脚　径：　－ 器　高：　[5.8] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部ハケメ後ヘラミガキ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部ハケメ後ヘラミガキ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：浅黄 残存度：口縁部～接合部の破片	
2	土師器 高坏	P4覆土	口　径：　－ 脚　径：　12.4 器　高：[11.8] 最大径：　－	外面：脚部ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：脚部ナデ、裾部ハケメ・ヨコナデ	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	
3	土師器 鉢	床面	口　径：　－ 底　径：　2.4 器　高：　[5.5] 最大径：　－	外面：口縁部～体部ヘラミガキ、底部ナデ 内面：頸部ヨコナデ・ハケメ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：頸部～底部のみほぼ完存	
4	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：(10.6) 底　径：　－ 器　高：[14.3] 最大径：(12.0)	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～肩部ヘラミガキ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/2	

SI127（第544 ～ 549図、第187・188表、図版66・109・112）

位置：Ｈ区16Ｄ-61グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SI076を切り、SK113に切られる。**規模：**主軸5.40ｍ、副軸5.08ｍ、確認面からの深度0.51ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**Ｎ-32°-Ｗ。**カマド：**北壁中央に位置する。壁面をわずかに掘り込んで構築しており天井部・煙道部・袖部・燃焼部が残存する。燃焼部からは土製支脚（９）が設置された状態で出土した。煙道はトンネル状に遺存しており、燃焼部から緩やかに立ち上がり、壁面から約0.28m突出する。**施設：**ピットが４基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向2.16ｍ、副軸方向2.08ｍ。周溝はカマドを除き全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、カマド周辺から南壁にかけて硬化している。

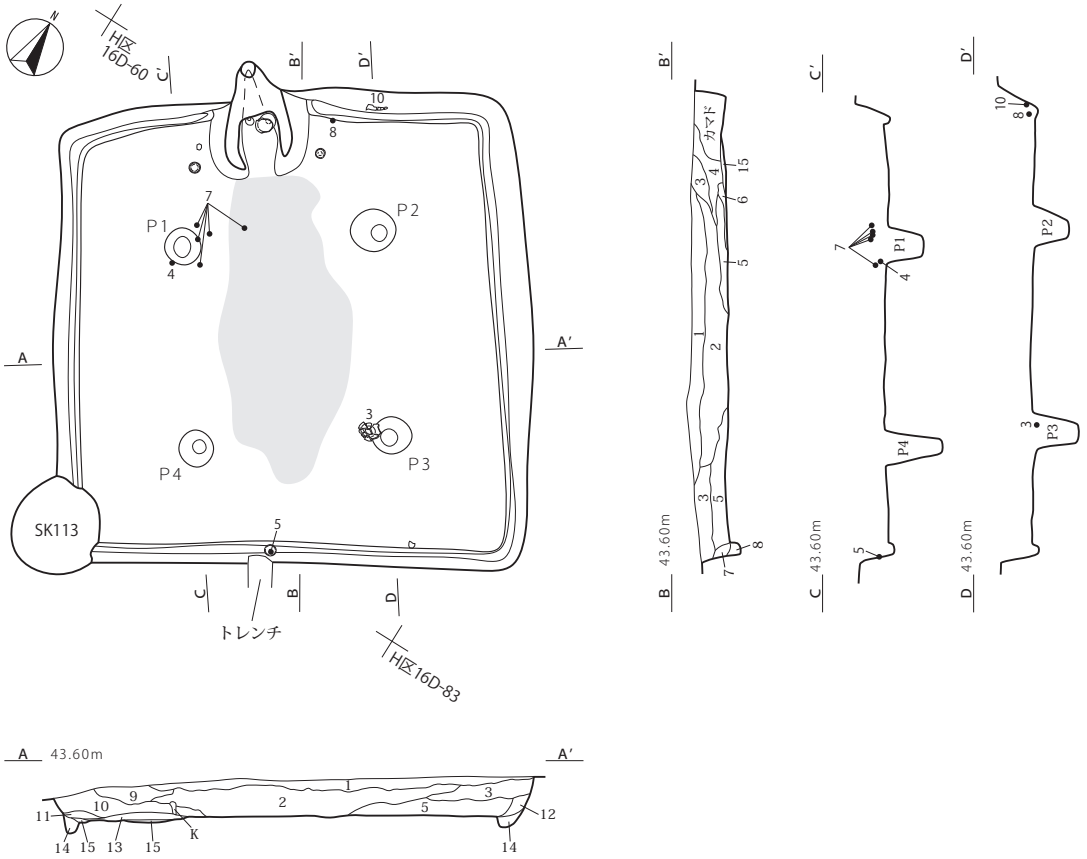
時期：出土遺物から古墳時代終末期２段階（７世紀前葉）と考えられる。

所見：床面はほぼ完存する。カマド、主柱穴、周溝が検出された。カマド袖の両脇から坏（１・２）が、カマド内から甕（６）が、周溝内から高坏（５）、須恵器甕（８）、土製支脚（10）が出土している。

周溝内から須恵器の甕（８）が出土している。覆土下層は、互層状に多量の炭化物と焼土を含んでおり、床面も被熱していることから、焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。

遺物：土器8,365.5g、須恵器35.5g、土製品1,632.8gが出土した。

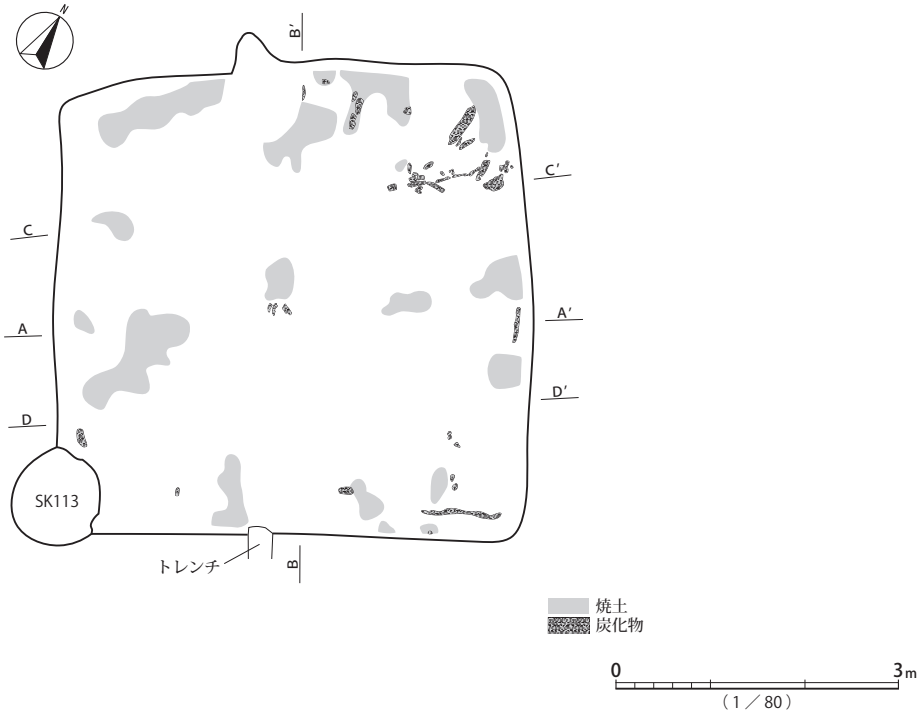
１～７は土師器であり、１・２は坏、３・４は鉢、５は高坏、６・７は甕、８は須恵器の甕、９・10は土製支脚である。１・３は内外面が黒色処理されている。７は同一個体と考えられる口縁部と底部を図示している。８は頸部に櫛描波状文が施される。



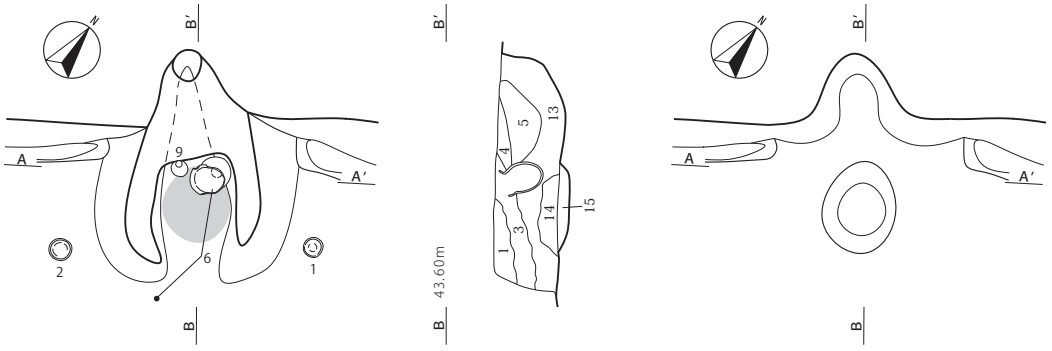
1	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子、固結火山灰土塊少量、焼土ブロックφ３～5mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	暗褐色土(10YR3/3)	焼土ブロックφ２～5mm、炭化物φ５～10mm中量、ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土ブロックφ３～5mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
4	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量、焼土ブロックφ5mm、炭化物φ３～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
6	暗褐色土(10YR3/3)	炭化物φ10～20mmを多量含む。粘性あり。しまり弱い。
7	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子多量含む。粘性あり。しまり弱い。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
9	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまりあり。
10	褐色土(10YR4/4)	焼土ブロックφ３～5mm、炭化物φ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
11	褐色土(7.5YR4/4)	焼土ブロックφ２～5mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
12	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量、炭化物φ５～10mm、炭化物ブロックφ50mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
13	にぶい赤褐色土(5YR4/4)	焼土ブロックφ５～10mm多量含む。粘性弱い。しまり強い。
14	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	焼土ブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。周溝。
15	明赤褐色土(5YR5/6)	焼土含む。粘性弱い。しまり強い。

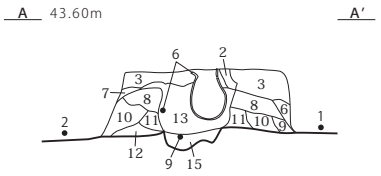
0　3m
（１／80）

第544図　SI127



第545図　SI127焼土・炭化物検出状況

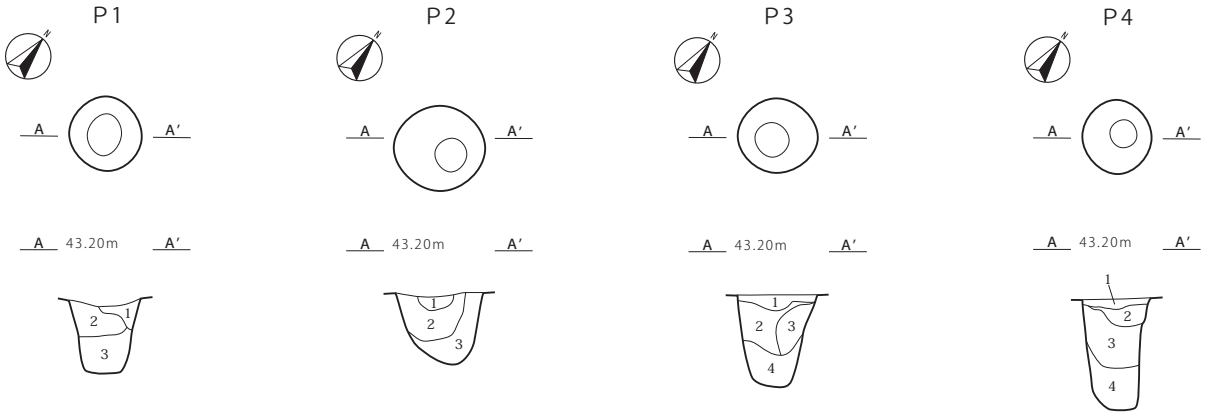




1	暗褐色土(10YR3/3)	焼土ブロックφ10～15mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い。しまり弱い。
3	黄褐色土(2.5Y5/4)	焼土ブロックφ1～2mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	黒褐色土ブロックφ5～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。カマド構築土。
5	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	山砂、炭化物φ10～20mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド構築土。
6	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い。しまり弱い。
7	灰黄褐色土(10YR4/2)	浅黄橙色砂φ10～20mm中量、炭化物φ2～5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	灰オリーブ色土(7.5Y5/4)	にぶい黄橙色砂中量、焼土ブロックφ3～5mm、炭化物含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
9	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	炭化物φ5～10mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。カマド袖。
10	にぶい褐色土(7.5YR5/3)	焼土、炭化物φ10～20mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
11	にぶい褐色土(7.5YR5/4)	にぶい橙色砂、焼土ブロックφ5～15mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。カマド袖。
12	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	焼土ブロックφ5～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。カマド袖。
13	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	焼土ブロックφ2～3mm、炭化物少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
14	暗オリーブ色土(5Y4/4)	焼土ブロックφ5～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
15	にぶい赤褐色土(5YR5/4)	焼土ブロックφ2～5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第546図　SI127カマド



P1

1	灰褐色土(7.5YR4/2)	炭化物φ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	褐色土(7.5YR4/3)	ロームブロックφ10～15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	褐色土(7.5YR4/4)	ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。

P2

1	灰褐色土(7.5YR4/2)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ロームブロックφ10～30mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
3	灰黄褐色土(10YR4/2)	ロームブロックφ10～15mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

P3

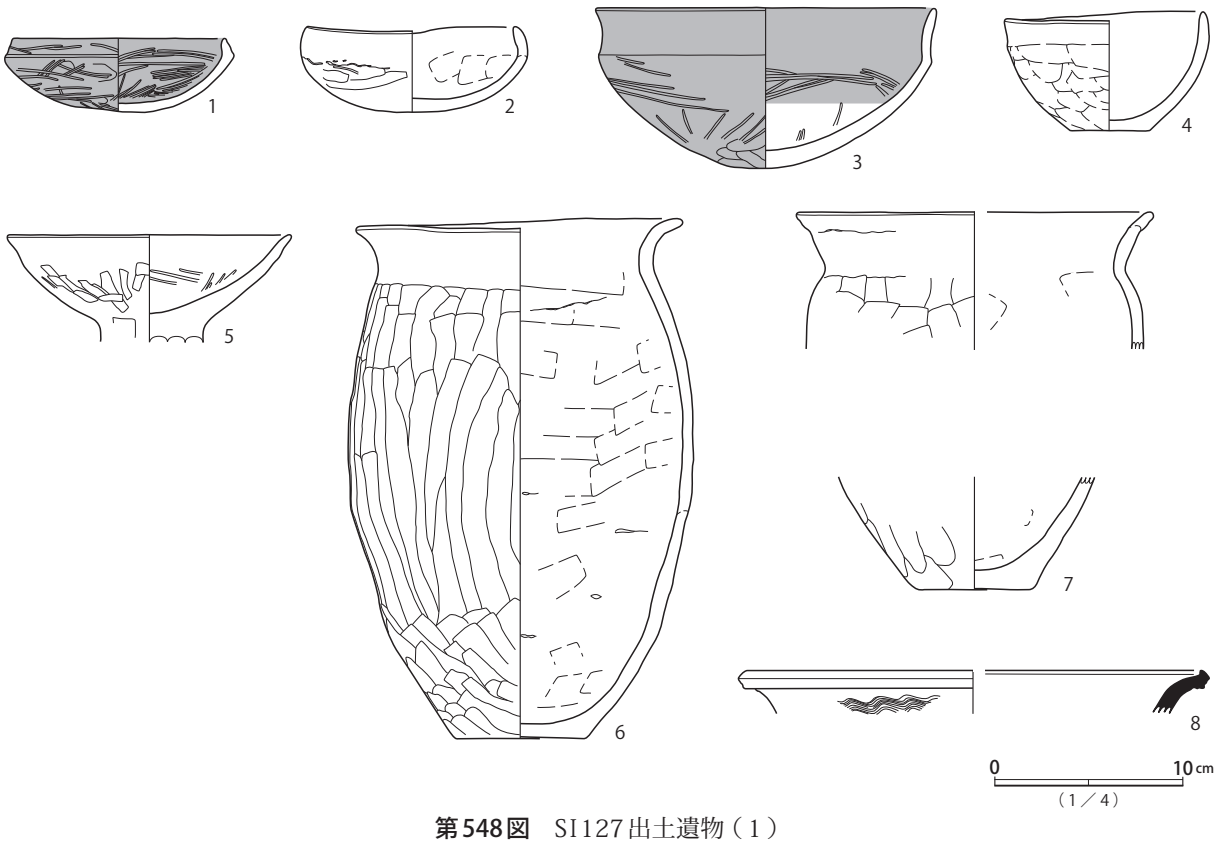
1	暗褐色土(7.5YR3/3)	焼土ブロックφ１～3mm、炭化物φ２～5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	灰褐色土(7.5YR4/2)	ローム粒子、焼土ブロックφ１～3mm少量含む。粘性弱い。しまりなし。
3	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

P4

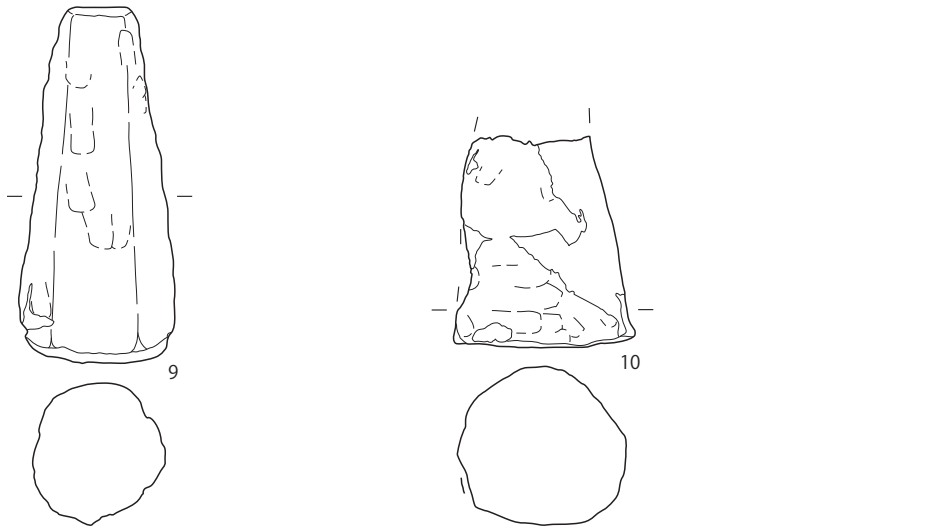
1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	焼土ブロックφ２～5mm、炭化物φ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	焼土ブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	褐灰色土(10YR4/1)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　1m
（1／40）

第547図　SI127P1～P4



第548図　SI127出土遺物（1）



第549図　SI127出土遺物（２）

第187表　SI127出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	床面	口　径：11.2 底　径：－ 器　高：3.9 最大径：12.1	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ、黒色処理 内面：口縁部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 坏	床面	口　径：11.0 底　径：－ 器　高：4.5 最大径：12.1	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 鉢	P3覆土	口　径：18.0 底　径：－ 器　高：8.5 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ、黒色処理 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ、黒色処理	胎　土：石英・長石・黒色粒 焼　成：不良 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 鉢	覆土下層	口　径：10.5 底　径：4.0 器　高：6.3 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	胎　土：石英・長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	内外面黒色処理か
5	土師器 高坏	周溝	口　径：15.0 脚　径：－ 器　高：[5.7] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部のみほぼ完存	
6	土師器 甕	カマド	口　径：16.8 底　径：6.8 器　高：27.5 最大径：17.8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
7	土師器 甕	覆土下層	口　径：(18.6) 底　径：6.0 器　高：[7.3] [6.0] 最大径：－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部と、底部の破片	
8	須恵器 甕	周溝	口　径：(24.1) 底　径：－ 器　高：[2.3] 最大径：－	外面：口縁部ロクロ調整・櫛描波状文（八条一描） 内面：口縁部ロクロ調整	胎　土：白色粒・長石 焼　成：普通 色　調：黄灰 残存度：口縁部の破片	

第188表　SI127出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
9	支脚	カマド	長さ：18.9　幅：8.3　厚さ：7.5	870.2	多角形
10	支脚	周溝	長さ：[11.2]　幅：9.7　厚さ：8.4	762.6	多角形

SI128（第550 ～ 552図、第189表、図版67・110）

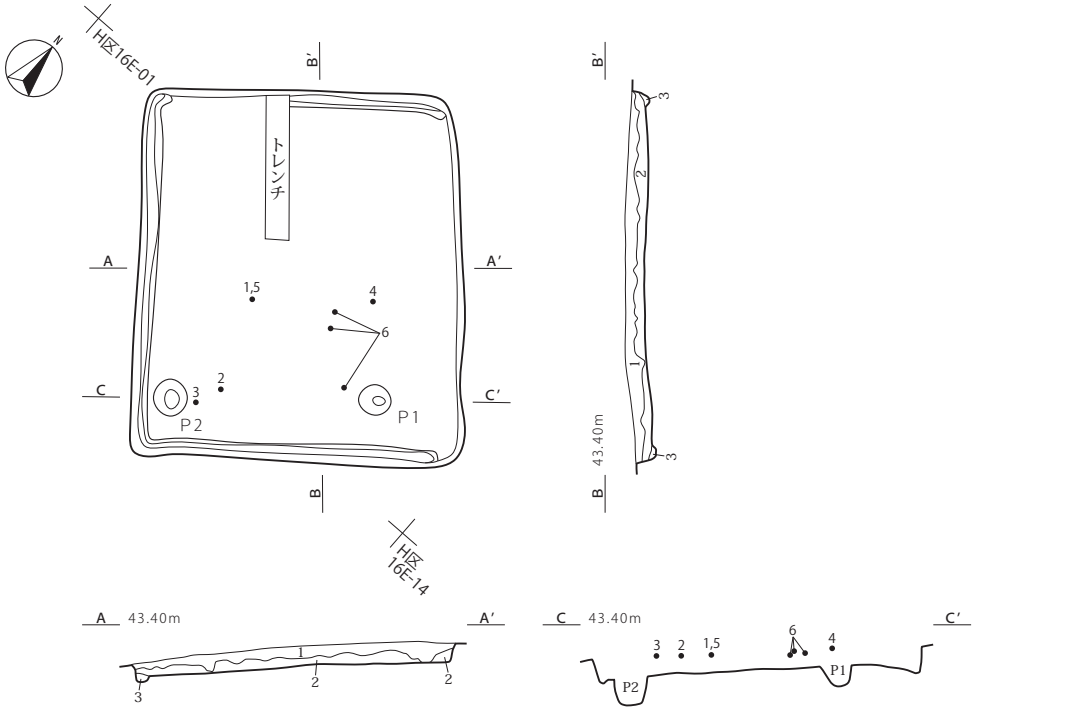
位置：H区16 E -02グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SK030を切る。**規模：**主軸4.00ｍ、副軸3.56ｍ、確認面からの深度0.37ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N -41°-W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが２基検出された。Ｐ１・Ｐ２は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は2.20ｍ。周溝は西壁を除き断続的に検出された。

時期：出土遺物から古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

所見：床面は完存する。主柱穴、周溝が検出されたが、炉は検出されなかった。覆土は炭化物と焼土を含み、炭化した木材も出土している。竪穴建物の内部は被熱していないため、焼却・焼失した建物というより、炭化物と焼土を含む土の流入によって自然埋没したと考えられる。

遺物：土器3,504.2g、縄文土器136.0gが出土した。

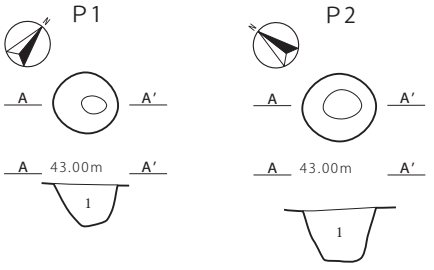
１は高坏、２は坩、３は広口壺、４・５は壺、６・７は甕である。１は坏部外面にハケメ調整が施される。３は広口壺の口縁部とした。内外面にヘラミガキ施される。５は外面および口縁部内面にヘラミガキが施される。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第550図　SI128

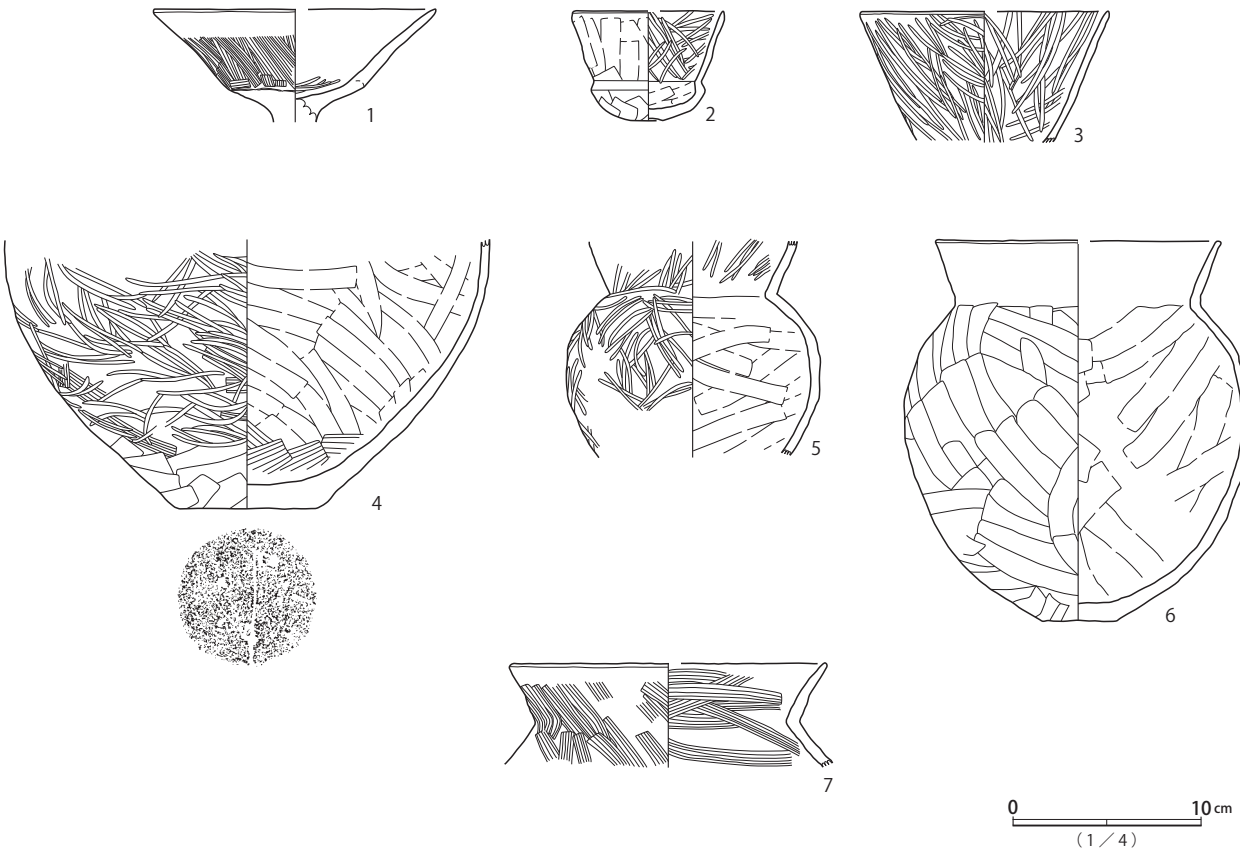


P1
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

P2
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第551図　SI128P1・P2



第552図　SI128出土遺物

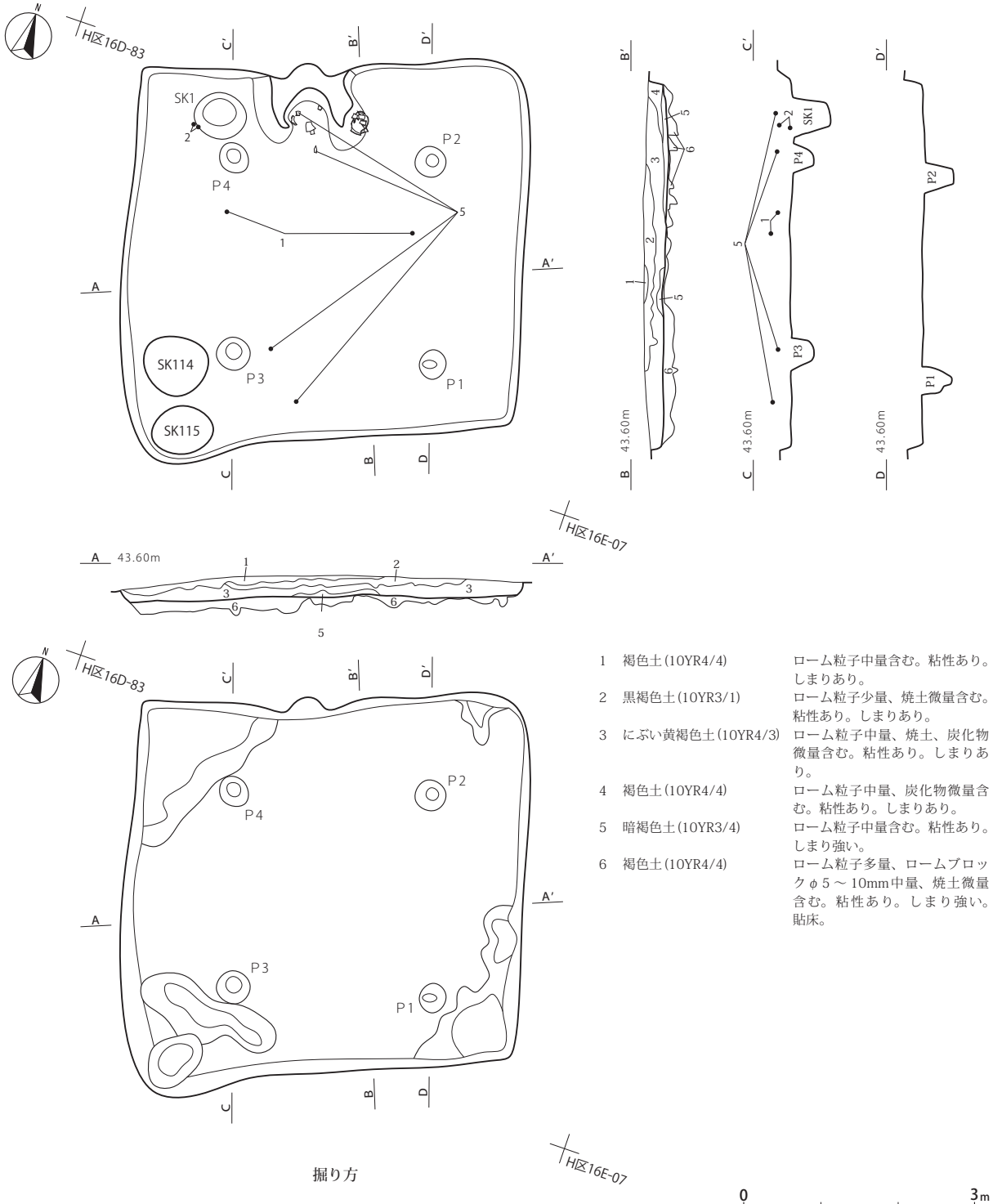
第189表　SI128出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土中層	口　径：(14.8) 脚　径：　– 器　高：　[6.0] 最大径：　–	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ	胎　土：石英・白色粒・長石・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～接合部の1/3	
2	土師器 坩	覆土中層	口　径：　(8.0) 底　径：　1.7 器　高：　5.8 最大径：　–	外面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、頸部ナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
3	土師器 広口壺	覆土中層	口　径：(13.0) 底　径：　– 器　高：　[6.9] 最大径：　–	外面：口縁部ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部のみほぼ完存	
4	土師器 壺	覆土中層	口　径：　– 底　径：　7.3 器　高：[14.2] 最大径：　–	外面：胴部ハケメ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ・木葉痕 内面：胴部ヘラナデ、底部ハケメ	胎　土：黒色粒・石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の1/4	
5	土師器 壺	覆土中層	口　径：　– 底　径：　– 器　高：[11.4] 最大径：(13.5)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・石英 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の2/3	
6	土師器 甕	覆土中層	口　径：(15.0) 底　径：　4.0 器　高：　20.2 最大径：　18.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	
7	土師器 甕	覆土中層	口　径：(16.6) 底　径：　– 器　高：　[5.4] 最大径：　–	外面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部～肩部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ・ハケメ、頸部～肩部ハケメ	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～肩部の1/4	

SI129（第553 ～ 556図、第190・191表、図版67・110・113）

位置：H区16 D -84グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SK114・SK115に切られる。**規模：**主軸5.24 m、副軸5.32 m、確認面からの深度0.34 m。**形態：**方形。**主軸方位：**N -19°-W。**カマド：**北壁中央に位置する。煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、壁面から約0.20m突出する。**施設：**ピット４基、土坑１基が検出された。主



1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまり強い。
6　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～10mm中量、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。貼床。

掘り方

0　3m
（1／80）

第553図　SI129

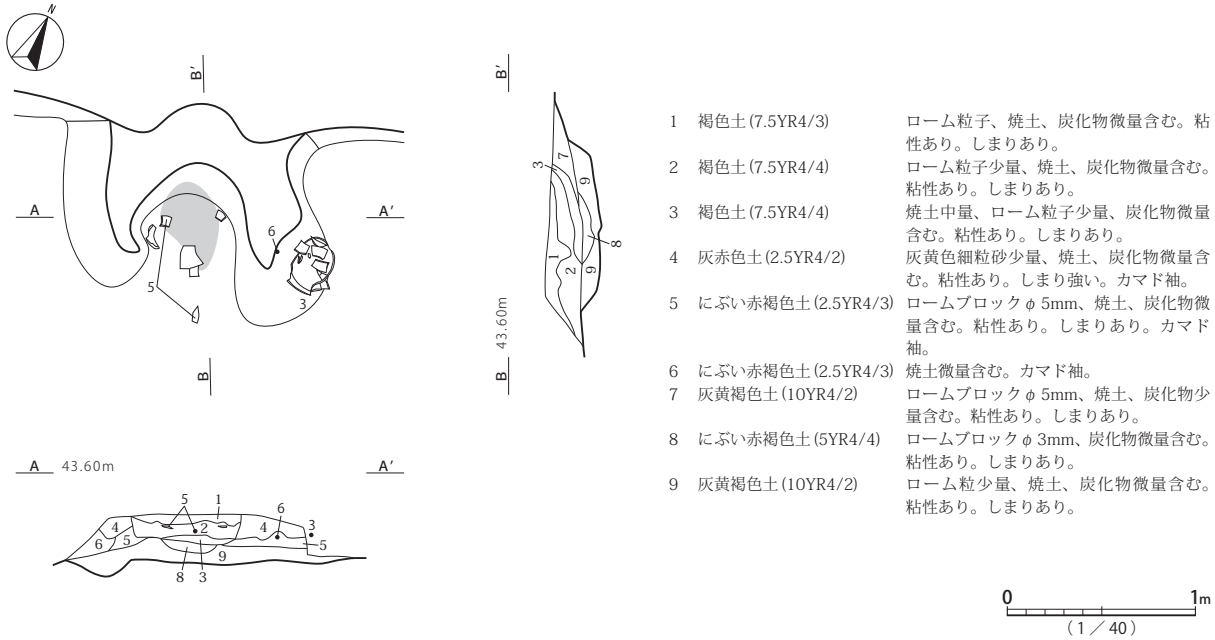
柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸・副軸方向ともに2.60ｍ。SK1は長軸0.64ｍ、短軸0.60ｍの貯蔵穴である。床面は掘り方に黄褐色系の土を敷き詰め、その上面を床としている。全面的に軟弱であり、締まりがない。

時期：出土遺物から古墳時代終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、貯蔵穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。カマド内から甕（５）、右袖脇から甕（３）、土製支脚（６）が出土している。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

遺物：土器7,844.8g、土製品370.6g、縄文土器334.0gが出土した。

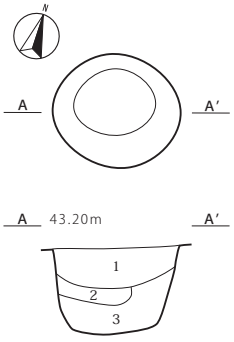
１は坏、２は鉢、３～５は甕、６は土製支脚である。１はやや扁平で、内外面が赤彩される。２は内外面にわずかにヘラミガキが施される。５は頸部内面にハケメ調整が施される。６は角柱形である。



1	褐色土(7.5YR4/3)	ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	褐色土(7.5YR4/4)	ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐色土(7.5YR4/4)	焼土中量、ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	灰赤色土(2.5YR4/2)	灰黄色細粒砂少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。カマド袖。
5	にぶい赤褐色土(2.5YR4/3)	ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。カマド袖。
6	にぶい赤褐色土(2.5YR4/3)	焼土微量含む。カマド袖。
7	灰黄褐色土(10YR4/2)	ロームブロックφ5mm、焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
8	にぶい赤褐色土(5YR4/4)	ロームブロックφ3mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
9	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

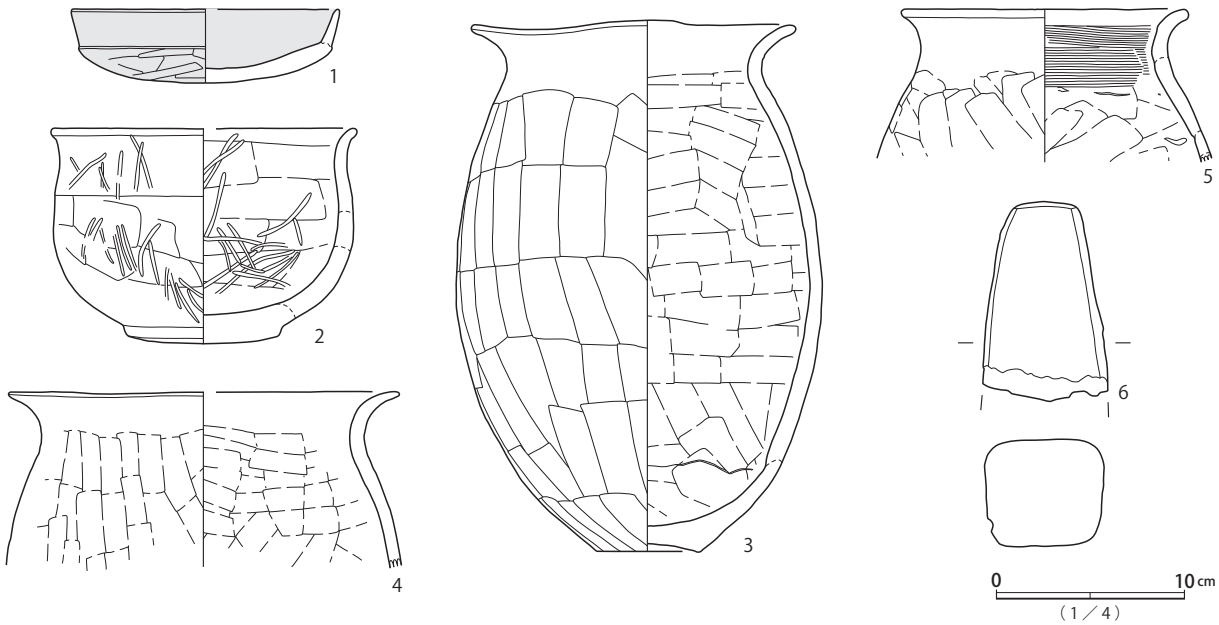
第554図　SI129カマド



1	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1m
（1／40）

第555図　SI129SK1



第556図　SI129出土遺物

第190表　SI129出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土中層	口　径：(14.0) 底　径：　－ 器　高：　3.9 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、赤彩	胎　土：長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	
2	土師器 鉢	覆土下層	口　径：(15.8) 底　径：　7.8 器　高：　11.4 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ横位後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/3	外面煤付着
3	土師器 甕	カマド	口　径：(16.8) 底　径：　5.4 器　高：　28.1 最大径：　19.4	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・赤色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	
4	土師器 甕	覆土上層	口　径：(20.6) 底　径：　－ 器　高：　[9.3] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	
5	土師器 甕	カマド	口　径：14.8 底　径：　－ 器　高：　[8.1] 最大径：　－	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	

第191表　SI129出土土製品観察表

単位：cm

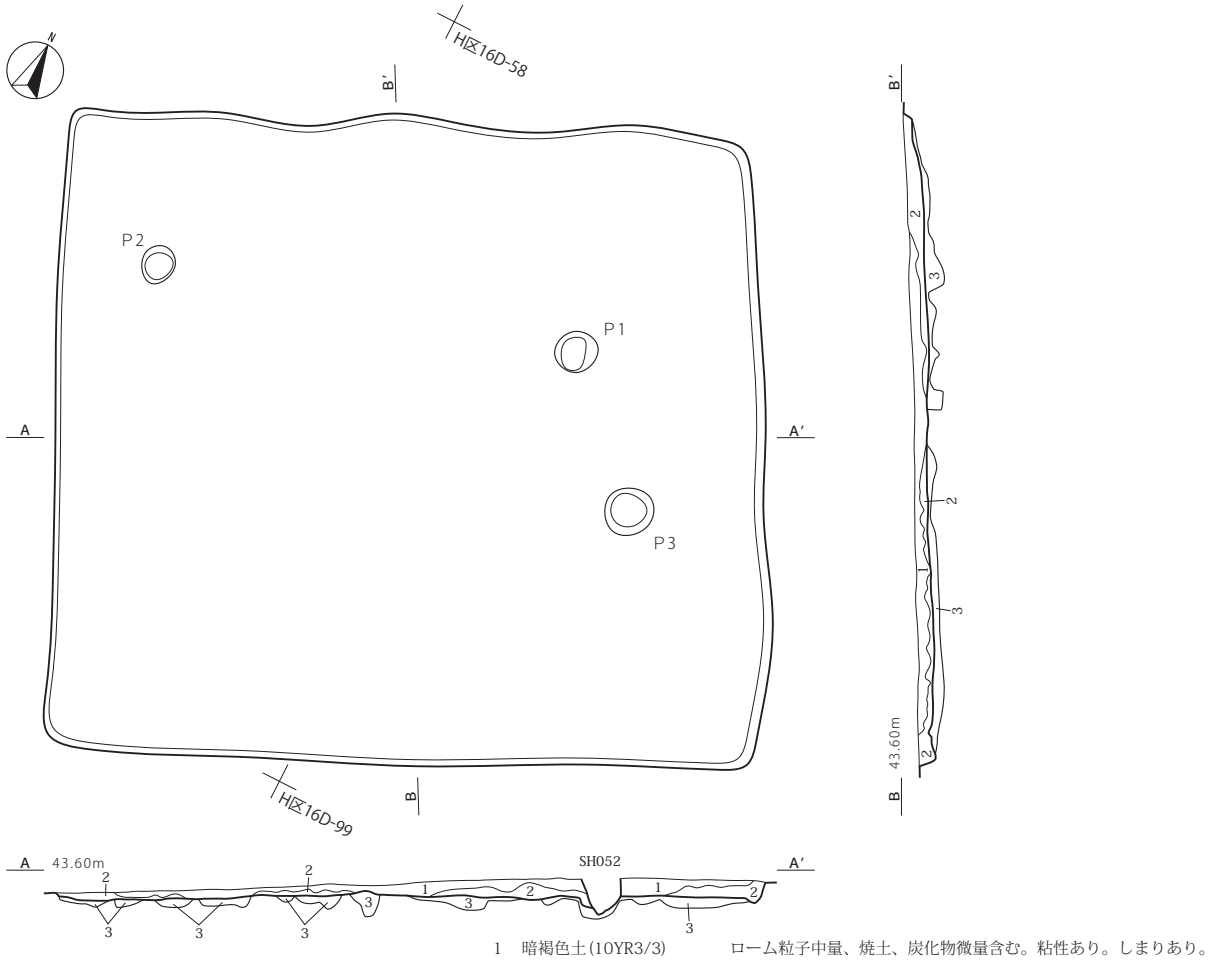
番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
6	支脚	カマド	長さ：[10.6]　幅：[6.6]　厚さ：5.7	370.6	角柱形

SI130（第557図、図版67）

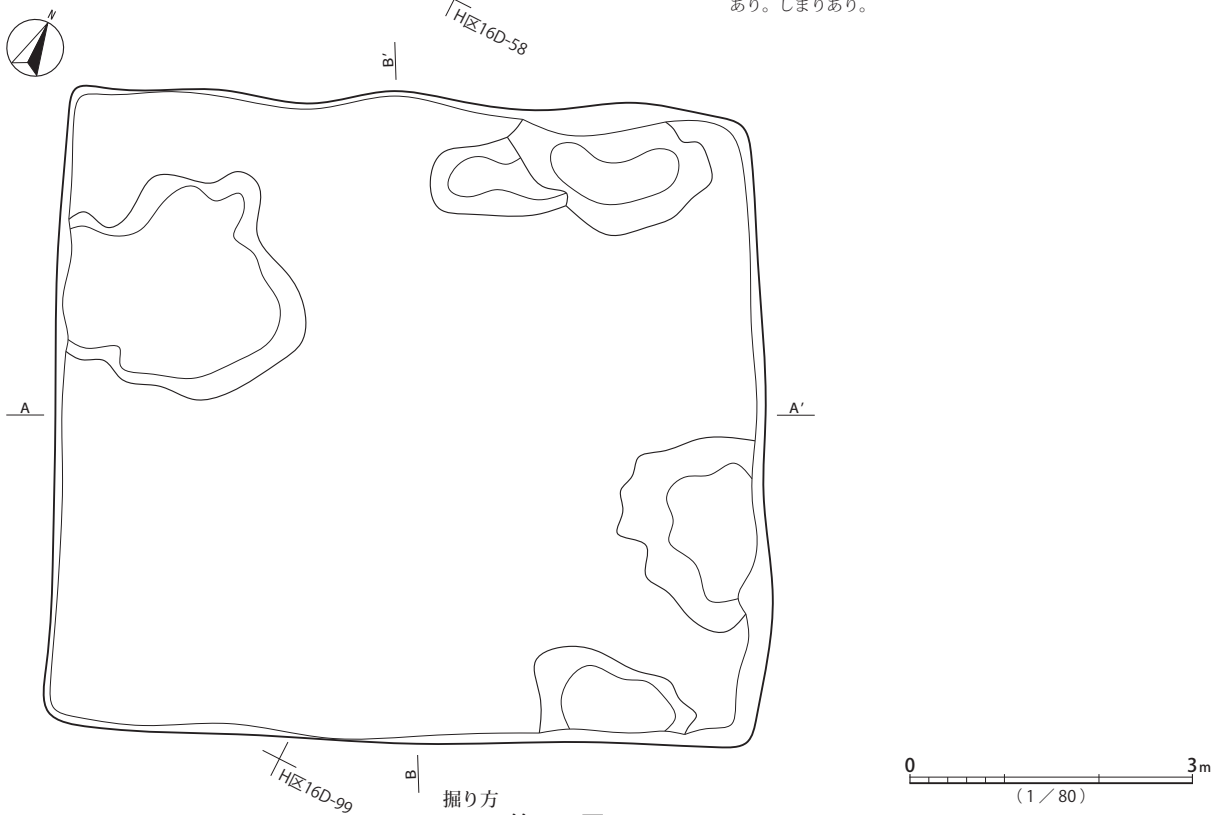
位置：H区16D-78グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸6.96m、副軸7.68m、確認面からの深度0.27m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-27°-W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが３基検出された。床面は掘り方に黄褐色系の土を敷き詰め、その上面を床としている。

時期：周囲で検出された同形態の竪穴建物から、古墳時代前期以降と推測される。

所見：床面は完存する。炉、主柱穴、周溝は検出されなかった。周辺の竪穴建物と主軸方向が共通



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～40mm中量、黒褐色砂質土少量含む。粘性あり。しまりあり。



掘り方

第557図　SI130

する大型建物だが、あまり使用された状況は認められない。

遺物：土器1,908.0g、縄文土器322.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SI131（第558・559図、第192表、図版67・110）

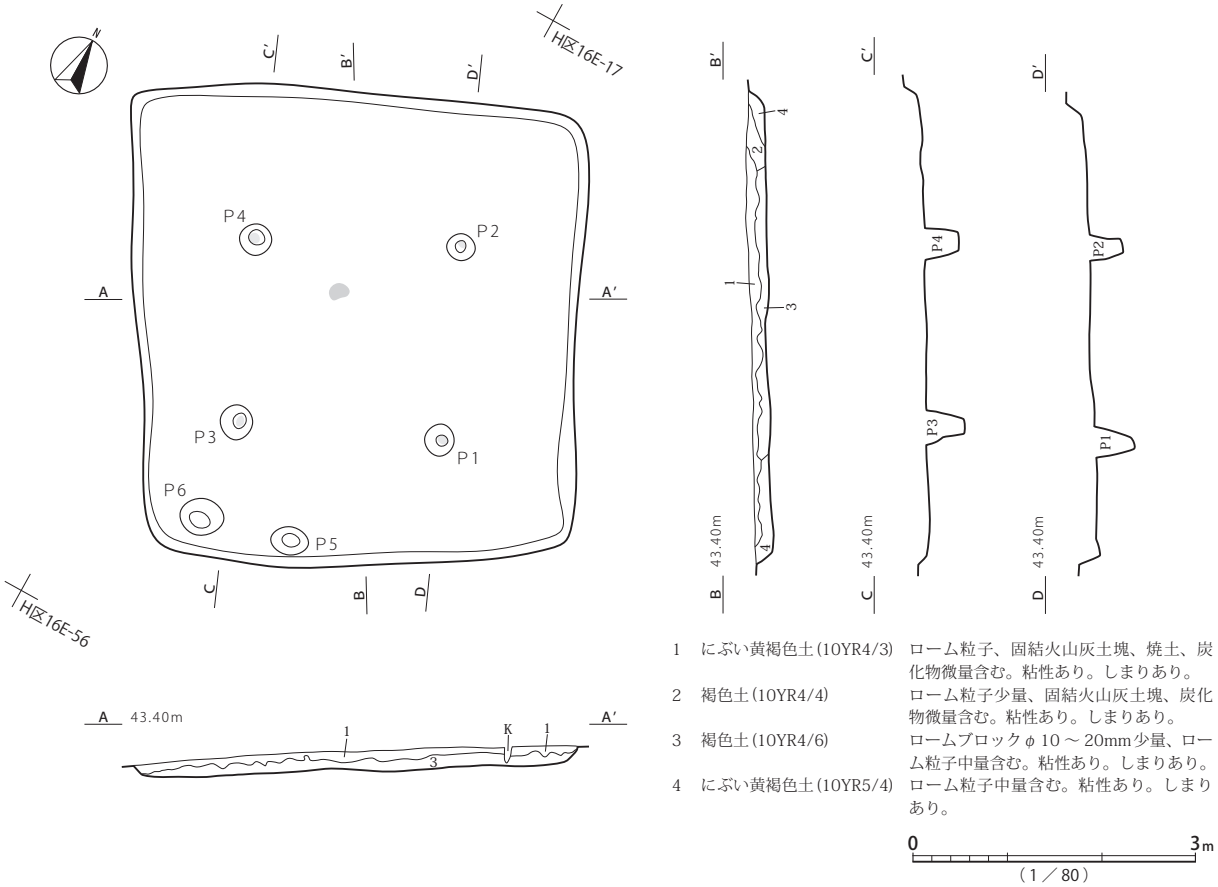
位置：H区16 E -26グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸5.12ｍ、副軸4.84ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N -29°- W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが６基検出された。主柱穴はＰ１～Ｐ４で、柱間は主軸方向が2.00ｍ、副軸方向が2.16ｍ。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期０段階（４世紀代）と考えられる。

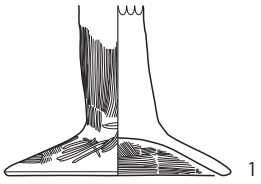
所見：床面は完存する。主柱穴が検出されたが、炉、周溝は検出されなかった。焼土範囲が１箇所あるが掘り込みは認められず、炉とは断定できなかった。Ｐ６から高坏（１）が出土している。

遺物：土器436.4g、縄文土器78.0gが出土した。

１の脚部は内実、柱状になっている。



第558図　SI131



第559図　SI131出土遺物

第192表　SI131出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	P6覆土	口　径：　－ 脚　径：11.4 器　高：[9.0] 最大径：　－	外面：脚部ハケメ裾部ハケメ後ヘラミガキ・ヨコナデ 内面：脚部～裾部ハケメ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：脚部～裾部のみほぼ完存	

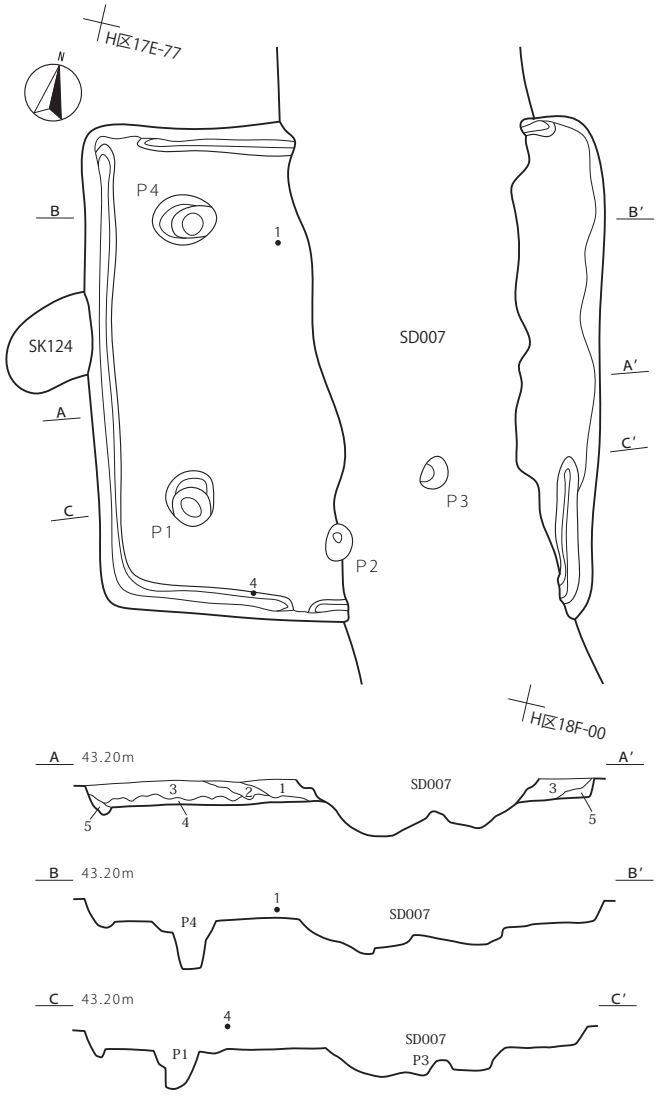
SI132（第560・561図、第193・194表、図版67・110・112）

位置：H区17 E -88グリッドを中心とする台地の平坦面に位置する。**重複：**SD007、SK124に切られる。**規模：**主軸（5.36）m、副軸5.48 m、確認面からの深度0.68 m。**形態：**方形。**主軸方位：**N -13°- W。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピットが４基検出された。Ｐ１・Ｐ４は対称的な位置にあることから、主柱穴の一部とみられ柱間は3.00 m。周溝は断続的であるが全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期１段階（６世紀末葉～７世紀初頭）と考えられる。

所見：主柱穴、周溝が検出されたが、カマドは検出されなかった。

遺物：土器1487.3g、土製品416.8gが出土した。



1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子少量、固結火山灰土塊、礫φ30～40mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～50mm、固結火山灰土塊、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

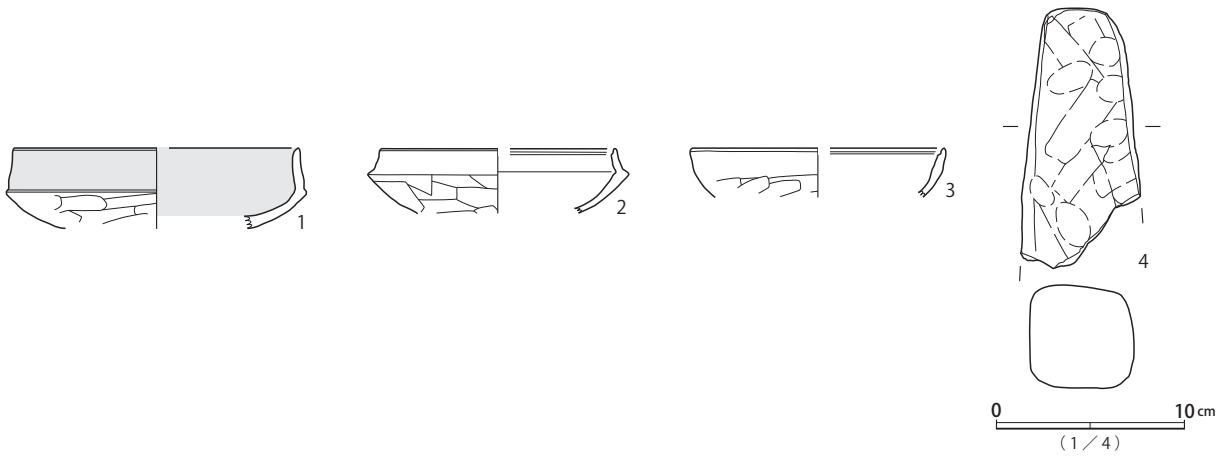
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ20～40mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

5　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　3m
（1／80）

第560図　SI132

１～３は土師器の坏。４は土製支脚である。１は口縁部外面および内面が赤彩される。３は口縁部内面に沈線が巡る。４は外面にヘラと指による調整痕がみられる。



第561図　SI132出土遺物

第193表　SI132出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：(15.0) 底　径：　－ 器　高：［4.3］ 最大径：(15.8)	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、赤彩	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：明黄褐 残存度：口縁部～体部の破片	
2	土師器 坏	覆土下層	口　径：(12.4) 底　径：　－ 器　高：［3.4］ 最大径：(14.0)	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部ヨコナデ	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：暗灰黄 残存度：口縁部～体部の破片	
3	土師器 坏	覆土下層	口　径：(13.4) 底　径：　－ 器　高：［2.6］ 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	胎　土：白色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～体部の破片	

第194表　SI132出土土製品観察表

単位：cm

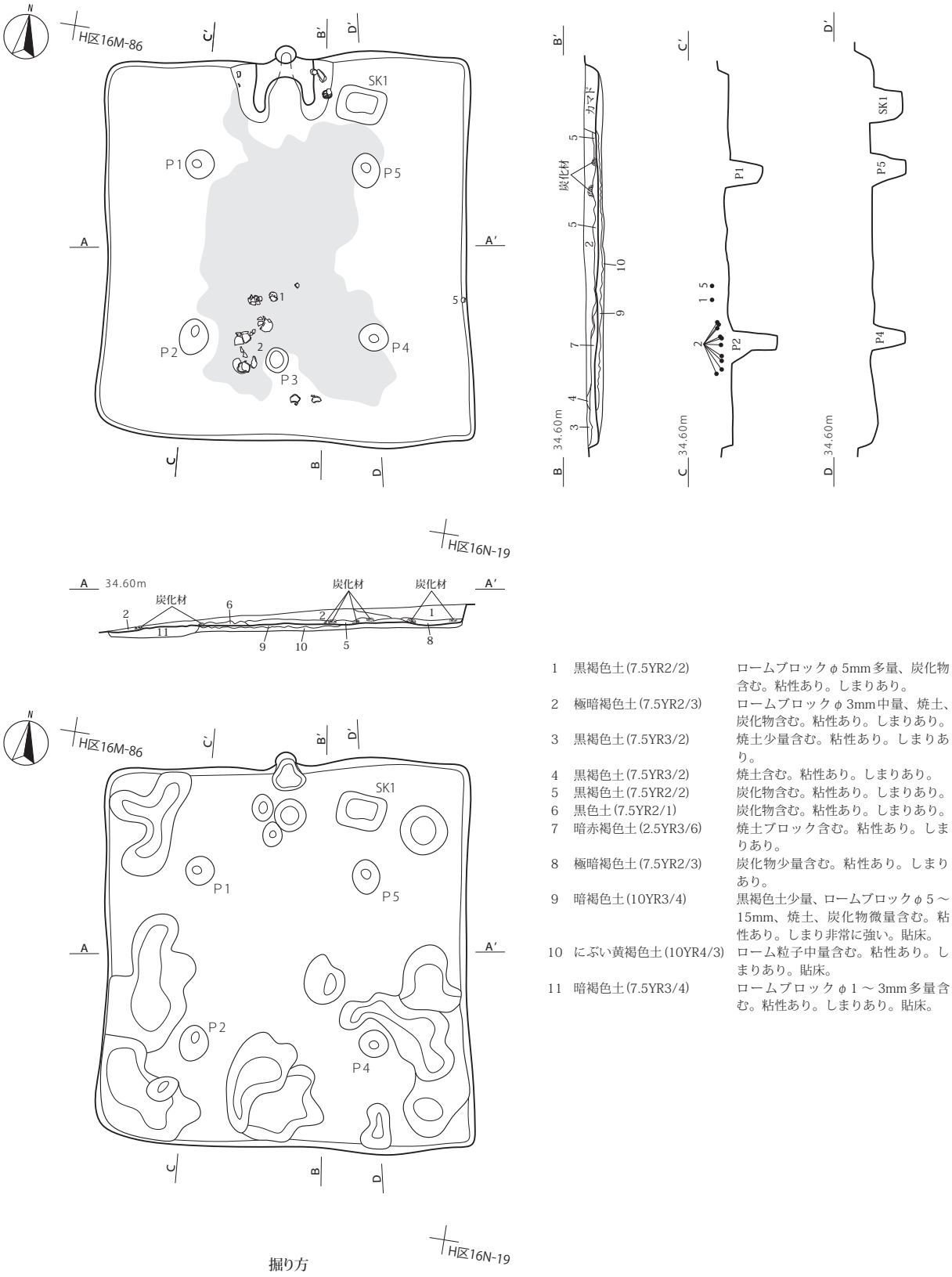
番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
4	支脚	覆土中層	長さ：［13.8］　幅：［6.3］　厚さ：5.5	416.8	角柱形

SI133（第562～567図、第195・196表、図版67・68・110～112）

位置：H区16M-97グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**主軸5.52ｍ、副軸5.12ｍ、確認面からの深度0.48ｍ。**形態：**方形。**主軸方位：**N-9°-W。**カマド：**北壁中央に位置する。天井部・煙道部・袖部・燃焼部が残存する。煙道はトンネル状に遺存しており、燃焼部から直線的に立ち上がり、壁面から約0.24m突出する。**施設：**ピット５基、土坑１基が検出された。主柱穴はＰ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５で、柱間は主軸方向2.20ｍ、副軸方向2.32ｍ。Ｐ３はカマドの対面に位置し、壁とピットの間で硬化が認められないことから、出入り口施設に伴うと考えられる。SK1は長軸0.64ｍ、短軸0.48ｍの貯蔵穴である。床面は掘り方にロームブロックを含む褐色系の土を敷き詰め、その上面を床としており、カマドの周辺から南壁にかけて硬化している。

時期：出土遺物から古墳時代終末期３段階（７世紀中葉）と考えられる。

所見：床面は完存する。カマド、主柱穴、貯蔵穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。カマド周辺から甕（３）、ミニチュア壺（４）、土製支脚（６）が出土している。覆土下層から床面にかけ



1	黒褐色土(7.5YR2/2)	ロームブロックφ5mm多量、炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
2	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ3mm中量、焼土、炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(7.5YR3/2)	焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(7.5YR3/2)	焼土含む。粘性あり。しまりあり。
5	黒褐色土(7.5YR2/2)	炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
6	黒色土(7.5YR2/1)	炭化物含む。粘性あり。しまりあり。
7	暗赤褐色土(2.5YR3/6)	焼土ブロック含む。粘性あり。しまりあり。
8	極暗褐色土(7.5YR2/3)	炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。
9	暗褐色土(10YR3/4)	黒褐色土少量、ロームブロックφ５～15mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。貼床。
10	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。貼床。
11	暗褐色土(7.5YR3/4)	ロームブロックφ１～3mm多量含む。粘性あり。しまりあり。貼床。

掘り方

0　3m
（1／80）

第562図　SI133

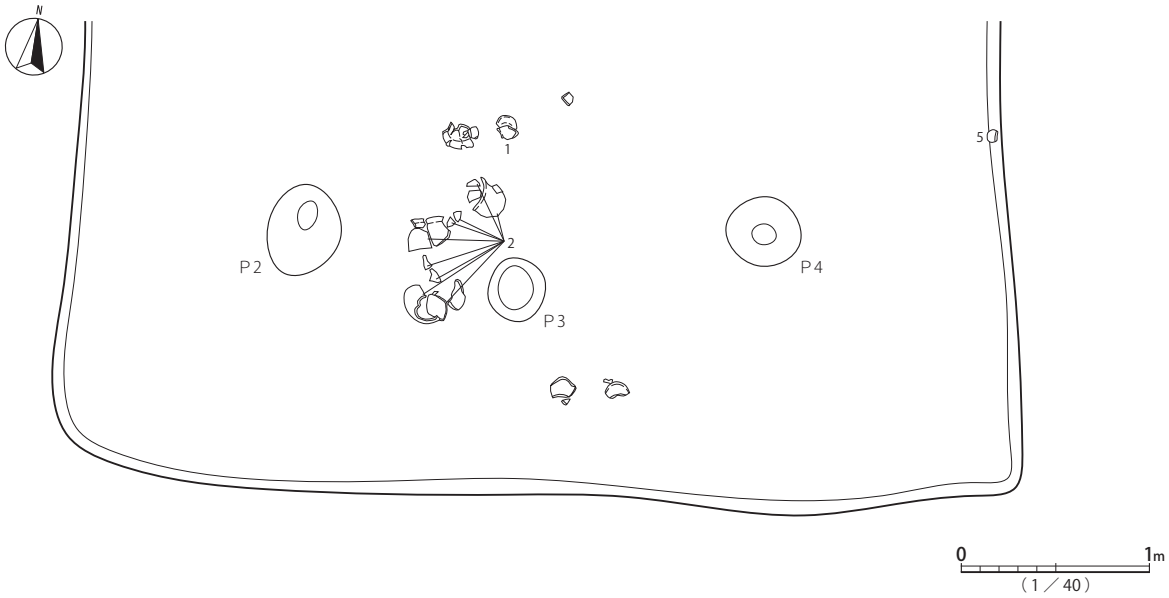
て、多量の炭化物と焼土、上屋の建材とみられる炭化木材を検出したことから、焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。

遺物：土器3,623.0g、土製品816.1gが出土した。

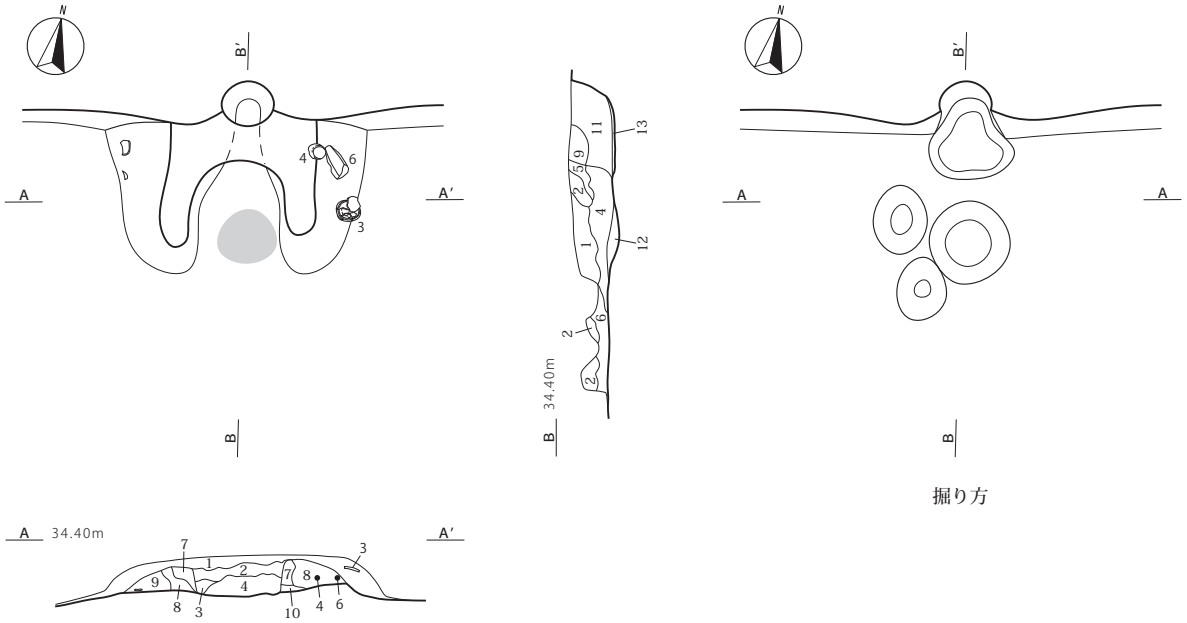
１は高坏、２・３は甕、４はミニチュア鉢、５はミニチュア壺、６は土製支脚である。１は坏部内面にヘラミガキが密に施される。３は胴部にヘラミガキがわずかに施される。６は角柱形で外面にヘラと指による調整痕がみられる。



第563図　SI133焼土・炭化物検出状況



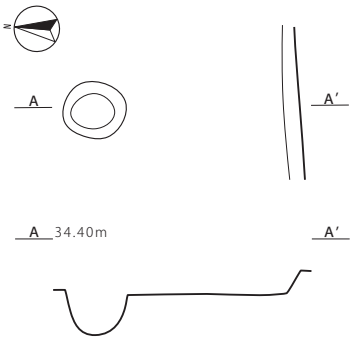
第564図　SI133遺物出土状況



1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	白色粘土粒子、炭化物少量。焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	白色粘土粒子少量、焼土ブロックφ5mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	黄色土(5YR/4/6)	白色粘土粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまり弱い。
5	灰黄褐色土(10YR4/2)	焼土ブロックφ10～20mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。
6	灰黄褐色土(10YR4/2)	白色粘土粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7	黄色砂(5YR/5/6)	白色粘土粒子微量含む。粘性弱い。しまり強い。カマド袖。
8	灰白砂土(5Y7/2)	白色粘土粒子中量、白色粘土ブロックφ10mm、焼土微量含む。粘性弱い。しまり強い。カマド袖。
9	灰色砂(5Y4/1)	白色粘土粒子少量、焼土少量含む。粘性あり。しまり強い。カマド袖。
10	暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)	焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
11	灰褐色砂(7.5YR4/2)	白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
12	赤褐色土(5YR4/6)	灰黄褐色土、焼土中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
13	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子中量、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

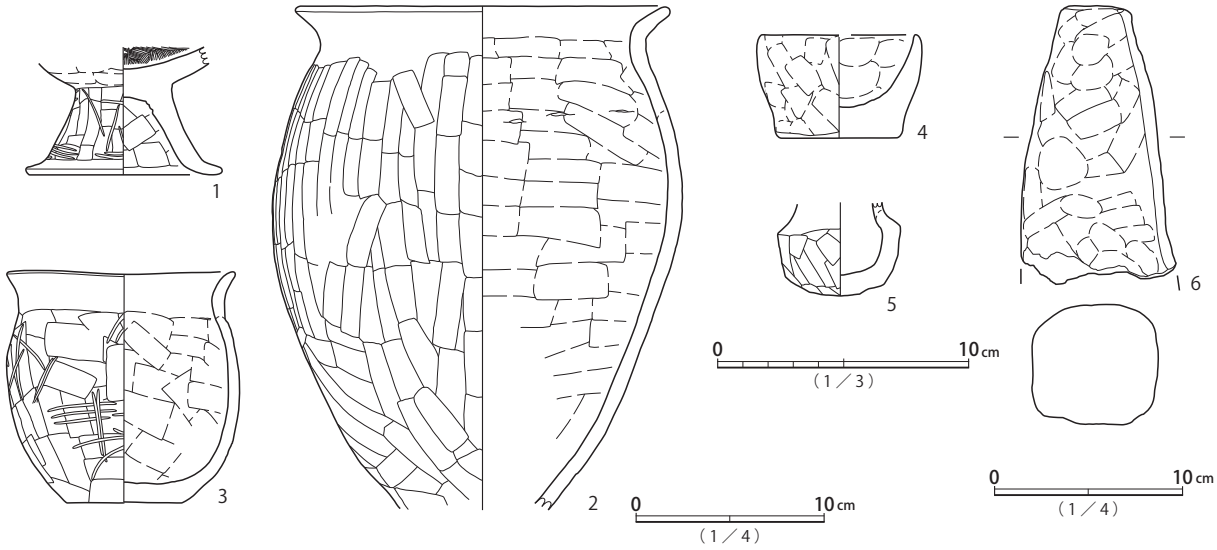
0　1m
（1／40）

第565図　SI133カマド



0　1m
（1／40）

第566図　SI133P3



第567図　SI133出土遺物

第195表　SI133出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土中層	口　径：　－ 脚　径：　10.0 器　高：　[6.8] 最大径：　－	外面：接合部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ	胎　土：長石・海綿骨針・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：坏部～裾部の2/3	
2	土師器 甕	覆土下層	口　径：　19.4 底　径：　－ 器　高：[26.7] 最大径：　21.8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ	胎　土：黒色粒・石英・長石・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の4/5	
3	土師器 甕	カマド	口　径：　11.9 底　径：　6.0 器　高：　12.2 最大径：　12.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
4	土師器 ミニチュア 鉢	カマド	口　径：　(6.0) 底　径：　4.8 器　高：　4.1 最大径：　－	外面：口縁部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～底部指頭圧痕	胎　土：石英・長石・角閃石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
5	土師器 ミニチュア 壺	覆土中層	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：　[3.7] 最大径：　－	外面：肩部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：肩部～底部ナデ	胎　土：長石・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：肩部～底部のみ完存	

第196表　SI133出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
6	支脚	カマド	長さ：[14.8]　幅：[8.2]　厚さ：6.4	767.4	角柱形

SI134（第568～570図、第197表、図版68・111）

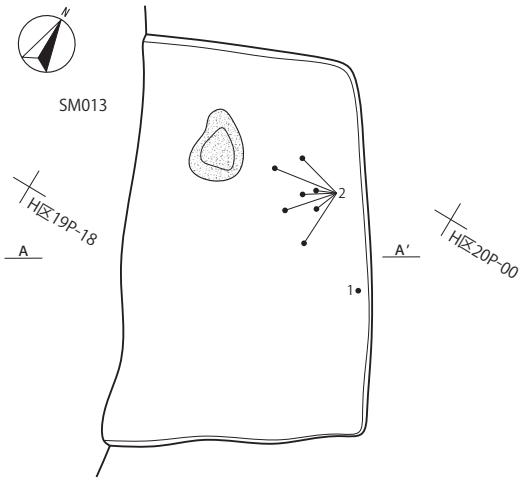
位置：H区19Ｐ-08グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SM013に切られる。**規模：**主軸（4.36）m、副軸（2.84）m、確認面からの深度0.22m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-31°-W。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.76m、短軸0.56mで浅く窪む。**施設：**床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

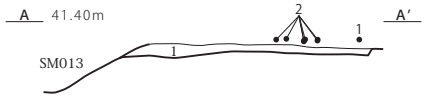
時期：遺物が少なく断定はできないが、SM013との重複と合わせて古墳時代中期３段階（５世紀中葉）と考えられる。

所見：炉が検出されたが、主柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物：土器924.4gが出土した。

１は坏、２は広口壺である。２は頸部にヘラミガキが、胴部にはヘラケズリが施される。

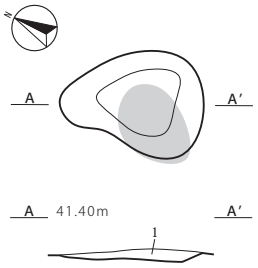




1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

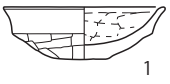
第568図　SI134

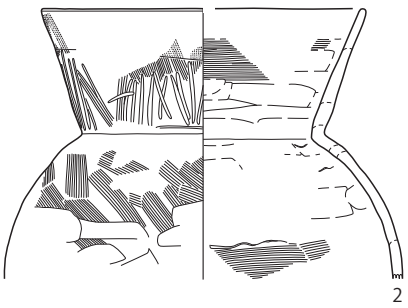


1　褐色土(7.5YR4/4)　焼土ブロックφ５～40mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　1m
（1／40）

第569図　SI134炉





0　10cm
（1／4）

第570図　SI134出土遺物

第197表　SI134出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口　径：　8.5 底　径：　2.8 器　高：　2.8 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：(17.0) 底　径：　－ 器　高：[14.3] 最大径：(21.1)	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ヘラミガキ、胴部ハケメ後ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ハケメ後ヘラナデ、胴部ヘラナデ後ハケメ	胎　土：石英・長石・角閃石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	

３．溝

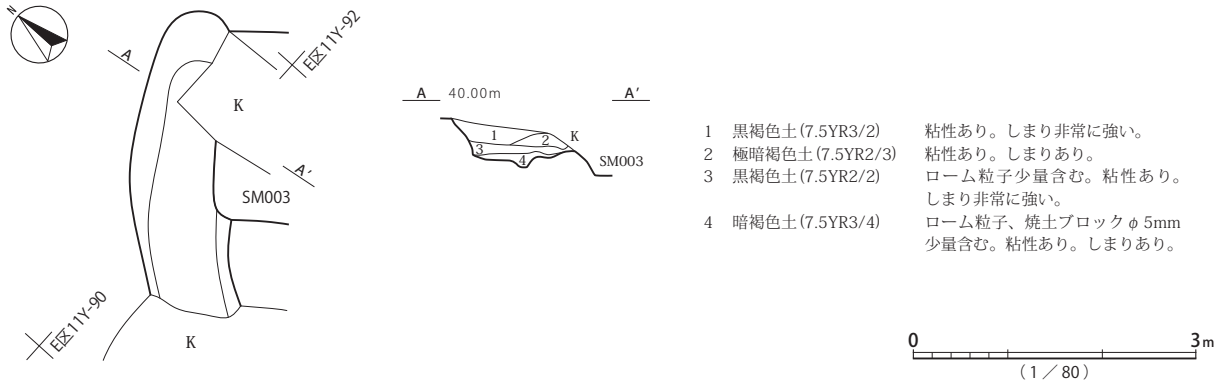
SD002（第571図）

位置：Ｅ区11Ｙ-81グリッドを中心とする西向き斜面に位置する。**重複：**SI047・SI046を切り、SM003に切られる。南東側と南西側は撹乱される。**規模：**全長（3.20）ｍ、幅0.68 ～ 1.04ｍ、確認面からの深度0.09 ～ 0.45ｍ。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複から古墳時代と考えられる。

所見：台地の西向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器18.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第571図　SD002

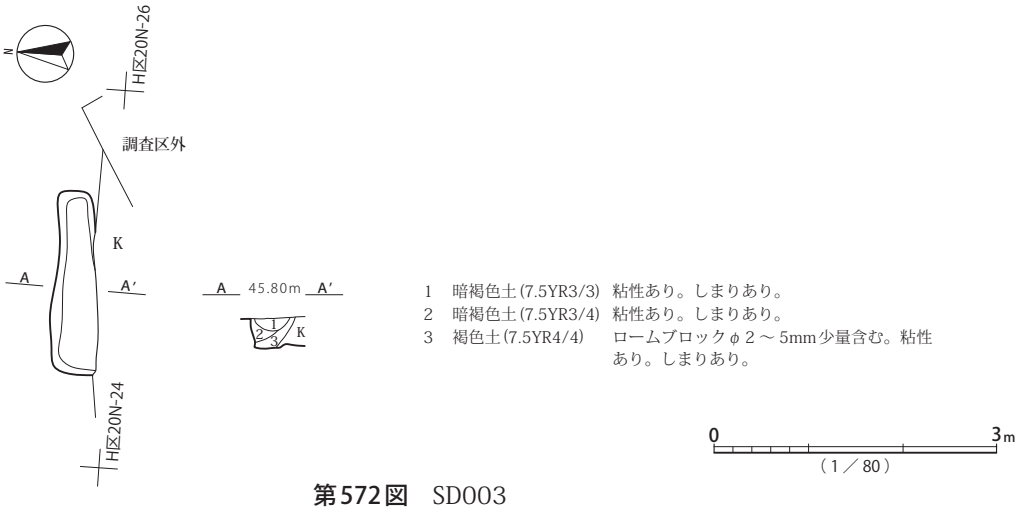
SD003（第572図、図版68）

位置：Ｈ区20Ｎ-14グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**南側は撹乱される。**規模：**全長1.96ｍ、幅0.36 ～ 0.50ｍ、確認面からの深度0.14 ～ 0.29ｍ。**形態：**東西方向に直線的に伸びる。底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：遺物が無く断定できないが、覆土から古墳時代と考えられる。

所見：本調査区ではもっとも短い溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第572図　SD003

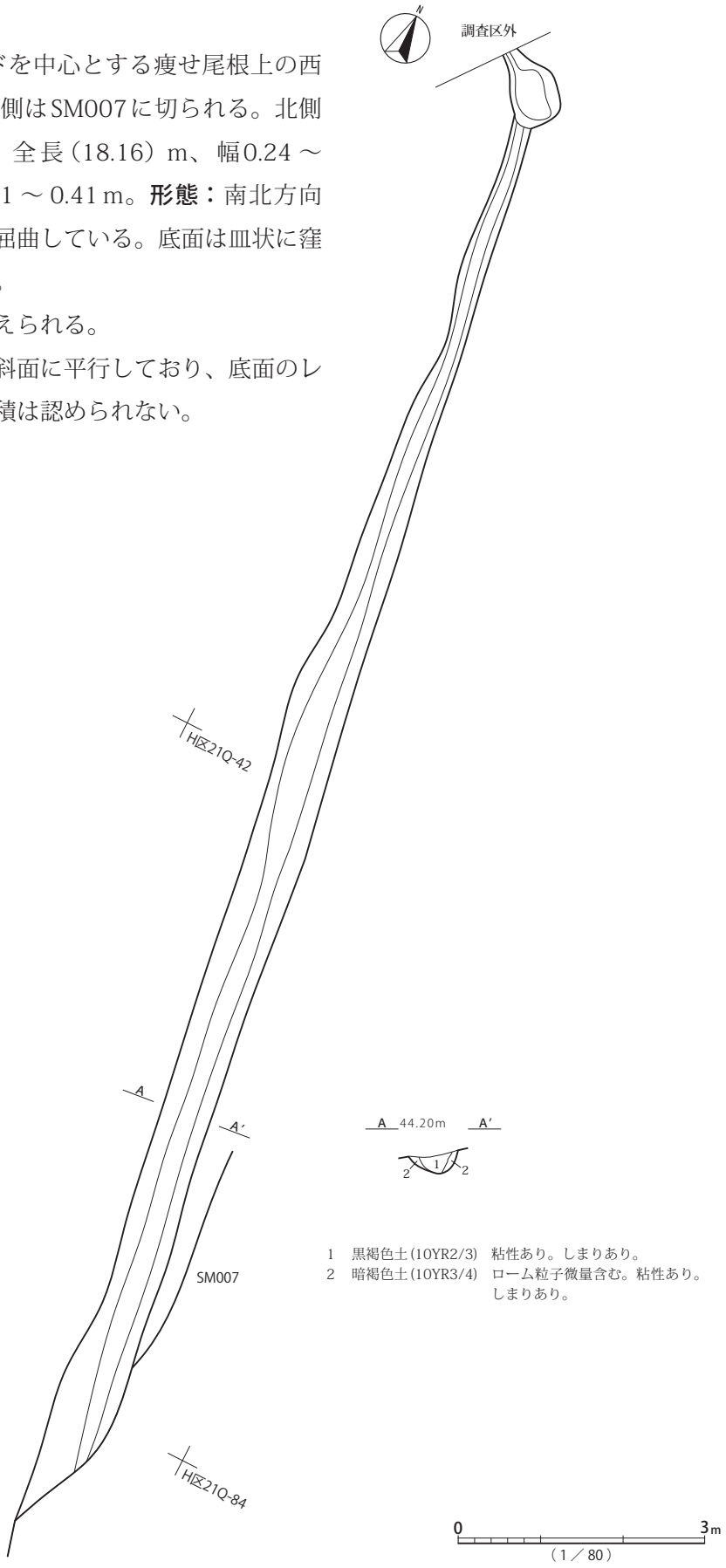
SD004（第573図、図版68）

位置：H区21Q-32グリッドを中心とする痩せ尾根上の西向き斜面に位置する。**重複：**南側はSM007に切られる。北側は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（18.16）m、幅0.24～0.76m、確認面からの深度0.01～0.41m。**形態：**南北方向に直線的に伸びており、北端で屈曲している。底面は皿状に窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複から古墳時代と考えられる。

所見：溝は痩せ尾根の西向き斜面に平行しており、底面のレベルはほぼ一定である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第573図　SD004

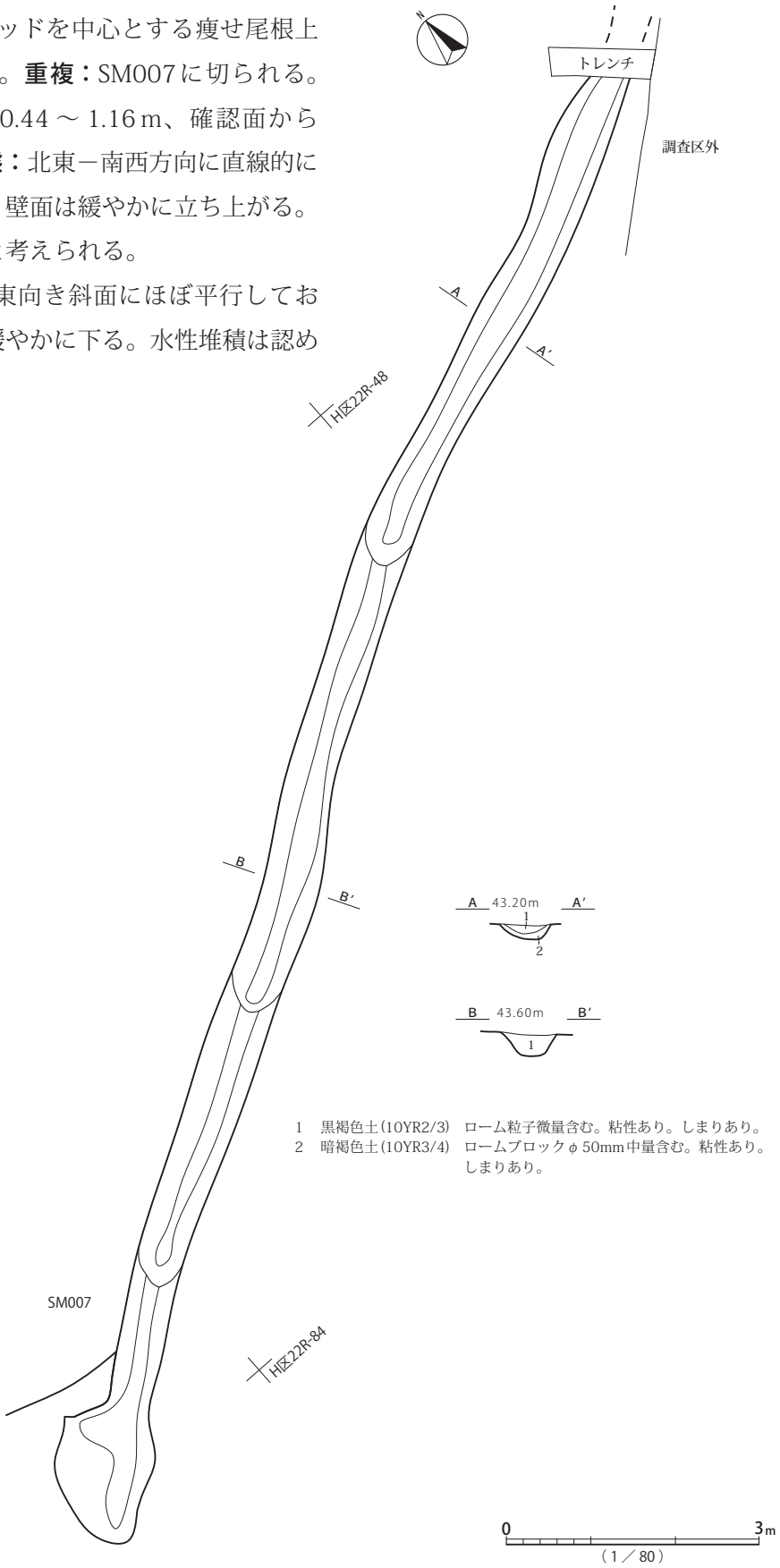
SD005（第574図、図版68）

位置：H区22 R -56グリッドを中心とする痩せ尾根上の南東向き斜面に位置する。**重複：**SM007に切られる。**規模：**全長（18.36）m、幅0.44 ～ 1.16 m、確認面からの深度0.01 ～ 0.31 m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複から古墳時代と考えられる。

所見：溝は痩せ尾根の南東向き斜面にほぼ平行しており、底面は南西から北東へ緩やかに下る。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第574図　SD005

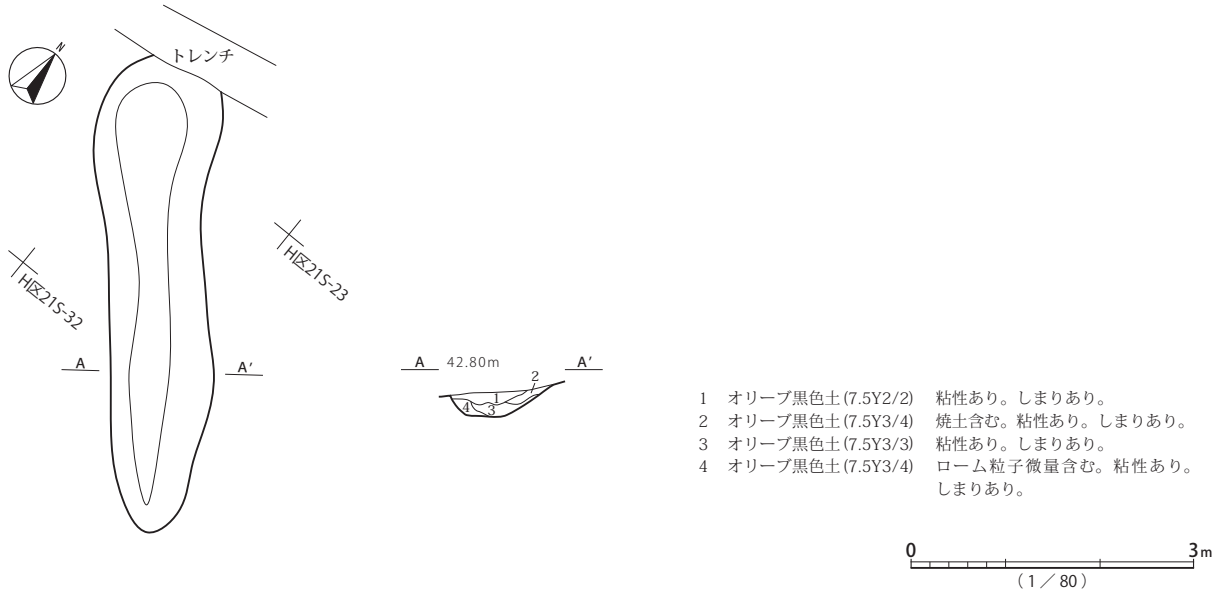
SD006（第575図、図版68）

位置：H区21 S -22グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**全長（5.04）m、幅0.84 ～ 1.36 m、確認面からの深度0.03 ～ 0.44 m。**形態：**北西－南東方向に直線的に伸びる。底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：溝は痩せ尾根の南西向き斜面に平行しており、底面のレベルはほぼ一定である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第575図　SD006

４．土　坑

SK011（第576図）

位置：H区11 S -75グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸1.83 m、短軸（0.68）m、確認面からの深度0.46 m。**長軸方位：**N -67°- E。**形態：**不明、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土器274.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK012（第576図）

位置：H区12 S -70グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.82 m、短軸0.67 m、確認面からの深度0.21 m。**長軸方位：**N -31°- W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK013（第576図）

位置：H区12 S -70グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.94ｍ、短軸0.71ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**N -83°- E。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

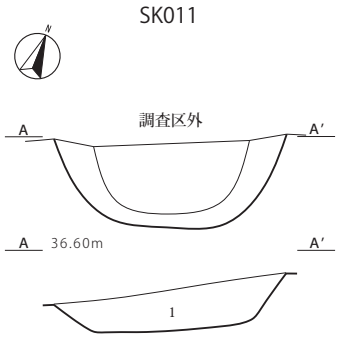
遺物：出土していない。

SK014（第576図）

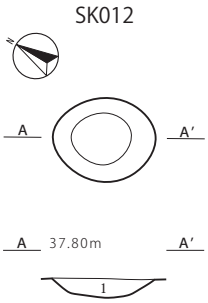
位置：H区12 S -81グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.57ｍ、短軸0.45ｍ、確認面からの深度0.14ｍ。**長軸方位：**N -25°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

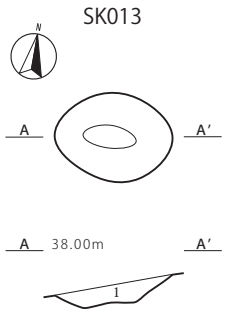
遺物：出土していない。



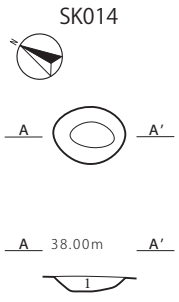
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



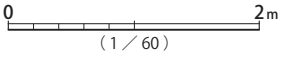
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



第576図　SK011～SK014

SK015（第577図、図版68）

位置：Ｅ区12 Ｓ-50グリッドを中心に位置する。**重複：**SI083に切られる。**規模：**長軸(4.35)ｍ、短軸1.67ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ-26°-Ｗ。**形態：**長楕円形と考えられる。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK016（第577図、図版68）

位置：Ｈ区11 Ｔ-29グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.92ｍ、短軸0.86ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**Ｎ-43°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：土器49.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK017（第577図、図版69）

位置：Ｈ区12 Ｔ-94グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.36ｍ、短軸1.14ｍ、確認面からの深度0.41ｍ。**長軸方位：**Ｎ-16°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：土器22.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK018（第577図、図版69）

位置：Ｈ区12 Ｕ-23グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.13ｍ、短軸0.98ｍ、確認面からの深度0.49ｍ。**長軸方位：**Ｎ-29°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK019（第577図、図版69）

位置：Ｈ区10 Ｘ-74グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.42ｍ、短軸1.06ｍ、確認面からの深度0.94ｍ。**長軸方位：**Ｎ-89°-Ｗ。**形態：**長方形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

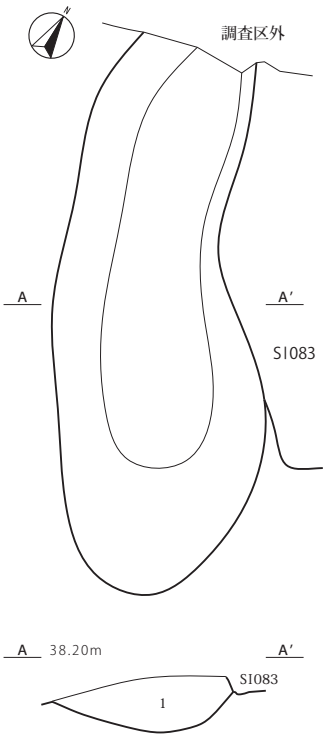
時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK020（第577図、図版69）

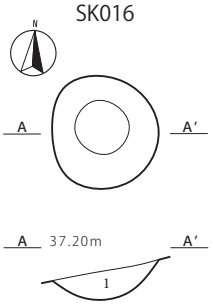
位置：Ｈ区11 Ｘ-49グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.81ｍ、

SK015



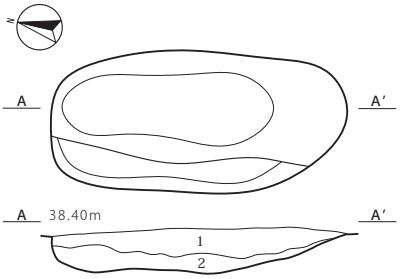
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　ロームブロックφ20～40mm少量、焼土ブロックφ20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK016



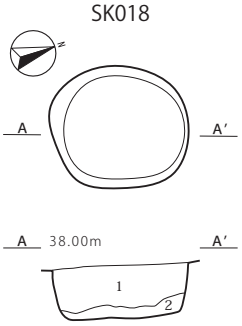
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK017



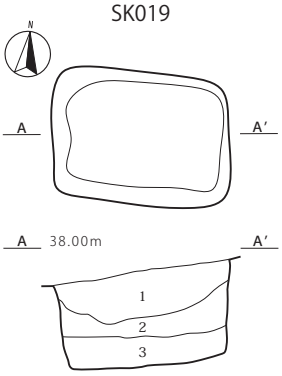
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

SK018



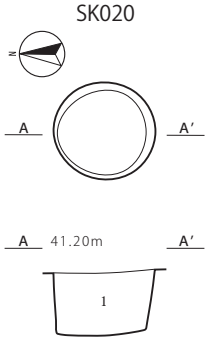
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。

SK019

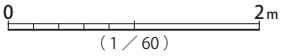


1　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

SK020



1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまり強い。



第577図　SK015～SK020

短軸0.77ｍ、確認面からの深度0.53ｍ。**長軸方位：**Ｎ－５°－Ｗ。**形態：**円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK021（第578・579図、第198表、図版69・111）

位置：Ｈ区12Ｘ-42グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.72ｍ、短軸0.54ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**長軸方位：**Ｎ-64°-Ｅ。**形態：**方形、底面はやや平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

遺物：土器616.4gが出土した。

１は鉢、２・３はミニチュア壺である。

１は外面全面および口縁部内面にヘラミガキが施される。

SK022（第578・580図、第199表、図版69・111）

位置：Ｈ区12Ｘ-34グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.68ｍ、短軸0.46ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**Ｎ－６°－Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

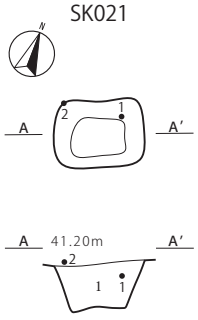
時期：出土遺物から５世紀代と考えられる。

遺物：土器221.3gが出土した。

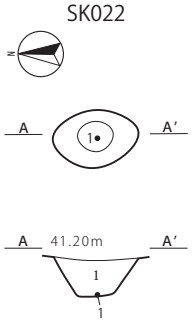
１の外面はヘラナデ調整が施される。

SK023（第581・582図、第200表、図版69・70・111）

位置：Ｅ区11Ｘ-84グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.78ｍ、短軸1.98ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ-42°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で中央に小ピットが検出された。壁面は緩やかに立ち上がる。



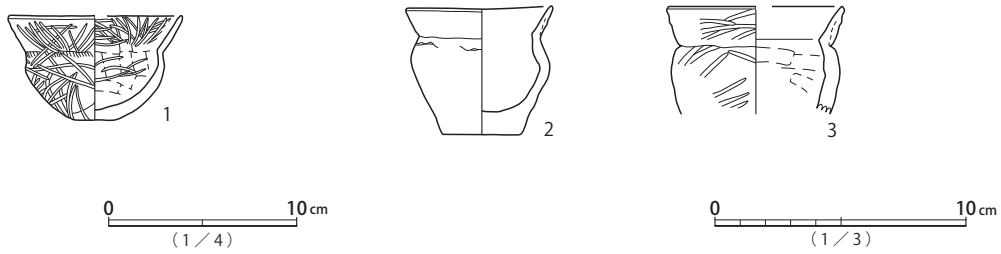
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックφ20～50mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックφ20mm少量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第578図　SK021・SK022

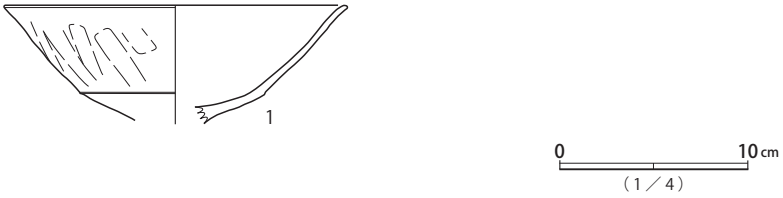


第579図　SK021出土遺物

第198表　SK021出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土上層	口　径：(9.2) 底　径：2.0 器　高：5.5 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、頸部ハケメ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：口縁部～底部の3/4	
2	土師器 ミニチュア 壺	覆土上層	口　径：5.7 底　径：3.1 器　高：5.1 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部ヨコナデ、胴部～底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ナデ	胎　土：海綿骨針 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：完存	
3	土師器 ミニチュア 壺	覆土下層	口　径：(6.8) 底　径：－ 器　高：[4.3] 最大径：－	特徴：折り返し口縁 外面：折り返し部～胴部ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	胎　土：石英・海綿骨針・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の破片	

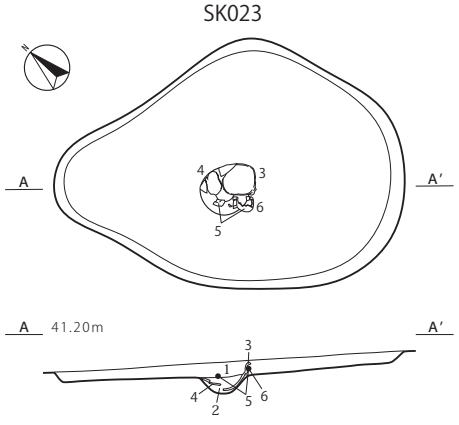


第580図　SK022出土遺物

第199表　SK022出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	底面	口　径：17.9 脚　径：－ 器　高：[6.3] 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部磨耗のため判別不能	胎　土：石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：坏部のみほぼ完存	



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ20～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

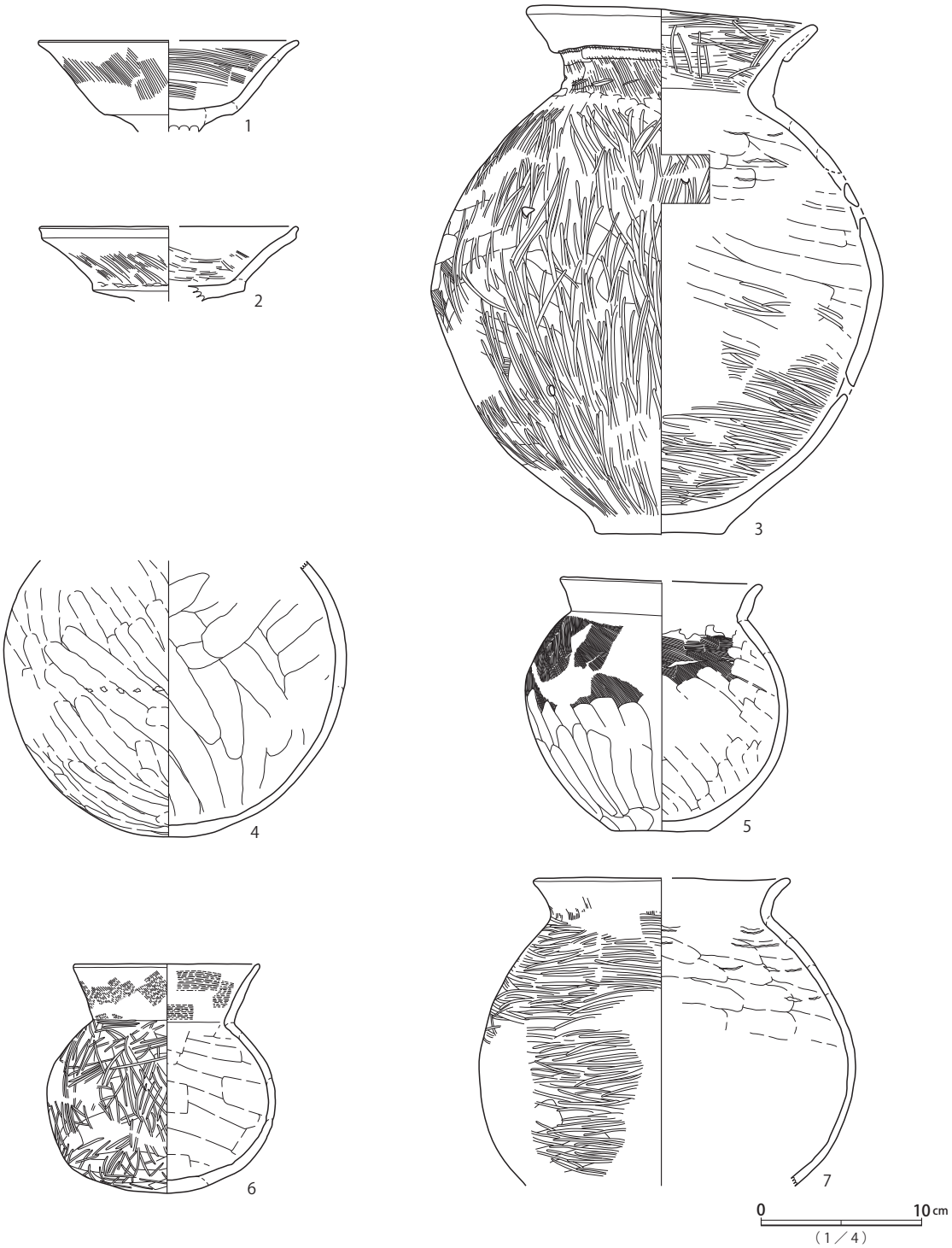
第581図　SK023

時期：出土遺物から古墳時代中期１段階（５世紀初頭）と考えられる。

所見：底面の小ピットには広口壺（３）、壺（４）、甕（５～７）が埋納されていた。

遺物：土器5,654.0gが出土した。

１・２は高坏、３広口壺、４は壺、５～７は甕である。１・２は内外面にハケメ調整を残す。３は胴部に３箇所穿孔されている。５は肩部から胴部中位にハケメ調整を残す。６は頸部の内外面にナデ調整を施すが、ハケメ調整が消されずに部分的に残存する。



第582図　SK023出土遺物

第200表　SK023出土土器観察表

単位：cm

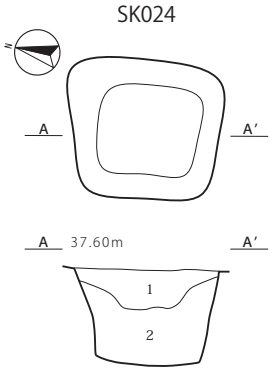
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(15.8) 脚　径：　－ 器　高：　[5.7] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ	胎　土：石英・黒色粒・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：灰黄褐 残存度：口縁部～接合部の1/3	
2	土師器 高坏	覆土下層	口　径：(15.8) 脚　径：　－ 器　高：　[4.6] 最大径：　－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、接合部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ	胎　土：石英・長石・角閃石・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：坏部の破片	
3	土師器 広口壺	小ピット	口　径：17.7 底　径：　7.6 器　高：32.7 最大径：28.5	特徴：折り返し口縁、焼成後胴部外面より３ヶ所穿孔 外面：折り返し部ヨコナデ、頸部ハケメ後ナデ、肩部ヘラナデ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ハケメ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　土：石英・長石・海綿骨針・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の3/4	外面煤付着
4	土師器 壺	小ピット	口　径：　－ 底　径：　－ 器　高：[17.1] 最大径：21.2	外面：胴部～底部ヘラナデ 内面：胴部～底部ヘラケズリ	胎　土：長石・白色粒・角閃石 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：胴部～底部の2/3	外面煤付着
5	土師器 甕	小ピット	口　径：12.2 底　径：　6.1 器　高：15.8 最大径：16.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ハケメ後ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラナデ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：明赤褐 残存度：口縁部～底部の2/3	
6	土師器 甕	小ピット	口　径：11.4 底　径：　－ 器　高：14.2 最大径：14.2	外面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・石英・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の2/3	外面煤付着
7	土師器 甕	小ピット	口　径：(15.6) 底　径：　－ 器　高：[19.1] 最大径：22.3	外面：口縁部～頸部ハケメ後ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半ナデ	胎　土：石英・海綿骨針・角閃石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～胴部の1/3	

SK024（第583図、図版70）

位置：H区10Y-83グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.26ｍ、短軸1.12ｍ、確認面からの深度0.86ｍ。**長軸方位：**N－5°－W。**形態：**方形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ5～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第583図　SK024

SK025（第584図、図版70）

位置：H区11Y-39グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.07ｍ、短軸1.02ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**長軸方位：**N-71°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

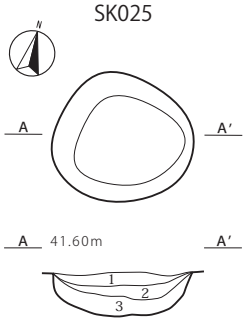
遺物：出土していない。

SK026（第584図、図版70）

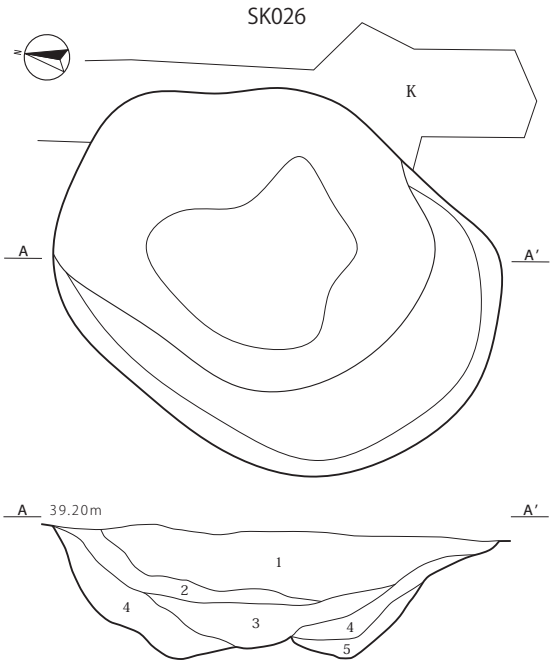
位置：H区11A-11グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側の一部は撹乱される。**規模：**長軸3.62ｍ、短軸2.78ｍ、確認面からの深度1.14ｍ。**長軸方位：**N-25°-E。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：土器426.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ30～50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。



1　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまり強い。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第584図　SK025・SK026

SK027（第585図、図版70）

位置：H区11Ａ-33グリッドを中心に位置する。**重複：**SM003、SI118に切られる。**規模：**長軸（2.83）m、短軸（2.37）m、確認面からの深度0.93m。**長軸方位：**Ｎ-26°-Ｗ。**形態：**隅丸方形と考えられる。底面は起伏が多く壁面は階段状に立ち上がる。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

所見：起伏のある底面の状況から樹痕の可能性もある。

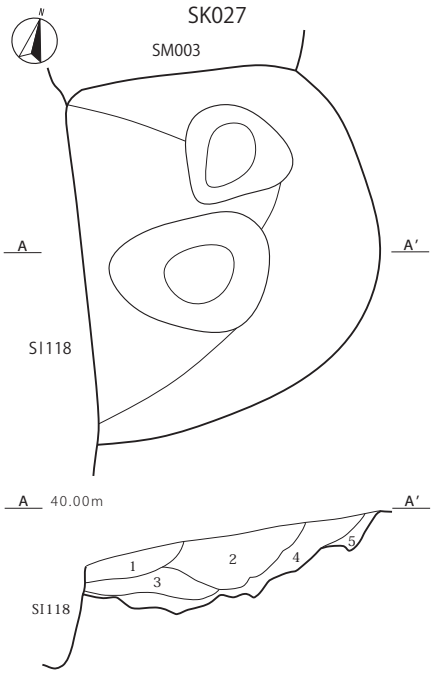
遺物：出土していない。

SK028（第585図、図版70）

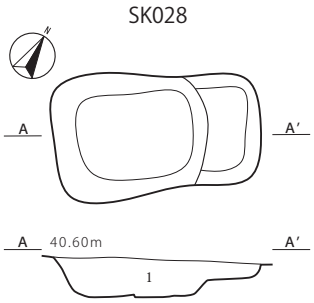
位置：H区12Ｂ-18グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.65m、短軸1.03m、確認面からの深度0.37m。**長軸方位：**Ｎ-54°-Ｅ。**形態：**長方形、底面は南西側が落ち込み壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ20～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ20～50mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第585図　SK027・SK028

SK029（第586・587図、第201表、図版70・112）

位置：H区14 E -03グリッド。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸3.09ｍ、短軸(0.96)ｍ、確認面からの深度0.18ｍ。**長軸方位：**N -43°- W。**形態：**楕円形と考えられる。底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：遺物が少なく断定はできないが、古墳時代中期２段階（５世紀前葉）と考えられる。

遺物：土器205.6gが出土した。

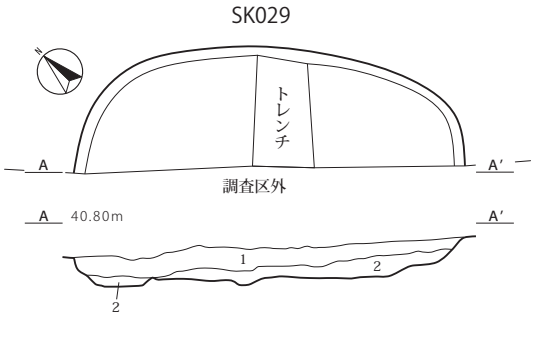
１は口縁部外面にハケメ調整を残す。

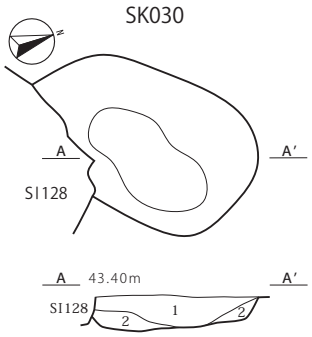
SK030（第586図、図版70）

位置：H区16 D -82グリッドを中心に位置する。**重複：**SI128に切られる。**規模：**長軸1.86ｍ、短軸1.18ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**N -48°- E。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：縄文土器33.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



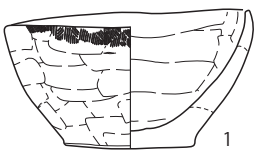


1　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ30mm中量含む。粘性非常に弱い。しまり弱い。

1　暗褐色土(10YR3/3)　固結火山灰土塊少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。

0　2m
（1／60）

第586図　SK029・SK030



0　10cm
（1／4）

第587図　SK029出土遺物

第201表　SK029出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土上層	口　径：12.9 底　径：6.7 器　高：7.3 最大径：－	外面：口縁部ハケメ、体部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～底部ヘラナデ	胎　土：橙色粒・石英・海綿骨針 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の1/2	

SK031（第588図、図版71）

位置：H区16Ｄ-44グリッドを中心に位置する。**重複：**SI076を切る。**規模：**長軸1.31ｍ、短軸0.99ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**長軸方位：**Ｎ-10°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は南側に傾斜し壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：土器93.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK032（第588図、図版71）

位置：H区19Ｈ-60グリッドに位置する。**重複：**SK034を切り、SD007に切られる。**規模：**長軸（0.81）ｍ、短軸1.15ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**長軸方位：**Ｎ-77°-Ｅ。**形態：**楕円形と考えられる。底面は平坦面が小さく、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

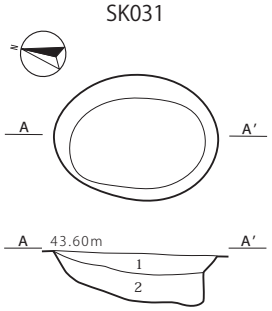
遺物：土器19.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK033（第588図、図版71）

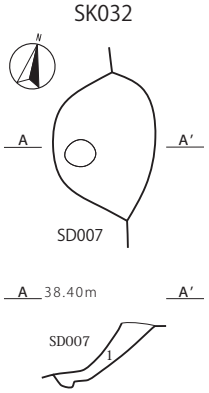
位置：H区19Ｈ-61グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.00ｍ、短軸0.63ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ-46°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は起伏やピット状の落ち込みがあり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

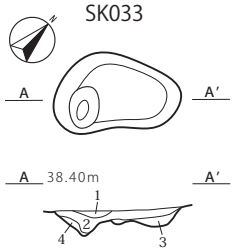
遺物：出土していない。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物φ20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。



1　赤色土(10R5/8)　焼土含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまり強い。

0　2m
（1／60）

第588図　SK031～SK033

SK034（第589図、図版71）

位置：H区19H-70グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸2.70ｍ、短軸1.82ｍ、確認面からの深度1.54ｍ。**長軸方位：**N-10°-E。**形態：**長楕円形、底面はほぼ平坦で壁面は長軸方向に大きくオーバーハングする。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土の上層はロームブロックを多量に含んでいることから、人為堆積と考えられる。なお、北壁西側を掘りすぎてしまったため、一部推定となっている。

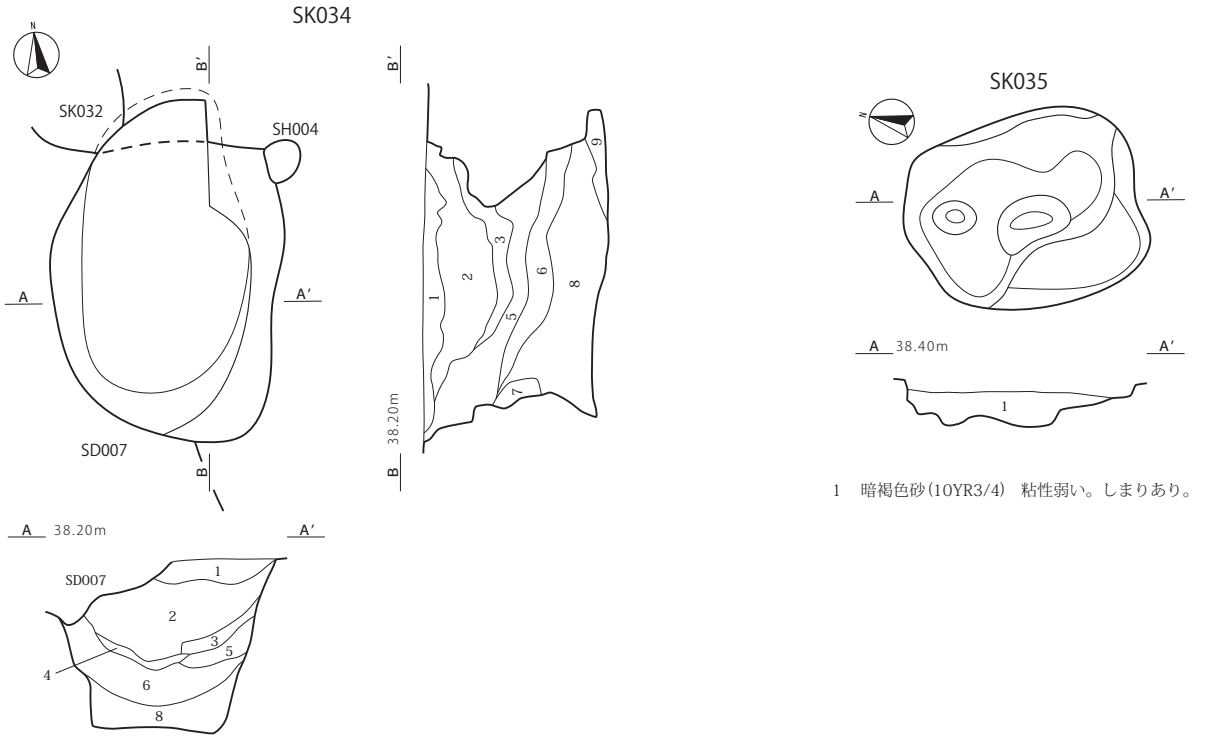
遺物：出土していない。

SK035（第589図、図版71）

位置：H区19H-61グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.87ｍ、短軸1.55ｍ、確認面からの深度0.44ｍ。**長軸方位：**N-26°-W。**形態：**隅丸方形、底面は小ピット状の窪みが２箇所あり、壁面は階段状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。



1　暗褐色砂(10YR3/4)　粘性弱い。しまりあり。

1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性強い。しまり強い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10mm、炭化物φ5mm中量含む。粘性強い。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックφ20mm、炭化物φ5mm少量含む。粘性強い。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ100mm多量含む。粘性非常に強い。しまり非常に強い。
8　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土ブロックφ200mm多量、ロームブロックφ50mm少量含む。粘性強い。しまり強い。
9　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性非常に強い。しまり非常に強い。

0　2m
（1／60）

第589図　SK034・SK035

SK036（第590図、図版71）

位置：H区19Ⅰ-51グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。南側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸（2.84）m、短軸（2.00）m、確認面からの深度1.04m。**長軸方位：**N-12°-E。**形態：**楕円形と考えられる。底面は起伏があり南西側には段がある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

所見：SD007との新旧関係を誤って掘り下げてしまったため、遺構の全容を把握することができなかった。

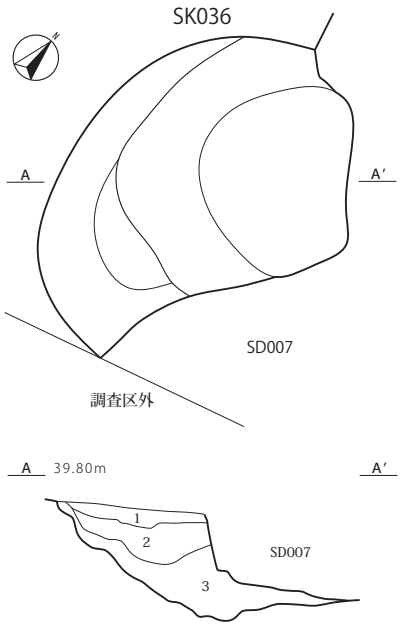
遺物：出土していない。

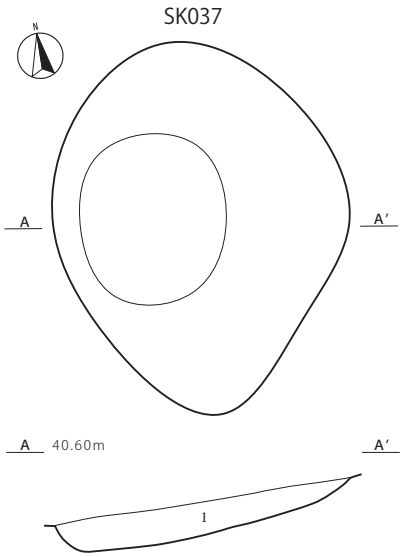
SK037（第590図、図版71）

位置：H区18M-25グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.99m、短軸2.34m、確認面からの深度0.57m。**長軸方位：**N-1°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦で西側に傾斜し、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。





1　暗褐色砂(10YR3/4)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色砂(10YR3/4)　ロームブロックφ100mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　暗褐色砂(10YR3/4)　ロームブロックφ100mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

1　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第590図　SK036・SK037

SK038（第591図、図版71）

位置：Ｈ区17Ｏ-24グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.48ｍ、短軸0.43ｍ、確認面からの深度0.17ｍ。**長軸方位：**Ｎ-44°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面は浅く皿状に窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：覆土全体に焼土が含まれる。

遺物：土器17.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK039（第591図、図版71）

位置：Ｈ区17Ｏ-34グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.62ｍ、短軸0.45ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ-６°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：覆土全体に焼土が含まれる。

遺物：土器17.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

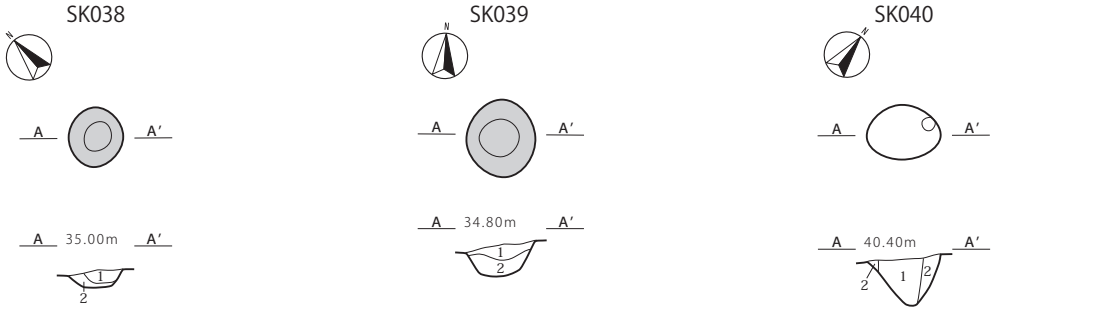
SK040（第591図、図版72）

位置：Ｈ区19Ｎ-82グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.58ｍ、短軸0.43ｍ、確認面からの深度0.67ｍ。**長軸方位：**Ｎ-45°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦面が小さく壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：形状や覆土から柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：出土していない。



第591図　SK038 ～ SK040

SK041（第592図、図版72）

位置：H区19Ｎ−95グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.72ｍ、短軸0.32ｍ、確認面からの深度0.35ｍ。**長軸方位：**Ｎ−37°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土は周囲の土坑に類似するが、形状がややいびつで樹痕の可能性も考えられる。

遺物：出土していない。

SK042（第592図、図版72）

位置：H区17Ｏ−99グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.43ｍ、短軸1.11ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**長軸方位：**Ｎ−47°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

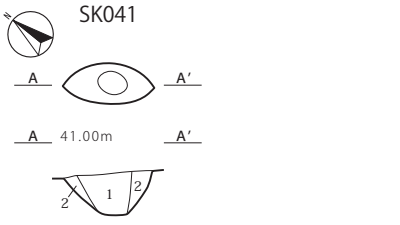
時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土上層に焼土が含まれる。

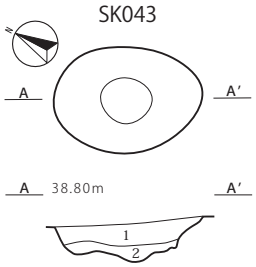
遺物：土器109.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK043（第592図、図版72）

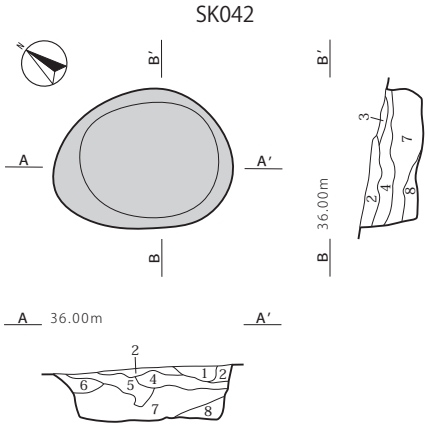
位置：H区18Ｐ−19グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.19ｍ、短軸0.85ｍ、確認面からの深度0.45ｍ。**長軸方位：**Ｎ−33°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり



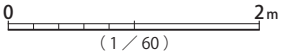
1　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ2～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　極暗褐色土(7.5YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ3～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。



1　赤褐色土(2.5YR4/6)　焼土多量含む。粘性あり。しまりあり。
2　極暗褐色土(7.5YR2/3)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土ブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(7.5YR2/2)　ロームブロックφ20～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(7.5YR3/3)　焼土ブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
8　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



第592図　SK041～SK043

壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK044（第593図、図版72）

位置：H区19Ｏ-69グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸(0.83)ｍ、短軸0.70ｍ、確認面からの深度0.16ｍ。**長軸方位：**Ｎ-36°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK045（第593・594図、第202表、図版72・112）

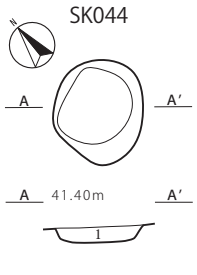
位置：H区18Ｐ-50グリッドに位置する。**重複：**SM012との重複関係は不明である。**規模：**長軸0.36ｍ、短軸0.34ｍ、確認面からの深度0.16ｍ。**長軸方位：**Ｎ-13°-Ｗ。**形態：**不整円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：出土遺物から４世紀後半と考えられる。

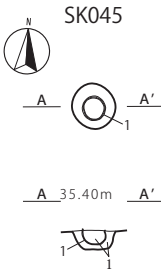
所見：鉢（１）が遺構中央で正位の状態で出土している。埋納されたと推測される。SM012周溝の内側だが、盛土が削平されており、SM012との関係は不明である。

遺物：土器603.1gが出土した。

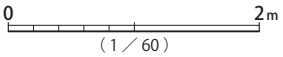
１は体部外面および口縁部内面にハケメ調整を残す。底部はヘラケズリが施される。



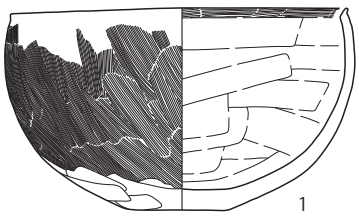
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。

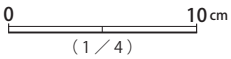


1　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



第593図　SK044・SK045





第594図　SK045出土遺物

第202表　SK045出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土下層	口　径：17.7 底　径：5.0 器　高：10.7 最大径：18.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ハケメ、体部～底部ヘラナデ	胎　土：石英・長石・白色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：完存	

SK046（第595図、図版72）

位置：H区18Ｐ-41グリッドに位置する。**重複：**SM012との新旧関係は不明である。**規模：**長軸1.14ｍ、短軸0.61ｍ、確認面からの深度0.36ｍ。**長軸方位：**Ｎ-19°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で南側に傾斜し壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK047（第595図、図版72）

位置：H区19Ｐ-39グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.93ｍ、短軸0.87ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ-18°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

遺物：土器8.0g、縄文土器8.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

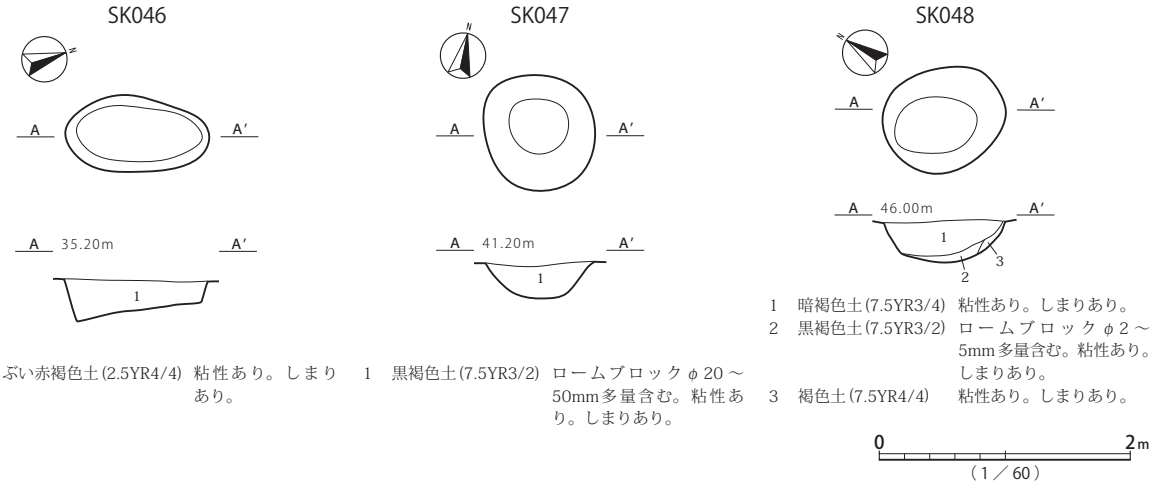
SK048（第595図、図版73）

位置：H区20Ｍ-73グリッドに位置する。**重複：**SM004を切る。**規模：**長軸0.98ｍ、短軸（0.81）ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**長軸方位：**Ｎ-40°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は浅い皿状に窪み、壁面はややきつく立ち上がる。

時期：重複および覆土から古墳時代と考えられる。

所見：SM004北西隅の陸橋部と接する。樹痕の可能性も考えられる。

遺物：縄文土器14.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい赤褐色土(2.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

1　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ20～50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(7.5YR3/2)　ロームブロックφ2～5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。

第595図　SK046～SK048

SK049（第596図、図版73）

位置：H区21M-64グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸3.05ｍ、短軸1.46ｍ、確認面からの深度0.49ｍ。**長軸方位：**N-25°-W。**形態：**隅丸長方形、底面は浅く皿状に窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK050（第596図、図版73）

位置：H区21M-66グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.96ｍ、短軸0.88ｍ、確認面からの深度0.45ｍ。**長軸方位：**N-88°-W。**形態：**不整円形、底面は平坦で東側に傾斜し、壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：SM005の北側に位置する。覆土上層に多量の焼土が混入するが、遺物の出土はなく、古墳との関連性は明確でない。

遺物：出土していない。

SK051（第596図、図版73）

位置：H区21N-80グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.26ｍ、短軸1.22ｍ、確認面からの深度0.47ｍ。**長軸方位：**N-2°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で北側の壁面は階段状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK052（第596図、図版73）

位置：H区21O-31グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.70ｍ、短軸1.40ｍ、確認面からの深度1.67ｍ。**長軸方位：**N-28°-W。**形態：**不整形、底面は楕円形状に落ち込み壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

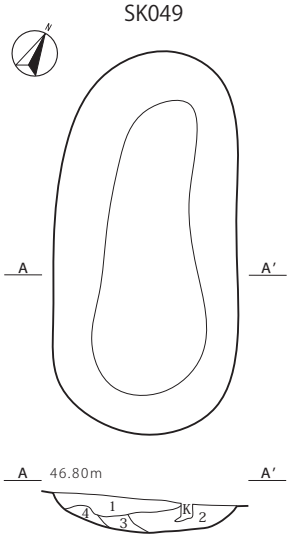
SK053（第596図、図版73）

位置：H区21O-45グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.35ｍ、短軸1.50ｍ、確認面からの深度0.66ｍ。**長軸方位：**N-30°-W。**形態：**隅丸長方形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

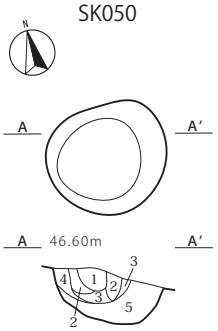
遺物：出土していない。

SK049



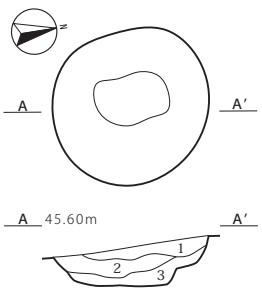
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/6)　粘性あり。しまりあり。

SK050



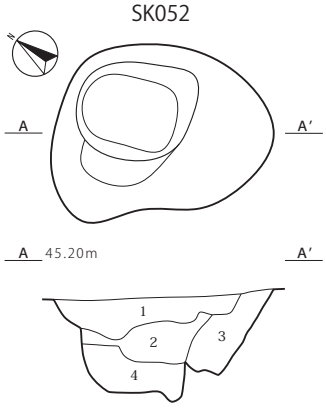
1　暗褐色土(7.5YR3/4)　焼土多量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗赤褐色土(5YR3/6)　焼土ブロック多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
4　極暗褐色土(7.5YR2/3)　焼土ブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK051



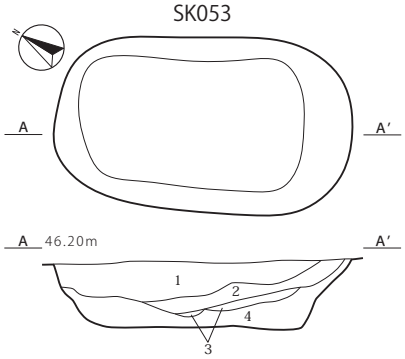
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子中量、ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK052

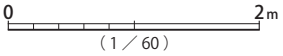


1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ10～200mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、ロームブロックφ10～100mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK053



1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。



第596図　SK049～SK053

SK054（第597図、図版73）

位置：Ｈ区21Ｏ-63グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸5.70ｍ、短軸（2.88）ｍ、確認面からの深度0.74ｍ。**長軸方位：**Ｎ-23°-Ｗ。**形態：**長楕円形と考えられる。底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

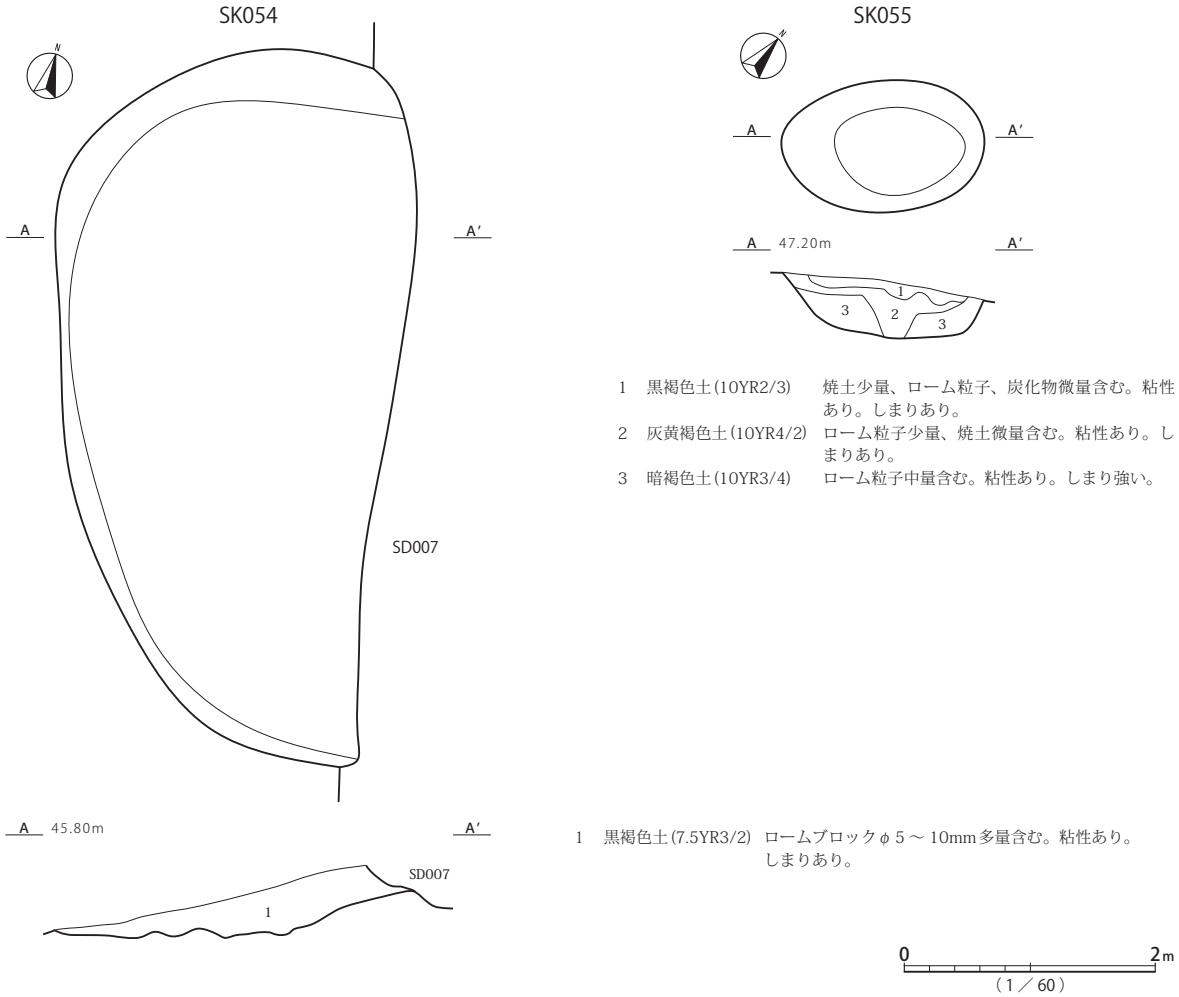
SK055（第597図、図版73）

位置：Ｈ区22Ｏ-62グリッドに位置する。**重複：**SM006を切る。**規模：**長軸1.62ｍ、短軸1.04ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**長軸方位：**Ｎ-46°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から古墳時代と考えられる。

所見：SM006墳丘上で検出された。盗掘坑とするには規模が小さいため断定はできない。SK056も同様である。

遺物：土器41.0g、縄文土器1.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第597図　SK054・SK055

SK056（第598図）

位置：H区22 O -81 グリッドを中心に位置する。**重複：**SM006を切る。**規模：**長軸1.58ｍ、短軸1.28ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**N -56°- W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK057（第598・599図、第203表、図版74・112）

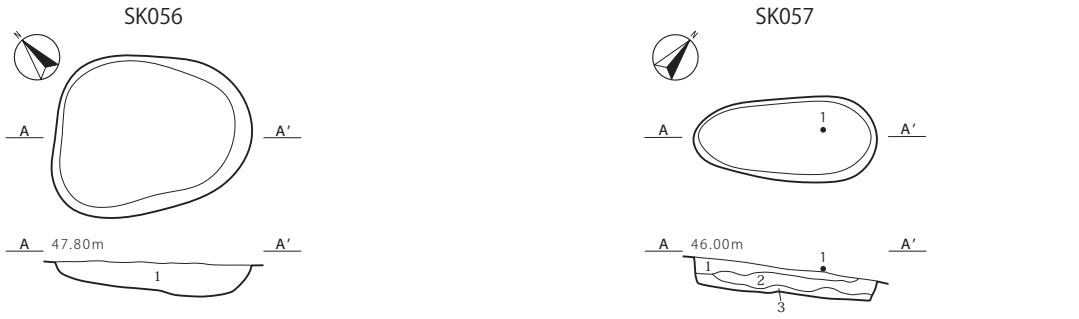
位置：H区22 P -36グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.46ｍ、短軸0.66ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**N -48°- E。**形態：**長楕円形、底面は平坦で北東側に傾斜し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：出土遺物から６世紀代と考えられる。

所見：SM006の南東側に位置する。覆土上面から鉢（１）が出土している。

遺物：土器317.5g、縄文土器1.0gが出土した。

１は内外面がナデ調整ののち赤彩されている。

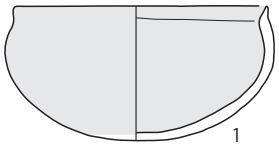


1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～20mm少量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

1　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(7.5YR4/4)　ロームブロック少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(7.5YR4/6)　粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第598図　SK056・SK057



0　10cm
（1／4）

第599図　SK057出土遺物

第203表　SK057出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 鉢	覆土上層	口　径：13.4 底　径：－ 器　高：7.1 最大径：14.3	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ナデ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ナデ、赤彩	胎　土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：ほぼ完存	

SK058（第600図、図版74）

位置：H区23 P -50グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸(1.11)m、短軸1.32m、確認面からの深度0.42m。**長軸方位：**N -81°- W。**形態：**楕円形と考えられる。底面は平坦で壁面はゆるやかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土上層に焼土が含まれる。

遺物：出土していない。

SK059（第600図、図版74）

位置：H区21 Q -30グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.36m、短軸0.83m、確認面からの深度0.42m。**長軸方位：**N -89°- E。**形態：**楕円形、底面は平坦でやや東側に傾斜し壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土上層に焼土が含まれる。

遺物：出土していない。

SK060（第600図、図版74）

位置：H区20 Q -49グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸(1.06)m、短軸1.14m、確認面からの深度0.50m。**長軸方位：**N -75°- W。**形態：**楕円形と考えられる。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土上層に焼土が含まれる。

遺物：出土していない。

SK061（第600図、図版74）

位置：H区22 Q -42グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸2.56m、短軸1.24m、確認面からの深度0.64m。**長軸方位：**N -40°- E。**形態：**隅丸方形、底面は平坦であるが北西隅が窪む。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

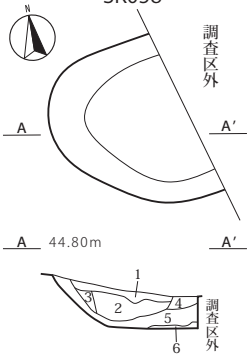
SK062（第600図、図版74）

位置：H区22 Q -33グリッドに位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸0.74m、短軸0.62m、確認面からの深度0.49m。**長軸方位：**N -23°- W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

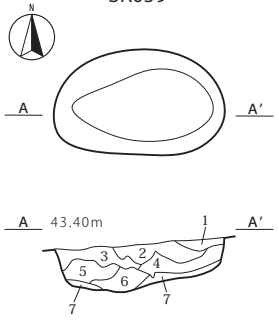
遺物：出土していない。

SK058



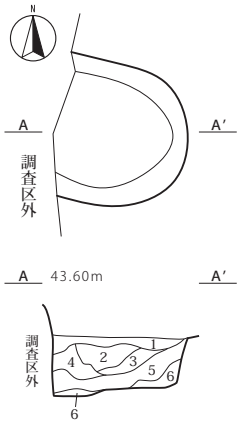
1　極暗褐色土(7.5YR2/3)　焼土多量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗赤色土(10R3/6)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR2/2)　焼土多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

SK059



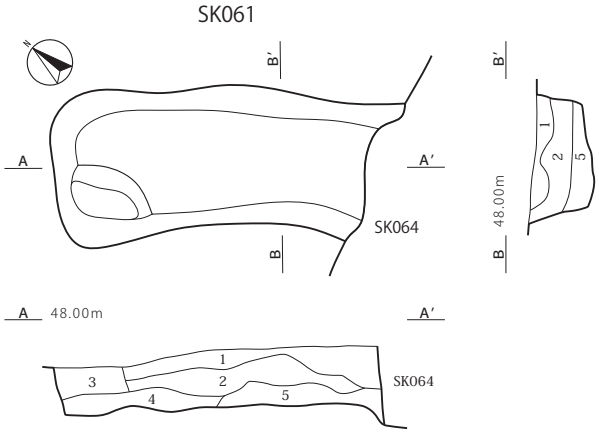
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　焼土、焼土ブロックφ５～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/3)　焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
6　黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。

SK060



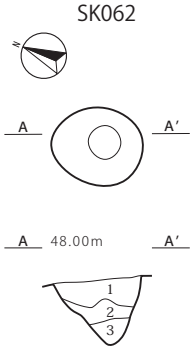
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　暗赤褐色土(5YR3/6)　焼土多量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/4)　焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黒褐色土(10YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
6　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。

SK061

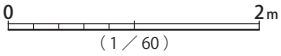


1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ20～60mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ10～70mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
5　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ５～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり弱い。

SK062



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ５～10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。



第600図　SK058～SK062

SK063（第601図、図版74）

位置：H区22Q-42グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸1.02ｍ、短軸0.70ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**長軸方位：**N-16°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK064（第601図、図版74）

位置：H区22Q-54グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸3.60ｍ、短軸2.42ｍ、確認面からの深度0.83ｍ。**長軸方位：**N-87°-E。**形態：**不整形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK065（第601図、図版74）

位置：H区22Q-71グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸1.68ｍ、短軸1.08ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**長軸方位：**N-54°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK066（第601図、図版75）

位置：H区23Q-81グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸1.12ｍ、短軸0.64ｍ、確認面からの深度0.20ｍ。**長軸方位：**N-16°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK067（第602図、図版75）

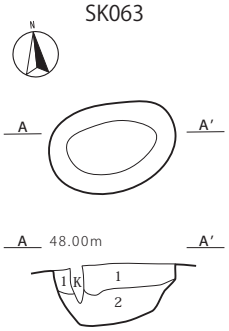
位置：H区22Q-91グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸3.32ｍ、短軸1.92ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**N-12°-E。**形態：**不整形、底面は平坦で中央に小ピットが検出されている。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

所見：覆土上層で焼土範囲が確認されたが、被熱痕跡は認められなかった。

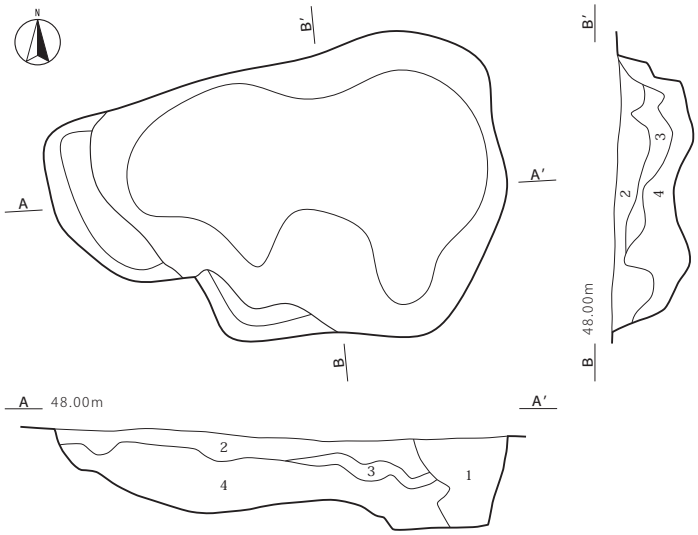
遺物：出土していない。

SK063



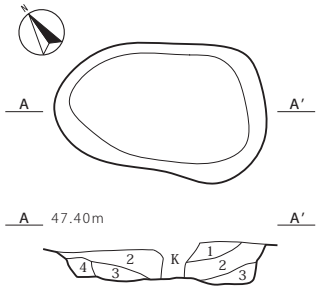
1　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ50mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK064



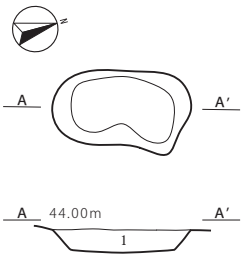
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子中量、黒色土少量、ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子多量、ロームブロックφ5～40mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子多量、ロームブロックφ5～60mm中量、粘土ブロックφ20～30mm微量含む。粘性あり。しまり弱い。

SK065



1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ50～100mm含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性あり。しまりあり。

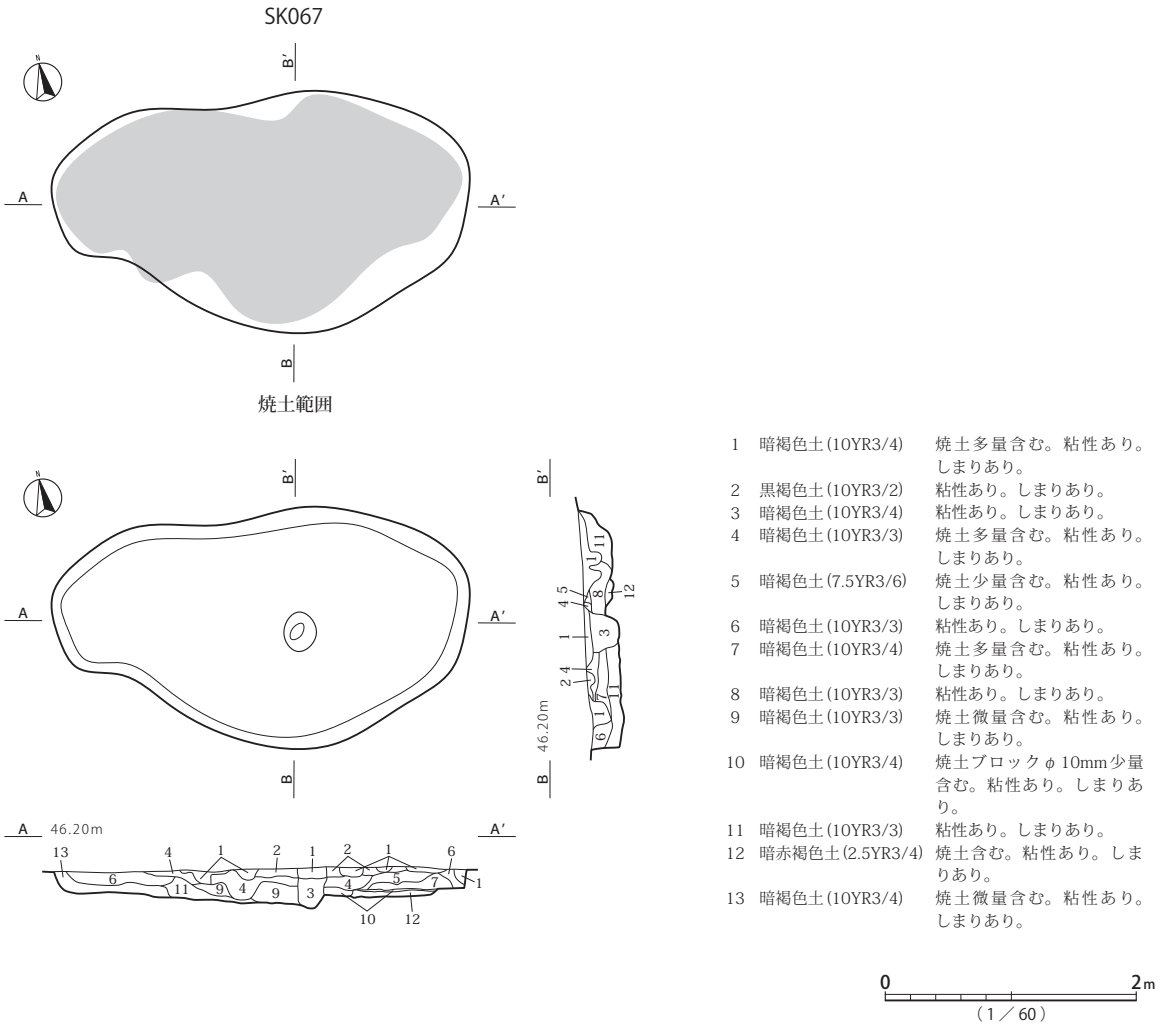
SK066



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ5～10mm多量、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第601図　SK063～SK066



第602図　SK067

SK068（第603図、図版75）

位置：H区21 R -11グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.25ｍ、短軸0.89ｍ、確認面からの深度0.45ｍ。**長軸方位：**N -81°- E。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK069（第603図、図版75）

位置：H区21 R -41グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.15ｍ、短軸1.14ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**長軸方位：**N -87°- E。**形態：**不整円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK070（第603図、図版75）

位置：H区21 R -71グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.22ｍ、短軸1.08ｍ、確認面からの深度0.72ｍ。**長軸方位：**N -52°- W。**形態：**楕円形、底面は起伏があり壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：縄文土器32.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK071（第604図、図版75）

位置：H区22 R -91グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸(0.95)ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.36ｍ。**長軸方位：**N -84°- E。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は階段状に立ち上がる。

時期：覆土から古墳時代と考えられる。

遺物：出土していない。

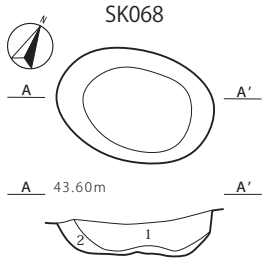
SK072（第604図、図版75）

位置：H区22 R -82グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.12ｍ、短軸2.02ｍ、確認面からの深度0.87ｍ。**長軸方位：**N -59°- E。**形態：**楕円形、底面は中心付近でピット状に深く落ち込み、壁面は緩やかに立ち上がる。

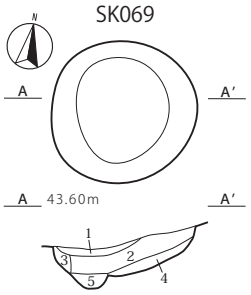
時期：古墳時代と考えられる。

所見：覆土は周囲の土坑に類似するが、底面がややいびつで、樹痕の可能性も考えられる。

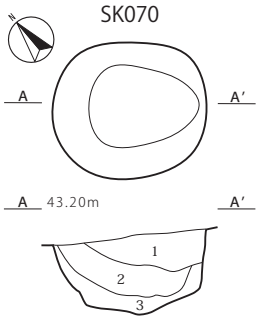
遺物：出土していない。



1　黒褐色土(10YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。



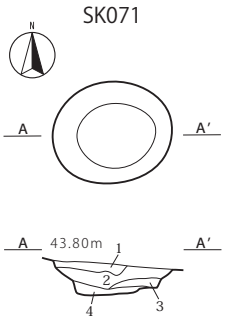
1　黒褐色土(10YR2/3)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。



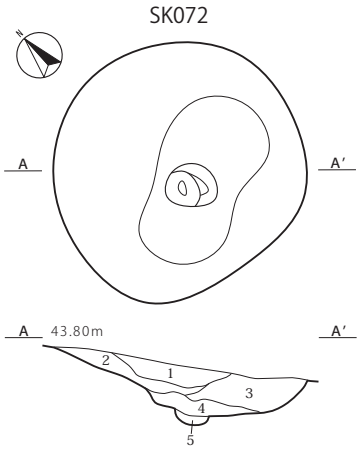
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ100mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

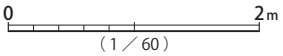
第603図　SK068 ～ SK070



1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまりあり。



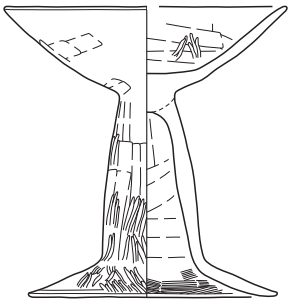
1　暗褐色土(10YR3/4)　黒色ブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり。しまりあり。

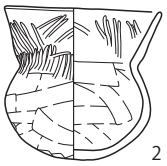


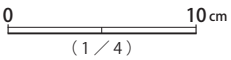
第604図　SK071・SK072

5．ピット出土遺物（第605図、第204表、図版75・112）

本調査区では時期不明のピットが多数検出されたため、第212表にて報告している。このうちSH108からは高坏（1）、広口壺（2）が出土している。どちらも覆土下層からの出土であり、混入と断定はできないため本項で報告する。







第605図　SH108出土遺物

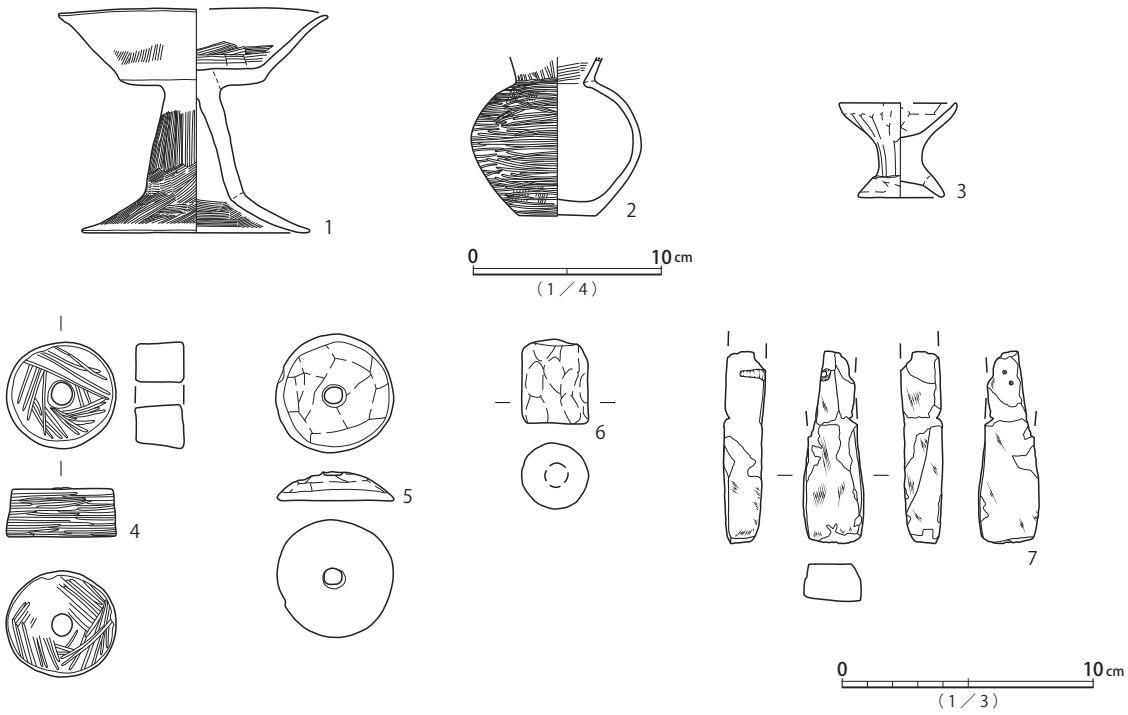
第204表　SH108出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口　径：15.0 脚　径：(12.7) 器　高：15.4 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～接合部ヘラナデ、脚部ヘラナデ後ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ後ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ハケメ後ヨコナデ	胎　土：石英・長石・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の4/5	
2	土師器 広口壺	覆土下層	口　径：8.2 底　径：－ 器　高：8.1 最大径：8.3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ 内面：口縁部～頸部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ	胎　土：長石・白色粒・赤色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：口縁部～底部の4/5	

６．遺構外出土遺物（第606図、第205 ～ 207表、図版112・113）

他時代の遺構、または遺構外から出土した古墳時代の遺物についてここで報告する。１は内空、中膨で円錐状の脚部をもつ高坏である。２は外面にヘラミガキを密に施している。３はミニチュアの高坏。４・５は土製の紡錘車、６は筒型の土錘である。７は砥石である。提砥にしようと試みたのだろうか、上部に貫通していない穿孔痕と、穿孔のアタリがある。



第606図　古墳時代遺構外出土遺物

第205表　古墳時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	確認調査	口　径：(14.0) 脚　径：11.5 器　高：11.9 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、接合部ナデ、脚部ハケメ、裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ後ナデ、脚部ナデ、裾部ハケメ後ヨコナデ	胎　土：石英・長石 焼　成：普通 色　調：褐 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 壺	表土	口　径：－ 底　径：4.1 器　高：[8.4] 最大径：8.9	外面：頸部ヘラミガキ、胴部～底部ハケメ後ヘラミガキ 内面：頸部ハケメ、胴部～底部ナデ	胎　土：石英・黒色粒・白色粒・角閃石 焼　成：普通 色　調：赤褐 残存度：頸部～底部のみほぼ完存	
3	土師器 ミニチュア 高坏	表土	口　径：(4.7) 底　径：3.4 器　高：3.8 最大径：－	外面：口縁部ヨコナデ、坏部～裾部ヘラナデ 内面：坏部ヘラナデ、脚部～裾部ナデ	胎　土：長石・石英・黒色粒 焼　成：普通 色　調：橙 残存度：口縁部～裾部の2/3	

第206表　古墳時代遺構外出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量（g）	備考
4	紡錘車	確認調査	直径：4.2　厚さ：1.9　孔径：0.8	37.5	
5	紡錘車	表土	直径：4.7　厚さ：1.1　孔径：0.7	19.3	
6	土錘	撹乱	直径：2.6　厚さ：3.3　孔径：1.0	23.6	

第207表　古墳時代遺構外出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
7	砥石	流紋岩	表土	[7.65]	[2.40]	[1.65]	28.20	砥面：表・裏・右・左・下各1面、孔径0.60㎝

第４節　奈良・平安時代

１．溝

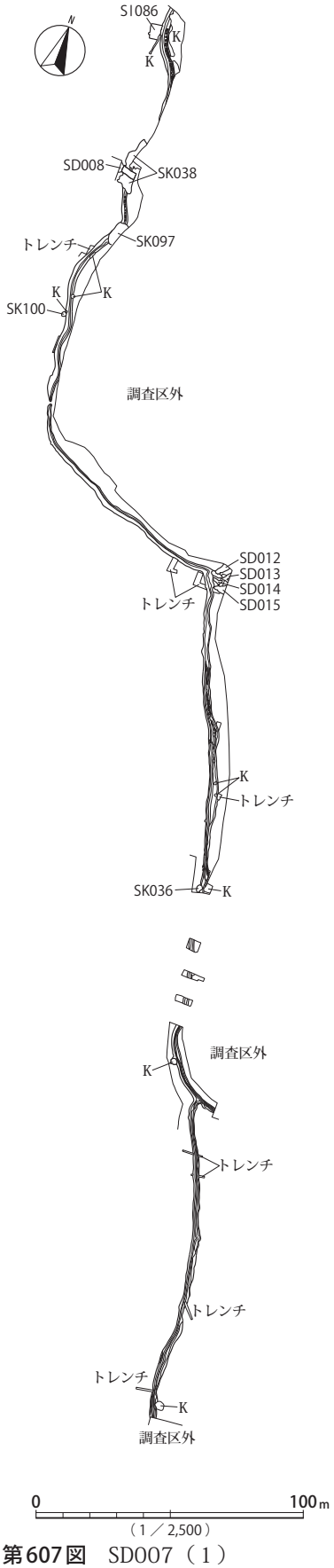
SD007（第607 ～ 613図、図版76・77）

位置：Ｅ区12 Ｓグリッド～Ｈ区21 Ｓグリッドで北西から南に伸びる台地の東向き緩斜面から急斜面に位置する。**重複：**SM004 ～ SM007、SI086・SI132、SD010・SD011・SD016・SD017、SK002・SK032・SK034・SK036・SK054・SK079・SK080・SK082・SK087 ～ SK090を切る。SD013、SK096・SK097・SK100・SK142に切られる。南北両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（566.05）ｍ、幅1.20 ～ 4.00ｍ、確認面からの深度0.08 ～ 1.82ｍ。**形態：**台地東縁の地形に沿って北西－南方向に伸びる。南側（Ｈ区20Ｍグリッド付近）でＹ字状に分岐し、一方は調査区外へ、もう一方は、痩せ尾根上に立地した古墳（SM005 ～ SM007）を避けるように尾根の西縁を南方向へ伸びる。底面は皿状だが、北側（Ｅ区13Ｙグリッド・13Ｗグリッド周辺）や中央（Ｈ区18Ｆグリッド周辺）で平面形態が楕円形の浅い窪みが連続して認められる。壁面は緩やかな部分と、きつく立ち上がる部分があり一様ではない。

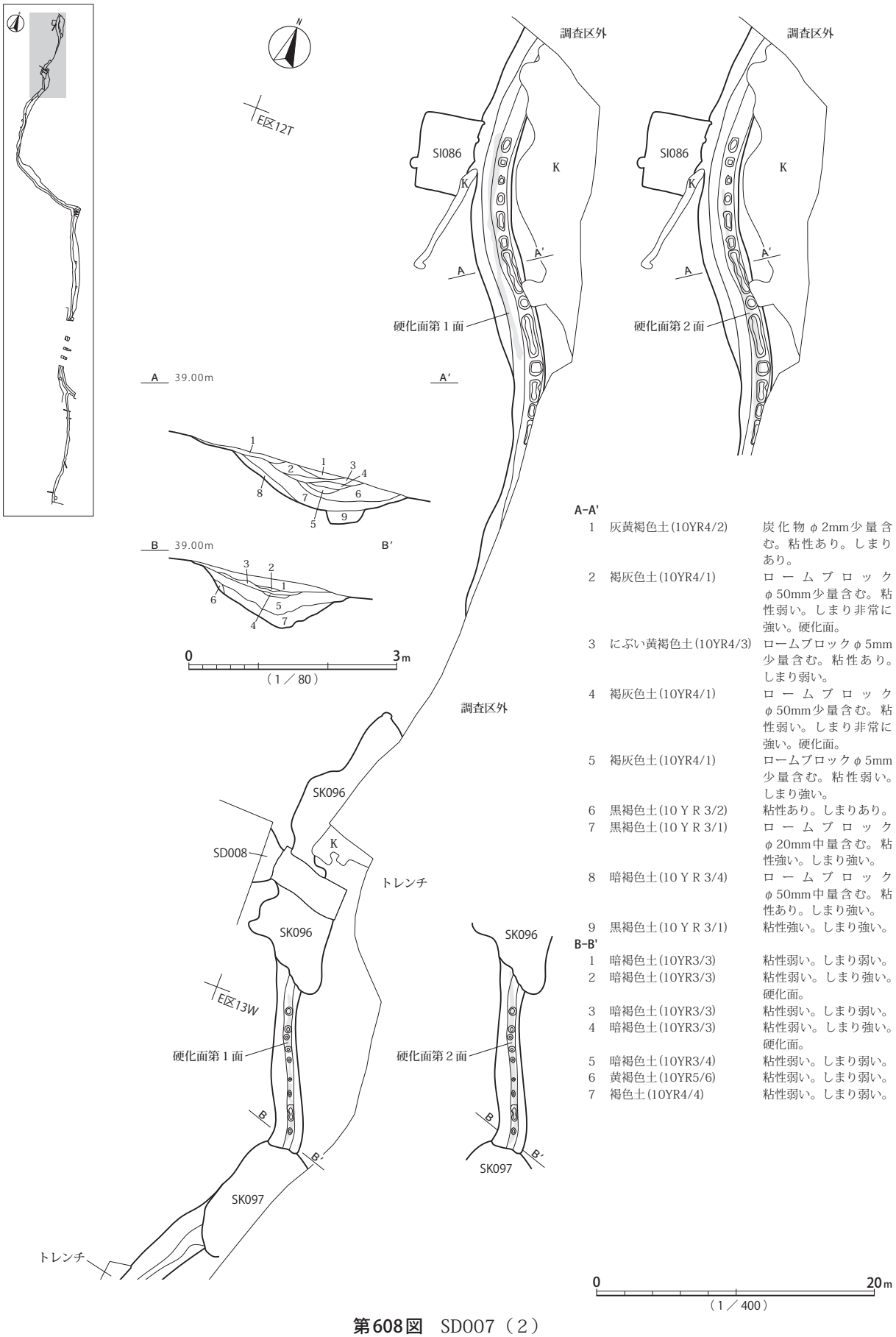
時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の東縁に位置する長大な溝であり、海保西竹谷遺跡SD017 と関連性があると考えられる。本遺構と重複もしくは接するSD010 ～ SD017等は、本遺構を横断せずに取り付くような平面形態であることから一連の遺構になる可能性がある。北端～中央（Ｈ区18Ｇグリッド付近）までは、覆土の埋没過程において２面ほどの硬化面を確認している。中・近世において窪みを道路として利用されたと考えられる。

遺物：土器8,522.0g、須恵器88.0g、縄文土器181.0g、石器・石製品13.00g、金属製品7.60gが出土した。いずれも小破片のため図示していない。



第607図　SD007（１）



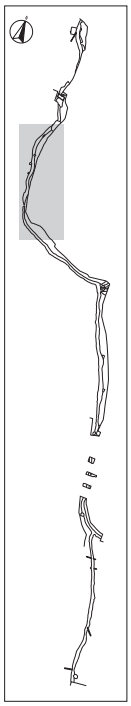
A–A'

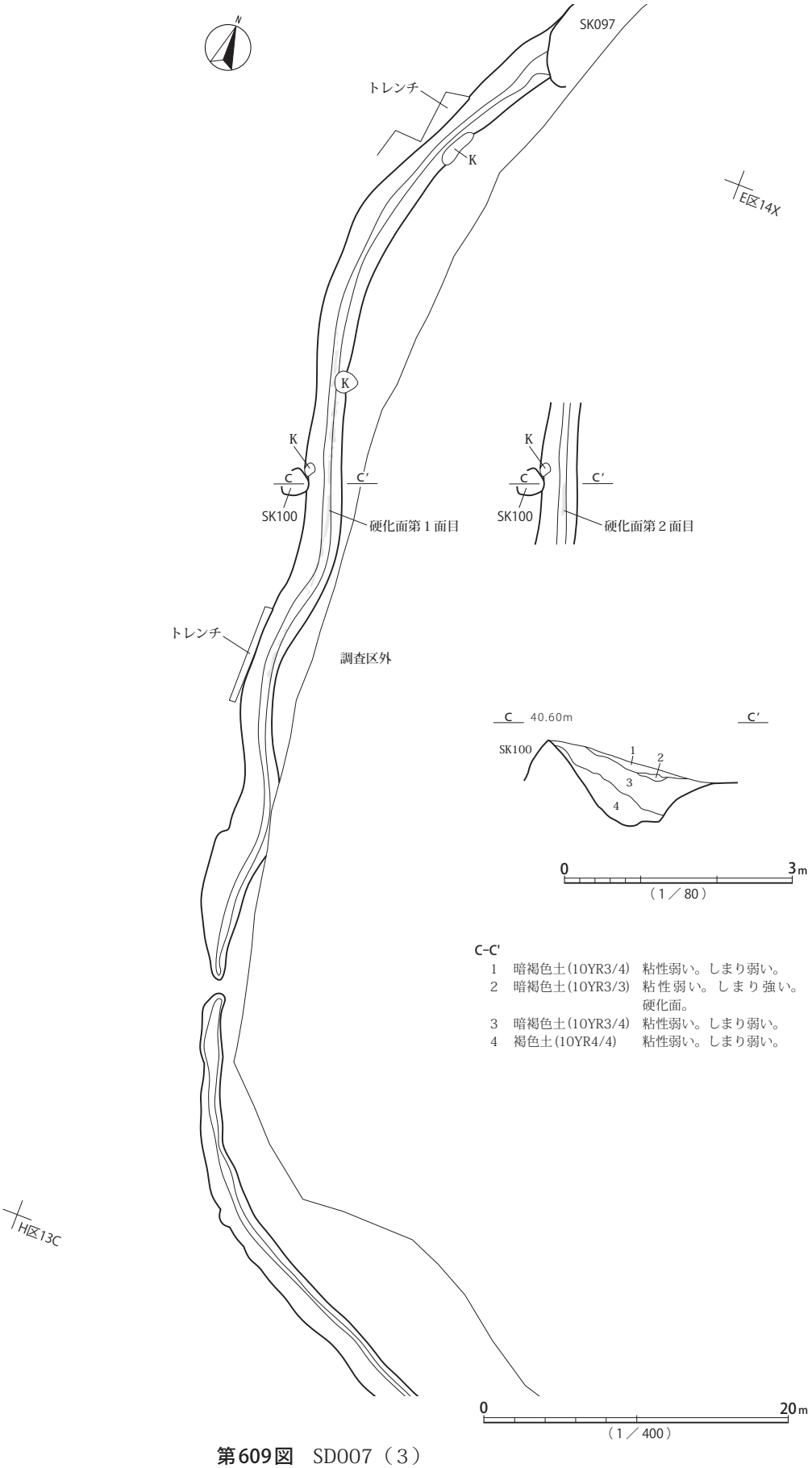
1	灰黄褐色土(10YR4/2)	炭化物φ2mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	褐灰色土(10YR4/1)	ロームブロックφ50mm少量含む。粘性弱い。しまり非常に強い。硬化面。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	褐灰色土(10YR4/1)	ロームブロックφ50mm少量含む。粘性弱い。しまり非常に強い。硬化面。
5	褐灰色土(10YR4/1)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまり強い。
6	黒褐色土(10YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
7	黒褐色土(10YR3/1)	ロームブロックφ20mm中量含む。粘性強い。しまり強い。
8	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまり強い。
9	黒褐色土(10YR3/1)	粘性強い。しまり強い。

B–B'

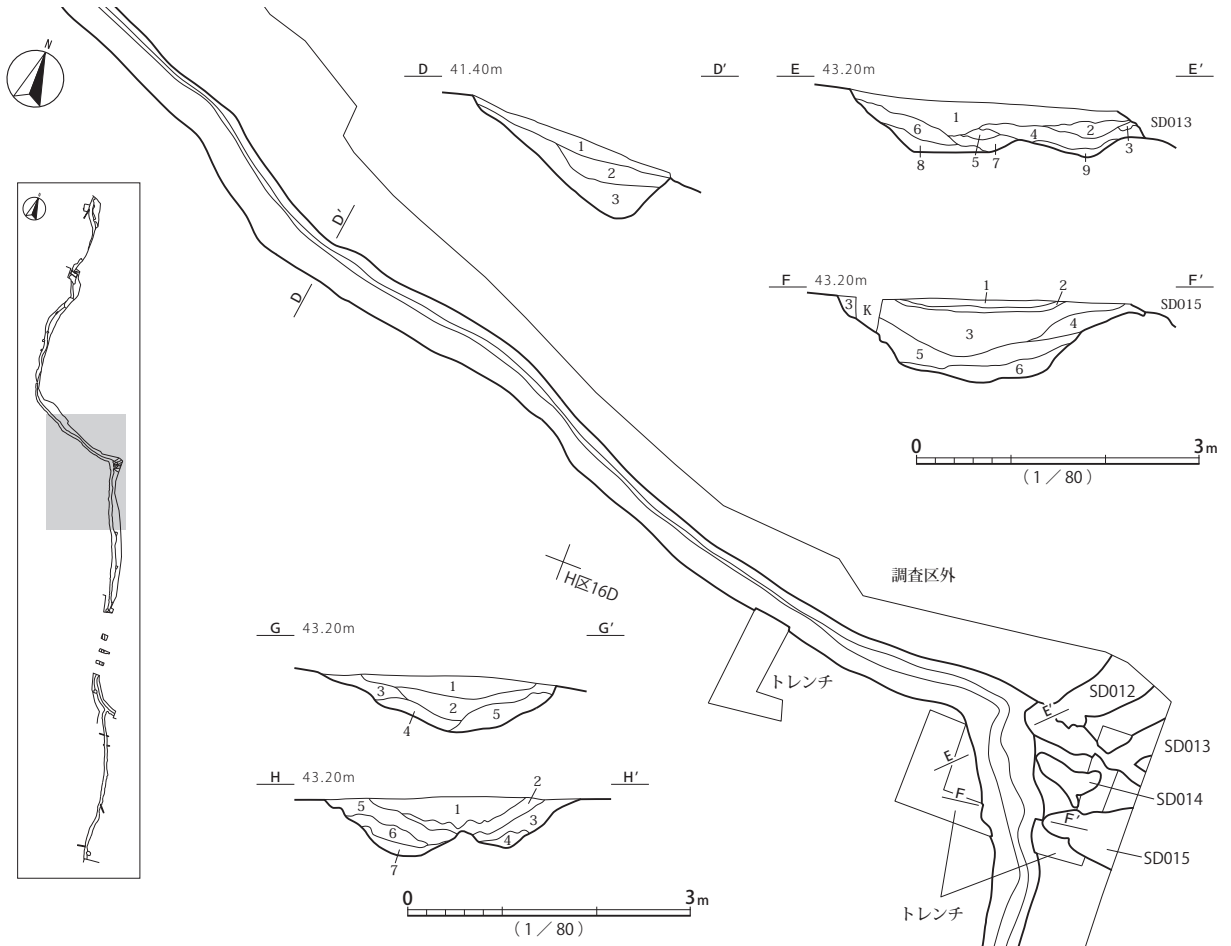
1	暗褐色土(10YR3/3)	粘性弱い。しまり弱い。
2	暗褐色土(10YR3/3)	粘性弱い。しまり強い。硬化面。
3	暗褐色土(10YR3/3)	粘性弱い。しまり弱い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	粘性弱い。しまり強い。硬化面。
5	暗褐色土(10YR3/4)	粘性弱い。しまり弱い。
6	黄褐色土(10YR5/6)	粘性弱い。しまり弱い。
7	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い。しまり弱い。

第608図　SD007（２）





第609図　SD007（３）



D–D'

1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。

E–E'

1	褐色土(7.5YR4/4)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり強い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり強い。
3	黄褐色土(10YR5/6)	粘性あり。しまり弱い。粘質土。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
7	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
9	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

F–F'

1	褐色土(10YR4/4)	ローム粒子、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。

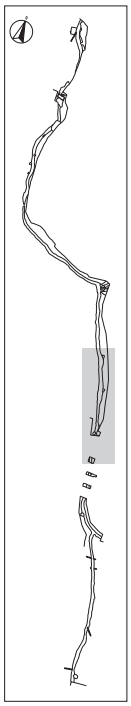
G–G'

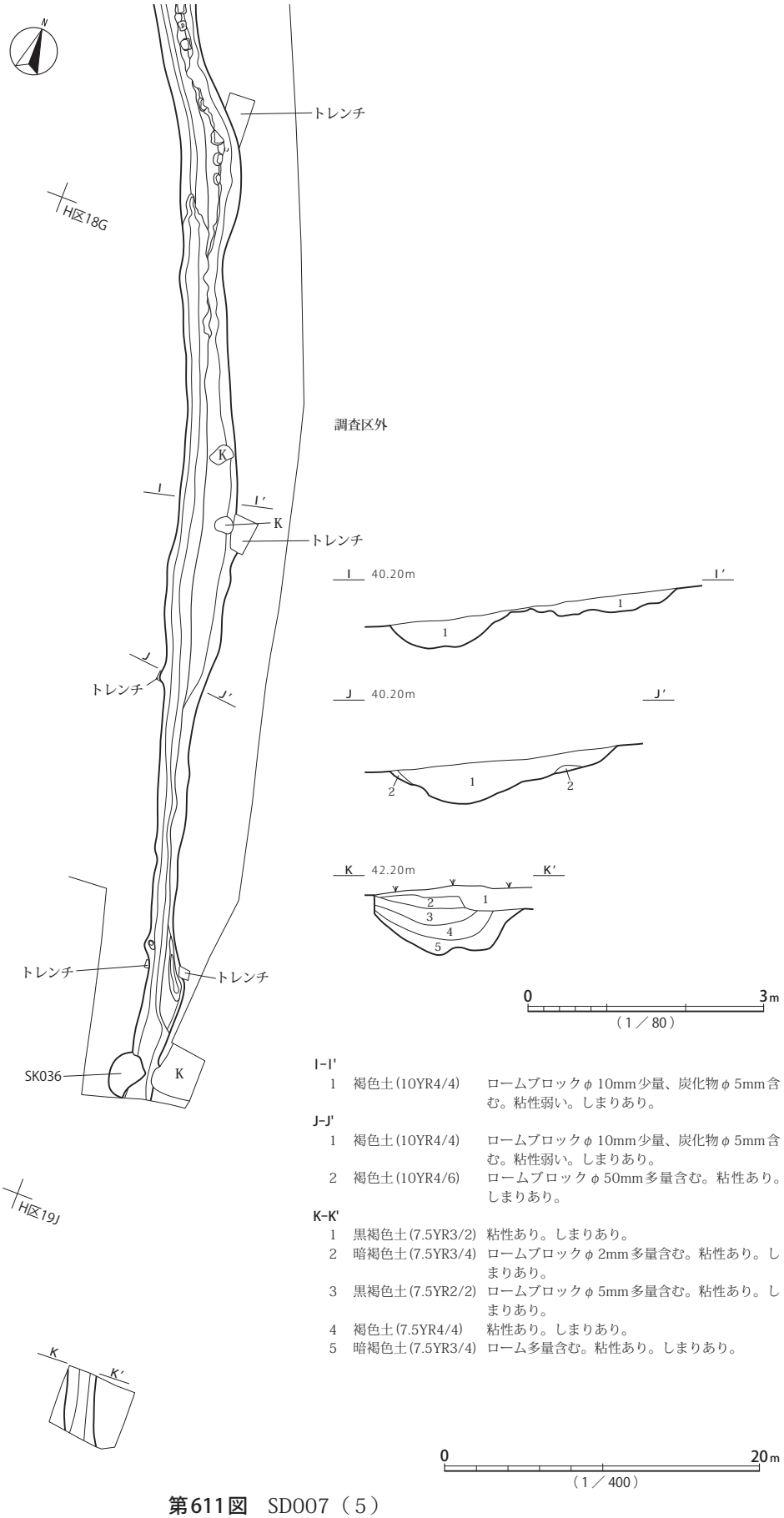
1	暗褐色土(7.5YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(7.5YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(7.5YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
5	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ2mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

H–H'

1	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
2	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	黒褐色土(10YR3/2)	ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
6	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
7	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

第610図　SD007（４）





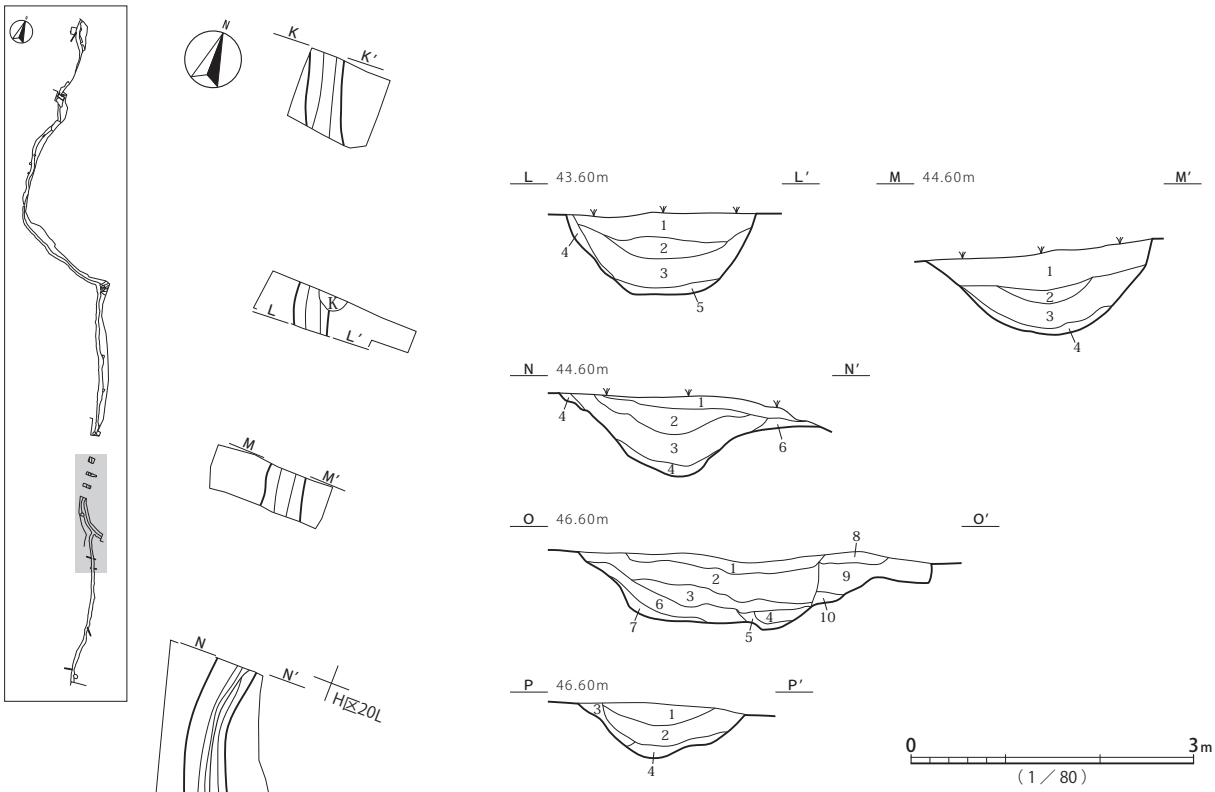
I-I'
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10mm少量、炭化物φ5mm含む。粘性弱い。しまりあり。

J-J'
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10mm少量、炭化物φ5mm含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

K-K'
1　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(7.5YR3/4)　ロームブロックφ2mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR2/2)　ロームブロックφ5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまりあり。
5　暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　20m
（1／400）

第611図　SD007（５）



L–L'

1	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(7.5YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
3	極暗褐色土(7.5YR2/3)	黒色土ブロックφ5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ10mm含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまりあり。

M–M'

1	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ１～３mm含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ３～５mm多く含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(7.5YR3/4)	ロームブロックφ２～５mm含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ50～80mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

N–N'

1	暗褐色土(7.5YR3/4)	粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(7.5YR2/2)	粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ50～100mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(7.5YR3/3)	ロームブロックφ10～50mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
5	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	暗褐色土(7.5YR3/4)	ロームブロックφ20～30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

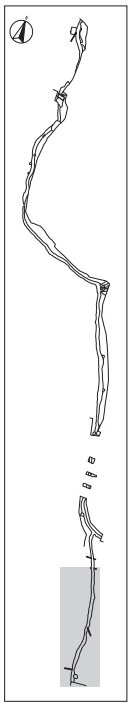
O–O'

1	黒褐色土(10YR2/3)	粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(10YR2/2)	ロームブロックφ5mm含む。粘性あり。しまりあり。
3	黒褐色土(7.5YR3/1)	ロームブロックφ5mm含む。粘性あり。しまりあり。
4	極暗褐色土(7.5YR2/3)	焼土ブロック多量に含む。粘性あり。しまりあり。
5	黒褐色土(7.5YR2/2)	粘性あり。しまりあり。
6	黒褐色土(7.5YR3/2)	ロームブロックφ５～10mm含む。粘性あり。しまりあり。
7	暗褐色土(7.5YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
8	黒褐色土(7.5YR2/2)	粘性あり。しまりあり。
9	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ２～３mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
10	黒褐色土(7.5YR2/2)	ロームブロックφ１～５mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

P–P'

1	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ２～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2	黒褐色土(7.5YR2/2)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	暗褐色土(7.5YR3/4)	ロームブロックφ５～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4	暗褐色土(7.5YR3/3)	ロームブロックφ２～３mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

第612図　SD007（６）



Q-Q'

1	黒褐色土(7.5YR3/2)	粘性あり。しまりあり。
2	暗褐色土(7.5YR3/4)	ロームブロックφ1～5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
3	極暗褐色土(7.5YR2/3)	ロームブロックφ5～10mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(7.5YR3/2)	粘性あり。しまりあり。

R-R'

1	にぶい褐色土(7.5YR5/4)	炭化物φ2～5mm微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/3)	砂粒φ1～2mm多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	暗褐色土ブロックφ10～15mm中量、焼土粒子φ1mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子中量、焼土ブロックφ1～2mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子、炭化物φ5～10mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。

第613図　SD007（7）

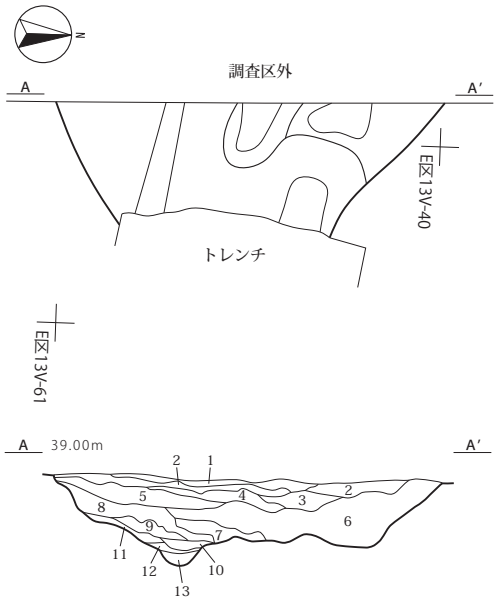
SD008（第614図、図版77）

位置：H区12Ｖ-50グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SK096と切り合うが新旧関係は不明である。西端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（1.37）m、幅2.24 ～ 4.11m、確認面からの深度0.11 ～ 0.59m。**形態：**東西方向に伸びると考えられる。底面は起伏があり南北で段を有し、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：残存範囲が小さく全容は不明である。覆土の観察から、南側の東西方向に伸びるＶ字状の底面が掘削当初の溝で、その後、埋没の過程で中央の東西方向に伸びる溝が掘り返されている。水性堆積は認められない。

遺物：土器73.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ5mm、炭化物φ3mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	灰黄褐色土(10YR4/2)	ロームブロックφ30 ～ 50mm少量、炭化物φ3mm含む。粘性弱い。しまりあり。
3	黒褐色土(10YR3/2)	焼土ブロックφ3mm、炭化物φ3mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
6	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ50mm少量、炭化物φ3mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ50mm多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
8	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
9	黒色土(10YR2/1)	粘性強い。しまりあり。
10	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
11	黒褐色土(10YR3/1)	ロームブロックφ30mm中量含む。粘性強い。しまりあり。
12	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
13	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ30mm少量含む。粘性あり。しまり非常に強い。

0　3m
（1／80）

第614図　SD008

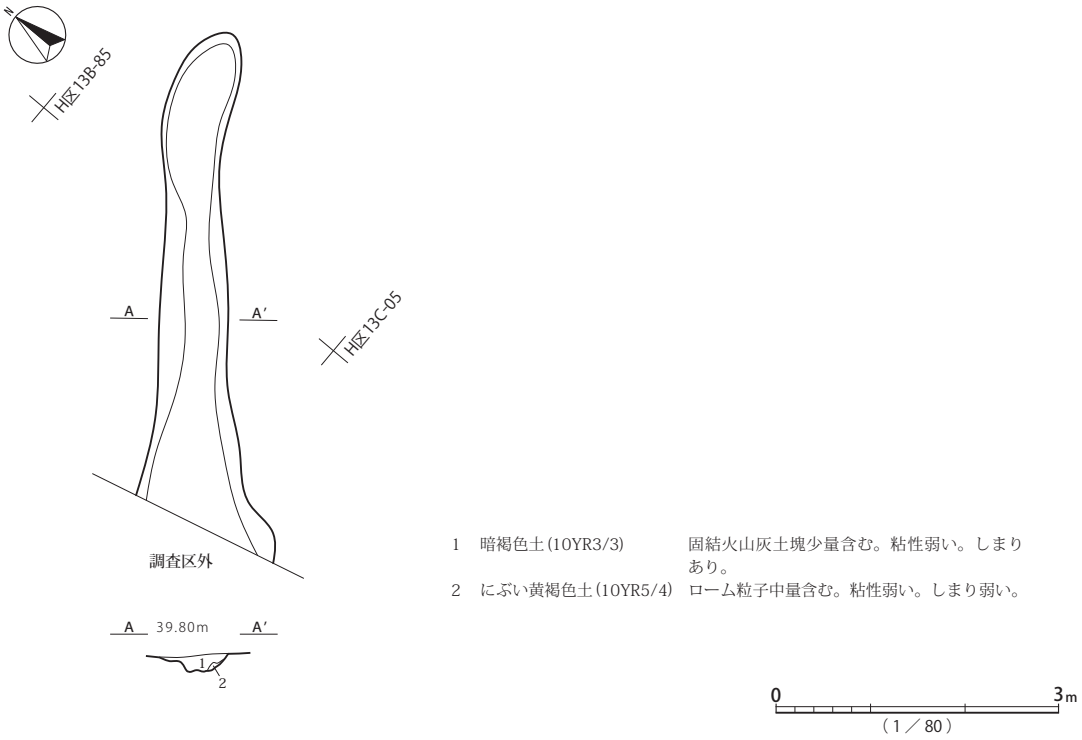
SD009（第615図、図版77）

位置：H区13Ｂ-94グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**南西端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（5.24）m、幅0.56 ～ 1.24m、確認面からの深度0.03 ～ 0.20m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の南西向き斜面を下る溝である。北東端の延長線上にSD010が同じ軸方向で伸びるが、関連性については明確ではない。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第615図　SD009

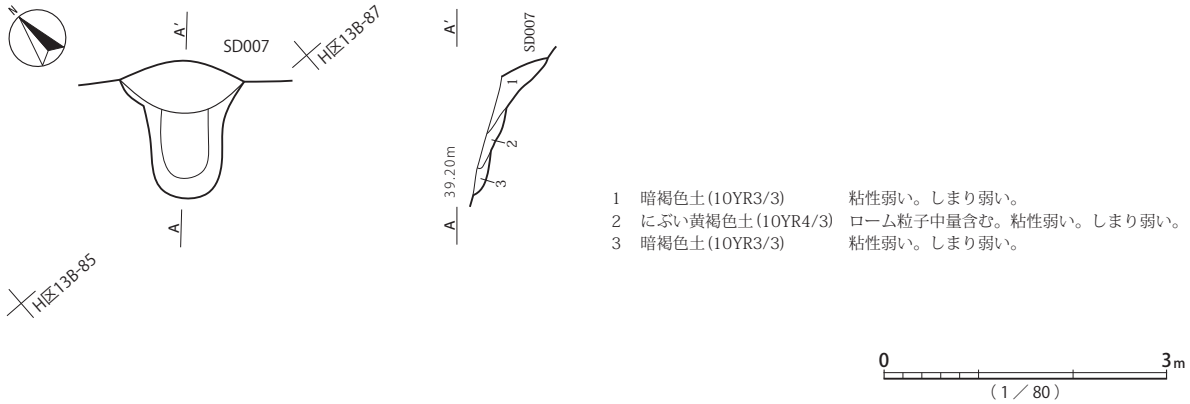
SD010（第616図、図版77）

位置：H区13 B –76グリッドを中心とする台地の北向き斜面に位置する。**重複：**北東側はSD007に切られる。**規模：**全長（1.24）m、幅0.72 ～ 1.32 m、確認面からの深度0.04 ～ 0.24 m。**形態：**北東－南西方向に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の南西向き斜面を下る溝である。SD007に切られるが、その先へは続かない。SD011・SD016・SD017も同様である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第616図　SD010

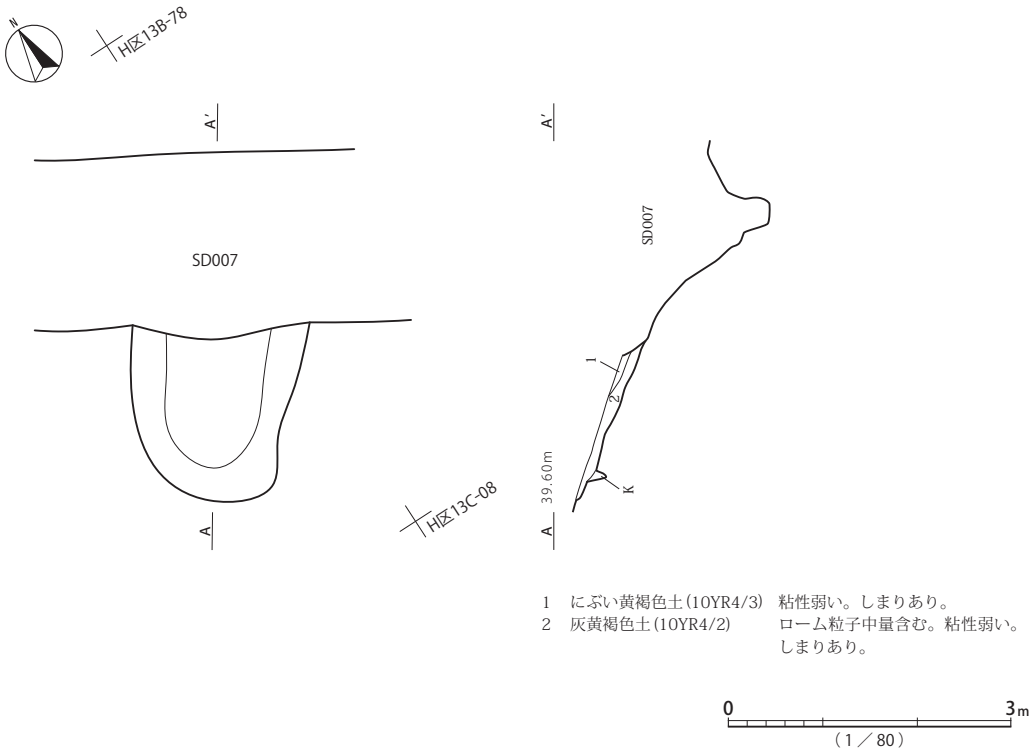
SD011（第617図、図版77）

位置：Ｈ区13Ｂ-87グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**北東側はSD007に切られる。**規模：**全長（1.72）m、幅1.44 ～ 1.86ｍ、確認面からの深度0.04 ～ 0.17ｍ。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の南西向き斜面を下る規模の短い溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第617図　SD011

SD012（第618図、図版77）

位置：Ｈ区17Ｃ-84グリッドを中心とする台地の北東向き斜面に位置する。**重複：**南西側はSD013と切り合うが新旧関係は不明である。北東側は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（4.84）m、幅1.52 ～ 2.68ｍ、確認面からの深度0.20 ～ 0.65ｍ。**形態：**北東－南西方向に伸びる。底面は起伏があり東側で段を有し、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の北東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。

SD013（第618図、図版77）

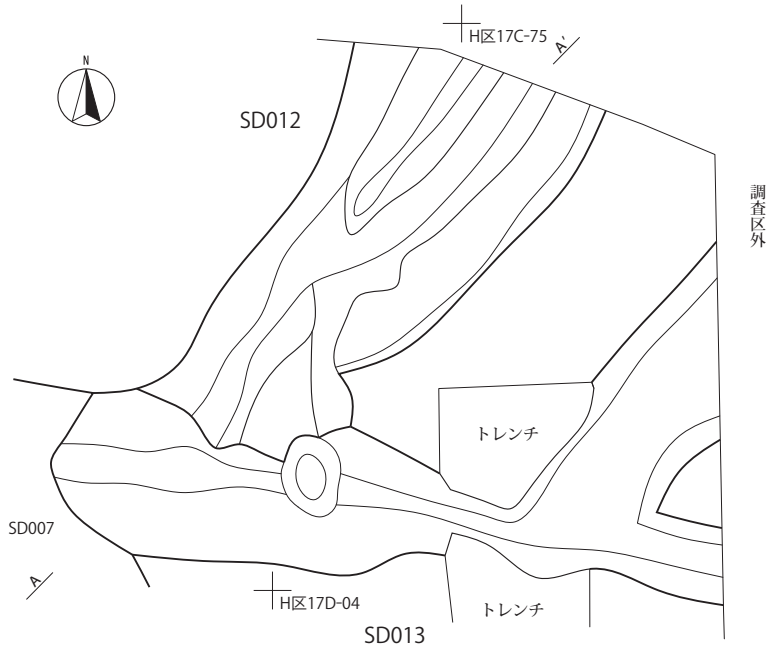
位置：Ｈ区17Ｃ-94グリッドを中心とする台地の北東向き斜面に位置する。**重複：**西側はSD007を切る。北側はSD012と切り合うが新旧関係は不明である。**規模：**全長（7.08）m、幅0.76 ～

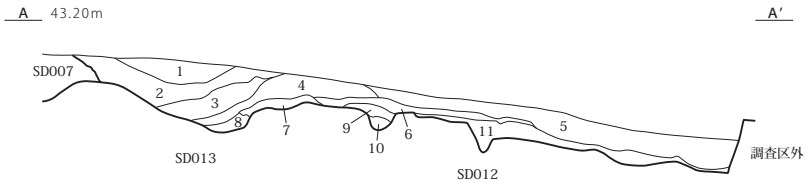
1.76ｍ、確認面からの深度0.09 ～ 0.93ｍ。**形態：**東西方向に伸びる。東側でＹ字状に分岐する。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

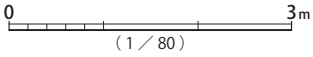
所見：台地の北東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器18.0gが出土したが、小破片のため図示していない。





1	暗褐色土(10YR3/3)	固結火山灰土塊中量、ローム粒子、炭化物φ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2	暗褐色土(10YR3/4)	ローム粒子中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
5	褐色土(10YR4/4)	粘性あり。しまりあり。
6	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまりあり。
7	灰黄褐色土(10YR4/2)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
8	褐色土(10YR4/4)	ローム粒少少量含む。粘性あり。しまりあり。
9	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い。しまりあり。
10	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い。しまりあり。
11	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い。しまり弱い。



第618図　SD012・SD013

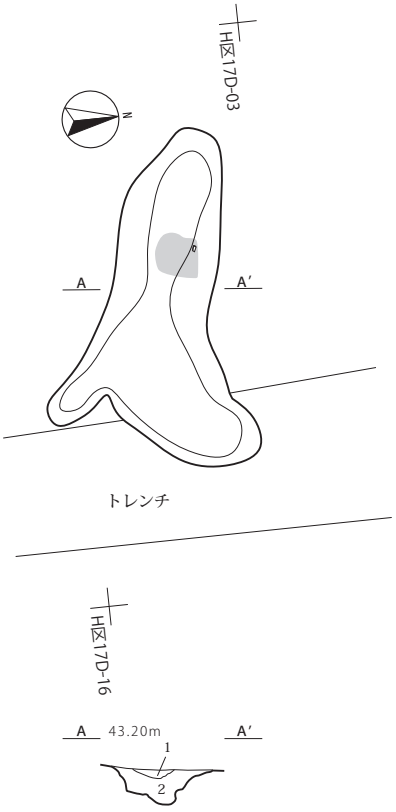
SD014（第619図、図版77）

位置：H区17Ｄ-04グリッドを中心とする台地の北東向き斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**全長3.44ｍ、幅0.38 ～ 1.24ｍ、確認面からの深度0.15 ～ 0.40ｍ。**形態：**東西方向に伸びる。東側は分岐しＹ字状になる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の北東向き斜面を下る溝である。１層から焼土が検出されている。水性堆積は認められない。

遺物：土器23.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



1　にぶい褐色土(7.5YR5/4)　焼土ブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　3m
（１／80）

第619図　SD014

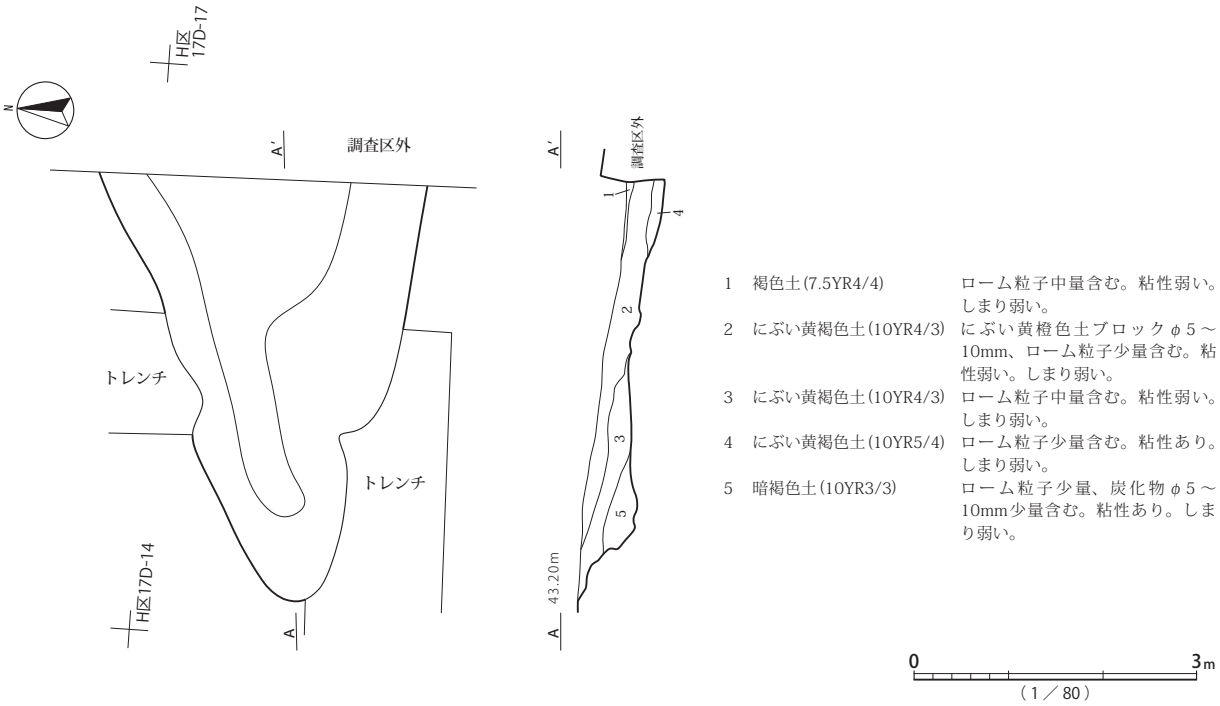
SD015（第620図、図版77）

位置：H区17Ｄ-15グリッドを中心とする台地の北東向き斜面に位置する。**重複：**西端はSD007を切る。東端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（3.64）ｍ、幅1.40 ～ 3.48ｍ、確認面からの深度0.37 ～ 0.57ｍ。**形態：**東西方向に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の北東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第620図　SD015

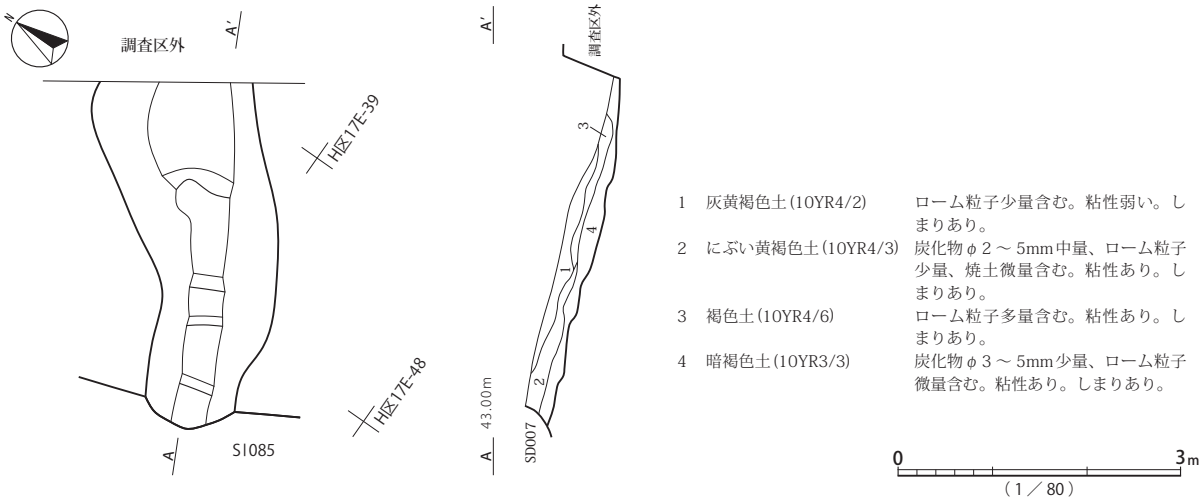
SD016（第621図、図版78）

位置：Ｈ区17Ｅ-28グリッドを中心とする台地の北東向き斜面に位置する。**重複：**南西側はSD007に切られる。北東端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（3.68）m、幅0.96～1.72m、確認面からの深度0.14～0.51m。**形態：**北東－南西方向に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の北東向き斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器13.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第621図　SD016

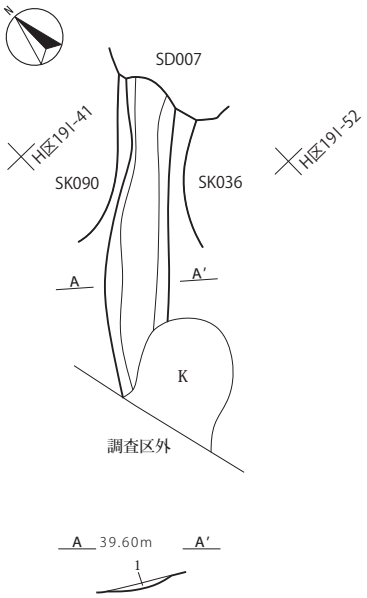
SD017（第622図、図版78）

位置：H区19Ⅰ-41を中心とする痩せ尾根上に位置する。**重複：**北東側はSD007に切られる。南西側は撹乱される。**規模：**全長（3.00）m、幅0.40 ～ 0.68m、確認面からの深度0.02 ～ 0.14m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は皿状に窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

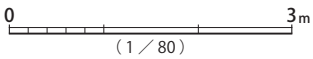
時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：尾根の西向き緩斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまりあり。



第622図　SD017

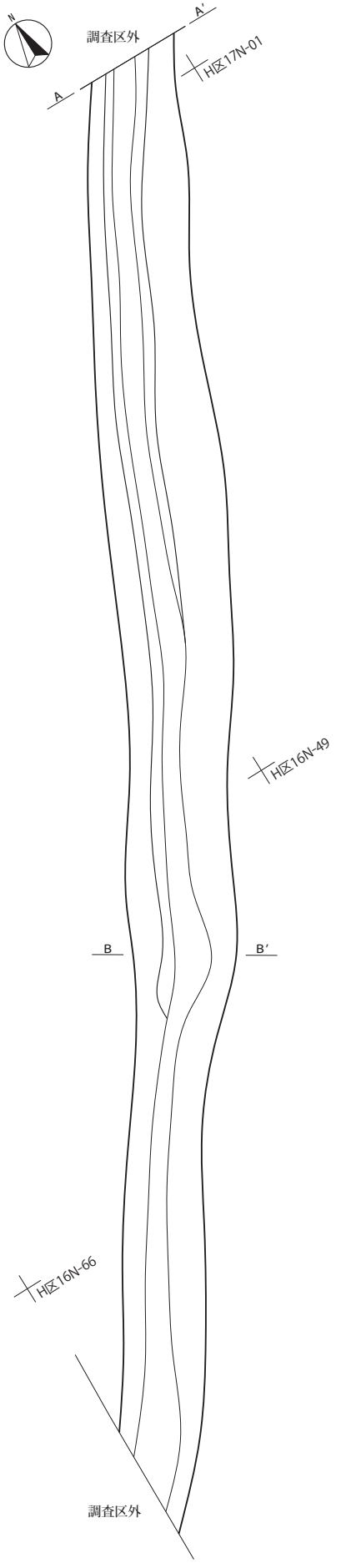
SD018（第623図、図版78）

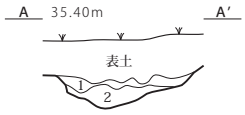
位置：H区16N-38グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SM009を切る。両端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（18.08）m、幅0.88 ～ 1.52m、確認面からの深度0.05 ～ 0.57m。**形態：**北東－南西方向に直線的に伸びる。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

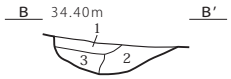
時期：重複から奈良・平安時代と考えられる。

所見：台地の西向き緩斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：土器44.0g、須恵器9.0g、縄文土器10.0gが出土したが、小破片のため図示していない。







1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　固結火山灰土塊少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　3m
（1／80）

第623図　SD018

２．土　坑

SK073（第624図、図版78）

位置：Ｈ区11Ｔ-88グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.13ｍ、短軸1.09ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**長軸方位：**Ｎ-83°-Ｅ。**形態：**方形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：土器49.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK074（第624図、図版78）

位置：Ｈ区12Ｔ-72グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.44ｍ、短軸1.10ｍ、確認面からの深度0.34ｍ。**長軸方位：**Ｎ-39°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK075（第624図、図版78）

位置：Ｈ区12Ｔ-91グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。南側の一部は削平される。**規模：**長軸（1.95）ｍ、短軸1.46ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**Ｎ-18°-Ｗ。**形態：**隅丸方形と考えられる。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：土器177.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK076（第624図、図版78）

位置：Ｅ区12Ｕ-26グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.70ｍ、短軸2.02ｍ、確認面からの深度0.29ｍ。**長軸方位：**Ｎ-25°-Ｗ。**形態：**不整形、底面は平坦だが隅に楕円形の浅い窪みがある。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：土器790.4gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK077（第624図、図版78）

位置：Ｈ区13Ｃ-36グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.38ｍ、短軸1.30ｍ、確認面からの深度0.41ｍ。**長軸方位：**Ｎ-11°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

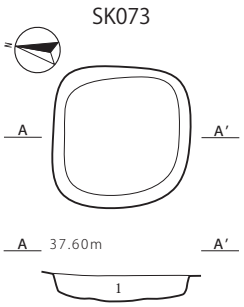
遺物：出土していない。

SK078（第624図、図版79）

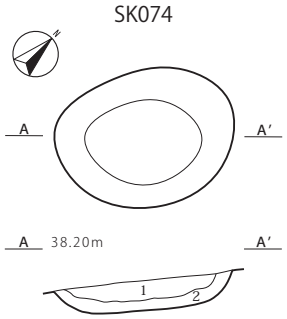
位置：H区13C-98グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.07ｍ、短軸1.00ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**長軸方位：**N-11°-E。**形態：**楕円形、底面は平坦面が小さく壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

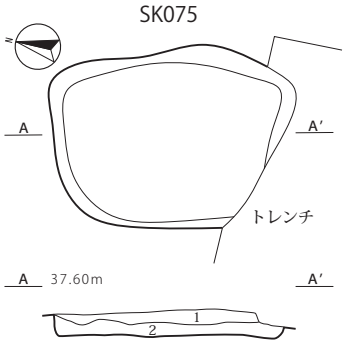
遺物：出土していない。



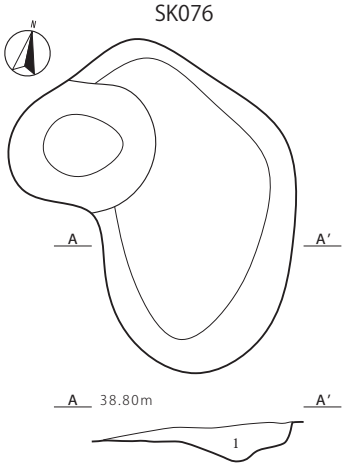
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～20mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。



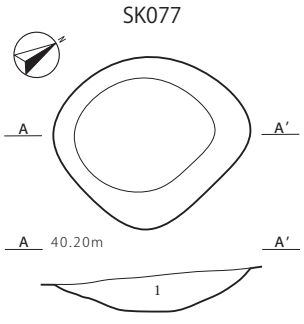
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまりあり。



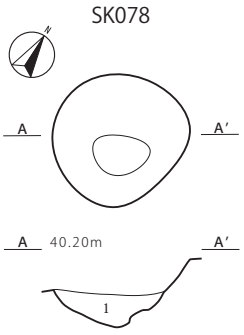
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。



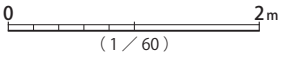
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ30～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。



第624図　SK073～SK078

SK079（第625図）

位置：H区15Ｃ-51グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸4.24ｍ、短軸(1.84)ｍ、確認面からの深度0.19ｍ。**長軸方位：**Ｎ-86°-Ｗ。**形態：**隅丸方形と考えられる。底面は平坦で北側に強く傾斜し、壁面は極めて緩く立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：SD007と接するため関連施設の可能性があるが、詳細は不明である。SK080も同様である。

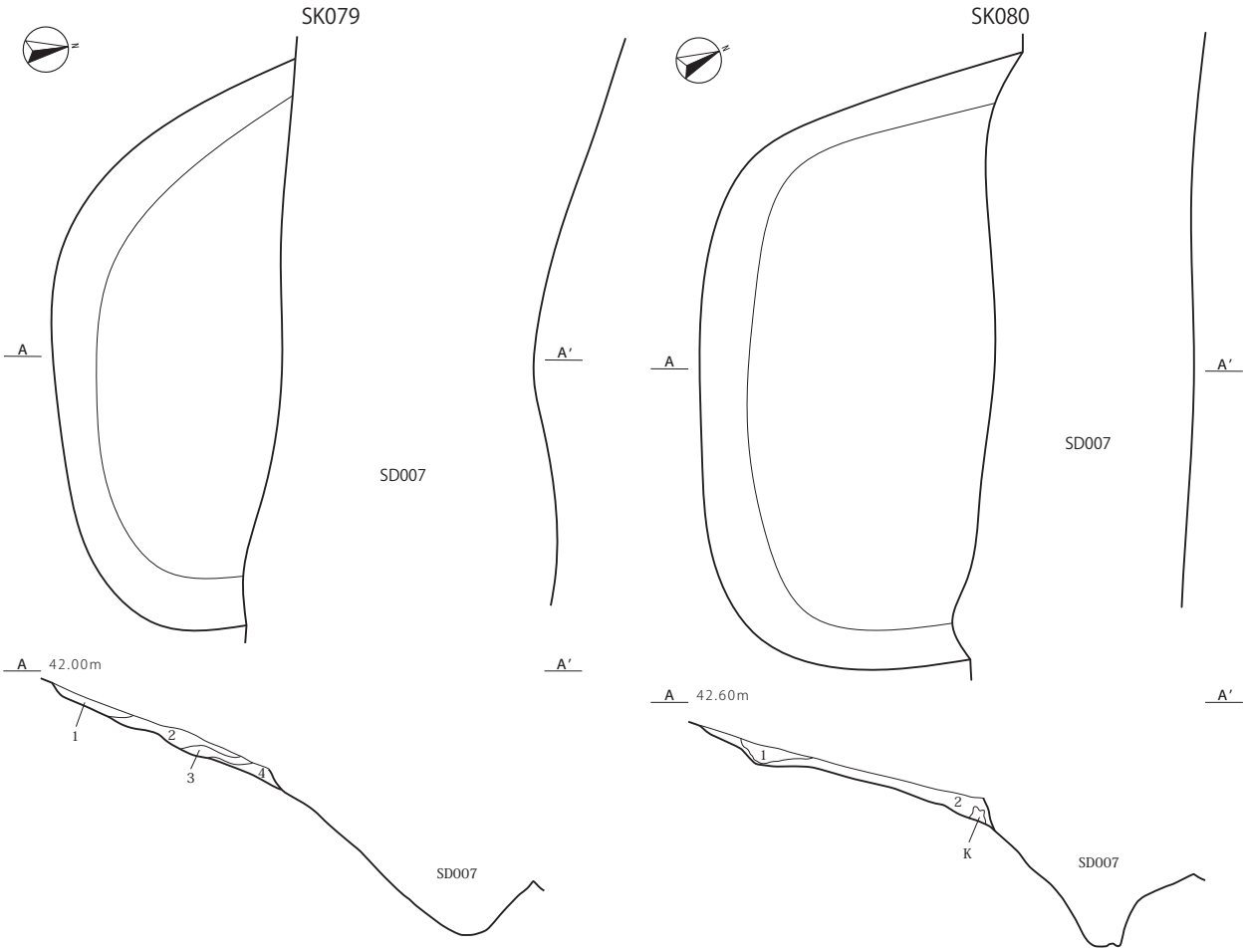
遺物：出土していない。

SK080（第625図）

位置：H区15Ｃ-79グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸4.80ｍ、短軸(2.36)ｍ、確認面からの深度0.24ｍ。**長軸方位：**Ｎ-63°-Ｗ。**形態：**隅丸方形と考えられる。底面は平坦で北東側に強く傾斜し、壁面は極めて緩く立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。



1	黒褐色土(10YR2/2)	固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
3	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い。しまり弱い。

1	暗褐色土(10YR3/3)	ローム粒子、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第625図　SK079・SK080

SK081（第626図、図版79）

位置：H区16Ｄ-24グリッドを中心に位置する。**重複：**SK111に切られる。**規模：**長軸3.09ｍ、短軸1.44ｍ、確認面からの深度0.21ｍ。**長軸方位：**Ｎ-76°-Ｅ。**形態：**楕円形と考えられる。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK082（第626図、図版79）

位置：H区16Ｄ-07グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸（1.71）ｍ、短軸1.70ｍ、確認面からの深度0.83ｍ。**長軸方位：**Ｎ-37°-Ｅ。**形態：**不整楕円形、底面は段差があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK083（第626図、図版79）

位置：H区16Ｄ-26グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.52ｍ、短軸1.36ｍ、確認面からの深度0.44ｍ。**長軸方位：**Ｎ-86°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：土器9.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK084（第626図、図版79）

位置：H区16Ｄ-36グリッドを中心に位置する。**重複：**SK085に切られる。**規模：**長軸1.32ｍ、短軸1.26ｍ、確認面からの深度0.39ｍ。**長軸方位：**Ｎ-31°-Ｅ。**形態：**不整形、底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

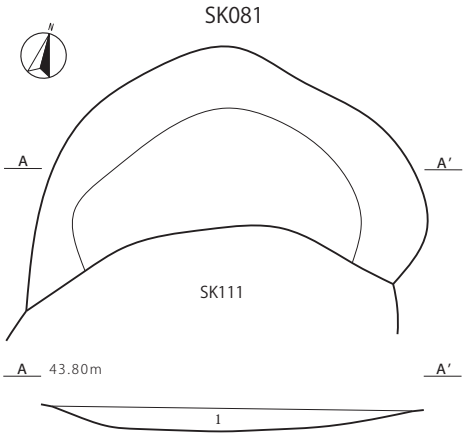
遺物：土器8.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK085（第626図、図版79）

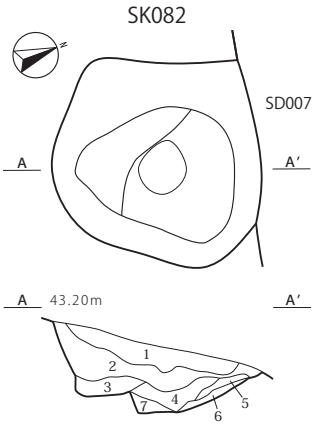
位置：H区16Ｄ-36グリッドを中心に位置する。**重複：**SK084を切る。**規模：**長軸（1.26）ｍ、短軸1.10ｍ、確認面からの深度0.51ｍ。**長軸方位：**Ｎ-11°-Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は起伏があり壁面は階段状に立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

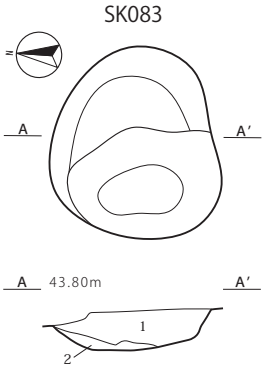
遺物：出土していない。



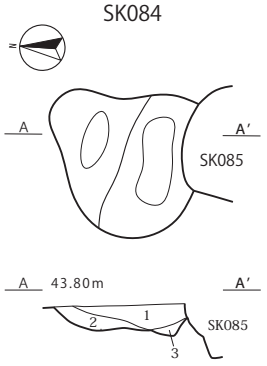
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。



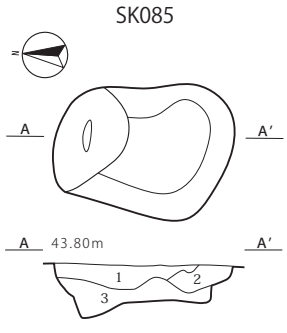
1　暗褐色土(7.5YR3/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒子、ロームブロックφ10～30mm含む。粘性あり。しまり弱い。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。
6　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土少量含む。粘性あり。しまりあり。
7　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。



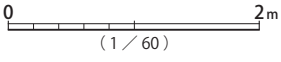
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ10～50mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～40mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子、ロームブロックφ10～50mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、ロームブロックφ5～20m微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～50mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまり強い。



第626図　SK081～SK085

SK086（第627図、図版79）

位置：H区19H-21グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側は調査区外へ伸びる。**規模：**長軸2.32m、短軸（1.53）m、確認面からの深度0.60m。**長軸方位：**N-18°-W。**形態：**楕円形と考えられる。底面は起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK087（第627図、図版79）

位置：H区18H-38グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸（0.87）m、短軸（0.29）m、確認面からの深度0.20m。**長軸方位：**N-S。**形態：**不明、底面は残存していないため不明だが、壁面は緩やかに立ち上がると考えられる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：SD007西側の検出面付近で硬化した土層を確認したため掘削した結果、土坑と判断した。残存部がごく一部でしかないため、全容は不明である。

遺物：出土していない。

SK088（第627図、図版80）

位置：H区18H-48グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸（1.94）m、短軸（1.81）m、確認面からの深度0.79m。**長軸方位：**N-54°-W。**形態：**楕円形と考えられる。底面は浅い皿状に窪み壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK089（第627図、図版80）

位置：H区19H-60グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸（1.27）m、短軸（9.20）m、確認面からの深度1.73m。**長軸方位：**N-21°-W。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がり、検出面付近で外側に開く。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

遺物：出土していない。

SK090（第628図、図版80）

位置：H区19Ⅰ-31グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007に切られる。**規模：**長軸（2.69）m、短軸1.36m、確認面からの深度0.46m。**長軸方位：**N-45°-E。**形態：**長楕円形と考えられる。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。

所見：底面がSD007側に傾斜し、SD007と接する部分が最深部になっているため、溝状遺構の可能性もある。

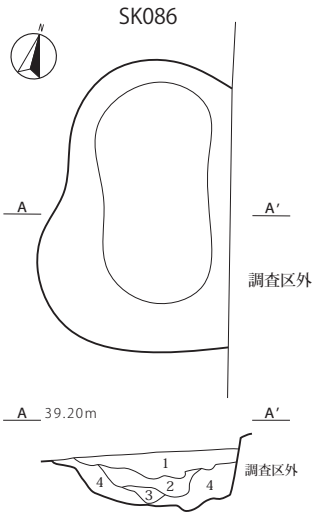
遺物：出土していない。

SK091（第628図、図版80）

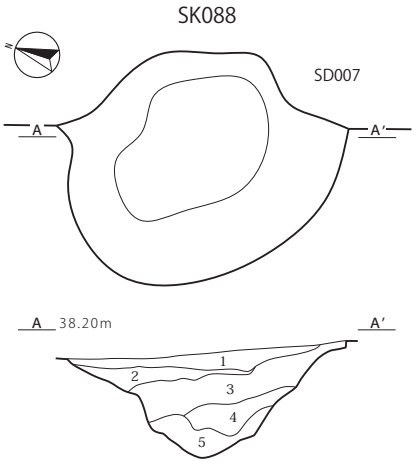
位置：H区20Ｎ-37グリッドを中心に位置する。**重複**：遺構の重複はない。**規模**：長軸1.40ｍ、短軸1.04ｍ、確認面からの深度0.58ｍ。**長軸方位**：Ｎ-32°-Ｗ。**形態**：隅丸長方形、底面はやや平坦で北東側全体がオーバーハングする。

時期：覆土から奈良・平安時代と考えられる。

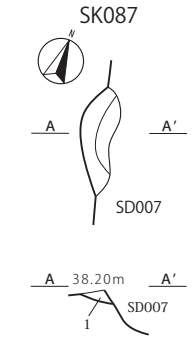
遺物：出土していない。



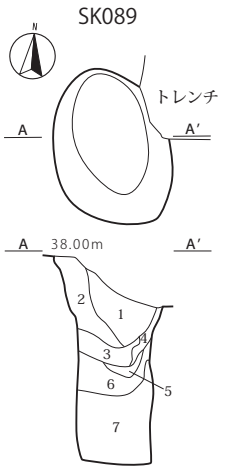
1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックφ100mm多量含む。粘性強い。しまり強い。
4　黄褐色土(10YR5/6)　粘性強い。しまり強い。



1　褐色土(10YR4/6)　炭化物φ10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱い。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ20mm少量含む。粘性強い。しまりあり。
5　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまり非常に強い。



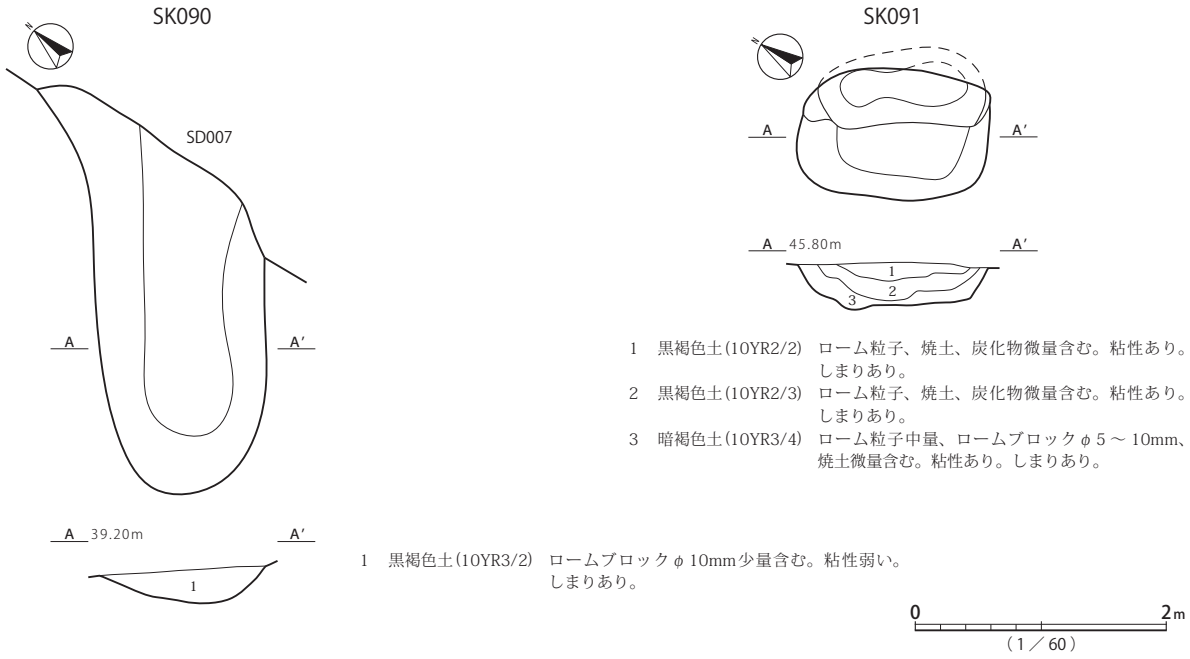
1　褐色土(10YR4/4)　粘性あり。しまり非常に強い。



1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ30mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ20mm少量含む。粘性強い。しまりあり。
4　明赤褐色土(2.5YR5/8)　焼土含む。
5　黒褐色土(10YR2/2)　粘性強い。しまり強い。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10mm中量含む。粘性強い。しまりあり。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10mm、炭化物φ5mm少量含む。粘性強い。しまり強い。

0　2m
（1／60）

第627図　SK086 ～ SK089



1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第628図　SK090・SK091

３．遺構外出土遺物（第629図、第208表、図版116）

遺構外から出土した奈良・平安時代の遺物についてここで報告する。１・２は須恵器である。どちらもH区15・16Ｆグリッドの調査区南壁から露出、転落した遺物である。２点がまとまって出土していること、また２は胴部に穿孔がなされていることから、これらは骨蔵器として埋納されたと考えられる。



第629図　奈良・平安時代遺構外出土遺物

第208表　奈良・平安時代遺構外出土土器観察表

単位：cm

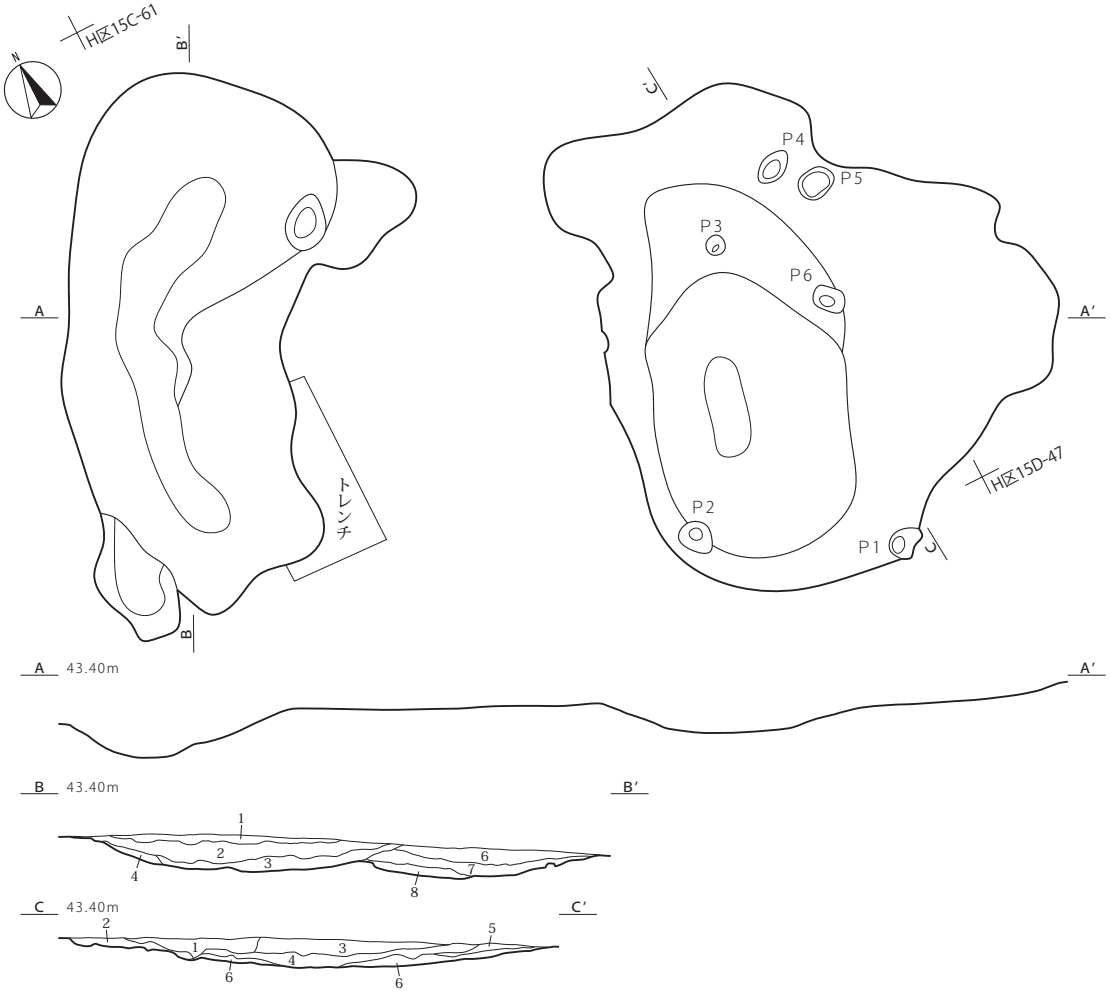
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵器 坏	H区15・ 16Ｆ一括	口　径：(12.8) 底　径：　6.9 器　高：　4.0 最大径：13.0	外面：口縁部～体部ロクロ調整後体部1/4～底部に回転ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ロクロ調整	胎　土：石英・白色粒・長石 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	須恵器 壺	H区15・ 16Ｆ一括	口　径：　－ 底　径：12.5 器　高：[24.5] 最大径：(25.5)	特徴：肩部に焼成後穿孔あり 外面：肩部～胴部平行叩き目後胴部1/3に回転ヘラケズリ、底部ナデ・ヘラ記号有り 内面：肩部ヘラナデ、胴部ロクロ調整、底部ナデ	胎　土：石英・白色粒・黒色粒 焼　成：良好 色　調：橙 残存度：肩部～底部の1/2	

第５節　中・近世

１．塚

SM014（第630・631図、第209・210表、図版80・116）

盛土は残存せず塚に伴う溝が検出された。関連施設は検出されなかった。**位置：**H区15Dグリッドを中心とする台地の北西端に位置する。**重複：**SI073を切る。**規模：**東西6.41m、南北（7.14）m。溝を含めた総長は東西19.69m、南北（11.28）m。**主軸方位：**南北方向を主軸と仮定し、N－24°－E。



B–B'

1	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い。しまり弱い。
2	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ5mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ50mm中量、炭化物φ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黄褐色土(10YR5/8)	ロームブロックφ5mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
5	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
6	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い。しまり弱い。
7	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い。しまりあり。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	ロームブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

C–C'

1	褐色土(7.5YR4/4)	ローム粒子少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2	暗褐色土(10YR3/4)	粘性あり。しまり弱い。
3	暗褐色土(7.5YR3/4)	ローム粒子少量。粘性あり。しまり弱い。
4	極暗褐色土(7.5YR2/3)	極暗褐色土ブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
5	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまり弱い。
6	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	にぶい黄褐色土ブロックφ5～10mm多量含む。粘性あり。しまり弱い。

0　5m
（1／150）

第630図　SM014

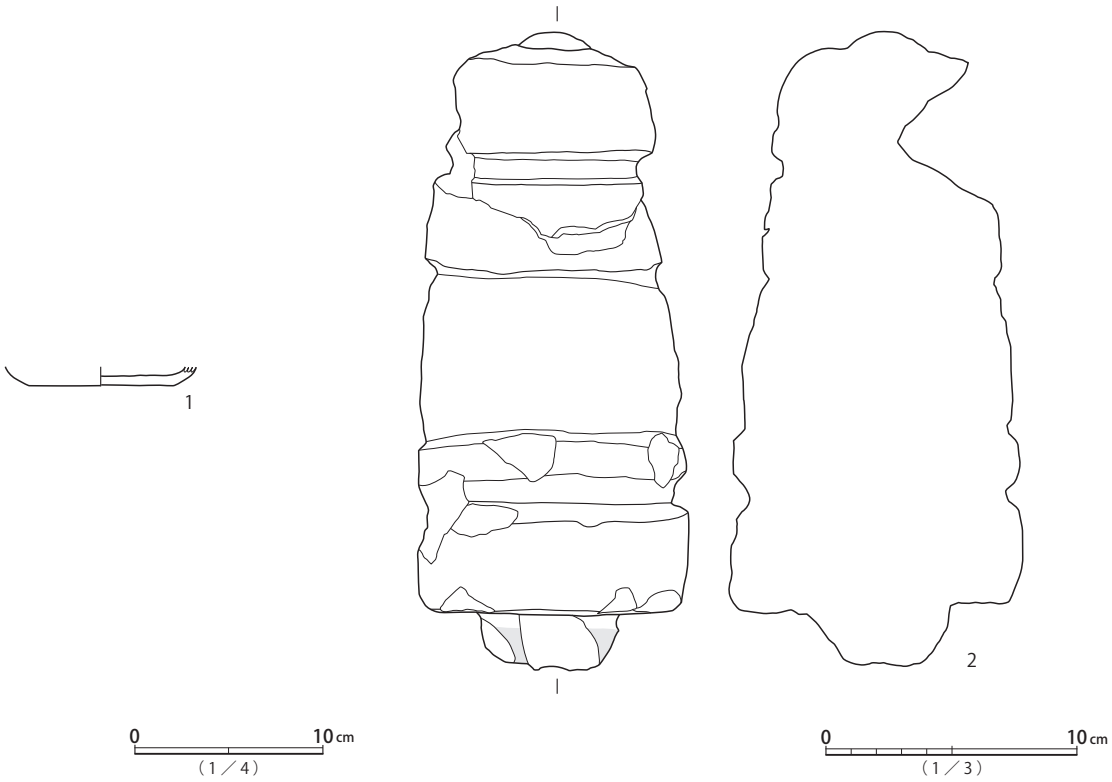
盛土：残存しない。**溝：**塚の東西両脇で検出された。東溝の規模は長軸11.28m、短軸4.20m、検出面からの深度0.96m。西溝の規模は長軸15.15m、短軸13.37m、検出面からの深度1.00m。断面形態はどちらも平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がる。**関連施設：**検出されなかった。

時期：出土遺物から中・近世と考えられる。

所見：調査当初は２基の性格不明な掘り込みとの認識であった。完掘状況を観察したところ、両溝は丸括弧状となっており、底面から互いの溝へ向かう立ち上がりは土饅頭状であった。また東溝からは宝篋印塔の相輪が出土したことと合わせて、塚を構成する溝と判断した。尾根の北西端で、北に養老川下流域、あるいは東京湾を臨む位置に立地している。

遺物：土器597.2g、須恵器5.0g、石器・石製品3,203.20g、金属製品3.00g、縄文土器124.0gが出土した。

２は宝篋印塔の相輪である。石材は輝石安山岩製。全体に鑿による整形痕が見られる。下端にほぞが設けられる。請花や伏鉢は別造りであろうか。



第631図　SM014出土遺物

第209表　SM014出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	須恵系土師質土器 坏身	周溝下層	口　径：　－ 底　径：　(7.6) 器　高：　[1.0] 最大径：　－	外面：底部ロクロ調整 内面：底部ロクロ調整	胎　土：長石・赤色粒・黒色粒 焼　成：普通 色　調：にぶい橙 残存度：底部の破片	

第210表　SM014出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量（g）	備考
2	宝篋印塔	輝石安山岩	周溝下層	30.40	10.70	11.50	3203.20	全体に鑿による整形痕

２．溝・道路状遺構

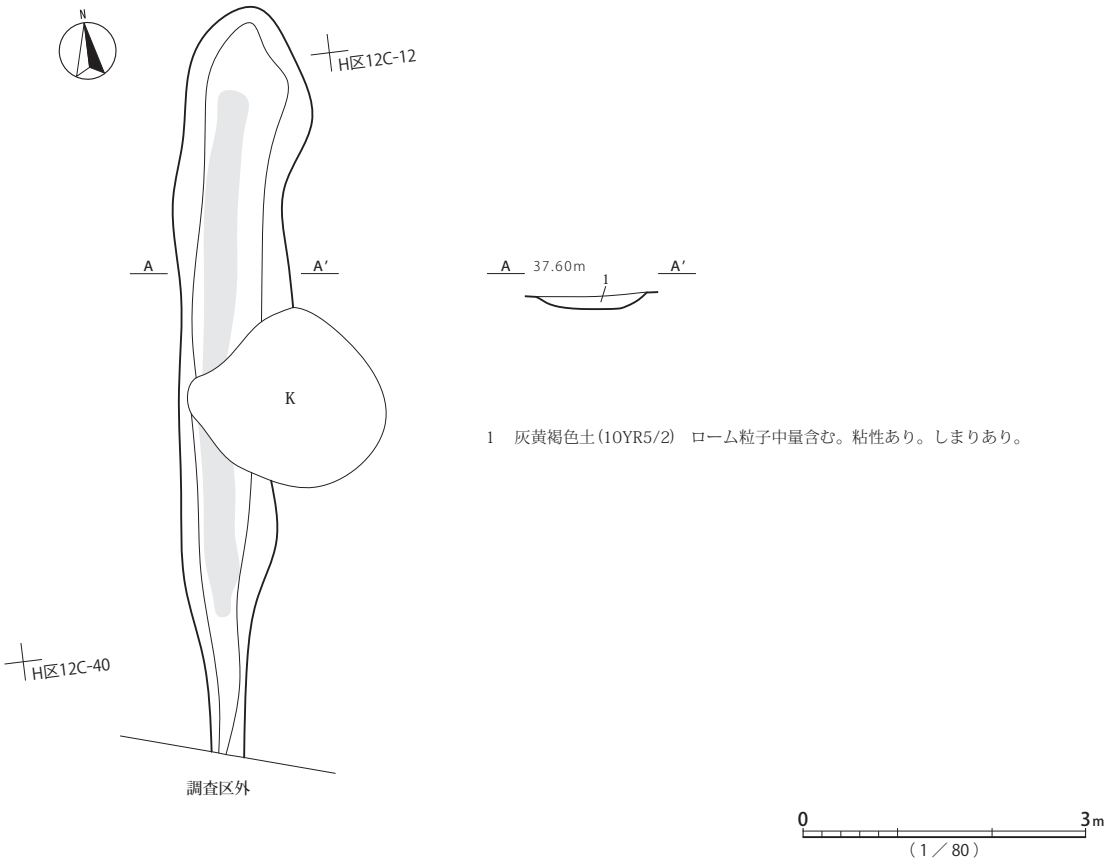
SD019（第632図、図版81）

位置：H区12Ｃ-21グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**中央は撹乱される。南端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（7.92）m、幅0.34 ～ 1.34ｍ、確認面からの深度0.01 ～ 0.15ｍ。**形態：**南北方向に直線的に伸びる硬化面を有する遺構である。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：硬化面を持つ道路状遺構である。

遺物：出土していない。



第632図　SD019

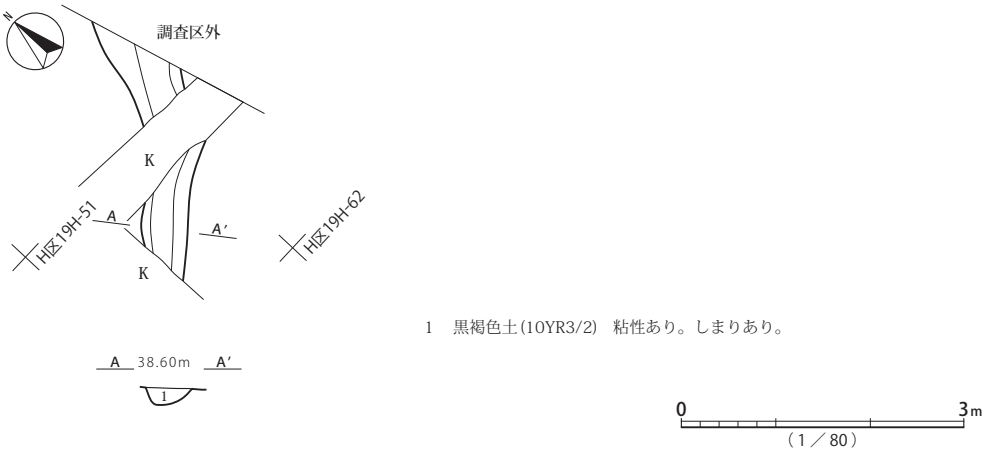
SD020（第633図、図版81）

位置：H区19Ｈ-51グリッドを中心とする台地の北東向き緩斜面に位置する。**重複：**北西端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（2.20）m、幅0.44 ～ 0.64ｍ、確認面からの深度0.08 ～ 0.19ｍ。**形態：**北東－南西方向に伸びる。底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：台地の北東向き緩斜面を下る溝である。水性堆積は認められない。

遺物：出土していない。



第633図　SD020

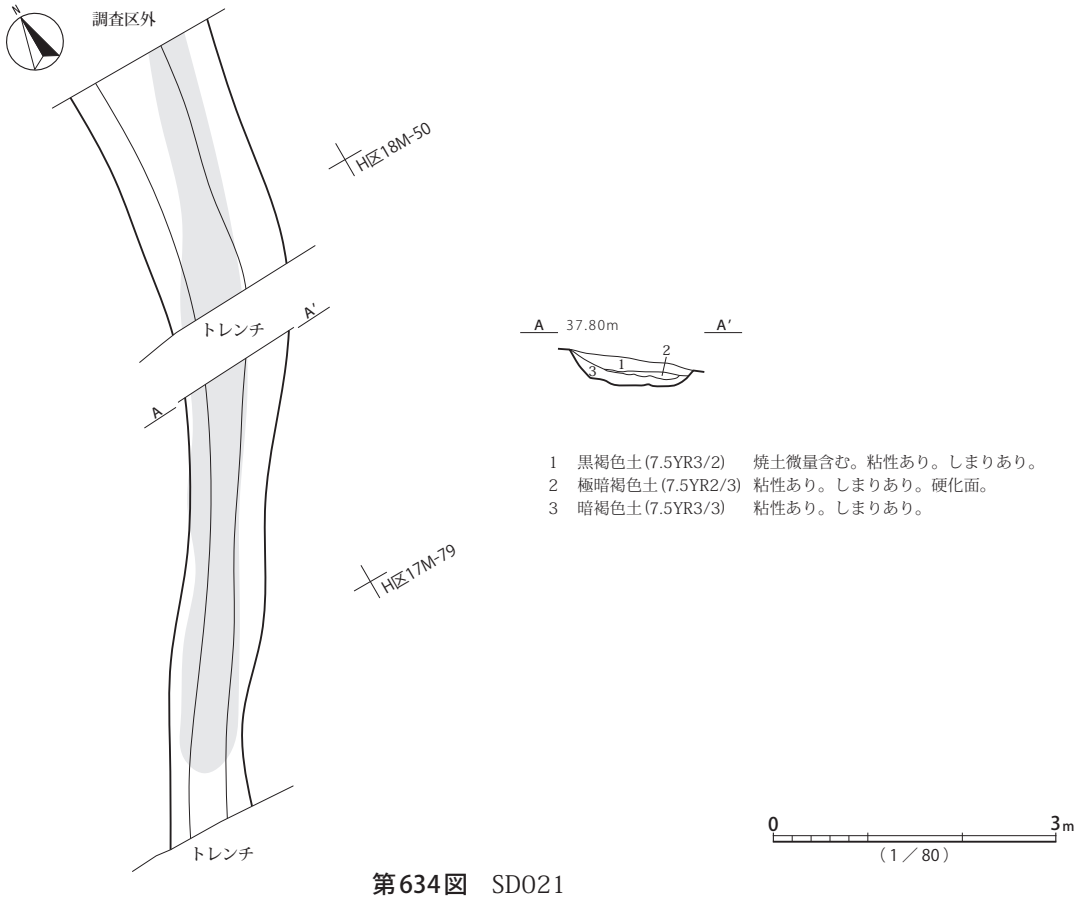
SD021（第634図、図版81）

位置：H区17M-68グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**北端は調査区外へ伸びる。**規模：**全長（8.28）m、幅0.76 ～ 1.68 m、確認面からの深度0.02 ～ 0.36 m。**形態：**北東－南西方向に伸びる硬化面を有する遺構である。底面はほぼ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：硬化面を持つ道路状遺構である。

遺物：出土していない。



第634図　SD021

３．土　坑

SK092（第635図、図版81）

位置：H区12Ｕ-76グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.30ｍ、短軸1.06ｍ、確認面からの深度0.85ｍ。**長軸方位：**Ｎ-28°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK093（第635図、図版81）

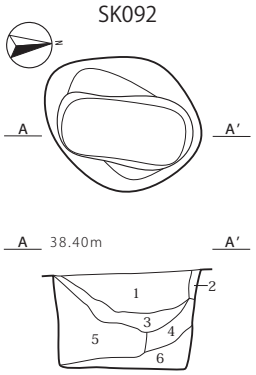
位置：H区12Ｖ-27グリッドを中心に位置する。**重複：**SK094に切られる。**規模：**長軸0.89ｍ、短軸0.84ｍ、確認面からの深度0.31ｍ。**長軸方位：**Ｎ-27°-Ｅ。**形態：**不整円形、底面は平坦で壁面はややきつく立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

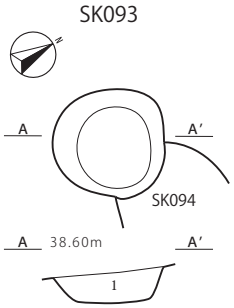
遺物：出土していない。

SK094（第635図、図版81）

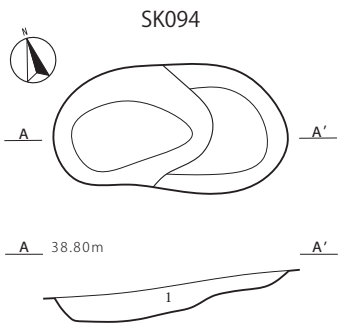
位置：H区12Ｖ-28グリッドを中心に位置する。**重複：**SI095、SK093を切る。**規模：**長軸



1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)　ロームブロックφ15～20mm中量含む。粘性あり。しまり弱い。
3　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり。しまり弱い。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ５～10mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ20～40mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第635図　SK092～SK094

1.85ｍ、短軸1.02ｍ、確認面からの深度0.40ｍ。**長軸方位：**Ｎ-68°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり西側に傾斜する。壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK095（第636図、図版81）

位置：Ｈ区12Ｖ-29グリッドを中心に位置する。**重複：**SI095を切る。**規模：**長軸1.40ｍ、短軸1.06ｍ、確認面からの深度0.26ｍ。**長軸方位：**Ｎ-68°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK096（第637図、図版81）

位置：Ｅ区13Ｖ-21グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007を切る。**規模：**長軸20.61ｍ、短軸(6.00)ｍ、確認面からの深度1.28ｍ。**長軸方位：**Ｎ-６°-Ｗ。**形態：**不整形と考えられる。底面は起伏があり壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

所見：土取り穴と考えられる。

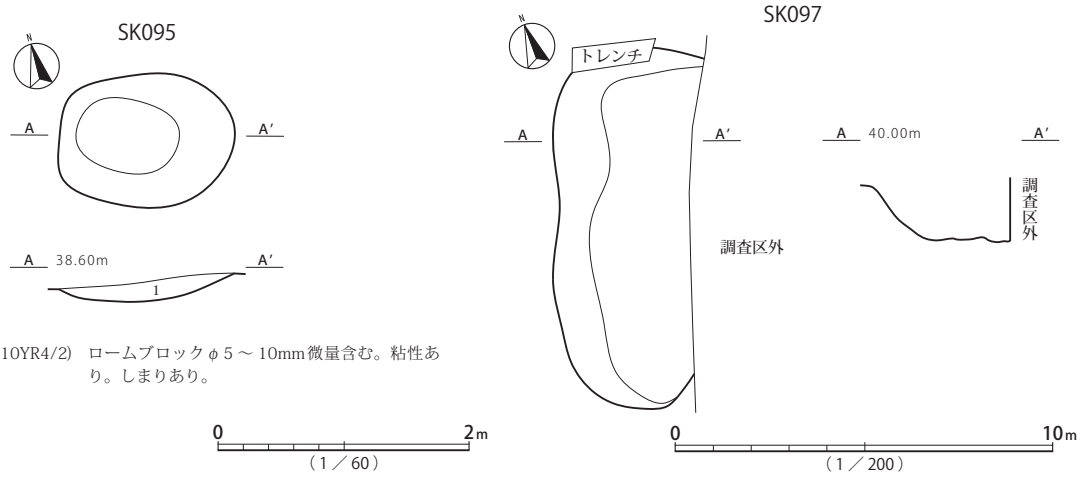
遺物：土器13.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK097（第636図、図版82）

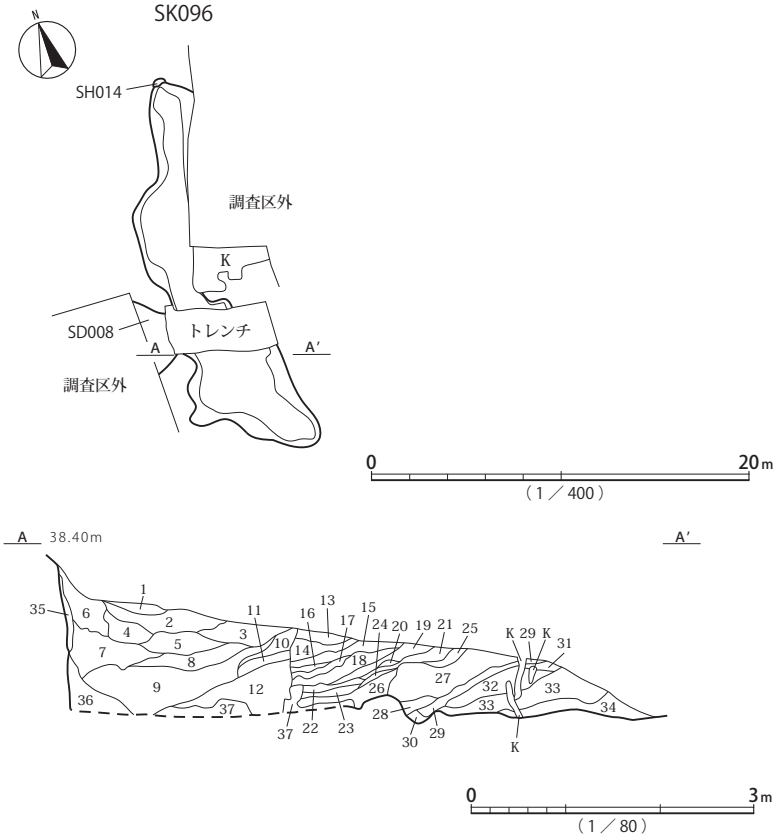
位置：Ｈ区13Ｗ-35グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007を切る。**規模：**長軸9.52ｍ、短軸(3.74)ｍ、確認面からの深度1.52ｍ。**長軸方位：**Ｎ-18°-Ｅ。**形態：**隅丸方形と考えられる。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器205.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



第636図　SK095・SK097



1	暗褐色土(10YR3/3)	炭化物φ3mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ10mm、炭化物φ3mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
4	黒褐色土(10YR3/2)	ロームブロックφ10mm少量、炭化物φ3mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
5	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ10mm、白色粘土ブロックφ10mm、橙色土ブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
6	明黄褐色土(10YR6/6)	オリーブ黒色土中量含む。粘性あり。しまり非常に強い。
7	明黄褐色土(10YR6/6)	オリーブ黒色土多量含む。粘性あり。しまり非常に強い。6層に似る。
8	褐色土(10YR4/4)	橙色土ブロックφ10mm、白色粘土ブロックφ10mm中量、ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
9	黒褐色土(10YR3/2)	橙色土ブロックφ10mm、ロームブロックφ10mm、白色粘土ブロックφ10mm多量含む。粘性あり。しまり強い。
10	灰白色土(10YR8/1)	褐色土多量、ロームブロックφ20mm微量含む。粘性非常に強い。しまり強い。粘土層。
11	灰黄褐色土(10YR4/2)	白色粘土ブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
12	灰黄褐色土(10YR4/2)	白色粘土ブロックφ50mm多量、ロームブロックφ20mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
13	褐色土(10YR4/4)	橙色土ブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
14	褐色土(10YR4/4)	ロームブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
15	灰黄褐色土(10YR4/2)	灰白色粘土ブロックφ10mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
16	褐色土(10YR4/4)	灰白色粘土ブロックφ10mm中量、橙色土ブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
17	明黄褐色砂(10YR6/8)	灰白色粘土ブロックφ10mm少量含む。粘性非常に弱い。しまり弱い。
18	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ5mm少量、炭化物φ3mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
19	灰白色土(10YR8/1)	褐色土微量含む。粘性強い。しまり強い。粘土層。
20	暗褐色土(10YR3/3)	炭化物φ3mm微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
21	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ10mm中量、白色粘土ブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
22	浅黄橙色土(10YR8/3)	暗褐色土少量、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性非常に強い。しまり強い。粘土層。
23	暗褐色土(10YR3/3)	粘性あり。しまりあり。
24	灰白色土(10YR8/1)	暗褐色土少量、炭化物φ3mm微量含む。粘性非常に強い。しまり強い。粘土層。
25	暗褐色土(10YR3/3)	ロームブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
26	浅黄橙色土(10YR8/3)	ロームブロックφ10mm中量、橙色土ブロックφ10mm少量含む。粘性非常に強い。しまり強い。粘土層。
27	暗褐色土(10YR3/4)	ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
28	暗褐色土(10YR3/4)	明黄褐色土多量含む。粘性あり。しまりあり。
29	にぶい黄橙色土(10YR7/2)	暗褐色土多量、ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。粘土層。
30	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	黄褐色土少量含む。粘性強い。しまり強い。粘土層。
31	暗褐色土(10YR3/3)	炭化物φ3mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
32	灰白色土(10YR8/1)	灰褐褐色土中量、炭化物φ5mm微量含む。粘性非常に強い。しまり非常に強い。
33	灰白色土(10YR8/1)	暗褐色土含む。粘性強い。しまり強い。
34	黒褐色土(10YR3/1)	炭化物φ3mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
35	にぶい黄橙色土(10YR7/4)	ローム含む。粘性あり。しまり非常に強い。
36	黄橙色土(10YR7/8)	粘性強い。しまり非常に強い。
37	灰白色土(5YR8/1)	粘性非常に強い。しまり非常に強い。粘土層。

第637図　SK096

SK098（第638図、図版82）

位置：H区11W−84グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.22ｍ、短軸1.18ｍ、確認面からの深度0.75ｍ。**長軸方位：**Ｎ−84°−Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面はピット状に落ち込み壁面はきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器37.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK099（第638図、図版82）

位置：H区11W−87グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.05ｍ、短軸0.95ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**長軸方位：**Ｎ−84°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面はやや平坦で壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK100（第638図、図版82）

位置：H区12Ｙ−49グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007を切る。**規模：**長軸1.89ｍ、短軸1.64ｍ、確認面からの深度1.18ｍ。**長軸方位：**Ｎ−43°−Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面はほぼ平坦で壁面はややきつく立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器10.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK101（第638図、図版82）

位置：H区12Ａ−16グリッドを中心に位置する。**重複：**SI064を切る。**規模：**長軸2.20ｍ、短軸0.89ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**長軸方位：**Ｎ−13°−Ｗ。**形態：**隅丸長方形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK102（第638図、図版82）

位置：H区13Ｃ−16グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.22ｍ、短軸2.08ｍ、確認面からの深度0.54ｍ。**長軸方位：**Ｎ−32°−Ｅ。**形態：**隅丸方形、底面は起伏が多く壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

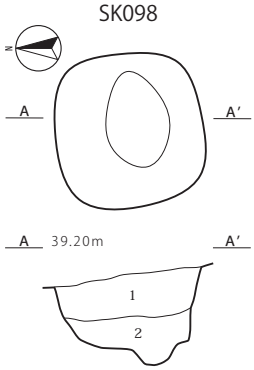
時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK103（第638図、図版82）

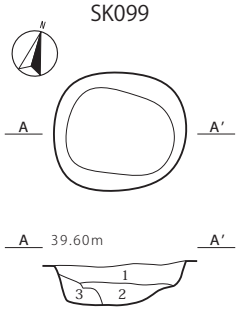
位置：H区14Ｄ−26グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。北東の一部は削平さ

SK098



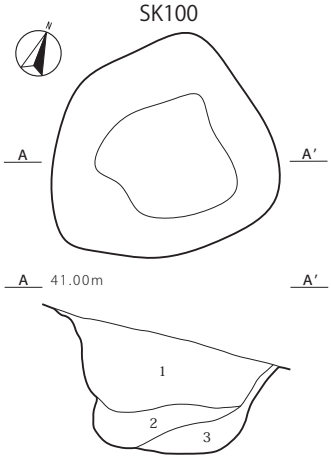
1　暗褐色土(10YR3/4)　焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～30mm中量、焼土微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

SK099



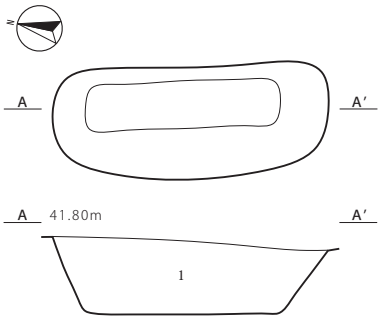
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～15mm中量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～50mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックφ2～3mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

SK100



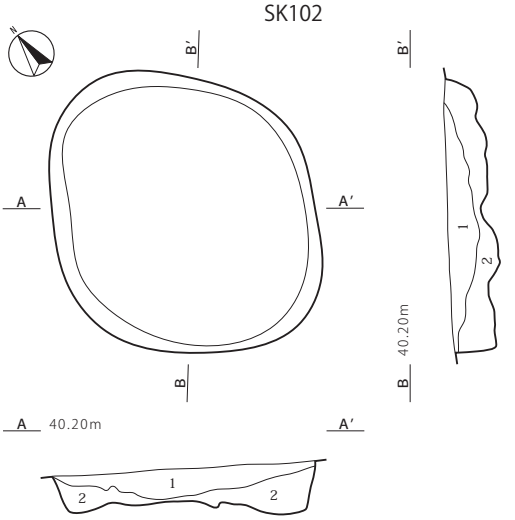
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色ロームブロックφ5～10mm含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色ロームブロックφ5～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　黄褐色土(10YR5/6)　黄褐色ロームブロックφ5～10mm多量含む。粘性弱い。しまりあり。

SK101



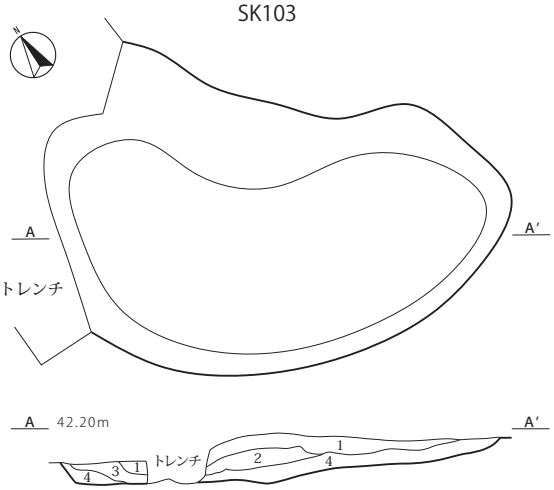
1　褐灰色土(10YR4/1)　ロームブロックφ20～30mm中量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK102



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　宝永火山灰少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ10～50mm中量含む。粘性あり。しまりあり。

SK103



1　褐色土(10YR4/4)　粘性弱い。しまり弱い。
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘性弱い。しまり弱い。
3　暗褐色土(10YR3/3)　粘性あり。しまりあり。
4　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックφ3～5cm少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第638図　SK098～SK103

れる。**規模：**長軸（3.71）m、短軸2.38ｍ、確認面からの深度0.46ｍ。**長軸方位：**Ｎ-54°-Ｗ。**形態：**長楕円形、底面はやや起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器53.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK104（第639図、図版82）

位置：Ｈ区14Ｄ-46グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.55ｍ、短軸1.71ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**長軸方位：**Ｎ-27°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器5.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK105（第639図、図版83）

位置：Ｈ区14Ｄ-66グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.81ｍ、短軸1.38ｍ、確認面からの深度0.30ｍ。**長軸方位：**Ｎ-77°-Ｅ。**形態：**不整形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器3.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK106（第639図、図版83）

位置：Ｈ区14Ｄ-75グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.86ｍ、短軸1.78ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**長軸方位：**Ｎ-11°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器8.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK107（第639図、図版83）

位置：Ｈ区14Ｄ-76グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.35ｍ、短軸1.07ｍ、確認面からの深度0.48ｍ。**長軸方位：**Ｎ-58°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器8.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK108（第639図、図版83）

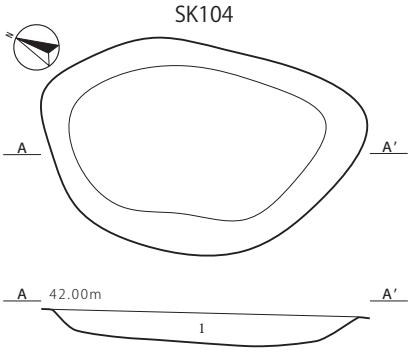
位置：Ｈ区14Ｄ-87グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.11ｍ、短軸1.70ｍ、確認面からの深度0.37ｍ。**長軸方位：**Ｎ-11°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

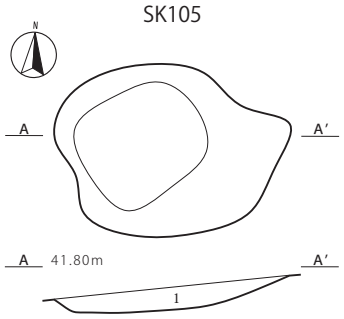
遺物：縄文土器23.0gが出土したが、混入と考えられる。

SK109（第639図、図版83）

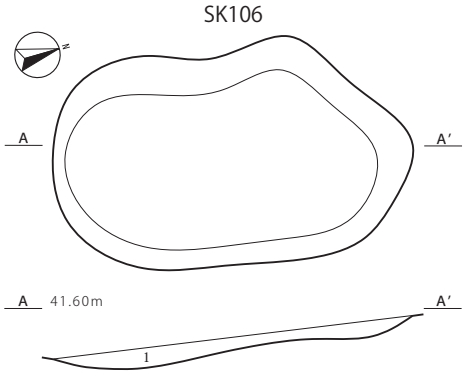
位置：H区15Ｃ-83グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.25ｍ、短軸1.17ｍ、確認面からの深度0.26ｍ。**長軸方位：**Ｎ-79°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はやや平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。



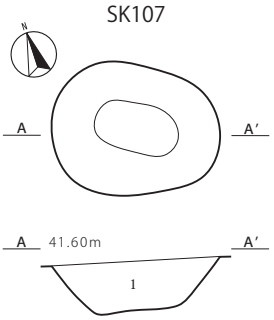
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒子、ロームブロックφ５～20mm中量、宝永火山灰少量微量含む。粘性あり。しまりやや強い。



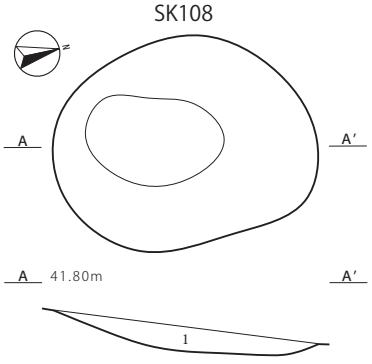
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10～40mm微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。



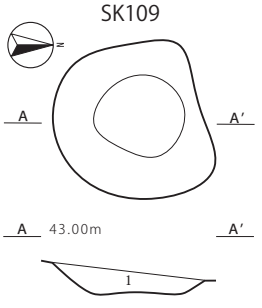
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒子、ロームブロックφ5mm中量、宝永火山灰少量微量含む。粘性あり。しまりあり。



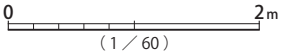
1　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒子中量、宝永火山灰少量、ロームブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックφ５～10mm、宝永火山灰少量含む。粘性あり。しまりあり。



1　褐灰色土(10YR4/1)　ロームブロックφ10～30mm少量、固結火山灰土塊宝永火山灰微量含む。粘性あり。しまりあり。



第639図　SK104～SK109

時期：覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

SK110（第640図、図版83）
位置：H区15Ｄ-23グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.47ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.20ｍ。**長軸方位：**Ｎ-82°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はややきつく立ち上がる。
時期：覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

SK111（第640図、図版83）
位置：H区16Ｄ-35グリッドを中心に位置する。**重複：**SK081を切る。**規模：**長軸3.59ｍ、短軸2.37ｍ、確認面からの深度0.43ｍ。**長軸方位：**Ｎ-37°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面はわずかに段差があるがほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。
時期：重複および覆土から奈良・平安時代と考えられる。
遺物：土器178.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK112（第640図、図版83）
位置：H区15Ｄ-98グリッドに位置する。**重複：**SI126を切る。**規模：**長軸0.73ｍ、短軸0.72ｍ、確認面からの深度0.30ｍ。**長軸方位：**Ｎ-41°-Ｗ。**形態：**不整円形、底面は浅い皿状に窪み壁面は緩やかに立ち上がる。
時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。
遺物：出土していない。

SK113（第640図、図版84）
位置：H区16Ｄ-81グリッドを中心に位置する。**重複：**SI127を切る。**規模：**長軸1.17ｍ、短軸0.99ｍ、確認面からの深度0.40ｍ。**長軸方位：**Ｎ-24°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。
時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。
遺物：縄文土器64.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

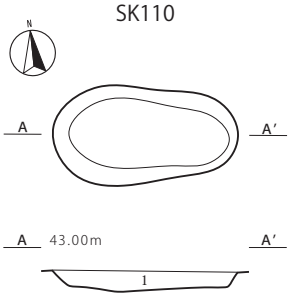
SK114（第640図、図版84）
位置：H区16Ｄ-94グリッドを中心に位置する。**重複：**SI129を切る。**規模：**長軸0.83ｍ、短軸0.77ｍ、確認面からの深度0.24ｍ。**長軸方位：**Ｎ-79°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。
時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。
遺物：土器16.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK115（第640図、図版84）

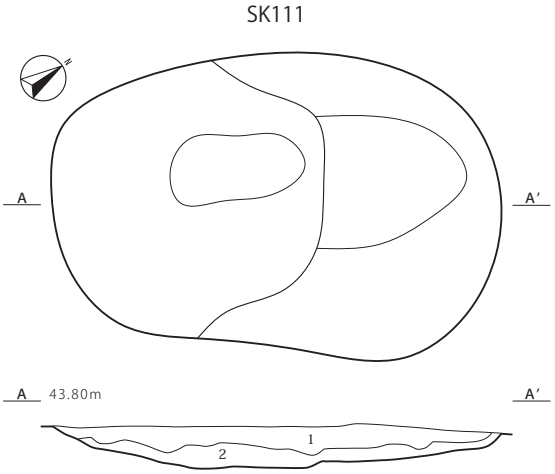
位置：H区16Ｅ-04グリッドに位置する。**重複：**SI129を切る。**規模：**長軸0.80ｍ、短軸0.62ｍ、確認面からの深度0.26ｍ。**長軸方位：**Ｎ-63°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は浅く皿状に窪み壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

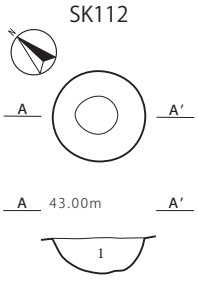
遺物：土器26.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



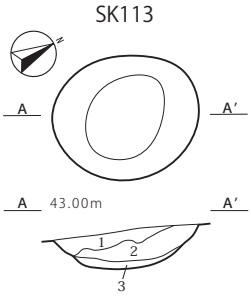
1　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒子中量、灰色土ブロックφ10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



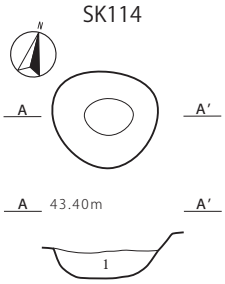
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い。しまりあり。



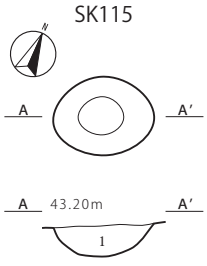
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



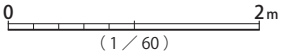
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子中量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。



第640図　SK110 ～ SK115

SK116（第641図、図版84）

位置：H区16Ｅ−13グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.44ｍ、短軸0.66ｍ、確認面からの深度0.67ｍ。**長軸方位：**Ｎ−51°−Ｅ。**形態：**長楕円形、底面は中央がピット状に落ち込み壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器7.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK117（第641図、図版84）

位置：H区16Ｅ−14グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.33ｍ、短軸1.08ｍ、確認面からの深度0.36ｍ。**長軸方位：**Ｎ−65°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器38.7gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK118（第641図、図版84）

位置：H区16Ｅ−19グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.31ｍ、短軸0.85ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ−34°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は南東側がピット状に落ち込み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器14.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK119（第641図、図版84）

位置：H区17Ｅ−32グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.54ｍ、短軸0.73ｍ、確認面からの深度0.38ｍ。**長軸方位：**Ｎ−78°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は２箇所でピット状の落ち込みがあり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器79.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK120（第641図、図版84）

位置：H区16Ｅ−50グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.12ｍ、短軸0.94ｍ、確認面からの深度0.62ｍ。**長軸方位：**Ｎ−58°−Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器33.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

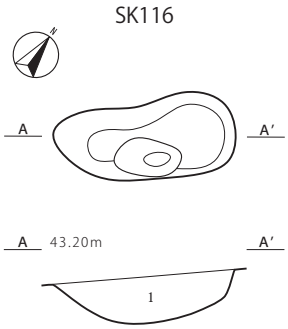
SK121（第641図、図版85）

位置：H区16Ｅ−52グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.56ｍ、

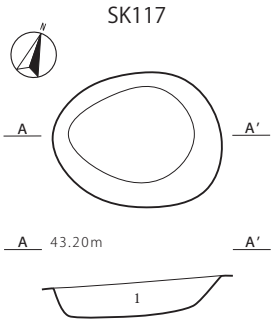
短軸1.42ｍ、確認面からの深度0.53ｍ。**長軸方位：**Ｎ-38°-Ｅ。**形態：**不整形、底面は中央が長楕円形状に落ち込み壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

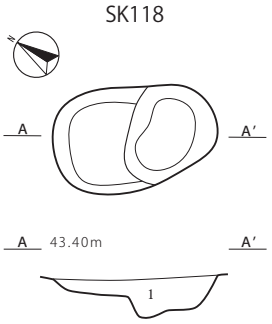
遺物：縄文土器23.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



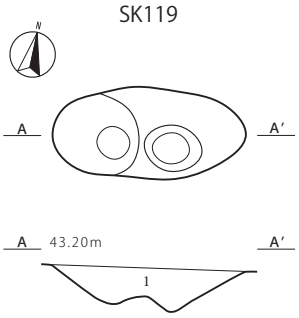
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



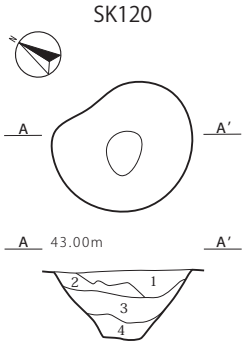
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



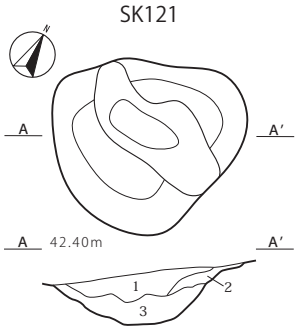
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～30mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/4)　炭化物微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ5～10mm、固結火山灰土塊微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
4　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～40mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックφ10～20mm少量、固結火山灰土塊、宝永火山灰微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～40mm少量含む。粘性弱い。しまりあり。
3　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックφ10～30mm少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

0　2m
（1／60）

第641図　SK116～SK121

SK122（第642図、図版85）

位置：H区17 E -81グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.40ｍ、短軸0.59ｍ、確認面からの深度0.36ｍ。**長軸方位：**N -48°- W。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK123（第642図、図版85）

位置：H区16 E -88グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.43ｍ、短軸1.12ｍ、確認面からの深度0.32ｍ。**長軸方位：**N -34°- W。**形態：**楕円形、底面はピット状に落ち込み壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：ピット状の掘り込みがあり、柱穴の可能性もあるが、周囲に組み合う柱穴は認められない。

遺物：出土していない。

SK124（第642図、図版85）

位置：H区17 E -87グリッドを中心に位置する。**重複：**SI132を切る。**規模：**長軸1.38ｍ、短軸0.86ｍ、確認面からの深度0.26ｍ。**長軸方位：**N -52°- E。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：重複および覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器9.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK125（第642図、図版85）

位置：H区17 F -10グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.23ｍ、短軸0.98ｍ、確認面からの深度0.40ｍ。**長軸方位：**N -71°- E。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK126（第642図、図版85）

位置：H区17 F -01グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.51ｍ、短軸1.16ｍ、確認面からの深度0.59ｍ。**長軸方位：**N -79°- E。**形態：**長楕円形、底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

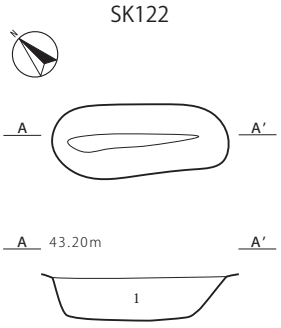
遺物：土器3.0g、縄文土器16.4gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK127（第642図、図版85）

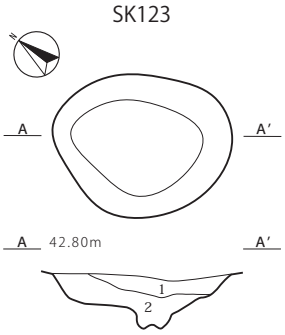
位置：H区17Ｆ−19グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.94ｍ、短軸0.81ｍ、確認面からの深度0.24ｍ。**長軸方位：**Ｎ−９°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

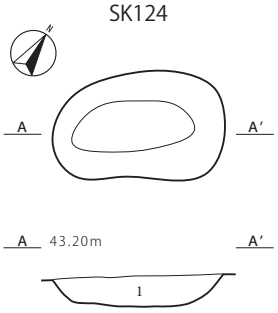
遺物：出土していない。



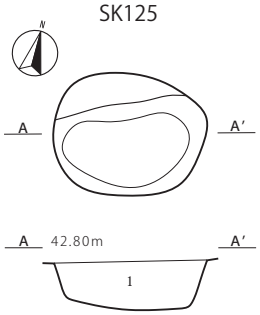
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



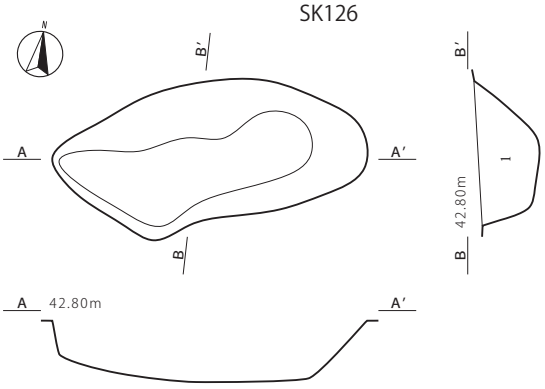
1　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまり弱い。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子、固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまり弱い。



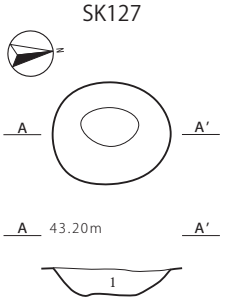
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子中量、ロームブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　黄褐色土(10YR5/6)　ローム粒子中量、ロームブロックφ５～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第642図　SK122～SK127

SK128（第643図、図版85）

位置：H区16Ｆ−27グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.38ｍ、短軸1.06ｍ、確認面からの深度0.25ｍ。**長軸方位：**Ｎ−15°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK129（第643図、図版86）

位置：H区16Ｆ−45グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.46ｍ、短軸0.83ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**長軸方位：**Ｎ−10°−Ｅ。**形態：**楕円形、南北両端がピット状に落ち込み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK130（第643図、図版86）

位置：H区16Ｆ−55グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.88ｍ、短軸0.96ｍ、確認面からの深度0.60ｍ。**長軸方位：**Ｎ−40°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は南側が楕円形状に落ち込み壁面は階段状に緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK131（第643図、図版86）

位置：H区16Ｆ−59グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.04ｍ、短軸0.80ｍ、確認面からの深度0.33ｍ。**長軸方位：**Ｎ−36°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は起伏があり壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK132（第643図、図版86）

位置：H区17Ｆ−42グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.26ｍ、短軸1.00ｍ、確認面からの深度1.03ｍ。**長軸方位：**Ｎ−38°−Ｅ。**形態：**楕円形、底面は北東側に傾斜し壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK133（第643図、図版86）

位置：H区17Ｆ−36グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.81ｍ、短軸

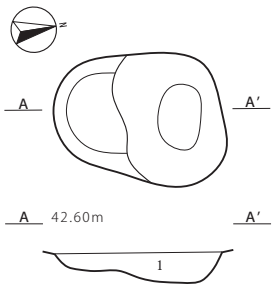
0.66ｍ、確認面からの深度0.13ｍ。**長軸方位：**Ｎ－５°－Ｗ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：底面に焼土が広がる。

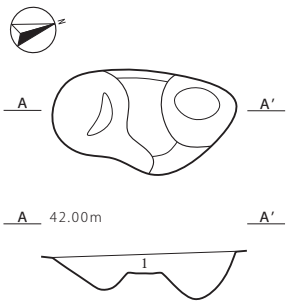
遺物：出土していない。

SK128



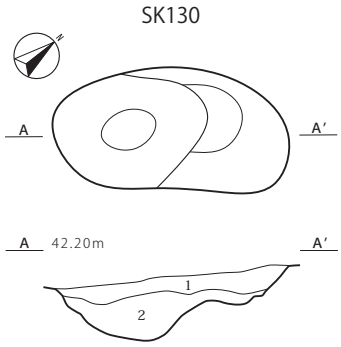
1　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックφ５～10mm少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり弱い。

SK129



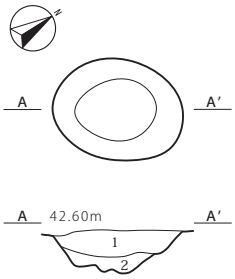
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒子少量 、ロームブロックφ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK130



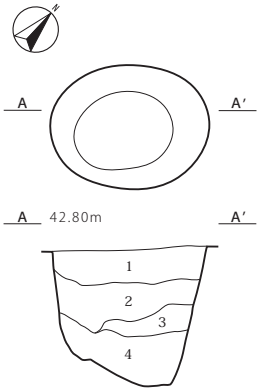
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックφ５～10mm、宝永火山灰微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ10～50mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK131



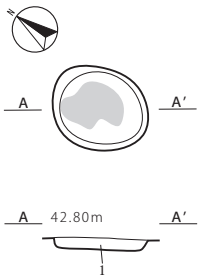
1　褐色土(7.5YR4/4)　固結火山灰土塊少量含む。粘性あり。しまりなし。
2　褐色土(10YR4/6)　粘性あり。しまり弱い。

SK132

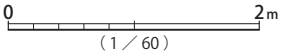


1　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。しまり弱い。
2　褐色土(7.5YR4/4)　粘性あり。しまり弱い。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまり弱い。
4　褐色土(7.5YR4/6)　粘性あり。しまり弱い。

SK133



1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



第643図　SK128～SK133

SK134（第644図、図版86）

位置：H区17Ｆ-46グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.72ｍ、短軸0.57ｍ、確認面からの深度0.24ｍ。**長軸方位：**Ｎ-57°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面は浅く皿状に窪み壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：土器6.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK135（第644図、図版86）

位置：H区17Ｆ-65グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.42ｍ、短軸1.06ｍ、確認面からの深度0.40ｍ。**長軸方位：**Ｎ-57°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり壁面は逆台形状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK136（第644図、図版86）

位置：H区17Ｆ-59グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.66ｍ、短軸0.49ｍ、確認面からの深度0.22ｍ。**長軸方位：**Ｎ-28°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：縄文土器18.0gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK137（第644図、図版87）

位置：H区17Ｆ-58グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.79ｍ、短軸0.70ｍ、確認面からの深度0.27ｍ。**長軸方位：**Ｎ-74°-Ｗ。**形態：**不整形、底面は浅い皿状に窪み壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK138（第644図、図版87）

位置：H区18Ｆ-50グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸0.70ｍ、短軸0.58ｍ、確認面からの深度0.16ｍ。**長軸方位：**Ｎ-71°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：覆土に焼土を含む。

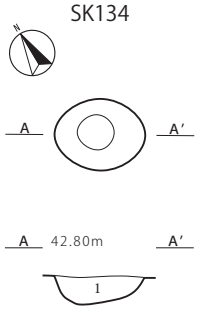
遺物：出土していない。

SK139（第644図、図版87）

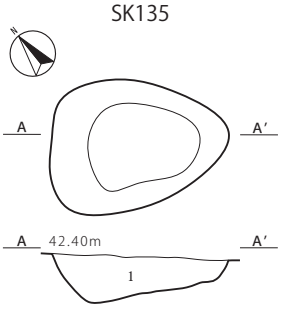
位置：H区18Ｆ-60グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.06ｍ、短軸0.76ｍ、確認面からの深度0.23ｍ。**長軸方位：**Ｎ-14°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

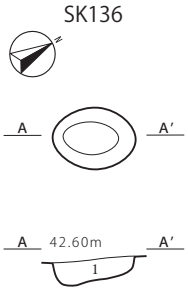
遺物：出土していない。



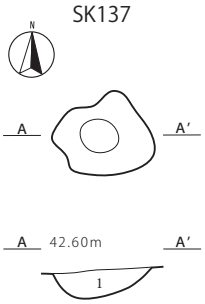
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、宝永火山灰微量含む。粘性あり。しまりあり。



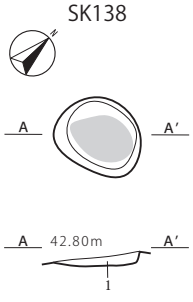
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、ロームブロックφ30～60mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



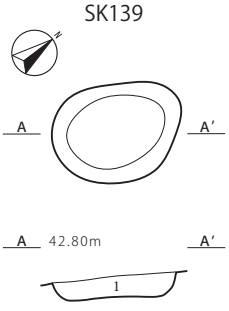
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子中量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



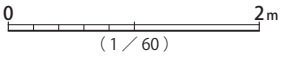
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、焼土、宝永火山灰微量含む。粘性あり。しまり弱い。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子、焼土少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒子少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



第644図　SK134～SK139

SK140（第645図、図版87）

位置：H区18Ｇ-01グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.29ｍ、短軸1.21ｍ、確認面からの深度0.56ｍ。**長軸方位：**Ｎ-55°-Ｗ。**形態：**楕円形、底面はやや起伏があり壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK141（第645図、図版87）

位置：H区18Ｇ-13グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.10ｍ、短軸1.03ｍ、確認面からの深度0.42ｍ。**長軸方位：**Ｎ-78°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は浅い皿状に窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK142（第645図、図版87）

位置：H区19Ｉ-32グリッドを中心に位置する。**重複：**SD007を切る。**規模：**長軸2.00ｍ、短軸1.24ｍ、確認面からの深度0.50ｍ。**長軸方位：**Ｎ-11°-Ｅ。**形態：**楕円形、底面は浅く皿状に窪み壁面は北側でやや段状に立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

所見：SD007と同時に掘削してしまったが、本来はSD007を切る遺構である。

遺物：出土していない。

SK143（第645図、図版87）

位置：H区19Ｊ-63グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。大半が調査区外へ伸びる。**規模：**長軸（0.77）m、短軸（0.62）m、確認面からの深度0.35ｍ。**長軸方位：**Ｎ-Ｓ。**形態：**不明、底面は平坦で壁面はややきつく立ち上がる。

時期：覆土から中・近世と考えられる。

遺物：出土していない。

SK144（第645・646図、第211表、図版87・116）

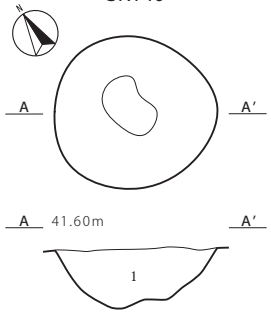
位置：H区22Ｑ-72グリッドを中心に位置する。**重複：**SM007を切る。**規模：**長軸1.60ｍ、短軸1.48ｍ、確認面からの深度0.55ｍ。**長軸方位：**Ｎ-Ｓ。**形態：**楕円形、底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

時期：出土遺物から中・近世と考えられる。

遺物：銭貨2.8gが出土した。

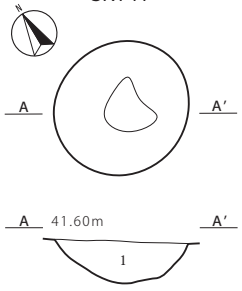
１は北宋銭の元祐通寶（初鋳1086年）である。

SK140



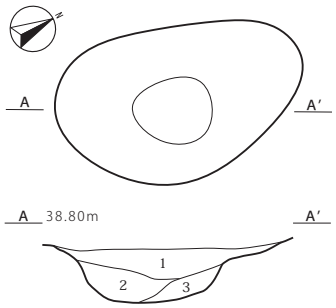
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ10～30mm少量、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK141



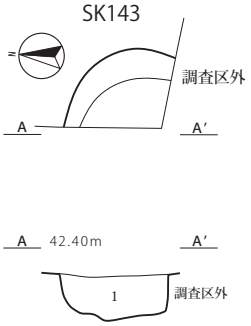
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックφ5～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

SK142



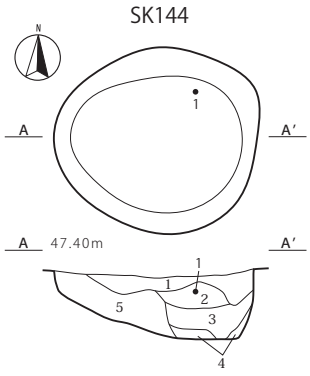
1　褐灰色土(10YR4/1)　粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックφ50mm少量含む。粘性あり。しまり強い。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックφ50mm多量含む。粘性強い。しまり強い。

SK143



1　暗褐色土(7.5YR3/3)　ロームブロックφ5mm少量含む。粘性あり。しまりあり。

SK144



1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。
2　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックφ20mm中量含む。粘性あり。しまりあり。
3　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性あり。しまりあり。
4　暗褐色土(7.5YR3/4)　粘性あり。しまりあり。
5　極暗褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロックφ50～60mm多量含む。粘性あり。しまりあり。

0　2m
（1／60）

第645図　SK140～SK144



0　5cm
（2／3）

第646図　SK144出土遺物

第211表　SK144出土銭貨観察表

単位：mm

番号	種別	出土位置	外縁外径		外縁内径		内郭外径		内郭内径		外縁厚	内面厚	重量(g)	備考
			縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
1	元祐通寶	覆土上層	23.8	24.4	20.5	21.0	8.0	9.0	6.8	6.8	1.1	0.6	2.8	

第６節　時期不明の遺構

本調査区からは208基のピットが検出されているが、そのほとんどが時期不明である。掘立柱建物や柱穴列などの復元も不可能であったため、まとめて第212表に計測値を示しておく。

第212表　ピット計測表

遺構番号	長軸	短軸	深さ
SH001	0.72	0.65	0.23
SH002	0.71	0.52	0.22
SH003	0.83	0.70	0.31
SH004	(0.32)	0.31	0.18
SH005	0.34	0.29	0.17
SH006	0.92	0.71	0.28
SH007	0.64	0.50	0.22
SH008	(0.38)	(0.23)	0.12
SH009	0.88	0.72	0.59
SH010	0.60	0.47	0.41
SH011	0.79	0.62	0.25
SH012	(0.56)	(0.24)	0.12
SH013	0.58	0.42	0.39
SH014	(0.68)	(0.37)	0.71
SH015	0.47	0.38	0.58
SH016	(0.81)	(0.52)	0.27
SH017	1.42	1.24	1.01
SH018	0.55	0.41	0.29
SH019	0.19	0.18	0.54
SH020	0.72	0.57	0.42
SH021	0.69	0.55	0.35
SH022	0.75	0.68	0.49
SH023	0.57	0.54	0.22
SH024	0.89	0.60	0.38
SH025	0.53	0.47	0.24
SH026	0.71	0.70	0.42
SH027	0.33	0.33	0.24
SH028	0.77	0.57	0.39
SH029	0.51	0.46	0.40
SH030	0.39	0.39	0.25
SH031	0.34	0.33	0.28
SH032	0.67	0.46	0.20
SH033	0.35	0.31	0.22
SH034	0.27	0.23	0.40
SH035	0.35	0.33	0.35
SH036	0.47	0.38	0.18
SH037	0.35	0.34	0.20
SH038	0.60	0.53	0.38
SH039	0.51	0.41	0.16
SH051	0.65	0.79	0.41
SH052	0.48	0.43	0.39
SH053	0.37	0.31	0.15
SH054	0.25	0.24	0.38
SH055	0.33	0.33	0.16
SH056	0.51	0.32	0.34
SH057	0.20	0.20	0.15
SH058	0.81	0.74	0.19
SH059	0.32	0.31	0.34
SH060	0.41	0.38	0.33
SH061	0.45	0.42	0.45
SH062	0.30	0.27	0.28
SH063	0.54	0.41	0.37
SH064	0.30	0.30	0.20
SH065	0.38	0.33	0.18
SH066	0.43	0.43	0.23
SH067	0.26	0.25	0.25
SH068	0.24	0.23	0.29
SH069	0.45	0.41	0.16
SH070	0.49	0.48	0.21
SH071	0.28	0.23	0.30
SH072	0.36	0.35	0.47
SH073	0.34	0.31	0.22
SH074	0.23	0.22	0.19
SH075	0.34	0.32	0.43
SH076	0.43	0.36	0.26
SH077	0.62	0.54	0.18
SH078	0.33	0.28	0.14
SH079	0.52	0.46	0.28
SH080	0.50	0.42	0.20
SH081	0.71	0.48	0.53
SH082	0.26	0.25	0.34
SH083	0.58	0.56	0.25
SH084	0.70	0.69	0.29
SH085	0.89	0.77	0.21
SH086	0.80	0.63	0.60
SH087	0.35	0.34	0.74
SH088	0.58	0.46	0.29
SH089	0.74	0.55	0.39
SH090	0.66	0.65	0.26
SH091	0.73	0.67	0.24
SH092	0.71	0.59	0.20
SH093	0.40	0.36	0.39
SH094	0.57	0.37	0.20
SH095	0.50	0.47	0.18
SH096	0.67	0.66	0.21
SH097	0.76	0.43	0.22
SH098	0.94	0.77	0.87
SH099	0.85	0.83	0.45
SH100	0.47	0.39	0.16
SH101	0.40	0.36	0.14
SH102	0.24	0.24	0.21
SH103	0.26	0.25	0.13
SH104	0.31	0.29	0.24
SH105	0.80	0.49	0.27
SH106	0.67	0.52	0.20
SH107	0.66	0.53	0.51
SH108	0.59	0.51	0.41
SH109	0.54	0.47	0.50
SH110	0.52	0.44	0.37
SH111	0.59	0.58	0.56
SH112	0.35	0.35	0.24
SH113	0.77	0.73	0.27
SH114	0.47	0.39	0.53
SH115	0.38	0.38	0.24
SH116	0.42	0.41	0.50
SH117	0.35	0.35	0.59
SH118	0.47	0.40	0.21
SH119	0.33	0.33	0.30
SH120	0.39	0.38	0.49
SH121	0.34	0.33	0.36
SH122	0.41	0.36	0.32
SH123	0.36	0.36	0.28
SH124	0.38	0.36	0.28
SH125	0.31	0.30	0.48
SH126	(0.39)	(0.22)	0.42
SH127	0.30	0.30	0.35
SH128	0.43	0.34	0.20
SH129	0.47	0.37	0.33
SH130	0.56	0.44	0.39
SH131	0.43	0.41	0.62
SH132	0.43	0.41	0.38
SH133	0.41	0.41	0.45
SH134	0.59	0.52	0.24
SH135	0.38	0.25	0.65
SH136	0.38	0.32	0.50
SH137	0.44	0.43	0.23
SH138	0.46	0.31	0.19
SH139	0.56	0.43	0.26
SH140	0.17	0.15	0.19
SH141	0.17	0.16	0.42
SH142	0.21	0.19	0.44
SH143	0.15	0.15	0.32
SH144	0.19	0.18	0.32
SH145	0.19	0.17	0.08
SH146	0.76	0.51	0.14
SH147	0.20	0.19	0.38
SH148	0.14	0.12	0.29
SH149	0.17	0.15	0.30
SH150	0.20	0.20	0.62
SH151	0.47	0.43	0.42
SH152	0.41	0.41	0.13
SH153	0.43	0.42	0.26
SH154	0.38	0.38	0.27
SH155	0.21	0.21	0.23
SH156	0.39	0.37	0.43
SH157	0.20	0.18	0.26
SH158	0.42	0.36	0.31
SH159	0.34	0.29	0.16
SH160	0.60	0.58	0.26
SH161	0.28	0.28	0.32
SH162	0.33	0.32	0.21
SH163	0.37	0.30	0.14
SH164	0.19	0.19	0.50
SH165	0.19	0.18	0.26
SH166	0.40	0.29	0.47
SH167	0.54	0.39	0.39
SH168	0.45	0.39	0.27
SH169	0.38	0.36	0.23
SH170	0.31	0.30	0.17
SH171	0.49	0.36	0.17
SH172	0.69	0.43	0.53
SH173	0.46	0.36	0.69
SH174	0.57	0.46	0.65
SH175	0.56	0.49	0.61
SH176	0.38	0.36	0.25
SH177	0.35	0.30	0.26
SH178	0.49	0.43	0.22
SH179	0.64	0.48	0.18
SH180	1.05	0.94	0.44
SH181	0.54	0.30	0.48
SH182	0.75	0.68	0.41
SH183	0.76	0.76	0.42
SH184	0.36	0.36	0.20
SH185	0.50	0.49	0.35
SH186	0.77	0.73	0.34
SH187	0.34	0.34	0.19
SH188	0.38	0.34	0.24
SH189	0.35	0.34	0.38
SH190	0.35	0.34	0.27
SH191	0.61	0.43	0.21
SH192	0.38	0.38	0.44
SH193	0.38	0.37	0.41
SH194	0.31	0.30	0.44
SH195	0.52	0.47	0.48
SH196	0.35	0.31	0.17
SH197	0.34	0.31	0.45
SH198	0.48	0.47	0.26
SH199	0.68	0.63	0.35
SH200	0.39	0.34	0.51
SH201	0.40	0.39	0.23
SH202	0.54	0.39	0.89
SH203	0.44	0.33	0.21
SH204	0.28	0.27	0.90
SH205	0.30	0.29	0.18
SH206	0.45	0.30	0.19
SH207	0.42	0.40	0.25
SH208	0.63	0.45	0.22
SH209	0.61	0.50	0.38
SH210	0.50	0.50	0.20
SH211	0.39	0.31	0.31
SH212	0.41	0.34	0.37
SH213	0.39	0.38	0.21
SH214	0.2,9	0.27	0.52
SH215	0.31	0.30	0.19
SH216	0.34	0.33	0.22
SH217	0.31	0.31	0.31
SH218	0.36	0.35	0.72
SH219	0.55	0.37	0.17

市原市海保地区遺跡群Ⅰ

（第１分冊）

平成26年12月26日発行

編　集　　国際文化財株式会社

発　行　　大成建設株式会社
国際文化財株式会社
東京都千代田区六番町２番地

印　刷　　株式会社松井ピ・テ・オ・印刷
栃木県宇都宮市陽東5-9-21